

# 入門演習 A1a

Introductory Seminars A1a

阿部 善彦 (ABE YOSHIHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA011  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS1813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教学科において基礎となる専門知識と学問研究方法を獲得する。  
基礎文献を通じて、専門知識および読解、分析、論理的思考の能力などを養う。  
それとともに、PC やオンラインシステムを活用した共同作業を伴う、ディスカッション、文献収集方法、プレゼンテーション作法、レポート作成に関する技能も身につける。  
You will acquire the basic knowledge and research methods required for studying at the university's Department of Christian Studies.  
While reading introductory texts, you will gain basic knowledge of Christian studies, and develop reading, analyzing and logical thinking ability.  
In addition to this, you will learn academic skills concerning collecting materials, presentation and writing.

## 授業の内容 / Course Contents

授業回ごとの課題を行ったうえで授業に参加する。  
諸テーマについて文献の要約また論述および発表を行う。  
ディスカッションで相互検討を行う。

All participants do assignments for each class.

Regarding presented issues, students must write an outline summary or report, and make a presentation.

All students must engage in discussion and exchange opinions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：専門知識と学問研究方法の習得 1  
イントロダクション 予習課題の提示
- 3回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 4回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 5回：同2  
イントロダクション 予習課題の提示
- 6回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 7回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 8回：同3  
イントロダクション 予習課題の提示
- 9回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 10回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 11回：同4  
イントロダクション 予習課題の提示
- 12回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 13回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当者の示す予習課題及びまとめ課題。

課題提出にあたっては Master of Writing およびテキストの『本を読む本』『論文の書き方』を参照。

また発表に際しては Master of Presentation を参照のこと。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>

Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。  
 また、Canvas LMS の「セルフラーニング」にある各コンテンツを各自実施しておくことがのぞましい。  
 当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。  
 剽窃については次の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

そのほか、論文の書き方、学びの方法や考え方、資料収集について、以下の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=4PfymSKSA18>

<https://www.youtube.com/watch?v=Fflk29rA5Xs>

<https://www.youtube.com/watch?v=vy8Ca-5Xcig>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaiE0MtiE>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内活動（予習復習提出物および授業内での討議への参加・発言の精度）:100%

各担当者の指示をよく確認すること。Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

### テキスト / Textbooks

授業で取り上げる文献については担当教員の指示による。

### 参考文献 / Readings

アドラー 『本を読む本』 講談社 1997 9784061592995

澤田和夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

エーコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452

授業時に適宜紹介する。

### その他 / Others

授業全体の進め方（テーマ、課題、文献などの選定を含む）はそれぞれの担当教員が受講者に指定する。

（授業内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。また合同クラスで行うこともある）

図書館ガイダンスまた情報検索講習を行うことがある。その場合には合同クラスで行うこともある。

# 入門演習 A1b

Introductory Seminars A1b

梅澤 弓子 (UMEZAWA YUMIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA012  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS1813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教学科において基礎となる専門知識と学問研究方法を獲得する。  
基礎文献を通じて、専門知識および読解、分析、論理的思考の能力などを養う。  
それとともに、PC やオンラインシステムを活用した共同作業を伴う、ディスカッション、文献収集方法、プレゼンテーション作法、レポート作成に関する技能も身につける。  
You will acquire the basic knowledge and research methods required for studying at the university's Department of Christian Studies.  
While reading introductory texts, you will gain basic knowledge of Christian studies, and develop reading, analyzing and logical thinking ability.  
In addition to this, you will learn academic skills concerning collecting materials, presentation and writing.

## 授業の内容 / Course Contents

授業回ごとの課題を行ったうえで授業に参加する。  
諸テーマについて文献の要約また論述および発表を行う。  
ディスカッションで相互検討を行う。

All participants do assignments for each class.

Regarding presented issues, students must write an outline summary or report, and make a presentation.

All students must engage in discussion and exchange opinions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：専門知識と学問研究方法の習得 1  
イントロダクション 予習課題の提示
- 3回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 4回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 5回：同2  
イントロダクション 予習課題の提示
- 6回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 7回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 8回：同3  
イントロダクション 予習課題の提示
- 9回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 10回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 11回：同4  
イントロダクション 予習課題の提示
- 12回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 13回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当者の示す予習課題及びまとめ課題。

課題提出にあたっては Master of Writing およびテキストの『本を読む本』『論文の書き方』を参照。

また発表に際しては Master of Presentation を参照のこと。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>

Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。  
 また、Canvas LMS の「セルフラーニング」にある各コンテンツを各自実施しておくことがのぞましい。  
 当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。  
 剽窃については次の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

そのほか、論文の書き方、学びの方法や考え方、資料収集について、以下の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=4PfymS8A18>

<https://www.youtube.com/watch?v=Fflk29rA5Xs>

<https://www.youtube.com/watch?v=vy8Ca-5Xcig>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaiE0MtiE>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内活動（予習復習提出物および授業内での討議への参加・発言の精度）:100%

各担当者の指示をよく確認すること。Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

### テキスト / Textbooks

授業で取り上げる文献については担当教員の指示による。

### 参考文献 / Readings

アドラー 『本を読む本』 講談社 1997 9784061592995

澤田和夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

エーコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452

授業時に適宜紹介する。

### その他 / Others

授業全体の進め方（テーマ、課題、文献などの選定を含む）はそれぞれの担当教員が受講者に指定する。

（授業内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。また合同クラスで行うこともある）

図書館ガイダンスまた情報検索講習を行うことがある。その場合には合同クラスで行うこともある。

# 入門演習 A2a

Introductory Seminars A2a

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA021  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS1813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教学科において基礎となる専門知識と学問研究方法を獲得する。

基礎文献を通じて、専門知識および読解、分析、論理的思考の能力などを養う。

それとともに、PC やオンラインシステムを活用した共同作業を伴う、ディスカッション、文献収集方法、プレゼンテーション作法、レポート作成に関する技能も身につける。

You will acquire the basic knowledge and research methods required for studying at the university's Department of Christian Studies.

While reading introductory texts, you will gain basic knowledge of Christian studies, and develop reading, analyzing and logical thinking ability.

In addition to this, you will learn academic skills concerning collecting materials, presentation and writing.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期にひきつづき、授業回ごとの課題を行ったうえで授業に参加する。

諸テーマについて文献の要約また論述および発表を行う。

ディスカッションで相互検討を行う。

All participants do assignments for each class.

Regarding presented issues, students must write an outline summary or report, and make a presentation.

All students must engage in discussion and exchange opinions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：専門知識と学問研究方法の習得 1  
イントロダクション 予習課題の提示
- 3回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 4回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 5回：同2  
イントロダクション 予習課題の提示
- 6回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 7回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 8回：同3  
イントロダクション 予習課題の提示
- 9回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 10回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 11回：同4  
イントロダクション 予習課題の提示
- 12回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 13回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当者の示す予習課題及びまとめ課題。

課題提出にあたっては Master of Writing およびテキストの『本を読む本』『論文の書き方』を参照。

また発表に際しては Master of Presentation を参照のこと。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>



Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。  
 また、Canvas LMS の「セルフラーニング」にある各コンテンツを各自実施しておくことがのぞましい。  
 当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。  
 剽窃については次の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

そのほか、論文の書き方、学びの方法や考え方、資料収集について、以下の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=4PfymSksA18>

<https://www.youtube.com/watch?v=Fflk29rA5Xs>

<https://www.youtube.com/watch?v=vy8Ca-5Xcig>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaiE0MtiE>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内活動（予習復習提出物および授業内での討議への参加・発言の精度）:100%

各担当者の指示をよく確認すること。Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

### テキスト / Textbooks

授業で取り上げる文献については担当教員の指示による。

### 参考文献 / Readings

アドラー 『本を読む本』 講談社 1997 9784061592995

澤田和夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

エーコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452

授業内で担当教員が指示する。

### その他 / Others

授業全体の進め方（テーマ、課題、文献などの選定を含む）はそれぞれの担当教員が受講者に指定する。

（授業内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。また合同クラスで行うこともある）

図書館ガイダンスまた情報検索講習を行うことがある。その場合には合同クラスで行うこともある。

# 入門演習 A2b

Introductory Seminars A2b

加藤 磨珠枝 (KATO MASUE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA022  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS1813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教学科において基礎となる専門知識と学問研究方法を獲得する。  
基礎文献を通じて、専門知識および読解、分析、論理的思考の能力などを養う。  
それとともに、PC やオンラインシステムを活用した共同作業を伴う、ディスカッション、文献収集方法、プレゼンテーション作法、レポート作成に関する技能も身につける。  
You will acquire the basic knowledge and research methods required for studying at the university's Department of Christian Studies.  
While reading introductory texts, you will gain basic knowledge of Christian studies, and develop reading, analyzing and logical thinking ability.  
In addition to this, you will learn academic skills concerning collecting materials, presentation and writing.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期にひきつづき、授業回ごとの課題を行ったうえで授業に参加する。  
諸テーマについて文献の要約また論述および発表を行う。  
ディスカッションで相互検討を行う。

All participants do assignments for each class.

Regarding presented issues, students must write an outline summary or report, and make a presentation.

All students must engage in discussion and exchange opinions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：専門知識と学問研究方法の習得 1  
イントロダクション 予習課題の提示
- 3回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 4回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 5回：同2  
イントロダクション 予習課題の提示
- 6回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 7回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 8回：同3  
イントロダクション 予習課題の提示
- 9回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 10回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 11回：同4  
イントロダクション 予習課題の提示
- 12回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 13回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当者の示す予習課題及びまとめ課題。

課題提出にあたっては Master of Writing およびテキストの『本を読む本』『論文の書き方』を参照。

また発表に際しては Master of Presentation を参照のこと。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>

Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。  
 また、Canvas LMS の「セルフラーニング」にある各コンテンツを各自実施しておくことがのぞましい。  
 当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。  
 剽窃については次の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

そのほか、論文の書き方、学びの方法や考え方、資料収集について、以下の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=4PfymSKSA18>

<https://www.youtube.com/watch?v=Fflk29rA5Xs>

<https://www.youtube.com/watch?v=vy8Ca-5Xcig>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaiE0MtiE>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内活動（予習復習提出物および授業内での討議への参加・発言の精度）:100%

各担当者の指示をよく確認すること。Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

### テキスト / Textbooks

授業で取り上げる文献については担当教員の指示による。

### 参考文献 / Readings

アドラー 『本を読む本』 講談社 1997 9784061592995

澤田和夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

エーコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452

授業内で担当教員が指示する。

### その他 / Others

授業全体の進め方（テーマ、課題、文献などの選定を含む）はそれぞれの担当教員が受講者に指定する。

（授業内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。また合同クラスで行うこともある）

図書館ガイダンスまた情報検索講習を行うことがある。その場合には合同クラスで行うこともある。

# キリスト教学基礎演習 A1a

Seminar in Basic Christian Studies A1a

加藤 喜之／ゾンターク, M／廣石 望／梅澤 弓子／阿部 善彦／長谷川 修一／加藤 磨珠枝／藤原 佐和子 (KATO YOSHIYUKI/ SONNTAG MIRA/ HIROISHI NOZOMU/ UMEZAWA YUMIKO/ ABE YOSHIHIKO/ HASEGAWA SHUICHI/ KATO MASUE/ FUJIWARA SAWAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA041  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教学科の学びについて明確な指針をたてるため、各研究領域の内容、意義をしっかりと理解し今後の研究への具体的なアプローチ方法を学ぶ。

In order to establish a clear guideline regarding learning at the Department of Christian Studies, you will develop a sound understanding of the contents and significance of each area of research and learn specific ways to approach your future research.

## 授業の内容 / Course Contents

授業では、キリスト教学科で学ぶことができる各研究領域について、具体的イメージをつかみ、その基礎知識を身につける。そこから自分の興味を発展させて、より具体的な研究テーマの設定を試み、「演習」に備える。

In this class, you will gain a concrete picture of the various areas of research available at the Department of Christian Studies and acquire the basic knowledge thereof. Building upon the above, you will develop your interests and make an attempt to set a more specific research topic, and prepare for the Seminar.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：キリスト教学の問題領域1  
イントロダクション 予習課題の提示
- 3回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 4回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 5回：キリスト教学の問題領域2  
イントロダクション 予習課題の提示
- 6回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 7回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 8回：キリスト教学の問題領域3  
イントロダクション 予習課題の提示
- 9回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 10回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 11回：キリスト教学の問題領域4  
イントロダクション 予習課題の提示
- 12回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 13回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

各担当者の示す予習課題及びまとめ課題。

課題提出にあたっては Master of Writing およびテキストの『本を読む本』『論文の書き方』を参照。

また発表に際しては Master of Presentation を参照のこと。

Master of Writing と Master of Presentation は以下の URL から入手可能。

(<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>)

Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。

また、Canvas LMS の「セルフラーニング」にある各コンテンツを各自実施しておくことがのぞましい。

当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

剽窃については次の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

そのほか、論文の書き方、学びの方法や考え方、資料収集について、以下の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=4PfymsKSA18>

<https://www.youtube.com/watch?v=Fflk29rA5Xs>

<https://www.youtube.com/watch?v=vy8Ca-5Xcig>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaiE0MtiE>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内活動（予習復習提出物および授業内での討議への参加・発言の精度）:100%

各担当者の指示をよく確認すること。Canvas LMS そのほか授業支援システムを使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

アドラー 『本を読む本』 講談社 1997 9784061592995

澤田和夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

エーコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452

授業時に適宜紹介する。

### その他 / Others

なお授業内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。

# キリスト教学基礎演習 A 2 a

Seminar in Basic Christian Studies A2a

ゾンターク, M / 加藤 喜之 / 阿部 善彦 / 長谷川 修一 / 加藤 磨珠枝 / 藤原 佐和子 (SONNTAG MIRA / KATO YOSHIYUKI / ABE YOSHIHIKO / HASEGAWA SHUICHI / KATO MASUE / FUJIWARA SAWAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA051  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教学科の学びについて明確な指針をたてるため、各研究領域の内容、意義をしっかりと理解し今後の研究への具体的なアプローチ方法を学ぶ。

In order to establish a clear guideline regarding learning at the Department of Christian Studies, you will develop a sound understanding of the contents and significance of each area of research and learn specific ways to approach your future research.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期にひきつづき、授業では、キリスト教学科で学ぶことができる各研究領域について、具体的イメージをつかみ、その基礎知識を身につける。そこから自分の興味を発展させて、より具体的な研究テーマの設定を試み、「演習」に備える。

In this class, you will gain a concrete picture of the various areas of research available at the Department of Christian Studies and acquire the basic knowledge thereof. Building upon the above, you will develop your



interests and make an attempt to set a more specific research topic, and prepare for the Seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：キリスト教学の問題領域 1  
イントロダクション 予習課題の提示
- 3 回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 4 回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 5 回：キリスト教学の問題領域 2  
イントロダクション 予習課題の提示
- 6 回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 7 回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 8 回：キリスト教学の問題領域 3  
イントロダクション 予習課題の提示
- 9 回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 10 回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 11 回：キリスト教学の問題領域 4  
イントロダクション 予習課題の提示
- 12 回：予習課題にもとづく討議。  
予習課題の提示
- 13 回：予習課題にもとづく討議。  
まとめ課題の提示
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各担当者の示す予習課題及びまとめ課題。

課題提出にあたっては Master of Writing およびテキストの『本を読む本』『論文の書き方』を参照。

Master of Writing は次の URL から入手可能 (<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofWritingMini.pdf>)

また発表に際しては Master of Presentation を参照のこと。

(<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofPresentation.pdf>)

Canvas LMS を使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。  
また、Canvas LMS の「セルフラーニング」にある各コンテンツを各自実施しておくことがのぞましい。  
当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。  
剽窃については次の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

そのほか、論文の書き方、学びの方法や考え方、資料収集について、以下の動画を視聴しておくこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=4PfymSKSA18>

<https://www.youtube.com/watch?v=Fflk29rA5Xs>

<https://www.youtube.com/watch?v=vy8Ca-5Xcig>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDaiE0MtiE>

<https://www.youtube.com/watch?v=pjyJvtFjxJs>

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内活動（予習復習提出物および授業内での討議への参加・発言の精度）:100%  
各担当者の指示をよく確認すること。Canvas LMS そのほか授業支援システムを使用する。使用法でわからないことはメディアセンターに各自で問い合わせること。当然のことであるがコピーや剽窃には厳しく対応する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

アドラー 『本を読む本』 講談社 1997 9784061592995

澤田和夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

エーコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452

授業時に適宜紹介する。

### その他 / Others

なお授業内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。

秋学期では3年次での演習科目登録について必要な内容も取り扱う。

# 演習 A 1

## Seminars A1

キリスト教美術に関する研究の実践

加藤 磨珠枝 (KATO MASUE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

西洋キリスト教美術の大きな流れを概観し、各時代の歴史的背景、造形的特徴を理解しながら、美術史研究の方法を学ぶ。

This course will cover the general trends in Western Christian art, and you will learn methods for studying art history while gaining an understanding of the historical backgrounds and formative features of each era.

### 授業の内容 / Course Contents

西洋キリスト教美術の歴史について、参考文献を利用しつつ、その発展を学ぶ。

- 1) 担当教員が授業全体の解説と問題設定を行う。
- 2) 現在開催中の美術館展覧会の紹介をしつつ、作品鑑賞の方法について講義する。
- 3) これを踏まえて、受講生は個々の関心に基づいて個別の研究テーマを一つ選び、それについて調べた成果を発表する。発表は、美術作品を必ず利用するため、パワーポイントなど、視覚的なプレゼンテーションの方法を学ぶ場としても機能する。各発表の質疑応答・ディスカッションを通じて、受講生全体がキリスト教美術の内包するさまざまな問題点について考える機会となる。予定には一部変更の可能性がある。

We will use reference literature to learn the unfolding of the history of Western Christian art.

- 1) The course instructor will explain the overall picture of the class and raise an issue.
- 2) The instructor will give lectures on how to appreciate works of art, referring to the art gallery exhibitions currently being held.
- 3) Based on the lectures, you will each choose an individual research topic according to your interests and give a presentation on what you have learned through your research. As presentations will always involve using works of art, they will function as an opportunity for you to learn PowerPoint and other visual presentation methods. Q&A sessions and discussions following each presentation will serve as an opportunity for all students to consider various issues involved in Christian art. Note that the schedule may be partially changed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス，全体スケジュール確認
- 2回：導入授業1
- 3回：導入授業2
- 4回：発表1，ディスカッション
- 5回：発表2，ディスカッション
- 6回：発表3，ディスカッション
- 7回：発表4，ディスカッション
- 8回：発表5，ディスカッション
- 9回：発表6，ディスカッション
- 10回：発表7，ディスカッション
- 11回：発表8，ディスカッション
- 12回：発表9，ディスカッション
- 13回：発表10，ディスカッション
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の選択した課題についての関連文献を読み、発表の準備を行う。レジюме、参考文献リスト、パワーポイントの作成を行い、わかりやすい発表を心がける。

発表後はディスカッションの内容を整理し、研究成果全体をレポート形式で報告する。

夏期休暇中の課題（宿題）が課される。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:40% 授業への参加、貢献度:20% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ゴンブリッチ，田中正之他訳 『美術の物語』ポケット版 ファイドン 2011 4864410062

編集、小佐野重利他 『西洋美術の歴史』全8巻 中央公論新社 2016-2017 9784124035940

秋山聰、田中正之監修 『美術出版ライブラリー 西洋美術史』 美術出版 2021 9784568389081

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

美術作品に対する興味、関心、または愛を注ぐための努力と専門文献の読解力。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

研究発表では、必ずパワーポイント等による画像提示が必須となるため、そのためのパソコンを各自準備すること。

## 演習 A 2

### Seminars A2

宗教と社会--消費主義との関係を中心に--

加藤 喜之 (KATO YOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

2024 年度の演習では、グローバル社会において宗教が政治にどのような影響を及ぼしているのかについて議論する。2010 年代以降、世界のあらゆるところで、グローバル化によって疲弊した層を中心に排他的なナショナリズムが勃興している。そうしたナショナリズムの根源には宗教がある。とはいえ、この宗教は、教義・教祖・教団からなる伝統的な宗教ではない。むしろ、特定の民族のアイデンティティの源泉となるようなものである。例をあげるとすれば、ユダヤ・キリスト教的な価値観を掲げる欧州の極右政党、プーチン大統領にとってのロシア正教、トランプ元大統領にとってのキリスト教福音主義、モーディー首相にとってのヒンドゥー至上主義、エルドアン大統領にとっての保守的なイスラム主義。また、大部分が「無宗教」を自負する日本においても、近年、伝統的な神道の世界観を支持し、保守的な政治運動を展開するグループも少なくない。本演習では、こうしたグローバル社会における新しい宗教と政治のあり方を多様な論文を読み解くことで明らかにしていく。

In the 2024 seminar, we will discuss how religion influences politics in global society. Since the 2010s, exclusive nationalism has been on the rise in all parts of the world, mainly among people who have been exhausted by

globalization. Religion is the root of such nationalism. However, this religion is not a traditional religion consisting of a doctrine, a founder, and a cult. Rather, they are the source of a particular ethnic identity. For example, Europe's far-right parties that advocate Judeo-Christian values, Russian Orthodoxy for President Putin, Christian evangelicalism for former President Trump, Hindu supremacy for Prime Minister Modi, and conservative Islamism for President Erdogan. Furthermore, even in Japan, where most people pride themselves on being "non-religious", in recent years there have been a number of groups that support the traditional Shinto worldview and have developed conservative political movements. In this seminar, we will clarify the new state of religion and politics in global society by reading a variety of papers.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では、参加者が自身の関心に近い論文を選び、要旨を作成し、発表する。政治と宗教の関係についての考察を深めると同時に、文献の正確な読解力ならびに参加者自身のレポートや論文執筆に必要な調査能力を身につけることも目標とした。とりわけ、春学期は課題としてリフレクションペーパーを2回提出する。これは文献の理解を示すためであり、またそこから自らの問題を設定していくためである。

In this seminar, participants will select papers close to their own research interests, prepare an abstract, and present it. The goal is to deepen the understanding of the relationship between politics and religion. At the same time, they will acquire the ability to read literature accurately and to conduct research necessary to write their own papers. In particular, students, in the spring semester, will submit two reflection papers as assignments in order to demonstrate their understanding of the literature and to formulate their own problems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：論文0（教員による発表）
- 3回：論文1
- 4回：論文2
- 5回：論文3
- 6回：論文4
- 7回：論文5、リフレクションペーパー1
- 8回：Reading Break
- 9回：論文6
- 10回：論文7
- 11回：論文8
- 12回：論文9
- 13回：論文10、リフレクションペーパー
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習参加者は、指定された文献を事前に読み、授業にのぞむ必要がある。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内報告(複数回):60% 随時レポート:40%

課題の提出や本演習についての連絡は立教時間を通して行う

**テキスト / Textbooks**

山中弘 『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』 弘文堂 2020 9784335161001 ○

他の購読テキストは最初の授業で指示する。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

教員がウェブメディア NewsPicks で連載している「宗教とグローバル社会」のリンクはこちら。

<https://newspicks.com/topics/religionandglobalsociety/>

欧米の政治と宗教がどのように関係しているかを国ごとに分析しています。本講義のなかでもいくつかの論考には言及するつもりです。



## 演習 A3

Seminars A3

現代神学・現代社会とキリスト教（テキスト分析と討議）

藤原 佐和子 (FUJIWARA SAWAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この演習は、(1) 世界キリスト教における今日的な諸課題についての基礎的な知識・理解を得ること、(2) エキュメニカルな視座から現代社会とキリスト教の関係性について探求すること、(3) キリスト者としての社会的責任を果たす具体的方法について議論を深めることを目標とします。

This course (1) develops the knowledge and understanding of current issues in global Christianity, (2) explores the relationship between contemporary society and Christianity from the ecumenical perspective, and (3) discusses concrete ways to fulfill Christian social responsibilities.

### 授業の内容 / Course Contents

この演習では、現代社会とキリスト教をエキュメニカルな視点から探求するために不可欠なテキストを講読し、検討していきます。テキストに基づいて、関連する情報の共有、活発な議論の促進、世界のキリスト教に関する最新ニュースの考察・検討を行います。また、受講者の人数に応じて、テキストの一部を要約したり、さらなる議論のためのポイントを提案したり、考察を発表したりする機会を設けます。

In this course, we will read and review texts essential to exploring contemporary society and Christianity from an

ecumenical perspective. Based on reading, we will share relevant information, promote lively discussion, and consider and examine the latest news in world Christianity as appropriate to our readings. On the basis of the number of students, the course will provide opportunity to summarize portions of the texts, suggest points for further discussion, and present reflections.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：関心のあるテーマの聞き取り、テキストの検討
- 2 回：エキュメニカル研究の動向①：正戦論と平和主義
- 3 回：エキュメニカル研究の動向②："just peace"とはいかなる概念か
- 4 回：エキュメニカル研究の動向③：ジェンダーに基づく暴力（GBV）
- 5 回：テキスト分析と討議①
- 6 回：テキスト分析と討議②
- 7 回：テキスト分析と討議③
- 8 回：テキスト分析と討議④
- 9 回：テキスト分析と討議⑤
- 10 回：テキスト分析と討議⑥
- 11 回：テキスト分析と討議⑦
- 12 回：テキスト分析と討議⑧
- 13 回：テキスト分析と討議⑨
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での発言、貢献:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しません（必要な場合は PDF ファイルを配布・配信します）

### 参考文献 / Readings

西原廉太 「エキュメニズムに進むキリスト教」『総説キリスト教史3・近現代篇』 日本キリスト教団出版局 2007 9784818406339

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編 『キリスト教平和学事典』 教文館 2009 9784764240346  
 ショーン・フェイ（高井ゆと里訳） 『トランスジェンダー問題－議論は正義のために－』 明石書店 2022 9784750354637

### その他 / Others

なお、授業内容は受講者の人数や関心等によって適宜変更される場合がある。

Email : fujiwara.sawako@rikkyo.ac.jp

## 演習 A 4

Seminars A4

廣石 望 (HIROISHI NOZOMU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA104  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS3813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代の聖書研究は、西欧近代における啓蒙主義と歴史主義を主たる思想史的背景として誕生し、発展してきた。さらに新約聖書解釈の分野では、とりわけ 1970 年代以降、方法論の多様化が進んだ。現在では、それら多様な批評学は、テキストの「生成」に焦点を合わせるアプローチ、「コンテクスト」としての社会的・文化的背景との関係に焦点を合わせるアプローチ、物語テキストの内部ないしテキストを介してなされる「コミュニケーション」の諸相に注目するアプローチ、さらには批評学それ自体の立ち位置について「解釈の自己検証」という視点から自己省察を行うアプローチに大別される。本講では、現代におけるいくつかの代表的な批評学の方法論について理解し、その積義的な適用例を学ぶことで新約聖書解釈への入門を行う。春学期では、本文批評、資料批評、様式史研究、編集史研究、社会史的研究、社会科学批評、修辞学批評において基本的な知識を身につける。

Contemporary Bible research was established and has subsequently developed mainly against the historical backdrop of the ideas, that is, the Enlightenment and historicism, of the modern West. Methodologies have become more diverse in the area of New Testament interpretation, especially since the 1970's. Currently, such diverse approaches of Biblical criticism can be broadly classified into the following: that which focuses on the

generation of texts, that which focuses on the relationship of texts with social and cultural background as a context, that which focuses on the various aspects of communication within story texts or via texts, and that which carries out self-reflection with regard to the role of Biblical criticism from the viewpoint of self-verification of interpretation. In this course, students will develop an understanding of several typical methodologies for contemporary Biblical criticism and will be introduced to the basics of New Testament interpretation with examples of exegetical application. In the spring semester, students will gain a basic knowledge of textual criticism, source criticism, form criticism, redaction criticism, socio-historical criticism, social-scientific criticism, and rhetorical criticism.

### 授業の内容 / Course Contents

導入の後、履修者（個人ないしグループ）が独自の調査と読解に基づいて研究発表を行い、その上で履修者全員による討論を行う。

After the introduction, students will make research presentations (individually or in groups) based on their original research and interpretations. Discussion/debate involving all students in the class will follow.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：本文批評（その 1）
- 3 回：本文批評（その 2）
- 4 回：資料・編集・様式（その 1）
- 5 回：資料・編集・様式（その 2）
- 6 回：資料・編集・様式（その 3）
- 7 回：社会史的研究（その 1）
- 8 回：社会史的研究（その 2）
- 9 回：社会科学批評（その 1）
- 10 回：社会科学批評（その 2）
- 11 回：修辞学批評（その 1）
- 12 回：修辞学批評（その 2）
- 13 回：修辞学批評（その 3）
- 14 回：総合討議

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:40% 出席および討論への参加度:60%

全体の 2 / 3 以上の出席が単位取得の最低条件

### テキスト / Textbooks

浅野淳博／伊東寿泰／須藤伊知郎／辻学／中野実／廣石望／前川裕／村山由美 『新約聖書解釈の手引き』  
日本キリスト教団出版局 2016 9784818409385 -  
新約聖書翻訳委員会 『新約聖書 改訂新版』 岩波書店 2023 9784000616003 -

### **参考文献 / Readings**

佐藤研（編訳） 『福音書共観表』 岩波書店 2005 4000246283  
日本基督教団出版局（編） 『聖書学方法論』 日本基督教団出版局 1979  
木幡藤子／青野太潮 『聖書学の方法と諸問題』 日本基督教団出版局 1996 4818402680  
D.E. Aune (ed.) The Blackwell Companion to the New Testament Wiley-Blackwell 9781405108256  
その他、文献は非常に多いので、講義の中で適宜紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

聖書、および日本語ないし外国語（主として英語）の論文を読む力。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料の配付、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

## 演習 A 5

Seminars A5

アジア・キリスト教史

ゾントーク, M (SONNTAG MIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本をはじめ、アジアにおけるキリスト教の歴史を省みて、そこに認められる政治・社会・文化的諸課題についての論点を整理し、理解を深める。さらにはアジア・キリスト教史研究におけるジェンダーの視点の重要性に気づく。

Starting in Japan, we will examine the history of Christianity in Asia to identify political, social, and cultural issues in that history and deepen our understanding of them. Furthermore, we will discover the importance of a gender perspective for the historical study of Christianity in Asia.

### 授業の内容 / Course Contents

前半では、アジア、とりわけ日本キリスト教史に関する文献（日本語・英語）を講読し、キリスト教の土着化の過程における諸課題を時期毎に明らかにする。2回目以降、履修者は4つのグループ（1. 幕末期までのカトリック宣教史, 2. 明治・大正期のプロテスタント宣教史, 3. 戦時中のキリスト教, 4. 戦後のキリスト教）に分かれ、グループ毎に担当する文献の紹介及びその文献に基づいた問題提起を行う。その後、各自の関心に応じて一つの研究テーマを見つけ出し、学期中に調査・分析を行って、コースの後半でその成果を発表する。

また全コースを通して発表後に討議の時間を設ける。授業で扱った内容と関連する映画の鑑賞やキリスト教系施設などの見学も行う。初回の授業で発表の日程を決めるので、必ず出席すること。

履修者は、第1回の授業までに担当したい時期（上記参照）について決めておく。

During the first half of the course, we will read through literature (in both Japanese and English) on the history of Christianity in Asia, especially in Japan, and identify problematic issues in each phase of the indigenization process of Christianity. For this purpose, you will form four groups (1. History of Catholic missionary work up to the late Tokugawa era; 2. History of Protestant missionary work in the Meiji and Taisho eras; 3. Christianity during the war; 4. Post-war Christianity) in the first class which introduce the literature chosen by the group and raise problems based on the literature. Then, each of you will find a individual research topic according to your interest, carry out research and analysis during the semester, and make a presentation on your findings in the second half of the course. Throughout the course, time for discussion will be arranged after each presentation. We will also watch movies and visit Christian organizations related to the content of the class. We will be deciding the presentation schedule in the first class, so make sure to attend. You should decide which era (see above) you would like to study by the first class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、グループ分け、担当確認
- 2回：各グループの担当文献の紹介
- 3回：Aグループ：幕末までのカトリック宣教史
- 4回：Bグループ：明治・大正期のキリスト教
- 5回：Cグループ：戦時下のキリスト教
- 6回：Dグループ：戦後のキリスト教
- 7回：映画鑑賞
- 8回：一次資料の紹介・個人研究発表
- 9回：一次資料の紹介・個人研究発表
- 10回：一次資料の紹介・個人研究発表
- 11回：一次資料の紹介・個人研究発表
- 12回：一次資料の紹介・個人研究発表
- 13回：関連施設の見学
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加状況:40% 複数回の発表:60%

### テキスト / Textbooks

鈴木範久 『日本キリスト教史—一年表で読む』 教文館 2017 9784764274198 ○

五野井隆史 『日本キリスト教史』 吉川弘文館 1990 9784642072878 ○

その他の文献は授業時に提示する。また一部の文献は pdf として提供する。

### **参考文献 / Readings**

---

必要に応じて提示する。



## 演習 A 6

### Seminars A6

キリスト教思想史からみた愛と生命の問題 1

阿部 善彦 (ABE YOSHIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教思想史において、これまで中心的なテーマとなってきた問題に、アガペーとエロースをめぐる問題、愛、性、聖、身体、苦しみ、そのほか神と人間をめぐる問題群がある。それは星雲のごとくにそこかしこにきらめく様々な問題系から成立しており、その複雑多様な思想展開のさまを一目のもとに把握することは、極めて困難な作業である。とはいえ、そこへとむけて思索を出発しなければ、根本的な理解へと到達することは不可能である。この授業では、そうした無辺の問題系に向けてわずかなる一歩を進めるための出発点となる問題探求を行い、また、それを共に学ぶ人々との間に共有され、ともにその道を歩みゆく同行のともがらとなる機縁となることをめざす。

Issues concerning agape and eros, that is, love, have been one of the central themes in the history of amor sapientiae Christianae. Such issues consist of a vast range of systems of problems, and it is a Herculean task to gain a complete view of the complex and diverse development of the ideas involved. However, we cannot gain a fundamental understanding if we do not embark on this journey of contemplation. In this class, we will look for themes that will serve as a starting point for taking a step, albeit very small, toward such boundless systems of

problems, with the aim of making it an opportunity for those learning together to share their ideas and become companions in the journey of contemplation.

### 授業の内容 / Course Contents

テキストを読解して他者の思想を正確に理解しようとする態度が求められる。

また、他者の考え方を理解することによって、自己理解を振り返る態度を養うことが求められる。

そのために、グループディスカッション及び授業関係提出課題の相互レビューを行う。

それによって自分自身の考えを他者に伝え、また、他者の考えをきき、協同的に理解を深め合う態度を養うことが求められる。

そのために、教室内では、グループディスカッションで自分自身の考えを積極的に他者に伝えることが前提となるほか、授業課題で各自が提出する文章は、基本的にすべて大学学習支援 Web システムの所定の範囲内で、記名式で相互閲覧可能とすることになる。

こうしたことを事前に承知したうえで受講することが求められる。

基本的に、受講者は、各自でそれらのテキストを読解し、自ら学んだ内容を、グループディスカッションで共有しつつ、相互に学び合うことが求められる。

受講者の状況によって講読テキスト箇所や進度が調整される。

You are expected to be willing to read through texts and accurately understand others' thoughts.

You are also expected to develop an attitude of reflecting on your self-understanding through understanding others' thoughts.

To this end, we will hold group discussions and peer review sessions for class-related assignments.

Based on such activities, you are expected to develop an attitude whereby you convey your own thoughts to others, listen to others' ideas, and deepen mutual understanding of a cooperative manner.

Therefore, in the class, it is essential that you actively convey your ideas to others in group discussions.

Furthermore, all assignment papers that you submit will basically be made identifiable and viewable to others within the predetermined scope of the university's learning assistance web system.

You should be aware of these before registering for the course.

Basically, you are expected to read texts independently and share what you have learned with others in group discussions so as to promote mutual learning.

Sections of the texts to be read in the class and the pace of reading will be adjusted according to the situation of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：イントロダクション

3 回：テキスト 1 について検討

4 回：講読

5 回：討議

6 回：テキスト 2 について検討

7 回：講読

8 回：討議

9 回：テキスト 3 について検討

10 回：講読

11 回：討議

12回：テキスト4について検討

13回：講読

14回：討議

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前事後学習:40% 現場での実践:30% 最終報告:30%

### テキスト / Textbooks

G. Palamas La Resistance d'Akindynos I Peeters 2006 9789042911659 ○

M. Roesner Hermeneutik des Lebens Peeters 2022 9789042943193 ○

G. Palamas La Resistance d'Akindynos II Peeters 2006 9789042911666 ○

金子晴勇 『キリスト教思想史の諸時代 別巻1 アウグスティヌスの霊性思想』 ヨベル社 2023  
9784909871480 ○

金子晴勇 『キリスト教思想史の諸時代 別巻2』 ヨベル社 2024 9784909871497 ○

購入は各自の判断による。このほか授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

Ruusbroec Opera omnia IV Brepols 2002 9782503040417

Ruusbroec Opera omnia V Brepols 2006 9782503040516

Meister Eckhart Meister Eckhart, The Latin Works: «Sermones et Lectiones super Ecclesiastici». Sermons and Lectures on Jesus Sirach Peeters 2022 9789042940512

Abram M., Bernhardt S., Fournier G., Nemes B.J. Mystik unterwegs Peeters 2022 9789042949485

Ruusbroec Opera omnia VI Brepols 2006 9782503040615

Di Segni D. Moses Maimonides, Dux neutrorum vel dubiorum, pars I Peeters 2019 9789042940901

Michel Henry Christi Worte : Eine Phänomenologie der Sprache und Offenbarung Alber 2010  
9783495483961

そのほか授業内で指示する。

### その他 / Others

授業内容は科目設定上、秋学期の演習 A16 と連携する。

## 演習 A7

Seminars A7

ヘブライ語聖書学・聖書考古学

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ヘブライ語聖書学・聖書考古学分野で自らの研究テーマを見つける。

To find out your own research subject either in the Hebrew Bible studies or biblical archaeology.

### 授業の内容 / Course Contents

ヘブライ語聖書学・聖書考古学分野においてどのような研究がなされているかを、論文読解を通して知り、関心のある研究テーマを見つけて、研究するための基礎的な方法、資料について研究発表と討論を通して学ぶ。

To know what kind of research is conducted in the Hebrew Bible studies and biblical archaeology through reading articles, and to learn basic methodology for and research materials on your chosen research subject through presentation and discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（自己紹介、ヘブライ語聖書学・聖書考古学について）

2 回：オリエンテーション（購読文献決定）

3 回：文献講読 1

- 4回：文献講読 2  
 5回：研究テーマ予備発表・討議  
 6回：文献講読 3  
 7回：文献講読 4  
 8回：研究進捗状況報告・討議 1  
 9回：研究進捗状況報告・討議 2  
 10回：研究進捗状況報告・討議 3  
 11回：研究テーマ発表・討議 1  
 12回：研究テーマ発表・討議 2  
 13回：研究テーマ発表・討議 3  
 14回：総括（最終レポート提出）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業までに、ヘブライ語聖書もしくは聖書考古学についての本を一冊読んでおく。学期末に最終レポートの提出を課すので、研究テーマについて各自で研究を進めること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する

## 演習 A 8

Seminars A8

生命倫理を考える 1

梅澤 弓子 (UMEZAWA YUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

今日わたしたちの生活の中で提起されている生命倫理をめぐる諸問題の中から、参加者の関心に応じていくつかをとりあげ、問題の在処を検討するとともに、「人間の尊厳とは」を考究する。併せて「わたしが生きている」という事態とその意味を問う。

We will pick some problems concerning bioethics that are currently being raised in our lives and that students are interested in, consider where those problems exist, and look into what human dignity is. Additionally, we will look into the state of being alive and its meaning.

### 授業の内容 / Course Contents

今日、医療現場への科学技術の導入に伴い生命倫理をめぐる諸問題が、私たちにとって避けて通ることのできない重大な課題となっている。本演習では「いのち」をめぐる提起されている問題の中から、参加者が自身の関心に応じてテーマを選定し、問題の状況を把握すると共に、それらの問題の背景や根柢にある人間理解を検討する。この作業を通じて、人間の尊厳について考え、また自らの生き方を考究する。

Today, as various technologies are being introduced into the medical field, problems relating to bioethics are

becoming a serious issue that we cannot avoid. In this seminar, we will choose topics that students are interested in from among problems raised with regard to life, grasp the status of the problems, and consider the understanding of people that underlies the problems. Through this work, we will think about human dignity and look into our way of life.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション 授業目的や方法の説明

参加者が自身の問題意識を発表し、共有をはかる。

2回：グループ分け 演習でとりあげるテーマを選定する。

参加者が自身が取り組みたいテーマを選び、グループを組む。

3回：グループ発表準備1

グループごとに、発表テーマ・用いる資料・発表形式等の検討を行う。

4回：グループ発表準備2

グループごとに、発表内容の深化・全体ディスカッションに備えてのグループ討議を行う。

5回：グループ発表1

6回：グループ発表2

7回：グループ発表3

8回：グループ発表4

9回：中間まとめ

10回：グループ発表5

11回：グループ発表6

12回：グループ発表7

13回：これまでの考察のふりかえり

14回：全体総括 まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、演習で取り組みたい問題について、事前に学びを進めておくこと。

また、自身の問いを整理し、明確にしておくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容(複数回):50% 討議への参加:20% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

## 演習 A9

### Seminars A9

ローマ・カトリック教会における典礼と音楽

米沢 陽子 (YONEZAWA YOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA109
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	大学院科目 NH212「キリスト教音楽研究 1」と併置
チャペル会館 2 F	マグノリアルーム

### 授業の目標 / Course Objectives

ローマ・カトリック教会の典礼の二本柱であるミサと聖務日課の概要と、典礼に用いられる音楽について理解を深める。典礼音楽がどのようにして生まれ、歌い継がれてきたのかを学び、典礼における音楽が果たす意味について自ら説明できる。また、その学びを自分が関わる教会の典礼・礼拝に活かすことができるようにする。

We will deepen our understanding of the two pillars for rituals of the Roman Catholic Church, Mass and Liturgy of the Hours as well as the music used in rituals. We will study how ritual music was born and passed along as well as learn to explain independently the meaning of music in rituals. Moreover, we will use what we learned in the church rituals and worship in which we are involved.

### 授業の内容 / Course Contents

基本的に講義形式で進めていく。文献講読も行う。西洋音楽の源であるグレゴリオ聖歌にも重点を置き、グレゴリオ聖歌がその後の音楽史にどのような影響を与えたのかを考察していく。各回で扱う音楽作品については



可能な限りオリジナル楽譜を紹介し、実際に声に出して歌うことも試みたい。

The course will mostly consist of lectures. We will also place emphasis on Gregorian chants, which are the origin of Western music. We will inquire into how Gregorian chants later influenced music history. We will introduce original scores for the musical pieces taken up each time as much as possible. I would also like to let us try singing the music out loud.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：旧約聖書の音楽（1） 歌と楽器と踊りによる賛美
- 2 回：旧約聖書の音楽（2） 詩編①
- 3 回：旧約聖書の音楽（3） 詩編②
- 4 回：旧約聖書の音楽（4） 詩編③
- 5 回：初期キリスト教会における典礼と音楽
- 6 回：ローマ・カトリック教会における典礼—ミサと聖務日課—
- 7 回：グレゴリオ聖歌（1） 成立過程とネウマ譜の歴史
- 8 回：グレゴリオ聖歌（2） ネウマ譜の読み方／教会旋法について
- 9 回：ミサ通常文とミサ固有文
- 10 回：聖務日課（1） 修道院の成立とその生活
- 11 回：聖務日課（2） 朝課・賛課・晩課の音楽
- 12 回：聖母マリアへの祈り
- 13 回：レクイエム
- 14 回：グレゴリオ聖歌の伝統と現代／授業内サマーコンサート

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第1～4回は各自、聖書を持参すること。詩編は「旧約聖書の音楽」の回のみならず、講座全般の学びの礎となるものなので、日頃から読む習慣をつけて授業に臨むことが望ましい。

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示するが、中世、ルネサンス期の音楽について視聴覚資料等で予備知識を得ておくこと。また予め配布する楽譜を譜読みしておくこと。

「私のイチ押しキリスト教音楽」というプレゼンテーションを課すので準備すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない

### 参考文献 / Readings

- 金澤正剛 『キリスト教と音楽—ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』 音楽之友社 2007年 9784110588
- 金澤正剛 『中世音楽の精神史—グレゴリオ聖歌からルネサンス音楽へ』 河出書房新社 2015年 9784309413525

水野信男 『ユダヤ音楽の歴史と現代』 アカデミアミュージック 1997年 4870170663

寺本まり子 『詩篇の音楽—旧約聖書から生まれた音楽』 音楽之友社 2004年 9784276110571

その他、授業中に適宜紹介する

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

賛美歌／聖歌を初見である程度歌える読譜力を持っていることが望ましい。

### **その他/ Others**

講義の中では必要に応じて、パワーポイント、視聴覚資料を適宜活用する。また個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。実際に楽譜を用いて歌うことも多いので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。学期末に授業内サマーコンサート、夏合宿中にもコンサートを実施予定である。(歌唱、楽器演奏で参加すること)

大学院開設の「キリスト教音楽研究1」、「キリスト教音楽特殊研究1」との併設科目である。

### **注意事項 (検索結果画面)**

チャペル会館2F マグノリアルーム

# 演習 A10

## Seminars A10

ドイツ・ルター派のコラールと J. S. バッハの編曲技法－声楽作品（カンタータ、受難曲）、オルガン編曲からの考察

米沢 陽子 (YONEZAWA YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 大学院科目 NH213「キリスト教音楽研究 2」と併置

チャペル会館 2 F マグノリアルーム

## 授業の目標 / Course Objectives

ルター派のコラールの歌詞内容を理解し、バッハがカンタータや受難曲、オルガン作品のなかで歌詞の内容をどのように音として描こうとしたかを、楽曲分析を通して説明することができる。

We will understand the lyrics of Lutheran chorales. By analyzing these songs, we will be able to explain how Bach expressed these lyrics using sound with his cantata and Passion music and organ pieces.

## 授業の内容 / Course Contents

バッハのオルガン・コラール作品を弾く際、オルガニストは解釈の手掛かりをカンタータとコラールの歌詞に求める。バッハのカンタータや受難曲がルター派のコラールを基にして作曲されていることは周知のとおりである。この授業では、同じコラールに基づくカンタータとオルガン編曲を並べて取り上げ、バッハが共通の「素材」を用いてどのような手法で音楽を作り上げていったかを楽曲分析を通して考察する。基本的に講義形式で進めていくが、いくつかのテーマについては受講生に口頭発表を課す予定である。また必要に応じて演奏

実践も取り入れる。

An organist seeks hints on how to interpret the cantata and chorale from its lyrics when playing Bach's organ chorales. As you know, Bach's cantatas and Passion music were composed based on Lutheran chorales. In this course, we will take up cantatas and organ compositions based on the same chorale. We will examine with what method Bach used the same "material" to create music by musical analysis. The course will mostly consist of lectures, but I plan to have students give verbal presentations on several topics. In addition, we will also implement musical performances when necessary.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ルター派のコラールと教会音楽家 J. S. バッハ
- 2 回：Christ lag in Todesbanden (1) コラール原曲
- 3 回：Christ lag in Todesbanden (2) カンタータ BWV4 (復活節第1主日)
- 4 回：Christ lag in Todesbanden (3) オルガン編曲 BWV 629 他
- 5 回：Ein feste Burg ist unser Gott (1) コラール原曲
- 6 回：Ein feste Burg ist unser Gott (2) カンタータ BWV 80 (宗教改革記念日)
- 7 回：Ein feste Burg ist unser Gott (3) オルガン編曲 BWV 720
- 8 回：Nun komm, der Heiden Heiland (1) コラール原曲
- 9 回：Nun komm, der Heiden Heiland (2) カンタータ BWV 62 (待降節第1主日)
- 10 回：Nun komm, der Heiden Heiland (3) オルガン編曲 BWV599, 659, 660, 661
- 11 回：Wachet auf, ruft uns die Stimme (1) コラール原曲
- 12 回：Wachet auf, ruft uns die Stimme (2) カンタータ BWV140 (三位一体後第27主日)
- 13 回：Wachet auf, ruft uns die Stimme (3) オルガン編曲 BWV645
- 14 回：まとめ — J. S. バッハが目指した音楽表現とは

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

上記授業で取り上げるコラールの歌詞 (ドイツ語) を読み込み、旋律を頭に入れておくこと。その他、必要に応じて別途指示する。予め配布したコラールの楽譜を譜読みしてこること。また必要に応じて楽曲分析の課題・発表を課すこともある。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない

### 参考文献 / Readings

マルティン・ゲック 『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』 東京書籍 2001年 4487797195

鈴木雅明 『バッハ 神と人とのほぎまで』 音楽之友社 2021年 9784276130197

その他、授業中に適宜紹介する。また『バッハ全集』(小学館)のCDおよび解説書は重要な資料となるので、

受講生は各自の関心に沿って CD を聴き、解説を読み、バッハの音楽への理解を深めることが望ましい。(図書館所蔵)

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

賛美歌／聖歌を初見である程度歌える基礎的な音楽能力を持っていることが望ましい。

### **その他/ Others**

授業で取り上げるコラール（ドイツ語）はクラス全員で歌唱するので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。またカンタータ、オルガン編曲の回では録音資料、楽譜資料を用いて行う。個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。

「キリスト教音楽に関する文献紹介」というプレゼンテーションを課すので、各自、早めに紹介する本を決定し、準備を進めること。

大学院開設の「キリスト教音楽研究2」、「キリスト教音楽特殊研究2」との併置科目である。

### **注意事項（検索結果画面）**

チャペル会館2F マグノリアルーム

# 演習 A11

Seminars A11

キリスト教美術に関する研究の実践

加藤 磨珠枝 (KATO MASUE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

西洋キリスト教美術の大きな流れを概観し、各時代の歴史的背景、造形的特徴を理解しながら、美術史研究の方法を学ぶ。

This course will cover the general trends in Western Christian art, and you will learn methods for studying art history while gaining an understanding of the historical backgrounds and formative features of each era.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期にひきつづき、西洋キリスト教美術の歴史について、参考文献を利用しつつ、その発展を学ぶ。

- 1) 担当教員が授業全体の解説と問題設定を行う。
- 2) 現在開催中の美術館展覧会の紹介をしつつ、作品鑑賞の方法について講義する。
- 3) これを踏まえて、受講生は個々の関心に基づいて個別の研究テーマを一つ選び、それについて調べた成果を発表する。発表は、美術作品を必ず利用するため、パワーポイントなど、視覚的なプレゼンテーションの方法を学ぶ場としても機能する。各発表の質疑応答・ディスカッションを通じて、受講生全体がキリスト教美術の内包するさまざまな問題点について考える機会となる。予定には一部変更の可能性がある。

As in the spring semester, we will use reference literature to learn the unfolding of the history of Western Christian art.

- 1) The course instructor will explain the overall picture of the class and raise an issue.
- 2) The instructor will give lectures on how to appreciate works of art, referring to the art gallery exhibitions currently being held.
- 3) Based on the lectures, you will each choose an individual research topic according to your interests and give a presentation on what you have learned through your research. As presentations will always involve using works of art, they will function as an opportunity for you to learn PowerPoint and other visual presentation methods. Q&A sessions and discussions following each presentation will serve as an opportunity for all students to consider various issues involved in Christian art. Note that the schedule may be partially changed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス，全体スケジュール確認
- 2回：事前（夏休み）課題の報告1
- 3回：事前（夏休み）課題の報告2
- 4回：発表1，ディスカッション
- 5回：発表2，ディスカッション
- 6回：発表3，ディスカッション
- 7回：発表4，ディスカッション
- 8回：発表5，ディスカッション
- 9回：発表6，ディスカッション
- 10回：発表7，ディスカッション
- 11回：発表8，ディスカッション
- 12回：発表9，ディスカッション
- 13回：発表10，ディスカッション
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の選択した課題についての関連文献を読み、発表の準備を行う。レジюме、参考文献リスト、パワーポイントの作成を行い、わかりやすい発表を心がける。

発表後はディスカッションの内容を整理し、研究成果全体をレポート形式で報告する。

夏期休暇中の課題（宿題）が課される。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:40% 授業への参加、貢献度:20% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ゴンブリッチ、田中正之他訳 『美術の物語』ポケット版 ファイドン 2011 4864410062

編集、小佐野重利他 『西洋美術の歴史』全8巻 中央公論新社 2016-2017 9784124035940

秋山聰、田中正之監修 『美術出版ライブラリー 西洋美術史』 美術出版社 2021 9784568389081

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

美術作品に対する興味、関心、または愛を注ぐための努力と専門文献の読解力。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

研究発表では、必ずパワーポイント等による画像提示が必須となるため、そのためのパソコンを各自準備すること。



## 演習 A 1 2

Seminars A12

宗教と政治—グローバル社会の光と闇—

加藤 喜之 (KATO YOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

春学期にひきつづき、グローバル社会において宗教が政治にどのような影響を及ぼしているのかについて議論する。2010年代以降、世界のあらゆるところで、グローバル化によって疲弊した層を中心に排他的なナショナリズムが勃興している。そうしたナショナリズムの根源には宗教がある。とはいえ、この宗教は、教義・教祖・教団からなる伝統的な宗教ではない。むしろ、特定の民族のアイデンティティの源泉となるようなものである。例をあげるとすれば、ユダヤ・キリスト教的な価値観を掲げる欧州の極右政党、プーチン大統領にとってのロシア正教、トランプ元大統領にとってのキリスト教福音主義、モーディー首相にとってのヒन्दゥー至上主義、エルドアン大統領にとっての保守的なイスラム主義。また、大部分が「無宗教」を自負する日本においても、近年、伝統的な神道の世界観を支持し、保守的な政治運動を展開するグループも少なくない。本演習では、こうしたグローバル社会における新しい宗教と政治のあり方を多様な論文を読み解くことで明らかにしていく。

As in the spring semester, we will discuss how religion influences politics in global society. Since the 2010s, exclusive nationalism has been on the rise in all parts of the world, mainly among people who have been

exhausted by globalization. Religion is the root of such nationalism. However, this religion is not a traditional religion consisting of a doctrine, a founder, and a cult. Rather, they are the source of a particular ethnic identity. For example, Europe's far-right parties that advocate Judeo-Christian values, Russian Orthodoxy for President Putin, Christian evangelicalism for former President Trump, Hindu supremacy for Prime Minister Modi, and conservative Islamism for President Erdogan. Furthermore, even in Japan, where most people pride themselves on being "non-religious", in recent years there have been a number of groups that support the traditional Shinto worldview and have developed conservative political movements. In this seminar, we will clarify the new state of religion and politics in global society by reading a variety of papers.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では、参加者が自身の関心に近い論文を選び、要旨を作成し、発表する。宗教と政治の関係についての考察を深めると同時に、文献の正確な読解力ならびに参加者自身のレポートや論文執筆に必要な調査能力を身につけることも目標としたい。とりわけ、春学期は課題としてリフレクションペーパーを2回提出する。これは文献の理解を示すためであり、またそこから自らの問題を設定していくためである。秋学期はそれぞれの関心のもと、消費主義社会における宗教の事例をひとつ選び、学期末に一人15分の研究発表を行う。研究発表は完全原稿で行う。読むスピードにもよるが4000字から5000字程度の原稿を用意する。コメンテーターはそれに対して、5分の応答をする。コメンテーターは完全原稿を準備する必要はないが、ある程度練られたコメントをしなければならない。さらに他の学生からの質疑応答の時間をとる。コメントや質疑応答をもとに、原稿を修正し、授業内で指定された期限までに最終原稿を提出する。

In this seminar, participants will select papers close to their own research interests, prepare an abstract, and present it. The goal is to deepen the understanding of the relationship between religion and politics. At the same time, they will acquire the ability to read literature accurately and to conduct research necessary to write their own papers. In particular, students, in the fall semester, we will choose a case study of religion in a consumerist society based on our respective interests, and analyse and present it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：論文1
- 3回：論文2、研究発表資料報告（5本程度の論文と2冊の著作）
- 4回：論文3、研究発表資料報告（5本程度の論文と2冊の著作）予備日
- 5回：論文4、研究発表作業
- 6回：論文5、研究発表作業
- 7回：論文6、研究発表作業
- 8回：研究発表中間報告（一人5分、800字程度の要旨を準備すること）
- 9回：研究発表中間報告予備日
- 10回：論文7、研究発表作業
- 11回：研究発表
- 12回：研究発表
- 13回：研究発表
- 14回：研究発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

演習参加者は、指定された文献を事前に読み、授業にのぞむ必要がある。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内報告（複数回）:60% 研究発表・最終レポート:40%

**テキスト / Textbooks**

-

**参考文献 / Readings**

## 演習 A13

Seminars A13

現代神学・現代社会とキリスト教（研究発表と討議）

藤原 佐和子 (FUJIWARA SAWAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

このクラスは、(1) 世界キリスト教における今日的な諸課題についての基礎的な知識・理解を得ること、(2) エキュメニカルな視座から現代社会とキリスト教の関係性について探求すること、(3) 真にインクルーシブな教会や共同体の実現に向けた具体的方法について議論を深めることを目標とします。

This course (1) develops the knowledge and understanding of current issues in global Christianity, (2) explores the relationship between contemporary society and Christianity from the ecumenical perspective, and (3) discusses concrete ways to achieve the vision of truly inclusive church and community.

### 授業の内容 / Course Contents

春学期にひきつづき、受講者に研究発表の機会を提供するとともに、関連する情報の共有や活発な議論を促進します。また、研究論文を書くための文章指導、現代神学やその関連分野の研究に欠かせない資料の提案、世界のキリスト教の最新情報の共有・検討が行われます。

As in the spring semester, this course will provide students with opportunities to present their research, as well as to share relevant information and facilitate lively discussion. The course is also designed to provide students with

writing instruction for research papers, suggestions for resources essential to the study of contemporary theology and related fields, and the sharing and discussion of the latest information on world Christianity.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：研究テーマ（問いの立て方）の検討
- 2回：アカデミックライティングの基礎：資料収集、読書ノート
- 3回：アカデミックライティングの基礎：構成、文章表現
- 4回：アカデミックライティングの基礎：脚注、参考文献
- 5回：個人研究発表
- 6回：個人研究発表
- 7回：個人研究発表
- 8回：個人研究発表
- 9回：個人研究発表
- 10回：個人研究発表
- 11回：個人研究発表
- 12回：個人研究発表
- 13回：個人研究発表
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内での発言、貢献：60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しません（必要な場合はPDFファイルを配布・配信します）

### 参考文献 / Readings

西原廉太 「エキュメニズムに進むキリスト教」『総説キリスト教史3・近現代篇』 日本キリスト教団出版局 2007 9784818406339

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編 『キリスト教平和学事典』 教文館 2009 9784764240346  
立教大学 マスター・オブ・ライティング

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版会 2002 9784766409697

### その他 / Others

なお、授業内容は受講者の人数や関心等によって適宜変更される場合がある。

Email：fujiwara.sawako@rikkyo.ac.jp

# 演習 A14

Seminars A14

イエス運動の社会学的考察

田中 健三 (TANAKA KENZO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA114

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

歴史的イエスの運動を当時の社会的危機を背景とした新たなヴィジョンの提示という観点から理解する。特に経済的危機、政治的危機、倫理的危機などのテーマにおいて、イエス運動がどのような価値転換であったかを、ゲルト・タイセン『イエス運動 ある価値革命の社会史』をテキストとして、考察、討議していく。参加者がイエスという人物の社会的意義について知見を得るとともに、キリスト教成立の過程についての理解を深めることを目指す。新約聖書をもテキストとし、さらに現代的視点からの討議も歓迎する。

The participants will understand the historical Jesus Movement from the perspective of presenting a new vision against the backdrop of the social crisis of the time. Using Gerd Theissen's *The Jesus Movement: A Social History of a Value Revolution* as a text, we examine and discuss what kind of value transformation the Jesus Movement brought about, especially in themes such as economic crisis, political crisis, and ethical crisis. The aim is for participants to gain insight into the social significance of the person of Jesus and to deepen their understanding of the process by which Christianity was established. The New Testament will be used as a text, and discussions from a modern perspective are also welcomed.

**授業の内容 / Course Contents**

イントロダクションの後、履修者がテキスト（G. タイセン『イエス運動 ある価値革命の社会史』廣石望訳）の担当箇所について発表を行い、その上で履修者全員による討論を行う。

After the introduction, the students will make a presentation on the assigned section of the text (G.Theissen, Die Jesusbewegung: Sozialgeschichte einer Revolution der Werte), followed by a discussion among all students.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション 1
- 2回：イントロダクション 2
- 3回：1章「脱落者と放浪する霊能者たちの運動」 1
- 4回：1章「脱落者と放浪する霊能者たちの運動」 2
- 5回：1章「脱落者と放浪する霊能者たちの運動」 3
- 6回：1章「脱落者と放浪する霊能者たちの運動」 4
- 7回：2章「千年王国運動としてのイエス運動」 1
- 8回：2章「千年王国運動としてのイエス運動」 2
- 9回：2章「千年王国運動としてのイエス運動」 3
- 10回：4章「イエス運動の社会的ヴィジョン」 1
- 11回：4章「イエス運動の社会的ヴィジョン」 2
- 12回：4章「イエス運動の社会的ヴィジョン」 3
- 13回：3章「イエス運動発祥の場であるユダヤ社会の危機」
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

全員が事前にテキストの該当箇所を読んでくる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% 出席および討論への参加度:50%

全体の2/3以上の出席が単位取得の最低条件

**テキスト / Textbooks**

ゲルト・タイセン 『イエス運動 ある価値革命の社会史』 新教出版社 2010 9784400111481 ○  
新約聖書を各自用意。詳細は初回授業時に説明する。

**参考文献 / Readings**

G, Theissen, A. Merz The Historical Jesus SCM Press 1998 9780334026969

U. Schnelle Die ersten 100 Jahre des Christentums Vandenhoeck & Ruprecht 2016 9783825246068

E. レヴィナス 『倫理と無限』 朝日出版社 1985 4255850216

E. レヴィナス 『貨幣の哲学』 法政大学出版局 2003 4588007793

その他文献は講義の中で適宜紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

新約聖書（特に福音書）を一通り読んだことを前提とする。社会学の素養は特に必須ではない。



# 演習 A15

Seminars A15

アジア・キリスト教史/ジェンダー研究

ゾントーク, M (SONNTAG MIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本をはじめ、アジアにおけるキリスト教の歴史を省みて、そこに認められる政治・社会・文化的諸課題についての論点を整理し、理解を深める。さらにはアジア・キリスト教史の研究におけるジェンダーの視点の重要性に気づく。

Starting in Japan, we will examine the history of Christianity in Asia to identify political, social, and cultural issues in that history and deepen our understanding of them. Furthermore, we will discover the importance of a gender perspective for the historical study of Christianity in Asia.

## 授業の内容 / Course Contents

演習 A5（春学期）で取り扱った内容を踏まえて、アジア・キリスト教史に関する各自の研究関心を深めるために関連の一次文献の講読に取り組み、またフィールドワークや現地調査を行い、そこで得た情報を分析して演習内で発表する。全コースを通して発表後に討議の時間を設ける。初回の授業で一学期の日程を決めるので必ず出席すること。履修者は、第1回の授業までに学期中に取り組みたいテーマについて決めておく。

Based on what you have learned in Seminar A5 (during summer term), you will further deepen your specific

interest in certain field of the history of Christianity in Asia. For this purpose, you will engage in the reading of primary sources and in fieldwork and/or visits of relevant institutions. Then you will analyze the data you gathered in this process and present your findings in class. Throughout the course, time for discussion will be arranged after each presentation. We will be deciding the presentation schedule in the first class, so make sure to attend. You should decide which topic you would like to study during the term by the first class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、グループ分け、担当確認
- 2 回：一次文献の講読、討議
- 3 回：一次文献の講読、討議
- 4 回：一次文献の講読、討議
- 5 回：フィールドワークまたは現地調査
- 6 回：一次文献の講読、討議
- 7 回：一次文献の講読、討議
- 8 回：一次文献の講読、討議
- 9 回：フィールドワークまたは現地調査
- 10 回：個人研究発表、討議
- 11 回：個人研究発表、討議
- 12 回：個人研究発表、討議
- 13 回：個人研究発表、討議
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加状況:40% 複数回の発表:60%

### テキスト / Textbooks

授業時に提示する

### 参考文献 / Readings

必要に応じて提示する

# 演習 A16

Seminars A16

キリスト教思想史からみた愛と生命の問題2

阿部 善彦 (ABE YOSHIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

おおむね A6 に準ずるが、その発展的な内容に入る。

キリスト教思想史において、これまで中心的なテーマとなってきた問題に、アガペーとエロースをめぐる問題、愛、性、聖、身体、苦しみ、そのほか神と人間をめぐる問題群がある。それは星雲のごとくにそこかしこにきらめく様々な問題系から成立しており、その複雑多様な思想展開のさまを一目のもとに把握することは、極めて困難な作業である。とはいえ、そこへとむけて思索を出発しなければ、根本的な理解へと到達することは不可能である。この授業では、そうした無辺の問題系に向けてわずかなる一歩を進めるための出発点となる問題探求を行い、また、それを共に学ぶ人々との間に共有され、ともにその道を歩みゆく同行のともがらとなる機縁となることをめざす。

Issues concerning agape and eros, that is, love, have been one of the central themes in the history of Christian ideas. Such issues consist of a vast range of systems of problems, and it is a Herculean task to gain a complete view of the complex and diverse development of the ideas involved. However, we cannot gain a fundamental understanding if we do not embark on this journey of contemplation. In this class, we will look for themes that

will serve as a starting point for taking a step, albeit very small, toward such boundless systems of problems, with the aim of making it an opportunity for those learning together to share their ideas and become companions in the journey of contemplation.

### 授業の内容 / Course Contents

おおむね A6 に準ずるが、その発展的な内容に入る。

テキストを読解して他者の思想を正確に理解しようとする態度が求められる。

また、他者の考え方を理解することによって、自己理解を振り返る態度を養うことが求められる。

そのために、グループディスカッション及び授業関係提出課題の相互レビューを行う。

それによって自分自身の考えを他者に伝え、また、他者の考えをきき、協同的に理解を深め合う態度を養うことが求められる。

そのために、教室内では、グループディスカッションで自分自身の考えを積極的に他者に伝えることが前提となるほか、授業課題で各自が提出する文章は、基本的にすべて大学学習支援 Web システムの所定の範囲内で、記名式で相互閲覧可能とすることになる。

こうしたことを事前に承知したうえで受講することが求められる。

基本的に、受講者は、各自でそれらのテキストを読解し、自ら学んだ内容を、グループディスカッションで共有しつつ、相互に学び合うことが求められる。

受講者の状況によって講読テキスト箇所や進度が調整される。

You are expected to be willing to read through texts and accurately understand others' ideas.

You are also expected to develop an attitude of reflecting on your self-understanding through understanding others' ideas.

To this end, we will hold group discussions and peer review sessions for class-related assignments.

Based on such activities, you are expected to develop an attitude whereby you convey your own thoughts to others, listen to others' ideas, and deepen mutual understanding of a cooperative manner.

Therefore, in the class, it is essential that you actively convey your ideas to others in group discussions.

Furthermore, all assignment papers that you submit will basically be made identifiable and viewable to others within the predetermined scope of the university's learning assistance web system.

You should be aware of these before registering for the course.

Basically, you are expected to read texts independently and share what you have learned with others in group discussions so as to promote mutual learning.

Sections of the texts to be read in the class and the pace of reading will be adjusted according to the situation of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス（演習 A6 からの確認）

2 回：イントロダクション

3 回：テキスト 1 について検討

4 回：講読

5 回：討議

6 回：テキスト 2 について検討

7 回：講読

8 回：討議

9 回：テキスト 3 について検討

- 10回：講読  
 11回：討議  
 12回：テキスト4について検討  
 13回：講読  
 14回：討議

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前事後学習:40% 現場での実践:30% 最終報告:30%

### テキスト / Textbooks

G. Palamas La Resistance d'Akindynos I Peeters 2006 9789042911659 ○

金子晴勇 『キリスト教思想史の諸時代 別巻2 アウグスティヌスの『三位一体論』を読む』 ヨベル社 2023 9784909871497 ○

G. Palamas La Resistance d'Akindynos II Peeters 2006 9789042911666 ○

金子晴勇 『キリスト教思想史の諸時代 別巻1 アウグスティヌスの霊性思想』 ヨベル社 2023 9784909871480 ○

リーゼンフーバー 『中世哲学の射程』 平凡社 2024 9784582769623 ○

購入は各自の判断による。このほか授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

Ruusbroec Opera omnia IV Brepols 2002 9782503040417

Ruusbroec Opera omnia V Brepols 2006 9782503040516

Meister Eckhart Meister Eckhart, The Latin Works: «Sermones et Lectiones super Ecclesiastici». Sermons and Lectures on Jesus Sirach Peeters 2022 9789042940512

Abram M., Bernhardt S., Fournier G., Nemes B.J. Mystik unterwegs Peeters 2022 9789042949485

Ruusbroec Opera omnia VI Brepols 2006 9782503040615

Di Segni D. Moses Maimonides, Dux neutrorum vel dubiorum, pars I Peeters 2019 9789042940901

Michel Henry Christi Worte: Eine Phänomenologie der Sprache und Offenbarung Alber 2010 9783495483961

そのほか授業内で指示する。

### その他 / Others

授業内容は科目設定上、春学期の演習 A6 と連携する。

# 演習 A17

Seminars A17

ヘブライ語聖書学・聖書考古学

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA117
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

演習 A7 で見つけたヘブライ語聖書学・聖書考古学分野における自らの研究テーマを掘り下げてレポートを完成させる。プレゼンテーションと討議を通して洞察を深める。

To complete the report of own research subject in the Hebrew Bible studies or biblical archaeology that was decided in the previous semester. To gain insights through presentation and discussion.

## 授業の内容 / Course Contents

演習 A7 で見つけたヘブライ語聖書学・聖書考古学分野における自らの研究テーマを掘り下げてレポートを完成させる。プレゼンテーションと討議を通して洞察を深める。

To complete the report of own research subject in the Hebrew Bible studies or biblical archaeology that was decided in the previous semester. To gain insights through presentation and discussion.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：夏季休業期間中の研究についての報告

2 回：最新研究の紹介・討議

- 3回：研究進捗状況報告・討議1
- 4回：研究進捗状況報告・討議2
- 5回：研究進捗状況報告・討議3
- 6回：研究進捗状況報告・討議4
- 7回：研究進捗状況報告・討議5
- 8回：自由テーマについての討議
- 9回：研究最終発表・討議1
- 10回：研究最終発表・討議2
- 11回：研究最終発表・討議3
- 12回：研究最終発表・討議4
- 13回：研究最終発表・討議5
- 14回：総括（最終レポート提出）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学期末に最終レポートの提出を課すので、研究テーマについて各自で主体的に研究を進めること。自らの研究を進めるために、授業時間外において効果的に図書館やリポジトリ、オンラインデータベース等を活用すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する

# 演習 A18

Seminars A18

われわれの問題としての倫理／生命倫理

鳥居 雅志 (TORII MASASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

今日わたしたちの生活の中で生じている倫理的諸問題に対して、自分たちの問題として向き合い、自らの言葉で考え、語り、議論できるようになってもらいたい。また、そうした中で、「わたし」「われわれ」「いのち」の意味について考えを深めていく。

Face the ethical issues that arise in our lives today as our/your own problems. Think, speak, and discuss about them in your own words. In doing so, we will think deeply about the meaning of "I", "we", and "life".

## 授業の内容 / Course Contents

関心を同じくするメンバーによってグループを作り、現代社会においてわれわれの問題として考えなければならないであろうテーマについて発表してもらおう。その後、発表グループの各メンバーはそれぞれ別のグループに入り、そのテーマの宗教的・文化的・思想的な問題について各自の関心に基づいた提題を行って議論してもらおう。その後、そこで行われた議論について改めて発表グループのメンバー各自に発表してもらおう。

それらを踏まえて執筆した最終レポートで行った考察などを発表してもらおうことも考えている。

なお、授業の進め方などに関しては、参加者と相談の上、柔軟に対応していく予定である。



Groups of like-minded members will be formed and make presentations on a topic that is considered an issue and in today's society. Then each member of the presenting group will join another group to discuss religious, cultural, ideological issues based on their own interests. Afterwards, each member of the presenting group will make a presentation on the discussions that took place.

You must make a presentation on your reflections in a final report based on the discussions.

I plan to be flexible about the course progression and negotiate with all participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（授業目的や方法などの説明）、簡単な自己紹介、テーマの選定（グループ分け）
- 2回：グループ分け、発表準備
- 3回：発表準備（グループごとに発表テーマ・用いる資料・発表形式等の検討を行う）
- 4回：発表準備（グループごとに発表内容の深化・全体ディスカッションに備えてのグループ討議を行う）
- 5回：グループ発表
- 6回：ディスカッション
- 7回：グループ発表
- 8回：ディスカッション
- 9回：グループ発表
- 10回：ディスカッション
- 11回：グループ発表
- 12回：ディスカッション
- 13回：レポート内容についての発表
- 14回：全体の振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、演習で取り組みたい問題について、事前に学びを進めておくこと。

また、自身の問いを整理し、明確にしておくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容（複数回）：50% 討議への参加：20% 最終レポート割合：30%

発表を行わなかったり、期限内に最終レポートを提出しなかった場合は、成績評価の対象とはなりません。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# フィールドワーク A1

## Field Work A1

ヘイト、災害などで「居場所」を喪った／奪われた人びとの生から学ぶ

Learning from the life of “displaced” peoples who have lost their places because of hate crimes, disasters, and so on.

金 迅野 (KIM SHINYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA201

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2833

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 隔週開講

大学院科目 NH333「フィールドワーク演習2」と併置

## 授業の目標 / Course Objectives

川崎（訪問）、横浜・渋谷（訪問）、福島（オンライン講義）などのフィールドで行われているキリスト教会を軸とした実践から学ぶ。ヘイトクライムや災害、貧困などを通じて「居場所」を奪われた人びとの声を聴き、「生きる」こと的前提がどのように疎外されうるのかを学ぶばかりでなく、学生自身が自分の歩むべき道について考察する。

Visiting Kawasaki, Yokohama, Tokyo (Shibuya) and Fukushima (online), students will learn from the testimonies of Christian practitioners and listen to the “voices” of people who are displaced by hate crimes, natural disasters, and poverty, and learn how easily people will be isolated and alienated from their own lives. This will also allow students to seek their own life course.

## 授業の内容 / Course Contents

フィールドを訪問するに先立ち、地域の成り立ちの歴史に目を注ぎ、わたしたちの「いま」は何によって成り立ってきたのかを理解する。また、「声」を聴くことの意味、「声」を聴くということのエピステモロジーについても事前に学ぶ。さまざまな「声」に耳を傾け、事柄を外在的に学ぶのではなく、見聞きしたことの報告を通して、パンデミックの時代を「いかに生きるのか」という問いを抱きしめることにつとめる。フィールド訪問に関しては、学生と実施日を相談しながら決めていく。併せて covid19 の感染状況を鑑みながら訪問を適宜オンラインに変更する。

Before visiting the fields, we will focus on the history of these communities and inquire about what made the present situation. We will also learn the meaning of hearing the voices of others and the epistemology of hearing. By visiting two sites (Kawasaki, Yokohama: a day-trip, Fukushima: online lecture) and listening to the voices of the fields, you will not simply learn facts, but also try to connect yourself to the reality of people's life asking "How will we live in this reality of multiple crises including the pandemic?" Dates for the field trips will be discussed with the students. Field trips might be changed to online depending on the COVID-19 situation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：前期のオリエンテーション:『見知らぬわがまち』を読む
- 2 回：「喪失の経験」／「いまは目に見えないもの」
- 3 回：学生による発表（自分の「ふるさと」を表現する試み）
- 4 回：風景の地層を掘る
- 5 回：活動／運動と「声」あるいは「非－声」
- 6 回：「共生」という言葉と現実。「ヘイト」の乗り越えはいかに可能か
- 7 回：前期のふりかえりとまとめ
- 8 回：後期のオリエンテーション:「問い」をかみしめる
- 9 回：福島／フクシマについて考える①
- 10 回：福島／フクシマについて考える②
- 11 回：学生による発表
- 12 回：現代の「貧困」について考える①
- 13 回：現代の「貧困」について考える②
- 14 回：まとめとふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ★授業は「隔週」で行われる。
- ★講義日とは別に、複数の「現場」への旅を学生と相談のうえ実施する。
- ★紹介する参考資料を盛り込んだレジュメは、前日までに Canvas LMS 等にアップするので、あらかじめ読み込んでおくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:70% 発表:30%

テキスト/Textbooks

---

なし

参考文献 / Readings

---

丹野清人他編著 『わたしもじだいのいちぶです』 日本評論社 2019 9784535587281

山形孝夫ほか 『3・11以後この絶望の国で』 ふねうま舎 2014 9784906791255

山田清機 『寿町のひとびと』 朝日新聞出版 2020 4023319139

以上のもの以外にも、適宜（映像資料等含む）、広く紹介する。

# キリスト教学特論

Advanced Course on Christian Studies

イングランドのキリスト教会音楽

History of Sacred Music in England

ショウ, S. (SHAW SCOTT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA215

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度まで「キリスト教原典講読 5」

・大学院科目 NH348「教会音楽史演習 1」と併置

チャペル会館 2 F マグノリアルーム

## 授業の目標 / Course Objectives

英国キリスト教会音楽を理解すること

The object of this course is to gain an understanding of the history of English sacred music.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業はイギリス（英国）のキリスト教音楽を説明する。イギリスの宗教音楽は聖歌隊の音楽（特に主教座聖堂とチャペル）と会衆の音楽（教区教会の音楽）に分けられるため、別々に説明される。この授業は講義形式で行い、音源と楽譜を使用するため、楽譜を読める必要がある。受講生は宗教改革以前のイギリス礼拝音楽から現在の教会音楽事情まで学ぶ。

This class will focus on the sacred music of the English Christian Church. This music can broadly divided into that written for, and sung by choirs (mainly in cathedrals and chapels), and that sung by congregations in local

parish churches. These two types of English sacred music will be explained separately. As musical scores will be examined in class, a knowledge of music and how to read it is necessary for anyone wishing to register for the class. The class will start with the music of pre-Reformation England and continue up to the music of the 20th century.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：宗教改革以前の礼拝音楽、その1:ミサの構造
- 2回：宗教改革以前の礼拝音楽、その2:サルムプレーンソング
- 3回：宗教改革以前の礼拝音楽、その3:15～16世紀の多声ミサ曲
- 4回：宗教改革時代の礼拝音楽、その1
- 5回：ウィリアムソン・バードの宗教曲
- 6回：宗教改革時代の礼拝音楽、その2：韻律の詩編歌
- 7回：学生によるプレゼンテーション
- 8回：王政復古と礼拝音楽の関係
- 9回：18世紀の礼拝音楽
- 10回：19世紀の礼拝音楽:主教座聖堂とチャペル
- 11回：19世紀の礼拝音楽:教区教会
- 12回：20世紀の礼拝音楽:主教座聖堂とチャペル
- 13回：20世紀の礼拝音楽:教区教会
- 14回：学生によるプレゼンテーション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

出される読書宿題とCD、などのリスニング

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート 1:15% レポート 2:15% プレゼンテーション 1:25% プレゼンテーション 2:25% リスニングテスト:20%

### テキスト / Textbooks

Stanley Sadie 『ニューグローヴ世界音楽大事典』 講談社 1993 -

### 参考文献 / Readings

金澤正剛 『キリスト教音楽の歴史』 講談社 1993

相良憲昭 『音楽史の中のミサ曲』 音楽之友社 2006

参考文献:

Richard Crocker: An Introduction to Gregorian chant (2000)

Andrew Gant: O Sing Unto the Lord (2015)

Nicholas Temperley: The Music of the English Parish Church (Cambridge University Press, 1983)

Kenneth R. Long: The Music of the English Church (St Ma

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

譜読みができること。

An ability to read musical scores.

**注意事項（検索結果画面）**

チャペル会館2F マグノリアルーム

## ヘブライ語講読2

Reading in Hebrew 2

申命記史研究

Deuteronomistic History Studies

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA216
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS2813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度まで「ヘブライ語原典購読」
大学院科目 NH312「聖書学演習（旧約）2」と併置	

### 授業の目標 / Course Objectives

列王記の記述を原語で批判的に読みながら、申命記史研究の実際について学ぶ。

To learn the way in which studies on Deuteronomistic History are conducted through critical reading of the Book of Kings in Hebrew.

### 授業の内容 / Course Contents

列王記上 16 章以降のヘブライ語テキストを、特に編集史・伝承史的観点から批判的に読み進める。授業は受講者の予習に基づく発表とそれについての全員による議論とで構成される。ヘブライ語で聖書を読めること、英・独語の注解書や学術書・論文を読めることが受講のための必要条件である。

We critically read the First Book of Kings (from Chapter 16) in Hebrew from the viewpoints of redaction history and tradition history. Class consists of participants' well-prepared presentations on the text and discussions on the presentations. Participants are expected to read biblical Hebrew as well as bible commentaries and scholarly



works in English and German.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：列王記下5章（1）(Second Book of Kings 5[1])  
 2回：列王記下5章（2）(Second Book of Kings 5[2])  
 3回：列王記下5章（3）(Second Book of Kings 5[3])  
 4回：列王記下5章（4）(Second Book of Kings 5[4])  
 5回：列王記下6章（1）(Second Book of Kings 6[1])  
 6回：列王記下6章（2）(Second Book of Kings 6[2])  
 7回：列王記下6章（3）(Second Book of Kings 6[3])  
 8回：列王記下6章（4）(Second Book of Kings 6[4])  
 9回：列王記下6章（5）(Second Book of Kings 6[5])  
 10回：列王記下7章（1）(Second Book of Kings 7[1])  
 11回：列王記下7章（2）(Second Book of Kings 7[2])  
 12回：列王記下7章（3）(Second Book of Kings 7[3])  
 13回：列王記下7章（4）(Second Book of Kings 7[4])  
 14回：列王記下7章（5）(Second Book of Kings 7[5])

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者には辞書・文法書・コンコーダンス、注解書を用いて次回読むテキストの徹底的な予習をすることが義務づけられる。

Before every class, participants are required to prepare the text thoroughly using dictionaries, grammar books, concordances and commentaries.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容（複数回）:100%

### テキスト / Textbooks

Bible Society Biblia Hebraica Stuttgartensia Amer Bible Society 1997 9783438052223 ○

Biblica Hebraica は毎回持参のこと。

Participants are expected to bring Biblia Hebraica to every class.

### 参考文献 / Readings

T. C. レーマー 『申命記史書—旧約聖書の歴史書の成立』 日本基督教団出版局 2008 4818406708

E. ヴェルトワイン 『A T D旧約聖書註解8 列王記上』 A T D・N T D聖書註解刊行会 2013  
9784901434072

J. A. Montgomery A Critical and Exegetical Commentary on the Books of Kings T&T Clark 1951  
0567050068

J. Gray I and II Kings: A Commentary (2nd Revised ed.) Westminster John Knox 1971 0664208983

S. L. McKenzie 1 Kings 16-2 Kings 16 Kohlhammer 2019 3170340409

**その他/ Others**

授業では日本語と英語を公用語とする（履修者の言語的背景に鑑みて決定する）。

The course will be given in Japanese and English.

## ギリシア語講読2

Reading in Greek 2

古典ギリシア語原典抜粋の講読

田中 健三 (TANAKA KENZO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA217

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度まで「ギリシア語原典講読」

「ギリシア語講読1」と交互に隔年開講

### 授業の目標 / Course Objectives

古典ギリシア語の初級文法を一通り学び終えた人が、文法知識を定着させ、辞書・文法書などを使用して自ら原典を講読する力を養うことを目標とする。

The goal is for students who have completed the basic ancient Greek grammar to deepen their knowledge to the extent that they can read original texts using dictionaries and grammar books.

### 授業の内容 / Course Contents

古典ギリシア語の文章（弁論、歴史、哲学などの諸ジャンルの著作のうち、平易なものからの抜粋）を、辞書・文法書を用いて講読する。進捗については参加者の状況に応じる。

Students will read classical Greek texts (excerpts from plain texts from various genres such as oratory, history, philosophy, etc.) using dictionaries and grammar books. The progress will depend on the situation of the participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：デモステネス1（結婚についての文章）  
 3回：デモステネス2（結婚についての文章）  
 4回：デモステネス3（結婚についての文章）  
 5回：デモステネス4（結婚についての文章）  
 6回：デモステネス5（結婚についての文章）  
 7回：古代ギリシア関連の博物館等見学  
 8回：プラトン『法律』1（結婚についての文章）  
 9回：プラトン『法律』2（結婚についての文章）  
 10回：プラトン『法律』3（結婚についての文章）  
 11回：プラトン『法律』4（結婚についての文章）  
 12回：プラトン『法律』5（結婚についての文章）  
 13回：プラトン『法律』6（結婚についての文章）  
 14回：その他

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回事前に指定されるギリシア語の課題を予習する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の発表（複数回）：50% 授業参加度：50%

#### テキスト / Textbooks

教材はこちらで用意する。

#### 参考文献 / Readings

H. G. Liddell, R. Scott (eds.) An Intermediate Greek-English Lexicon Oxford University Press 1889  
 9780199102068

H. W. Smyth, rev. by G. M. Messing Greek Grammar Harvard University Press 1956 9780674362505

その他必要に応じて授業内で紹介する。

## ラテン語講読2

Reading in Latin 2

愛智の探究構造

阿部 善彦／菊地 智 (ABE YOSHIHIKO／KIKUCHI SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA218
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	オンライン実施回：第11回～第13回
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS2813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度まで「ラテン語原典講読」
大学院科目 NH303「キリスト教思想史演習」と併置	

### 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教が生み出す思想とは何か。それを具体的なテキストを通じて、その語りかけるものを聞き、徹底的に思考停止せずに考え抜くことがこの科目の主眼目である。

われわれは歴史的存在であり、今この身において生きている現実と切り離して問うても空虚である。われわれの存在への問い、人間本性への問い、人間の宗教性への問い、そうしたわれわれ自身への問いと密着しながら、探求を進めてゆくことが求められる。したがって借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要になる。そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表、対話、討議をつうじて深めることが求められる。なお内容は受講者の状況などに応じて変更される場合がある。

We will learn about the tradition of Christian thought in Christian history. It originally had more significance from its academic applications with modern sense than simply researching the history of the church and its doctrine, because the role sought for Christianity in the current complex world situation is broad. However, in the current Christian world, there are internal rivalries and divisions. It is a big challenge to move forward with

peace. In a situation like that, by reconfirming the origin of where we stand based on the history and tradition of various religious groups and denominations as well as their respective characteristics, it is possible to reform and deepen self-understanding and mutual understanding and at the same time, by referring to both the past and present as well as searching and discovering the foundation of Christian interactive mutual understanding.

### 授業の内容 / Course Contents

上記の授業の目的を達すべく、キリスト教思想家のテキストの神学・哲学的思想内容について理解を深める。今年度は愛智を取り上げる。内容は受講者の様子によって変更される場合がある。テキストは日本語訳のあるものを取り上げる予定。

We will deepen our understanding of theological and philosophical thought from the texts of Christian thinkers to achieve the above purpose of the course. This year we will treat "de veritate et verbo". The content may change depending on the situation of the students. I plan to use texts that have Japanese translations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：愛智の現代的問題性
- 3回：キリスト教によって拓かれる愛智の問題理解の地平
- 4回：テキスト読解に向けて
- 5回：テキストにもとづく検討1
- 6回：読解
- 7回：討議
- 8回：テキストにもとづく検討2
- 9回：読解
- 10回：討議
- 11回：テキストにもとづく検討3
- 12回：読解
- 13回：討議
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に関する活動（予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む）:100%

### テキスト / Textbooks

- M. Guyon Le Moyen court Éditions Jérôme Million 2021 9782841373987 ○
- Di Segni D. Moses Maimonides, Dux neutrorum vel dubiorum, pars I Peeters 2019 9789042940918 ○
- Di Segni D. Moses Maimonides, Dux neutrorum vel dubiorum, pars II Peeters 2023 9789042951631 ○

M. Vinzent Tertullian's Preface to Marcion's Gospel Peeters 2016 9789042933200 ○

Hawk-Reinhard D.R. Christian Identity Formation according to Cyril of Jerusalem Peeters 2020  
9789042939233 ○

テキストの購入は各自の判断に任せる。このほか使用する文献資料は授業内で指示する。西方ラテンの教父、神学者のテキストをとりあげる。いずれにしても日本語訳のあるものを用いる。(学部ラテン語講読2としての受講者には別途指示する)

### 参考文献 / Readings

Michel Henry Können des Lebens: Schlüssel zur radikalen Phänomenologie Alber 2017 9783495489253

Ulrich von Strassburg De summo bono Felix Meiner 2023 9783787343119

Meister Eckhart The Latin Works: «Sermones et Lectiones super Ecclesiastici». Sermons and Lectures on Jesus Sirach Peeters 2022 9789042940529

Maine de Biran Die innere Offenbarung des "geistigen Ich": Drei Kommentare zum Johannes-Evangelium Echter 2010 9783429033118

Jörgen Vijgen, Piotr Roszak (eds) Reading the Church Fathers with St. Thomas Aquinas Brepols 2022  
9782503593203

G. Palamas La Resistance d'Akindynos II Peeters 2006 9042911662

G. Palamas La Resistance d'Akindynos I Peeters 2006 9789042911659

# ヘブライ語講読 1

Reading in Hebrew 1

申命記史研究

Deuteronomistic History Studies

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA224
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS2813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度以降入学者のみ履修可
2020 年度まで「ヘブライ語中級講読」	
大学院科目 NH311「聖書学演習（旧約） 1」と併置	

## 授業の目標 / Course Objectives

列王記の記述を原語で批判的に読みながら、申命記史研究の実際について学ぶ。

To learn the way in which studies on Deuteronomistic History are conducted through critical reading of the Book of Kings in Hebrew.

## 授業の内容 / Course Contents

列王記上 16 章以降のヘブライ語テキストを、特に編集史・伝承史的観点から批判的に読み進める。授業は受講者の予習に基づく発表とそれについての全員による議論とで構成される。ヘブライ語で聖書を読めること、英・独語の注解書や学術書・論文を読めることが受講のための必要条件である。

We critically read the First Book of Kings (from Chapter 16) in Hebrew from the viewpoints of redaction history and tradition history. Class consists of participants' well-prepared presentations on the text and discussions on



the presentations. Participants are expected to read biblical Hebrew as well as bible commentaries and scholarly works in English and German.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：列王記下 2 章 (1) (Second Book of Kings 2[1])
- 2 回：列王記下 2 章 (2) (Second Book of Kings 2[2])
- 3 回：列王記下 2 章 (3) (Second Book of Kings 2[3])
- 4 回：列王記下 2 章 (4) (Second Book of Kings 2[4])
- 5 回：列王記下 3 章 (1) (Second Book of Kings 3[1])
- 6 回：列王記下 3 章 (2) (Second Book of Kings 3[2])
- 7 回：列王記下 3 章 (3) (Second Book of Kings 3[3])
- 8 回：列王記下 3 章 (4) (Second Book of Kings 3[4])
- 9 回：列王記下 4 章 (1) (Second Book of Kings 4[1])
- 10 回：列王記下 4 章 (2) (Second Book of Kings 4[2])
- 11 回：列王記下 4 章 (3) (Second Book of Kings 4[3])
- 12 回：列王記下 4 章 (4) (Second Book of Kings 4[4])
- 13 回：列王記下 4 章 (5) (Second Book of Kings 4[5])
- 14 回：列王記下 4 章 (6) (Second Book of Kings 4[6])

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

履修者には辞書・文法書・コンコーダンス、注解書を用いて次回読むテキストの徹底的な予習をすることが義務づけられる。

Before every class, participants are required to prepare the text thoroughly using dictionaries, grammar books, concordances and commentaries.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容 (複数回) :100%

### テキスト / Textbooks

Bible Society Biblia Hebraica Stuttgartensia Amer Bible Society 1997 9783438052223 ○

Biblica Hebraica は毎回持参のこと。

Participants are expected to bring Biblia Hebraica to every class.

### 参考文献 / Readings

T. C. レーマー 『申命記史書—旧約聖書の歴史書の成立』 日本基督教団出版局 2008 4818406708

E. ヴェルトワイン 『A T D旧約聖書註解 8 列王記上』 A T D・N T D聖書註解刊行会 2013  
9784901434072

J. A. Montgomery A Critical and Exegetical Commentary on the Books of Kings T&T Clark 1951  
0567050068

J. Gray I and II Kings: A Commentary (2nd Revised ed.) Westminster John Knox 1971 0664208983

S. L. McKenzie 1 Kings 16-2 Kings 16 Kohlhammer 2019 3170340409

**その他/ Others**

授業では日本語と英語を公用語とする（履修者の言語的背景に鑑みて決定する）。

The course will be given in Japanese and English.

# ラテン語講読 1

Reading in Latin 1

村上 寛 (MURAKAMI HIROSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA226
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS2813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度以降入学者のみ履修可
	2020 年度まで「ラテン語中級講読」

## 授業の目標 / Course Objectives

ラテン語のテキストについて、文法構造を理解した上で訳すことが出来るようになることを目指す。

The aim is for you to become able to translate Latin texts, based on an understanding of grammatical structure.

## 授業の内容 / Course Contents

比較的平易なラテン語テキストを読んでいく。授業では、事前に決めた担当者に文法解析及び訳をしてもらい、担当教員が必要に応じて文法事項の復習や補足を行う。

テキストは初学者向けの神話や寓話、カエサル『ガリア戦記』、ネポス『英雄伝』、リウィウス『ローマ建国史』などの中から、受講者の習熟度や希望に応じて選択する。

受講にあたっては初級文法を一通り学んでいることが望ましいが、独学などである程度の文法知識があれば受講可能である。

We will read relatively simple Latin texts. In the class, preassigned students will provide a grammatical analysis and translation of the designated section, and, when necessary, the course instructor will review and give supplementary explanation on grammatical matters.

Texts will be chosen from among myths and fables for beginners, Caesar's Commentarii de Bello Gallico, Nepos' De Viris Illustribus, Livy's Ab Urbe Condita, according to your proficiency level and requests.

Although it is desirable that you have learned basic Latin grammar before taking the course, you can take the course if you have studied by yourself and acquired a certain level of grammatical knowledge.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

初級文法で使用した教科書（活用表のついたもの）を持参すること

2回：テキスト講読（1）

3回：テキスト講読（2）

4回：テキスト講読（3）

5回：テキスト講読（4）

6回：テキスト講読（5）

7回：テキスト講読（6）

8回：テキスト講読（7）

9回：テキスト講読（8）

10回：テキスト講読（9）

11回：テキスト講読（10）

12回：テキスト講読（11）

13回：テキスト講読（12）

14回：テキスト講読（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された担当者は事前に文法解析及び訳文を作成しておく必要があるが、担当者以外も事前に予習しておくことが望ましい。

授業後には担当箇所かどうにかかわらず、その授業で扱った範囲を後で見返したときに理解出来るようなかたちでまとめておくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表（複数回）：50% 授業参加状況、参加態度：50%

### テキスト / Textbooks

随時配布する。

### 参考文献 / Readings

水谷智洋 『羅和辞典<改訂版>』 研究社 2009 9784767490250

松平千秋／国原吉之助 『新ラテン文法』 東洋出版 1990 9784809643019

P.G.W. Glare Oxford Latin Dictionary Oxford University Press 2012 9780199580316

# キリスト教学入門講義 1

Introductory Lectures on Christian Studies 1

聖書 1

岩崎 大悟 (IWASAKI DAIGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS1803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

『ヘブライ語聖書』についての基本的知識を学習し、そこにこめられた種々の中心的なメッセージを学習することによって、キリスト教成立の背景について理解を深める。

We will acquire basic knowledge about the Hebrew Bible and, through learning various core messages it contains, deepen our understanding of the situation behind Christianity's establishment.

## 授業の内容 / Course Contents

キリスト教で従来『旧約聖書』と呼ばれてきた『ヘブライ語聖書』の構成と概要について学び、基本的用語や特徴的思想などの基本的知識について学ぶ。毎回の授業後に授業内容についての確認テストを行い、基本的用語や要点についての理解度を確認する。

We will learn the structure and outline of each book in the Hebrew Bible, conventionally known as the Old Testament in Christianity, and acquire the basic knowledge of its terms and characteristic ideas. You will have a quiz written after each class to check your level of understanding of basic terms and main points.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション(Introduction)  
 2 回：律法 1 (The Torah 1)  
 3 回：律法 2 (The Torah 2)  
 4 回：律法 3 (The Torah 3)  
 5 回：申命記諸書／前の預言者 1 (The Deuteronomistic History / the Former Prophets 1)  
 6 回：申命記史書／前の預言者 2 (The Deuteronomistic History / the Former Prophets 2)  
 7 回：申命記史書／前の預言者 3 (The Deuteronomistic History / the Former Prophets 3)  
 8 回：後の預言者 1 (The Later Prophets 1)  
 9 回：後の預言者 2 (The Later Prophets 2)  
 10 回：後の預言者 3 (The Later Prophets 3)  
 11 回：諸書 1 (The Writings 1)  
 12 回：諸書 2 (The Writings 2)  
 13 回：諸書 3 (The Writings 3)  
 14 回：まとめ(Review)

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容について復習すること。また配布された資料や、授業中に言及した聖書箇所や、紹介した参考文献を確認し、理解を深めること。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 確認テスト (複数回) :100%

#### テキスト / Textbooks

- 共同訳聖書実行委員会 『聖書 続編付き 新共同訳』 二本聖書協会 1988 4820212435 -  
 日本聖書協会 『聖書 協会共同訳 旧約聖書続編付き』 日本聖書協会 2018 4820213423 -  
 フランシスコ会聖書研究所 『聖書 原文校訂による口語訳』 サンパウロ 2011 4805648292 -  
 新日本聖書刊行会 『聖書 新改訳 2017』 新日本聖書刊行会 2017 4264037255 -  
 新改訳聖書刊行会 『聖書 新改訳第三版』 いのちのことば社 2005 4264020026 -  
 聖書は毎回持参すること。聖書の訳は問わない。

#### 参考文献 / Readings

- K. D. Sakenfeld (ed.) The New Interpreters Dictionary of the Bible Abingdon Press 2009 0687333462  
 S. L. McKenzie The Hebrew Bible Today: An Introduction to Critical Issues Westminster John Knox Press 1999 066425652  
 C. ヴェスターマン 『改訂新版 聖書の基礎知識 旧約篇』 日本キリスト教団出版局 2013 4818408530  
 浅見定雄 『改訂新版 旧約聖書に強くなる本』 日本キリスト教団出版局 2010 481840764  
 T. レーマー 『100語でわかる旧約聖書』 (文庫クセジュ) 白水社 2021 4560510458  
 W.H.シュミット 『旧約聖書入門 上 増補改訂版』 教文館 2004 9784764271456

W.H.シュミット 『旧約聖書入門 下』 教文館 2003 9784764271463

必要に応じて授業中に指示する。

## キリスト教学入門講義 2

Introductory Lectures on Christian Studies 2

聖書 2

廣石 望 (HIROISHI NOZOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS1803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

『聖書』の第二部『新約聖書』の冒頭には、合計4冊の「福音書」が収録されており、それらはキリストと信じられたナザレのイエスについての宗教的な物語である。それぞれの福音書には特徴があり、その背後には口伝ないし書伝による伝承がある。それらの伝承と福音書記者による編集を分析しつつ、イエスの史的な姿と、それを解釈することで生成しつつあるキリスト教信仰との関係について学ぶ。

The four gospels stand at the beginning of the New Testament, the second part of the Bible. They are religious stories about Jesus of Nazareth who is believed to be Christ. Each gospel has specific features, and behind it there were oral or written traditions. By analyzing the traditions and redactional works of the gospel writers according to some topics, the students will learn the historical figure of Jesus and its interpretative relation to the Christian faith in the making.

### 授業の内容 / Course Contents

導入に続いて、およそ以下のトピックをとりあげる。イエスの史的な実在、「福音」の概念、イエスの誕生、彼のカリスマ、「神の王国」の概念、イエスの奇跡、譬え、倫理、共同の食事と最後の晩餐、イエスの死と復活、



初期キリスト教におけるイエスの死の解釈。

After some introductory remarks we discuss about the topics like the historical existence of Jesus, the concept of "gospel," the birth of Jesus, his charisma, the concept of "Kingdom of God," his miracles, parables, ethics, the practice of his common meals and the last supper, his death and resurrection and the early Christian interpretations of his death.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入 「宗教」とは何か？
- 2回：『聖書』とは何か？
- 3回：「イエス」は実在の人物か？
- 4回：「福音」と「福音書」の間
- 5回：イエスの誕生
- 6回：イエスのカリスマ
- 7回：イエスの「神の王国」
- 8回：イエスの奇跡
- 9回：イエスの譬え
- 10回：「神の王国」の倫理
- 11回：イエスの「交わりの食卓」と最後の晩餐
- 12回：イエスの死
- 13回：イエスの復活
- 14回：イエスの「救いをもたらす死」

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『聖書』の該当箇所を予め読んでくる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席およびリアクションペーパーによる授業参加:40% 最終レポート割合 :0%

全体の2/3以上の出席およびリアクションが単位取得の最低条件

### テキスト / Textbooks

日本聖書協会 『聖書 聖書協会共同訳』 日本聖書協会 2022 9784820213598 -

『聖書』は旧約聖書と新約聖書がワンセットになっているものであれば、『聖書 新共同訳』や『新改訳2017』など他の翻訳でもかまわない。

### 参考文献 / Readings

廣石望 『新約聖書のイエス 福音書を読む（上）』 NHK出版 2019 9784149110042

廣石望 『新約聖書のイエス 福音書を読む（下）』 NHK出版 2019 9784149110059

J. H. チャールズワース 『これだけは知っておきたい史的イエス』 教文館 2012 9784764266988

A.-J. レヴァイン他 『イエス研究史料集成』 教文館 2009 9784764273054

講義の中で、適宜指示する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

二次文献も利用しながら、歴史資料としての聖書を解釈する思考力。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

レジュメや資料の配付などに「Canvas LMS」を使用する。

# キリスト教学入門講義 3

Introductory Lectures on Christian Studies 3

キリスト教史 1

寒野 康太 (KANNO KOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA353

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS1803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本科目においては、教会という場における sacrament の実践に関して、古代、宗教改革、現代という大まかにいって、三つの時代を中心にして、アングリカンとカトリックという二つの教会共同体における事象を取り扱う。網羅的にではなくても、キリスト教の歴史的な性格を理解し、とりわけ古代教会が教会論形成に大きな影響を及ぼしたことを把握し説明できることが目標である。

In this course, we will study several important aspects related to Christianity. Because Christianity is based on practices, we will avoid making abstract statements about Jesus and the Churches. Our aim is to examine the realities of Christian life as embodied in the sacraments of the Church and celebrated in concrete rituals.

Furthermore, the course will look into the relationship between the sacraments and what is called “ecclesiology,” that is, the scientific study of the Churches.

## 授業の内容 / Course Contents

特に、教会について初代の弟子たち、古代教会について、また、その中でどのように sacrament、とりわけ聖餐についての理解がなされていたかについてみる。また、宗教改革期の教会論、カトリックの応答、また、

アングリカンの教会論、聖餐論の立ち位置を見る。また、現代の教会論の流れを見ることによって、キリスト教が歴史的な性格をとくに自覚するものであることを見ていく。

The first half of the course will deal with the various ideas that theologians had towards the sacraments, especially the Eucharist. We will start by focusing on the Early Church.

In the second half of the course, we will examine the basic points of ecclesiology, that is, the fundamental doctrines and beliefs of the Church. Our approach will be to study their origins in the Bible as well as in the thought of the Early Church Fathers. Then we will look at the ideas held during the Reformation and, finally, ideas held today.

By the end of the course, students should be able to describe and explain some of the more important ideas of sacramental theology and ecclesiology.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：教会を議論するとは どういうことか

宗教学の「象徴」についての議論から宗教思想は、具体的な媒介を通じて社会と関わるものであるということを見ていく

2回：教会論のあり方、 sacramentについて

入門として、教会と sacrament について、これからの授業展開のための基礎的な知識を確認する

3回：聖書と共同体

旧約と新約聖書から見る教会について、また、 sacrament、聖餐について、聖書の言及を見ていくことで、キリスト教特有の見方を探る

小テスト 「テキストに関して」を実施する

4回：教会という具体的な場

教会建築について

本学にある教会建築のあり方について学び、実際の場としての教会が建築史に与えた影響を見る

5回：古代教会の状態

古代の教会のあり方を見ていくことによって、教会論の土台を理解する

6回：教父たちの聖餐論

教父たちがどのように sacrament の中心である聖餐を理解していたかということについて見ていく

7回：宗教改革とはなにか、カトリック改革・対宗教改革について

宗教改革前夜の教会の状況、また、改革のあらまし、そしてそれに応じたカトリック側の運動、特にトリエンツ公会議について取り上げる

8回：ルターの教会に関する見方と聖餐論

ルターがどういった点で、教会論に新しいものをもたらしたのかということについて、また、彼の聖餐についての見解を探る

9回：カルバンの教会論と聖餐論

カルバンの教会論の特色は、決してルターの見解と相反するものではないが、大きな違いがある。比較しつつ、カルバンの独自性、そしてその結果を見ていく

10回：英国教会・英国聖公会の成り立ち

宗教改革の一つの形としての聖公会の成り立ちを見ていくことで、宗教改革の多様性について、また、ローマ・カトリック教会が何をそこから学びとることができるかについて見ていく

11回：オックスフォード運動と神学の進展

19世紀のオックスフォード運動は、二十世紀の神学的理解につながる要素を持っている。また礼拝様式にも大きな影響を与えた。この運動を見ていくことによって、古代と現代のつながりを模索した神学の流れを理解していく

12回：ローワン・ウィリアムズの神学

様々な二十世紀の神学と、カンタベリー大主教であったウィリアムズの関わりを見ることで、伝統と現代の率直な対話を重んじる聖公会の神学の有様を見ていく。

13回：教会論的問題としての「婚姻」について

現代の教会論の大きな問題としてどのように同性婚というものを考えるかということがあり、この点を見ていくことで、アングリカン・コミュニオンの中の考えの多様性を理解する

14回：まとめ

教場にてレポート作成のための質問受付

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習よりも、復習、また最後のレポート作成のために、授業後一時間の作業を必要とする  
世界史を受講していない場合、各授業前に世界史の基本的な知識を得ていることが前提となる

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内小テスト:40% 授業参加、振り返り発表参加:30% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

山我 哲雄 『キリスト教入門』 岩波書店 2014 9784005007929 ○

その他、必要な文献は Canvas LMS に掲載し、共有する。

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

通常の授業に必要な理解力と説明力、特に授業の不明な点について積極的に質問する態度が求められる

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマートフォンは、情報端末デバイスとしては許可しない。A 5以上のタブレット、ないし PC をデバイスとして用いること。また授業での作業のため、紙と筆記用具も持参すること。

### その他 / Others

授業の最後に行う振り返りを特に重視する。

# キリスト教学入門講義 4

Introductory Lectures on Christian Studies 4

キリスト教史 2

加藤 喜之 (KATO YOSHIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA354  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS1803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカの福音派キリスト教が政治化していくプロセスを分析し、現代社会における宗教と政治の関係を理解することを目標とする。

The goal is to analyze the process of politicization of American evangelical Christianity and to understand the relationship between religion and politics in contemporary society.

## 授業の内容 / Course Contents

米国政治を理解する上で宗教は欠かせない要素である。なかでも保守的なプロテスタント集団「福音派」は、近年の米国政治を大きく動かしてきたと言っても過言ではない。2016年の大統領選では、およそ宗教とは縁のなさそうなニューヨークの不動産王ドナルド・トランプに 81%の白人福音派票が集まり、彼の当選に貢献した。かろうじて敗れた 21 年以降も、福音派はトランプの最も忠実な支持層であり続けている。大統領候補者として起訴案件を抱えるという未曾有の事態にもかかわらずだ。したがって、2024 年の大統領選でも重要な鍵を握ることになるだろう。しかしながら、米国の政治の歴史において福音派は常に影響力を持っていたわけではない。この福音派が米国政治の表舞台に登場したのは 1970 年代後半だと言われており、以降、レーガンの保守

革命、ブッシュのイラク戦争、トランプの中東政策などを支えてきた。そうするなかで、福音派は段階的に政治化し、翻って、米国の政治は宗教化した。この講義では、70年代以降、福音派が政治化していくプロセスをその背後にある社会情勢や宗教文化のみならず、彼らのイデオロギー、すなわち神学を丁寧に読み解きつつ明らかにしていく。

Religion is an essential element in understanding U.S. politics. Among them, the conservative Protestant group "evangelicals" have arguably been a major driver of U.S. politics in recent years: in the 2016 presidential election, New York real estate magnate Donald Trump, who seemed to have little to do with religion, garnered 81% of the white evangelical vote, helping him win the election. Barely 21 years after his defeat, evangelicals remain Trump's most loyal supporters. This is despite the unprecedented indictment case he faces as a presidential candidate. Thus, they will be key in the 2024 presidential election. However, evangelicals have not always been influential in U.S. political history. It is said that these evangelicals first came to the forefront of U.S. politics in the late 1970s, and since then they have supported Reagan's conservative revolution, Bush's war in Iraq, and Trump's Middle East policies. In doing so, evangelicals became progressively politicized and, in turn, U.S. politics became religious. This lecture clarifies the process of the politicization of evangelicals since the 1970s by carefully reading their ideology, or theology, as well as the social conditions and religious culture behind it.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ビリー・グラハムとウォーターゲート事件
- 3回：カーター大統領と「福音派の年」
- 4回：人種差別とファンダメンタリズム
- 5回：フランシス・シェイファー
- 6回：ジェリー・ファルエルとモラル・マジョリティ
- 7回：パット・ロバートソンとクリスチャン・コアリション
- 8回：ジェームズ・ドブソン
- 9回：ブッシュ大統領と福音派の大躍進
- 10回：『レフト・ビハインド』の終末論
- 11回：オバマとリベラルな福音派
- 12回：福音派ティーパーティー
- 13回：大統領としてのトランプと福音派の躊躇
- 14回：総括と討論

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リーディングアサインメントをこなし、講義の復習を行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リフレクションペーパー:40% 講義への参加状況:20%

最終テスト割

合：:40%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

3/4（10回）以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。二度以降の無断欠席は、自動的に受講者の評定を一段落さげることにつながる。次の行為も、評定を一段落さげる対象となる。居眠り、演習の内容と関係ない目的での電子機器の使用、脱線の範囲を超えた私語。



# キリスト教学講義 1

Lectures on Christian Studies 1

旧約聖書学 1

岩崎 大悟 (IWASAKI DAIGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA355

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、履修者が、聖書テキストを読み、さまざまな解釈方法について学び、それぞれの解釈方法の長所と短所について知り、聖書解釈の多様性と現代における適用の可能性、限界について学ぶことです。

The purpose of this class is for students to read the Biblical text, learn about the various methods of interpretation, the strengths and weaknesses of each method, and the diversity and contemporary applications of biblical interpretation.

## 授業の内容 / Course Contents

これまでユダヤ教とキリスト教の両者の伝統でさまざまな解釈がされてきた創世記 2-3 章の「エデンの園」物語を題材にして、主に文学理論とイデオロギー批評を用いた解釈を適用することで、ヘブライ語聖書の解釈の多様性と現代における適用の可能性について学ぶ。

Using the "Garden of Eden" story in Genesis 2-3, which has been interpreted in a variety of ways in both Jewish and Christian traditions, we will learn about the diversity of interpretations of the Hebrew Bible and their applicability to our time by applying interpretations that draw primarily on literary theory and ideological

criticism.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション Introduction
- 2回：言語的読み Linguistic Reading
- 3回：キリスト教的解釈 Interpretations in Christian tradition
- 4回：物語論 Narratology
- 5回：間テクスト的読み Intertextual Readings
- 6回：脱構築批評 Deconstruction
- 7回：マルクス主義批評 Marxist Criticism
- 8回：エコロジー批評 Ecological Criticism
- 9回：ポストコロニアル批評 Postcolonial Criticism
- 10回：フェミニスト批評 Feminist Criticism
- 11回：ジェンダー批評 Gender Criticism
- 12回：クィア批評 Queer Criticism
- 13回：精神分析批評 Psychoanalytical Criticism
- 14回：まとめ Conclusion

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業中に数回レポート課題を課す。また、毎回授業時にリアクションペーパーの提出を求める。

授業前に読むべき資料を配布することがある。配布した参考文献のうち、興味のある文献を適宜読むことが望ましい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー（毎回）:70% レポート課題（複数回）:30%

**テキスト / Textbooks**

- 日本聖書協会 『協会共同訳 続編付き』 日本聖書協会 2022 4820213598 -
- 日本聖書協会 『聖書 旧約続編つき - 新共同訳』 日本聖書協会 2012 9784820212430 -
- 新日本聖書刊行会 『新改訳聖書 2017』 いのちのことば社 2017 9784264037217 -
- 新日本聖書刊行会 『新改訳聖書 第三版』 新日本聖書刊行会 2003 9784264020011 -
- フランススコ会聖書研究所 『聖書』 サンパウロ 2013 9784805648315 -

**参考文献 / Readings**

T. N. D. Mettinger The Eden Narrative: A Literary and Religio-Historical Study of Genesis 2-3 Eisenbrauns 2007 9781575061412

James Chukwuma Okoye Genesis 1-11: A Narrative-Theological Commentary Cascade 2018 9781532609916

K. Schmid, C. Riedweg Beyond Eden: The Biblical Story of Paradise Genesis 2-3 and Its Reception History

Mohr Siebeck 2008 9783161496462

M. West The Queer Bible Commentary, Second Edition SCM Press 2022 9780334060789

D. W. Baker Dictionary of the Old Testament: Pentateuch (IVP Bible Dictionary) Ivp Academic 2003  
9780830817818

B. Bandstra Genesis 1-11: A Handbook on the Hebrew Text Baylor University Press 2008 9781932792706

K. A. Mathews The New American Commentary Genesis 1-11:26 Holman Reference 1996  
9780805401011

その他の参考文献については授業中に資料配布で指示する。

# キリスト教学講義 4

Lectures on Christian Studies 4

新約聖書学 2

赤城 M. (AKAGI MATTHEW-KAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA358

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業科目の目標は（1）使徒言行録の内容について総合的に理解し、（2）使徒言行録の主要な物語的かつ神学的なテーマ及び概念を歴史背景及び思想的背景から理解し、（3）使徒言行録の箇所又はテーマを研究する。

The objectives of this course are (1) to have a general comprehensive understanding of the content of the Acts of the Apostles, (2) to understand the major narrative and theological themes and concepts of the Acts of the Apostles in light of their historical and ideological contexts, and (3) to conduct research on a text or theme from the Acts of the Apostles.

## 授業の内容 / Course Contents

ルカによる福音書の続編として、使徒言行録は新約聖書の書の中で特有な物語文書である。使徒言行録はイエスの生涯の後の初期キリスト教の共同体／教会とその宣教を述べ、「神のことば」の前進に焦点を当てる。この科目は、（1）ルカによる福音書との関係、「わたしたち」の箇所、演説を含め、使徒言行録の文学的特徴を注目しながら、使徒言行録の内容を概観し、（2）使徒言行録の主要な神学的なテーマ及び概念とその物語上での機能を考察し、（3）使徒言行録の研究と関連する主要な積義的・歴史的議論を考える。

As a sequel to the Gospel of Luke, the Acts of the Apostles is a unique narrative text in the New Testament. It describes the earliest Christian community/church and its mission after the life of Jesus with a focus on the spread of the “word of God.” This course will (1) overview the content of the Acts of the Apostles with attention to its distinctive literary characteristics (including its relationship to the Gospel of Luke, the “we” passages, and speeches), (2) observe the major theological themes and concepts of the Acts of the Apostles and how they function within its narrative, (3) and consider some of the exegetical and historical debates related to research of the Acts of the Apostles.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロ、使徒言行録1章、使徒言行録とルカの福音書  
 2回：使徒言行録2章、使徒言行録における演説と宣教  
 3回：使徒言行録3章～6章、初期キリスト教の共同体／教会  
 リアクションペーパー1  
 4回：使徒言行録7章、旧約聖書の物語と使徒言行録  
 5回：使徒言行録8章～9章、使徒言行録と神の民  
 リアクションペーパー2  
 6回：使徒言行録10章～11章、使徒言行録のキリスト論  
 7回：使徒言行録12章、使徒言行録の聖霊論  
 リアクションペーパー3  
 8回：使徒言行録13章～15章、使徒言行録とユダヤ教の律法  
 9回：使徒言行録16章、「わたしたち」の箇所  
 リアクションペーパー4  
 10回：使徒言行録17章、アテネの演説  
 11回：使徒言行録18章～20章、使徒言行録における「恐れ」  
 リアクションペーパー5  
 12回：使徒言行録21章～23章、使徒言行録のパウロとパウロ書簡  
 13回：使徒言行録24章～26章、使徒言行録とローマ帝国  
 リアクションペーパー6  
 14回：使徒言行録27章～28章、使徒言行録の結びとその問題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『聖書』及び教科書／参考書の該当箇所を予め読んでくる。  
 講義内容と参考文献に対するリアクションペーパー及びレポート試験を作成する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%  
 平常点割合 :50% 複数のリアクションペーパー:30% 出席態度および討論への参加度:20%  
 全体の2／3以上の出席が単位取得の最低条件である。

**テキスト/Textbooks**

『聖書 聖書協会共同訳』 日本聖書協会 2018 9784820213413 ○  
宮平望 『使徒言行録 私訳と解説』 新教出版社 2011 9784400118954 ○

『聖書』は旧約聖書と新約聖書がワンセットになっているものであれば、『聖書 新共同訳』、『新改訳』、『新改訳 2017』などの一般的に使われている他の翻訳でもかまわない。

**参考文献 / Readings**

J.イェルヴェル（挽地茂男訳） 『使徒言行録の神学』 新教出版社 1999 4400104532  
原口尚彰 『ロゴス・エートス・パトス 使徒言行録の演説の研究』 新教出版社 2005 4400127664  
その他、講義の中で適宜紹介する。

# キリスト教学講義 5

Lectures on Christian Studies 5

キリスト教思想史 1

後藤 里菜 (GOTO RINA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA359

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、「キリスト教世界」が成立・展開した中世ヨーロッパを中心に、キリスト教と歴史・文化の多面的な影響関係を考察する。そこに見られる多様性のありようの変容を考察することで、多元的な社会を生きる糧を各自見出してもらう。

In this course, we will examine the multifaceted influence of Christianity on history and culture while shedding light on medieval Europe. By examining the development of various groups, we seek hints for living in a pluralistic society.

## 授業の内容 / Course Contents

キリスト教がこの世界や人間にもたらしたものは数多くある。この授業では、キリスト教が構成原理となった中世ヨーロッパを中心に、感情史の観点を含めて考察してみたい。なお、進捗状況により、授業計画には若干の変更を加える場合がある。

Christianity has brought to this world and to humanity so many things. In this lesson, we focus on medieval Europe, where Christianity became a constitutive principle, and include perspectives on history of emotions.

Note that there may be small changes to the syllabus depending on the progress made.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：動物からみる中世
- 3回：動物からみる中世2
- 4回：快楽からみる中世1
- 5回：快楽からみる中世2
- 6回：五感と中世
- 7回：感情史の中の中世1
- 8回：感情史の中の中世2
- 9回：感情史の中の中世3
- 10回：聖人崇敬
- 11回：聖女の系譜と中世1
- 12回：聖女の系譜と中世2
- 13回：聖女の系譜と中世3
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習の必要はないが、授業後には配布プリントを見直すこと。また、適宜参考文献を紹介するので関心に応じて自主的に理解を深めること。詳細は授業の際に指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (リアクション・ペーパー) (複数回) :100%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。プリント配布予定。

### 参考文献 / Readings

- Nicole Bériou Pratiques De L'eucharistie Dans Les Eglises d'Orient et d'Occident ( Antiquité et Moyen Age )  
Institut d'Etudes Augustiniennes 2009 9782851212375
- Piroska Nagy et Damien Boquet Le Sujet Des Émotions au Moyen Âge Beauchesne 2009 9782701015224
- William Reddy The Making of Romantic Love: Longing and Sexuality in Europe, South Asia, and Japan, 900-1200 CE Univ of Chicago Pr 2012 9780226706269
- Olga V. Trokhimenko Constructing Virtue and Vice: Femininity and Laughter in Courtly Society Ca. 1150-1300 Vandenhoeck & Ruprecht Gmbh & Co 2014 9783847101192
- Susan Broomhall Gender and Emotions in Medieval and Early Modern Europe: Destroying Order, Structuring Disorder Routledge 2019 9780367880422
- Bénédicte Sère et Jörg Wettlaufer Shame between Punishment and Penance. The Social Usages of Shame in



the Middle Ages and Early Modern Times SISMELE 2014 9788884504821

Keller, H., Poortinga, Y. H., & Schölmerich, A. Between Culture and Biology: Perspectives on ontogenetic development. Cambridge University Press 2002 9780511489853

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

中世キリスト教世界やそこに生きた人々の世界観や思想および感性に関わるものが中心ですが、講義内容は出席者の関心に応じて変動します。出席して、話を聞いて、考えたことをリアクション・ペーパーで授業後に提出してください。前提的知識は問いません。リアクション・ペーパーの記述は後の回で取り上げてコメントしたりする予定です。授業を聞いて自分で考えることを楽しむ人を歓迎します。

# キリスト教学講義 7

Lectures on Christian Studies 7

比較宗教学 1

佐藤 清子 (SATO SEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA361

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「宗教復興」と「世俗化」をキーワードとして、現代の社会と宗教の関係について講義を行う。かつては「世俗化」が論じられ、宗教は重要性を失うと見込まれた。だが近年の「宗教復興」現象はその予想を覆し、宗教は 21 世紀の現在も「問題」として残り続けている。この授業では主にアメリカ合衆国の事例に依拠し、近代から現代に至るまで、宗教が社会に対してどのような影響を与えてきたのかを多角的に考察する。受講生はこれらの知識を身につけ、現代社会に生きる一市民として、多様な他者との共存について考察することを目指す。

The focus of this lecture is the relationship between society and religion in today's world, which will be explored through the theoretical frameworks of "religious revivals" and "secularization." In the past, secularization theories were developed and many believed that religion would lose its significance in the modern world. However, recent religious revivals have challenged this notion, and religion remains an important issue even in the 21st century.

We will examine how religions have impacted social issues in modern and contemporary history from various perspectives, with a particular focus on cases in the United States. By studying these cases, students will gain a better understanding of how to coexist with diverse individuals as citizens in modern society.

**授業の内容 / Course Contents**

授業前半では、アメリカの福音派の興隆と公共圏への参入、アメリカ発のオカルトやスピリチュアルな文化の世界的流行、ムスリムの増加を事例として取り上げる。また、現代におけるもうひとつの宗教性として無宗教を論じる。授業後半では宗教と社会問題についての事例として、アメリカの人種問題と宗教のかかわりを論じる。

In the first part of the class, we will explore various cases such as the rise of evangelicalism and evangelicals' engagement in the public sphere, the widespread popularity of American occult and spiritual culture, and the growth of the Muslim population. Additionally, we will discuss the concept of non-religion as an alternative form of religiosity in today's world. During the second part of the class, we will focus on the relationship between race and religion in the United States, using it as a case study to examine the interplay between religion and social issues.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：イントロダクション――世俗化論と宗教復興
- 2 回：アメリカ合衆国の福音派①――福音派の形成
- 3 回：アメリカ合衆国の福音派②――福音派と現代文化
- 4 回：アメリカ合衆国の福音派③――福音派と公共空間
- 5 回：アメリカ合衆国の福音派④――教育問題
- 6 回：アメリカ合衆国の福音派⑤――性と家族の問題
- 7 回：オカルト・スピリチュアリティの文化
- 8 回：アメリカのカルト問題
- 9 回：無宗教という宗教性？
- 10 回：アメリカのムスリム
- 11 回：人種問題と宗教①――公民権運動と宗教
- 12 回：人種問題と宗教②――19 世紀南部奴隷制社会と宗教
- 13 回：人種問題と宗教③――現代のキリスト教ナショナリズムと白人至上主義
- 14 回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

事前に配布する講義資料に目を通しておくこと。授業後は復習を行うこと。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加とレスポンスの提出:60% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

教科書は使用せず、配布資料とスライドで授業を進める。

**参考文献 / Readings**

- 島藺進、磯前順一編 『宗教と公共空間：見直される宗教の役割』 東京大学出版会 2014 4130104101
- 堀江宗正編 『宗教と社会の戦後史』 東京大学出版会 2019 4130104128
- 島藺進 『政治と宗教 統一教会問題と危機に直面する公共空間』 岩波書店 2023 4004319579

# キリスト教学講義 9

Lectures on Christian Studies 9

神学思想 1

鳥居 雅志 (TORII MASASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA363  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教が語ろうとしているところを、仏教との対話などを通して現代日本において提唱された「場／無の神学」（代表的人物として、八木誠一、小田垣雅也、小野寺功、井上洋治らが挙げられる）などの観点から捉えていき、そこから「われわれ」のあり様について考察していく。

We will ascertain what theological Christian ideas attempt to convey from the perspective of the "theology of field(/place)/nothingness" that was advocated in contemporary Japan through dialogues with Buddhism. We will take a look at leading figures including Seiichi Yagi, Masaya Odagaki, Isao Onodera, and Youji Inoue. Then, based on them, we will consider how we are.

## 授業の内容 / Course Contents

キリスト教が語ろうとしているところを、現代日本において提唱された「場／無の神学」などの観点から捉えていく。その後、「場／無の神学」／無の神学」を提唱した八木誠一、小田垣雅也、小野寺功、井上洋治らによって論じられていることを検討するとともに、そこで語られている我々／われ－われ／〈われわれ〉のあり様について考察していく。

なお、毎授業後にコメントを提出してもらおう。提出してもらったものの幾つかは、個人が特定されないようにした上で共有したいと思っている。授業は提出してもらったコメントの紹介や、コメント同士の議論、疑問への応答、コメントへの応答などをしつつ進めていくため、積極的な参加を望む。

また、進め方や扱う内容も、コメントから窺える受講者の興味などにより適宜調整する予定である。

理解を深めるために、補助教材として映像資料を用いることも考えている。

(「神学思想1」は基本的に概要を見ていくものであるが、「神学思想2」と重複する部分もあることをご承知願いたい。)

We will ascertain what Christian ideas attempt to convey from the perspective of the "theology of field (/place)/nothingness" that was advocated in contemporary Japan. Then, based on them, we will consider the arguments of Seiichi Yagi, Masaya Odagaki, Isao Onodera, Youji Inoue, who advocated the "theology of field (/place)/nothingness," and also consider the concept of "self".

After the class, you will submit your opinions and questions in a reaction paper. Some of them may be shared in the class in an anonymous form. It is desirable that you participate actively, as the class will involve sharing submitted comments. Additionally, we will hold discussions between students with different views and answering questions and comments.

As necessary, the schedule and content of classes may be adjusted according to your interests from your comments suggested.

In order to deepen your understanding, we may use visual materials as supplementary course material.

Theological Ideas 1 basically offers an overview, but we some areas will be covered in Theological Ideas 2, too.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：「キリスト教」とわれわれ1
- 3回：「キリスト教」とわれわれ2
- 4回：「キリスト教」とわれわれ3
- 5回：「キリスト教」とわれわれ4
- 6回：「キリスト教」とわれわれ5
- 7回：「無／場の神学」1
- 8回：「無／場の神学」2
- 9回：「場／無の神学」3
- 10回：「場／無の神学」4
- 11回：「場／無の神学」5
- 12回：「場／無の神学」の展開の可能性1
- 13回：「場／無の神学」の展開の可能性2
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

共有したコメントは必ず読んでおいて欲しい。また、授業時に紹介する参考文献のうち、興味のあるものを数冊読み、見解を深めてもらいたい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題コメント:40% 授業への参加協力度:20% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席がない場合、最終レポートの提出がない場合は成績評価の対象としません。なお、授業内に設ける出席確認時間に行っていただく「出席のご登録」と授業後の「コメントの提出」の両方を以て「出席」と見做します（出席数も評価に影響します）。また、他の学生の学びを妨害するような行為や不正と見做されるような行為はご遠慮ください（酷い場合には、大幅な減点をします）。

**テキスト / Textbooks**

なし。

**参考文献 / Readings**

授業時に適宜紹介します。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Google フォームや ZOOM ミーティングルームのチャット機能も用いる予定なので、PC やスマートフォン、タブレットなども持参いただけると助かります。

# キリスト教学講義 12

Lectures on Christian Studies 12

キリスト教倫理学 2

田島 靖則 (TAJIMA YASUNORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA366

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

自由、平等、博愛といった近代以降は自明とされてきた価値観もまた、西欧キリスト教の精神的土台の上に成立した観念である。しかし、そういった近代的価値観の成立は一朝一夕に成ったものではない。本講義は、近現代の人間観を構成するキリスト教的価値観の成立を、歴史的経過を追いながら学び、現代を生きる私たちを支えるキリスト教の人間観について考えてみたい。

Values that have been considered post modern times, such as freedom, equality, and fraternity, are also concepts established on the spiritual foundation of Western Christianity. However, the establishment of such modern values did not happen overnight. In this lecture, we will learn about the establishment of Christian values that make up the modern human view, following historical progress, and think about the Christian human view that supports us as we live in the present day.

## 授業の内容 / Course Contents

キリスト教の価値観に基づいて建国されたアメリカ合衆国においても、「平等」についての考え方は、1960年代までは優生思想のハ・ラダ・イムを脱することは出来なかった。本講義においてはアフリカ系米国人の



公民権運動を中心として、それ以前のキリスト教倫理の視点とそれ以後の視点の違いを検証する。また合わせて人種差別を受けたアフリカ系米国人の多くが、なぜ抑圧者の宗教であったキリスト教を受け入れたのかについて考えたい。アフリカ系米国人の公民権運動は、マーティン・ルーサー・キング Jr.牧師と、マルコム X の主張を軸として学びを進める。

Even in the United States, which was founded on Christian values, the idea of "equality" could not avoid the eugenic paradigm until 1960s. In this lecture, we will focus on the African American civil rights movement and examine the differences between the viewpoints of Christian ethics that preceded it and those that followed. I would also like to consider why many African Americans who suffered racial discrimination embraced Christianity, which was the religion of their oppressors. The African American civil rights movement is based on the arguments of Martin Luther King Jr. and Malcolm X.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：絵本「ちびくろさんぼ」はなぜ廃刊になったのか？

アフリカ系米国人を誕生させた奴隷制度について

米国の国民的画家、ノーマン・ロックウェルの描くアフリカ系米国人の姿

2回：アフリカ系米国人はなぜ、アメリカ合衆国独立宣言(1776年)によって庇護されなかったのか？

「ジム・クロー法」の成立まで

アフリカ系米国人のアイデンティティー

ブッカー T.ワシントンの思想

デューク・ウィット・ウォーカーの指摘

3回：アフリカ系米国人キリスト教徒の誕生

アフリカン・メソジスト・エピソード教会の創設

W.E.B.デューボイスの思想 1.

4回：W.E.B.デューボイスの思想 2.

米国の教育と人種隔離政策

リトルロックのセントラル高校の事例

ミシシッピ大学のJ.メレデイスの事例

5回：ローザ・パークス事件(1955年)とキング牧師

モンゴメリー・バス・ボイコット運動

6回：非暴力主義の源泉、マハトマ・ガンジーの「サティヤグラハ」思想

マーティン・ルーサー・キング Jr.牧師の生い立ちとキリスト教思想

7回：キング牧師の「非暴力部隊」とその「入隊誓約」

バス・ボイコット運動から統合教育運動、フリーダムライツ運動へ

映画「ミシシッピ・バーニング」

8回：プロテスト・ソングとしての黒人音楽 1

ビリー・ホリデー「Strange Fruit」

もう一人の黒人指導者、マルコム X.映画「マルコム X」

9回：マルコム Xの「民族的威信」と「黒人民族主義」

マルコム Xのキング牧師批判

キング牧師は「アンクル・トム」なのか？

「左の頬をも向けなさい式」は正しい方法か？

10回：アフリカ系米国人と犯罪 ロットニー・キング事件

現代の憎悪犯罪(ヘイト・クライム)

社会の縮図で あるアメリカ合衆国の軍隊

11 回：民族主義と宗教

プロテスト・ソング としての黒人音楽 2

マヘリア・シ ャクソン 「Joshua fit the battle of Jericho」 「Let the church roll on」

「Come on children, let's sing」

12 回：ジェイムズ・H・コーンの思想 1. 『黒人霊歌とブルース～アメリカ黒人の信仰と神学～』

13 回：ジェイムズ・H・コーンの思想 2. 『黒人霊歌とブルース～アメリカ黒人の信仰と神学～』

14 回：ジェイムズ・H・コーンの思想 3. 『黒人霊歌とブルース～アメリカ黒人の信仰と神学～』

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

絵本「ちびくろさんぼ」、ハリエット・ヒ ーチャー・ストウ「アンクルトムの小屋」は事前に読んで おくこと。

14 回の講義全てについて、リアクションペーパーの提出が求められる。

講義内での出席確認に加えて、Canvas LMS を用いたリアクションペーパー (講義内容の要点整理と感想・意見、提出締切日あり) の提出がそろって初めて出席とみなされる。リアクションペーパーの提出が 5 回以上なかった場合、失格とする。

各自が 好みのアフリカ系米国人に関する芸術(文学、音楽)について調べ、自由にリアクションペーパーに記入して提出することができる。リアクションペーパーのレポートとしての完成度と、各自の研究成果がそのまま成績に反映される。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー (複数回) :100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

シ ャクソン・H.コーン 『夢か悪夢か・キング 牧師とマルコム X』 日本基督教団出版 1996  
4818402508

シ ャクソン・H.コーン 『黒人霊歌とブルース』 新教出版社 1983 4400423204

Booker T. Washington Up from Slavery Dover Publications 1995 0486287386

W.E.B. DuBois The Souls of Black Folk Dover Publications 1994 0486280411

# キリスト教学講義 14

Lectures on Christian Studies 14

宗教心理学

長下部 穰 (OSAKABE YUTAKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA368  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、①様々な現代社会問題に対する宗教や宗教をめぐる社会の応答の内容を理解し、②それらの構造を分析し、③現代社会における宗教、あるいは宗教的信念の役割と限界について、またそれらの複雑性について批判的に論じることができるようになることである。

The purposes of this course are: (1) to understand contemporary religious thoughts on various social problems, (2) to analyse structures of these thoughts, and (3) to examine critically the roles and limitations of religion.

## 授業の内容 / Course Contents

ある者は、教会離れの現象を基に「世俗化論」を支持するが、一方で、宗教はいまだに人々の道徳的・政治的生活に深く根ざしていると主張している。さらに、以前は宗教は自由民主主義にとって百害あって一理なしと論じていた何人かの現代社会理論家は、彼らの立場を再検討している。彼らは、現代において、宗教は市民として感覚を取り戻したり、社会問題を分析するための文化的資源を提供できると信じるに至ったのである。しかしながら、いくつかの研究は、宗教者は様々な困難に遭遇すると指摘する。なぜなら、公共圏で宗教者が自らの神学的理想をコミュニケーションする際、信仰を基にした倫理はたびたび摩擦やジレンマを生み出すから

である。この現実の多様な例証を概観しながら、本講義は、宗教グループや宗教者（主にキリスト者）が今日の社会の様々な問題—すなわち、犯罪、戦争、環境、国際開発、そして少数者の権利—にどう向き合っているかを探求する。本講義を通して、受講生は現代の宗教者の思考方法や内容の例、および、それらについての社会理論を理解し、現代宗教の可能性と限界を批判的に論じることができるようになる。

While some defend "secularisation theory" on the basis of a decline in church attendance, others counter this hypothesis by claiming that religion is still deeply rooted in people's moral and political lives. Moreover, some contemporary social theorists, who previously thought religion does more harm than good for liberalism, have reconsidered their position. They now believe that religion contributes to a retrieval of our sense of citizenship and provides cultural resources for social diagnosis. However, other studies also indicate some challenges of religious social engagement because faith-based ethics often create friction and dilemmas when religious adherents attempt to communicate their theological ideals in the public sphere. While examining some of the many examples of this reality, this course explores how religious groups and individuals engage in various major problems of today's society: crime, war, environment, local and international development, and minority rights. Through this course, students gain basic knowledge in contemporary religious thought as well as social theories of religion, learn to analyze social problems sociologically, and critically examine the potentials and limitations of the role of religion in the modern age.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：序：現代社会における宗教の役割再考
- 2回：Faith in the City: 英国国教会の法と秩序
- 3回：北米メソナイトと修復的正義運動
- 4回：ロスト・イン・トランスレーション：刑事事件における「赦し」の問題
- 5回：神の名による暴力：グランドゼロの宗教
- 6回：キリスト教平和主義と正戦論の神学
- 7回：戦争・原発・国家主義に対する日本のキリスト者の応答
- 8回：宗教・開発・人道支援①：Faith-Based International NGO
- 9回：宗教・開発・人道支援②：貧困問題に取り組む Faith Actors
- 10回：宗教・開発・人道支援③：途上国において差別を助長する神学
- 11回： sacramentの守護者？：同性婚をめぐる教会の対立
- 12回：無宗教の台頭：無神論者の信念と権利とは
- 13回：結 現代社会において宗教の果たせる役割と限界
- 14回：筆記試験

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学生は、前週に講師が提示する課題の予習が求められる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リフレクションペーパー（複数回）:50%

### テキスト/Textbooks

---

各自が購入する必要のあるテキストはありません。

### 参考文献 / Readings

---

島藺進 他編 『宗教と公共空間—見直される宗教の役割』 東京大学出版 2014 4130104101

ホセ・カサノヴァ 『近代世界の公共宗教』 筑摩書房 2021 9784480510662

石森大知 他編 『宗教と開発の人類学—グローバル化するポストポスト世俗主義と開発言説』 春風社  
2019 9784861106514

# キリスト教学講義 16

Lectures on Christian Studies 16

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA370
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS2803
使用言語：	その他
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	教育学科の学生は科目コード AE324「キリスト教と教育2」で履修登録すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、教育は、社会の仕組みやその変化のキーポイントとなってきた。教育の理解が深まれば深まるほど、社会の仕組みやその変化の理解が深まる。こうした教育と関わるキリスト教ならびに宗教的な問題に光をあてることで、現代社会におけるキリスト教と宗教の位置や役割を考察したい。

In contemporary society, education is one of the keys for social mechanisms and their changes. The more students deepen their understanding of education, the more they deepen their understanding of social mechanisms and their changes. By shedding light on issues of education related to Christianity and other religions, this course is designed for students to gain insights on the place and role of Christianity and other religions in modern society.

## 授業の内容 / Course Contents

教育をめぐる諸問題のなかで、キリスト教を中心に宗教と関わるテーマを選び解題してゆく。「キリスト教と教育1」では日本に重点をおくが、本講義では日本以外の国を対象とする。キリスト教が多数派の国々のうち、欧米諸国に加え、アジアからフィリピンを取り上げ、そこでの公教育と宗教の問題をみていく。

Among education-related issues, the issues involved with religions, especially with Christianity, will be chosen for

discussion. While "Christianity and Education 1" focuses on Japan, this course focuses on countries other than Japan. Europe and America as well as the Philippines from Asia will be selected, and issues concerning public education and religion in those countries will be studied.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：キリスト教教育をみる視点
- 3回：欧米諸国 1
- 4回：欧米諸国 2
- 5回：欧米諸国 3
- 6回：欧米諸国 4
- 7回：欧米諸国 5
- 8回：フィリピンの宗教教育:背景
- 9回：フィリピンの宗教教育:制度成立 1
- 10回：フィリピンの宗教教育:制度成立 2
- 11回：フィリピンの宗教教育:制度展開 1
- 12回：フィリピンの宗教教育:制度展開 2
- 13回：フィリピンの宗教教育:制度展開 3
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、事前に概要を Canvas LMS で知らせる予定。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

江原武一 『世界の公教育と宗教』 東信堂 2002

市川誠 『フィリピンの公教育と宗教』 東信堂 1999

### その他 / Others

講義内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

# キリスト教学講義 18

Lectures on Christian Studies 18

アジアのキリスト教2

藤原 佐和子 (FUJIWARA SAWAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA372  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、(1) アジアのキリスト教についての基礎的知識と理解を深めること、(2) アジアのクリスチャンがどのように保守的な教会理解に抵抗し、すべての人を包含する共同体を目指しているかを探究することを目的とする。

The two specific aims of this courses are: (1) to develop a basic knowledge and understanding of Christianity in Asia; and (2) to explore how Asian Christians are resisting conservative understandings of the church and striving for a community that is inclusive of all people.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、エキュメニカルな視点から、隣人としてのアジアのキリスト教に焦点を当てる。はじめに、東アジア及び東南アジアのキリスト教の諸相を概観する（特に韓半島とタイ北部の事例を取り上げる）。次に、第二に、インド、インドネシア、フィリピンにおいてエキュメニカル運動に参加するキリスト者たちがどのようにジェンダー、セクシュアリティ、性自認を理由とする排除の問題に抵抗してきたかを検討する。

This course focuses on Christianity in Asia as our neighbors from an ecumenical perspective. First, an overview



of various aspects of Christianity in East and Southeast Asia, specifically case studies in the Korean Peninsula and northern Thailand, is provided. Second, how Christians participating in the ecumenical movement in India, Indonesia and the Philippines have resisted issues of exclusion on the grounds of gender, sexuality, and gender identity will be examined.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：隣人としてのアジアのキリスト教
- 2回：韓半島におけるキリスト教：プロテスタント宣教
- 3回：韓半島におけるキリスト教：三・一独立運動を中心に
- 4回：韓半島におけるキリスト教：南北分断後
- 5回：韓国と日本を生きる女性キリスト者たち
- 6回：タイ北部におけるキリスト教：写真を通して触れる
- 7回：タイ北部におけるキリスト教：プロテスタント宣教
- 8回：タイ北部におけるキリスト教：宣教師神学への抵抗
- 9回：タイ北部におけるキリスト教：女性神学者たち①
- 10回：タイ北部におけるキリスト教：女性神学者たち②
- 11回：インドにおけるキリスト教：排除に抵抗する
- 12回：インドネシアにおけるキリスト教：国境を超えてつながる
- 13回：フィリピンにおけるキリスト教：セーフスペースの創出に向けて
- 14回：総括（最終レポート作成）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびリアクションペーパー：60% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない

### 参考文献 / Readings

John C. England Asian Christian Theologies: A Research Guide to Authors, Movements, Sources, Volume 3  
Orbis Books 2004 9834038429

### その他 / Others

受講者の人数や関心に応じて、授業計画を適宜変更する可能性がある。

連絡先：fujiwara.sawako@rikkyo.ac.jp

# キリスト教学講義 20

Lectures on Christian Studies 20

アジアの宗教2

林 隆嗣 (HAYASHI TAKATSUGU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA374  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アジアの多神教（polytheism）を代表するヒンドゥー教と仏教、そして日本古来の神道は、しばしば一神教（monotheism）たるアブラハムの宗教（Abrahamic religions）と対比される。本授業では、これらの宗教に基づく神観念や世界観の特徴、およびアジア的シンクレティズムの様相を理解するとともに、グローバル社会における異文化・異宗教間の交流について考察することを目的とする。

The polytheistic religions in Asia, represented by Hinduism, Buddhism and Japanese Shintoism, are often contrasted to the Abrahamic religions as monotheism. This course aims to consider the states of cross-cultural exchange among different religions in the global community, understanding the various concepts of gods/deities and the perspectives of the world, and the aspect of syncretism in Asian religions.

## 授業の内容 / Course Contents

主にヒンドゥー教、仏教、神道に焦点を当てて、アジアの諸宗教の基本的な教義と特徴を理解するとともに、多神教社会における神々と人間との関わりについて考察する。さらに、近年、宗教学や人類学で再検討が試みられている「シンクレティズム」の概念を念頭に置きつつ、宗教間の相互交流と受容の事例を概観する。

In this course, we will, mainly focusing on Hinduism, Buddhism and Shintoism, understand the basic theories and characteristics of Asian religions, and consider the relation between gods/deities and human beings in the polytheistic societies. Furthermore, based on the concept of “syncretism” which has been reconsidered in religious studies and cultural anthropology recently, we will illustrate the various cases of the interaction and acceptance of Asian religions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、アジアの宗教を見る目
- 2 回：多神教とシンクレティズム
- 3 回：古代インドの祭式と神話
- 4 回：インド二大叙事詩と『バガヴァットギーター』
- 5 回：ヒンドゥー教の神々（ヴィシュヌとシヴァを中心として）
- 6 回：ジャイナ教と沙門の伝統
- 7 回：仏教の成り立ちと展開
- 8 回：仏教の世界観と創世神話
- 9 回：仏と菩薩と神々
- 10 回：仏教説話に現れる神々の様相
- 11 回：日本の仏教、神道、民間信仰
- 12 回：七夕と盂蘭盆会
- 13 回：日本における神と人の関わり
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト（複数回）：30% 授業の参加態度とリアクションペーパー：40% 最終レポート割合：30%

3分の2以上の出席をしていない場合は、単位取得不可。

### テキスト / Textbooks

なし（適宜、資料を配布します。）

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

多角的な視点をもって多様な価値観や異なる考え方を理解しようとする態度が求められます。

# キリスト教学講義 22

Lectures on Christian Studies 22

キリスト教と美術2

松浦 弘明 (MATSUURA HIROAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA376  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教の聖堂装飾を通して、キリスト教とはどのような教えなのかを「楽しみながら」学ぶこと。  
ルネサンスの画家たちが様々な条件のもとで、どのように自身の制作概念を具現化したのかを推察していくこと。

The purpose of this course is to learn "with fun" what Christian theology is through the decoration of sacred space, and to guess the concept of Renaissance painters who produce their works under various conditions.

## 授業の内容 / Course Contents

「キリスト教学」とか「西洋美術史」という言葉を聞くと、何やら難しくとっつきにくい科目のように思われるかもしれませんが。ですが、本講座でみなさんにお伝えしたいことは、西洋美術作品の面白さです。  
キリスト教の聖堂内を彩る壁画やモザイクには実に多くの情報が含まれています。例えば、ローマのシステリーナ礼拝堂や「署名の間」と呼ばれる教皇の書斎に描かれた壁画には、単に聖書の記述が視覚化されているだけでなく、古代ギリシア思想や画家たちの独特なアイデアも内包されているのです。  
壁画に秘められた様々な情報を読み解いていくことで、みなさんがこれまで以上に西洋美術に親しみを感じ、

将来、現地に赴いて作品を実見したいと思っていただけると嬉しいです。

When you hear the terms "Christology" and "Western art history", you may think that these subjects are somehow difficult and difficult to approach. However, what I would like to tell you in this course is how interesting Western art works are.

The murals and mosaics that decorate the interior of Christian churches contain a wealth of information. The murals painted in the Sistine Chapel and the Pope's library called the "Signature Room" not only visualize the Bible's contents, but also depict ancient Greek thought and unique ideas of the painters.

I hope that by reading various information contained in the murals, you will feel more familiar with Western art and that you will visit these places in the future.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
ーキリスト教の聖堂装飾の役割ー
- 2回：キリスト教の聖堂装飾を概観する  
ー初期キリスト教時代からルネサンスへー
- 3回：ルネサンスの画家たちが聖堂装飾で目指したことは何か  
ーレオナルド・ダ・ヴィンチとカラヴァッジョー
- 4回：ユダヤ教の基本とは  
ーシステーナ礼拝堂に描かれた「モーセ伝」連作ー
- 5回：キリスト教の基本とは  
ーシステーナ礼拝堂に描かれた「キリスト伝」連作ー
- 6回：ユダヤ教とキリスト教の類似と相違  
ーシステーナ礼拝堂における装飾プログラムー
- 7回：作品に秘められた同時代的背景（1）  
ーボッティチェッリ《モーセへの試練》ー
- 8回：作品に秘められた同時代的背景（2）  
ーボッティチェッリ《キリストへの試練》ー
- 9回：ローマ教皇の書齋に表された古代思想（1）  
ーラファエロ《アテネの学堂》の登場人物①ー
- 10回：ローマ教皇の書齋に表された古代思想（2）  
ーラファエロ《アテネの学堂》の登場人物②ー
- 11回：ローマ教皇の書齋になぜ異教の思想が表されたのか  
ーラファエロ《アテネの学堂》の図像解釈ー
- 12回：ローマ教皇の書齋に表された「真理」とは  
ーラファエロ《聖体の論議》の図像解釈ー
- 13回：ひとつの部屋にキリスト教神学と異教の古代思想の双方を視覚化する意味（1）  
ー「署名の間」壁画の図像解釈①ー
- 14回：ひとつの部屋にキリスト教神学と異教の古代思想の双方を視覚化する意味（2）  
ー「署名の間」壁画の図像解釈②ー

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワポ等）の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : グループ発表 : ディスカッション・ディベート :  
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
上記いずれも用いない予定 :

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

特にありません。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の講座後のリアクション・ペーパー:100%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

松浦弘明ほか 『システィーナ礼拝堂を読む』 河出書房新社 2013 9784309255514

松浦弘明ほか 『ラファエロ 作品と時代を読む』 河出書房新社 2017 9784309255866

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

特にありません。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特にありません。

# キリスト教学講義 24

Lectures on Christian Studies 24

キリスト教と音楽 1

國友 淑弘 (KUNITOMO YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA378  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アフリカ系アメリカ人によるキリスト教音楽（黒人霊歌、ゴスペル音楽）が、彼らの宗教文化の中でどのような展開と発展を遂げたかについて理解すること。

This course aims to understand how African American Christian music (Black Spirituals, Gospel Music) has evolved and developed in their religious culture.

## 授業の内容 / Course Contents

録音、ビデオ、文献を通して、奴隷制度、差別制度と共に発展したアフリカ系アメリカ人のキリスト教音楽を通時的に学ぶ。

Through recordings, videos, and literature, learning chronologically African American Christian music that has evolved with slavery and discrimination.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の説明とアフリカ系アメリカ人の社会的立場と音楽の紹介

Explanation of Class Outline and Introduction to African American Social Position and Music

2回：アフリカにおける音楽ルーツと西インド諸島からアメリカに至る音楽の紹介

Music Roots in Africa and Introduction to Music from the West Indies to the United States

3回：19世紀末まで：黒人霊歌（1） 奴隷歌、労働歌

Until the End of the 19th century: Black Spirituals (1) Slave Songs, Work Songs

4回：19世紀から20世紀にかけて：黒人霊歌（2） フィスク・ジュビリー・シンガーズ

From the 19th century to the 20th century: Black Spirituals (2) Fisk Jubilee Singers

5回：20世紀初期のゴスペル音楽ルーツと発展

Gospel Music Roots and Development in the Early 20th Century

6回：公民権運動と音楽

Civil Rights Movement and Music

7回：1950-1960年代：モダンゴスペルとソウルミュージックの台頭

1950-1960's: The rise of Modern Gospel and Soul Music

8回：1970-1980年代：後期モダンゴスペルと女性ゴスペルアーティストの活動の変遷

1970-1980's: Late Modern Gospel and Activities of Female Gospel Artists

9回：ゴスペルカルテットスタイルの歴史

History of Gospel Quartet Style

10回：1990-2000年代：アーバンゴスペルとヒップホップの台頭

1990-2000's: The Rise of Urban Gospel and Hip-Hop

11回：ゴスペル音楽の基本演奏法と慣習・歌詞の変化

Basic Performances and Custom of Gospel Music, About the Lyrics

12回：2010年以降：ゴスペル音楽の現在

After 2010: Gospel Music Today

13回：映画の中のゴスペル音楽

Gospel Music in the Movies

14回：日本のゴスペル音楽

Gospel Music in Japan

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の復習は、主にオンラインリソース（YouTube等）と録音を使ってゴスペル音楽の演奏を鑑賞すること。必要に応じてプリントを配布する。

This will mainly cover watching Gospel Music performances using online resources (such as YouTube) and recordings. Distribute handouts as needed.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席および課題(Attendance and Paper):30%

### テキスト / Textbooks



**参考文献 / Readings**

**その他/ Others**

各回の授業レジメは、授業2日前に授業支援システムにアップしておきます。  
各自ダウンロードおよびプリントアウトをして見られるようにしておいてください。

# キリスト教学講義 26

Lectures on Christian Studies 26

キリスト教美術史 2

大野 松彦 (OHNO MATSUHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA380  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教美術のみならず、広く西洋芸術の知的理解に不可欠な図像学を学び、各々が自身の関心に基づき作品研究を行う基礎を形成する。

Iconography is an essential method for intellectually understanding not only Christian art but also Western art in general. Students will learn iconography and iconology in order to form the basis for researching into the works of art based on their own interests.

## 授業の内容 / Course Contents

図像学 iconography とは、字義的には「像 image/形相 eicon に関する記述」であり、それを通じてイメージが表象する意味内容、寓意や象徴について研究する方法である。これが様式論とならんで美術史の重要な方法論である理由は、図像の意味内容が——とりわけ神話や宗教主題においては——、構図やモチーフと密接な関係にあるためである。したがって美術史研究の進め方としては、図像（構図とモチーフ）の類型学的調査が不可欠となる。この授業では、キリスト教図像学だけではなく、広く古典主義芸術に用いられるギリシア神話図像学を射程に入れ、古代と中世、ルネサンス以後の近代古典美術との図像学的連関も考察する。講義を踏ま

え、履修生は自身が関心をもつ作品について発表を行う。

Iconography – literally "description of image (icon)" – is a method to study the content, allegory, and symbolism that images represent. The reason why this is an indispensable methodology for art history, along with style, is that the semantic usage of images, especially in the mythological and religious subjects, is closely related to composition, motif and attribute. Therefore, a typological investigation of iconography (composition and motifs) is essential in art historical research. In this class, we will focus not only on Christian iconography, but also on Greek mythological iconography, which is widely used in classical art, and consider the iconographical connections between Antiquity, the Middle Ages and Modern classical art after Renaissance. Based on the lecture, students make presentations on works of art they are interested in.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：図像学概論 I
- 2 回：図像学概論 II
- 3 回：古典神話図像学 I (男性神)
- 4 回：古典神話図像学 II (女性神)
- 5 回：古典神話図像学 III (ヘラクレス他)
- 6 回：キリスト教図像学 I (キリスト像)
- 7 回：キリスト教図像学 II (キリスト伝)
- 8 回：キリスト教図像学 III (マリア像)
- 9 回：キリスト教図像学 IV (マリア伝)
- 10 回：キリスト教図像学 V (聖人図像)
- 11 回：キリスト教図像学 VI (教義図像)
- 12 回：演習発表
- 13 回：演習発表
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に加え、インターネット画像検索によって多種多様な図像表現に親しむこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 演習発表:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- E. パノフスキー 『イコノロジー研究：ルネサンス美術における人文主義の諸テーマ』 美術出版社 1971
- E. マール 『ロマネスクの図像学』『ゴシックの図像学』『中世末期の図像学』(中世の図像体系 1-6) 国書刊行会 1996-2000
- 柳宗玄/中森義宗編 『キリスト教美術図典』 吉川弘文館 1990

西野嘉章 『ことばとかたち：キリスト教図像学へのいざない』 東京大学出版会 2023

T.H. カーペンター 『図像で読み解くギリシア神話』 人文書院 2013

A. Grabar Christian Iconography: A Study of Its Origins Princeton University Press 1980

H.Ch. Ackermann et al. (eds.) Lexicon iconographicum mythologiae classicae (LIMC) Artemis 1981-2009

図像学関連の文献は事典項目から方法論的著作まで多岐に及ぶため、講師が学生の関心に応じて個別文献を指示する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

芸術への関心と知的探究心

# キリスト教学講義 28

Lectures on Christian Studies 28

キリスト教音楽学 2

大島 博 (OSHIMA HIROSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AA382
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CHS2803
使用言語：	その他
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	チャペル会館 2 F マグノリアルーム

## 授業の目標 / Course Objectives

J.S.バッハの教会カンタータ ～ 教会暦の流れに沿って～：

J.S.バッハは活動の初期から晩年に至るまで、ほぼ途切れることなく教会音楽を生み出したが、その中心に位置するのが、礼拝の際に演奏されるカンタータであった。その中から代表的な作品を選び、「音楽における説教」にも例えられるカンタータの、礼拝との内容的関連について考察する。

また、コラールの用いられ方を手掛かりに、ルター派教会音楽の伝統がどのように作品に生かされているかについても考察を深める。

From the early days of his activities to his later years, J.S. Bach produced church music almost uninterrupted, and at the center of it was the cantata played during worship. We will select a representative work from among them and consider the contextual connection between the church calendar and the service around the cantata, which is also called a “musical sermon.”

In addition, we will deepen our consideration of how the tradition of Lutheran church music is utilized in the works, using the usage of chorale as a clue.

**授業の内容 / Course Contents**

まず作品についての解説を行い、演奏例を聴きながら、教会暦との関連、楽曲の分析、コラールの用法などについて検討する。それにより、バッハのカンタータへの歴史的、および今日的意味について理解を深めたい。そこで生じた疑問等については、リアクションペーパーや GoogleClassroom などを用いて、出来るだけ集積し、返答及び更なる議論を試みたい。

First, the work will be explained, and while listening to examples of performance, the relationship with the church calendar, analysis of the piece, and use of the chorale will be examined. In doing so, we deepen our understanding of the historical and contemporary significance of Bach's cantatas. We will collect as many questions as possible using reaction papers and GoogleClassroom, and try to reply and discuss further.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：導入：バッハの教会カンタータ創作を概観する
- 2 回：《いざ来ませ、異邦人の救い主》 BWV61 待降節
- 3 回：《歓呼せよ、喜び踊れ！》 BWV248,1 降誕節
- 4 回：《主よ、勝ち誇る敵が息巻く時》 BWV248,6 顕現節
- 5 回：《天の王よ、迎えまつらん》 BWV182 棕櫚の主日
- 6 回：《キリストは死の縄目につながれたり》 BWV4 復活節
- 7 回：《これほどまでに、神は世を愛された》 BWV68 聖霊降臨節
- 8 回：《心と口と行いと生活が》 BWV147 マリアのエリザベト訪問の祝日
- 9 回：《イエスよ、わが魂を》 BWV78 三位一体節後 第 14 主日
- 10 回：《われ喜びて十字架を担わん》 BWV56 三位一体節後 第 19 主日
- 11 回：《われらが神は堅き砦》 BWV80 宗教改革記念日
- 12 回：《目覚めよと呼ぶ声が聞こえ》 BWV140 三位一体節後 第 27 主日
- 13 回：《深き淵よりわれは呼ばわる》 BWV131 悔い改め？
- 14 回：《神の時こそ最善の時》 BWV106 葬儀？

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

授業内容の理解を容易にするためには、バッハとその作品についてある程度の予備知識を得ておくことが望ましい。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% リアクションペーパーによる理解度評価:30% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

特に指定しない。授業内容に応じてプリント等を配布する。

**参考文献 / Readings**

磯山雅、小林義武他 編 『バッハ事典』 東京書籍 1996

角倉一朗 編 『バッハ事典』 音楽之友社 1993

ヴォルフ、コープマン 『バッハ=カンタータの世界 1~3』 東京書籍 2002

樋口隆一 『バッハ カンタータ研究』 音楽之友社 1987

W.フェーリクス 『バッハ』 講談社学術文庫 1999

礒山雅 『バッハ=魂のエヴァンゲリスト』 講談社学術文庫 2010

久保田慶一編 『バッハ キーワード事典』 春秋社 2012

授業内でも適宜紹介する。

**注意事項 (検索結果画面)**

チャペル会館2F マグノリアルーム

# キリスト教学講義 33

Lectures on Christian Studies 33

キリスト教の礼拝1

市原 信太郎 (ICHIHARA SHINTARO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA387  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キリスト教礼拝、ことに聖公会の礼拝についての基礎的な知識を習得し、現代における礼拝行為、ひいては宗教の意味を考える。

To acquire a basic knowledge of Christian worship, especially Anglican worship, and consider the meaning of acts of worship, and thus religion, in the modern world.

## 授業の内容 / Course Contents

礼拝を考える上で前提となる概念や行為についての概説と、キリスト教礼拝の特徴となる要素についての学びから始める。その後、キリスト教礼拝の各論としてのいくつかの礼拝、特に聖餐式（ミサ）について学ぶ。具体的には西方教会（特に聖公会）の内容が中心となるが、それに限定されるものではない。

We will begin with an overview of the concepts and practices that are prerequisites for considering worship, and a study of the elements that characterize Christian worship. After that, we will study some of the forms of Christian worship, especially the Holy Eucharist (Mass).

The course will focus on Western Christianity (especially the Anglican Church), but will not be limited to it.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション  
Introduction to Worship
- 2回：礼拝の基礎(1)  
Fundamentals of Worship (1)
- 3回：礼拝の基礎(2)  
Fundamentals of Worship (2)
- 4回：キリスト教礼拝の歴史(1)：4世紀頃まで  
History of Christian Worship (1): Up to the 4th century
- 5回：キリスト教礼拝の歴史(2)：中世（16世紀頃まで）  
History of Christian Worship (2): Middle Ages (up to about the 16th century)
- 6回：キリスト教礼拝の歴史(3)：宗教改革以降  
History of Christian Worship (3): After the Reformation
- 7回：キリスト教礼拝の基本(1)：キリスト教礼拝の諸要素  
Basics of Christian Worship(1): Elements of Christian Worship
- 8回：キリスト教礼拝の基本(2)：キリスト教礼拝の種類と内容  
Basics of Christian Worship(2): Types and Forms of Christian Worship
- 9回：キリスト教礼拝各論(1)：入信の式  
Christian Worship (1): Initiation Rites (1)
- 10回：キリスト教礼拝各論(2)：聖餐式（ミサ）—1  
Christian Worship (2): Holy Eucharist (Mass)-1
- 11回：キリスト教礼拝各論(3)：聖餐式（ミサ）—2  
Christian Worship (3) : Holy Eucharist (Mass)-2
- 12回：キリスト教礼拝各論(4)：その他の諸式—死にまつわる諸式、結婚式など  
Christian Worship (4): Other Services - Rites Surrounding Death, Marriage, etc.
- 13回：現代のキリスト教礼拝：倫理、文化（インカルチュレーション）、エキュメニズム（教会一致）  
Contemporary Christian Worship: Ethics, Inculturation, Ecumenism (Church Unity)
- 14回：まとめ  
Concluding Remarks

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

可能な範囲で、キリスト教礼拝を具体的に体験することを強く勧めたい。講義や動画等では触れられない「雰囲気」を知ることは、この授業での学びに大変有意義である。

It is highly recommended to experience Christian worship as much as possible. Knowing its "atmosphere" that cannot be felt in lectures or videos is very meaningful for learning in this class.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 講義への出席とリアクションペーパーの提出:40%

### テキスト/Textbooks

日本聖公会 『日本聖公会祈祷書』 日本聖公会管区事務所 1991 ○

必要に応じて授業中に資料を配付する。

Handout materials will be distributed in class as necessary.

### 参考文献 / Readings

西原廉太 『聖公会が大切にしてきたもの』 教文館 2016 9784764261259

吉田雅人 『さら聞けない!?キリスト教 礼拝・祈祷書編 (ウイリアムス神学館叢書 1)』 教文館 2019  
9784764299863

マーク・チャップマン (著), 岩城聡・監訳 (翻訳) 『聖公会物語：英国国教会から世界へ』 かんよう出版  
2013 9784906902200

授業中に適宜紹介する。

To be presented in class as needed.

# キリスト教学講義 35

Lectures on Christian Studies 35

キリスト教と現代社会 1

工藤 万里江 (KUDO MARIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA389

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本クラスを通して受講生は、

- ・ ジェンダーやセクシュアリティの基礎知識を身につけ、
- ・ キリスト教におけるジェンダーやセクシュアリティの歴史を理解し、
- ・ 性をめぐる言説や現状を批判的に分析することができるようになる。

By the end of this course, students will be able to

- ・ show a basic knowledge of contemporary theory of sexuality and gender
- ・ understand the history of sexuality and gender in Christianity
- ・ critically analyze discourses and current situations surrounding gender and sexuality.

## 授業の内容 / Course Contents

ジェンダーやセクシュアリティの「多様性」が叫ばれる今日、それらをめぐる社会の現状を知り、批判的に分析する視座が不可欠である。本講義ではジェンダーやセクシュアリティの基礎知識を身につけた上で、特にキリスト教との関連においてその歴史と現状とを学ぶ。社会で「当たり前」「普通」とされること、キリスト教に

において「聖なる秩序」と位置づけられるものを批判的に考える視座を身につけることが本クラスの目標である。

Today, the importance of affirming “diversity” of gender and sexuality is growing. In such context, it is essential to understand the current social situation surrounding gender and sexuality, and gain a critical perspective in order to analyze the status quo.

In this course, students will acquire a basic knowledge of contemporary theory of gender and sexuality. In addition, students will understand the history of gender and sexuality in Christianity.

The aim of this course is to think critically about what is considered to be “normal” in our society as well as what is assumed as “sacred order” in Christianity.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：フェミニズムの歴史 (1)
- 3 回：フェミニズムの歴史 (2)
- 4 回：現代社会と性差別
- 5 回：キリスト教と性差別 (1)
- 6 回：キリスト教と性差別 (2)
- 7 回：同性愛と異性愛 (1)
- 8 回：同性愛と異性愛 (2)
- 9 回：キリスト教と異性愛主義 (1)
- 10 回：キリスト教と異性愛主義 (2)
- 11 回：性と身体
- 12 回：性と暴力
- 13 回：結婚
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題提出と授業の復習

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度：全授業に出席すること。全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は不合格 (F) とする:40% 各講義の課題：授業への出席と毎回の課題提出は必須 (課題の提出がなければ出席と認めない) :40% 最終回の課題：内容は別途指示:20%

### テキスト / Textbooks

特に定めない

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する

**その他/ Others**

基本的には板書や PowerPoint を使用した講義形式だが、内容に応じて少人数でのグループディスカッションが入ることもある。講義の進行状況に応じてシラバスに多少の変更が生じる可能性あり。2023 年度開講「キリスト教学講義 36」と一部内容が重複する。

# キリスト教学講義 38

Lectures on Christian Studies 38

日本宗教史

丹羽 宣子 (NIWA NOBUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA392  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS2803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では宗教史という視点から、私達を取り巻く日本社会の成り立ちの理解を目指していきます。「日本人は宗教に関心が薄い」とよく言われます。確かに特定の教団に属している人は多数派ではありませんが、私達の日常生活には宗教的な行動は多くあります。このことを理解するには、歴史的な背景を知ることが肝心です。このような視点から、現代日本社会と宗教の関わりについて考えていきます。

This course aims for students to understand Japanese society through the lens of "religion." Certainly, Japanese people who belong to a particular religion are not the majority. However, they perform many forms of religious behavior in daily life. To understand this situation, students need to know the historical background. From this perspective, the course considers the relationship between modern Japanese society and religion.

## 授業の内容 / Course Contents

日本社会と宗教の関わりについて、その歴史的背景や変遷を追いながら確認します。

今日的な課題についても、歴史的視点を踏まえながら具体的事例を示しつつ考えていきます。

To understand the relationship between modern Japanese society and religion, this course addresses the outline

of the history of Japanese religion, and introduces the contemporary issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：＜宗教＞を幅広い視点から捉えるために
- 2回：統計データから見る日本人の宗教行動
- 3回：神道の形成
- 4回：仏教の伝来と展開
- 5回：神仏習合の諸相
- 6回：近世社会と宗教
- 7回：神仏分離と国家神道
- 8回：民衆宗教
- 9回：近現代の社会変動と宗教
- 10回：戦後の宗教
- 11回：現在の宗教状況（1）：転換期を迎える「伝統宗教」
- 12回：現在の宗教状況（2）：葬儀・墓の変化とこれから
- 13回：現在の宗教状況（3）：多文化共生社会と宗教
- 14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

新聞やテレビで、宗教に関する報道をよくチェックしてください。よく気を付けて見てみると、様々な文脈で宗教に関わるものが登場します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席率と授業中のコメント・リアクションペーパーの反応:40%

### テキスト / Textbooks

参考文献や資料は授業中にその都度紹介します。レポートの参考にしてください。

### 参考文献 / Readings

# キリスト教学入門講義 5

Introductory Lectures on Christian Studies 5

宗教と文化 1

飯郷 友康／高橋 英海 (IIGO TOMOYASU/ TAKAHASHI HIDEMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA393  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： CHS1803  
使用言語： その他  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この科目では、宗教と文化の諸領域に関する諸問題を取り上げる。  
また宗教と文化の多様的で歴史的な展開と、そこに見いだされる共生の知恵についても検討する。

This course covers issues relating to religion and culture.

It will also examine the diverse historical development of culture and religion and the wisdom of conviviality contained in them.

## 授業の内容 / Course Contents

宗教と文化の今日の問題性はさまざまである。授業担当者はその専門性にもとづいて特定のテーマを設定して授業を行う。受講者は講義を通じて各自の問題理解を深めるとともに、宗教と文化について多様で歴史的な視野を広げることがもとめられる。さらに宗教と文化においていかなる共生の知恵がはぐくまれてきたのかについても、授業担当者、受講者の間で総合的に討議する。

今年度には、東方キリスト教（中東およびそれ以东のキリスト教会の歴史と文化）またユダヤ説話文学（ヘブライ語聖書、タルムード、中世文学も視野に含める）を取り上げる予定。



The lectures will focus on specific themes of religion and culture.

Participants will develop their own understanding of issues through the lectures.

They will also broaden their perspectives on the historical developments of religion and culture.

The wisdom of conviviality in religion and culture will be also discussed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題提起 1
- 2 回：討議 1
- 3 回：討議 2
- 4 回：問題提起 2
- 5 回：討議 1
- 6 回：討議 2
- 7 回：総括 1
- 8 回：問題提起 3
- 9 回：討議 1
- 10 回：討議 2
- 11 回：問題提起 4
- 12 回：討議 1
- 13 回：討議 2
- 14 回：総括 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内および Canvas LMS、そのほかオンラインシステムなどで指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に関する活動（予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む）:100%

授業内活動、レポート、授業内で指示された予習課題と復習課題の精度が重要である。いずれも授業担当者の指示をふまえて積極的に行うことが求められるので、受講希望者は留意すること。なお授業マナーについて注意された受講者は授業に関する活動を 0 点とする。課題やそのほかの指示が e-mail、Canvas LMS、そのほかオンラインシステムを通じて指示されることがあるが、それを必ず確認すること。確認しないことによる不利益は受講者の責任となる。課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。オンラインシ

### テキスト / Textbooks

Segni Dux neutrorum vel dubiorum Peeters 2019 9789042940901 ○

Segni Dux neutrorum vel dubiorum Peeters 2023 9789042951631 ○

Lossky Eckhart's Apophatictheology: Knowing the Unknowable God James Clarke 2024 9780227179772

○

○

○

飯郷友康「ユダヤ教の《旧約聖書》《タルムード》」『大法輪』82号、2015年6月、112-119頁

<https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/misc/32323290>

飯郷友康「真理は“ヘブライ語”原典にあるか? -書評 加藤哲平著『ヒエロニムスの聖書翻訳』(教文館、2018年)」『一神教学際研究 (JISMOR)』2020年3月、96-103頁 [https://researchmap.jp/igo-](https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/misc/32321789)

[tomoyasu/misc/32321789](https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/misc/32321789)

以上、テキストの購入は各

### 参考文献 / Readings

三代川寛子編 『東方キリスト教諸教会——研究案内と基礎データ』 明石書店 2017 9784750345079

Oliver Nicholson The Oxford Dictionary of Late Antiquity Oxford 2018 9780198662778

Kate Fleet, Gudrun Krämer, Denis Matringe, John Nawas and Devin J. Stewart. The Encyclopaedia of Islam, Third Edition Brill 2014 9789004269613

Hidemi Takahashi Barhebraeus: A Bio-bibliography Gorgias Press 2013 9781593331481

J. Josephus Overbeck S. Ephraemi Syri, Rabulae episcopi edesseni, Balaei, aliorumque opera selecta. Selected Works of St. Ephrem the Syrian, Rabbula, Bishop of Edessa, and Balai. Latin Material Translated by Hidemi Takahashi (translation of Latin material into English) Gorgias Press 2007 9781593335175

ハルバートル 『書物の民—ユダヤ教における正典・意味・権威』 教文館 2015 9784764267190

R・バルト 『物語の構造分析』 みすず 1979 462200481

### その他 / Others

授業内の活動また進め方については各担当者の指示に従うこと。

授業内でディスカッションを行うことがあるので積極的に参加する必要がある。

授業内容は受講者の状況やそのほか実施時の諸状況に応じて変更される可能性がある。

# 世界史

World History

古代から近代までを俯瞰する

松岡 昌和 (MATSUOKA MASAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA501

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
  - ・異なる世界を知ることによって異文化に対する理解を深めていく。
  - ・歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
  - ・さまざまな歴史観・世界観を知ることによって批判的な思考をできるようにする。
- Develop a long-term and broad perspective through learning history.
- Deepen an understanding of different cultures by learning different worlds.
- Develop information literacy through reading and interpreting historical sources and records.
- Become able to think critically by learning diverse views on history and the world.

## 授業の内容 / Course Contents

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。本科目では、古代から近代に至る世界の歴史を扱うため、細かい知識の修得を目的とするものではない。むしろ、歴史の全体像を俯瞰することによって、歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をで

きるようにしていきたい。学期中、数回ミニレポートを課す。

The present is built upon the past, and learning history is extremely important in understanding the origins of the modern world. Since the subject covers world history from ancient times to the modern world, the aim is not to gain detailed knowledge. Rather, by gaining an overall picture of history, we will aim toward learning a historical way of looking at things and developing a diverse understanding of the modern world. Students will submit several small reports during the semester.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：なぜ世界史を学ぶのか
- 2 回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 3 回：地域世界の再編
- 4 回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 5 回：フィードバック回(1)・「歴史する」ことについて考える
- 6 回：近世世界のはじまり
- 7 回：大航海時代
- 8 回：アジア伝統社会の成熟
- 9 回：ヨーロッパの奇跡
- 10 回：フィードバック回(2)・近代と「伝統」について考える
- 11 回：近代化の広がり
- 12 回：「ウエスタン・インパクト」とアジアの苦悩
- 13 回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の該当箇所を予め読んでくること。内容理解に関するクイズを課す。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%  
平常点割合 :40% ミニ・レポート(2回程度実施) :40%

### テキスト/Textbooks

大阪大学歴史教育研究会編 『市民のための世界史』 大阪大学出版会 2014 9784872594690 ○

### 参考文献 / Readings

- 長谷川修一・小澤実編 『歴史学者と読む高校世界史』 勁草書房 2018 9784326248483  
 佐藤昇編 『歴史の見方・考え方: 大学で学ぶ「考える歴史」』 山川出版社 2018 9784634640894  
 リン・ハント(長谷川貴彦訳) 『なぜ歴史を学ぶのか』 岩波書店 2019 9784000241793  
 北村厚 『教養のグローバル・ヒストリー: 大人のための世界史入門』 ミネルヴァ書房 2018  
 9784623082889  
 金澤周作ほか 『論点・西洋史学』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087792

吉澤誠一郎ほか 『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い 158』 ミネルヴァ書房 2021  
9784623092178

小田中直樹 『歴史学のトリセツ——歴史の見方が変わるとき』 筑摩書房 2022 9784480684363

その他参考書は各講義の時間に紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特になし。高等学校レベルでの世界史科目の履修は（理解の助けにはなるが）前提としない。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特になし。ただし予習項目や連絡等を Canvas LMS で配信するので、確認できるようにしておくことを求めたい。

### **その他/ Others**

これまでの歴史系科目の履修は前提としないが、教科書を読み、不明な箇所についてはあらかじめ各自確認しておくことを求めたい。

### **注意事項（検索結果画面）**

対象：教職課程登録者のみ

# 日本史

Japanese History

日本前近代（原始古代～近世）における政治と社会

戸川 点 (TOGAWA TOMORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA502

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

日本史（前近代史）の流れを学ぶ中で日本史に関する基本的な知識を身につけ、歴史的なものの見方などを深めていく。

In learning the outline of the history of Japan (pre-modern history), students will gain basic knowledge relating to Japanese history and further develop a historical way of looking at things.

## 授業の内容 / Course Contents

原始古代から近世まで歴史の流れを追いながら時代のとらえ方や重要事項、研究動向などを解説、紹介していく。史料の調べ方、文献の探し方なども随時取り上げ日本史に関する専門性を高めていく。

Outlining the history of Japan from the prehistoric and ancient eras to the early modern era, this course will explain or introduce approaches to different eras, important matters and research trends. When necessary we will also look at ways to examine historical sources, and search for literature. These aspects will be taken up in order to enhance your expertise in Japanese history.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本前近代史入門～ガイダンス
- 2回：原始の日本～旧石器、縄文、弥生時代
- 3回：ヤマト政権の発展～古墳、飛鳥時代
- 4回：律令国家の成立と展開
- 5回：平城京の時代～奈良時代政治史の流れ
- 6回：平安王朝の成立と摂関政治
- 7回：摂関政治の展開と武士の成長
- 8回：院政の成立と中世国家～平安、鎌倉時代
- 9回：鎌倉幕府の成立
- 10回：鎌倉幕府の展開
- 11回：南北朝内乱と室町幕府の展開～南北朝、室町時代
- 12回：戦国の動乱から織豊政権へ～戦国、安土桃山時代
- 13回：幕藩体制の成立と展開～江戸時代
- 14回：日本前近代史のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義前に高校で学んだ「日本史」の内容を復習し、授業後には日本史に関する概説書や授業中紹介する参考文献などを読むこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:10% レポートまたは小テスト:20%

#### テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

#### 参考文献 / Readings

宮原武夫・山田邦明・深谷克己 『日本社会の歴史 上』 大月書店 2012

木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治 『大学でまなぶ日本の歴史』 吉川弘文館 2016

戸川点 『平安時代はどんな時代か』 小径社 2023

その他、授業中に適宜紹介する。

#### 注意事項 (検索結果画面)

対象：教職課程登録者のみ

# 社会学

Sociology

社会学の基礎を学ぶ

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

2016 年度以降入学者のみ履修可

「経済学」と交互に隔年開講

## 授業の目標 / Course Objectives

「社会」はどのようにして成り立っているのか。この問題に対して、社会学の基本的な考え方を学び、その特徴を理解する。本講義の目標は、現代社会を社会的に捉える視点を習得することである。

How is "society" established? To answer this question, students are expected to learn the basic concepts of sociology and understand their characteristics. The goal of this course is to acquire a sociological approach to modern society.

## 授業の内容 / Course Contents

「社会」の成り立ちについて、社会学の古典から検討を始める。次に、各キーワードを手掛かりにして社会を読み解くことで、社会学の視点を学ぶ。そして、主に現代の家族や人間関係を題材として、現代社会とはいかなる社会であるのかを受講者とともに検討する。

This course begins to examine the formation of "society" from the sociological classics. After that, using each



keyword as a clue, students are expected to interpret our society and learn the viewpoint of sociology. Then, we consider what a modern society is, mainly based on contemporary families and relationships.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：社会学とは何か
- 2回：グループワーク—社会のイメージを描く
- 3回：社会学の前史
- 4回：ウェーバーと理解社会学
- 5回：デュルケムと機能主義
- 6回：ジンメルと相互作用論
- 7回：アイデンティティと役割論
- 8回：権力
- 9回：ジェンダーの現在
- 10回：都市／階級の再生産
- 11回：メディアとコミュニケーション
- 12回：現代社会論①—近代家族とその衰退
- 13回：現代社会論②—再帰的近代化論とリスク社会
- 14回：現代社会論③—親密性と公共性

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料に基づく予復習が求められる。また、社会学の理論や概念を実生活に落とし込むために、ニュース等で時事問題に触れておくとよい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席とリアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

授業で用いる資料は授業前に Google ドライブにアップロードする (ドライブの URL は初回授業時に指示する)。また、授業内で適宜文献を紹介するので参照されたい。

### 参考文献 / Readings

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学 (新版)』 有斐閣 2019 9784641053892

奥井智之 『社会学の歴史』 東京大学出版会 2010 9784130520232

### 注意事項 (検索結果画面)

対象：文学部教職課程登録者のみ

# 法律学

Law

法律学の基礎的な概念を学ぶ

宮澤 弘 (MIYAZAWA HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA505

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CHS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

2016 年度以降入学者のみ履修可

「政治学」と交互に隔年開講

## 授業の目標 / Course Objectives

法律学の基礎的な考え方および知識の獲得を目指します。

This course aims to help students acquire a basic legal approach (or an elementary method of legal thinking) and fundamental knowledge of the law.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では法律学の基本点な概念をできるだけ分かりやすく説明していきます。現代社会において個人は、法の規律の下で自由に活動しています。これらの法は個人を公正にそして平等に扱い、個人の権利が侵害されたときには必ず救済してくれるのです。受講生はこうした法の機能を学び、そして法制度の基底にある主要な原則を理解していきます。

講義では、法の諸原則および法の機能、法の主要な分類、権利義務関係、判例、そして裁判制度とその理念について説明していきます。最後に立憲主義を取り上げます。

This course addresses fundamental concepts of law, to be explained as plainly and simply as possible. In modern society, individuals act freely under the legal rules. These rules treat them fairly and equally, and if someone's rights are violated, the rules are sure to remedy those rights. Students learn functions of these rules and understand main principles that underlie legal arrangements.

Course lectures explain main legal principles and functions, major divisions within the law, the relationship of rights and duties (claim right and duty, privilege and no right, and so on), judicial precedents, and the judicial system and its ideals. Finally, the course covers constitutionalism.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業テーマの説明、授業の進め方、成績評価、参考文献の紹介等）
- 2回：法の静態1（近代市民法の諸原則）
- 3回：法の静態2（法の社会的機能）
- 4回：法の静態3（公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法）
- 5回：法の静態4（権利と義務）
- 6回：法の動態1（法の形成1：制定法）
- 7回：法の動態2（法の形成2：判例法1）
- 8回：法の動態3（法の形成3：判例法2）
- 9回：法の動態4（法の実現1：裁判制度）
- 10回：法の動態5（法の実現2：裁判手続1）
- 11回：法の動態6（法の実現3：裁判手続2）
- 12回：裁判に対する期待と現実（現代社会と裁判）
- 13回：立憲主義
- 14回：社会と法（まとめ）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

原則として、事前に配布する資料については次回までに必ず読んできてください。その他授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題レポート:20%

課題レポートは授業中に課すA4一枚程度の課題であり、翌週までに提出するもの。複数回予定している。

### テキスト / Textbooks

教科書は指定しません。講義レジュメ及び資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

星野英一 『民法のすすめ』 岩波書店 2005 4004305365

田中成明 『現代裁判を考える』 有斐閣 2014 9784641125759

団藤重光 『法学の基礎〔第2版〕』 有斐閣 2007 9784641125193

田中成明 『法学入門 〔第3版〕』 有斐閣 2023 9784641126404

安念潤司他編著 『論点 日本国憲法 〔第二版〕』 東京法令出版 2014 9784809063077

その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

**注意事項（検索結果画面）**

対象：文学部教職課程登録者のみ

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

加藤 磨珠枝 (KATO MASUE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA781

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

藤原 佐和子 (FUJIWARA SAWAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA782

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

田中 健三 (TANAKA KENZO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA783

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

ゾンターク, M (SONNTAG MIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA784

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

阿部 善彦 (ABE YOSHIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA785

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA786

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

加藤 喜之 (KATO YOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AA787

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： CHS4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

鳥居 雅志 (TORII MASASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AA788  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： CHS4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 入門演習 G1a

Introductory Seminars G1a

高林 陽展／田村 俊行 (TAKABAYASHI AKINOBU/ TAMURA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC011  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G1b

Introductory Seminars G1b

小澤 実／田村 俊行 (OZAWA MINORU/ TAMURA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC012  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。



# 入門演習 G1c

Introductory Seminars G1c

四日市 康博／朝比奈 新 (YOKKAICHI YASUHIRO/ ASAHINA ARATA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC013  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G1d

Introductory Seminars G1d

深津 行徳／朝比奈 新 (FUKATSU YUKINORI/ ASAHINA ARATA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC014  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G1e

Introductory Seminars G1e

佐藤 雄基／朝比奈 新 (SATO YUKI/ ASAHINA ARATA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC015  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G1f

Introductory Seminars G1f

後藤 雅知／田村 俊行 (GOTO MASATOSHI/ TAMURA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC016  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。



# 入門演習 G1g

Introductory Seminars G1g

橋本 栄莉/金 延景 (HASHIMOTO ERI/ KIM YEONKYUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC017  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1~2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G1h

Introductory Seminars G1h

野中 健一／金 延景 (NONAKA KENICHI/ KIM YEONKYUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC018  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G1i

Introductory Seminars G1i

市田 雅崇／金 延景 (ICHIDA MASATAKA/ KIM YEONKYUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC019  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から主体的に専門研究を進めるための基礎力養成を主眼とする。

The primary focus is to foster basic skills for actively advancing specialized research from the second year.

## 授業の内容 / Course Contents

史学科に入学した学生が世界史・日本史・超域文化学の三専修それぞれの性格や初歩的内容にまんべんなく触れられるよう置かれた科目であり、卒業のための必修科目である。前半か後半のいずれかに、1～2 クラスを組み合わせて情報リテラシーの演習を行う。授業は 25 人前後の少人数の演習形式をとり、担当教員の専門や個性を活かしておこなわれる。開講される入門演習の編成は、4 月の史学科 1 年次ガイダンスで説明する。クラス・開講曜日及び時間についても、ガイダンスで確認すること。情報リテラシー演習の際の教室等については、別途指示するので、掲示に注意すること。登録方法は、自動登録である。

As a compulsory subject required for graduation, this discipline is designed to allow students who have entered the Department of History to fully encounter the nature and rudimentary content of the three majors of world history, Japanese history, and interdisciplinary cultural studies. In either the first or the second half, the course will offer seminars in information literacy by combining one or two classes. Classes are small-member seminars

with around 25 people, taking advantage of the specialization and personality of the instructor. The organization of the introductory seminars to be offered will be explained in the first year guidance of the Department of History in April. The class, the day of the week offered, and the time will also be notified in the guidance. Information about the classroom, etc. for the information literacy seminars will be provided separately on the bulletin board for attention. Automatic registration.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 2回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 3回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 4回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 5回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 6回：第Iクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 7回：講演会とそれを踏まえた質疑応答
- 8回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（1）
- 9回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（2）
- 10回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（3）
- 11回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（4）
- 12回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（5）
- 13回：第IIクール：世界史・日本史・超域・情報リテラシーのいずれかに即した演習（6）
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2a

Introductory Seminars G2a

樋谷 智子／河野 保博 (TSUCHIYA TOMOKO/ KAWANO YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC021

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。



# 入門演習 G2b

Introductory Seminars G2b

横山 道史／松岡 昌和 (YOKOYAMA MICHIFUMI/ MATSUOKA MASAKAZU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC022  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2c

Introductory Seminars G2c

金 延景／朝比奈 新 (KIM YEONKYUNG/ ASAHINA ARATA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2d

Introductory Seminars G2d

井上 周平／槌谷 智子 (INOUE SHUHEI/ TSUCHIYA TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2e

Introductory Seminars G2e

尾崎 修治／横山 道史 (OZAKI SYUUJI/ YOKOYAMA MICHIFUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC025  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。



# 入門演習 G2f

Introductory Seminars G2f

田村 俊行／金 延景 (TAMURA TOSHIYUKI/ KIM YEONKYUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC026  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2g

Introductory Seminars G2g

河野 保博／井上 周平 (KAWANO YASUHIRO/ INOUE SHUHEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC027  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2h

Introductory Seminars G2h

松岡 昌和/尾崎 修治 (MATSUOKA MASAKAZU/ OZAKI SYUUJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC028  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。

# 入門演習 G2i

Introductory Seminars G2i

朝比奈 新/田村 俊行 (ASAHINA ARATA/ TAMURA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC029  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

入門演習 G1 を継続し、2 年次以降の専門学習に備える。また 1 月にはゼミ登録を行う。

The course will continue the Introductory Seminars G1 and prepare students for specialized learning in the second and later years. Seminar registration will be in January.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期入門演習 G1 と同じクラスに所属し、三専修における学習の初歩について理解を完結させる。三専修それぞれの性格や初歩的内容に触れた後、2 年次以降に登録される演習での本格的学習に備え、史学科のさまざまな教員と直接対話して 2 年次に進むべき演習を選択する。登録方法は、自動登録である。

Students will belong to the same class as the spring semester Introductory Seminars G1, and will complete their understanding of the rudiments of learning in the three majors. After encountering the nature and rudimentary content of the three majors, students will prepare for full-fledged learning in the exercises for which they will register from the second year onward, and, interacting directly with various faculty members in the Department of History, will proceed with selection of exercises for advancement to the second year. Automatic registration.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 2回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 3回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 4回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 5回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 6回：第Ⅲクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 7回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（1）  
 8回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（2）  
 9回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（3）  
 10回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（4）  
 11回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（5）  
 12回：第Ⅳクール：世界史・日本史・超域のいずれかに即した演習（6）  
 13回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（1）  
 14回：2年次にむけての演習の選択とプレゼミ（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および受講態度:80% 授業内提出物等:20%

#### テキスト / Textbooks

講義中に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義中に指示する。

#### 注意事項（検索結果画面）

教室変更があるので、ガイダンス資料を確認のこと。



# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

上田 信／高林 陽展／四日市 康博 (UEDA MAKOTO/ TAKABAYASHI AKINOBU/ YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC031  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

各担当教員の指導の下、卒業論文の執筆準備を行い、レポートを作成する。

Under the supervision of faculty members, students will prepare to write a graduation thesis and will create a report.

## 授業の内容 / Course Contents

4月のガイダンスの際に、授業内容の説明を行う。その後の演習の進め方について、各担当教員から指示があるので必ず出席し、各教員の指示に従うこと。

The class content will be explained in the April guidance. As the faculty members in charge provide instructions on how to proceed with the seminars, students must attend and follow the faculty members' instructions.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（1）

2回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（2）

- 3回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（3）  
 4回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（4）  
 5回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（5）  
 6回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（6）  
 7回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（7）  
 8回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（8）  
 9回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（9）  
 10回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（10）  
 11回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（11）  
 12回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（12）  
 13回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（13）  
 14回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当教員が指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 学習態度:20% プレゼンテーション:10%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員が指示する。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

浦野 聡／小澤 実／梅原 秀元 (URANO SATOSHI/ OZAWA MINORU/ UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC032

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

各担当教員の指導の下、卒業論文の執筆準備を行い、レポートを作成する。

Under the supervision of faculty members, students will prepare to write a graduation thesis and will create a report.

## 授業の内容 / Course Contents

4月のガイダンスの際に、授業内容の説明を行う。その後の演習の進め方について、各担当教員から指示があるので必ず出席し、各教員の指示に従うこと。

The class content will be explained in the April guidance. As the faculty members in charge provide instructions on how to proceed with the seminars, students must attend and follow the faculty members' instructions.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（1）

2回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（2）

3回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（3）

- 4回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（4）  
 5回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（5）  
 6回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（6）  
 7回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（7）  
 8回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（8）  
 9回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（9）  
 10回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（10）  
 11回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（11）  
 12回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（12）  
 13回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（13）  
 14回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当教員が指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 学習態度:20% プレゼンテーション:10%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員が指示する。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

小野沢 あかね／寺尾 美保 (ONOZAWA AKANE/ TERAO MIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AC033
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS3510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

各担当教員の指導の下、卒業論文の執筆準備を行い、レポートを作成する。

Under the supervision of faculty members, students will prepare to write a graduation thesis and will create a report.

## 授業の内容 / Course Contents

4月のガイダンスの際に、授業内容の説明を行う。その後の演習の進め方について、各担当教員から指示があるので必ず出席し、各教員の指示に従うこと。

The class content will be explained in the April guidance. As the faculty members in charge provide instructions on how to proceed with the seminars, students must attend and follow the faculty members' instructions.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（1）
- 2回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（2）
- 3回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（3）

- 4回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（4）  
 5回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（5）  
 6回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（6）  
 7回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（7）  
 8回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（8）  
 9回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（9）  
 10回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（10）  
 11回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（11）  
 12回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（12）  
 13回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（13）  
 14回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当教員が指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験：70%

平常点割合：30% 学習態度:20% プレゼンテーション:10%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員が指示する。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／高田 雅士 (FUKATSU YUKINORI/ SATO YUKI/ GOTO MASATOSHI/ TAKADA MASASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AC034
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS3510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

各担当教員の指導の下、卒業論文の執筆準備を行い、レポートを作成する。

Under the supervision of faculty members, students will prepare to write a graduation thesis and will create a report.

## 授業の内容 / Course Contents

4月のガイダンスの際に、授業内容の説明を行う。その後の演習の進め方について、各担当教員から指示があるので必ず出席し、各教員の指示に従うこと。

The class content will be explained in the April guidance. As the faculty members in charge provide instructions on how to proceed with the seminars, students must attend and follow the faculty members' instructions.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（1）

2回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（2）

- 3回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（3）  
 4回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（4）  
 5回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（5）  
 6回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（6）  
 7回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（7）  
 8回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（8）  
 9回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（9）  
 10回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（10）  
 11回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（11）  
 12回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（12）  
 13回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（13）  
 14回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当教員が指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 学習態度:20% プレゼンテーション:10%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員が指示する。



# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

松原 宏之／橋本 栄莉／市田 雅崇 (MATSUBARA HIROYUKI/ HASHIMOTO ERI/ ICHIDA MASATAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AC035
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS3610
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

各担当教員の指導の下、卒業論文の執筆準備を行い、レポートを作成する。

Under the supervision of faculty members, students will prepare to write a graduation thesis and will create a report.

## 授業の内容 / Course Contents

4月のガイダンスの際に、授業内容の説明を行う。その後の演習の進め方について、各担当教員から指示があるので必ず出席し、各教員の指示に従うこと。

The class content will be explained in the April guidance. As the faculty members in charge provide instructions on how to proceed with the seminars, students must attend and follow the faculty members' instructions.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（1）

2回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（2）

- 3回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（3）  
 4回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（4）  
 5回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（5）  
 6回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（6）  
 7回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（7）  
 8回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（8）  
 9回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（9）  
 10回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（10）  
 11回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（11）  
 12回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（12）  
 13回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（13）  
 14回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当教員が指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 学習態度:20% プレゼンテーション:10%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員が指示する。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

野中 健一／丸山 浩明／神田 惟 (NONAKA KENICHI/ MARUYAMA HIROAKI/ KANDA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC036

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

各担当教員の指導の下、卒業論文の執筆準備を行い、レポートを作成する。

Under the supervision of faculty members, students will prepare to write a graduation thesis and will create a report.

## 授業の内容 / Course Contents

4月のガイダンスの際に、授業内容の説明を行う。その後の演習の進め方について、各担当教員から指示があるので必ず出席し、各教員の指示に従うこと。

The class content will be explained in the April guidance. As the faculty members in charge provide instructions on how to proceed with the seminars, students must attend and follow the faculty members' instructions.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（1）

2回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（2）

3回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（3）

- 4回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（4）  
 5回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（5）  
 6回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（6）  
 7回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（7）  
 8回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（8）  
 9回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（9）  
 10回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（10）  
 11回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（11）  
 12回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（12）  
 13回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（13）  
 14回：卒論執筆準備とレポート作成にむけての報告と指導（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当教員が指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 学習態度:20% プレゼンテーション:10%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員が指示する。

# 演習 G1

Seminars G1

古代地中海史セミナー1

篠原 道法 (SHINOHARA MICHINORI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC101  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語文献の講読を通じて、研究文献の「読み方」、「書き方」を知ることです。

Learn how to write academic articles by reading English literature.

## 授業の内容 / Course Contents

学問の世界には、その世界に参加する研究者たちが守っているルールがあります。それぞれが主張することの根拠は何かについて、註や本文の中で明示する必要があり、また、問題設定から結論に至るまで、章立てや節立てを通じて、論理的に自らの説を展開しなければなりません。本授業では、セミナー参加者が共通に興味を持てるテーマに関する英語文献を取り上げ、それを講読する過程で、そうした世界共通の学術上のルールについて学んでいきます。

In the world of academia, there are rules to be observed by the researchers who are active in each field. The grounds for the assertions of each researcher must be clearly stated in annotations or in main text, and, from the initial setting of topic to the final conclusion, a researcher's own theory must be logically developed through the structuring of chapters and sections. In this Seminar, participants will take up English-language literature on

topics of shared interest, and will learn such rules through reading academic papers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の進め方の説明及び、外国語文献の選択
- 2 回：外国語文献講読 1
- 3 回：外国語文献講読 2
- 4 回：外国語文献講読 3
- 5 回：外国語文献講読 4
- 6 回：外国語文献講読 5
- 7 回：外国語文献講読 6
- 8 回：外国語文献講読 7
- 9 回：外国語文献講読 8
- 10 回：外国語文献講読 9
- 11 回：外国語文献講読 1 0
- 12 回：外国語文献講読 1 1
- 13 回：外国語文献講読 1 2
- 14 回：外国語文献講読 1 3 及び、夏季休業期間中の宿題についての説明

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 春季休業期間中：高校の授業や大学入試対策等で使用した英文解釈の参考書を、最初から最後までやり直しておいてください。
2. 春学期中：講読に際して分からない箇所があれば、逐一、上記参考書や辞書等で確認するようにしてください。また、講読した部分についての要点や不明点等をまとめたノート（媒体は紙面でも電子も OK）を作ることが望ましいです。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 出席時の学習態度:60%

大病や忌引き等の特別な場合を除き、欠席が許容されるのは2回までです。欠席3回で単位を出しません。遅刻2回で欠席1回とカウントします。発表できない場合には欠席2回とカウントします。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

Simon Hornblower / Antony Spawforth (eds.) Oxford Classical Dictionary Oxford UP 2012

Hubert Cancik et al. (eds.) Brill's New Pauly Brill 2002 9780199545568

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高等学校卒業レベルの英文読解能力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子媒体でまとめノートを作る場合には、PC やタブレット等のデバイス

## 演習 G2

Seminars G2

古代地中海史セミナー2

浦野 聡 (URANO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： 

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

セミナー参加者が、日本語文献の精読を通じて、現在、日本の古代地中海学界の中でどのようなテーマが注目されているのかを学び、自らの研究テーマを決められるようになることを、本授業の目標とします。

Through close reading of academic papers /books especially written in Japanese, the seminar participants will learn what themes are currently attracting attention in Japanese academic world of ancient Mediterranean studies, and will be able to decide their own research themes.

### 授業の内容 / Course Contents

セミナー参加には、各自の興味に従って日本語論文を選択し、それについて発表をしていただきます。著者の意図や論理を正確に理解し、史料の使い方を学ぶことを通じて、卒業論文に向けて自分自身が何をやらなければならないか知ることができます。こうした作業の狙いは、自らの興味関心に従って設定したテーマが、日本の学界の学問動向の中でどのように位置付けられ、またそれに対していかなる貢献をすることになると予想されるのか、そうしたことを知ることにあります。

The seminar participants will be asked to make selections from Japanese-language academic papers according to

the interests of the each participant and to give presentations on them. Through accurately grasping the authors' intents and logic and through learning how to use historical materials, the participants will discover what they must do for their own undergraduate theses. This work aims to learn matters such as how a theme set according to a participants' interest is positioned within the scholarly trends of Japanese academia, and what sort of contribution the participant is expected to make to it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：授業の進め方などの説明と文献選択
- 2 回：日本語文献発表 1
- 3 回：日本語文献発表 2
- 4 回：日本語文献発表 3
- 5 回：日本語文献発表 4
- 6 回：日本語文献発表 5
- 7 回：日本語文献発表 6
- 8 回：日本語文献発表 7
- 9 回：日本語文献発表 8
- 10 回：日本語文献発表 9
- 11 回：日本語文献発表 1 0
- 12 回：日本語文献発表 1 1
- 13 回：日本語文献発表 1 2
- 14 回：日本語文献発表 1 3

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

夏季休業期間中に日本語論文を 10 本（あるいは研究書 3 冊）以上選んで精読し、その中からどれを発表するか選択してください。また初回の授業用に、文献リストをご用意ください。

なお、文献を読み進めるにあたっては、読書ノート（電子媒体でも構いませんが、紙媒体のが望ましいです）を一冊作り、適時、要点や疑問点などをまとめるようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:60% プレゼンテーション:40%

欠席 3 回で単位を出しません。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とカウントします。発表できない場合には、欠席 2 回とカウントします。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 伊藤 貞夫／本村 凌二（編）『西洋古代史入門』 東京大学出版会 1997 9784130220163
- 金澤周作（監）／藤井崇ほか（編）『論点・西洋史学』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087792
- 長谷川岳男（編）『はじめて学ぶ西洋古代史』 ミネルヴァ書房 2022 9784623094332



Various Brill's New Pauly Brill 2002

Various The Oxford Encyclopedia of Ancient Greece and Rome Oxford UP 2010

S. Hornblower / A. Spawforth / E. Eidinow (eds.) Oxford Classical Dictionary 4th ed. Oxford UP 2012  
9780199545568

### その他/ Others

発表の準備に有用な HP などの情報については、初回の授業で紹介します。

## 演習 G3

Seminars G3

西洋中世・ルネサンス史基礎演習（1）

井上 周平 (INOUE SHUHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

西洋中世・ルネサンス史に関する基礎知識ならびに、英語専門文献の正確な読解力を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge of Western medieval and Renaissance history, as well as the ability to accurately comprehend English-language specialized literature.

### 授業の内容 / Course Contents

演習は2部に分かれる。第1部は堀越宏一・甚野尚志『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2013年）ならびに指定研究文献をもちいて基礎知識をつけレジュメをきる訓練を、第2部は教員が用意する西洋中世に関する英語文献を日本語に訳す訓練をする。

The seminars will be divided into two parts. In the 1st part, students will use 15 no teema de manabu chuusei yooroppa by Koichi Horikoshi and Takashi Jinno (Minerva Shobo, 2013) and specified research literature to gain fundamental knowledge and create an outline. In the 2nd part, they will go through training in translating English-language literature on the Western middle ages, prepared by the faculty member, into Japanese.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：演習（1）  
 3回：演習（2）  
 4回：演習（3）  
 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習参加者は、報告担当であるにかかわらず、毎回指定文献を予習する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習内報告(複数回):60% 随時レポート:40%

レポートは授業内で示される指定アドレスに添付ファイルで送付する。

#### テキスト / Textbooks

堀越宏一・甚野尚志 『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ』 ミネルヴァ書房 2013 9784623064595 ○

#### 参考文献 / Readings

神崎忠昭 『ヨーロッパの中世』 慶應義塾大学出版会 2015 9784766422061

河原温・堀越宏一 『図説中世ヨーロッパの暮らし』 河出書房新社 2015 9784309762272

ジェリー・ブロン 『はじめてわかるルネサンス』 ちくま学芸文庫 2013 9784480095145

## 演習 G4

Seminars G4

西洋中世・ルネサンス史基礎演習（2）

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

西洋中世・ルネサンス史に関する基礎知識ならびに、英語専門文献の正確な読解力を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge of Western medieval and Renaissance history, as well as the ability to accurately comprehend English-language specialized literature.

### 授業の内容 / Course Contents

演習は2部に分かれる。第1部は堀越宏一・甚野尚志『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2013年）ならびに指定研究文献をもちいて基礎知識をつけレジュメをきる訓練を、第2部は教員が用意する西洋中世に関する英語文献を日本語に訳す訓練をする。

The seminars will be divided into two parts. In the 1st part, students will use 15 no teema de manabu chuusei yooroppa by Koichi Horikoshi and Takashi Jinno (Minerva Shobo, 2013) and specified research literature to gain fundamental knowledge and create an outline. In the 2nd part, they will go through training in translating English-language literature on the Western middle ages, prepared by the faculty member, into Japanese.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：演習（1）  
 3回：演習（2）  
 4回：演習（3）  
 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習参加者は、報告担当であるにかかわらず、毎回指定文献を予習する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習内報告(複数回):60% 随時レポート:40%

レポートは授業内で示される指定アドレスに添付ファイルで送付する。

#### テキスト / Textbooks

堀越宏一・甚野尚志 『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ』 ミネルヴァ書房 2013 9784623064595 ○

#### 参考文献 / Readings

神崎忠昭 『ヨーロッパの中世』 慶應義塾大学出版会 2015 9784766422061

河原温・堀越宏一 『図説中世ヨーロッパの暮らし』 河出書房新社 2015 9784309762272

ジェリー・ブロン 『はじめてわかるルネサンス』 ちくま学芸文庫 2013 9784480095145

## 演習 G5

Seminars G5

西洋近代史演習（1）

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

西洋近代史を学ぶ上での諸局面（調査、文献読解、報告、討論など）を体験する。

Students will experience aspects of learning about the modern Western history (surveying, literature review, presentation, debate, etc.).

### 授業の内容 / Course Contents

西洋近代史の概説的な知識を、邦語文献の読解、ペアワーク、質疑応答、授業担当者からのコメントなどを通じて学び、研究にあたって必要となる基礎的能力を身につける。

Students will gain a general picture of the modern Western history through literature survey, peer-works and subsequent Q&A, comments from class instructors, etc., and will acquire fundamental skills necessary for research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：文献読解 1（近世）

- 3回：文献読解2（近世）  
 4回：文献読解3（近世）  
 5回：文献読解4（近代）  
 6回：文献読解5（近代）  
 7回：文献読解6（近代）  
 8回：文献読解7（近代）  
 9回：文献読解8（現代）  
 10回：文献読解9（現代）  
 11回：文献読解10（現代）  
 12回：文献読解11（現代）  
 13回：個別チュータリング  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS LMS を通じて履修者に対して準備学習の指示を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度:50% 提出物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

## 演習 G6

Seminars G6

西洋近代史演習（2）

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

西洋近代史の個別研究を進めていく諸過程（英語文献の利用・読解など）を体験する。

Students will experience the processes for advancing individual research in modern Western (surveying related literature written in English).

### 授業の内容 / Course Contents

英語文献のサーヴェイの手法をとりあげる。特に文献の検索、入手、読解について学び、基礎的な調査能力を滋養する。

In each session, this course will focus on the learning of literature survey about modern Western history, particularly how to find, access, and read academic papers written in English. Through these programs, students will develop the basic skills of historical research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：英語文献の調査法 1



- 3回：英語文献の調査法 2
- 4回：英語文献の調査法 3
- 5回：英語文献の調査法 4
- 6回：英語文献の読解方法 1
- 7回：英語文献の読解方法 2
- 8回：英語文献の読解方法 3
- 9回：英語文献の読解方法 4
- 10回：英語文献の読解方法 5
- 11回：英語文献の読解方法 6
- 12回：プレゼンテーション 1
- 13回：プレゼンテーション 2
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を通じて履修者に対して準備学習の指示を行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度:50% 提出物の内容:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

# 演習 G7

## Seminars G7

歴史的な思考力を身につける

今野 純子 (KONNO JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- 1) 各受講生が、興味あるテーマを見つける。
- 2) 歴史的思考方法を身につける。
- 1) Students find topics in which they are interested.
- 2) Learn how to think about history.

### 授業の内容 / Course Contents

各受講生が興味を持つテーマについて発表し、それをもとに参加者全員で議論します。

Students make a presentation on your topics of interest, and we discuss your issue in the class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：研究報告・討議（グループ）
- 3 回：研究報告・討議（グループ）
- 4 回：研究報告・討議（グループ）

- 5回：研究報告・討議（グループ）
- 6回：研究報告・討議（グループ）
- 7回：研究報告・討議（グループ）
- 8回：研究報告・討議（グループ）
- 9回：研究報告・討議（グループ）
- 10回：研究報告・討議（グループ）
- 11回：研究報告・討議（グループ）
- 12回：研究報告・討議（グループ）
- 13回：研究報告・討議（グループ）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

興味のあるテーマだけでなく、周辺分野に関する書籍を読み、視野を広げること。  
また、国内外の博物館や史跡巡りをし、見聞を広げてほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加と討議:40% レポート内容・報告:40% 課題を見つける:20%

### テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

### 参考文献 / Readings

上田信 『歴史を歴史家から取り戻せ！』 清水書院 2018 9784389500849

胎中千鶴 『あなたとともに知る台湾：近現代の歴史と社会』 清水書院 2019 9784389500924

## 演習 G8

Seminars G8

歴史的な思考力を身につける

今野 純子 (KONNO JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

興味のあるテーマを深める。

Students will focus on your topics of Interest.

### 授業の内容 / Course Contents

テーマに関する研究文献の読解や研究リストを作成するなど、歴史研究の基本的なスキルを学ぶ。

Students will learn basic skills of historical study such as literature review and creation of lists of research your topics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：研究報告・討議

3 回：研究報告・討議

4 回：研究報告・討議

5 回：研究報告・討議

- 6回：研究報告・討議
- 7回：研究報告・討議
- 8回：研究報告・討議
- 9回：研究報告・討議
- 10回：研究報告・討議
- 11回：研究報告・討議
- 12回：研究報告・討議
- 13回：研究報告・討議
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

興味のあるテーマだけでなく、周辺分野に関する書籍を読み、視野を広げること。  
また、国内外の博物館や史跡巡りをし、見聞を広げてほしい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加と討議:40% レポート内容・報告:40% 研究文献リスト作成:20%

#### テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

#### 参考文献 / Readings

上田信 『歴史を歴史家から取り戻せ！』 清水書院 2018 9784389500849

胎中千鶴 『あなたとともに知る台湾：近現代の歴史と社会』 清水書院 2019 9784389500924

## 演習 G9

Seminars G9

海域アジア・ユーラシア交流史基礎演習（1）

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

東西ユーラシア・海域アジア交流史に関する資史料の読解を通じて歴史認識・情報収集・文章作成などの基礎的な能力を身につけることを目標とします。

In this course, we aim at getting basic skills of historical study including getting information, understanding and writing through reading sources and articles on Eurasian and Maritime Asian history.

### 授業の内容 / Course Contents

受講者それぞれの関心により近い史資料と研究を選んで発表してもらい、受講者全員で意見交換をおこないます。

In this course, you choose some historical materials and studies concerning your theme and present about it, then we discuss what you presented.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導論

2 回：演習 (01)

- 3回：演習 (02)
- 4回：演習 (03)
- 5回：演習 (04)
- 6回：演習 (05)
- 7回：演習 (06)
- 8回：演習 (07)
- 9回：演習 (08)
- 10回：演習 (09)
- 11回：演習 (10)
- 12回：演習 (11)
- 13回：演習 (12)
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当者には資史料読解とレジュメ作成をおこなってまいります。担当者以外の受講生も資史料該当箇所の読解をおこなってきてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表(複数回):50% ディスカッション:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

各受講生のテーマに関わる参考文献はゼミ内で指示します。

# 演習 G10

Seminars G10

海域アジア・ユーラシア交流史基礎演習（2）

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC110  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

東西ユーラシア・海域アジア交流史に関する史料の読解を通じて歴史認識・情報収集・文章作成などの基礎的な能力を身につけることを目標とします。

In this course, we aim at getting basic skills of historical study, including getting information, understanding, and writing through reading sources and articles on Eurasian and Maritime Asian history.

## 授業の内容 / Course Contents

受講者それぞれの関心により近い史料と研究を選んで発表してもらい、受講者全員で意見交換をおこないます。

In this course, you choose some historical materials and studies concerning your theme and present about it, then we discuss what you presented.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導論

2 回：演習 (01)



- 3回：演習 (02)
- 4回：演習 (03)
- 5回：演習 (04)
- 6回：演習 (05)
- 7回：演習 (06)
- 8回：演習 (07)
- 9回：演習 (08)
- 10回：演習 (09)
- 11回：演習 (10)
- 12回：演習 (11)
- 13回：演習 (12)
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワーポイント等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当者には史料読解とレジюме作成をおこなってまいります。担当者以外の受講生も史料該当箇所の読解をおこなってきてください。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% ディスカッション:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

各受講生のテーマに関わる参考文献はゼミ内で指示します。

# 演習 G11

Seminars G11

梅原 秀元 (UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC111  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) ヨーロッパ近現代史に関する日本語文献の内容を理解することができる。
- 2) 必要な関連事項を調べる方法を身につける。
- 3) 歴史学とはどのような学問かについて議論する。
- 4) 各受講生が、自分が興味を持つテーマについて調査し、それを発表する。

The course has following aims:

1. Understanding the contents of research (in Japanese) on modern European history
2. Learning the way to research topics which relate to the course
3. D i scussing what science history is
4. Each participants explore topics in which they are interested and present their research in the course.

## 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパ近現代史についての日本語の文献を輪読します。その際に、1) 正確に読んで内容を理解する  
2) 疑問点や関係する事項を調べる 3) 内容、疑問点、関連事項を配布資料にまとめ、口頭で報告し、それを基に参加者全員で議論します。

We discuss some topics in European modern history. Before the course, the participants should read literature and understand its content. In addition, the participants should research the topics themselves. The students summarize the content of the litterateurs and the results of their research. On the presentation we discuss the topics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：参加者の確認；授業の概要説明；授業で扱う文献の紹介；報告担当の割当の決定
- 2 回：文献講読（1）
- 3 回：文献講読（2）
- 4 回：文献講読（3）
- 5 回：文献講読（4）
- 6 回：文献講読（5）
- 7 回：文献講読（6）
- 8 回：グループ報告と質疑応答（1）
- 9 回：グループ報告と質疑応答（2）

担当者が提示するテーマについて、担当教員が指定した文献をつかってグループで調べ、それについて報告する。司会団も他のグループが担当し、ゼミの議論を体験する。

- 10 回：個別報告（1）
- 11 回：個別報告（2）
- 12 回：個別報告（3）
- 13 回：個別報告（4）
- 14 回：まとめ 夏休みに向けて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

皆で読むものについては、必ず事前に読んでくること。個別報告などでは、各自が自主的に図書館などで文献を探し読み込むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時に担当する報告の内容:40% 授業への出席や授業への参加・態度:40% 提出物の内容:20%

### テキスト / Textbooks

適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

適宜指示する。

# 演習 G12

Seminars G12

梅原 秀元 (UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC112  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) ヨーロッパ近現代史に関する日本語文献の内容を理解することができる。
  - 2) 必要な関連事項を調べる方法を身につける。
  - 3) 歴史学とはどのような学問かについて議論する。
  - 4) 各受講生が、自分が興味を持つテーマについて調査し、それを発表する。
1. Understanding the contents of research (in Japanese) on modern European history
  2. Learning the way to research topics which relate to the course
  3. D i scussing what science history is
  4. Each participants explore topics in which they are interested and present their research in the course.

## 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパ近現代史についての日本語の文献を輪読します。その際に、1) 正確に読んで内容を理解する  
2) 疑問点や関係する事項を調べる 3) 内容、疑問点、関連事項を配布資料にまとめ、口頭で報告し、それを基に参加者全員で議論します。

We discuss some topics in modern European history. Before the course, the participants should read literature

and understand its content. In addition, the participants should research the topics themselves. The students summarize the content of the literatures and the results of their research. On the presentation we discuss the topics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンティールング

2回：文献講読（1）

3回：文献講読（2）

4回：文献講読（3）

5回：文献講読（4）

6回：文献講読（5）

7回：文献講読（6）

西洋近現代史の日本語の研究文献を輪読する。どの研究文献を取り上げるかは、初回までに担当者の方で示す。参加者は、事前に各回で取り上げる部分を読み、わからないところ、納得がいかないところを書きだし、毎回提出すること。各回のゼミでは、各自のわからないところ、納得がいかないところをいいあって、議論をしていきたい。

8回：グループ報告と質疑応答（1）

9回：グループ報告と質疑応答（2）

担当者が提示するテーマについて、担当教員が指定した文献をつかってグループで調べ、それについて報告する。司会団も他のグループが担当し、学問的な議論を体験する。

10回：個別報告（1）

11回：個別報告（2）

12回：個別報告（3）

13回：個別報告（4）

個別報告では、春学期と夏休みに取り組んだテーマについて、参加者各自で秋学期中に調査したものを報告してもらう。

14回：まとめ 春休みに向けて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

皆で読むものについては、必ず事前に読んでくること。個別報告などでは、各自が自主的に図書館などで文献を探し読み込むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時に担当する報告の内容:40% 授業への出席や授業への参加・態度:40% 提出物の内容:20%

### テキスト / Textbooks

演習初回までに指示する（可能ならば、担当者の側で発注する）

**参考文献 / Readings**

---

担当者の側で適宜指示する。

# 演習 G13

Seminars G13

古代地中海史セミナー 3

篠原 道法 (SHINOHARA MICHINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

セミナー参加者が各自の研究テーマを深めて、それについて独自の見解を示すことができるようになることを、本授業の目標とします。

The seminar participants will try to deepen their research themes and build up their own unique points of view on them.

## 授業の内容 / Course Contents

受講生は、各自の研究テーマに沿って自身が選択した英語文献を読み進めて、その成果を報告します。それに引き続いて、参加者の間で報告された内容についてディスカッションを行います。

Participants will advance in reading English literature matched to their research themes, report their findings and problematics, and then continue their discussions with others in this seminar.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の進め方についての説明及び、成果報告 1

2 回：成果報告 2

- 3回：成果報告3  
 4回：成果報告4  
 5回：成果報告5  
 6回：成果報告6  
 7回：成果報告7  
 8回：成果報告8  
 9回：成果報告9  
 10回：成果報告10  
 11回：成果報告11  
 12回：成果報告12  
 13回：成果報告13  
 14回：成果報告14及び、夏季休業期間中の宿題についての説明

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 春季休業期間中：各自、研究したいテーマを設定したうえで、それに関する最新（できる限り2010年代以降、少なくとも21世紀以降）の英語研究文献を調査・入手して、読み進めておいてください。初回授業から成果報告の発表が始まりますので、遅くとも3月中旬までには文献を入手してください（文献入手までのスケジュールの詳細については、前年度所属ゼミのClassroomをご参照ください）。
2. 春学期期間中：文献を読み進めるに際して、要点や不明点等をまとめたノート（媒体は紙面でも電子もOK）を作るようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席時の学習態度：60% プレゼンテーション：40%

大病や忌引き等の特別な場合を除き、欠席が許容されるのは2回までです。欠席3回で単位を出しません。遅刻2回で欠席1回とカウントします。発表できない場合には欠席2回とカウントします。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 伊藤 貞夫／本村 凌二（編）『西洋古代史研究入門』 東京大学出版会 1997 9784130220163  
 金澤周作（監）／藤井崇ほか（編）『論点・西洋史学』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087792  
 Simon Hornblower / Antony Spawforth (eds.) Oxford Classical Dictionary Oxford UP 2012  
 9780199545568  
 Hubert Cancik et al. (eds.) Brill's New Pauly Brill 2002

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1年時の英語必修科目修了レベルの英文読解能力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子媒体のノートを作っている場合には、PCやタブレット等のデバイス



# 演習 G14

Seminars G14

古代地中海史セミナー4

浦野 聡 (URANO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC114

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： 

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

セミナー参加者が各自の研究テーマを深めて、それについて独自の見解を示すことができるようになることを、本授業の目標とします。

The seminar participants will try to deepen their research themes and build up their own unique points of view on them.

## 授業の内容 / Course Contents

セミナー参加者には、各自読み進めた文献をもとに、自身の研究テーマについて以下の点を踏まえた発表ができるようにしてもらいます。

- (1) 研究史上の課題を明確にする。
- (2) 実際に史料（一次資料）を読んだうえで、分析を行う。
- (3) オリジナルな歴史像を提示する。

The seminar participants will be able to give presentation on their own research theme, based on following points through the methods they have learnt through their reading academic papers and books.

- 1) To make academic problems on their own research theme clear.
- 2) To read through historical materials (primary sources) on the research theme and analyze them actually.
- 3) To show their own historical views on the research theme.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業の進め方などの説明
- 2回：研究発表1
- 3回：研究発表2
- 4回：研究発表3
- 5回：研究発表4
- 6回：研究発表5
- 7回：研究発表6
- 8回：研究発表7
- 9回：研究発表8
- 10回：研究発表9
- 11回：研究発表10
- 12回：研究発表11
- 13回：研究発表12
- 14回：研究発表13

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

夏季休業期間中に、自身が設定した研究テーマに関する文献を読み進めてください。

なお、文献を読み進めるにあたっては、読書ノート（電子媒体でも構いませんが、紙媒体のが望ましいです）を一冊作り、適時、要点や疑問点などをまとめるようにしてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席時の学習態度:60% プレゼンテーション:40%

欠席3回で単位を出しません。遅刻・早退2回で欠席1回とカウントします。発表できない場合欠席2回とカウントします。

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

伊藤 貞夫／本村 凌二（編）『西洋古代史研究入門』 東京大学出版会 1997 9784130220163

金澤周作（監）／藤井崇ほか（編）『論点・西洋史学』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087792

Various Brill's New Pauly Brill 2002

Various The Encyclopedia of Ancient Greece and Rome Oxford UP 2010

S. Hornblower / A. Spawforth / E. Eidinow (eds.) Oxford Classical Dictionary 4th ed. Oxford UP 2012  
9780199545568

セミナー参加者の発表内容を踏まえて、参考になりそうな文献を適時紹介します。

#### **その他/ Others**

発表に際して有用な HP などの情報は、初回の授業で紹介します。

# 演習 G15

Seminars G15

西洋中世・ルネサンス史応用演習（1）

井上 周平 (INOUE SHUHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文・卒業論文予備演習で不可欠となる、西洋中世・ルネサンス史に関する邦語専門論文・英語専門文献の正確な読解力ならびに参加者自身の論文執筆に必要な調査能力を身につける。

Students will acquire ability to accurately comprehend specialized literature in Japanese and English on Western medieval and Renaissance history, which is essential for writing graduation theses and seminars in thesis writing, and will acquire surveying ability required for participants in writing their own theses.

## 授業の内容 / Course Contents

テーマに沿った指定邦語論文ならびに指定英語文献を、毎回レジュメをきり、輪読・議論する。適宜、参加者自身の研究報告も行われる。

In each session, students will create outlines of assigned literature in Japanese and English aligned with to the class themes, and will engage in group reading and discussions. Participants will also report on their own research as appropriate.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：演習（1）  
 3回：演習（2）  
 4回：演習（3）  
 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習参加者は、報告担当であるにかかわらず、毎回指定文献を予習する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内報告(複数回):60% 随時レポート:40%

レポートは授業内で示される指定アドレスに添付ファイルで送付する。

#### テキスト / Textbooks

購読テキストは最初の授業で指示する。

#### 参考文献 / Readings

# 演習 G16

Seminars G16

西洋中世・ルネサンス史応用演習（2）

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文・卒業論文予備演習で不可欠となる、西洋中世・ルネサンス史に関する邦語専門論文・英語専門文献の正確な読解力ならびに参加者自身の論文執筆に必要な調査能力を身につける。

Students will acquire ability to accurately comprehend specialized literature in Japanese and English on Western medieval and Renaissance history, which is essential for writing graduation theses and seminars in thesis writing, and will acquire surveying ability required for participants in writing their own theses.

## 授業の内容 / Course Contents

テーマに沿った指定邦語論文ならびに指定英語文献を、毎回レジュメをきり、輪読・議論する。適宜、参加者自身の研究報告も行われる。

In each session, students will create outlines of assigned literature in Japanese and English aligned with to the class themes, and will engage in group reading and discussions. Participants will also report on their own research as appropriate.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：演習（1）
- 3回：演習（2）
- 4回：演習（3）
- 5回：演習（4）
- 6回：演習（5）
- 7回：演習（6）
- 8回：演習（7）
- 9回：演習（8）
- 10回：演習（9）
- 11回：演習（10）
- 12回：演習（11）
- 13回：演習（12）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習参加者は、報告担当であるにかかわらず、毎回指定文献を予習する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内報告(複数回):60% 随時レポート:40%

レポートは授業内で示される指定アドレスに添付ファイルで送付する。

#### テキスト / Textbooks

購読テキストは最初の授業で指示する。

#### 参考文献 / Readings

# 演習 G17

Seminars G17

西洋近代史演習（3）

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC117

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

主にイギリス史を材料として、一次史料の探索・入手・読解など、個別研究に求められる能力の育成をめざす。

Focusing mainly on British history, this course aims to develop students' research skills, particularly of primary sources.

## 授業の内容 / Course Contents

イギリス史にかかわる一次史料を素材に、文献読解、個別報告、ペアワーク、それをめぐる質疑応答を行う。それを通じて、参加者が各自の問題意識を明確化し、研究を進展させることを狙いとする。

This course will provide participants opportunities for finding their research questions and developing their research skills, particularly how to find, access, and read primary sources in modern British history.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：史料調査法 1



- 3回：史料調査法 2
- 4回：史料調査法 3
- 5回：史料調査法 4
- 6回：史料調査法 5
- 7回：史料読解法 1
- 8回：史料読解法 2
- 9回：史料読解法 3
- 10回：史料読解法 4
- 11回：史料読解法 5
- 12回：個別報告 1
- 13回：個別報告 2
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を通じて履修者に対して準備学習の指示を行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個別報告の内容:20% 出席・参加態度・コメント内容:30% 提出物の内容:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

# 演習 G18

Seminars G18

西洋近代史演習（4）

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

イギリス史をはじめとして、ヨーロッパ近代史の諸問題を検討し、個別研究を進めていく諸過程（問題発見、調査、論文構成、討論など）で必要となる実践的能力の育成をめざす。

This course aims to examine issues in modern British and other European history, and to develop students' abilities for individual research (finding research questions, literature review, academic paper writing and debate).

## 授業の内容 / Course Contents

毎回、参加者の関心によってイギリス史をはじめとするヨーロッパ近代史の個別的な研究テーマを演習形式でとりあげる。参加者による個別報告、それをめぐる質疑応答を通じて、その問題の理解を深める。

In each session, this course will focus on individual research themes on modern British and other European history, in line with the interest of students. Through individual presentation, students will develop their understanding of modern British and other European history.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：各回の報告者を決定し、とりあげるテーマの概略を確認する。
- 2回：個別報告（第1ラウンド第1回）
- 3回：個別報告（第1ラウンド第2回）
- 4回：個別報告（第1ラウンド第3回）
- 5回：個別報告（第1ラウンド第4回）
- 6回：個別報告（第2ラウンド第1回）
- 7回：個別報告（第2ラウンド第2回）
- 8回：個別報告（第2ラウンド第3回）
- 9回：個別報告（第2ラウンド第4回）
- 10回：個別報告（第3ラウンド第1回）
- 11回：個別報告（第3ラウンド第2回）
- 12回：個別報告（第3ラウンド第3回）
- 13回：個別報告（第3ラウンド第4回）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を通じて履修者に対して準備学習の指示を行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個別報告の内容:40% 出席・参加態度・コメント内容:30% 提出物の内容:30%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

# 演習 G19

Seminars G19

歴史研究の方法と実践

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC119  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

歴史を研究するために必要な知識やスキルの習得・向上をはかり、論文制作に生かす。

Students will acquire and improve the knowledge and skills necessary to research history, and will use these in thesis writing.

## 授業の内容 / Course Contents

個々の研究テーマを深めるために、参加者は各自の論文制作に向けた報告を担当する。報告担当以外の参加者は、報告の内容に対する質疑応答を行う。また、各報告をふまえた上で必要なスキルの向上をはかる。

Participants will take charge of reports directed at their own thesis writing to deepen the themes of their individual research. Participants who are not tasked with reports will conduct Q&A concerning the content of the reports. In addition, students will strive to improve necessary skills based on the reports.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：各自のテーマに関する研究史

- 3回：各自のテーマに関する研究史  
 4回：各自のテーマに関する研究史  
 5回：各自のテーマに関する研究史  
 6回：史料にはどのように向かい合うのか  
 7回：各自のテーマに関する史料を読み合わせる  
 8回：各自のテーマに関する史料を読み合わせる  
 9回：各自のテーマに関する史料を読み合わせる  
 10回：各自のテーマに関する史料を読み合わせる  
 11回：各自のテーマに関する史料を読み合わせる  
 12回：論文をどのようにまとめるか  
 13回：論文の講評  
 14回：論文の講評

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者は、報告や論文制作に必要であると考えられる研究文献や史料を集め、報告に臨むこと。また、報告担当以外の参加者は、報告担当者が事前に用意した文献が配布された場合には目を通しておき、報告の内容に対し質疑応答が行えるように準備しておくこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究史レポート:25% 研究史に関する口頭発表:25% 史料に関する口頭発表:25% 討議への参画:25%

### テキスト / Textbooks

上田信 『歴史を歴史家から取り戻せ』 清水書院 2018 9784389500849 ○

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

演習中に Canvas LMS のディスカッションで意見を出してもらうことがありますので、PC またはタブレットを持参してください。

# 演習 G20

Seminars G20

歴史研究の方法と実践

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

史的な思考法を養い、歴史を研究するために必要な知識やスキルの習得・向上をはかる。

Students will cultivate methods of thinking used in history studies and will acquire and improve knowledge and skills needed to research history.

## 授業の内容 / Course Contents

研究文献の精読、史料の読解と解釈、フィールドワークなど、史的な思考法を運用する能力を高める。

演習 G19 を継承して、個々の研究テーマを深めるために、参加者は各自の論文制作に向けた報告を担当する。報告担当以外の参加者は、報告の内容に対する質疑応答を行う。また、各報告をふまえた上で必要なスキルの向上をはかる。

Students will enhance their ability to analyze history by using appropriate methods, including intensive reading of research literature, comprehension and interpretation of historical materials, and fieldwork.

Continuing from Seminars G19, participants will take charge of reports directed at their own thesis writing to deepen the themes of their individual research. Participants who are not tasked with reports will conduct Q&A

concerning the content of the reports. In addition, students will strive to improve necessary skills based on the reports.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：史的な思考法
- 3回：編別構成の報告
- 4回：編別構成の報告
- 5回：編別構成の報告
- 6回：編別構成の報告
- 7回：編別構成の報告
- 8回：論文をどのようにまとめるか
- 9回：史的な思考法を活かす
- 10回：史的な思考法を活かす
- 11回：史的な思考法を活かす
- 12回：史的な思考法を活かす
- 13回：論文の講評
- 14回：論文の講評

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者は、報告や論文制作に必要であると考えられる研究文献や史料を集め、報告に臨むこと。また、報告担当以外の参加者は、報告担当者が事前に用意した文献が配布された場合には目を通しておき、報告の内容に対し質疑応答が行えるように準備しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席を含む授業への参画度:50% 報告の内容(複数回):50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

なし

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

演習中に Canvas LMS のディスカッションで意見を出してもらうことがありますので、PC またはタブレットを持参してください

### その他 / Others

演習 G19 と連続しています。

# 演習 G21

Seminars G21

海域アジア・ユーラシア交流史応用演習（1）

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業予備論文の執筆を前提として、東西ユーラシア・海域アジア交流史に関する資史料の読解を通じて歴史認識・情報収集・文章作成などの応用的な能力を身につけることを目標とします。

In this course, for writing up a graduation thesis, we aim at getting necessary skills of historical study, including obtaining information, understanding, and writing through reading sources and articles on Eurasian and Maritime Asian history.

## 授業の内容 / Course Contents

初回に各受講生のテーマについて経過報告の場を持ちます。以後の演習ではテーマに関わる資史料読解と先行研究の整理をおこなった上で順番にレジュメ形式で発表してもらいます。秋学期の終わりに、(1)先行研究のまとめと(2)研究テーマの問題点に関わる小論をレポートとして提出してもらいます。

In the first time, you introduce a theme of your thesis and two topics concerning it. After the second time, you make a presentation about your issues, and then we discuss what you presented. At the end of the second half, we require to submit a report on the researches concerning your theme and a rough draft of your thesis.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：導論
- 2回：演習 (01)
- 3回：演習 (02)
- 4回：演習 (03)
- 5回：演習 (04)
- 6回：演習 (05)
- 7回：演習 (06)
- 8回：演習 (07)
- 9回：演習 (08)
- 10回：演習 (09)
- 11回：演習 (10)
- 12回：演習 (11)
- 13回：演習 (12)
- 14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド (パワー等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

発表担当者は資史料読解とレジюме作成をおこなうこと。担当以外の受講生も自身の研究テーマに関わる資史料読解・先行研究の整理をおこなってきてください。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表(複数回):50% ディスカッション:50%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

各自のテーマに応じてゼミ内で指示します。

## 演習 G22

Seminars G22

海域アジア・ユーラシア交流史応用演習（2）

四日市 康博（YOKKAICHI YASUHIRO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

卒業予備論文の執筆を前提として、東西ユーラシア・海域アジア交流史に関する史料の読解を通じて歴史認識・情報収集・文章作成などの応用的な能力を身につけることを目標とします。

In this course, for writing up a graduation thesis, we aim at getting necessary skills of historical study, including obtaining information, understanding, and writing through reading sources and articles on Eurasian and Maritime Asian history.

### 授業の内容 / Course Contents

初回に各受講生のテーマについて経過報告の場を持ちます。以後の演習ではテーマに関わる史料読解と先行研究の整理をおこなった上で順番にレジュメ形式で発表してもらいます。秋学期の終わりに、(1)先行研究のまとめと(2)研究テーマの問題点に関わる小論をレポートとして提出してもらいます。

In the first time, you introduce a theme of your thesis and two topics concerning it. After the second time, you make a presentation about your issues, and then we discuss what you presented. At the end of the second half, we require to submit a report on the researches concerning your theme and a rough draft of your thesis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：導論
- 2回：演習 (01)
- 3回：演習 (02)
- 4回：演習 (03)
- 5回：演習 (04)
- 6回：演習 (05)
- 7回：演習 (06)
- 8回：演習 (07)
- 9回：演習 (08)
- 10回：演習 (09)
- 11回：演習 (10)
- 12回：演習 (11)
- 13回：演習 (12)
- 14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド (パワー等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

発表担当者は史料読解とレジュメ作成をおこなうこと。担当以外の受講生も自身の研究テーマに関わる史料読解・先行研究の整理をおこなってきてください。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% ディスカッション:50%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

各自のテーマに応じてゼミ内で指示します。

# 演習 G23

Seminars G23

梅原 秀元 (UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC123  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) ヨーロッパ近現代史に関する日本語文献の内容を理解することができる。
- 2) 必要な関連事項を調べる方法を身につける。
- 3) 歴史学とはどのような学問かについて議論する。
- 4) 各受講生が、自分が興味を持つテーマについて調査し、それを発表する。

The course has following aims:

1. Understanding the contents of research (in Japanese) on modern European history
2. Learning the way to research topics which relate to the course
3. D i scussing what science history is
4. Each participants explore topics in which they are interested and present their research in the course.

## 授業の内容 / Course Contents

演習では、ヨーロッパ近現代史からいくつかのテーマについての文献を読み、議論する。

並行して、受講生は、予備論文の準備をする。

In Seimar, the participants read Japanese research on topics in modern European history and discuss them.

Alongside the participants prepare for their own research "予備論文".

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究文献を読む（1）
- 3回：研究文献を読む（2）
- 4回：研究文献を読む（3）
- 5回：研究文献を読む（4）
- 6回：研究文献を読む（5）
- 7回：研究文献を読む（6）
- 8回：個人研究報告（1）
- 9回：個人研究報告（2）
- 10回：研究文献を読む（7）
- 11回：研究文献を読む（8）
- 12回：個人研究報告（3）
- 13回：個人研究報告（4）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

皆で読むものについては、必ず事前に読んでくること。個別報告などでは、各自が自主的に図書館などで文献を探し読み込むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時に担当する報告の内容:40% 授業への出席や授業への参加・態度:40% 提出物の内容:20%

### テキスト / Textbooks

ゼミでとり上げる文献については、受講生と話し合いのうえ決定する。

### 参考文献 / Readings

ゼミナール中に適宜指示する。

# 演習 G24

Seminars G24

梅原 秀元 (UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC124  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) ヨーロッパ近現代史に関する日本語文献の内容を理解することができる。
- 2) 必要な関連事項を調べる方法を身につける。
- 3) 歴史学とはどのような学問かについて議論する。
- 4) 各受講生が、自分が興味を持つテーマについて調査し、それを発表する。

The course has following aims:

1. Understanding the contents of research (in Japanese) on modern European history.
2. Learning the way to research topics which relate to the course
3. D i scussing what science history is
4. Each participants explore topics in which they are interested and present their research in the course.

## 授業の内容 / Course Contents

演習では、ヨーロッパ近現代史からいくつかのテーマについての文献を読み、議論する。  
並行して、受講生は、予備論文の準備をする。

In Seimar, the participants read Japanese research on topics in modern European history and discuss them.

Alongside the participants prepare for their own research "予備論文".

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究文献を読む（1）
- 3回：研究文献を読む（2）
- 4回：研究文献を読む（3）
- 5回：研究文献を読む（4）
- 6回：研究文献を読む（5）
- 7回：研究文献を読む（6）
- 8回：個人研究報告（1）
- 9回：個人研究報告（2）
- 10回：研究文献を読む（7）
- 11回：研究文献を読む（8）
- 12回：個人研究報告（3）
- 13回：個人研究報告（4）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

皆で読むものについては、必ず事前に読んでくること。個別報告などでは、各自が自主的に図書館などで文献を探し読み込むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時に担当する報告の内容:40% 授業への出席や授業への参加・態度:40% 提出物の内容:20%

### テキスト / Textbooks

ゼミでとり上げる文献については、受講生と話し合いのうえ決定する。

### 参考文献 / Readings

ゼミナール中に適宜指示する。

# 演習 H1

Seminars H1

続日本紀輪読

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC125

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

続日本紀を輪読しながら、史料の読み方、日本古代史についての理解を深める。

Deepen your understanding of ancient Japanese history while reading historical materials.

## 授業の内容 / Course Contents

続日本紀輪読。参加者に研究発表をしていただくことがありますので、授業内容は変更になることがあります。

Read historical materials in a circle. Participants may be asked to present their research, so the content of the lessons is subject to change.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：課題図書グループ発表会（1）

2 回：課題図書グループ発表会（2）

3 回：課題図書グループ発表会（3）

4 回：巻1 文武元～文武4年（1）



- 5回：巻1 文武元～文武4年（2）  
 6回：巻1 文武元～文武4年（3）  
 7回：巻1 文武元～文武4年（4）  
 8回：巻2 大宝元～大宝2年（1）  
 9回：巻2 大宝元～大宝2年（2）  
 10回：巻2 大宝元～大宝2年（3）  
 11回：巻3 大宝3～慶雲4年（1）  
 12回：巻3 大宝3～慶雲4年（2）  
 13回：巻3 大宝3～慶雲4年（3）  
 14回：巻3 大宝3～慶雲4年（4）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメ作成はグループ内で分担し、まとめたうえで、電子データで配布すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表(複数回)内容:50% コメント:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

岩波書店 『続日本紀1』 岩波書店 1989 4002400123

岩波書店 『律令』 岩波書店 1976 9784000700030

## 演習 H2

Seminars H2

続日本紀輪読

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC126

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

続日本紀を輪読しながら、史料の読み方、日本古代史についての理解を深める。

While engaging in group reading of the Shoku Nihongi, students will deepen their understanding of ancient Japanese history and methods for reading historical materials.

### 授業の内容 / Course Contents

続日本紀輪読。参加者に研究発表をしていただくことがありますので、授業内容は変更になることがあります。

Group reading of Shoku Nihongi. As the class may ask participants to make presentations on their research, the content of the class is subject to change.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：成果発表会（1）

2 回：成果発表会（2）

3 回：成果発表会（3）

- 4回：巻10 神亀4～天平2年（1）  
 5回：巻10 神亀4～天平2年（2）  
 6回：巻10 神亀4～天平2年（3）  
 7回：巻10 神亀4～天平2年（4）  
 8回：巻11 天平3～天平6年（1）  
 9回：巻11 天平3～天平6年（2）  
 10回：巻11 天平3～天平6年（3）  
 11回：巻12 天平6～天平9年（1）  
 12回：巻12 天平6～天平9年（2）  
 13回：巻12 天平6～天平9年（3）  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメ作成はグループ内で分担し、まとめたうえで、電子データで配布すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表(複数回)内容:50% コメント:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 岩波書店 『続日本紀1』 岩波書店 1989 4002400123  
 岩波書店 『律令』 岩波書店 1976 9784000700030

## 演習 H3

Seminars H3

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本中世史について基礎的な知識を身につけるとともに、論文や史料などを正確に読み、理解する能力を磨く。2年生の段階では、まず漢文の史料に慣れるとともに、基本的な辞書・事典の使い方、新書・通史レビューの文献をきちんと読む力を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge about medieval Japanese history, and refine their ability to accurately read and understand academic papers and historical materials. In the second year, students will first become accustomed to classical Chinese historical materials, learn how to use basic dictionaries and encyclopedias, and acquire the ability to properly read literature such as new publications and complete histories.

### 授業の内容 / Course Contents

- ①『鎌倉年代記裏書』を輪読して、中世社会特有の用語を知り、史料読解の基礎的な能力を養う。
  - ②毎回配布する課題文献を読み、中世史の方法について議論する。
  - ③予備論文・卒業論文作成に向けてレポートを作成する。
- ①の進め方は、毎回報告者を決め、事前に割り振った担当範囲に関する「書き下し」、「現代語訳」、「語釈」を

報告してもらおう。報告者は『大日本史料』などを利用して、関連史料も参考資料として用意して、解説を行うこと。報告者以外も毎回の範囲に関しては各自「書き下し」をおこなって予習してくる。

②の進め方は、全員毎回予習して、事前に小レポートを提出する。当日はそれに基づき、参加者で質疑・検討を行う。

③については、長期休み中の課題として各自レポート作成を行う。

史跡・博物館の巡検やゼミ合宿（年1, 2回の予定）なども実施するので、履修者は参加すること。参加者の希望に応じて、随時、崩し字などに関する勉強会も開く。

(1) Students will engage in group reading of Kamakura Chronicle.

(2) Students will join group reading of the textbook.

(3) Students will create reports aimed at writing a preliminary and graduation thesis.

In proceeding with (1), students will (after dividing into groups, depending on the number of people) nominate one person in charge of reports, go through the original texts of historical materials, research the meanings of terms and phrases, and perform translation into modern Japanese language. After making preparations for examining issues and related academic papers and historical materials, students will make reports in the seminar. Participants will engage in Q&As and discussions.

In proceeding with (2), all participants will spend 20-30 minutes to discuss one chapter in each session, based on the reading of the relevant chapter and a comment paper prepared in advance.

For (3), students will create their own reports as homework for the long break.

In addition to conducting a sub-seminar for preparation of seminar reports, the course will help students deepen understanding of the seminars by visiting historical sites and museums and by holding seminar camps (once or twice scheduled per year) as mandatory participation by the students. Study sessions on running-form Chinese characters may also be held, at the request of the participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：春休みの課題の講評
- 3回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』1）および文献輪読
- 4回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』2）および文献輪読
- 5回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』3）および文献輪読
- 6回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』4）および文献輪読
- 7回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』5）および文献輪読
- 8回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』6）および文献輪読
- 9回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』7）および文献輪読
- 10回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』8）および文献輪読
- 11回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』9）および文献輪読
- 12回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』10）および文献輪読
- 13回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』11）および文献輪読
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :○  
上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の初回に指示する。参加者は自身の報告準備（報告は各学期少なくとも1回）に加えて、毎回予習して行くことを前提とする。事前に、いわゆる「通史」ものを読んで、中世、特に鎌倉時代に関する基礎知識を確認しておくといよい（「名著」は多数あるが、比較的入手しやすいものとして、石井進『鎌倉幕府』中公文庫、五味文彦『鎌倉と京』講談社学術文庫）、近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書）。

史料読解の訓練のために「古文書」の講義を履修することが望ましい。日本中世史関係の「史学講義」も可能な限り履修してほしい。日本中世史を専攻するという自分の専門性への自覚をもってほしい。教養のありがたさというのは、ある程度専門性を深めた後になってようやく理解されるものだと思う。私自身は皆さんに教養をもってほしいと思うし、そのためにもいろいろな授業を積極的にとってほしいが、それが上っ面の「お勉強」にならないためにも、自分の思考の基礎となる専門性というものを持ってほしいと願っている。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:40% 参加姿勢:40% レポート:20%

ゼミは毎回参加が原則である。無断欠席は原則認めない。正当な理由のある場合は必ず事前に連絡すること。なお、単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

### テキスト / Textbooks

必要な史資料はコピーないしPDFを配布する。

### 参考文献 / Readings

佐藤進一・池内義資編 『中世法制史料集 第一巻』 岩波書店 2008

笠松宏至ほか 『中世政治社会思想 上巻』 岩波書店 1972

苅米一志 『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 吉川弘文館 2015 9784642082730

高橋秀樹 『古記録入門（増補改訂版）』 吉川弘文館 2023 9784642084352

利用・参照すべき辞書・文献類については、授業中に指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎回予習復習を欠かさないこと。

### その他 / Others

東京大学史料編纂所データベース <http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

京都大学貴重資料デジタルアーカイブで古写本の画像が公開されている。<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013526>

そのほかは授業中に指示する。

本演習では中世前期の史料を素材にして歴史の学び方を修得する。3年生用の演習H15と連携する工夫を行う。

## 演習 H4

Seminars H4

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本中世史について基礎的な知識を身につけるとともに、論文や史料などを正確に読み、理解する能力を磨く。2年生の段階では、まず漢文の史料に慣れるとともに、基本的な辞書・事典の使い方、新書・通史レビューの文献をきちんと読む力を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge about medieval Japanese history, and refine their ability to accurately read and understand academic papers and historical materials. In the second year, students will first become accustomed to classical Chinese historical materials, learn how to use basic dictionaries and encyclopedias, and acquire the ability to properly read literature such as new publications and complete histories.

### 授業の内容 / Course Contents

- ①『鎌倉年代記裏書』を輪読して、中世社会特有の用語を知り、史料読解の基礎的な能力を養う。
  - ②毎回配布する課題文献を読み、中世史の方法について議論する。
  - ③予備論文・卒業論文作成に向けてレポートを作成する。
- ①の進め方は、毎回報告者を決め、事前に割り振った担当範囲に関する「書き下し」、「現代語訳」、「語釈」を

報告してもらおう。報告者は『大日本史料』などを利用して、関連史料も参考資料として用意して、解説を行うこと。報告者以外も毎回の範囲に関しては各自「書き下し」をおこなって予習してくる。

②の進め方は、全員毎回予習して、事前に小レポートを提出する。当日はそれに基づき、参加者で質疑・検討を行う。

③については、長期休み中の課題として各自レポート作成を行う。

史跡・博物館の巡検やゼミ合宿（年1, 2回の予定）なども実施するので、履修者は参加すること。参加者の希望に応じて、随時、崩し字などに関する勉強会も開く。

(1) Students will engage in group reading of Kamakura Chronicle.

(2) Students will join group reading of the textbook.

(3) Students will create reports aimed at writing a preliminary and graduation thesis.

In proceeding with (1), students will (after dividing into groups, depending on the number of people) nominate one person in charge of reports, go through the original texts of historical materials, research the meanings of terms and phrases, and perform translation into modern Japanese language. After making preparations for examining issues and related academic papers and historical materials, students will make reports in the seminar. Participants will engage in Q&As and discussions.

In proceeding with (2), all participants will spend 20-30 minutes to discuss one chapter in each session, based on the reading of the relevant chapter and a comment paper prepared in advance.

For (3), students will create their own reports as homework for the long break.

In addition to conducting a sub-seminar for preparation of seminar reports, the course will help students deepen understanding of the seminars by visiting historical sites and museums and by holding seminar camps (once or twice scheduled per year) as mandatory participation by the students. Study sessions on running-form Chinese characters may also be held, at the request of the participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：春休みの課題の講評
- 3回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』1）および文献輪読
- 4回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』2）および文献輪読
- 5回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』3）および文献輪読
- 6回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』4）および文献輪読
- 7回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』5）および文献輪読
- 8回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』6）および文献輪読
- 9回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』7）および文献輪読
- 10回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』8）および文献輪読
- 11回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』9）および文献輪読
- 12回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』10）および文献輪読
- 13回：史料輪読（『鎌倉年代記裏書』11）および文献輪読
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○



実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :○  
上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の初回に指示する。参加者は自身の報告準備（報告は各学期少なくとも1回）に加えて、毎回予習して行くことを前提とする。事前に、いわゆる「通史」ものを読んで、中世、特に鎌倉時代に関する基礎知識を確認しておくといよい（「名著」は多数あるが、比較的入手しやすいものとして、石井進『鎌倉幕府』中公文庫、五味文彦『鎌倉と京』講談社学術文庫）、近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書）。

史料読解の訓練のために「古文書」の講義を履修することが望ましい。日本中世史関係の「史学講義」も可能な限り履修してほしい。日本中世史を専攻するという自分の専門性への自覚をもってほしい。教養のありがたさというのは、ある程度専門性を深めた後になってようやく理解されるものだと思う。私自身は皆さんに教養をもってほしいと思うし、そのためにもいろいろな授業を積極的にとってほしいが、それが上っ面の「お勉強」にならないためにも、自分の思考の基礎となる専門性というものを持ってほしいと願っている。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:40% 参加姿勢:40% レポート:20%

ゼミは毎回参加が原則である。無断欠席は原則認めない。正当な理由のある場合は必ず事前に連絡すること。なお、単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

### テキスト / Textbooks

必要な史資料はコピーないしPDFを配布する。

### 参考文献 / Readings

佐藤進一・池内義資編 『中世法制史料集 第一巻』 岩波書店 2008

笠松宏至ほか 『中世政治社会思想 上巻』 岩波書店 1972

苅米一志 『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 吉川弘文館 2015 9784642082730

高橋秀樹 『古記録入門（増補改訂版）』 吉川弘文館 2023 9784642084352

利用・参照すべき辞書・文献類については、授業中に指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎回予習復習を欠かさないこと。

### その他 / Others

東京大学史料編纂所データベース <http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

京都大学貴重資料デジタルアーカイブで古写本の画像が公開されている。<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013526>

そのほかは授業中に指示する。

本演習では中世前期の史料を素材にして歴史の学び方を修得する。3年生用の演習H15と連携する工夫を行う。

# 演習 H5

Seminars H5

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC129  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世史について基礎的な知識を身につけるとともに、論文や史料などを正確に読み、理解する能力を磨く。

Students will acquire fundamental knowledge about early modern Japanese history, and refine their ability to accurately read and understand academic papers and historical materials.

## 授業の内容 / Course Contents

日本近世史、とくに政治史・都市史・村落史など、人びとの暮らしにそくした近世社会史を取り上げてすすめる。授業では個人もしくはグループに分かれて、近世史料の輪読や、指定された史料・文献についての報告を行い、全体でその内容について議論する。

The course will take up early modern Japanese history, particularly political, urban, village, and other early modern social history that represent how people lived. In the class, students will perform group reading of early modern historical materials, report on specified historical materials and literature, and discuss the content overall, individually or in groups.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 2回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（1）  
 3回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（2）  
 4回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（3）  
 5回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（4）  
 6回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（5）  
 7回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（6）  
 8回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（7）  
 9回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（8）  
 10回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（9）  
 11回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（10）  
 12回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（11）  
 13回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（12）  
 14回：近世の政治・社会に関わる活字史料や論文を読む（13）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献や史料は必ず事前に読みこみ、わからない語句を調べるなど十全な予習を行い、また関連する文献についても検討しておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容・参加姿勢：100%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

文献は授業時に指示する。史料類のコピーは適宜配布する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学習した古文や漢文の基礎的な知識があることが望ましい。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

CanvasLMS を利用する場合がある。

#### その他 / Others

授業時以外に、博物館や史跡見学などのフィールドワークを行う可能性がある。ゼミ合宿などを行う場合もある。

# 演習 H6

Seminars H6

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC130  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世史について基礎的な知識を身につけるとともに、論文や史料などを正確に読み、理解する能力を磨く。

Students will acquire fundamental knowledge about early modern Japanese history, and refine their ability to accurately read and understand academic papers and historical materials.

## 授業の内容 / Course Contents

日本近世史、とくに村落史・地域史・都市史など、人びとの暮らしにそくした近世社会史を取り上げてすすめる。授業では個人もしくはグループに分かれて、指定された文献や史料について報告し、全体でその内容について議論する。その上で、日本近世史に関するテーマを自ら設定し、その基礎的な研究作業に入っていく。

The course will take up early modern Japanese history, particularly village, region, urban, and other early modern social history that represent how people lived. In the class, students will report on specified historical materials and literature and will discuss the content overall, individually or in groups. Based on this, students will set their own themes on early modern Japanese history, and begin basic research work.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（1）  
 2回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（2）  
 3回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（3）  
 4回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（4）  
 5回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（5）  
 6回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（6）  
 7回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（7）  
 8回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（8）  
 9回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（9）  
 10回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（10）  
 11回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（11）  
 12回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（12）  
 13回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（13）  
 14回：指定したテキストに掲載された史料もしくは論文を読み議論する（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献や史料は必ず事前に読み込むなど十全な予習を行い、また関連する文献についても検討しておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加姿勢:50% 報告(複数回)内容:50%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

#### テキスト / Textbooks

テキストは授業時に適時指示する。

#### 参考文献 / Readings

文献は授業時に指示する。史料類のコピーは適宜配付する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学んだ古文や漢文に関する基礎的な知識があることが望ましい。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

CanvasLMS を利用する場合がある。

#### その他 / Others

授業時以外に、博物館や史跡見学などのフィールドワークを行う可能性がある。ゼミ合宿などを行う場合もある。

## 演習 H7

Seminars H7

日本近代史ゼミ

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC131  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本近代史に関する知識や研究方法を学ぶとともに、自らの研究課題を設定するための準備を行う。

In addition to learning knowledge and research methods related to modern Japanese history, students will prepare for setting their own research subjects.

### 授業の内容 / Course Contents

日本近代史にかかわることを研究対象とする。授業では、民衆史・社会運動史・女性史などを含みこんだ日本近代史に関する基礎的な文献の講読を行い、講読に基づいた報告と議論を行う。授業内での意見発表や議論を重視するので、授業には必ず出席すること。

The subject of research is modern Japanese history. In the class, students will engage in basic literature reading on modern Japanese history, including history of the common people, social movements, and women, and create reports and hold discussions based on the reading. As the classes emphasize discussions and presentations of opinions, the class attendance is a must.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：受講生による報告と議論（1）
- 3回：受講生による報告と議論（2）
- 4回：受講生による報告と議論（3）
- 5回：受講生による報告と議論（4）
- 6回：受講生による報告と議論（5）
- 7回：受講生による報告と議論（6）
- 8回：受講生による報告と議論（7）
- 9回：受講生による報告と議論（8）
- 10回：受講生による報告と議論（9）
- 11回：受講生による報告と議論（10）
- 12回：受講生による報告と議論（11）
- 13回：受講生による報告と議論（12）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で対象とする文献・史料を必ず事前に講読し、自身の意見を考えてくること。  
 自分の興味関心に応じて文献を探し、読むこと。積極的に教員に文献を紹介してもらうこと。  
 その他、授業内で指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告と質疑応答内容:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

授業内で指示する。

#### 参考文献 / Readings

授業内で指示する。

## 演習 H8

Seminars H8

日本近代史ゼミ

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC132

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本近代史に関する知識や研究方法を学ぶとともに、自らの研究課題を設定するための準備を行う。

In addition to learning knowledge and research methods related to modern Japanese history, students will prepare for setting their own research subjects.

### 授業の内容 / Course Contents

日本近代史にかかわることを研究対象とする。授業では、民衆史・社会運動史・女性史などを含みこんだ日本近代史に関する基礎的な文献の講読を行い、講読に基づいた報告と議論を行う。授業内での意見発表や議論を重視するので、授業には必ず出席すること。

The subjects of the research will involve modern Japanese history. In the class, students will engage in basic literature reading on modern Japanese history, including history of the common people, social movements, and women, and create reports and hold discussions based on the reading. As the classes emphasize discussions and presentations of opinions, the class attendance is a must.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：イントロダクション
- 2回：受講生による報告と議論（1）
- 3回：受講生による報告と議論（2）
- 4回：受講生による報告と議論（3）
- 5回：受講生による報告と議論（4）
- 6回：受講生による報告と議論（5）
- 7回：受講生による報告と議論（6）
- 8回：受講生による報告と議論（7）
- 9回：受講生による報告と議論（8）
- 10回：受講生による報告と議論（9）
- 11回：受講生による報告と議論（10）
- 12回：受講生による報告と議論（11）
- 13回：受講生による報告と議論（12）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で対象とする文献・史料を必ず事前に講読し、自身の意見を考えてくること。

自分の興味関心に応じて文献を探し、読むこと。積極的に教員に文献を紹介してもらうこと。

その他、授業内で指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告と質疑応答内容:60%

最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

授業内で指示する。

#### 参考文献 / Readings

授業内で指示する。

# 演習 H9

Seminars H9

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC133  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本現代史の基礎を学びつつ、史料に基づき歴史認識を深め、日本現代史の課題を自ら設定し、実証するため基礎を理解する。

Students will deepen their historical awareness based on the historical materials, set their own issues in contemporary Japanese history, and understand fundamentals for verifying these, while learning the basics of contemporary Japanese history.

## 授業の内容 / Course Contents

日本現代史，なかでも 1950～80 年代にかけての社会経済史・環境史を研究対象とする。授業は，指定した文献や史料を参加者全員が授業の前に予習しておき，その中の 1～2 名がレポーターとして報告し，その報告に基づき全員が質疑応答する形式で行う。具体的には，以下の通りである。

1. 日本現代史に関する基礎的文献の講読
2. 1950-80 年代における社会経済史・環境史に関する史料読み
3. 史料読みの授業をふまえ，関連する史料や文献の講読

学生の理解度や興味関心を重視して進度を決定し，以上の 1～3 を繰り返して，授業を進める。

The subjects of research will involve contemporary Japanese history, especially socioeconomic and environmental history in the 1950s and 1980s. All participants will prepare the specified literature and historical materials ahead of the class. In the class, one or two participants will take the role of reporter, after which all members will take part in Q&As based on the reports. Specifically, the course will include the following:

1. Reading of fundamental literature concerning contemporary Japanese history
  2. Reading of historical materials concerning socioeconomic and environment history in the 1950s and 1980s
  3. Reading of related historical materials and literature, based on preceding in-class reading of historical materials
- The class will judge progress with an emphasis on students' degree of understanding and interest, and will advance through repetition of the above steps 1-3.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（1）
- 2 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（2）
- 3 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（3）
- 4 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（4）
- 5 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（5）
- 6 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（6）
- 7 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（7）
- 8 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（8）
- 9 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（9）
- 10 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（10）
- 11 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（11）
- 12 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（12）
- 13 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（13）
- 14 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（14）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回該当箇所の史料・文献を予習し、不明な言葉などを調べておく。授業終了後には、当日の議論をまとめ、改めて史料・文献を読みなおす。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と議論への参加度:50% ゼミでの報告と授業内提出物:50%

授業回数の80%以上出席していない場合、成績評価はDとする。

### テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

### 参考文献 / Readings

禹宗杭・沼尻晃伸 『〈一人前〉と戦後社会』 岩波書店 2024 9784004320104

個別のテーマに関する参考文献は、授業中に指示する。

# 演習 H10

Seminars H10

森脇 孝広 (MORIWAKI TAKAHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC134  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本現代史に関する重要な史料を読みながら、自ら調べ、レジュメやスライドにまとめて報告・討論する。そのことを通して、史料に基づきながら歴史像を組み立て、自らの言葉で表現できるようになることを目指す。 While reading important historical documents related to contemporary Japanese history, students will conduct their own research, summarize it in their resumes and slides, and report and discuss it. Through this process, students will be able to construct an image of history based on historical documents and express it in their own words.

## 授業の内容 / Course Contents

1960～70年代日本の政治史・社会運動史・地域史を中心に、日本現代史に関する諸問題を扱う。授業ではローテーションを組んで史料を輪読し、レポーターによる報告と全員による討論を行う。

This course deals with various issues related to contemporary Japanese history, focusing on the political history, history of social movements, and regional history of Japan in the 1960s and 1970s. The class will rotate reading of historical documents, with reports by the reporter and discussion by all students.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション  
 2回：史料輪読と討論（1）  
 3回：史料輪読と討論（2）  
 4回：史料輪読と討論（3）  
 5回：史料輪読と討論（4）  
 6回：史料輪読と討論（5）  
 7回：史料輪読と討論（6）  
 8回：史料輪読と討論（7）  
 9回：史料輪読と討論（8）  
 10回：史料輪読と討論（9）  
 11回：史料輪読と討論（10）  
 12回：史料輪読と討論（11）  
 13回：史料輪読と討論（12）  
 14回：全体のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に史料を読み込み、わからない言葉の意味などを調べておくこと。

日頃から新聞やニュースをチェックしておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と討論への参加度:50% 報告内容と提出物の出来具合:50%

#### テキスト / Textbooks

開講時に指示する。

#### 参考文献 / Readings

授業期間中に適宜指示する。

# 演習 H13

Seminars H13

東アジア・日本古代史（1）

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC135

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

各人が研究テーマを設定し、東アジア・日本古代史についての理解を深める。

Students will set their own research themes and deepen their understanding of East Asian and ancient Japanese history.

## 授業の内容 / Course Contents

各回、参加者 3 名を目処に研究発表をしていただきます。授業内容は変更になることがあります。

In each session, three-or-so participants will give research presentations. The content of the class is subject to change.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：個人発表（1）

2 回：個人発表（2）

3 回：個人発表（3）

4 回：個人発表（4）

- 5回：個人発表（5）  
 6回：個人発表（6）  
 7回：グループ討論（1）  
 8回：個人発表（7）  
 9回：個人発表（8）  
 10回：個人発表（9）  
 11回：個人発表（10）  
 12回：個人発表（11）  
 13回：グループ討論（2）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表前日までに発表要旨を作成し、電子テキストで配布すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告(複数回)内容:50% 議論参加度:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings



# 演習 H14

Seminars H14

東アジア・日本古代史（2）

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC136

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： 

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

各人が研究テーマを設定し、東アジア・日本古代史についても理解を深める。

Students will set their own research themes and deepen their understanding of East Asian and ancient Japanese history.

## 授業の内容 / Course Contents

各回、参加者に研究発表をしていただきます。授業内容は変更になることがあります。

In each session, participants will give research presentations. The content of the class is subject to change.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：個人発表 (1)

2 回：個人発表 (2)

3 回：個人発表 (3)

4 回：個人発表 (4)

5 回：個人発表 (5)

- 6回：個人発表（6）  
 7回：グループ討論（1）  
 8回：個人発表（7）  
 9回：個人発表（8）  
 10回：個人発表（9）  
 11回：個人発表（10）  
 12回：個人発表（11）  
 13回：グループ討論（2）  
 14回：発表会

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告前日までに発表要旨を作成し、電子テキストで配布すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発言の回数と内容:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

# 演習 H15

Seminars H15

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC137

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本中世史の史料・論文の読解能力を高めるとともに、卒業論文の制作との関連を重視して、各自の研究テーマを探究する。

3年生の段階では、自分の研究テーマに関連する史料を集めて（先行研究を参考にしながら）読むとともに、学術的な論文を集めて読む力を身につける（特に学術的な手続きを踏まえた文献とそうではない文献の区別ができるようになる）ことを目指す。

While enhancing their ability to comprehend historical materials and academic papers on medieval Japanese history, students will explore their research themes with an emphasis on the relationship with the writing of a graduation thesis.

In the third year, students will collect and read historical materials related to their own research themes (while referring to prior research), and will aim to acquire the ability to read academic research papers (in particular, the ability to distinguish literature based on academic procedures from those not).

## 授業の内容 / Course Contents

①鎌倉時代の古記録・古文書を輪読する。

②各回 45 分程度、論文の輪読をおこなう。毎回、指定された報告者が、課題文献について、内容要約、論述・論証・史料解釈（史料操作）の仕方についてレジюмеを作成して報告する。そのうえで、参加者全員で討議を行う。

報告者と相談しながら、報告者の関心に応じて輪読論文を定めることにしたいが、ある大きなテーマのもと、関連する論文を何本か読むかたちにするかもしれない。初回に相談する。

「論文を書く」ためには「論文の書き方」が分からなければならない。報告者にはぜひ優れた「論文」をレジюмеに要約することを通じて「論文の書き方」を学んでほしい。

③各自の研究テーマを確認し、それに沿って、関係文献・史料を収集整理し（機会をみて「文献目録」を作成してもらう）、各自の研究テーマを深めていく。長期休み中にレポートを作成してもらう。具体的な報告の計画については、初回の授業で決める。

また、予備論文作成に向けて、オフィスアワーに面談を学期中 1,2 回開催する。各自、研究計画を作成し、各自のテーマに沿った研究書・論文を読むことになる。

演習の理解を深めるために、史跡・博物館の巡検やゼミ合宿（年 2 回程度）なども実施するので、参加者は必ず参加すること。

(1) Group reading of historical materials

(2) Group reading of academic papers

(3) Creation of reports aimed at writing a preliminary thesis and graduation thesis

(1) About 60 minutes each session The course will perform group reading of ancient and medieval documents, with Shinpan komonjogaku nyuumon by Shinichi Sato as a subtext. In each session, a reporter will be designated, and the student will read, comprehend, and create modern translations of specified ancient manuscripts (names of persons, geographical names, words and phrases, etc.) while collecting related documents using Heian Ibun, Kamakura Ibun, etc., then perform paleographical analysis of the ancient manuscripts. The course assumes that students have taken the "Ancient Manuscripts 1" class in their second year; those who have not done so should take the course during this academic year.

(2) About 30 minutes each session Each session, a designated reporter will prepare a summary of the content of the target literature, as well as an outline of the methods of the discussions, demonstrations, and interpretations of the historical materials (use of historical materials). Based on this, all participants will engage in deliberations. Academic papers will ideally be decided in consultation with reporters in accordance with their interest, but reading of several related papers under a major theme may be assigned. Counseling will take place in the first session.

Writing an academic paper requires knowledge on how to make it better. Reporters are encouraged to learn how to write academic papers by summarizing outstanding academic papers in an outline paper.

(3) Students will confirm their research themes, collect and organize related literature and historical materials in line with the themes (including creation of a bibliography as opportunity permits), and will deepen their research themes. Students will create reports during the long break. A specific report plan will be decided in the first class. The course will help students deepen understanding of the seminars by visiting historical sites and museums and by holding seminar camps (scheduled twice a year or so) as mandatory participation by the students.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：史料・文献輪読（1）

- 3回：史料・文献輪読（2）  
 4回：史料・文献輪読（3）  
 5回：史料・文献輪読（4）  
 6回：史料・文献輪読（5）  
 7回：史料・文献輪読（6）  
 8回：史料・文献輪読（7）  
 9回：史料・文献輪読（8）  
 10回：史料・文献輪読（9）  
 11回：史料・文献輪読（10）  
 12回：史料・文献輪読（11）  
 13回：史料・文献輪読（12）  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の初回に指示する。参加者は自身の報告準備（報告は各学期少なくとも1回）に加えて、毎回予習しておくことを前提とする。事前に、いわゆる「通史」ものを読んで、中世、特に鎌倉時代に関する基礎知識を確認しておくといよい（「名著」は多数あるが、比較的入手しやすいものとして、石井進『鎌倉幕府』中公文庫、五味文彦『鎌倉と京』講談社学術文庫、近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書）。

史料読解の訓練のために「古文書」の講義を履修することが望ましい。日本中世史関係の「史学講義」も可能な限り履修してほしい。日本中世史を専攻するという自分の専門性への自覚をもってほしい。教養のありがたさというのは、ある程度専門性を深めた後になってようやく理解されるものだと思う。私自身は皆さんに教養をもってほしいと思うし、そのためにもいろいろな授業を積極的にとってほしいが、それが上っ面の「お勉強」にならないためにも、自分の思考の基礎となる専門性というものを持ってほしいと願っている。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容:40% 参加姿勢:40% レポート:20%

ゼミは毎回参加が原則である。無断欠席は原則認めない。正当な理由のある場合は必ず事前に連絡すること。なお、単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

### テキスト / Textbooks

佐藤進一 『新訂 古文書学入門』 法政大学出版局 2003 9784588320118 -

秋山哲雄・田中大喜・野口華世編 『日本中世史入門—論文を書こう』 勉誠出版 2014 9784585220794 -  
 必要な史資料はコピーないしPDFを配布する。

### 参考文献 / Readings

芥米一志 『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 吉川弘文館 2015 9784642082730

高橋秀樹 『古記録入門（増補改訂版）』 吉川弘文館 2023 9784642084352

これ以外には『新体系 日本史』（山川出版社）シリーズを調べたい章節を事典的に利用するとよい。

『史学雑誌』毎年6月の「〇〇年の歴史学界——回顧と展望」は前年発表の各分野の論文・著書の紹介で、関心あるテーマの項目を10年分（以上）拾い読みするとよい。

【研究史上重要な論文と研究史ガイド】としては以下のシリーズもお薦め。

大石直正・柳原敏昭編『展望日本歴史9 中世社会の成立』（東京堂出版、2001年）

佐藤和彦・小林一岳編『展望日本歴史10 南北朝内乱』（東京堂出版、2000年）

久留島典子・榎原雅治編『展

#### その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

そのほかは授業中に指示する。

本演習では中世前期の史料を素材にして歴史の学び方を修得する。

# 演習 H16

Seminars H16

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC138

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本中世史の史料・論文の読解能力を高めるとともに、卒業論文の制作との関連を重視して、各自の研究テーマを探究する。

3年生の段階では、自分の研究テーマに関連する史料を集めて（先行研究を参考にしながら）読むとともに、学術的な論文を集めて読む力を身につける（特に学術的な手続きを踏まえた文献とそうではない文献の区別ができるようになる）ことを目指す。

While enhancing their ability to comprehend historical materials and academic papers on medieval Japanese history, students will explore their research themes with an emphasis on the relationship with the writing of a graduation thesis.

In the third year, students will collect and read historical materials related to their own research themes (while referring to prior research), and will aim to acquire the ability to read academic research papers (in particular, the ability to distinguish literature based on academic procedures from those not).

## 授業の内容 / Course Contents

①鎌倉時代の古記録・古文書を輪読する。

②各回 45 分程度、論文の輪読をおこなう。毎回、指定された報告者が、課題文献について、内容要約、論述・論証・史料解釈（史料操作）の仕方についてレジユメを作成して報告する。そのうえで、参加者全員で討議を行う。

報告者と相談しながら、報告者の関心に応じて輪読論文を定めることにしたいが、ある大きなテーマのもと、関連する論文を何本か読むかたちにするかもしれない。初回に相談する。

「論文を書く」ためには「論文の書き方」が分からなければならない。報告者にはぜひ優れた「論文」をレジユメに要約することを通じて「論文の書き方」を学んでほしい。

③各自の研究テーマを確認し、それに沿って、関係文献・史料を収集整理し（機会をみて「文献目録」を作成してもらう）、各自の研究テーマを深めていく。長期休み中にレポートを作成してもらう。具体的な報告の計画については、初回の授業で決める。

また、予備論文作成に向けて、オフィスアワーに面談を学期中 1,2 回開催する。各自、研究計画を作成し、各自のテーマに沿った研究書・論文を読むことになる。

演習の理解を深めるために、史跡・博物館の巡検やゼミ合宿（年 2 回程度）なども実施するので、参加者は必ず参加すること。

(1) Group reading of historical materials

(2) Group reading of academic papers

(3) Creation of reports aimed at writing a preliminary thesis and graduation thesis

(1) About 60 minutes each session The course will perform group reading of ancient and medieval documents, with Shinpan komonjogaku nyuumon by Shinichi Sato as a subtext. In each session, a reporter will be designated, and the student will read, comprehend, and create modern translations of specified ancient manuscripts (names of persons, geographical names, words and phrases, etc.) while collecting related documents using Heian Ibun, Kamakura Ibun, etc., then perform paleographical analysis of the ancient manuscripts. The course assumes that students have taken the "Ancient Manuscripts 1" class in their second year; those who have not done so should take the course during this academic year.

(2) About 30 minutes each session Each session, a designated reporter will prepare a summary of the content of the target literature, as well as an outline of the methods of the discussions, demonstrations, and interpretations of the historical materials (use of historical materials). Based on this, all participants will engage in deliberations. Academic papers will ideally be decided in consultation with reporters in accordance with their interest, but reading of several related papers under a major theme may be assigned. Counseling will take place in the first session.

Writing an academic paper requires knowledge on how to make it better. Reporters are encouraged to learn how to write academic papers by summarizing outstanding academic papers in an outline paper.

(3) Students will confirm their research themes, collect and organize related literature and historical materials in line with the themes (including creation of a bibliography as opportunity permits), and will deepen their research themes. Students will create reports during the long break. A specific report plan will be decided in the first class. The course will help students deepen understanding of the seminars by visiting historical sites and museums and by holding seminar camps (scheduled twice a year or so) as mandatory participation by the students.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：史料・文献輪読（1）



- 3回：史料・文献輪読（2）  
 4回：史料・文献輪読（3）  
 5回：史料・文献輪読（4）  
 6回：史料・文献輪読（5）  
 7回：史料・文献輪読（6）  
 8回：史料・文献輪読（7）  
 9回：史料・文献輪読（8）  
 10回：史料・文献輪読（9）  
 11回：史料・文献輪読（10）  
 12回：史料・文献輪読（11）  
 13回：史料・文献輪読（12）  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の初回に指示する。参加者は自身の報告準備（報告は各学期少なくとも1回）に加えて、毎回予習しておくことを前提とする。事前に、いわゆる「通史」ものを読んで、中世、特に鎌倉時代に関する基礎知識を確認しておくといよい（「名著」は多数あるが、比較的入手しやすいものとして、石井進『鎌倉幕府』中公文庫、五味文彦『鎌倉と京』講談社学術文庫、近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書）。

史料読解の訓練のために「古文書」の講義を履修することが望ましい。日本中世史関係の「史学講義」も可能な限り履修してほしい。日本中世史を専攻するという自分の専門性への自覚をもってほしい。教養のありがたさというのは、ある程度専門性を深めた後になってようやく理解されるものだと思う。私自身は皆さんに教養をもってほしいと思うし、そのためにもいろいろな授業を積極的にとってほしいが、それが上っ面の「お勉強」にならないためにも、自分の思考の基礎となる専門性というものを持ってほしいと願っている。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容:40% 参加姿勢:40% レポート:20%

ゼミは毎回参加が原則である。無断欠席は原則認めない。正当な理由のある場合は必ず事前に連絡すること。なお、単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

### テキスト / Textbooks

佐藤進一 『新訂 古文書学入門』 法政大学出版局 2003 9784588320118 -

秋山哲雄・田中大喜・野口華世編 『日本中世史入門—論文を書こう』 勉誠出版 2014 9784585220794 -  
 必要な史資料はコピーないしPDFを配布する。

### 参考文献 / Readings

苺米一志 『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 吉川弘文館 2015 9784642082730

高橋秀樹 『古記録入門（増補改訂版）』 吉川弘文館 2023 9784642084352

これ以外には『新体系 日本史』（山川出版社）シリーズを調べたい章節を事典的に利用するとよい。

『史学雑誌』毎年6月の「〇〇年の歴史学界——回顧と展望」は前年発表の各分野の論文・著書の紹介で、関心あるテーマの項目を10年分（以上）拾い読みするとよい。

【研究史上重要な論文と研究史ガイド】としては以下のシリーズもお薦め。

大石直正・柳原敏昭編『展望日本歴史9 中世社会の成立』（東京堂出版、2001年）

佐藤和彦・小林一岳編『展望日本歴史10 南北朝内乱』（東京堂出版、2000年）

久留島典子・榎原雅治編『展

#### その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

そのほかは授業中に指示する。

本演習では中世前期の史料を素材にして歴史の学び方を修得する。3年生用の演習H15と連携する工夫を行う。

# 演習 H17

Seminars H17

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC139  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世史料の読解能力を高めるとともに、自らの研究テーマについて実践的な研究をすすめる。

Students will enhance their ability to comprehend early modern historical materials, and will engage in practical research on their own research themes.

## 授業の内容 / Course Contents

2年次で培った史料読解能力をさらに鍛えるべく、史料の講読を継続する。また各自の研究テーマに関わる文献の精読によって論点を絞り込み、卒論に利用する資料を探していく。こうした文献や史料の内容を整理し、仮設を組み立てて報告し、各自の研究テーマを深めていくこととしたい。基本的には

- I 近世の史料を輪読して内容を検討する
- II 先行研究や重要な文献を検討する
- III 個人やグループ単位で史料分析や研究の現状を報告して討論する

この3つの内容を適宜組み合わせる。

Students will continue to read historical materials in order to further train the ability to comprehend historical materials cultivated in the second year. Through careful reading of literature related to their research themes,

students will narrow down their issues and search for materials of use in their graduation theses. Students should organize the content of such literature and historical materials, construct hypotheses, give reports, and deepen their research themes. Essentially, students will proceed by combining content from the following three activities:

I) Perform group reading of early modern historical materials and examine the content

II) Examine prior research and important literature

III) Report on and examine the current state of research and analysis of historical materials, for each half-credit

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (1)
- 2 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (2)
- 3 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (3)
- 4 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (4)
- 5 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (5)
- 6 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (6)
- 7 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (7)
- 8 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (8)
- 9 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (9)
- 10 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (10)
- 11 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (11)
- 12 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (12)
- 13 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (13)
- 14 回：史料の読解もしくは参加者の研究報告および討論 (14)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

史料や文献は必ず事前に読み込み、わからない語句を調べるなど十全な予習を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加態度:50% 報告(複数回)内容:50%

### テキスト / Textbooks

適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

適宜指示する。

### その他 / Others

資料館や博物館、文書館などを見学したり、フィールド調査や巡検などを行う場合がある。またゼミ合宿を行う場合もある。

# 演習 H18

Seminars H18

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC140  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世史に関する各自の研究テーマを深め、予備論文や卒業論文に向けての研究をすすめることで、卒業論文の執筆に取り組む段階に至ることを目的とする。

Students will aim to reach the stage of writing their graduation theses by deepening their own research themes concerning early modern Japanese history and by engaging in research for their preliminary theses and graduation theses.

## 授業の内容 / Course Contents

演習 H17 の内容を継続し、各自の研究テーマについて、先行研究の整理や読解した史料の内容をもとに仮説的な見通しをたて、適宜レジュメにまとめて報告する。最後にそれらをまとめて、卒論への一階梯とする。具体的には、

- I 各自の研究に関わる近世史料を取り上げて、その内容を検討する
- II 各自の研究に関わる先行研究や重要な文献を検討する
- III 各自が研究の現状を報告して討論する

この3つの内容を適宜組み合わせる。なおそれぞれの研究の進展具合にあわせて、I II IIIそれぞれの

割合については、臨機応変に対応する。

またあわせてグループごとに史料解釈をふまえた研究報告を行うことも予定している。

Continuing the content from Seminars H17, students will establish hypothetical perspectives based on the organization of prior research and on the content of historical materials they have comprehended, and will create outlines and report on these as appropriate. Finally, students will assemble these as a step toward their graduation theses. Specifically, students will proceed by combining content from the following three activities:

I) Take up early modern historical materials related to students' research, and examine the content

II) Examine prior research and important literature related to students' research

III) Report on and examine the current state of research

The relative proportions of I, II, and III will be adjusted flexibly according to the progress of students' research. The course also plans to have students give research reports based on each group's interpretation of historical materials.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：参加者による報告・討論 (1)
- 2 回：参加者による報告・討論 (2)
- 3 回：参加者による報告・討論 (3)
- 4 回：参加者による報告・討論 (4)
- 5 回：参加者による報告・討論 (5)
- 6 回：参加者による報告・討論 (6)
- 7 回：参加者による報告・討論 (7)
- 8 回：参加者による報告・討論 (8)
- 9 回：参加者による報告・討論 (9)
- 10 回：参加者による報告・討論 (10)
- 11 回：参加者による報告・討論 (11)
- 12 回：参加者による報告・討論 (12)
- 13 回：参加者による報告・討論 (13)
- 14 回：参加者による報告・討論 (14)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告の準備が必要。研究書もしくは史料をつねに新たに読み込んでおくことが求められる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加態度:50% 報告(複数回)内容:50%

### テキスト / Textbooks

適宜、必要に応じて指示する。

### 参考文献 / Readings

適宜指示する。

**その他/ Others**

授業時以外に、博物館や史跡見学などのフィールドワークを行う場合がある。またゼミ合宿などを行う場合もある。

# 演習 H19

Seminars H19

日本近代史ゼミ

小野沢 あかね (ONozAWA AKANE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC141  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近代史に関する研究テーマで卒業論文の執筆を行うことを前提に、各自の研究テーマに関する先行研究整理、史料収集・講読を行うことを目的とする。

Students will aim to organize prior research, collect historical materials, and perform readings related to their research, on the premise of writing graduation theses on research themes related to modern Japanese history studies.

## 授業の内容 / Course Contents

日本近代史にかかわる研究テーマを追究したい学生が卒業論文を執筆することを前提に、必要な準備作業を行う。各自が追究したいテーマに関して、具体的な先行研究の整理や史料の提示に基づいたレジュメ作成、報告を行ってもらおう。その上で、史料調査の方法、史料の読み方、報告に関する議論、論文執筆などに関する指導を行う。

Students who wish to pursue research themes involving modern Japanese history studies will perform necessary preparatory work on the premise of writing graduation theses. Students will create and report on outlines based



on the organization of specific prior research and the presentation of historical materials related to the themes they wish to pursue. Based on this, the course will provide instruction on methods of surveying historical materials, reading historical materials, discussion of reports, writing of academic papers, etc.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：受講生の報告と議論（1）
- 3回：受講生の報告と議論（2）
- 4回：受講生の報告と議論（3）
- 5回：受講生の報告と議論（4）
- 6回：受講生の報告と議論（5）
- 7回：受講生の報告と議論（6）
- 8回：受講生の報告と議論（7）
- 9回：受講生の報告と議論（8）
- 10回：受講生の報告と議論（9）
- 11回：受講生の報告と議論（10）
- 12回：受講生の報告と議論（11）
- 13回：受講生の報告と議論（12）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告準備のために、十分に時間をとって先行研究の講読・整理、史料の収集と講読を行うこと。  
常に自分の研究テーマを中心とした日本近代史の文献・史料の探索、講読を行うこと。  
その他、授業内で指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ  
平常点割合：100% 報告と質疑応答の内容：60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に定めない。

### 参考文献 / Readings

授業内で指示する。

# 演習 H20

Seminars H20

日本近代史ゼミ

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC142

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近代史に関する研究テーマで卒業論文の執筆を行うことを前提に、各自の研究テーマに関する先行研究整理、史料収集・講読を行うことを目的とする。

Students will aim to organize prior research, collect historical materials, and perform readings related to their research, on the premise of writing graduation theses on research themes related to modern Japanese history studies.

## 授業の内容 / Course Contents

日本近代史にかかわる研究テーマを追究したい学生が卒業論文を執筆することを前提に、必要な準備作業を行う。各自が追究したいテーマに関して、具体的な先行研究の整理や史料の提示に基づいたレジュメ作成、報告を行ってもらおう。その上で、史料調査の方法、史料の読み方、報告に関する議論、論文執筆などに関する指導を行う。

Students who wish to pursue research themes involving modern Japanese history studies will perform necessary preparatory work on the premise of writing graduation theses. Students will create and report on outlines based

on the organization of specific prior research and the presentation of historical materials related to the themes they wish to pursue. Based on this, the course will provide instruction on methods of surveying historical materials, reading historical materials, discussion of reports, writing of academic papers, etc.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：受講生の報告と議論 (1)
- 3 回：受講生の報告と議論 (2)
- 4 回：受講生の報告と議論 (3)
- 5 回：受講生の報告と議論 (4)
- 6 回：受講生の報告と議論 (5)
- 7 回：受講生の報告と議論 (6)
- 8 回：受講生の報告と議論 (7)
- 9 回：受講生の報告と議論 (8)
- 10 回：受講生の報告と議論 (9)
- 11 回：受講生の報告と議論 (10)
- 12 回：受講生の報告と議論 (11)
- 13 回：受講生の報告と議論 (12)
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告準備のために、十分に時間をとって先行研究の講読・整理、史料の収集と講読を行うこと。  
常に自分の研究テーマを中心とした日本近代史の文献・史料の探索、講読を行うこと。  
その他、授業内で指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告と質疑応答の内容:50% 出席と授業態度:50%

### テキスト / Textbooks

特に定めない。

### 参考文献 / Readings

授業内で指示する。

# 演習 H21

Seminars H21

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC143  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

演習 H10 に引き続き、日本現代史に関して史料に基づき歴史認識を深め、日本現代史の課題を自ら設定し、実証するための基礎を理解する。

Continuing from Seminars H10, students will deepen their awareness of history based on historical materials concerning contemporary Japanese history studies, will set their own issues in that field, and will learn fundamentals for verifying these.

## 授業の内容 / Course Contents

日本現代史，なかでも 1950～80 年代にかけての社会経済史・環境史を研究対象とする。授業は，指定した文献や史料を参加者全員が授業の前に予習しておき，その中の 1～2 名がレポーターとして報告し，その報告に基づき全員が質疑応答する形式で行う。具体的には，以下の通りである。

1. 日本現代史に関する基礎的文献の講読
2. 1950-80 年代における社会経済史・環境史に関する史料読み
3. 史料読みの授業をふまえ，関連する史料や文献の講読

学生の理解度や興味関心を重視して進度を決定し，以上の 1～3 を繰り返して，授業を進める。

The subjects of research will involve contemporary Japanese history, especially socioeconomic and environmental history in the 1950s and 1980s. All participants will prepare the specified literature and historical materials ahead of the class. In the class, one or two participants will take the role of reporter, after which all members will take part in Q&As based on the reports. Specifically, the course will include the following:

1. Reading of fundamental literature concerning contemporary Japanese history
  2. Reading of historical materials concerning socioeconomic and environment history in the 1950s and 1980s
  3. Reading of related historical materials and literature, based on preceding in-class reading of historical materials
- The class will judge progress with an emphasis on students' degree of understanding and interest, and will advance through repetition of the above steps 1-3.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（1）
- 2 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（2）
- 3 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（3）
- 4 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（4）
- 5 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（5）
- 6 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（6）
- 7 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（7）
- 8 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（8）
- 9 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（9）
- 10 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（10）
- 11 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（11）
- 12 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（12）
- 13 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（13）
- 14 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（14）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回該当箇所の史料・文献を予習し、不明な言葉などを調べておく。授業終了後には、当日の議論をまとめ、改めて史料・文献を読みなおす。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と議論への参加度:50% ゼミでの報告と授業内提出物:50%

授業回数の80%以上出席していない場合、成績評価はDとする。

### テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

### 参考文献 / Readings

禹宗杭・沼尻晃伸 『〈一人前〉と戦後社会』 岩波書店 2024 9784004320104

個別のテーマに関する参考文献は、授業中に指示する。

# 演習 H22

Seminars H22

高田 雅士 (TAKADA MASASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC144  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

演習 H21 に引き続き日本現代史への理解を深めますが、さらに各自の研究テーマ決定との関連を重視して、それぞれのテーマに即した研究史への理解を深めます。

Continuing from Seminars H21, students will deepen their understanding of contemporary Japanese history studies and the history of research concerning those studies, with an emphasis on the relationship of these with the setting of research themes.

## 授業の内容 / Course Contents

日本現代史における主要な研究書・論文の講読をしつつ、演習 H21 に引き続き日本現代史、なかでも 1960～1990 年代を対象とします。授業は、指定した文献や史料を参加者全員が授業の前に予習しておき、その中の 1～2 名がレポーターとして報告し、その報告にもとづき全員が質疑応答する形式でおこないます。具体的には、以下の通りとなります。

1. 日本現代史に関する学術書・学術論文の講読
2. 1960～90 年代に関する史料読み

学生の理解度や興味関心を重視して進度を決定し、以上の 1～2 を繰り返して、授業を進めます。

Students will read key research documents and academic papers in contemporary Japanese history studies, and, continuing from Seminars H21, will target contemporary Japanese history studies, particular from the 1960s to 1990s. All participants will prepare the specified literature and historical materials ahead of class. In the class, one or two participants will take the role of reporter, after which all members will take part in Q&A based on the reports. Specifically, the course will address the following points:

1. Reading of scholarly documents and academic papers concerning contemporary Japanese history studies
2. Reading of historical materials concerning the 1960s to 1990s

The class will judge progress with an emphasis on students' degree of understanding and interests, and will advance through repetition of the above steps 1-2.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（1）
- 2 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（2）
- 3 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（3）
- 4 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（4）
- 5 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（5）
- 6 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（6）
- 7 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（7）
- 8 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（8）
- 9 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（9）
- 10 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（10）
- 11 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（11）
- 12 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（12）
- 13 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（13）
- 14 回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（14）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回該当箇所の史料・文献を予習してきてください。また、授業終了後は、当日の議論を振り返り、日本現代史研究にとって必要な視点や事実関係をノートにまとめておいてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と議論への参加度:50% ゼミでの報告と授業内提出物:50%

授業回数の80%以上出席していない場合、成績評価はDとします。

### テキスト / Textbooks

授業中に指示します。

### 参考文献 / Readings

授業中に指示します。



# 演習 H11

Seminars H11

日本近世近代移行期ゼミ

寺尾 美保 (TERAO MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC145

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世近代移行期（19世紀を中心とする）の基礎的知識を身につけ、実証研究を行うための基本を理解する。多様な論点に触れながら、自分自身の研究テーマを見つける。

To gain fundamental knowledge of Japan's early modern transition period (focusing on the 19th century) and understand the basics to conduct empirical research. To find one's own research theme through interacting with a variety of issues.

## 授業の内容 / Course Contents

指定した文献を参加者全員が予習し、毎回1~2名が報告者となり、全員参加で議論を行う。報告はグループ毎に行うこともある。また、歴史研究を行う上での基本的な事項の確認、史料読解の訓練を行う。

All participants are required to prepare for the seminar by reading the assigned literature, and one or two students will be assigned as a presenter for each seminar, with everyone participating in discussions. Presentation may be made in individual groups. Also, the students will learn the basics of conducting historical research and train in reading historical materials.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス  
 2回：日本史研究入門  
 3回：受講生による報告と議論（1）  
 4回：受講生による報告と議論（2）  
 5回：受講生による報告と議論（3）  
 6回：受講生による報告と議論（4）  
 7回：受講生による報告と議論（5）  
 8回：受講生による報告と議論（6）  
 9回：受講生による報告と議論（7）  
 10回：受講生による報告と議論（8）  
 11回：受講生による報告と議論（9）  
 12回：受講生による報告と議論（10）  
 13回：受講生による報告と議論（11）  
 14回：受講生による報告と議論（12）  
 まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

対象となる文献と史料を事前に熟読し、自分の意見を整理してゼミに臨む。

ゼミでは議論に参加し、建設的な意見交換を行うこと。

個人のテーマを探り、関係する文献を探し、読み進めて欲しい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容:40% ゼミへの参加姿勢:40% 最終レポート割合：20%

**テキスト / Textbooks**

鈴木淳 『維新の構想と展開』 講談社学術文庫 2010 9784062919203 -

松沢裕作 『日本近代社会史』 有斐閣 2022 9784641174757 ○

『日本近代社会史』は全員購入のこと。『維新の構想と展開』はコピー・PDFを配布予定。

**参考文献 / Readings**

授業中に指示する。

**その他 / Others**

状況に応じて、史蹟や博物館などの見学を行うことがある。

史料読解やくずし字にふれるサブゼミの実施も検討する。

# 演習 H12

Seminars H12

日本近世近代移行期ゼミ

寺尾 美保 (TERAO MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC146

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世近代移行期（19世紀を中心とする）の基礎的知識を身につけ、実証研究を行うための基本を理解する。多様な論点に触れながら、自分自身の研究テーマを見つける。

To gain fundamental knowledge of Japan's early modern transition period (focusing on the 19th century) and understand the basics to conduct empirical research. To find one's own research theme through interacting with a variety of issues.

## 授業の内容 / Course Contents

指定した文献を参加者全員が予習し、毎回1~2名が報告者となり、全員参加で議論を行う。報告はグループ毎に行うこともある。また、歴史研究を行う上での基本的な事項の確認、史料読解の訓練を行う。最後に個人で関心を持ったテーマに関する報告を行う。

All participants are required to prepare for the seminar by reading the assigned literature, and one or two students will be assigned as a presenter for each seminar, with everyone participating in discussions. Presentation may be made in individual groups. Also, the students will learn the basics of conducting historical research and

train in reading historical materials. Finally, each individual will make a presentation on a theme of interest to him or her.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 2回：史料の探し方、史料読解について  
 3回：受講生による報告と議論（1）  
 4回：受講生による報告と議論（2）  
 5回：受講生による報告と議論（3）  
 6回：受講生による報告と議論（4）  
 7回：受講生による報告と議論（5）  
 8回：受講生による報告と議論（6）  
 9回：受講生による報告と議論（7）  
 10回：受講生による報告と議論（8）  
 11回：受講生による報告と議論（9）  
 12回：受講生による報告と議論（10）  
 13回：受講生による報告と議論（11）  
 14回：受講生による報告と議論（12）  
 まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

対象となる文献と史料を事前に熟読し、自分の意見を整理してゼミに臨む。

ゼミでは議論に参加し、建設的な意見交換を行うこと。

個人のテーマを探り、関係する文献を探し、読み進めて欲しい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容:40% ゼミへの参加姿勢:40% 最終レポート割合：20%

### テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

### 参考文献 / Readings

芳即正 『島津久光と明治維新』 新人物往来社 2002 4404029950

町田明広 『島津久光と幕末政治の焦点』 講談社 2009 9784062584319

その他、授業中に指示する。

### その他 / Others

状況に応じて、史蹟や博物館などの見学を行うことがある。

史料読解やくずし字にふれるサブゼミの実施も検討する。

# 演習 I 1

## Seminars I1

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC147  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

人間と環境との関わり合いを、人間を主体とした文化・生態・環境を軸としてとらえ、相互の関係性にたった理解・解明の方法を学ぶ。

This class will observe the relationship between human beings and the environment from a viewpoint of culture, ecology, and environment with humans as the main actors. Students will learn methods of understanding based on mutual relevance.

### 授業の内容 / Course Contents

世界のさまざまな自然と人間との関わり合いの文化環境学的研究を地理学、生態人類学などのテキストとフィールドワークから理解する。

「環境」「生態」「文化」に関して、その概念と方法論を参考文献および資料の講読と事例研究より学ぶ。課題に関して実地調査も行う。

毎回の授業では、担当者の発表と参加者による議論を行う。内容の紹介、それに基づく問題提起、討論を行い、関心と理解を深める。参加者による発表担当および議論進行分担およびゼミ運営の役割分担を行う。

Drawing on texts and fieldwork, students will understand cultural/environmental studies research on the world's

diverse relationships between nature and humans, in areas including geography and ecological anthropology. Students will learn concepts and methodologies concerning "environment," "ecological" and "culture" from readings and from case studies of reference literature and materials. Students will engage in field investigations of their subjects.

In each class, leaders will give presentations and students will engage in discussion. The class will introduce content, pose related questions, and engage in debate to deepen interest and understanding. Participants will divide the tasks of presentation leader, discussion facilitator, and seminar manager.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化環境学の分野と課題
- 2 回：研究事例の紹介
- 3 回：研究テーマ設定 1 / 各自の発表および議論
- 4 回：研究テーマ設定 2 / 同上
- 5 回：研究テーマ設定 3 / 同上
- 6 回：フィールドでの発見 1 / 同上
- 7 回：フィールドでの発見 2 / 同上
- 8 回：発見から研究へ / 研究方法の紹介
- 9 回：発表 1 ・研究レビュー / 各自の発表および議論
- 10 回：発表 2 ・研究レビュー / 同上
- 11 回：発表 3 ・研究レビュー / 同上
- 12 回：発表 4 . フィールド調査結果 / 同上
- 13 回：発表 5 . フィールド調査結果 / 同上
- 14 回：まとめと今後の課題設定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日常生活や事象・文化に関心をもち、問題発見に努める。

関連する書籍や論文等に積極的に目を通し、テーマ設定や研究史の理解に努めるとともに読書力をつける。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 授業参加態度:40% 最終レポート割合 : :30%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜提示する。

## 演習 I 2

Seminars I2

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC148  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「人間と環境の関係」、「文化環境学」への関心を高め、その研究の枠組みと方法を、地理学、生態人類学など危難となる学問分野の概説書や論文の講読と実地の体験から学ぶ。

The class will enhance students' interest in "the relationship between nature and humanity" and "cultural/environment studies." From outline documents, academic papers, and practical experience involving geography, ecological anthropology, and other fields, students will learn about frameworks and methods for researching these.

### 授業の内容 / Course Contents

春学期演習 I 1 の成果をふまえて、自然と人間との関わり合いの研究に関連する地理学、生態人類学等の論文を講読し、研究対象、方法、実証の仕方をまとめ、発表する。自らの調査によるデータを用いて分析を行い、考察に関して報告も行う。また、それらの成果のまとめも行う。

毎回の授業では、担当者の発表と参加者による議論を行う。内容の紹介、それに基づく問題提起、討論を行い、研究方法の理解を深める。参加者による発表担当および議論進行の分担を行う。

Based on the results of the Spring Semester Seminars I1, students will read academic papers on geography,

ecological anthropology, etc. related to the study of the relationship between nature and human beings, and will summarize and give presentations on research subjects, methods, and means of demonstration. Students will perform analysis using data from their own surveys, and will also report on their studies. Students will also summarize their findings.

In each class, leaders will give presentations and students will engage in discussion. The class will introduce content, pose related questions, and engage in debate to deepen understanding. Participants will share the roles of presentation leader and discussion facilitator.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化環境学の研究レビュー
- 2 回：課題発表 1 / 各自の発表と議論
- 3 回：課題発表 2 / 同上
- 4 回：課題発表 3 / 同上
- 5 回：研究論文の読み方 / 学術雑誌と課題論文紹介
- 6 回：論文講読発表 1 / 課題論文の発表と議論
- 7 回：論文講読発表 2 / 同上
- 8 回：論文講読発表 3 / 同上
- 9 回：論文講読発表 4 / 選択論文の発表と議論
- 10 回：論文講読発表 5 / 同上
- 11 回：論文講読発表 6 / 同上
- 12 回：フィールドワークテーマ発表 1 / 各自の発表と議論同上
- 13 回：フィールドワークテーマ発表 2 / 同上
- 14 回：まとめと今後の課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関係する研究論文と学術雑誌に目を通し、専門書を積極的に読み、専門研究分野の理解力と応用力を蓄積する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 授業参加態度:40% 最終レポート割合 : :30%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜提示する。



# 演習 I 3

Seminars I3

アメリカ合衆国史基礎演習

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC149

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国史を中心に、歴史学的な発想や見通しとはなにかを修得する。

Studying major issues and events in the history of the United States, students will learn basic methods of historical studies.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ史に限らず、まずはたくさんのテキストを読むところから始めましょう。各回、共通テキストを読み、レジュメをつくり、議論を深めていきます。

Students are required to read assigned texts for discussions every week.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習 (1)

3 回：演習 (2)

4 回：演習 (3)

- 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：最終回討議と展望

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献・史料を事前に検討すること。

合宿や学外ワークショップを催すことがあります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参画・貢献:60% 個人報告:40%

### テキスト / Textbooks

有賀夏紀, 油井大三郎, 紀平英作 『アメリカ史研究入門』 山川出版 2009 9784634640351 -

梅崎透, 坂下史子, 宮田伊知郎編著 『よくわかるアメリカの歴史』 ミネルヴァ書房 2021

9784623091973 -

授業中に指示する。

### 参考文献 / Readings

アメリカ学会編 『原典アメリカ史』 岩波書店

授業中に指示する。

# 演習 I 4

Seminars I4

アメリカ合衆国史基礎演習

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC150

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国史を中心に、歴史学的な発想や見通しとはなにかを修得する。

Studying major issues and events in the history of the United States, students will learn basic methods of historical studies.

## 授業の内容 / Course Contents

テキスト読解を中心に進める。各回、共通テキストを読み、レジュメをつくり、議論を深めていく。

Students are required to read assigned texts for discussions every week.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習 (1)

3 回：演習 (2)

4 回：演習 (3)

5 回：演習 (4)

- 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：最終回討議と展望

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献・史料を事前に検討すること。  
 合宿や学外ワークショップを催すことがあります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ  
 平常点割合：100% 議論への参画・貢献：60% 個人報告：40%

#### テキスト / Textbooks

亀井俊介ほか編 『史料で読むアメリカ文化史』 1~5 巻 東大出版会 9784130250412 -  
 有賀夏紀, 油井大三郎, 紀平英作 『アメリカ史研究入門』 山川出版 2009 9784634640351 -  
 アメリカ学会編 『原典アメリカ史』 岩波書店 -

講義時に指示する。

#### 参考文献 / Readings

講義時に案内する。

## 演習 I 5

Seminars I5

研究手法を学ぶ：中東（西アジア）地域研究

幸加木 文 (KOKAKI AYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

このコースは、中東・イスラーム世界の歴史、政治、社会、宗教、文化を研究するために必要なアカデミック・スキルを習得することを目標とします。既存研究の読解や、プレゼンテーション等を自ら実践し、卒論などの論文形式の文章を執筆できるようになるとともに、他の受講生の発表を聞いて、建設的な助言・質問をする力の習得も目指します。

This course aims to acquire the academic skills necessary to study the history, politics, society, religion, and culture of the Middle East and the Islamic world. Students will be able to read existing research and give presentations on their own and will be able to write the BA thesis. They will also acquire the ability to listen to the presentations of other students and ask constructive advice and questions.

### 授業の内容 / Course Contents

中東・イスラーム世界の歴史、政治、社会、宗教、文化に関して、各自が興味・関心をもつテーマに関する複数の参考文献を収集します（第1回から第3回）。

第4回から第8回は、受講者の関心に合わせて輪読を行います。

次に、第9回から第14回は、各回の報告者（2名もしくは3名）を決め、自らのリサーチ・クエスチョンを発表し、その背景について複数の先行研究をふまえて報告する、もしくは、先行研究の中で特に重要であると考えられる論文・書籍1点の内容について紹介した上で、適切に批評することを受講者それぞれが実践します。

In this course, students will select and collect multiple reference materials on themes of interest to each student regarding the history, politics, society, religion, and culture of the Middle East and the Islamic world (Class 1-3). Then, students will read in rotation according to their interests (Class 4-8).

Finally, students (2 or 3 people) will be assigned to present their research questions and report on the background of the questions based on multiple previous studies. Alternatively, summarize the content of one paper or book and critically analyze the previous studies (Class 9-14).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：本演習の目的と概要の説明。受講者の関心事項について各自報告する。

2回：アカデミック・スキル①：研究を行うために必要な様々なツール（オンラインのデータベース等を含む）の利用方法を習得する。

受講者の関心を確認しつつ、第4週～第8週にかけて輪読する書籍を選定する。

3回：アカデミック・スキル②：各自の興味・関心に基づき、リサーチ・クエスチョンに繋がるテーマを絞るための文献調査の方法、読解方法などを学ぶ。

輪読の各週の担当者を決定する。

4回：輪読①

5回：輪読②

6回：輪読③

7回：輪読④

8回：輪読⑤

9回：フィードバックの手順についての説明を行ったのち、担当者が報告を行う（質疑応答で1人30分）。

10回：担当者が報告を行う（質疑応答で1人30分）。

11回：担当者が報告を行う（質疑応答で1人30分）。

12回：担当者が報告を行う（質疑応答で1人30分）。

13回：担当者が報告を行う（質疑応答で1人30分）。全体の総括を行う。

14回：「Master of Writing」を参照しながら、最終レポート作成に関する注意点の説明を行う（報告予備日）。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必ず、次回の演習で扱う文献を予習した上で授業に臨むこと。報告後の全体討議で得た助言や質問等を参考にし、最終レポートをまとめること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内プレゼンテーション (1回目：25%、2回目：25%) :50% 発表者に対する助  
言・質問および全体討議への貢献度:10% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

---

参考文献 / Readings

---

## 演習 I 6

Seminars I6

研究手法を学ぶ：中東（西アジア）地域研究

幸加木 文 (KOKAKI AYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： 

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

このコースは、中東・イスラーム世界の歴史、政治、社会、宗教、文化を研究するために必要なアカデミック・スキルを習得することを目標とします。既存研究の読解や、プレゼンテーション等を自ら実践し、卒論などの論文形式の文章を執筆できるようになるとともに、他の受講生の発表を聞いて、建設的な助言・質問をする力の習得も目指します。

This course aims to acquire the academic skills necessary to study the history, politics, society, religion, and culture of the Middle East and the Islamic world. Students will be able to read existing research and give presentations on their own and will be able to write the BA thesis. They will also acquire the ability to listen to the presentations of other students and ask constructive advice and questions.

### 授業の内容 / Course Contents

中東・イスラーム世界の歴史、政治、社会、宗教、文化に関して、各自が興味・関心をもつテーマを設定し、そのテーマに関する複数の史料や参考文献を収集し、適切なアウトプットの方法を学ぶ（第1回）。

続く第2回から第6回までは、当該テーマについてどのような学問的手法でアプローチし、リサーチ・クエス



ションについてゼミ全員と議論する。

さらに第7回から第13回までは、各回の担当者（1名もしくは2名）に対し、自らのリサーチ・クエスチョンに基づいて研究報告をする。

研究報告の進め方、各々の発表に対するフィードバックの方法の詳細については初回授業時に説明する。

In this course, students will set a theme that they are interested in regarding the history, politics, society, religion, and culture of the Middle East and the Islamic world, collect multiple historical materials and references related to that theme, and learn how to produce appropriate output (Class 1).

Then, students will present the academic methods to approach the topic and discuss their research questions with the entire seminar (Class 2-6).

Furthermore, participants will present their research based on their research questions to the person in charge of each session (Class 7-13).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：本演習の目的と概要の説明。

アカデミック・スキル：注や参考文献一覧、レジュメの作成方法に加えて、パワーポイントを用いた効果的な研究発表等を学ぶ。

次回以降の報告者を決める。

2回：報告①：担当者がリサーチ・クエスチョン及び研究の進捗について報告を行なったのち（各30分程度）、ゼミ全体でそれらに対して質問、助言を行う。

3回：報告②：担当者がリサーチ・クエスチョン及び研究の進捗について報告を行なったのち（各30分程度）、ゼミ全体でそれらに対して質問、助言を行う。

4回：報告③：担当者がリサーチ・クエスチョン及び研究の進捗について報告を行なったのち（各30分程度）、ゼミ全体でそれらに対して質問、助言を行う。

5回：報告④：担当者がリサーチ・クエスチョン及び研究の進捗について報告を行なったのち（各30分程度）、ゼミ全体でそれらに対して質問、助言を行う。

6回：報告⑤：担当者がリサーチ・クエスチョン及び研究の進捗について報告を行なったのち（各30分程度）、ゼミ全体でそれらに対して質問、助言を行う。

7回：研究発表①：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

8回：研究発表②：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

9回：研究発表③：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

10回：研究発表④：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

11回：研究発表⑤：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

12回：研究発表⑥：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

13回：研究発表⑦：担当者が研究発表を行う（質疑応答込で1人50分）。

14回：予備日。全体の総括と最終レポート作成に関する注意点の説明を行う。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必ず、次回の演習で扱う文献を予習した上で授業に臨むこと。研究報告後の全体討議で得た助言や質問等を参考にして、最終レポートをまとめること。

#### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表 x2 (1回目：10%、2回目：30%) :40% 発表者に対する助言・質問および全体討議への貢献度:20% 最終レポート割合：:40%

#### **テキスト / Textbooks**

使用しない。必要に応じて、授業時に配布する。

#### **参考文献 / Readings**

小杉泰, 林佳代子, 東長靖編 『イスラーム世界研究マニュアル』 名古屋大学出版社 2008

9784815805944

# 演習 I 7

Seminars I7

比較文化論（1）

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC153

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文化人類学は、さまざまな地域に暮らす人間の思考様式や実践の比較検討を通して、「人類とは何か」という問いに答えることを目指す学問である。この演習では、文化人類学の基礎的な考え方と方法を、世界各地のさまざまな事例を通して学ぶ。同時に、これまで自明視してきた価値規範について客観的・批判的に分析する力を養う。さらに、受講生の興味関心とこれらのトピックを関連付けて思考する力を育成する。場合によっては、小規模のグループ・フィールドワークを行うこともある。

The ultimate goal of cultural anthropology is to answer the question, "what is human beings?" through a comparative study of modes of thoughts and practices in various regions. In this class, we will learn the basic ideas and methods of cultural anthropology through case studies on practices around the world. At the same time, we will cultivate our ability to analyze the value norms that they have taken for granted objectively and critically. Depending on the situation, we are going to conduct group fieldwork.

## 授業の内容 / Course Contents

文化・社会人類学に関する文献の輪読および学生の研究発表を中心とする。輪読では、発表者とコメントータ

を毎回決め、受講生全員で議論を行う。学生の発表は、学生の関心に基づいてテーマを決め、グループ発表や個人発表を行う。

This class focuses on reading the literature on cultural and social anthropology. Also, student make research presentations based on their interests.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：演習（1）
- 3回：演習（2）
- 4回：演習（3）
- 5回：演習（4）
- 6回：演習（5）
- 7回：演習（6）
- 8回：演習（7）
- 9回：演習（8）
- 10回：演習（9）
- 11回：演習（10）
- 12回：演習（11）
- 13回：演習（12）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定のテキストを事前に精読しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の発表・発表準備:50% 議論への貢献度やコメント:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 演習 I 8

Seminars I8

比較文化論（2）

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC154

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、文化人類学の基本となるフィールドワークの手法や文献講読、比較文化間研究について具体的なトピックとともに学ぶ。トピックについては、履修者の興味関心に応じて相談の上決定する。履修者は自身の研究課題について自主的に研究を進め、進捗状況を発表し意見交換をすることが求められる。

In this class, we will learn methodology on anthropological fieldwork, reading ethnography, and comparative study among several societies through several topics. Topics are selected according to student's interests.

Students explore one's research topic and make presentations about progress.

## 授業の内容 / Course Contents

文献の輪読および学生の研究発表を中心とする。輪読では、発表者とコメンテータを毎回決め、受講生全員で議論を行う。学生の研究発表では、各自がテーマを決め、グループ発表あるいは個人発表を行う。場合によっては、小規模のフィールドワークを行うこともある。

This class focuses on reading the literature on cultural anthropology. Also, students make research presentations based on their interests.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション  
 2回：演習（1）  
 3回：演習（2）  
 4回：演習（3）  
 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

指定のテキストを事前に精読しておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の発表および発表準備:50% 授業中の議論貢献度及びコメント:50%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

# 演習 I 9

Seminars I9

地域研究の方法

金 延景 (KIM YEONKYUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC155  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本各地の代表的な都市や農村の風土や歴史を、新旧地形図や統計などを利用して考察し、地域に対する興味や関心を高める。

Students will examine the climate and history of typical cities and rural areas in various regions of Japan using both new and old topographic maps, statistics, and other resources, to heighten interest toward those regions.

## 授業の内容 / Course Contents

全国を網羅する『地図で読む百年』シリーズの著書の中から、各自興味・関心のある都市や農村を選択して、その内容をパワーポイントやOHC（教材提示装置）などを使って授業で紹介し、全体討論を行う。第1回目の授業以降、参加者による発表と全体討論を繰り返し、日本における都市や農村の地域的特性への理解を深める。

From the Chizu de yomu hyaku-nen series of books that cover all of Japan, students will select cities and rural areas of interest, introduce the content in class using PowerPoint, OHC (teaching material presentation equipment), etc., and will engage in general debate. Beginning with the first class, the course will repeat

presentations and general debate by participants to deepen their understanding of the regional characteristics of cities and rural areas in Japan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：参加者による報告（1）
- 2 回：参加者による報告（2）
- 3 回：参加者による報告（3）
- 4 回：参加者による報告（4）
- 5 回：参加者による報告（5）
- 6 回：参加者による報告（6）
- 7 回：参加者による報告（7）
- 8 回：参加者による報告（8）
- 9 回：参加者による報告（9）
- 10 回：参加者による報告（10）
- 11 回：参加者による報告（11）
- 12 回：参加者による報告（12）
- 13 回：参加者による報告（13）
- 14 回：参加者による報告（14）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『地図で読む百年』シリーズは、全冊が立教大学の図書館に配架されているので、事前にその内容を確認して準備しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表の準備と内容:40% 全体討論での発言:30% 出席および受講態度:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

### 参考文献 / Readings

寺阪・平岡・元木編『関東1地図で読む百年』（古今書院 2003年 2,800円）他（全10冊シリーズ）



# 演習 I 10

Seminars I10

地域研究の方法

丸山 浩明 (MARUYAMA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC156

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

具体的な地域を取り上げて研究テーマを設定し、グループでの事前学習を行い、実際のフィールドワークへと結びつける能力を養う。

Students will take up a specific region, set research themes, engage in prior learning as a group, and cultivate the ability to connect this to actual fieldwork.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期の演習 I 9 で学んだ地域の調べ方をもとに、実際にフィールドワークを想定した調査・研究能力の習得を目指した授業を展開する。具体的には、東京とその近郊のある地域を選定し、その自然環境や土地利用の変遷、地域開発の歴史、人口構成の変化などをテーマに、新旧の地形図、統計、文献資料などをもとに調べる。さらにその成果を授業内で発表して議論を深め、最終的に報告書としてまとめる。なお、調査する地域やテーマ、担当などについては、第 1 回目の授業時に相談の上決定するので、必ず出席すること。

Based on methods for surveying regions learned in Seminars I9 in the spring semester, the course will conduct classes aimed at having students acquire survey and research abilities on the assumption of actual fieldwork.

Specifically, students will select regions in Tokyo and its suburbs, and will survey new and old topographical maps, statistics, literature, etc. on themes such as changes in the natural environment and land use, the history of regional development, and changes in population composition. Students will further present their findings in class to deepen discussion, and will finally summarize the findings in reports. Students are expected to attend the first class, as themes and regions to survey, leaders, etc. will be determined through consultation in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：具体的な調査地域の検討とグルーピング  
 2回：各グループによる報告（1）  
 3回：各グループによる報告（2）  
 4回：各グループによる報告（3）  
 5回：各グループによる報告（4）  
 6回：各グループによる報告（5）  
 7回：各グループによる報告（6）  
 8回：各グループによる報告（7）  
 9回：各グループによる報告（8）  
 10回：各グループによる報告（9）  
 11回：各グループによる報告（10）  
 12回：各グループによる報告（11）  
 13回：各グループによる報告（12）  
 14回：各グループによる報告（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

東京とその近郊を中心に、興味・関心のある地域の歴史や風土、文化などに関する文献研究を進める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表および議論の内容:40% 報告書の内容:30% 出席および授業態度:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

### 参考文献 / Readings

寺阪・平岡・元木編『関東1地図で読む百年』（古今書院 2003年 2,800円）他（全10冊シリーズ）

# 演習 I 13

Seminars I13

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC157  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「環境」「生態」「文化」の相互関係の解明について、研究対象、方法、実証の仕方を地理学、生態人類学などの専門書、論文、実地の体験から学ぶ。

Regarding elucidation of the mutual relationships among "environment," "ecology," and "culture," students will learn about research subjects, methods, and means of demonstration through specialized documents, academic papers, and practical experience involving geography, ecological anthropology, and other fields.

## 授業の内容 / Course Contents

受講者自らが研究テーマを見つけて、研究を進める。従来の研究と自らの問題意識とをあわせてテーマを決め、調査計画をたてて、フィールドワークを実施する。それをもとにデータを分析・考察を行う。関連分野の論文の講読と自らの研究テーマに関する研究レビューを積極的に行う。研究テーマの設定、関連する研究のレビュー、研究方法の構築、分析、考察について参加者と討論を深め、自ら実践できるようにする。

Course takers will find their own research themes and advance their research. Students will determine themes combining past research with their own awareness of issues, formulate survey plans, and carry out fieldwork. Based on this, students will analyze and consider data. Students will actively read academic papers in related

fields and perform research reviews related to their research themes. The course will deepen debate with participants concerning the setting of research themes, reviews of related research, and construction, analysis, and consideration of research methods, and will enable participants to put these into practice on their own.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化環境学のテーマ／これまでの研究例の紹介
- 2 回：テーマ発表 1 / 各自の発表と議論
- 3 回：テーマ発表 2 / 同上
- 4 回：テーマ発表 3 / 同上
- 5 回：データの分析方法／方法の紹介
- 6 回：分析発表 1 / 各自の発表と議論
- 7 回：分析発表 2 / 同上
- 8 回：分析発表 3 / 同上
- 9 回：データの考察から展望へ／方法の紹介
- 10 回：考察発表 1 / 各自の発表と議論
- 11 回：考察発表 2 / 同上
- 12 回：考察発表 3 / 同上
- 13 回：論文のまとめ方
- 14 回：課題の提示

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関連専門書や論文を積極的に探して読み、文章力を高め、分析・考察をより深められるように努める。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 授業参加態度:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜提示する。

# 演習 I 14

Seminars I14

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC158  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「環境」「生態」「文化」の相互関係の解明について、研究対象、方法、実証の仕方を地理学、生態人類学などの基盤となる学問分野の概説書、論文、実地の体験から学ぶ。

Regarding elucidation of the mutual relationships among "environment," "ecology," and "culture," students will learn about research subjects, methods, and means of demonstration through summary documents, academic papers, and practical experience involving geography, ecological anthropology, and other fields.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期 I 13 に引き続き、各自の研究テーマについて議論を深める。フィールドワークの結果を用いて自らの関心とその分析方法の理解を深める。以下の項目に関して毎回の担当者の発表と参加者による討論を通じて、分析、考察、論文記述を中心に学ぶ。

1. 研究テーマに応じた議論の構築
2. 研究枠組みと方法論の吟味
3. 先行研究のレビュー
4. 問題の設定と限定

## 5. 予備調査の実施とそれに基づく分析と課題

Continuing from spring semester I13, the course will deepen discussions of research themes. Using the findings of their fieldwork, students will deepen their understanding of their interests and methods for their analysis. Students will learn with a focus on analysis, consideration, and academic paper writing through presentations by leaders and discussions by participants in each session concerning the following items.

1. Construction of discussions matched to research themes
2. Close examination of research frameworks and methodologies
3. Review of prior research
4. Setting and limiting of issues
5. Preliminary survey, and analyses and topics based on this

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：研究課題の確認
- 2 回：研究課題の構築と研究レビュー 1 / 各自の発表と議論
- 3 回：研究課題の構築と研究レビュー 2 / 同上
- 4 回：研究課題の構築と研究レビュー 3 / 同上
- 5 回：研究課題の構築と研究レビュー 4 / 同上
- 6 回：予備調査データの収集と分析 1 / 同上
- 7 回：予備調査データの収集と分析 2 / 同上
- 8 回：予備調査データの収集と分析 3 / 同上
- 9 回：予備調査データの収集と分析 4 / 同上
- 10 回：分析結果の考察と課題提示 1 / 同上
- 11 回：分析結果の考察と課題提示 2 / 同上
- 12 回：分析結果の考察と課題提示 3 / 同上
- 13 回：分析結果の考察と課題提示 4 / 同上
- 14 回：今後の課題と論文のまとめ方

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

自らのテーマに従い調査を行いデータを収集する。

できるだけ多くの専門論文に目を通し、分析方法や論文記述の方法を理解した上で、自分の研究に反映させる。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 授業参加態度:30% 最終レポート割合 : :40%

**テキスト / Textbooks**

なし

**参考文献 / Readings**

授業中に適宜提示する。

# 演習 I 15

Seminars I15

アメリカ合衆国社会史演習

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC159

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国史を中心に、歴史学研究成果を批判的に読み解けるようになる。

Studying major issues and events in the history of the United States, students will learn advanced methods of historical studies.

## 授業の内容 / Course Contents

共通テキストを読み、レジュメをつくり、議論を深める。

卒論予備論文の準備を並行して進める。

Students are required to read assigned texts for discussions every week.

The course also prepares students for preliminary graduation theses.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習 (1)

3 回：演習 (2)



- 4回：演習（3）  
 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：最終回討議と展望

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献・史料を事前に検討すること。  
 合宿や学外ワークショップを催すことがあります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ  
 平常点割合：100% 議論への参画・貢献：60% 個人報告：40%

### テキスト / Textbooks

藤永康政・松原宏之編著 『「いま」を考えるアメリカ史』 ミネルヴァ書房 2022 -  
 講義時に指示する。

### 参考文献 / Readings

巽孝之ほか編 『事典 現代のアメリカ』 大修館書店 2004  
 有賀夏紀ほか編 『アメリカ史研究入門』 山川出版 2009  
 アメリカ学会 『アメリカ文化事典』 丸善 2018  
 久保文明・岡山裕 『アメリカ政治史講義』 東京大学出版会 2022  
 講義時に案内する。

# 演習 I 16

Seminars I16

アメリカ合衆国社会史演習

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC160

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国史を中心に、歴史学研究成果を批判的に読み解けるようになる。

Studying major issues and events in the history of the United States, students will learn advanced methods of historical studies.

## 授業の内容 / Course Contents

共通テキストを読み、レジュメをつくり、議論を深める。

卒論予備論文の準備を並行して進める。

Students are required to read assigned texts for discussions every week.

The course also prepares students for preliminary graduation theses.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習 (1)

3 回：演習 (2)

- 4回：演習（3）  
 5回：演習（4）  
 6回：演習（5）  
 7回：演習（6）  
 8回：演習（7）  
 9回：演習（8）  
 10回：演習（9）  
 11回：演習（10）  
 12回：演習（11）  
 13回：演習（12）  
 14回：最終回討議と展望

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献・史料を事前に検討すること。  
 合宿や学外ワークショップを催すことがあります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ  
 平常点割合：100% 議論への参画・貢献:60% 個人報告:40%

#### テキスト / Textbooks

講義時に指示する。

#### 参考文献 / Readings

巽孝之ほか編 『事典 現代のアメリカ』 大修館書店 2004  
 有賀夏紀ほか編 『アメリカ史研究入門』 山川出版 2009  
 アメリカ学会 『アメリカ文化事典』 丸善 2018

講義時に案内する。

# 演習 I 17

Seminars I17

イスラーム複合文化応用演習 1

山下 王世 (YAMASHITA KIMIYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC161

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、

- (1) 研究課題の立て方と、最適な研究方法について学ぶ。
- (2) 自分の研究や先行研究を評価できるようになる。

The goals of this course are to

- (1) Learn how to develop good questions and choose methods to best answer these questions.
- (2) Develop analytical skills that enable you to evaluate the quality of your own and other scholars' research.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は中級者向けのゼミナールである。受講者は研究課題や進捗状況に応じて、先行研究のレビュー、理論の紹介、研究計画、データの要約、分析結果のいずれかについて発表する。

The course takes the form of an intermediate seminar for undergraduate students and is discussion based. Each student must prepare a progress report. The content should be either a literature review, introduction of theory, research plan, data summary, or analysis result.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス/本演習の目的と概要の説明  
 2回：学生報告1/研究内容について個人報告を行った後、全員討議を行う  
 3回：学生報告2/同上  
 4回：学生報告3/同上  
 5回：学生報告4/同上  
 6回：学生報告5/同上  
 7回：学生報告6/同上  
 8回：学生報告7/同上  
 9回：学生報告8/同上  
 10回：学生報告9/同上  
 11回：学生報告10/同上  
 12回：学生報告11/同上  
 13回：学生報告12/同上  
 14回：まとめ/演習全体の総括と最終レポート作成に関する注意点の説明

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワー等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

報告の準備を十分に行って、演習に参加する。演習時の討議で得た助言等を参考にして、最終レポートをまとめる。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告・討議への貢献度:60%

最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

必要に応じて授業時に配布する。

**参考文献 / Readings**

# 演習 I 18

Seminars I18

イスラーム複合文化応用演習 2

神田 惟 (KANDA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、

- (1) 研究課題の立て方と、最適な研究方法について学ぶ。
- (2) 自分の研究や先行研究を評価できるようになる。

The goals of this course are to

- (1) Learn how to develop good questions and choose methods to best answer these questions.
- (2) Develop analytical skills that enable you to evaluate the quality of your own and other scholars' research.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は中級者向けのゼミナールである。受講者は研究課題や進捗状況に応じて、先行研究のレビュー、理論の紹介、研究計画、データの要約、分析結果のいずれかについて発表する。

The course takes the form of an intermediate seminar for undergraduate students and is discussion based. Each student must prepare a progress report. The content should be either a literature review, introduction of theory, research plan, data summary, or analysis result.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス/本演習の目的と概要の説明
- 2回：はじめに/論文執筆作法
- 3回：研究論文を読む1/論文構成の検討
- 4回：研究論文を読む2/議論の読み方の検討
- 5回：研究論文を読む3/議論の分析方法の検討
- 6回：学生報告1/研究内容について個人報告を行った後、全員討議を行う
- 7回：学生報告2/同上
- 8回：学生報告3/同上
- 9回：学生報告4/同上
- 10回：学生報告5/同上
- 11回：学生報告6/同上
- 12回：学生報告7/同上
- 13回：学生報告8/同上
- 14回：まとめ/演習全体の総括と最終レポート作成に関する注意点の説明

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

報告の準備を十分に行って、演習に参加する。演習時の討議で得た助言等を参考にして、最終レポートをまとめる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 報告・討議への貢献度：60%

最終レポート割合：40%

**テキスト / Textbooks**

必要に応じて授業時に配布する。

**参考文献 / Readings**

# 演習 I 19

Seminars I19

フィールドワーク方法論

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、フィールドワークをはじめとする文化人類学の方法論や研究論文の執筆方法を学ぶ。具体的には、学生個人が関心に基づきテーマを設定し、進捗状況を報告し、議論を行う。

In this class, we will learn the anthropological methodologies of cultural anthropology, including fieldwork, and how to write research papers. Specifically, students set themes based on their interests, report their progress, and discuss.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、文化人類学が行ってきた様々な研究方法——理論研究、史資料研究、インタビュー、参与観察——の可能性と限界について、学生の個人研究を通じて検討する。これを通じて、個々人の研究関心を文化人類学的視点からとらえ直し、問いを深める。また、フィールドワークや民族誌データを中心とする文化人類学的な研究論文の執筆方法を学び、学生個人の研究を発展させる。

In this class, the potential and limitations of various research methods conducted by cultural anthropology——theoretical research, historical material research, interviews, and participatory observations——are examined



through student personal studies. Through this, the individual's research interests will be re-evaluated from a cultural anthropological perspective. Students will also learn how to write research papers on cultural anthropology, focusing on fieldwork and ethnographic data, and develop individual student research.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：学生の研究発表（1）
- 3回：学生の研究発表（2）
- 4回：学生の研究発表（3）
- 5回：学生の研究発表（4）
- 6回：学生の研究発表（5）
- 7回：学生の研究発表（6）
- 8回：学生の研究発表（7）
- 9回：学生の研究発表（8）
- 10回：学生の研究発表（9）
- 11回：学生の研究発表（10）
- 12回：学生の研究発表（11）
- 13回：学生の研究発表（12）
- 14回：学生の研究発表（13）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドワークや文献調査など、個人研究を進めること。また自身の発表にそなえ、データの整理・分析を行っておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備・内容:50% 議論への貢献:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- (1) 先行研究をまとめる能力
- (2) フィールドワーク、文献調査をはじめ自身の研究を主体的に遂行する能力
- (3) 期日までに調査研究を進め、十分な準備の上発表する能力
- (4) ほかの学生の研究テーマに関心を持ち、積極的に質問・議論する姿勢

# 演習 I 20

Seminars I20

フィールドワーク方法論（2）

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC164

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、フィールドワークをはじめとする文化人類学の方法論や研究論文の執筆方法を学ぶ。具体的には、学生個人が関心に基づきテーマを設定し、進捗状況を報告し、議論を行う。

In this class, we will learn the anthropological methodologies of cultural anthropology, including fieldwork, and how to write research papers. Specifically, students set themes based on their interests, report their progress, and discuss.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、文化人類学が行ってきた様々な研究方法——理論研究、史資料研究、インタビュー、参与観察——の可能性と限界について、学生の個人研究を通じて検討する。これを通じて、個々人の研究関心を文化人類学的視点からとらえ直し、問いを深める。また、フィールドワークや民族誌データを中心とする文化人類学的な研究論文の執筆方法を学び、学生個人の研究を発展させる。

In this class, the potential and limitations of various research methods conducted by cultural anthropology——theoretical research, historical material research, interviews, and participatory observations——are examined

through student personal studies. Through this, the individual's research interests will be re-evaluated from a cultural anthropological perspective.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：学生の研究発表（1）
- 3回：学生の研究発表（2）
- 4回：学生の研究発表（3）
- 5回：学生の研究発表（4）
- 6回：学生の研究発表（5）
- 7回：学生の研究発表（6）
- 8回：学生の研究発表（7）
- 9回：学生の研究発表（8）
- 10回：学生の研究発表（9）
- 11回：学生の研究発表（10）
- 12回：学生の研究発表（11）
- 13回：学生の研究発表（12）
- 14回：学生の研究発表（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドワークや文献調査など、個人研究を進めること。また自身の発表にそなえ、データの整理・分析を行っておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度（発表含む）：50% 議論への貢献度：50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- (1) 先行研究をまとめる能力
- (2) フィールドワーク、文献調査をはじめ自身の研究を主体的に遂行する能力
- (3) 期日までに調査研究を進め、十分な準備の上発表する能力
- (4) ほかの学生の研究テーマに関心を持ち、積極的に質問・議論する姿勢
- (5) 自身の研究をまとめ論文を執筆する努力

# 演習 I 2 1

Seminars I21

地域調査と論文作成

金 延景 (KIM YEONKYUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC165  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

参加者各自の興味や関心に従って、人文地理学や文化人類学、民俗学などの文献を調べたり、自ら調査を実施したりして、その内容を授業で的確に説明できる。

Participants will be able to investigate literature in human geography, cultural anthropology, folklore studies, etc., conduct their own surveys, and accurately explain the content in class, according to their own interests.

## 授業の内容 / Course Contents

参加者各自が興味関心のあるテーマと地域を選定して、それに関わる研究論文や著書などを読み、その内容をまとめたり、統計資料を分析したり、自ら調査を実施したりして、その成果を授業で報告する。また、発表後の全体討論を通じて、内容理解の深化と研究遂行に必要な基礎的能力の習得を図る。授業では参加者による発表と全体討論を繰り返しながら、各自の研究課題を明確化し、それを遂行するための研究・調査方法を導く。

Participants will select regions and themes of interest, read research papers and books related to these, summarize the content, analyze statistical data, conduct their own surveys, and report their findings in class. In addition, through general discussions after presentations, the course aims to have students deepen their

understanding of the content and acquire the fundamental capabilities needed to conduct research. In the classes, participants will engage in repeated presentations and general discussions, clarify their research topics, and execute these under guidance on methods of research and surveying.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による報告（1）
- 3回：参加者による報告（2）
- 4回：参加者による報告（3）
- 5回：参加者による報告（4）
- 6回：参加者による報告（5）
- 7回：参加者による報告（6）
- 8回：参加者による報告（7）
- 9回：参加者による報告（8）
- 10回：参加者による報告（9）
- 11回：参加者による報告（10）
- 12回：参加者による報告（11）
- 13回：参加者による報告（12）
- 14回：参加者による報告（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自、興味関心のあるテーマや地域に関する研究論文や著書を検索しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表の準備と内容:40% 全体討論での発言:30% 出席および受講態度:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

# 演習 I 2 2

Seminars I22

地域調査と論文作成

丸山 浩明 (MARUYAMA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

地理学や地誌学とその周辺学問分野の成果を踏まえて各自の問題意識を明確化し、文献や資料のみならず自らの調査に基づいたオリジナルなデータを含めて、その結果を的確に説明できる。そして発表や推敲を積み重ねながら、論文に仕上げる。

Students will clarify their own awareness of issues based on findings from geography, topography, and peripheral research fields, and will become able to accurately explain findings, not only from literature and materials but also from original data based on their own surveys. Through the accumulation of presentations and revisions, they will finish their theses.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期の演習 I 2 1 を継続して実施する。毎回の講義では、担当者が発表を行ったうえで、全員で議論を重ねて、論文制作への導入を図る。そして最終的には、各自が研究課題を明確化して論文をまとめる。

Continuing from Seminars I21 in the spring semester, in each session's lecture the leader will make a presentation and discuss with all participants, and work toward thesis production. In the end, participants will

clarify their research topics and put together their theses.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による報告（1）
- 3回：参加者による報告（2）
- 4回：参加者による報告（3）
- 5回：参加者による報告（4）
- 6回：参加者による報告（5）
- 7回：参加者による報告（6）
- 8回：参加者による報告（7）
- 9回：参加者による報告（8）
- 10回：参加者による報告（9）
- 11回：参加者による報告（10）
- 12回：参加者による報告（11）
- 13回：参加者による報告（12）
- 14回：参加者による報告（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自が設定したテーマ・地域に関する研究論文や著書を熟読したり、現地調査を行ったりすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表の準備と内容:40% 全体討論での発言:30% 出席および受講態度:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

# 演習 I 1 1

Seminars I11

フォークロアゼミ（基礎演習 1）

市田 雅崇 (ICHIDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC167

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基礎文献や民俗誌の輪読、民俗調査を通して、フォークロアの知識と考え方、研究方法を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge, concepts of folklore and research methods through basic literature, ethnography journals, and folklore surveys through fieldwork.

## 授業の内容 / Course Contents

基礎文献・民俗誌の輪読、民俗調査の事前調査を演習形式で進める。前半は発表担当者が興味のあるテーマについて現地調査をふまえて紹介し、討論をしながらフォークロアの知識・考え方について受講者で共有していく。後半は夏季休暇中に行う民俗調査についての事前調査。いずれもグループワークとして行う。

The course will proceed in exercises format, through group reading of basic literature and ethnography journals, and prior surveys for fieldwork. In the first half of the course, presenters will introduce subjects of interest through research in the field, and will share knowledge and concepts of folklore with course takers while engaging in discussion. The second half will focus on prior surveys in folklore surveys during summer vacation. Students will conduct presentations in groups.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション  
 2回：講義  
 3回：演習 1 (グループワーク：テーマ 1-1)  
 4回：演習 2 (グループワーク：テーマ 1-2)  
 5回：演習 3 (グループワーク：テーマ 1-3)  
 6回：演習 4 (グループワーク：テーマ 1-4)  
 7回：演習 5 (グループワーク：テーマ 2-1)  
 8回：演習 6 (グループワーク：テーマ 2-2)  
 9回：演習 7 (グループワーク：テーマ 2-3)  
 10回：演習 8 (グループワーク：テーマ 2-4)  
 11回：演習 9 (グループワーク：予備調査 1)  
 12回：演習 10 (グループワーク：予備調査 2)  
 13回：演習 11 (グループワーク：予備調査 3)  
 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

関心のある対象や出来事について、日ごろから新聞などに目を配っておくこと。また興味を持った祭りやイベントなどに足を運び、実際に見る・聞く・食べることを通してフォークロアにふれてみましょう。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:40% ディスカッションへの参加:30% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

受講者の研究テーマにあわせて指示する。

**参考文献 / Readings**

# 演習 I 1 2

Seminars I12

フォークロアゼミ（基礎演習 2）

市田 雅崇 (ICHIDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC168

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基礎文献や民俗誌の輪読、民俗調査を通して、フォークロアの知識と考え方、研究方法を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge, concepts of folklore and research methods through basic literature, ethnography journals, and folklore surveys through fieldwork.

## 授業の内容 / Course Contents

演習 I 11 で学んだことをふまえて、(1) 受講者各自の興味をもったテーマについての論文を読んで報告する。

(2) 民俗調査を行う。事前の準備・検討と、調査後の報告・討論を通して知見を深めていく。

Based on what was learned in Seminar I11, students will: (1) Read and report on academic papers concerning their subjects of interest. (2) Carry out fieldwork. Students will deepen their knowledge through prior preparation and investigation, as well as through reports and discussions following fieldwork.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：発表と討論 1

- 3回：発表と討論 2  
 4回：発表と討論 3  
 5回：発表と討論 4  
 6回：発表と討論 5  
 7回：発表と討論 6  
 8回：民俗調査の準備と検討 1  
 9回：民俗調査の準備と検討 2  
 10回：民俗調査の準備と検討 3  
 11回：民俗調査の報告と討論 1  
 12回：民俗調査の報告と討論 2  
 13回：民俗調査の報告と討論 3  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関心のある対象や出来事について、日ごろから新聞などに目を配っておくこと。また興味を持った祭りやイベントなどに足を運び、実際に見る・聞く・食べることを通してフォークロアにふれてみましょう。

個人発表のテキストは、受講者の興味を考慮し演習 I 11 で指示する。夏季休暇中にじっくりと読み、活発な議論ができるように、周到的な発表準備をしておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:40% ディスカッションへの参加:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

受講者の研究テーマにあわせて個別に指示する。

### 参考文献 / Readings

## 演習 H23

Seminars H23

日本近世近代移行期ゼミ

寺尾 美保 (TERAO MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC169

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本近世近代移行期（19世紀を中心とする）についての専門的な研究書・論文および史料の読解能力を高めながら、各自の研究テーマを探究する。論文執筆のための基礎を理解し、個別の課題にあわせて実践していく力を身につける。

To explore each student's own research theme while improving reading and comprehension skills of academic research books, articles, and historical documents on Japan's early modern transition period (focusing on the 19th century). To acquire an understanding of the fundamentals for writing research papers and the ability to practice in accordance with individual assignments.

### 授業の内容 / Course Contents

講義前半では、指定した文献と史料を参加者全員が予習し、毎回1~2名が報告者となり、全員参加で議論を行う。報告はグループ毎に行うこともある。講義後半では、個人で関心を持ったテーマに関する報告を行い、論文執筆のための基礎的訓練を行う。

In the first half of the lecture, all participants are required to prepare for the lecture by reading the assigned

literature and historical materials, and one or two persons will be assigned as a presenter each time, with everyone participating in the discussion. Presentation may be made in individual groups. In the second half of the lecture, each individual will present a report on a topic of his/her interest, which provides basic training for writing a thesis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 2回：受講生による報告と議論（1）  
 3回：受講生による報告と議論（2）  
 4回：受講生による報告と議論（3）  
 5回：受講生による報告と議論（4）  
 6回：受講生による報告と議論（5）  
 7回：受講生による報告と議論（6）  
 8回：受講生による報告と議論（7）  
 9回：受講生による報告と議論（8）  
 10回：受講生による報告と議論（9）  
 11回：受講生による報告と議論（10）  
 12回：受講生による報告と議論（11）  
 13回：受講生による報告と議論（12）  
 14回：受講生による報告と議論（13）  
 まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

史料や論文に対し、問題意識をもって向き合い、熟読する訓練を継続する。  
 報告準備のために十分な準備時間をとり、計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容:40% セミへの参加姿勢:40% 最終レポート割合：20%

### テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

### 参考文献 / Readings

授業中に指示する。

### その他 / Others

状況に応じて、史蹟や博物館などの見学や合宿を行うことがある。  
 史料読解やくずし字にふれるサブゼミの実施も検討する。

## 演習 H24

Seminars H24

日本近世近代移行期ゼミ

寺尾 美保 (TERAO MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC170

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本近世近代移行期（19世紀を中心とする）についての専門的な研究書・論文および史料の読解能力を高めながら、各自の研究テーマを探究する。論文執筆のための基礎を理解し、個別の課題にあわせて実践していく力を身につける。

To explore each student's own research theme while improving reading and comprehension skills of academic research books, articles, and historical documents on Japan's early modern transition period (focusing on the 19th century). To acquire an understanding of the fundamentals for writing research papers and the ability to practice in accordance with individual assignments.

### 授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに関する先行研究の整理、関係史料の提示に基づく報告を行う。また、史料の講読などを行い、実証研究の基礎を固めていく。

The participants will present a report based on summarizing previous research and providing relevant historical materials regarding their own research themes. They also read historical materials to solidify the foundation of

empirical research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 2回：受講生による報告と議論（1）  
 3回：受講生による報告と議論（2）  
 4回：受講生による報告と議論（3）  
 5回：受講生による報告と議論（4）  
 6回：受講生による報告と議論（5）  
 7回：受講生による報告と議論（6）  
 8回：受講生による報告と議論（7）  
 9回：受講生による報告と議論（8）  
 10回：受講生による報告と議論（9）  
 11回：受講生による報告と議論（10）  
 12回：受講生による報告と議論（11）  
 13回：受講生による報告と議論（12）  
 14回：受講生による報告と議論（13）  
 まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

史料や論文に対し、問題意識をもって向き合い、熟読する訓練を継続する。  
 報告準備のために十分な準備時間を取り、計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容（複数回）：50% ゼミへの参加姿勢：50%

### テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

### 参考文献 / Readings

授業中に指示する。

### その他 / Others

状況に応じて、史蹟や博物館などの見学や合宿を行うことがある。  
 史料読解やくずし字にふれるサブゼミの実施も検討する。

# 演習 I 2 3

Seminars I23

民俗学演習

市田 雅崇 (ICHIDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究テーマを設定し、民俗学・文化人類学の先行研究に位置づけ、自分の研究の課題と独自性を見出し、卒業論文につなげる。その際に、民俗調査によるデータの収集・提示を行う。

Students will set research themes, position their research themes as prior research of folklore studies and cultural anthropology, discover topics and unique approaches in the research, and connect these to their graduation theses. Students will and be required presentation of collection of case study data through fieldwork.

## 授業の内容 / Course Contents

学生が主体的に研究テーマを設定し個人発表を行う。前半はテーマについての先行研究のレビューと研究計画。先行研究は隣接領域も含めて視野に入れる。後半は調査対象となる事例・夏季休暇中の調査計画について報告を行う。全体での討論を重ねて、論文の書き方、調査方法、データの提示方法・分析方法を共有しながら学んでいく。

Students will independently set research themes and deliver individual presentations. The first half of the course will consist of reviewing prior literature on students' themes, and research planning. Adjacent domains will also



be considered for prior research. In the second half, students will report on the cases they are investigating, and on their survey plans for the summer vacation period. Through repeated discussions during the course, students will learn as they share methods for academic paper writing, surveying, data presentation, and analysis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：個人発表：先行研究レビュー 1
- 3回：個人発表：先行研究レビュー 2
- 4回：個人発表：先行研究レビュー 3
- 5回：個人発表：先行研究レビュー 4
- 6回：個人発表：先行研究レビュー 5
- 7回：個人発表：先行研究レビュー 6
- 8回：個人発表：研究テーマの考察 1
- 9回：個人発表：研究テーマの考察 2
- 10回：個人発表：研究テーマの考察 3
- 11回：個人発表：研究テーマの考察 4
- 12回：個人発表：研究テーマの考察 5
- 13回：個人発表：研究テーマの考察 6
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究テーマに関する論文やデータの収集は少しずつでもいいので随時行うこと。また予備的な民俗調査を行っておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の発表内容:50% ディスカッションへの参加:20% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

受講者の研究テーマにあわせて個別に指示する。

### 参考文献 / Readings

# 演習 I 24

Seminars I24

民俗学演習

市田 雅崇 (ICHIDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC172

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究のテーマについてデータを用いて明確に提示し、隣接領域を含む先行研究をふまえた、論理的な構成の予備論文を制作する。

Students will deliver clear data-based presentations on their research themes, and will produce preliminary theses with logical composition based on prior research, including from adjacent domains.

## 授業の内容 / Course Contents

演習 I 23（春学期）を継続し個人発表を行う。前半は夏季休暇中の調査報告（調査で得たオリジナルなデータの提示と分析）について発表し、討論する。後半は前半発表に対するフィードバックへのリプライをふまえて発表を行い、卒業論文制作に向けた研究を深化させていく。

Continuing from Seminar I23 (spring semester), students will deliver individual presentations. In the first half of the course, students will deliver presentations and engage in discussions on their survey reports during the summer vacation period (presentation and analysis of original data obtained through surveys). In the second half, students will deliver presentations based on replies to feedback on presentations in the first half, and will deepen

research aimed at production of their graduation theses.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：個人発表 1
- 2回：個人発表 2
- 3回：個人発表 3
- 4回：個人発表 4
- 5回：個人発表 5
- 6回：個人発表 6
- 7回：個人発表 7
- 8回：個人発表 8
- 9回：個人発表 9
- 10回：個人発表 10
- 11回：個人発表 11
- 12回：個人発表 12
- 13回：個人発表 13
- 14回：個人発表 14

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究テーマに関する論文やデータの収集は少しずつでもいいので随時行うこと。

発表に対する受講者からのコメントを参照し、フィードバックすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の発表内容:70% ディスカッションへの参加:30%

### テキスト / Textbooks

受講者の研究テーマにあわせて個別に指示する。

### 参考文献 / Readings

# フィールドワーク H2a

Field Work H2a

日本近世に関する史料調査と史料読解

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3530

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

史料が残る現地へと赴き、その地に残された近世史料について調査・収集する体験を通して、史料調査に関する能力を高め、また近世の地域社会についての洞察を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to improve your ability to research historical materials and deepen your insight into early modern local societies through the experience of going to places where historical materials remain and researching and collecting the early modern historical materials left there.

## 授業の内容 / Course Contents

近世の在地社会に関わる史料が残る地域を訪問して、史料の残存状況を把握した上で、実際の近世史料の調査・収集方法を学ぶ。収集した史料を読解することで、近世の地域社会のありようを具体的に明らかにする。あわせて近世社会のありようが残存する地域を訪問して、近世社会のありようを復元的に検討することも課題とする。

Students will visit areas where historical materials related to early modern local societies remain, understand the state of remaining historical materials, and learn how to actually research and collect early modern historical

materials. By reading the collected historical materials, we will clarify the state of local society in the early modern period. We will also be tasked with visiting areas where the state of early modern society still exists and examining the state of early modern society from a reconstructive perspective.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：事前学習、その1
- 3回：事前学習、その2
- 4回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（1）
- 5回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（2）
- 6回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（3）
- 7回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（4）
- 8回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（5）
- 9回：史料保存期間もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（6）
- 10回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（7）
- 11回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（8）
- 12回：史料保存機関もしくは史料保存地域などへの訪問と調査（9）
- 13回：事後学習、その1
- 14回：事後学習、その2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

史料調査で訪問する先についての事前学習が求められる。また現地で解読した、あるいは撮影した史料について、改めて史料翻刻した上で、現代日本語に訳して分析するなどの作業が、調査の事後作業として要求される。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:60% 授業内提出物（複数回）:40%

### テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

林英夫 『近世古文書解読辞典』 柏書房 1972 4760100032

児玉幸多 『くずし字用例辞典』 東京堂出版 1981 9784490103335

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本近世のくずし字を学習するサブゼミや古文書の講義などに参加し、近世のくずし字がある程度読めるようになっておくことが望まれる。近世のくずし字がまったく解読できない場合、参加はかなり困難である。

### その他 / Others

履修を希望する場合には、4月5日（金）13:00 から、A302 教室においてガイダンスを実施するので、必ず参

加すること。当日どうしても参加できない場合は事前に担当教員にメールで連絡すること。

フィールドワークの実施日程は履修する学生と相談するが、6月もしくは7月以降に日帰りで史料調査に出かけることを考えている。また夏休み中に集中的に史料調査に出かける予定である。連続した日程で宿泊を伴う調査になるかどうかは史料調査先が確定するまでわからないが、調査先は基本的に千葉県内もしくは都内とする予定である。

# フィールドワーク I 1

## Field Work I1

沖縄を聴き、歩き、考える

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3630

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

地域に根ざした人々の生活、社会、文化について実際にフィールドワークを行い、データを収集して実証的に解明し、その成果を報告書にまとめることで、実証的論文執筆の方法を習得する。

今年度は日米関係史をひとつの軸として学びながら、秋学期（フィールドワーク I 2）に沖縄でのフィールドワークを実施する。

By conducting actual fieldwork on the lifestyles, societies, and cultures of people rooted in communities, and by collecting and empirically elucidating data, students will learn theories and methods of regional studies and cultural environment studies.

### 授業の内容 / Course Contents

春学期は、日米関係史、沖縄・琉球史、沖縄社会論などの文献を購読して、各自の調査テーマを定める。授業での事前学習を踏まえ、春学期中もしくは夏季休業中に神奈川県横須賀（予定）をフィールドにして、予備調査を実施し、秋学期中に実施する本調査のための準備を進める。

Based on prior learning in classes, the course will schedule a one-day program during the summer vacation

period or spring semester to search for regional topics, with Yokosuka (tentative), Kanagawa Prefecture, as the field site. The course will conduct a preliminary survey based on participants' interests and will prepare for the main survey to be conducted in Okinawa during the fall semester.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／本授業の目的や進め方の説明。
- 2回：研究発表1／研究テーマに即して、文献研究、資料調査を進める。調査計画を発表し、議論を通じて内容を深化させ、調査準備を行う。
- 3回：研究発表2／同上
- 4回：研究発表3／同上
- 5回：研究発表4／同上
- 6回：研究発表5／同上
- 7回：研究発表6／同上
- 8回：研究発表7／同上
- 9回：研究発表8／同上
- 10回：研究テーマ・分担の確定1／各自の発表を踏まえて現地調査のテーマとグルーピングを行い、役割分担を決める。
- 11回：研究テーマ・分担の確定2／同上。
- 12回：現地予備調査1／関係各位に挨拶および調査便宜供与の依頼。その後、フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。なお、交通費・食事・宿泊費などは自己負担になる。
- 13回：現地予備調査2／フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。
- 14回：総合討議

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集、読解、報告準備や、報告書の作成に相応の時間を要する。

また、予備調査の調査結果（フィールドノート）を整理したり、入手した資料や統計を分析したりして、各自が本調査に向けた準備を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表や議論への参加:30% フィールドワークへの参加:40% レポート:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

### その他 / Others

フィールドワーク I1（春学期）の受講者は、続けてフィールドワーク I2（秋学期）を受講し、同じ調査地での本調査を実施して報告書をまとめることが強く推奨される。この科目は「その他登録」で、最初の授業時に登録申請をする必要があるため、履修希望者はかならず出席すること。ここで履修申し込みをすると、秋も自動



的に履修登録される。

フィールドワークを実施することを考慮し、履修希望者が多数の場合は12名程度に選考することもある。

## フィールドワーク I 2

### Field Work I2

沖縄を聴き、歩き、考える

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC204

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3630

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

地域に根ざした人々の生活、社会、文化について実際にフィールドワークを行い、データを収集して実証的に解明し、その成果を報告書にまとめることで、実証的論文執筆の方法を習得する。

今年度は日米関係史をひとつの軸として学びながら、沖縄でのフィールドワークを実施する。

By conducting actual fieldwork on the lifestyles, societies, and cultures of people rooted in communities, collecting and empirically elucidating data, and summarizing reports based on the findings, students will learn methods for writing empirical papers.

### 授業の内容 / Course Contents

フィールドワーク I 1（春学期）の予備調査の結果をふまえて、秋学期中に4泊5日の予定で、沖縄（予定）をフィールドに各自のテーマに即して本調査を実施する。また、その成果を報告書にまとめる。

Based on the findings of the preliminary survey performed in Field Work I1 (spring semester), the course will schedule a 5-day, 4-night program during the fall semester to perform main surveys in line with students' themes, with Okinawa (tentative) as the field site. Students will then summarize the findings in reports.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス／本授業の目的や進め方などを説明する。予備調査をふまえて、本調査での研究テーマや分担を確認し、調査計画を練るので、受講希望者は必ず出席すること。
- 2回：本調査の準備1／本調査のテーマと実施計画などを、全体討論を経て決定する。
- 3回：本調査の準備2／同上
- 4回：現地調査1／関係各位に挨拶および本調査の便宜供与依頼。その後、フィールドワークを行う。なお、交通費・食費・宿泊費などは自己負担になる。
- 5回：現地調査2／引き続き、フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。
- 6回：現地調査3／同上
- 7回：現地調査4／同上
- 8回：現地調査5／同上
- 9回：報告書作成1／調査報告を行い、そのまとめ方について全体討論を行いつつ、論文の執筆を進めていく。
- 10回：報告書作成2／同上
- 11回：報告書作成3／同上
- 12回：報告書作成4／同上
- 13回：報告書作成5／同上
- 14回：総合討議

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

文献の収集、読解、報告準備や、報告書の作成に相応の時間を要する。

また、予備調査の調査結果（フィールドノート）を整理したり、入手した資料や統計を分析したりして、各自が本調査に向けた準備を行うこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表や議論への参加:20% フィールドワークへの参加:40% 報告書レポート:40%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

授業中に適宜指示する。

**その他 / Others**

この授業は、フィールドワーク I1（春学期）の事前学習や予備調査の成果をもとに発展させるものである。「その他登録」であり、履修希望者はフィールドワーク I1（春学期）のガイダンス時に必ず出席すること。このガイダンス時にフィールドワーク I1 に履修申し込みをすると、秋学期のフィールドワーク I2 も自動的に履修登録される。フィールドワークを実施することを考慮し、履修希望者が多数の場合には、受講者を選考することもある。

## 専門基礎 2

Workshops for Academic Researchers 2

アジア・アフリカ系言語 2

鈴木 均 (SUZUKI HITOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC232

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義ではイランおよび中東地域が抱える課題に受講者諸君がどう日常的にアプローチしていくべきか、その方法と基本的な知識を、イラン近現代史および中東地域研究の最も基礎的なレベルから検討していきたい。

In this lecture, we will explore how students should approach the issues faced by contemporary Iran and the Middle East, examining the methods and fundamental knowledge starting from the most basic level of Iranian modern history, geography and Middle Eastern area studies.

### 授業の内容 / Course Contents

1979 年のイスラーム革命以降、イラン・米国関係は冷戦末期からの現代史のアポリアの一つであり、それは時に混迷の度合いを深めてきた。またその影響は単に 2 国間関係に留まらず、日本を含めた世界の経済と安全保障にも深く関係している。

2020 年の米大統領選の結果 2021 年 1 月にバイデン政権が発足したが、アフガニスタンからの米軍撤退による 8 月以降のターリバーン実効政権の成立に始まり、2022 年 2 月のロシアによるウクライナとの開戦、昨年 10 月 7 日のハマスによる先制攻撃とその後のガザ戦争など、中東情勢の激動が続いている。こうした現状を複

眼的な視点でより深く考察するためには中東の大国の一角を占めるイランとその現状についての理解が不可欠である。

11月にはアメリカ大統領選挙を控え、本講義では時事的な解説を随時織り込みつつイランイおよび中東地域についての最もベーシックな知識を項目別に提示する事から始め、後半ではイラン映画や映像記録から現代イラン社会の実像にアプローチしていく。

Since the Islamic Revolution of 1979, the relationship between Iran and the United States has been one of the aporias of modern history since the late Cold War, often deepening in complexity. Moreover, its impact extends beyond bilateral relations, deeply relating to the economy and security of the world, including Japan.

After the 2020 U.S. presidential election, the Biden administration took office in January 2021. Since then, there have been significant developments in the Middle East situation, starting with the establishment of the Taliban's effective administration following the U.S. military withdrawal from Afghanistan in August, the outbreak of war between Russia and Ukraine in February 2022, and the preemptive attack by Hamas and the subsequent Gaza War on October 7th of the previous year. To deeply contemplate these current situations from a multifaceted perspective, it is essential to understand Iran, which occupies a significant position among the major powers in the Middle East.

With the U.S. presidential election approaching in November, this lecture will begin by presenting the most basic knowledge about Iran and the Middle East region, item by item, while intermittently incorporating timely commentary. In the latter half, we will approach the real image of contemporary Iranian society through Iranian films and visual records.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：イランの暦と季節
- 3回：イラン・アフガニスタンと周辺国
- 4回：イランの地理的・風土的条件
- 5回：衣食住のイスラーム：シーア派とスンナ派
- 6回：イランの遊牧民社会と近代化
- 7回：日本人によるイラン農村社会研究
- 8回：イラン史とイラン近現代史
- 9回：A.アマーナト『イラン近現代史』について
- 10回：イラン映画と革命後のイラン社会
- 11回：イラン最大の石油都市アバダンとイラン映画
- 12回：革命ドキュメンタリー映画の観賞(1)
- 13回：革命ドキュメンタリー映画の観賞(2)
- 14回：今期の授業の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は講義期間中特にイラン・アフガニスタンおよび中東地域の国際報道を努めて接し、疑問点については授業中などに確認を行うことが望ましい。なお授業への出席に当たっては毎回事前に Campus-LMS にアクセスし、講義内容の概要や配布資料を確認すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:30% 学期中のレポート（2～3回程度）:30% 最終レポート:40%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

Abbas Amanat Iran: A Modern History Yale Univ. Press 2017 9780300112542

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

高校で学習する程度の世界史の知識を前提とする。

## 専門基礎 3

Workshops for Academic Researchers 3

ヨーロッパ系言語 1

畑 瞬一郎 (HATA SHUNICHIROU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC233

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

イタリア語文法の基礎を理解し、簡単な挨拶や会話ができるようになることをめざす。

Students will learn the basics of Italian grammar and gain ability in simple greetings and conversation.

### 授業の内容 / Course Contents

イタリア語の初級文法を習得する。

指定のテキストにしたがって文法事項を解説するとともに、習得した文法事項を応用する練習問題などを通して、理解を深め、使える外国語として定着させる。

Students will learn introductory-level Italian grammar.

While explaining the grammatical matters according to the specified texts, the course will deepen students' understanding through practice questions that apply the learned grammar, etc., to establish the language as a usable foreign language.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入 イタリア語について

- 2回：アルファベートと簡単な挨拶。  
 3回：名詞と冠詞  
 4回：直説法現在 essere / avere  
 5回：形容詞  
 6回：直説法現在・規則動詞  
 7回：直説法現在・不規則動詞  
 8回：直説法現在・不規則動詞2  
 9回：人称代名詞  
 10回：再帰動詞  
 11回：命令法  
 12回：直説法近過去  
 13回：直説法近過去2  
 14回：まとめと復習

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

外国語の初歩を学ぶ際は復習が重要である。短時間の復習を頻繁に繰り返すことが語学習熟のための効果的かつ効率的な学習法と認識されたい。家庭学習での復習は必須。テキストに掲載された問題が宿題となることも少なくない。

いずれにせよ、授業時間だけでの学習では十分ではなく、授業外での反復学習が求められることを理解した上で履修すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

#### テキスト / Textbooks

杉本裕之 『基礎イタリア語講座三訂版』 朝日出版社 2022 9784255553184 ○

池田廉 他 『伊和中辞典』 小学館 1999 9784095154022 ○

秋山余思 他 『プリーモ伊和辞典』 白水社 2011 9784560000854 ○

1. の教科書は「必須」。旧版は不可なので注意するように。
2. もしくは 3. の辞書は、いずれかの購入が強く推奨される（古本可）。

※ 電子辞書あるいはネット上の辞書類はあまりお勧めできない。

#### 参考文献 / Readings

長神 悟 『イタリア語のABC』 白水社 2018 9784560087831

藤谷 道夫、他 『入門 イタリア語の最初歩』 三修社 2013 9784384057508



## 専門基礎 4

Workshops for Academic Researchers 4

イングリッシュ・コンプリヘンション

長峰 樂 (NAGAMINE RAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC234

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

英語文献の講読と内容に関するプレゼンテーション、ディスカッションを通じ、イギリスの歴史が近世から近代へと推移する過程について、政治、経済、文化の側面から検討し、理解を深める。

This module aims to explore political, economical and cultural transformations, all of which took place in early modern and modern Britain, and to deepen our understanding of the transition of its history, through reading the relevant English literature, making presentations concerning its contents and discussing them.

### 授業の内容 / Course Contents

授業の予習として、各回約 20～30 頁程度のテキストの章を読む。毎週、決められた者がその週に扱う内容に関する報告を担当し、各回の報告担当者は内容に関するレジュメを用意する。プレゼンテーションをした後に、他の履修者との間で質疑応答を展開する。基本的に、授業は履修者同士によるディスカッションを中心として進行する。必要に応じて、イギリス史に関する基本的な用語を確認する。

Students are required to read chapters of the literature, whose pages range from 20 to 30, as preparation every week. Every student is supposed to make a presentation concerning chapters which a week covers. Those who

take charge of it prepare a resume beforehand and lead discussions with other students while answering their questions about the presentation. Basically, the module itself proceeds mainly through discussions among students, but we also confirm understanding of technical terms on British history when necessary.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 各回の報告者決め
- 2回：近世・近代のイギリス史について
- 3回：受講生による報告と質疑応答①
- 4回：受講生による報告と質疑応答②
- 5回：受講生による報告と質疑応答③
- 6回：受講生による報告と質疑応答④
- 7回：受講生による報告と質疑応答⑤
- 8回：受講生による報告と質疑応答⑥
- 9回：受講生による報告と質疑応答⑦
- 10回：受講生による報告と質疑応答⑧
- 11回：受講生による報告と質疑応答⑨
- 12回：受講生による報告と質疑応答⑩
- 13回：受講生による報告と質疑応答⑪
- 14回：学期のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の報告担当者だけではなく、それ以外の履修者も各回で取り上げるテキストの箇所を読み、内容把握や発言内容（疑問点等）の用意に努めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内報告と質疑応答への参加度:70% 最終レポート:30%

### テキスト / Textbooks

John Morrill Stuart Britain: a Very Short Introduction Oxford University Press 2000 9780192854001 -  
 Paul Langford Eighteenth-century Britain: a Very Short Introduction Oxford University Press 2000  
 9780192853998 -  
 Robert C. Allen Industrial Revolution: a Very Short Introduction Oxford University Press 2017  
 9780198706786 -

必要に応じて適宜指摘する。

### 参考文献 / Readings

## 専門基礎 6

Workshops for Academic Researchers 6

ヨーロッパ系言語 2

畑 瞬一郎 (HATA SHUNICHIROU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC236

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

イタリア語文法の基礎を理解し、平易な文を扱えるレベルに到達することをめざす。

Students will learn the basics of Italian grammar and will progress to the level of handling simple texts.

### 授業の内容 / Course Contents

イタリア語の初級文法を習得する（春学期の「専門基礎3」で学んだ知識に基づいて、さらに文法事項を学んでいく）。

指定のテキストにしたがって文法事項を解説するとともに、習得した文法事項を応用する練習問題などを通して、理解を深め、使える外国語として定着させる。

Students will learn beginner-level Italian grammar (progressing beyond the knowledge learned in Workshops for Academic Researchers 3 in the spring semester).

While explaining the grammatical matters according to the specified texts, the course will deepen students' understanding through practice questions that apply the learned grammar, etc., to establish the language as a usable foreign language.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：文法の復習（春学期学習事項の確認）  
 2 回：文法の復習（春学期学習事項の確認） 2  
 3 回：直説法半過去・大過去  
 4 回：直説法未来・先立未来  
 5 回：受動態  
 6 回：比較級・最上級  
 7 回：関係詞 1  
 8 回：関係詞 2 ジェルンディオ  
 9 回：条件法  
 10 回：接続法  
 11 回：接続法 2  
 12 回：遠過去・先立過去  
 13 回：補遺など  
 14 回：まとめと復習

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

外国語の初歩を学ぶ際は復習が重要である。短時間の復習を頻繁に繰り返すことが語学習熟のための効果的かつ効率的な学習法と認識されたい。家庭学習での復習は必須。テキストに掲載された問題が宿題となることも少なくない。

いずれにせよ、授業時間だけでの学習では十分ではなく、授業外での反復学習が求められることを理解した上で履修すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

**テキスト/ Textbooks**

杉本裕之 『基礎イタリア語講座三訂版』 朝日出版社 2007 9784255553184 ○

池田廉 他 『伊和中辞典』 小学館 1999 9784095154022 ○

秋山余思 他 『プリーモ伊和辞典』 白水社 2011 9784560000854 ○

1. の教科書は「必須」。旧版は不可なので注意するように。
  2. もしくは 3. の辞書は、いずれかの購入が強く推奨される。
- ※ 電子辞書あるいはネット上の辞書類はあまりお勧めできない。

**参考文献 / Readings**

長神 悟 『イタリア語のABC』 白水社 2018 9784560087831

藤谷 道夫、他 『入門 イタリア語の最初歩』 三修社 2013 9784384057508

**その他/ Others**

履修にあたっては原則として春学期の「専門基礎3」を修得していることが条件となる。

しかし「専門基礎3」を未履修であっても、そこまでの文法事項を習得済みである場合は履修を認めることがある。初回に申告があれば、習熟度をテストなどで個別に判断する。

## 専門基礎 7

Workshops for Academic Researchers 7

ヨーロッパ系言語 3

中辻 柚珠 (NAKATSUJI YUZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC237

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

チェコ語とチェコの文化・歴史の学習を通じて、西洋史研究に必要な文献・史料調査の方法を身に着けることを目指す。

We will learn Czech language, cultures and history and acquire skills needed to search previous studies and historical documents for the study of European history.

### 授業の内容 / Course Contents

最初にチェコ語と現在のチェコについて概観する授業を複数回にかけて行う。その後、チェコ語の初級文法について解説し、チェコの歴史を中世からチェコスロヴァキア建国期まで概説する。授業の最終部では、チェコにおけるナショナリズム研究／国民形成史研究の概観を行った上で先行研究の課題を示し、実際にチェコ語を用いて史料分析を行う。

First, this course provides an overview of Czech language and the current Czech Republic. We will then learn the basic Czech grammar and Czech history from the medieval era to the period after the establishment of the Czechoslovak Republic. Finally, we will see how to use historical documents for your study of history by

analyzing a case study in Czech. The case study will deal with the issue of nationalism.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス／受講者アンケートの実施
- 2回：チェコ語の概要
- 3回：現在のチェコ共和国概観：政治・社会
- 4回：「チェコ文化」とは？
- 5回：初級文法①：平叙文の語順、名詞の性
- 6回：初級文法②：形容詞の変化
- 7回：初級文法③：格変化
- 8回：チェコの歴史概観①：中近世
- 9回：チェコの歴史概観②：啓蒙主義時代の到来
- 10回：チェコの歴史概観③：民族運動の興隆
- 11回：チェコの歴史概観④：第一次世界大戦とチェコスロヴァキア独立
- 12回：先行研究を知る①：チェコにおける国民形成論
- 13回：先行研究を知る②：ナショナリズム研究の展開とナショナル・インディファレンス論
- 14回：史料を読む：芸術家たちが描いたネーション像

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

レジュメを事前に配布する。

### 参考文献 / Readings

保川亜矢子 『ニューエクスプレスプラス チェコ語』 白水社 2019 9784560088418

薩摩秀登 『チェコとスロヴァキアを知るための56章』 明石書店 2003 4750317004

薩摩秀登 『図説 チェコとスロヴァキアの歴史』 河出書房新社 2021 9784309763088

大津留厚、水野博子、河野淳、岩崎周一 『ハプスブルク史研究入門：歴史のラビリンスへの招待』 昭和堂 2013 9784812213155

金澤周作、桐生裕子監訳 『ナショナリズムとナショナル・インディファレンス：近現代ヨーロッパにおける無関心・抵抗・受容』 ミネルヴァ書房 2023 9784623094356

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

### その他 / Others

初回の授業で、受講生の理解度や関心を問うためのアンケートを行う。そのアンケートの結果に即し、授業内

容を調整する。



## 専門基礎 9

Workshops for Academic Researchers 9

近代資料論

蔭木 達也 (KAGEKI TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC239

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本近代の資料から、歴史上の言葉がどのような文脈でどのような意味において使われたかを理解するための分析手法を学びます。

In this lecture, students will learn analytical methods to understand the context and meaning of historical words from modern Japanese materials.

### 授業の内容 / Course Contents

受講者個々人の関心に基づいて各自が分析するテーマを設定した上で、そのテーマを明らかにするための方法の設定、資料の発見、資料の分析、考察の仕方などを学びながら、実際にそのテーマの分析に取り組み、授業内で報告します。報告の形式については、人数によって個別報告とする場合と、グループ報告とする場合があります。

Students will set a subject to analyze based on their interests at first. Students will research the topic and present a report in class while learning methods to find materials, analyze texts, and think about the subject. The format of the report depends on the number of people, that will be individual or group.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：授業内容の概説と進め方の決定
- 2 回：一次資料の探索方法と仮説設定
- 3 回：一次資料についての報告と討論（1）
- 4 回：一次資料についての報告と討論（2）
- 5 回：一次資料についての報告と討論（3）
- 6 回：二次資料の活用方法と資料の解釈
- 7 回：資料解釈についての報告と討論（1）
- 8 回：資料解釈についての報告と討論（2）
- 9 回：資料解釈についての報告と討論（3）
- 10 回：論証の肉付けと方向転換
- 11 回：論証についての報告と討論（1）
- 12 回：論証についての報告と討論（2）
- 13 回：論証についての報告と討論（3）
- 14 回：成果の振り返りと展望

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

資料調査、分析、報告の作成は、授業内でチュートリアルした後、授業時間外に行うものとします。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内報告:60% 授業内レポート:30% 討論への参加:10%

**テキスト / Textbooks**

特になし

**参考文献 / Readings**

授業内でご案内します

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

パソコンまたはタブレット端末など、10インチ以上の画面がありインターネットに接続できる端末が必要です。

## 専門基礎 13

Workshops for Academic Researchers 13

アジア・アフリカ系言語3

幸加木 文 (KOKAKI AYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC243

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2643

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

トルコ語の初級文法を習得するとともに、挨拶など簡単な日常会話の練習も行います。トルコ語に慣れ、簡単な文章を作れるようになることを目指します。

This class aims to learn basic Turkish grammar, practice daily conversation, and compose simple sentences, becoming familiar with Turkish.

### 授業の内容 / Course Contents

トルコ語の基本的な文法事項を学習し、学んだことを定着させるために練習問題を解きます。挨拶などの簡単な会話練習も行います。

トルコ語の音声・映像教材などを適宜利用して、トルコ語の学習を通じてトルコの社会や文化などについての理解を深めます。

In this course, students are expected to learn basic Turkish grammar and practice exercises to consolidate what they've learned. Students will also practice simple conversations such as greetings.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：トルコ語の文字と発音、母音調和
- 2回：平叙文と疑問文
- 3回：動詞の現在形、名詞の-de 格、-den 格
- 4回：動詞の過去形、名詞の-e 格、-le 格
- 5回：名詞の-nin 格、所属人称接尾辞
- 6回：複合名詞、存在文、所有文
- 7回：動詞の未来形、名詞の-i 格
- 8回：動詞の中立形
- 9回：動詞の提案形、命令形、願望形
- 10回：後置詞
- 11回：可能、不可能、動詞の-miş 過去形
- 12回：動名詞、義務、必要の表現
- 13回：副動詞
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の小テスト（複数回）、授業参加度:100%

4回以上欠席の場合は単位習得不可となります。

#### テキスト / Textbooks

東京外国語大学トルコ語専攻（編） 『トルコ語文法初級・中級』 東京外国語大学 2012 9784903386188

○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

週1回の授業で習ったことを忘れないよう、受講者には積極的な受講態度と復習をすることを期待します。

## 専門基礎 15

Workshops for Academic Researchers 15

カルトグラフィ

田中 雅大 (TANAKA MASAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC245

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2640

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

地図の概念、種類、作成・利用方法などを身につけ、社会生活の中でカルトグラフィ（地図学／地図作成法）を実践できるようになることを目指す。

The aims of this course are to learn the concepts, types and methods of creating and using maps, and to be able to practice cartography in our social lives.

### 授業の内容 / Course Contents

地図は学術的研究から日常生活まで幅広く利用されるツールであり、私たちの社会生活と密接に結びついている。本講義では、地図の歴史、概念、種類などの基本的な知識を紹介するとともに、地図の作成・利用に関する作業を行う。それらを通じて、カルトグラフィ（地図学／地図作成法）について総合的に学ぶ。

Maps are a tool widely used from academic research to everyday life, and are closely connected to our social lives. This course introduces basic knowledge of the history, concepts, and types of maps, and practice the creation and use of maps. Through these tasks, students will learn about cartography in a comprehensive way.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の概要を説明した後、初回の内容として地図・地図学とは何かについて講義する。
- 2回：地図・地図学の歴史：西洋と日本における地図・地図学の歴史について講義する。
- 3回：地図の種類と基礎概念：地図にはどのような種類があるか、また地図はどのような概念によって構成されているかについて講義する。
- 4回：国土を測り・描く：基本図（主に地形図）はどのように作られてきたかについて講義する。
- 5回：地球を測り・描く：球体である地球を平面上に表現する技法である投影法について講義する。
- 6回：地図表現の技法：主題図（特定のテーマを色分けなどによって表現した地図）を作成するにあたって必要となる技法について講義する。
- 7回：地図利用①（自然分野）：国土地理院が刊行している地形図の読図について講義する。その後、作業を通じて自然条件の読み取りを行う。
- 8回：地図利用②（人文・社会分野）：主題図の読図について講義する。その後、作業を通じて人文・社会現象の読み取りを行う。
- 9回：地図のデジタル化①：デジタル地図や地理情報システム（GIS）の歴史、仕組み、可能性について講義する。
- 10回：地図のデジタル化②：インターネット上で使用可能なオンラインデジタル地図について講義する。その後、実際にオンラインデジタル地図を操作し、アナログ地図との違いについて考える。
- 11回：地図のデジタル化③：地理情報システム（GIS）を利用した地図作成や空間分析について講義する。その後、実際にGISを操作して主題図を作成する。
- 12回：地図と社会①：私たちが頭で思い描く地図（メンタルマップ、認知地図）について紹介し、それが実際の地図の作成・利用とどのように関わっているかを講義する。
- 13回：地図と社会②：地図の作成・利用をめぐる倫理的問題を紹介し、地図に対する批判的なアプローチについて講義する。
- 14回：まとめ：講義全体の内容を振り返り、最終レポートについて説明する。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義中に指示する小レポート:30% 講義中に指示する作業課題:30% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位取得不可。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

アーサー・H. ロビンソン [ほか] 共著；永井信夫訳 『地図学の基礎』 地図情報センター 1984  
4807181092

マーク・モンモニア著；渡辺 潤訳 『地図は嘘つきである』 晶文社 1995 4794962185

浮田典良・森 三紀 『地図表現ガイドブック：主題図作成の原理と応用』 ナカニシヤ出版 2004  
4888488479

若林芳樹 『地図の進化論：地理空間情報と人間の未来』 創元社 2018 9784422400372

若林芳樹 『デジタル社会の地図の読み方 作り方』 筑摩書房 2022 9784480684196

# フィールドワーク H1b

Field Work H1b

都人の生活を追う：飛鳥・奈良

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC251

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3530

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象地に自ら赴き見聞することを通じて、日本史研究を進めていく上で必要となる地図の読み方や史料調査に関する能力を高めることを目標とする。

The goal is to improve the ability to read maps and research historical materials, which are necessary for advancing Japanese history research, by visiting the research site and visiting them.

## 授業の内容 / Course Contents

飛鳥・奈良の都城を対象とし、各々が事前学習会でたてた計画に従って調査する。時代は日本古代史にとどまらず、対象も芸能、都市計画、宗教施設など、各人の興味に従う。

Target cities such as Asuka and Nara, and conduct surveys according to the plans made by each of them in the pre-study session. The era is not limited to the ancient history of Japan, and the subjects also follow the interests of each person, such as entertainment, city planning, and religious facilities.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：説明会



- 2回：事前学習会（1）
- 3回：事前学習会（2）
- 4回：事前学習会（3）
- 5回：事前学習会（4）
- 6回：事前学習会（5）
- 7回：事前学習会（6）
- 8回：事前学習会（7）
- 9回：現地調査
- 10回：現地調査
- 11回：現地調査
- 12回：現地調査
- 13回：現地調査
- 14回：成果報告会

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドワークの日程は、3泊4日夏季休暇中、9月上旬を予定している。第1回目の事前学習会を4月11日（木）12:30～13:25を対面で実施するので、出席すること。以降の事前学習会は、ハイブリッドで行う予定。詳細は、以下のその他欄を見ること。調査以外に、事前学習会を実施して調査対象に関する準備を行い、調査後には成果発表会を行う。調査に主体的に参加していただきたい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% フィールドワーク参加・事前学習会:59% 成果報告会:41%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

以下の第1回事前学習会に必ず出席してください。

日時：2024年4月11日（木）12:30～13:25

実施方法：対面

場所：5号館5308教室

履修を検討しているにも関わらず参加できない場合は、事前に担当者（fukatsu@rikkyo.ac.jp）にメールにて連絡すること。

## 専門基礎 17

Workshops for Academic Researchers 17

古文書・古代

河野 保博 (KAWANO YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC257

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2540

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

歴史学において「古文書」とは何かということを理解し、古代の史料を読解するための知識とスキルを習得することを目指します。あわせて「古文書」の作成された時代の背景を学び、それらの文書群がいかなる歴史的状況のもとに出現、使用されるのか、総体的に理解する視野を獲得したいと思います。

Students are expected to understand an ancient document in many ways in historical science and to acquire the knowledge to read and the skills to comprehend. Students are expected to learn the background in the time of the ancient document all together and understand the view of under what kind of historical circumstances ancient documents appear and are used.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では日本古代における様々な「古文書」を取り上げて解説し、さらにそれらが作成された時代の歴史をどのように復元するかという点に注意しながら分析していきます。受講生は教員から提示された「古文書」に取り組むことで、読解のスキルを身につけられるようにします。

This course takes up various ancient documents in Japanese antiquity and analyzes the point of how to restore

history contemporary with an ancient document in particular. Students are expected to learn the skills of reading and comprehension while working on the ancient document shown from instructor.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：古代における「文書」
- 2回：古代の文書行政と制度
- 3回：天皇の意思を伝える－詔・勅・宣命－（1）
- 4回：天皇の意思を伝える－詔・勅・宣命－（2）
- 5回：天皇へ意思を伝える－上奏－（1）
- 6回：天皇へ意思を伝える－上奏－（2）
- 7回：下達の文書－符－（1）
- 8回：下達の文書－符－（2）
- 9回：上申の文書－解－（1）
- 10回：上申の文書－解－（2）
- 11回：平行の文書－移・牒－（1）
- 12回：平行の文書－移・牒－（2）
- 13回：外交の文書－国書－
- 14回：出土する文書－文書木簡－

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習を兼ねて、授業で配布された史料を読解し、提出してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 提出課題:30% リアクションペーパー:20%

提出課題は単元ごとに課し、リアクションペーパーは授業ごとに提出してもらいます。

### テキスト / Textbooks

なし。講義時にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

佐藤進一 『新版 古文書学入門』 法政大学出版社 2003 9784588320118

荻米一志 『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 吉川弘文館 2015 9784642082730

その他、配布プリントにて適宜紹介します。

## 史学講義 2

Lectures on History 2

地中海世界 2

山内 暁子 (YAMAUCHI AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC302

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

古代ギリシア社会を学ぶことで自らを客観視する視座を獲得し、史料に基づいた歴史像を持つようになること  
To gain an objective perspective and obtain a historical knowledge based on ancient Greek texts, images and archaeological sites and artifacts

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では、古代ギリシアの市民社会における様々な儀式や祭典について考察を試みる。歴史学の基本である文献史料だけでなく、遺物や遺跡、また画像などの「モノ」資料も使用する。それによって現段階で史料から読み取れることを考察し、さらなる展望について検討する。歴史学の基本的な史料解釈に始まり、現代的・学際的な研究手法についても目を向けながら、様々な歴史考察の可能性を考えてみたい。

In this lecture, we will survey various rituals and festivals in ancient Greek civilc society. We use not only ancient Greek texts, which are fundamental to historical researches, but also 'object' materials such as ancient artifacts, offerings for gods, and vase paintings. Starting with the basic interpretation of ancient historical texts, literary

sources and inscriptions, we will look into various possibilities for historical consideration using modern and interdisciplinary research methods.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ギリシア人の宗教：オリュンポスの神々

古代ギリシア宗教の特徴である多神教のシステムを理解する。神々の名前と属性を各自習得すること。

2回：人間と神々：古代ギリシア人の運命観

古代ギリシア人が神々をどのように位置付けていたのかを、神話伝承や文献から検討する。文献の時代背景や語彙について各自で確認しておくこと。

3回：古代ギリシアの動物犠牲：神々の祭壇での儀式

動物犠牲と「敬虔」について解説するが、講義内で説明した用語や地名、神々の名前などについて各自で確認すること。

4回：犠牲式と「骨」：遺物から分かる犠牲式

動物犠牲の儀式について、文献史料に残された記述を検討するが、その史料について復習すること。講義では内容を解説するが、著者や時代背景については、各自で調べておくことが望ましい。

5回：犠牲式と「骨」：図像に描かれた「物体」は何か

動物犠牲の儀式について、考古学的な遺物から検討する。それぞれの聖域の所在地を確認し、古代ギリシア人の居住地の広がりについて理解すること。

6回：古代ギリシア人の「死」：冥界への道

「死」に関するギリシア人の神話や一般的な価値観を考察する。神々の名称や神話物語を確認すること。

7回：古代ギリシア人の「死」：葬儀を執り行う人々

ギリシア人は葬儀と埋葬を重視する人々であった。文献史料から当時の儀式の様子を検討するが、それぞれの史料がどのような位置付けであるのか確認すること。

8回：墓碑に刻まれた死者：誰が死者なのか

アテナイの墓碑彫刻を史料として、当時のアテナイ人の死生観について検討する。関連する事項や歴史的背景について、用語や詳細を調べておくこと。

9回：墓と呪詛：「クトニオス」の神々への呼びかけ

様々な呪詛板を取り上げ、「オリュンポス」の神々とは異なる存在について考察する。古代ギリシア以外の遺物も取り上げるため、地名や時代背景などは各自で確認するのが望ましい。

10回：聖地エレウシス：農耕神デメテルの神話

エレウシスの地を舞台としたデメテルの神話について解説する。関連する地名や神々の名前について、各自で確かめておくこと。

11回：エレウシス秘儀：来世での幸福と入信

特殊な来世観と「秘儀」入信の過程について解説する。紹介された文献史料の作者や成立状況について、分からない点を調べておくこと。

12回：エレウシス秘儀：秘儀に集う人々

秘儀に参加した人々の具体的な事例を検討する。当時のアテナイの歴史や社会状況について、講義だけで理解できなかった部分は自習で補完しておくことが望ましい。

13回：オルフェウス教：来世観と「禁欲」

オルフェウス教徒の神話物語について解説するが、神々の名称や関連する神話について、各自でさらに調べてみる。

14回：金板文書：「記憶」に至る道案内

遺物である「金板」から読み取れる来世観を考える。講義内容を通して得た古代ギリシアの歴史像を、自分なりに再検討してみること。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外学習については、上で各回ごとに示しているので、参考にすること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト/課題 (複数回) :75% アンケート:25%

CanvasLMS の「アンケート」で講義内容についての質問や感想を提出し、評価の対象 (25 点) とする。質問や感想は、次の回の講義資料の中で取り上げられることがあるので、公開を前提として記述すること。評価の中心は、CanvasLMS での「小テスト/課題」実施となる (75 点)。講義開始後、CanvasLMS のシステムの利用状況と実際の受講者人数を鑑み、「小テスト/課題」の実施について周知する。最後の課題については、未提出者は単位取得意思がないものとみなすので、注意すること。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

テキストは指定しないが、参考文献は適宜講義内で紹介する。また、PDF にリンクされている画像や動画などの関連資料を見ることで、学習内容を定着させること。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

最終的には古代ギリシアの遺物や文字史料など、専門性の高い領域にも言及するが、「オリュンポスの神々」に始まり、基本的な宗教的慣習から解説するため、初学者でも問題はない。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンラインで実施するため、Zoom や CanvasLMS に接続する必要があり、個別の PC で対応することが望ましいが、基本的には CanvasLMS にアクセスすることが可能で、小テストや課題、アンケートを提出できるならば問題はない。

## 史学講義 4

Lectures on History 4

前近代における法と国家

内川 勇太 (UCHIKAWA YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC304

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

アングロ＝サクソン期イングランド（450 年頃から 1066 年）の政治的統合過程を概観する中で、同時期の法と国家に関する基本的な知識の習得を目指す。

This course aims to outline the process of the political integration of Anglo-Saxon England (c. 450-1066) and the development of its law.

### 授業の内容 / Course Contents

アングロ＝サクソン期イングランドの歴史を、写本や文書などの文字資料・貨幣・考古学資料等の画像を積極的に活用しながら概観する。前半においてアングロ＝サクソン期の政治的統合過程を概観したのち、後半においてアングロ＝サクソン期イングランドの法と国家の実態を様々な角度から考察する。

An overview of the history of Anglo-Saxon England will be presented by using written sources, coin finds and archaeological finds. The first part concerns with the political integration of England while the second part considers law and state in the period from various perspectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：イングランドの政治的統合過程①：アングロ＝サクソン人の移住と諸王国の成立
- 3回：イングランドの政治的統合過程②：キリスト教への改宗と教会組織の整備
- 4回：七王国（ヘプターキー）概念とブリテンの覇者（ブレットワルダ）概念
- 5回：イングランドの政治的統合過程③：マーシア王国の覇権
- 6回：イングランドの政治的統合過程④：ヴァイキングの侵入
- 7回：イングランドの政治的統合過程⑤：ウェセックス王国によるイングランド地域の政治的統合
- 8回：イングランドの政治的統合過程⑥：デーン人とノルマン人による2度の征服とアングロ＝サクソン期イングランドの終焉
- 9回：アングロ＝サクソン期の統治制度と文書
- 10回：アングロ＝サクソン期の法典①：7世紀から8世紀
- 11回：アングロ＝サクソン期の法典②：9世紀から11世紀
- 12回：集会
- 13回：貨幣制度
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・初回までに参考文献の該当箇所を可能な範囲で読んでおくことが望ましい。
- ・毎授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・その他必要があれば適宜指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

- 近藤和彦編 『イギリス史研究入門』 山川出版社 2010 9784634640368
- 青山吉信編 『世界歴史体系イギリス史1：先史 - 中世』 山川出版社 1991 9784634460102
- トマス・チャールズ＝エドワーズ編・常見信代監訳 『オックスフォードブリテン諸島の歴史2：ポスト・ローマ』 慶應義塾大学出版会 2010 9784766416428
- ウェンディ・デイヴィス編・鶴島博和監訳 『オックスフォードブリテン諸島の歴史3：ヴァイキングからノルマン人へ』 慶應義塾大学出版会 2015 9784766416435
- Patrick Wormald The Making of English Law: King Alfred to the Twelfth Century, Vol. I Legislation and its Limits Blackwell 1999 0631134964
- John Hudson The Oxford History of the Laws of England: Vol. II, 871-1216 Oxford University Press 2012 9780198260301

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course



- ・高校世界史 B / 世界史探究相当の知識

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

- ・インターネットに接続可能かつパワーポイント、ワード、pdf 等の閲覧・編集が可能な PC、タブレット、スマートフォン等の情報機器

**その他 / Others**

- ・質問はリアクションペーパーまたは初回時に指示するメールアドレスで受け付ける。

# 史学講義 5

Lectures on History 5

近代ヨーロッパ1

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC305

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

産業革命下のイギリス社会における栄養と健康の問題を、1930 年代南ウェールズの炭鉱地区で行われた妊娠期の女性への栄養補助事業から探求する。

This lecture examines a topic of nutrition and health in the industrialized Britain, particularly focusing on a public/philanthropic project of providing nutritious supplements for pregnant women in South Wales in the 1930s.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、1930 年代南ウェールズの炭鉱地区で行われた妊娠期の女性への栄養補助事業を主題とする。これは、ナショナル・バースデイ・トラスト・ファンドという富裕な女性たちが運営する慈善団体が、失業特別地域監督庁と呼ばれる公的機関と連携の上実施した事業である。授業に際しては、①先行研究文献（英語）、②事典等の補助的な参考書、③公的文書・雑誌・未刊行史料などの一次史料の 3 種類の文献・史料を実際に示し、具体的な研究作業のあり方を提示する。

This lecture studies a public/philanthropic project of providing nutritious supplements for pregnant women in

South Wales in the 1930s. This project was conducted by the National Birthday Trust Fund, a philanthropic body run by wealthy women, with cooperation of the Commissioners for the Special Areas Act 1934. In doing so, it shows how to conduct a historical research through reading i)secondary materials, reference books and primary materials including official documents, journals and newspapers, and unpublished sources.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：近現代イギリスにおける栄養と健康の歴史（英語二次文献）
- 3 回：栄養疫学から学ぶ栄養と健康の歴史（英語二次文献）
- 4 回：20 世紀前半ウェールズにおける女性・栄養・健康（英語二次文献）
- 5 回：慈善団体ナショナル・バースデイ・トラスト・ファンド（英語二次文献）
- 6 回：ボールドウィン夫人とリス＝ウィリアムズ夫人（伝記辞典・参考書）
- 7 回：保健省妊産婦死亡率問題報告書（公的文書・一次史料）
- 8 回：失業特別地域監督庁報告書（公的文書・一次史料）
- 9 回：ナショナル・バースデイ・トラスト・ファンド史料群 1（未刊行史料・一次史料）
- 10 回：ナショナル・バースデイ・トラスト・ファンド史料群 2（未刊行史料・一次史料）
- 11 回：ナショナル・バースデイ・トラスト・ファンド史料群 3（未刊行史料・一次史料）
- 12 回：ナショナル・バースデイ・トラスト・ファンド史料群 4（未刊行史料・一次史料）
- 13 回：グラモルガン公文書館公衆衛生医務官文書群 1（未刊行史料・一次史料）
- 14 回：グラモルガン公文書館公衆衛生医務官文書群 1（未刊行史料・一次史料）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を通じて指示を行う

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎に提出する小レポート:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業では、英語で書かれた研究文献や一次史料を、和訳をすることなく原語のまま（そのまま英語で）用います。そのため、授業内容を理解するためには、西洋史・イギリス史の研究に必要な一定の英語読解能力が必要です。歴史の知識を教授するタイプの一般的な講義ではなく、実際の研究作業を原語で見ることを主眼とした、専門性の高い授業です。毎回の授業後に課される小レポートも、そうした高い専門性を前提とした課題に答えてもらうこととなります。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

配布物は Canvas LMS でデジタル配布をしますので、PC を持参してください。

# 史学講義 7

Lectures on History 7

グローバルヒストリー

宮田 絵津子 (MIYATA ETSUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC307  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

前半は東アジアの歴史についてみていくが、後半は中国陶磁器の世界的流通から歴史の再構築を行うことが目的である。

The first half of the classes will refer to the History of East Asia. The latter part of the classes will refer to reconstruction of the world history by an approach to the worldwide history of ceramic trade.

## 授業の内容 / Course Contents

中国陶磁器の誕生と海外貿易への道のりから世界商品へと成長していく過程を、世界各地の貿易の成長を見ながら流通史、経済史の理論と方法論を考える内容。

By approaching to the expansion of the history of Chinese ceramics trade, the class intends to understand the theory and methodology of world distribution, history of global economics.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：中国陶磁器の誕生

2 回：唐代の中国陶磁器とシルクロード

- 3回：スパイスロードと中国陶磁器の海外進出  
 4回：大航海時代－スペインの海外進出（中国陶磁器から見る歴史）  
 5回：大航海時代－マニラ・ガレオン貿易の構造（出土陶磁器からの歴史考察）  
 6回：華僑の東南アジアへのディアスポラ  
 7回：東南アジアと交易の時代  
 8回：鄭和と海外遠征事業（陶磁器輸出から見る鄭和の航海事業）  
 9回：中国元代の東西交易（シルクロードと陶磁貿易）  
 10回：宋代の海外交易と陶磁器  
 11回：明代の海外輸出事業（絹・陶磁器からみた南部商人の活躍）  
 12回：ラテン・アメリカへの中国陶磁器の輸出と空間的分布から見た貿易構造  
 13回：ヨーロッパにおける中国陶磁器の流通1  
 14回：ヨーロッパにおける中国陶磁器の流通2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の復習は必須。また、関連する書籍を読むことも必要。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40%

最終レポート割合 :20% 最終テスト割合 :20%

#### テキスト / Textbooks

宮田絵津子 『マニラ・ガレオン貿易』 慶應義塾大学出版会 2017 9784766424713 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

中国陶磁器から世界への流通の歴史を考察する授業であるため、中国陶磁器、陶磁器について興味があること。経済史、貿易史についても学ぶ意欲があること。

#### その他 / Others

必ずシラバス通りに授業は勧められない場合もあるので、かならず Canvas LMS のコンテンツを確認してから出席すること。欠席は3回まで。学生証を忘れるとカードリーダーでは読み取れず、欠席扱いになるので注意してください。感染症（コロナ・インフルエンザ）については、欠席証明書を必ず紙媒体で直接提出すること。メールでの申告は受け付けません。授業中の携帯電話の使用は厳禁とします。

# 史学講義 10

Lectures on History 10

前近代東アジア・ユーラシア2

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC310

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） オンラインでの授業です。必ず立教アカウントから Zoom にアクセスしてください。

Zoom のアカウントは、CanvasLMS にて連絡します。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

東ユーラシアの歴史を、先史時代から 19 世紀までたどります。従来の地域区分では、東アジア・中央アジア・東南アジア・南アジアならびに海域アジアとなり、それらの地域のあいだの物・人・情報・宗教の流れを明らかにすることを目的とします。

This study traces the history of East Eurasia from prehistoric times to the 19th century. Employing conventional regional divisions, it encompasses East Asia, Central Asia, Southeast Asia, South Asia, and Maritime Asia. The objective is to elucidate the dynamics of the flow of commodities, people, information, and religious practices among these regions.

## 授業の内容 / Course Contents

現在の世界情勢は、これまで存在していたすべての歴史観の見直しを迫っています。グローバルヒストリーなどは、現在の状況を説明できません。また実証に基づかない歴史物語が国際的な緊張をもたらしています。本

講義では、こうした情勢に向かい合うために、生態環境という視点に立ち返って、新たな歴史観の提示を目指したいとおもいます。空間的枠組みを「東ユーラシア」と名づけ、歴史物語ではなく、これまで蓄積されてきた実証史学の基礎の上になんて、その全史を先史時代から近代の幕開けの時代まで通観します。

The current global situation is compelling a reevaluation of all existing historical perspectives. Discourses such as global history are inadequate in explaining the present circumstances. Moreover, non-evidence-based historical narratives are contributing to international tensions. In this lecture, in order to confront such situations, we aim to present a new historical perspective by returning to the viewpoint of the ecological environment. Designated as "East Eurasia" within a spatial framework, we intend to provide a comprehensive view of the entire history from prehistoric times to the dawn of the modern era, grounded on the foundation of accumulated empirical historiography rather than mere historical storytelling.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：導入 ユーラシアを俯瞰する視座

2回：序章 2つの歴史観

日本で提起された歴史観—梅棹忠夫の「文明の生態史観」／歴史観の歴史のなかで—進歩史観・唯物史観・世界システム論……／見落とされていた海の視点—川勝平太の「文明の海洋史観」／求められる新たな歴史観—欧米とは異質な中国とインドの隆盛を踏まえた歴史観

3回：第1章文明の交易史観

梅棹の「ユーラシア大陸の理想型」/東ユーラシアと西ユーラシアの境界/生態環境に規定される生業、人々の暮らし、物産/時代とともに物産の組み合わせ/内陸と海洋をめぐる交易の路/多様な史料にもとづく実証的研究の進展

4回：第2章文明の誕生（先史時代から後2世紀）

略奪という交易、リレー式の交易/内陸からのインパクト—青銅器は内陸から農耕地域へ/アーリア人のインド亜大陸の進出/内陸との緊張関係のなかで形成された中原の文明/モンスーンを利用した海洋の交易

5回：第3章 伝統の形成（3～6世紀）

東アジアにおける漢字・律令などの広がり/漢訳仏教の成立/内陸アジアからのインパクト/海域アジアにおける航路の開拓/上座部仏教の東漸/交易の展開

6回：第4章 キャラバン交易の隆盛（7～9世紀）：陸域

ソグド人ネットワークの形成/遊牧帝国とオアシス国家/唐王朝とキャラバン交易

7回：第5章 海域ネットワークの形成（7～9世紀）：海域

南インド・東南アジアにおける諸王朝の成立/仏教ネットワークの形成/交易ネットワークの発展

8回：第6章 東ユーラシアの南北分立の時代（10・11世紀）

中国船ジャンクの海洋進出/契丹・女真の帝国

9回：第7章 パクス・モンゴリカ（12・13世紀）

モンゴル帝国下の内陸・海域交易の隆盛

10回：第8章 朝貢・海禁・密貿易・海賊

明朝の対外政策/鄭和の大航海/倭寇と呼ばれる密貿易商人/ポルトガル・スペイン人の参入

11回：第9章 内陸アジア統一への模索

モンゴル高原におけるモンゴル諸勢力の興亡/チベット仏教の浸透

12回：第10章 領域的国家の形成

ダイチングルン（清朝）の成立／江戸武家政権下の日本／オランダ・イギリス人の参入

13回：第11章 近代に向かう東ユーラシア

欧米が主導するグローバルな世界に包摂される東ユーラシア

14回：終章 日本と東ユーラシア

東ユーラシアの歴史を眺望することで、何が見えてくるのか、考える。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：配付資料を熟読し、授業で扱う時期の概略を把握する。

復習：興味を持ったテーマについて、文献に基づいて考察する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクションペーパーの内容:60% 授業中に行う理解度チェック:40%

### テキスト / Textbooks

上田信 『東ユーラシアの生態環境史』 山川出版社 2006 9784634348301 ○

### 参考文献 / Readings

『岩波講座世界歴史』最新版 04,05,06,07,10,12,17 所収の論考をしばしば参照します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

CanvasLMS のディスカッションの機能を用いる場合がありますので、事前に使い方に慣れておいてください。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマホではなくパソコンまたはタブレットを使用してください。



# 史学講義 11

Lectures on History 11

前近代における法と国家

紺谷 由紀 (KONTANI YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC311

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古代ローマ帝国の後継として東地中海沿岸を中心に支配したビザンツ帝国 (4 世紀から 15 世紀まで) の歴史的展開に関する基本的な知識の習得を目指す。中でも法史料に注目し、ビザンツ皇帝たちがローマ法をはじめとする古代ローマ帝国の遺産をいかに受け継いで利用し、現実の社会に適合させていったのかという点について理解を深めることを目標とする。

This course begins with an overview of the history of the Roman Empire and the development of Roman law. The subsequent history of the Byzantine Empire is followed mainly from the reign of Constantine I to the capture of Constantinople by the Fourth Crusade in 1204. At the same time, we will examine various aspects of Byzantine imperial society, making active use of the legal sources.

## 授業の内容 / Course Contents

古代ローマ帝国の歴史とローマ法の発達について概観した上で、その後のビザンツ帝国の歴史を主にコンスタンティヌス 1 世の治世から 1204 年の第 4 次十字軍による首都コンスタンティノープルの占領まで追っていく。それと並行して、当時の法史料を積極的に活用しながら、ビザンツ帝国社会の諸側面について考察する。

This course begins with an overview of the history of the Roman Empire and the development of Roman law. The subsequent history of the Byzantine Empire is followed mainly from the reign of Constantine I to the capture of Constantinople by the Fourth Crusade in 1204. At the same time, we will examine various aspects of Byzantine imperial society, making active use of the legal sources.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ローマ帝国とローマ法1
- 3回：ローマ帝国とローマ法2
- 4回：「3世紀の危機」と帝国社会の変容
- 5回：コンスタンティヌス1世と4世紀以降の帝国
- 6回：ユスティニアヌス1世と法典編纂事業1
- 7回：ユスティニアヌス1世と法典編纂事業2
- 8回：まとめ1
- 9回：7世紀以降の帝国の変容とローマ法
- 10回：マケドニア朝と帝国の繁栄
- 11回：マケドニア朝前期の法
- 12回：マケドニア朝後期の法
- 13回：12世紀以降のビザンツ帝国と法
- 14回：まとめ2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は特に必要としないが、レジュメやノートを見直し、毎回の授業内容を復習した上で授業に臨むこと。その他の授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて「Canvas LMS」などで別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%  
 平常点割合 :30% 各授業後のリアクションペーパーの内容:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 井上浩一 『生き残った帝国ビザンティン』 講談社 2008 9784061598669  
 ゲオルグ・オストロゴルスキー著、和田廣訳 『ビザンツ帝国史』 恒文社 2001 9784770410344  
 中谷功治 『ビザンツ帝国 千年の興亡と皇帝たち』 中公新書 2020 9784121025951  
 根津由喜夫 『ビザンツの国家と社会』 山川出版社 2008 9784634349421  
 ポール・ルメルル著、西村六郎訳 『ビザンツ帝国史』 白水社 2003 9784560058701

その他の参考文献は授業中に提示する。

### その他 / Others

質問はリアクションペーパーまたは初回時に指示するメールアドレスで受け付ける。必要であると判断した場

合には次回授業開始時に回答し、解説を行う。

# 史学講義 14

Lectures on History 14

近代東アジア・ユーラシア 2

今野 純子 (KONNO JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

清代から日本統治期にかけて、台湾の主要な輸出商品であった台湾茶を軸に、伝統産業が近代産業に移行する過程を生産、流通、消費の観点から理解する。

This course discusses the process by which Taiwan's tea industry transitioned from traditional handmade to modern mechanized industries during the Qing dynasty and the Japanese colonial period in terms of production, distribution, and consumption.

## 授業の内容 / Course Contents

アジアの近代化について、日本の台湾植民地統治における茶業振興の実例をもとに検討する。

This course analyzes the modernization of Asia based on actual examples of the promotion of the tea industry during the Japanese colonial period in Taiwan.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：「茶」とグローバルヒストリー

2 回：アジアの中の台湾①：台湾茶業社会の形成

- 3回：アジアの中の台湾②：台湾総督府と茶  
 4回：茶のネットワーク①：閩南人と茶  
 5回：茶のネットワーク②：客家人と茶  
 6回：茶のネットワーク③：日本人と茶  
 7回：近代消費社会と茶①：アメリカ社会と茶  
 8回：近代消費社会と茶②：ニセモノかホンモノか  
 9回：近代消費社会と茶③：茶と広告  
 10回：農業作物から工業製品へ①：手工業からエステートへ  
 11回：農業作物から工業製品へ②：茶と人材育成  
 12回：農業作物から工業製品へ③：茶と多国籍企業  
 13回：農業作物から工業製品へ④：茶と帝国  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

下記参考文献などを参照し、知識を深めてほしい。可能であれば、台湾の旧跡を訪ね見聞を広げてほしい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー・授業への参画度（質問や意見などの発言）：60% 中間テスト：20% 最終レポート：20%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

河原林直人 『近代アジアと台湾：台湾茶業の歴史的展開』 世界思想社 2003 4790710203

角山栄 『茶の世界史：緑茶の文化と紅茶の社会』 中央公論新社 2017 9784121805966

# 史学講義 15

Lectures on History 15

アジア海域1

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC315  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

国家・王朝断代史になりがちになってしまう東西ユーラシアの歴史を、東方アジア海域（南シナ海・東シナ海海域）、インド洋海域、地中海海域という異なる海域世界の連鎖と交流という視点から捉えなおし、「隔てる」と同時に「結びつける」という海域世界が果たした役割を考慮しつつ、東西ユーラシアの「歴史」を広域的・多角的な視点から柔軟に捉えられるようになること。

また、文化や価値観が異なると同時に同じ環境や社会を共有する「広域文化圏」「広域社会」という視点から現在の自分が置かれた環境や社会について考えてみてください。

The maritime world not only separates some regions from other regions but also connects one from others. This course aims to get a multiple and flexible cognition from the maritime world history.

## 授業の内容 / Course Contents

東アジア海域から地中海東海域に及ぶ広義の「インド洋海域世界」或いは「海域アジア世界」は古来からアジア世界、イスラーム世界、地中海世界を結ぶ要であり、東西ユーラシアを結ぶ「海の道」でした。また、大きな海域世界はよりミクロな海域世界が重層的に連鎖して形成され、様々な次元の文化圏が交わる境域世界でも

ありました。本講義ではインド洋東海域世界・両シナ海海域世界（＝東部アジア海域世界）およびインド洋西海域世界～地中海海域世界の成り立ちと歴史的展開、その構成要素となる各海域世界の交流について解説をおこないます。

“Indian Ocean World” that is to say “Maritime Asian World” has been an important hub connecting Asia, the Islamic World (so-called Middle East), and the Mediterranean World and the Maritime Road (so-called Ceramic Road) between East-West Eurasia. At the same time, a major maritime world contains some small maritime worlds including various cultural spheres. This course deals with the origin, expansion, and interaction of the Maritime Asian World, its history, and culture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導論：海域アジア世界とは
- 2 回：海域アジア世界西部の形成と展開 1：イスラーム以前のインド洋西海域～東地中海世界
- 3 回：海域アジア世界西部の形成と展開 2：イスラームと海域アジア世界 1
- 4 回：海域アジア世界西部の形成と展開 3：イスラームと海域アジア世界 2
- 5 回：海域アジア世界東部の形成と展開 1：中国と海域アジア世界 1
- 6 回：海域アジア世界東部の形成と展開 2：中国と海域アジア世界 2
- 7 回：海域アジア世界東部の形成と展開 3：東南アジアの領域国家と港市国家
- 8 回：海域アジアにおける人の移動：マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ
- 9 回：海域アジアにおけるモノの移動 1：銀・絹・馬
- 10 回：海域アジアにおけるモノの移動 2：陶磁器とデザインの伝播
- 11 回：海域アジアからみた日本と琉球 1
- 12 回：海域アジアからみた日本と琉球 2
- 13 回：海域アジアの海上信仰 1：イスラームと地中海
- 14 回：海域アジアの海上信仰 2：東アジアと東南アジア

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

それぞれの回の講義に関する参考文献を読んだり、関連する報道などを調べたりしてみてください。参考文献については、シラバスで挙げたものの他に講義内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度：60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

家島彦一 『インド洋海域世界の歴史 ――人の移動と交流のクロス・ロード』 筑摩書房（ちくま学芸文庫）  
2021 4480510699 ○

四日市康博 『モノから見た海域アジア史』 九州大学出版会 2023 9784873789668 ○

### 参考文献 / Readings

吉澤誠一郎 『論点東洋史』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092178

桃木至朗ほか（編） 『海域アジア史研究入門』 岩波書店 2008 9784000224840

家島彦一 『海域から見た歴史：インド洋と地中海を結ぶ交流史』 名古屋大学出版会 2007 4815805342



# 史学講義 17

Lectures on History 17

世界大戦とヨーロッパ

尾崎 修治 (OZAKI SYUUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

20 世紀世界の形成に大きな影響をおよぼした世界大戦の時代を歴史的に考察することで、現代社会のありかたを考える視座をえること。

This course aims, through historical reflection, to acquire keys to understanding the complex contemporary world.

## 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパにおける二度の大戦争、第一次世界大戦と第二次世界大戦はいかにして起こり、どのような帰結をもたらしたのか？当時のヨーロッパ諸国、その社会の問題について、とくにドイツを中心に学びます。

This course introduces European history during the age of world wars.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入—今学期の授業の概要と狙い

2 回：ヨーロッパ各国の社会改革と帝国主義政策

3 回：第一次世界大戦の勃発と国民の動員

- 4回：西部戦線の兵士たち  
 5回：総力戦下における銃後の社会—ドイツの場合  
 6回：ロシア革命とアメリカ合衆国の参戦、大戦の終結をめぐる諸問題  
 7回：敗戦後のドイツ社会  
 8回：戦間期の欧米—世界恐慌の時代  
 9回：ドイツにおけるナチズムの台頭  
 10回：ナチ体制の確立—独裁体制下のドイツ国民  
 11回：第二次世界大戦の勃発とその背景  
 12回：ナチ・ドイツによる占領統治（東欧と西欧）  
 13回：独ソ戦とユダヤ人の迫害  
 14回：大戦の終結と戦後ヨーロッパの始まり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で資料プリントを配りますので、授業の前に目を通してください。授業後にはノートの復習の上、とくに興味をもった問題については図書館で調べてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :85%  
 平常点割合 :15% 授業に取り組む姿勢:15%  
 3分の2以上の出席が単位取得の前提です。

### テキスト / Textbooks

とくにありません

### 参考文献 / Readings

授業中に資料プリントなどで紹介します。

### その他 / Others

板書の講義を中心とし、毎回配布する資料プリントを通じて歴史のディテールに触れ、時折映像資料も活用します。質問についてはリアクションペーパーに書いてもらい、可能な限りフィードバックを行います。

## 史学講義 22

Lectures on History 22

マイノリティと境界

梅原 秀元 (UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC322  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、「境界とマイノリティ」というテーマに関してドイツ史からいくつかの事例を取り上げる。本講義の目的は、学生がこれらの事例から、今テーマだけでなく、他の関連するテーマ、例えばマジョリティ、国民国家、差別といったテーマへの視角を身につけることにある。

This lecture deals with some cases from German history for the topic "borders and minorities".- / The aim of the lecture is that the students learn from these cases the perspective not only on the topic but also on other related topics, for example majorities, nation states, or discrimination.

### 授業の内容 / Course Contents

19・20世紀は、「境界とマイノリティ」はドイツで焦点となっていた。とくに、誰がドイツの人口のマジョリティー—いわゆるドイツ人—に属するのか、どのようにマイノリティー—非ドイツ人—を定義するのかといった問いは、常に議論されたし、いまもされている。本講義は、こうした問題をドイツ史のいくつかの事例を通して検討する。本講義は、パワーポイントを用いて行う。パワーポイントの内容をプリントにして配布する。講義の終わりには、レスポンスシートに考えたことを書いてもらう。場合によっては、こちらから質問をして、

それについて書いてもらう。

In the 19th and 20th centuries, the topic "Boarder and Minority" was the focus in Germany. Above all, it is always controversial, who the majority of the population in Germany - german nation - belonged to and belongs to, and how the minorities - who were not Germans - were and are defined. The lecture deals with these problems by discussing some examples of German history. The lectures will be carried out using PowerPoint presentations. At that time, detailed outlines of the content of lectures will be prepared.

At the end of lectures, questions on the content will be posed, and students will use the response sheets to write and submit what they thought.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンティールング
- 2回：19世紀ドイツ史概観
- 3回：ドイツ統一（1871）とポーランド人マイノリティ（1）
- 4回：ドイツ統一（1871）とポーランド人マイノリティ（2）
- 5回：20世紀ドイツ史概観（1）
- 6回：20世紀ドイツ史概観（2）
- 7回：ナチスドイツによる外国人強制労働をめぐって（1）
- 8回：ナチスドイツによる外国人強制労働をめぐって（2）
- 9回：ナチスドイツによる外国人強制労働をめぐって（3）
- 10回：ドイツ連邦共和国におけるトルコ人労働者をめぐって（1）
- 11回：ドイツ連邦共和国におけるトルコ人労働者をめぐって（2）
- 12回：ナチスドイツによる強制断種と「安楽死」をめぐって（1）
- 13回：ナチスドイツによる強制断種と「安楽死」をめぐって（2）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で参考文献を挙げる（レジメにも書いてある）ので、興味のあるものを各自で収集し、熟読していただくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :90%

平常点割合 :10% リアクションペーパー:10%

授業とリアクションペーパーの提出をもって出席とする。出席回数が著しく少ない場合は、成績評価対象としないので、特段の理由がないならば出席すること。

### テキスト / Textbooks

これというテキスト(教科書)はない。講義中に参考文献を紹介するので、興味がある者は、それを大学図書館などで手に取って読んでみてほしい。

### 参考文献 / Readings

講義中に参考文献を紹介するので、興味がある者は、それを大学図書館などで手に取って読んでみてほしい。

### その他/ Others

本講義は、19・20世紀のドイツの歴史のいくつかの事例を取り上げて、マイノリティやマジョリティについて考えてみようという講義である。ドイツに関心のある学生、こうした問題に関心のある学生はもちろん、なんとなく寄ってみたという学生も大歓迎である。素材を講義という形で提供するので、みんなでいろいろと考えてみたい。歴史の知識がなくても大丈夫なようにするので、ちょっと覗いてみてほしい。

# 史学講義 23

Lectures on History 23

人間と都市

三木 健裕 (MIKI TAKEHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC323

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

西・南アジア地域において進行した都市化プロセスを概観し、今日の私たちの大多数にとって当たり前となった、都市へ集住する現象について理解を深める。

This course provides an overview of the urbanization process that has emerged in West and South Asia and deepens the understanding of the phenomenon of living in densely populated cities, which has been taken for granted for most of us today.

## 授業の内容 / Course Contents

西・南アジア地域は人類史上はじめて都市が形成された地域である。本講義では農耕牧畜が確立された新石器時代から、都市化が進む銅石器時代、メソポタミア文明やインダス文明が登場した青銅器時代、そして帝国が出現した鉄器時代までの文化・生業・社会を紹介する。随所で最新の知見や、講師が直接携わった発掘調査にも触れる。講義を通して、都市が結実していく過程、ならびに都市が社会の中で果たした役割を概観する。

In West and South Asia, the first cities emerged in the history of humankind. In this course, the lecturer will introduce cultures, subsistence, and social organizations from the Neolithic period when farming and pastoralism

were established, the Chalcolithic period when urbanization proceeded, to the Bronze Age when Mesopotamian and Indus Valley civilizations emerged, and the Iron Age when empires appeared. This course will deal with the latest findings and the excavations in which the lecturer has been directly involved. Through this course, the lecturer will give a general overview of the urbanization process and cities' roles in societies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：人間と都市 (1) 考古学からみた都市、西・南アジア地域の地理
- 2 回：人間と都市 (2) 西アジアの考古学 農耕牧畜の開始と新石器時代の農耕村落
- 3 回：人間と都市 (3) 西アジアの考古学 銅石器時代 I 円熟する農耕牧畜社会、遊牧のはじまり、都市の萌芽
- 4 回：人間と都市 (4) 西アジアの考古学 銅石器時代 II 最古の都市ウルクの登場とその周辺
- 5 回：人間と都市 (5) 西アジアの考古学 青銅器時代 I 紀元前 3 千年紀における古代メソポタミア文明社会
- 6 回：人間と都市 (6) 西アジアの考古学 青銅器時代 II 紀元前 2 千年紀、古代グローバル文明の時代
- 7 回：人間と都市 (7) 西アジアの考古学 鉄器時代 紀元前 1 千年紀、帝国の時代
- 8 回：人間と都市 (8) 南アジアの考古学 新石器時代 確立された農耕牧畜の拡散
- 9 回：人間と都市 (9) 南アジアの考古学 銅石器時代～青銅器時代 イランにおける都市化のはじまり
- 10 回：人間と都市 (10) 南アジアの考古学 青銅器時代 I インダス文明の形成と都市
- 11 回：人間と都市 (11) 南アジアの考古学 青銅器時代 II インダス文明の展開
- 12 回：人間と都市 (12) 南アジアの考古学 鉄器時代 インダス文明後の南アジア世界
- 13 回：人間と都市 (13) 西・南アジア地域の考古学 メソポタミアとインダスのあいだ 青銅器時代の地域間交流
- 14 回：人間と都市 (14) 総括 人類史における都市化

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として前回の講義スライド PDF を見直す。そのほか講義中に適時指示を行う。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクション・ペーパーの提出:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 小泉龍人 『都市の起源 古代の先進地域＝西アジアを掘る』 講談社選書メチエ 2016 9784062586238
- 上杉彰紀 『インダス文明 文明社会のダイナミズムを探る』 雄山閣 2022 9784639028130
- 安倍雅史 『謎の海洋王国ディルムン メソポタミア文明を支えた交易国家の勃興と崩壊』 中央公論新社 2022 9784121101242
- Susan Pollock Ancient Mesopotamia: The Eden That Never Was Cambridge University Press 1999 9780521573344
- Rita P. Wright The Ancient Indus: Urbanism, Economy, and Society Cambridge University Press 2010

9780521572194

科目コード：AC323



## 史学講義 25

Lectures on History 25

信仰と知の歴史 2

清水 領 (SHIMIZU ERI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC325  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- ユダヤ人が歴史を通して移住を繰り返しながら、信仰や学問の形を変えていく様子を理解すること。
  - ユダヤ人社会の近代化という歴史を通して、啓蒙思想やヨーロッパ近代社会の特徴を複合的に考えられるようになること。
- To understand how Jews transformed the shapes of beliefs and knowledge through repeated migrations throughout their history.
  - To be able to develop one's thought on the characteristics of the philosophy of Enlightenment and of the Modern European Society through the history of the Modernization of Jewish societies.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では西洋に離散したユダヤ人の歴史を通して、彼らの思想や文化、宗教がその居住地域の社会制度や文化の影響を受けて、細かく分かれたり変化したりする様子を学びます。ユダヤ人はローマ時代以降ヨーロッパに居住していますが、中世には特徴がことなる二つの共同体に大別されました。次いで、ユダヤ教徒の「近代化」と呼ばれる現象は、ユダヤ人のヨーロッパ社会における立場を根本的に変化させます。具体的には、フ

ランスで起こったユダヤ人解放とドイツから広がったユダヤ教改革運動などを題材として学びながら、ヨーロッパにおけるユダヤ人の「同化」と呼ばれる現象についての知識を深めます。また、マイノリティを対象とすることで、西洋史の時代区分が複層的になることや、歴史の叙述が変わりうる点についても考えていきます。授業では史料講読などの課題が出ますので、積極的な参加が求められます。

Through the history of the dispersed Jews in the European countries, this class will study how their ideas, culture, and religion were subdivided and transformed as they were influenced by the social institutions and culture of the regions in which they lived. Jews have inhabited Europe since Roman times, and in the Middle Ages, they were divided into two communities with different characteristics. Decades after, the "Modernization" of the Jewish people radically changes the position of Jews in European society. We will learn about the phenomenon known as the "assimilation" of Jews in Europe, while learning about the Emancipation of the Jews in French Revolution and the Jewish Reform movement that spread from Germany. While deepening our knowledge of these historical cases, we will also consider that by taking up a group of minority as a subject of study, the periodizations of the occidental history can be multilayered and the narrative of history can be inside out.

Students will be expected to actively participate in the class, as there will be assignments such as reading historical documents.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス・イントロダクション
- 2 回：ユダヤ史における時代区分とディアスポラの居住地
- 3 回：東欧系ユダヤ人社会の形成
- 4 回：スペイン系ユダヤ人社会の形成と離散
- 5 回：啓蒙思想における宗教的共存思想
- 6 回：フランス革命とユダヤ人解放
- 7 回：ナポレオン帝国と「同化」主義
- 8 回：「同化ユダヤ人」とドイツの改革派ユダヤ教
- 9 回：西欧のユダヤ系知識人とユダヤ学の誕生
- 10 回：東欧ユダヤ人社会の変動とアメリカへの移住
- 11 回：人種主義と反ユダヤ主義
- 12 回：ホロコースト後の問題
- 13 回：小テスト
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業資料を復習し、疑問に思った部分は参考文献等を読んで理解しておくこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・課題:60%

最終テスト割合 :40%

**テキスト/ Textbooks****参考文献 / Readings**

- 市川裕 『ユダヤ教の歴史（宗教の世界史7）』 山川出版社 2009年 9784634431379  
野村真理 『西欧とユダヤのはざまー近代ドイツ・ユダヤ人問題』 南窓社 1992年 4816500995  
関哲行 『スペインのユダヤ人（世界史リブレット）』 山川出版社 2003年 4634345900  
市川裕 『ユダヤ人と国民国家―「政教分離」を再考する』 岩波書店 2008年 4000254081  
菅野賢治 『フランス・ユダヤの歴史（上下）』 慶応大学出版会 2016年 4766423607  
鶴見太郎 『ロシア・シオニズムの想像力』 東京大学出版会 2012年 9784130160322

上記の参考文献は一部。詳しくは授業の各回で紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特になし

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

通常授業には必要ないが、テストにはPC,タブレット等を用いる。詳しくは授業中に説明する。

## 史学講義 27

Lectures on History 27

古代日本とアジア 1

河内 春人 (KOUCHI HARUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC327

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

歴史学において文字史料はその中核に位置するものである。その記録の手段としての文字の使用は、日本古代においてどのように始まり、そして展開していったのかということを知り、成立期の書記文化の歴史展開について理解することで、史料に対する多面的な視角を獲得することを目指す。

Written historical materials are at the core of historical studies. By learning how the use of writing as a means of recording began and developed in ancient Japan, and by understanding the historical development of writing culture during its establishment, you will gain a multifaceted understanding of historical materials. Aim to gain perspective.

### 授業の内容 / Course Contents

文字あるいは文章を記すということは現代社会においては普通のこととして考えられているが、古代においてそれは決して当たり前ではなかった。本講義では文字とは何かということを中心にテーマとする。文字を記すという行為が日本古代においてどのように試みられ、成立させていったのか見通す。その手掛かりとして、特に東アジアあるいはその外の世界と比較し、それによって日本古代の特質について理解を深めるようにする。

Although writing letters or sentences is considered normal in modern society, it was by no means the norm in ancient times. The theme of this lecture is what letters are. We will take a look at how the act of writing was attempted and established in ancient Japan. As a clue, we will make comparisons, especially with East Asia or the outside world, and thereby deepen our understanding of the characteristics of ancient Japan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文字とは何か
- 3回：文字の周辺
- 4回：文字の発明（西方世界）
- 5回：文字の発明（東アジア）
- 6回：漢字の成立
- 7回：書記媒体
- 8回：列島における文字の出現
- 9回：権力と文字
- 10回：国際関係における文字文化
- 11回：文字の普及
- 12回：古代国家と文字
- 13回：文字の変容
- 14回：試験

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業後にその内容についてふりかえり、理解を深めること。その他の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%  
 平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業内課題:25%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 史学講義 29

Lectures on History 29

律令制国家論 1

河野 保博 (KAWANO YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC329

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古代国家の交通制度や古代社会の実態的な様相を学ぶことを通じて、国家支配のあり方、日本列島や東アジアにおける交流、それらを支える人びとの姿を具体的に考え、国家というものを理解し、古代の社会や交通という事象をみずから読み解けることを目指します。

Through study of traffic system of ancient state and the ancient society this course aims to have students think specifically about the significance of the appearance of "the state" on the Japanese archipelago, and the reality of the state rule as well as international exchange in ancient times, so students can interpret their own image of ancient society and traffic.

## 授業の内容 / Course Contents

人と人、人とモノや情報を結びつける「交通」は人間社会の形成には欠かせない事象であり、さらに国家の支配にとっても必要不可欠なものです。本講義では古代の日本列島を中心としながら、古代社会の交通の制度と実態をさまざまな視点から解説し、さらに具体的な「人・モノ・情報」の動き、さらにはそれらの移動した道路、移動を支える仕組みについても説明するなかで、国家支配のあり方や社会的背景についても考えていきた

いと思います。

"The traffic" which ties a thing and information up with a person, a person and a person is a phenomenon necessary to formation of human society and need is also indispensable for state rule. A system of traffic and the reality of ancient society are explained from various viewpoints centering on ancient Japan in this lecture. As well as also to think about the state of the state rule and a social background at the inside which is also detail explained about the mechanism person and thing information in move and that support the road where those have moved and movement.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：国家と交通・道路
- 3回：中国大陸における交通制度の展開
- 4回：日本列島における国家形成と道路
- 5回：古代日本の交通制度
- 6回：古代日本の道路の姿
- 7回：古代の道路とその復原
- 8回：古代の交通と文学
- 9回：古代の情報伝達
- 10回：古代の水上交通
- 11回：古代の交通と動物
- 12回：古代の交通と祭祀
- 13回：移動する人びとと支える施設
- 14回：移動する人びとと対峙する社会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

配布するプリントや参考文献を用いて、授業前は概要を予習し、疑問点などがあれば事前に整理してください。

授業後は講義の内容を復習し、次の授業に備えて欲しいと思います。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 積極的な受講態度、リアクションペーパーの記入:50%

### テキスト / Textbooks

なし。講義時にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

木下良 『事典 日本古代の道と駅』 吉川弘文館 2009 9784642014502

館野和己・出田和久編 『日本古代の交通・交流・情報』 1 制度と実態 吉川弘文館 2016  
9784642017282

舘野和己・出田和久編 『日本古代の交通・交流・情報』2 旅と交易 吉川弘文館 2016 9784642017299  
舘野和己・出田和久編 『日本古代の交通・交流・情報』3 遺跡と技術 吉川弘文館 2016  
9784642017305

その他、配布プリントにて適宜紹介します。

#### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

「交通・交流」という事象に興味があれば、特に前提は必要ありません。多様な「交通・交流」を歴史的に学びたい方の受講を期待します。

#### **その他/ Others**

授業で取り上げた内容について、自身の問題関心や専攻する時代や地域に引き付け、考えを巡らせて欲しいと思います。



# 史学講義 31

Lectures on History 31

中世日本史論 1

長崎 健吾 (NAGASAKI KENGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC331

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本中世後期の京都における社会的結合の転換過程について理解する。

To understand the process of conversion of the city society of Kyoto in the late Medieval times.

## 授業の内容 / Course Contents

- ・ 室町幕府と都市住民の関係
- ・ 中世後期京都の商工業者と宗教
- ・ 都市住民の社会集団とジェンダー
- ・ 町共同体の形成過程
- ・ Relationship between citizens in Kyoto and the Muromachi shogunate.
- ・ Religious faith of merchants and craftsmen in Kyoto in the late Medieval times.
- ・ Social groups and gender of residents of Kyoto.
- ・ Process of formation of Cho communities in Kyoto.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

## 1回：イントロダクション

日本中世史研究における都市という問題の位置を理解する。

## 2回：町共同体論

日本中世都市の研究史における町共同体論の意義と、その問題点を理解する。

## 3回：中世の商工業者

中世における商工業者の特質、および14世紀における商工業の発展について理解する。

## 4回：土倉・酒屋

中世京都における土倉・酒屋の特質、比叡山延暦寺との関係を理解する。

## 5回：非人集団

中世都市の周縁に成立した非人集団の特質について理解する。

## 6回：中世都市とジェンダー

日本中世都市研究においてジェンダーの視角がもつ重要性を理解する。

## 7回：都市と祭礼

中世京都における祭礼（祇園会、稲荷祭など）と都市における社会集団の特質を理解する。

## 8回：都市課税

室町幕府による都市課税（地口銭・土倉酒屋役・諸商売役など）の展開について理解する。

## 9回：室町幕府の都市市民支配

室町幕府と京都の商工業者の結びつきの形成過程について理解する。

## 10回：法華宗と都市市民

戦国期京都における法華宗の勢力拡大過程について理解する。

## 11回：門閥都市市民

戦国期京都に成立した門閥都市市民の特質を理解する。

## 12回：社会的結合と家族

戦国期京都における都市市民の社会的結合と家族について理解する。

## 13回：町共同体

町共同体の形成過程について、既存の町共同体論を批判しつつ再検討を加える。

## 14回：総括と展望

講義内容を総括し、今後の日本中世都市研究において有する意義を展望する。

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習については授業内で適宜指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% コメントシート:20%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

- 網野善彦 『日本中世都市の世界』 講談社 2013 4062921898  
仁木宏 『空間・公・共同体』 青木書店 1997 4250970213  
三枝暁子 『比叡山と室町幕府』 東京大学出版会 2011 4130262297  
仁木宏 『京都の都市共同体と権力』 思文閣出版 2010 4784215182  
今谷明 『天文法華一揆』 洋泉社 2009 4862484379  
早島大祐 『首都の経済と室町幕府』 吉川弘文館 2006 4642028587

#### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

講義資料として中世の古文書や記録を提示する場合がある。これらは主に漢文で書かれているので、基礎的な漢文読解能力があることが望ましい。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

講義スライド（PDF ファイル）を見られる機器。各自でプリントアウトして持参する場合は不要。

#### **その他/ Others**

教員のこれまでの研究については下記を参照

<https://researchmap.jp/hokke1ki>

# 史学講義 34

Lectures on History 34

中世国家と民衆

黄 霄龍 (HUANG XIAOLONG)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AC334
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS3500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・日本列島の地域的多様性について理解を深める。
- ・北陸地域を事例に、地方社会に生きた人々にとっての仏教の意味合いについて知識を身に付ける。
- ・海外の研究における日本前近代の地方社会の特徴について理解する。

This course aims to offer you an opportunity to (1) understand the variety of regional societies of Japan, (2) acquire basic knowledge of the relationship of lives and Buddhism in local societies by focusing on medieval Hokuriku region, (3) learn the perspectives for understanding premodern Japan through the research overseas.

## 授業の内容 / Course Contents

日本の中世は、分権的で宗教の時代と呼ばれている。国家的権力と宗教は日本列島の各地域においても異なる様相を見せている。本講義は北陸地域（主として若狭、越前、加賀）をフィールドとして、国家的権力と関連付けながら、仏教と地方社会の人々の関係史を明らかにする。講義の前半（第7回まで）は、政治・経済・仏教を視点に北陸地域を通時的に見る。講義の後半（第8回から）は、地方史叙述の根拠となる資/史料をトピックごとに取り上げる。また、関連する海外の研究も紹介し、日本史のドメスティックな部分を国際的な文脈の

中で位置づける。

In this course you will study the history of medieval Japan, a period when the power of state was distributed and religion played an extremely important role. This course investigates the history of Hokuriku region by focusing on Buddhism and the influence of state power. The first half of the course overviews the Hokuriku region through perspectives of politics, economy, and Buddhism. The second half provides you the opportunity to read the various historical sources related to the first half. You also have the opportunity to explore the characteristics of premodern local society of Japan through reading the research of western and Chinese academia with guidance in Japanese.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス/Introduction
- 2 回：院政・鎌倉期の北陸地域史/Hokuriku region in Insei and Kamakura period
- 3 回：南北朝期の北陸地域史/Hokuriku region in Nanbokuchō period
- 4 回：室町期の北陸地域史（1）：政治と経済/Hokuriku region in Muromachi period (1): politics and economy
- 5 回：室町期の北陸地域史（2）：仏教/Hokuriku region in Muromachi period (2): Buddhism
- 6 回：戦国期の北陸地域史（1）：政治と経済/Hokuriku region in the period of the warring states (1): politics and economy
- 7 回：戦国期の北陸地域史（2）：仏教/Hokuriku region in the period of the warring states (2): Buddhism
- 8 回：地方の人々が残したもの：文献史料（1）/Historical sources in the local society: written documents (1)
- 9 回：地方の人々が残したもの：文献史料（2）/Historical sources in the local society: written documents (2)
- 10 回：地方の人々が残したもの：モノの資料/Historical sources in the local society: materials
- 11 回：地方の人々が残したもの：場/Historical sources in the local society: spaces
- 12 回：英語圏と中国語圏の研究から日本前近代の地方社会の特徴を探る（1）/The characteristics of premodern local society of Japan: reading the research of western and Chinese academia (1)
- 13 回：英語圏と中国語圏の研究から日本前近代の地方社会の特徴を探る（2）/The characteristics of premodern local society of Japan: reading the research of western and Chinese academia (2)
- 14 回：総括/Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については授業内で適宜指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

黄 霄龍 『中世の地方社会と仏教寺院』 吉川弘文館 2024 9784642029827

### その他 / Others

授業は講義形式で行い、毎回レジユメを配布し、パワーポイントで関連資料の提示を行いながら行う。また、毎回リアクションペーパーを配布し、学生の回答・質問について、必要なものは次回教員がフィードバックを行う。

This course will be given in lectures by using handouts and PowerPoints. Students will be asked to submit their reaction papers each week. I will provide

# 史学講義 35

Lectures on History 35

近世日本史論

木村 涼 (KIMURA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC335

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世における芸能・文化の中で、江戸の歌舞伎を取り上げ、その特色や地方で展開をみせた実態に注目して、歌舞伎と近世社会の関わりについて考察するための方法を修得する。

In this course, students will learn how to examine the relationship between Kabuki and early modern Japanese history, focusing on the characteristics of Edo Kabuki and the way in which it developed in the provinces.

## 授業の内容 / Course Contents

江戸文化を代表する歌舞伎について、幕府との関係や役者と観客・鼻唄との結びつき、歌舞伎興行を支える裏方の人々、役者の地方興行の実態の事例を取り上げ、近世社会における歌舞伎文化の歴史的意義について講義する。

This course lectures the historical significance of kabuki culture in early modern Japanese history, focusing on the relationship between the shogunate and the actors, the relationship between the actors and their audiences and patrons, the people behind the scenes who support kabuki performances, and examples of local performances by actors.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：ガイダンスー江戸歌舞伎の成立
- 2 回：歌舞伎興行ー芝居番付、芝居台帳、錦絵
- 3 回：江戸歌舞伎の構成一座元・役者・芝居掛り合いの者
- 4 回：歌舞伎役者と身分制
- 5 回：幕府の三大改革と江戸歌舞伎①
- 6 回：幕府の三大改革と江戸歌舞伎②
- 7 回：幕府の三大改革と江戸歌舞伎③
- 8 回：役者と観客・鼯頁①
- 9 回：役者と観客・鼯頁②
- 10 回：幕末と江戸歌舞伎
- 11 回：寺社境内における江戸歌舞伎役者の芝居興行
- 12 回：歌舞伎役者の地方興行①
- 13 回：歌舞伎役者の地方興行②
- 14 回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

指定した文献や論文は事前に読んでくる。その他、随時必要となる準備学習の指示は、授業中に行う。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :75%

平常点割合 :25% コメントカード兼出席票:25%

**テキスト / Textbooks**

適宜指示する。

**参考文献 / Readings**

林屋辰三郎 『歌舞伎以前』 岩波書店 1954年

守屋毅 『近世芸能興行史の研究』 弘文堂 1985年

熊倉功夫 『日本の近世 第11巻 伝統芸能の展開』 中央公論社 1993年

服部幸雄 『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』 平凡社 1994年

吉田伸之 『身分的周縁と社会＝文化構造』 部落問題研究所 2003年

木村涼 『七代目市川團十郎の史的研究』 吉川弘文館 2014年

その他適宜指示する。



# 史学講義 38

Lectures on History 38

日本社会史論 1

三田 智子 (MITA SATOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC338

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会とは大きく異なる、社会集団 (身分集団) に即した近世社会のあり方を理解する。また史料を用いた実証方法に触れ、その基本的な方法を理解する。

Understand the nature of early modern society based on social groups (status groups), which is very different from modern society. Students will also be exposed to verification methods using historical materials and understand the basic methods.

## 授業の内容 / Course Contents

ここ 30 年ほどのあいだに、日本近世における「身分」の捉え方は大きく変化し、それは社会全体の問い直しにつながっている。その論理的な部分について概観したあと、かわた身分についての成果について史料をふまえながら説明をおこなう。

Over the past 30 years, the way "status" was understood in early modern Japan has changed significantly, leading to a re-examination of society as a whole. After giving an overview of the logical part, I will explain the results regarding "Kawata" status based on historical materials.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：山川出版社の日本史教科書の記述から考える
- 2回：教科書記述の背景
- 3回：かわたと非人
- 4回：村請制とは何か
- 5回：和泉のかわた村について①―南王子村の生業―
- 6回：和泉のかわた村について②―南王子村の生業―
- 7回：和泉のかわた村について③―南王子村のイエ―
- 8回：和泉のかわた村について④―南王子村のイエ―
- 9回：和泉のかわた村について⑤―南王子村の19世紀―
- 10回：和泉のかわた村について⑥―南王子村の19世紀―
- 11回：和泉のかわた村について⑦―南王子村と非人―
- 12回：和泉のかわた村について⑧―南王子村と非人―
- 13回：和泉のかわた村について⑨―地域社会と南王子村―
- 14回：和泉のかわた村について⑩―賤称廃止令と地域社会―

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

専門的な内容の講義であるため、毎回の授業内容について復習が必須である。毎回必ず、授業プリントを見直し、内容を復習すること（1～2時間）。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:45% レポート:35% 授業内提出物:20%

受講態度は、毎授業後に提出するリアクションペーパーの内容をもとに、授業内容を理解しているかどうかを評価する。

**テキスト / Textbooks**

毎回授業レジュメを配付する。

**参考文献 / Readings**

塚田孝 『近世身分社会の捉え方―山川出版社日本史教科書を通して―』 部落問題研究所

9784829810774

和泉市史編さん委員会 『信太山地域の歴史と生活』 和泉市 9784324800782

三田智子 『近世身分社会の村落構造―泉州南王子村を中心に―』 部落問題研究所 9784829820759

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

その他、適宜授業において紹介する。

# 史学講義 39

Lectures on History 39

近代日本史論 1

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC339  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

沖縄近現代史を女性史・ジェンダー史の視点から考察し、沖縄近現代史について理解を深めることを目標とする。

The purpose of this lecture is to examine modern Okinawa history from the perspective of women's history and gender history, and to deepen understanding of Okinawa's modern history.

## 授業の内容 / Course Contents

琉球王国であった沖縄は、琉球処分によって日本の支配下に組み込まれ、沖縄県として近代史を歩むこととなった。沖縄の人びとはヤマト化（日本化することをいう）を強いられ、琉球の文化は好ましくないものとして日本によって否定された。しかし、琉球王国に由来する社会・文化のあり方が完全に途切れることはなかった。ヤマト化は他方で女性たちに教育を授け、それは女性たちの自己表現・自己解放のきっかけとなったが、沖縄の女性たちの暮らしや自己表現・自己解放の運動はヤマト化にとどまらない個性を持っていた。

また、過酷な沖縄戦を経た後の、1972 年までの米軍統治は、沖縄の女性たちの歴史にさらなる特徴を刻印することになった。沖縄戦と米軍統治は、女性たちに甚大な被害をもたらしたが、他方で、日本や沖縄社会のあ

り方に対して女性たちが批判的な視点を持つことにつながっていった側面がある。こうしたなか、沖縄の特徴的なフェミニズム運動が登場することになった。

本講義は、以上に概観したような、沖縄女性の経験の特徴について講義する。

The Ryukyu Kingdom was brought under Japanese control by the Ryukyu Annexation, and began its modern history as Okinawa Prefecture. The Okinawan people were forced to become Japanese, and Ryukyuan culture was rejected by Japan as undesirable. However, the society and culture that originated from the Ryukyu Kingdom never completely disappeared. On the other hand, Japanese government gave women education, which became an opportunity for women to express themselves and liberate themselves, but the lives of Okinawan women and the movements for self-expression and self-liberation also had characteristics that originated in the Ryukyu Kingdom period.

In addition, after the harsh Battle of Okinawa, the U.S. military rule that lasted until 1972 left a further mark on the history of Okinawan women. The Battle of Okinawa and U.S. military rule caused tremendous damage to women, but on the other hand, they also led to women developing a critical perspective on Japan and Okinawan society. Under these circumstances, Okinawa's distinctive feminist movement emerged.

This lecture will focus on the characteristics of Okinawan women's experiences, as outlined above.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：琉球王国の女性
- 3 回：ヤマト化のなかで
- 4 回：女たちの新しい表現
- 5 回：女たちの移動経験
- 6 回：総動員体制下の皇民化と女たち
- 7 回：沖縄における日本軍「慰安婦」問題
- 8 回：米軍統治とヤマト化のはざままで
- 9 回：米軍基地と女たち
- 10 回：米軍基地と性売買①
- 11 回：米軍基地と性売買②
- 12 回：沖縄のフェミニズム
- 13 回：まとめ
- 14 回：試験

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義のなかで紹介する参考文献のなかから、自分が興味を持ったものを積極的に読むこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

**テキスト/Textbooks**

毎回の授業のプリントをその都度立教時間にアップする。

**参考文献 / Readings**

沖縄県教育庁文化財課史料編集班 『沖縄県史 各論編 8 女性史』 沖縄県教育委員会 2016

堀場清子 『イナグヤ ナナバチー—沖縄女性史を探る』 ドメス出版 1990 4810702944

鹿野政直 『戦後沖縄の思想像』 朝日新聞社 1987

伊波普猷 『沖縄女性史』 平凡社 2000 4582763715

那覇市総務部女性室・那覇女性市史編集委員会 『なは 女のあしあと 那覇女性史（近代編）』 ドメス出版  
1998 4810704858

那覇市総務部女性室 『なは 女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』 琉球新報社事業局出版部 2001  
4897420393

宮城晴美 『沖縄・座間味島「集団自決」の新しい事実（新版）』 高文研 2008 9784874983942

授業内でその他の参考文献を紹介する。

# 史学講義 4 1

Lectures on History 41

近代日本と世界

宮本 正明 (MIYAMOTO MASA AKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC341

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、近代日本の歩みについて、日本の統治領域、特に朝鮮統治との関わりを中心にお話していきます。「韓国併合」から日本敗戦に至るまでの日本の朝鮮統治に関する知識とともに、現在の日韓・日朝関係に対して歴史的背景もふまえて見ていくことにつとめる姿勢を身につけてもらえればと考えています。

- ・ to acquire knowledge of the history of relations between Japan and Korea in the period 1910-1945.
- ・ to understand the current Japan-Korea relations based on historical background.

## 授業の内容 / Course Contents

「韓国併合」（1910年）から日本敗戦・朝鮮解放（1945年）まで、日本が朝鮮を統治していた時期を対象として、その歴史を概観します。具体的には、「韓国併合」以降の統治政策の変遷（「武断政治」「文化政治」「皇民化政策」）、日本側の朝鮮人認識、日本の統治に対する朝鮮人・朝鮮社会の意識・姿勢などを中心に取り上げます。

The topic of this course is the history of Korea under Japanese rule (1910-1945) .

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス／朝鮮総督府の概要
- 2回：「武断政治」と朝鮮社会（Ⅰ）－「武断政治」の諸施策
- 3回：「武断政治」と朝鮮社会（Ⅱ）－「武断政治」期における朝鮮社会の動向
- 4回：3・1独立運動の展開（Ⅰ）－背景／開始と拡大
- 5回：3・1独立運動の展開（Ⅱ）－日本側の対応／独立運動の内実
- 6回：「文化政治」と朝鮮社会（Ⅰ）－「文化政治」の諸施策
- 7回：「文化政治」と朝鮮社会（Ⅱ）－「文化政治」期における朝鮮社会の動向
- 8回：日本在留朝鮮人の形成と日本社会（Ⅰ）－背景／日本での生活・労働
- 9回：日本在留朝鮮人の形成と日本社会（Ⅱ）－日本社会の認識／関東大震災時の事態
- 10回：朝鮮在留日本人の生活・意識（Ⅰ）－日本人社会の形成／日本窒素肥料株式会社の朝鮮進出
- 11回：朝鮮在留日本人の生活・意識（Ⅱ）－興南在住日本人の生活と意識
- 12回：「皇民化政策」と朝鮮社会（Ⅰ）－「皇民化政策」の諸施策
- 13回：「皇民化政策」と朝鮮社会（Ⅱ）－「皇民化政策」期における朝鮮社会の動向／軍事・労働動員
- 14回：日本統治期における日本（人）・朝鮮（人）の法制度上の「格差」

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、【参考文献】欄で挙げた『植民地朝鮮—その現実と解放への道』における該当箇所の通読、復習としては、【成績評価方法・基準】欄で言及する毎回の授業内容の要約を、それぞれ想定しております。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回の授業内容の要約:30%

事情のお申出なく、授業内容の要約が3回以上未提出の場合は、レポート試験のレポートを提出していただいても成績評価の対象とは致しません。

#### テキスト / Textbooks

テキストの指定はありません。当方の作成するレジュメ・資料プリントを授業内で配布いたします。

#### 参考文献 / Readings

趙景達（編著） 『植民地朝鮮—その現実と解放への道』 東京堂出版 2011 9784490207460

# 史学講義 44

Lectures on History 44

現代日本と世界

森脇 孝広 (MORIWAKI TAKAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC344

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本と東アジアにまつわる諸問題について、歴史的観点から理解を深める。

Students will deepen their understanding of various issues related to Japan and East Asia from a historical perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

現在日本が東アジアの国々との間で抱える問題は複雑かつ多岐にわたる。しかし、眼前で起こっている出来事に気を取られ歴史的な洞察を欠いては、現在を理解することも将来を展望することもおぼつかなくなるであろう。そこで本講義では、歴史学の立場から、日本と東アジアの国々との間で起こっている多様な問題にアプローチし、受講者一人ひとりが自らの力で困難な時代を切り拓いてゆくための素材を提供したい。

The problems that Japan faces now with East Asian countries are complicated and diverse. However, being distracted by what is happening now and lacking historical insights, it will be difficult to understand the present and to look into the future. Therefore, in this lecture, from the viewpoint of history, we will approach various problems that have occurred between Japan and East Asian countries, and provide materials for each student to



open up difficult times on their own.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション～現代とはどのような時代か～
- 2 回：歴史を描く、認識する
- 3 回：現代社会と歴史研究
- 4 回：大災害と歴史研究
- 5 回：歴史教育と歴史研究 01
- 6 回：歴史教育と歴史研究 02
- 7 回：戦争の死者といかに向き合うか
- 8 回：近現代日本の軍事化と歴史研究
- 9 回：戦争と植民地支配をめぐる歴史研究 01
- 10 回：戦争と植民地支配をめぐる歴史研究 02
- 11 回：地域の戦争体験を掘り起こす
- 12 回：オーラル・ヒストリーと歴史研究
- 13 回：〈帝国日本〉の膨張と現代日本
- 14 回：まとめ～東アジアにおける現代日本の立ち位置～

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から新聞やニュースをチェックすることを望む。国立公文書館、アジア歴史資料センター、NHK 戦争証言アーカイブズのウェブサイトも予備知識をつけるのに役立つので閲覧を勧める。東京都をはじめ首都圏の博物館・資料館等へ足を運ぶのも一興である。キャンパスを飛び出し、足で材料稼ぎをしてほしい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業期間内に課すレポート 2 回:60% 授業後に書いてもらうリアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

授業時に授業時にレジュメを配布する。

### 参考文献 / Readings

歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』全3巻、績文堂出版、2017年

# 史学講義 45

Lectures on History 45

伝統社会史論 2

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC345

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、1920 年代～1970 年代における日本現代史を学ぶことを目標とする。

This course for students to understand modern Japanese history from the 1920s to the 1970s.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、労働者や女性の動きに注目して、大正期から 1970 年代にかけての日本社会の変化を概説します。具体的には、大正期において人格の承認を求めた人びと（労働者や女性など）が、敗戦後、どのように企業や地域社会の中で承認されていたのかという点を中心に論じます。

This class will outline the changes in Japanese society from the Taisho period to the 1970s, focusing on the movements of workers and women. Specifically, we will focus on how people who sought equal right (e.g., workers and women) during the Taisho period were recognized by companies and local communities after World War II.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス：本授業の視点

- 2回：戦前における日本社会の特徴と大正期の変化  
 3回：1920年代～戦時期における働く場の変化  
 4回：1920年代～戦時期における暮らしの場の変化  
 5回：戦前期・戦時期のまとめ  
 6回：戦後改革期～高度経済成長期における政府の政策と人びと  
 7回：戦後改革期～高度経済成長期における働く場の変化  
 8回：戦後改革期～高度経済成長期における暮らしの場の変化（1）  
 9回：戦後改革期～高度経済成長期における暮らしの場の変化（2）  
 10回：戦後改革期～高度経済成長期のまとめ  
 11回：戦前期～戦時期における「権利の承認」と「価値の承認」  
 12回：戦後復興期～高度経済成長期における「権利の承認」と「価値の承認」  
 13回：1980年代以後の日本社会の歴史への展望  
 14回：理解度の確認

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本授業では、日本現代史に関する講義ですが、高校教科書に記載されている事項を前提に講義します。そこで、授業時間外の学習では、授業で対象とする時期に関する高校教科書に記載されている時代の大きな流れを予習し、そのうえで、授業で話す内容を復習し、理解度を高めてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% レポート（2回）:40%

#### テキスト / Textbooks

禹宗杭・沼尻晃伸 『〈一人前〉と戦後社会』 岩波書店 2024 9784004320104 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

授業中の私語や、やむを得ない事情を除く授業の早退は、ご遠慮願います。

# 史学講義 48

Lectures on History 48

戦争と平和の歴史2

寺尾 美保 (TERAO MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC348

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近世近代移行期（19世紀を中心とする）における薩摩藩・鹿児島県、島津家を主な事例として、変革の時代の中で避けられなかった戦いの中でどのような変化がもたらされたのかについて理解する。

Using the Satsuma clan, Kagoshima Prefecture, and the Shimadzu family as the main examples during Japan's early modern transition period (centering on the 19th century), we will understand what changes were brought about in the inevitable battles that took place during the era of change.

## 授業の内容 / Course Contents

外圧の危機に瀕した地域では、大砲や船などの軍備の充実のみならず、産業の育成、民衆の生活の安定のための事業に着手していた。薩英戦争、戊辰戦争、西南戦争を事例として、どのような変化が起き、また、地域の変化が日本移行期全体の変化とどのように関わっているのかについて考えていく。島津家から徳川家に嫁いだ篤姫(天璋院)の事例なども取り扱う。

In regions threatened by external pressure, they embarked on projects not only to improve their military equipment, such as cannons and ships, but also to foster industry and stabilize the lives of the people. Using the

Anglo-Satsuma War, Boshin War, and Seinan War as case studies, we will consider what kind of changes occurred and how the changes in the regions related to the overall changes in the Japanese transition period. The case of Princess Atsuhime(Tenshouin) , who married into the Tokugawa family from the Shimadzu family, will also be dealt with.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：島津家について
- 3回：幕藩体制の動揺
- 4回：外国船の到来と幕末日本の産業
- 5回：薩摩藩の近代化事業
- 6回：島津家と徳川家（1）
- 7回：島津家と徳川家（2）
- 8回：島津家と徳川家（3）
- 9回：戊辰戦争と維新政府の構想（1）
- 10回：戊辰戦争と維新政府の構想（2）
- 11回：西南戦争
- 12回：西南戦争と華土族
- 13回：近代国家の成立と産業の発展
- 14回：講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布した資料を読み返し、紹介する参考文献などを用いて、興味関心を広げる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への参加姿勢:40% レポート:30% 小テスト:30%

### テキスト / Textbooks

毎回資料を配付する。

### 参考文献 / Readings

寺尾美保 『天璋院篤姫』 高城書房 2007 9784887771048

寺尾美保 『みんなの篤姫』 南方新社 2008 9784861241321

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

その他、授業中に紹介する。

### その他 / Others

やむを得ない事情をのぞく、私語・遅刻早退を禁じる。

# 史学講義 49

Lectures on History 49

都市と村落

石井 龍太 (ISHII RYOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC349

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、考古学に関する基礎的な知識を学び、都市と村落を考古学的思考法から理解できるようになることを目標とする。

Course Objectives are learning basic knowledge about archaeology and analyzing sites of cities and villages from an archaeological way of thinking.

## 授業の内容 / Course Contents

考古学の学史や、遺跡・遺跡の分析方法、具体的な遺跡の発掘調査例について解説する。文献資料に残りにくい民衆史や建築史の研究には、考古学の手法が欠かせない。特に講師が行って来た琉球諸島の集落や、首里城の研究を取り上げる。

Course Contents are explaining the academic history of archeology, methods of analyzing sites and remains, and a specific example about excavating sites. Archeological methods are effective for research into history of village or architectures, which are difficult to find in written sources. I focus on sites which I researched, for example the early modern villages of the Ishigaki and Miyako Islands and history of Shuri Castle from middle age until

modern.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：考古学の基礎用語について講義する。まずは土器・石器・陶磁器といった遺物の基礎を解説する。
- 3回：考古学の基礎用語について講義する。竪穴住居跡・墓壙・窯跡といった遺構の基礎を解説する。
- 4回：日本考古学の学史について、黎明期から戦後にかけての時期を中心に講義する。
- 5回：日本考古学の学史について、戦後から現代にかけての時期を中心に講義する。
- 6回：日本考古学が重視して来た土器研究の学史と方法論について講義する。
- 7回：遺跡から出土する人骨について、その特徴や分析方法について講義する。
- 8回：考古学と動物学との学際、特に動物考古学という研究分野について講義する。
- 9回：考古学と植物学との学際、特に植物考古学という研究分野について講義する。
- 10回：考古学と理化学の学際について、年代測定を取り上げて講義する。
- 11回：城塞、宮殿の考古学について、講師の瓦研究に基づいた、首里城正殿の歴史研究を例に講義する。
- 12回：集落の考古学について、講師が実施した先島諸島の津波災害と、集落の被災と復興の歴史を例に講義する。
- 13回：民族考古学について、講師のカメルーンでの狩猟採集民の槍調査の経験を踏まえて講義する。
- 14回：実際の考古資料、遺跡図面について、これまでの授業内容を踏まえて分析し、授業の達成度を確認する。

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

## 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート×2回：60% 最終テスト割合：40%

## テキスト / Textbooks

## 参考文献 / Readings

## その他 / Others

考古学に少しでも関心があれば歓迎します。

授業の状況を見て、実際に遺物に触れてもらう場を設ける可能性があります。

# 史学講義 54

Lectures on History 54

史料学

河内 春人 (KOUCHI HARUHITO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC354  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

歴史を研究する際には様々な史料が用いられる。近年では文字史料のみならず、物質資料や絵画・映像、さらには景観など非文字史料を扱った研究も大きく進展している。しかし、歴史書が歴史学において最も重要な史料のひとつであることに変わりはない。この講義では史料としての歴史書に注目し、その成り立ちや歴史的背景を理解することで歴史書に対する向き合い方を修得することを目指す。

Various historical materials are used when researching history. In recent years, there has been significant progress in research that deals not only with written historical materials, but also with non-written historical materials such as physical materials, paintings, videos, and even landscapes. However, history books remain one of the most important historical sources in historical studies. This lecture focuses on historical books as historical materials, and aims to help students learn how to approach historical books by understanding their origins and historical background.

## 授業の内容 / Course Contents

歴史書を史料として理解するためには、歴史書がどのようにして作られ、いかに読まれ、そして現在まで伝来



したかということに目を配る必要がある。それは、編纂目的、編纂過程、原本、写本系統などの課題として挙げられる。この授業では特に『日本書紀』に注目してこの問題を考える。それとともに関連する論点も取り上げ、歴史書を史料としていかに扱うべきか、多角的に理解できるようにする。

In order to understand history books as historical materials, it is necessary to pay attention to how they were created, how they were read, and how they were passed down to the present day. Issues include the purpose of compilation, the compilation process, the original text, and the lineage of manuscripts. In this class, we will consider this issue with a particular focus on the Nihon Shoki. At the same time, we will also discuss related issues, allowing you to understand from multiple perspectives how history books should be treated as historical materials.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：歴史と記録
- 3 回：歴史叙述と時間
- 4 回：歴史意識の始まり
- 5 回：帝紀・旧事
- 6 回：『日本書紀』の写本
- 7 回：『日本書紀』の編纂
- 8 回：『日本書紀』の原史料
- 9 回：『古事記』と『日本書紀』
- 10 回：出土文字資料と『日本書紀』
- 11 回：『日本書紀』講書
- 12 回：『日本書紀』以後
- 13 回：中世以降の『日本書紀』
- 14 回：試験

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業後にその内容についてふりかえり、理解を深めること。その他の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%  
 平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業内課題:25%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 遠藤慶太ほか 『日本書紀の誕生』 八木書店 2018 9784840622257
- 関根淳 『日本古代史書研究』 八木書店 2022
- 遠藤慶太 『東アジアの日本書紀』 吉川弘文館 2018

## 超域文化学講義 2

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 2

文化人類学 2

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC356

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

アフリカの諸民族集団を対象とした文化人類学的研究をもとに、人類が育んできた知や実践の体系を学び、人類文化の多様性と可能性を追求する。具体的には、生業、親族、結婚、法、政治、民族、難民、開発などを対象とした古典的民族誌を取り上げ、アフリカ社会と私たちの生とのつながりや、人類が育んできた普遍的な原理について思考する。

In this class, we will learn various modes of thought and practices of human being, by looking into cultural anthropological research on African ethnic groups. Specifically, we will focus on classic ethnographies, which covers livelihood, kinships and marriage, law, politics, ethnicity, refugee and development, etc., and discuss the connections between African society and our lives.

### 授業の内容 / Course Contents

人類社会の多様性を学ぶことは、私たちが当然のように受けれている前提を問い直す試みである。人類発祥の地であり、人類居住の長い歴史を持つアフリカには、多様な言語文化、生業、親族・社会形態、宗教実践や宇宙哲学が存在する。本授業では、これらのテーマを取り上げた民族誌から、文化人類学の方法論と理論を学

ぶ。さらに、古典的民族誌で取り上げられた事象が現代のアフリカでどう持続・変化しているのかを知ること  
で、アフリカと私たちの生の連続性について思考する。

学生は事前にテキストを読んでミニ・レポートを提出する。その後、教員が提出されたレポート内容と関連する講義を行う。

Learning the diversity of human societies is an attempt to reconsider the assumptions we have taken for granted. Africa, which is the birthplace of humankind and has a long history of human settlement, has diverse cultures, social forms, religious practices, and philosophies. In this class, we will learn the methodology and theory of cultural anthropology from ethnographies on these themes.

Students will read the textbook in advance and submit a mini-report. The instructor will then give a lecture related to the content of the submitted report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：民族誌を読む、アフリカで学ぶ
- 3回：ミニ・レポート1の作成と提出（環境と生業／経済と社会）
- 4回：環境と生業
- 5回：経済と社会
- 6回：ミニ・レポート2の作成と提出（親族と結婚／法と政治）
- 7回：親族と結婚
- 8回：法と政治
- 9回：補足と中間まとめ
- 10回：ミニ・レポート3の作成と提出（神話と宗教／呪術と科学）
- 11回：神話と宗教
- 12回：呪術と科学
- 13回：難民と日常性／開発と支援
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の指定の章を授業の前に熟読し、十分に理解して授業にのぞむこと。ミニ・レポート作成にあたり、必要に応じて本や研究論文等を参照すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    ミニ・レポート1:30%    ミニ・レポート2:30%    ミニ・レポート3:30%    授業への貢献度:10%

### テキスト / Textbooks

松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉（編） 『アフリカで学ぶ文化人類学』 昭和堂 2019  
9784812219065 ○

**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

文化人類学、アフリカ地域研究初学者を対象にしているため基本的な部分から説明するが、必要に応じて関連する文化人類学の文献を読むなどして理解を深める努力をすることが望ましい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ミニ・レポート作成・提出のためのノート PC などの端末（ミニ・レポート作成回のみ）

# 超域文化学講義 3

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 3

地域研究論 2

呉羽 正昭 (KUREHA MASA AKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC357

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパとはどのような地域であるのかを理解することを目標とする。それとともに、世界の自然環境、それを舞台に展開される人間活動を多角的に探求し、地域を考える総合的な知識と思考力を身に付ける。

The class aims to have students understand what sort of region Europe is. At the same time, it will explore, in a multi-faceted manner, the natural environment of the world and the human activities played out on that stage, and will instill in students thinking power and comprehensive knowledge concerning the region.

## 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパの性格を形成している、自然環境、文化要素、人口、都市、農村、ツーリズムなどをとりあげ説明するとともに、具体的な地域の特徴を説明することを通じて、ヨーロッパの地域性について考える。

Taking up and explaining the natural environment, cultural factors, population, urban areas, agricultural villages, tourism, etc. that form the character of Europe, the course will consider the regionality of Europe by explaining specific regional examples.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ヨーロッパとは何か
- 2回：ヨーロッパの自然環境
- 3回：ヨーロッパの言語と宗教
- 4回：ヨーロッパの民族と人口
- 5回：ヨーロッパの国家と政治
- 6回：ヨーロッパの農業・農村
- 7回：ヨーロッパの都市
- 8回：ヨーロッパの都市：ウィーンの事例
- 9回：ヨーロッパのツーリズム
- 10回：ヨーロッパの世界遺産
- 11回：アルプスのツーリズム
- 12回：アルプスのスキーリゾート
- 13回：アルプスの山岳リゾート
- 14回：まとめ：ヨーロッパの地域構造

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を読んでおくこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパーの内容評価:40%

毎回のリアクションペーパーの内容 (40%) および筆記試験 (60%) で評価します。

#### テキスト / Textbooks

使用しない。

#### 参考文献 / Readings

ジョーダン著, 山本正三・石井英也・三木一彦訳 『ヨーロッパ：文化地域の形成と構造』 二宮書店 2005  
9784817602367

加賀美雅弘編 『世界地誌シリーズ 11 ヨーロッパ』 朝倉書店 2019 9784254169317

淡野明彦編 『観光先進地ヨーロッパ』 古今書院 2016 9784772231800

浮田典良・加賀美雅弘・藤塚吉浩・呉羽正昭 『オーストリアの風景』 ナカニシヤ出版 2015  
9784779509506

呉羽正昭 『スキーリゾートの発展プロセス: 日本とオーストリアの比較研究』 二宮書店 2017  
9784817604231

トピックに応じて参考図書をあげるのので、不明な点やより知識を深めたい点など参照のこと。

# 超域文化学講義 7

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 7

アメリカ社会史 1

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC361

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1. アメリカ合衆国社会の特性を歴史的に位置づけることができる。
  2. さまざまな歴史像を史料や諸研究とともに比較検討して評価できる。
1. Students will be able to describe the characteristics of United States society historically.
  2. Students will be capable of comparing and evaluating historical interpretations with documents and scholarly research.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ合衆国社会とはなにか。その歴史像の競合や変貌を通して検討する。

履修者は藤永康政・松原宏之編著『「いま」を考えるアメリカ史』（2022年）の短い該当章を読んだ上で、各回の授業に臨んでもらいたい。講義では、各章の狙いを読み解きながら、履修者とともにその論評に踏み込みたい。ディスカッション・セッションや中間レポートをまじえて、履修者各自はアメリカ合衆国のいまと歴史とを具体的に描き出すことができるようになるはずである。

This course examines the competing interpretations of the United States' history. Students are required to read a

short chapter of an assigned text before coming to each class. Through lectures and discussions, each student has opportunities to evaluate historical interpretations of the assigned text critically.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー「アメリカ史を歴史学する」とはいかなる行為か
- 2回：アメリカ合衆国史概観ーアメリカン・センターの歴史像
- 3回：ジェンダーのアメリカ史ーポピュラーミュージックというメディアから
- 4回：豊かさを考えるー消費を歴史学する
- 5回：宗教的自由のいまー宗教史で考える
- 6回：セッション（中間レポート）
- 7回：理念国家アメリカの誕生とこじれる人びと1ー長いアメリカ革命
- 8回：理念国家アメリカの誕生とこじれる人びと2ー奴隷制の終わり
- 9回：収監と国境警備のアメリカ1ー奴隷制のあとで
- 10回：収監と国境警備のアメリカ2ー新自由主義の時代
- 11回：アメリカ帝国とジェンダー
- 12回：アメリカ文化の4つの地層
- 13回：アメリカ政治の「いま」を歴史学する
- 14回：セッションと総合討議：アメリカ史像を問い直す

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

藤永康政・松原宏之編著『「いま」を考えるアメリカ史』の該当章を読んだ上で各週講義に参加のこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:40% レスポンスペーパーほか参画:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

藤永康政・松原宏之編著 『「いま」を考えるアメリカ史（仮題）』 ミネルヴァ書房 2022 ○

### 参考文献 / Readings

- アメリカ学会編 『原典アメリカ史』 岩波書店  
 亀井俊介ほか編 『史料で読むアメリカ文化史』 東大出版会  
 巽孝之ほか編 『事典 現代のアメリカ』 大修館書店 2004  
 有賀夏紀ほか編 『アメリカ史研究入門』 山川出版社 2009  
 梅崎透ほか編 『よくわかるアメリカの歴史』 ミネルヴァ書房 2021



# 超域文化学講義 9

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 9

アメリカ社会史3

塚田 浩幸 (TSUKADA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC363

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国がまだなかった時代の歴史をその国家の枠組みで書いてきた不条理さを克服し、近世アメリカ史研究は先住民とヨーロッパ人のせめぎあいの時代として、その時代特有の見方がなされるようになっていく。この授業では、ここ数十年の近世アメリカ史研究の空間論的転回ならびに先住民論的転回の成果を確認するとともに、依然残っている問題を抽出するなかで、既存の歴史像や学問のあり方を批判的に問い直すことができるようになることを目標にする。

Overcoming the anachronistic framework of the United States, historians now describe early modern America as contested spaces between a variety of Native American and European groups. The goal of this course is to consider the achievements of the Spatial and Indigenous turns and to identify remaining problems; students learn to critically rethink existing historical understandings and disciplinary practices.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、先住民・植民者関係のパターンを、歴史上あるいは現代の他の地域にも適用できそうな（現にされているものも含む）概念やキーワードを使いながら考察する。その際、アメリカ大陸の内部の多様性に留

意するとともに、アメリカ先住民史をさらに広い視座に位置づけ、近世ヨーロッパ史やアトランティック・ヒストリーとの接続を試みる。なお、この授業で扱うのは17世紀～19世紀半ばの東部沿岸が中心になるが、研究動向の理解の前提として現代までの先住民史の通史も概観する。

We analyze relations between Indigenous Americans and colonial Europeans, using concepts and keywords that can be (and have been) applied to other historical and contemporary cases. In doing so, we keep in mind the diversity within North America and attempt to connect Early Native American history with early modern European history and Atlantic history. Although this class focuses on the eastern coast from the 17th century to the mid-19th century, to understand research trends, it also provides an overview of the history of Indigenous Americans up to the present day.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

Introduction

2回：ディズニー『ポカホンタス』の視聴

Video Viewing: "Pocahontas"

3回：『ポカホンタス』の批評、多文化主義、人種

Critiques of "Pocahontas," Multiculturalism, Race

4回：近世アメリカ史の研究史

Historiography of Early Modern American history

5回：コロニアリズムの種類

Typology of Colonialism

6回：ネイティブグラウンド

Native Ground

7回：ミドルグラウンド

Middle Ground

8回：奴隷制

Slavery

9回：重層的アイデンティティ

Multilayered Identity

10回：複合君主政、新しいブリテン史

Composite Monarchy, New British History

11回：セトラー・コンプレックス、ジェノサイド

Settler Complex, Genocide

12回：十七世紀危機

The Crisis of the Seventeenth Century

13回：アメリカ先住民の複合的政体、ジェンダー

Composite polities of Native Americans, Gender

14回：アメリカ独立戦争、強制移住

The War of Independence, Indian Removal

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:			

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業の予習・復習になるような二次文献を指定するので、それを読んで理解を定着させる。また、授業で扱った概念やキーワードを他の地域／事例にあてはめながら自分の学習を深める。

You will be assigned secondary literature to prepare for and review the content of the class. In addition, you are expected to deepen your studies by applying the concepts and keywords covered in the class to other case studies.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 二次文献のリーディング（3つ） Article Reading:60% 発展学習のレポート

Report:40%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

# 超域文化学講義 12

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 12

イスラーム複合社会史2

後藤 絵美 (GOTO EMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC366

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、イスラームやムスリム社会と結びつけられてきた現代的諸問題（イスラモフォビア、宗教権威主義、テロリズム）を扱う。それらを「他人事」ではなく、自らの生との関わりから理解し、そこから脱する方法を考えることが本講義の目標である。

This lecture deals with contemporary issues related to Islam and Muslim societies, including Islamophobia, authoritarian religious discourses, and terrorism. Its aim is to cultivate a deep understanding of these issues, connect them with our own lives, and contemplate a way out of them.

## 授業の内容 / Course Contents

近年、さまざまな分野でのグローバル化が急速に進む一方で、「自国第一主義」や「移民排斥」、「ヘイトスピーチ」等によって、人々のあいだの分断を助長する動きが顕著になっている。本講義では、そうした分断の動きとしばしば深く関連するといわれるイスラームをめぐる複数の現象を取り上げ、そこに映る現代世界の構造や思想、現実の断片を眺めていく。その作業を通して、今がどのような時代であるのか、今後何が必要になってくるのかを考えていく。

In recent years, while globalization in various fields has progressed rapidly, divisions between people have become remarkable through "own nation first policy," "immigrant exclusion," and "hate speech," etc. In this lecture, we will consider multiple phenomena related to Islam, which are often deeply related to the movement of such divisions. We will look at the structures, ideas, and fragments of the reality of the modern world reflected there. Through the class, we will consider what kind of era this is and what will be needed in the future.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに一現代世界を考える
- 2 回：イスラームの基礎知識
- 3 回：神と預言者
- 4 回：イスラモフォビアとは何か
- 5 回：イスラモフォビアの構造
- 6 回：聖典とその解釈
- 7 回：権威主義とは何か
- 8 回：権威主義の構造
- 9 回：テロリズムとは何か
- 10 回：テロリズムの構造
- 11 回：テロリズムを考える
- 12 回：現代世界の事例研究（レポート報告）
- 13 回：現代世界の事例研究（レポート報告）
- 14 回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に、新聞・テレビなどでイスラームや関連のニュースに触れておくこと。配布されたプリントを読み返す他、参考図書や参考論文を読み自習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のレポート：40% グループワークや授業内での発言などの貢献：20% 最終  
レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 超域文化学講義 14

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 14

イスラーム複合社会論2

神田 惟 (KANDA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC368

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

①「イスラーム美術」がヨーロッパや日本に与えた影響や、②「イスラーム美術」とイスラームの教義を基盤とした社会との関わり、③南インド、東南アジア、中国において展開したイスラーム美術について見識を深めることで、ムスリムのための／ムスリムによる／ムスリムの文化を題材とした美術、音楽、文学作品が創り出された政治的・文化的・宗教的コンテクストについて、多角的に論述することができるようになることを目標とします。

This course aims to offer students the chance to acquire knowledge in three key areas: 1) the influence of "Islamic art" on European and Japanese cultures, 2) the connection between "Islamic art" and society based on Islamic doctrines, and 3) the development of Islamic art in South India, Southeast Asia, and China. Through this exploration, the course aims to assist students in articulating their perspectives on how political, cultural, and religious contexts have influenced the creation of art, music, and literature, whether produced by or for Muslims, or centered around the theme of Muslim culture.

## 授業の内容 / Course Contents

第2回から第6回の講義では、「オリエンタリズムと物質文化」について検討します。続く第7回から第10回では、イスラームの教義が、物質文化にどのように、そしてどの程度反映されているのかについて、具体的な事例に即して検討します(What is "Islamic" about Islamic Art?)。最後に、第11章から第13章では、ムスリム・コミュニティが存在し、その構成員が物質文化の担い手であった/であるにもかかわらず、既存の「イスラーム美術」という西欧中心主義的な学問的枠組みから捨象されてきた地域(南インド、東南アジア、中国)の物質文化の歴史的展開について学びます。

The lectures will first discuss the relationship between Orientalism and the material cultures (Lecture 2, 3, 4, 5, and 6). Then, they will examine the extent to which the doctrines of Islam have inform the material culture (What is "Islamic" about Islamic Art?; Lecture 7, 8, 9, and 10). Lastly, they focus on the chronological developments of the material cultures in the South India, the South East Asia, and China, which have been excluded from the Eurocentristic academic framework of "Islamic art," notwithstanding the existence of substantial Muslim communities in these areas (Lecture 11, 12, and 13).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：イスラームとは何か、「イスラーム美術」とは何か
- 2回：オリエンタリズムと物質文化①：古代から啓蒙の世紀に至るまでの「他者」認識の変遷
- 3回：オリエンタリズムと物質文化②：ナポレオンのエジプト遠征(1798)以降の「オリент」認識(1)：オダリスクとトルコ行進曲
- 4回：オリエンタリズムと物質文化③：ナポレオンのエジプト遠征(1798)以降の「オリент」認識(2)：イスラモフィリア
- 5回：オリエンタリズムと物質文化④：オダリスクのその後—西洋化・近代化する世界と19-21世紀の「イスラーム」美術?
- 6回：オリエンタリズムと物質文化⑤：オリентから見た「オリент」—日本人の「ペルシャ(波斯)」観
- 7回：イスラームの教義と物質文化①：クルアーンに登場する25人の預言者たちはどのように表象されるのか
- 8回：イスラームの教義と物質文化②：偶像破壊(イコノクラスム)と偶像忌避(アニコニズム)
- 9回：イスラームの教義と物質文化③：参詣(ズィヤール)と大巡礼(ハッジ)—聖者信仰と一神教は両立し得るのか?
- 10回：イスラームの教義と物質文化④：シーア派とスンナ派—宗派の違いはどの程度物質文化に反映されるのか?
- 11回：「イスラーム美術」の周縁(ペリフェリー)①：南アジア
- 12回：「イスラーム美術」の周縁(ペリフェリー)②：東南アジア
- 13回：「イスラーム美術」の周縁(ペリフェリー)③：中国
- 14回：総括と補足説明

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントペーパー・穴埋めクイズ (5点 x14回) :70%  
合 : :30%

最終レポート割

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

参考文献については授業内で配布するプリントに記載する。



# 超域文化学講義 15

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 15

文化環境学 1

池口 明子 (IKEGUCHI AKIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC369  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） オンデマンド科目 毎週月曜日に配信  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

東南アジア・オセアニアの自然環境区分や人類移動史、言語分布の概略を把握したうえで、アジア・オセアニアの河

川氾濫原、泥炭湿地、干潟など、湿地への人々の文化適応や開発の諸課題について、農業・漁業を事例に論じることができる。

This lecture introduces geographical viewpoints to understand nature-society relationships in the Southeast Asia and Oceania. Participants will learn basic physical geography, pre-historic human migration and language groups, and discuss academic issues such as cultural adaptation to the floodplains, peat marsh, tidal wetlands, and developmental issues related to agriculture and fisheries.

## 授業の内容 / Course Contents

人文地理学のうち、自然環境への技術的適応を中心に、地域の自然と社会の関係を考える文化生態論をとりあげ、そ

の基礎的概念や地域理解の方法について講義する。受講者は動画や資料を視聴し、そこから読み取った情報をもとに課題を考えてワークシートに記入しながら学習をすすめる。

The framework of cultural ecology and related field will be discussed in regional context. Students are required to learn by online materials and worksheet descriptions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1回：ガイダンス

シラバスを確認し、取り扱う地域範囲と学史的位置づけについて理解する

#### 2回：東南アジア・オセアニアの自然環境

【事前学習】 東南アジア・オセアニアの位置と地形の概要を理解しておく (1時間)

【事後学習】 自然環境区分の方法を整理しておく (2時間)

#### 3回：東南アジア・オセアニアの人類進化と言語

【事前学習】 第四紀の環境変動についてその概要を理解しておく (1時間)

【事後学習】 環境変動の人類移動、および大まかな言語分布を整理する (2時間)

#### 4回：ジャワの人口と環境

【事前学習】 東南アジアの人口密度分布を地図で確認しておく (1時間)

【事後学習】 「農業インボリューション仮説」のポイントを整理しておく (2時間)

#### 5回：ホンデルタの自然と村落

【事前学習】 ホンデルタおよび紅河の地形を地図で確認しておく (1時間)

【事後学習】 ホンデルタの地形の特徴と村落社会の関係を整理しておく (2時間)

#### 6回：ホンデルタの都市と露天商

【事前学習】 ベトナムの政治史について予習しておく (1時間)

【事後学習】 ハノイの都市形成と市場の立地について整理しておく (2時間)

#### 7回：メコンデルタの自然と開発

【事前学習】 メコンデルタとメコン川を地図で確認し、ホンデルタの地形との差異を考えておく (1時間)

【事後学習】 ホンデルタの自然と開発の特徴について整理しておく (2時間)

#### 8回：メコンデルタの養殖と国際市場

【事前学習】 GAP や ASC などのエコラベルについてインターネットで調べておく (1時間)

【事後学習】 国際認証制度が生産地域に与える影響について整理しておく (2時間)

#### 9回：コラート平原の自然と天水田

【事前学習】 コラート平原を地図で確認し、デルタの地形との差異を考えておく (1時間)

【事後学習】 コラート平原の自然環境特性と稲作技術について整理しておく (2時間)

#### 10回：コラート平原の都市化と労働

【事前学習】 ラオスの政治史について予習しておく (1時間)

【事後学習】 コラート平原における労働市場について整理しておく (2時間)

#### 11回：大陸東南アジア山地の自然と焼畑

【事前学習】 自分が持っている焼畑のイメージを整理しておく (1時間)

【事後学習】 東南アジア山地の自然環境特性と焼畑について整理しておく (2時間)

#### 12回：ニューギニア泥炭湿地の自然と生業

【事前学習】 ニューギニア島の気候と地形について確認しておく (1時間)

【事後学習】 泥炭湿地の自然環境特性と生業技術について整理しておく (2時間)

#### 13回：沖縄島の干潟と開発

【事前学習】沖縄島の沿岸環境問題についてインターネットなどで予習しておく（1時間）

【事後学習】沖縄島の自然環境特性と開発の課題について整理しておく（2時間）

14回：復習

【事前学習】第1回・2回で学習した地域区分と13回までの事例とを対応させて整理する（1時間）

【事後学習】環境適応の研究手法と資料について整理する。（2時間）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の内容に記載のとおり

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ワークシート（複数回）:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

LMS を利用するための PC

# 超域文化学講義 17

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 17

農耕牧畜論

吉村 郊子 (YOSHIMURA SATOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC371  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS3600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

自然と深くかかわりながら暮らす農耕民や牧畜民の実態について学び、その歴史や変遷をふまえつつ人類の生活の多様性を理解し、俯瞰的にものごとをみることができるようになる。

また、多様な事象や対象を理解する際に必要な知と手法を学び、これまでに各自が他で積み重ねてきた学びや専門分野なども生かしつつ、論理的に思考し理解する力を伸ばす。

さらには、そうした学びの経験と力を、他のテーマや自身の日常へと活かすことができるようになる。

This course aims for students to learn about agricultural and/or pastoral societies, including their history and changes; to know and consider human diversity; to learn the knowledge and methods necessary for understanding them; and to make use of those knowledge, methods and experiences for other various themes.

## 授業の内容 / Course Contents

おもにサブサハラ・アフリカやアジアに暮らす農耕民および牧畜民の事例を取りあげて、彼らの暮らしの様態を自然・生態・文化・歴史・開発・国家や他集団とのかかわりなど、さまざまな要素との関連から紹介しつつ講義をすすめる。

文化人類学や生態人類学に加えて、地域研究や歴史学など隣接諸分野の成果や手法も参照し活用しつつ、多様な他者や事象を理解するために必要な視座と思考力とは何かを考える。

This course focuses on agricultural and/or pastoral societies, mainly showing the cases in sub-Saharan Africa and Asia, with various aspects such as nature, ecology, culture, history, development, nation, and relationships with others. It is important to know and understand diverse lifestyles, cultures and societies. So please consider what perspectives and skills are necessary for you to understand diversity and others.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス、イントロダクション
- 2回：ドメスティケーション、牧畜民の生態と文化
- 3回：牧畜民の生態と文化（つづき）
- 4回：さまざまな農耕文化、農耕民の生態と文化
- 5回：農耕民の生態と文化（つづき）
- 6回：現代アフリカにおける国家・開発と牧畜民 — はじめに
- 7回：牧畜民ヒンバとヘレロ 1. 現在の彼らの暮らし
- 8回：牧畜民ヒンバとヘレロ 2. 彼らの祖先の暮らしと他集団とのかかわりの歴史
- 9回：牧畜民ヒンバとヘレロ 2. 彼らの祖先の暮らしと他集団とのかかわりの歴史（つづき）
- 10回：牧畜民ヒンバとヘレロ 3. 植民地統治の歴史とのかかわりから
- 11回：牧畜民ヒンバとヘレロ 4. ナミビア独立後のダム建設計画とのかかわりから
- 12回：牧畜民ヒンバとヘレロ 4. ナミビア独立後のダム建設計画とのかかわりから（つづき）
- 13回：現代アフリカにおける国家・開発と牧畜民（再び） — さまざまな資料から得た知見をふまえて、再考する
- 14回：多様性へのまなざし — 他者を理解し、また自己への理解を深める

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の内容をふり返って復習する他に、普段からさまざまな文献資料や情報および自身の日常経験にも眼を向けて、視野を広げつつ学びを積み重ねていくよう、心がけること。

その他、授業時間外の学習が必要なときは適宜、指示する（例：ミニ課題への取り組みや理解度の確認など）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ミニ課題や小テスト:30%

### テキスト / Textbooks

島田周平・上田元編 『世界地誌シリーズ8 アフリカ』 朝倉書店 2017 9784254169287 ○

上記のテキストは補助教材として、ミニ課題への取り組みを含めた自宅学習などの際に必要となる。

その他、授業およびその復習のために必要な教材や参考資料などについては適宜、配布する。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜、紹介する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ミニ課題の提出や小テストの実施に際しては、授業支援システム（Canvas LMS）を利用する場合があります。

**その他/ Others**

本科目の受講に際しては初回の授業ガイダンスに出席して、授業の概要や進め方を確認することを勧める。

# 超域文化学講義 19

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 19

都市空間論

湯澤 規子 (YUZAWA NORIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC373

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1. 都市空間の歴史的な変化を理解できる。
2. 地理学におけるライフヒストリーの視点と方法、その意義について理解できる。
3. 事例を通して、日本近現代の地域や文化を論じる視点を得る。
4. 地理学や歴史学の新しい視点とその可能性について議論できる。

1. Students will be able to understand the historical changes in urban space
2. Students will be able to understand the perspective and methods of life history and their significance.
3. Students will be able to gain a perspective on discussing areas and culture in modern Japan through case studies.
4. Students will be able to discuss new perspectives of geography and history and their possibilities.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では「都市空間」をめぐる事象とその歴史的変化について論じる。ライフヒストリーから地域の特徴や歴史、文化について考え、私たちが生きる現代社会とこれからの未来を考える視座を得ることを目的としま

す。フィールドワークにもとづいた様々な事例を紹介し、歴史地理学を中軸に据えながら、社会経済史学、農業史、文化史、環境史などもふまえた視点からこの問題にアプローチします。

In this lecture, we discuss the phenomena of "urban space" and its historical changes. The purpose of this lecture is to give a perspective on the characteristics, history, and culture of the region from the life history, and a perspective on the contemporary society in which we live and the future. We introduce various cases based on field work, and approach this problem from the perspective of socio-economic history, agricultural history, cultural history, environmental history, etc., with historical geography.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：都市空間の誕生：都市空間を行き交う人びと
- 3回：胃袋から考える都市空間（1）一膳飯屋と都市
- 4回：胃袋から考える都市空間（2）工場の共同炊事と集団食
- 5回：胃袋から考える都市空間（3）近代都市の惣菜史
- 6回：胃袋から考える都市空間（4）都市の台所が担う救済と経済
- 7回：胃袋から考える都市空間（5）日常茶飯からジェンダーを論じる
- 8回：胃袋から考える都市空間（6）おふくろの味と現代社会
- 9回：ごみから考える都市空間（1）黄金の社会経済史
- 10回：ごみから考える都市空間（2）汚物の誕生
- 11回：ごみから考える都市空間（3）バキュームカーが支えた経済発展
- 12回：ごみから考える都市空間（4）グローバルサニテーション
- 13回：これからの都市空間を創造する
- 14回：まとめとふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に配布するレジュメや資料を見直し、授業内容に関連する書籍、記事、映画、小説、ニュースなど、さまざまな情報に積極的に触れ、自分自身で議論を深められるように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 講義内のミニ課題提出:30%

最終レポート課題、講義内のみに課題の詳細については、講義の中でお知らせします。

### テキスト / Textbooks

特に指定しません。

### 参考文献 / Readings

湯澤規子 『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーから見た小規模家族経営と結城紬生産』 古今書院 2009 9784772241250

湯澤規子 『胃袋の近代—食と人びとの日常史』 名古屋大学出版会 2018 9784815809164



湯澤規子 『7袋のポテトチップスー食べるを語る、胃袋の戦後史』 晶文社 2019 9784794970794

湯澤規子 『ウンコはどこから来て、どこへ行くのか』 ちくま新書 2020 9784480073303

湯澤規子 『焼き芋とドーナツー日米シスターフード交流秘史』 KADOKAWA 2023 9784041126493

その他、適宜授業中に紹介します。

# 超域文化学講義 21

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 21

フォークロア 1

市田 雅崇 (ICHIDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC375

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フォークロアおよび民俗宗教の考え方やさまざまな事例を通して、伝統的な価値観・規範が変容し多元化した現代社会について理解を深めることを目標とする。

In this course, the aim is to understand contemporary society where traditional values and norms are changing, through various cases of folklore and folk religion studies.

## 授業の内容 / Course Contents

民俗宗教とは、宗教教団の教義や思想あるいは宗教的職能者だけではなく、一般の人びとの日常生活の中に潜在する宗教的信念や実践の総体をさす言葉です。この授業では寺社、霊山などを聖地としてとらえ、それらに関連する民俗宗教の事例を通して、日本の文化を考えてゆきましょう。

なぜ人は聖地に足を運ぶのか。伊勢、富士山、出羽三山などの寺社や霊山をとりあげて考えていきたいと思えます。

Folk religion is a manipulated concept that includes not only religious principles and practitioners, but religious beliefs and practices in the everyday world as a whole. The course will study the Japanese culture, focusing on

shrines, temples and sacred mountains.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：民俗宗教とは
- 3回：民俗宗教と山岳信仰
- 4回：日々の生業と山岳信仰
- 5回：人生儀礼と山岳信仰
- 6回：現世利益と山岳信仰（1）
- 7回：現世利益と山岳信仰（2）
- 8回：都市近郊の聖地の形成（1）
- 9回：都市近郊の聖地の形成（2）
- 10回：身体文化からみる民俗宗教（1）
- 11回：身体文化からみる民俗宗教（2）
- 12回：身体文化からみる民俗宗教（3）
- 13回：現代の民俗宗教
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にレジュメと資料を事前に掲載するので、授業の前に読んでおいてください。また、適宜 Canvas LMS で指示します。

そのほか、新聞やニュースを通して、国内外の文化に関する情勢に目を配っておいてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の授業内課題:50%

課題では、授業内で取り扱ったテーマについて、受講者が現地で調査をしたうえで、レポートとして提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

長谷部八朗監修 『人のつながりの歴史・民俗・宗教』 八千代出版 2022 9784842918280

そのほか授業内で紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

外に出て、見て、聞いて、食べて、その場の雰囲気を感じつつ、楽しみながら文化を考えようとする姿勢

### その他 / Others

外に出て、見て、聞いて、食べて、その場の雰囲気を感じながら日本の文化を考えてみましょう。普段は気にとめていない身の回りのモノ・出来事を別の視点から見ると、今までとはちがう世界が見えてきます。

# 超域文化学講義 23

Lectures on Interdisciplinary Cultural Studies 23

比較技術論

厚 香苗 (ATSU KANAE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC377

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS3600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本の民俗学が明らかにしてきた「生きる方法としての民俗技術」について学ぶ。

Study about Japanese folkcraft as a way of living.

## 授業の内容 / Course Contents

日本の民俗学における民俗技術論の展開を理解し、いわゆる「伝統的な生活」のなかにある広義での技術について理解を深めて、その継承と活用について考える。

Understand the history of Japanese folkcraft and think about its succession and utilization.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：日本における民俗技術論の展開 1—モノの研究から始まった民俗技術研究

3 回：日本における民俗技術論の展開 2—アチック・ミュージアムの活動

4 回：日本における民俗技術論の展開 3—文化財行政とアカデミック志向の研究

5 回：日常を記録する技術 1—記録する対象と方法の推移

- 6回：日常を記録する技術2—変容が予想される山村生活を記録する  
 7回：日常を記録する技術3—消滅することが予想されるゴゼを記録する  
 8回：テキヤ稼業の生活世界1—生業としての都市における露店商い  
 9回：テキヤ稼業の生活世界2—移動的な人びとの伝える由緒書  
 10回：水上生活の伝承論1—日本の近代化を支えた人びと  
 11回：水上生活の伝承論2—水上生活者の生活技術  
 12回：民俗技術の現在1—竹縄作りの可能性  
 13回：民俗技術の現在2—民俗技術と博物館  
 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

新聞の地域面を読む習慣をつけて下さい。インターネットでは検索できない、地域文化についてのささやかな記事が載っています。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

参考文献一覧は初回に配布します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自分の身の回りで起こっていることに興味をもってください。民俗学は誰もが「あたりまえ」と思っている文化を研究対象としますが、自分の「あたりまえ」は、他の人には「あたりまえ」ではないことがよくあります。特に民俗技術は、民俗学のなかでも日常的に強く意識していないと若い人が存在を知ることすら難しい分野です。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません。

### その他 / Others

コロナ禍が落ち着いてきました。あちらこちらに出かけて、いろいろ発見しましょう。

# 自然地理学 1

Physical Geography 1

意外と身近にある自然地理～大地編～

伊藤 有加 (ITO YUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC403

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、自然地理学における基礎的な知識を習得し、身近な場所から自然地理に関わる事象を見つけ出す能力を養うことを目標とします。

This class aims to have students acquire fundamental knowledge in physical geography and to cultivate the ability to discover phenomena related to physical geography in nearby locations.

## 授業の内容 / Course Contents

身近な場所から辺境の地まで、地球上のあらゆる場所で観察される自然現象やそこにいる人類との関連について、空間的な観点で調査を行い、科学的な手法を用いて分析するのが自然地理学です。この授業では、主に大地に根付く事象について、写真、映像や詳細な資料に基づいて解説し、自然地理学的に読み解くための基礎的な知識を習得します。また適宜、関連する時事問題を取り上げ、解説を行います。

Physical geography conducts surveys of natural phenomena observed everywhere on earth, from familiar locations to remote regions, and of their relationship with human beings from a spatial perspective, and analyzes these using scientific methods. This class will primarily explain land-based phenomena using site photographs,

images, and detailed materials, and will equip students with fundamental knowledge for interpreting these in terms of physical geography. It will also explain related current events as appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：東京の地形と自然 1:地名の由来と消えた都市河川
- 3回：東京の地形と自然 2：東京の台地と関東平野の成り立ち
- 4回：東京の地形と自然 3：低地と洪水
- 5回：地球のすがたとなりたち、地震 1：プレートテクトニクスと地震発生の仕組み
- 6回：地震 2：活断層と地震災害の実態
- 7回：火山活動と火山災害
- 8回：山地 1:山体崩壊、非火山性山地、隆起と削剥
- 9回：山地 2：山地の災害
- 10回：海岸地形と海岸侵食
- 11回：土壌・植生
- 12回：土地利用と地形改変
- 13回：地形を読んでみよう
- 14回：地理空間情報

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回授業内に指示した課題の提出:40%

課題提出に関しては、授業内で指示予定

### テキスト / Textbooks

テキストは使用せずに、講義資料を Google Drive にて電子媒体で配布。

### 参考文献 / Readings

吉田英嗣 『はじめての自然地理学』 古今書院 2017 4772271457

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンラインで講義をおこなうため、ノートパソコンやタブレット端末の準備が必要

## 自然地理学 2

### Physical Geography 2

意外と身近にある自然地理～空・海・水・環境問題編～

伊藤 有加 (ITO YUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC404

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、自然地理学における基礎的な知識を習得し、身近な場所から自然地理に関わる事象を見つけ出す能力を養うことを目標とします。

This class aims to have students acquire fundamental knowledge in physical geography and to cultivate the ability to discover phenomena related to physical geography in nearby locations.

### 授業の内容 / Course Contents

身近な場所から辺境の地まで、地球上のあらゆる場所で観察される自然現象やそこにいる人類との関連について、空間的な観点で調査を行い、科学的な手法を用いて分析するのが自然地理学です。この授業では、主に大気、海洋、陸水 (地下水など)・氷河に関する事象および地球環境の諸問題について、写真、映像や詳細な資料に基づいて解説し、自然地理学的に読み解くための基礎的な知識を習得します。また適宜、関連する時事問題を取り上げ、解説を行います。

Physical geography conducts surveys of natural phenomena observed everywhere on earth, from familiar locations to remote regions, and of their relationship with human beings from a spatial perspective, and analyzes



these using scientific methods. This class will primarily explain phenomena related to the atmosphere, ocean, and water, and global environmental issues, using site photographs, videos, and detailed materials, and will equip students with fundamental knowledge for interpreting these in terms of physical geography. It will also explain related current events as appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：気象・気候1：日本の四季と気候
- 3回：気象・気候2：大気の大循環と風
- 4回：気象・気候3：世界の気候
- 5回：気象・気候4：都市の気候
- 6回：海洋1：海洋の構造・海水の循環
- 7回：海洋2：沿岸・海洋の災害
- 8回：水文1：地表の水循環
- 9回：水文2：地下水
- 10回：水文3：水環境の諸問題
- 11回：氷河と氷河地形
- 12回：地球環境の変遷と地球温暖化
- 13回：地球環境の諸問題1
- 14回：地球環境の諸問題2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 普段からできるだけ環境や地理に関連する情報に関心を持つこと
- ・ 授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%  
 平常点割合 :40% 毎回授業内に指示した課題の提出:40%  
 2/3以上の課題を提出していない場合は単位修得不可

### テキスト / Textbooks

テキストは使用せずに、講義資料を Google drive にて電子媒体で配布予定

### 参考文献 / Readings

吉田英嗣 『はじめての自然地理学』 古今書院 2017 4772271457

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンライン講義のため、ノートパソコンやタブレット端末の準備が必要

# 比較政治史 1

Comparative Political History 1

帝政ロシア史

草野 佳矢子 (KUSANO KAYAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC405

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパ史研究に関して、史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。

Students will learn methods and ideas of historical research, based on historical materials related to research in European history.

Students will become able to explain the flow of Russian history until collapse of the Empire, as well as the characteristics of Kievan Rus and Moscow Russia, an outline of the reigns of each emperor of Imperial Russia, and details of major incidents and reforms, including comparisons with Western Europe.

## 授業の内容 / Course Contents

1917 年の帝政崩壊までのロシアの歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当て、比較史の視点にも留意して、講義する。

適宜、関連する映像の視聴も行う。

This course deals with the history of Russia prior to the 1917 Revolution, focusing on issues such as relations between the state and society, reform of governance systems, and political reform, with attention given to comparative history as well.

Related videos will be shown as appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ロシア帝国成立前のロシア①：キエフ・ルーシの成立と分解、モスクワの勃興と拡大
- 2 回：ロシア帝国成立前のロシア②：モスクワ・ロシアの特徴、モスクワ・ロシアの文化の崩壊
- 3 回：ピョートル大帝の改革①：西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化
- 4 回：ピョートル大帝の改革②：中央・地方の行政制度改革、社会の再編
- 5 回：女帝たちの時代：エカチェリーナ 1 世～ピョートル 3 世の治世
- 6 回：エカチェリーナ 2 世の統治：エカチェリーナの啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革、貴族・都市への恵与状、農奴制の強化、パーヴェル 1 世
- 7 回：アレクサンドル 1 世とニコライ 1 世：秘密委員会と初期の改革、スペランスキーの改革案、祖国戦争後のアレクサンドル、デカブリストの乱とニコライの即位、専制の強化、法律と官僚制の整備
- 8 回：アレクサンドル 2 世と大改革①：クリミア戦争、大改革の前提、農奴解放、ゼムストヴォ制度の導入
- 9 回：アレクサンドル 2 世と大改革②：都市自治制度の改革、地方官僚制の整備、司法制度改革、大改革と身分制
- 10 回：革命運動と政治改革の試み：農奴解放後の革命運動の展開、大改革期の政治改革の試み、ロリス＝メリコフの改革案
- 11 回：アレクサンドル 3 世時代のロシア：専制体制の安定化、農民統治制度改革、地方自治制度改革、工業化とその影響
- 12 回：ニコライ 2 世の治世 1894～1904 年：新皇帝の即位、ゼムストヴォ・リベラル運動、労働運動、革命運動、農民問題、地方統治問題
- 13 回：1905 年革命：「自由主義者の春」、血の日曜日事件、「立憲体制」への移行
- 14 回：1906 年体制下のロシア：第一ドゥーマ、ストルイピン改革、第一次世界大戦とロシア、2 月革命

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業前に前回の内容をよく復習すること。参考文献の関連する部分を読むなどして、理解を深めることが望ましい。

授業の翌々日までに CanvasLMS にリアクションペーパーを提出する（今回の授業で学んだこと、印象に残ったこと等。250 字以上）

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :75%

平常点割合 :25% リアクションペーパー:25%

リアクションペーパーを 10 回以上提出していない場合は成績評価の対象としない。

**テキスト/Textbooks**

特定のテキストは用いません（配布プリントに沿って講義します）。

**参考文献 / Readings**

田中陽児・倉持俊一・和田春樹 『ロシア史 2』 山川出版社 1994 463446070

和田春樹 編 『ロシア史 上』 山川出版社 2023 9784634423992

マルク・ラエフ 『ロシア史を読む』 名古屋大学出版会 2001 4815804222

藤本和貴夫・松原広志 『ロシア近現代史ーピョートル大帝から現代まで』 ミネルヴァ書房 1999  
4623027473

和田春樹 編 『ロシア史 下』 山川出版社 2023 9784634424005

川端香男里・佐藤経明・中村喜和・和田春樹・塩川伸明・栖原学・沼野充義 監修 『新版 ロシアを知る事典』 平凡社 2004 9784582126358

栗生沢猛夫 『図説 ロシアの歴史』 河出書房新社 2010 9784309761435

特定のテーマに関しては、上記文献の参考文献欄を参照してください。授業内でも紹介します。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

高校で世界史を履修していることが望ましい。

## 比較政治史 2

Comparative Political History 2

比較政治史 /社会のなかの戦後日本政治 /Postwar Japanese Politics in Society

塚原 浩太郎 (TSUKAHARA KOTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC406

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

戦後日本の政治史についてその社会背景と関連させた概説的な理解を得るとともに、自らの置かれた社会について考えを深め、自ら問いを立てる力を養うことを目指す。その際、①比較を通じて戦後日本政治について理解を深めること、②史料の読解を通じた議論への理解を深めること、を目指す。

The aim of the class is to understand the Japanese society more deeply and to find your own questions about the society. As a method, this course emphasizes on comparative perspective and reading historical documents.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では、第二次世界大戦後の日本政治史を扱う。その際、社会的な変動と関わらせて当該期の政治を理解すること、比較の視点を交えて日本政治を理解することに重点を置く。

In this class, you will learn the political history of Japan after World War II. The lectures will guide you to understand the period in relation to social changes and from a comparative perspective.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス 時代区分を考える一戦後日本と現代について

近代と画される時代としての現代の特質を考える。とりわけ総力戦、資本主義の変化、大衆化の影響をとりあげつつ、近代との連続・不連続について議論を深める。

#### 2回：前提としての近代日本

日本の近代化の諸状況について概説的に論じる。国際関係、政党政治、日本資本主義、教育制度、家族制度について大まかな前提知識を得る。

#### 3回：冷戦と日米安保体制

米ソ冷戦と日米安保条約の締結を軸に東アジアにおける冷戦体制の形成を論じる。とりわけ旧植民地との関係に目を配りたい。

#### 4回：戦後政党政治の形成

戦後政党政治の状況について論じる。1955年体制、自民党における派閥政治、事前審査制の形成についてとりあげたい。

#### 5回：経済政策と高度経済成長

経済成長のメカニズムと経済政策との相互作用についてとりあげる。この時期の資本蓄積の特質について、同じように経済成長を経験した西側諸国との若干の比較を試みる。

#### 6回：近代家族と企業社会

都市化と新中間層の登場に伴う家族形態の変化と、その背景となる企業社会との関連を議論する。主婦・夫・子、それぞれの置かれた状況に留意したい。

#### 7回：大衆化と社会運動の位相

都市化・メディア状況・消費行動などから大衆社会の到来について理解を深め、併せて社会運動との関連をとりあげたい。とくに高等教育の大衆化と学生運動の状況に意を配る。

#### 8回：日米関係の変化と冷戦終結

1980年代以降の日米関係の変化について扱い、そのうえで冷戦終結後の日米関係の再編について理解を深める。

#### 9回：政党組織の成熟と有権者の変化

1970年代～1980年代にかけての政党組織の安定化について論じ、併せて都市無党派層を中心とした有権者の変化を扱う。それに対する政党の対応も論じたい。

#### 10回：経済構造の変動

バブル景気の構造とその崩壊要因について理解を深める。併せてその後長引いた不況の構造的理理由とその経済政策との関連について検討し、現代日本経済のありようを展望する。

#### 11回：近代家族の問い直し

企業社会の変容や、ジェンダー批判や多様性の尊重のなかから近代家族モデルが問い直されている現状を展望する。

#### 12回：社会運動の逼塞と再興

1970年代後半以降の社会運動の逼塞時期と、その後の「新しい社会運動」の登場について論ずる。メディア状況の変化とその中での運動の変化についても議論に含めたい。

#### 13回：政治改革とその影響

1990年代の政治改革とそれを受けた2000年代の政治過程について理解を深める。そのうえで政治改革の帰結として現代政治のありようを展望する。

#### 14回：最終テスト

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

予習は求めませんが、各回の配布物・参考文献などを参照して1時間ほど復習することを勧めます。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 各回のコメントの提出:30%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

# 地理学概説 1

## Introduction to Geography and Cultural Anthropology 1

地理学、都市、居住、グローバリゼーション

久保 倫子 (KUBO TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC407

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

身近な地域を通じて、現代社会の諸問題についての知識と関心を深めること、地理的現象についての分布図・統計表を難なく読解できる能力を身につけること。

Deepen interest and knowledge about the problems of modern society through the community, to provide a statistical table and distribution of geographical phenomena without difficulty with reading ability.

### 授業の内容 / Course Contents

「都市化」「高齢化」「グローバル化」に伴う諸問題を、「地図」や「景観」といった人文地理学の視点を通じ、東京大都市圏および北米諸都市を例として具体的に学びます。

Problems associated with urbanization in the "aging" of globalization through the point of view of geography, such as "map", "landscape." Special focus is paid on the Tokyo metropolitan area and North American cities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：地理学の視点－地図・景観・空間スケール

2 回：地理学の視点-地域



- 3回：都市の立地と計画  
 4回：都市の内部構造の理論  
 5回：北米都市における工業化と都市化  
 6回：都市の内部構造－江戸～昭和時代初期の東京にみる  
 7回：都市化の理論  
 8回：都市化・郊外化の進展－明治期～昭和初期の東京  
 9回：都市化・郊外化の進展－第二次世界大戦後の東京  
 10回：高度経済成長と1980年代の東京の再開  
 11回：郊外核の発展－幕張新都心、さいたま新都心、みなとみらい21地区  
 12回：2000年代の「都市再生」政策とタワーマンション  
 13回：郊外の団地と高齢化、空き家の増加  
 14回：グローバリゼーションと21世紀型都市への移行

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業開始時に前回の授業内容の確認を行うので、毎回の復習が必要です。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の小レポート（複数回）:60% 最終テスト割合 :40%

授業時に課す小レポートが6割に満たない場合には、最終テストを受験できない

### テキスト / Textbooks

テキストは指定しない。講義資料に参考文献を記載するので、図書館等でそれらを入手して事前・事後学習に充てるのが望ましい。

### 参考文献 / Readings

久保倫子 『東京大都市圏におけるハウジング研究：都心居住と郊外住宅地の衰退』 古今書院 2015  
4772252878

由井義通ほか 『都市の空き家問題なぜ？どうする？地域に即した問題解決にむけて』 古今書院 2016  
4772252916

高橋伸夫ほか 『新しい都市地理学』 東洋書林 1997 4887213026

藤井正・神谷浩夫 『よくわかる都市地理学』 ミネルヴァ書房 2014 9784623067237

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

予習復習をし、社会的な問題と理論をつなげて考えられるようになってほしい

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

動画を視聴できる環境があればよい

## 地理学概説 2

### Introduction to Geography and Cultural Anthropology 2

近代と地理的世界の制作

森 雅文 (MORI MASAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「世界の把握」を目指した地理学と文化人類学の理解と方法を、時代の思考や技術とともに捉えることで、人間と世界をめぐる近現代の視座と評価について理解を深める。既存の知識や理解に服従するのではなく、それを尊重しながらも乗り越える人文学的態度を養う。

You will learn about the methods of geography and cultural anthropology, which were created to grasp the "world," along with the philosophies and technologies of the times. You will deepen your understanding of modern and contemporary understandings of the humanity and the world. You will acquire an academic attitude that does not submit to existing knowledge and understanding, but respects and overcomes it.

### 授業の内容 / Course Contents

近現代の地理学と人類学は、いかなる「世界」を創り上げてきたのだろうか。授業では、空間や場所を捉えて人間の諸活動と結びつけた学問的営為を、科学の文化性も踏まえながら解説する。前半は、地域・文化などの

基本概念による「世界」の制作を、後半は普遍性を求めた「1つの自然」という理解とこれを相対化する手法を学んで、存在やまなざしの様式と現在性を踏まえながら対象に向き合う学問的態度について理解を深める。

I will explain will explain the academic efforts to relate human activities with attention to space and place, along with trends in the history of science. The first half of the lecture will focus on the creation of the "world" through basic concepts such as region and culture. The second half of the lecture will focus on the understanding of "one nature" and the method of relativizing universality to deepen understanding of the method and attitude toward the subject based on the style and presentness of existence and gaze.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：講義のねらい
- 2回：「世界」という仮説：地理学と人類学の黎明1
- 3回：「人類」という理解：地理学と人類学の黎明2
- 4回：通時の世界をつくる：文化理解のパラダイム1
- 5回：共時の世界をつくる：文化理解のパラダイム2
- 6回：国民と領域の過程：近代と社会の技法1
- 7回：民族と伝統の創造：近代と社会の技法2
- 8回：個人と空間：主体と視座の技法1
- 9回：風景と人間：主体と視座の技法2
- 10回：地理の普遍化と計量：空間と場所の技法1
- 11回：エスノサイエンスと多自然：空間と場所の技法2
- 12回：存在の地理学・人類学：脱ヒューマニズムの地平
- 13回：インターロード：近代と地理的世界の制作
- 14回：まとめと補足：質疑と応答

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「学び」は他人が課す作業ではないので、講義内容の理解のために、自らの不足を補うことを自覚して復習してください。そこに生じる新たな疑問や関心についての研鑽があれば発展的な学習になります。質問がある時は遠慮なくどうぞ。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での課題・小レポート〔3～5回〕：50% 授業での質疑応答〔コメントペーパーを含む〕や自学に基づく発展的学習の成果の内容点：10% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

使用しない。

### 参考文献 / Readings

授業時のプリント資料で紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業連絡には、大学が提供する授業支援システムと授業連絡用ホームページ（開講後に開設）を利用する。

### その他 / Others

一部の Web ブラウザ上では、入力の文字列と異なる言葉が表示されることがあるようです。

# 地誌学 1

## Regional Geography 1

三原 昌巳 (MIHARA ATSUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC409  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この科目は、具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになることを目標とする。This subject aims to enable students to understand the close relationship between local regions and lifestyles, based on specific examples.

### 授業の内容 / Course Contents

授業では、自然環境と人文事象が関わって形成された地域の記述を考察する。まず、地誌学における重要な概念や地域の分析方法を講義する。次に、日本（主に関東地方・東北地方）の各地域を事例として、その地域を象徴するテーマを取り上げて解説する。

This class will consider descriptions of the areas formed through the relationship between the natural environment and human phenomena. First, the course will hold lectures on methods of analyzing important concepts and regions in regional geography. Next, using regions in Japan (mainly in the Kanto Tohoku regions) as examples, the course will take up and describe themes that symbolize the regions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：地誌学とは何か、地誌学の研究方法
- 2回：地域の概念、地域区分：日本の地誌を学ぶために
- 3回：日本の地誌（1）：農業と地域
- 4回：日本の地誌（2）：社会と人口構造の変化
- 5回：日本の地誌（3）：産業地域の形成とその集積
- 6回：日本の地誌（4）：交通体系の変化と地域の変容
- 7回：日本の地誌（5）：都市と農村
- 8回：日本の地誌（6）：都市の変容
- 9回：日本の地誌（7）：観光とグローバル化
- 10回：日本の地誌（8）：生活・文化
- 11回：日本の地誌（9）：自然環境と災害
- 12回：日本の地誌（10）：環境問題と地誌学
- 13回：日本の地誌（11）：情報化と地域の変容
- 14回：まとめと再考、授業全体に対するフィードバック

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習として授業内で紹介する文献を読むこと。専門書、地図やwebを利用して対象地域について地名や用語などを事前に調べておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の課題:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位履修不可である。

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

- 上野和彦・元木弘悌・立川和平編 『日本をまなぶ 東日本編（東京学芸大学地理学会シリーズII 2）』  
古今書院 2017 9784772253017
- 菅野 峰明・佐野 充・谷内 達(編) 『日本の地誌5 首都圏1』 朝倉書店 2009 9784254167658
- 田村 俊和・石井 英也・日野 正輝(編) 『日本の地誌4 東北』 朝倉書店 2008 9784254167641

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンライン授業を学べる環境（PCや機器、接続環境等）が必要である。

#### その他 / Others

授業時に書籍・文献リストを紹介する。履修者の理解度や興味に応じて、授業の進度や順序を変更することがある。

# 地誌学 2

## Regional Geography 2

三原 昌巳 (MIHARA ATSUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC410  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この科目は、具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになることを目標とする。  
This subject aims to enable students to understand the close relationship between local regions and lifestyles, based on specific examples.

### 授業の内容 / Course Contents

授業では、世界各地の環境や生活を紹介し、自然環境と人文事象の要素を考察する。まず、世界の地域構造を概説し、次にアジアからヨーロッパにかけての各地域を事例として、その地域を象徴するテーマを取り上げて解説する。

This class will introduce the environment and lifestyles in regions around the world, and consider the elements of the natural environment and human phenomena. First, it will provide an overview of the regional structure of the world, and then, using regions from Asia to Europe as examples, will take up and describe themes that symbolize the regions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：地誌学とは何か、地誌学の研究方法
- 2回：地誌学の意義：世界を理解するためのアプローチ
- 3回：ユーラシア大陸の自然環境、国家とその特色
- 4回：アジアの地誌（1）：東アジアの文化圏
- 5回：アジアの地誌（2）：東アジアのグローバル経済
- 6回：アジアの地誌（3）：東南アジアの生態
- 7回：アジアの地誌（4）：南アジアの産業
- 8回：ヨーロッパの地誌（1）：自然環境と文化
- 9回：ヨーロッパの地誌（2）：都市の構造
- 10回：ヨーロッパの地誌（3）：東ヨーロッパの変容
- 11回：ヨーロッパの地誌（4）：観光地の形成
- 12回：ヨーロッパの地誌（5）：北欧の政策
- 13回：ユーラシア地誌の総括：比較地誌を試みる
- 14回：まとめと再考、授業全体に対するフィードバック

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習として授業内で紹介する文献を読むこと。専門書、地図やwebを利用して対象地域について地名や用語などを事前に調べておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の課題:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位履修不可である。

#### テキスト / Textbooks

加賀美雅弘・川手圭一・久邇良子 『ヨーロッパ学への招待ー地理・歴史・政治からみたヨーロッパ』 学文社 2010 9784762024108 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンライン授業を学べる環境（PCや機器、接続環境等）が必要である。

#### その他 / Others

授業時に書籍・文献リストを紹介する。履修者の理解度や興味に応じて、授業の進度や順序を変更することがある。



# 世界史

World History

古代から近代までを俯瞰する

松岡 昌和 (MATSUOKA MASAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC501

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

2015 年度以前入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・ 歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
  - ・ 異なる世界を知ることによって異文化に対する理解を深めていく。
  - ・ 歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
  - ・ さまざまな歴史観・世界観を知ることによって批判的な思考をできるようにする。
- Develop a long-term and broad perspective through learning history.
- Deepen an understanding of different cultures by learning different worlds.
- Develop information literacy through reading and interpreting historical sources and records.
- Become able to think critically by learning diverse views on history and the world.

## 授業の内容 / Course Contents

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。本科目では、古代から近代に至る世界の歴史を扱うため、細かい知識の修得を目的とするものではない。むしろ

ろ、歴史の全体像を俯瞰することによって、歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をできるようにしていきたい。学期中、数回ミニレポートを課す。

The present is built upon the past, and learning history is extremely important in understanding the origins of the modern world. Since the subject covers world history from ancient times to the modern world, the aim is not to gain detailed knowledge. Rather, by gaining an overall picture of history, we will aim toward learning a historical way of looking at things and developing a diverse understanding of the modern world. Students will submit several small reports during the semester.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：なぜ世界史を学ぶのか
- 2 回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 3 回：地域世界の再編
- 4 回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 5 回：フィードバック回(1)・「歴史する」ことについて考える
- 6 回：近世世界のはじまり
- 7 回：大航海時代
- 8 回：アジア伝統社会の成熟
- 9 回：ヨーロッパの奇跡
- 10 回：フィードバック回(2)・近代と「伝統」について考える
- 11 回：近代化の広がり
- 12 回：「ウエスタン・インパクト」とアジアの苦悩
- 13 回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の該当箇所を予め読んでくること。内容理解に関するクイズを課す。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% ミニ・レポート(2回程度実施) :40%

### テキスト/Textbooks

大阪大学歴史教育研究会編 『市民のための世界史』 大阪大学出版会 2014 9784872594690 ○

### 参考文献 / Readings

長谷川修一・小澤実編 『歴史学者と読む高校世界史』 勁草書房 2018 9784326248483

佐藤昇編 『歴史の見方・考え方: 大学で学ぶ「考える歴史」』 山川出版社 2018 9784634640894

リン・ハント(長谷川貴彦訳) 『なぜ歴史を学ぶのか』 岩波書店 2019 9784000241793

北村厚 『教養のグローバル・ヒストリー: 大人のための世界史入門』 ミネルヴァ書房 2018  
9784623082889

金澤周作ほか 『論点・西洋史学』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087792

吉澤誠一郎ほか 『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い 158』 ミネルヴァ書房 2021  
9784623092178

小田中直樹 『歴史学のトリセツ——歴史の見方が変わるとき』 筑摩書房 2022 9784480684363

その他参考書は各講義の時間に紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特になし。高等学校レベルでの世界史科目の履修は（理解の助けにはなるが）前提としない。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特になし。ただし予習項目や連絡等を Canvas LMS で配信するので、確認できるようにしておくことを求めたい。

### **その他/ Others**

これまでの歴史系科目の履修は前提としないが、教科書を読み、不明な箇所についてはあらかじめ各自確認しておくことを求めたい。

### **注意事項（検索結果画面）**

対象：教職課程登録者のみ

# 日本史

Japanese History

日本前近代（原始古代～近世）における政治と社会

戸川 点 (TOGAWA TOMORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC502

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

2015 年度以前入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

日本史（前近代史）の流れを学ぶ中で日本史に関する基本的な知識を身につけ、歴史的なものの見方などを深めていく。

In learning the outline of the history of Japan (pre-modern history), students will gain basic knowledge relating to Japanese history and further develop a historical way of looking at things.

## 授業の内容 / Course Contents

原始古代から近世まで歴史の流れを追いながら時代のとらえ方や重要事項、研究動向などを解説、紹介していく。史料の調べ方、文献の探し方なども随時取り上げ日本史に関する専門性を高めていく。

Outlining the history of Japan from the prehistoric and ancient eras to the early modern era, this course will explain or introduce approaches to different eras, important matters and research trends. When necessary we will also look at ways to examine historical sources, and search for literature. These aspects will be taken up in order to enhance your expertise in Japanese history.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：日本前近代史入門～ガイダンス
- 2回：原始の日本～旧石器、縄文、弥生時代
- 3回：ヤマト政権の発展～古墳、飛鳥時代
- 4回：律令国家の成立と展開
- 5回：平城京の時代～奈良時代政治史の流れ
- 6回：平安王朝の成立と摂関政治
- 7回：摂関政治の展開と武士の成長
- 8回：院政の成立と中世国家～平安、鎌倉時代
- 9回：鎌倉幕府の成立
- 10回：鎌倉幕府の展開
- 11回：南北朝内乱と室町幕府の展開～南北朝、室町時代
- 12回：戦国の動乱から織豊政権へ～戦国、安土桃山時代
- 13回：幕藩体制の成立と展開～江戸時代
- 14回：日本前近代史のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

講義前に高校で学んだ「日本史」の内容を復習し、授業後には日本史に関する概説書や授業中紹介する参考文献などを読むこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:10% レポートまたは小テスト:20%

**テキスト / Textbooks**

毎回レジュメを配布する。

**参考文献 / Readings**

宮原武夫・山田邦明・深谷克己 『日本社会の歴史 上』 大月書店 2012

木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治 『大学でまなぶ日本の歴史』 吉川弘文館 2016

戸川点 『平安時代はどんな時代か』 小径社 2023

その他、授業中に適宜紹介する。

**注意事項（検索結果画面）**

対象：教職課程登録者のみ

# 社会学

Sociology

社会学の基礎を学ぶ

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

2016 年度以降入学者のみ履修可

「経済学」と交互に隔年開講

## 授業の目標 / Course Objectives

「社会」はどのようにして成り立っているのか。この問題に対して、社会学の基本的な考え方を学び、その特徴を理解する。本講義の目標は、現代社会を社会的に捉える視点を習得することである。

How is "society" established? To answer this question, students are expected to learn the basic concepts of sociology and understand their characteristics. The goal of this course is to acquire a sociological approach to modern society.

## 授業の内容 / Course Contents

「社会」の成り立ちについて、社会学の古典から検討を始める。次に、各キーワードを手掛かりにして社会を読み解くことで、社会学の視点を学ぶ。そして、主に現代の家族や人間関係を題材として、現代社会とはいかなる社会であるのかを受講者とともに検討する。

This course begins to examine the formation of "society" from the sociological classics. After that, using each

keyword as a clue, students are expected to interpret our society and learn the viewpoint of sociology. Then, we consider what a modern society is, mainly based on contemporary families and relationships.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会学とは何か
- 2 回：グループワーク—社会のイメージを描く
- 3 回：社会学の前史
- 4 回：ウェーバーと理解社会学
- 5 回：デュルケムと機能主義
- 6 回：ジンメルと相互作用論
- 7 回：アイデンティティと役割論
- 8 回：権力
- 9 回：ジェンダーの現在
- 10 回：都市／階級の再生産
- 11 回：メディアとコミュニケーション
- 12 回：現代社会論①—近代家族とその衰退
- 13 回：現代社会論②—再帰的近代化論とリスク社会
- 14 回：現代社会論③—親密性と公共性

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料に基づく予復習が求められる。また、社会学の理論や概念を実生活に落とし込むために、ニュース等で時事問題に触れておくとよい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席とリアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

授業で用いる資料は授業前に Google ドライブにアップロードする (ドライブの URL は初回授業時に指示する)。また、授業内で適宜文献を紹介するので参照されたい。

### 参考文献 / Readings

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学 (新版)』 有斐閣 2019 9784641053892

奥井智之 『社会学の歴史』 東京大学出版会 2010 9784130520232

### 注意事項 (検索結果画面)

対象：文学部教職課程登録者のみ

# 法律学

Law

法律学の基礎的な概念を学ぶ

宮澤 弘 (MIYAZAWA HIROSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC505  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： HIS2800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 教職課程登録者のみ履修可  
2016 年度以降入学者のみ履修可  
「政治学」と交互に隔年開講

## 授業の目標 / Course Objectives

法律学の基礎的な考え方および知識の獲得を目指します。

This course aims to help students acquire a basic legal approach (or an elementary method of legal thinking) and fundamental knowledge of the law.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では法律学の基本点な概念をできるだけ分かりやすく説明していきます。現代社会において個人は、法の規律の下で自由に活動しています。これらの法は個人を公正にそして平等に扱い、個人の権利が侵害されたときには必ず救済してくれるのです。受講生はこうした法の機能を学び、そして法制度の基底にある主要な原則を理解していきます。

講義では、法の諸原則および法の機能、法の主要な分類、権利義務関係、判例、そして裁判制度とその理念について説明していきます。最後に立憲主義を取り上げます。



This course addresses fundamental concepts of law, to be explained as plainly and simply as possible. In modern society, individuals act freely under the legal rules. These rules treat them fairly and equally, and if someone's rights are violated, the rules are sure to remedy those rights. Students learn functions of these rules and understand main principles that underlie legal arrangements.

Course lectures explain main legal principles and functions, major divisions within the law, the relationship of rights and duties (claim right and duty, privilege and no right, and so on), judicial precedents, and the judicial system and its ideals. Finally, the course covers constitutionalism.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業テーマの説明、授業の進め方、成績評価、参考文献の紹介等）
- 2回：法の静態1（近代市民法の諸原則）
- 3回：法の静態2（法の社会的機能）
- 4回：法の静態3（公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法）
- 5回：法の静態4（権利と義務）
- 6回：法の動態1（法の形成1：制定法）
- 7回：法の動態2（法の形成2：判例法1）
- 8回：法の動態3（法の形成3：判例法2）
- 9回：法の動態4（法の実現1：裁判制度）
- 10回：法の動態5（法の実現2：裁判手続1）
- 11回：法の動態6（法の実現3：裁判手続2）
- 12回：裁判に対する期待と現実（現代社会と裁判）
- 13回：立憲主義
- 14回：社会と法（まとめ）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

原則として、事前に配布する資料については次回までに必ず読んできてください。その他授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題レポート:20%

課題レポートは授業中に課すA4一枚程度の課題であり、翌週までに提出するもの。複数回予定している。

### テキスト / Textbooks

教科書は指定しません。講義レジュメ及び資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

星野英一 『民法のすすめ』 岩波書店 2005 4004305365

田中成明 『現代裁判を考える』 有斐閣 2014 9784641125759

団藤重光 『法学の基礎〔第2版〕』 有斐閣 2007 9784641125193

田中成明 『法学入門 〔第3版〕』 有斐閣 2023 9784641126404

安念潤司他編著 『論点 日本国憲法 〔第二版〕』 東京法令出版 2014 9784809063077

その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

**注意事項（検索結果画面）**

対象：文学部教職課程登録者のみ

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

小澤 実／浦野 聡 (OZAWA MINORU/ URANO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC781

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC782

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC783

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC784

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC785  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： HIS4510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

梅原 秀元 (UMEHARA HIDEHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC786  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： HIS4510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC787

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC788

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC789

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

寺尾 美保 (TERAO MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC790

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC791  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： HIS4510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

小野沢 あかね／沼尻 晃伸 (ONOZAWA AKANE/ NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC792

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4510

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：			

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC793  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： HIS4610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

松原 宏之／丸山 浩明 (MATSUBARA HIROYUKI/ MARUYAMA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC794

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4610

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC795

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4610

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AC796  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： HIS4610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

山下 王世 (YAMASHITA KIMIYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC797

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4610

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

市田 雅崇 (ICHIDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AC798

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： HIS4610

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 入門演習 J 1 a

Introductory Seminars J1a

「教育」とは何か

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE011

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU1710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身に着つけ、教育について多様な学問領域から専門的に学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out specialized learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

（1）大学での知的生活の意義の理解：学生各自の多様な教育体験と教育への関心を紹介しあい、大学で学ぶ意義を理解し、自分の将来に向けての問題関心を醸成する。

（2）文献読解と要約の仕方の獲得：教員の用意したさまざまな文献を読解し、長めの論文でも要約できる力をつける。

（3）活発にディスカッションする力の養成：大学では高校までと異なり、クラス内でのディスカッションが大きな意味を持つ。傍観者にならず、積極的に発言し、他者の意見に応答する力をつける。

（4）基本的なレポートの作成方法の獲得：文献をテーマとしたレポートを作成する方法を獲得する。

- (1) Students will understand the significance of intellectual life: Each student will introduce their diverse education experiences and how they became interested in education among his/her colleagues. Students will understand the significance of learning in university, and develop an interest in issues that affect their future.
- (2) Students will acquire the skills of reading literature and summarizing: Students will read various literature prepared by the instructor, and will gain the ability to summarize even long papers.
- (3) Developing active discussion skills: University is different from high school, and in-class discussions have great importance. Students should not be mere bystanders, but will actively speak out. They will gain the ability to respond to others' opinions.
- (4) Students will acquire the ability to compose a basic report: they will learn methods for writing a report based on a theme from the literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介  
 2回：イントロダクションと自己紹介  
 3回：文献検討とレポート作成指導  
 4回：文献検討とレポート作成指導  
 5回：文献検討とレポート作成指導  
 6回：文献検討とレポート作成指導  
 7回：文献検討とレポート作成指導  
 8回：文献検討とレポート作成指導  
 9回：文献検討とレポート作成指導  
 10回：文献検討とレポート作成指導  
 11回：文献検討とレポート作成指導  
 12回：文献検討とレポート作成指導  
 13回：文献検討とレポート作成指導  
 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前文献学習とレポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動(討論への参加など)：60% 最終レポート割合：40%

授業内討論のため出席が重視される。欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

テキストについては、各演習開始後授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

**その他/ Others**

学期末に最終レポート（3000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 入門演習 J 1 b

Introductory Seminars J1b

「教育」とは何か

佐古 仁志 (SAKO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU1710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身に着つけ、教育について多様な学問領域から専門的に学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out specialized learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

（1）大学での知的生活の意義の理解：学生各自の多様な教育体験と教育への関心を紹介しあい、大学で学ぶ意義を理解し、自分の将来に向けての問題関心を醸成する。

（2）文献読解と要約の仕方の獲得：教員の用意したさまざまな文献を読解し、長めの論文でも要約できる力をつける。

（3）活発にディスカッションする力の養成：大学では高校までと異なり、クラス内でのディスカッションが大きな意味を持つ。傍観者にならず、積極的に発言し、他者の意見に応答する力をつける。

（4）基本的なレポートの作成方法の獲得：文献をテーマとしたレポートを作成する方法を獲得する。

- (1) Students will understand the significance of intellectual life: Each student will introduce their diverse education experiences and how they became interested in education among his/her colleagues. Students will understand the significance of learning in university, and develop an interest in issues that affect their future.
- (2) Students will acquire the skills of reading literature and summarizing: Students will read various literature prepared by the instructor, and will gain the ability to summarize even long papers.
- (3) Developing active discussion skills: University is different from high school, and in-class discussions have great importance. Students should not be mere bystanders, but will actively speak out. They will gain the ability to respond to others' opinions.
- (4) Students will acquire the ability to compose a basic report: they will learn methods for writing a report based on a theme from the literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介  
 2回：イントロダクションと自己紹介  
 3回：文献検討とレポート作成指導  
 4回：文献検討とレポート作成指導  
 5回：文献検討とレポート作成指導  
 6回：文献検討とレポート作成指導  
 7回：文献検討とレポート作成指導  
 8回：文献検討とレポート作成指導  
 9回：文献検討とレポート作成指導  
 10回：文献検討とレポート作成指導  
 11回：文献検討とレポート作成指導  
 12回：文献検討とレポート作成指導  
 13回：文献検討とレポート作成指導  
 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前文献学習とレポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動(討論への参加など)：60% 最終レポート割合：40%

授業内討論のため出席が重視される。欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

テキストについては、各演習開始後授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

**その他/ Others**

学期末に最終レポート（3000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 入門演習 J1c

Introductory Seminars J1c

「教育」とは何か

柏木 睦月 (KASHIWAGI MUTSUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU1710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身に着つけ、教育について多様な学問領域から専門的に学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out specialized learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

（1）大学での知的生活の意義の理解：学生各自の多様な教育体験と教育への関心を紹介しあい、大学で学ぶ意義を理解し、自分の将来に向けての問題関心を醸成する。

（2）文献読解と要約の仕方の獲得：教員の用意したさまざまな文献を読解し、長めの論文でも要約できる力をつける。

（3）活発にディスカッションする力の養成：大学では高校までと異なり、クラス内でのディスカッションが大きな意味を持つ。傍観者にならず、積極的に発言し、他者の意見に応答する力をつける。

（4）基本的なレポートの作成方法の獲得：文献をテーマとしたレポートを作成する方法を獲得する。

- (1) Students will understand the significance of intellectual life: Each student will introduce their diverse education experiences and how they became interested in education among his/her colleagues. Students will understand the significance of learning in university, and develop an interest in issues that affect their future.
- (2) Students will acquire the skills of reading literature and summarizing: Students will read various literature prepared by the instructor, and will gain the ability to summarize even long papers.
- (3) Developing active discussion skills: University is different from high school, and in-class discussions have great importance. Students should not be mere bystanders, but will actively speak out. They will gain the ability to respond to others' opinions.
- (4) Students will acquire the ability to compose a basic report: they will learn methods for writing a report based on a theme from the literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介  
 2回：イントロダクションと自己紹介  
 3回：文献検討とレポート作成指導  
 4回：文献検討とレポート作成指導  
 5回：文献検討とレポート作成指導  
 6回：文献検討とレポート作成指導  
 7回：文献検討とレポート作成指導  
 8回：文献検討とレポート作成指導  
 9回：文献検討とレポート作成指導  
 10回：文献検討とレポート作成指導  
 11回：文献検討とレポート作成指導  
 12回：文献検討とレポート作成指導  
 13回：文献検討とレポート作成指導  
 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前文献学習とレポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動（討論への参加など）：60% 最終レポート割合：40%

授業内討論のため出席が重視される。欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

テキストについては、各演習開始後授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings



**その他/ Others**

学期末に最終レポート（3000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 入門演習 J1d

## Introductory Seminars J1d

「教育」とは何か

新井 素子 (ARAI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE014

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU1710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身に着つけ、教育について多様な学問領域から専門的に学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out specialized learning from the diverse academic discipline of education.

### 授業の内容 / Course Contents

（1）大学での知的生活の意義の理解：学生各自の多様な教育体験と教育への関心を紹介しあい、大学で学ぶ意義を理解し、自分の将来に向けての問題関心を醸成する。

（2）文献読解と要約の仕方の獲得：教員の用意したさまざまな文献を読解し、長めの論文でも要約できる力をつける。

（3）活発にディスカッションする力の養成：大学では高校までと異なり、クラス内でのディスカッションが大きな意味を持つ。傍観者にならず、積極的に発言し、他者の意見に応答する力をつける。

（4）基本的なレポートの作成方法の獲得：文献をテーマとしたレポートを作成する方法を獲得する。

- (1) Students will understand the significance of intellectual life: Each student will introduce their diverse education experiences and how they became interested in education among his/her colleagues. Students will understand the significance of learning in university, and develop an interest in issues that affect their future.
- (2) Students will acquire the skills of reading literature and summarizing: Students will read various literature prepared by the instructor, and will gain the ability to summarize even long papers.
- (3) Developing active discussion skills: University is different from high school, and in-class discussions have great importance. Students should not be mere bystanders, but will actively speak out. They will gain the ability to respond to others' opinions.
- (4) Students will acquire the ability to compose a basic report: they will learn methods for writing a report based on a theme from the literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介  
 2回：イントロダクションと自己紹介  
 3回：文献検討とレポート作成指導  
 4回：文献検討とレポート作成指導  
 5回：文献検討とレポート作成指導  
 6回：文献検討とレポート作成指導  
 7回：文献検討とレポート作成指導  
 8回：文献検討とレポート作成指導  
 9回：文献検討とレポート作成指導  
 10回：文献検討とレポート作成指導  
 11回：文献検討とレポート作成指導  
 12回：文献検討とレポート作成指導  
 13回：文献検討とレポート作成指導  
 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前文献学習とレポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動（討論への参加など）：60% 最終レポート割合：40%

授業内討論のため出席が重視される。欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

テキストについては、各演習開始後授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

**その他/ Others**

学期末に最終レポート（3000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 入門演習 J 2 a

Introductory Seminars J2a

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE021  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU1710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身につけ、教育について多様な学問領域の基礎を学ぶ。  
Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out basic learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

- （1）文献読解と要約方法の獲得：教育をテーマとした多様な文献を読み、要約する力をつける。
  - （2）課題を設定し文献や資料を収集し報告する力をつける。
  - （3）議論する力の養成：発表することと議論することとの違いを理解し議論できるようにする。
  - （4）レポート作成の基本的な方法を学ぶ。
- (1) Students will acquire literary analysis competence and summarizing methods: They will be able to read diverse literature on the topic of education and summarize it.  
(2) Students will be able to set agenda, gather literature and relevant documents, and give a report.  
(3) Students will develop debate skills: They will learn the difference between a presentation and a debate, leading to more skills for debate.

(4) Students will learn basic methods for writing a report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（1）演習のコンセプト説明と自己紹介
- 2回：イントロダクション（2）演習の課題設定
- 3回：イントロダクション（3）演習の課題設定
- 4回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 5回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 6回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 7回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 8回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 9回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 10回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 11回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 12回：討論会（1）
- 13回：討論会（2）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- （1）課題に即した文献読解と資料収集
- （2）レポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動（討論への参加など）：60% 最終レポート割合：40%

欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

学期末に最終レポート（4000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 入門演習 J 2 b

Introductory Seminars J2b

小谷 由美 (KOTANI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE022
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU1710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身につけ、教育について多様な学問領域の基礎を学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out basic learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

- （1）文献読解と要約方法の獲得：教育をテーマとした多様な文献を読み、要約する力をつける。
- （2）課題を設定し文献や資料を収集し報告する力をつける。
- （3）議論する力の養成：発表することと議論することとの違いを理解し議論できるようにする。
- （4）レポート作成の基本的な方法を学ぶ。

(1) Students will acquire literary analysis competence and summarizing methods: They will be able to read diverse literature on the topic of education and summarize it.

(2) Students will be able to set agenda, gather literature and relevant documents, and give a report.

(3) Students will develop debate skills: They will learn the difference between a presentation and a debate, leading to more skills for debate.

(4) Students will learn basic methods for writing a report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（1）演習のコンセプト説明と自己紹介
- 2回：イントロダクション（2）演習の課題設定
- 3回：イントロダクション（3）演習の課題設定
- 4回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 5回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 6回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 7回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 8回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 9回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 10回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 11回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 12回：討論会（1）
- 13回：討論会（2）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- （1）課題に即した文献読解と資料収集
- （2）レポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動（討論への参加など）：60% 最終レポート割合：40%

欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

学期末に最終レポート（4000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。



# 入門演習 J2c

Introductory Seminars J2c

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE023
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU1710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身につけ、教育について多様な学問領域の基礎を学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out basic learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

- （1）文献読解と要約方法の獲得：教育をテーマとした多様な文献を読み、要約する力をつける。
- （2）課題を設定し文献や資料を収集し報告する力をつける。
- （3）議論する力の養成：発表することと議論することとの違いを理解し議論できるようにする。
- （4）レポート作成の基本的な方法を学ぶ。

(1) Students will acquire literary analysis competence and summarizing methods: They will be able to read diverse literature on the topic of education and summarize it.

(2) Students will be able to set agenda, gather literature and relevant documents, and give a report.

(3) Students will develop debate skills: They will learn the difference between a presentation and a debate, leading to more skills for debate.

(4) Students will learn basic methods for writing a report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（1）演習のコンセプト説明と自己紹介
- 2回：イントロダクション（2）演習の課題設定
- 3回：イントロダクション（3）演習の課題設定
- 4回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 5回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 6回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 7回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 8回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 9回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 10回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 11回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 12回：討論会（1）
- 13回：討論会（2）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) 課題に即した文献読解と資料収集
- (2) レポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動（討論への参加など）：60% 最終レポート割合：40%

欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

学期末に最終レポート（4000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 入門演習 J2d

Introductory Seminars J2d

永井 玲衣 (NAGAI REI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU1710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生に必要とされる基本的な学術リテラシーを身につけ、教育について多様な学問領域の基礎を学ぶ。

Students will become skilled in the basic academic literacy required for university, and carry out basic learning from the diverse academic discipline of education.

## 授業の内容 / Course Contents

- （1）文献読解と要約方法の獲得：教育をテーマとした多様な文献を読み、要約する力をつける。
- （2）課題を設定し文献や資料を収集し報告する力をつける。
- （3）議論する力の養成：発表することと議論することとの違いを理解し議論できるようにする。
- （4）レポート作成の基本的な方法を学ぶ。

(1) Students will acquire literary analysis competence and summarizing methods: They will be able to read diverse literature on the topic of education and summarize it.

(2) Students will be able to set agenda, gather literature and relevant documents, and give a report.

(3) Students will develop debate skills: They will learn the difference between a presentation and a debate, leading to more skills for debate.

(4) Students will learn basic methods for writing a report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（1）演習のコンセプト説明と自己紹介
- 2回：イントロダクション（2）演習の課題設定
- 3回：イントロダクション（3）演習の課題設定
- 4回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 5回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 6回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 7回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 8回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 9回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 10回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 11回：文献収集&資料収集&報告&議論
- 12回：討論会（1）
- 13回：討論会（2）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- （1）課題に即した文献読解と資料収集
- （2）レポート作成準備

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業活動（討論への参加など）：60% 最終レポート割合：40%

欠席3回で履修放棄として扱われる。遅刻は2回で1回の欠席としてカウントされる。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

学期末に最終レポート（4000字以上）作成が課される。このレポートを提出しない場合には履修放棄として扱われる。

# 教育学

Pedagogy

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE091  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU1700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように顕れてきたかについて学ぶ。これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解することで、これからの教育のありようを考えたい。

Students will learn about the fundamental concepts of education and about what constitutes an educational philosophy. Students will also learn about how these concepts and philosophies of education have appeared in educational history and thoughts. The class aims to help students consider the future of education based on an understanding of how education and schooling have been conceived and changed.

## 授業の内容 / Course Contents

- 教育（学）の基本的な概念を理解し、近代教育がいかに成立したのかを、日本と諸外国を比較しながら学ぶ。
- 欧米の近代教育思想を学ぶ。
- 現代の教育問題とこれまで学んできた理念や思想を接続し、現代社会における教育課題を歴史的な視点から考える。

(1) Students will understand the basic concepts of education (and pedagogy), and learn how modern education systems were established while comparing Japan with other countries.

(2) Students will learn about modern educational thought in Western countries.

(3) Students will connect issues in contemporary education to philosophies and thought they have learned up until now, and think about educational issues in contemporary society from a historical perspective.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：「教育学」とはなんだろうか？
- 2 回：教育学事始め：大学の授業の試験から、大学で学ぶこと、これまでの学校の学びとの違いを考える
- 3 回：教育学事始め：現代社会の教育課題とポップカルチャー (1) 新海誠作品から
- 4 回：教育学事始め：現代社会の教育課題とポップカルチャー (2) 庵野秀明作品から
- 5 回：前回までのポップカルチャー研究から、日本の近代教育の出発を考える
- 6 回：近代学校が抱える虚構性と現代の教育の動向
- 7 回：欧米の近代教育思想 (1) コメニウス
- 8 回：欧米の近代教育思想 (2) ルソー
- 9 回：欧米の近代教育思想 (3) ペスタロッチとヘルバルト
- 10 回：欧米の近代教育思想 (4) デューイと新教育
- 11 回：プラグマティズムと教育学
- 12 回：現代の教育思想 (1) イリイチなど
- 13 回：現代の教育思想 (2) フーコーなど
- 14 回：未来の教育を展望する、授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に配付する資料を次回までに読み、自分の考えを表明する、あるいは与えられた課題に回答できるように準備することが求められます。また、授業後はリアクションペーパーを提出してもらいます。詳しくは初回の授業で説明します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小レポート (10点×3回) :30%

授業期間中、期限の決められた小レポート (これは毎授業後のリアクションペーパーとは別物です) を、大きな授業の切れ目が来るごとに計3回提出してもらいます。提出の遅延は認めませんので、注意してください。

### テキスト / Textbooks

教科書は使いません。授業時に資料を配付します。

### 参考文献 / Readings

今井康雄編 『教育思想史』 有斐閣 2009 9784641123847

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

眞壁宏幹編 『西洋教育思想史 (第2版)』 慶應義塾大学出版会 2020 9784766426588

渡辺哲男編 『ポップカルチャーの教育思想：アカデミック・ファンが読み解く現代社会』 晃洋書房 2023  
9784771037236

その他の参考文献については、授業時に提示します。できるだけ多くの文献に眼を通し、比較の視点を養ってください。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

紙媒体の資料は配付しないので、毎時間、ノートパソコンかタブレットを持参してください。

コミュニケーションツールとして slack を活用する予定です。

# 教育心理学 1

Psychology in Education 1

発達と学習の心理学

石黒 広昭／扇原 貴志 (ISHIGURO HIROAKI/ OUGIHARA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE092

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒（以下、「子ども」と略記）の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達状況における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。

Students will learn about the development and learning processes of infants, pupils, and students. They will understand the relevant psychological characteristics, and learn how to support the development and learning of children of school age.

## 授業の内容 / Course Contents

子ども理解に必要とされる心理学的知識を提示し、子どもたちの発達を支援する教育のあり方について検討する。子どもの学習と発達を支援する上で教育に求められるものが何であるのか、教師に求められる基本的な知識を身につける。履修生の自らの学校教育経験を通して培われた常識的教育観を問い直しながら、子どもとその指導者の役割について理解を深める。

Students will acquire the necessary psychological knowledge for understanding children and examine educational methods for supporting children's development. Students will become knowledgeable of what is needed in



education to support children's learning and development, and develop the basic awareness necessary for teachers. Students will reconsider the common sense they have developed through their own schooling experiences and gain a deeper understanding of children and the role of the instructor.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程および特徴（発達段階論）
- 2 回：幼児、児童及び生徒の心身の発達過程および特徴（発達段階論の諸問題）
- 3 回：幼児、児童及び生徒の心身の発達過程および特徴（発達の社会文化性）
- 4 回：幼児、児童及び生徒の心身の発達過程および特徴（最近接発達領域）
- 5 回：幼児、児童及び生徒における発達と教育の相互作用
- 6 回：幼児、児童及び生徒の認知発達の特徴
- 7 回：幼児、児童及び生徒のための学習の基礎理論（行動形成理論）
- 8 回：幼児、児童及び生徒のための学習の基礎理論（情報处理的認知理論）
- 9 回：幼児、児童及び生徒のための学習の基礎理論（教育における行動形成理論と認知理論の特徴と課題）
- 10 回：幼児、児童及び生徒のための学習の基礎理論（状況的学習論）
- 11 回：幼児、児童及び生徒の学習活動の支援と集団づくり
- 12 回：幼児、児童及び生徒の主体的学習と動機付け
- 13 回：幼児、児童及び生徒の主体的な学習活動を支える指導のための基礎理論
- 14 回：幼児、児童及び生徒の主体的な学習活動を支える評価理論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考資料が紹介されることがある。これらはもちろんのこと、授業内容に関連する文献を自分で調べることが望ましい。講義内容について他の履修者と議論することが望ましい。講義で紹介される事例は、「子どもたちは教室で何を学ぶのか」（東京大学出版会）など、拙著内で詳述されていることが多いので、参照してほしい。なお、大学の2単位の講義では毎時間予習復習をあわせて4時間の自主学習が必要であることが大学設置基準で定められている。それに見合う十分な学習時間を確保して学んでほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業で指示した課題の提出:40%

それぞれ期限が定められた小課題を複数回提出することで平常点とする。提出が遅れる場合にはペナルティがつく。なお、すべての課題を指定日までに提出することが単位履修要件となり、未提出は履修放棄となる。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880

佐伯・佐藤・宮崎・石黒 『心理学と教育実践の間で』 東京大学出版会 2013 9784130065092

### その他 / Others

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

# 教育社会学 1

Sociology in Education 1

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE093

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代の学校教育に関する社会的、制度的事柄の基礎と現代的課題について、社会学的観点から理解できるようになることをめざす

Students will aim to be able to understand the social and systematic basics of contemporary education and contemporary issues from a sociological perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

1) 西欧と日本における近代公教育制度の成立過程を概説し、近代化論、学校論、子ども論について基礎的な考え方を理解できるようにし、2) 教育制度と現代社会との関係について多様な問題状況をふまえ、教育と不平等論、学歴社会論などの現代的課題に向き合う社会学的な視点の有効性を論じる。

1) Students will learn how the modern education systems in Japan and Western countries have been developed, and be able to understand ways of thinking about theories of modernization, schools and children. 2) Based on the diverse issues about the relation between education systems and contemporary society, students will discuss the effectiveness of considering sociological perspectives on education and inequality, and education-conscious societies, etc.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：教育社会学とは何か－教育学と教育科学
- 2 回：近代公教育の成立－産業革命時代におけるベル・ランカスター法の成立
- 3 回：近代公教育の成立－義務教育制度成立の背景
- 4 回：近代学校論－フーコー「監獄の誕生」を中心として
- 5 回：近代子ども論－アリエス「子どもの誕生」を中心として
- 6 回：近代日本における義務教育制度の成立－身体近代化
- 7 回：近代日本における義務教育制度の成立－学校化社会の成立
- 8 回：教育と不平等－構造の平等と配分の平等、機会の平等と結果の平等
- 9 回：教育制度改革
- 10 回：現代日本における教育問題－学歴について
- 11 回：現代日本における教育問題－いじめ不登校問題について
- 12 回：現代日本における教育問題－保健室の視点から
- 13 回：現代日本における教育問題－学校安全の視点から
- 14 回：まとめと最終テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時に課した提出物(複数回):60% 最終テスト割合 :40%

4 回以上提出物が未提出の場合、単位修得不可。

**テキスト / Textbooks**

必要な資料は Canvas LMS 上にアップロードする。

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ドライブ等で配布した資料を授業時に参照できるタブレットや PC 等

# 教育史 1

History of Education 1

日本の教育の歴史的経験を辿る

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE094

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

以下の三点を授業の目標とする。

- (1) 日本の教育制度政策の展開過程を、史料に基づいて理解してゆく。
- (2) 教育の歴史的な出来事を実証する史資料について知る。
- (3) 「学校に通う」「学校で学ぶ」ということの意味について、歴史的経緯を踏まえた考え方を持つ。

1. To understand the process of development of Japan's education system policy based on historical data.
2. Learn about sources that substantiate historical events related to education.
3. Learn to think about the meaning of "going to(attending) school" and "learning at school" based on historical background.

## 授業の内容 / Course Contents

近代公教育の形成・展開の過程について、主として日本近代における学校教育制度の成立過程を概観する。本講義では特に義務教育制度の成立、展開過程を中心に講義を進め、日本近代において「学校に通う」ということ、「学校で学ぶ」ということがどのような形で日本の人々の学習のありようや生活のありようを変えていった

のかということを考えてゆく。

In this lecture, we will overview the process of formation and development of modern public education. This course mainly focuses on the process of the establishment of the school education system in modern Japan. In this lecture, we will focus on the establishment and development of the compulsory education system, and consider how "going to school" and "learning at school" have changed the way Japanese people learn and live in the modern era.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：誰が、何のために、学びはじめたか
- 3回：どんな風に、何を学んだか～「学校」のない社会で
- 4回：「学校」の設立
- 5回：学校教育と人々との関係
- 6回：教育勅語と御真影
- 7回：教科書の歴史
- 8回：進学と学歴社会
- 9回：学校教員の世界
- 10回：私立大学の始まり
- 11回：戦争と教育
- 12回：戦後の教育改革
- 13回：経済成長と教育
- 14回：講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献での予習および授業時に配布するプリントの復習。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の講義に関するコメントの提出:60% 最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

使用しない。毎回プリントを用意する。

### 参考文献 / Readings

- 山本正身 『日本教育史 教育の「今」を歴史から考える』 慶應義塾出版会 2014年 9784766421316  
 木村元 『学校の戦後史』 岩波書店 2019年 9784004315360  
 岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大 『問いからはじめる教育史』 有斐閣 2020年 9784641150805  
 この他、第1回の講義で各時間の参考文献を示す。

### その他 / Others

第1回目の講義で講義進行の詳細、各時間の参考文献、成績評価基準等を示すので、第1回の講義は必ず出席

すること。

# 教育哲学 1

Philosophy in Education 1

児童期への回帰としての教育

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE095

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育哲学の概論的な講義を行います。哲学と倫理学の基本概念を理解しながら、それと教育の問題とを関係させて、教育とは何か、どうあるべきかについて考察を深めることを目的とします。

This course provides a general outline of the philosophy of education. While examining the basic concepts of philosophy and ethics, this course will connect these to issues in education to help students have a greater sense of what education is and how it should be implemented.

## 授業の内容 / Course Contents

哲学と倫理学の基礎概念と基礎理論について概説しながら、その考えを教育に応用して、「人間にとって根源的には教育とは何か、どのような意味があるのか」という問いと「現代社会における政治・経済・市民生活の中で教育をどう位置づけるのか」という問いについて考えてゆきます。拙著『人は語り続けるとき、考えていない：対話と思考の哲学』での議論を発展させ、常識とは逆に、教育の目的とは「児童期への回帰」であるとして、対話、遊戯、リズムといったサブ・テーマのもとで講義します。質疑応答によって進めていきます。

While outlining the basic concepts and fundamental theories of philosophy and ethics, we will apply these ideas

to education and consider the questions of "What is education fundamentally for human beings and what is its meaning? Expanding on the discussion in my book "When People Talk, They Are Not Thinking: A Philosophy of Dialogue and Thinking," I will lecture on the sub-themes of dialogue, play, and rhythm, arguing that, contrary to common sense, the purpose of education is to "return to childhood". The lecture will be followed by a question and answer session.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス（講義の内容と進め方、評価の仕方）

導入と問題：教育哲学の課題

2回：教育とコミュニケーション

- ・人間のコミュニケーション
- ・教育というコミュニケーション
- ・生態学的心理学、4E、アクターネットワーク
- ・生態学的情報理論
- ・教育と情報、コミュニケーション

3回：子どもとはいかなる存在か

- ・子どもの特性
- ・プラトンの子ども観
- ・子どもの二つの神的特点
- ・子どもにおける可能性と潜在性
- ・子どもを生き直すための教育

4回：遊戯と存在（1）

- ・遊びの定義
- ・不確実性の楽しみ
- ・パイディア (Paideia) とルドゥス (Ludus)
- ・二重性と大人の遊び、子どもの遊び
- ・デュシャンと子どもの世界

5回：遊戯と存在（2）

- ・ゲームを作ること、ゲームをなすこと
- ・ゲーム・チェンジャーとしての子ども
- ・変身する身体

6回：終わりなき生：多型的反復としてのリズムとしての子どもの時間

- ・カイロスとクロノス
- ・ヘルメスとヘスティア
- ・アイオンの時間：終わりなき世のめでたさよ
- ・待つこと：潜在性、旅、歓待
- ・待つことと教育

7回：真理と対話

- ・真理と問い
- ・問いとは何か、私たちは何を問うのか
- ・再び、「なぜ」と「何」という問いについて：宇宙的再現
- ・私たちはどうすれば無知であり続けられるか



- ・リズムに現れるアイオーン

## 8回：科学、技術、民主主義

- ・知識を所有すること
- ・テクノロジーと現代社会
- ・テクノロジーの民主化
- ・現代の技術論によるテクノロジー批判
- ・テクノロジーと社会の関係
- ・科学と哲学、児童期への回帰

## 9回：教育の平等

- ・平等と健康
- ・障害の社会モデル
- ・機会均等と平等の基準
- ・「平等」概念の放棄
- ・ケイパビリティ・アプローチからインクルージョンへ
- ・対話とインクルージョン

## 10回：生態学的アクターシップ：持続可能なシティズンシップ

- ・哲学的テーマとしての地方
- ・近代化の第三段階
- ・真の「地方創生」
- ・人間の貧困と持続可能な生態学的ネットワーク
- ・自然契約
- ・拡散の文化
- ・シティズンシップ教育
- ・生態学的アクターシップのための教育

## 11回：平和構築としての子どもの哲学：コスモポリタニズムと対話という希望

- ・グローバル化における閉鎖と排除の理由
- ・「閉じた社会」と「開かれた社会」
- ・コスモポリタニズムとその教育
- ・コスモポリタン教育の批判とその再反論
- ・移民と子ども
- ・子どもとの対話、子どもの対話
- ・哲学と平和構築

## 12回：教育的タクト：対話と沈黙

- ・カイロスの瞬間としての対話
- ・タクト
- ・教育的タクト
- ・余白とリズム
- ・身体的リズムとしての対話
- ・対話における沈黙
- ・場面緘黙とリズム
- ・沈黙と幽霊

・タクトは独自のものを成長させる

13 回：対話の場作りとしての倫理

- ・子ども性と対話
- ・手続きによる道德教育
- ・道德的変容の判断基準

14 回：まとめと全体のふりかえり

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

オンラインで資料を提示することがありますので、事前に読んでおくことが必要条件です。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト（数回）：75% 授業内提出物（リアクションペーパーなど）：25%

#### テキスト / Textbooks

河野哲也 『人は語り続けるとき、考えていない：対話と思考の哲学』 岩波書店 2019 4000245392 ○

#### 参考文献 / Readings

河野哲也 『道徳を問いなおす』 筑摩書房 2011 4480065954

河野哲也 『自分で考え 自分で話せる：こどもを育てる哲学レッスン』 河出書房新社 2018

9784309248691

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

#### その他 / Others

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuyakono/index.html>

考えることを重視する講義を行います。

# 演習 J 1

Seminars in Education J1

教育臨床社会学への招待

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 教育臨床社会学の基本的な考え方を身につけること
- (2) 受講生同士の研究関心をシェアしながら深める

(1) Students will learn the basic concept of clinical sociology of education.

(2) Students will deepen their interest through sharing them with one another.

## 授業の内容 / Course Contents

教育臨床社会学は、教育の現場の問題に寄り添い、問題解決に資することをめざしアクチュアルに研究を進める領域であると同時に、問題の構造、背景などについて冷静・客観的に分析し、問題の当事者目線を相対化する感覚も必要な領域である。相互行為分析はその中心的役割を果たすもので、分析の立体化のために演劇的手法によるアクティビティも随時用いることにしたい。春学期は社会学や教育哲学、応用演劇等の幅広い領域の理論及び方法に関する文献を読み進めつつ、受講生の個別具体的な問題関心を耕し、相互に問題関心にコメントしあう作業を中心に議論を積み重ねていくことにしたい。

Clinical sociology of education is a field of research that examines issues at places of education, aims to

contribute to problem solving, and promotes practical research. At the same time, it is a field that carries out objective analysis of the structures and backgrounds, etc., of issues and requires an awareness of how these issues are relevant to stakeholders. Interaction analysis plays a central role in this field, and role-playing activities will be used when required. In the spring semester, while reading literature related to theories and methods related to a wide range of fields such as sociology, educational philosophy and applied drama, etc., students will cultivate individual interest in specific issues and debate these issues focusing on tasks where they exchange comments on these issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションおよび自己紹介&個々の問題関心のシェア
- 2回：文献講読&報告&ディスカッション
- 3回：文献講読&報告&ディスカッション
- 4回：文献講読&報告&ディスカッション
- 5回：文献講読&報告&ディスカッション
- 6回：文献講読&報告&ディスカッション
- 7回：文献講読&報告&ディスカッション
- 8回：文献講読&報告&ディスカッション
- 9回：文献講読&報告&ディスカッション
- 10回：文献講読&報告&ディスカッション
- 11回：文献講読&報告&ディスカッション
- 12回：文献講読&報告&ディスカッション
- 13回：研究テーマ設定に向けたプレスト (1)
- 14回：研究テーマ設定に向けたプレスト (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献はあらかじめ読んでから演習に参加すること。演習ではディスカッションおよび演劇的手法によるアクティビティを大切にしたいと考えている。何らかの形でオンライン上に意見交換できるコミュニティスペースを開設し予習・復習に役立ててもらえればと考えている。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講生相互のコメント:25% 文献講読に関わるディスカッション参加度:25% 個別の研究関心の発表:25% ゼミ研究テーマに関わるディスカッション貢献度:25%

### テキスト / Textbooks

参考文献リストに掲げた文献を軸に、必要に応じて関連論文等を紹介する方式とする

### 参考文献 / Readings

- アウグスト・ボアール 『被抑圧者の演劇』 晶文社 1984  
 フィリップ・テイラー 『応用演劇』 HEINEMANN 2003

串田秀也&好井裕明 『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』 世界思想社 2010

パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学（50周年記念版）』 亜紀書房 2018

### その他/ Others

- (1) 演習運営上の基本的なスタンスは「促し・励まし・見守り・支える」（教育学者・室 俊司氏のことば）。ポジティブなかかわり方を参加受講生相互にもシェアしてもらえたらと考えている。
- (2) 文献は社会学、教育哲学、応用演劇学等多岐にわたる。大きな問題意識を育てつつ、個別具体的な研究テーマに取り組んでももらえたら幸いである。
- (3) 秋学期末に提出するゼミ論文の構成についての検討も実施する（例年とは異なる構成となる可能性あり）

## 演習 J 2

Seminars in Education J2

教育臨床社会学の展開

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 社会学的な相互行為データ分析を踏まえた共同発表ないしは共同制作を行う
  - (2) 卒業論文執筆も視野にいれつつ、個人研究を論文化する支援を進める
- (1) Students will carry out group presentations or other collaborations based on sociological and interactive data.  
(2) Students will write a seminar thesis while also considering their upcoming graduation thesis.

### 授業の内容 / Course Contents

春学期にシェアした基本的知識や互いの問題関心を踏まえ、共同研究（制作）を行うべく、個別の問題関心との往復作業を繰り返しつつ成果発表に向けた作業を進めていく。受講生それぞれが、自分なりにゼミに貢献できることはなにかを見いだせるよう、支援したい。なお成果発表の形式は個人発表としてはゼミ論文を宛て、共同発表としては応用演劇等の手法も視野にいれつつ、参加受講生とともに可能性を探っていきたい。

Based on basic knowledge shared in the spring semester and students' interest in problems, students will work toward conducting joint research (collaboration), and presenting their results while repeatedly examining individual problems of interest. The class will support students as each of them finds his/her own way to

contribute to the seminar. Also, for the format of the presentations on results, the seminar theses will be regarded as individual presentations, and the group presentations will give students an opportunity to explore possibilities by incorporating Applied Theatre.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：個別課題のシェアおよび共同研究テーマをめぐるブレインストーミング (1)
- 2 回：個別課題のシェアおよび共同研究テーマをめぐるブレインストーミング (2)
- 3 回：研究発表の方法および研究の宛先をめぐるブレインストーミング
- 4 回：個別発表 (1)
- 5 回：個別発表 (2)
- 6 回：個別発表 (3)
- 7 回：個別発表 (4)
- 8 回：個別発表 (5)
- 9 回：個別発表 (6)
- 10 回：個別課題の深化および共同研究完成へ向けた共同作業 (その1)
- 11 回：個別課題の深化および共同研究完成へ向けた共同作業 (その2)
- 12 回：個別課題の深化および共同研究完成へ向けた共同作業 (その3)
- 13 回：個別課題の深化および共同研究完成へ向けた共同作業 (その4)
- 14 回：成果発表の予定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:		

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

共同研究のためのグループワークが必須となる。自分なりに共同研究に貢献できることが何かを常に意識するべくリフレクションを重ねていってほしい。授業時間外にも共同研究や個人研究の論文化のための面談指導等も予定している。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 共同研究への貢献度:60% 最終レポート割合 :40%

各自のゼミ論文をもって最終レポートとする。

### テキスト / Textbooks

授業時に個別のテーマに応じて指示する

### 参考文献 / Readings

研究の展開に応じて必要な文献をシェアしていく

### その他 / Others

演習運営上の一貫したスタンスは「促し・励まし・見守り・支える」(教育学者・室 俊司氏のことば) ポジティブなかかわり方を参加受講生相互にもシェアしてもらえたらと考えている。

## 演習 J 3

Seminars in Education J3

社会教育研究のセンスを磨く

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

①社会教育研究を進めていくための発想や論理を獲得する。

②社会を組み換える課題意識を深くし、教育や学習がもっている政治性や社会性に着目して研究していけるようになる。

③調査や発表や議論に慣れ、その方法や仕方に習熟する。

1)Students will acquire the idea and logic for conducting research in adult and community education.

2)Students will sharpen awareness of changing society and pay attention to the political and social characteristics of teaching and learning.

3)Students will become familiar with research, presentation and debate, and acquire proficiency in these methods and approaches.

### 授業の内容 / Course Contents

文献を読み、それをもとにした報告と討議を行いながら、社会や人間について理解を深める作業を行う。

Students will deepen their understanding of people and society through reading literature, making reports and



discussion.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション：ゼミで学ぶ意味、年間スケジュールの確認  
 2回：ライブラリツアー  
 3回：文献の検討、報告と討議  
 4回：文献の検討、報告と討議  
 5回：文献の検討、報告と討議  
 6回：文献の検討、報告と討議  
 7回：文献の検討、報告と討議  
 8回：文献の検討、報告と討議  
 9回：文献の検討、報告と討議  
 10回：文献の検討、報告と討議  
 11回：文献の検討、報告と討議  
 12回：文献の検討、報告と討議  
 13回：文献の検討、報告と討議  
 14回：まとめと振り返り、夏季休暇中の課題やゼミ合宿についての案内

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストをしっかりと読み込み、授業に臨むこと。テキストを読み深めるための予習課題も毎回課される。また、個人として取り組むべき課題についても手を抜かず真摯に取り組む必要がある。ゼミの学びにとって授業時間外の予習・復習が決定的に重要であることは肝に命じておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での報告や討論への取り組み：70%

最終レポート割合：30%

**テキスト / Textbooks**

テキストに関しては授業開講時に指示をする。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

テキストは必ず購入し、初回の授業に持参すること。

# 演習 J 4

Seminars in Education J4

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE104  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の提出を見通しながら、ゼミ論文（12000 字）を完成させる。

Students will master methods of organizing the research into a paper, and raise their awareness of issues.

Students will turn in a seminar theses (12,000 characters) at the end of the term.

## 授業の内容 / Course Contents

各自の研究報告を中心に進める。研究テーマを絞り、十分な調査や考察のもとに研究報告を行う。それぞれの報告について議論を交わし、報告者に適切な助言やヒントを提供する。

Classes will progress mainly on each student's presentation on their research. Students will narrow down the subject of their research and write a report based on sufficient survey and discussion. Students will have discussions regarding their respective reports, and provide appropriate advice and hints to each other.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：個人研究発表
- 3 回：個人研究発表

- 4回：個人研究発表  
 5回：個人研究発表  
 6回：個人研究発表  
 7回：個人研究発表  
 8回：個人研究発表  
 9回：個人研究発表  
 10回：個人研究発表  
 11回：個人研究発表  
 12回：個人研究発表  
 13回：個人研究発表  
 14回：ゼミ論文の執筆について

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究発表のために授業時間外の調査や学習は不可欠である。労力を惜しまず努めること。ゼミ論文の執筆については個別の面談に応じるので、積極的に指導教員を利用すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:30% 議論への取組み:30% 最終レポート割合：:40%

#### テキスト / Textbooks

戸田山和久 『新版 論文の教室』 NHK 出版 2012 9784140911945 ○

論文とは何かを学ぶ上で必ず上記テキストは入手し、活用すること。

#### 参考文献 / Readings

# 演習 J 5

Seminars in Education J5

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE105  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

比較教育学は、多様な国・地域の教育を比較し関係を考察することを通じて教育について究明し普遍的な示唆を得ることを目指している。そうした研究分野の近年の研究書のなかから、今年度は、なるべく広範な国や地域にまたがる内容の文献にふれたい。

In comparative education, students will investigate education by comparing education in various countries and regions and examining how they relate to one another. Students should gain a sense of the universal aspects of education. In this academic year, students will become familiar with current literature from a wide range of countries and regions taken from the recent research texts available in that field of research.

## 授業の内容 / Course Contents

演習形式での文献講読を行う。

各回の担当者は、文献の概要をまとめるとともに、その内容をふまえた発展調査を事前に行い、成果を授業時間に報告する。この報告をもとに、全員で内容を確認していく。履修者数によって、毎週の担当を一人ずつとするか、班ごととするかが決まる。精読を優先し、ディスカッションは文献理解を助ける手段と考えている。

最初の文献は、Jeremy Rappleye 著, Exploring cross - national attraction in education : some historical

comparisons of American and Chinese attraction to Japanese education (Oxford) を予定している。アメリカ、中国、日本に異なる仕方で焦点をあてているこの文献を入口として、教育という営みへの普遍的な示唆や、日本の教育や社会の理解へと発展させたいと考えている。文献講読という地道な作業を、グローバルな関心をもって進めていきたい。

Students will have literature readings in seminar.

The discussion leader for each class meeting will, along with summarizing concepts from the literature, carry out a development survey in advance based on the contents of the reading, and report the results during class hours. All class members will confirm their understanding of the contents based on the report. The number of the students each week will determine whether the reporting will be done by a discussion leader or by each group. The class prioritizes intensive reading. Discussions are considered as a method for better understanding of the literature.

The first reading planned for the class will be Jeremy Rappleye's Exploring cross-national attraction in education: some historical comparisons of American and Chinese attraction to Japanese education (Oxford). With this literature focusing on different approaches in mainly the United States, China, and Japan as an introduction, students will get deeper understanding of the idea of education as universal, as well as Japanese education and society. Students will continue the literature readings with a sense of interest in the world.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：文献講読 1
- 3 回：文献講読 2
- 4 回：文献講読 3
- 5 回：文献講読 4
- 6 回：文献講読 5
- 7 回：文献講読 6
- 8 回：文献講読 7
- 9 回：文献講読 8
- 10 回：文献講読 9
- 11 回：文献講読 10
- 12 回：文献講読 11
- 13 回：文献講読 12
- 14 回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員が毎回テキストの輪読予定箇所を読み込むことを前提とする。毎週そのために各自が一定時間をさくことが求められる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担當時の準備と報告に対する評価:30% 担當時以外の授業への参加:30% 中間および最終レポート:40%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

# 演習 J 6

Seminars in Education J6

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE106  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

比較教育学は、多様な国・地域の教育を比較し関係を考察することを通じて教育について究明し普遍的な示唆を得ることを目指している。そうした研究分野の近年の研究書のなかから、後期は東南アジアを対象に、なるべく広範な国や地域にまたがる内容の文献にふれたい。期末にレポート（12,000 字）を提出する。

In comparative education, students will investigate education by comparing education in various countries and regions and examining how they relate to one another. Students should gain a sense of the universal aspects of education. During the second half of the class, students will become familiar with the current literature applicable to Southeast Asia, taken from recent research texts in that research field. Students will turn in a report (12,000 characters) at the end of the term.

## 授業の内容 / Course Contents

演習形式での文献講読を行う。

各回の担当者は、文献の概要をまとめるとともに、その内容をふまえた発展調査を事前に行い、成果を授業時間に報告する。この報告をもとに、全員で内容を確認していく。履修者数によって、毎週の担当を一人ずつとするか、班ごととするかが決まる。精読を優先し、ディスカッションは文献理解を助ける手段と考えている。

履修者の関心や背景を生かせるよう柔軟に対応したいが、最初の文献としてベネディクト・アンダーソン著『比較の亡霊』と『三つの旗のもとに』をまず考えている。時間の許す範囲で、さらに追加したい。前期と同様、入門書・概説書ではなく、手応えのある研究書・論文を共同で読むことを演習の主眼とする。文献講読という地道な作業を、グローバルな関心をもって進めていきたい。

Students will have literature readings in seminar.

The discussion leader for each class meeting will, along with summarizing concepts from the literature, carry out a development survey in advance based on the contents of the reading, and report the results during class hours. All class members will confirm their understanding of the contents based on the report. The number of the students each week will determine whether the reporting will be done by a discussion leader or by each group. The class prioritizes intensive reading. Discussions are considered as a method for better understanding of the literature.

The class will be taught with a sense of flexibility to make use of students' interest and backgrounds. The first reading will be Benedict Anderson's "Under Three Flags" (NTT press). More readings will be added as the time allows. Just as in the first term, students will mainly learn by reading research papers and theses together, rather than writings for introductions or overviews. Students will continue the literature readings with a sense of interest in the world.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：文献講読 1
- 3回：文献講読 2
- 4回：文献講読 3
- 5回：文献講読 4
- 6回：文献講読 5
- 7回：文献講読 6
- 8回：文献講読 7
- 9回：文献講読 8
- 10回：文献講読 9
- 11回：文献講読 10
- 12回：文献講読 11
- 13回：文献講読 12
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員が毎回テキストの輪読予定箇所を読み込むんでくることを前提とする。毎週そのために各自が一定時間をさくことが求められる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation



平常点のみ

平常点割合 :100% 担當時の準備と報告に対する評価:30% 担當時以外の授業への参加:30% 中間および最終レポート:40%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

# 演習 J9

Seminars in Education J9

教育の歴史を辿る

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE109
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU3710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

我々がいま「当たり前」と思っている教育の形について、何故このようになっているのか、という問いを見つけ、時系列に沿ってその答を探し当てる方法・技術を身につける。

In this seminar, we will try to have a critical perspective on the form and nature of education that we take for granted today. We will also learn how to find the answers to these questions in chronological order.

## 授業の内容 / Course Contents

「教育制度の歴史」や「学校の歴史」だけではなく、授業で用いられる教具に加えて、授業以外の教育活動で用いる道具＝モノも含めた「教育の歴史」を、受講者の興味関心に沿いながら考えてゆく。今日一般化し、「当たり前」となっている教育のあり方、受講者自らが経験してきた「当たり前」と受け止めている教育のあり方を、歴史的な視点から見直してゆくことを目指す。

日本の教育史に関わる通史的理解を共有しつつ、その上で受講者各自の興味関心に基づく個別問題を抽出し、受講者同士の発表や議論を通じて、それぞれの問題関心を磨き上げる。

歴史的視点から教育をみる、考えるということはどういうことなのか、何をを目指すのか、演習を通して受講

者各自の“解、を見つけ出してほしい。

This exercise covers not only the "history of the education system" and the "history of the school," but also the "history of education," including the tools used in the classroom as well as in educational activities outside the classroom. We will consider these issues in line with the interests of the participants. The aim is to review from a historical perspective the way of education that has become common and "natural" today, and the way of education that the participants themselves have experienced and taken for granted.

First, the participants will share their basic understanding of the history of education in Japan. Then, each participant will choose a theme based on his/her own interests. Participants will refine their own interests through presentations and discussions among themselves.

Through the exercises, I hope that each participant will find an answer to the question of what it means to look at and think about education from a historical perspective, and what we are aiming for.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：文献、基本資料の紹介
- 3回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション1
- 4回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション2
- 5回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション3
- 6回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション4
- 7回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション5
- 8回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション6
- 9回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション7
- 10回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション8
- 11回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション9
- 12回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション10
- 13回：文献購読およびプレゼンテーション・ディスカッション11
- 14回：演習のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各時間で扱う文献・資料の事前学習を行う。報告者は報告資料を作成する。
- ・毎回の授業および発表内容に関するコメントを作成する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 質問や討論への積極的参加:20% 個別発表の準備と内容:20% 授業についてのコメントの提出:20% 最終レポート割合：:40%

口頭報告を行うこと、それを踏まえた最終レポートを提出すること、出席数が全授業日の2/3以上あることが単位認定の必須要件となる。

**テキスト/Textbooks**

- 小田中直樹 『歴史学のトリセツ 歴史の見方が変わるとき』 筑摩書房 2022年 9784480684363 -  
木村元 『学校の戦後史』 岩波書店 2015年 9784004315360 -  
小国喜弘 『戦後教育史 貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害まで』 中央公論社 2023年  
9784121027474 -  
E・H・カー 『歴史とは何か 新版』 岩波書店 2022年 9784000256742 -

上記テキストは必ずしも購入しなくてよい。各自の興味関心に合わせて必要なものを座右に置くこと。

**参考文献 / Readings**

- 石附実編著 『近代日本の学校文化誌』 ミネルヴァ書房 1992年 9784784207244  
上野ゼミ卒業生チーム 『情報生産者になってみた』 筑摩書房 2021年 9784480074416  
佐藤秀夫 『教育の文化史』2 (学校の文化) 阿呷社 2005年 9784900590816  
平田諭治編著 『日本教育史』 ミネルヴァ書房 2019年 9784623084517  
成田龍一 『歴史像を伝える 「歴史叙述」と「歴史実践」』 岩波書店 2020年 9784004319184  
上野千鶴子 『情報生産者になる』 筑摩書房 2018 9784480071675  
リンダ・S・レヴィスティック、キース・C・バートン (松澤剛・武内流加・吉田新一郎訳) 『歴史をする  
生徒をいかす教え方・学び方とその評価』 新評論 2021 9784794811776

**その他/ Others**

授業計画の詳細 (内容や進行方法など) は第1回の演習で説明するので、第1回目の演習は必ず出席すること。

# 演習 J10

Seminars in Education J10

教育の歴史を辿る

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期で検討した各自の問題意識に基づいて調査・研究を進め、論文にまとめる。

The purpose of this class is for students to conduct research based on their own awareness of the issues discussed in the spring semester, and to compose a paper on the results of their research.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に行った文献講読や討論の中から、自分なりの課題意識を導き出し、その課題意識を自らのテーマとして深めてゆく。形式としては、個人もしくはグループによる発表形式を繰り返す。発表を繰り返すことで、自らの課題意識、研究方法、表現技術を磨いてゆくことをねらいとしている。

歴史研究がこの演習のスタイルなので、実証的であること、特に文書資料で実証することを心がけてほしい。

国立国会図書館、国立公文書館、その他の資料所蔵機関などが web 上で公開している資料を駆使することはもとより、状況が許せば、地域の図書館や教育センターや文書館などに赴くことも検討したい。

なお発表（プレゼンテーション）の技術、発表資料（レジュメ）作成技術についても批評しあう。

各自の発表を文章化したゼミ論文集の作成を、最終的な目標とする。

Students will find their own awareness of issues through the literature readings and discussions conducted in the spring semester, and will further develop their awareness of issues into their own themes. The format of the seminar is a rotation of individual and group presentations. The aim is for students to refine their own awareness of issues, research methods, and expression techniques through repeated presentations.

The style of this seminar is historical research. Therefore, students are expected to raise the level of empirical evidence in their reports, especially through documentary sources.

In this seminar, students will also critique each other's presentation skills and techniques for preparing presentation materials. The final goal of the seminar is to produce a collection of papers summarizing each student's presentation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：演習の内容確認と計画
- 3回：発表および質疑1
- 4回：発表および質疑2
- 5回：発表および質疑3
- 6回：発表および質疑4
- 7回：発表および質疑5
- 8回：発表および質疑6
- 9回：発表および質疑7
- 10回：発表および質疑8
- 11回：発表および質疑9
- 12回：発表および質疑10
- 13回：発表および質疑11
- 14回：演習のまとめとゼミ論文の仕上げ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各時間で扱う文献・資料の事前学習を行う。報告者は報告資料を作成する。
- ・毎回の授業および発表内容に関するコメントを作成する。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ論文の内容(12,000字以上):40% 個別発表の準備と内容:40% 質問や討論、リアクションペーパーの提出などの授業への積極的な参加:20%

口頭報告を行うこと、それを踏まえたゼミ論文を提出すること、出席数が全授業日の2/3以上あることが単位認定の必須要件となる。

### テキスト/ Textbooks

各自のテーマに合わせて適宜指示する。

**参考文献 / Readings**

- 教育史学会 『教育史研究の最前線Ⅱ』 六花出版 2018年 9784866170428
- 古田島洋介 『日本近代史を学ぶための文語文入門 漢文訓読体の地平』 吉川弘文館 2013年  
9784642080934
- 高橋 佑磨・片山 なつ 『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』（増補改訂3版） 技術評論社 2021 9784297119850
- 花井信 『論文の手法 日本教育史研究法・序説』 川島書店 2000年 9784761007188
- 岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大 『問いからはじめる教育史』 有斐閣 2020 9784641150805
- 下司晶・丸山英樹・青木栄一ほか編 『教育研究の新章』教育学年報11 世織書房 2019 9784866860077
- その他、適宜演習内で指示する。

**その他 / Others**

演習計画の詳細（内容や進行方法など）は第一回の演習で説明するので、第一回目の演習は必ず出席すること。

# 演習 J 1 1

Seminars in Education J11

教育哲学

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

このゼミでは、教育哲学を中心として、現在の教育のあり方について根本的に問い直すテーマをフィールド調査のなかで見つけながら、それについて対話しながら哲学的に考えを深めていく方法を取ります。以下のテーマに関心のある人を求めています。

- (1) SDGs の哲学とその教育実践
- (2) 子どもの哲学と哲学対話
- (3) 当事者研究

This is an intensive seminar course on philosophy of education. The aim of this seminar is students' capacity-building with respect to philosophical thinking that allows us to examine fundamental issues about education. We will read literatures that in particular relate to the following topics:

1. SDGs and educational practice
2. Philosophy for Children (P4C) and philosophical dialogue
3. Tojisha-Kenkyu (First-person research)



**授業の内容 / Course Contents**

春学期は、前半は、哲学対話の方法を説明してから、N.ノディングズ・L.ブルックス『批判的思考と道徳性を育む教室：「論争問題」がひらく共生への対話』（学文社）をテキストとして、後半は、綾屋紗月・熊谷晋一郎『つながりの作法：同じでもなく 違うでもなく』（生活人新書）をテキストとして、問いを立ててグループで哲学対話をします。それぞれレポートを書いてもらいます。

また、夏季休暇期間に、タイと沖縄でのSDGs哲学対話フィールドワークを実施する予定です。そのための方法の説明や哲学対話の練習も行います。

In the spring semester, the first half of the class will begin with an explanation of the method of philosophical dialogue, followed by a group discussion of questions using N. Noddings and L. Brooks, "Teaching Controversial Issues," and in the second half, "The Way of Connection: Neither Same Nor Different," by Satsuki Ayaya and Shinichiro Kumagaya. Each participant must write a report for each text.

We also plan to conduct SDGs philosophical dialogue fieldwork in Thailand and Okinawa during the summer vacation period We will also explain the fieldwork method and practice philosophical dialogue for this purpose.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション、自己紹介、分担決め
- 2回：タイでのフィールドワークの説明、SDGsの取り組み
- 3回：ノディングズ・ブルックスについての読解と議論（1）1～2章
- 4回：ノディングズ・ブルックスについての読解と議論（2）3～4章
- 5回：ノディングズ・ブルックスについての読解と議論（3）5～6章
- 6回：ノディングズ・ブルックスについての読解と議論（4）7～8章
- 7回：ノディングズ・ブルックスについての読解と議論（5）9～10章
- 8回：ノディングズ・ブルックスについての読解と議論（6）11～12章
- 9回：綾屋・熊谷についての読解と議論（1）1～3章
- 10回：綾屋・熊谷についての読解と議論（2）4～6章
- 11回：哲学対話入門（理論と実践）（1）
- 12回：哲学対話入門（理論と実践）（2）
- 13回：哲学対話入門（理論と実践）（3）
- 14回：ゼミ論執筆のための指導、フィールド哲学に向けての準備

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

・報告を担当する者は、指定された文献の箇所を読み、報告資料を作成すること（資料の作成方法は授業内で指示する）

・報告を担当しない者も、指定された文献の箇所を必ず読んでくること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:25% 報告と授業内提出物:20% ディスカッションへの参加など受講態

度:20% 最終レポート割合：:35%最終テスト割合：:0%

### テキスト/ Textbooks

ネル・ノディングス&ローリー・ブルックス 『批判的思考と道徳性を育む教室』 学文社 2023

4762032131 ○

綾屋紗月・熊谷晋一郎 『つながりの作法 同じでもなく 違うでもなく』 NHK 出版 2010 4140883359

○

上記のテキストは授業で使用するため必ず入手すること。

### 参考文献 / Readings

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法 改訂第二版』 玉川大学出版会 2015 9784472405136

授業内で重要なテキスト等は適宜紹介するが、上記は特に発表やレポートの助けになる。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ネットを使った課題提出や連絡をするために PC ないし Pad を準備しておくように。

### その他/ Others

河野研究室の HP です。 <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuyakono/index.html>

子どもの哲学に関心をお持ちの方には、実践の機会をお知らせするメーリングリストに入ってください。参加したい方は、河野に声をかけてください。

タイ合宿、沖縄合宿には積極的に参加されてください。

# 演習 J 1 2

Seminars in Education J12

教育哲学

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

このゼミは、教育哲学をテーマとして、①体験を広げる、②対話する力、コミュニケーションする力を養う、③自分自身で考えられるようになることを目標とします。期末にレポート（8,000 字）を提出する。

This seminar has the following target themes of educational philosophy (1) to broaden experiences (2) to foster discussion and communication skills (3) to gain skills to have own thoughts. Students will turn in a report (8,000 characters) at the end of the term.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、以下のテーマについて、学生の発表を中心に進めます。（1）SDGs の哲学とその教育実践、（2）子どもの哲学と哲学対話、（3）当事者研究。ゼミは、グループに分けて発表をして、対話することを中心にして進めます。これらのテーマについて、学生が中心になって自分のテーマに関する発表を行い、ディスカッションします。

In this class, students will give presentations focusing on the following topics. (1) Philosophy of SDGs and its educational practice, (2) Philosophy of children and philosophical dialogue, and (3) Tojisha-Kenkyu. For the

seminar, the class will mainly focus on students' small-group presentations and dialogues. Students will initiate the classes in presentations and discussions for their own themes relevant to the topics above.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介、授業の進め方とスケジュール
- 2回：学生発表・ディスカッション①
- 3回：学生発表・ディスカッション②
- 4回：学生発表・ディスカッション③
- 5回：学生発表・ディスカッション④
- 6回：学生発表・ディスカッション⑤
- 7回：学生発表・ディスカッション⑥
- 8回：中間レポート提出  
学生発表・ディスカッション⑦
- 9回：学生発表・ディスカッション⑧
- 10回：学生発表・ディスカッション⑨ 最終レポートに向けての発表
- 11回：学生発表・ディスカッション⑩ 最終レポートに向けての発表
- 12回：学生発表・ディスカッション⑪ 最終レポートに向けての発表
- 13回：レポートの検討とディスカッション
- 14回：最終レポート提出、まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表とディスカッション中心の講義になり、発表は4回ほど機会があります。自分の関心に沿って、発表とレポートを相互に批評し合いますので、毎回の準備を怠らないでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:25% 個人発表と授業内提出物:20% ディスカッションへの参加など受講態度:20% 最終レポート割合：:35%

中間レポート・最終レポートは必ず提出すること。

### テキスト / Textbooks

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』 玉川大学出版部  
2007 4472403439 ○

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ネットを使った資料提示や連絡を行い、後半にはパワーポイントでの個人発表をしてもらいますので、PCないし Pad を準備されてください。

## その他/ Others

河野研究室の HP です。<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuyakono/index.html>

- ・子どもの哲学に関心をお持ちの方には、実践の機会をお知らせするメーリングリストに入らせていただくことも可能です。参加したい方は、河野に声をかけてください。
- ・学外活動として、新潟や岩手、宮城などさまざまな場所で、図書館や美術館と連携した哲学対話を実施していきます。関心のある方はどれも積極的に参加されて下さい。

# 演習 J 1 3

Seminars in Education J13

住まいと人間形成をめぐる思想：家政学と教育学の往還から

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 教育学研究に家政学、生活学の知見を導入することの意義を理解する。
  - (2) 住居、建築と人間形成の関係について理解を深める。
  - (2) 複数の文献を比較し、考察することができるようになる。
  - (3) 日常生活を批判する力を養う。
- (1) Students will understand the significance of introducing knowledge of home economics and lifestyle studies into pedagogical research.
- (2) Students will deepen their understanding of the relationship between housing, architecture and education.
- (2) Students will be able to compare and discuss multiple literatures.
- (3) Students will develop the ability to critique everyday life.

## 授業の内容 / Course Contents

- (1) 導入：ゼミ選択の際にも読んでもらった論文や雑誌の対談記事などを購読する。
- (2) 教員が指定した文献を複数組み合わせながら特定のテーマについてレポーターが報告する。その後指定討

論者が報告内容についてコメントし、その後全体のディスカッションを行う。

(3) 戦後を代表する建築家である黒川紀章の『ホモ・モーベンス』を読む。

(1) Introduction: Students subscribe to an article or journal discussion article, etc., which they are also asked to read when selecting their seminar.

(2) Students report on a specific theme, referring to several references in the literature. After the report, the designated discussant will comment on the contents of the report, and finally, all students will discuss the report together.

(3) Students will read the works of Kisho Kurokawa, one of the leading architects of the postwar period.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：自己紹介、授業の進行についての説明、報告順の決定
- 2 回：「研究報告」をどのようにすればよいか？：レジユメの作り方、文献の検索、参照のコツ
- 3 回：家政学と教育学の関係にまつわる対談記事の購読
- 4 回：家政学と教育学の関係にまつわる論文の購読
- 5 回：報告とディスカッション (1) 住まいとは何か？
- 6 回：(2) 住宅を所有するということの意味
- 7 回：(3) 戦後住宅政策をめぐって①：終戦～70 年代
- 8 回：(4) 戦後住宅政策をめぐって②：70～90 年代
- 9 回：(5) 90 年代以降現在まで：マイホームの彼方に
- 10 回：文献講読へ：黒川紀章と戦後の建築家たち
- 11 回：『ホモ・モーベンス』第 1 章の講読
- 12 回：同上、第 2 章の講読
- 13 回：同上、第 3 章の講読
- 14 回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

当該のテーマについて複数の文献を考察し、自分なりのまとめを行ったプレゼンテーションの準備が毎回必要になる。報告レジユメの一次稿は報告の 1 週間前までに準備し、コメンテーターはこの一次稿に対するコメントを次週までに準備する。事後は全受講者がリアクションペーパーを提出し、当該回の議論を振り返ることになる。また、授業内容と関わりの深い建築物（学生が移動できる範囲内のところで）を期限を決めて見ておくように指示することがある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% レポート報告の内容:30% 指定討論の内容:20%

欠席が 4 回になると D 評価。

### テキスト / Textbooks

平山洋介 『マイホームの彼方に：住宅政策の戦後史をどう読むか』 筑摩書房 2020 9784480879097 ○

難波和彦 『住まいを読む』 NHK 出版 2024 9784149110769 ○

黒川紀章 『ホモ・モーベンス：都市と人間の未来』 中公新書 1969 9784121001986 -

受講者は多様な文献を用いて報告を準備する必要があるが、上記2冊は必須なので全員購入すること。2の文献はこの1月から放送されたNHKのラジオ講座のテキストで、読みやすく、ゼミの内容にも近接するものなので、可能な限り授業開講前にざっと読んでおくといよい。黒川の『ホモ・モーベンス』は絶版なので、図書館で借りるか、中古を購入してもらうことになる。詳しくは初回の授業で伝える。

### 参考文献 / Readings

平山洋介 『「仮住まい」と戦後日本：実家住まい、賃貸住まい、仮設住まい』 青土社 2020  
9784791773213

村上あかね 『私たちはなぜ家を買うのか：後期近代における福祉国家の再編とハウジング』 勁草書房  
2023 9784326698431

祐成保志 『〈住宅〉の歴史社会学：日常生活をめぐる啓蒙・動員・産業化』 新曜社 2008  
9784788511279

本多真隆 『「家庭」の誕生：理想と現実の歴史を追う』 筑摩書房 2023 9784480075901

本多晃子 『革命と住宅』 ゲンロン 2023 9784907188511

上記以外の文献は適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回ノート PC かタブレットを持参すること。

コミュニケーションツールとして slack を活用する。

### その他 / Others

渡辺担当「教育調査実習 4a」はゼミのテーマと関連する内容を扱うので、ゼミ生は可能な限り受講すること。



# 演習 J 1 4

Seminars in Education J14

住まいと人間形成をめぐる思想：家政学と教育学の往還から

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE114

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 教育学研究に家政学、生活学の知見を導入することの意義を理解する。
  - (2) 住居、建築と人間形成の関係について理解を深める。
  - (3) 複数の文献を比較し、考察することができるようになる。
  - (4) 日常生活を批判する力を養う。
- (1) Students will understand the significance of introducing knowledge of home economics and lifestyle studies into pedagogical research.
- (2) Students will deepen their understanding of the relationship between housing, architecture and education.
- (3) Students will be able to compare and discuss multiple literatures.
- (4) Students will develop the ability to critique everyday life.

## 授業の内容 / Course Contents

- (1) 住まいについて論じた戦後の建築家に関する報告とディスカッションを行う。
- (2) 個人ないしはグループでリサーチテーマを定め、文献研究やフィールド調査を行って報告する。

(3) リサーチを踏まえた最終レポート（5000 字程度を予定）を作成する。

(1) Students will report on and discuss postwar architects who discussed housing.

(2) Students will individually or in groups determine a research theme, conduct literature research and field research, and report on their findings.

(3) Students will prepare a final report based on their research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：報告順の決定

2 回：戦後の住まいを論じた建築家たち (1) 西山卯三

※以下 4 名をひとまず挙げたが、学生との相談で変更する可能性もある。

3 回：戦後の住まいを論じた建築家たち (2) 浜口ミホ

4 回：戦後の住まいを論じた建築家たち (3) 山本理顕

5 回：戦後の住まいを論じた建築家たち (4) 藤森照信

6 回：住宅・都市・国家をめぐる：丹下健三（と岡本太郎）

7 回：学生のテーマ研究報告 (1)

8 回：学生のテーマ研究報告 (2)

9 回：学生のテーマ研究報告 (3)

10 回：学生のテーマ研究報告 (4)

11 回：学生のテーマ研究報告 (5)

12 回：学生のテーマ研究報告 (6)

13 回：学生のテーマ研究報告 (7)

14 回：レポート提出の注意点、授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

当該のテーマについて複数の文献を考察し、自分なりのまとめを行ったプレゼンテーションの準備が毎回必要になる。報告レジュメの一次稿は報告の 1 週間前までに準備し、コメンテーターはこの一次稿に対するコメントを次週までに準備する。事後は全受講者がリアクションペーパーを提出し、当該回の議論を振り返ることになる。また、授業内容と関わりの深い建築物（学生が移動できる範囲内のところで）を期限を決めて見ておくように指示することがある。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業中の報告内容:30% 指定討論、ディスカッションの内容:20%

欠席が 4 回になると D 評価。

### テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しない。受講者が当該テーマに関する文献を随時検索し、活用することになる。

### 参考文献 / Readings

五十嵐太郎 『現代日本建築家列伝』 河出書房新社 2011 9784309624358

五十嵐太郎・菊地尊也編 『現代建築宣言文集 [1960-2020]』 彰国社 2020 9784395321735

長谷川堯 『神殿か獄舎か』 鹿島出版会 2007 9784306052475

多木浩二 『生きられた家：経験と象徴』 岩波現代文庫 2001 9784006000455

山本理顕 『[新編] 住居論』 ちくま学芸文庫 2004 9784582764925

柏木博 『家事の政治学』 岩波現代文庫 2015 9784006032845

今和次郎 『日本の民家』 岩波文庫 1989 9784003317518

上記以外の文献は適宜紹介する。テーマ研究に有用なものを一部示した。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回ノート PC かタブレットを持参すること。

コミュニケーションツールとして slack を活用する。

#### **その他/ Others**

渡辺担当「教育調査実習 4a」はゼミのテーマと関連する内容を扱うので、ゼミ生は可能な限り履修すること。

# 演習 J 15

Seminars in Education J15

教育方法学演習 1

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE115  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育方法学が射程にする授業論、カリキュラム論、学力論、教育評価論の領域の文献講読を通して、理論的枠組みを理解する。教育の諸問題について、何となくの感じや世間話的な教育論で語るのではない、教育方法学の知見に基づいた議論を積極的に行った上で、論文を作成することができる。

Students will understand the theoretical frameworks by doing literature readings in the fields covering Teaching Methods including class theory, curriculum theory, learning ability theory and educational evaluation theory.

Regarding various academic issues, students should not have only a sense of passing familiarity or talk about overall education theory, but will be able to compose papers after having active discussions based on a knowledge of Teaching Methods.

## 授業の内容 / Course Contents

立派な教育論を語っても、それを実現するための内容や方法がなければ、子どもたちを教育することはできない。教育方法学は、その内容や方法を検討する学問である。「よい授業とは何か」「子どもたちはどのような学力（能力）を身につけるべきか」「その学力をどのように評価するべきか」ということについて関心を持つ受講

生と、国内外の理論や実践を検討することを行いたい。

Even when an outstanding educational theory is presented, teachers cannot teach children if the theory lacks the methods and contents to bring it to life. Teaching Methods is an academic field that examines its contents and methods. We welcome students interested in “What is a good class?” “What kind of proficiencies should children develop?” and “How should that learning proficiency be evaluated?” We wish to discuss theories and practices inside and outside Japan with those students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：ゼミの進め方
- 2回：文献講読と発表および討論
- 3回：文献講読と発表および討論
- 4回：文献講読と発表および討論
- 5回：文献講読と発表および討論
- 6回：文献講読と発表および討論
- 7回：文献講読と発表および討論
- 8回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 9回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 10回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 11回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 12回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 13回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 14回：まとめ・レポート検討会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献は必ず読み、授業時間内に検討したい疑問や問題点を考えておくこと。発表者はきちんと準備すること。グループ発表の場合は、メンバーと協力して発表準備に当たること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート(Report Exam):40% ゼミでの発表:30% ゼミでの議論への参加:30%  
発表者が、発表当日に欠席することは原則認められない。その場合は、単位を認定しない。

### テキスト / Textbooks

田中耕治 『時代を拓いた教師たち』 日本標準 2005 4820802563 ○

### 参考文献 / Readings

田中耕治 『時代を拓いた教師たちII』 日本標準 2009 4820804222

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

タブレットやノートPC

### その他 / Others

受講者数や受講生の様子を見て、講義内容などを変更する場合がある

# 演習 J 16

Seminars in Education J16

教育方法学演習 2

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育方法学が射程にする授業論、カリキュラム論、学力論、教育評価論の領域の文献講読を通して、理論的枠組みを理解する。教育の諸問題について、何となくの感じや世間話的な教育論で語るのではない、教育方法学の知見に基づいた議論を積極的に行った上で、論文を作成することができる。期末にゼミ論文（12,000字）を提出する。

Students will understand the theoretical frameworks by doing literature readings in the fields covering Teaching Methods including class theory, curriculum theory, learning ability theory and educational evaluation theory. Regarding various academic issues, students should not have only a sense of passing familiarity or talk about overall education theory, but will be able to compose papers after having active discussions based on a knowledge of Teaching Methods. Students will turn in a seminar thesis (12,000 characters) at the end of the term.

## 授業の内容 / Course Contents

立派な教育論を語っても、それを実現するための内容や方法がなければ、子どもたちを教育することはできない。教育方法学は、その内容や方法を検討する学問である。「よい授業とは何か」「子どもたちはどのような学

力（能力）を身につけるべきか」「その学力をどのように評価するべきか」ということについて関心を持つ受講生と、国内外の理論や実践を検討することを行いたい。

Even when an outstanding educational theory is presented, teachers cannot teach children if the theory lacks the methods and contents to bring it to life. Teaching Methods is an academic field that examines its contents and methods. We welcome students interested in “What is a good class?” “What kind of proficiencies should children develop?” and “How should that learning proficiency be evaluated?” We wish to discuss theories and practices inside and outside Japan with those students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：ゼミの進め方
- 2回：文献講読と発表および討論
- 3回：文献講読と発表および討論
- 4回：文献講読と発表および討論
- 5回：文献講読と発表および討論
- 6回：文献講読と発表および討論
- 7回：文献講読と発表および討論
- 8回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 9回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 10回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 11回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 12回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 13回：自分の関心ある研究テーマ発表・討論／模擬授業＋検討会
- 14回：まとめ・レポート検討会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献は必ず読み、授業時間内に検討したい疑問や問題点を考えておくこと。発表者はきちんと準備すること。グループ発表の場合は、メンバーと協力して発表準備に当たること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート(Report Exam):40% ゼミでの発表:30% ゼミでの議論への参加:30%  
発表者が、発表当日に欠席することは原則認められない。その場合は、単位を認定しない。

### テキスト / Textbooks

伊藤実歩子 『変動する大学入試』 大修館書店 2020 4469222722 ○

伊藤実歩子 『変動する総合・探究学習』 大修館書店 2023 9784469222784 ○

### 参考文献 / Readings

そのほかの文献・資料は適宜指示する

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare



タブレットやノート PC

**その他/ Others**

受講者数や受講生の様子を見て、講義内容などを変更する場合がある

# 演習 J 17

Seminars in Education J17

発達と学習の心理学 1

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE117

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

人間の発達と学習の過程に関する心理学的知識を学び、人間についての理解を深める。

Students will learn psychological knowledge about human development and learning processes and deepen their understanding of human beings.

## 授業の内容 / Course Contents

人間の発達と学習を理解する上で必要とされる基本文献を事前購読し、個人あるいは複数による輪番報告をする。全員が事前に課題論文について小レポートを書き、それに基づいて議論を深める。授業外でも疑問点を図書館等で調べ、問いを探究してほしい。読むこと、書くこと、議論することを通して、大学生としてのアカデミックリテラシーの獲得を目指す。さらに、司会、記録、討議などのゼミの管理運営も履修者が行い、集団で創造的で、創発的なコミュニティを構築する力をつけることも目指されている。

Students will read the textbook in advance, which supports an understanding of human development and learning processes. Students will write short essays about each topic and have deep discussions with others based on them. Students have to investigate their questions and academic resources at the library and on the web. This

class will be a place for students to learn the fundamental academic literacy required for university students. Students are expected to participate actively in the academic activity.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1（授業の進め方の紹介・自己紹介など）
- 2回：イントロダクション2（報告担当者決め・報告方法の説明など）
- 3回：文献検討
- 4回：文献検討
- 5回：文献検討
- 6回：文献検討
- 7回：文献検討
- 8回：文献検討
- 9回：文献検討
- 10回：文献検討
- 11回：文献検討
- 12回：文献検討
- 13回：文献検討
- 14回：文献検討

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週指定論文を読み、A4一枚程度の小レポートの提出が課される。取り上げるのは専門論文なので、十分な予習時間を確保することが必要である。指定論文の理解を深めるために、関連する文献調査を行うことが望ましい。なお、報告者にはスライド制作などの報告準備が求められるので、担当回は小レポートが免除され、担当回の報告資料を提出すればよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート及び報告:60% ゼミや報告グループの活動に対する管理運営:10%

最終レポート割合：:30%

各論文に対する小レポート及び報告資料の提出、授業終了時に5000字程度の総括レポートの提出が求められる。なお、学科の取り決めとして基本的に出席数が全授業日の2/3以上あることが単位履修要件となる。

### テキスト / Textbooks

購読する論文集は授業開始時に配布する。

### 参考文献 / Readings

- 石黒広昭 『社会文化的アプローチの実際』 北大路書房 2004 9784762823893  
 石黒広昭 『文化と実践』 新曜社 2010 9784788511866  
 石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880  
 石黒広昭 『保育心理学の基底』 萌文書林 2008 9784893471062

石黒広昭 『AV 機器をもってフィールドへ』 新曜社 2001 9784788507777

**その他/ Others**

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

# 演習 J 18

Seminars in Education J18

発達と学習の心理学 2

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

人間の発達と学習の過程に関わる特定のテーマを選択し、プロジェクトワークを通して研究報告書を作成する。

Each student will carry out project work and write a research report, posing questions about human development and the learning processes.

## 授業の内容 / Course Contents

各自の興味関心に基づいた研究テーマについてプロジェクトワークを行う。各プロジェクトチームは研究テーマを選択し、授業内外で文献や実証調査に基づいて研究報告書を作成する。授業前半では、各プロジェクトの共通認識を形成するために指定された基本文献について理解を深める。授業後半では、自主的な文献調査、実証調査が行われ、報告書にまとめていく。各プロジェクトは授業内で定期的に進捗状況を報告することが求められる。

Students will choose a research topic based on their own interest of human development and learning processes.

Students will then carry out group project work based on literature and practical research. Students will carry out

research and study with the members inside and outside the seminar. When students complete their research, they will report their own research results and write final research reports.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の進め方の紹介・専門領域の選択など）
- 2回：基本文献検討（報告と討論）
- 3回：基本文献検討（報告と討論）
- 4回：基本文献検討（報告と討論）
- 5回：基本文献検討（報告と討論）
- 6回：基本文献検討（報告と討論）
- 7回：基本文献検討（報告と討論）
- 8回：調査結果報告と討論
- 9回：調査結果報告と討論
- 10回：調査結果報告と討論
- 11回：調査結果報告と討論
- 12回：調査結果報告と討論
- 13回：調査結果報告と討論
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

前半の授業では各プロジェクトの専門領域に関わる基本文献が指定されるので、その内容を十分理解した上で、授業内で報告する。後半の授業では各プロジェクトが授業外で行った活動の進捗状況を報告する。こうしたことから十分学習時間を確保する必要がある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プロジェクトワークとその報告:40% ゼミやプロジェクト活動に対する管理運営:30%

最終レポート割合：:30%

各プロジェクトを総括する最終レポートが課される。なお、学科の取り決めとして基本的に出席数が全授業日の2/3以上あることが単位履修要件となる。

### テキスト / Textbooks

プロジェクトワークでは、履修者のより積極的な参加が求められる。十分な学習時間を確保してほしい。基本テキストは春期の授業状況に基づいて指示する。

### 参考文献 / Readings

石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880

石黒広昭・亀田達也 『文化と実践』 新曜社 2010 9784788511866

石黒広昭 『社会文化的アプローチの実際』 北大路書房 2004 9784762823893

石黒広昭 『保育心理学の基底』 萌文書林 2008 9784893471062

石黒広昭 『AV 機器を持ってフィールドへ』 新曜社 2001 4788507773

**その他/ Others**

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

# 特別支援教育の理論と方法

Special Needs Education

小学校のための特別支援教育の理論と方法

後藤 隆章／河野 哲也 (GOTO TAKA AKI / KONO TETSUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE187  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2019 年度以降入学者のみ履修可  
中・高の教員免許状取得のためにはこの科目ではなく、教職課程が設置した同名科目（科目コードが G で始まる科目）の方を履修する必要がある。  
※ただし教育学科については例外措置があるので講座履修要項を確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

This course aims to teach students about the development and learning processes of infants, pupils, and students with special needs. They will understand the relevant characteristics and learn how to support them.

## 授業の内容 / Course Contents

特別支援教育の目標とテーマ、教育制度上の諸課題について概説した後、発達障害や軽度知的障害をはじめとした、特別な支援を必要とする幼児、児童の特徴についての理解を深め、その子たちに求められる指導のあり



方を探究する。その後、当該の子どもたちの置かれた地域、家庭状況等について検討し、その支援の方法、課題についての理解を深める。

This course aims for students to acquire the necessary knowledge for understanding special needs education. Students become knowledgeable about what is needed in education to support children's learning and development and also develop the basic awareness necessary for teachers. Moreover, students gain deeper understanding of children with special needs and the role of the instructor.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・特別な支援を必要とする幼児、児童に対する特別支援教育の意義と課題
- 2回：日本語の学習指導が必要な幼児、児童への教育支援
- 3回：特別支援教育のための障がいの理解
- 4回：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念と仕組み
- 5回：軽度知的障害のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 6回：学習障害のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 7回：自閉スペクトラム症のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 8回：注意欠陥多動性障害のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 9回：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱等の幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 10回：特別な支援を必要とする幼児、児童への個別指導
- 11回：特別な支援を必要とする幼児、児童への教育支援
- 12回：特別な支援を必要とする幼児、児童の地域・家庭を含めた支援体制の構築
- 13回：特別な支援を必要とする幼児、児童に対する指導者の課題
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連事項について講師から指示された文献を読み、自主学習を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

大塚玲 『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門〈第2版〉』 萌文書林 2019  
9784893473271 ○

### 参考文献 / Readings

細尾萌子・柏木智子 『小学校教育用語辞典』 ミネルヴァ 2021 9784623090792

小池敏英・北島善夫 『知的障害の心理学 発達支援からの理解』 北大路書房 2001 9784762822155

石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880

河野哲也 『現象学的身体論と特別支援教育：インクルーシブ社会の哲学的探究』 北大路書房 2015

9784762828874

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

小学校通常学級において、児童がどのような学習活動を行なっているのかについて理解しておくこと。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業では、授業支援システムを通じて資料配布を行う。

**注意事項（検索結果画面）**

2019年度以降入学者のみ履修可

# 総合的な学習の時間の理論と方法

The Period for Integrated Studies

表現力を育む授業プランづくり

佐藤 壮広 (SATO TAKEHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE188

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以降入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、初等教育における「総合的な学習の時間」の授業プランを組み立てることができるようになることである。最終的には魅力的な授業運営ができるようになることを本授業の目標とする。

The purpose of this course is to enable students to construct a lesson plan for "integrated study time" in elementary education. The ultimate goal of this class is to enable students to conduct attractive classes.

## 授業の内容 / Course Contents

まず、表現力を育てるための授業事例を示す。その事例をもとに、各人が授業プランを作成する。またそのプランをもとに、クラス全体でフィードバックを行う。

First, I will show a class example for developing expressive power. Based on the examples, each student creates a lesson plan. Also, based on the plan, give feedback to the whole class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の目的の提示と進め方のガイダンス

2 回：表現を取り入れた授業事例（1）

- 3回：表現を取り入れた授業事例（2）  
 4回：表現を取り入れた授業事例（3）  
 5回：2-4回までのまとめと振り返り  
 6回：表現する自分になるためのレッスン（1）  
 7回：表現する自分になるためのレッスン（2）  
 8回：表現する自分になるためのレッスン（3）  
 9回：6-8回までのまとめと振り返り  
 10回：「総合的な学習の時間」の授業プラン作成（1）  
 11回：「総合的な学習の時間」の授業プラン作成（2）  
 12回：「総合的な学習の時間」の授業プラン作成（3）  
 13回：授業プランの発表・プレゼンテーション（1）  
 14回：授業プランの発表・プレゼンテーション（2）  
 全体のまとめと振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する資料を随時お知らせします。その資料を理解し、授業に臨んでください。

授業後は、授業の成果を書き出し、スキルとして日々の現場で実践できるようにしてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題:20% 最終レポート割合：:40%最終テスト割合：:40%

授業内に課す小課題と仕上げに行う発表・プレゼンテーションの内容とを総合的に判断し、成績評価を行う。

#### テキスト / Textbooks

授業内に提示する。

#### 参考文献 / Readings

授業内に提示する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

「表現する力」を身につける努力を怠らない、持続的な探求の能力。

#### 注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者のみ履修可

# ICT活用の理論と方法（小学校）

Theories and Methods of ICT Practice (Primary Education)

主体的・自律的・協調的に学ぶ学習者を育てるための情報通信技術（ICT）の活用（AIを含む）に関する理論と基礎的な方法（知識・スキル）の修得する。

稲垣 成哲（INAGAKI SHIGENORI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE190

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2022 年度以降入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

- 情報通信技術の活用の背景・意義・理論を理解する。
    - 教育における ICT 活用（AI を含む）の背景・意義・理論を理解する。
    - 特別の支援を必要とする生徒に対する ICT 活用の意義と留意点を理解する。
  - 生徒の情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。
    - 各教科等で横断的に育成する情報活用能力について、その内容を理解する。
    - 情報活用能力について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。
    - プログラミングについての実践的な知識を身につける。
- To understand the background, significance, and theories of the use of information and communication technologies.
    - To understand the background, significance, and theory of the use of ICT(including AI) in education.
    - To understand the significance and points to keep in mind when utilizing ICT for students with special

needs.

2. Acquire basic teaching methods to develop students' ability to use information.

(1) Understand the content of information use ability to be cultivated across each subject area.

(2) Understand the examples of teaching information use skills according to the characteristics of each subject, etc., and acquire basic teaching methods.

(3) Acquire practical knowledge of programming.

### 授業の内容 / Course Contents

情報通信技術（ICT）を効果的に活用した学習指導（学習活動のデザインと支援、評価）や児童の情報活用能力（情報モラル、メディアリテラシーを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

特に、ICT活用（AIを含む）に関する基本的な考え方や学習理論、及び、授業実践に必要な知識・スキルの修得を目指す。

To acquire basic knowledge and skills on how to effectively use information and communication technology (ICT) in learning instruction (design and support of learning activities and evaluation) and instructional methods to develop students' ability to use information (including information morality and media literacy).

In particular, the course aims to provide students with the basic concepts and learning theories related to the use of ICT, as well as the knowledge and skills necessary for classroom practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

2回：ICTとは何か（ゲスト講師による情報提供）

3回：生成AIとその教育利用

4回：情報モラル（1）：著作権など

5回：情報モラル（2）：情報モラル教育の実際

6回：各教科におけるICT利用の実際

7回：プログラミング：ビスケット

8回：演習：ビスケットの基礎

9回：演習：ビスケットの応用

10回：プログラミング：スクラッチ

11回：演習：スクラッチの基礎

12回：演習：スクラッチの応用

13回：ICT活用の理論と方法をめぐる諸問題

14回：まとめと最終レポート

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 提出物（成果物）:30%  
合 :40%

最終レポート割

### テキスト/ Textbooks

適宜指示する

### 参考文献 / Readings

稲垣忠・佐藤和紀(編著) 『ICT 活用の理論と実践: DX 時代の教師をめざして』 北大路書房 2022  
その他、適宜指示する。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

小学校の教員免許を取得することを前提とした講義内容である。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

演習の講義回では、PC の持参・用意を求めます。ソフトウェア等は Web で提供されているものを利用しますので、インストールなどの必要はありません。

### その他/ Others

- ・初回のオリエンテーション時にシラバスの変更点などを指示することがある。
- ・PowerPoint 等を使用した講義形式で、映像資料や現物資料などを適宜活用する。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、演習的な活動を適宜行うことがある。
- ・遠隔等のゲストスピーカーを招待する可能性がある。なお、ゲスト講師は、予定であり、ゲスト自身の都合で設定回が変わる可能性があります。

### 注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者のみ履修可

# 教育調査実習 1

## Survey and Field Study in Education 1

知能検査をはじめとする心理検査についての基本的な知識や技法、考え方を習得する

新井 素子 (ARAI MOTOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE221
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU3710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

心理検査に関する基礎的な知識・理論を知りそのいくつかを実際に体験することで、教育の場で児童・生徒をより深く理解するための足掛かりを構築することを目指す。

This course aims to build a foothold for a deeper understanding of children and students in educational settings by acquainting students with the basic knowledge and theories of psychological testing and by providing hands-on experience of some of these theories.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では知能検査（WISC-V）を中心に、心理検査についての基礎的な知識・理論の習得とともに、心理検査とはどのようなものなのかについても実際に体験してもらう。レポートの作成やグループディスカッションなどにより、教育の前提にある人の多様性や個を尊重し理解することの大切さについて学ぶこととする。

In this class, students acquire basic knowledge and theory about psychological testing, with a focus on intelligence testing (WISC-V), and experience what psychological testing is really like. By writing reports and engaging in group discussions based on their experiences, students learn about the importance of respecting and



understanding the diversity and individuality of people, which is the basic premise of education.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：心理検査にはどのようなものがあるか、実施の際にはどのような配慮が必要か
- 3回：知能とはどのようなものか
- 4回：知能検査① (WISC-V)：WISC の仕組みを学ぶ・検査用具の紹介
- 5回：知能検査② (WISC-V)：教師による検査用具の手技の実演
- 6回：知能検査③ (WISC-V)：実践(1) (グループワーク)
- 7回：知能検査④ (WISC-V)：実践(2) (グループワーク)
- 8回：知能検査⑤ (WISC-V)：実践(3) (グループワーク)
- 9回：知能検査⑥ (WISC-V)：事例の解釈 (具体例)・発達障害についての基礎的な知識の紹介
- 【小レポート】【小レポート】実際に WISC-V をやってみた感想と、講義で取り上げた具体例に対する自分なりの理解や解釈を報告してください。
- 10回：発達検査や投影法についての基礎的な知識の紹介
- 11回：発達検査 (PARS-TR)：実践 (ペアワーク) と解説
- 12回：発達検査 (Conners3)：実践 (ペアワーク) と解説
- 13回：投影法 (バウムテスト, SCT) の実践と解説
- 14回：まとめ (心理検査から分かること / 分からないこと)
- 【最終レポート】次の①と②について述べて下さい。①第 11～13 回で実際に検査をやってみた感想を具体的に述べて下さい。②授業で紹介した知能検査, 発達検査, 投影法を組み合わせることで, 児童・生徒のどのような面を知ることができるかについて, 自分の考えを具体的に述べて下さい。

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で提示する (授業前後に Canvas LMS に掲示)。

## 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度 (リアクションペーパー等) :42% 小レポート:28% 最終レポート  
割合 :30%

欠席 4 回以上の場合は成績評価の対象としない。遅刻を 3 回した場合には欠席 1 回とみなす。遅刻した回はリアクションペーパーの点数を 1 点減点する (交通機関の遅延などやむを得ない事情があれば別)。毎回提出するリアクションペーパーにより出席を確認する。WISC-V の実演には時間がかかるため, 適宜授業の内容を変更する可能性がある。積極的に実習に取り組むことを期待する。

## テキスト / Textbooks

特に指定しない

## 参考文献 / Readings

小林正幸・橋本創一・松尾直博 『教師のための学校カウンセリング [改訂版]』 有斐閣 2021

4641123594

市川伸一 『学力と学習支援の心理学』 放送大学教育振興会 2014 4595314590

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

心理検査用具を用いた実技演習やグループワークによる体験型学習が中心であり、毎回の講義に積極的に取り組んで欲しい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

教材の確認やレポートの提出のため、PCが必要である。

**その他/ Others**

- 講義は配布資料を中心に進める。毎回の講義内容は Canvas LMS にも掲示する。初回から段階的に学習を進めるため、欠席した講義は Canvas LMS を確認した上で参加することを推奨する。
- 提出されたリアクションペーパーや小レポートは実施回以降の授業中にフィードバックする。期末レポートについては、Canvas LMS 上にて全体の講評などをフィードバックする。

## 教育調査実習 2

### Survey and Field Study in Education 2

質的調査・研究についての基本的な知識や考え方を習得する。

新井 素子 (ARAI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE222

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

質的調査・研究の代表的な方法であるフィールドワークやインタビュー調査の基礎を学んで実践することで、質的調査・研究の楽しさやその奥深さを体験する。

By learning and practicing the basics of fieldwork and interview research, which are typical methods of qualitative research and study, students experience the joy of qualitative research and study and its depth.

### 授業の内容 / Course Contents

主にフィールドワークとインタビュー調査に関する初歩的な知識や技能、考え方の習得と実践に加え、自らの調査結果をレポートに学ぶことを通じて、卒論などのより本格的な研究に取り組む基礎をつくる。

In addition to acquiring and practicing rudimentary knowledge, skills and ideas mainly related to fieldwork and interview research, the students will also learn how to report the results of their own research to lay the foundations for more in-depth research, such as a graduation thesis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：質的調査・研究についての概説

2回：フィールドワーク①：フィールドワークについての基礎的な知識・方法の紹介

3回：フィールドワーク②：フィールドワークをやってみよう(1)

4回：フィールドワーク③：フィールドワークをやってみよう(2)

【小レポート①】フィールドワークで発見したことをレポートにまとめて報告する。

5回：フィールドワーク④：提出されたレポートについての講評やクラス内での共有

6回：インタビュー調査①：インタビュー調査についての知識・方法の紹介

7回：インタビュー調査②：インタビューの際の具体的手続，自分のテーマの決定

【小レポート②】自分のテーマを1つ決定して報告する。

8回：インタビュー調査③：インタビューガイドの作成とトランスクリプトの作り方，インタビューの練習

【小レポート③】授業中に行ったインタビューの逐語（トランスクリプト）を提出する。

9回：インタビューデータの分析法①：KJ法(1)

10回：インタビューデータの分析法②：KJ法(2)

11回：論文の書き方・文献検索のやり方，分析の際のコツやヒントの紹介

12回：インタビュー調査の結果の分析とまとめ①

13回：インタビュー調査の結果の分析とまとめ②

【最終レポート】インタビュー調査の結果をまとめて提出する。

14回：クラス全員による調査結果の発表と講評

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドワークやインタビュー調査の実施やその結果の分析，レポートの提出など，相応の時間と労力をかけてもらうことになる。その他留意事項については，授業内や授業前後に Canvas LMS の掲示で告知する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度（リアクションペーパー等）：28% 小レポート①：25% 小レポート②：1%

小レポート③：6% 最終レポート割合：40%

欠席4回以上の場合には成績評価の対象としない。遅刻を3回した場合には欠席1回とみなす。遅刻した回はリアクションペーパーの点数を1点減点する（交通機関の遅延などやむを得ない事情があれば別）。毎回提出するリアクションペーパーにより出席を確認する。積極的に調査に取り組むことを期待する。

#### テキスト / Textbooks

戸田山和久 『最新版 論文の教室－レポートから卒論まで』 NHK出版 2022 4140912723 ○

#### 参考文献 / Readings

上野千鶴子 『情報生産者になる』 筑摩書房 2018 4480071679

川喜田次郎 『発想法〔改版〕－創造性開発のために』 中央公論新社 2017 4121801369

能智正博 『質的研究法』 東京大学出版会 2011 4130151363

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

フィールドワークやインタビュー調査の際には，主体的に取り組む学ぶことが期待される。自らの主体的な学

びがなければ調査や研究は身につかないことに留意して欲しい。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

教材の確認やレポートの提出のための PC, インタビューを録音するための機材 (IC レコーダー, スマートフォンなど) が必要になる。

### **その他/ Others**

- 講義は配布資料を中心に進める。毎回の講義内容は Canvas LMS にも掲示する。初回から段階的に学習を進めるため、欠席した講義は Canvas LMS を確認した上で参加することを推奨する。調査の進捗状況に応じて、授業内容の順序を変える可能性がある。
- 提出されたりアクションペーパーや小レポートは実施回以降の授業中にフィードバックする。

# 教育調査実習 3 a

Survey and Field Study in Education 3a

高度成長期の団地と市民

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE223

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1、戦後日本社会の歴史についての基本的な見通しを獲得する。
- 2、紙の上ではあるが、草の根の市民活動に触れて、より良い社会をつくる政治的行為の意味や価値を知る。
- 3、歴史の一次史料を用いて、高度成長期の地域社会と人びとの歴史を叙述する。この作業を通じて、歴史を描く面白さや難しさを体感する。

- 1、Students will acquire a basic perspective on the history of postwar Japanese society.
- 2、Albeit on paper, students will be exposed to grassroots activities and learn the meaning and value of political action to create a better society.
- 3、Using primary historical sources, students will actually describe the history of local communities and people during the high-growth period. Through this work, students will experience the fun and difficulty of writing history.

## 授業の内容 / Course Contents

浜日出夫『戦後日本社会論』（有斐閣、2023 年）を輪読し、戦後日本社会の歴史についての基本的な見通しを

得た上で、1957年から1966年まで世田谷区にある「祖師谷住宅（団地）」で発行されていたミニコミ『ふじんの集い』（全80号）を読む。高度成長期の団地住民による地域コミュニティ形成の実際を歴史の史料であるミニコミから明らかにし、その意味を考える。

By examining Hama Hideo's book "Social Theory of Postwar Japan" (Yuhikaku, 2023) together, students will acquire knowledge of the history of postwar Japanese society and its characteristics. After that, we will review "Fujin no Tsudoi" (80 issues in all) that was published as a community papers from 1957 to 1966 in Soshigaya Danchi.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 高度成長期の団地研究の問題視角
- 2回：浜日出夫『戦後日本社会論』（有斐閣、2023年）の検討（1）
- 3回：浜日出夫『戦後日本社会論』（有斐閣、2023年）の検討（2）
- 4回：『ふじんの集い』の検討
- 5回：『ふじんの集い』の検討
- 6回：『ふじんの集い』の検討
- 7回：『ふじんの集い』の検討
- 8回：『ふじんの集い』の検討
- 9回：『ふじんの集い』の検討
- 10回：『ふじんの集い』の検討
- 11回：『ふじんの集い』の検討
- 12回：『ふじんの集い』の検討
- 13回：『ふじんの集い』の検討
- 14回：レポート課題の草稿検討

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1、教科書に指定する浜日出夫『戦後日本社会論―「六子」たちの戦後』を速やかに入手し、1回目の授業時までにあらかじめ読んでおくこと。
- 2、授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。
- 3、小田急小田原線の祖師ヶ谷大蔵駅が最寄りの祖師谷団地、東京都北区赤羽台に開館した「URまちとくらしのミュージアム」の2カ所の校外実習・フィールドワークを行なう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%  
 平常点割合 :50% 授業内に指示する提出物（複数回）:50%

### テキスト / Textbooks

浜日出夫 『戦後日本社会論―「六子」たちの戦後』 有斐閣 2023年 9784641174924 ○

教科書は速やかに購入し、通読しておくこと。本授業の認識の前提となるものであり、レポート課題にも必要

な文献である。

### 参考文献 / Readings

金子淳 『ニュータウンの戦後史』 青弓社 2017年 4787234277

藤原辰史・阿古真理・重田園江・桑田学ほか 『現代思想 2022年2月号 特集=家政学の思想』 青土社  
2022年 4791714261

志賀健二郎 『小田急百貨店の展覧会』 筑摩書房 2022年 4480818626

大門正克ほか 『戦後経験を生きる—近現代日本社会の歴史』 吉川弘文館 2003年 4642079246

本多真隆 『「家庭」の誕生—理想と現実の歴史を追う』 筑摩書房（新書） 2023年 4480075909

朴承賢 『古いゆく団地—ある都営住宅の高齢化と建替え』 森話社 2019年 4864051372

岡村圭子 『団地へのまなざし—ローカル・ネットワークの構築に向けて』 新泉社 2019年 4787719262

### その他 / Others

それなりの授業時間外の学習が求められる。授業内容に一定の興味関心がないと正直きついと思う。時間割の関係で履修しやすい、というような安易な発想で履修しないように。



# 教育調査実習 4 a

## Survey and Field Study in Education 4a

「アート」をてがかりに、日々の「暮らし」をリサーチする

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE224
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU3710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

「アート art」は、私たちの既存の価値観を問いなおす力をもっている。こうした問い直しは、ともすれば自明視してしまう日常に疑いの眼差しを向ける研究の営みと重なり合う。この授業では、「アート」をてがかりにしながらリサーチの基礎を学んでもらう。

Art art has the power to rethink our existing values. This rethinking of questions overlaps with the practice of research that looks askance at everyday life, which is often seen as self-evident. In this class, students learn the basics of research using art as a starting point.

### 授業の内容 / Course Contents

- 1) 各授業回で行われるワークショップから、日常を批判的に観察する視点を養う。
- 2) 考現学の基礎を理解する
- 3) 授業で学んだことを生かして、グループ単位で考現学的な研究に取り組む。

- 1) Students will develop a perspective of critically observing daily life from the workshops held in each class.
- 2) Students will understand the fundamentals of modernology.

3) Students will work in groups to conduct research using what they have learned in class, with the aid of modernology.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：グループ決めなど
- 2回：「アート」をテーマにしたワークショップ体験（1）計画と作業
- 3回：「アート」をテーマにしたワークショップ体験（2）グループ発表と振り返り
- 4回：「アート」の社会批評力？（1）ある映画から、日常の暮らしをリサーチする力を養う
- 5回：「アート」の社会批評力？（2）岡本太郎の作品から
- 6回：「アート」と社会批評に関するワークショップ
- 7回：路上観察ワークショップ（1）路上観察計画と作業
- 8回：路上観察ワークショップ（2）グループの発表
- 9回：考現学とは何か？（1）今和次郎のテキストを読む
- 10回：考現学とは何か？（2）考現学の発展形としての路上観察学
- 11回：アーティストを迎えての講義（1）ダンサーのワークショップ
- 12回：アーティストを迎えての講義（2）画家のワークショップ
- 13回：学生による研究成果の発表（1）前半のグループ
- 14回：学生による研究成果の発表（2）後半のグループ、授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1) 基本的には初回の授業で決定する（初回欠席者は2回目の授業で少ない人数のグループに入ってもらい、グループ単位でワークショップと研究発表に取り組んでもらいます。そのため、授業時間外でグループで研究発表の準備をする必要があります。
- 2) 次回の授業までにグループで行うワークを課すことがあります。
- 3) 毎回授業終了後、翌日の夜までにミニレポートを書いていただくので、各回の授業の振り返りをそこで行ってもらうことになります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業後半のグループ研究発表:50%

欠席が4回になった時点でD評価。出欠の詳細は初回の授業で説明する。

### テキスト / Textbooks

適宜資料を配付する予定。

### 参考文献 / Readings

麻生武 『「見る」と「書く」の出会い：フィールド観察学入門』 新曜社 2009 9784788511767

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

森村泰昌 『自画像のゆくえ』 光文社新書 2019 9784334044374

赤瀬川源平ほか編 『路上観察学入門』 ちくま文庫 1993 979784480028181

今和次郎 『考現学入門』 ちくま文庫 1987 9784480021151

その他の文献は適宜紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

考現学的リサーチ、ワークショップを行ってもらった際、イラストを描いたり、写真を撮るなどしてもらい、これらを研究の資料とします。絵を描くのが苦手な方でも問題ないようにしますが、得意な方にはよりそのポテンシャルを発揮できる授業になると思います。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回ノート PC かタブレットを持参してください。コミュニケーションツールとして slack を活用します。

### **その他/ Others**

ミュージアムに行くのが好きな方、NHK の『ブラタモリ』など散歩系の番組が好きな方には楽しい授業となるでしょう。

# 教育調査実習 3b

Survey and Field Study in Education 3b

観察社会学の視点から

岡田 光弘 (OKADA MITSUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE225  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

会話分析などの質的研究の基本を身につけ、実際に着手することができるようになること

データに浸り、堪能しながら、研究を進めていくことができるようになること

Students will learn the basics of qualitative research such as conversation analysis and be able to try it for themselves. The class goal is for students to immerse in the data and enjoy themselves while becoming capable of carrying out research.

## 授業の内容 / Course Contents

- (1) 調査の具体的手順をスモールステップでシェアする
  - (2) 実際に具体的な課題を決めて、小規模な調査を実施する
  - (3) 調査の営みの社会的/倫理的側面について、「想定読者」との関係や「調査対象」との関係を視野にいれた取り組みにするため、リフレクションの機会を取り入れる
- (1) The specific procedures will be shared with students gradually in small steps.  
(2) Students will choose specific tiny topics and carry out actual research through group work.

(3) The class will constantly provide students with as many opportunities as possible to reflect on their relationships to the assumed readers and research subjects regarding the social and ethical aspects of the research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：観察社会学という視点
- 3回：会話分析の基本的考え方
- 4回：教室における相互行為分析
- 5回：教育におけるビデオ・エスノグラフィー
- 6回：トランスクリプトを作成してみる
- 7回：具体的分析について（その1）：調査の査課題を設定する
- 8回：具体的分析について（その2）：データから離れない課題設定
- 9回：データと対話できているか（その1）
- 10回：データと対話できているか（その2）
- 11回：データに浸入しているか（その1）
- 12回：データに浸入しているか（その2）
- 13回：成果発表に向けて（その1）
- 14回：成果発表に向けて（その2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

中盤以降、グループワークが基本となるため、課題に即して細かな連絡調整および内容に関わる議論を進めてもらいたい。ワークの進捗状況を報告するワークシートは一人ひとりが記入するが、調査は、グループ単位で進めていく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業ごとのリアクシヨーパー：60% 成果発表：40%

### テキスト / Textbooks

David Francis & Stephen Hester 『エスノメソドロロジーへの招待』 ナカニシヤ出版 2014 9784779508295

○

### 参考文献 / Readings

前田・水川・岡田 『ワードマップ エスノメソドロロジー』 新曜社 2007

その他必要に応じて紹介する

## 教育調査実習 4 b

Survey and Field Study in Education 4b

社会を変える市民の活動と学び

桔川 純子 (KIKKAWA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE226

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

社会問題に取り組んでいる市民のさまざまな取り組みを調査しながら、市民がどのような経験を重ねて「学び」を深めていくのかを考察し、分析していく手法を身につける。また、海外の事例なども通じて、グローバルな視点からも思考できるような力を身につける。

Students will research civic actions around social issues, deepen their understanding of learning, and become proficient in analytical methods while gaining practical experience from citizens on the scene. Also, students will become able to consider these issues from a global perspective, not only looking at Japan.

### 授業の内容 / Course Contents

学びの実践は、学校以外の「場」でも多様な形で存在する。日本では、1998年の特定非営利活動促進法の施行を契機に、現在では全国でNPOを始めとした市民の活動が広がっている。

本講義では、持続可能な社会や地域づくりを目指した日本や海外の実践を調査し、そのなかからどのような経験を積み重ね、学びを深めていけるのかについて分析する。

NPOを始めとした市民の活動について、歴史、法体系などとともにその概要を理解し、多様なテーマについ

て、具体的な事例を調査して考察していく。

授業では、基本的な内容については講義形式で行い、テーマを設定しながら受講者各自が調査して発表するグループワークを多く取り入れていく。

また、実践に取り組むゲストスピーカーをお招きし、臨場感あるお話を伺う予定である。

For learning practice, there are also various places for learning off campus. Numerous activities spread across Japan today resulted from the implementation of the 1998 Act to Promote Specified Nonprofit Activities.

In this lecture, students will research Japanese and overseas applications for creating sustainable societies and communities, and among those analyze which educational experiences would be acquired in common. First, students will understand the overview of civic activities, and from there, while following their interests, research and consider specific case studies. In class, students will conduct their own research and present it. Then all students will share and consider their ideas.

Inviting a guest speaker and am going to listen to a story about the activities

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業の内容、進め方、評価の仕方について説明等。
- 2回：市民活動、市民運動とは：NPO、NGO とは何か
- 3回：<地域>について考えてみる：自分が住んでいる地域について調べてみる
- 4回：<グローバル化>とは何か。グローバル化社会で起こっていること。
- 5回：「多文化共生の時代」の問題と取り組み
- 6回：「生きづらさ」について考えてみる：ジェンダー、セクシュアリティ、マイノリティ…
- 7回：外国の事例から学ぶ：イタリア
- 8回：外国の事例から学ぶ：韓国
- 9回：海外の事例から学ぶ
- 10回：ゲストスピーカーによる講義
- 11回：ゲストスピーカーによる講義
- 12回：ゲストスピーカーによる講義
- 13回：〈市民をエンパワーする政策〉を調べてみましょう
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自で調査し、その内容について発表する時間が多いので、調査、発表準備などの授業時間以外の学習が必要となる。

また、授業時間内に「私のおススメの本と映画」というテーマで各自の「おススメ」をシェアする時間を設けるので、日ごろから本を読んだり、映画を観たりしておいて下さい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度（発言、発表など）:30% 発表の内容:30%

最終レポート割

合：40%

### テキスト/ Textbooks

随時必要な資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

佐藤一子 『NPO の教育力—生涯学習と市民的公共性』 東京大学出版会 2004 4130513095

レスリー・R・クラッチフィールド他 『世界を変える偉大な NPO の条件——圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する 6 つの原則』 ダイヤモンド社 2012 4478007284

延藤安弘 『まち再生の術語集』 岩波書店 2013 4004314186

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内にデジタル機器で調査することもあるため、スマートフォン、PC、タブレット、などを持参することが望ましいが、難しい場合には配慮しますので、申し出て下さい。

### その他/ Others

- ・パワーポイント、映像資料などを適宜活用する。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、実習を適宜行うので、積極的な受講態度が期待される。
- ・受講者の人数などによって、形式、内容などについては変更する場合がある



# 教育実践研究

Research on Educational Activities

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE251
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# 教育実践研究

Research on Educational Activities

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE252
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# 教育実践研究

Research on Educational Activities

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE253
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# 教育実践研究

Research on Educational Activities

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE254  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2740  
使用言語： 日本語  
授業形式： 実習  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。



# 教育実践研究

Research on Educational Activities

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE255
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# 教育実践研究

Research on Educational Activities

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE256
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# 教育実践研究

Research on Educational Activities

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE257
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# 教育実践研究

Research on Educational Activities

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE258  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2740  
使用言語： 日本語  
授業形式： 実習  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。



# 教育実践研究

Research on Educational Activities

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE259
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2740
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が個人または共同で、ひとつのテーマについて、指導教授の指導・助言を受けながら自発的に研究に取り組み、報告書を作成する。

Individually or in groups, students will take one theme and while receiving instruction and advice from the instructing professor, conduct their own research and write a report.

## 授業の内容 / Course Contents

学生の自主的な研究活動に対して単位を与える科目であり、対象となるのは以下の活動である。

- 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
- 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追求する活動

指導教員の指導・助言を受けつつ、活動を進める。指導教員とは随時連絡をとり報告をすること。

なお、活動の期間は、おおよそ半年間を目処とするが、活動が夏休みなどの休暇期間に重なる場合や、一定の活動を終了し改めて振り返って総括したい場合など、授業期間と合致しない活動を取り上げることも認められる。個人だけでなく共同による取り組みであってもよい。

This is a class where students get credits for their independent research activities. The following activities are

eligible.

1. Regional activities as well as activities in welfare, cultural and educational facilities and organizations within and off campus.
  2. Activities that let students pursue a deeper understanding of class and seminar topics they have undertaken. Students will proceed with the activities while receiving instruction and advice from the instructor. Students must constantly keep the instructor informed.
- Also, activities are expected to take roughly half a year. In cases of summer vacation or other vacation periods or when a student wants to temporarily stop an activity and then resume, etc., activities that do not line up with the period of classes are permitted. Students are not required to do the activities individually and may also do them in groups.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究
- 2回：調査研究
- 3回：調査研究
- 4回：調査研究
- 5回：調査研究
- 6回：調査研究
- 7回：調査研究
- 8回：調査研究
- 9回：調査研究
- 10回：調査研究
- 11回：調査研究
- 12回：調査研究
- 13回：調査研究
- 14回：調査研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、実地調査を含め自発的かつ計画的に進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 調査活動：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートはテーマに応じた課題を課すこととする。共同研究であっても、各自が報告書を提出する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

担当は研究休暇者を除く学科教員全員である。

# カウンセリング

## Counselling

自己理解と他者理解を深めつつ多角的な視点で物事を捉える

新井 素子 (ARAI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

様々なカウンセリング理論の概要を学びながらワークに取り組むことで、自己理解と他者理解を深め多角的な視点で物事を捉えることを目標とする。

Aiming to take things from various perspectives, students will gain a deeper understanding of themselves and others through an overview of counseling using active learning techniques.

### 授業の内容 / Course Contents

カウンセリングの諸理論の概論と基礎的な技法をロールプレイや事例を通して学ぶことで、自己理解と他者理解を深めつつ実践的に学ぶことを目指す。グループディスカッション（体験型学習）により、自己や他者に対する理解や気づきを深める。各回の授業時にリアクションペーパーに記入し、学期の後半に提出する2つのレポートの作成につなげる。カウンセリングは正解のない問いの探求とも言えるが、何より聴くことが重要である。言語化により思考を整理することや、他者の意見から学ぶ姿勢を心がけることとする。

Through role-playing and case studies, students will deepen their understanding of themselves and others while learning practically about various theories and basic techniques of counseling. Through group discussion

(experience-based learning), students deepen their understanding and awareness of themselves and others. Students will fill out a reaction paper during each class, which will lead to the creation of two reports to be submitted in the second half of the semester. Counseling can be said to be an exploration of questions that have no correct answer, but listening is more important than anything else. Try to organize your thoughts by verbalizing them and try to learn from the opinions of others.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：カウンセリングとは何か（概論）
- 2 回：傾聴と共感
- 3 回：カウンセリングにおける相互作用
- 4 回：乳幼児の発達環境と関わり
- 5 回：児童期の悩みと関わり
- 6 回：青年期・老年期の悩みと関わり
- 7 回：来談者中心療法・ワーク(1)
- 8 回：行動療法・認知行動療法・ワーク(2)
- 9 回：カウンセリングの様々な技法の理解とワーク(3)
- 10 回：カウンセリングの様々な技法の理解とワーク(4)
- 11 回：カウンセリングの様々な技法の理解とワーク(5)
- 12 回：教師自身のメンタルヘルスケアとセルフケアのワーク

小レポート：次の①と②について答えて下さい。①第7～11回の講義で取り上げたカウンセリングの技法の中から自分の興味があるものを1つ選び、なぜ自分が興味をもったのかを具体的に説明すること、②自分の体験や新聞報道などに照らし、第1～11回目の授業で学んだことをどのように活かすことができるか考えるのかを具体的に述べること。

- 13 回：事例検討（1）地域臨床
- 14 回：事例検討（2）学校臨床

最終レポート：①～③について答えて下さい。①第13～14回で行った事例検討を通じて、自分が感じたことや考えたことについて具体的に述べること、②自分がカウンセリングを行う立場になった場合に大切にしたいこと、③今後第1～14回の講義で学んだことをどのように活かすことができるかについて、自分の考えを具体的に述べること。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で提示する（授業後に Canvas LMS にも掲示）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    リアクション・ペーパー：42%    小レポート：23%    最終レポート割合：35%

欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。遅刻を3回した場合には欠席1回とみなす。遅刻した回はリアクションペーパーの点数を1点減点する（交通機関の遅延などやむを得ない事情があれば別）。毎回提出する

リアクションペーパーにより出席を確認する。体験型学習が中心となるため、授業に出席しワークシートやロールプレイング、ディスカッションにより理解と思考を深めることを重視する。なお、グループワークの進行状況などにより授業の予定が多少前後する場合がある。

#### テキスト/ Textbooks

特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

小林正幸・橋本創一・松尾直博 『教師のための学校カウンセリング〔改訂版〕』 有斐閣 2021  
4641123594

大山泰宏 『心理カウンセリング序説－心理学的支援法－』 放送大学教育振興会 2021 4595322488

伊藤絵美 『世界一隅々まで書いた認知行動療法・問題解決法の本』 遠見書房 2022 4866161531

授業の際に適宜紹介する。

#### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

少人数（4～5名程度）のグループで、ディスカッションやワークをしてもらう。授業やグループでの議論に積極的に参加することが望まれる。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教材を確認したりレポートをオンラインを介して提出したりしてもらうため、PCが必要になる。

#### その他/ Others

- ワークシートやグループワーク（2-4人程度のグループ：ロールプレイングやディスカッション）による体験型学習を行うことを通じて、自己や他者への気づきと思考を深めることとする。
- 講義は講師が作成する資料を中心に進める。毎回の講義内容はCanvas LMSにも掲示する。初回から段階的に学習を進めるため、欠席した講義はCanvas LMSを確認した上で参加することを推奨する。
- 提出されたリアクションペーパーについては次回以降の授業にフィードバックを行う。期末レポートについては、Canvas LMS上で

# 幼児教育学

Early Childhood Education

子ども観と幼児教育

浅井 幸子 (ASAI SACHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

子ども観の歴史的な変遷、およびその子ども観との関わりで保育・幼児教育がどのようなあり方をしてきたかを理解するとともに、これからの保育・幼児教育のあり方について考察する。

Students will understand the historical changes in the views of children and how child care and early childhood education have evolved in relation to this views, and consider the future of child care and early childhood education.

## 授業の内容 / Course Contents

保育・幼児教育について、歴史資料、実践記録、ビデオ記録を用いて検討する。

授業では、講義とグループ・ディスカッションを行う。

各回の授業の内容については、進行によって変更することもある。

Students will consider child care and early childhood education using historical documents, practical written records and video records.

The class will consist mainly of lectures with appropriate group discussion as needed.

The contents covered in each class session may vary depending on progress.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・この授業について
- 2回：幼稚園とはどのような場所か
- 3回：保育所とはどのような場所か
- 4回：就学前学校とはどのような場所か
- 5回：子ども観と教育観
- 6回：子どもの発見と保育・幼児教育
- 7回：子どもの権利と乳幼児
- 8回：幼児教育のグローバル・ガバナンス
- 9回：保育・幼児教育の評価
- 10回：レッジョ・エミリアの幼児教育
- 11回：ドキュメンテーションと保育記録
- 12回：海外のレッジョ・インスピレーション
- 13回：日本のレッジョ・インスピレーション
- 14回：まとめ・公教育としての保育・幼児教育

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了後にリアクション・ペーパーを書いて立教時間で提出する。

授業時間外の課題については適宜指定する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% グループディスカッション・グループ発表:30%

最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

福元真由美ほか 『はじめての子ども教育原理』 有斐閣 2017 4641150362

汐見稔幸・大豆生田啓友・武藤隆編 『保育原理 (アクティベート保育学)』 ミネルヴァ書房 2019

4623084337

# 比較教育学 1

Comparative Education 1

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE304  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

比較教育学とは何か、その意義と現状について紹介する。教育問題や教育政策を考察・議論するときにも、他国の経験を参照することで、新たな角度から光をあてることができる。また比較教育学の成果をみることで、異なる国・地域について、教育のみならず社会・文化への理解を深めることも目的とする。

Students will be introduced to the concept of comparative pedagogy, its significance and the current situation of the field. And when considering and discussing educational issues and educational policies, by looking at educational experiences of other countries, students can shine new light on their understandings. Also, by looking at results of comparative pedagogy, regarding other countries and regions, students should aim for a deeper understanding of not only education but also society and culture.

## 授業の内容 / Course Contents

比較教育学の理論・方法・歴史を概観するとともに、現状と課題を紹介する。ついで、比較教育学の主要な成果を具体的に紹介していく。様々な国・地域における教育のあり方やそれらをめぐる諸問題が研究対象となるわけであるが、本講義では特に欧米の、いわゆる先進諸国に重点をおく予定である。

Along with an overview of comparative pedagogical theories, methods and histories, students will be introduced



to the current situation and relevant issues. Students will be introduced to the main results of comparative pedagogy in specific detail. The educational methods and various relevant issues of different countries and regions will be eligible for research, but various countries with advanced economies in Europe and the Americas will be emphasized during the lectures.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：比較教育学の意義と役割
- 3 回：比較教育学研究の歴史 1
- 4 回：比較教育学研究の歴史 2
- 5 回：比較教育学の理論と方法
- 6 回：日本の比較教育学研究 1
- 7 回：日本の比較教育学研究 2
- 8 回：欧米諸国
- 9 回：欧米諸国 2
- 10 回：欧米諸国 3
- 11 回：欧米諸国 4
- 12 回：欧米諸国 5
- 13 回：欧米諸国 6
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、事前に概要を Canvas LMS で知らせる予定。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

講義内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

# 比較教育学 2

## Comparative Education 2

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE305
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	オンラインは12回目を予定
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

比較教育学とは何か、その意義と現状について紹介する。教育問題や教育政策を考察・議論するときにも、他国の経験を参照することで、新たな角度から光をあてることができる。また比較教育学の成果をみることで、異なる国・地域について、教育のみならず社会・文化への理解を深めることも目的とする。

Students will be introduced to the concept of comparative pedagogy, its significance and the current situation of the field. And when considering and discussing educational issues and educational policies, by looking at educational experiences of other countries, students can shine new light on their understandings. Also, by looking at results of comparative pedagogy, regarding other countries and regions, students should aim for a deeper understanding of not only education but also society and culture.

### 授業の内容 / Course Contents

「比較教育学1」から引き続き比較教育学の理論・方法を概観するとともに、現状と課題を紹介する。さらに、比較教育学の主要な成果を具体的に紹介していく。様々な国・地域における教育のあり方やそれらをめぐる諸問題が研究対象となるわけであるが、本講義では特に、欧米以外のいわゆる発展途上国に重点をおく予定である。

Along with looking at comparative educational theories and methods continuing from “Comparative Education 1,” students will be introduced to the current situation and issues in the field. Furthermore, students will be introduced to the main results of comparative pedagogy in specific detail. The educational methods and various relevant issues of different countries and regions will be eligible for research, but various developing countries outside Europe and the Americas will be the primary focused during the lectures.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：比較教育学の意義と役割
- 3 回：比較教育学の理論と方法 1
- 4 回：比較教育学の理論と方法 2
- 5 回：アジア諸国 1
- 6 回：アジア諸国 2
- 7 回：アジア諸国 3
- 8 回：アジア諸国 4
- 9 回：アジア諸国 5
- 10 回：アジア諸国 6
- 11 回：その他の国 1
- 12 回：その他の国 2
- 13 回：その他の国 3
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、事前に概要を Canvas LMS で知らせる予定。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

講義内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

## 教育史 2

History of Education 2

中等・高等教育機関の接続をめぐる受験産業と高等学校の関係史

三上 敦史 (MIKAMI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE306

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代の日本で、高等学校と受験産業が骨がらみの関係になっていることの歴史的経緯について理解する。

Students will gain an understanding of the historical circumstances behind the close relationship between high schools and the entrance exam industry in modern Japan.

### 授業の内容 / Course Contents

現代の日本の中等・高等教育機関は、入学試験によって接続している。学科試験（いわゆる一般入試）を受験する場合、ほぼ全ての受験者が受験産業（塾・予備校・出版社など）の実施する授業・通信添削・模擬試験に参加し、そこからもたらされる各種情報に従って受験先の選択をする。そして、受験生を指導する高等学校教員もほぼ全員が受験産業から送付される指導用の情報なしには仕事ができない。このような状況がいかなる経緯で出現し、強化されて現在に至るのかについて概説する。

Modern Japanese secondary and higher education institutions are connected through entrance exams. When taking a written examination (so-called general entrance examination), almost all examinees participate in classes, correspondence corrections, and mock exams conducted by the examination industry (cram schools, prep

schools, publishing companies, etc.), and choose the school to take the exam based on that information.

Furthermore, almost all high school teachers who instruct students taking entrance exams cannot do their jobs without the guidance information sent to them by the entrance exam industry. I would like to explain how this situation arose and how it has strengthened to the present day.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 2回：旧制度（1948年度まで）の状況
- 3回：新制大学の発足——進学適性検査と「一期校」「二期校」の時代
- 4回：学生団体が受験情報を提供した時代①——東京大学学生文化指導会と「東大学力コンクール」——
- 5回：学生団体が受験情報を提供した時代②——「学力コンクール」の全国波及と予期せぬ一斉消滅——
- 6回：受験産業による学生団体の事業継承と拡大
- 7回：大学入試改革の模索
- 8回：全国型予備校の出現
- 9回：「大学入学者選抜共通第1次試験」の時代
- 10回：「予備校ゴールデンセブン」の時代①——「予備校文化」をめぐって——
- 11回：「予備校ゴールデンセブン」の時代①——混乱する「猫の目入試改革」——
- 12回：「大学入試センター試験」と物申す予備校
- 13回：少子化の時代の高等学校・予備校
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義へのコメント（リアクションペーパーの提出）：60% レポートや講義時間内の筆記テスト：40%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業中、適宜指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学習する日本史の知識があることが望ましい（必須ではない）。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にPCを持参すること。

## 教育哲学 2

Philosophy in Education 2

「子どもの哲学」実践者養成講座

清水 将吾 (SHIMIZU SHOGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE307

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

よき探求者・対話者になり、日常生活・教育現場・街なかの哲学カフェなどで、探求的な対話の実践ができるようになる。

Students will become able to have their own practical, inquisitive dialogues in daily life, in educational settings and at philosophical cafes.

### 授業の内容 / Course Contents

1970 年代以降、「子どもの哲学（Philosophy for Children / P4C）」と呼ばれる哲学対話や哲学教育が、世界各地で実践されています。この授業では、受講生が「子どもの哲学」の哲学対話に参加し、ファシリテーターとしての経験を積むことを通して、哲学対話の実践者としての技術や心構えを体験的に習得することを目指します。受け身の講義形式ではなく、受講生の主体的な参加が求められます。履修する前にそのことをあらかじめよく理解しておいてください。

Since the 1970s, philosophical dialogues and philosophical education called “Philosophy for Children / P4C” has been practiced around the world. In this class, students will participate in philosophical dialogues facilitated by

the method of “Philosophy for Children,” and through accumulating experience as facilitators, aim to acquire techniques and attitudes of a practitioner of philosophical dialogues with these in-class experiences. This is not a passive-style lecture, and students are expected to take a major role. Students should be aware of this before taking the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：「子どもの哲学」とはどのような対話かについてのレクチャーのあと、哲学対話の体験とディスカッション（教員がファシリテーションを行う）
- 2回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 3回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 4回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 5回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 6回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 7回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 8回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 9回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 10回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 11回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 12回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 13回：受講生のファシリテーションによる哲学対話
- 14回：受講生のファシリテーションによる哲学対話

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) 授業での哲学対話に基づいて考えるためのワークシートの提出。
- (2) 最終論述の提出。
- (3) その他の自主的な提出物の提出。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業各回のワークシート:70% 最終論述:20% 自主提出物:10%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 河野哲也 『「子ども哲学」で対話力と思考力を育てる』 河出書房新社 2014 9784309624693
- 梶谷真司 『考えるとはどういうことか：0歳から100歳までの哲学入門』 幻冬舎新書 2018 4344985141
- マシュー・リップマン 『子どものための哲学授業：「学びの場」のつくりかた』 河出書房新社 2015 9784309247014
- 河野哲也 編 『ゼロからはじめる哲学対話：哲学プラクティス・ハンドブック』 ひつじ書房 2020 4823410327

# 社会教育・生涯学習論

Community Education and Lifelong Learning

社会教育と民主主義

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE308

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ①社会教育、生涯学習に関する基本的な知識や見方を身につける。
- ②人びとの学びとその機会を保障するためのさまざまな営みに関心を持ち、教育が人間形成にもつ意味を広く深く考えられるようになる。
- ③自らが社会教育や生涯学習を实践する立場にあることを自覚する。

(1) Students will get the basic knowledge and approaches related to community education and lifelong learning.

(2) Students will take an interest in the education people receive and in the various activities that guarantee people the opportunity for education. Students will be able to think broadly and deeply about the meaning of character-building in education.

(3) Students will be aware of themselves as responsible individuals to practice community education and lifelong learning.

## 授業の内容 / Course Contents

社会のなかで行われている人びとの学びとその機会を保障するための営みについて、さまざまな角度から考察



する。制度的な取組みのみならず、むしろそこからはみ出た形で必要となる学びを可能にするための取組みに注目したい。具体例を取り上げ検討していく形をとるが、単なる知識や情報として受けとめるのではなく、なぜそうした機会や取組みが必要なのかを社会的な文脈のなかで考え、自分との関わりも意識して、人びとの生涯にわたる学びの意味やそれを支えることの必要性に気づいてほしい。

Students will consider, from various angles, the activities as individual lifelong learning and social support for it. The class will draw students' attention not only to institutional initiatives, but also to the efforts to make learning possible out of those institutional initiatives. Students will consider specific examples to get an overall understanding. Students will not only take in knowledge and information, but also think about why such educational opportunities and efforts are necessary in a social context, and be aware of their own relationship to these efforts, and recognize the necessity of supporting lifelong learning.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会教育・生涯学習の法と制度
- 2 回：九条俳句訴訟から考える「学習の自由」と社会教育①
- 3 回：九条俳句訴訟から考える「学習の自由」と社会教育②
- 4 回：九条俳句訴訟から考える「学習の自由」と社会教育③
- 5 回：市民自治の考え方とは何か①丸山眞男の政治思想
- 6 回：市民自治の考え方とは何か②鶴見俊輔、久野収の市民主義
- 7 回：市民自治の考え方とは何か③小田実の行動する民主主義
- 8 回：高度成長と社会教育①大阪府枚方市香里団地の保育所づくり運動
- 9 回：高度成長と社会教育②伊藤雅子と国立市公民館保育
- 10 回：高度成長と社会教育③若月俊一『農薬禍』と農村女性
- 11 回：特論①子どもの居場所づくり（大阪市の放課後事業を事例に）
- 12 回：特論②地域における歴史学習
- 13 回：特論③韓国の社会教育
- 14 回：全体の振り返り 権利としての社会教育

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内に指示する提出物（複数回）：50% 平常点（リアクションペーパー）：20%

最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

千野陽一（監修） 社会教育推進全国協議会（編集） 『現代日本の社会教育 増補版』 エイデル研究所  
2015 9784871685689 ○

本授業の内容を整理し、理解を深めるためにも本テキストは必読・必携である。

**参考文献 / Readings**

佐藤一子 『「学びの公共空間」としての公民館』 岩波書店 9784000248273  
上田幸夫 『公民館を創る』 国土社 9784337506299

**その他/ Others**

履修者の関心や希望に応じて授業計画を変更する場合がある。

社会教育は学校教育以外の領域で展開している教育を扱う。生涯学習は学齢期に限らず、人間は学び続けるという人間像を前提としている。教育という営みを学校教育に矮小化せず、人間形成の問題を社会との接点において広く捉えることができるようになるためにも、積極的に受講して欲しい。

# 教育課程論

## Curriculum

教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE309  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 教育学科初等専攻 以外の学生対象。

### 授業の目標 / Course Objectives

学習指導要領を基準として、各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

With the curriculum guidelines as the basis, along with understanding the significance and development methods of the education plan drawn up at each school, students will understand the significance of matching curriculum and management to each school's situation.

### 授業の内容 / Course Contents

学習指導要領の歴史的な変遷から、教育課程の意義や編成の方法を理解する。また各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントのあり方を検討する。

Students will understand the historical changes to the curriculum guidelines and the significance and methods of creating education guidelines. Students will also consider the way the curriculum and management should be in order to suit each school's particular situation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：教育課程とは何か——学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的——
- 2回：学習指導要領の改訂の変遷①戦後新教育期
- 3回：学習指導要領の改訂の変遷②現代化
- 4回：学習指導要領の改訂の変遷③新しい学力観と生活科の導入
- 5回：学習指導要領の改訂の変遷④生きる力と総合的な学習の時間の導入
- 6回：学習指導要領の改訂の変遷⑤知識基盤社会と確かな学力
- 7回：学習指導要領の改訂の変遷⑥主体的・対話的で深い学び
- 8回：教育課程編成の基本原則——経験主義と系統主義——
- 9回：教科・領域横断的なカリキュラム編成
- 10回：主体的なカリキュラム編成のあり方①長期的な視野に基づいた教育課程
- 11回：主体的なカリキュラム編成のあり方②児童理解に基づいた教育課程
- 12回：主体的なカリキュラム編成のあり方③学校・地域に基づいた教育課程
- 13回：カリキュラム・マネジメントの意義
- 14回：カリキュラム評価の理論と実践

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、別途指示する

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

田中耕治編 『よくわかる教育課程』〔第2版〕（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） ミネルヴァ書房 2018 9784623082698 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット

# 国際教育論

Global Education

持続可能な社会のための教育を考える

山崎 瑛莉 (YAMAZAKI ERI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE310  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本科目は、国際関係や地域間関係、グローバル化する社会に教育にどのような影響を及ぼしているか、また、教育はどのような役割を担うかについて、明らかにすることを目標とする。特に、持続可能な開発（Sustainable Development）を前提とした国際協力や教育開発における教育の役割や目的について、関連する論点を整理しながら議論し、理解する。

本講義を通して、次の目標を達成することが期待される；

- 1) 国際教育学の基礎的知識を習得する
- 2) 持続可能な開発と教育について、多角的な視点で捉える
- 3) 事例をもとに、他領域の学問との連携した問題設定を行うことができる

The objective of this course is to clarify what impact education has on international and regional relations, on a globalizing society, and on what role education can play. In particular, discuss and understand the role and purpose of education in international cooperation and education development on the premise of sustainable development, while organizing related issues.

The following goals are expected to be achieved through this lecture:

- 1) Acquire basic knowledge of international pedagogy
- 2) Capture sustainable development and education from multiple perspectives
- 3) Based on examples, it is possible to set problems in cooperation with academics in other fields

### 授業の内容 / Course Contents

本講義は、持続可能な開発・社会づくりにおいて教育がどのような役割や意義をもって行われるのか、その課題は何か、議論し考察していくものである。ディスカッションや具体的な事例を通して教育のあり方を多面的に捉えることで、教育分野の諸問題のみならず他分野との連携した課題設定、学際的視点をもつ力を養う。

また、事例にはアフリカ地域を中心に時事的な話題も取り上げていきたい。アフリカ地域は、国際関係やグローバル社会において欠かすことのできない地域である。さらに、私たちが「持続可能性」を考えるうえで、学ぶべきことや魅力の宝庫である。生き生きとしたアフリカ社会・文化にも触れながら、教育が社会形成や未来づくりにどのような影響や役割を持つか考えていきたい。

多面的な視点は多くの対話や議論を通して得られるものである。そのため、本講義ではディスカッションやワークショップなど、受講生自身が活動する機会を積極的に設ける予定である。

This lecture discusses and considers the role and significance of education in the creation of sustainable development and society, and what the challenges are. By grasping the ideal way of education from multiple perspectives through discussions and concrete examples, we will cultivate the ability to set issues in collaboration with other fields and to have an interdisciplinary perspective as well as various problems in the field of education. The examples in this lecture focus on the African region. By understanding the current state of contemporary African societies from multiple perspectives, from the perspective of sustainable development and social development, we will develop not only various issues in the education field but also issues in cooperation with other fields and develop the ability to have an interdisciplinary perspective.

Africa is an indispensable region in international relations and the global community. Furthermore, it is a treasure trove of things to learn and attractive in considering "sustainability". While touching on lively African societies and cultures, this course would like to consider the impact and role of education on social formation and future creation.

A multifaceted perspective is gained through many dialogues and discussions. For this reason, in this lecture, we plan to actively provide opportunities for students to participate in activities such as discussions and workshops.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

講義の目的

国際教育学とは（１）

教育について考える

2 回：国際教育学とは（２）

教育学における位置づけ・歴史的背景

3 回：.私たちが目指す「持続可能な社会」とは？（１）

—自分たちの社会づくりと教育・国際目標を批判的に捉えながら考える—

「持続可能な開発」を考える

開発・発展/ 持続可能性とは何か

4 回：.私たちが目指す「持続可能な社会」とは？（２）

ー自分たちの社会づくりと教育・国際目標を批判的に捉えながら考えるー

「持続可能な開発」を考える

開発・発展/ 持続可能性とは何か

5回：持続可能な開発と教育：アフリカ地域を事例に（1）

6回：持続可能な開発と教育：アフリカ地域を事例に（2）

7回：中間まとめ・ディスカッション

・前半までを振り返り、概念の整理や自身の考えを言語化します

8回：人の移動と教育

9回：教育の国際連携

10回：教育の「国際化」をめぐる展開

11回：国際協力と教育

12回：国際関係・グローバル社会における教育の役割（1）

グループワーク

・今後の社会を展望したうえで教育の役割とは何か、ワークを通じて議論します

13回：国際関係・グローバル社会における教育の役割（2）

グループワーク

・関心のある事例を用いて問いを発表していただき、クラスでディスカッションします。

14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示する資料に目を通し、自分なりの考えを深めるとともに、日々の事象のなかで教育の意義や役割について考察するよう努めてください。また、本講義はディスカッションやグループワークを行うため、積極的な参加を求めます。議論に主体的に取り組めるよう、事前事後の準備や復習もおこなってください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー（feedback sheet）:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

石附実 『比較・国際教育学』 東進堂 1998

田中治彦/三宅隆史/湯本浩之編 『SDGsと開発教育：持続可能な開発目標のための学び』 学文社 2016

蟹江憲史編 『持続可能な開発目標とは何か』 ミネルヴァ書房 2017

その他の文献・資料は授業内にて提示します。購入必須文献はありません。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ご自身の意見を伺う機会が多くあります。また、グループワークやディスカッションを取り入れます。自由な発言を歓迎しますので、できるだけご自身で積極的に他者と話をする・相手の意見を聞いて考えることに前向きな方がよいかと思えます。

# 環境教育論

Environmental Education

環境教育とは何か

岩松 真紀 (IWAMATSU MAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE311  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： ※文学部教育学科初等教育専攻（18 年以前入学者）に向けての注意事項※  
「環境教育論」は、初等教員免許取得に必要な科目には含まれない。  
但し、卒業要件単位には含まれる。  
不明な点がある場合は教務事務センターの窓口で問合せること。

## 授業の目標 / Course Objectives

環境を守るとはどういうことか、環境教育とは何か。私たちの暮らしや経済をめぐる問題までの視野を持って環境教育を議論できるようになることを目標とします。

What does it mean to protect the environment and what is environmental education? Students will develop perspectives on issues involving our lifestyles and economies, with the goal of becoming able to discuss environmental education.

## 授業の内容 / Course Contents

日本国内に限らず地球的規模で環境破壊が進み、どのような持続可能な社会をどうやって実現するのが問われ、そのための教育が求められています。環境教育について、その方法も含めてグループワークなどを取り入れながら学んでいきます。



Environmental destruction is progressing not only in Japan but also on a global scale, so what kind of sustainable society can be created and how? Education regarding these issues is needed.

Group work will be incorporated so that students will learn about environmental education and its processes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：環境教育が提唱されてきた背景
- 3回：環境教育とは何か（1）
- 4回：環境教育とは何か（2）
- 5回：環境教育とは何か（3）
- 6回：子どもと環境教育
- 7回：自然体験と環境教育
- 8回：公害と環境教育（1）
- 9回：公害と環境教育（2）
- 10回：公害と環境教育（3）
- 11回：食と農と環境教育
- 12回：自然災害と環境教育
- 13回：環境教育と地域づくり
- 14回：全体の振り返りとまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布した資料を使用し、事前事後学習に取り組んでください。さらに参考文献を必要に応じ提示しますので、興味のあるものを授業の前後に読み理解を深めてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントペーパーの内容や授業で課せられる課題の提出:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

日本環境教育学会編 『環境教育』 教育出版 2012 9784316803159

朝日新聞科学医療グループ編 『やさしい環境教室 環境問題を知ろう』 勁草書房 2011 9784326653652

朝岡幸彦編著 『入門 新しい環境教育の実践』 筑波書房 2016 9784811904900

安藤聡彦・林美帆・丹野春香編著 『公害スタディーズ』 ころから 2021 9784907239541

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

その回のリアクション（コメント）は、紙ではなく授業支援システムでの提出を求めます。ネットにつながる機器（PC、タブレット、スマホ等）をご持参ください。

### その他 / Others

受講者数や受講者の関心等にそうかたちで授業計画を一部変更する可能性があります。グループワークや他の

履修者との話し合いを行います。その際は積極的に参加してください。

# 教育と表現

Artistic Expression in Education

近藤 良平 (KONDOU RYOUHEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE312  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「表現」は、人間にとって必要不可欠な一要素である。その中でも、最もプリミティブな「身体」から発せられる表現について学ぶ。

“Expression” is an indispensable part of being human. Students will learn about the most primitive type of expression, body language.

## 授業の内容 / Course Contents

「教わる」事と「教える」事は自己表現のためには必要な感覚である。この授業では、ノンバーバルな視点から「からだ」の気づき、「からだ」の持つ力を共に考え、「表現する」事がいかに大切であるかを模索していきたい。「からだ」の行為という視点で授業をすすめていきます。

The awareness that teaching and being taught are necessary for self-expression. In this class, students will strive to understand how important expression is from a non-verbal viewpoint, as well as noticing the body and thinking about how much power it has. Class will proceed with an emphasis on the physical actions of the body.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：からだの役割、大きさを学ぶ

- 2回：ストレッチなど、からだをほぐすという事  
 3回：からだ気づきの視点から  
 4回：2人組による動き  
 5回：集団による動き  
 6回：相手に伝えるという事  
 7回：ノンバーバルコミュニケーションの試み  
 8回：枠にとらわれない動き  
 9回：空間の大きさを知る  
 10回：言葉と動き  
 11回：動きを観る，評価する  
 12回：動きを創作する「振り付け」という事  
 13回：パフォーマンスを考える  
 14回：自己表現，発表

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常の「動き」を観察する

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および受講態度:70% 発表内容:30%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

参考文献 近藤良平著『からだど心の対話術』（河出書房新社）

# 教育臨床論

Clinical Science of Education

表現行為と人間

花崎 摂 (HANASAKI SETSU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE313  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

応用演劇を通して表現と人間について考察する。演劇において、表現することと表現を受け止めることは不可分です。自ら何かを伝えようと表現することと、何かを伝えようとする他者の表現を受容することは、人間のコミュニケーションの基本です。さまざまな表現行為へのトライアルを通じて、自己についての理解を深め、他者との関係、および共同のあり方とその意味、さらに環境との相互作用を考察することを目指す。

Through applied theater, we will examine expression and the human being. In theater, expressing and receiving expression are inseparable. Expressing oneself in order to convey something and accepting the expression of others who are trying to convey something are the basis of human communication. Through trials of various acts of expression, we will deepen self-understanding and consider relationships with others, the nature and meaning of collaboration, and interaction with the environment.

## 授業の内容 / Course Contents

応用演劇は、演劇が本来有している機能を再考し、社会における役割を拡張している。演劇が本来持っている教育的機能や、回復、再生などの機能に再び注目し、誰もがアクセスできる表現方法としての演劇の実践と研

究を蓄積している。その代表的な方法が、シアターゲームである。シアターゲームは、誰もが過度な緊張をすることなく、自分の気持ちや考えを表現できるように工夫されている。ワークショップでシアターゲームなどを実際に経験しながら、表現行為の可能性とそれを可能にする条件について議論する。

Applied Theatre reconsiders the inherent functions of theater and expands its role in society. In particular, it focuses on the educational, restorative, and regenerative functions of theater, devising practical techniques that are accessible to all and actually applying them to a variety of fields. A typical example is the theater game. Theater games are devised so that everyone can express their feelings and thoughts without excessive tension. While actually experiencing theater games and other such activities in the workshop, we will discuss the possibilities of expressive acts and the conditions that make them possible.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：安心できる関係性の入口ー導入のためのシアターゲーム
- 3回：視覚を遮断してみるーブラインド・ゲームのシリーズ
- 4回：音を聞く、音を表すーサウンドスケープの試み
- 5回：障害のある人との表現活動を考える
- 6回：物語を表してみる1
- 7回：物語を表してみる2
- 8回：矯正教育と表現活動
- 9回：聞き書きの試み1
- 10回：聞き書きの試み2
- 11回：イメージ・シアターー被抑圧者の演劇1
- 12回：フォーラムシアターを作るー被抑圧者の演劇2
- 13回：フォーラム・シアターを試みるー被抑圧者の演劇3
- 14回：表現行為のさまざまな可能性を考察する

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業毎に、感じたこと、思ったこと、考えたことを記述し、リアクションペーパーを提出する。それらを次の授業までにふりかえる。

学外のフィールドワークを提案することがあります。可能な限り、参加してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:50%

### テキスト / Textbooks

文献等は授業時にアナウンスし、必要に応じてプリントで配布する予定

### 参考文献 / Readings

授業中に、必要に応じて紹介します。

**その他/ Others**

実習を伴うため、動きやすい服装、靴で参加してください。教室の関係で、上履きも持参してください。

# 教育臨床心理学

Clinical Psychology of Education

教育に関連する臨床心理学の知識や考え方を習得する

新井 素子 (ARAI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育に役立つと思われる臨床心理学の知識を習得するとともに、教育においてどのように臨床心理学の知識を活かすことができるか、事例などを通じて具体的に知り、考えることを目指す。

The aim is to acquire knowledge of clinical psychology that is considered to be useful for education, and to learn and think about how to utilize the knowledge of clinical psychology in education through specific examples.

## 授業の内容 / Course Contents

教育に関する臨床心理学の基礎的な知識や考え方を紹介するとともに、どのように学んだ知識などを児童・生徒との関わりに活かすことができるのかについて具体例と共に考える。

The lecture will introduce the basic knowledge and ideas of clinical psychology regarding education, and will consider how to apply the knowledge and other knowledge learned to working with children and students, along with specific examples.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：教育の場において臨床心理学の知見が有用であること



- 2回：家族の抱える困難：貧困，児童虐待，ヤングケアラーなど  
 3回：社会の抱える困難：非行，差別など  
 4回：子どもの抱える困難：学業困難  
 5回：子どもの抱える困難：注意欠如多動症  
 6回：子どもの抱える困難：自閉スペクトラム症  
 7回：子どもの抱える困難：その他（ジェンダーなど）  
 8回：学校における心理教育：キャリア教育・メンタルヘルス教育  
 9回：学校の心理的な資源：スクールカウンセリング・スクールソーシャルワーク  
 10回：学校内外の資源や取組：学校教育システムの連携・多職種連携

【小レポート】次の①及び②について述べて下さい。①講義で学んだテーマの内，自分が最も興味をもったことにつき，その理由と共に述べて下さい。②①で挙げたテーマのどこが問題と考えられるかを具体的に挙げ，それに対しどのような方法を採用することができるかや，何が必要なのかなどについて，自分の考えを述べて下さい。

11回：事例検討①：学級崩壊・体罰

12回：事例検討②：いじめ

【最終レポートの予告】テーマは追って指示する（講義を踏まえ，事例を中心に学んだことについて述べてもらう予定）。

13回：事例検討③：不登校

14回：事例検討④：保護者への対応・教師のストレス

【最終レポートの締切などの告知】テーマや文字数，締切日時について最終確認する。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する（授業前後に Canvas LMS に掲示）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度（リアクションペーパー等）：42% 小レポート：25% 最終レポート割合：33%

欠席4回以上の場合には成績評価の対象としない。遅刻を3回した場合には欠席1回とみなす。遅刻した回はリアクションペーパーの点数を1点減点する（交通機関の遅延などやむを得ない事情があれば別）。毎回提出するリアクションペーパーにより出席を確認する。受講生の理解度に応じて授業の予定が多少前後する場合があります。

### テキスト / Textbooks

特に指定しない

### 参考文献 / Readings

小林正幸・橋本創一・松尾直博 『教師のための学校カウンセリング〔改訂版〕』 有斐閣 2021  
 641123594

相澤真一・伊佐夏美・内田 良・徳永智子 『これからの教育社会学』 有斐閣 2023 4641200033

市川伸一 『学力と学習支援の心理学』 放送大学教育振興会 2014 4595314590

授業の際に適宜紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

グループで行うワークやディスカッションに積極的に取り組むことを期待する。グループでどのような議論などがなされたかは、毎回提出してもらったリアクションペーパーの記載を通じて教師に伝わることに留意して欲しい。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

教材の確認やレポートの提出のため、PCが必要になる。

### **その他/ Others**

講義は講師が作成する資料を中心に進める。毎回の講義内容は Canvas LMS にも掲示する。初回から段階的に学習を進めるため、欠席した講義は Canvas LMS を確認した上で参加することを推奨する。提出されたリアクションペーパーは実施回以降の授業中にフィードバックする。期末レポートの全体評価や講評は、後日 Canvas LMS 上でフィードバックする。

# 発達心理学

Developmental Psychology

心の発達に対する社会文化歴史的アプローチ

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

社会文化歴史的アプローチの立場から、系統発生、社会史、個体発生といった三つのタイムスケールで人間の発達を理解する。

Students will understand human development from a sociocultural-historical approach in three time scales of phylogeny, social history and ontogeny.

## 授業の内容 / Course Contents

社会文化歴史的（ヴィゴツキアン）アプローチによる精神発達理論を中心に発達心理学の基本的な知見を紹介し、人間の特殊性を議論する。人間とその他の類人猿の違い、学校教育制度下の人々の心性などの検討を通してヒトが人になる「人間化の過程」について理解する。さらに遊び、描画、言語などの象徴機能の発達を検討することで人間の個体発生過程についての理解を深める。具体的事例を紹介したり、参加者と議論したりしながら進めることで理解の深化をはかる。

The basic knowledge of developmental psychology, focusing on the theory of mental development based on the socio-cultural historical (Vygotskian) approach, will be discussed to inquiry peculiarities of human beings.

Students learn about the process of humanization in which humans become humans by examining the differences between humans and other apes, and the mentality of people under the school education system. Furthermore, students will deepen their understanding of human ontogeny by examining the development of symbolic functions such as play, drawing, and language. Specific examples will be introduced to consider them. Students are expected to engage in discussing any topics eagerly.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：発達心理学が問うこと
- 2 回：心の系統発生 (1)：類人猿との比較
- 3 回：心の系統発生 (2)：類人猿の認知能力
- 4 回：心の系統発生 (3)：類人猿の芸術能力
- 5 回：心の系統発生 (4)：生物の社会的学習から類人猿の行動を考える
- 6 回：心の社会発生 (1)：記録と記憶
- 7 回：心の社会発生 (2)：文字記号の社会的発生
- 8 回：心の社会発生 (3)：社会制度と思考様式 1
- 9 回：心の社会発生 (4)：社会制度と思考様式 2
- 10 回：心の个体発生 (1)：象徴機能の発達
- 11 回：心の个体発生 (2)：遊びの発達
- 12 回：心の个体発生 (3)：描画の発達
- 13 回：心の个体発生 (4)：言語獲得はどのようになされるのか 1
- 14 回：心の个体発生 (5)：言語獲得はどのようになされるのか 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する文献を図書館などで調べ読むこと。他の履修者と自主ゼミなどを通して議論することが望ましい。なお、大学の2単位の講義では毎時間予習復習をあわせて4時間の自主学習が必要であることが大学設置基準で定められている。それに見合う十分な学習時間を確保して学んでほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 課題レポート:50%

期限の定められた複数の課題レポートを提出することが求められる。課題レポートの提出は講義を理解するために必要なものである。指示した日までに提出しない場合には履修放棄となるので計画的に取り組んでほしい。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

石黒広昭・亀田達也 『文化と実践』 新曜社 2010 9784788511866

田島信元他編 『新・発達心理学ハンドブック』 福村書店 2016 9784571230547

中島義明編 『現代心理学理論事典』 朝倉書店 2001 425452014

中島義明編 『現代心理学事例事典』 朝倉書店 2012 4254520174

佐伯・佐々木編 『アクティブ・マインド』 東京大学出版会 2013 9784130065108

トマセロ, M. 『心とことばの起源を探る』 勁草書房 2006 9784326199402

**その他/ Others**

---

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

# 現代教育の諸問題 1

## Issues in Contemporary Education 1

金 英美 (KIM YOUNGMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE316  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は次の 3 点です。

- (1) 学校が抱える現代的な諸問題を理解する。
  - (2) 教育現象を福祉の観点から読む解くことができる。
  - (3) 教育福祉の概念を理解し、児童を取り巻く環境について考える力をつけることができる
- (1) Understand the modern problems of schools.
  - (2) Educational phenomena can be read and solved from the perspective of welfare.
  - (3) Understand the concept of educational welfare and develop the ability to think about the environment surrounding children

### 授業の内容 / Course Contents

現代教育の諸問題 1 では、教育福祉の観点で教育を問い直し、福祉的アプローチで教育政策を展開する必要性について講義します。講義では、主に韓国の教育政策について、テーマ別に「問い」を設定し、それについての教員による解説とそれを受けての討論で進めます。

Modern education, we will give a lecture on the need to re-examine education from the perspective of educational welfare and develop educational policies in a welfare approach. In the lecture, we will mainly set questions for each topic about Korean education policy and discuss them with explanations by teachers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：韓国政治の変遷
- 2 回：韓国政治・経済の変遷
- 3 回：韓国教育制度の変遷
- 4 回：学校における現代的課題①多様な子どもの発達課題
- 5 回：学校における現代的課題②経済的問題の増加
- 6 回：教育政策①韓国の教育政策の政権別流れ
- 7 回：教育政策②韓国の「革新教育」の概説
- 8 回：教育福祉の実践例①韓国教育福祉優先支援事業
- 9 回：教育福祉の実践例②韓国のスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活動
- 10 回：教育制度としての個別化学習①特別支援学校における個別支援
- 11 回：教育制度としての個別化学習②学生個別成長・発達支援事業（セジョン市の事例）
- 12 回：学校と地域社会の連携としての韓国の学校外教育の実践
- 13 回：特集一日韓ハンセン病政策及びハンセン病と教育
- 14 回：教育福祉政策の総括（概念整理及び学校組織の中での教育福祉のあり方）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は履修登録終了後「CanvasLMS」上で履修者に対して行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で指示する提出物（複数回）：50% 平常点（リアクションペーパー）：20%

最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

履修者の関心や希望に応じて授業計画は変更する場合がある。韓国の教育現場で行われている教育福祉政策や実践について、資料を豊富に用いて紹介し、日本の教育政策や実践とも比較をする。学校において必要な福祉的なマインドとは何かを考えながら、積極的に授業に参加し、気軽に討論の輪にも加わってほしい。学習者中心の教育政策の将来を共に考えていきたい。

### 参考文献 / Readings

川口洋誉・古里貴士・中山弘之編著 『未来を創る教育制度論』 北樹出版 2020

小川利夫・高橋正教編著 『教育福祉論入門』 光生館 2003

### その他 / Others

履修者の関心や希望に応じて授業計画は変更する場合がある。韓国の教育現場で行われている教育福祉政策や

実践について、資料を豊富に用いて紹介し、日本の教育政策や実践とも比較をする。学校において必要な福祉的なマインドとは何かを考えながら、積極的に授業に参加し、気軽に討論の輪にも加わってほしい。学習者中心の教育政策の将来を共に考えていきたい。



## 現代教育の諸問題 2

Issues in Contemporary Education 2

芸術創造性の認知心理学／－STEAM 教育における諸問題／Art and creativity seminar/ Issues Focusing on STEAM Education/

高木 紀久子 (TAKAGI KIKUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、芸術活動における創造プロセスを中心とした課題に対する理解をより深めると共に、認知科学・認知心理学の観点から、高等教育における芸術創造に関わる課題と世界の現状について、特に各国の STEAM 教育に関わる諸問題（教育制度、教育内容、各教科目との関連、教授方法など）を客観的に考察する。

In Issues in Contemporary Education 2, we will deepen our understanding of current educational issues centered on the creative process in artistic activities from the perspective of cognitive psychology. In particular, the current state of artistic creation in higher education and around the world, particularly the challenges of STEAM education in various countries (educational systems, educational content, relationship with various subjects, educational methods, etc.) will be objectively examined and discussed from the perspective of critical thinking.

### 授業の内容 / Course Contents

近年 STEAM 教育として芸術を通じた理解が多様な領域の学びを推進することが指摘されている。STEAM とは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学・ものづくり）、Art（芸術・リベラルアーツ）、

Mathematics（数学）の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念である。本授業ではSTEAM教育の中で芸術の創造性のメカニズムがいかに関与し、教育の可能性を開いていくのかを議論しながら、創造活動のプロセスの内実を迫るものである。授業前半では、講義、文献レビュー、演習、ディスカッションを通じて芸術活動における創造プロセスを認知科学の手法や観点から考察する。特に創造活動に関わる思考と身体レベルからのアプローチについては具体的な演習を盛り込む。後半では、受講生各自の興味や関心に基づいて、受講生の研究発表をもとにディスカッションを行う。調査内容の事前リサーチ、資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッションが評価基準となる。授業では学生の積極的参加・発言が評価の対象となり、課題レポート作成においても、独自の観点による調査分析が求められる。

In recent years, it has been noted that understanding through the arts as STEAM education promotes learning in diverse fields. STEAM is an educational concept that combines five acronyms: Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics. This class will approach understanding the process of artistic activity by discussing how the mechanism of artistic creativity functions in STEAM education and opens up educational possibilities.

In the first half of the class, through lectures, literature review, exercises, and discussions, the creative process in artistic activities will be examined from the methods and perspectives of cognitive science. In particular, specific exercises will be conducted on the approaches from the level of perception and cognition involved in creative activities. In the latter half of the course, discussion will be based on presentations of research based on each student's own interests and concerns. Preliminary research, preparation of materials, presentation, and discussion will be the evaluation criteria. In class, students' active participation and comments will be evaluated, and when writing assignment reports, students will be asked to analyze the research from their own perspectives.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション： 全体概要

創造活動に関する認知科学の手法

2回：概論1：芸術創造性の認知科学の背景

近代における心理学・モダンアート・技術・社会的事象の概観

3回：概論2：芸術創造性の認知科学の背景

現代における心理学・認知科学・コンテンポラリーアート・技術・社会的事象の概観

4回：演習1：創作演習

身体を通じた芸術活動（個人ワーク、ペアワーク、ディスカッション）

5回：論文レビュー1：芸術創作に関する論文(思考と身体のアプローチ)

論文レビューとディスカッション

6回：論文レビュー2：芸術創作に関する論文(思考と身体のアプローチ)

論文レビューとディスカッション

7回：論文レビュー3：STEAM教育に関する論文

論文レビューとディスカッション

8回：論文レビュー4：STEAM教育に関する論文

論文レビューとディスカッション

9回：調査研究課題解説

10回：調査研究1：

STEAM教育に関する教育制度、教育内容、各教科目との関連、教授方法など

11回：調査研究2：

STEAM教育に関する教育制度、教育内容、各教科目との関連、教授方法など

12回：調査研究3：

STEAM教育に関する教育制度、教育内容、各教科目との関連、教授方法など

13回：発表：

調査研究の発表とディスカッション

14回：総括： 調査研究の課題と総括（フィードバックを含む）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として授業で指定されるエクササイズを行い、その結果を毎回オンラインで記録する。

調査課題では企画内容によって授業時間外の作業が生じる。

実証的なレポート作成のために各種データの整理や記録、参考文献の検索などが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的な参加:30% 調査研究及び発表:30% 最終レポート  
割合：:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

Hal Foster, Rosalind E. Krauss, Yve - Alain Bois, Benjamin H.D. Buchloh, David Joselit 『ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術』 東京書籍 2019 9784487810352

Kayoko Komatsu, Kikuko Takagi, Hiroaki Ishiguro, & Takeshi Okada Arts-based methods in education research in Japan BRILL 2022 9004514139

ロナルド・A.フィンケ（著）、トーマス・B.ウォード（著）、小橋 康章（翻訳）『創造的認知』 森北出版 2014 9784627251199

ヤング吉原麻里子・木島里江 『世界を変える STEAM 人材』 朝日新聞出版 2019 4022950048

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

履修にあたり芸術創作の経験は特に必要はない。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の記録を残すにあたり、Slack を利用する。また調査研究および発表には PC を使用する。

### その他 / Others

演習における「創作」とは、技術を特に必要としない描画などの方法を指す。

授業計画は履修者数や教室状況などにより変更が生じることがある。

演習を含む授業の性質上、受講希望者が多い場合は、何らかの形で人数制限をする可能性がある。

調査研究には学生が自発的に目的に沿ったフィールドワークを調査に盛り込む可能性がある。

# 子ども文化論

Child and Youth Culture

西川 正 (NISHIKAWA TADASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE319  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

子どもにとっての well-being とは何か。多様な視点から、授業の参加者全員で考えていきたい。

What does well-being mean for children? We would like all participants in the class to think about it from diverse perspectives.

## 授業の内容 / Course Contents

日本に生きる子ども・若者は、自尊感情が低い。それはなぜなのか、そして、どうすれば、その状況を改善できるのだろうか。「well-being」（身体的・精神的・社会的によい状態にあること）をキーワードに、子どもの育ちの環境がどうあるべきなのか、「若者当事者」でもある学生のみなさんと一緒に考える時間にしたい。

学校・学びの場のあり方と、地域・遊びの場のあり方の2つの場面から検証する。学生自身のこれまでの学校・地域での体験をふりかえること、地域で活動する市民活動団体の方のお話をおききするなど、さまざまな手法、切り口で語り、考える時間にしていきたい。

Children and youth living in Japan have low self-esteem. Why is that and how can we improve the situation?

With "well-being" (being in a good physical, mental and social state) as a keyword, we would like to think about what kind of environment is necessary for children to grow up, together with you who are also young people.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション 対話してみよう
- 2回：遊ぶと学ぶの重なるところ ① ワークショップ
- 3回：子どもと大人のかかわりの戦後史
- 4回：学校文化を問い直す 1 哲学対話から見た学校
- 5回：学校文化を問い直す 2 不登校児童生徒の視点から①
- 6回：学校文化を問い直す 3 不登校児童生徒の視点から②
- 7回：学校文化を問い直す 4 「教育」目線の批判的検証
- 8回：遊ぶと学ぶの重なるところ ② ワークショップ 対話してみよう
- 9回：子どもと地域・遊び 1 子どもの遊びの戦後史①
- 10回：子どもと地域・遊び 2 子どもの遊びの戦後史②
- 11回：子どもと地域・遊び 3 プレイパークの現場から① ゲスト
- 12回：子どもと地域・遊び 4 プレイパークの現場から② ゲスト
- 13回：子どもと地域・遊び 5 子ども食堂・学習支援の現場から
- 14回：遊ぶと学ぶの重なるところ ③ ワークショップ ふりかえり

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

映像を見る、資料を読む、他の学生のコメントを読む、自分でコメントを書くなど、多くの学習があります。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:50% 最終レポート:40% 授業内で小テストなど:10%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

可能な限り参加型の授業にします。対話をもとに授業をつくります。

**その他 / Others**

参加型の授業＝参加が必須の授業です。授業の時間はみなでつくるものだと考えています。場の当事者として参加してくれる学生にとっては、深い、意味のある時間になると思います。そのための準備をしておきます。

# 哲学的人間学

Phylosophical Anthropology

コミュニケーションと他人の心の問題

國領 佳樹 (KOKURYO YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE320

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ※文学部教育学科初等教育専攻（18 年以前入学者）に向けての注意事項※

「哲学的人間学」は、初等教員免許取得に必要な科目には含まれない。

但し、卒業要件単位には含まれる。

不明な点がある場合は教務事務センターの窓口で問合せること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は次の二つです。(1) 「人間とは何か」「コミュニケーションとは何か」をテーマにして、論証とはどのようなものかを理解し、批判的な思考を身につけること、(2) テーマに関連する基本的な哲学的知識を身につけること。

The goals of this class are twofold. (1) We will address the important question of "What is human communication" to develop the ability to critically analyze things we usually take for granted and enter into a discussion with others. (2) Students will acquire a basic knowledge of philosophy.

## 授業の内容 / Course Contents

日常的な意味で「コミュニケーション」とは、各々が自分の思考・感情・情報などを伝達し合うことです。おそらく、このコミュニケーションという活動こそが人間社会の基盤にあるという考えに反対する人はいないで

しょう。しかし、それがなぜ、どのように成り立つのかについてはさまざまな意見があります。この授業では、こうしたコミュニケーションをテーマにした哲学的議論の一部を紹介しつつ、その内容を批判的に検討します。具体的には、「他人の感情を理解するとはどのようなことなのか?」「私たちは、どのようにして他人の感情を理解するのか?」「そもそも感情とは何か?」といった問いを中心にして、これまでの哲学上の議論を解説します。

In general, communication can be defined as the process of sharing information, thoughts, or feelings between individuals. However, there are different views about how communication is established.

In this course, I will present several philosophical topics on communication. You will learn basic philosophical concepts from the beginning.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンスと導入
- 2 回：コミュニケーションと他人の心
- 3 回：認識論的問題
- 4 回：概念的問題
- 5 回：処理問題
- 6 回：自分の心と他人の心
- 7 回：そもそも感情とは何か? (1) 身体説
- 8 回：そもそも感情とは何か? (2) 二要因説、評価理論
- 9 回：そもそも感情とは何か? (3) 感情と価値
- 10 回：他人の感情を知覚する (1) 部分-全体知覚
- 11 回：他人の感情を知覚する (2) 知覚と推論の違い
- 12 回：真正な感情と虚偽の感情の区別
- 13 回：AI を愛することは真正な感情なのか?
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に配付するレジユメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について参考書に目を通しておくこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 小課題:30%

授業内で提示した小課題ないしリアクションペーパーが平常点になります。

### テキスト / Textbooks

事前にスライド資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

Anita Avramides & Matthew Parrott Knowing Other Minds Oxford University Press 2019 9780198794400

源河亨 『感情の哲学入門講義』 慶應義塾大学出版会 2021 9784766427196

吉川孝・横地徳広・池田喬 『映画で考える生命環境倫理学』 勁草書房 2019 9784326102730

その他の参考文献は授業内で提示します。

#### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

自分と異なる意見を吟味し、批判的に思考する能力が求められます。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

教育支援システム

#### **その他/ Others**

至急の連絡先：kuromejiro@rikkyo.ac.jp



## 教育心理学 2

Psychology in Education 2

新しい教育と学びに向けて

青山 征彦 (AOYAMA MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE321

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

今日の標準的な教育／学習観である個人主義的な考え方を乗り越えるために、新しい教育／学習観について学び、自らがその担い手となるにはどうしたらよいかを考えられるようになるのが目標である。

The goal is to learn about new views of teaching/learning to overcome the individualistic mindset that is the standard view of teaching/learning today and to be able to think about how to become a bearer of these views.

### 授業の内容 / Course Contents

教育というと、学校の教室で教師が教科書を使って児童や生徒に教える場面がイメージされがちです。しかし、バイト先や会社での研修も教育ですし、そうした場では、教師も教科書もないまま、教え、学ぶのが普通です。そこで、この講義では、教育の基底となる学習に注目して、その広がりを検討していきます。近年は、知識重視の学習から実践重視の学習への変化や、学習者を個人として見るのではなく関係で見る動きなど、学習についての見方が変化しつつあります。この講義では、そうした変化について学ぶことを重視します。

各回の講義では、受講者による発表も採り入れつつ、最終的に「新しい学びあいの場を作る」という課題に取り組むことによって、教育や学習という活動を、教科書的に学ぶのではなく、実践として捉え直すことができ

るようになることを目指します。

When we think of education, we tend to imagine situations in which teachers teach children or students in school classrooms using textbooks. However, training at a part-time job or a company is also education; in such settings, teaching and learning usually occur without a teacher or textbook. Therefore, in this lecture, we will focus on learning as the basis of education and examine its expansion. In recent years, views on learning have been changing, such as the shift from knowledge-oriented learning to practice-oriented learning and the movement to view learners not as individuals but as relationships. This lecture will focus on learning about these changes. In each lecture, I will incorporate presentations by the students, and ultimately, by working on the task of "creating a new place for learning together," I aim for the students to be able to rethink education and learning as a practice rather than as a textbook study.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：心理学における学習研究：古典的・道具的条件づけとプログラム学習(1)
- 3回：心理学における学習研究：古典的・道具的条件づけとプログラム学習(2)
- 4回：心理学における学習研究：ヴィゴツキーの思想とその展開
- 5回：実践における学び：実践コミュニティという視点(1)
- 6回：実践における学び：実践コミュニティという視点(2)
- 7回：実践における学び：越境と水平的学習
- 8回：学習を捉え直す：知識から実践へ ～アクティブラーニングの系譜～
- 9回：学習を捉え直す：知識から実践へ ～フレイレと成人教育～
- 10回：学習を捉え直す：知識から実践へ ～文化の学びとアフィニティネットワーク～
- 11回：学習者を捉え直す：個人から関係へ ～道具とエージェンシー～
- 12回：学習者を捉え直す：個人から関係へ ～パフォーマンスの持つ意味～
- 13回：学習者を捉え直す：個人から関係へ ～教育評価をアップデートする～
- 14回：まとめにかえて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者自身が、いまどのようなことを学んでいるか、かつてどのような教育を受けていたかを、各回の講義で扱った内容を踏まえて、振り返っておくようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業への参加度:20%

### テキスト / Textbooks

使用しません。

### 参考文献 / Readings

授業内で指示します。

# 教育社会学 2

Sociology in Education 2

井上 慧真 (INOUE EMA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE322  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育に関する様々な問題を考察するのに必要となる教育社会学の基本的な概念や理論、研究について理解すること。発達に関する教育社会学の理論、これまでの研究を把握し、特に青年期から成人期の初期にかけて現代社会に生きる人々が経験する様々な問題についての理解を深めること。

To understand the basic concepts, theories, and research in the sociology of education that are necessary to examine various issues related to education. To grasp theories and previous research on development in the field of sociology of education, and to deepen understanding of the various problems experienced by people in modern society, especially during adolescence and early adulthood.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、現代社会における教育に関する様々な問題を取り上げながら、教育社会学の基本的な概念や理論、研究について理解を深める。そして教育に関する現象について、様々な視点から理解を深める。子どもは大人になるまでに様々な発達段階を経るが、この講義ではとくに青年期から成人期の初期の発達における教育、そしてそれに関わる様々な問題に焦点化して考える。具体的には、授業の前半は青年期から成人期の初期における学校教育（特に高校教育、大学教育問題）の問題、授業の後半は青年期から成人期における家庭や仕

事での役割の変化を、若者がどのように経験するかの問題について考える。

In this lecture, students will deepen their understanding of the basic concepts, theories, and research of the sociology of education while taking up various issues related to education in contemporary society. Students will also deepen their understanding of phenomena related to education from various perspectives. Children go through various developmental stages before they become adults, and this lecture will focus on education during adolescence and early adulthood and the various issues related to the developmental stages. Specifically, the first half of the class will focus on school education (especially high school and college education) in adolescence and early adulthood, and the second half will focus on how young people experience changes in family and work roles in adolescence and adulthood.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーションー発達段階についての基礎知識、青年期から成人期への移行という視点
- 2 回：いじめー現状・調査・見えてくるもの
- 3 回：いじめとどう向き合うかーこれまでの対応と課題
- 4 回：学校における暴力ー体罰を中心に
- 5 回：校則をめぐる近年の状況
- 6 回：「学校に行かない子ども」ー不登校を中心に
- 7 回：学校に行かない子どもの学びの場について
- 8 回：外国にルーツを持つ子どもと学校
- 9 回：高校からの中退と学び直しの環境
- 10 回：「誰もが高校に通える社会」の成立
- 11 回：子どもの貧困ー近年の状況、政策の課題
- 12 回：成人期への移行とその課題ー学校から職業への移行を中心に
- 13 回：成人期への移行とその課題ー家族形成を中心に
- 14 回：成人期への移行における社会的孤立と支援

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容についての小課題に取り組むこと。また授業ごとに提示する参考文献を、個人の関心に応じて読み、期末レポートの作成に役立てること。

配布資料は Canvas LMS に投稿するので、授業当日までにダウンロードまたはプリントアウトして授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験	：60%		
平常点割合	：40%	小課題等	：40%
		最終レポート割合	：:0%
		最終テスト割合	：:0%

### テキスト / Textbooks

指定しない

### 参考文献 / Readings

各講ごとに指示する

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

- ・教育に関わる諸問題の検討を通じて他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を高める。
- ・レポート等の課題においてガイドラインを守り、かつ自らの考えを表現する能力が求められる。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

オンライン授業のため、Canvas LMS や zoom に接続できる通信環境。

## キリスト教と教育 2

Christianity and Education 2

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AE324
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	※文学部教育学科初等教育専攻の学生に向けての注意事項※
AA370「キリスト教学講義 16（キリスト教と教育 2）」と同一科目。重複履修不可。教育学科の学生は AE324 の科目コードで登録すること。	

### 授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、教育は、社会の仕組みやその変化のキーポイントとなってきた。教育の理解が深まれば深まるほど、社会の仕組みやその変化の理解が深まる。こうした教育と関わるキリスト教ならびに宗教的な問題に光をあてることで、現代社会におけるキリスト教と宗教の位置や役割を考察したい。

In contemporary society, education is one of the keys for social mechanisms and their changes. The more students deepen their understanding of education, the more they deepen their understanding of social mechanisms and their changes. By shedding light on issues of education related to Christianity and other religions, this course is designed for students to gain insights on the place and role of Christianity and other religions in modern society.

### 授業の内容 / Course Contents

教育をめぐる諸問題のなかで、キリスト教を中心に宗教と関わるテーマを選び解題してゆく。「キリスト教と教育 1」では日本に重点をおくが、本講義では日本以外の国を対象とする。キリスト教が多数派の国々のうち、

欧米諸国に加え、アジアからフィリピンを取り上げ、そこでの公教育と宗教の問題をみていく。

Among education-related issues, the issues involved with religions, especially with Christianity, will be chosen for discussion. While "Christianity and Education 1" focuses on Japan, this course focuses on countries other than Japan. Europe and America as well as the Philippines from Asia will be selected, and issues concerning public education and religion in those countries will be studied.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：キリスト教教育をみる視点
- 3 回：欧米諸国 1
- 4 回：欧米諸国 2
- 5 回：欧米諸国 3
- 6 回：欧米諸国 4
- 7 回：欧米諸国 5
- 8 回：フィリピンの宗教教育:背景
- 9 回：フィリピンの宗教教育:制度成立 1
- 10 回：フィリピンの宗教教育:制度成立 2
- 11 回：フィリピンの宗教教育:制度展開 1
- 12 回：フィリピンの宗教教育:制度展開 2
- 13 回：フィリピンの宗教教育:制度展開 3
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、事前に概要を Canvas LMS で知らせる予定。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

江原武一 『世界の公教育と宗教』 東信堂 2002

市川誠 『フィリピンの公教育と宗教』 東信堂 1999

### その他 / Others

講義内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

### 注意事項 (検索結果画面)

AA370「キリスト教学講義16 (キリスト教と教育2)」と同一科目。重複履修不可。／※教育学科の学生はAE324の科目コードで登録すること。



# 人間と哲学 1

## Lectures on Humanity and Philosophy 1

「西洋哲学」で「哲学する」

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE326

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度以降入学者のみ履修可

AU325「哲学概論 1」と同一科目。重複履修不可。教育学科以外の学生は AU325 で登録すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、哲学者の名前と概念を暗記することを目指すことはしません。「哲学」で重要なことは、覚えることではなく、自ら「考える」ことです。自ら「考える」ことができるために、そのツールとして、西洋哲学の歴史や基本的な考え方を身につけることを目指します。

ただし、必要に応じて、西洋哲学の基本的な流れや重要な考え方の説明はします。大学の授業やさまざまな本などでは、西洋の哲学者の名前や考え方が出てくることがあります。そうしたときの参考になるような基本的な事項を理解することも目標の一つです。

The purpose of this course is not "memorizing" philosophers' names and concepts. "Philosophy" is not a set of seemingly deep thoughts or witty ideas. The most important thing is to be able to "think" by yourself.

The objectives of this course consist therefor:

- to learn how to "think" by yourself.
- to understand the basic flow and important ideas of the Western philosophy.

**授業の内容 / Course Contents**

授業では、できるだけ日常的な場面にも通ずる「問い」を提示します。授業前あるいは授業内にそれについて「考えて」もらう機会を設けます。できるだけ履修者とのインタラクティブな対話を設ける予定です。それを踏まえて、各回その「問い」を掘り下げるために、関連する西洋哲学の重要な考え方を説明していきます。

なお、以下の授業計画は授業の進み方や履修者の希望に応じて適宜変更する場合があります。

For this reason, we plan to have interactive dialogue with students as much as possible. The students will be required to answer the questions presented before each session. The course will be proceeded in response to the answers, by presenting ideas elaborated in Western philosophy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：イントロダクション：「哲学する」とは？「正しい」とは？

プラトン

2回：「バナナはおやつに含まれるか」？

アリストテレスとスコラ哲学

3回：「私」は「自由」か？

デカルトとホッブズ

4回：「偶然」「必然」て何？

スピノザ、ライプニッツ、ヒューム

5回：「真」「善」「美」は主観的？客観的？

カント

6回：「善い」「悪い」はどう決まる？

カント、功利主義、ニーチェ

7回：「社会」って何？

ヘーゲル、マルクス、キルケゴール、トクヴィル

8回：「ある」と「いる」、「もの」と「こと」はどう違う？

フッサール、ハイデガー

9回：「言葉」はすべてを言い表せるか？

ウィトゲンシュタイン、ソシュール

10回：結局「人それぞれ」？

構造主義とポスト構造主義

11回：「正義」なんてもうない？

ポストモダン、デリダ、ロールズ、ハーバーマス

12回：「責任」て何？

アーレント、レヴィナス、分析哲学

13回：「自然」は守るべきか

現象学、エコロジー

14回：ジェンダーのことはどう考えたらよいか

フェミニズムとジェンダー哲学

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

次回の講義で扱う「問い」についてあらかじめ考えてくる。

各回の講義の内容を振り返り、考えを深める。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度（コメントの提出等）:50%

**テキスト / Textbooks**

用いません（適宜プリントを配布します）。

**参考文献 / Readings**

貫成人 『図説・標準 哲学史』 新書館 2008 9784403250934

納富信留・檜垣立哉・柏端達也 『よくわかる哲学・思想』 ミネルヴァ書房 2019 9784623084104

曾我千亜紀ほか編 『フランス・バカロレア式 書く! 哲学入門』 ナカニシヤ出版 2021 9784779514951

渡名喜庸哲 『現代フランス哲学』 ちくま新書 2023 9784480075741

そのほか適宜授業中に指示します。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

この授業は「概論」として、哲学についての基本的な考え方や知識をお伝えすることを目的としていますので、関心があれば、先行知識は必要ありません。

**注意事項（検索結果画面）**

A U 3 2 5 「哲学概論1」と同一科目。

# 人間と哲学 2

Lectures on Humanity and Philosophy 2

中国哲学史

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE327

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度以降入学者のみ履修可

AU326「哲学概論 2」と同一科目。重複履修不可。

教育学科以外の学生は AU326 で登録すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は以下のとおり。

- ・中国哲学史についての基礎的な知識について説明できること。
- ・重要な理論や概念を理解し、哲学的問題の思考に適用できること。

The goals of this course are to

- ・ obtain basic knowledge about the history of Chinese philosophy,
- ・ be able to understand important theories and concepts in Chinese philosophy, and apply them to thinking on philosophical issues.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストにもとづいて中国哲学史の概要を説明する。重要な理論については、それを手がかりとしてどのような哲学的思考が展開できるかという可能性についてもあわせて説明する。

This course provides an overview of the history of Chinese philosophy based on the textbook. For important theories, it will also explain the possibility of developing philosophical thinking with them as clues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：中国哲学史を書くとはどういうことか、中国哲学史の起源
- 3回：孔子、正しさとは何か
- 4回：孟子・荀子・荘子、礼とは何か、『孫子』
- 5回：『老子』『韓非子』『淮南子』、法家、董仲舒・王充、経書と緯書
- 6回：王弼・郭象、仏教との対決
- 7回：『詩経』から『文心雕龍』へ、韓愈
- 8回：朱熹と朱子学、陽明学
- 9回：キリスト教との対決、西洋は中国をどう見たのか1
- 10回：戴震、西洋近代との対決
- 11回：胡適と近代中国哲学の成立、現代新儒家の挑戦、毛沢東の時代
- 12回：西洋は中国をどう見たのか2、普遍論争
- 13回：補論：新しい「中国哲学」の可能性
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲として指示されたテキストの該当箇所を読み、内容確認を兼ねて Canvas LMS 上の予習テストを受験すること。各回の予習範囲については第1回の資料で提示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 予習課題（小テスト）:20% リアクションペーパー:20%

75%以上の出席をしていない場合は不合格とする。

予習課題（小テスト）は自動採点。リアクションペーパーに対しては次回授業時に全体的なフィードバックを行う。

### テキスト / Textbooks

中島隆博 『中国哲学史』 中央公論新社 2022 9784121026866 ○

そのほかはコピーを配付する。

### 参考文献 / Readings

アンヌ・チャン 『中国思想史』 知泉書館 2010 9784862850850

湯浅邦弘編著 『中国思想基本用語集』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087365

ユク・ホイ 『中国における技術への問い——宇宙技芸試論』 ゲンロン 2022 9784907188467

その他は適宜指示する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の掲示、予習課題等に Canvas LMS を用いる予定。

### **その他/ Others**

出席確認は第1回から行う（登録変更による未参加は考慮する）。出席確認方法などの詳細は第1回授業にて説明する。

### **注意事項（検索結果画面）**

A U 3 2 6 「哲学概論2」と同一科目。

# 教育課程論

## Curriculum

教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE328  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： [初等専攻] 2018 年度以前入学者用コード

### 授業の目標 / Course Objectives

学習指導要領を基準として、各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

With the curriculum guidelines as the basis, along with understanding the significance and development methods of the education plan drawn up at each school, students will understand the significance of matching curriculum and management to each school's situation.

### 授業の内容 / Course Contents

学習指導要領の歴史的な変遷から、教育課程の意義や編成の方法を理解する。また各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントのあり方を検討する。

Students will understand the historical changes to the curriculum guidelines and the significance and methods of creating education guidelines. Students will also consider the way the curriculum and management should be in order to suit each school's particular situation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：教育課程とは何か——学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的——
- 2回：学習指導要領の改訂の変遷①戦後新教育期
- 3回：学習指導要領の改訂の変遷②現代化
- 4回：学習指導要領の改訂の変遷③新しい学力観と生活科の導入
- 5回：学習指導要領の改訂の変遷④生きる力と総合的な学習の時間の導入
- 6回：学習指導要領の改訂の変遷⑤知識基盤社会と確かな学力
- 7回：学習指導要領の改訂の変遷⑥主体的・対話的で深い学び
- 8回：教育課程編成の基本原則——経験主義と系統主義——
- 9回：教科・領域横断的なカリキュラム編成
- 10回：主体的なカリキュラム編成のあり方①長期的な視野に基づいた教育課程
- 11回：主体的なカリキュラム編成のあり方②児童理解に基づいた教育課程
- 12回：主体的なカリキュラム編成のあり方③学校・地域に基づいた教育課程
- 13回：カリキュラム・マネジメントの意義
- 14回：カリキュラム評価の理論と実践

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、別途指示する

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

田中耕治編 『よくわかる教育課程』〔第2版〕（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） ミネルヴァ書房 2018 9784623082698 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット



# 教育とメディア

Education and Media Studies

教育社会と情報・メディア

大多和 直樹 (OTAWA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE329

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「情報教育論」。重複履修不可。

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・ ICT を含むメディアが学校教育やそれを取り巻く社会にどのような影響をもたらすのかについて説明できる
- ・ 学校教育とメディアについて歴史を含めて説明できる
- ・ デジタルメディアが子ども／若者の生活世界に与える影響について説明できる。
- ・ 情報社会(消費社会)と学校社会の関係について説明できる
- ・ AI とどう付き合うか、について考えを深める

The objects of this class are as follows.

- ・ We can explain what kind of influence the media including the ICT brings the society surrounding school education.
- ・ We can explain school education and the media including a history
- ・ We can explain the influence that digital media gives in the life of child/youth.
- ・ We can explain relations of information society (consumer society) and the school society.
- ・ We deepen a thought how you go out with AI.

**授業の内容 / Course Contents**

本授業の情報教育論とは、ICTを授業等でどう利用するか、といった狭い範囲のものではない。

ICTを含むメディアが学校教育やそれを取り巻く社会にどのような影響をもたらすのか、そのことを一人一人がどのように考えていくのか、について扱っていく。

授業内容の柱は、以下の通り。

- ・学校教育とメディア
- ・子ども／若者の生活世界とデジタルメディア
- ・情報社会(消費社会)と学校社会
- ・AIとどう付き合うか

The media study of education in this class is not the thing of the small range that how uses ICT by classes.

We treat it what kind of influence the media including the ICT brings the society surrounding school education and it how each one thinks about it.

The subjects of class contents are as follows.

- ・ School education and the media
- ・ Life of child/youth and digital media
- ・ Information society (consumer society) and school society
- ・ How do you go out with AI?

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：ガイダンス：教育社会と情報・メディアの見取り図

2回：＜学校教育とメディア＞

(1)古いニューメディアとしての鉛筆とノート

3回：(2)旧来の学校教育をICTがどう変えるのか[授業]

4回：(3)旧来の学校教育をICTがどう変えるのか[学校システム]

5回：(4)学校における情報政策を読む

6回：(5)新しい学校教育で育てるべきものは何か

7回：＜子ども／若者の生活世界とデジタルメディア＞

(1)デジタルネイティブの生活誌

8回：(2)日本社会は映像メディアをどのように受容してきたか

9回：(3)悪影響論を考える

10回：＜情報社会と学校社会＞

(1)情報社会と学校社会の相容れない文化

11回：(2)消費文化を考える

12回：＜AIとどう付き合うか＞

(1)AIとは何か

13回：(2)AI時代の人間の生き方を考える

14回：まとめ：情報・メディアのインパクトをどう考えるのか

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定　：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配付資料を読んでいることを前提に授業を進めることがある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験　:70%

平常点割合　:30%　リアクションペーパー含む授業参加:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは用いず、授業内で必要な情報をプリント等で提示する。

### 参考文献 / Readings

参考図書は用いず、授業内で必要な情報をプリント等で提示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講義形式をアクティブに受講するアクティブリスニングの力

### その他 / Others

講義形式の授業は、受け身的に知識を受容する場ではありません。本授業では、直接的な知識内容だけでなく背景にある学問領域特有の考え方・ものの見方までも会得するようなマインドで受講するとともに、知識を自分でどのように用いることができるのか、頭をフル回転させながら受講する「アクティブ・リスニング」が求められます。

# 世界史

World History

古代から近代までを俯瞰する

松岡 昌和 (MATSUOKA MASAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE501

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・ 歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
  - ・ 異なる世界を知ることによって異文化に対する理解を深めていく。
  - ・ 歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
  - ・ さまざまな歴史観・世界観を知ることによって批判的な思考をできるようにする。
- Develop a long-term and broad perspective through learning history.
- Deepen an understanding of different cultures by learning different worlds.
- Develop information literacy through reading and interpreting historical sources and records.
- Become able to think critically by learning diverse views on history and the world.

## 授業の内容 / Course Contents

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。本科目では、古代から近代に至る世界の歴史を扱うため、細かい知識の修得を目的とするものではない。むしろ、歴史の全体像を俯瞰することによって、歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解を

きるようにしていきたい。学期中、数回ミニレポートを課す。

The present is built upon the past, and learning history is extremely important in understanding the origins of the modern world. Since the subject covers world history from ancient times to the modern world, the aim is not to gain detailed knowledge. Rather, by gaining an overall picture of history, we will aim toward learning a historical way of looking at things and developing a diverse understanding of the modern world. Students will submit several small reports during the semester.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：なぜ世界史を学ぶのか
- 2 回：古代文明・古代帝国と地域世界の形成
- 3 回：地域世界の再編
- 4 回：海陸の交流とモンゴル帝国
- 5 回：フィードバック回(1)・「歴史する」ことについて考える
- 6 回：近世世界のはじまり
- 7 回：大航海時代
- 8 回：アジア伝統社会の成熟
- 9 回：ヨーロッパの奇跡
- 10 回：フィードバック回(2)・近代と「伝統」について考える
- 11 回：近代化の広がり
- 12 回：「ウエスタン・インパクト」とアジアの苦悩
- 13 回：帝国主義とアジアのナショナリズム
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の該当箇所を予め読んでくること。内容理解に関するクイズを課す。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%  
平常点割合 :40% ミニ・レポート（2回程度実施）:40%

### テキスト / Textbooks

大阪大学歴史教育研究会編 『市民のための世界史』 大阪大学出版会 2014 9784872594690 ○

### 参考文献 / Readings

長谷川修一・小澤実編 『歴史学者と読む高校世界史』 勁草書房 2018 9784326248483  
 佐藤昇編 『歴史の見方・考え方: 大学で学ぶ「考える歴史」』 山川出版社 2018 9784634640894  
 リン・ハント（長谷川貴彦訳） 『なぜ歴史を学ぶのか』 岩波書店 2019 9784000241793  
 北村厚 『教養のグローバル・ヒストリー: 大人のための世界史入門』 ミネルヴァ書房 2018  
 9784623082889  
 金澤周作ほか 『論点・西洋史学』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087792

吉澤誠一郎ほか 『論点・東洋史学:アジア・アフリカへの問い 158』 ミネルヴァ書房 2021  
9784623092178

小田中直樹 『歴史学のトリセツ——歴史の見方が変わるとき』 筑摩書房 2022 9784480684363

その他参考書は各講義の時間に紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特になし。高等学校レベルでの世界史科目の履修は（理解の助けにはなるが）前提としない。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特になし。ただし予習項目や連絡等を Canvas LMS で配信するので、確認できるようにしておくことを求めたい。

### **その他/ Others**

これまでの歴史系科目の履修は前提としないが、教科書を読み、不明な箇所についてはあらかじめ各自確認しておくことを求めたい。

### **注意事項（検索結果画面）**

対象：教職課程登録者のみ

# 日本史

Japanese History

日本前近代（原始古代～近世）における政治と社会

戸川 点 (TOGAWA TOMORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE502

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

日本史（前近代史）の流れを学ぶ中で日本史に関する基本的な知識を身につけ、歴史的なものの見方などを深めていく。

In learning the outline of the history of Japan (pre-modern history), students will gain basic knowledge relating to Japanese history and further develop a historical way of looking at things.

## 授業の内容 / Course Contents

原始古代から近世まで歴史の流れを追いながら時代のとらえ方や重要事項、研究動向などを解説、紹介していく。史料の調べ方、文献の探し方なども随時取り上げ日本史に関する専門性を高めていく。

Outlining the history of Japan from the prehistoric and ancient eras to the early modern era, this course will explain or introduce approaches to different eras, important matters and research trends. When necessary we will also look at ways to examine historical sources, and search for literature. These aspects will be taken up in order to enhance your expertise in Japanese history.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本前近代史入門～ガイダンス
- 2回：原始の日本～旧石器、縄文、弥生時代
- 3回：ヤマト政権の発展～古墳、飛鳥時代
- 4回：律令国家の成立と展開
- 5回：平城京の時代～奈良時代政治史の流れ
- 6回：平安王朝の成立と摂関政治
- 7回：摂関政治の展開と武士の成長
- 8回：院政の成立と中世国家～平安、鎌倉時代
- 9回：鎌倉幕府の成立
- 10回：鎌倉幕府の展開
- 11回：南北朝内乱と室町幕府の展開～南北朝、室町時代
- 12回：戦国の動乱から織豊政権へ～戦国、安土桃山時代
- 13回：幕藩体制の成立と展開～江戸時代
- 14回：日本前近代史のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義前に高校で学んだ「日本史」の内容を復習し、授業後には日本史に関する概説書や授業中紹介する参考文献などを読むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:10% レポートまたは小テスト:20%

#### テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

#### 参考文献 / Readings

宮原武夫・山田邦明・深谷克己 『日本社会の歴史 上』 大月書店 2012

木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治 『大学でまなぶ日本の歴史』 吉川弘文館 2016

戸川点 『平安時代はどんな時代か』 小径社 2023

その他、授業中に適宜紹介する。

#### 注意事項（検索結果画面）

対象：教職課程登録者のみ



# 社会学

Sociology

社会学の基礎を学ぶ

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程登録者のみ履修可

2016 年度以降入学者のみ履修可

「経済学」と交互に隔年開講

## 授業の目標 / Course Objectives

「社会」はどのようにして成り立っているのか。この問題に対して、社会学の基本的な考え方を学び、その特徴を理解する。本講義の目標は、現代社会を社会的に捉える視点を習得することである。

How is "society" established? To answer this question, students are expected to learn the basic concepts of sociology and understand their characteristics. The goal of this course is to acquire a sociological approach to modern society.

## 授業の内容 / Course Contents

「社会」の成り立ちについて、社会学の古典から検討を始める。次に、各キーワードを手掛かりにして社会を読み解くことで、社会学の視点を学ぶ。そして、主に現代の家族や人間関係を題材として、現代社会とはいかなる社会であるのかを受講者とともに検討する。

This course begins to examine the formation of "society" from the sociological classics. After that, using each

keyword as a clue, students are expected to interpret our society and learn the viewpoint of sociology. Then, we consider what a modern society is, mainly based on contemporary families and relationships.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：社会学とは何か
- 2回：グループワーク—社会のイメージを描く
- 3回：社会学の前史
- 4回：ウェーバーと理解社会学
- 5回：デュルケムと機能主義
- 6回：ジンメルと相互作用論
- 7回：アイデンティティと役割論
- 8回：権力
- 9回：ジェンダーの現在
- 10回：都市／階級の再生産
- 11回：メディアとコミュニケーション
- 12回：現代社会論①—近代家族とその衰退
- 13回：現代社会論②—再帰的近代化論とリスク社会
- 14回：現代社会論③—親密性と公共性

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料に基づく予復習が求められる。また、社会学の理論や概念を実生活に落とし込むために、ニュース等で時事問題に触れておくとよい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席とリアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

授業で用いる資料は授業前に Google ドライブにアップロードする (ドライブの URL は初回授業時に指示する)。また、授業内で適宜文献を紹介するので参照されたい。

### 参考文献 / Readings

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学 (新版)』 有斐閣 2019 9784641053892

奥井智之 『社会学の歴史』 東京大学出版会 2010 9784130520232

### 注意事項 (検索結果画面)

対象：文学部教職課程登録者のみ

# 法律学

Law

法律学の基礎的な概念を学ぶ

宮澤 弘 (MIYAZAWA HIROSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE505  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 教職課程登録者のみ履修可  
2016 年度以降入学者のみ履修可  
「政治学」と交互に隔年開講

## 授業の目標 / Course Objectives

法律学の基礎的な考え方および知識の獲得を目指します。

This course aims to help students acquire a basic legal approach (or an elementary method of legal thinking) and fundamental knowledge of the law.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では法律学の基本点な概念をできるだけ分かりやすく説明していきます。現代社会において個人は、法の規律の下で自由に活動しています。これらの法は個人を公正にそして平等に扱い、個人の権利が侵害されたときには必ず救済してくれるのです。受講生はこうした法の機能を学び、そして法制度の基底にある主要な原則を理解していきます。

講義では、法の諸原則および法の機能、法の主要な分類、権利義務関係、判例、そして裁判制度とその理念について説明していきます。最後に立憲主義を取り上げます。

This course addresses fundamental concepts of law, to be explained as plainly and simply as possible. In modern society, individuals act freely under the legal rules. These rules treat them fairly and equally, and if someone's rights are violated, the rules are sure to remedy those rights. Students learn functions of these rules and understand main principles that underlie legal arrangements.

Course lectures explain main legal principles and functions, major divisions within the law, the relationship of rights and duties (claim right and duty, privilege and no right, and so on), judicial precedents, and the judicial system and its ideals. Finally, the course covers constitutionalism.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業テーマの説明、授業の進め方、成績評価、参考文献の紹介等）
- 2回：法の静態1（近代市民法の諸原則）
- 3回：法の静態2（法の社会的機能）
- 4回：法の静態3（公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法）
- 5回：法の静態4（権利と義務）
- 6回：法の動態1（法の形成1：制定法）
- 7回：法の動態2（法の形成2：判例法1）
- 8回：法の動態3（法の形成3：判例法2）
- 9回：法の動態4（法の実現1：裁判制度）
- 10回：法の動態5（法の実現2：裁判手続1）
- 11回：法の動態6（法の実現3：裁判手続2）
- 12回：裁判に対する期待と現実（現代社会と裁判）
- 13回：立憲主義
- 14回：社会と法（まとめ）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

原則として、事前に配布する資料については次回までに必ず読んできてください。その他授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題レポート:20%

課題レポートは授業中に課すA4一枚程度の課題であり、翌週までに提出するもの。複数回予定している。

### テキスト / Textbooks

教科書は指定しません。講義レジュメ及び資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

星野英一 『民法のすすめ』 岩波書店 2005 4004305365

田中成明 『現代裁判を考える』 有斐閣 2014 9784641125759

団藤重光 『法学の基礎〔第2版〕』 有斐閣 2007 9784641125193

田中成明 『法学入門 〔第3版〕』 有斐閣 2023 9784641126404

安念潤司他編著 『論点 日本国憲法 〔第二版〕』 東京法令出版 2014 9784809063077

その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

**注意事項（検索結果画面）**

対象：文学部教職課程登録者のみ

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE781  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EDU4840  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE782

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 10月（16回目）以降オンライン予定

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AE783  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EDU4840  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE784

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE785

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE786

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE787

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE788

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AE789

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EDU4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 教育方法学

Teaching Methods

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF001

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

専用教室を利用しても良い。X204 教室

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

Students will understand the education methods necessary to develop the qualities and abilities required of children in the future.

## 授業の内容 / Course Contents

教育の方法と技術の基本的な理論をおさえ、それに基づいた具体的な実践の方法を身につける。

Students will learn basic theories of teaching methods and techniques, and acquire concrete practical methods based on them.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：教育方法の基礎的理論と実践（1）生活綴方の歴史と現在

2 回：教育方法の基礎的理論と実践（2）百ます計算と基礎学力

3 回：教育方法の基礎的理論と実践（3）仮説実験授業と理科教育

4 回：教育方法の基礎的理論と実践（4）アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）

- 5回：学習評価の基礎的理論と実践（1）相対評価と目標に準拠した評価  
 6回：学習評価の基礎的理論と実践（2）パフォーマンス評価の方法  
 7回：授業を構成する基礎的な要件—子ども・教師・教材—  
 8回：授業の基礎的な技術—話し方と板書—  
 9回：授業の展開（1）授業の目標と内容・教材と教具  
 10回：授業の展開（2）さまざまな学習形態  
 11回：授業の展開（3）評価の規準づくり  
 12回：授業の展開（4）学習指導要領を作成する  
 13回：情報機器及び教材の活用（1）情報機器を活用して教材を作成する  
 14回：情報機器及び教材の活用（2）情報活用能力育成のための指導法

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内でパフォーマンス課題やリーディング課題を出す。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

田中耕治 『時代を拓いた教師たち』 日本標準 2005 9784820802563 ○

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

WiFi 環境にある PC やタブレット（スマートフォンでの接続は認められない）

# 教育相談

Educational Guidance and Counseling

眞柄 翔太 (MAGARA SHOTA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF004  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

実際の教育相談において活用できる知識や技法を身につける。

We acquire knowledge and techniques that can be used in actual educational counseling.

## 授業の内容 / Course Contents

教育現場において、生徒を支援するための教育相談の理論およびそれを支える心理学やカウンセリングの基礎知識を学ぶ。また、具体的な事例を提示し、それをいかに扱うかを検討する。加えて、保護者への支援や、多職種連携のあり方について、理解を深める。

We learn the theory of educational counseling to support students in educational settings, and the basic knowledge of psychology and counseling that supports it. And, we present a concrete example and consider how to manage it. In addition, we deepen their understanding of support for parents and how interprofessional collaboration should be.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、教育相談とは

2 回：教育相談を支える心理学の理論

- 3回：教育相談におけるアセスメント
- 4回：カウンセリングの基本技法
- 5回：知能の偏りと発達障害
- 6回：幼児期・児童期の発達課題に応じた教育相談
- 7回：青年期の発達課題に応じた教育相談
- 8回：いじめ問題の理解と対応
- 9回：不登校問題の理解と対応
- 10回：虐待・非行問題の理解と対応
- 11回：保護者支援のあり方
- 12回：チーム学校で行う教育相談
- 13回：教員のメンタルヘルス
- 14回：教育相談まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回、次の授業までに復習を行い、これまで扱った内容を身につけておくようにする。  
 また、日常的に、教育に関する情報を新聞やニュース等で収集し、自分の考えをまとめるようにする。  
 その他の授業時間外での学習については、適宜授業中に指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%  
 平常点割合 :40% 授業内で指示したワークシート:20% リアクションペーパー:20%

#### テキスト / Textbooks

授業毎に、講義内容に対応したレジュメを配布する。

#### 参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

# 道徳教育の理論と方法

Moral Education

新しい道徳教育の理念と方法

桑原 直巳 (KUWABARA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF005

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 中・高の教員免許状取得のためにはこの科目ではなく、教職課程が設置した同名科目（科目コードが G で始まる科目）の方を履修する必要があります。

※ただし教育学科については例外措置があるので講座履修要項を確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解します。また、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解します。

とくに小学校における道徳教育の考え方及び道徳の時間の指導方法について、「そもそも道徳とは何であり、なぜその教育が必要なのか」という問いにさかのぼり、理論的・理念的に理解すると同時に、現在、興隆しつつある新しい道徳教育方法の開発を目指します。

Students will understand the purpose and content of moral education at schools based on the significance and rationale of morality. Also, students will understand instruction plans and instruction methods necessary in the subject of moral education as carried out through the school's overall educational activities.

Especially regarding elementary school moral education thinking and instructional methods, students will take

on the question of “what was morality originally and why is it necessary in education?,” and while also understanding logically and philosophically, aim for creating new methods of moral education while improving current methods.

### 授業の内容 / Course Contents

1) 前半では、道德教育を行うに当たって、現代倫理学と現代道徳理論の基礎的な考え方を身につけてもらいます。以下のことができるようにします。道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

2) 後半では、道徳科における指導計画や指導方法を学びます。講義で自分自身で道徳的な問題についてグループワークをとおして、道徳教育の方法、評価の在り方などについて実践的に学びます。以下のようなことを学びます。学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

1) In the first half of the class, students will become competent in the basic ways of thinking in modern ethics and moral theory in order to carry out moral education. Students will be able to do the following things. Students will be able to explain the qualities of morality (what is morality?). Students will understand issues of moral education (bullying, information morals, etc.) in modern society as well as in the history of moral education. Students will understand the growth of children’s minds and the development of morality. Students will understand the goals and main contents of moral education and the subject of moral education as laid out in the curriculum guidelines.

2) In the second half of the class, students will study instruction plans and methods in the subject of moral education. In the lecture, students will discuss moral issues that affect them, and learn about moral education methods and evaluation methods, etc., practically through dialogue. Students will learn the following things. Students will understand the necessity of moral education instruction planning in schools and instruction through schools’ overall educational activities. Students will understand the characteristics of diverse instructional approaches for bringing out qualities of moral education class. Students will be able to actively design classes based on the characteristics of course materials in the subject of moral education. Students will be able to clarify the class aims and instructional process, and make a learning plan for the subject of moral education. Students will understand learning evaluation methods based on the characteristics of the subject of moral education. Through holding model classes and reflecting on them, students will develop an eye for class improvements.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンスと授業への導入

2 回：日本における道徳教育の歴史（1）第二次世界大戦前：

3 回：日本における道徳教育の歴史（2）第二次世界大戦後：

4 回：日本における道徳教育の歴史（3）「特別な教科」となるまで：

5 回：現代日本の学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容：

6 回：現代日本の学校における道徳教育の全体計画：

模擬授業・指導案検討プロジェクト①a

7 回：現代日本の学校における道徳科の年間指導計画・指導案

模擬授業・指導案検討プロジェクト②a

8回：現代日本の学校における道徳教育の評価：

授業・指導案検討プロジェクト③a

9回：授業・指導案検討プロジェクト④a

10回：授業・指導案検討プロジェクト⑤a\*指導案作成に向けてのオリエンテーション

模擬授業第一陣2名

11回：模擬授業第一陣2名についてのコメント

模擬授業第二陣2名

12回：模擬授業第二陣2名についてのコメント

模擬授業第三陣2名

13回：模擬授業第三陣2名についてのコメント

総括レポート提出

14回：授業・指導案検討プロジェクトのふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献や指定された資料を読み、講義内でのディスカッションに準備すること。授業内容に当たる部分について小学校学習指導要領道徳編に目を通すこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義でのディスカッションへの参加:20% 講義内提出物:40% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説道徳編』 日本文教出版 -

文部科学省 『中学校学習指導要領解説道徳編』 日本文教出版 -

### 参考文献 / Readings

清水将吾・河野哲也監訳 『子どものための哲学授業：「学びの場」のつくりか』 河出書房新社 2014  
4309247016

西野真由美・鈴木明雄・貝塚茂樹 『考え、議論する道徳の指導法と評価』 教育出版 2017  
9784316804477

### その他 / Others

講義だけではなく、グループワークを通して教育方法を実践する授業になります。

# 特別活動の理論と方法

## Co-curricular Activities

学級活動、児童会活動、学校行事等の計画、指導法について学ぶ

今泉 朝雄 (IMAIZUMI TOMOO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・特別活動に関する基本的理解を深める。
- ・学級活動、児童会活動（生徒会活動）、学校行事の指導の計画力、実践力を身につける。
- ・生徒自治や生徒の主体的な活動の意味について自身なりの考え方を身に付ける。

Understand the basics of special activities.

To acquire the ability to plan and practice the guidance of class activities, children's association activities, and school events.

Understand the significance of children's autonomy and their independent activities.

## 授業の内容 / Course Contents

学校教育とは単に教科授業だけではなく、学級活動、児童会活動、運動会や修学旅行などの各学校行事など教科外の集団的な活動（＝特別活動）も重要な教育内容に含まれる。本講義ではこの特別活動の位置付け、目標、意義、内容、方法に関する基礎的な理解を深めるとともに、その実践的な指導力を身に付けることを目標とする。



School education is not limited to academic classes, but also includes important educational activities such as class activities, children's association activities, and school events such as athletic meets and school excursions. The goal of this class is to deepen students' basic understanding of the educational significance, goals, significance, content, and methods of special activities, and to develop practical leadership skills in these activities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：特別活動の教育的意義
- 3 回：特別活動の歴史からその意義を考える
- 4 回：学習指導要領の位置付け
- 5 回：学校における集団の基礎理論
- 6 回：教育的集団をどう構成するか
- 7 回：学級活動とは何か
- 8 回：話し合い活動の方法 1
- 9 回：話し合い活動の方法 2
- 10 回：学校行事の計画と指導
- 11 回：児童会活動（生徒会活動）の計画と指導
- 12 回：生徒自治と教育
- 13 回：クラブ活動の計画と指導／部活動の現状と課題
- 14 回：これまでの学習内容を振り返る

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：前回授業において予習内容を提示する。次回内容に関わる基礎知識を把握し、その活動に関わる自身の経験を振り返っておく。

復習：学習内容を整理し、授業内において提示した課題を実施する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内の取り組み、課題による評価:40%

### テキスト / Textbooks

今泉朝雄 『教科外教育の理論と方法』 咲和書房 2024 9784991348907 ○

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社 平成 29 年 9784491034690

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

教職科目であるが、教職以外の学生も受け入れる。

但し、教員になる為の能力の習得を求めるものであることは留意すること。

# 生徒指導・進路指導

Career Guidance and Counseling

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF013  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

生徒指導と進路指導とは密接に関連している。その関係性について、社会と教育制度の近代化の中で把握するとともに、生徒理解とは何かという問題について原理論的な理解をめざす。それを踏まえ生徒指導と進路指導の今日的課題を理解するとともに対応の仕方を検討し、長期的展望に立った指導のできる教師となるための実践的方法の獲得をめざす。

Career guidance and counseling for students are closely linked in schools. Regarding the nature of this relationship, students will aim to fundamentally grasp the issue of student comprehension along with understanding the modernization of social and educational systems. Based on that, in addition to understanding the daily issues of career guidance and counseling, students will consider ways of handling these, and acquire practical methods for becoming teachers who can provide guidance with a long-term perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

社会化問題から非行・問題行動への対応まで、生徒指導の守備範囲は広い。教育問題の歴史と現在を概観する中で、生徒指導や進路指導がどのように考えられ実践されてきたか。そうした実践を支える教師による生徒理解とはどのようなものであったのか。それらを理解したうえで、現代の教育問題と進路問題の特徴を理解する

とともに、その指導のあり方を考えていきたい。

From socialization problems to delinquency and problematic behavior, the range of counseling is broad. Among the history and present of educational issues, what practices have been thought of regarding how to handle career guidance and counseling? This class explores what student comprehension means to teachers who support those practices. By building on these things and identifying the characteristics of current educational issues and career guidance issues, students will think about those methods of guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：生徒指導・進路指導とは何か
- 2回：生徒指導・進路指導の現状と課題
- 3回：生徒指導・進路指導の歴史（1）：近代教育制度の成立と普及の中で
- 4回：生徒指導・進路指導の歴史（2）：戦後混乱期から高度経済成長期の中で
- 5回：生徒指導・進路指導の歴史（3）：少子化と高学歴社会の中で
- 6回：生徒理解論（1）：個性とは何か
- 7回：生徒理解論（2）：行動の理解・心の理解
- 8回：生徒理解論（3）：理解の方法について
- 9回：現代日本の教育問題（1）：体罰
- 10回：現代日本の教育問題（2）：いじめ・不登校
- 11回：現代日本の教育問題（3）：発達障害
- 12回：進路指導と学歴問題
- 13回：進路指導とキャリア教育
- 14回：まとめと最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:60%

最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

必要な資料は Google Drive 等で配布する予定である。

### 参考文献 / Readings

# 理科教育法 a

Teaching Methods: Sciences a

小学校理科の指導法

稲垣 成哲 (INAGAKI SHIGENORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ①小学校理科教育における学習指導法について理解し、授業設計のための基本事項を修得する。
- ②情報機器および教材の活用についての基礎的・基本的事項を理解し、その活用法を修得する。
- ③学習指導案を作成し、その指導案に基づいた模擬授業を実施することで、授業構想力ならびに指導力を養う。

The goals of this lecture are as follows.

- (1) To understand learning and teaching methods in elementary school science education, and to acquire basic knowledge for designing classes.
- (2) To understand the basics and fundamentals of using information devices and teaching materials, and to master how to use them.
- (3) To develop the ability to design lessons by creating a study plan and conducting a mock class based on the plan.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、初等教育における理科に関わる指導法について解説する。昨今、注目されている情報機器及びデジタルコンテンツの活用についても検討する。本授業では、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、模擬授業を実施するとともに、受講生のグループワークや討論の機会を数多く設ける。

In this lecture, teaching methods related to science in elementary education will be explained. The use of information devices and digital contents will also be discussed. In this lecture, the perspective of active learning will be incorporated, and mock classes will be conducted, as well as many opportunities for group work and discussion among the students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 小学校における理科の学習指導法
- 2 回：小学校理科における現状：全国学力・学習状況調査の結果から
- 3 回：小学校理科における実験観察：基礎的な実験観察器具の使用法 (1)
- 4 回：小学校理科における実験観察：基礎的な実験観察器具の使用法 (2)
- 5 回：小学校理科における学習指導案作成の基礎：教科書比較
- 6 回：小学校理科における学習指導案作成の基礎：教科書比較を踏まえた討論
- 7 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：ゲスト講師による指導案作成のポイント解説
- 8 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：ゲスト講師による板書のポイント解説
- 9 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：グループワークによる指導案の作成 (1)
- 10 回：小学校理科における模擬授業の実施 (1)
- 11 回：模擬授業の評価と改善
- 12 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：グループワークによる指導案の作成 (2)
- 13 回：小学校理科における模擬授業の実施 (2)
- 14 回：全体のまとめ (最終レポート)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

模擬授業指導案の作成は、授業時間外に予習として行うことがある。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出物 (模擬授業指導案など) :40% リアクションペーパー:20% その他の提出物:10% 最終レポート割合 :30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

文部科学省の小学校学習指導要領解説 理科編はダウンロード可能である。

その他、適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

適宜、指示する。

**その他/ Others**

- ・初回のオリエンテーション時にシラバスの変更点などを指示することがある。
- ・PowerPointを使用した講義形式で、映像資料や現物資料などを適宜活用する。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、模擬授業や演習などを適宜行うことがある。
- ・模擬授業は可能な限り全員が実施できるように計画する（受講生の人数に依存するが）。
- ・遠隔のゲストスピーカーを招待する計画があるが現在は未定である。
- ・シラバスは受講生の数などに応じて、若干の変更があるかもしれない。

## 図画工作科教育法 a

Teaching Methods: Painting and Handwork a

初等教育段階における美術教育はどうあるべきかを考える。

南雲 まき (NAGUMO MAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

造形表現への理解をもとに、子どもの関心や実態に即した活動を計画することができるようになる。自ら教材研究を通して豊かで多様な表現を誘発する働きかけを模索する姿勢を身につける。

The students will be able to plan activities in line with children's interests and realities based on their understanding of formative expressions. The students acquire an attitude in which they prioritize children's physicality and pursue ways to bring out rich and diverse expressions from children by studying teaching materials.

### 授業の内容 / Course Contents

小学校学習指導要領をもとに、領域「表現」、「鑑賞」、「共通事項」と各学年の目標と内容について学びながら、受講者が自ら指導計画を立て、模擬授業を行う。教材研究、学習指導要領の書き方、年間指導計画の立て方、評価方法等についても学んでいく。

Based on the Elementary School Curriculum Guidelines, the students learn about the learning arenas of "expression", "appreciation", and "common matters", as well as the goals and study contents set up for respective

school year. Then, they independently prepare a teaching plan and organize a mock lesson. The students also learn about how to study teaching materials, write curriculum guidelines, establish annual teaching plans, and assess children's progress.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス「日本の初等教育における図画工作の歴史を振り返って」
- 2 回：領域「表現」について
- 3 回：領域「鑑賞」について
- 4 回：学習指導案の作成と教材研究について
- 5 回：学習指導案の立案「造形遊び」
- 6 回：個人の指導案をもとに低学年、中学年、高学年のグループに分かれて学習指導案の立案
- 7 回：低学年、中学年、高学年のグループに分かれて学習指導案の改善
- 8 回：低学年、中学年、高学年のグループに分かれて教材研究
- 9 回：低学年、中学年、高学年のグループに分かれての授業提案と模擬授業
- 10 回：学習指導案の立案「絵や立体・工作」
- 11 回：学習指導案の改善
- 12 回：授業提案と模擬授業（1）
- 13 回：授業提案と模擬授業（2）
- 14 回：授業提案と模擬授業（3）年間指導計画の作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図画工作科の学習指導計画立案においては、立案者とその素材や用具、活動の指導ができることが必要である。また、その活動を通して子どもたちがどのような点に関心をもち、楽しさを感じるか、体験を通して理解することが必要である。そのため、授業外でも教材研究を通して計画の改善を図ること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学習指導案（造形遊び）：20% 学習指導案（絵や立体・工作）：20% 模擬授業（集団）：20% 模擬授業（個人）：20% リアクションペーパー：20%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』 日本文教出版 2018  
4536590110 ○

### 参考文献 / Readings

小松佳代子 編著 『美術教育の可能性：作品制作と芸術的省察』 勁草書房 2018 9784326251254  
小松佳代子 編著 『アートベース・リサーチの可能性－制作・研究・教育をつなぐ』 勁草書房 2023  
4326800658

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的な造形能力、Word等の文章作成ソフトを用いる能力



**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Google Classroom、学習指導案を作成することができる PC 等

# 体育科教育法

Teaching Methods: Physical Education

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF109  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校体育科授業を実施するために授業指導案を作成し、実際に模擬授業を行うことで、小学校体育における指導上の留意点について学習する。

Students will create class lesson plans for carrying out elementary school physical education classes, and by conducting actual mock classes, learn points to remember for instructing elementary school physical education classes.

## 授業の内容 / Course Contents

授業指導案をもとに運動の楽しさを体験することや心身の健全な発達を目指したプログラムを計画する。その際には、安全確保、動機付けや個人差の考慮など、体を動かす実技指導特有の問題を踏まえた授業運営が必要となる。また、授業進行を考えると、児童を整列させることやグルーピングなど指示の出し方によって成果が違ってくる。このような点を考え、模擬授業終了後に、振り返りの討論の時間を設ける。各授業の時間配分は以下の通りである。

- 出席と模擬授業の準備，確認 20 分
- 模擬授業 45 分

## 3. 振り返りの討論 30分

## 4. まとめ 5分

あらかじめ少人数のグループを作り「指導案の作成」「模擬授業」「模擬授業レポートの作成」を行っていく。授業は担当グループ以外の学生が児童役で実施するものとする。模擬授業終了後、振り返りの討論で楽しく魅力的な体育授業について議論する。

Based on their class lesson plans, students will plan a program aimed at letting pupils experience the fun of exercise and developing physical and mental health. At that time, it will be necessary to run a class that is based on problems specific to coaching athletics such as consideration of safety checks, motivation and individual differences, etc. Also, when students think about the progression of the class, they will get different results depending on how they give directions to line pupils up in rows or form groups, etc. Students will think about these kinds of points, and after completing a mock class will be given time to discuss their reflections on it. Each class will follow the below time schedule.

1. Attendance check and mock class preparation and checking, 15 minutes.

2. Mock class 45 minutes

3. Reflection discussion 25 minutes

4. Summary 5 minutes

Students will make small groups in advance and carry out “writing instruction plans,” “mock classes,” and “writing reports on mock classes.” For class, students other than those in the group in charge will take on the roles of pupils. After finishing the mock class, students will have a reflective discussion about creating fun and appealing physical education classes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンスおよびグループピング

2回：模擬授業 1

3回：模擬授業 2

4回：模擬授業 3

5回：模擬授業 4

6回：模擬授業 5

7回：模擬授業 6

8回：模擬授業 7

9回：模擬授業 8

10回：模擬授業 9

11回：模擬授業 10

12回：模擬授業 11

13回：模擬授業 12

14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:○	学内の教室外施設の利用	:○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

模擬授業のための準備（シミュレーション）を事前に十分行うこと。また、2回目以降は運動が出来る服装、靴に着替えて集合すること。施設はポール・ラッシュ・アスレチックセンター地下2階アリーナ、4階多目的コート、地下1階プールを使用予定。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 指導実践内容:30% 指導案レポート:30%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』 東洋館出版社 2015 9784491031613

鈴木直樹 他 編著 『学び手の視点から創る小学校の体育授業』 大学教育出版 2013 9784864292436

日本サッカー協会 『新サッカー指導の教科書』 東洋館出版社 2019 9784491036519

# 教職研究

Studies on Teaching Profession

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF112  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
専用教室を利用しても良い。4339 教室  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2018 年度以前入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、教職に関する、一定の社会的・制度的・歴史的・法的知識を身につけ、またそれに対する主体的認識を養うことを目的とする。教職に関する専門的な理解を深めつつ、自らの適性を判断して、進路選択に資する教職のあり方について理解することを目指す。

The purpose of this lecture is, first, to provide students with social, institutional, historical, and legal knowledge related to the teaching profession. Secondly, this course is designed to help each student develop a subjective awareness of the teaching profession. This lecture aims to help students deepen their professional understanding of the teaching profession, determine their own aptitude, and understand how the teaching profession can help them choose their own career path.

## 授業の内容 / Course Contents

教職および学校教育の社会的意義とともに、今日の教育の動向を踏まえて、教員に求められ役割や資質、職務内容や職務上の義務についても理解する。適宜グループワークや模擬授業などを行いながら、教職のあり方を問い続ける姿勢を作りたい。

This lecture will prepare the participants to understand the social meanings of the teaching profession and school education, as well as the roles and qualities required of teachers in consideration of today's trends in education, their duties and obligations. In this lecture, group work and mock classes will be conducted to encourage students to continue to question the nature of the teaching profession.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：教員を学ぶ
- 3回：教師の歩み
- 4回：教員の身分
- 5回：職務上の義務・身分上の義務
- 6回：教員の仕事を捉えなおす
- 7回：学校内の同僚を知る
- 8回：不利益処分・教員の任用
- 9回：研修と人事評価
- 10回：教員免許状の制度
- 11回：チーム学校の多様な教職員
- 12回：教員の働き方
- 13回：教員免許をめぐる教育改革
- 14回：まとめと振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキストの指定箇所を読み、関連事項について自分なりに調べてくること。

毎回の授業後には、授業内容を振り返るコメントを提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート:40% 毎回の授業へのコメントおよびワークシートの内容と提出状況:60%

### テキスト / Textbooks

高橋陽一編 『チーム学校の教諭論』 武蔵野美術大学出版局 2021年 9784864631259 ○

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』 東洋館出版社 2018年 9784491034607

津田徹・広岡義之編著 『教職論』 ミネルヴァ書房 2021 9784623089567

### その他 / Others

第1回目の講義で講義進行の詳細、各時間の参考文献、成績評価基準等を示すので、第1回の講義は必ず出席すること。

## 教職実践演習（小学校） a

Practice Teaching Seminar(Primary Education) a

小学校教員に求められる資質及び能力の再確認

稲垣 成哲 (INAGAKI SHIGENORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU4710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、受講生が、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、その課題の箇所についての知識や技能を補い、定着を図ることを目標とする。

The goal of this lecture is for students to discover their own tasks in becoming teachers in the future, and to overcome these tasks by reinforcing their knowledge and skills related to these tasks.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では、主に次の事項について取り扱うものとする。

- ①教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項
- ③教員として求められる児童理解や学級経営等に関する事項
- ④教員として求められる教科等の指導力に関する事項

以上については、適宜、ロールプレイング、事例研究、ゲストの現職教員経験者等との意見交換、グループ

ワークなどに取り組む。

This lecture will mainly deal with the following issues.

- (1) A sense of mission, responsibility, and educational love required of a teacher
- (2) Social skills and interpersonal skills required of a teacher
- (3) Understanding of children and classroom management required of a teacher
- (4) Teaching skills in subjects and other areas required of a teacher.

The above will be addressed through role-playing, case studies, exchange of opinions with guest speakers, and group work as appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 教職実践演習の目的・意義
- 2 回：ポートフォリオ（履修カルテ）に基づく自己評価と相互評価と自己学習課題の設定
- 3 回：学校組織としての教員、同僚性のあり方（遠隔 教員経験者のゲストスピーカーを予定）
- 4 回：児童理解や学級経営のあり方（遠隔 教員経験者のゲストスピーカーを予定）
- 5 回：学校・家庭及び保護者・地域との連携のあり方（遠隔 教員経験者のゲストスピーカーを予定）
- 6 回：自己学習課題に対応した調査・研究：文献調査（1）
- 7 回：自己学習課題に対応した調査・研究：文献調査（2）
- 8 回：教育課題への対応：ICT(生成 AI を含む)活用の理論と方法（1）
- 9 回：教育課題への対応：ICT(生成 AI を含む)活用の理論と方法（2）
- 10 回：教育課題への対応：児童の多様性への配慮と指導（1）
- 11 回：教育課題への対応：児童の多様性への配慮と指導（2）
- 12 回：自己学習課題に対応した研究発表、意見交換（1）
- 13 回：自己学習課題に対応した研究発表、意見交換（2）
- 14 回：まとめと自己診断、今後の課題の整理

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の履修カルテや教育実習の省察等に基づいて授業を展開する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー:40% 講義内プレゼン・議論の内様:30% 最終レポート  
割合：:30%

### テキスト / Textbooks

必要に応じて紹介する。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

適宜指示する。



**その他/ Others**

本授業は必須の科目である。教育実習等止むを得ない事情以外の欠席及び遅刻のないようにとくに留意すること。なお、教育実習期間等に本授業の日程時程が重なった場合は、定められた形式での必要な届け出を必ずしてほしい。

その他、外部講師の都合等で内容の順番が入れ替わったり変更したりすることがある。第1回目のオリエンテーションの授業で日程内容等確認を必ずすること。また、教育実習等で出席できなかった場合、その回の内容の情報収集を怠らないようにすること。原則、秋学期の教育実習は、一部の人には避け難いので、シラバスの内容通り

## 教職実践演習（小学校） b

Practice Teaching Seminar(Primary Education) b

教育実習を振り返り、教育を再考する

早坂 めぐみ (HAYASAKA MEGUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF117

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU4710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本科目は、小学校における教育実習での授業実践や様々な経験を振り返るとともに、学校教育や教職の社会的意義について理解することを目的とする。

本科目の目標は以下のとおりである。

- （1）教師として教育実践を構想するうえで、重要な概念について説明できる。
- （2）諸概念を実際の授業での指導や生徒指導の場面に適用できる。
- （3）受講者自身の教育実践や教育観を問い直す。

The purpose of this course is to reflect on teaching practices and various experiences in educational practice at elementary schools, as well as to understand the social significance of school education and the teaching profession.

The objectives of this course are as follows.

- (1) Explain the concepts that are important to conceptualize educational practice as a teacher.

- (2) Apply the concepts to actual teaching and instruction of students.
- (3) Reconsider the students' own educational practices and educational philosophy.

### 授業の内容 / Course Contents

本科目では、ユネスコのレポート『教育を再考する』を読み、授業内でその内容についてのプレゼンテーションや議論を行う。予習として、受講者には文献の要約と気づきについて文書にまとめてもらう。こうした学習活動を通じて、教育や教師教育に関する国際的な文脈で重要とされる諸概念が理解できるようになる。

In this course, students read the UNESCO report "Rethinking Education" and make presentations and discussions about its findings in class. Students are required to summarize the text and describe their findings in writing as part of their own preparation for the course. These learning experiences help students understand the concepts that are important in the international context of education and teacher education.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー本科目の目的、進め方について
- 2回：教育実習を振り返るーリフレクション・ワークをやってみよう
- 3回：教育を再考する（1）ー前文・要旨・序章
- 4回：教育を再考する（2）ー第1章 持続可能な成長：鍵となる課題
- 5回：教育を再考する（3）ー第2章 ヒューマニズムの再興
- 6回：教育を再考する（4）ー第3章 複雑化する世界での教育政策の立案
- 7回：教育を再考する（5）ー第4章 教育は共通善か？
- 8回：教育を再考するための諸概念（1）ーエージェンシー、シティズンシップ、レスポンシビリティ、アカウンタビリティ
- 9回：教育を再考するための諸概念（2）ー多様性、社会正義、エンパワメント、フレームワーク、ステークホルダー、プラットフォーム
- 10回：教育を再考するための諸概念（3）ー人権、ウェルビーイング、インクルージョン、エクスクルージョン、声
- 11回：教育を再考するための諸概念（4）ーコンピテンシー、生涯教育、ノン／インフォーマル教育、キャパシティ、功利主義、市場、ヴァルネラビリティ
- 12回：最終レポートの検討（1）
- 13回：最終レポートの検討（2）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・予習として、テキストを読み、要点と論点を文書にまとめること。担当する章のプレゼンテーションの準備をすること。

・復習として、テキストを読み直したうえで、授業内でのディスカッションによって得られた教職や教育実践に関わる気づきをまとめること。最終レポートに向けた準備を進めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% 提出課題:30%

最終レポート割合 :40%

### テキスト/Textbooks

日本教師教育学会第10期国際研究交流部 百合田真樹人・矢野博之編訳著 『ユネスコ・教育を再考するーグローバル時代の参照軸ー』 学文社 2022 9784762031960 ○

テキストは第3回以降に使用するので、毎回各自が持参すること。

### 参考文献 / Readings

#### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

教育実習での経験と、テキストから得られる知見とを結びつけて考察しようとする姿勢が求められる。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメの作成にあたってはPCが必要となる。

#### その他/ Others

- ・課題やプレゼンテーションについては、授業内でその都度フィードバックを行う。
- ・本科目は教職に就くための必須の科目である。教育実習等やむを得ない事情以外の欠席及び遅刻がないように、留意すること。なお、教育実習期間等に本授業が重なった場合は、必ず定められた形式での届け出をすること。

## 教職実践演習（小学校） c

Practice Teaching Seminar(Primary Education) c

小学校教員に求められる資質及び能力の再確認

秋保 恵子 (AKIHO KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU4710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この科目は、受講生が、将来、教員になる上で自己にとって何が課題であるかを自覚し、その課題の箇所についての知識や技能を補い、定着を図ることを目標とする。

The goal of this lecture is for students to discover their own tasks in becoming teachers in the future, and to overcome these tasks by reinforcing their knowledge and skills related to these tasks.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では、主に次の事項について取り扱うものとする。

- ①教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項
- ③教員として求められる児童理解や学級経営等に関する事項
- ④教員として求められる教科等の指導力に関する事項

以上については、適宜、ロールプレイング、事例研究、ゲストスピーカーとの意見交換、グループワーク、な

どに取り組む。

This lecture will mainly deal with the following issues.

- (1) A sense of mission, responsibility, and educational love required of a teacher
- (2) Social skills and interpersonal skills required of a teacher
- (3) Understanding of children and classroom management required of a teacher
- (4) Teaching skills in subjects and other areas required of a teacher.

The above will be addressed through role-playing, case studies, exchange of opinions with guest speakers, and group work.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 教職実践演習の目的・目標・意義
- 2 回：ポートフォリオ（履修カルテ）に基づく自己評価と相互評価
- 3 回：自己評価・相互評価に基づく自己学習課題の設定  
実践と理論の関係に関する議論：文献研究 1
- 4 回：実践と理論の関係に関する議論：文献研究 2
- 5 回：実践と理論の関係に関する議論：文献研究 3
- 6 回：教員として求められる児童理解や学級経営等について議論する。  
児童理解や学級経営のあり方
- 7 回：教員として求められる社会性や対人関係能力について議論する。 1  
学校組織の一員としての教員、同僚性のあり方
- 8 回：教員として求められる社会性や対人関係能力について議論する。 2  
学校・家庭及び保護者・地域との連携のあり方
- 9 回：教員として求められる教科等の指導力について議論する。 1  
教科等の指導に関する知識や技能
- 10 回：教員として求められる教科等の指導力について議論する。 2  
教科等の指導に関する知識や技能
- 11 回：自己学習課題に対応した研究発表、意見交換 1
- 12 回：自己学習課題に対応した研究発表、意見交換 2
- 13 回：自己学習課題に対応した研究発表、意見交換 3
- 14 回：教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等について議論する。  
事後の自己診断、振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・履修カルテを活用する。秋学期授業開始直前の時点で、履修カルテの記入可能な箇所の記入を終了しておくこと。
- ・授業時間外の学習として、文献等の講読、発表準備、毎回の授業リフレクションの提出がある。各授業で課題を指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 発表・議論等内容及び態度:30% リフレクションペーパー:30%

**テキスト / Textbooks**

なし

**参考文献 / Readings**

デューイ 『学校と社会』 岩波書店 1957 9784003365229

参考文献は、「実践と理論の関係に関する議論」の授業で使用するため、各自が持参すること。

その他、必要に応じて紹介したり配布したりする。

**その他 / Others**

●本授業は教職に就くために必須の科目である。教育実習等止むを得ない事情以外の欠席及び遅刻はしないよう特に留意すること。なお、教育実習期間と本科目の授業日程が重なった場合は、必ず大学で定められた形式で事前に届け出ること。教育実習による欠席者に対しては補講等に対応する。

また、やむを得ず欠席した場合、その回の内容を情報収集し、対応をとること。

●外部講師の都合で内容の順番が入れ替わったり変更したりすることがある。オリエンテーションで伝達する。

# 初等教育実習

Teaching Practices in Primary School

渡辺 哲男／秋葉 昌樹／稲田 素子／小谷 由美／稲垣 成哲／柏木 敦／和田 悠／伊藤 実歩子／河野 哲也／市川 誠／室町 さやか／新井 素子 (WATANABE TETSUO/ AKIBA YOSHIKI/ INADA MOTOKO/ KOTANI YUMI/ INAGAKI SHIGENORI/KASHIWAGI ATSUSHI/WADA YU/ITO MIHOKO/ KONO TETSUYA/ ICHIKAWA MAKOTO/ MUROMACHI SAYAKA/ ARAI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 6

科目ナンバリング： EDU4740

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育実践を通して、学校とそれを取り巻く状況や児童への理解を深めるとともに、授業づくりの体験的学習を通して、教師としての力量形成の第一歩とする。また教職への適性を最終的に見定める。

Along with deepening their understanding of schools, the situations surrounding them and children, through education practice, students will also take the first steps toward developing proficiency as teachers through classes that develop their abilities. Also, students will ultimately judge their suitability for becoming teachers.

## 授業の内容 / Course Contents

教育実習は、事前指導、学校現場での教育実習、事後指導の3つから成り立つ。

事前指導では、指導担当教員との打合わせ、実習への心構えや諸注意に関する具体的な講義、現職教員による講話を予定している。学校現場での教育実習は4週間とし、大学の担当教員は小学校に出向いて授業を参観、



講評などを行う。事後指導では、実習の振り返りと、教育問題についての講話を通して、各自の実習体験を対象化できるようにする。

The teaching practicum is comprised of three parts: prior instruction, teacher practicum on-site at schools and follow-up instruction.

In the prior instruction, students will meet with the instructing teacher in charge, have a specific lecture relating to practicum preparation and various points of caution, as well as attending a lecture from a current teacher.

Students will have four weeks of teaching practicum on-site at a school, and the university instructor in charge will observe and evaluate their classes. In the follow-up instruction, students will reflect on the practicum, and through discussing education problems, each student's practicum experience will be addressed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：第 1 回事前指導－手続きの説明，実習担当教員との打合わせ
- 2 回：事前指導
- 3 回：第 2 回事前指導－実習の意義と位置づけ，児童理解・指導法などに関する講義
- 4 回：第 3 回事前指導－現職教員による講話
- 5 回：春学期教育実習
- 6 回：春学期教育実習
- 7 回：春学期教育実習
- 8 回：春学期教育実習
- 9 回：春学期事後指導
- 10 回：秋学期教育実習
- 11 回：秋学期教育実習
- 12 回：秋学期教育実習
- 13 回：秋学期教育実習
- 14 回：秋学期事後指導

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業外に指導を受けたり，近隣の学校訪問をしたりすることがある。

テキストをよく読んで理解しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習レポート:40% 各学校での教育実習の取り組み:60%

### テキスト / Textbooks

『初等教育実習必携』『教育実習の記録』（大学から配布する）

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

1. 3 年次から既に事前指導が始まるのでそれらの授業にも必ず出席すること。

2. 事前事後指導，教育実習共に通常の授業以上の時間を必要とする。

# 音楽実技 1 a

Music: Vocal and Instrument 1a

小学校音楽科のための理論と実技

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校音楽科に必要な基礎的な音楽知識と技能を身に付けることを目的とする。

The purpose of this course is to acquire students with the basic musical knowledge and skills necessary for music studies of elementary school.

## 授業の内容 / Course Contents

楽譜の読み方等の基礎的な音楽理論、ピアノ、リコーダー、歌唱等の音楽実技を行う。教育の現場で必要となる音楽の力を伸ばすと同時に、学生自身が音楽を愛好し、親しむ習慣を身に付けることが望ましい。

Basic music theory, such as how to read music scores, and practical music skills, such as piano, recorder, and singing, will be provided. It is desirable for students to develop the musical skills needed in the field of education, while at the same time developing a love of music and a habit of familiarity with it yourselves.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス及び小学校音楽科学習指導要領解説

『小学校学習指導要領解説 音楽編』を持参すること

- 2回：・A表現 歌唱①歌唱の基礎
- ・A表現 器楽① 鍵盤楽器演奏の基礎:姿勢、指番号、指遣い
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き① 音部記号と音高
- 3回：・A表現 歌唱② 第1学年の共通教材の歌唱及び階名唱<うみ><ひのまる>
- ・A表現 器楽② 伴奏の基礎
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き② 単純拍子と音価
- 4回：・A表現 器楽③ 伴奏の技能と工夫
- ・A表現 音楽づくり①リズムづくり
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き③ 複合拍子と音価
- 5回：・A表現 歌唱③ 第1学年の共通教材の歌唱及び階名唱<かたつむり><ひらいたひらいた>
- ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き④ 全音と半音、シャープとフラット
  - ・弾き歌い課題発表(1)第1学年の共通教材より指定
- 6回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑤ 長調と短調、調と調号
- 7回：・A表現 歌唱④ 第2学年の共通教材及び階名唱,<かくれんぼ><春がきた>
- ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑥ 様々な記号や用語
  - ・弾き歌い課題発表(2)第1学年の共通教材より指定
- 8回：・A表現 器楽④ リコーダーの基礎
- ・共通事項
- 9回：・A表現 歌唱⑤ 第2学年の共通教材及び階名唱<虫のこえ><夕やけこやけ>
- ・A表現 器楽⑤ 器楽合奏
  - ・A表現 音楽づくりと共通事項①
  - ・歌唱課題発表
- 10回：・A表現 器楽⑥ 器楽合奏
- ・A表現 音楽づくりと共通事項②
- 11回：・A表現 歌唱⑥ 第3学年の共通教材及び階名唱<うさぎ><茶つみ>
- ・A表現 器楽⑦ 器楽合奏
  - ・リコーダー課題発表
- 12回：・A表現 歌唱⑦ 第3学年の共通教材及び階名唱<春の小川><ふじ山>
- 13回：・音楽理論のまとめ
- ・弾き歌い課題発表(3)低学年の共通教材より指定
- 14回：・総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に実技の修得については、授業時間外に継続的な練習をすることが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:10% 実技課題発表(ピアノの弾き歌い、歌唱、リコーダー):45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 ○

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 ○

・上記テキストの他、音楽理論についてレジュメを用いて学習を行う。

### 参考文献 / Readings

ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワーク ドリル』 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 2006 4636801555

ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワーク テキスト』 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 2006 4636801547

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

### その他 / Others

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

# 音楽実技 1 b

Music: Vocal and Instrument 1b

小学校音楽科のための理論と実技

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校音楽科に必要な基礎的な音楽知識と技能を身に付けることを目的とする。

The purpose of this course is to acquire students with the basic musical knowledge and skills necessary for music studies of elementary school.

## 授業の内容 / Course Contents

楽譜の読み方等の基礎的な音楽理論、ピアノ、リコーダー、歌唱等の音楽実技を行う。教育の現場で必要となる音楽の力を伸ばすと同時に、学生自身が音楽を愛好し、親しむ習慣を身に付けることが望ましい。

Basic music theory, such as how to read music scores, and practical music skills, such as piano, recorder, and singing, will be provided. It is desirable for students to develop the musical skills needed in the field of education, while at the same time developing a love of music and a habit of familiarity with it yourselves.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス及び小学校音楽科学習指導要領解説

『小学校学習指導要領解説 音楽編』を持参すること

- 2回：・A表現 歌唱①歌唱の基礎
- ・A表現 器楽① 鍵盤楽器演奏の基礎:姿勢、指番号、指遣い
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き① 音部記号と音高
- 3回：・A表現 歌唱② 第1学年の共通教材の歌唱及び階名唱<うみ><ひのまる>
- ・A表現 器楽② 伴奏の基礎
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き② 単純拍子と音価
- 4回：・A表現 器楽③ 伴奏の技能と工夫
- ・A表現 音楽づくり①リズムづくり
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き③ 複合拍子と音価
- 5回：・A表現 歌唱③ 第1学年の共通教材の歌唱及び階名唱<かたつむり><ひらいたひらいた>
- ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き④ 全音と半音、シャープとフラット
  - ・弾き歌い課題発表(1)第1学年の共通教材より指定
- 6回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑤ 長調と短調、調と調号
- 7回：・A表現 歌唱④ 第2学年の共通教材及び階名唱<かくれんぼ><春がきた>
- ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑥ 様々な記号や用語
  - ・弾き歌い課題発表(2)第1学年の共通教材より指定
- 8回：・A表現 器楽④ リコーダーの基礎
- ・共通事項
- 9回：・A表現 歌唱⑤ 第2学年の共通教材及び階名唱<虫のこえ><夕やけこやけ>
- ・A表現 器楽⑤ 器楽合奏
  - ・A表現 音楽づくりと共通事項①
  - ・歌唱課題発表
- 10回：・A表現 器楽⑥ 器楽合奏
- ・A表現 音楽づくりと共通事項②
- 11回：・A表現 歌唱⑥ 第3学年の共通教材及び階名唱<うさぎ><茶つみ>
- ・A表現 器楽⑦ 器楽合奏
  - ・リコーダー課題発表
- 12回：・A表現 歌唱⑦ 第3学年の共通教材及び階名唱<春の小川><ふじ山>
- 13回：・音楽理論のまとめ
- ・弾き歌い課題発表(3)低学年の共通教材より指定
- 14回：・総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に実技の修得については、授業時間外に継続的な練習をすることが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:10% 実技課題発表(ピアノの弾き歌い、歌唱、リコーダー):45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 ○

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 ○

・上記テキストの他、音楽理論についてレジュメ用いて学習を行う。

### 参考文献 / Readings

ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワーク ドリル』 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 2006 4636801555

ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワーク テキスト』 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 2006 4636801547

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

### その他 / Others

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。



# 音楽実技 1c

Music: Vocal and Instrument 1c

小学校音楽科のための理論と実技

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校音楽科に必要な基礎的な音楽知識と技能を身に付けることを目的とする。

The purpose of this course is to acquire students with the basic musical knowledge and skills necessary for music studies of elementary school.

## 授業の内容 / Course Contents

楽譜の読み方等の基礎的な音楽理論、ピアノ、リコーダー、歌唱等の音楽実技を行う。教育の現場で必要となる音楽の力を伸ばすと同時に、学生自身が音楽を愛好し、親しむ習慣を身に付けることが望ましい。

Basic music theory, such as how to read music scores, and practical music skills, such as piano, recorder, and singing, will be provided. It is desirable for students to develop the musical skills needed in the field of education, while at the same time developing a love of music and a habit of familiarity with it yourselves.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス及び小学校音楽科学習指導要領解説

『小学校学習指導要領解説 音楽編』を持参すること

- 2回：・A表現 歌唱①歌唱の基礎
- ・A表現 器楽① 鍵盤楽器演奏の基礎:姿勢、指番号、指遣い
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き① 音部記号と音高
- 3回：・A表現 歌唱② 第1学年の共通教材の歌唱及び階名唱<うみ><ひのまる>
- ・A表現 器楽② 伴奏の基礎
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き② 単純拍子と音価
- 4回：・A表現 器楽③ 伴奏の技能と工夫
- ・A表現 音楽づくり①リズムづくり
  - ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き③ 複合拍子と音価
- 5回：・A表現 歌唱③ 第1学年の共通教材の歌唱及び階名唱<かたつむり><ひらいたひらいた>
- ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き④ 全音と半音、シャープとフラット
  - ・弾き歌い課題発表(1)第1学年の共通教材より指定
- 6回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑤ 長調と短調、調と調号
- 7回：・A表現 歌唱④ 第2学年の共通教材及び階名唱<かくれんぼ><春がきた>
- ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑥ 様々な記号や用語
  - ・弾き歌い課題発表(2)第1学年の共通教材より指定
- 8回：・A表現 器楽④ リコーダーの基礎
- ・共通事項
- 9回：・A表現 歌唱⑤ 第2学年の共通教材及び階名唱<虫のこえ><夕やけこやけ>
- ・A表現 器楽⑤ 器楽合奏
  - ・A表現 音楽づくりと共通事項①
  - ・歌唱課題発表
- 10回：・A表現 器楽⑥ 器楽合奏
- ・A表現 音楽づくりと共通事項②
- 11回：・A表現 歌唱⑥ 第3学年の共通教材及び階名唱<うさぎ><茶つみ>
- ・A表現 器楽⑦ 器楽合奏
  - ・リコーダー課題発表
- 12回：・A表現 歌唱⑦ 第3学年の共通教材及び階名唱<春の小川><ふじ山>
- 13回：・音楽理論のまとめ
- ・弾き歌い課題発表(3)低学年の共通教材より指定
- 14回：・総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に実技の修得については、授業時間外に継続的な練習をすることが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:10% 実技課題発表(ピアノの弾き歌い、歌唱、リコーダー):45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 ○

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 ○

・上記テキストの他、音楽理論についてレジュメを用いて学習を行う。

### 参考文献 / Readings

ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワーク ドリル』 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 2006 4636801555

ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワーク テキスト』 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス 2006 4636801547

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

### その他 / Others

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

## 音楽実技 2 a

Music: Vocal and Instrument 2a

小学校音楽科のための理論と実技

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF125

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「音楽実技 1」で身に付けた知識及び技能を発展させ、実際の授業場面を意識しながら身に付けることを目的とする。

The purpose of this course is to develop the knowledge and skills acquired in "Music: Vocal and Instrument 1", while being aware of actual classroom situations.

### 授業の内容 / Course Contents

音楽理論については、音程、和音、移調を学習し、鑑賞に必要な音楽史についてはプレゼンテーションを行うことで学ぶ。実技についてはピアノ、歌唱、リコーダー等を引き続き行う。教育の現場で必要となる音楽の力を伸ばすと同時に、学生自身が音楽を愛好し、親しむ習慣を身に付けることが望ましい。

Regarding music theory, students will study intervals, chords, and transpositions, and learn about the history of music necessary for appreciation in the presentations. Practical skills such as piano, singing, recorder, etc. will be continued. It is desirable for students to develop the musical skills needed in the field of education, while at the

same time developing a love of music and a habit of familiarity with it yourselves.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き① 音程の基礎

2回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き② 音程の応用

・A表現 歌唱① 4年生の共通教材の歌唱及び階名唱<さくらさくら>、<とんび>

3回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き③ 音程のまとめ

・A表現 器楽① 色々な楽器と器楽教材

4回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き④ 三和音の基礎

・A表現 器楽② 色々な楽器と器楽教材の合奏

・弾き歌い課題(1) 第2学年の共通教材より指定

5回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑤ 和音の機能とその働き

・A表現 歌唱② 4年生の共通教材の歌唱及び階名唱<まきばの朝>、<もみじ>

・A表現(3)音楽づくり① ICTを使った音楽づくり

6回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑥ コードネーム

・A表現 音楽づくり② ICTを使った音楽づくりの発表

7回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑦ 和音のまとめ

・A表現 歌唱③ 5年生の共通教材の歌唱及び階名唱

・弾き歌い(2) 第2学年の共通教材より指定

8回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑧ 移調

9回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑨ 移調の実践

・歌唱課題発表

10回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑩ 移調の練習

・A表現 歌唱④ 6年生の共通教材の歌唱及び階名唱

11回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑪ 移調の応用

・A表現 器楽③ 色々な楽器と器楽教材の合奏

12回：・B鑑賞① 音楽史プレゼンテーションの説明とグループワーク

・A表現 器楽④ 色々な楽器と器楽教材の合奏

・リコーダー課題発表

13回：・B鑑賞② 音楽史プレゼンテーション

14回：総括

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

目標に到達するためには事前事後の学習に意欲的に取り組むことが必要とされる。特に実技の修得については、授業時間外に継続的な練習をすることが求められる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:10% 実技課題発表(ピアノの弾き歌い、歌唱、リコーダー):45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45%

**テキスト / Textbooks**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 -

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 -

・上記テキストの他、音楽理論については授業で配布するレジュメを用いて学習を行う。

**参考文献 / Readings**

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワークドリル』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 2006 4636801555

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワークテキスト』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 2006 4636801547

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

・リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

・ICTを用いた音楽づくり、音楽史プレゼンテーションではPC又はタブレットを利用する。

**その他 / Others**

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

## 音楽実技 2b

Music: Vocal and Instrument 2b

小学校音楽科のための理論と実技

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF126

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「音楽実技 1」で身に付けた知識及び技能を発展させ、実際の授業場面を意識しながら身に付けることを目的とする。

The purpose of this course is to develop the knowledge and skills acquired in "Music: Vocal and Instrument 1", while being aware of actual classroom situations.

### 授業の内容 / Course Contents

音楽理論については、音程、和音、移調を学習し、鑑賞に必要な音楽史についてはプレゼンテーションを行うことで学ぶ。実技についてはピアノ、歌唱、リコーダー等を引き続き行う。教育の現場で必要となる音楽の力を伸ばすと同時に、学生自身が音楽を愛好し、親しむ習慣を身に付けることが望ましい。

Regarding music theory, students will study intervals, chords, and transpositions, and learn about the history of music necessary for appreciation in the presentations. Practical skills such as piano, singing, recorder, etc. will be continued. It is desirable for students to develop the musical skills needed in the field of education, while at the

same time developing a love of music and a habit of familiarity with it yourselves.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き① 音程の基礎

2回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き② 音程の応用

・A表現 歌唱① 4年生の共通教材の歌唱及び階名唱<さくらさくら>、<とんび>

3回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き③ 音程のまとめ

・A表現 器楽① 色々な楽器と器楽教材

4回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き④ 三和音の基礎

・A表現 器楽② 色々な楽器と器楽教材の合奏

・弾き歌い課題(1) 第2学年の共通教材より指定

5回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑤ 和音の機能とその働き

・A表現 歌唱② 4年生の共通教材の歌唱及び階名唱<まきばの朝>、<もみじ>

・A表現(3)音楽づくり① ICTを使った音楽づくり

6回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑥ コードネーム

・A表現 音楽づくり② ICTを使った音楽づくりの発表

7回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑦ 和音のまとめ

・A表現 歌唱③ 5年生の共通教材の歌唱及び階名唱

・弾き歌い(2) 第2学年の共通教材より指定

8回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑧ 移調

9回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑨ 移調の実践

・歌唱課題発表

10回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑩ 移調の練習

・A表現 歌唱④ 6年生の共通教材の歌唱及び階名唱

11回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑪ 移調の応用

・A表現 器楽③ 色々な楽器と器楽教材の合奏

12回：・B鑑賞① 音楽史プレゼンテーションの説明とグループワーク

・A表現 器楽④ 色々な楽器と器楽教材の合奏

・リコーダー課題発表

13回：・B鑑賞② 音楽史プレゼンテーション

14回：総括

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

目標に到達するためには事前事後の学習に意欲的に取り組むことが必要とされる。特に実技の修得については、授業時間外に継続的な練習をすることが求められる。



**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:10% 実技課題発表(ピアノの弾き歌い、歌唱、リコーダー):45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45%

**テキスト / Textbooks**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 -

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 -

・上記テキストの他、音楽理論については授業で配布するレジュメを用いて学習を行う。

**参考文献 / Readings**

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワークドリル』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 2006 4636801555

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワークテキスト』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 2006 4636801547

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

・リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

・ICTを用いた音楽づくり、音楽史プレゼンテーションではPC又はタブレットを利用する。

**その他 / Others**

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

## 音楽実技 2c

Music: Vocal and Instrument 2c

小学校音楽科のための理論と実技

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「音楽実技 1」で身に付けた知識及び技能を発展させ、実際の授業場面を意識しながら身に付けることを目的とする。

The purpose of this course is to develop the knowledge and skills acquired in "Music: Vocal and Instrument 1", while being aware of actual classroom situations.

### 授業の内容 / Course Contents

音楽理論については、音程、和音、移調を学習し、鑑賞に必要な音楽史についてはプレゼンテーションを行うことで学ぶ。実技についてはピアノ、歌唱、リコーダー等を引き続き行う。教育の現場で必要となる音楽の力を伸ばすと同時に、学生自身が音楽を愛好し、親しむ習慣を身に付けることが望ましい。

Regarding music theory, students will study intervals, chords, and transpositions, and learn about the history of music necessary for appreciation in the presentations. Practical skills such as piano, singing, recorder, etc. will be continued. It is desirable for students to develop the musical skills needed in the field of education, while at the

same time developing a love of music and a habit of familiarity with it yourselves.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き① 音程の基礎

2回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き② 音程の応用

・A表現 歌唱① 4年生の共通教材の歌唱及び階名唱<さくらさくら>、<とんび>

3回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き③ 音程のまとめ

・A表現 器楽① 色々な楽器と器楽教材

4回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き④ 三和音の基礎

・A表現 器楽② 色々な楽器と器楽教材の合奏

・弾き歌い課題(1) 第2学年の共通教材より指定

5回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑤ 和音の機能とその働き

・A表現 歌唱② 4年生の共通教材の歌唱及び階名唱<まきばの朝>、<もみじ>

・A表現(3)音楽づくり① ICTを使った音楽づくり

6回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑥ コードネーム

・A表現 音楽づくり② ICTを使った音楽づくりの発表

7回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑦ 和音のまとめ

・A表現 歌唱③ 5年生の共通教材の歌唱及び階名唱

・弾き歌い(2) 第2学年の共通教材より指定

8回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑧ 移調

9回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑨ 移調の実践

・歌唱課題発表

10回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑩ 移調の練習

・A表現 歌唱④ 6年生の共通教材の歌唱及び階名唱

11回：・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語とその働き⑪ 移調の応用

・A表現 器楽③ 色々な楽器と器楽教材の合奏

12回：・B鑑賞① 音楽史プレゼンテーションの説明とグループワーク

・A表現 器楽④ 色々な楽器と器楽教材の合奏

・リコーダー課題発表

13回：・B鑑賞② 音楽史プレゼンテーション

14回：総括

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

目標に到達するためには事前事後の学習に意欲的に取り組むことが必要とされる。特に実技の修得については、授業時間外に継続的な練習をすることが求められる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:10% 実技課題発表(ピアノの弾き歌い、歌唱、リコーダー):45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45%

**テキスト / Textbooks**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 -

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 -

・上記テキストの他、音楽理論については授業で配布するレジュメを用いて学習を行う。

**参考文献 / Readings**

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワークドリル』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 2006 4636801555

ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 『実践 楽譜がよめる! 大人のための音楽ワークテキスト』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス 2006 4636801547

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

・リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

・ICTを用いた音楽づくり、音楽史プレゼンテーションではPC又はタブレットを利用する。

**その他 / Others**

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

# 造形表現 1 a

Art Education 1a

身体と素材と環境から誘発される表現に目を向ける

南雲 まき (NAGUMO MAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

受講者自身が造形活動を体験することによって造形的な視点を身につける。様々な素材や行為を通し、受講者自身がものをつくることの意義を感じられることを目標とする。

By experiencing children's formative activities, the students obtain formative perspectives. Through these activities, the students delve into the relationship of children's growth and learning with their formative expressions. Through various materials and activities, the course aims to let students know the fun and significance of expression by themselves.

## 授業の内容 / Course Contents

小学校「図画工作」の表現分野には「造形遊び」と「絵や立体、工作に表す活動」があり、鑑賞の分野もある。それらの活動について体験を通して学び、美術という営みが人間の学び、生とどのように関わっているかについて考える。

The elementary school's Arts and Crafts lessons consist of "formative play" and "activities expressed in drawings,

solid figures, and crafts” in the field of expression, and the students learn all of these activities through first-hand experiences. Students will consider the relationship between art and human life.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：素材の特性を活かして
- 3回：身近な素材からの造形－（１）
- 4回：身近な素材からの造形－（２）
- 5回：さまざまな技法と材料、用具を用いて－（１）
- 6回：さまざまな技法と材料、用具を用いて－（２）
- 7回：版に表す活動（１）
- 8回：版に表す活動（２）
- 9回：「造形遊び」
- 10回：立体
- 11回：絵画（１）
- 12回：絵画（２）
- 13回：光を用いた造形
- 14回：鑑賞と振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の活動を振り返り、半期の学びをまとめたポートフォリオを作成する。美術作品に限らず、身の回りの事象、自分を取り巻く物質に関心を持ち、能動的に関わる。また、美術、音楽、演劇鑑賞、読書など芸術に触れ、人間の表現活動についての考察を深める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ポートフォリオ:30% リアクションペーパー:30% 制作の取り組み:40%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』 日本文教出版 2018  
4536590110 -

### 参考文献 / Readings

小松佳代子 編著 『美術教育の可能性：作品制作と芸術的省察』 勁草書房 2018 9784326251254  
小松佳代子 編著 『アートベース・リサーチの可能性－制作・研究・教育をつなぐ』 勁草書房 2023  
4326800658

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基本的な描画材料、造形材料を扱う能力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Google classroom

**その他/ Others**

文部科学省 HP：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 図画工作編

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_008.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf)

# 造形表現 1 b

Art Education 1b

身体と素材と環境から誘発される表現に目を向ける

南雲 まき (NAGUMO MAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF142
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	1
科目ナンバリング：	EDU3720
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

受講者自身が造形活動を体験することによって造形的な視点を身につける。様々な素材や行為を通し、受講者自身がものをつくることの意義を感じられることを目標とする。

To acquire a formative point of view through the students' experiences in formative activities. The goal is for students to feel the significance of making things themselves through various materials and actions.

## 授業の内容 / Course Contents

小学校「図画工作」の表現分野には「造形遊び」と「絵や立体、工作に表す活動」があり、そのすべての活動について体験を通して学んでいく。美術という営みが人間の生とどのように関わっているかについて考える。

The elementary school's Arts and Crafts lessons consist of "formative play" and "activities expressed in drawings, solid figures, and crafts" in the field of expression, and the students learn all of these activities through first-hand experiences. Students will consider the relationship between art and human life.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：ガイダンス  
 2回：素材の特性を活かして  
 3回：身近な素材からの造形－（１）  
 4回：身近な素材からの造形－（２）  
 5回：さまざまな技法と材料、用具を用いて－（１）  
 6回：さまざまな技法と材料、用具を用いて－（２）  
 7回：版に表す活動（１）  
 8回：版に表す活動（２）  
 9回：「造形遊び」（１）  
 10回：立体  
 11回：絵画（１）  
 12回：絵画（２）  
 13回：光を用いた造形  
 14回：鑑賞と振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の活動を振り返り、半期の学びをまとめたポートフォリオを作成する。美術作品に限らず、身の回りの事象、自分を取り巻く物質に関心を持ち、能動的に関わる。また、美術、音楽、演劇鑑賞、読書など芸術に触れ、人間の表現活動についての考察を深める。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ポートフォリオ:30% リアクションペーパー:30% 制作の取り組み:40%

#### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』 日本文教出版 2018  
 4536590110 -

#### 参考文献 / Readings

小松佳代子 編 『美術教育の可能性：作品制作と芸術的省察』 勁草書房 2018 9784326251254  
 小松佳代子 編著 『アートベース・リサーチの可能性－制作・研究・教育をつなぐ』 勁草書房 2023  
 4326800658

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基本的な描画材料、造形材料を扱う能力

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Google classroom

#### その他 / Others

文部科学省 HP：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017)



## 造形表現 2 a

Art Education 2a

素材と環境から誘発される表現

南雲 まき (NAGUMO MAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF145
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	1
科目ナンバリング：	EDU3720
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

子どもの造形活動を受講者自身が体験しながら子どもの成長や学びと造形表現との関係について考える。何よりも、様々な素材や行為を通し、受講者自身が造形表現の意義を感じられることを目標とする。

By experiencing children's formative activities, the students obtain formative perspectives. Through these activities, the students delve into the relationship of children's growth and learning with their formative expressions. Through various materials and activities, the course aims to let students know the fun and significance of expression by themselves.

### 授業の内容 / Course Contents

小学校「図画工作」の表現分野には「造形遊び」と「絵や立体、工作に表す活動」があり、そのすべての活動について体験を通して学んでいく。美術という営みが人間の生とどのように関わっているかについて考える。

The elementary school's Arts and Crafts lessons consist of "formative play" and "activities expressed in drawings, solid figures, and crafts" in the field of expression, and the students learn all of these activities through first-hand

experiences. Students will consider the relationship between art and human life.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ワークショップ（1）
- 3回：ワークショップ（2）
- 4回：空間をつくる（1）
- 5回：空間をつくる（2）
- 6回：環境と表現（1）
- 7回：環境と表現（2）
- 8回：造形と文化（1）
- 9回：造形と文化（2）
- 10回：造形と文化（3）
- 11回：共同制作（1）
- 12回：共同制作（2）
- 13回：アーティストとの造形活動
- 14回：鑑賞と振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術作品に限らず、身の回りの事象、自分を取り巻く物質に関心をもち、能動的に関わる。また、美術、音楽、演劇鑑賞、読書など芸術に触れ、人間の表現活動についての考察を深める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ポートフォリオ:30% リアクションペーパー:30% 制作における取り組み:40%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』 日本文教出版 2018  
4536590110 -

### 参考文献 / Readings

小松佳代子 編著 『美術教育の可能性：作品制作と芸術的省察』 勁草書房 2018 9784326251254  
小松佳代子 編著 『アートベース・リサーチの可能性－制作・研究・教育をつなぐ』 勁草書房 2023  
4326800658

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的な描画材料、造形材料を扱う能力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Google classroom

### その他 / Others

文部科学省 HP：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_008.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf)

## 造形表現 2 b

Art Education 2b

素材と環境から誘発される表現

南雲 まき (NAGUMO MAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF146

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： EDU3720

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

子どもの造形活動を受講者自身が体験しながら、子どもの成長や学びと造形表現との関係について考える。何よりも、様々な素材や行為を通し、受講者自身が表現することの楽しさや意義を感じられることを目標とする。

By experiencing children's formative activities, the students obtain formative perspectives. Through these activities, the students delve into the relationship of children's growth and learning with their formative expressions. Through various materials and activities, the course aims to let students know the fun and significance of expression by themselves.

### 授業の内容 / Course Contents

小学校「図画工作」の表現分野には「造形遊び」と「絵や立体、工作に表す活動」があり、そのすべての活動について体験を通して学んでいく。美術という営みが人間の生とどのように関わっているかについて考える。

The elementary school's Arts and Crafts lessons consist of "formative play" and "activities expressed in drawings,

solid figures, and crafts” in the field of expression, and the students learn all of these activities through first-hand experiences. Students will consider the relationship between art and human life.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ワークショップ（1）
- 3回：ワークショップ（2）
- 4回：空間をつくる（1）
- 5回：空間をつくる（2）
- 6回：環境と表現（1）
- 7回：環境と表現（2）
- 8回：造形と文化（1）
- 9回：造形と文化（2）
- 10回：造形と文化（3）
- 11回：共同制作（1）
- 12回：共同制作（2）
- 13回：アーティストとの造形活動
- 14回：鑑賞と振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術作品に限らず、身の回りの事象、自分を取り巻く物質に関心をもち、能動的に関わる。また、美術、音楽、演劇鑑賞、読書など芸術に触れ、人間の表現活動についての考察を深める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ポートフォリオ:30% リアクションペーパー:30% 制作における取り組み:40%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』 日本文教出版 2018  
4536590110 -

### 参考文献 / Readings

小松佳代子 編著 『美術教育の可能性：作品制作と芸術的省察』 勁草書房 2018 9784326251254  
小松佳代子 編著 『アートベース・リサーチの可能性－制作・研究・教育をつなぐ』 勁草書房 2023  
4326800658

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的な描画材料、造形材料を扱う能力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Google classroom

### その他 / Others

文部科学省 HP：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 図画工作編

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_008.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf)



# 体育実技

Physical Education

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF149
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU3720
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2015 年度以前入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、小学校で実施する運動種目を扱いながら、それぞれの種目内容および教授法を理解する。また、児童の発育・発達に応じて、楽しく運動に親しみながら健康と体力の向上を目指した体育教育の指導法を学習することを目標とする。

In this class, while dealing with the types of exercise used in elementary schools, students will understand the contents and teaching methods of various sports events. Also, the class aims to help students learn instructional methods for physical education classes that improve pupils' health and physical strength while familiarizing them with fun exercises appropriate for pupil growth and development.

## 授業の内容 / Course Contents

体育指導要領の「適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを実技を通して理解する。また、「心と体を一体としてとらえて健全な成長を促す」という基本方針にくわえて「スポーツパーソンシップ」に関しても学習しながら体育授業の心構えと指導法の技術、知識を身につけ

る。基本的には、2時限の授業で1～2種目の運動種目を取り上げ、その種目の内容と練習方法を含めた教授法についての実技となる。また、池袋キャンパスで実施不可能な種目は、新座キャンパスや立教小学校の施設を利用して行う場合がある。

Students will come to understand the physical education curriculum's tenet of "through proper exercise experience and understanding of health and safety, ... develop basic qualities and the abilities to participate in enjoyable physical activity throughout their lives, maintain and improve their health and fitness and cultivate an appropriate attitude towards leading a pleasant and happy life" through practical experience. Also, adding to the basic principle of "promote healthy growth of pupils 'by considering physical and mental aspects in an integrated manner'," students will also become competent in preparation, teaching method techniques and knowledge of physical education classes while studying about "sportsmanship." Basically, one or two sport(s) will be taken in every two periods of the class. Practical experiences including contents and practice methods concerning such sport(s) will also be taken in the classes. Also, there are some events that cannot be held at the Ikebukuro Campus that will be conducted at the Niiza Campus or using Rikkyo Elementary School facilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：準備体操とストレッチング・アイスブレイク（鬼遊び）
- 2 回：体づくり運動系（縄跳び・動きづくり・ボール遊び）
- 3 回：運動遊び（一輪車・ジャグリング・バランスボール・ボルダリング）・器械運動系 1（鉄棒）
- 4 回：陸上競技系（かけっこ・リレー・ハードル走・跳躍）
- 5 回：表現運動系（表現リズム遊び・フォークダンス）
- 6 回：ボール運動系室内ゴール型 1（バスケットボール・ハンドボール）
- 7 回：ボール運動系室内ネット型 1（プレルボール・バレーボール）
- 8 回：ボール運動系室内ネット型 2（バドミントン・インディアカ・バドボン）
- 9 回：ボール運動系屋外ネット型（テニス）・屋外ゴール型（サッカー・フットサル）
- 10 回：ボール運動系室内ゴール型 2（ユニホック・アルティメット・フラッグフットボール）
- 11 回：ボール運動系ベースボール型
- 12 回：器械運動系 2（マット運動・跳び箱・組体操）
- 13 回：水泳運動系 1（ウォーター・エクササイズ・着衣泳）
- 14 回：水泳運動系 2（4 泳法・水球）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う運動種目の内容やルールについて、各自が事前に予習してくる。また、毎回運動が出来る服装、靴に着替えて集合すること。施設は主にポール・ラッシュ・アスレチックセンターを利用する予定。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:70% それぞれの運動種目の理解（レポート）:30%

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』 東洋館出版社 2015 9784491031613

**注意事項 (検索結果画面)**

2015年度以前入学者のみ履修可

# 理科教育法 b

Teaching Methods: Sciences

小学校理科の指導法

稲垣 成哲 (INAGAKI SHIGENORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF154

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ①小学校理科教育における学習指導法について理解し、授業設計のための基本事項を修得する。
- ②情報機器および教材の活用についての基礎的・基本的事項を理解し、その活用法を修得する。
- ③学習指導案を作成し、その指導案に基づいた模擬授業を実施することで、授業構想力ならびに指導力を養う。

The goals of this lecture are as follows.

- (1) To understand learning and teaching methods in elementary school science education, and to acquire basic knowledge for designing classes.
- (2) To understand the basics and fundamentals of using information devices and teaching materials, and to master how to use them.
- (3) To develop the ability to design lessons by creating a study plan and conducting a mock class based on the plan.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、初等教育における理科に関わる指導法について解説する。昨今、注目されている情報機器及びデジタルコンテンツの活用についても検討する。本授業では、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、模擬授業を実施するとともに、受講生のグループワークや討論の機会を数多く設ける。

In this lecture, teaching methods related to science in elementary education will be explained. The use of information devices and digital contents will also be discussed. In this lecture, the perspective of active learning will be incorporated, and mock classes will be conducted, as well as many opportunities for group work and discussion among the students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 小学校における理科の学習指導法
- 2 回：小学校理科における現状：全国学力・学習状況調査の結果から
- 3 回：小学校理科における実験観察：基礎的な実験観察器具の使用法 (1)
- 4 回：小学校理科における実験観察：基礎的な実験観察器具の使用法 (2)
- 5 回：小学校理科における学習指導案作成の基礎：教科書比較
- 6 回：小学校理科における学習指導案作成の基礎：教科書比較を踏まえた討論
- 7 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：ゲスト講師による指導案作成のポイント解説
- 8 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：ゲスト講師による板書のポイント解説
- 9 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：グループワークによる指導案の作成 (1)
- 10 回：小学校理科における模擬授業の実施 (1)
- 11 回：模擬授業の評価と改善
- 12 回：小学校理科における学習指導案作成の実際：グループワークによる指導案の作成 (2)
- 13 回：小学校理科における模擬授業の実施 (2)
- 14 回：全体のまとめ (最終レポート)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

模擬授業指導案の作成は、授業時間外に予習として行うことがある。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出物 (模擬授業指導案など) :40% リアクションペーパー:20% その他の提出物:10% 最終レポート割合 :30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

文部科学省の小学校学習指導要領解説 理科編はダウンロード可能である。

その他、適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

適宜、指示する。

**その他/ Others**

- ・初回のオリエンテーション時にシラバスの変更点などを指示することがある。
- ・PowerPointを使用した講義形式で、映像資料や現物資料などを適宜活用する。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、模擬授業や演習などを適宜行うことがある。
- ・模擬授業は可能な限り全員が実施できるように計画する（受講生の人数に依存するが）。
- ・遠隔のゲストスピーカーを招待する計画があるが現在は未定である。
- ・シラバスは受講生の数などに応じて、若干の変更があるかもしれない。

## 図画工作科教育法 b

Teaching Methods: Painting and Handwork

初等教育段階における美術教育はどうあるべきかを考える。

南雲 まき (NAGUMO MAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF158

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

造形表現への理解をもとに、子どもの関心や実態に即した活動を計画することができるようになる。自ら教材研究を通して豊かで多様な表現を誘発する働きかけを模索する姿勢を身につける。

The students will be able to plan activities in line with children's interests and realities based on their understanding of formative expressions. The students acquire an attitude in which they prioritize children's physicality and pursue ways to bring out rich and diverse expressions from children by studying teaching materials.

### 授業の内容 / Course Contents

小学校学習指導要領をもとに、領域「表現」、「鑑賞」、「共通事項」と各学年の目標と内容について学びながら、受講者が自ら指導計画を立て、模擬授業を行う。教材研究、学習指導要領の書き方、年間指導計画の立て方、評価方法等についても学んでいく。

Based on the Elementary School Curriculum Guidelines, the students learn about the learning arenas of "expression", "appreciation", and "common matters", as well as the goals and study contents set up for respective

school year. Then, they independently prepare a teaching plan and organize a mock lesson. The students also learn about how to study teaching materials, write curriculum guidelines, establish annual teaching plans, and assess children's progress.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス「日本の初等教育における図画工作の歴史を振り返って」
- 2 回：領域「表現」について
- 3 回：領域「鑑賞」について
- 4 回：学習指導案の作成と教材研究について
- 5 回：学習指導案の立案「造形遊び」
- 6 回：個人の指導案をもとに低学年、中学年、高学年のグループに分かれて学習指導案の立案
- 7 回：低学年、中学年、高学年のグループに分かれて学習指導案の改善
- 8 回：低学年、中学年、高学年のグループに分かれて教材研究
- 9 回：低学年、中学年、高学年のグループに分かれての授業提案と模擬授業
- 10 回：学習指導案の立案「絵や立体・工作」
- 11 回：学習指導案の改善
- 12 回：授業提案と模擬授業（1）
- 13 回：授業提案と模擬授業（2）
- 14 回：授業提案と模擬授業（3）年間指導計画の作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図画工作科の学習指導計画立案においては、立案者とその素材や用具、活動の指導ができることが必要である。また、その活動を通して子どもたちがどのような点に関心をもち、楽しさを感じるか、体験を通して理解することが必要である。そのため、授業外でも教材研究を通して計画の改善を図ること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学習指導案（造形遊び）：20% 学習指導案（絵や立体・工作）：20% 模擬授業（集団）：20% 模擬授業（個人）：20% リアクションペーパー：20%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』 日本文教出版 2018  
4536590110 ○

### 参考文献 / Readings

小松佳代子 編著 『美術教育の可能性：作品制作と芸術的省察』 勁草書房 2018 9784326251254  
小松佳代子 編著 『アートベース・リサーチの可能性－制作・研究・教育をつなぐ』 勁草書房 2023  
4326800658

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的な造形活動を行う能力、Word等の文章作成ソフトを活用する能力



**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Google classroom、学習指導案を作成することができる PC 等

# 国語科教育法 a

Teaching Methods: Japanese Language

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF161  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校国語科における授業の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

Students will understand class objectives and content of elementary school Japanese classes, and become competent with arranging classes appropriate to various specific learning settings based on learning instruction theory.

## 授業の内容 / Course Contents

- 前半：学習指導要領に示されている国語科の目標や内容を理解し、国語科の背景となる学問領域について学ぶ。
- 後半：学習指導案を作成するためのポイントを学んだ後、模擬授業に取り組む。
- First half: Students will understand the goals and contents of Japanese language studies as indicated in the Courses of Study, and furthermore, students will learn about the academic fields behind Japanese language studies.
- Second half: Students will learn the key points for creating a teaching plan, and then engage in a mock class.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション：授業の流れの確認、自己紹介など
- 2回：学習指導要領における国語科の目標と内容、全体構造の理解と批判的検討
- 3回：学習者の実態を視野に入れた授業づくりと国語科授業の評価
- 4回：国語科の背景となる学問領域との関係、学習指導案作成のポイント
- 5回：模擬授業（1：低学年文学教材）とそのリフレクション
- 6回：模擬授業（2：中学年文学教材）とそのリフレクション
- 7回：模擬授業（3：高学年文学教材）とそのリフレクション
- 8回：模擬授業（4：低学年説明文教材）とそのリフレクション
- 9回：模擬授業（5：中学年説明文教材）とそのリフレクション
- 10回：模擬授業（6：高学年説明文教材）とそのリフレクション
- 11回：模擬授業（7：その他の言語事項など）とそのリフレクション
- 12回：模擬授業（8：その他の言語事項など）とそのリフレクション
- 13回：国語科授業における情報機器の効果的な活用、書写指導のポイント
- 14回：授業のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

模擬授業担当回の学習指導案提出は必須。児童役の学生も当該教材を事前に読み込んでおくこと。自分ならばどう授業するかをイメージして授業に臨むこと。授業終了後はリアクションペーパーを提出してもらう。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業中提出する学習指導案（複数回）:50%

欠席が4回になった時点でD評価となる。出席と平常点については初回の授業で詳細を説明する。

**テキスト / Textbooks**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社 2018 9784491034621 ○

テキストは必ず購入のこと。

**参考文献 / Readings**

澤本和子・授業リフレクション研究会編 『国語科授業研究の展開』 東洋館出版社 2016 9784491032023

森山卓郎編著 『コンパクトに書く国語科授業モデル：書けない子も書けるようになる!』 明治図書 2016 9784182214257

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

その他の参考文献は授業中に紹介する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回ノート PC かタブレットを持参すること。

コミュニケーションツールとして slack を活用する。

# 社会科教育法 a

Teaching Methods: Social Studies

子どもが主役になる社会科授業の創造

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) 小学校社会科の意義や目標、学習内容について学習指導要領に即して理解する。
- 2) 一方で社会科の背景となっている社会科学の思想と方法に依拠し、他方で民主主義社会を担う主体を形成する社会科の本旨に従った教材研究や授業開発ができるようになる。
- 3) 子どもが学習者として主体性を発揮できる社会科の授業方法について習熟する。

1) Students will acquire a basic understanding of purpose, goal, and content of elementary school Social Studies classes in line with government course guidelines.

2) Students will be able to research teaching materials and to make lesson plans of elementary school Social Studies, by building on the ideas and methods of social science, the backbone of Social Studies, and by conforming to the principle of the subject which is to bring up citizens supporting democratic society.

3) Students will master a teaching method of elementary school Social Studies in which children can take the initiative.

## 授業の内容 / Course Contents

小学校の社会科教育に関する理論的・実践的諸問題を考察し、指導計画から評価を含む指導法の実際を体験的に学ぶ。

Students will consider theoretical and practical issues relating to Social Studies in elementary schools and will learn instructional methods through actual experiences including instruction plans and evaluations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：小学校社会科の授業と教師像の転換
- 2 回：小学校社会科の目標と学習内容
- 3 回：社会科授業と教材①
- 4 回：社会科授業と教材②
- 5 回：社会科授業と教材③
- 6 回：小学校社会科教育実践の分析①
- 7 回：小学校社会科教育実践の分析②
- 8 回：小学校社会科教育実践の分析③
- 9 回：小学校社会科教育実践の分析④
- 10 回：学生による模擬授業①
- 11 回：学生による模擬授業②
- 12 回：学生による模擬授業③
- 13 回：学生による模擬授業④
- 14 回：社会科授業の学力と評価

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の性格上、履修者は予習が不可欠である。授業を通じて与えられる課題に誠実に向き合い、時間をかけて取り組むこと。また、文部科学省の Web サイトにアクセスし、「学習指導要領」をはじめとして、社会科教育に関する情報を入手し、自主的に理解を深めておくこと。その他、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 社会科教師の力量形成に関するレポート:20% 授業への参加とレスポンスシート:30%

なお、欠席回数が3回を超えたものについてはD評価とする。立教大学はいわゆる公欠制度を認めていない。この点については留意されたい。

### テキスト / Textbooks

小園崇明・渡辺哲郎・和田悠（編著）千葉県歴史教育者協議会編集協力 『子どもとつくる平和の教室』 はるか書房 2019 4434256327 ○

テキストに掲載された実践記録について授業内で検討する。授業開始時までには入手しておくこと。これに加えてプリントで教材を配布する。

### 参考文献 / Readings

授業内で随時紹介する。歴史教育者協議会編『歴史地理教育』（立教大学図書館に配架）も積極的に利用された  
い。

# 算数科教育法 a

Teaching Methods: Mathematics

小学校算数科の教材と指導法

奥山 貴規 (OKUYAMA TAKANORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1) 小学校算数科で指導する内容とその意義を理解し、その指導と評価の在り方を知る。

2) 算数科の指導と評価の実践から、児童理解を深める。

1) Students will understand teaching methods and their significance for elementary school math classes, and know about the relevant instruction and evaluation methods.

2) Students will deepen their understanding of pupils from practical instruction and evaluation of math classes.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は、算数の指導の内容や方法を理解する。後半は、学習指導案を作るポイントを学ぶ。

In the first half of the class, students will understand math instruction contents and methods. In the second half of the class, students will learn the methods of class planning.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション(講義の進め方、算数科の目標と領域の構成)

2 回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点①～整数・小数・分数～

- 3回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点②～加法・減法～  
 4回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点③～乗法～  
 5回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点④～除法～  
 6回：B「図形」領域の教材と指導及び留意点①～平面図形～  
 7回：B「図形」領域の教材と指導及び留意点②～立体図形～  
 8回：B「図形」領域の教材と指導及び留意点③～算数作品作り～  
 9回：C「測定」「変化と関係」領域の教材と指導及び留意点①～測定～  
 10回：C「測定」「変化と関係」領域の教材と指導及び留意点②～変化と関係～  
 11回：D「データの活用」領域の教材と指導及び留意点①～表とグラフ～  
 12回：算数パズル・ゲームの紹介  
 13回：算数の教材・教具の紹介  
 14回：算数科における ICT 機器の利用について

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 算数編』の該当箇所を読み、内容を理解する。そして、授業で扱った教材や算数教科書(検定教科書)で扱われている教材を分析し、授業者の視点でそれらの教材を用いた授業展開を具体的に考えてみる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% 授業内に指示した提出物(作品や小レポート):30% レポート(学習指導案)の作成:30%

欠席が4回以上の場合、単位習得不可。

### テキスト / Textbooks

テキストは使用せず、講義時に資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 算数編』 日本文教出版 2018  
9784536590105

講義の中で、随時紹介する。

### その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、板書や現物資料、映像資料なども適宜活用する。

講義では、はさみを使用することが多いので、常時準備すること。

また、算数作品作りや教材作成のために、三角定規・分度器・コンパス・はさみ・のり・色鉛筆を使用する。

それらを使用する際は授業前に連絡するので、各自用意すること。



# 生活科教育法 a

Teaching Methods: Life Environmental Studies

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF164  
授業形態： 対面（一部オンライン）  
授業形態（補足事項） オンライン回：第5、6回  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に支援された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

Students will understand class objectives and content of elementary school Life Environmental studies classes, and become competent in arranging classes appropriate to various specific learning settings based on learning instruction theory.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は、学習指導要領に示された生活科の目標や内容、生活科の背景となる学問領域との関係を理解する。その後は、学習指導案作りのポイントを学んだ後、指導案を作成し模擬授業の取り組む。模擬授業を行った翌週はリフレクションを行い、授業改善のための視点を身につける。

In the first half of the class, students will understand the relationships between the class objectives and content laid out by the elementary school curriculum guidelines and the academic discipline behind Life Environmental Studies classes. After that, once students have learned the class planning method points, they will carry out mock

classes they have planned. The week after the mock classes are conducted, students will reflect and become familiar with perspectives regarding class improvement.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：生活科のイメージ
- 2回：学習指導要領における生活科の目標と内容、全体構造の理解
- 3回：生活科授業をどう評価するか
- 4回：生活科の背景となる学問領域と教材研究
- 5回：学習者の実態を視野に入れた授業づくりをどのように行えばよいか（オンライン）
- 6回：指導案作成の方法：目標・内容・方法・評価（オンライン）
- 7回：指導案作成と模擬授業（1）学校、家庭及び地域の生活に関する内容
- 8回：前回の模擬授業のリフレクション
- 9回：指導案作成と模擬授業（2）身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容
- 10回：前回の模擬授業のリフレクション
- 11回：指導案作成と模擬授業（3）自分自身の生活や成長に関する内容
- 12回：前回の模擬授業のリフレクション
- 13回：生活科の授業改善とカリキュラム編成
- 14回：生活科授業における情報機器の効果的な活用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本科目では、実際に自分で調査などを行うことを求めるものになるため、授業時間外の学習時間は多くなることに留意すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業内レポート:30% 授業内レポート:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

授業の進行に伴って、オンライン利用での授業を数回予定している。詳細は事前に授業内で連絡する。

# 家庭科教育法 a

Teaching Methods: Home Economics

小学校家庭科教育法－教科理解と指導法

増茂 智子 (MASUMO TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校における家庭科教育の指導に必要な知識と技能を習得し、児童・生徒の生きる力を育む教科「家庭」の魅力を探りながら、授業を創造する力を身につけることを目指す

Students will acquire the necessary knowledge and skills for home economics classes in elementary schools, and aim to become competent in class creation while deepening the appeal of the subject of home economics which develops life skills in pupils and students.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は小学校家庭科教育の目標、内容、指導計画および学習指導案の作成方法、評価等について概説する。関連して児童を取り巻く生活課題に気づき、生きる力を身につけるための家庭科教育の果たす役割や可能性について検討していく。一方小学校家庭科の指導で必要とされる技能面の習得もめざしていく。そのため、後半は可能な限り体験学習（裁縫・ミシン縫いと製作活動、調理実習等）も取り入れ、実習題材の教材研究を深めていく。また同時に模擬授業も多く取り入れながら授業創造力を培っていく予定である。

Students will have an overview of the academic objectives, contents, instruction plan and lesson plan

construction, and evaluation, etc., of elementary school home economics classes. Students will become aware of lifestyle issues affecting pupils, and consider their role and the possibilities of home economics education in developing pupils' life skills. Meanwhile, students will aim to acquire the technical aspects necessary for teaching elementary school home economics classes. For that purpose, as much as possible, the class will incorporate learning through experiences (garment making, textiles and cooking, etc.). Students will deepen their material research of practical learning materials, and take part in numerous mock lessons which are planned for the class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（家庭科を学ぶ意義、授業予定等） 模擬授業のグループ決めも予定
- 2回：家庭科の目標・内容について（学習指導要領の確認） 他
- 3回：家庭科の学習指導、ICTの活用、指導計画等について
- 4回：家庭科の評価と学習指導案の作成について 他
- 5回：模擬授業に向けての準備（領域別教材研究と指導における留意点について）
- 6回：衣生活領域 実習教材の検討①基礎縫いの知識と技能及び指導における留意点－講義と手縫いの実習
- 7回：衣生活領域 実習教材の検討②基礎縫いの知識と技能－ミシン縫いの実習および生活を豊かにするものの製作（前半）
- 8回：衣生活領域 実習教材の検討③生活を豊かにするものの製作（後半・仕上げへ）
- 9回：食生活領域 実習教材の検討①調理の基礎としての知識と技能及び指導における留意点（講義のみ）
- 10回：授業研究 教材研究をメインにした模擬授業①領域A 家族・家庭生活、振り返り研究協議
- 11回：授業研究 教材研究をメインにした模擬授業②領域B 衣食住の生活、振り返り研究協議
- 12回：授業研究 教材研究をメインにした模擬授業③領域C 消費生活・環境、振り返り研究協議
- 13回：授業研究 導入の工夫に注目した個人模擬授業（一人ずつの発表）とここまでの学習のまとめ（調理実習に向けての確認） 他
- 14回：食生活領域 実習教材の検討②炊飯とみそ汁作り（調理実習指定教材）をメインにした調理実習の実際と指導における留意点の確認

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

模擬授業に向けた教材研究、学習指導案の作成及び教材教具の準備はグループの場合と個人の場合の2つのタイプを実施する予定である。それぞれに向けてしっかり準備し臨んでほしい。

また実習授業に関して、衣生活領域の作品製作のための計画は授業時間外の取り組みになる。また実習授業内で完成できなかった場合には補習（昼休みを想定）を設定する予定である。遅れ気味の受講生はそれらにも積極的に取り組んでほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学習指導案の作成と模擬授業・発表:35% 実習教材への取り組みと提出物（作品・小レポート等）:35% 授業内確認小テスト:30%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説家庭編』 東洋館出版社 2018 9784491034669 ○

浜島京子他著 『新しい家庭5・6』 東京書籍 2020 9784487105908 ○

模擬授業において小学校家庭科教科書は必携。是非丸善キャンパスショップ立教池袋店に注文した上で準備しておいてほしい。不都合が生じた場合は、増茂まで相談してほしい。

### 参考文献 / Readings

池崎喜美恵編著 『小学校指導法 家庭』 玉川大学出版部 2020 9784472405815

渡瀬典子他著 『初等家庭科教育法』 萌文書林 2023 9784893474001

鳴海多恵子 『わたしたちの家庭科 小学校5・6』 開隆堂出版 2020 9784304080869

生活の学びの研究会 『生活からはじめる教育 コロナ禍が教えてくれたこと』 開隆堂出版 2021  
9784304021848

家庭科指導法や教育法全体を通し、よりどころとなる書籍があると予習復習の際にも参考になる。その他の文献は授業時に紹介したいと考えている

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は、小学校教員免許を取得するために必要な教科教育法の1つです。教育実習や将来の職業に向けて必要とされる知識と技能（スキル）の取得を目指しているため、その志を持っていることを前提とします。

### その他/ Others

- ①対面授業であることを生かし、授業時での直接対話を重視します。
- ②原則として、授業開始時に点呼にて出席をとる予定です。2/3以上の出席を前提とします。遅刻や欠席のないように気をつけて受講してください。特に実習や自身が担当する模擬授業時は欠席のないよう普段から体調管理にも十分留意してください。

# 音楽科教育法 a

Teaching Methods: Music

小学校音楽科教育法

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

これまでに学習してきた音楽の知識及び技能を生かして指導案を作成し、模擬授業を行う。児童が主体的・対話的で深い学びを行えるような音楽の授業づくりを行うことを目指す。

In this class, students will prepare an instructional plan and conduct a mock class by utilizing the knowledge and skills of music they have learned so far. Students will aim to create a music class in which children can learn in a proactive, interactive, and authentic learning.

## 授業の内容 / Course Contents

講義、実習、模擬授業を行う。

Lectures, practical training, and mock classes will be conducted.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス及び小学校音楽科学習指導要領解説

『小学校学習指導要領解説 音楽編』を持参すること

2 回：・「A 表現(1) 歌唱」と「共通事項」の指導法

- ・年間指導計画
- 3回：「A 表現(2) 器楽」と「共通事項」の指導法
- 4回：「A 表現(3) 音楽づくり」と「共通事項」の指導法
- 5回：「B 鑑賞」と「共通事項」の指導法
- 6回：・模擬授業の説明
- ・模擬授業と指導案① 教材研究と指導観
- ・音楽授業における ICT の活用方法
- 7回：・模擬授業と指導案② 目標と評価
- 8回：・模擬授業と指導案③ 題材の指導計画と評価計画
- 9回：指導案作成と模擬授業準備
- 10回：学生による模擬授業と相互評価①
- 11回：学生による模擬授業と相互評価②
- 12回：学生による模擬授業と相互評価③
- 13回：学生による模擬授業と相互評価④
- 14回：本講義の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導案の作成、模擬授業準備、模擬授業に伴う実技の準備などの時間外学修が必要とされる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業(指導案含む)及びグループへの貢献:45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45% 授業への取り組み:10%

#### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 ○

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

#### その他 / Others

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

# 国語科教育法 b

Teaching Methods: Japanese Language

秋保 恵子 (AKIHO KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校国語科における授業の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

Students will understand class objectives and content of elementary school Japanese classes, and become competent with arranging classes appropriate to various specific learning settings based on learning instruction theory.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は、小学校学習指導要領に示された国語科の目標や内容、国語科の背景となる学問領域との関係を理解する。後半は学習指導案作りのポイントを学んだ後、指導案を作成し模擬授業に取り組む。模擬授業を行った翌週はリフレクションを行い、授業改善のための視点を身につける。その際の集団による考察・議論・発表などには主体的に臨む。

In the first half of the class, students will understand the relationships between the objectives and content of Japanese language class, which are described in the elementary school curriculum guidelines, and the academic discipline behind Japanese classes. In the second half of the class, after students have learned the class planning



method points, they will carry out mock classes they have planned. The week after the mock classes are conducted, students will reflect and become familiar with perspectives regarding class improvement. The group consideration, discussion and presentations at that time will be examined subjectively.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：学習指導要領における国語科の目標と内容、全体構造の理解と批判的検討
- 3回：学習者の実態を視野に入れた授業づくりと国語科授業の評価
- 4回：国語科の背景となる学問領域との関係、学習指導案作成のポイント
- 5回：模擬授業1とそのリフレクション
- 6回：模擬授業2とそのリフレクション
- 7回：模擬授業3とそのリフレクション
- 8回：模擬授業4とそのリフレクション
- 9回：模擬授業5とそのリフレクション
- 10回：模擬授業6とそのリフレクション
- 11回：模擬授業7とそのリフレクション
- 12回：模擬授業8とそのリフレクション
- 13回：国語科授業における情報機器の効果的な活用、書写指導のポイント
- 14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

模擬授業担当回の学習指導案提出は必須。児童役の学生も当該教材を事前に読み込んでおくこと。自分ならばどう授業するかをイメージして授業に臨むこと。授業終了後はリフレクションペーパーを記入してもらう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業中、前後に提出する課題:50%

欠席が4回になった時点でD評価となる。出席と平常点については初回の授業で詳細を説明する。

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社 2018 9784491034621 ○

テキストは必ず購入すること。

### 参考文献 / Readings

澤本和子・授業リフレクション研究会編 『国語科授業研究の展開』 東洋館出版社 2016 9784491032023

森山卓郎編著 『コンパクトに書く国語科授業モデル：書けない子も書けるようになる!』 明治図書 2016 9784182214257

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

秋保恵子著 『大正新教育と〈読むこと〉の指導：奥野庄太郎の国語科教育』 溪水社 2015 9784863272828

その他の参考文献は授業中に紹介する。

# 社会科学教育法 b

Teaching Methods: Social Studies

子どもが主役になる社会科学授業の創造

柄澤 守 (KARASAWA MAMORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF172

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) 小学校社会科の意義や目標、学習内容について学習指導要領に即して理解する。
- 2) 一方で社会科の背景となっている社会科学の思想と方法に依拠し、他方で民主主義社会を担う主体を形成する社会科の本旨に従った教材研究や授業開発ができるようになる。
- 3) 子どもが学習者として主体性を発揮できる社会科の授業方法について習熟する。

1) Students will acquire a basic understanding of purpose, goal, and content of elementary school Social Studies classes in line with government course guidelines.

2) Students will be able to research teaching materials and to make lesson plans of elementary school Social Studies, by building on the ideas and methods of social science, the backbone of Social Studies, and by conforming to the principle of the subject which is to bring up citizens supporting democratic society.

3) Students will master a teaching method of elementary school Social Studies in which children can take the initiative.

## 授業の内容 / Course Contents

小学校の社会科教育に関する理論的・実践的諸問題を考察し、指導計画から評価を含む指導法の実際を体験的に学ぶ。

Students will consider theoretical and practical issues relating to Social Studies in elementary schools and will learn instructional methods through actual experiences including instruction plans and evaluations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：小学校社会科の授業と教師像の転換
- 2 回：小学校社会科の目標と学習内容
- 3 回：社会科授業と教材①
- 4 回：社会科授業と教材②
- 5 回：社会科授業と教材③
- 6 回：小学校社会科教育実践の分析①
- 7 回：小学校社会科教育実践の分析②
- 8 回：小学校社会科教育実践の分析③
- 9 回：小学校社会科教育実践の分析④
- 10 回：学生による模擬授業①
- 11 回：学生による模擬授業②
- 12 回：学生による模擬授業③
- 13 回：学生による模擬授業④
- 14 回：社会科授業の学力と評価

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の性格上、履修者は予習が不可欠である。授業を通じて与えられる課題に誠実に向き合い、時間をかけて取り組むこと。また、文部科学省の Web サイトにアクセスし、「学習指導要領」をはじめとして、社会科教育に関する情報を入手し、自主的に理解を深めておくこと。その他、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 社会科教師の力量形成に関するレポート:20% 授業への参加とレスポンスシート:30%

なお、欠席回数が3回を超えたものについてはD評価とする。立教大学はいわゆる公欠制度を認めていない。この点については留意されたい。

### テキスト / Textbooks

小藺崇明・渡辺哲郎・和田悠（編著）千葉県歴史教育者協議会編集協力 『子どもとつくる平和の教室』 はるか書房 2019 4434256327 ○

テキストに掲載された実践記録について授業内で検討する。授業開始時までには入手しておくこと。これに加えてプリントで教材を配布する。

### 参考文献 / Readings

授業内で随時紹介する。歴史教育者協議会編『歴史地理教育』（立教大学図書館に配架）も積極的に利用された  
い。

# 算数科教育法 b

Teaching Methods: Mathematics

小学校算数科の教材と指導法

奥山 貴規 (OKUYAMA TAKANORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1) 小学校算数科で指導する内容とその意義を理解し、その指導と評価の在り方を知る。

2) 算数科の指導と評価の実践から、児童理解を深める。

1) Students will understand teaching methods and their significance for elementary school math classes, and know about the relevant instruction and evaluation methods.

2) Students will deepen their understanding of pupils from practical instruction and evaluation of math classes.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は、算数の指導の内容や方法を理解する。後半は、学習指導案を作るポイントを学ぶ。

In the first half of the class, students will understand math instruction contents and methods. In the second half of the class, students will learn the methods of class planning.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション(講義の進め方、算数科の目標と領域の構成)

2 回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点①～整数・小数・分数～

- 3回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点②～加法・減法～  
 4回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点③～乗法～  
 5回：A「数と計算」領域の教材と指導及び留意点④～除法～  
 6回：B「図形」領域の教材と指導及び留意点①～平面図形～  
 7回：B「図形」領域の教材と指導及び留意点②～立体図形～  
 8回：B「図形」領域の教材と指導及び留意点③～算数作品作り～  
 9回：C「測定」「変化と関係」領域の教材と指導及び留意点①～測定～  
 10回：C「測定」「変化と関係」領域の教材と指導及び留意点②～変化と関係～  
 11回：D「データの活用」領域の教材と指導及び留意点①～表とグラフ～  
 12回：算数パズル・ゲームの紹介  
 13回：算数の教材・教具の紹介  
 14回：算数科における ICT 機器の利用について

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 算数編』の該当箇所を読み、内容を理解する。そして、授業で扱った教材や算数教科書(検定教科書)で扱われている教材を分析し、授業者の視点でそれらの教材を用いた授業展開を具体的に考えてみる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% 授業内に指示した提出物(作品や小レポート):30% レポート(学習指導案)の作成:30%

欠席が4回以上の場合、単位習得不可。

### テキスト / Textbooks

テキストは使用せず、講義時に資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 算数編』 日本文教出版 2018  
9784536590105

講義の中で、随時紹介する。

### その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、板書や現物資料、映像資料なども適宜活用する。

講義では、はさみを使用することが多いので、常時準備すること。

また、算数作品作りや教材作成のために、三角定規・分度器・コンパス・はさみ・のり・色鉛筆を使用する。

それらを使用する際は授業前に連絡するので、各自用意すること。

# 生活科教育法 b

Teaching Methods: Life Environmental Studies

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF174  
授業形態： 対面（一部オンライン）  
授業形態（補足事項） オンライン回：第5、6回  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU3700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に支援された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

Students will understand class objectives and content of elementary school Life Environmental studies classes, and become competent in arranging classes appropriate to various specific learning settings based on learning instruction theory.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は、学習指導要領に示された生活科の目標や内容、生活科の背景となる学問領域との関係を理解する。その後は、学習指導案作りのポイントを学んだ後、指導案を作成し模擬授業の取り組む。模擬授業を行った翌週はリフレクションを行い、授業改善のための視点を身につける。

In the first half of the class, students will understand the relationships between the class objectives and content laid out by the elementary school curriculum guidelines and the academic discipline behind Life Environmental Studies classes. After that, once students have learned the class planning method points, they will carry out mock



classes they have planned. The week after the mock classes are conducted, students will reflect and become familiar with perspectives regarding class improvement.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：生活科のイメージ
- 2回：学習指導要領における生活科の目標と内容、全体構造の理解
- 3回：生活科授業をどう評価するか
- 4回：生活科の背景となる学問領域と教材研究
- 5回：学習者の実態を視野に入れた授業づくりをどのように行えばよいか（オンライン）
- 6回：指導案作成の方法：目標・内容・方法・評価（オンライン）
- 7回：指導案作成と模擬授業（1）学校、家庭及び地域の生活に関する内容
- 8回：前回の模擬授業のリフレクション
- 9回：指導案作成と模擬授業（2）身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容
- 10回：前回の模擬授業のリフレクション
- 11回：指導案作成と模擬授業（3）自分自身の生活や成長に関する内容
- 12回：前回の模擬授業のリフレクション
- 13回：生活科の授業改善とカリキュラム編成
- 14回：生活科授業における情報機器の効果的な活用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本科目では、実際に自分で調査などを行うことを求めるものになるため、授業時間外の学習時間は多くなることに留意すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業内レポート:30% 授業内レポート:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

授業の進行に伴って、オンライン利用での授業を数回予定している。詳細は事前に授業内で連絡する。

# 家庭科教育法 b

Teaching Methods: Home Economics

小学校家庭科教育法－教科理解と指導法

増茂 智子 (MASUMO TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF175

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校における家庭科教育の指導に必要な知識と技能を習得し、児童・生徒の生きる力を育む教科「家庭」の魅力を探りながら、授業を創造する力を身につけることを目指す

Students will acquire the necessary knowledge and skills for home economics classes in elementary schools, and aim to become competent in class creation while deepening the appeal of the subject of home economics which develops life skills in pupils and students.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は小学校家庭科教育の目標、内容、指導計画および学習指導案の作成方法、評価等について概説する。関連して児童を取り巻く生活課題に気づき、生きる力を身につけるための家庭科教育の果たす役割や可能性について検討していく。一方小学校家庭科の指導で必要とされる技能面の習得もめざしていく。そのため、後半は可能な限り体験学習（裁縫・ミシン縫いと製作活動、調理実習等）も取り入れ、実習題材の教材研究を深めていく。また同時に模擬授業も多く取り入れながら授業創造力を培っていく予定である。

Students will have an overview of the academic objectives, contents, instruction plan and lesson plan

construction, and evaluation, etc., of elementary school home economics classes. Students will become aware of lifestyle issues affecting pupils, and consider their role and the possibilities of home economics education in developing pupils' life skills. Meanwhile, students will aim to acquire the technical aspects necessary for teaching elementary school home economics classes. For that purpose, as much as possible, the class will incorporate learning through experiences (garment making, textiles and cooking, etc.). Students will deepen their material research of practical learning materials, and take part in numerous mock lessons which are planned for the class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（家庭科を学ぶ意義、授業予定等） 模擬授業のグループ決めも予定
- 2回：家庭科の目標・内容について（学習指導要領の確認） 他
- 3回：家庭科の学習指導、ICTの活用、指導計画等について
- 4回：家庭科の評価と学習指導案の作成について 他
- 5回：模擬授業に向けての準備（領域別教材研究と指導における留意点について）
- 6回：衣生活領域 実習教材の検討①基礎縫いの知識と技能及び指導における留意点－講義と手縫いの実習
- 7回：衣生活領域 実習教材の検討②基礎縫いの知識と技能－ミシン縫いの実習および生活を豊かにするものの製作（前半）
- 8回：衣生活領域 実習教材の検討③生活を豊かにするものの製作（後半・仕上げへ）
- 9回：食生活領域 実習教材の検討①調理の基礎としての知識と技能及び指導における留意点（講義のみ）
- 10回：授業研究 教材研究をメインにした模擬授業①領域A 家族・家庭生活、振り返り研究協議
- 11回：授業研究 教材研究をメインにした模擬授業②領域B 衣食住の生活、振り返り研究協議
- 12回：授業研究 教材研究をメインにした模擬授業③領域C 消費生活・環境、振り返り研究協議
- 13回：授業研究 導入の工夫に注目した個人模擬授業（一人ずつの発表）とここまでの学習のまとめ（調理実習に向けての確認） 他
- 14回：食生活領域 実習教材の検討②炊飯とみそ汁作り（調理実習指定教材）をメインにした調理実習の実際と指導における留意点の確認

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

模擬授業に向けた教材研究、学習指導案の作成及び教材教具の準備はグループの場合と個人の場合の2つのタイプを実施する予定である。それぞれに向けてしっかり準備し臨んでほしい。

また実習授業に関して、衣生活領域の作品製作のための計画は授業時間外の取り組みになる。また実習授業内で完成できなかった場合には補習（昼休みを想定）を設定する予定である。遅れ気味の受講生はそれらにも積極的に取り組んでほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学習指導案の作成と模擬授業・発表:35% 実習教材への取り組みと提出物（作品・小レポート等）:35% 授業内確認小テスト:30%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説家庭編』 東洋館出版社 2018 9784491034669 ○

鳴海多恵子 他著 『新しい家庭5・6』 開隆堂出版 2020 9784304080869 ○

模擬授業において小学校家庭科教科書は必携。是非丸善キャンパスショップ立教池袋店に注文した上で準備しておいてほしい。不都合が生じた場合は、増茂まで相談してほしい。

### 参考文献 / Readings

池崎喜美恵編著 『小学校指導法 家庭』 玉川大学出版部 2020 9784472405815

渡瀬典子他著 『初等家庭科教育法』 萌文書林 2023 9784893474001

浜島京子他著 『新しい家庭5・6』 東京書籍 2020 9784487105908

生活の学びの研究会 『生活からはじめる教育 コロナ禍が教えてくれたこと』 開隆堂出版 2021  
9784304021848

家庭科指導法や教育法全体を通し、よりどころとなる書籍があると予習復習の際にも参考になる。その他の文献は授業時に紹介したいと考えている

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は、小学校教員免許を取得するために必要な教科教育法の1つです。教育実習や将来の職業に向けて必要とされる知識と技能（スキル）の取得を目指しているため、その志を持っていることを前提とします。

### その他/ Others

- ①対面授業であることを生かし、授業時での直接対話を重視します。
- ②原則として、授業開始時に点呼にて出席をとる予定です。2/3以上の出席を前提とします。遅刻や欠席のないように気をつけて受講してください。特に実習や自身が担当する模擬授業時は欠席のないよう普段から体調管理にも十分留意してください。

# 音楽科教育法 b

Teaching Methods: Music

小学校音楽科教育法

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF176

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

これまでに学習してきた音楽の知識及び技能を生かして指導案を作成し、模擬授業を行う。児童が主体的・対話的で深い学びを行えるような音楽の授業づくりを行うことを目指す。

In this class, students will prepare an instructional plan and conduct a mock class by utilizing the knowledge and skills of music they have learned so far. Students will aim to create a music class in which children can learn in a proactive, interactive, and authentic learning.

## 授業の内容 / Course Contents

講義、実習、模擬授業を行う。

Lectures, practical training, and mock classes will be conducted.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス及び小学校音楽科学習指導要領解説

『小学校学習指導要領解説 音楽編』を持参すること

2 回：・「A 表現(1) 歌唱」と「共通事項」の指導法

- ・年間指導計画
- 3回：「A 表現(2) 器楽」と「共通事項」の指導法
- 4回：「A 表現(3) 音楽づくり」と「共通事項」の指導法
- 5回：「B 鑑賞」と「共通事項」の指導法
- 6回：・模擬授業の説明
- ・模擬授業と指導案① 教材研究と指導観
- ・音楽授業における ICT の活用方法
- 7回：・模擬授業と指導案② 目標と評価
- 8回：・模擬授業と指導案③ 題材の指導計画と評価計画
- 9回：指導案作成と模擬授業準備
- 10回：学生による模擬授業と相互評価①
- 11回：学生による模擬授業と相互評価②
- 12回：学生による模擬授業と相互評価③
- 13回：学生による模擬授業と相互評価④
- 14回：本講義の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導案の作成、模擬授業準備、模擬授業に伴う実技の準備などの時間外学修が必要とされる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業(指導案含む)及びグループへの貢献:45% 筆記テスト(授業内テストの他、授業内レポートや課題を含む):45% 授業への取り組み:10%

#### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版 2018 4491034656 ○

初等科音楽教育研究会 『小学校教員養成課程用 改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示 「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 4276821029 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

リコーダー、けんばんハーモニカを使用する予定である。準備については第1回目に指示するため、あらかじめ購入しなくて良い。

#### その他 / Others

学生の学習状況等によって講義スケジュールを変更する可能性がある。その場合は講義内で指示する。

# 教育方法学

Teaching Methods

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF177

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

専用教室を利用しても良い。X204 教室

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

Students will understand the education methods necessary to develop the qualities and abilities required of children in the future.

## 授業の内容 / Course Contents

教育の方法と技術の基本的な理論をおさえ、それに基づいた具体的な実践の方法を身につける。

Students will learn basic theories of teaching methods and techniques, and acquire concrete practical methods based on them.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：教育方法の基礎的理論と実践（1）生活綴方の歴史と現在

2 回：教育方法の基礎的理論と実践（2）百ます計算と基礎学力

3 回：教育方法の基礎的理論と実践（3）仮説実験授業と理科教育

4 回：教育方法の基礎的理論と実践（4）アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）

- 5回：学習評価の基礎的理論と実践（1）相対評価と目標に準拠した評価  
 6回：学習評価の基礎的理論と実践（2）パフォーマンス評価の方法  
 7回：授業を構成する基礎的な要件—子ども・教師・教材—  
 8回：授業の基礎的な技術—話し方と板書—  
 9回：授業の展開（1）授業の目標と内容・教材と教具  
 10回：授業の展開（2）さまざまな学習形態  
 11回：授業の展開（3）評価の規準づくり  
 12回：授業の展開（4）学習指導要領を作成する  
 13回：情報機器及び教材の活用（1）情報機器を活用して教材を作成する  
 14回：情報機器及び教材の活用（2）情報活用能力育成のための指導法

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内でパフォーマンス課題やリーディング課題を出す。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

田中耕治 『時代を拓いた教師たち』 日本標準 2005 9784820802563 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

WiFi 環境にある PC やタブレット（スマートフォンでの接続は認められない）



# 特別活動の理論と方法

## Co-curricular Activities

学級活動、児童会活動、学校行事等の計画、指導法について学ぶ

今泉 朝雄 (IMAIZUMI TOMOO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF178
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

- ・特別活動に関する基本的理解を深める。
- ・学級活動、児童会活動（生徒会活動）、学校行事の指導の計画力、実践力を身につける。
- ・生徒自治や生徒の主体的な活動の意味について自身なりの考え方を身に付ける。

Understand the basics of special activities.

To acquire the ability to plan and practice the guidance of class activities, children's association activities, and school events.

Understand the significance of children's autonomy and their independent activities.

### 授業の内容 / Course Contents

学校教育とは単に教科授業だけではなく、学級活動、児童会活動、運動会や修学旅行などの各学校行事など教科外の集団的な活動（＝特別活動）も重要な教育内容に含まれる。本講義ではこの特別活動の位置付け、目標、意義、内容、方法に関する基礎的な理解を深めるとともに、その実践的な指導力を身に付けることを目標とする。

School education is not limited to academic classes, but also includes important educational activities such as class activities, children's association activities, and school events such as athletic meets and school excursions. The goal of this class is to deepen students' basic understanding of the educational significance, goals, significance, content, and methods of special activities, and to develop practical leadership skills in these activities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：特別活動の教育的意義
- 3 回：特別活動の歴史からその意義を考える
- 4 回：学習指導要領の位置付け
- 5 回：学校における集団の基礎理論
- 6 回：教育的集団をどう構成するか
- 7 回：学級活動とは何か
- 8 回：話し合い活動の方法 1
- 9 回：話し合い活動の方法 2
- 10 回：学校行事の計画と指導
- 11 回：児童会活動（生徒会活動）の計画と指導
- 12 回：生徒自治と教育
- 13 回：クラブ活動の計画と指導／部活動の現状と課題
- 14 回：これまでの学習内容を振り返る

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：前回授業において予習内容を提示する。次回内容に関わる基礎知識を把握し、その活動に関わる自身の経験を振り返っておく。

復習：学習内容を整理し、授業内において提示した課題を実施する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内の取り組み、課題による評価:40%

### テキスト / Textbooks

今泉朝雄 『教科外教育の理論と方法』 咲和書房 2024 9784991348907 ○

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社 平成 29 年 9784491034690

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

教職科目であるが、教職以外の学生も受け入れる。

但し、教員になる為の能力の習得を求めるものであることは留意すること。

# 生徒指導・進路指導

Career Guidance and Counseling

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF179
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

生徒指導と進路指導とは密接に関連している。その関係性について、社会と教育制度の近代化の中で把握するとともに、生徒理解とは何かという問題について原理論的な理解をめざす。それを踏まえ生徒指導と進路指導の今日的課題を理解するとともに対応の仕方を検討し、長期的展望に立った指導のできる教師となるための実践的方法の獲得をめざす。

Career guidance and counseling for students are closely linked in schools. Regarding the nature of this relationship, students will aim to fundamentally grasp the issue of student comprehension along with understanding the modernization of social and educational systems. Based on that, in addition to understanding the daily issues of career guidance and counseling, students will consider ways of handling these, and acquire practical methods for becoming teachers who can provide guidance with a long-term perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

社会化問題から非行・問題行動への対応まで、生徒指導の守備範囲は広い。教育問題の歴史と現在を概観する中で、生徒指導や進路指導がどのように考えられ実践されてきたか。そうした実践を支える教師による生徒理解とはどのようなものであったのか。それらを理解したうえで、現代の教育問題と進路問題の特徴を理解する

とともに、その指導のあり方を考えていきたい。

From socialization problems to delinquency and problematic behavior, the range of counseling is broad. Among the history and present of educational issues, what practices have been thought of regarding how to handle career guidance and counseling? This class explores what student comprehension means to teachers who support those practices. By building on these things and identifying the characteristics of current educational issues and career guidance issues, students will think about those methods of guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：生徒指導・進路指導とは何か
- 2 回：生徒指導・進路指導の現状と課題
- 3 回：生徒指導・進路指導の歴史 (1)：近代教育制度の成立と普及の中で
- 4 回：生徒指導・進路指導の歴史 (2)：戦後混乱期から高度経済成長期の中で
- 5 回：生徒指導・進路指導の歴史 (3)：少子化と高学歴社会の中で
- 6 回：生徒理解論 (1)：個性とは何か
- 7 回：生徒理解論 (2)：行動の理解・心の理解
- 8 回：生徒理解論 (3)：理解の方法について
- 9 回：現代日本の教育問題 (1)：体罰
- 10 回：現代日本の教育問題 (2)：いじめ・不登校
- 11 回：現代日本の教育問題 (3)：発達障害
- 12 回：進路指導と学歴問題
- 13 回：進路指導とキャリア教育
- 14 回：まとめと最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    リアクションペーパー:60%                      最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

必要な資料は Google Drive 等で配布する予定である。

### 参考文献 / Readings

# 教育相談

Educational Guidance and Counseling

真柄 翔太 (MAGARA SHOTA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF180  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

実際の教育相談において活用できる知識や技法を身につける。

We acquire knowledge and techniques that can be used in actual educational counseling.

## 授業の内容 / Course Contents

教育現場において、生徒を支援するための教育相談の理論およびそれを支える心理学やカウンセリングの基礎知識を学ぶ。また、具体的な事例を提示し、それをいかに扱うかを検討する。加えて、保護者への支援や、多職種連携のあり方について、理解を深める。

We learn the theory of educational counseling to support students in educational settings, and the basic knowledge of psychology and counseling that supports it. And, we present a concrete example and consider how to manage it. In addition, we deepen their understanding of support for parents and how interprofessional collaboration should be.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、教育相談とは

2 回：教育相談を支える心理学の理論

- 3回：教育相談におけるアセスメント
- 4回：カウンセリングの基本技法
- 5回：知能の偏りと発達障害
- 6回：幼児期・児童期の発達課題に応じた教育相談
- 7回：青年期の発達課題に応じた教育相談
- 8回：いじめ問題の理解と対応
- 9回：不登校問題の理解と対応
- 10回：虐待・非行問題の理解と対応
- 11回：保護者支援のあり方
- 12回：チーム学校で行う教育相談
- 13回：教員のメンタルヘルス
- 14回：教育相談まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回、次の授業までに復習を行い、これまで扱った内容を身につけておくようにする。  
また、日常的に、教育に関する情報を新聞やニュース等で収集し、自分の考えをまとめるようにする。  
その他の授業時間外での学習については、適宜授業中に指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%  
平常点割合 :40% 授業内で指示したワークシート:20% リアクションペーパー:20%

#### テキスト / Textbooks

授業毎に、講義内容に対応したレジュメを配布する。

#### 参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

# 道徳教育の理論と方法

Moral Education

新しい道徳教育の理念と方法

桑原 直巳 (KUWABARA NAOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF181
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU2700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解します。また、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解します。

とくに小学校における道徳教育の考え方及び道徳の時間の指導方法について、「そもそも道徳とは何であり、なぜその教育が必要なのか」という問いにさかのぼり、理論的・理念的に理解すると同時に、現在、興隆しつつある新しい道徳教育方法の開発を目指します。

Students will understand the purpose and content of moral education at schools based on the significance and rationale of morality. Also, students will understand instruction plans and instruction methods necessary in the subject of moral education as carried out through the school's overall educational activities.

Especially regarding elementary school moral education thinking and instructional methods, students will take on the question of "what was morality originally and why is it necessary in education?," and while also understanding logically and philosophically, aim for creating new methods of moral education while improving current methods.

**授業の内容 / Course Contents**

1) 前半では、道德教育を行うに当たって、現代倫理学と現代道德理論の基礎的な考え方を身につけてもらいます。以下のことができるようにします。道德教育の歴史や現代社会における道德教育の課題（いじめ、情報モラル等）を理解している。子供の心の成長と道德性の発達について理解している。学習指導要領に示された道德教育及び道德科の目標及び主な内容を理解している。

2) 後半では、道德科における指導計画や指導方法を学びます。講義で自分自身で道德的な問題についてグループワークをとおして、道德教育の方法、評価の在り方などについて実践的に学びます。以下のようなことを学びます。学校における道德教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。道德科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。道德科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。授業のねらいや指導過程を明確にして、道德科の学習指導案を作成することができる。道德科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

1) In the first half of the class, students will become competent in the basic ways of thinking in modern ethics and moral theory in order to carry out moral education. Students will be able to do the following things. Students will be able to explain the qualities of morality (what is morality?). Students will understand issues of moral education (bullying, information morals, etc.) in modern society as well as in the history of moral education. Students will understand the growth of children's minds and the development of morality. Students will understand the goals and main contents of moral education and the subject of moral education as laid out in the curriculum guidelines.

2) In the second half of the class, students will study instruction plans and methods in the subject of moral education. In the lecture, students will discuss moral issues that affect them, and learn about moral education methods and evaluation methods, etc., practically through dialogue. Students will learn the following things. Students will understand the necessity of moral education instruction planning in schools and instruction through schools' overall educational activities. Students will understand the characteristics of diverse instructional approaches for bringing out qualities of moral education class. Students will be able to actively design classes based on the characteristics of course materials in the subject of moral education. Students will be able to clarify the class aims and instructional process, and make a learning plan for the subject of moral education. Students will understand learning evaluation methods based on the characteristics of the subject of moral education. Through holding model classes and reflecting on them, students will develop an eye for class improvements.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1 回：ガイダンスと授業への導入

2 回：日本における道德教育の歴史（1）第二次世界大戦前：

3 回：日本における道德教育の歴史（2）第二次世界大戦後：

4 回：日本における道德教育の歴史（3）「特別な教科」となるまで：

5 回：現代日本の学校における道德教育及び道德科の目標と内容：

6 回：現代日本の学校における道德教育の全体計画：

模擬授業・指導案検討プロジェクト①a

7 回：現代日本の学校における道德科の年間指導計画・指導案

模擬授業・指導案検討プロジェクト②a

8 回：現代日本の学校における道德教育の評価：

授業・指導案検討プロジェクト③a

9 回：授業・指導案検討プロジェクト④a



- 10回：授業・指導案検討プロジェクト⑤a\*指導案作成に向けてのオリエンテーション  
模擬授業第一陣2名
- 11回：模擬授業第一陣2名についてのコメント  
模擬授業第二陣2名
- 12回：模擬授業第二陣2名についてのコメント  
模擬授業第三陣2名
- 13回：模擬授業第三陣2名についてのコメント  
総括レポート提出
- 14回：授業・指導案検討プロジェクトのふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献や指定された資料を読み、講義内でのディスカッションに準備すること。授業内容に当たる部分について小学校学習指導要領道徳編に目を通すこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義でのディスカッションへの参加:20% 講義内提出物:40% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

文部科学省 『小学校学習指導要領解説道徳編』	日本文教出版	-
文部科学省 『中学校学習指導要領解説道徳編』	日本文教出版	-

### 参考文献 / Readings

清水将吾・河野哲也監訳 『子どものための哲学授業：「学びの場」のつくりか』 河出書房新社 2014  
4309247016

西野真由美・鈴木明雄・貝塚茂樹 『考え、議論する道徳の指導法と評価』 教育出版 2017  
9784316804477

### その他 / Others

講義だけではなく、グループワークを通して教育方法を実践する授業になります。

## 英語科教育法 a

Teaching Methods: English

小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身につける

天野 英彦 (AMANO HIDEHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF182

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以降入学者のみ履修可

### 授業の目標 / Course Objectives

小学校外国語教育についての基本的な知識・理解を深め、児童期の第二言語習得の特徴について、また、授業実践に必要な指導技術について学びましょう。

This class is designed to deepen your knowledge and understanding of elementary school foreign language education. You will learn how young children acquire a second and foreign language, as well as the teaching techniques necessary for actual classroom practice.

### 授業の内容 / Course Contents

いかに教えるかの方法論にとどまらず、子どもたちの学びに視点を置きながら、小学校外国語教育について実践的に学びましょう。

Let's learn about elementary school foreign language education in a practical way, focusing on how children learn, not just on the methodology of how to teach.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：小学校外国語教育の変遷とその目標・内容と教材のあり方
- 2 回：外国語教育における小中高の連携
- 3 回：小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領
- 4 回：児童や学校の多様性への対応
- 5 回：言語使用を通じた言語習得・音声によるインプットの内容を類推し、理解するプロセス
- 6 回：児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットのあり方
- 7 回：コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて他者に配慮しながら伝え合うこと
- 8 回：受信から発信、音声から文字へのプロセス
- 9 回：国語教育との連携——言葉のおもしろさと豊かさ——
- 10 回：英語教育の指導技術①語りかけかた・児童とのやりとり
- 11 回：英語教育の指導技術②文字言語との出会い・読む・書く活動への導入
- 12 回：英語教育の授業づくり①教材研究・学習到達目標と指導計画
- 13 回：英語教育の授業づくり②ALT とのチームティーチング・ICT の活用
- 14 回：英語教育の授業づくり③学習状況の評価（パフォーマンス評価）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実際の授業を想定して、絵本を読んだり歌を歌ったりしますので、練習しましょう。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の振り返り:40% 課題の提出:40% 最終レポート割合：20%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

綾部 保志 『小学校英語への専門的アプローチ』 春風社 2019 4861106478

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

devices connected to internet

## 英語科教育法 b

Teaching Methods: English

小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身につける

天野 英彦 (AMANO HIDEHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF183
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU3700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以降入学者のみ履修可

### 授業の目標 / Course Objectives

小学校外国語教育についての基本的な知識・理解を深め、児童期の第二言語習得の特徴について、また、授業実践に必要な指導技術について学びましょう。

This class is designed to deepen your knowledge and understanding of elementary school foreign language education. You will learn how young children acquire a second and foreign language, as well as the teaching techniques necessary for actual classroom practice.

### 授業の内容 / Course Contents

いかに教えるかの方法論にとどまらず、子どもたちの学びに視点を置きながら、小学校外国語教育について実践的に学びましょう。

Let's learn about elementary school foreign language education in a practical way, focusing on how children learn, not just on the methodology of how to teach.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：小学校外国語教育の変遷とその目標・内容と教材のあり方
- 2 回：外国語教育における小中高の連携
- 3 回：小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領
- 4 回：児童や学校の多様性への対応
- 5 回：言語使用を通じた言語習得・音声によるインプットの内容を類推し、理解するプロセス
- 6 回：児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットのあり方
- 7 回：コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて他者に配慮しながら伝え合うこと
- 8 回：受信から発信、音声から文字へのプロセス
- 9 回：国語教育との連携——言葉のおもしろさと豊かさ——
- 10 回：英語教育の指導技術①語りかけかた・児童とのやりとり
- 11 回：英語教育の指導技術②文字言語との出会い・読む・書く活動への導入
- 12 回：英語教育の授業づくり①教材研究・学習到達目標と指導計画
- 13 回：英語教育の授業づくり②ALT とのチームティーチング・ICT の活用
- 14 回：英語教育の授業づくり③学習状況の評価（パフォーマンス評価）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実際の授業を想定して、絵本を読んだり歌を歌ったりしますので、練習しましょう。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の振り返り:40% 課題の提出:40% 最終レポート割合：20%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

綾部 保志 『小学校英語への専門的アプローチ』 春風社 2019 4861106478

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

devices connected to internet

# 教職論

Studies on Teaching Profession

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF184

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

専用教室を利用しても良い。4339 教室

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU3700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以降入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、教職に関する、一定の社会的・制度的・歴史的・法的知識を身につけ、またそれに対する主体的認識を養うことを目的とする。教職に関する専門的な理解を深めつつ、自らの適性を判断して、進路選択に資する教職のあり方について理解することを目指す。

The purpose of this lecture is, first, to provide students with social, institutional, historical, and legal knowledge related to the teaching profession. Secondly, this course is designed to help each student develop a subjective awareness of the teaching profession. This lecture aims to help students deepen their professional understanding of the teaching profession, determine their own aptitude, and understand how the teaching profession can help them choose their own career path.

## 授業の内容 / Course Contents

教職および学校教育の社会的意義とともに、今日の教育の動向を踏まえて、教員に求められ役割や資質、職務内容や職務上の義務についても理解する。適宜グループワークや模擬授業などを行いながら、教職のあり方を問い続ける姿勢を作りたい。

This lecture will prepare the participants to understand the social meanings of the teaching profession and school education, as well as the roles and qualities required of teachers in consideration of today's trends in education, their duties and obligations. In this lecture, group work and mock classes will be conducted to encourage students to continue to question the nature of the teaching profession.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：教員を学ぶ
- 3回：教師の歩み
- 4回：教員の身分
- 5回：職務上の義務・身分上の義務
- 6回：教員の仕事を捉えなおす
- 7回：学校内の同僚を知る
- 8回：不利益処分・教員の任用
- 9回：研修と人事評価
- 10回：教員免許状の制度
- 11回：チーム学校の多様な教職員
- 12回：教員の働き方
- 13回：教員免許をめぐる教育改革
- 14回：まとめと振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキストの指定箇所を読み、関連事項について自分なりに調べてくること。

毎回の授業後には、授業内容を振り返るコメントを提出すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート:40% 毎回の授業へのコメントおよびワークシートの内容と提出状況:60%

### テキスト / Textbooks

高橋陽一編 『チーム学校の教諭論』 武蔵野美術大学出版局 2021年 9784864631259 ○

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 東洋館出版社 2018年 9784491034607

津田徹・広岡義之編著 『教職論』 ミネルヴァ書房 2021 9784623089567

### その他 / Others

第1回目の講義で講義進行の詳細、各時間の参考文献、成績評価基準等を示すので、第1回の講義は必ず出席すること。

# 初等教育実習

Teaching Practices in Primary School

渡辺 哲男／秋葉 昌樹／稲田 素子／小谷 由美／稲垣 成哲／柏木 敦／和田 悠／伊藤 実歩子／河野 哲也／市川 誠／室町 さやか／新井 素子 (WATANABE TETSUO/ AKIBA YOSHIKI/ INADA MOTOKO/ KOTANI YUMI/ INAGAKI SHIGENORI/KASHIWAGI ATSUSHI/WADA YU/ITO MIHOKO/ KONO TETSUYA/ ICHIKAWA MAKOTO/ MUROMACHI SAYAKA/ ARAI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF185

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 5

科目ナンバリング： EDU4740

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

教育実践を通して、学校とそれを取り巻く状況や児童への理解を深めるとともに、授業づくりの体験的学習を通して、教師としての力量形成の第一歩とする。また教職への適性を最終的に見定める。

Along with deepening their understanding of schools, the situations surrounding them and children, through education practice, students will also take the first steps toward developing proficiency as teachers through classes that develop their abilities. Also, students will ultimately judge their suitability for becoming teachers.

## 授業の内容 / Course Contents

教育実習は、事前指導、学校現場での教育実習、事後指導の3つから成り立つ。

事前指導では、指導担当教員との打合わせ、実習への心構えや諸注意に関する具体的な講義、現職教員による講話を予定している。学校現場での教育実習は4週間とし、大学の担当教員は小学校に出向いて授業を参観、



講評などを行う。事後指導では、実習の振り返りと、教育問題についての講話を通して、各自の実習体験を対象化できるようにする。

The teaching practicum is comprised of three parts: prior instruction, teacher practicum on-site at schools and follow-up instruction.

In the prior instruction, students will meet with the instructing teacher in charge, have a specific lecture relating to practicum preparation and various points of caution, as well as attending a lecture from a current teacher.

Students will have four weeks of teaching practicum on-site at a school, and the university instructor in charge will observe and evaluate their classes. In the follow-up instruction, students will reflect on the practicum, and through discussing education problems, each student's practicum experience will be addressed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1回事前指導－手続きの説明，実習担当教員との打合わせ
- 2回：事前指導
- 3回：第2回事前指導－実習の意義と位置づけ，児童理解・指導法などに関する講義
- 4回：第3回事前指導－現職教員による講話
- 5回：春学期教育実習
- 6回：春学期教育実習
- 7回：春学期教育実習
- 8回：春学期教育実習
- 9回：春学期事後指導
- 10回：秋学期教育実習
- 11回：秋学期教育実習
- 12回：秋学期教育実習
- 13回：秋学期教育実習
- 14回：秋学期事後指導

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業外に指導を受けたり，近隣の学校訪問をしたりすることがある。

テキストをよく読んで理解しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習レポート:40% 各学校での教育実習の取り組み:60%

### テキスト / Textbooks

『初等教育実習必携』『教育実習の記録』（大学から配布する）

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

1. 3年次から既に事前指導が始まるのでそれらの授業にも必ず出席すること。

2. 事前事後指導，教育実習共に通常の授業以上の時間を必要とする。

# 教育課程論

## Curriculum

教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF186  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： [初等専攻] 2019 年度以降入学者用コード

### 授業の目標 / Course Objectives

学習指導要領を基準として、各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

With the curriculum guidelines as the basis, along with understanding the significance and development methods of the education plan drawn up at each school, students will understand the significance of matching curriculum and management to each school's situation.

### 授業の内容 / Course Contents

学習指導要領の歴史的な変遷から、教育課程の意義や編成の方法を理解する。また各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントのあり方を検討する。

Students will understand the historical changes to the curriculum guidelines and the significance and methods of creating education guidelines. Students will also consider the way the curriculum and management should be in order to suit each school's particular situation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：教育課程とは何か——学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的——
- 2 回：学習指導要領の改訂の変遷①戦後新教育期
- 3 回：学習指導要領の改訂の変遷②現代化
- 4 回：学習指導要領の改訂の変遷③新しい学力観と生活科の導入
- 5 回：学習指導要領の改訂の変遷④生きる力と総合的な学習の時間の導入
- 6 回：学習指導要領の改訂の変遷⑤知識基盤社会と確かな学力
- 7 回：学習指導要領の改訂の変遷⑥主体的・対話的で深い学び
- 8 回：教育課程編成の基本原則——経験主義と系統主義——
- 9 回：教科・領域横断的なカリキュラム編成
- 10 回：主体的なカリキュラム編成のあり方①長期的な視野に基づいた教育課程
- 11 回：主体的なカリキュラム編成のあり方②児童理解に基づいた教育課程
- 12 回：主体的なカリキュラム編成のあり方③学校・地域に基づいた教育課程
- 13 回：カリキュラム・マネジメントの意義
- 14 回：カリキュラム評価の理論と実践

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、別途指示する

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

田中耕治編 『よくわかる教育課程』〔第2版〕（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） ミネルヴァ書房 2018 9784623082698 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット

# 特別支援教育の理論と方法

Special Needs Education

小学校のための特別支援教育の理論と方法

後藤 隆章／河野 哲也 (GOTO TAKA AKI / KONO TETSUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF187  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

This course aims to teach students about the development and learning processes of infants, pupils, and students with special needs. They will understand the relevant characteristics and learn how to support them.

## 授業の内容 / Course Contents

特別支援教育の目標とテーマ、教育制度上の諸課題について概説した後、発達障害や軽度知的障害をはじめとした、特別な支援を必要とする幼児、児童の特徴についての理解を深め、その子たちに求められる指導のあり方を探究する。その後、当該の子どもたちの置かれた地域、家庭状況等について検討し、その支援の方法、課題についての理解を深める。

This course aims for students to acquire the necessary knowledge for understanding special needs education.

Students become knowledgeable about what is needed in education to support children's learning and development and also develop the basic awareness necessary for teachers. Moreover, students gain deeper understanding of children with special needs and the role of the instructor.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・特別な支援を必要とする幼児、児童に対する特別支援教育の意義と課題
- 2回：日本語の学習指導が必要な幼児、児童への教育支援
- 3回：特別支援教育のための障がいの理解
- 4回：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度の理念と仕組み
- 5回：軽度知的障害のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 6回：学習障害のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 7回：自閉スペクトラム症のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 8回：注意欠陥多動性障害のある幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 9回：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱等の幼児、児童の心身の発達、学習上の困難の特徴と支援
- 10回：特別な支援を必要とする幼児、児童への個別指導
- 11回：特別な支援を必要とする幼児、児童への教育支援
- 12回：特別な支援を必要とする幼児、児童の地域・家庭を含めた支援体制の構築
- 13回：特別な支援を必要とする幼児、児童に対する指導者の課題
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連事項について講師から指示された文献を読み、自主学習を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

大塚玲 『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門〈第2版〉』 萌文書林 2019  
9784893473271 ○

### 参考文献 / Readings

- 細尾萌子・柏木智子 『小学校教育用語辞典』 ミネルヴァ 2021 9784623090792  
小池敏英・北島善夫 『知的障害の心理学 発達支援からの理解』 北大路書房 2001 9784762822155  
石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880  
河野哲也 『現象学的身体論と特別支援教育：インクルーシブ社会の哲学的探究』 北大路書房 2015  
9784762828874

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

小学校通常学級において、児童がどのような学習活動を行なっているのかについて理解しておくこと。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業では、授業支援システムを通じて資料配布を行う。

# 総合的な学習の時間の理論と方法

The Period for Integrated Studies

表現力を育む授業プランづくり

佐藤 壮広 (SATO TAKEHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF188

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、初等教育における「総合的な学習の時間」の授業プランを組み立てることができるようになることである。最終的には魅力的な授業運営ができるようになることを本授業の目標とする。

The purpose of this course is to enable students to construct a lesson plan for "integrated study time" in elementary education. The ultimate goal of this class is to enable students to conduct attractive classes.

## 授業の内容 / Course Contents

まず、表現力を育てるための授業事例を示す。その事例をもとに、各人が授業プランを作成する。またそのプランをもとに、クラス全体でフィードバックを行う。

First, I will show a class example for developing expressive power. Based on the examples, each student creates a lesson plan. Also, based on the plan, give feedback to the whole class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の目的の提示と進め方のガイダンス

2 回：表現を取り入れた授業事例（1）



- 3回：表現を取り入れた授業事例（2）  
 4回：表現を取り入れた授業事例（3）  
 5回：2-4回までのまとめと振り返り  
 6回：表現する自分になるためのレッスン（1）  
 7回：表現する自分になるためのレッスン（2）  
 8回：表現する自分になるためのレッスン（3）  
 9回：6-8回までのまとめと振り返り  
 10回：「総合的な学習の時間」の授業プラン作成（1）  
 11回：「総合的な学習の時間」の授業プラン作成（2）  
 12回：「総合的な学習の時間」の授業プラン作成（3）  
 13回：授業プランの発表・プレゼンテーション（1）  
 14回：授業プランの発表・プレゼンテーション（2）  
 全体のまとめと振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する資料を随時お知らせします。その資料を理解し、授業に臨んでください。

授業後は、授業の成果を書き出し、スキルとして日々の現場で実践できるようにしてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題:20% 最終レポート割合：:40%最終テスト割合：:40%

授業内に課す小課題と仕上げに行う発表・プレゼンテーションの内容とを総合的に判断し、成績評価を行う。

#### テキスト / Textbooks

授業内に提示する。

#### 参考文献 / Readings

授業内に提示する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

「表現する力」を身につける努力を怠らない、持続的な探求の能力。

# 英語科教育論

English Education

子どもの学びによりそって

渡辺 麻美子／市川 誠 (WATANABE MAMIKO/ ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF189
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	1
科目ナンバリング：	EDU2700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以降入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な指導力と英語の知識と運用能力を身に付ける。

This course aims for students to acquire practical English proficiency and knowledge about English necessary for foreign language education in elementary school.

## 授業の内容 / Course Contents

子どもの第2言語学習の学びを理解し、子どもの学習能力に寄り添う指導方法とは何かを考え、実践を通して身につける。

Study and discuss how children learn language and deepen understanding their second-language acquisition, learn teaching methods through practice.

## 授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

- 1 回：英語科教育論への招待
- 2 回：小学校英語教育の目的と目標～なぜ小学校に英語教育を？
- 3 回：子どもの学びについて～子どもはどのようにして言葉を身につけるのか、子どもの学びによりそって考

える

- 4回：第2言語習得に関する基本的な知識～4 技能の指導 ・実際の活動を体験し考える  
 5回：授業実践に必要な力 ①聞くこと ・実際の活動を体験し考える  
 6回：授業実践に必要な力 ②話すこと（やり取り・発表） ・実際の活動を体験し考える  
 7回：授業実践に必要な力 ③読むこと・書くこと ・実際の活動を体験し考える

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：テキストの必要箇所を熟読する。実際の授業の中で、自分自身の英語技術を楽しくスキルアップする方法を紹介するので、練習して授業に臨んでください。

復習：授業の中で学んだ指導技術や、Teacher Talk や英語表現を練習し、次回の授業で実践できるようにする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 授業内レポート:20% 活動への参加度:30%

### テキスト / Textbooks

久埜百合 『WORD BOOK』 ぼーぐなん 1985 9784938749361 ○

久埜百合・他 『語研ブックレット3 小学校英語1』 一般財団法人・語学教育研究所 2010 ○

### 参考文献 / Readings

久埜百合 『子どもと共に歩む英語教育』 ぼーぐなん 2008 9784938749477

### その他 / Others

授業実施日：10月5日（土）2限、12日（土）1～2限、19日（土）1～2限、26日（土）1～2限  
 最初の授業の時に、指定された2冊のテキストを必ず持参してください。

We are looking forward to seeing you！！

### 注意事項

7回授業

10月5日（土）2限、12日（土）1～2限、19日（土）1～2限、26日（土）1～2限

教室：A202

### 注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者のみ履修可

# ICT活用の理論と方法（小学校）

Theories and Methods of ICT Practice (Primary Education)

主体的・自律的・協調的に学ぶ学習者を育てるための情報通信技術（ICT）の活用（AIを含む）に関する理論と基礎的な方法（知識・スキル）の修得する。

稲垣 成哲（INAGAKI SHIGENORI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF190

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2022 年度以降入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

- 情報通信技術の活用の背景・意義・理論を理解する。
    - 教育における ICT 活用（AI を含む）の背景・意義・理論を理解する。
    - 特別の支援を必要とする生徒に対する ICT 活用の意義と留意点を理解する。
  - 生徒の情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。
    - 各教科等で横断的に育成する情報活用能力について、その内容を理解する。
    - 情報活用能力について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。
    - プログラミングについての実践的な知識を身につける。
- To understand the background, significance, and theories of the use of information and communication technologies.
    - To understand the background, significance, and theory of the use of ICT(including AI) in education.
    - To understand the significance and points to keep in mind when utilizing ICT for students with special

needs.

2. Acquire basic teaching methods to develop students' ability to use information.

(1) Understand the content of information use ability to be cultivated across each subject area.

(2) Understand the examples of teaching information use skills according to the characteristics of each subject, etc., and acquire basic teaching methods.

(3) Acquire practical knowledge of programming.

### 授業の内容 / Course Contents

情報通信技術（ICT）を効果的に活用した学習指導（学習活動のデザインと支援、評価）や児童の情報活用能力（情報モラル、メディアリテラシーを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

特に、ICT活用（AIを含む）に関する基本的な考え方や学習理論、及び、授業実践に必要な知識・スキルの修得を目指す。

To acquire basic knowledge and skills on how to effectively use information and communication technology (ICT) in learning instruction (design and support of learning activities and evaluation) and instructional methods to develop students' ability to use information (including information morality and media literacy).

In particular, the course aims to provide students with the basic concepts and learning theories related to the use of ICT, as well as the knowledge and skills necessary for classroom practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：ICTとは何か（ゲスト講師による情報提供）
- 3回：生成AIとその教育利用
- 4回：情報モラル（1）：著作権など
- 5回：情報モラル（2）：情報モラル教育の実際
- 6回：各教科におけるICT利用の実際
- 7回：プログラミング：ビスケット
- 8回：演習：ビスケットの基礎
- 9回：演習：ビスケットの応用
- 10回：プログラミング：スクラッチ
- 11回：演習：スクラッチの基礎
- 12回：演習：スクラッチの応用
- 13回：ICT活用の理論と方法をめぐる諸問題
- 14回：まとめと最終レポート

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 提出物（成果物）:30%  
合 :40%

最終レポート割

### テキスト/ Textbooks

適宜指示する

### 参考文献 / Readings

稲垣忠・佐藤和紀(編著) 『ICT 活用の理論と実践: DX 時代の教師をめざして』 北大路書房 2022  
その他、適宜指示する。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

小学校の教員免許を取得することを前提とした講義内容である。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

演習の講義回では、PC の持参・用意を求めます。ソフトウェア等は Web で提供されているものを利用しますので、インストールなどの必要はありません。

### その他/ Others

- ・初回のオリエンテーション時にシラバスの変更点などを指示することがある。
- ・PowerPoint 等を使用した講義形式で、映像資料や現物資料などを適宜活用する。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、演習的な活動を適宜行うことがある。
- ・遠隔等のゲストスピーカーを招待する可能性がある。なお、ゲスト講師は、予定であり、ゲスト自身の都合で設定回が変わる可能性があります。

### 注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者のみ履修可

# 社会科学教育論

Education of Social Studies

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF202  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

社会科学という教科の理念や内容についてその歴史的展開を一方で追いつつ、他方で戦後日本を代表する社会科学教育実践について平和で民主的な社会の担い手を形成する授業実践の思想と方法を学ぶことで、社会科学の教科としての意義や特徴を把握する。

- 1) By acquiring basic knowledge of the theoretical frameworks of the subject of social studies (history, goals, methods), students will be able to grasp the significance and issues of the subject.
- 2) Students will be able to specifically conceptualize what they have learned from past practice regarding teaching methods for social studies.

## 授業の内容 / Course Contents

- ①戦後教育と社会科学教育の歴史的展開について、学習指導要領の歴史的変遷や教科書をめぐる諸問題に照準を合わせて検討する。
- ②戦後の民間教育運動のなかで蓄積されてきた社会科学の授業実践のあり方について実践記録を手がかりに考察する。

- 1) Students will consider various issues surrounding historical changes of curriculum guidelines and textbooks

geared toward post-war education and the historical development of social studies education.

2) Students will consider working on lesson reports regarding ways of conducting social studies classes accumulated from post-war alternative education movements.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：社会科教育の基礎と前提①社会科教育における公共性  
教育基本法を読む

2回：社会科教育の基礎と前提②社会科教育における公共性  
グローバル化と資本主義の本質をつかむ

3回：社会科教育の基礎と前提③社会科教育における公共性  
社会権・生存権としての社会科教育

4回：戦後教育と社会科の歩み①：戦後民主主義と社会科  
『あたらしい憲法のはなし』を読む

5回：戦後教育と社会科の歩み②：「逆コース」のなかの社会科教育  
「政治的中立性」をめぐって

6回：戦後教育と社会科の歩み③：「逆コース」のなかの社会科教育  
家永三郎教科書裁判

7回：社会科教育の論点①ジェンダーと社会科教育  
ジェンダーの視点で社会科教育を見直す

8回：社会科教育の論点②戦争体験と歴史教育  
「記憶の文化」の位相に着目する

9回：社会科教育の論点③歴史修正主義と歴史教育  
日本軍「慰安婦」問題をめぐる歴史教科書問題を考える

10回：社会科教育の論点④市民形成と社会科教育  
主権者教育の実践と課題を考える

11回：社会科教育実践に学ぶ①歴史を討論する授業の誕生  
高校日本史の加藤公明「考える日本史授業」

12回：社会科教育実践に学ぶ②行動する市民を育てる社会科教育  
高校日本史・現代社会の浅尾弘子実践

13回：社会科教育実践に学ぶ③民衆の視点から社会科教育を考える  
小学校社会科の草分京子実践と高校日本史の柄澤守実践

14回：授業全体の振り返りとまとめ：変革的知識人としての社会科教師と子どもを解放する授業実践

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%



平常点割合 :40% 授業内に指示する提出物:20% 平常点（リアクションペーパー）:20%

### テキスト/Textbooks

吉田裕 『日本人の戦争観』 岩波現代文庫 2005 9784006031077 ○

レポート試験の課題文献である。また、受講に際して、現在の社会科の学習指導要領に関しても手元に置いておくこと。

### 参考文献 / Readings

平井一臣ほか 『つながる政治学』 法律文化社 2022 9784589041968

### その他/ Others

基本的に授業は講義形式であるが、学生への質問も活発に行う。教育実践についての評価を受講者のあいだで討論を試みることもしたい。積極的な受講態度が期待される。なお、受講者の問題関心や受講者数に応じて授業計画を一部変更する場合がある。必ずしも教員にならない学生にとっても戦後の民主主義の担い手を育てる課題を一身に背負って出発した教科としての社会科の理念や歴史を知ることが有益である。初等教育専攻課程の学生はもちろんのこと、教育学専攻の学生も積極的に履修をしてほしい。

# 家庭科教育論

Introduction to Domestic Science

家庭科概論－教科「家庭」のとらえ直し

増茂 智子 (MASUMO TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF206

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

これまで学ぶ側にあった学校教育における家庭科について、指導する側を意識した教科観・指導観等を培い、家庭科の面白さや大切さ等を探りながら、家庭科教育の役割をとらえ直すことができる。

Regarding what they have learned about home economics in school education up until now, students will be able to reconsider the role of economics in schools while developing subject philosophies and teaching philosophies, etc., through teaching, as well as deepening their appreciation for the interesting and appealing points of home economics.

## 授業の内容 / Course Contents

前半は教科「家庭」に関する史的背景や学ぶ意義、および教科の目標や内容等を講義やアクティブラーニングを通じ検討し、後半はワークショップ中心に家庭科の魅力や課題等を検討していく。ワークショップでは、グループディスカッション、被服実習（手縫いやミシン縫い等）や簡易実験等の体験学習、ロールプレイングやプレゼンテーション等を予定している。受講生が主体的に学べる機会を可能な範囲で多く取り入れる予定である。

In the first half of the class, students will consider the relevant historical background, significance of learning, class objectives and content of home economics through lectures and active learning, and the second half of the class will focus on workshops where students will consider the appealing points and relevant issues of home economics. The workshops will include group discussion, experience learning such as garment making (hand sewing and machine sewing, etc.), simple experiments and cooking practice, as well as role playing and presentations, etc. Students are expected to be able to broaden their range of subjective learning opportunities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（受講生の確認） 他
- 2回：家庭科教育の本質（歴史、社会的背景、等）
- 3回：家庭科教育の目標と内容
- 4回：家政学と家庭科教育①自然科学の視点からの検討（講義＋ワークショップ）
- 5回：家政学と家庭科教育②社会科学の視点からの検討（講義＋ワークショップ）
- 6回：家政学と家庭科教育③人文科学の視点からの検討（講義＋ワークショップ）
- 7回：家庭科の学習指導、家庭科におけるICTの活用 他
- 8回：ワークショップ：家庭科の学習指導（ロールプレイングの試み） 他
- 9回：家庭科の評価（講義＋グループ討論） 確認小テストの実施
- 10回：ワークショップ：創作・製作活動・実習（前半）
- 11回：ワークショップ：創作・製作活動・実習（後半）
- 12回：ワークショップ：創作・製作活動（予備日）、作品合評会
- 13回：家庭科に関するプレゼンテーション
- 14回：学習のまとめ 災害時の衣食住と家庭科教育（プレゼンテーション予備日） 他

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

前半は、講義でふれた内容に関しての復習、後半はワークショップおよびプレゼンテーションに向けた準備等がある。ワークショップに関しての準備には、たとえば創作・製作活動の製作プランと教材の準備、また授業時間内に製作活動が終了できない場合は授業時間外での完成が必須となる。プレゼンテーションは全員必須のため、興味のある家庭科に関するテーマについて積極的に調べ、検討し、表現（発表）してほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ワークショップへの取り組みと提出物:35% プレゼンテーション:25% 授業内小テスト:40%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じプリント等授業資料を配布する予定である。

### 参考文献 / Readings

- 『家政学の時間』編集委員会 『楽しもう家政学』 開隆堂 2020 9784304021497  
池崎喜美恵 『小学校指導法 家庭』 玉川大学出版部 2020 9784472405815

生活の学びの研究会 『生活からはじめる教育 コロナ禍が教えてくれたこと』 開隆堂 2021

9784304021848

伊深祥子 『対話で学ぶ家庭科の授業』 大学図書出版 2022 9784909655745

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

家庭科教育で培ってきた基礎基本の知識と技能を身に付けていることを前提としますが、何よりも本教科への関心と学ぶ意欲を重視します。生活者あるいは消費者として必要なスキルを身に付ける意欲を持って受講してください。

### **その他/ Others**

①教職科目（家庭科教育法）を履修する人は、できれば本授業も履修することを勧めます。（可能ならば「家庭科教育法」履修前に）教科「家庭」への理解を深め、家庭科教育の役割と児童への指導・支援について教育法の授業だけでは補えないものをフォローしていく予定です。

②対面授業であることを生かし、授業時での直接対話を重視します。

③原則として、出欠の確認等はリアクションペーパーを用いる予定です。2/3以上の出席を前提とします。体調管理に気をつけて受講してください。

# 体育実技

Physical Education

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AF207
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU3720
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度以降入学者のみ履修可

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、小学校で実施する運動種目を扱いながら、それぞれの種目内容および教授法を理解する。また、児童の発育・発達に応じて、楽しく運動に親しみながら健康と体力の向上を目指した体育教育の指導法を学習することを目標とする。

In this class, while dealing with the types of exercise used in elementary schools, students will understand the contents and teaching methods of various sports events. Also, the class aims to help students learn instructional methods for physical education classes that improve pupils' health and physical strength while familiarizing them with fun exercises appropriate for pupil growth and development.

## 授業の内容 / Course Contents

体育指導要領の「適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを実技を通して理解する。また、「心と体を一体としてとらえて健全な成長を促す」という基本方針にくわえて「スポーツパーソンシップ」に関しても学習しながら体育授業の心構えと指導法の技術、知識を身につけ

る。基本的には、2時限の授業で1～2種目の運動種目を取り上げ、その種目の内容と練習方法を含めた教授法についての実技となる。また、池袋キャンパスで実施不可能な種目は、新座キャンパスや立教小学校の施設を利用して行う場合がある。

Students will come to understand the physical education curriculum's tenet of "through proper exercise experience and understanding of health and safety, ... develop basic qualities and the abilities to participate in enjoyable physical activity throughout their lives, maintain and improve their health and fitness and cultivate an appropriate attitude towards leading a pleasant and happy life" through practical experience. Also, adding to the basic principle of "promote healthy growth of pupils 'by considering physical and mental aspects in an integrated manner'," students will also become competent in preparation, teaching method techniques and knowledge of physical education classes while studying about "sportsmanship." Basically, one or two sport(s) will be taken in every two periods of the class. Practical experiences including contents and practice methods concerning such sport(s) will also be taken in the classes. Also, there are some events that cannot be held at the Ikebukuro Campus that will be conducted at the Niiza Campus or using Rikkyo Elementary School facilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：準備体操とストレッチング・アイスブレイク（鬼遊び）
- 2 回：体づくり運動系（縄跳び・動きづくり・ボール遊び）
- 3 回：運動遊び（一輪車・ジャグリング・バランスボール・ボルダリング）・器械運動系 1（鉄棒）
- 4 回：陸上競技系（かけっこ・リレー・ハードル走・跳躍）
- 5 回：表現運動系（表現リズム遊び・フォークダンス）
- 6 回：ボール運動系室内ゴール型 1（バスケットボール・ハンドボール）
- 7 回：ボール運動系室内ネット型 1（プレルボール・バレーボール）
- 8 回：ボール運動系室内ネット型 2（バドミントン・インディアカ・バドボン）
- 9 回：ボール運動系屋外ネット型（テニス）・屋外ゴール型（サッカー・フットサル）
- 10 回：ボール運動系室内ゴール型 2（ユニホック・アルティメット・フラッグフットボール）
- 11 回：ボール運動系ベースボール型
- 12 回：器械運動系 2（マット運動・跳び箱・組体操）
- 13 回：水泳運動系 1（ウォーター・エクササイズ・着衣泳）
- 14 回：水泳運動系 2（4 泳法・水球）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う運動種目の内容やルールについて、各自が事前に予習してくる。また、毎回運動が出来る服装、靴に着替えて集合すること。施設は主にポール・ラッシュ・アスレチックセンターを利用する予定。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:70% それぞれの運動種目の理解（レポート）:30%

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』 東洋館出版社 2015 9784491031613

**注意事項 (検索結果画面)**

2016年度以降入学者のみ履修可

# 国語科教育論

Japanese Language Education

渡辺 哲男／村上 祐子 (WATANABE TETSUO/ MURAKAMI YUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF251  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 教室で学習者の言語活動が活発になるということはどういうことかを考える。
  - 人間が言葉を使い、言葉を教えることのあいだに存在する問題を考える。
  - 国語科の教材を、授業で学んだ哲学や思想を踏まえて捉え直せるようになる。
- (1) Students will be able to think about what it means that learners' language activities become more active in the classroom.
- (2) Students will be able to think about the problems that exist between humans using language or teaching language.
- (3) Students will be able to reconsider the teaching materials in the Japanese language class based on the philosophy and ideas learned in the class.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、言葉の学びに携わる者に必要とされる知識を提供し、受講者はその知識をグループワークなどで活用しながら習得していく。小学校教材のみならず、比較のために中学、高校の教材も使用し、さらには、映画などのポップカルチャーを使用することもある。必ずしも教員免許状取得を目的としていなくとも、「言



葉」を再考したい方には益のある授業内容である。

In this class, teachers provide the required knowledge to Japanese language teachers, and students acquire the knowledge while utilizing it in group work. In class, we use not only elementary school materials but also junior high and high school materials for comparison, and sometimes use pop culture such as movies. Students who do not aim to obtain a teacher's license can also participate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：言語パフォーマンス発表会のグループ分け（初回欠席者は2回目に出席した段階で空いているグループに組み入れる）

※初回以降、第12回以外の授業は渡辺が担当する

2回：詩的な言葉を考える（1）ある映画をもとにグループワーク

3回：同上（2）詩の創作ワークショップ

4回：いま話題の「ごんぎつね」を考える（1）劇化してみる

5回：同上（2）教材研究のための「言語論的転回」

6回：「物語る」という営為が人間に何をもたらすか？

7回：言語論的転回の否定

8回：「あまちゃん」としてのスイミー

9回：演劇と言葉の学びをめぐる問題：吃音と即興

10回：言語パフォーマンス発表会（1）前半

11回：言語パフォーマンス発表会（2）後半

12回：「論理的思考」とは何か？、生成系AIと国語教育（この回のみ、村上担当）

13回：文字指導の注意点（書写の授業、活字、仮名遣いなど）

14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

(1) 次回扱う資料などを事前に配布し、読了しておくよう求めることがある。

(2) ワークショップや学生自身による創作活動が多い授業であることを了解の上受講すること。

(3) 言語パフォーマンス発表会は、国語科教材を劇化して発表したり、言語事項に関するリサーチの成果を演劇的に発表するものである。授業初回でグループ分けを行い、以降のグループワークから発表会まで行動を共にする。発表会の準備は授業時間外にグループで集まる必要も出てくるので、了解の上受講すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験：60%

平常点割合：40% パフォーマンス発表会の準備と運営：40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

渡辺哲男 『「国語」教育の思想：声と文字の諸相』 勁草書房 2010 9784326250653

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

渡辺哲男編 『ポップカルチャーの教育思想：アカデミック・ファンが読み解く現代社会』 晃洋書房 2023  
9784771037236

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回ノート PC かタブレットを持参すること。

コミュニケーションツールとして slack を活用する。

**その他/ Others**

言語に興味のある方のみならず、演劇的発表手法を用いるので、演劇の好きな方、人前でパフォーマンスすることの好きな方にも楽しんでいただけたらと思います。

# 算数科教育論

Mathematics Education

算数科教育論／日本の初等教育における数学教育の内容およびその背後にある初等数学と学習指導のあり方

杉田 博之 (SUGITA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF253

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学習指導要領における小学校算数科の学習指導内容とそれらを構成している初等数学の理論を知り、その指導方法の背後にある指導法の理論を知る。

Students will know about the current elementary school math class learning instruction contents in the current curriculum and elementary school math theories that form them, and know theories of instructional methods that back these teaching methods.

## 授業の内容 / Course Contents

小学校算数科の指導内容を構成している初等数学とその指導法の理論を講義し、それらの理論を深めるための実際の算数科の授業をビデオコンテンツ等で視聴したり、基礎的な数学問題に取り組んだりする。

The lecture will cover the elementary school math that makes up the instructional content of elementary school math classes and the relevant teaching theories. In order to more deeply understand those theories, students will watch video content of actual math classes and take basic math problem. .

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション・学習指導要領における算数科の学習指導内容領域」及び学校教育における算数科の役割
- 2回：日本の初等数学教育の歴史的変遷と学習指導要領における算数科の教科目標と領域
- 3回：数と計算領域① 「数とは何か」(「すう」と「かず」)  
数の意味と表現方法、十進位取り記数法、そしてその指導
- 4回：数と計算領域② 「計算とは何かー加法計算ー」(計算指導の3つの内容)  
加減計算の意味指導、演算決定能力、そしてその指導
- 5回：数と計算領域③ 「計算とは何かー減法計算ー」(計算指導の3つの内容)  
加減計算の意味指導、演算決定能力、そしてその指導
- 6回：数と計算領域④ 「計算とは何かー乗法計算ー」(計算指導の3つの内容)  
乗法計算の意味指導、演算決定能力、そしてその指導
- 7回：数と計算領域⑤ 「計算とは何かー除法計算ー」(計算指導の3つの内容)  
除法計算の意味指導、演算決定能力、そしてその指導
- 8回：数と計算領域⑥「分数・小数の意味と指導及び四則計算」  
分数・小数の表記と背景にある意味そしてその計算
- 9回：数と計算領域⑦整数の性質とその背景にある整数論  
具体的な整数の性質が用いられる場面と、整数の見方(素因数分解など)
- 10回：図形①「図形教育の4つの目標」  
基本的な図形の概念形成と包摂関係、対象概念と関係概念
- 11回：図形②「空間観念の育成」  
空間と図形、概念と観念、敷き詰め、図形の美しさ、図形と論証
- 12回：測定①「量・測定とは何か」(測定の4段階)  
測定の意味とその方法、単位と単位名の仕組み、量の計算
- 13回：変化と関係①「関数の考え」  
「関数」の意味と「関数の考え」、関数の考え、伴って変わる関係の考察
- 14回：4.データの活用「資料の整理とよみ」  
統計とは何か、小学校で扱う表とグラフの意味と選択、統計の必要性

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

- ア) 毎回課す課題のレポートを必ず作成してくる。
- イ) 講義で話題とした文献などを読んだり、講義を振り返り、学修した事項の整理と感想をまとめる。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 講義課題:30% 出席・発表の状況:10%

毎回の講義録や自主的な学習記録としてのノートづくりを勧めます。

**テキスト/Textbooks**

文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 算数編』 日本文教出版 2018  
9784536590105 ○

文部科学省 web サイトよりダウンロード可能（無料）

**参考文献 / Readings**

黒木 哲徳 『入門 算数学』 日本評論社 2009 4535784069784535785403

清水 美憲 『初等算数科教育』 ミネルヴァ書房 2019 97846230806023

**その他/ Others**

COVID-19 感染拡散防止対応策の状況や、授業の進行状況により、内容や順番に変更する場合があります。

# 理科教育論

Science Education

理科とはいかなる教科かー科学的とは何かを考える

稲垣 成哲 (INAGAKI SHIGENORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AF254

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU2700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

①理科教育の目的・目標について理解する。

②日本の理科学習における「科学的」の現状を把握するとともに、

③理科教育における現代的課題の解決方法について理解する。

(1) To understand the purpose and goals of science education.

(2) To understand the current state of "scientific" in science learning in Japan, as well as how to understand the meaning of "scientific" and its relationship to science classes.

(3) To understand how to solve contemporary issues in science education

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、初等教育における理科に関わる基礎的・基本的な知識を概観する。また、日本の子どもの現状や理科教育において解決すべき課題について、多様な文献や情報を提示しながら説明する。本授業では、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、受講生のグループワークや討論、文献輪読の機会を数多く設ける。

In this lecture, we will overview the basic and fundamental knowledge related to science in elementary education.

In addition, the current situation of children in Japan and issues that need to be solved in science education will be explained by presenting various documents and information. In this lecture, the viewpoint of active learning will be incorporated, and there will be many opportunities for students to engage in group work, discussion, and literature reading.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 小学校における理科の目標とその構造
- 2回：小学校理科における「科学的」の諸定義：素朴帰納主義
- 3回：小学校理科における「科学的」の諸定義：素朴帰納主義の問題点
- 4回：小学校理科における「科学的」の諸定義：反証主義
- 5回：小学校理科における「科学的」の諸定義：リサーチプログラム
- 6回：小学校理科における「科学的」の諸定義：パラダイム論
- 7回：小学校理科における「科学的」の諸定義：アナーキズム
- 8回：文献購読 (1)：参考文献の2を想定しており、各章を割り当て、輪読形式で実施する。
- 9回：文献購読 (2)：参考文献の2を想定しており、各章を割り当て、輪読形式で実施する。
- 10回：文献購読 (3)：参考文献の2を想定しており、各章を割り当て、輪読形式で実施する。
- 11回：文献購読 (4)：参考文献の2を想定しており、各章を割り当て、輪読形式で実施する。
- 12回：小学校理科教育における現代的課題 (1)：主体的・対話的で深い学びとは
- 13回：小学校理科教育における現代的課題 (2)：「個別最適な学び」と「共同的な学び」とは
- 14回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:50% 提出物:20% 最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

適宜指示する。

講義後半の輪読については、受講人数などを把握した上で検討し、講義中に告知する。

### 参考文献 / Readings

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省

戸田山和久 『「科学的思考」のレッスン』 NHK 出版 2011

小学校学習指導要領解説 理科編はダウンロード可能である。

その他、適宜指示する。

### その他 / Others

- ・シラバスに変更点がある場合は、初回のオリエンテーション時に告知する。

- ・ PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。
- ・ 講義参加人数にもよるが、アクティブラーニングを取り入れ、グループワーク、演習、輪読などを適宜行う。
- ・ ゲストスピーカーを招待する計画（未定）もある。
- ・ 受講生の人数により、シラバスの内容を変更することがある。



# 生活科教育論

Education of Life Studies

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AF255  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EDU2700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

生活科の成立史、またその理念や原理について理解するとともに、それらを踏まえた生活科の特質や低学年児童の発達に応じた子ども理解を深め、生活科の教科内容を理解することができるようにする。

Students can understand the history of the establishment of life sciences and their principles. They can deepen the understanding of children according to the characteristics of life sciences and the development of lower grade children.

## 授業の内容 / Course Contents

生活科の教育理念や原理について学習したうえで、学習指導要領の目標・内容・方法等の構成について学ぶ。そして、生活科の教科内容について、児童理解の方法及び学習の構想や授業の進め方等を考える。

Students learn about the educational philosophy and principles of life studies. And then they learn about the composition of goals, contents, methods, etc. of the course of study. Then, regarding the subject content of the life studies, consider the method of understanding children, the concept of learning, and the method of proceeding with classes.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：生活科の誕生——学習指導要領の変遷とともに——
- 3回：生活科の目標と内容構成 ——スタートアップカリキュラムとしての生活科——
- 4回：生活科の内容の検討2 ——①「学校と生活」②「家庭と生活」③「地域と生活」④「公共物や公共施設の利用」⑤「季節の変化と生活」 ——
- 5回：生活科の内容の検討3 ——⑥「自然やものを使った遊び」⑦「動植物の飼育・栽培」⑧「生活や出来事の交流」⑨「自分の成長」 ——
- 6回：生活科の源流を探る——ドイツ語圏の Sachunterricht——
- 7回：生活科の源流を探る——ドイツ語圏の Sachunterricht の教科書の検討——
- 8回：生活科の単元構想とその検討1
- 9回：生活科の単元構想とその検討2
- 10回：生活科の単元構想とその検討3
- 11回：生活科の単元構想とその検討4
- 12回：生活科の単元構想とその検討5
- 13回：生活科の実践と評価
- 14回：まとめ——これからの生活科——

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分で授業構想を練るだけでなく、その一部または全部を実践してみる工程を含んでいるため、授業時間外の作業は非常に多くなることに留意してほしい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業内レポート:30% 授業内レポート:40%

#### テキスト / Textbooks

適宜、配布あるいは指示する

#### 参考文献 / Readings

# 人文学とキャリア形成 a

Arts and Humanities for Career Development a

菅野 聡美／堀内 進之介 (KANNO SATOMI/ HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL001
授業形態：	オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項）	対面授業回は第6回、第11回、第14回
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART2800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

人文学本来の学びの中で、個々の目標を問い、学問の意味や目的を明確にしなが、ら、じぶんで人生設計し、キャリアをデザインすることが目標です。

The aim of this course is for students to question their own individual goals and clarify the meaning and purpose of their study of the humanities, while they design their own lives and careers.

## 授業の内容 / Course Contents

もともと「汝自身を知ること」が人文学の永遠の主題です。どんな時代や文化であろうと、全ての人間が「おのれとその生き方」を追求しました。しかもその答えが個人個人で違う点こそが、他の学問と異なって人文学の真髄なのです。この授業は、職業教育ではありません。将来の人生設計を念頭に置きながら、「じぶんはいつたい何者なのか」「人と共に生きるとは何なのか」「じぶんの人生全体で探求したいテーマは何か」といったことを考えることが目標です。基本はじぶんで考えることです。

"Know thyself" is the eternal theme of the humanities. Whatever the age and culture, every human being has pursued "the self and how to live." Interestingly, the fact that the answer differs for every individual is what distinguishes the humanities from other studies. This class is not a vocational education class. Its aim is for

students to think about "Who am I?," "What does it mean to live with others?," and "What themes do I want to explore throughout my life?," while keeping their future life designs in mind. At the base is thinking on one's own.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション・趣旨説明・履修上の注意・スケジュール確認
- 2 回：ゲスト講師による講義 1
- 3 回：ゲスト講師による講義 2
- 4 回：ゲスト講師による講義 3
- 5 回：ゲスト講師による講義 4
- 6 回：振り返り（対面）
- 7 回：ゲスト講師による講義 5
- 8 回：ゲスト講師による講義 6
- 9 回：ゲスト講師による講義 7
- 10 回：ゲスト講師による講義 8
- 11 回：振り返り（対面）
- 12 回：ゲスト講師による講義 9
- 13 回：ゲスト講師による講義 10
- 14 回：まとめと振り返り（対面）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

資料がある場合には Canvas LMS 上にアップする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義と振り返りへの積極的な取り組み:30% 小レポート(3回、20%+20%+30%):70%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

### 参考文献 / Readings

参考文献や参考資料等は Canvas LMS 上で随時紹介する。

### その他 / Others

対面形式とオンデマンドのオンライン形式を併用して実施する。2回の振り返り授業と最後のまとめの授業は対面で行う。計10回の「ゲスト講師による講義」の形式はオンデマンドで行う。

# 人文学とキャリア形成 b

Arts and Humanities for Career Development b

尾崎 名津子／堀内 進之介 (OZAKI NATSUKO/ HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL002
授業形態：	オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項）	対面授業回は第6回、第11回、第14回
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART2800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

人文学本来の学びの中で、個々の目標を問い、学問の意味や目的を明確にしなが、ら、じぶんで人生設計し、キャリアをデザインすることが目標です。

The aim of this course is for students to question their own individual goals and clarify the meaning and purpose of their study of the humanities, while they design their own lives and careers.

## 授業の内容 / Course Contents

もともと「汝自身を知ること」が人文学の永遠の主題です。どんな時代や文化であろうと、全ての人間が「おのれとその生き方」を追求しました。しかもその答えが個人個人で違う点こそが、他の学問と異なって人文学の真髄なのです。この授業は、職業教育ではありません。将来の人生設計を念頭に置きながら、「じぶんはいつたい何者なのか」「人と共に生きるとは何なのか」「じぶんの人生全体で探求したいテーマは何か」といったことを考えることが目標です。基本はじぶんで考えることです。

"Know thyself" is the eternal theme of the humanities. Whatever the age and culture, every human being has pursued "the self and how to live." Interestingly, the fact that the answer differs for every individual is what distinguishes the humanities from other studies. This class is not a vocational education class. Its aim is for

students to think about "Who am I?," "What does it mean to live with others?," and "What themes do I want to explore throughout my life?," while keeping their future life designs in mind. At the base is thinking on one's own.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション・趣旨説明・履修上の注意・スケジュール確認
- 2 回：ゲスト講師による講義 1
- 3 回：ゲスト講師による講義 2
- 4 回：ゲスト講師による講義 3
- 5 回：ゲスト講師による講義 4
- 6 回：振り返り（対面）
- 7 回：ゲスト講師による講義 5
- 8 回：ゲスト講師による講義 6
- 9 回：ゲスト講師による講義 7
- 10 回：ゲスト講師による講義 8
- 11 回：振り返り（対面）
- 12 回：ゲスト講師による講義 9
- 13 回：ゲスト講師による講義 10
- 14 回：まとめと振り返り（対面）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

資料がある場合には Canvas LMS 上にアップする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義と振り返りへの積極的な取り組み:30% 小レポート(3回、20%+20%+30%):70%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

### 参考文献 / Readings

参考文献や参考資料等は Canvas LMS 上で随時紹介する。

### その他 / Others

対面形式とオンデマンドのオンライン形式を併用して実施する。2回の振り返り授業と最後のまとめの授業は対面で行う。計10回の「ゲスト講師による講義」の形式はオンデマンドで行う。

# インターンシップ

## Internship

加藤 磨珠枝／堀内 進之介 (KATO MASUE/ HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL101
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	13回目、14回目をオンラインとする。
校地：	池袋
学期：	通年他
単位：	2
科目ナンバリング：	ART3830
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

就業体験を通じて文学部での学びを深化させる機会を得る。また、キャリアデザインを考える機会とする。  
Students will gain opportunities to deepen their studies in the College of Arts through work experience. The class will also give them opportunities to think about career design.

### 授業の内容 / Course Contents

- ・「職業と人文学」または「人文学とキャリア形成」の単位取得者対象。
  - ・春学期中に事前研修等を通じて、インターンシップへの参加目的を明確にし、必要な知識やスキルを体得する。夏季休暇中もしくは秋学期中に派遣先で実際に就業体験を積んだ上で、秋学期に事後研修、レポート作成、体験報告会などを通して、インターンシップ研修の成果や今後の課題等を確認する。
- 現段階の研修先候補として、ジュンク堂書店、朝日新聞社などを予定しているが、一部変更の可能性もある。
- ・ Persons eligible to earn credits for "Occupations and the Humanities" or "Arts and Humanities for Career Development"
  - ・ Through advance training, etc. during the spring semester, students will clarify their objectives in participating

in internships, and will acquire the necessary knowledge and skills. During summer vacation or the fall semester, after gaining actual work experience at the accepting company, students will confirm the results of their internship training, future issues, etc. through follow-up training in the fall semester, report creation, and experience report meetings.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：4月3日（水） インターンシップ説明会

【時間】 13：00～14：00 【教室】 D301

※履修希望者は必ず出席すること。

2回：4月4日（木）～4月9日（火） 履修希望届提出期間

4月9日（火） 17：00 履修希望届締切

3回：4月11日（木） 12：00 履修登録者発表（文学部掲示板（WEB上）にて発表）

4回：事前研修①

5月15日（水） 18：55～20：35 【教室】 X102

授業の進め方について

（レポートの書き方、日程調整の仕方など手続きまわりについて）

5回：事前研修②

6月12日（水） 18：55～20：35 【教室】 X102

ワークショップ

6回：事前研修③

研修先への訪問（顔合わせ・研修日程調整など）

日時は履修者が研修先と調整して決定

7回：インターンシップ1

8回：インターンシップ2

9回：インターンシップ3

10回：インターンシップ4

11回：インターンシップ5

12回：インターンシップ6

13回：事後研修①

10月2日（水） 18：55～20：35 オンライン

インターンシップ報告会・レポート提出

14回：事後研修②

11月6日（水） 18：55～20：35 オンライン

インターンシップ報告会・レポート提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：					



**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

履修希望者は4月3日（水）の説明会（13：00～14：00）に必ず出席すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 提出物:30% インターンシップ研修先の評価:20% レポート内容:30% 体験報告会での報告内容:20%

**テキスト / Textbooks**

特に指定しない。

**参考文献 / Readings**

特に指定しない。

**その他 / Others**

事前研修の教室は、「X102」を利用する。なお、事後研修は「オンライン」にて実施。

**【注意事項】**

本科目は、インターンシップや学外活動等の実践的な学びを中心に構成する授業である。

**注意事項**

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

# 書道 1

## Calligraphy 1

金子 大蔵 (KANEKO DAIZO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL107
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	1
科目ナンバリング：	ART2210
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学科日本文学専修、文芸・思想専修の教職課程登録者のみ履修可

### 授業の目標 / Course Objectives

中国・日本の古典や名筆を臨書し、学習することによって、中学校国語科書写で指導するのに必要な技術と書道全般の背景や知識を身につける。

By copying and learning Chinese and Japanese classics and writings, students will acquire the knowledge and background of calligraphy in general and the skills necessary for teaching junior high school Japanese language transcription.

### 授業の内容 / Course Contents

実習では半紙での古典臨書によって書道の基本ともいえる楷書・行書の筆法や字形を会得する。また、書道の歴史的背景や用具・用材の知識を身につけるための講義をする。

必ず初回到具を持ってくること。

In the practical training, students will learn how to write strokes and character forms in regular script and semi-cursive script – the fundamentals of calligraphy – by copying classics on calligraphy paper. In addition, lectures will be conducted to acquire knowledge of the historical background of calligraphy and its tools and materials.

Students are to bring their writing materials from the first session.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：用具・用材の説明と書道の話  
 2 回：楷書について（筆法・字形・線質など）  
 楷書課題実習  
 3 回：九成宮醜泉銘  
 4 回：孔子廟堂碑  
 5 回：雁塔聖教序  
 6 回：牛けつ造像記  
 7 回：鄭羲下碑  
 8 回：楽毅論  
 9 回：行書について（筆法・字形・線質など）  
 行書課題実習  
 10 回：蘭亭序  
 11 回：争坐位文稿  
 12 回：温泉銘  
 13 回：風信帖  
 14 回：創作

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業提出半紙課題：100%

**テキスト / Textbooks**

『書1』高等学校芸術科（書道）文部科学省検定済教科書（光村図書出版）

**参考文献 / Readings**

特になし

**注意事項**

- ・ 8/1(木)1～3 限(08:50～15:05)
- ・ 8/2(金)1～3 限(08:50～15:05)
- ・ 8/5(月)1～3 限(08:50～15:05)
- ・ 8/6(火)1～3 限(08:50～15:05)
- ・ 8/7(水)1～3 限(08:50～15:05)

教室：4353

## 書道 2

### Calligraphy 2

金子 大蔵 (KANEKO DAIZO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL108
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	1
科目ナンバリング：	ART2210
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学科日本文学専修、文芸・思想専修の教職課程登録者のみ履修可

#### 授業の目標 / Course Objectives

中国・日本の古典や名筆を臨書し、学習することによって、中学校国語科書写で指導するのに必要な技術と書道全般の背景や知識を身につける。

By copying and learning Chinese and Japanese classics and writings, students will acquire the knowledge and background of calligraphy in general and the skills necessary for teaching junior high school Japanese language transcription.

#### 授業の内容 / Course Contents

実習では半紙での古典臨書によって書道の基本ともいえる楷書・行書の筆法や字形を会得する。また、書道の歴史的背景や用具・用材の知識を身につけるための講義をする。

必ず初回到具を持ってくること。

In the practical training, students will learn how to write strokes and character forms in regular script and semi-cursive script – the fundamentals of calligraphy – by copying classics on calligraphy paper. In addition, lectures will be conducted to acquire knowledge of the historical background of calligraphy and its tools and materials.

Students are to bring their writing materials from the first session.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：用具・用材の説明と書道の話  
 2 回：楷書について（筆法・字形・線質など）  
 楷書課題実習  
 3 回：九成宮醜泉銘  
 4 回：孔子廟堂碑  
 5 回：雁塔聖教序  
 6 回：牛けつ造像記  
 7 回：鄭羲下碑  
 8 回：楽毅論  
 9 回：行書について（筆法・字形・線質など）  
 行書課題実習  
 10 回：蘭亭序  
 11 回：争坐位文稿  
 12 回：温泉銘  
 13 回：風信帖  
 14 回：創作

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業提出半紙課題：100%

**テキスト / Textbooks**

『書1』高等学校芸術科（書道）文部科学省検定済教科書（光村図書出版）

**参考文献 / Readings**

特になし

**注意事項**

- ・ 8/1(木)4～6 限(15:20～20:35)
- ・ 8/2(金)4～6 限(15:20～20:35)
- ・ 8/5(月)4～6 限(15:20～20:35)
- ・ 8/6(火)4～6 限(15:20～20:35)
- ・ 8/7(水)4～6 限(15:20～20:35)

教室：4353

# SDGs フィールドワーク<グローバル>

SDGs Fieldwork(Global)

陸前高田をグローバルに捉える

河野 哲也/奇二 正彦 (KONO TETSUYA/ KIJI MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： ART1030

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

国内のある地域の生態学的自然と人間の歴史・文化・産業を理解し、グローバルな視点からその地域を捉え直し、SDGs の目標に即した持続可能な社会を構築していくための課題と方法を体験的に理解すると同時に、ESD（環境教育）的な視座を獲得する。

Understanding the ecological nature of an area in Japan and its human history, culture, and industry, and then redefining that area from a global perspective. Students will gain an experiential understanding of the issues and methods for building a sustainable society in line with the goals of the SDGs, while at the same time acquiring an ESD (environmental education) perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

岩手県陸前高田市のグローバルキャンパスを基地として、陸前高田市の自然、歴史・文化と産業、そして2011年の東日本大震災に伴う津波被害について理解し、国際的でグローバルな視点からこの地域の課題を掘り起こし、地域の人々と交流し、この地域の持続可能な社会づくりのための提案をする。この授業は、岩手県立高田高校の生徒の「総合的な探究」の時間の授業と連携し、高校生の地域創生教育を支援し、共同で探究教育の発

表を行う。高田高校とオンラインで繋いだ高校生との合同レクチャーや事前研究会を経て、3泊4日程度の現地調査を行い、最終日にグローバルキャンパスで発表を行う。現地調査後に個人が最終レポートを作成する。

Using the Global Campus in Rikuzentakata City, Iwate Prefecture as a base, we will gain an understanding of the nature, history, culture, and industry of Rikuzentakata City, as well as the damage caused by the 2011 Great East Japan Earthquake and tsunami, uncover the region's advantages and challenges from a global perspective, interact with local people, and make proposals for creating a sustainable society in this region. We will also exchange views with local people and make proposals for the creation of a sustainable society in the region. At the same time, in conjunction with the students' Inquiry-Based Study class at Iwate Prefectural Takata High School, the program will support the high school students' regional development education and jointly present their Inquiry-Based Study. After a preliminary study with high school students, the participants will conduct a field survey for about 4 days and 3 nights, and make a presentation at the Global Campus on the last day of the program. After the field research, each individual will prepare a final report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業内容の説明、SDGsの趣旨と理念、ESDの意義、探究と調査の進め方について打合せ
- 2回：合同レクチャー：「土地の価値の掘り起こし方」、環境調査と地域創生の方法と進め方
- 3回：事前研究会（1）各グループでの事前調査の実施状況、進捗の報告
- 4回：事前研究会（2）各グループでの事前調査の実施状況、進捗の報告、高田高校との調査連携、現地調査方法確認
- 5回：現地調査（1）陸前高田市の自然・歴史・文化の調査とグローバルな視点からの地域理解についてのワークショップ
- 6回：現地調査（2）陸前高田市の自然・歴史・文化の調査とグローバルな視点からの地域理解についてのワークショップ
- 7回：現地調査（3）陸前高田市の自然・歴史・文化の調査とグローバルな視点からの地域理解についてのワークショップ
- 8回：現地調査（4）地域調査
- 9回：現地調査（5）地域調査
- 10回：現地調査（6）調査の検討、グローバルな視点からの講演とそれをテーマにした哲学対話
- 11回：現地調査（7）調査の検討と事業案の作成、発表の準備
- 12回：現地調査（8）調査の検討と事業案の作成、発表の準備
- 13回：現地調査（9）調査報告、高田高校生徒との合同発表会
- 14回：ふりかえりとまとめ：成果報告会、講評、レポート提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前調査は、各自が文献・ホームページなどにあたりながら進め、現地調査に必要なアポイントメントを取っておく。

事前のインタビューなどは、高田高校の生徒と共同して、オンラインなどを利用して実施する。現地調査後、成果をまとめて報告するとともに、レポートを作成する。テキストと参考文献を十分に参照すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% フィールドワークへの参加と取り組み:50% 事前研究会・事後報告会への参加と報告内容:30% 最終レポート割合 :20%

### テキスト / Textbooks

小熊英二 『地域をまわって考えたこと』 東京書籍 2019 -

星野道夫 『旅をする木』 文春文庫 1999 4167515024 -

### 参考文献 / Readings

Think the Earth 『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』 紀伊國屋書店 2018 4877385134

足立倫行 『イワナ棲む山里 奥只見物語』 世界文化社 2021 4418212221

阿部治・増田直広 『ESD の地域創生力と自然学校-持続可能な地域をつくる人を育てる』 ナカニシヤ書店 2020 4779514592

河野哲也 『問う方法・考える方法』 ちくまプリマー新書 2021 9784480683953

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高田高校の生徒さんたちと一緒に、陸前高田に関わる SDGs の調査と提案をしながら、高校生の地域創生教育を支援し指導するという教育を学ぶ教育です。地域の人々と連携しながら学ぶ姿勢が求められます。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

高田高校の生徒たちとはオンラインで共同作業するため、PC ない Pad を用意しておくこと。

### その他 / Others

ガイダンスの開催日程と場所は、後日 HP と掲示にて発表。その後のスケジュールも Canvas LMS などを通じて通知するので、チェックを怠らないこと。ガイダンスに来られない学生は、河野

(tetsuyakono@rikkyo.ac.jp) にメールで問い合わせること。

学内補助を使用した場合に、現地調査で学生一人が負担する金額の目安：2万5千円～3万円程度（交通費、滞在費、雑費、保険代などを含む。）



# Humanities Study 1

Humanities Study 1

History

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1511

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 履修にあたっては IELTS5.5 程度の英語力が求められる。

## 授業の目標 / Course Objectives

As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. The aim of this course is to provide students with the opportunity to analyze and discuss some of the major global changes that have taken place from the early twentieth century to the present time. This course will develop students' critical thinking skills as well as their ability to engage in meaningful discussions about historical events.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will provide an outline of the major political, social, cultural and economic changes that have occurred globally from the early twentieth century to the present time. Special emphasis will be placed on the impact of the actions of western powers in a global context. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach and include the analysis of both primary (textual and visual) and secondary sources. Course themes will include Decolonization, Independence and Nation Building, Economic Globalization and its Political Effects. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form

before coming to class. They will also write one essay of 1,500 words.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Lecture: Decolonization
- 2 回：Lecture: Three Worlds
- 3 回：Seminar: Current Trends in World History Soviet Ecocide
- 4 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence seminar: War and Propaganda
- 5 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing Independence and Nation Building
- 6 回：Lecture: Removing Obstacles to Globalization
- 7 回：Lecture: Characteristics of the New Global Order
- 8 回：Seminar: Current Trends in World History: Urbanization as a Global Phenomenon: Transforming Bombay into Mumbai
- 9 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing the Power of Grassroots Democracies
- 10 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Chimerica
- 11 回：Lecture: Global Challenges
- 12 回：Lecture: Economic Globalization and Political Effects
- 13 回：Seminar: Current Trends in World History: Global Capitalism and the Great Contraction of 2008
- 14 回：Seminar: Current Trends in World History: Has Homo sapiens Entered a New Epoch - the Anthropocene?

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

Please note that the course schedule provided in this syllabus is a general guide for students and that some changes may be made in both the content and sequence of lectures.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:30% Completion of exercises:30% Essay:40%

### テキスト / Textbooks

Students do not have to purchase a textbook for this course.

### 参考文献 / Readings

Elizabeth Pollard, Clifford Rosenberg, Robert Tignor & Alan Karras Worlds Together, Worlds Apart: A History of the World: From the Beginnings of Humankind to the Present Vol. 2, Concise 2nd Edition W.W. Norton and Company Ltd 2019 13 9780393668551

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

### その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.

# Humanities Study 2

Humanities Study 2  
Education

清水 将吾 (SHIMIZU SHOGO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL142  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1711  
使用言語： 英語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 履修にあたっては IELTS5.5 程度の英語力が求められる。

## 授業の目標 / Course Objectives

This seminar aims to philosophize education through reading and discussing Gareth Matthews' book entitled, The Philosophy of Childhood. The goals are: (1) to become able to think philosophically through reading a text, (2) to gain skills for having and learning from philosophical discussions, and (3) to develop one's own insight into fundamental questions on childhood and education.

## 授業の内容 / Course Contents

Reading Gareth Matthews' book, we will discuss fundamental questions as to what childhood is, how children become adults, how adults should interact with children, and so on.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction: Seminar guidance and other preparations for the preliminary class discussion
- 2 回： Preliminary class discussion
- 3 回： Reading and discussion (1)
- 4 回： Reading and discussion (2)

- 5回：Reading and discussion (3)  
 6回：Reading and discussion (4)  
 7回：Reading and discussion (5)  
 8回：Reading and discussion (6)  
 9回：Reading and discussion (7)  
 10回：Reading and discussion (8)  
 11回：Reading and discussion (9)  
 12回：Reading and discussion (10)  
 13回：Reading and discussion (11)  
 14回：Reading and discussion (12)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required:

- (1) to read the relevant part of the book and prepare at least one question to raise in class before every seminar session and
- (2) to write a final essay based on reading and on class discussions.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:60% Final essay:40%

### テキスト / Textbooks

Gareth Matthews *Philosophy of Childhood* Harvard 1998 0674664809 -

Students need not buy the book as the pages to read will be uploaded on Canvas.

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to be highly motivated to learn through reading and through class discussion.

# Humanities Study 3

Humanities Study 3

Religion

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL143
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	Lectures/講義
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART1111
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	履修にあたっては IELTS5.5 程度の英語力が求められる。

## 授業の目標 / Course Objectives

本コースでは、宗教全般及び宗教学に関する基礎知識を身に付け、宗教関連の諸問題を様々な視点から客観的に考える習慣・力を身に付けることが主な目的である。そのため、初期宗教学における様々な宗教論を紹介し、それらの長所や短所を検討する。

The main objectives of this course are to provide students with basic knowledge regarding religion in general and religious studies, and to enable them to think about religion-related issues from different viewpoints in an objective manner. We shall do so by introducing various early theories of religion and by examining their strengths and weaknesses.

## 授業の内容 / Course Contents

本コースは宗教学という学問の分野への入門です。その主な対象は特定の宗教の教理や歴史ではなく、宗教全般に関する宗教学理論である。故に、本コースでは、文化人類学、社会学、心理学など、諸分野の学者や思想家が宗教をどう捉えてきたかを分析しながら、宗教とは何か、宗教は何故存在し、社会においてどのような役割を果たしているかなど、宗教全般に関する大きな問題を考える。

This is an introductory course concerning the scholarly field of religious studies. The course focuses on theories of religion: while taking up concrete examples from various faiths, we shall analyze how scholars and thinkers have viewed religion. We shall look at fields such as psychology, sociology and anthropology, and by studying and comparing different approaches to understanding religion, consider important general questions such as: what is religion, why it exists, what role does it play in society and culture, etc.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： a) Course introduction. b) Explanations of religion in Ancient Greek and Roman philosophy

During this class we will talk about the contents and objectives of the course, as well as about the grading criteria, attitude in class, etc.

Furthermore, as a brie

2 回： The founding of modern religious studies

In this lecture we will talk about how religious studies were established as a field, and what the main principles of the field are.

3 回： Religion and intellect: H. Spencer and E.B. Tylor

Here we shall talk about the view that religion is an attempt to understand the world we live in, about cognitive origins of religious belief, types of religion, and other issues concerning religion discuss

4 回： Religion and intellect: J.G. Frazer

During this lecture we shall continue thinking about the early intellectualist approach to religion and discuss what magic is and how it is related with religion.

5 回： Religion and emotions: R.R. Marett and B. Malinowski

Here, in order to explore the role of human emotions in the formation of religious beliefs, we shall study about early emotionalist theories of religion and their criticism of the intellectualist approa

6 回： Religion as behavior: Ritual and sacrifice

During this class we shall think about the meaning and importance of religious practice and the social functions of rituals by learning about early theories of religious behavior put forth by the British scholar

7 回： Religion and society

Here we shall consider the problem of the definition of religion, as well as religion's social role and character by drawing upon the theory of the French sociologist E. Durkheim.

8 回： Guidance regarding the exam

During this lesson the students will be informed about grading criteria and will be given detailed instructions regarding how to write an objective and persuasive term-end paper.

9 回： Religion and the individual

Here we shall talk about the establishment of the field of religious psychology and, focusing on the issues taken up by such early psychologists of religion as W. James, examine the relationship between individuals' psychology

10 回： Religion in psychoanalysis: With a focus on S. Freud

This lecture too will be dedicated to a psychological understanding of religion, this time that by the founder of psychoanalysis S. Freud. Based on his writings about religion, we shall think about issu

11 回： Criticism of Freud's view of religion

This lecture will, while introducing C.G. Jung's understanding of religion and religiosity, bring up various criticisms of Freud's psychoanalytical view of religion.

12 回：The character of religious and magical thinking

Here, while introducing the views of several philosophers and religious studies scholars, we shall discuss whether there are deep, fundamental differences between the cognition involved in religious belief a

13 回：Religion and economy

By taking up K. Marx' view on religion and the theory of sociologist M. Weber, we will consider how the economic and political system, social class and profession influence individuals' religious outlooks, as well as how religious bel

14 回：Religion and meaning

Here, in order to examine the issue of religion and meaning, both on societal and individual levels, we shall take up the thought of anthropologist C. Geertz, who viewed religion as a system of symbols that gives human societies meani

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students taking this course will be required to read a book on religion as preparation for writing their term-end papers.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% Attitude in class:20%

"Attitude in class" concretely means whether or not, or to what extent you are asking questions concerning the content of lectures and participating in brief debates.

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

Reading material will be introduced in each lesson.

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A very high level of English proficiency is necessary in order to able to follow this course.

### その他 / Others

Handouts will be distributed during each class.

Students will not be required to study in advance.

# Humanities Study 4

Humanities Study 4

Literature

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL144

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1311

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 【本科目を履修するにあたっての基準点】 TOEFL iBT76 点、TOEFL iTP（Level1）

540 点、TOEIC（または TOEIC IP）700 点、GTEC300 点、IELTS6.0

## 授業の目標 / Course Objectives

TOPIC: ENCOUNTERING FLASH FICTION

- To practice active reading strategies with a focus on intensive reading
- To read and analyze flash fiction in English
- To participate in class discussions in English

## 授業の内容 / Course Contents

The course will focus on intensive reading of flash fiction—short stories of three or fewer pages. Though short, these stories possess all of the elements that define fiction. Through regular practice, students will develop strategies to more effectively understand and critically approach works of fiction of any length. In order to facilitate understanding of the texts, we will engage in both active and interactive reading exercises. Work in the course will involve discussion of the stories, weekly responses, and one or two in-class presentations per student, and two response papers.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：Introduction to Course; Story 1: "Night" (Lott)  
 2 回：Story 2: "Barbie Birthday" (Townsend)  
 3 回：Story 3: "Bullhead" (Wilson)  
 4 回：Story 4: "Words" (McCaffrey)  
 5 回：Story 5: "Blind Fish" (Thon)  
 6 回：Story 6: "The Doctor" (Hood)  
 7 回：Story 7: "What Were Those White Things" (Hemple)  
 Analysis Paper 1 is due  
 8 回：Story 8: "The Wallet" (McCuaig)  
 9 回：Story 9: "The Mesmerist" (Knight)  
 10 回：Story 10: "Oliver's Evolution" (Updike)  
 11 回：Story 11: "Baker's Helper" (Anderson)  
 12 回：Story 12: "Geometry Can Fail Us" (Jacksha)  
 13 回：Story 13: "Paterson Fire" (Gifford)  
 14 回：Story 14: "Initials Sketched on a Dining Room Table" (Orner)  
 Analysis Paper 2 is due  
 Brief student introductions to paper topic

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

- Students will need to come to class ready to contribute having read the outside readings for the week.
- Each week, Students will need to prepare a reading response to the week's story.

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Reading Maps and Summaries:30%  
 Reading Response Paper 1:15% Reading Response Paper 2:15% In-class Analysis Presentation:10%  
 Students who miss four or more sessions will receive no credit for "Class participation and Attendance"

**テキスト / Textbooks**

Thomas, James Flash Fiction W.W. Norton 9780393328028 -

No text required. PDF Students are required to bring a copy of the PDF version of the week's story, which will be available on the course Canvas page

**参考文献 / Readings**

Readings will be made available to students in digital form on the password protected course Canvas page.

**その他 / Others**

- The Canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.

- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures accompanied by Powerpoint slid

# Humanities Study 5

Humanities Study 5

Literature

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL145

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1311

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 【本科目を履修するにあたっての基準点】 TOEFL iBT76 点、TOEFL iTP（Level1）540 点、TOEIC（または TOEIC IP）700 点、GTEC300 点、IELTS6.0

## 授業の目標 / Course Objectives

COURSE TOPIC: FLASH FICTION INTERNATIONAL

- To practice academic reading strategies including skimming, scanning, and intensive reading
- To read and analyze flash fiction from around the world in English
- To participate in class discussions in English

## 授業の内容 / Course Contents

The course will focus on intensive reading of international flash fiction—short stories of several pages from around the world in English translation. Through regular in-class and out-of-class practice, students will develop strategies to more effectively understand and critically approach works of fiction of any length. In order to facilitate understanding of the texts, we will engage in both active and interactive reading exercises. Work in the course will involve analysis and summaries of the stories and discussion in class, one or two in-class presentations per student, and two short (1-2 page) reading response papers.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：Story 1: "Little Girls" by Tara Laskowski (USA)

Topic: Family and Parenting

2回：Story 2: "Amerika Street" by Lili Potpara (Slovenia)

Topic: Childhood and Coming-of-Age

3回：Story 3: "The Attraction of Asphalt" by Stefani Nellen (Germany)

Topic: Childhood and Coming-of-Age

4回：Story 4: "Man Carrying Books" by Linh Dinh (Vietnam)

Topic: Education and Social Class

5回：Story 5: "That Color" by Jon McGregor (England)

Topic: Memory and Nostalgia

6回：Story 6: "The Ache" by Elena Bossi (Argentina)

Topic: Memory and Desire

7回：Story 7: "Sleeping Habit" by Yasunari Kawabata (Japan)

Topic: Romantic Relationships

Analysis Paper 1 is due

8回：Story 8: "The Joke" by Giannis Palavos" (Greece)

Topic: Romantic Relationships

9回：Story 9: "The Egg Pyramid" by Nuala Ni Chonchuir (Ireland)

Topic: Romantic Relationships and Betrayal

10回：Story 10: "Eating Bone" by Shabnam Nadiya (Bangladesh)

Topic: Gender Roles and Tradition

11回：Story 11: "The Lament of Hester Muponda" by Petina Gappah (Zimbabwe)

Topic: Gender Roles and Tradition

12回：Story 12: "The Madonna Around Evelina's" by Pierre J. Mejlak (Malta)

Topic: Belief and Superstition

13回：Story 13: "The Black City" by Leonardo Alishan (Iran)

Topic: Memory and Place

14回：Story 14: "Consuming the View" by Luigi Malerba (Italy)

Topic: Culture and Preservation

Brief student Presentations

Analysis paper 2 is due

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

- Students will need to come to class ready to contribute having read the outside readings for the week.
- Each week, Students will need to submit their completed Reading Response of the week's reading.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Reading Analyses:30% Reading Response Paper 1:15% Reading Response Paper 2:15% Analysis Presentation:10%

Students who miss more than four class sessions will receive no credit for "Class Participation and Attendance."

**テキスト / Textbooks**

Thomas, James Flash Fiction International W.W. Norton 9780393346077 -

Readings from "Flash Fiction International" will be provided online in PDF form. Students are required to read the PDF versions of the story provided on the course Canvas page and bring each week's reading to class.

**参考文献 / Readings**

Supplementary readings will be made available to students in PDF files on the course Canvas page.

**その他 / Others**

- The canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.
- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures accompanied by Powerpoint slid

# Humanities Studies 6

Humanities Studies 6

Visual Poetry of Japan: 1684-2023

ミイニョオン (MIGNON EDWARD TAYLOR)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL146  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1311  
使用言語： 英語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 【本科目を履修するにあたっての基準点】  
TOEFL iBT76 点、TOEFL iTP（Level1）540 点、TOEIC（または TOEIC IP）700 点、GTEC300 点、IELTS6.0

## 授業の目標 / Course Objectives

“Visual-poetry combines visual art and poetic sensibility by manipulating images and letterforms.” From a wide perspective, we will analyze the different aspects and interpretations of "Visual Poetry" in a Japanese context. After beginning with a an example of the word made concrete in statue-form dating back to the Edo period, we will learn to appreciate find the vocabulary to discuss the varying manifestations of visual poetry: Asemic Writing, Calligrams, Calligraphy, Collages, Haiku, Japanese Translations, Lexical Poems, Mail Art, and Photography.

## 授業の内容 / Course Contents

Students must complete the readings, explore archival material on the web, and attend all lectures and seminar sessions.

Creative and written work will consist of:

1. Weekly assignments creating original works based on subjects in textbook

2. Original translations of haiku and other lexical Japanese poetry
3. An oral presentation of original research on one of the artists discussed during the course
4. A final collection of works created and translated during the course

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：1. Course Syllabus and General Introduction

1. Discussion of the course requirements
2. Description of the various artistic and writing assignments
3. Outline of the main concepts of the course
4. Guided reading

Reading:

Andrew Campana, Introduction

Short lec

2 回：Haiku & Short Poetry

Reading:

Matsuo Basho: kare eda ni

Nagata Koi

Saito Sanki

3 回：Haiku & Short Poetry 2

Reading:

Hiroaki Sato, 100 Frogs

Matsuo Basho: furu ike ya

Analysis /reading of Fujitomi Yasuo visual translation

4 回：Haiku & Short Poetry 3

Reading:

Cid Corman, On the No Stage

Cid Corman, The Tortoise

5 回：Taisho Era

Reading:

Manifesto of the Japanese Futurist Movement by Renkichi Hirato

Lecture: Methods of character manipulation in Ensemble (Renkichi) and work by Hagiwara Kyojiro

6 回：VOU

Reading:

-Tsuji Setsuko, lexical and visual poetry

- Calligram by Torii Ryozen

7 回：VOU 2

Reading:

-Torii Shozo, lexical poetry

-Poem with Photograph, Yamamoto Kansuke

8 回：Association for the Study of Arts

Viewing: Niikuni Seiichi

-Rain

9 回：Independent Artists

-Yamanaka Kyojiro

-Tanabu Hiroshi

(Concrete poetry)

10 回：John Solt

Reading:

Looking a Gift Horse in the Mouth

11 回：Book Design

-Onchi Koshiro

-Kitazono Katsue

-Sugiura Kohei

-Takahashi Shohachiro

12 回：Layout and style workshop for final collection

13 回：Collage:

FLANGER

14 回：Class readings of lexical work and "guerilla" visual exhibition

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The weekly reading must be finished before class, as well as the artistic assignments. All assignments must be completed in a timely manner. Attendance for all classes as well as participation is expected.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:30% Individual presentations:30% Final Collection:40%

#### テキスト / Textbooks

Taylor Mignon Visual Poetry of Japan: 1684-2023 KERPLUNK! 2024 9798218318826 ○

#### 参考文献 / Readings



# SDGs 演習 1

Seminar on SDGs 1

環境思想

マンジャン (MANGIN ALEXANDRE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL151  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義の目標は、過去と現代の偉大な（主にフランスと西洋の）作家の研究を通して、環境思想の基礎を与えることである。その過程で適切なアカデミック的な語彙は教えられる。フランスの概念・科目の歴史・方法論は紹介させる。

この講義は、人類学を基礎とした環境思想に真剣に興味をもって発見したい人、あるいは知識をアップグレードしたい人を対象にしている。英語のディスカッションの授業を期待している人は受講しないほうがいい。この講義は英語の授業と違うものなのである。

The aim of this course is to provide students the basics of environmental thought through the study of great (mostly French and Western) authors from the past and today. The appropriate academic vocabulary will be taught in the process. French concepts, the history of the matter, and its methodology will be introduced.

This course is aimed at those who want to discover with serious interest - or upgrade their knowledge of - environmental thought on an anthropological basis. Don't take it if you expect an English discussion class, which it is not.

**授業の内容 / Course Contents**

この講義では、歴史、理論、実践的な事例を交互に取り上げます。歴史的、学術的な基礎を固めつつ、より現代的なアプローチ（政治的、生態学的、都市学的、哲学的など）を掘り下げていきます。クイズもビデオも使用されます。

This course will alternate history, theory and practical cases. A strong historical and academic base will be provided while delving into more contemporary approaches (i.e. political, ecological, urbanistic or philosophical). Quiz and videos will be used too.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1 回：この講義への序論：用語・内容・進み方

Introduction to this course: terminology, content, and organization.

2 回：第一部：ヨーロッパの環境思想史、空間と時。第一章：環境思想史（1/4）

Ist Part: History of European environment thought, Space and time; Chapter 1: History of environmental thought (1/4)

3 回：環境思想史（2/4）

History of environmental thought(2/4)

4 回：環境思想史（3/4）

History of environmental thought (3/4)

5 回：環境思想史（4/4）

History of environmental thought (4/4)

6 回：第二章：空間と時（1/2）

Chapter 2: Space and time (1/2)

7 回：空間と時（2/2）

Space and time (2/2)

8 回：第二部：現代の概念と実践的なケース。第一章：博物館学と実践的なケース。I 博物館学 1

IInd Part: Contemporary concepts and practical cases: Chapter 1: Museology and concrete cases. I Museology 1

9 回：II 実践的なケース 1：リヨン：ゴールの首都から緑のヨーロッパの文化都市

II Concrete case 1: Lyon, from capital of the Gauls to green European cultural metropolis

10 回：III 博物館学 2

III Museology 2

11 回：IV ピエール・ラビ農民哲学者エール・ラビ

IV Pierre Rabi, the philosopher-farmer.

12 回：V 実践的ケース 2：タラール：フランスのポスト産業的なベッドタウン。モスリンからピザとクスクスへ。

V Concrete case 2: Tarare, a French post-industrial bed-town, from mousseline to pizza and couscous

13 回：第二章：パラダイム。I 世界のパラダイム：グローバル主義など。

Chapter 2: Paradigms. I. The paradigms of the world: globalism etc.

14 回：II 生存主義と崩壊学

II. Survivalism and collapsology

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、ノートの新読と前回の講座で提供された配布物の読み直しを行います。受講者の人数によっては、宿題を出すこともあります。

Every week, students will have to read their notes again and the articles provided during the previous course. Depending on the number of students, some homework might be asked.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :75%

平常点割合 :25% 出席・参加・宿題:25%

「最終試験」は、学期末に対面（筆記）により実施します。

The "final test" is administered in person at the end of each semester.

授業態度は評価の一部となります（授業中の私語・睡眠・スマホの使用は、マイナス評価となります）。

Classroom attitude will be part of the evaluation (private conversation, sleeping, and use of smartphones d

### テキスト / Textbooks

松野 弘 『環境思想とは何か—環境主義からエコロジズムへ』 ちくま書房 2009/12/10 9784480065193

-

プリントも配布される。

Handouts will be distributed too.

### 参考文献 / Readings

Attfield, Robin Environmental Thought: A Short History Polity 2021/3/16 1509536655

Rabhi, Pierre The Power of Restraint English edition Actes Sud 2018/3/19 9782330081263

De Steiguer, Joseph Edward The Origins of Modern Environmental Thought Univ of Arizona Press 2006/7/31 9780816524617

Hay, Peter Main Currents in Western Environmental Thought Indiana Univ Press 2002/2/1 9780253215116

尾関 周二（編集）、環境思想・教育研究会（編集）『「環境を守る」とはどういうことか 環境思想入門』 岩波書店 2016/11/17 9784002709604

ロベール ドロール（著）、フランソワ ワルテール（著）『環境の歴史—ヨーロッパ、原初から現代まで』 みすず書房 2007/1/11 9784622072645

授業中に、学生の参加・努力は評価の一部となります。寝たり、スマホでチャットしたりしてはいけません。

Effort in class is part of the grading. No sleeping and no private chat with the smartphones.

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語と英語で朗読できること。（フランス語の基礎も望ましいが必修ではない）

他の学生が本授業を取っても、取らなくても、受講できること。

Being able to read in Japanese and English loud. (Some knowledge of the French language would be highly appreciated, but is not mandatory)

Being able to follow a class whether or not ther

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本・プリントを忘れないように。 / Don't forget your documents.

### その他/ Others

ーこの科目は「英語に関連する科目」です。使用語は英語ではありませんが、英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の欄で確認してください。

ー教師のサイト The teacher's site: <https://iatj.wordpress.com/>

ー環境思想委員会 The Committee of Environmental thought (ComET): <http://environmentalthought.com/>

## SDGs 演習 2

Seminar on SDGs 2

対話スキルと合意形成法

村井 華代 (MURAI HANAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1823

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、我々の現実のケースモデルとしての演劇の基本的概念「対立」「対話」「共感」「行動」について、また実際に演劇がどのように他者理解と現実改善に貢献してきたかを知ること、個々人の SDGs 到達目標へのアプローチに貢献することです。

This class aims to contribute to each student's approach to the SDGs goals by learning about the basic concepts of theatre --conflict, dialogue, empathy, and action—as the case model of our reality and how theatre has practically been applied to understanding others and solving social problems.

### 授業の内容 / Course Contents

この演習では以下の2つの方法から、発表、音読、ロール・プレイング、議論を中心とした授業を進めます。履修者の人数や関心によって実際の内容は調整します。

- 西洋演劇の基本概念である「対立」「対話」「共感」について英語資料から知り、著名な戯曲を日本語で読むことでその実際を理解する。
- 演劇が他者理解と現実の改革、教育のためにどのように応用されてきたか、英語資料を通じて知り、自ら

も実践してみる。

3. イスラエルの戯曲が描く「対立」をモデルとし、紛争下の現実を越えてゆく行動について考える。

This exercise will focus on the student's presentation, oral reading, role-playing, and discussion in two ways. The content will be adjusted according to the number of students and their interests.

1.To learn about the basic concepts of Western theatre, "conflict," "dialogue," "empathy," and "action" from English materials, and to understand how they construct the world of drama through oral readings of some famous plays in Japanese.

2.To learn how legendary theatre practitioners have applied their theatrical methodologies to solve problems by understanding others and thinking differently for a better situation from English materials. Then, to practice the methods oneself.

3.To consider what actions we should take to overcome the realities of war, with reading Israeli plays as models of the "conflict."

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：自己紹介とガイダンス、授業目的・方法の共有と調整

簡単なドラマ教育の手法を用いたアイスブレイク

2回：1に関わるレクチャーとワーク： 演劇における「対立」「対話」「共感」とは？

西洋演劇の中で描かれてきた人間の争いについて、いくつかのモデル作品から知る。

それぞれの作品について、「自分ならどうするか」を考えてみる。

①ソポクレス『アンティゴネー』について

3回：1に関わるレクチャーとワーク： 演劇における「対立」「対話」「共感」とは？

西洋演劇の中で描かれてきた人間の争いについて、いくつかのモデル作品から知る。

それぞれの作品について、「自分ならどうするか」を考えてみる。

②アリストパネス『女の平和』について

4回：1に関わるレクチャーとワーク： 演劇における「対立」「対話」「共感」とは？

西洋演劇の中で描かれてきた人間の争いについて、いくつかのモデル作品から知る。

それぞれの作品について、「自分ならどうするか」を考えてみる。

③イプセン『人形の家』について

5回：1に関わるレクチャーとワーク： 演劇における「対立」「対話」「共感」とは？

西洋演劇の中で描かれてきた人間の争いについて、いくつかのモデル作品から知る。

それぞれの作品について、「自分ならどうするか」を考えてみる。

④ブレヒト『イエスマン・ノーマン』について

6回：1に関わるレクチャーとワークのまとめ：演劇が描く対立と意思決定

7回：2に関わるレクチャーとワーク： 現実を変える応用演劇、ベルトルト・ブレヒトとアウグスト・ボアールについて英語資料の読解①

8回：2に関わるレクチャーとワーク： 現実を変える応用演劇、ベルトルト・ブレヒトとアウグスト・ボアールについて英語資料の読解②

9回：2に関わるレクチャーとワーク： 現実を変える応用演劇、ベルトルト・ブレヒトとアウグスト・ボアールについて英語資料の読解③

10回：2に関わるレクチャーとワークのまとめ：演劇が現実に対してできること

11回：3に関わるレクチャーとワーク：イスラエルにおける戦争と演劇

モティ・レルネルの作品を中心に①

- 12回：3に関わるレクチャーとワーク：イスラエルにおける戦争と演劇  
モティ・レルネルの作品を中心に②
- 13回：3に関わるレクチャーとワーク：イスラエルにおける戦争と演劇  
モティ・レルネルの作品を中心に③
- 14回：ふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には以下の2点を授業時間外学習として要します。

- 1) 英語資料を訳しておく
- 2) 日本語戯曲を読む

英語が心配な人も十分に参加できるよう配分しますので英語が得意でなくてもトライしてみてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:30% 課題:30% リアクション:10% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

- ソポクレス 『アンティゴネー』 岩波書店 2014 9784003570043 -
- ヘンリック・イブセン 『人形の家（近代古典劇翻訳〈注釈付〉シリーズ）』 論創社 2020 9784846019228 -
- ベルトルト・ブレヒト 『ブレヒト戯曲全集 第6巻』 未来社 1999 9784624932763 -
- アウグスト・ボアール 『被抑圧者の演劇』 晶文社 1984 9784794936813 -
- 英語資料は別途授業内で配布します。

### 参考文献 / Readings

- Michael Rohd Theatre for Community, Conflict and Dialogue Heineman 1998 0325000026
- Anthony Jackson and Chris Vine Learning through Theatre (Third Edition) Routledge 2013 9780415530712
- ヘレン・ニコルソン 『応用ドラマ』 而立書房 2015 9784880593388

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語の簡単な文献を読むための文法能力。その他には特に必要なものはありませんが、簡単な演技を通じてのワークがあるのであらかじめ承知してください。

### その他 / Others

この科目は「英語に関連する科目」です。使用言語は英語ではありませんが英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の欄で確認してください。

## SDGs 特論 3

Advanced Course on SDGs 3

コミュニティ・地域づくり

大倉 茂 (OHKURA SHIGERU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL155

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

SDGs の観点からファッションを考えることができる。

You can think about fashion from the perspective of the SDGs.

### 授業の内容 / Course Contents

倫理学の枠組みを使って、SDGs の観点からファッションを考える。ファッションは、現代社会において人権、ジェンダー、環境などさまざまな問題と接している。われわれが購入する洋服などは現代社会を考える接点を豊富にもっている。特にファストファッションの登場によって、洋服などが消費財になっていくなかで、これまで以上にファッションをめぐる問題は大きくなっているといえる。そこで、教科書にあげているテキスト（Sue Thomas, 2018, Fashion Ethics, Routledge）などを踏まえて、われわれが日々関心を寄せているファッションを通して現代社会を考えてみたい。この講義を通じてこれからのファッション、これからの社会を考えてみよう。

Using the framework of ethics, we will consider fashion from the perspective of the SDGs. Fashion is in contact with various issues in contemporary society, such as human rights, gender, and the environment. The clothes we



buy have many points of contact with contemporary society. In particular, with the advent of fast fashion, the issues surrounding fashion have become more significant than ever as clothes have become consumer goods. Therefore, based on the textbook (Sue Thomas, 2018, Fashion Ethics, Routledge) and other texts, I would like to consider contemporary society through the lens of fashion, which is a daily concern of ours. Through this lecture, let's think about the future of fashion and society.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：倫理学の基礎
- 3 回：功利主義と義務論
- 4 回：環境正義
- 5 回：ファッションをめぐる諸問題
- 6 回：ファッションとアイデンティティ
- 7 回：ファッションとジェンダー
- 8 回：ファッションと市場経済
- 9 回：ファッションと農業
- 10 回：ファッションとヴィーガニズム
- 11 回：皮革と動物
- 12 回：綿と世界システム
- 13 回：綿と科学技術
- 14 回：SDGs とファッション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の該当部分を熟読する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

Sue Thomas Fashion Ethics Routledge 2018 -

大倉茂 『機械論的世界観批判序説』 学文社 2015 -

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

この科目は「英語に関連する科目」です。使用言語は英語ではありませんが、英語のテキストを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」の欄で確認してください。

# SDGs 特論 4

Advanced Course on SDGs 4

人権と平等

宇井 志緒利 (UI SHIORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL156

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

グローバルな視野をもって、今日起こっている様々な社会課題と原因について、人権、平等の視点から理解し分析できるようになる。またそれらの課題解決に向かって、個人および市民社会の立場からできること・果たせる役割を探り見出すことができる。

With a global perspective, students will be able to understand and analyze various social issues and causes from the human rights and equity point of view. Students will also explore and find what can be done and how citizens and civil society can contribute to solving these problems.

## 授業の内容 / Course Contents

人権と平等の基本概念を理解し、SDGs に関して人権と平等の視点からグローバル及び身近な課題を見つめなおし、理解を深める。特に、健康、教育、平和を切り口に、具体的な取り組み事例を分析し、課題のつながりと問題解決に向けた多様なアプローチと市民・市民社会の役割について考察する。また、学期中に 1 回は、授業外でこのテーマに関連したイベント・プログラムに参加し、レポートを提出する。

We have a common understanding of the basic concepts of human rights and equity, and deepen our

understanding of SDGs by re-examining global and local issues from the perspective of human rights and equity. Based on concrete cases, we analyze issues of health, education, and peace and the linkage with other issues. We search for various approaches to problem solving and the role of citizens and civil society. Students are to participate in an event program related to this theme, outside of class at least once during the semester and submit report,

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、自己紹介、授業概要と進め方
- 2 回：人権とは、平等とは、SDGs と人権・平等
- 3 回：SDGs の背景と概要、グローバルとローカルな私たちの課題①
- 4 回：SDGs グローバルとローカルな私たちの課題②
- 5 回：市民社会の様々な活動とアプローチ 授業外プログラムへの参加とレポート作成
- 6 回：教育を切り口に考える① 国際レベルで
- 7 回：教育を切り口に考える② 日本国内で
- 8 回：健康を切り口に考える① フィリピン先住民の健康問題事例紹介、問題分析
- 9 回：健康を切り口に考える② 問題分析 健康と他の要因のつながり
- 10 回：健康を切り口に考える③ 解決への取り組み事例 権利ベースアプローチ
- 11 回：健康を切り口に考える④ 身近なモノをとおして考える： 医薬品
- 12 回：平和を切り口に考える① 平和とは、平和理論  
身近なモノをとおして考える：スマホ
- 13 回：平和を切り口に考える② NGO の活動事例
- 14 回：私たちの考える豊かさとは、目指したい社会は 全体のまとめと振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回事前配布資料や課題を出すので、必ず準備して授業に参加することが求められる。事前準備をしないと、グループワークについていけなくなる。授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクション・ペーパー、ミニ課題、参加態度:50% 授業外プログラム参加レポート:10%  
最終レポート割合：:40%

初回オリエンテーション授業には必ず参加すること。3分の2以上の授業出席をしていない場合は、単位修得はできない。また、授業に出席していてもグループワークに参加しない場合は、出席とはみなさない。

### テキスト / Textbooks

人権、SDGs に関わる国連文書など、英文オリジナルも使用する。その他授業内で適宜紹介・指示する。

### 参考文献 / Readings

松岡秀紀・岡島克樹編著 『SDGs と人権 Q&A』 解放出版社 2021 9784759297990

西あい・湯本浩之編著 『グローバル時代の「開発」を考える』 明石書店 2017 9784750345550

ヨハン・ガルトゥング著 『日本人のための平和論』 ダイヤモンド社 2017 9784478100813

デイビッド・ヒューム 『貧しい人を助ける理由』 日本評論社 2017 9784535558892

南博・稲場雅紀 『SDGs 危機の時代の羅針盤』 岩波新書 2020 9784004318545

大橋正明 他編著 『非戦・対話・NGO』 新評論 2017 9784794810816

パウロ・フレイレ/三砂ちづる訳 『被抑圧者の教育学』 亜紀書房 2018 9784750515458

他、授業内で適宜紹介・指示する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

グローバルおよび国内の社会課題や NGO など市民組織に関心を持ち、自主的積極的にニュースを見たり関連情報を収集する意欲。

グループの中で積極的に意見交換や議論をする姿勢。

### **その他/ Others**

毎回グループディスカッションを行うので、活発な参加が求められる。

リアクション・ペーパーへのフィードバックや質問応答は、次の授業開始時などに行う。

この科目は「英語に関連する科目」である。授業は基本日本語で行うが、SDGs の基本文献など英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっている。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の他、授業内で紹介する。

# 人文情報・メディア学演習 1

Seminar on Digital Humanities and Media Studies 1

人文情報メディア基礎論（文献講読）

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL161

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基本文献の検討やデータ分析の演習を通じて、人文情報学メディア学について体系的かつ実践的に理解を深めることを目指す。

Through the examination of basic literature and exercises in data analysis, the course aims to deepen students' understanding of digital humanities and media studies in a systematic and practical way.

## 授業の内容 / Course Contents

全体を「情報の入手」「情報の分析」「情報の可視化」という3つのパートに分けて進める。各パートは、文献講読回とデータ分析回から構成される。

文献講読回では、基本的に毎回、教員の指定する文献（日本語並びに英語）を予習で全員読み、報告担当者は内容のまとめ、重要な部分の逐語訳を行う。データ分析回では、教員の指定するデータベース（日本語並びに英語）を用い、講義内容を踏まえた演習課題を予習として実施し、さらに演習での議論を踏まえて自分自身の関心の基づく成果物を提出する。

The entire course will be divided into three parts: "Obtaining Information," "Analyzing Information," and

"Visualizing Information." Each part consists of a literature reading session and a data analysis session.

In the literature reading session, all students are required to read the literature, written in Japanese and in English, designated by the instructor in advance, and the person in charge of the presentation summarizes the contents and translates the important parts verbatim. In the data analysis session, students are required to complete the exercise based on the lecture content as a preparatory study, and then submit the results based on the discussion in the exercise.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：人文情報メディア学の射程
- 2回：情報の入手（1）
- 3回：情報の入手（2）
- 4回：情報の入手（3）
- 5回：情報の入手（4）
- 6回：情報の分析（1）
- 7回：情報の分析（2）
- 8回：情報の分析（3）
- 9回：情報の分析（4）
- 10回：情報の可視化（1）
- 11回：情報の可視化（2）
- 12回：情報の可視化（3）
- 13回：情報の可視化（4）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読回およびデータ分析回に向けた予習と、データ分析演習の復習をかねた成果物の提出を実施すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献講読に関する成果:30% データ分析演習の成果:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

随時、資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

Matthew K. Gold, Lauren F. Klein Debates in the Digital Humanities 2019 University of Minnesota Press  
2019 9781517906931

Susan Schreibman, Ray Siemens, John Unsworth A New Companion to Digital Humanities Wiley-Blackwell  
2016 9781118680599

一般財団法人人文情報学研究所（監修） 『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』 文学通信  
2021 9784909658586

橋本雄太・後藤真 『歴史情報学の教科書』 文学通信 2019 9784909658128

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

授業の性質上英語文献やデータも用いるが、苦手な人にも配慮する。その上で、様々な学年や専門の受講生が参加することを期待する。初回に出席者との間で共通テーマ並びに講読する文献を決定する。要するに、大学図書館などにある電子リソースを自分のレポートや卒業論文でどのように使ってゆくのかの訓練でもあるので、すべての人に開かれています。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

各自ノートパソコンは用意しておいて欲しい。ない場合は大学で借りることは可能である。

### **その他/ Others**

この科目は「英語に関連する科目」です。使用言語は英語ではありませんが英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の欄で確認してください。

# 人文情報・メディア学演習 2

Seminar on Digital Humanities and Media Studies 2

人文情報メディア基礎論（文献講読）

小風 尚樹（KOKAZE NAOKI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL162

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基本文献の検討やデータ分析の演習を通じて、人文情報学メディア学について体系的かつ実践的に理解を深めることを目指す。

Through the examination of basic literature and exercises in data analysis, the course aims to deepen students' understanding of digital humanities and media studies in a systematic and practical way.

## 授業の内容 / Course Contents

全体を「情報の入手」「情報の分析」「情報の可視化」という 3つのパートに分けて進める。各パートは、文献講読回とデータ分析回から構成される。

文献講読回では、基本的に毎回、教員の指定する英語文献を予習で全員読み、報告担当者は内容のまとめ、重要な部分の逐語訳を行う。データ分析回では、講義内容を踏まえた演習課題を予習として実施し、さらに演習での議論を踏まえて成果物を提出する。

The entire course will be divided into three parts: "Obtaining Information," "Analyzing Information," and "Visualizing Information." Each part consists of a literature reading session and a data analysis session.



In the literature reading session, all students are required to read the literature, written in English, designated by the instructor in advance, and the person in charge of the presentation summarizes the contents and translates the important parts verbatim. In the data analysis session, students are required to complete the exercise based on the lecture content as a preparatory study, and then submit the results based on the discussion in the exercise.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：人文情報メディア学の射程
- 2回：情報の入手（1）：メタデータによる知識の構造化
- 3回：情報の入手（2）：デジタル史料批判
- 4回：情報の入手（3）：テキストの構造化
- 5回：情報の入手（4）：構造化データからの情報抽出演習
- 6回：情報の分析（1）：探索的データ分析
- 7回：情報の分析（2）：「客観性神話」とデジタル解釈学
- 8回：情報の分析（3）：テキストマイニングとは何か
- 9回：情報の分析（4）：テキストマイニング演習
- 10回：情報の可視化（1）：Web 2.0 とパブリック・ヒューマニティーズ
- 11回：情報の可視化（2）：データ・ビジュアライゼーションの理論\_前編
- 12回：情報の可視化（3）：データ・ビジュアライゼーションの理論\_後編
- 13回：情報の可視化（4）：データ・ビジュアライゼーション演習
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読回およびデータ分析回に向けた予習と、データ分析演習の復習をかねた成果物の提出を実施すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献講読に関する成果:30% データ分析演習の成果:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

随時、資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

Matthew K. Gold, Lauren F. Klein Debates in the Digital Humanities 2019 University of Minnesota Press  
2019 9781517906931

Susan Schreibman, Ray Siemens, John Unsworth A New Companion to Digital Humanities Wiley-Blackwell  
2016 9781118680599

一般財団法人人文情報学研究所（監修） 『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』 文学通信  
2021 9784909658586

橋本雄太・後藤真 『歴史情報学の教科書』 文学通信 2019 9784909658128

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

毎週英語文献の読解を課すので、ある程度の英語読解能力と、日本語でやり取りするための文章力・コミュニケーション能力を要求します。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

オンラインで同時双方向通信を実施するため、毎回 PC で参加すること。

### **その他/ Others**

この科目は「英語に関連する科目」です。使用言語は英語ではありませんが英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の欄で確認してください。

# 人文情報・メディア学特論 1

Advanced Course in Digital Humanities and Media Studies 1

人文情報とメディア

吉田 寛 (YOSHIDA HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

デジタルゲームを理解する

Understanding Digital Game

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は、歴史と理論、主要トピックを焦点を当てることで、デジタルゲーム研究の概観を提供します。

This course offers a general view of digital game studies, focusing on its history, theory and pivotal topics.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ゲーム研究の歴史 (1) 前史 / History of Game Studies (1) Prehistory

2 回：ゲーム研究の歴史 (2) ルドロロジー / History of Game Studies (2) Ludology

3 回：ゲーム研究の歴史 (3) 現在 / History of Game Studies (3) Present

4 回：ルール / Rule

5 回：物語 / Story

6 回：インタラクティビティ / Interactivity

- 7回：インターフェイス / Interface  
 8回：遊び / Play  
 9回：楽しさ / Fun  
 10回：没入 / Immersion  
 11回：メディア / Media  
 12回：グラフィックス / Graphics  
 13回：サウンドと音楽 / Sounds and Music  
 14回：プラットフォーム / Platform

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

その都度、授業中に指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

吉田寛 『デジタルゲーム研究』 東京大学出版会 2023 9784130101578 -

#### 参考文献 / Readings

# 人文情報・メディア学特論3

Advanced Course in Digital Humanities and Media Studies 3

電子メディア基礎論

菊池 信彦 (KIKUCHI NOBUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL165

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1803

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

データベースやプログラム、各種ツールの利用を通じて、人文情報メディア学について理解を深める。特に、文献や史資料データの入手と整理方法、テキストデータ作成について実践的に学ぶ。

This lecture encourages students to deepen their understanding of Humanities Information Media Studies through the use of databases, programs, and various tools. In particular, they practically learn about obtaining and organizing literature and historical data, as well as creating text data.

## 授業の内容 / Course Contents

OPAC、商用データベース、デジタルアーカイブを使った文献情報の入手、文献管理ツールによる情報の整理方法を習得する。また、人文学におけるデータ活用を見据え、テキストデータの入手と管理、前処理についても実践的に学ぶ。

Students learn how to acquire bibliographic information using OPAC, commercial databases, and digital archives, and how to organize information using literature management tools. Furthermore, with an eye towards data utilization in humanities, they also practically learn about acquiring and managing text data, as well as its

preprocessing

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：ガイダンス、講義の概要と成績評価の案内、図書館とデータベースの使い方
- 2 回：デジタルヒューマニティーズ（人文情報学）の研究フローと本講義の位置づけ
- 3 回：文献検索と文献情報の管理方法の習得（文献管理ツールの利用）
- 4 回：文献調査法その1（文献情報を調べる）
- 5 回：文献調査法その2（新聞データベースと電子ジャーナル）
- 6 回：デジタルアーカイブを調べる（国内編）
- 7 回：デジタルアーカイブを調べる（海外篇）
- 8 回：実習：文献リストを作る
- 9 回：Git と GitHub の使い方とその実践
- 10 回：OCR を利用したテキストデータ作成
- 11 回：API を使った情報収集
- 12 回：OpenRefine を使ったデータクレンジングと前処理
- 13 回：実習：テキストデータセットの作成
- 14 回：講義のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

各回の実習内容を振り返り、特に授業時間内に終わらなかった実習課題については確実に実践、習得すること

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート (Interim Report) :40% 出席および授業参加態度:20% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

ジョナサン・ブレインニー ほか 『デジタルヒストリーを实践する』 文学通信 2023 9784867660225 ○  
講義中に適宜提示、案内する。

**参考文献 / Readings**

講義中に適宜提示、案内する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

慣れないツールやデータの扱いにおいては、トライ＆エラーを積極的に試していく姿勢が求められる。

加えて、受講生各自の人文学研究領域に本講義内容を適用するために、各自の専門分野に関する最低限の基礎知識も必要である。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

受講にあたっては PC が必須である。

**その他 / Others**

講義の進捗に合わせ、授業計画を変更する可能性がある。

また、この科目は「英語に関連する科目」です。使用言語は英語ではありませんが英語のテキストやデータベースを用いて授業を行うバイリンガルの設定となっています。使用する資料等については上記の「テキスト」「参考文献」の欄で確認してください。

# 心理学 1

## General Psychology 1

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL201

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 授業はすべてオンラインのリアルタイム形式で行う。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

心理学の基本的な知見と全体像を理解する。

Students will learn fundamental knowledge and overall picture of psychology.

### 授業の内容 / Course Contents

知覚、記憶、思考、言語など、ヒトの心は様々な機能を持っている。心の働きを科学的に解明する心理学も、それに応じて様々な専門分化した研究がなされている。本講義では、心的機能の様々なトピックごとに心理学の理論や研究を紹介することで、多様性を含みこんだ心理学の研究の全体像を得るとともに、心についての基本的な知見を得る。

The human mind has various functions such as perception, memory, thought, and language. In psychology, which scientifically elucidates the workings of the mind, there are various specialized studies. In this lecture, by introducing psychological theories and research on various topics related to mental functions, we will obtain an overview of psychological research that includes diversity, and at the same time, acquire basic knowledge about



the mind. obtain.

Classes will be conducted online in real-time, not on-demand.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：心理学とは何か
- 3回：心と脳
- 4回：感覚と知覚
- 5回：記憶
- 6回：学習
- 7回：言語
- 8回：思考
- 9回：情動
- 10回：動機づけ
- 11回：性格・個人差
- 12回：発達
- 13回：社会と認知
- 14回：カウンセリング

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業資料をもとに授業終了後各自復習すること。予習については必要に応じて適宜指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 平常点 (出席など授業参加態度) :40%

受講の注意点や評価については初回ガイダンスでアナウンスするので必ず出席すること。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

無藤隆 など 『新版 心理学』 有斐閣 2018 9784641053861

### その他 / Others

授業や評価方法などに関する質問については、基本的にメールで受け付けない。授業中に時間をとるので質問などはその時に受け付ける。

# 心理学 2

## General Psychology 2

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL202

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 授業はすべてオンラインのリアルタイム形式で行う。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

心理学について、その全体像を学問史的な観点から理解する。

Students will learn the whole picture of psychology from the academic history.

### 授業の内容 / Course Contents

心理学では、様々な理論やアプローチ方法が提起されてきた。本講義では、心理学の主要な理論やアプローチ法を、学問史的に紹介していく。それらを通して、科学の営みとしての心理学の全体像を得るとともに、心についての基本的な知見を得る。

Various theories and approaches have been proposed in psychology. In this lecture, I will introduce the major theories and approach methods of psychology from the perspective of academic history. Through these, students will gain an overview of psychology as a scientific endeavor, as well as basic knowledge about the mind.

Classes will be conducted online in real-time, not on-demand.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：心理学前史1
- 3回：心理学前史2
- 4回：近代心理学の成立
- 5回：アメリカにおける近代心理学
- 6回：行動主義
- 7回：ゲシュタルト心理学・社会心理学
- 8回：認知心理学
- 9回：生態心理学・身体性
- 10回：臨床心理学前史
- 11回：無意識の心理学と臨床心理学
- 12回：臨床心理学の成立と発展
- 13回：臨床心理学の理論と治療技法の発展
- 14回：個人差の心理学

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業資料をもとに授業終了後各自復習すること。予習については必要に応じて適宜指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% 平常点（出席・授業参加態度など）:40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

大芦治 『心理学史』 ナカニシヤ出版 2016 9784779511028

#### その他 / Others

授業や評価方法などに関する質問については、基本的にメールで受け付けません。授業中に時間をとるので質問などはその時に受け付けます。

# 情報処理 1

## Information Processing 1

文系学生向けのパソコン初級講座

影山 亮 (KAGEYAMA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業ではパソコン初心者が、Word や Excel、PowerPoint など基本的なソフトの使い方を習得することを目標とする。また他の講義や演習、卒業論文執筆の際に利用できる資料検索のスキルについても実践のうえ、習得する。

The goal of this class is for beginners to learn how to use basic software such as Word, Excel, and PowerPoint. Students will also practice and acquire the skills to search for materials that can be used in other lectures, seminars, and writing graduation thesis.

### 授業の内容 / Course Contents

文系の学生が使用する基本的な P C 操作について学ぶ。主に Word を使用したレポートなどの書面作成や、Excel を使用した表の活用、PowerPoint を使用したプレゼンテーション方、資料検索に関するインターネットを介した検索方法など。なお、実習科目なので、出席を基本として、理解度合によって進行が変わる可能性がある。

Learn basic PC operations used by humanities students. Mainly writing documents such as reports using Word,

utilizing tables using Excel, how to make presentations using PowerPoint, how to search materials via the Internet, etc. In addition, since it is a practical course, the progress may change depending on the degree of understanding based on attendance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：メールの活用、インターネット使用のルールについて
- 3回：Wordと文書作成（1）基礎編
- 4回：Wordと文書作成（2）応用編
- 5回：Wordと文書作成（3）実践編
- 6回：Excelと表作成（1）基礎編
- 7回：Excelと表作成（2）応用編
- 8回：Excelと表作成（3）実践編
- 9回：PowerPointとプレゼンテーション（1）基礎編
- 10回：PowerPointとプレゼンテーション（2）応用編
- 11回：途中まとめ&課題
- 12回：インターネットを介した資料検索（1）
- 13回：インターネットを介した資料検索（2）
- 14回：まとめ&アンケート

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各課題の予習と復習を行い、パソコン操作の習熟に努めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題:30% 最終課題:40% 授業参加度:30%

### テキスト / Textbooks

榎本竜二 『情報機器の操作』 実教出版 2013 9784407331332 ○

### 参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

### その他 / Others

この授業は初心者向けの授業で、Windowsを使用する。また授業時間では作業実践の時間をより長く取るので、能動的に参加する必要がある。

## 情報処理 2

Information Processing 2

MS Office を用いた情報処理・情報表現入門

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL204

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） 毎週水曜日の「0：00」に授業用の動画・資料にアクセスできるようにする予定です。

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ART1800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

MS Office を用いた情報処理や情報表現の基本操作を習得する。

Acquire proficiency in the fundamental operations for processing and representing information using Microsoft Office.

### 授業の内容 / Course Contents

MS Office を用いた情報処理や情報表現の仕方を、指定のテキストに準拠しながら演習形式で解説する。

The lecture will explain the ways of processing and representing information using Microsoft Office in an exercise format, while conforming to the specified text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文書の作成と管理

3 回：一般的なビジネス文書の作成

- 4回：シンプルなレポートや報告書の作成
- 5回：表・画像・図形を使った文章の作成
- 6回：プレゼンテーションの企画
- 7回：わかりやすいストーリー構成
- 8回：センスアップするレイアウトデザイン
- 9回：イメージを伝えるイラスト・写真活用
- 10回：表作成の基本
- 11回：見やすく使いやすくする編集操作
- 12回：数式・関数を活用した集計表の作成
- 13回：グラフの基本
- 14回：最終確認テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講後は、完璧に使いこなせるようになるまで復習を徹底してください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終確認テスト:20% 毎回の提出物:80%

#### テキスト / Textbooks

土岐順子ほか 『情報利活用 基本演習 Office2021 対応』 日経 BP 2022 9784296050369 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

- (1) 授業はすべて、オンデマンド（動画配信）の形式で行う。
- (2) 授業は、上記の指定テキストに沿って進める。
- (3) 授業計画内容は、進み具合で多少前後することがある。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）3a

Information Processing 3a

PowerPoint を利用したプレゼンテーション提示資料の作成

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

PowerPoint によるプレゼンテーション用スライド資料の作成を通じて、PC プレゼンテーションの特徴と情報処理の基礎的な知識や技能を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge and skills for PC presentations and information processing by creating presentation slide materials using PowerPoint.

## 授業の内容 / Course Contents

口頭発表で使用するスライド資料作成を通して PowerPoint の操作方法について実習する。

項目レベルの意味づけ、図形描画などの基本的な機能やオブジェクトの整理、関連づけなどの効率的な機能などについて説明するとともに、スライド作成を通して情報の可視化、視覚表現に求められる要素など PC プレゼンテーションで考慮すべき点についても取り上げる。

実習形式の授業となるため、毎回 PowerPoint を操作しながら受講する必要がある。

Students will gain practical training in using PowerPoint by creating slide materials to be presented during oral presentation.



In addition to explaining basic functions such as assigning meaning to items and drawing figures, and efficient functions such as organizing and associating objects, this course will also visualize information through slide creation and consider elements required for visual expression in PC presentations.

In order to implement the course in practical exercise format, it is necessary to take the course while operating PowerPoint every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：PowerPoint の概要と基本的なスライドの作成
- 2 回：箇条書きレベルの意味づけと段落書式の種類
- 3 回：PowerPoint 上で作成する表とグラフ
- 4 回：SmartArt を利用した箇条書き図解と注意点
- 5 回：オンライン画像利用の注意点と著作権
- 6 回：画像の表示と加工，クレジットとリンクの挿入
- 7 回：図形の挿入と書式指定，図解の作成と視覚化表現
- 8 回：オブジェクトウィンドウの利用と複数図形の配置整理，グループ化
- 9 回：スライドテーマとデザイン，色と背景の詳細指定
- 10 回：画面切り替えとアニメーションの基本
- 11 回：アニメーションウィンドウの利用と複数アニメーションの連動
- 12 回：スライドショー操作とポインターの変更
- 13 回：リハーサルとスライドショーの記録
- 14 回：プレゼン内容や資料の使用目的によるスライド構成の相違点，最終課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

論理重視か共感重視かなど、プレゼンの目的によってスライドに求められる内容も変化する。本授業では授業や研究発表での口頭発表を中心に必要と思われる技法を紹介するが、他にどのような場面で利用するのが効果的か、また他の目的でプレゼンする場ではどのような応用が可能か考えること。

応用に関して質問があれば上記授業内容から外れる事柄であっても自由に申し出てください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で指示する提出物（複数回）：75% 最終授業時に提出する課題：25%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

特に指定しない。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

PowerPoint の基本的な操作から始まり提示資料作成に必要な機能の実習が中心となる。そのため PC 操作や

PowerPoint でのスライド作成経験を問わない。

ただし作成に十分な技能を有している場合、内容の多くは機能の再確認にとどまる可能性が高い点に留意する。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回メディアセンターの PC 実習室を利用するので準備は不要。

ただし個人の PC を利用する場合は Microsoft365（または Microsoft Office）の PowerPoint がインストールされている必要がある。他のプレゼンテーションアプリ（KeyNote, Google slide, ポラリスオフィスなど）の使用は認めない。

PowerPoint をインストールする必要がある場合、大学在学中は無償で利用できる Microsoft365 の EES ライセンスプログラムを利用できる。

必要な場合は Spirit の

#### **その他/ Others**

授業資料配布及び課題提出には Canvas LMS を利用する。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）4a

Information Processing 4a

PowerPointのスライド資料と視覚表現

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL206

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

概要の直感的把握が必要な提示資料に求められる視覚表現の特徴について、スライド資料の作成を通じて理解を深めるとともに情報処理の基礎や技能を身につける。

Through the creation of slide materials, students will deepen their understanding of the characteristics of visual expression required for presented materials that require an intuitive grasp of the outline, and acquire the basics and skills of information processing.

## 授業の内容 / Course Contents

スライドの「コンテンツを構成する視覚要素」と「視覚要素が受け手に与える印象」について知ることで、口頭発表という形式の短所を補い「分かりやすさ」を促す画面構成について考える。

操作説明を除き授業では2週で1つの視覚要素を扱う。

1週目は視覚要素の特徴と画面構成に必要な操作を説明し、要素を利用したスライドを作成する。2週目は作成されたスライドへの講評を通して具体的な作成上の留意点を説明する。

By learning about the visual elements that make up the content" of slides and the ``impressions that visual

elements give to the audience," think about screen configurations that compensate for the shortcomings of the oral presentation format and promote `` easiness of understanding."

Excluding operational explanations, each class covers one visual element every two weeks.

In the first week, we will explain the characteristics of visual elements and the operations required for screen configuration, and create slides using the elements. In the second week, specific points to keep in mind when creating slides will be explained through comments on the slides that have been created.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Powerpoint の基本操作：テキスト項目の箇条書きレベル設定と段落書式の変更
- 2 回：SmartArt の操作：簡易的な図解の作成と利用上の問題点
- 3 回：図形の操作：図形描画とテキストの挿入，書式の変更，グループ化，配置の調整
- 4 回：ブロック図形を利用した図解：視覚変数の特徴と同レベル・付属レベルの強調
- 5 回：講評：グループ化の表現
- 6 回：矢印・線を利用した図解：図形の配置と関係性を強調する線・矢印の種類
- 7 回：講評：分岐と連続性の表現
- 8 回：色を利用した図解：色の3属性と心理的效果，隣接する色の対比効果
- 9 回：講評：関係性の強調と光媒体上の見やすい配色
- 10 回：インターネット上の画像の利用と著作権，ライセンスとクレジット表記
- 11 回：画像を利用した表現：主旨および項目の視覚化と文脈理解へのノイズ
- 12 回：講評：画像の種類による情報量の違い，主体や印象の影響
- 13 回：アニメーションの種類と連続表示，オブジェクトの動きと時間の効果
- 14 回：最終課題：「把握しやすい」プレゼンテーションの作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各授業で取り上げる視覚要素について，なぜそれらが効果的な表現方法となるのか，他にはどのような視覚要素が考えられるかを整理すること。

パワーポイントでの表現に関する質問であれば授業の内容以外でも随時質問を受けつけます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指定する課題（複数回）:75% 最終課題:25%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

三末 和男 『情報可視化入門:人の視覚とデータの表現手法』 森北出版 2021 9784627855915

宮野 公樹 『学生・研究者のための 使える!PowerPoint スライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術』 化学同人 2009 9784759811759

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

PC 操作や PowerPoint の基本的な操作ができることが望ましいが、授業内で随時説明するので必須ではない。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回メディアセンターの PC 実習室を利用するので準備は不要。

ただし個人の PC を利用する場合は Windows, MacintoshPC とともに Microsoft365 (または Microsoft Office) の PowerPoint がインストールされている必要がある。他のプレゼンテーションアプリ (KeyNote, Google slide, ポラリスオフィスなど) の使用およびスマホ, タブレット PC の Office Mobile の利用は推奨しない。

PowerPoint をインストールする場合, EES ライセンスプログラ

**その他/ Others**

授業の資料配布及び課題提出には Canvas LMS を利用する。

# ギリシア語 1

Greek 1

古典ギリシア語初級（前半） / Elementary Greek (first half)

松浦 高志 (MATSUURA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL207

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古典ギリシア語の初級文法を一年かけて学び、新約聖書やプラトーンの哲学作品などを、辞書と文法書を使って読めるようにする。

This course introduces students to elementary Greek grammar. By the end of the academic year, students will be reading some passages from the New Testament or the Plato's dialogues etc. with the help of a dictionary and a grammar book.

## 授業の内容 / Course Contents

### [I. 概要]

春学期の授業の主な内容は次の三つである。

- ギリシア語アルファベット 24 文字を覚える。
- 名詞の格変化を覚える。
- 名詞の格の概念を覚え、それにもとづいて短めの簡単な文を訳す。

ギリシア語アルファベットの多くの文字はローマ字と似ているので、A は一週間～二週間かけてしっかり勉強

すれば誰でも覚えられる。Bは覚える量が多いので、おおむね一学期間をかけて覚えていくことになる。Cには少々センスが要求される。練習問題をこなしていくことで、少しずつその方法を覚えていく。

## [II. 授業の進め方]

授業は次のように行う。第1回は a, d, e, f のみ行う。

- a. [授業前] 必要があれば教材を事前にダウンロードしておく。
- b. [授業開始] 小テストを実施。
- c. 練習問題の答え合わせ（受講生が順番に発表）。
- d. 教材を配布し新たな文法事項を学習する。
- e. 次の小テストと練習問題の指示。
- f. [授業後] 小テストのための暗記を行い、練習問題を解いてくる。

## [III. ギリシア語アルファベットの暗記（第3回授業時まで）]

第3回の授業からはギリシア語アルファベットの読み書きができるようになっていることを前提に授業を進める。

ギリシア語アルファベットの読み書きができるようになっているかは次の二つで確認することができる。

- i. 第2回、第3回の小テストで自己点検
  - ii. 第1回と第2回の後に課される簡単な提出課題（添削して各自に返却する予定）
- やむを得ず第1回、第2回の授業に参加することができなかった学生は提出課題を後で提出することができる。

## [I. Overview]

The three main contents of the spring semester classes are as follows:

- A. To learn the 24 letters of the Greek alphabet.
- B. To learn the declension tables of nouns.
- C. To learn the concept of the case of nouns and to translate short, simple sentences.

The Greek alphabet is very similar to the Roman alphabet, so anyone can learn if they study it carefully for a week or two (A). There are many declension tables of nouns to memorise, so it takes about a semester to learn them (B). It takes time to acquire the concept of case, so this is acquired through repeated translation exercises (C).

## [II. Classroom procedures]

The classes will be conducted as follows. In the first class, only a, d, e and f will be given.

- a. [Before class] Download the teaching materials in advance if necessary.
- b. [Start of class] Quiz.
- c. Answers to exercises (students' presentations in turn).
- d. Hand out materials and study new grammar points.
- e. Instructions for the next quiz and exercises.
- f. [After class] Memorise the material for the quiz and complete the exercises.

## [III. Memorisation of the Greek alphabet (by the third class)]

From the third class, it is assumed that students are able to read and write the Greek alphabet.

The following two checks will be made to ensure that students are able to read and write the Greek alphabet:

- i. Self-checking with quizzes in the second and third classes.
- ii. A short submission assignment after the first and second sessions (to be corrected and returned to each student).

Students who are unable to attend the first and second classes due to unavoidable circumstances can submit their

assignments later.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文字と音韻(1)：ギリシア語アルファベット 24 文字を学ぶ。
- 2 回：文字と音韻(2)：氣息記号とアクセントについて学ぶ。
- 3 回：名詞(1)：第 1・第 2 曲用名詞・形容詞の変化形を学ぶ。
- 4 回：名詞(2)：第 1・第 2 曲用名詞・形容詞の変化形を学ぶ。
- 5 回：文字と音韻(3)：音の変化について学ぶ。
- 6 回：名詞(3)：第 3 曲用名詞・形容詞の変化形を学ぶ。
- 7 回：名詞(4)：第 3 曲用名詞・形容詞の変化形を学ぶ。
- 8 回：名詞(5)：代名詞の変化形を学ぶ。
- 9 回：文字と音韻(4)：アクセントの細かい規則について学ぶ。
- 10 回：名詞(6)：数詞について学ぶ。
- 11 回：動詞(1)：動詞について概説する。
- 12 回：動詞(2)： $\omega$  動詞の現在組織の変化形を学ぶ。
- 13 回：動詞(3)： $\mu$   $\iota$  動詞の現在組織の変化形を学ぶ。
- 14 回：予備。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習は不要。復習は毎回 4 時間程度必要。復習の内容は毎回プリントを配布して指示する。復習の内容は名詞や動詞の変化表を覚えることと、練習問題を解くことの 2 つ。

授業を欠席した場合は、遅れを取り戻すために授業時間と授業時間外の時間を含めて次の回までに最低 6 時間の学習が必要。なお、やむを得ず授業を欠席した場合は Canvas LMS を用いて練習問題等の添削や、授業で扱った内容に関する質問を行うことができる。欠席した回の小テストを別の回に受験すること、欠席した回に行うはずだった練習問題の発表を別の回に振り替えることは可能なので、各自申し出ること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業中に行う小テスト:15% 学期中に随時提出するレポート:5% 練習問題の発表状況:20%

### テキスト / Textbooks

教科書は使用しない。プリントは紙媒体と Canvas LMS に PDF 形式で用意する。

### 参考文献 / Readings

授業中に指示をする。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特に予備知識は必要ないが、次に挙げる簡単な (英) 文法の用語を理解できているかどうか、受講前に確認しておくことよ：動詞 (他動詞・自動詞, 1 人称・2 人称・3 人称, 能動態・受動態), 名詞・代名詞, 形容詞, 副詞, 接続詞。「その他」にある URL に確認問題を用意する予定。



**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

- 1, 情報機器を持参する必要はない。配布資料は紙媒体と Canvas LMS に PDF 形式で用意する。
- 2, 課題提出先は Canvas LMS (紙媒体でもよい)。課題は手書きしたものをスキャンまたは写真に撮って提出すればよい (ワープロソフトを使わなくてよい)。

**その他/ Others**

URL: <https://museion.sakura.ne.jp/ru/>

Mail: rmatuura [A T] rikkyo.ac.jp

## ギリシア語 2

Greek 2

古典ギリシア語初級（後半）／Elementary Greek (second half)

松浦 高志 (MATSUURA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL208

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

!!!注意!!!

当授業は春学期の「ギリシア語 1」[古典ギリシア語初級（前半）]の続きである。この授業を受講していない場合、その内容を自習しておく必要があるので注意すること。

!!!!!!!!!!!!

古典ギリシア語の初級文法を一年かけて学び、新約聖書やプラトーンの哲学作品などを、辞書と文法書を使って読めるようにする。

!!! Attention !!!

This class is a continuation of Greek 1 [Elementary Greek (first half)] in the spring semester. Please note that if you have not attended this class, you will need to study the content on your own.

!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

This course introduces students to elementary Greek grammar. By the end of the academic year, students will be reading some passages from the New Testament or the Plato's dialogues etc. with the help of a dictionary and a

grammar book.

## 授業の内容 / Course Contents

### [I. 概要]

秋学期の授業の主な内容は次の三つである（詳しい内容は「授業計画」を参照のこと）。

- A. 動詞の活用を覚える。
- B. 単文の主要な構文を覚える。
- C. 複文の主要な構文を覚える。

### [II. 授業の進め方]

授業は次のように行う。第1回はb（小テスト）とc（練習問題の答え合わせ）は行わない。

- a. [授業前] 必要があれば教材を事前にダウンロードしておく。
- b. [授業開始] 小テストを実施。
- c. 練習問題の答え合わせ（受講生が順番に発表）。
- d. 教材を配布し新たな文法事項を学習する。
- e. 次の小テストと練習問題の指示。
- f. [授業後] 小テストのための暗記を行い、練習問題を解いてくる。

### [I. Overview]

The three main contents of the fall semester classes are as follows (see 'Course Schedule' for further details):

- A. To learn verb conjugations.
- B. To learn the main constructions of simple sentences.
- C. To learn the main constructions of complex sentences.

### [II. Classroom procedures]

The classes will be conducted as follows. In the first class, b (quiz) and c (answers to exercises) are not given.

- a. [Before class] Download the teaching materials in advance if necessary.
- b. [Start of class] Quiz.
- c. Answers to exercises (students' presentations in turn).
- d. Hand out materials and study new grammar points.
- e. Instructions for the next quiz and exercises.
- f. [After class] Memorise the material for the quiz and complete the exercises.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：動詞(4)：アオリスト組織の変化形を学ぶ。
- 2回：動詞(5)：アオリスト組織の変化形を学ぶ。
- 3回：動詞(6)：完了組織の変化形を学ぶ。
- 4回：動詞(7)：受動態アオリスト組織・未来組織の変化形を学ぶ。
- 5回：動詞(8)：未来完了組織・動形容詞の変化形を学ぶ。
- 6回：統語論(1)：文法的一致・定冠詞について学ぶ。
- 7回：統語論(2)：格・前置詞について学ぶ。
- 8回：統語論(3)：単文の表現法について学ぶ。
- 9回：統語論(4)：間接話法について学ぶ（前半）。
- 10回：統語論(5)：結果文・目的文について学ぶ。
- 11回：統語論(6)：条件文・理由文について学ぶ。
- 12回：統語論(7)：関係文・時の節・間接話法（後半）について学ぶ。

13 回：統語論(8)：状況説明分詞について学ぶ。

14 回：原典講読：原典講読の入門を行う。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習は不要。復習は毎回4時間程度必要。復習の内容は毎回プリントを配布して指示する。復習の内容は名詞や動詞の変化表を覚えることと、練習問題を解くことの2つ。

授業を欠席した場合は、遅れを取り戻すために授業時間と授業時間外の時間を合わせて次の回までに最低6時間の学習が必要。なお、やむを得ず授業を欠席した場合は Canvas LMS を用いて練習問題等の添削や、授業で扱った内容に関する質問を行うことができる。欠席した回の小テストを別の回に受験すること、欠席した回に行うはずだった練習問題の発表を別の回に振り替えることは可能なので、各自申し出ること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 練習問題の発表状況:60% 授業中に行う小テスト:20% 学期中に随時提出するレポート:20%

春学期とは異なり、学期末試験は実施しない。平常点で評価する。レポートはふだん練習問題を解くためにメモしているものを、他人にもわかるように清書した上で提出するもの。

### テキスト / Textbooks

教科書は使用しない。プリントは紙媒体と Canvas LMS に PDF 形式で用意する。

### 参考文献 / Readings

授業中に指示をする。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

当授業は春学期の「ギリシア語 1」[古典ギリシア語初級 (前半)] の続きである。この授業を受講していない場合、その内容を自習しておく必要があるので注意すること。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- 1, 情報機器を持参する必要はない。配布資料は紙媒体と Canvas LMS に PDF 形式で用意する。
- 2, 課題提出先は Canvas LMS (紙媒体でもよい)。課題は手書きしたものをスキャンまたは写真に撮って提出すればよい (ワープロソフトを使わなくてよい)。

### その他 / Others

URL: <https://museion.sakura.ne.jp/ru/>

Mail: rmatuura [A T] rikkyo.ac.jp

# ラテン語 1

Latin 1

ラテン語初級文法

村上 寛 (MURAKAMI HIROSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL209
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART1410
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

ラテン語の初級文法を身につけ、文の構造を理解し、平易な文章について文意を取ることが出来るようになる。春学期では教科書の前半部を終えることを目指す。

Students will learn introductory Latin grammar, understand the structure of sentences, and become able to grasp the meaning of simple sentences. The aim is to finish the first half of the textbook in the spring semester.

## 授業の内容 / Course Contents

ラテン語は古代ローマ帝国で公用語として使われた言語で、西ローマ帝国滅亡後もキリスト教の公用語として、また近代に至るまで学術、文学の領域でも主要な言語として西洋世界を支え続けてきた。イタリア語やフランス語といったいわゆるロマンス語はラテン語から派生した言語であり、ラテン語について学ぶことは今日においても西洋世界を深く知る一助となるだろう。

本授業では所定の教科書を使いながら基礎的な文法事項を学びつつ、文法構造の解析、訳などの練習問題を行っていく。

Used as the official language in the ancient Roman Empire, Latin continued to support the Western world as the

official language of Christianity even after the fall of the Western Roman Empire, and as a major language in academic and literary fields until modern times. Romance languages such as Italian and French are derived from Latin, and learning about Latin is an aid to a deeper understanding of the Western world today.

The class will use specified textbooks to learn basic grammatical items, and will progress to practical exercises such as translation and analysis of grammatical structure.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の導入、発音とアクセント
- 2 回：動詞の活用（現在形）
- 3 回：名詞の変化（第一、第二）
- 4 回：形容詞の変化（第一、第二）
- 5 回：動詞の活用（未完了過去、未来）
- 6 回：前置詞、不定詞
- 7 回：名詞の変化（第三）
- 8 回：形容詞の変化（第三）
- 9 回：動詞の活用（完了）
- 10 回：動詞の活用（過去完了、未来完了）
- 11 回：受動相
- 12 回：名詞の変化（第四、第五）
- 13 回：能相欠如動詞
- 14 回：既習事項の確認

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習を行うことが望ましい。また授業の進行に応じて練習問題、復習用の課題を出すので、随時提出してもらおう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 提出課題:30% 授業態度、出席状況:30% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

田中利光 『ラテン語初歩<改訂版>』 岩波書店 1990 4000024191 ○

### 参考文献 / Readings

水谷智洋 『羅和辞典<改訂版>』 研究社 2009 9784767490250

松平千秋/国原吉之助 『新ラテン文法』 東洋出版 1990 9784809643019

山下太郎 『しっかり学ぶ初級ラテン語』 ベレ出版 2013 9784860643669

上記以外については授業内で適時紹介する。

## ラテン語 2

Latin 2

ラテン語初級文法

村上 寛 (MURAKAMI HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL210

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ラテン語の初級文法を身につけ、文の構造を理解し、平易な文章について文意を取ることが出来るようになる。秋学期では教科書の後半部を終えることを目指す。

Students will learn introductory Latin grammar, understand the structure of sentences, and become able to grasp the meaning of simple sentences. The aim is to finish the second half of the textbook in the fall semester.

### 授業の内容 / Course Contents

ラテン語は古代ローマ帝国で公用語として使われた言語で、西ローマ帝国滅亡後もキリスト教の公用語として、また近代に至るまで学術、文学の領域でも主要な言語として西洋世界を支え続けてきた。イタリア語やフランス語といったいわゆるロマンス語はラテン語から派生した言語であり、ラテン語について学ぶことは今日においても西洋世界を深く知る一助となるだろう。

本授業では所定の教科書を使いながら基礎的な文法事項を学びつつ、文法構造の解析、訳などの練習問題を行っていく。

Used as the official language in the ancient Roman Empire, Latin continued to support the Western world as the

official language of Christianity even after the fall of the Western Roman Empire, and as a major language in academic and literary fields until modern times. Romance languages such as Italian and French are derived from Latin, and learning about Latin is an aid to a deeper understanding of the Western world today.

The class will use specified textbooks to learn basic grammatical items, and will progress to practical exercises such as translation and analysis of grammatical structure.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：代名詞（1）
- 2 回：代名詞（2）
- 3 回：接続法（1）
- 4 回：接続法（2）
- 5 回：条件文
- 6 回：不定詞
- 7 回：関係代名詞
- 8 回：非人称動詞
- 9 回：分詞
- 10 回：奪格の独立的用法
- 11 回：形容詞の比較、数詞
- 12 回：動名詞、動形容詞
- 13 回：命令法、目的分詞
- 14 回：既習事項の確認

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習を行うことが望ましい。また授業の進行に応じて練習問題、復習用の課題を出すので、随時提出してもらおう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題:30% 出席状況、授業への参加度:30% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

田中利光 『ラテン語初歩<改訂版>』 岩波書店 1990 4000024191 ○

### 参考文献 / Readings

水谷智洋 『羅和辞典<改訂版>』 研究社 2009 9784767490250

松平千秋／国原吉之助 『新ラテン文法』 東洋出版 1990 9784809643019

山下太郎 『しっかり学ぶ初級ラテン語』 ベレ出版 2013 9784860643669

上記以外については授業内で適時紹介する。



# 宗教思想 1

Religious Thought 1

キリスト教と「知」

岩田 成就 (IWATA SHIGENARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL211

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程を登録していない文学部学生用コード。（教職課程登録者は AL411 で登録すること）

## 授業の目標 / Course Objectives

現代の知の源泉である近代科学が登場してきた 17～19 世紀の西欧思想を振り返り、そこにおいて宗教の問題がどう考えられてきたかをたどることで、今日の人間が宗教、あるいは信仰の問題とどう向き合うべきかを考える。

By looking back at Western thought since the 17th century, when modern science, the source of modern knowledge, emerged, and by tracing how the issue of religion has been considered in Western thought, we will consider how people today should deal with the issue of religion or faith.

## 授業の内容 / Course Contents

17 世紀から 19 世紀までの西欧の思想家を原則として 1 回に一人ずつ取り上げ、その宗教理解を中心に紹介する。

In general, each session will take up one Western European thinker at a time from the 17th to the 19th century, and will primarily introduce the individual's religious understanding.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：近代科学とキリスト教
- 3回：デカルト：理性の根拠としての神
- 4回：スピノザ：永遠の相のもとに
- 5回：パスカル：理性と信仰
- 6回：ロック：経験と信仰
- 7回：カント：理性の限界と神の要請
- 8回：シュライアマッハー：聖なるものの感情
- 9回：ヘーゲル：歴史を導く神
- 10回：フォイエルバッハ：投影としての神
- 11回：マルクス：イデオロギーとしての宗教
- 12回：ニーチェ：神の死
- 13回：キルケゴール：実存と信仰
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

取り上げる思想家の著作や関連する文献を多く紹介するので、各自が興味をもったものを実際に読み、理解を深めていっていただきたい。また、毎回の授業で問いが設定され、授業はその問いにそって展開されるので、授業後に各自この問いに対する答えを作成しておくポイントがつかみやすい。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

成績評価については、最初の授業で詳しく説明するので必ず出席のこと。

**テキスト/ Textbooks**

使用しない。「Canvas LMS」を使って毎回プリントを配布する。あらかじめダウンロードして授業にのぞむこと。

**参考文献 / Readings**

授業の中で詳しく紹介する。

**その他/ Others**

この講義内容の漫画化を試みています。

[https://note.com/bright\\_elk820/](https://note.com/bright_elk820/)

**注意事項(検索結果画面)**

教職課程登録者はAL411で登録すること

## 宗教思想 2

Religious Thought 2

欧米のキリスト教

岩田 成就 (IWATA SHIGENARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL212

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程を登録していない文学部学生用コード。（教職課程登録者は AL412 で登録すること）

### 授業の目標 / Course Objectives

20 世紀の西欧思想が、神の問題、宗教の問題をどう考えたかをみることで、今日の人間にとって宗教と何か、宗教、あるいは信仰の問題とどう向き合うべきかを考える。

How can today's humanity, which has advanced into outer space, deciphered the genome, and developed the Internet and AI technology, think about the issue of God and the meaning of human life? By looking at how Western thought in the 20th century considered the problem of God and the problem of religion, we will consider what religion means to people today and how we should deal with the problem of religion or faith.

### 授業の内容 / Course Contents

「神なき時代」と言われる現代において、欧米の思想家たちは宗教や信仰の問題をどのように考えてきたのか。20 世紀以降の思想家を数人取り上げ、その宗教思想を中心に紹介する。

In a modern age that has been called "a Godless age," how have Western thinkers approached questions of religion and faith? The course will take up and introduce several thinkers from the 20th century and later,

focusing on their religious ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：ヤスパース：限界状況
- 3回：ヤスパース2：哲学的信仰
- 4回：ハイデッガー1：死へ向かう存在
- 5回：ハイデッガー2：存在の神秘
- 6回：レヴィナス：他者としての神
- 7回：ベルグソン：閉じた宗教から開かれた宗教へ
- 8回：フロイト：幻想としての宗教
- 9回：ユング：集合無意識としての宗教
- 10回：バタイユ：エロティシズムと宗教
- 11回：ウィトゲンシュタイン：言語ゲームとしての宗教
- 12回：デリダ：キリスト教の脱構築
- 13回：リクール1：象徴は思考を促す
- 14回：リクール2：宗教批判を超えて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

思想家の著作や関連する文献を多く紹介するので、各自が興味をもったものを自分で読み、理解を深めていっていただきたい。また、毎回の授業で問いが設定され、授業はその問いにそって展開されるので、授業後に各自この問いに対する答えを作成しておくポイントがつかみやすい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

成績評価については、最初の授業で詳しく説明するので必ず出席のこと。

### テキスト / Textbooks

使用しない。「立教時間」を使って毎回プリントを配布するので、各自ダウンロードして授業にのぞむこと。

### 参考文献 / Readings

授業で詳しく紹介する。

### その他 / Others

この講義の漫画化を試みています。「哲学者の神 [https://note.com/bright\\_elk820/](https://note.com/bright_elk820/)

### 注意事項（検索結果画面）

教職課程登録者は AL412 で登録すること

# 倫理思想

Introduction to Ethics

21 世紀の人権問題

柳堀 素雅子 (YANAGIBORI SUGAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL213

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程を登録していない文学部学生用コード。（教職課程登録者は AL413 で登録すること）

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、現代の生殖補助医療の問題、出生前診断の問題、遺伝子操作の問題、LGBTQ の問題、ジェンダーの

問題、フェミニズムの問題などを取り扱っていく。マイノリティーの権利が中心的な問題になる。

The goals of this course are to deal with issues related to modern reproductive medicine, prenatal diagnosis, genetic manipulation, LGBTQ issues, gender issues, feminism, and other issues.

Minority rights will be the central issues.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代の生殖補助医療の問題、出生前診断の問題、遺伝子操作の問題、LGBTQ の問題、ジェンダーの

問題、フェミニズムの問題を学びます。日本国内だけでなく、海外の状況も視野に入れて話し合います。最終的

には、日本と欧米におけるバイオエシックスのあり方の相違と性的マイノリティーの問題の相違点を理解します。

This course deals with issues related to modern reproductive medicine, prenatal diagnosis, genetic manipulation, LGBTQ issues, gender issues, feminism.

We will discuss not only the situation in Japan but also the situation overseas.

At the end of course are to understand the difference in Bioethics and sexual minority issues between Japan and Western.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：LGBTQ 問題についての正しい理解について
- 2 回：LGBTQ 問題についての日本と海外の比較
- 3 回：トランスジェンダー問題について
- 4 回：LGBTQ 問題についての日本の教育現場の状況
- 5 回：LGBTQ 問題についてのグループ討論
- 6 回：フェミニズムと LGBTQ の問題
- 7 回：バイオエシックスの成立とその意義について
- 8 回：生命誕生をめぐるバイオエシックスの諸問題について
- 9 回：生命倫理と優生学について
- 10 回：出生前診断をめぐる諸問題について
- 11 回：グループ討論
- 12 回：生命倫理教育と日本の教育
- 13 回：日本の将来をめぐるグループ討論
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に、当日の資料を Web 上で公開しますので、あらかじめ予習しておくとう理解しやすいです。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート（複数回）:60% リアクションペーパーの内容:20% グループ討論の内容:20%

単位取得には、80%以上の出席が必要です。

### テキスト / Textbooks

使用しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて、その都度豊富な文献を紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

資料を読んだり、DVD を視聴したあとに、何が問題点なのかを分析する能力が求められます。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

パソコンが必要です。

**その他/ Others**

毎回、出席状況を調べます。単位取得には 80%以上の出席が必要です。

**注意事項（検索結果画面）**

教職課程登録者は AL413 で登録すること

# 英米文学概論

General Survey of English and American Literature

英米文学研究ことはじめ

古井 義昭／舌津 智之／新田 啓子／澤入 要仁／イエイツ, M. / 小山 太一 (FURUI YOSHIAKI/  
ZETTSU TOMOYUKI/ NITTA KEIKO/ SAWAIRI YOJI/ YATES MICHAEL D. H./ KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL214  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英米文学のテキストを鑑賞しながら、初学者にとって読解のために必要な文学的技法や歴史的・文化的背景を学びます。英米の差異や文学の可能性を体感すると同時に、若々しい感覚を研ぎすませ、おのおのの知的関心が指ししめす方向をみずから発見します。

While appreciating texts from English and American literature, students will learn the historical and cultural backgrounds and the literary techniques necessary for comprehension by beginners. While experiencing the potential of literature and the differences between Britain and the United States, students will sharpen their youthful senses to discover the directions in which their intellectual interests point.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、英米文学専修の複数の講師が各 1-2 回ずつ、それぞれの専門分野と研究対象に基づいて、英文学と米文学の主要なトピックを講義します。多様な作品を多様な観点から考察することによって、英米文学とその研究の多様性も示されます。



In this class, multiple lecturers will each give one or two lectures on major topics in English and American literature, based on their respective fields of expertise and research subjects. By considering diverse works from diverse points of view, the course will show the diversity of English and American literature and the research surrounding it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（古井）
- 2回：アメリカ詩 1（澤入）
- 3回：アメリカ詩 2（澤入）
- 4回：ポストモダン文学 1（Yates）
- 5回：ポストモダン文学 2（Yates）
- 6回：19世紀アメリカ小説 1（古井）
- 7回：19世紀アメリカ小説 2（古井）
- 8回：20世紀アメリカ小説 1（新田）
- 9回：20世紀アメリカ小説 2（新田）
- 10回：アメリカ演劇・表象 1（舌津）
- 11回：アメリカ演劇・表象 2（舌津）
- 12回：イギリス小説 1（小山）
- 13回：イギリス小説 2（小山）
- 14回：全体の振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

どんなものでもよいので、英米の文学作品を1冊以上読んでおいてください。翻訳でもかまいません。また、各回の講義内容について作ったノートを読み返し、講義で扱われた作品に翻訳でもよいので目を通してみてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

第1-第13週のうち、4回以上欠席した場合には単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜指示します。

# フランス文学・文化概論

Introduction to French Lit. & Culture

フランス文学史・文化史入門

横山 安由美／桑瀬 章二郎／菅谷 憲興／坂本 浩也／澤田 直 (YOKOYAMA AYUMI/ KUWASE SHOJIRO/ SUGAYA NORIOKI/ SAKAMOTO HIROYA/ SAWADA NAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL216
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART1800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

フランスの文学・文化・社会を歴史的に概観します。またいくつかの作品を取り上げ、具体的にその内容・魅力を紹介します。

This course will provide a historical overview of literature, culture, and society in France. It will also take up several works to introduce their content and their appeal in detail.

## 授業の内容 / Course Contents

文学作品は、それぞれの時代と社会状況のなかで、どのように書かれ、どのように読まれてきたのか？フランスの文学と文化を中世から年代順に概観し、社会状況について整理しながら、歴史的な変遷を見ていきます。いわゆる文学史の授業なので、おぼえることがらも少なくありませんが、フランスに興味を持つ者にとって最低限の教養といえる内容です。またテストには、事項の確認だけでなく、論述形式も含まれます。それぞれの時代の文学の特徴を的確に把握し、それらをつなぐ隠された論理を自分なりに探しながら、積極的に授業を受けることが大切です。複数の教員がリレー式で講義を行います。

How are literary works written and read within their respective eras and social conditions? This course will provide a chronological outline of French literature and culture from the Middle Ages onward and will look at historical transitions, while organizing social conditions.

As a literary history class, the class will present many things to be memorized, but the content will represent the minimum education for students with an interest in France. Tests will include essay format tests, as well as checking of facts. While students accurately learn the characteristics of literature from each era and search in their own way for the hidden logic that connects them, it is important that they also participate actively in classes. The course will be taught in relay fashion by several faculty members.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：授業全体の説明
- 2 回：中世
- 3 回：ルネサンス
- 4 回：17 世紀
- 5 回：18 世紀
- 6 回：19 世紀 1 (ロマン主義)
- 7 回：中間テスト
- 8 回：19 世紀 2 (写実主義と自然主義)
- 9 回：19 世紀 3 (詩)
- 10 回：20 世紀 1 (詩)
- 11 回：20 世紀 2 (小説)
- 12 回：20 世紀 3 (思想)
- 13 回：まとめ
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で指示された文献を積極的に読んで授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・リアクションペーパー:40% 中間テスト:30% 最終テスト割合 : :30%

中間テストと最終テストの 2 回は評価の対象となるので、そのときに欠席しないように注意すること。

### テキスト / Textbooks

渡辺一夫 『増補・フランス文学案内』 岩波文庫 1990 9784003500019 ○

授業で指示。教科書は必ず購入し、持ってくること。

### 参考文献 / Readings

朝比奈美知子・横山安由美 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 4623034909

永井敦子他 『フランス文学の楽しみかた』 ミネルヴァ書房 2021 4623090760

授業で指示。

# 日本語学概論 1

## Introduction to Japanese Linguistics 1

現代日本語を中心とした概説

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL217

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本語学について、学問分野の概略を中心とした基礎的知識を習得するとともに、日常的な言語事象について学術的な考察が行えるようになること。

While acquiring fundamental knowledge centered on an outline of the academic field of Japanese linguistics, students will become able to think academically about everyday phenomena in language.

### 授業の内容 / Course Contents

日本語学の全体像を俯瞰し、「日本語を学問の対象とするとはどういうことか」「日本語を学問的に分析するためにはどのような知識が必要か」「日本語を学術的に分析するとはどのようなことか」といったことについて、具体的な学問分野ごとに概説していく。日本語学では、伝統的に音や文法、表記、語彙その他の視点を用いて研究が行われており、教科書はあくまでも学問分野全体を俯瞰する指標なので、教科書には無い内容も随時扱うことになる。本講義では、主に現代日本語について、様々な視点から学んでいく。

The course will provide a bird's-eye image of Japanese linguistics overall, and, for specific academic fields, will explain what it means to target Japanese as a subject of study, what kind of knowledge is needed to analyze

Japanese language academically, and what it means to analyze Japanese academically. In Japanese linguistics, research has traditionally been conducted from perspectives including sounds, grammar, notation, and vocabulary. As textbooks are, in the end, indexes that survey the whole of an academic field from a high level, the class will deal with content not in textbooks, as appropriate. In the lectures, students will study matters related to Modern Japanese from a variety of perspectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本語学総論
- 2 回：音声と音韻
- 3 回：日本語の音
- 4 回：アクセント
- 5 回：文字表記
- 6 回：文体
- 7 回：意味
- 8 回：語彙
- 9 回：方言
- 10 回：敬語
- 11 回：形態論
- 12 回：統語論
- 13 回：様々な日本語研究
- 14 回：辞書

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

高等学校までに国語科で習った事項 (活用その他) については、前提で話を進めるとともに、中学校レベルの日本史の知識 (奈良時代と室町時代の前後関係、各時代の政権の所在その他) は必須であるため、不安がある者は随時復習しておくこと。また、教科書の当該範囲を中心に批判的精読を心掛け、予習復習に励むこと。学術的考察と根拠のない感想の羅列を混同しないこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小課題:40%

授業ごとに思考力を問う小課題を課す。筆記試験では主に知識を問うことになる。

### テキスト / Textbooks

沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾 『図解日本語』 三省堂 2006 9784385362427 ○

### 参考文献 / Readings

- 飛田良文他編 『日本語学研究事典』 明治書院 2007 9784625603068
- 風間喜代三他 『言語学 第二版』 東京大学出版会 2004 9784130820097
- 月本雅幸編著 『日本語概説』 放送大学教育振興会 2015 9784595315411

沖森卓也編著 『日本語概説』 朝倉書店 2010 9784254515237

## 日本語学概論 2

### Introduction to Japanese Linguistics 2

歴史的視点から見た日本語概説

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL218

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本語学について、学問分野の概略を中心とした基礎的知識を習得するとともに、日常的な言語事象について学術的な考察が行えるようになること。

While acquiring fundamental knowledge centered on an outline of the academic field of Japanese linguistics, students will become able to think academically about everyday phenomena in language.

### 授業の内容 / Course Contents

日本語学の全体像を俯瞰し、「日本語を学問の対象とするとはどういうことか」「日本語を学問的に分析するためにはどのような知識が必要か」「日本語を学術的に分析するとはどのようなことか」といったことについて、具体的な学問分野ごとに概説していく。日本語学では、伝統的に音や文法、表記、語彙その他の視点を用いて研究が行われており、教科書はあくまでも学問分野全体を俯瞰する指標なので、教科書には無い内容も随時扱うことになる。本講義では、日本語の歴史を中心にした事項について、様々な視点から学んでいく。

The course will provide a bird's-eye image of Japanese linguistics overall, and, for specific academic fields, will explain what it means to target Japanese as a subject of study, what kind of knowledge is needed to analyze



Japanese language academically, and what it means to analyze Japanese academically. In Japanese linguistics, research has traditionally been conducted from perspectives including sounds, grammar, notation, and vocabulary. As textbooks are, in the end, indexes that survey the whole of an academic field from a high level, the class will deal with content not in textbooks, as appropriate. In the lectures, students will study matters focused on History of Japanese Language from a variety of perspectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本語史概説
- 2 回：音韻史
- 3 回：文字史
- 4 回：表記史
- 5 回：漢字音の変遷
- 6 回：文体史
- 7 回：語彙史
- 8 回：文法史①形態論
- 9 回：文法史②統語論
- 10 回：学史①韻学史
- 11 回：学史②五十音の成立
- 12 回：学史③仮名遣い研究
- 13 回：学史④本居宣長の音韻研究
- 14 回：学史⑤文法研究史・辞書史

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

高等学校までに国語科で習った事項（活用その他）については、前提で話を進めるとともに、中学校レベルの日本史の知識（奈良時代と室町時代の前後関係、各時代の政権の所在その他）は必須であるため、不安がある者は随時復習しておくこと。また、教科書の当該範囲を中心に批判的精読を心掛け、予習復習に励むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小課題:40%

授業ごとに思考力を問う小課題を課す。筆記試験では主に知識を問うことになる。

### テキスト / Textbooks

木田章義 編 『国語史を学ぶ人のために』 世界思想社 2013 9784790715962 ○

とても良い本です。教科書を読んでいることを前提に話を進めますが、価値ある一冊だと思います。

### 参考文献 / Readings

飛田良文他編 『日本語学研究事典』 明治書院 2007 9784625603068

時枝誠記 『国語学史』 岩波文庫 2017 9784003815045

月本雅幸編著 『日本語概説』 放送大学教育振興会 2015 9784595315411

沖森卓也編著 『日本語概説』 朝倉書店 2010 9784254515237

沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾 『図解日本語』 三省堂 2006 9784385362427

衣畑智秀 『基礎日本語学』 ひつじ書房 2019 9784894769465

# 漢文学概論

Introduction to Chinese Literature

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL219

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 漢文を古代中国語（つまり外国語）として捉え、その基本的な文法構造が理解できるようになる。
  - 漢文に自分で返り点（レ点・一二点など）を付けられるようになる。
  - 実際の日本漢文を漢文の語学的な知識を持って読むことができるようになる。
  - 漢詩のルールを学び、漢詩を分析的に鑑賞する方法を身につける。
- To be able to understand Chinese writing as an ancient Chinese language (i.e., a foreign language) and its basic grammatical structure.
  - To be able to add punctuation marks to Chinese texts by oneself.
  - To be able to read actual Japanese Kanbun texts with a linguistic knowledge of Kanbun.
  - Learn the basics of the rules of Chinese poetry and how to appreciate Chinese poetry analytically.

## 授業の内容 / Course Contents

日本古典文学は漢文と密接な関係にありました。そのような漢文をこれまで皆様は訓点（レ点や一二点などの返点や送り仮名など）が付された形で読んできたと思います。この講義では漢文に自分で訓点を付すことができるように、漢文の文法構造から学んでいきます。

漢文に関する語学的知識を踏まえた上で、実際に日本古典文学史上において強い影響力を持った漢文テキストを読解していきます。

また漢詩についてもその基本的なルールを学び、日本漢詩人による詩作を鑑賞します。

Japanese classical literature has had a close relationship with Chinese literature. You have probably read such Chinese texts in the way of Kundoku. In this lecture, we will learn the grammatical structure of the Chinese writing system so that you can add punctuation marks to Chinese texts by yourself.

Based on the linguistic knowledge of Chinese texts, students will actually read and understand Chinese texts that have had a strong influence on the history of Japanese classical literature.

Students will also learn the basic rules of Chinese poetry and appreciate poems composed by Japanese poets.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の概要と評価の方法についてのガイダンス
- 2 回：漢文学とはなにか
- 3 回：漢文の語法（1） 漢文の基本構造
- 4 回：漢文の語法（2）前置詞
- 5 回：漢文の語法（3）助動詞・副詞
- 6 回：漢文の語法（4）助詞
- 7 回：中間総括
- 8 回：和漢文学史概説
- 9 回：中古の漢文—『古今和歌集』「真名序」を読む
- 10 回：中世の漢文—藤原定家『詠歌大概』を読む
- 11 回：近世の漢文—荻生徂徠『学則』を読む
- 12 回：漢詩のルール概説
- 13 回：日本漢詩人の漢詩を読む
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

漢文を語学として学んでいくので、復習をしっかりと行なってください。

講義内で読む漢文テキストに対して事前に自分なりの読みを用意してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内小テスト:30% コメントシート:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

戸川芳郎 監修／佐藤進、濱口富士雄 編 『全訳 漢辞海 第四版』 三省堂 2016 4385140480

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講義の半分は語学的な内容ですので、知識を積み重ねていく粘り強さを求めます。

# 日本文学概論

Introduction to Japanese Literature

災厄と近現代日本演劇

後藤 隆基 (GOTO RYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL220

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 日本文学専修 3,4 年次および文芸思想専修 3,4 年次生は抽選登録不可。科目コード AL233 を履修登録すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

災厄に見舞われた世界のなかで、演劇がいかに機能してきたのかを学ぶ。主に近現代日本演劇を対象とし、文化史におけるその位置づけについて学ぶ。

Learn how theater has functioned in a world hit by disaster. The course mainly focuses on modern and contemporary Japanese theater, and learns about its place in cultural history.

## 授業の内容 / Course Contents

これまで、世界はさまざまな災厄に見舞われてきたが、劇場はどのように興行をおこない、作品を上演してきたのか。歌舞伎や明治以降の新興演劇から現代演劇まで、商業演劇やミュージカルなども取り上げ、各時代の災厄と演劇の関係について考える。私たちが当事者として直面した、2020 年以降のコロナ禍と舞台芸術の影響関係についても検証する機会としたい。

Up until now, the world has been hit by various disasters, but how have theaters managed to hold performances and perform works? We will look at the relationship between disasters and theater, covering everything from

Kabuki and emerging theater from the Meiji era to contemporary theater, as well as commercial theater and musicals. We would like to take this as an opportunity to examine the relationship between the COVID-19 pandemic and the performing arts since 2020, which we have faced as parties involved.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：明治期の「お染風」
- 3 回：大正期のスペインかぜ
- 4 回：関東大震災①
- 5 回：関東大震災②
- 6 回：アジア・太平洋戦争①
- 7 回：アジア・太平洋戦争②
- 8 回：東日本大震災①
- 9 回：東日本大震災②
- 10 回：東日本大震災③
- 11 回：新型コロナウイルス感染症①
- 12 回：新型コロナウイルス感染症②
- 13 回：新型コロナウイルス感染症③
- 14 回：教場試験

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業テーマに関わる演劇や映画、文学作品、美術館・博物館等の展覧会等を紹介するので、実際にそれらを鑑賞すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

全 14 回の内、10 回以上の出席がない場合、成績評価の対象外とする。

### テキスト / Textbooks

特定のテキスト (教科書) は使用せず、毎回の授業で必要に応じてレジュメを配付する。

### 参考文献 / Readings

後藤隆基 『ロスト・イン・パンデミック』 春陽堂書店 2021 9784394190226

国際演劇評論家協会日本センター 『「轟音の残響」から』 晩成書房 2016 4893804626

教室で適宜アナウンスする

### 注意事項 (検索結果画面)

日本文学専修 3, 4 年次および文芸思想専修 3, 4 年次生は登録不可。AL233 を履修登録すること。

# 文芸・思想概論

Introductory Lectures on Philosophy and Creative Writing

文芸・思想を学ぶために

林 文孝／蜂飼 耳／菅野 聡美／渡名喜 庸哲／福嶋 亮大 (HAYASHI FUMITAKA/ HACHIKAI MIMI/  
KANNO SATOMI/ TONAKI YOTETSU/ FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL221  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文芸とはなにか、思想とはなにか、その両方を冠する問題の圏域について考える。

それぞれ専門分野を異にする専任教員が概説する、各分野における基礎的な知見を身につけると同時に、そうした知識にもとづいて、自分の考えを深め、それを正確に表現する力を養うことが目指される。

The course will consider the realm of issues that come under the questions of what are art and literature, and what is thought.

While students acquire fundamental knowledge in the respective fields of expertise of the faculty members, they will draw on that knowledge to develop their own ideas and nurture the ability to express these accurately.

## 授業の内容 / Course Contents

文芸・思想専修の専任教員のリレー講義で、毎回異なるテーマと文芸や思想の結びつきについて考え、文芸・思想の知の圏域を拡張し、多様な問題関心を展開する。全体として統一した流れを追うのではなく、教員各自が各回に作り出す多様な思考の流れを、受講生は自分なりに整理し発展させ展開させ、論理的な文章にまとめ



あげる覚悟が求められる。最終レポートは脚注や参考文献をきちんと整えた正式な小論文形式のもののみ提出可。論文の書き方について、参考書を各自探して学んでおくこと。担当教員ごとに出される複数の課題図書を読破したうえで、授業内容と関連付けた小論文を書くことが求められる（5,000字以上予定）。課題図書や課題テーマについては、後日講義内と掲示で提示する。

In relay-format lectures by full-time faculty members in Philosophy and Creative Writing, students will think about the connections between literary arts and thought and each session's themes, will expand the sphere of their knowledge of literary arts and ideas, and will develop interest in various issues. Rather than pursue a unified flow as a whole, in each session, faculty members will create diverse flows of ideas. Students should be prepared to organize, expand on, and develop these in their own way, then summarize these into logical texts. Final reports may only be submitted in formal essay format, with well-organized footnotes and references. Students will search for reference books and study how to write theses on their own. Students will be required to write a considerable number of essays associated with the content of classes, after reading through multiple books assigned by the faculty members in charge (tentatively over 5,000 characters). The assigned books and subjects will be presented later in the lectures and in bulletins.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：文芸・思想を学ぶこととはどういうことか
- 2回：文芸・思想講義1
- 3回：文芸・思想講義2
- 4回：文芸・思想講義3
- 5回：文芸・思想講義4
- 6回：文芸・思想講義5
- 7回：文芸・思想講義6
- 8回：文芸・思想講義7
- 9回：文芸・思想講義8
- 10回：文芸・思想講義9
- 11回：文芸・思想講義10
- 12回：文芸・思想講義11
- 13回：文芸・思想講義12
- 14回：まとめと振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中の指示に従い、文献を読み込んだり、調べたりしてもらう。宿題が課される場合がある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

4分の1以上の欠席は理由を問わず失格。

### テキスト/ Textbooks

---

プリントを配付する。

### 参考文献 / Readings

---

必要に応じて授業中に指定する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

---

課題提出のために Canvas LMS を用いるので、PC もしくはスマホが必要。

レポート試験答案の作成のためには PC が必要。

### その他/ Others

---

扱われる領域や主題によっては、ゲストスピーカーが招聘される回もある。

# 世界史概論 1

Introduction to World History 1

海域・海洋世界

宮田 絵津子 (MIYATA ETSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL222

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

世界史を「陸」からでなく、「海」からみつめることで、構築された人とモノの交流の豊かな歴史について学び、人間の生活にとっての「海」とはなにか、について考えることを目標とする。

The aim of this lecture is to learn the world history from the "ocean" and understand the exchange of people, goods and culture in order to conceive what is "sea" to human being.

## 授業の内容 / Course Contents

毎回異なる海の世界をテーマとし、パワーポイントを用いてビジュアル的に各海が作り上げた文化と歴史について講義を行う。通史と異なり、地中海世界に始まり、インド洋、東シナ海とそれぞれの海の世界について学ぶので、時間軸が毎回異なる。

The lecture will be carried out using powerpoint to give an visual image of each culture and history of the ocean. Each class will deal with different time frame which is not an ordinary history class but will deal with different history of distinct ocean such as Mediterranean, Indian, East China sea etc.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：地中海世界1 フェニキア人と地中海世界
- 2回：地中海世界2 カルタゴとローマ
- 3回：ローマ帝国と海
- 4回：インド洋 貿易とアラブ商人の拡大
- 5回：十字軍と海の世界
- 6回：十字軍がつないだヒトとモノ
- 7回：中国の海外進出—鄭和の海への挑戦
- 8回：東南アジアの交易の時代
- 9回：イベリア半島勢力のアジア進出—ポルトガルとスペインのアジア海域進出
- 10回：マニラ・ガレオン貿易—マニラからアカプルコへ、ヒトとモノの流れ
- 11回：大西洋貿易—ヨーロッパ内の交流
- 12回：海賊の歴史—カリブ海から世界へ、英国を支えた海賊たち
- 13回：オランダのアジア進出—ニシン漁から貿易大国へ
- 14回：大英帝国の海を利用した拡大

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の復習を行うこと。関連書物を読むことも授業への理解を深めるので必要である。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40%

最終レポート割合 :20% 最終テスト割合 :20%

欠席は3回までとする。また、学生証を忘れた場合も欠席となるため、注意すること。インフルエンザ、コロナの二つの感染症罹患の場合の欠席は、欠席証明を必ず紙ベースのものを提出すること。メールでの添付ファイル提出は一切受け付けない。授業内での携帯電話の使用は禁止する。

#### テキスト / Textbooks

宮田絵津子 『マニラ・ガレオン貿易』 慶応義塾大学出版会 2017 978766424713 ○

玉木俊明 『海洋帝国興隆史』 講談社選書メチエ 2014 9784062585903 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

モノ・ヒト・情報の流れの歴史を「海」という場からとらえることに興味がある学生の履修が望ましい。世界史の基本を既に学んできていること。

## 世界史概論 2

Introduction to World History 2

大陸世界

成川 岳大 (NARIKAWA TAKAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL223

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）授業は全ての回についてオンライン形式（②ライブ視聴型）で実施し、配信ツールは Google Meet での一方向配信を予定している。初回の授業日の該当時限により詳細の説明を行い、そこでのアンケート結果次第では配信ツールなどに変更を行う可能性がある。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれが、ある特定地域から世界史を構想するための基礎的な思考方法を涵養する。

Individual course participants will develop basic thinking methods of conceptualizing 'world history', based on the concrete topic, period, and area.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では世界史とは何かを考える。ただし世界史概論といっても、高校世界史教科書のように先史から現代までの地球上にある全ての地域の歴史過程を満遍なく説明するわけではない。歴史学として世界史を論じるのはどのようなアプローチがあるのかを提示する。具体的には、近年注目を集めるグローバルヒストリーの手法を用いながら、主として古代から近世と呼ばれる時代のヨーロッパと中国、中央アジアに軸足を置く。なお受講に際して高校世界史教科書程度の知識は前提とする。

These lectures will consider the question of what world history is. However, such an outline of world history cannot evenly explain historical processes in every region on earth from prehistory to the present age, in the manner of a high school history textbook. The course will present what sort of approaches there are to discussing world history as history studies. Specifically, while using the techniques of global history that have attracted attention in recent years, focusing on some regions both in Eastern and Western Eurasia, such as Europe, China, and Central Asia, in the period from Antiquity to Early Modern Age. In addition, the course assumes knowledge at the level of high school world history textbooks.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：概論(1)：紀元前の東西ユーラシア世界
- 3回：概論(2)：紀元後4-8世紀の東西ユーラシア世界—古代帝国の崩壊(へ)と新秩序
- 4回：東西ローマ帝国とフン人
- 5回：中華帝国秩序と騎馬民族国家群(1)
- 6回：ユーラシアを越境する集団：ソグド人とユダヤ人
- 7回：概論(3)：紀元1000年(頃)の東西ユーラシア：「中央ユーラシア型国家」
- 8回：セルジューク朝トルコと十字軍
- 9回：中華帝国秩序と騎馬民族国家群(2)
- 10回：概論(4)：モンゴル帝国の台頭と「13世紀世界システム」
- 11回：ユーラシア西部の十字路としてのロシア—「タタールのくびき」
- 12回：「14世紀の危機」と黒死病
- 13回：「チンギス・ハンの末裔」—ユーラシア中央・東部におけるモンゴルの「後継国家」
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 授業前：Canvasに事前(前日夕方予定)にアップロードされる配布資料をダウンロードし、目を通す(授業後の質問内容の返信が含まれている場合あり)。前回の次回予告で紹介された参考文献に興味がある場合目を通し、期末レポートにつながる素材を収集する。
- 授業後：資料を見返して不明点を確認した上で毎回の確認小テストをオンライン(Canvas)で受講する(テスト自体の所要時間は数分程度を予定)。疑問点をオンライン確認小テストのおまけなどの手段で質問する。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回授業後に回答してもらおう小テスト(予定):60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

大阪大学歴史教育研究会(編) 『市民のための世界史』 大阪大学出版会 2014 9784872594690

古松崇志 『シリーズ中国の歴史③』 岩波新書 2020 9784004318064

杉山正明 『モンゴル帝国と長いその後〈興亡の世界史〉』 講談社学術文庫 2016 9784062923521

岡美穂子（編） 『つなぐ世界史1 古代・中世』 清水書院 2023 9784389226015

各回に関わる詳細な参考文献は毎回 Canvas にアップロード予定の配布資料中で公開予定です。

すべての回に合致する参考文献はないので、講義本体の受講のためならば上にあげたものも無理に購入の必要はないと思います（『市民のための世界史』には図書館のサイト経由でEブックとしてアクセス可能ですが、同時アクセス数の制限あり）。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

オンライン授業なので、動画視聴が可能な何らかの情報機器（PC、スマホ、タブレット等）を用意してもらう必要があります。

# 日本史概論 1

Introduction to Japanese History 1

大西 信行 (ONISHI NOBUYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL224  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

授業では、古代から近世にいたる日本史の基本的な事項と日本史全体の構造とその展開を理解することを目標とする。

研究の進展により新しい日本史像が描かれている。最新の研究成果と接することで、多様な価値観に支えられて新たな日本史像を描いていける歴史的思考力を修得することを目指す。

The goal of this course is to provide students with a basic understanding of Japanese history from ancient times to the early modern era and the overall structure and development of Japanese history.

As research progresses, new images of Japanese history are being drawn. This course aims to help students acquire the ability to think historically and draw a new image of Japanese history supported by a variety of values through contact with the latest research findings.

## 授業の内容 / Course Contents

古代から近世にいたる日本列島内で起きた歴史的出来事を、自然環境の変化や東アジア情勢との関係などを含む最新の研究成果を踏まえながら読み解いていく。また、各時代における重要な歴史的イベント・事象だけでなく、歴史学が何をどのように明らかにできたのか、あるいはできなかったのかにも触れながら講義をすすめ



る。

This course is designed to help students understand the historical events that occurred in the Japanese archipelago from ancient times to the early modern era, taking into account the latest research findings on changes in the natural environment and the relationship with the situation in East Asia.

In addition to the important historical events of each period, the lecture will be delivered touching on what and how historiography has or has not been able to reveal.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 「日本」とは
- 2回：東アジアと国家の形成
- 3回：律令国家と東アジア
- 4回：平安時代の国家と宗教・刀伊の入寇
- 5回：院政と荘園制
- 6回：鎌倉幕府の成立と承久の乱・執権政治
- 7回：モンゴル戦争と徳政
- 8回：南北朝内乱と室町幕府
- 9回：日明・日朝関係と応仁・文明の乱までの室町幕府
- 10回：戦国大名と村のかたち
- 11回：織豊政権と惣無事令・検地・刀狩
- 12回：江戸幕府の成立と東アジア
- 13回：天下泰平と元禄文化
- 14回：享保の改革と幕藩制社会の変容

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、随時授業中に指示する。また履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行うこともある。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパーや授業内アンケート:40%

### テキスト/Textbooks

特に定めない。授業内に適宜プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

網野善彦他 『日本の歴史』00～25 講談社 2000-2003

大津透他編 『岩波講座日本歴史』全22巻 岩波書店 2013-2015

岩城卓二ほか編 論点・日本史学 ミネルヴァ書房 2022 9784623093496

### その他/Others

PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用することもある。

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS などを使用することもある。

## 日本史概論 2

Introduction to Japanese History 2

近現代日本史のなかの「わたし」の変化

How has 'I' been perceived in the modern history of Japan?

蔭木 達也 (KAGEKI TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL225

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の近現代史上に表れる問題や葛藤を知ることを通じて、歴史を尋ねることの意義、その方法、その限界を学ぶことです。

This course aims to learn the significance of, method of, limit of history by examining problems and conflicts among the modern history of Japan.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、明治政府の成立から現代までの日本史を概観していきます。今回は「わたし」をテーマに、「国民」「民衆」「市民」など、国に生きる人々をひろく指す言葉や、「人生」「自己」「個人」など、個々の人を指す言葉の変化に注目しながら、誰がどのように日本という国を形成し続けてきたのか、その国に生きる「わたし」とはなにか、ということ、近現代日本史を通して学びます。

This class will give an overview of Japanese history from the establishment of the Meiji government to the present day. This year, the course will focus on the theme of "I" and the changes in terms that broadly refer to

people living in a country, such as "national," "people," and "citizens," as well as to terms that refer to individual people, such as "life," "self," and "individuals," while learning about who has continued to form Japan and what "I" means to live in that country.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに：歴史とは何か 「日本」とは何か
- 2回：尊皇攘夷と明治維新：「一君万民」の国家建設
- 3回：啓蒙思想と自由民権運動：「一身」と「一国」の自由独立
- 4回：明治憲法と対外戦争：「人生」は国のためにあるのか
- 5回：国家事業と反対運動：「煩悶青年」の未来や如何に
- 6回：好景気と都市化：「自己」の確立から「民衆」へ
- 7回：社会運動と普通選挙：「無産階級」の解放
- 8回：不景気と軍国化：「大衆」の声と「民族」の称揚
- 9回：戦争と翼賛体制：求められる「皇民」としての務め
- 10回：敗戦と被占領：「民主」日本へ
- 11回：日米安保とベトナム戦争：声なき声が「市民」となる
- 12回：高度経済成長と社会福祉：「労働者」と「消費者」の分裂
- 13回：環境破壊と政策的対応：「市民」から「人間」へ
- 14回：グローバル社会と国家：「アカウント」化する個人

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・受講者から提出された疑問点、論点、関心に即して適宜授業時間外の学習支援を行います。
- ・授業内で紹介された文献、扱った人物や事象についての本を、一冊でもよいのでぜひお読み下さい。
- ・その他、必要に応じて授業内でご案内します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

特になし

### 参考文献 / Readings

授業内でご案内します

# 超域文化学概論

Introduction to Interdisciplinary Cultural Studies

松原 宏之／久保 倫子／服部 佐智子／野中 健一／橋本 栄莉／市田 雅崇 (MATSUBARA HIROYUKI/  
KUBO TOMOKO/ HATTORI SACHIKO/ NONAKA KENICHI/ HASHIMOTO ERI/ ICHIDA  
MASATAKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL226  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に  
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

超域文化学専修を構成する教員がそれぞれ2～3回ずつ担当して、各自の専門領域を紹介する。受講生が専門を選択していく上で必要な基礎的な考え方や方法論の習得を目指す。また、超域文化学専修に進まない学生にとっても、超域的な学問研究の進め方に触れることで、自らの立場や考え方を相対的に鳥瞰できるようにする。The full-time faculty members who make up the course in transdisciplinary culture studies will take charge of classes 2 to 3 times each and will introduce their own domains of specialization. The aim is for students to learn the fundamental ways of thinking and methodologies necessary for selecting their own specializations. In addition, even students who will not advance to transdisciplinary culture studies will become able to take a relatively high-level view of their own standpoints and ways of thinking by experiencing how to proceed with transdisciplinary academic research.

## 授業の内容 / Course Contents

生業に関する文化、衣食住などの物質文化、親族や宗教でつながる人間集団の文化などを、地域や環境との関

連から解明する。担当教員がそれぞれのフィールドで行ってきた研究をもとに話題を提供し、超域文化学を構成するそれぞれの専門分野の基礎について講義する。

The class will draw on the relationships between regions and their environments to elucidate cultures, including culture related to livelihoods, material culture such as food, clothing, and shelter, and culture of human groups connected by kin and religion. Faculty members in charge will provide topics based on research conducted in their respective fields, and will perform lectures on the basics of their fields of specialization that are part of transdisciplinary culture studies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：人種の包摂と疎外
- 3 回：視座としてのインターセクショナリティ（交差性）
- 4 回：都市の起源と立地
- 5 回：21 世紀の都市が直面する課題
- 6 回：妖怪と日本文化
- 7 回：祈りと日本文化
- 8 回：建築と文化
- 9 回：建築と歴史
- 10 回：結婚・家族と文化
- 11 回：呪術と近代
- 12 回：物質文化と生業活動
- 13 回：環境認識と文化
- 14 回：テスト回

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

授業中に指示する場合がある。

### 参考文献 / Readings

適宜、授業中に指示する。

# 教育制度・政策論

Educational Institutions and Politics

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL227  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

今日の教育政策のありようとその理論的背景についての理解を深めることで、教育政策を吟味するための理論的根拠を獲得することを狙いとする。

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the state of education policy today and its theoretical background, and to provide them with a theoretical basis for examining education policy in Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

指定したテキストの内容に沿って、日本の教育制度の基本的枠組み、政策動向について講義する。現代日本の諸教育制度の基本的事項について理解し、現在展開している諸政策の理念・現状・課題のありようを検証・考察する。

In this lecture, the basic framework of the Japanese education system and policy trends will be discussed. The lecture will follow the contents of the textbook specified by the instructor. By taking this class, students will gain an understanding of the various educational systems that form the basis of contemporary Japanese educational policy. Based on their understanding of the educational system, students will examine and discuss the philosophy, current status, and issues of the educational policies currently being implemented.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス  
 2回：教育法規・政策の基礎  
 3回：教育の基本理念に関する法規——日本国憲法・教育基本法——  
 4回：教育行財政の構造と法規  
 5回：国の教育行政組織と政策決定・地方の教育行政組織  
 6回：学校教育制度全般に関する法制度  
 7回：就学前教育制度・政策  
 8回：初等中等教育制度・政策  
 9回：高等教育制度・政策  
 10回：私立学校をめぐる法制度・政策  
 11回：特別支援教育制度・政策  
 12回：教職員に関する法制度・政策  
 13回：家庭教育の機能、保護者の権利と義務  
 14回：講義のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

事前にテキストの該当箇所を読んでから出席すること。講義中にテキストの内容について、ランダムに質問することがある。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業へのコメント:60% 最終テスト割合 :40%

**テキスト/ Textbooks**

高見茂・開沼太郎・宮村裕子編 『教育法規スタートアップ・ネクスト ver2』 昭和堂 2023年  
 9784812222256 ○

**参考文献 / Readings**

村上祐介・橋野晶寛 『教育政策・行政の考え方』(有斐閣ストゥディア) 有斐閣 2020 9784641150713  
 青木栄一 『文部科学省』 中央公論新社 2021 9784121026354

講義中に適宜指示する。

**その他/ Others**

第1回目の講義で講義進行の詳細、各時間の参考文献、成績評価基準等を示すので、第1回の講義は必ず出席すること。



# 家庭教育論

Family Education

秋山 展子 (AKIYAMA HIROKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL228  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

家庭教育の理解を深め歴史の変遷の知識を身につける。学校教育や社会教育との関連から家庭教育を捉え考察できる。現代における家庭教育の課題を理解できるようになる。さらに、家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、地域社会を教育の視点から再生・創造させるための条件について、具体的な事例をとおして、現代日本の教育課題として把握・分析する力量をつける。

To deepen understanding of family education and acquire knowledge of its historical transition. To be able to understand and examine family education in relation to school and social education. To be able to understand the challenges of modern family education. In addition, to understand and analyze the conditions to revitalize and create a local community through cooperation of families and schools with local organizations and institutions from an educational perspective, while recognizing it as a social issue of modern Japan through case studies.

## 授業の内容 / Course Contents

家庭教育の概念を理解していくために、まず社会変化に伴う家庭や家族の役割について歴史の変遷を学んでいく。関連施策にも触れ、学校教育や社会教育との関連の中での家庭教育を体系的に捉えて、家庭と学校が、地域コミュニティと、どのように関連しているかを地域教育の視点からも明らかにしていく。さらに、現代にお

ける家庭教育の課題について家族形態・生活の多様性やジェンダー視点もふまえながら考えていく。

In order to understand the concept of family education, we will first study the historical transition of the role placed on home and family under the change in society. We will also cover the related policies, systematically viewing family education in relation to school and social education, and clarify how the family and school are related to the local community from the community education perspective. In addition, we will consider the issues of modern family education, considering the diversity of family and lifestyle, as well as gender perspectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：家族・家庭の概念
- 2 回：子育て環境の歴史的変遷
- 3 回：現代までの家族観と家庭教育の変化
- 4 回：子育て・教育環境の動向
- 5 回：家庭教育・子育て支援関連施策
- 6 回：家族の役割
- 7 回：地域における子育て支援
- 8 回：世代間交流の現状と可能性
- 9 回：ジェンダーと家庭教育
- 10 回：地域福祉と家庭教育
- 11 回：ワーク・ライフ・バランスと家庭教育
- 12 回：家庭教育・子育てをめぐる課題と支援
- 13 回：家庭・学校・地域社会のネットワーク
- 14 回：まとめと振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・講義後に配布したプリントを見直し、指示された参考文献に目を通す。
- ・関連するニュースや時事問題に関心を持ち、疑問点等自ら調べ見聞を深める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% リアクションペーパー:10%

5 回以上の欠席をした場合は、成績評価をしません。

### テキスト / Textbooks

望月雅和 編著 『子育てとケアの原理（新版）』 北樹出版 2022 9784779306884 ○

### 参考文献 / Readings

授業内で、適宜参考文献を紹介する。

# 教育と福祉

Education and Welfare

障害のある場合の教育と福祉

河合 隆平 (KAWAI RYUHEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL229  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 1) 障害のある場合の権利に関する基本的な知識・概念を獲得する。
  - 2) 教育と福祉の理論と実践を構成する基礎的な知識・概念を獲得する。
  - 3) 障害のある子ども・青年の視点から、人間と社会に関する自らの問いを立て、その問いに向き合う姿勢を形成する。
- (1) To acquire basic knowledge and concepts regarding the rights of person with disabilities.  
(2) To acquire basic knowledge and concepts that constitute the theories and practices of education and welfare.  
(3) To construct own questions about human beings and society from the perspective of children and youth with disabilities, and develop an attitude to continue to confront these questions.

## 授業の内容 / Course Contents

障害のある子ども・青年を念頭において、教育と福祉の問題について考えます。その際、障害とともに大人になる、生活するとはどういうことかを、本人や家族のさまざまな姿を通して学んでいきます。実践記録や映像資料も素材にしながら、障害のある場合の固有の困難やニーズを知り、本人たちのねがいに応える教育と福祉

のあり方を具体的に考えていきます。

The purpose of this lecture is to discuss issues of education and welfare with children and youth with disabilities. We discuss what it means to be an adult and to live with a disability from the perspective of the children and youth. Using practical records and video materials, we learn about specific difficulties and special needs of children and youth with disabilities, and consider how education and welfare should correspond to their special needs.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション；障害のある子ども・青年に学ぶ
- 2回：障害とはなにか？（1）教育実践の視点から
- 3回：障害とはなにか？（2）人権保障の視点から
- 4回：障害のある子ども・青年に合った学びをつくり、文化を手渡す
- 5回：障害のある子ども・青年のねがいに応える生活をつくる
- 6回：障害のある人たちに合った労働と生活をつくる
- 7回：インクルーシブな学校と教室をつくる
- 8回：障害のある人たちのセクシャリティと性教育
- 9回：映像から学ぶ
- 10回：当事者に学ぶ、当事者とともに学ぶ（ゲストスピーカーによる授業）
- 11回：「この子らを世の光に」
- 12回：本人と家族のノーマライゼーション
- 13回：「私たち抜きに、私たちのことを決めない」
- 14回：総括とふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前日までにレジュメと資料のデータを配信しますので、事前に目を通しておいてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

テキストはとくに指定はありません。授業中に適宜、紹介していきます。

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

授業計画に記したテーマを扱いますが、受講生のみなさんの問題関心に即して、授業の内容と進度を変更する場合があります。

# 教育と宗教

Education and Religion

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL230  
授業形態： 対面（一部オンライン）  
授業形態（補足事項） オンラインは12回目を予定  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

内外の教育における「宗教」の扱われ方を把握し、今後の宗教教育に関する課題を考察する。

The course will view how "religion" is treated in internal and external education, and will consider issues concerning religious education in the future.

## 授業の内容 / Course Contents

日本の教育現場において「宗教」が取り上げられる機会は一部の宗教系学校以外においてはまずない。だが、「宗教」に関する知識や情報は生活において重要なものであろう。内外の教育における「宗教」の扱われ方の歴史・現状を把握したうえで、それにとまなう問題や課題について考察していく。

With the exception of some religious-affiliated schools, there is almost no opportunity in Japan's education to take up the topic of religion. However, knowledge and information concerning religion is important in life. After understanding the history and the current status of how religion is handled in internal and external education, the course will consider the problems and issues involved.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：導入

- 2回：日本宗教教育史1  
 3回：日本宗教教育史2  
 4回：キリスト教系学校の歴史1  
 5回：キリスト教系学校の歴史2  
 6回：キリスト教系学校の現状  
 7回：その他の宗教系学校の歴史  
 8回：その他の宗教系学校の現状  
 9回：教育法制と宗教  
 10回：諸外国の教育と宗教1  
 11回：諸外国の教育と宗教2  
 12回：諸外国の教育と宗教3  
 13回：諸外国の教育と宗教4  
 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、事前に概要を Canvas LMS で知らせる予定。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

國學院大學日本文化研究所 『宗教と教育』 弘文堂 1997

江原武一 『世界の公教育と宗教』 東信堂 2002

国際宗教研究所 『現代宗教2007』 秋山書店 2007

#### その他 / Others

講義内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

# ドイツ語圏文化概論 1

## Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1

坂本 貴志／吉田 治代 (SAKAMOTO TAKASHI/ YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL231  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学，文化，言語の歴史と現在に関する基礎知識を学び，今後4年間の勉学全てに共通する重要不可欠な基礎知識を習得する。

Students will learn fundamental knowledge about the history and the present state of literature, culture, and language in the German-speaking sphere, and will acquire indispensable fundamental knowledge that will apply to all studies over the next 4 years.

### 授業の内容 / Course Contents

狭い意味でのドイツ（現在のドイツ連邦共和国）に限らず，歴史的にドイツ語圏といえる地域について，その言語，文学，文化を近代初期から現代に至るまで，広く講義する。その中で，若干のトピックを選んで掘り下げるとともに，分析や説明のためのさまざまな視点を紹介する。前半は坂本が，後半は吉田が担当。

In addition to Germany in the narrow sense (i.e., the current Federal Republic of Germany), the lectures will broadly cover the language, literature, and culture in regions that have historically constituted the German-speaking sphere, from the start of modernity to the present age. Within this, the course will select and delve into a number of topics, introducing various perspectives for analysis and explanation. The classes will be led by

Sakamoto in the first half and Yoshida in the second half.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：履修上の注意：  
ロマネスクとゴシックの文化
- 2 回：ルネサンスの文化
- 3 回：バロックの文化 1
- 4 回：バロックの文化 2
- 5 回：啓蒙主義期の文化
- 6 回：ロマン主義の文化
- 7 回：小テスト 1（坂本担当部分）
- 8 回：近代ドイツの歴史と文化～19 世紀末から 1945 年まで (1)
- 9 回：近代ドイツの歴史と文化～19 世紀末から 1945 年まで (2)
- 10 回：近代ドイツの歴史と文化～19 世紀末から 1945 年まで (3)
- 11 回：近代ドイツの歴史と文化～19 世紀末から 1945 年まで (4)
- 12 回：近代ドイツの歴史と文化～19 世紀末から 1945 年まで (5)
- 13 回：近代ドイツの歴史と文化～19 世紀末から 1945 年まで (6)
- 14 回：小テスト 2（吉田担当部分）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを読むこと。

また、事前に配布する授業の資料（ハンドアウト）を必ず読んで授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー:35% 出席態度および理解度:30% テスト・期末課題:35%

前後半合わせて欠席 3 回で成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2024 9784621308745 ○

資料を配布する。詳細は授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

手塚富雄・神品芳夫 『ドイツ文学案内』 岩波書店

若尾祐司・井上茂子 『近代ドイツの歴史』 ミネルヴァ書房

新野守広他 『知ってほしい国ドイツ』 高文研



## ドイツ語圏文化概論 2

Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2

井出 万秀／宮崎 麻子 (IDE MANSHU/ MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL232  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学，文化，言語の歴史と現在に関する基礎知識を学び，今後4年間の勉学全てに共通する重要不可欠な基礎知識を習得する。

Students will learn fundamental knowledge about the history and the present state of literature, culture, and language in the German-speaking sphere, and will acquire indispensable fundamental knowledge that will apply to all studies over the next 4 years.

### 授業の内容 / Course Contents

狭い意味でのドイツ（現在のドイツ連邦共和国）に限らず，歴史的にドイツ語圏といえる地域について，その現代の文学や文化を，広く講義する。その中で，若干のトピックを選んで掘り下げるとともに，分析や説明のためのさまざまな視点を紹介する。前半は宮崎が，後半は井出が担当。

In addition to Germany in the narrow sense (i.e., the current Federal Republic of Germany), the lectures will broadly cover the language, literature, and culture in regions that have historically constituted the German-speaking sphere, from the start of modernity to the present age. Within this, the course will select and delve into a number of topics, introducing various perspectives for analysis and explanation. The classes will be led by

Yoshida in the first half and Miyazaki in the second half.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：履修上の注意：  
東ドイツの文化（1）
- 2回：東ドイツの文化（2）
- 3回：現代文学（1）
- 4回：現代文学（2）
- 5回：文学・文化史におけるジェンダーの問題（1）限定された「女性作家」の役割
- 6回：文学・文化史におけるジェンダーの問題（2）近代文学における女性像の例
- 7回：小テスト1（宮崎担当部分）
- 8回：初期ドイツ語時代（-1050）1
- 9回：初期ドイツ語時代（-1050）2
- 10回：中世ドイツ語時代（1050-1350）1
- 11回：中世ドイツ語時代（1050-1350）2
- 12回：初期新高ドイツ語時代（1350-1650）1
- 13回：初期新高ドイツ語時代（1350-1650）2
- 14回：小テスト2（井出担当部分）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布する授業の資料（ハンドアウト）を必ず読んで授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー:35% 出席態度および理解度:30% テスト・期末課題:35%  
前後半合わせて欠席3回で成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

資料を配布する。詳細は授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

- 手塚富雄・神品芳夫 『ドイツ文学案内』 岩波書店
- 若尾祐司・井上茂子 『近代ドイツの歴史』 ミネルヴァ書房
- 新野守広他 『知ってほしい国ドイツ』 高文研
- 石田 勇治 編 『ドイツ文化事典』 丸善出版
- 須澤／井出 『ドイツ語史』 郁文堂
- 井出万秀 『ドイツ中世文学史』 郁文堂

# 日本文学概論

Introduction to Japanese Literature

災厄と近現代日本演劇

後藤 隆基 (GOTO RYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL233

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 日本文学専修 3,4 年次、文芸思想専修 3,4 年次生のみ登録可。（その他の学生は抽選登録）

## 授業の目標 / Course Objectives

災厄に見舞われた世界のなかで、演劇がいかに機能してきたのかを学ぶ。主に近現代日本演劇を対象とし、文化史におけるその位置づけについて学ぶ。

Learn how theater has functioned in a world hit by disaster. The course mainly focuses on modern and contemporary Japanese theater, and learns about its place in cultural history.

## 授業の内容 / Course Contents

これまで、世界はさまざまな災厄に見舞われてきたが、劇場はどのように興行をおこない、作品を上演してきたのか。歌舞伎や明治以降の新興演劇から現代演劇まで、商業演劇やミュージカルなども取り上げ、各時代の災厄と演劇の関係について考える。私たちが当事者として直面した、2020 年以降のコロナ禍と舞台芸術の影響関係についても検証する機会としたい。

Up until now, the world has been hit by various disasters, but how have theaters managed to hold performances and perform works? We will look at the relationship between disasters and theater, covering everything from

Kabuki and emerging theater from the Meiji era to contemporary theater, as well as commercial theater and musicals. We would like to take this as an opportunity to examine the relationship between the COVID-19 pandemic and the performing arts since 2020, which we have faced as parties involved.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：明治期の「お染風」
- 3 回：大正期のスペインかぜ
- 4 回：関東大震災①
- 5 回：関東大震災②
- 6 回：アジア・太平洋戦争①
- 7 回：アジア・太平洋戦争②
- 8 回：東日本大震災①
- 9 回：東日本大震災②
- 10 回：東日本大震災③
- 11 回：新型コロナウイルス感染症①
- 12 回：新型コロナウイルス感染症②
- 13 回：新型コロナウイルス感染症③
- 14 回：教場試験

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業テーマに関わる演劇や映画、文学作品、美術館・博物館等の展覧会等を紹介するので、実際にそれらを鑑賞すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

全 14 回の内、10 回以上の出席がない場合、成績評価の対象外とする。

### テキスト / Textbooks

特定のテキスト (教科書) は使用せず、毎回の授業で必要に応じてレジュメを配付する。

### 参考文献 / Readings

後藤隆基 『ロスト・イン・パンデミック』 春陽堂書店 2021 9784394190226

国際演劇評論家協会日本センター 『「轟音の残響」から』 晩成書房 2016 4893804626

教室で適宜アナウンスする

### 注意事項 (検索結果画面)

日本文学専修 3, 4 年次、文芸思想専修 3, 4 年次生のみ登録可。(その他の学生は抽選登録)

# 言葉と感性

Language and Sensibility

古代ギリシア人の言葉と感性――西洋文化の源泉――/Language and Sensibility of the Ancient Greeks: An Origin of Western Civilization

松浦 高志 (MATSUURA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL235

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古代ギリシア人がどのような言葉と感性をもっていたかを理解し、それを自分の言葉で説明できるようにするのが目標である。また、古代ギリシア文明は西洋文明の源の一つであるから、古代ギリシア人の言葉と感性について学ぶことで、現代の西洋文明の起源の一つがどのようなものであったかも学ぶことができる。

古代ギリシア人がもっていた言葉と感性は、我々現代人のそれとは当然大きく異なる。その大きな理由の一つは時代的な差異であり、もう一つは地理的な差異である。この講義の内容を学ぶことで、それらの差異に注意しながら各自が説明することができるようになる。さらにこれを用いれば、時代や地理的な差異に注意しながら、いろいろな文化の相違をできるだけ正確に述べることができるようになるだろう。

なお、受講に際しては古代ギリシア語の知識は必要ない。ほかの外国語の知識も必要ない（英語を除く）。

This course is an introduction to the language and sensibility of the ancient Greeks. Ancient Greek civilization is one of the sources of Western civilization. By learning about the language and sensibility of the ancient Greeks, students will also be able to learn about one of the origins of modern Western civilization.

The language and sensibility of the ancient Greeks were very different from those of us. One of the main reasons for this is the difference in time and another is geographical differences. You will be able to explain them, paying attention to these differences. Furthermore, you will be able to describe the differences between the various cultures as precisely as possible, paying attention to period and geographical differences.

No knowledge of ancient Greek is necessary to take this course. Knowledge of other foreign languages is also not required (except English).

## 授業の内容 / Course Contents

### I. 授業で扱う内容

授業では、古代ギリシア文学の一節を翻訳で紹介し、そこに古代ギリシア人のどのような感性が反映されているのか、またどのような言葉を用いてそれが述べられているのかを説明する。扱う作品は神話、歴史、哲学、演劇などが中心である。ただしこれらの文学作品だけを読んでも理解が難しいことがある。そのような場合は、その背景にある文化史を学ぶと理解が早いことがあるので、文化史も適宜含めながら講義する。

授業中にある作品の全体を読むということはしないが、古代ギリシア語の有名な作品、たとえばホメーロス『イーリアス』『オデュッセイア』、ソポクレス『オイディプス王』、プラトーンの哲学作品などの一部を毎回紹介するので、興味をもった作品を各自で読んでみてほしい。

### II. 授業の進め方

授業開始時に小テスト（第1回の授業を除く）を行い、その後は講義形式で授業を行う。

#### I. Contents covered in class

The course introduces the students to passages from ancient Greek literature in translation, explaining what sensibility the ancient Greeks reflected in their writings and what language they used to describe them. The works covered are mainly mythology, history, philosophy and drama. However, it is sometimes difficult to understand these literary works by reading them alone. In such cases, the learning of the cultural history may help understanding, so we will also give a lecture on cultural history.

We will introduce some of the most famous ancient Greek works, such as Homer's Iliad and Odyssey, Socrates' Oedipus Rex and Plato's philosophical works. We will encourage students to read works of interest.

#### II. How to proceed with the class

A quiz will be given at the beginning of class (except for the first class), after which the class will be conducted in the form of a lecture.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：序論：イントロダクション（授業内容や進め方の説明）・古代ギリシア略史

2回：ギリシア神話(1)：トロイア戦争とアキッレウス

3回：ギリシア神話(2)：オイディプス王

4回：ギリシア神話(3)：ヘーラクレス

5回：古代ギリシア人の生活(1)：アテーナイ市

6回：古代ギリシア人の生活(2)：饗宴

7回：古代ギリシア人の生活(3)：同性愛

8回：アテーナイ民主政(1)：直接民主主義

9回：アテーナイ民主政(2)：民衆裁判

10回：儀礼(1)：結婚式

11回：儀礼(2)：葬礼

12回：宗教(1)：犠牲式・祈願

13 回：宗教(2)：祭礼・演劇・競技祭

14 回：予備

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

予習は必要ないが、授業で配布するプリントの PDF 版を前週の金曜日頃に Canvas LMS に用意しておくように心がけるので、それを用いて授業の内容を概観しておくこともできる。

復習について、小テストの内容は、前回の授業のキーワードを答えるものであるから、これに要する時間はわずかであるが、それに加えて毎回、授業の内容を 1 段落程度でまとめ、それを覚えるか、あるいは授業の内容を覚えた上で、それを 1 段落程度でまとめることができるようにするとよい。これを毎回行うことで、それがそのまま学期末試験の対策にもなる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業はじめに毎回行う小テスト:30%

授業はじめに毎回行う小テストでは、前回の授業のキーワードが理解できているか試す。穴埋め問題を 5 題程度出題する。

筆記試験はすべて論述式。学修した内容を自分の言葉で論述できるかどうかを試す。

**テキスト / Textbooks**

教科書は使用しない。プリントは紙媒体と Canvas LMS に PDF 形式で用意する。

**参考文献 / Readings**

授業中に指示をする。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

予備知識は特に必要としない。世界史 B の古代ギリシアに関する分野の知識が定着していると理解が早いですが、特にそれは前提とはしない。ギリシア語をはじめとする外国語の知識も必要ない（英語を除く）。幅広い分野の学生の受講を歓迎する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

情報機器を持参する必要はない。配布資料は紙媒体と Canvas LMS に PDF 形式で用意する。

**その他 / Others**

URL: <https://museion.sakura.ne.jp/ru/>

Mail: rmatuura [A T] rikkyo.ac.jp

# テキストマイニング論

Text Mining Methods

川端 良子 (KAWABATA YOSHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL237  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART1400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

自然言語(特に、日本語)を定量的に分析するための基礎的な知識を学び、R を用いた基本的な統計処理ができるようになることを目標とする。

The goal of this class is to learn the basic knowledge for analyzing natural languages (especially Japanese) and to be able to perform basic statistical processing using R.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストマイニングとは、大量のテキストを探索・分析するプロセス全体を指します。これまでさまざまなテキストマイニングの方法が提案され、今後も発展していくことが予想されますが、基礎となるのは、言語をコンピュータで扱う技術(自然言語処理)、統計学、および、言語そのものに対する知識です。本授業では、テキストマイニングを行うための基礎的知識を、統計ソフト R を用いて学びます。

Text mining refers to the entire process of exploring and analyzing large volumes of text data. Various methods of text mining have been proposed and are expected to continue to develop in the future, but its fundamentals remain the same - techniques and methods for handling language with computers (natural language processing), statistical analyses, and knowledge of language itself. In this class, students will learn the



fundamentals of text mining using the statistical software R.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスと分析の準備(R と RStudio のインストール)
- 2 回：R の基礎・データの可視化
- 3 回：自然言語処理基礎(1)：コンピューターによるテキストの扱い(文字コード、正規表現、ファイル)
- 4 回：自然言語処理基礎(2)：ことばの単位、形態素解析
- 5 回：自然言語処理基礎(3)：コーパス、データ構造
- 6 回：統計基礎(1)：言語統計の基礎（記述統計と確率分布）
- 7 回：統計基礎(2)：統計的仮説検定
- 8 回：テキストマイニングの実例
- 9 回：統計発展(1)：回帰分析
- 10 回：統計発展(2)：多変量解析 1(判断分析、クラスター分析)
- 11 回：統計発展(3)：多変量解析 2(主成分分析、コレスポンデンス分析)
- 12 回：テキストマイニング実習(1)
- 13 回：テキストマイニング実習(2)
- 14 回：その他の分析方法、および社会的な問題について。全体のまとめ。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業で行った内容と類似した課題を出すので、操作の意味を考えながら課題に取り組んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題（複数回）：60% 出席および授業参加度：10% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

毎回、授業資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

- 石川 慎一郎/前田 忠彦/山崎 誠 『言語研究のための統計入門』 くろしお出版 2010 9784874244982  
 石田 基広 『Rによるテキストマイニング入門（第2版）』 森北出版 2017 9784627848429

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

実習を行いますので、大学の無線 LAN に接続できるように設定したノート PC を授業中に利用できるよう十分に充電して持参してください。

# SDGs 入門

## Introduction to SDGs

村上 祐子／阿部 治／中野 佳裕／大庭 弘継 (MURAKAMI YUKO/ ABE OSAMU/ NAKANO YOSHIHIRO/ OHBA HIROTSUGU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL238

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

SDGs とはなにか、内容とその国際政治における背景を知り、実現のための教育の試みについて、概要を知る。また背景となる哲学・倫理思想を踏まえ、理論的アプローチについても概観する。受講後の目標は国内外における活動・取り組みの例を批判的に考察できることである。

The course will overview sustainable development goals, their political backgrounds, and education for sustainable development, as well as philosophical thoughts behind the idea. Successful students will be able to critically consider domestic and international activities toward SDGs.

### 授業の内容 / Course Contents

SDGs 概説に続き、持続可能な開発のための教育の試みの例および人道支援の実態を学ぶ。また、環境倫理・環境哲学および先端科学技術と環境のかかわりについて学ぶ。毎回の授業では、ワークショップなどの活動を行う。毎回の振り返りを小レポートにまとめて提出する。

Following the outline of SDGs, educational activities toward sustainable development and humanitarian aids will

be presented as well as environmental ethics and philosophy of technology. Each class meeting will include student activities and a reaction paper.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスとイントロダクション
- 2 回：SDGs とは何か(1)：17 の開発目標と理念
- 3 回：SDGs とは何か(2)：設定の経緯
- 4 回：人道支援(1):紛争と開発
- 5 回：人道支援(2):紛争と介入・支援
- 6 回：人道支援(3):紛争と復興
- 7 回：技術倫理 1:人権・ジェンダー
- 8 回：技術倫理 2：科学技術と持続可能性
- 9 回：「持続可能な開発」の政治経済学 その歴史と矛盾
- 10 回：脱成長のシナリオ 消費社会から抜け出すために
- 11 回：脱成長の実践 欧州における実践例を中心に
- 12 回：SDGs の学びをすすめる ESD (持続可能な開発のための教育)
- 13 回：ローカル SDGs
- 14 回：まとめとふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業での配布資料を復習するとともに、関連する報道(とくに COP 関係)に目を通してください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題 (複数回) :70% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

- 阿部治・野田恵編 知る・わかる・伝える SDGs 1 学文社 2019 ○
- 中野佳裕 カタツムリの知恵と脱成長——貧しさと豊かさについての変奏曲 コモンズ 2017 ○
- セルジュ・ラトゥーシュ 脱成長 白水社 2020 ○

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

対話に積極的に加わる態度

### その他 / Others

ワークシートを配布します。授業は聞くだけではなく、ノートをしっかりとること。

# 人文情報・メディア学入門

Introduction to Digital Humanities and Media Studies

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL239
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART1800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、現在世界の人文学を席卷している人文情報学（Digital Humanities）と呼ばれる研究分野を紹介し、それが私たちが普段接している様々なメディアとどのような関わりを持っているのかを概観した上で、今後のデジタル社会の展開の中で、人文学がどのような可能性をもちうるのかを受講生それぞれが検討することを目標とする。

The course will introduce the research field known as Digital Humanities, which is currently influence on humanities all over the world, give an overview of how it relates to the various media with which we are familiar, and then examine the future for the humanities in the development of the digitalized society.

## 授業の内容 / Course Contents

史学・文学・思想など人文学に関わる様々なテキストや書籍・テレビ・インターネット・SNS などのメディアを事例とし、1) 人文情報・メディア学の基礎、2) 人文情報・メディア学の展開、3) 人文情報・メディア学の実践で構成される。担当教員の講義、ゲストスピーカの講演、教員・ゲストスピーカ・受講者の対話を織り交ぜながら授業を進める。ゲストスピーカなどの詳細は開講時に示す。

The course consists of 1) the introduction to Digital Humanities and Media Studies, 2) its development, and 3)

its practice, referring to a variety of texts related to the humanities, such as history, literature, and thought, as well as media as books, television, the Internet, SNS, and etc. The course will be conducted through a mixture of lectures, talks by guest speakers, and dialogue between the professor, guest speakers and students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：人文情報・メディア学の基礎（1）
- 2 回：人文情報・メディア学の基礎（2）
- 3 回：人文情報・メディア学の基礎（3）
- 4 回：人文情報・メディア学の展開（1）
- 5 回：人文情報・メディア学の展開（2）
- 6 回：人文情報・メディア学の展開（3）
- 7 回：まとめ（1）
- 8 回：人文情報・メディア学の実践（1）
- 9 回：人文情報・メディア学の実践（2）
- 10 回：人文情報・メディア学の実践（3）
- 11 回：人文情報・メディア学の実践（4）
- 12 回：人文情報・メディア学の実践（5）
- 13 回：人文情報・メディア学の実践（6）
- 14 回：まとめ（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に紹介される文献を積極的に読むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

講義中に示す。

### その他 / Others

基幹科目で展開される人文情報・メディア学関連科目全体に対する導入の役割を果たす授業である。テキスト・電子媒体・メディアの関係に関心のある学生は積極的に受講してほしい。

# Humanities Lecture 1

Humanities Lecture 1

History

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL241

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1501

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 履修にあたっては IELTS5.5 程度の英語力が求められる。

## 授業の目標 / Course Objectives

As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. The aim of this course is to provide students with the opportunity to analyze and discuss some of the major global changes that have taken place from the mid nineteenth to the early twentieth century. This course will develop students' critical thinking skills as well as their ability to engage in meaningful discussions about historical events.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will provide an outline of the major political, social, cultural and economic changes that have occurred globally from the mid nineteenth to the early twentieth century. Special emphasis will be placed on the impact of the actions of western powers in a global context. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach and include the analysis of both primary (textual and visual) and secondary sources. Course themes will include Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism, Cultural Modernism and Global Feminisms. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form

before coming to class. They will also write one essay of 1,500 words.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Lecture: Consolidating Nations and Constructing Empires
- 2回：Lecture: Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism
- 3回：Seminar: Current Trends in World History: Africa's Newest Hunters and Gatherers: Greed, Environmental Degradation, and Resistance
- 4回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Occidentalism: Representing Western Influence
- 5回：Seminar: Global Themes and Sources: Contextualizing the Scramble for Empire
- 6回：Lecture: Discontent with Imperialism
- 7回：Lecture: Cultural Modernism
- 8回：Seminar: Global Themes and Sources: Global Feminisms
- 9回：Seminar: Current Trends in World History: Adapting to the Environment: Russian Peasants Take on the Steppe
- 10回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Global Modernism
- 11回：Lecture: The Quest for the Modern
- 12回：Lecture: Mass Society: Culture, Production, and Consumption
- 13回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing and Contextualizing Totalitarianism
- 14回：Seminar: Current Trends in World History: Population Movements: Filling Up the Empty Spaces and Spreading Capitalism; Interpreting Visual Evidence seminar: Men, Machines, and Mass Production

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

Please note that the course schedule provided in this syllabus is a general guide for students and that some changes may be made in both the content and sequence of lectures.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:30% Completion of exercises:30% Essay:40%

### テキスト / Textbooks

Students do not have to purchase a textbook for this course.

### 参考文献 / Readings

Elizabeth Pollard, Clifford Rosenberg, Robert Tignor & Alan Karras Worlds Together, Worlds Apart: A History of the World: From the Beginnings of Humankind to the Present Vol. 2, Concise 2nd Edition W.W. Norton and Company Ltd 2019 13 9780393668551

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

### その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.



# Humanities Lecture 2

Humanities Lecture 2

Literature

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL242

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1301

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 履修にあたっては IELTS5.5 程度の英語力が求められる。

## 授業の目標 / Course Objectives

- Become familiar with international and historical perspectives on war and on nonviolence and peace.
- Better understand cross-cultural attitudes toward conflict, peace, and nonviolence
- Foster skills to write and speak about literature in English.

## 授業の内容 / Course Contents

This course treats literary works from around the world about the experience of war and the search for peace. We will look at works from a variety of genres including short fiction, essays, poetry, and songs. Writing and speaking practice, including small group discussions and essays, will be used to foster improved English communication skills.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Striving for Peace in a Violent World

Readings: Mohandes Gandhi, "My Path" and Dalai Lama, "Human Approach to World Peace"

2 回： The Ancient World

Readings: Aristophanes, "Rescuing Peace" and Sunzi, "Selections from Art of War"

3 回 : The Drums of War in East Asia

Readings: Selections from "Tale of Heike" and Du Fu, "Ballad of the War Wagons"

4 回 : Poetry of War and Peace

Readings: Emily Dickinson, "I Many Times Thought Peace Had Come" and Rabindrath Tagore, "Words From the Depth of Truth"

5 回 : War Fiction 1

Reading: John Dos Pasos, "Three Soldiers"

6 回 : War Fiction 2

Reading: Ernest Hemingway, "Old Man at the Bridge"

7 回 : War Fiction 3

Reading: Liam O'Flaherty, "The Sniper"

Analysis Paper 1 and Presentation are due

8 回 : War and Satire

Reading: Judith Soloway, "The One Day War"

9 回 : Peace and Reconciliation

Reading: Scholastique Muckasonga, "Cattle Praise Song"

10 回 : Seeking Peace in a Nuclear World

Reading: Kenzaburo Oe, "Nobel Prize Speech" and Ray Bradbury, "There Will Come Soft Rains"

11 回 : Anti-war Novel 1

Readings: Kurt Vonnegut, "Slaughterhouse Five"

12 回 : Anti-war Novel, 2

Reading: Kurt Vonnegut, "Slaughterhouse Five"

13 回 : Anti-war Novel, 3

Reading: Kurt Vonnegut, "Slaughterhouse Five"

14 回 : Imagining Peace

Readings: The Protest Song: John Lennon and Yoko Ono, "Imagine," Bob Dylan, "Blowin' in the Wind", and Richie Havens, "Handsome Johnny"

Analysis Paper 2 and presentation are due

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will need to come to class ready to contribute having completed the readings for the week. Students will need to submit their weekly response to the readings via the discussion tool on Canvas.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分 : 111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% Class participation including group discussions and reading checks: 30% Weekly Reading

Analysis Responses:30% Reading Analysis Paper 1:15% Reading Analysis Paper 2:15% Presentations based on Reading Analysis Papers:10%

Students will need to fully attend at least 2/3 of class sessions to pass this course.

#### テキスト / Textbooks

---

There is no textbook for this class, but literary works and supplementary materials will be made available to students in digital form on the password-protected course site.

#### 参考文献 / Readings

---

#### その他 / Others

---

- The Canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.
- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures accompanied by Powerpoint slid

# 情報処理（PCプレゼンテーション）3b

Information Processing 3b

MS Word を用いた文書作成入門

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL251

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） 毎週水曜日の「0：00」に授業用の動画・資料にアクセスできるようにする予定です。

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

MS Word を用いた文書作成の基本操作を習得する。

Acquire proficiency in the fundamental operations for producing documents through the utilization of Microsoft Word.

## 授業の内容 / Course Contents

MS Word を用いた文章作成の仕方を、指定のテキストに準拠しながら演習形式で解説する。

The lecture will explain how to write sentences using MS Words in an exercise format while conforming to the specified text.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文書の作成と管理

3 回：一般的なビジネス文書の作成

- 4回：シンプルなレポートや報告書の作成
- 5回：複数の宛先に送付する文書の作成
- 6回：表で項目や数値を整理した文書の作成
- 7回：イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成
- 8回：図やグラフで情報を伝える文書の作成
- 9回：既存のデータを利用した文書の作成
- 10回：読みやすいレイアウトの長文の作成
- 11回：効率のよい長文の作成
- 12回：長文の編集と加工
- 13回：共同作業と文書の保護
- 14回：最終確認テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講後は、完璧に使いこなせるようになるまで復習を徹底してください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終確認テスト:20% 毎回の提出物:80%

#### テキスト / Textbooks

土岐順子 『情報利活用 文章作成 WORD2021 対応』 日経 BP 2022 9784296050284 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

- (1) 授業はすべて、オンデマンド（動画配信）の形式で行う。
- (2) 授業は、上記の指定テキストに沿って進める。
- (3) 授業計画内容は、進み具合で多少前後することがある。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）4b

Information Processing 4b

MS Excel を用いた表計算入門

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL252

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） 毎週水曜日の「0：00」に授業用の動画・資料にアクセスできるようにする予定です。

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

MS Excel を用いた表計算の基本操作を習得する。

Acquire proficiency in the fundamental operations for spreadsheet calculations using Microsoft Excel.

## 授業の内容 / Course Contents

MS Excel を用いた表計算の仕方を、指定のテキストに準拠しながら演習形式で解説する。

The lecture will explain how to do spreadsheet using MS Excel in an exercise format while conforming to the specified text.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：表計算の基本操作

3 回：表を見やすく使いやすくする編集操作

4 回：数式・関数を活用した集計表の作成

- 5回：表示形式や関数を活用した表の作成
- 6回：定型の表を作成する操作
- 7回：グラフの基本
- 8回：目的に応じたグラフの作成と編集
- 9回：データベース機能の利用
- 10回：データの抽出
- 11回：条件を指定した集計・分析
- 12回：ワークシート間の集計
- 13回：集計作業の自動化
- 14回：最終確認テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講後は、完璧に使いこなせるようになるまで復習を徹底してください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終確認テスト:20% 毎回の提出物:80%

#### テキスト / Textbooks

阿部香織 『情報利活用 表計算 Excel 2021 対応』 日経 BP 社 2022 9784296050291 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

- (1) 授業はすべて、オンデマンド（動画配信）の形式で行う。
- (2) 授業は、上記の指定テキストに沿って進める。
- (3) 授業計画内容は、進み具合で多少前後することがある。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）3c

Information Processing 3c

PowerPoint を利用したプレゼンテーション提示資料の作成

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL253

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

PowerPoint によるプレゼンテーション用スライド資料の作成を通じて、PC プレゼンテーションの特徴と情報処理の基礎的な知識や技能を身につける。

Students will acquire fundamental knowledge and skills for PC presentations and information processing by creating presentation slide materials using PowerPoint.

## 授業の内容 / Course Contents

口頭発表で使用するスライド資料作成を通して PowerPoint の操作方法について実習する。

項目レベルの意味づけ、図形描画などの基本的な機能やオブジェクトの整理、関連づけなどの効率的な機能などについて説明するとともに、スライド作成を通して情報の可視化、視覚表現に求められる要素など PC プレゼンテーションで考慮すべき点についても取り上げる。

実習形式の授業となるため、毎回 PowerPoint を操作しながら受講する必要がある。

Students will gain practical training in using PowerPoint by creating slide materials to be presented during oral presentation.



In addition to explaining basic functions such as assigning meaning to items and drawing figures, and efficient functions such as organizing and associating objects, this course will also visualize information through slide creation and consider elements required for visual expression in PC presentations.

In order to implement the course in practical exercise format, it is necessary to take the course while operating PowerPoint every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：PowerPoint の概要と基本的なスライドの作成
- 2 回：箇条書きレベルの意味づけと段落書式の種類
- 3 回：PowerPoint 上で作成する表とグラフ
- 4 回：SmartArt を利用した箇条書き図解と注意点
- 5 回：オンライン画像利用の注意点と著作権
- 6 回：画像の表示と加工，クレジットとリンクの挿入
- 7 回：図形の挿入と書式指定，図解の作成と視覚化表現
- 8 回：オブジェクトウィンドウの利用と複数図形の配置整理，グループ化
- 9 回：スライドテーマとデザイン，色と背景の詳細指定
- 10 回：画面切り替えとアニメーションの基本
- 11 回：アニメーションウィンドウの利用と複数アニメーションの連動
- 12 回：スライドショー操作とポインターの変更
- 13 回：リハーサルとスライドショーの記録
- 14 回：プレゼン内容や資料の使用目的によるスライド構成の相違点，最終課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

論理重視か共感重視かなど，プレゼンの目的によってスライドに求められる内容も変化する。本授業では授業や研究発表での口頭発表を中心に必要と思われる技法を紹介するが，他にどのような場面で利用するのが効果的か、また他の目的でプレゼンする場ではどのような応用が可能か考えること。

応用に関して質問があれば上記授業内容から外れる事柄であっても自由に申し出てください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で指示する提出物（複数回）：75% 最終授業時に提出する課題：25%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

特に指定しない。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

PowerPoint の基本的な操作から始まり提示資料作成に必要な機能の実習が中心となる。そのため PC 操作や

PowerPointでのスライド作成経験を問わない。

ただし作成に十分な技能を有している場合、内容の多くは機能の再確認にとどまる可能性が高い点に留意する。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回メディアセンターのPC実習室を利用するので準備は不要。

ただし個人のPCを利用する場合はMicrosoft365（またはMicrosoft Office）のPowerPointがインストールされている必要がある。他のプレゼンテーションアプリ（KeyNote, Google slide, ポラリスオフィスなど）の使用は認めない。

PowerPointをインストールする必要がある場合、大学在学中は無償で利用できるMicrosoft365のEESライセンスプログラムを利用できる。

必要な場合はSpiritの

#### **その他/ Others**

授業資料配布及び課題提出にはCanvas LMSを利用する。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）4c

Information Processing 4c

PowerPoint のスライド資料と視覚表現

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL254

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

概要の直感的把握が必要な提示資料に求められる視覚表現の特徴について、スライド資料の作成を通じて理解を深めるとともに情報処理の基礎や技能を身につける。

Through the creation of slide materials, students will deepen their understanding of the characteristics of visual expression required for presented materials that require an intuitive grasp of the outline, and acquire the basics and skills of information processing.

## 授業の内容 / Course Contents

スライドの「コンテンツを構成する視覚要素」と「視覚要素が受け手に与える印象」について知ることで、口頭発表という形式の短所を補い「分かりやすさ」を促す画面構成について考える。

操作説明を除き授業では2週で1つの視覚要素を扱う。

1週目は視覚要素の特徴と画面構成に必要な操作を説明し、要素を利用したスライドを作成する。2週目は作成されたスライドへの講評を通して具体的な作成上の留意点を説明する。

By learning about the visual elements that make up the content" of slides and the ``impressions that visual

elements give to the audience," think about screen configurations that compensate for the shortcomings of the oral presentation format and promote `` easiness of understanding."

Excluding operational explanations, each class covers one visual element every two weeks.

In the first week, we will explain the characteristics of visual elements and the operations required for screen configuration, and create slides using the elements. In the second week, specific points to keep in mind when creating slides will be explained through comments on the slides that have been created.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Powerpoint の基本操作：テキスト項目の箇条書きレベル設定と段落書式の変更
- 2 回：SmartArt の操作：簡易的な図解の作成と利用上の問題点
- 3 回：図形の操作：図形描画とテキストの挿入，書式の変更，グループ化，配置の調整
- 4 回：ブロック図形を利用した図解：視覚変数の特徴と同レベル・付属レベルの強調
- 5 回：講評：グループ化の表現
- 6 回：矢印・線を利用した図解：図形の配置と関係性を強調する線・矢印の種類
- 7 回：講評：分岐と連続性の表現
- 8 回：色を利用した図解：色の 3 属性と心理的效果，隣接する色の対比効果
- 9 回：講評：関係性の強調と光媒体上の見やすい配色
- 10 回：インターネット上の画像の利用と著作権，ライセンスとクレジット表記
- 11 回：画像を利用した表現：主旨および項目の視覚化と文脈理解へのノイズ
- 12 回：講評：画像の種類による情報量の違い，主体や印象の影響
- 13 回：アニメーションの種類と連続表示，オブジェクトの動きと時間の効果
- 14 回：最終課題：「把握しやすい」プレゼンテーションの作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各授業で取り上げる視覚要素について，なぜそれらが効果的な表現方法となるのか，他にはどのような視覚要素が考えられるかを整理すること。

パワーポイントでの表現に関する質問であれば授業の内容以外でも随時質問を受けつけます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指定する課題（複数回）:75% 最終課題:25%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

三末 和男 『情報可視化入門:人の視覚とデータの表現手法』 森北出版 2021 9784627855915

宮野 公樹 『学生・研究者のための 使える!PowerPoint スライドデザイン 伝わるプレゼン 1つの原理と 3つの技術』 化学同人 2009 9784759811759

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

PC 操作や PowerPoint の基本的な操作ができることが望ましいが、授業内で随時説明するので必須ではない。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回メディアセンターの PC 実習室を利用するので準備は不要。

ただし個人の PC を利用する場合は Windows, MacintoshPC とともに Microsoft365 (または Microsoft Office) の PowerPoint がインストールされている必要がある。他のプレゼンテーションアプリ (KeyNote, Google slide, ポラリスオフィスなど) の使用およびスマホ, タブレット PC の Office Mobile の利用は推奨しない。

PowerPoint をインストールする場合, EES ライセンスプログラ

**その他/ Others**

授業の資料配布及び課題提出には Canvas LMS を利用する。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）3d

Information Processing 3d

情報機器の基本操作

内川 一明 (UCHIKAWA KAZUAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL255

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基本ソフト（Word, Excel, PowerPoint）を用いたプレゼンテーション資料の作成等を通して、情報処理の基本的な知識と技能を修得することを目標とします。

The objective is for students to acquire fundamental knowledge and skills in information processing through the creation, etc. of presentation materials using basic software (Word, Excel, and PowerPoint).

## 授業の内容 / Course Contents

レポート作成・プレゼン・データ分析ができるよう、Word を用いた書類作成、PowerPoint の活用法、Excel によるデータ処理の方法等について学習します。

In addition, students will learn to write reports, make presentations, and analyze data using Microsoft Word for document creation, PowerPoint, and Excel for data analysis.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明

2 回：PowerPoint の基礎：機能の確認

- 3回：PowerPoint の活用 1：画像・図表の挿入とアニメーション  
 4回：PowerPoint の活用 2：スライドマスター  
 5回：Word の基礎：機能の確認  
 6回：Word の活用 1：ページレイアウト  
 7回：Word の活用 2：文書の編集  
 8回：Word の活用 3：図表の挿入とアウトライン  
 9回：Excel の基礎：機能の確認  
 10回：Excel の活用 1：データ入力と編集  
 11回：Excel の活用 2：グラフ作成  
 12回：Excel の活用 3：関数  
 13回：Excel を用いたデータ処理方法：ピボットテーブル  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行います。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業態度:30% 授業内課題(5%×6回):30% 最終レポート割合：40%

授業内課題については、次回授業時に講評を行います。

### テキスト / Textbooks

指定しない。適宜、資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用します。

### その他 / Others

授業はパワーポイントを使用した講義形式を中心とします。

# 情報処理（PCプレゼンテーション）4d

Information Processing 4d

情報処理（データ収集から分析加工そして発信）

内川 一明（UCHIKAWA KAZUAKI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL256

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1820

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基本ソフト（Word, Excel, PowerPoint）を用いて私たちの身の回りにあるデータを収集・分析加工し、情報として発信できるようになることを目標とします。

The objective is for students to become able to collect, analyze, and process the data around them using basic software (Word, Excel, and PowerPoint), and communicate this as information.

## 授業の内容 / Course Contents

Word, Excel, PowerPoint の操作確認と各種データベースを用いたデータの収集、可視化の方法を学習し、プレゼンテーションの際に必要な効果的な資料を作成します。

Students will confirm how to use Word, Excel, and PowerPoint, will learn methods for collection and visualization of data using databases, and will create effective materials necessary for presentations.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明

2 回：PowerPoint：操作方法の確認



- 3回：PowerPoint を用いた資料作成  
 4回：Word：操作方法の確認  
 5回：Word を用いた資料作成  
 6回：Excel：操作方法の確認  
 7回：Excel を用いたデータ処理（関数・ピボットテーブル）  
 8回：データの収集方法  
 9回：データのパターンを読む（クロスデータ・時系列データ）  
 10回：データの可視化（効果的なグラフの作成）  
 11回：データの可視化（プロット・マッピング）  
 12回：総合演習 1  
 13回：総合演習 2  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行います。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業態度:30% 授業内課題(6%×5回):30% 最終レポート割合 :40%

授業内課題については、次回授業時に講評を行います。

### テキスト / Textbooks

指定しない。適宜、資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用します。

### その他 / Others

授業はパワーポイントを使用した講義形式を中心とします。

# ヘブライ語 1

Hebrew 1

聖書ヘブライ語 初級

宮崎 修二 (MIYAZAKI SHUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

聖書ヘブライ語の基礎を学ぶ。ヘブライ文字に親しみ、旧約聖書原典の「素読」技術の体得を目標のひとつとする。また、初級文法の基礎を習得する。

We will learn the basics of Biblical Hebrew. As the first stage of the learning, this course is intended to get familiar with Hebrew characters and texts by reading them aloud. The basic grammar will be learned quickly.

## 授業の内容 / Course Contents

初級文法を学びながら、できるだけ多く旧約聖書の原典に触れる機会をもつ。宿題、課題提出を随時課す。学期前半は音読、文字の習得を重視したい。後半は、現代のイスラエルで生活語として用いられている現代ヘブライ語も文法学習の手がかりとして利用する。

The course will give students as much opportunity as possible to read actual texts of Hebrew Bible, while learning introductory grammar. Homework will be assigned. The first half of the course will emphasize reading aloud and learning characters. The

second half will also use modern Hebrew, a living language used in modern Israel, as an aid to grammar learning.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：文字と発音（1）  
 2回：文字と発音（2）  
 3回：名詞と形容詞、冠詞  
 4回：所有、関係詞、接尾代名詞（1）、前置詞、セゴール名詞  
 5回：動詞完了形（1）、名詞双数形、分詞  
 6回：スミフト（1）、接尾代名詞（2）  
 7回：スミフト（2）、数詞  
 8回：動詞完了形（2）、所有接尾代名詞、状態動詞  
 9回：動詞完了形（3）、喉音動詞  
 10回：動詞完了形（4）、動詞のバリエーション（ビニヤン）  
 11回：動詞未完了形（1）  
 12回：動詞未完了形（2）  
 13回：命令形、不定詞  
 14回：期末のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

基本的に毎回、宿題を課す。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 中間小テスト:40% 期末小テスト:40% 提出物、課題:20%

**テキスト / Textbooks**

小脇光男 『聖書へブライ語文法 改訂版』 青山社 2021 9784883593200 ○

**参考文献 / Readings**

## ヘブライ語 2

Hebrew 2

聖書ヘブライ語 初級2

宮崎 修二 (MIYAZAKI SHUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

初級文法の学習を終わらせ、独力で辞書を引く方法を学び、実際の聖書テキストを読む技術を習得する。

We will complete the basic grammar of Biblical Hebrew, and learn skills for using dictionaries to read actual Biblical texts in Hebrew.

### 授業の内容 / Course Contents

春学期の「ヘブライ語1」の履修を前提とし、完全な初学者は対象としない。引き続き初級文法を学びながら、できるだけ多く旧約聖書の原典に触れる機会をもつ。随時、宿題・課題の提出などを課す。既習の文法事項の復習も行いながら、辞書を引くテクニックを学び、少しずつ経験を積んでいくことで上達を目指す。現代のイスラエルで用いられている日常語としてのヘブライ語との関係も紹介し、簡単な実用語なども学んでいく。

The course is the second stage of Basic Biblical Hebrew, not intended for complete beginners. Students are required to have taken the first stage course "Hebrew 1" of the spring semester. The course will give students as much opportunity as possible

to read actual texts of Hebrew Bible, while learning the basics of the grammar. Homework will be assigned as appropriate. While reviewing grammar points that have already been learned, students will learn skills for using dictionaries, and will improve by gradually building up experience. This course will also introduce some topics of modern Hebrew used as a daily language in modern Israel, and will teach its simple, practical phrases.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：カル未完了形（1）・喉音動詞／ピエル完了形
- 3回：カル未完了形（2）／ピエル未完了形（1）
- 4回：カル未完了形（3）／ピエル未完了形（2）
- 5回：カル未完了形（4）
- 6回：カル未完了形（4）重子音動詞、独立不定詞
- 7回：中間課題／数詞
- 8回：ヒトパエル／ニフアル（1）
- 9回：ピエル（2）／ヒファイル（1）
- 10回：ニフアル（2）／動詞＋接尾代名詞
- 11回：ヒファイル（2）
- 12回：ヒファイル（3）
- 13回：ヒファイル（4）／プアル、ホフアル（1）
- 14回：プアル、ホフアル（2）／最終課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的に毎回宿題を課す。

辞書の引き方を学んだ後は、図書館での予習など準備が必要となる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間小テスト:40% 期末小テスト:40% 提出物など:20%

### テキスト / Textbooks

小脇光男 『聖書へブライ語文法』 青山社 2021 9784883593200 ○

### 参考文献 / Readings

# ドイツ語文献講読 1

## Reading German Texts 1

宮島 章子 (MIYAJIMA AYAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL353  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ART2413  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- ・ドイツ語の文献を読んで大筋の内容を把握することができるようになります。
- ・辞書を引きながら、ドイツ語の文章の内容を詳しく理解し、必要な情報を抽出・整理することができるようになります。
- ・ドイツ語の文章を読み解くために必要となる文法能力、語彙、ドイツ語圏の文化・社会に関する知識を身につけます。
- ・ To be able to read and understand the main points of German texts.
- ・ To be able to understand the content of German texts in detail and to extract and organize the necessary information using a dictionary.
- ・ To acquire the grammatical skills, vocabulary, and knowledge of the culture and society of the German-speaking region necessary to read and understand German texts.

### 授業の内容 / Course Contents

ドイツ・オーストリア・スイスの最新事情を扱ったドイツ語のテキストを読み、「読むこと」に関するドイツ語

能力を養います。同時に、ドイツ語の文章を読むうえで必要な文化・社会に関する背景知識を身につけます。  
Students develop their German reading skills by reading texts in German about the latest developments in Germany, Austria, and Switzerland. At the same time, students will acquire the necessary cultural and social background knowledge for reading German texts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：Die Salzburger Festspiele - eine Veranstaltung für jedermann ?
- 3回：Aus „Hartz-IV“ wird „Bürgergeld“
- 4回：Nach der Corona-Pandemie - Schulen kämpfen immer noch
- 5回：Waschmaschinen in der Küche - Warum?
- 6回：Verspätung der Züge - ein Ärgernis für alle
- 7回：Die Schweizer Schokolade
- 8回：Die „Letzte Generation“ - Kleben für das Klima
- 9回：Baustelle Kindergarten: Personalmangel und Überlastung
- 10回：9 Euro für einen Döner? - Inflation in Deutschland
- 11回：Krebs - der schleichende Feind
- 12回：予備日（教科書の進度に応じて教科書・または教科書外のテキストを読む）
- 13回：予備日（教科書の進度に応じて教科書・または教科書外のテキストを読む）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に、各課の文章を読み、練習問題および課題に取り組んでおくこと。  
その他の課題については、授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業への参加度や課題:50% 筆記による課題:30% 毎回の授業における音読:20%

### テキスト / Textbooks

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏 『DACH・トピックス 10 2024 年度版』 朝日出版 2024 9784255254746  
○

### 参考文献 / Readings

中尾悠爾・平尾浩三・朝倉功 『必携 ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920  
授業内で指示。

### その他 / Others

進度は受講者のレベルに応じて調整します。

# ドイツ語文献講読 2

## Reading German Texts 2

相馬 大樹 (SOMA DAIKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL354
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART2413
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

1 年次に学んだ文法事項をもとに、テキストの読解能力の向上を目指します。

The Course aims to improve reading comprehension, based on grammatical points learned in the first year.

### 授業の内容 / Course Contents

ある程度のドイツ語の文章を、辞書や文法書を使いながら読みます。授業内では発音の練習と文法、構文を中心に解説を行います。

Students will read a certain amount of German sentences using dictionaries and grammar textbook. The Course will focus on mainly practice of pronunciation and explanation of grammatical point and syntax.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：テキスト
- 3 回：テキスト
- 4 回：テキスト



- 5回：テキスト  
 6回：テキスト  
 7回：テキスト  
 8回：テキスト  
 9回：テキスト  
 10回：テキスト  
 11回：テキスト  
 12回：テキスト  
 13回：テキスト  
 14回：最終テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回 100 ワード程度の独文和訳を宿題として課す予定です。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 予習の状況:30% 授業への参加度:30% 最終テスト割合：:40%

#### テキスト / Textbooks

テキストはプリントを配布します。

#### 参考文献 / Readings

中島・平尾・朝倉 『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』 白水社  
 辞書を持参すること。

# フランス語文献講読 1

Reading French Texts 1

現代フランスのジャーナリズムに触れる

片岡 大右 (KATAOKA DAISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL355

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART2413

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語文法・語彙の知識の定着・発展を図る傍ら、現代フランスのジャーナリズムの記事に触れることを通して、フランス社会について学ぶ。

Students will learn about French society by reading contemporary French journalism articles while strengthening and developing their knowledge of French grammar and vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

『ル・モンド』ほかの現代フランスのジャーナリズムの記事を読む。学生による訳読を主体とする授業。

Students will read articles from Le Monde and other contemporary French journalism. The class is based on translation by students.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む（1）

- 3回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (2)  
 4回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (3)  
 5回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (4)  
 6回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (5)  
 7回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (6)  
 8回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (7)  
 9回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (8)  
 10回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (9)  
 11回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (10)  
 12回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (11)  
 13回：現代フランスのジャーナリズムの記事を読む (12)  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献を事前に読むこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および授業参加度:50%

#### テキスト / Textbooks

プリント配付

#### 参考文献 / Readings

プリント配付

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

フランス語文法をひとつおり学んでいること。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

## フランス語文献講読 2

Reading French Texts 2

フランス現代思想を原書で読む

大坪 裕幸 (OTSUBO HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL356

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART2413

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義ではフランス現代思想のなかから、比較的容易に読める文体のテキストを選んで読む。そのようなテキストの読解を通して、受講生は様々な構文を理解できるよう精読し、また音読しながら正確な発音を身に付けることを目指す。

In this course, we will choice and read relatively easy works to comprehend from modern French philosophies. By reading these works, students will make an effort to understand various syntaxes through careful reading and to pronounce French properly through reading aloud.

### 授業の内容 / Course Contents

毎回特定のテキストを扱い、その読解をしていく。加えて担当講師は、サルトル以降の現代思想の展開を（補助資料を用いて）抄説する。

Each time we will deal with a different works, which we will strive to comprehend thoroughly. Additionally, the teacher in charge will lecture on the historical transitions of modern French philosophy after Sartre.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション
- 2回：ドゥルーズと文学（1）
- 3回：ドゥルーズと文学（2）
- 4回：ドゥルーズと文学（3）
- 5回：ロラン・バルトの記号論（1）
- 6回：ロラン・バルトの記号論（2）
- 7回：ロラン・バルトの記号論（3）
- 8回：メルロ＝ポンティと絵画（1）
- 9回：メルロ＝ポンティと絵画（2）
- 10回：メルロ＝ポンティと絵画（3）
- 11回：フーコーと文学（1）
- 12回：フーコーと文学（2）
- 13回：フーコーと文学（3）
- 14回：最終テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

和訳を担当する学生以外の者も、授業までにテキストの該当箇所を読んでおくこと。なお授業で扱う思想家・哲学者は、受講生の要望に応じて変更する場合もある。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 訳読担当時の取り組み:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

**テキスト / Textbooks**

ハンドアウトを配布する。

**参考文献 / Readings**

# 英語文献講読 1

Intensive English Reading 1

現代語訳 Sir Gawain and the Green Knight を読む。

貝塚 泰幸 (KAITSUKA YASUYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL371

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART2413

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 履修にあたっては IELTS5.5 程度の英語力が求められる。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、中世英詩『ガウェインと緑の騎士』の現代英語訳を複数比較しながら、文学作品をさまざまな視点から読むことができるようになることを目標とする。またテキストで使用される語彙や表現だけでなく、この作品の背後にある社会や文化、歴史、道徳的な価値観について理解を深める。

The aim of this course is for students to enjoy reading the literature from different perspectives through comparing some modern English translations of Sir Gawain and the Green Knight. And they will not only deepen their understanding of the vocabulary and expressions used in the translations, but also of the social, cultural, historical and ethical background on which the poem rests.

## 授業の内容 / Course Contents

14 世紀英語で著された Sir Gawain and the Green Knight には複数の現代語訳がある。それらは、その訳者の「解釈を反映した作品」と捉えることができる。複数の現代語訳を参照しながらひとつの作品を読むことで、現代の研究者たちがその作品をどのように解釈したのか、また作品にはどのような解釈の問題があるの

か、考えていく。そして特に複数の解釈がある箇所については、批判的な視点で英文を読みながらクラス全体で議論をして理解を深める。

なお、授業の進度はクラスの状態等により変更する場合もある。

14th-century English poem Sir Gawain and the Green Knight has modern English translations. They can be regarded as "the interpretative works of translators" in the sense that the translators reflect their own interpretation of the work in their renderings. Comparing some translations of the poem, student will learn how the translators read the work and what problems in interpretation or translation of the work there are. Where there are more than one interpretation, the point will be discussed in class with a critical viewpoint to deepen our understanding of both the translators' readings and the work itself.

The progress of the class may be subject to change due to class conditions and other factors.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：教科書および参考文献の紹介・授業の進め方および成績評価の方法の説明
- 2 回：文献精読とテキスト比較・考察（1）
- 3 回：文献精読とテキスト比較・考察（2）
- 4 回：文献精読とテキスト比較・考察（3）
- 5 回：文献精読とテキスト比較・考察（4）
- 6 回：文献精読とテキスト比較・考察（5）
- 7 回：文献精読とテキスト比較・考察（6）
- 8 回：文献精読とテキスト比較・考察（7）
- 9 回：文献精読とテキスト比較・考察（8）
- 10 回：文献精読とテキスト比較・考察（9）
- 11 回：文献精読とテキスト比較・考察（10）
- 12 回：文献精読とテキスト比較・考察（11）
- 13 回：文献精読とテキスト比較・考察（12）
- 14 回：David Lowery 版 The Green Knight 鑑賞

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で担当者を決めるので、担当者は文法や解釈・内容に関する疑問点をまとめたレジュメを用意すること。授業では担当者だけでなく、全員に発言する機会を設ける。したがって、すべての学生がテキストを熟読し、翻訳者たちの解釈や主張に対する各自の意見を示せるよう準備をした上で、授業に臨むことが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度（レジュメ提出・授業内での発言など）:60%

最終レポート

割合：40%

欠席回数が授業全体の3分の1を超えた場合は成績評価の対象外とする。

#### テキスト/ Textbooks

Bernard O'Donoghue Sir Gawain and the Green Knight Penguin Books 2006 -

初回の授業で指示する。

#### 参考文献 / Readings

Simon Armitage Sir Gawain and the Green Knight Faber and Faber 2007

Alan Lupack and J. K. Jackson Sir Gawain and the Green Knight Flame Tree 451 2023

Burton Raffel Sir Gawain and the Green Knight Signet 1970

J.R.R. Tolkien Sir Gawain and the Green Knight, Pearl and Sir Orfeo Houghton Mifflin 1975

初回の授業で説明する。

#### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・自らの意見を授業内で発信できる積極性が必要。



# Japan in Asian Context

Japan in Asian Context

Transnational Pop Cultural Flows in East and Southeast Asia: From Cool Japan to Korean Wave and Thai Numa Phenomenon

石川 R. (ISHIKAWA RUJIRAT)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL391
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART3201
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	GLAP 併置科目（英語による授業）
履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる	

## 授業の目標 / Course Objectives

- To develop a deeper understanding of the East and Southeast Asian popular culture in the globalization contexts
- To gain an awareness of the roots and expansion of popular culture in daily life
- To learn about soft power and the creative industry in East and Southeast Asia regions
- To develop an analytical skill employing personal experience
- To develop critical thinking about globalization, localization, and hybridization of the Asian popular culture

## 授業の内容 / Course Contents

This course focuses on East and Southeast Asian popular culture in the context of cultural globalization to understand the role of cultural flows within Asia and the world. We will focus on three phenomena: Cool Japan, Korean Wave (ex., K-Pop, K-Drama), and Thai Numa (Thai BL drama in Japan). We will examine different

aspects of Asian popular culture, including television drama, music, manga, etc. Students will explore Asian popular culture by analyzing personal experiences. We will also look at all stakeholders, including fans and government roles in expanding Asian popular culture. This course will conduct a series of workshops to encourage discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Class Introduction
- 2回：Cool Japan at a glance
- 3回：Workshop: Cool Japan Mindmap
- 4回：Workshop Presentation: Cool Japan Mindmap
- 5回：Group Work: Japanese traditional fan culture
- 6回：Group Work Presentation: Japanese traditional fan culture
- 7回：Lecture: Soft Power, Globalization, Localization, Hybridization①; discussion
- 8回：Lecture: Soft Power, Globalization, Localization, Hybridization②; discussion
- 9回：Lecture: Korean Wave in Japan and the World / Chinese Popular Culture: A Drastic Change / Thai Numa  
Fieldwork Preparation: Korean Wave in Japan
- 10回：Fieldwork: Korean Wave in Japan
- 11回：Fieldwork Report: Korean Wave in Japan
- 12回：Final Presentation Preparation Week
- 13回：Final Presentation for Research Project I
- 14回：Final Presentation for Research Project II

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. Prepare for a presentation and discussion for the assignment
2. Read the assigned article (detailed information will be provided in class)

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participating in the class discussion; In-class presentation; Weekly quiz:50% Fieldwork report and presentation:20% Final report and presentation:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

John A. Lent and Lorna Fitzsimmons Asian popular culture : new, hybrid, and alternate media Lexington Books 1995 9781498503587

William M. Tsutsui Japanese Popular Culture and Globalization Assn for Asian Studies Inc; 2010 0924304626

### その他 / Others

This course strongly encourages and welcomes open communication. Questions and discussion in the classroom

will also be a central part of teaching. Many topics in the class will be explored through in-class discussions and activities related to assigned r

# Traditional Arts in Japan

Traditional Arts in Japan

Japanese Woodblock Prints in Context

ウィットカム (WITKAM FRANK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL392

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART3201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： GLAP 併置科目（英語による授業）

履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる

## 授業の目標 / Course Objectives

- Students develop an understanding of the diverse roles of Japanese woodblock prints in their historical and cultural contexts
- Students become familiar with the visual analysis of Japanese woodblock prints
- Students acquire the ability to read and assess academic texts related to the field for conducting their own research

## 授業の内容 / Course Contents

Woodblock prints were an essential part of the lives of people in early modern Japan. How did these prints impact people's thoughts and understanding of their place in society? How did people engage with prints and for what purposes? This course examines prints, printed books and broadsheets, showing diverse subjects such as actors, foreigners, catfish and firefighters from the 17th to the 19th century. The course aims to highlight the social and cultural significance of prints while addressing their wider aesthetic development in early modern Japanese

culture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction I (context)
- 2 回：Introduction II (analysis)
- 3 回：Print topics: The Floating World
- 4 回：Print topics: Actors
- 5 回：Print topics: Firefighters
- 6 回：Print topics: Landscapes
- 7 回：Print topics: Foreigners
- 8 回：Print topics: Catfish
- 9 回：Print topics: News
- 10 回：Print topics: Satire
- 11 回：Hand-on session I
- 12 回：Hands-on session II
- 13 回：Museum visit
- 14 回：Final assignment

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Weekly readings

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation in class:40% Class assignments:30% Final assignment:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# Postmodern Turn in Japanese Arts

Postmodern Turn in Japanese Arts

Postmodern Turn in Japanese Arts

カラスコ ララ (CARRASCO LALA A.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL393

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART3201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： GLAP 併置科目（英語による授業）

履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる

## 授業の目標 / Course Objectives

Differentiate between modernity and postmodernity

-Think critically about what culture and art entails

-Identify the political and historical contexts of different art movements from the 20th to the 21st century and how they impacted Japan

-Learn how to analyze visual form and think critically

-Recognize major art movements, events and artists from Japan

-Understand the exchanges and connections in the art world beyond the neatly defined borders and linguistic groups

-Discern the relation between politics and aesthetics

-Compare the processes of modern and contemporary art in different latitudes

## 授業の内容 / Course Contents

What is “modernity” and “postmodernity” and how do such concepts help us navigate the art world? In this course we will explore various cultural manifestations that will help us to think critically about these concepts. Especially looking beyond the standard narrative that focuses on the West. Using Japan as a departure point and taking on a transcultural view, we will examine its role as a place of exchange, connection, and creation, particularly in the post-war period and the beginning of the 21st century. We will maintain a thematic structure that will allow us to look at specific art movements and events that helped shape modernity and postmodernity in the context of Japan, while emphasizing their impact in a wider cultural, linguistic and geographic context. We will examine the work of prominent scholars that have theorized modernity and the transition or the juxtaposition to the “postmodern condition”.

The course will challenge you to critique the notion of ‘art’ and what constitutes the modern and the contemporary in culture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

2 回：Mapping Modernity

Readings: Excerpts from: Osborne, Peter, *The Politics of Time Modernity and Avant-Garde*, Verso, 2010.

Adorno, Theodor & Horkheimer, Max, *Dialectics of Enlightenment*, Verso, 1997.

3 回：Modernity in Japan (special guest lecturer)

Readings: TBA

4 回：Modernity and Aesthetics in Japan

Readings: Excerpts from: Sato, Doshi, *Modern Japanese Art and the Meiji State: The Politics of Beauty*, Getty, 2011

Marra, Michele, *Modern Japanese Aesthetics: a reader*, University of Hawaii Press, 2001.

5 回：Japanese Cultural Identity in Modern Art

Readings: Excerpts from: Mostow, Joshua, Norman, Bryson, et al., *Gender and Power in the Japanese Visual Field*, University of Hawaii Press, 2003.

Winther-Tamaki, Bert, *Maximum Embodiment: Yoga, the Western Paintin*

6 回：Towards a Postmodern Turn (?)

Readings: Excerpts from: Jameson, Frederic, *Postmodernism, or the Cultural Logic of Late Capitalism*, Verso, 1992.

Ivy, Marilyn, *Discourses of the Vanishing*, University of Chicago Press, 1997.

7 回：The Japanese Postmodern in Western Eyes

Reading: Guattari, Félix, *Machinic Eros: Writings on Japan*, Univocal, 2015.

TBA

8 回：Postmodernity Art and Subculture

Readings: Murakami, Takashi, *Little Boy: The Arts of Japan’s Exploding Subculture*, Yale University Press, 2005.

TBA

9 回：Postmodernity, Gender, Japan and the Posthuman

Reading: Haraway, Donna, *A Cyborg Manifesto*, *Socialist Review*, 1985.

Excerpts from: Lamarre, Thomas, *The Anime Machine: a media theory of animation*, University of Minnesota Press, 2009.

Movie: Mamoru Oshii, *G*

10 回：Queer Art and the Postmodern Condition, Yasumasa Morimura and the Pastiche

Readings: Brandes, Kerstin, Morimura/Duchamp: Image Recycling and Parody, Edinburg University Press, 2003.

TBA

11 回：Queer Art 2 (Special guest lecturer)

Reading: TBA

12 回：Blurring the Realm Between Subculture and Fine Arts: Nara, Murakami, Aida & Chim/Pom

Readings: Excerpts from: Murakami, Takashi, Superflat, Last Gasp, 2003.

Excerpts from: Aida, Makoto, MONUMENT FOR NOTHING: Tensai De Gomen Nasai, SEIGENSHA Art Publishin

13 回：Pop Culture, the State and Cultural Identity

TBA

14 回：Wrap up Session

\*\*Submission of the final paper \*\*

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

A minimum of two hour of 'Outside-Class' individual study is expected for each session.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reading responses:50% Final essay:30% attendance and participation:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings



# Development of Gender Studies

Development of Gender Studies

Performing Femininities Onscreen

ナジコーニ (NAZZICONE MARIA J.R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL394

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART3201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： GLAP 併置科目（英語による授業）

履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる

## 授業の目標 / Course Objectives

- Critically analyze the ways gender and femininity are framed and performed in Japanese films, with attention to cinematic style and content, as well as to the socio-historical circumstances that inform them
- Become familiar with critical approaches to gender, and inquire what the variety and performance of different femininities can reveal about, among other things, media production and reception, social and regional politics

## 授業の内容 / Course Contents

This course examines several different ways that gender -- with particular focus on, but not limited to femininity -- has been imagined, promoted, and challenged in Japanese films. By paying close attention to the myriad ways that gender and femininity have been conceptualized, established, and received, we will explore key questions such as: what kinds of bodies, lifestyles, or spaces are associated with these femininities? How have socio-historical factors impacted not only the construction of gender roles and identities, but also cinema's capacity to contribute or comment on them? For example, how does a film or genre's presentation of certain types of

femininity define the ways that media, and more broadly, the ways things marked “feminine,” are received by the general public? In grappling with these questions, we will consider what the multiple shifts in such representation might mean for our broader understanding of gender, media, society, and history. We will begin by looking at critical frameworks for thinking through gender and femininity, their many expressions and modes of circulation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Thinking through “Performance” and “Femininity”
- 3 回：Going My Way? The Modern Girl and the Trappings of Convention
- 4 回：“A Dream Night”: Perfecting the Exotic, Feminine Other
- 5 回：One for All: Femininity, Pathos, and Memory
- 6 回：In the Fast Lane: Re-Figuring Femininity for a New Generation
- 7 回：Theatre of Femininities: Boundary-Crossings in Performance and Parody
- 8 回：In Full Bloom: Coding Gendered Behaviour, Desires, and Fantasies
- 9 回：Suburban Dreaming: Re-Visiting Aspirations and Gendered Roles of the "Family Home"
- 10 回：Discover the Girlscape: Charting New Spaces and Aesthetics in Marketing and Media
- 11 回：Me-Me-Me-Mania: Performing Self/Selves in the Public/Private
- 12 回：In One’s Own Skin: Identity, Belonging, and Sartorial Subcultures
- 13 回：Winding Roads: Navigating Memory and Performance
- 14 回：Conclusions & Student Presentations

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to come to class having completed the assigned viewings and readings for the week, prepared to discuss them. Students will also be required to submit weekly responses to the weekly materials on the course’s discussion board.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:30% Weekly Responses:30% In-Class Presentations:15%

最終レポート割合 :25%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

Course materials will be made available through the course website.

### その他 / Others

- Class attendance is mandatory. If you know you will be absent, especially on a day that assignments are due, please be sure to notify and make arrangements with the instructor in advance.
- Students are expected to submit all assignments on time. Late w

# Intellectual History of Japan

Intellectual History of Japan

キヴァニー クリストファー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL395
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART3201
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	GLAP 併置科目（英語による授業）
履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる	

## 授業の目標 / Course Objectives

- To become familiar with major trends and figures in Japan's intellectual history
- To read critically primary sources from Japan's intellectual, social, and cultural history in English translation
- To consider the construction of Nihonjinron discourse as an oppositional response to Western models of modernity

## 授業の内容 / Course Contents

Japan's intellectual history is a product of both its traditional relations with East Asian neighbors and its engagement with the West following the Meiji restoration. In this course we will explore the Edo period foundations of Japan's modern intellectual history and we will then examine the century-long dialogue between Japanese intellectuals and international schools of thought and trends and examine how Japanese intellectuals sought to formulate the problematic of a non-Western modernity which came to influence the modern intellectual histories of Japanese neighbors as well. We will examine both academic and popular intellectual, social, and cultural trends and also will consider the development and role of Nihonjinron discourse in modern

Japan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Traditional Cultural Relations in East Asia: Prince Shōtoku and the Foundations of Japanese Thought
- 2 回：Heian Japan and the Cult of Aesthetics
- 3 回：Edo Intellectual Currents: National Learning, Chinese Learning, and Dutch Learning
- 4 回：Meiji Japan and Bunmei kaika
- 5 回：Uchimura Kanzō and Christian Socialism
- 6 回：Taishō Democracy and Taishō Liberalism
- 7 回：Militarist Period and Nihonjinron
- 8 回：Postwar Japan and the Occupation Reforms; Marxism
- 9 回：Postwar Liberalism
- 10 回：The Sixties and the Student Movement
- 11 回：1980s Economic Miracle and the Changing Family
- 12 回：Religions, New Religions and the Crisis of Faith
- 13 回：Neo-Conservatism and Heterodox Voices in Japan
- 14 回：Final student presentations about research project

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the weekly reading and submit the weekly reading response via the Canvas course site. They will come to class prepared to discuss the reading. Students will also produce one analysis paper outside of class. The instructor will provide feedback to student's written assignments.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Reading Responses:30% Research Paper:30% In-class Presentations:10%

Students are expected to attend every class session. Students who miss more than four class sessions will receive no credit for the "Class Participation and Attendance" evaluation category.

### テキスト / Textbooks

No textbook is required. Weekly readings will be distributed in electronic form on the Canvas course page.

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

- The Canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.
- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures accompanied by Powerpoint slid

# Christianity in Japan

Christianity in Japan

Literary, Theological, and Critical Perspectives

シュウェマー (SCHWEMMER PATRICK R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL396

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART3201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 定員 10 名 GLAP 併置科目（英語による授業）

履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる

## 授業の目標 / Course Objectives

Students will gain knowledge of historical events, literary texts, and critical issues related to Christianity in Japan, from the sixteenth-century mission to the modern day. Class lectures, weekly short response posts, and a short research paper at the end of term will develop related academic skills.

## 授業の内容 / Course Contents

Each class session will be centered on a reading selection (in English, with Japanese originals also available in some cases), and students will submit short responses (one paragraph) on Canvas LMS. Lectures will discuss each reading, in dialogue with students' response essays. One short final paper (1000 words) on a topic of interest from the class is due at the end of term.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： European mission documents (late 1500s)

2 回： Two fragments of medieval Japanese Christian literature (1591)

- 3 回：The Tenshō Embassy in Tuscany (1580s)  
 4 回：Fucan Fabian for and against (1605, 1620)  
 5 回：An Anti-Christian Storybook (1610s)  
 6 回：Confessions of apostate missionary Cristovão Ferreira (1636)  
 7 回：A Secret Book of the Kakure Kirishitan (confiscated 1870s)  
 8 回：Mitsuki the Christian Sorceress of Osaka (1820s)  
 9 回：Christianity and the birth of State Shintō  
 10 回：Niijima Jō and Uchimura Kanzō  
 11 回：Nitobe Inazō, Bushidō  
 12 回：Karatani Kōjin, “Confession as a System,” The Origins of Modern Japanese Literature  
 13 回：Ariyoshi Sawako, “Village of Eguchi”  
 14 回：Endō Shūsaku, “Mothers”

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will read each week's assigned reading and submit short (one paragraph) response notes either on the online class bulletin board or by email. A short (1000 words) final paper in English is due at the end of term.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    Class Participation:30%    Short Responses:30%    最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

# Japanese Literature in the World

Japanese Literature in the World

Navigating Space and Language in Modern Japanese Literature

ナジコーニ (NAZZICONE MARIA J.R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL397

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART3201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 定員 10 名 GLAP 併置科目（英語による授業）

履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる

## 授業の目標 / Course Objectives

- Learn critical approaches to literature, not only in terms of style or thematics, but also as both a product of and response to socio-historical developments
- Use concepts of space and language as lenses for analyzing how “modern Japanese literature,” along with its constituent terms, has been defined and challenged
- Situate literature in global movements of people, technologies, and culture, and trace the mutually impacting ties between Japanese literature and the world

## 授業の内容 / Course Contents

This course uses space and language – as theoretical concepts, as literary themes or motifs, as physical aspects – to explore key questions about modern Japanese literature and its relationships with the world. How, for example, does the use of certain languages create or challenge spaces of readership for Japanese literature, both domestically and abroad? How does the representation or use of space(s), both within Japan and without,

inform our understanding of what constitutes modern Japanese literature? What can conceptualizations of “modern Japanese literature,” as shaped by space and language, tell us not only about Japanese socio-cultural history, but also about more general conditions of cultural production, translation, and reception? In tackling these questions, we will consider the many different ways that people encounter Japanese literature, and how such encounters can impact our ideas about a national literary canon.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Mori Ōgai and the Issue of Modern Literature
- 3 回：Sentiment and Self-Definition in the Modern Cityscape
- 4 回：There and Back Again: Traversing Spaces with Miyazawa Kenji
- 5 回：Tanizaki Jun'ichirō and the Aesthetics of Modernity
- 6 回：Avant-Garde Allegories with Abe Kōbō
- 7 回：A Place of Her Own: Politics and Satire in Post-Modern Literature
- 8 回：Up Close and Personal: Yoshimoto Banana and “Commodity Fiction”
- 9 回：Transmedia Storytelling and Global Flows of Culture
- 10 回：New Scripts and Platforms: The Author and Literature in the Digital Age
- 11 回：Kawakami Mieko and New Languages for Contemporary Life
- 12 回：Japanese Literature in the Age of English
- 13 回：Journeys between Languages: Tawada Yōko and A Dream of Multilingual Poetry
- 14 回：Conclusions & Student Presentations

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to come to class having completed the assigned readings for the week, and be prepared to discuss them. Students will also be required to submit weekly responses to the readings on the course's discussion board.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class participation:30% Weekly responses:30% In-class presentations:15% 最  
終レポート割合：25%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

Course readings will be made available through the course website.

### その他 / Others

- Class attendance is mandatory. If you know you will be absent, especially on a day that assignments are due, please be sure to notify and make arrangements with the instructor in advance.
- Students are expected to submit all assignments on time. Late w



# Rethinking European Literatures

Rethinking European Literatures

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AL398
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ART3201
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	定員 10 名 GLAP 併置科目（英語による授業）
履修にあたっては IELTS6.0 程度の英語力が求められる	

## 授業の目標 / Course Objectives

Probably because of their universal themes, each of the texts studied in this course continue to resonate with readers generation after generation. In this course students will study a modern novel, a play and a selection of poetry by each of three 'European' writers. The demands of this course will enhance students' ability to analyze and discuss the key issues dealt with in the texts studied. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form before coming to class. They will also write an essay of 1,200-1,500 words on one of the writers studied on the course.

## 授業の内容 / Course Contents

W. B. Yeats belonged to the protestant, Anglo-Irish minority that controlled Ireland since at least the end of the 17th century, but always staunchly affirmed his Irish nationality. Although he lived in London for 14 years of his childhood, Yeats maintained his Irish cultural roots, featuring Irish legends and heroes in many of his poems and plays. Yeats's fellow Dubliner Oscar Wilde lived a life that was in many ways as colorful and dramatic as those of the characters in his plays. Salome (1893) is Wilde's French play par excellence. He wrote the script

directly in French, during a prolonged stay in Paris at the end of 1891. In *Salome*, Wilde retells a well-known biblical story of an icon of revenge - the daughter of Herodias. The novel on this course, *Heart of darkness*, was written by Joseph Conrad, born in Berdichev, Ukraine to Polish parents. *Heart of Darkness* brought attention to the barbarity of Belgian colonial control of central Africa established in the 1880s to exploit the region.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Poetry: Introduction to the life and poetry of W. B. Yeats
- 2回：Poetry: Yeats "September 1913" (1913)
- 3回：Poetry: Yeats "Easter, 1916" (1916), part one
- 4回：Poetry: Yeats "Easter, 1916" (1916), part two
- 5回：Novel: Conrad, *Heart of Darkness* (1899), Part one
- 6回：Novel: Conrad, *Heart of Darkness* (1899), Part two
- 7回：Novel: Conrad, *Heart of Darkness* (1899), Part three
- 8回：Novel: Conrad, *Heart of Darkness* (1899), Part four
- 9回：Novel: Conrad, *Heart of Darkness* (1899), Part five
- 10回：Novel: Conrad, *Heart of Darkness* (1899), Part six
- 11回：Play: Wilde, *Salome* (1893), Part one, Out on the Terrace
- 12回：Play: Wilde, *Salome* (1893), Part two, Salome Meets Iokanaan
- 13回：Play: Wilde, *Salome* (1893), Part three, Herod Crosses the Line
- 14回：Play: Wilde, *Salome* (1893), Part four, Salome's Revenge

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation in class discussions:30% Completion of homework:30% Essay:40%

### テキスト / Textbooks

Joseph Conrad *Heart of Darkness* Kenkyusha Tokyo 2022 9784327010126 ○

Oscar Wilde *Salome* Kenkyusha Tokyo 2022 9784327010676 ○

Students must purchase the two course textbooks.

### 参考文献 / Readings

Richard J. Finneran (ed.) *The Collected Poems of W. B. Yeats*, revised second edition Scribner 1996 13 9780684807317

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

### その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.

# 宗教思想 1

Religious Thought 1

キリスト教と「知」

岩田 成就 (IWATA SHIGENARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL411

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程履修者専用 科目コード登録

## 授業の目標 / Course Objectives

現代の知の源泉である近代科学が登場してきた 17～19 世紀の西欧思想を振り返り、そこにおいて宗教の問題がどう考えられてきたかをたどることで、今日の人間が宗教、あるいは信仰の問題とどう向き合うべきかを考える。

By looking back at Western thought since the 17th century, when modern science, the source of modern knowledge, emerged, and by tracing how the issue of religion has been considered in Western thought, we will consider how people today should deal with the issue of religion or faith.

## 授業の内容 / Course Contents

17 世紀から 19 世紀までの西欧の思想家を原則として 1 回に一人ずつ取り上げ、その宗教理解を中心に紹介する。

In general, each session will take up one Western European thinker at a time from the 17th to the 19th century, and will primarily introduce the individual's religious understanding.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：近代科学とキリスト教
- 3回：デカルト：理性の根拠としての神
- 4回：スピノザ：永遠の相のもとに
- 5回：パスカル：理性と信仰
- 6回：ロック：経験と信仰
- 7回：カント：理性の限界と神の要請
- 8回：シュライアマッハー：聖なるものの感情
- 9回：ヘーゲル：歴史を導く神
- 10回：フォイエルバッハ：投影としての神
- 11回：マルクス：イデオロギーとしての宗教
- 12回：ニーチェ：神の死
- 13回：キルケゴール：実存と信仰
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

取り上げる思想家の著作や関連する文献を多く紹介するので、各自が興味をもったものを実際に読み、理解を深めていていただきたい。また、毎回の授業で問いが設定され、授業はその問いにそって展開されるので、授業後に各自この問いに対する答えを作成しておくポイントがつかみやすい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

成績評価については、最初の授業で詳しく説明するので必ず出席のこと。

#### テキスト / Textbooks

使用しない。「Canvas LMS」を使って毎回プリントを配布する。あらかじめダウンロードして授業にのぞむこと。

#### 参考文献 / Readings

授業の中で詳しく紹介する。

#### その他 / Others

この講義内容の漫画化を試みています。

[https://note.com/bright\\_elk820/](https://note.com/bright_elk820/)

#### 注意事項（検索結果画面）

教職課程登録者用コード

## 宗教思想 2

Religious Thought 2

欧米のキリスト教

岩田 成就 (IWATA SHIGENARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL412

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程履修者専用 科目コード登録

### 授業の目標 / Course Objectives

20 世紀の西欧思想が、神の問題、宗教の問題をどう考えたかをみることで、今日の人間にとって宗教と何か、宗教、あるいは信仰の問題とどう向き合うべきかを考える。

How can today's humanity, which has advanced into outer space, deciphered the genome, and developed the Internet and AI technology, think about the issue of God and the meaning of human life? By looking at how Western thought in the 20th century considered the problem of God and the problem of religion, we will consider what religion means to people today and how we should deal with the problem of religion or faith.

### 授業の内容 / Course Contents

「神なき時代」と言われる現代において、欧米の思想家たちは宗教や信仰の問題をどのように考えてきたのか。20 世紀以降の思想家を数人取り上げ、その宗教思想を中心に紹介する。

In a modern age that has been called "a Godless age," how have Western thinkers approached questions of religion and faith? The course will take up and introduce several thinkers from the 20th century and later, focusing on their religious ideas.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：ヤスパース：限界状況
- 3回：ヤスパース2：哲学的信仰
- 4回：ハイデッガー1：死へ向かう存在
- 5回：ハイデッガー2：存在の神秘
- 6回：レヴィナス：他者としての神
- 7回：ベルグソン：閉じた宗教から開かれた宗教へ
- 8回：フロイト：幻想としての宗教
- 9回：ユング：集合無意識としての宗教
- 10回：バタイユ：エロティシズムと宗教
- 11回：ウィトゲンシュタイン：言語ゲームとしての宗教
- 12回：デリダ：キリスト教の脱構築
- 13回：リクール1：象徴は思考を促す
- 14回：リクール2：宗教批判を超えて

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

思想家の著作や関連する文献を多く紹介するので、各自が興味をもったものを自分で読み、理解を深めていっていただきたい。また、毎回の授業で問いが設定され、授業はその問いにそって展開されるので、授業後に各自この問いに対する答えを作成しておくポイントがつかみやすい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

成績評価については、最初の授業で詳しく説明するので必ず出席のこと。

**テキスト / Textbooks**

使用しない。「立教時間」を使って毎回プリントを配布するので、各自ダウンロードして授業にのぞむこと。

**参考文献 / Readings**

授業で詳しく紹介する。

**その他 / Others**

この講義の漫画化を試みています。「哲学者の神 [https://note.com/bright\\_elk820/](https://note.com/bright_elk820/)

**注意事項（検索結果画面）**

教職課程登録者用コード

# 倫理思想

Introduction to Ethics

21 世紀の人権問題

柳堀 素雅子 (YANAGIBORI SUGAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL413

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ART1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 教職課程履修者専用 科目コード登録

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、現代の生殖補助医療の問題、出生前診断の問題、遺伝子操作の問題、LGBTQ の問題、ジェンダーの

問題、フェミニズムの問題などを取り扱っていく。マイノリティーの権利が中心的な問題になる。

The goals of this course are to deal with issues related to modern reproductive medicine, prenatal diagnosis, genetic manipulation, LGBTQ issues, gender issues, feminism, and other issues.

Minority rights will be the central issues.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代の生殖補助医療の問題、出生前診断の問題、遺伝子操作の問題、LGBTQ の問題、ジェンダーの

問題、フェミニズムの問題を学びます。日本国内だけでなく、海外の状況も視野に入れて話し合います。最終的

には、日本と欧米におけるバイオエシックスのあり方の相違と性的マイノリティーの問題の相違点を理解しま

す。

This course deals with issues related to modern reproductive medicine, prenatal diagnosis, genetic manipulation, LGBTQ issues, gender issues, feminism.

We will discuss not only the situation in Japan but also the situation overseas.

At the end of course are to understand the difference in Bioethics and sexual minority issues between Japan and Western.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：LGBTQ問題についての正しい理解について
- 2回：LGBTQ問題についての日本と海外の比較
- 3回：トランスジェンダー問題について
- 4回：LGBTQ問題についての日本の教育現場の状況
- 5回：LGBTQ問題についてのグループ討論
- 6回：フェミニズムとLGBTQの問題
- 7回：バイオエシックスの成立とその意義について
- 8回：生命誕生をめぐるバイオエシックスの諸問題について
- 9回：生命倫理と優生学について
- 10回：出生前診断をめぐる諸問題について
- 11回：グループ討論
- 12回：生命倫理教育と日本の教育
- 13回：日本の将来をめぐるグループ討論
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に、当日の資料を Web 上で公開しますので、あらかじめ予習しておくとう理解しやすいです。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート（複数回）:60% リアクションペーパーの内容:20% グループ討論の内容:20%

単位取得には、80%以上の出席が必要です。

### テキスト / Textbooks

使用しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて、その都度豊富な文献を紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

資料を読んだり、DVD を視聴したあとに、何が問題点なのかを分析する能力が求められます。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare



パソコンが必要です。

**その他/ Others**

毎回、出席状況を調べます。単位取得には 80%以上の出席が必要です。

**注意事項（検索結果画面）**

教職課程登録者用コード

# 海外フィールドスタディ<1. 海外EAP>

International Field Study 1

English for Academic Purposes (EAP): Oxford University Study-Abroad Programme

小山 太一／小南 悠／鈴木 孫和 (KOYAMA TAICHI/ KOMINAMI YU/ SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL521

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 4

科目ナンバリング： ART2833

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

事前指導の後、夏休みの約 3 週間、言語表現・異文化対応・現地調査などの基本能力を現地で涵養する。帰国後、その成果を事後指導の際に英語で発表する。

Following pre-departure instruction (at Rikkyo University), students will spend about 3 weeks during summer vacation on-site (at Hertford College, University of Oxford), cultivating basic capabilities such as language expression, cross cultural adaption, and field investigation. After returning to Japan, students will present their findings in English during follow-up instruction.

## 授業の内容 / Course Contents

参加者は事前指導（研究準備指導、英語学習指導、渡航手続の説明）を受けた後、各自の研究テーマをもって現地研修を受け、最終レポートを作成する。現地研修は、イギリスの英語教育機関 'Advanced English and British Culture Programme' により運営され、オックスフォード大学ハートフォード・カレッジで実施される。但し定員が 30 名（最少催行人数は 12 名）なので、希望に沿えない場合がある。

After receiving prior instruction (research preparation instruction, English language learning instruction, and

explanation of travel procedures), participants will receive on-site training on their own research themes and will create final reports. On-site training will take place at Hertford College, University of Oxford, which is operated by the British English-language education institute Advanced English and British Culture Programme. As capacity is limited to 30 people (with 12 people as the minimum for holding the program), it may not be possible to accommodate all students.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：説明会：1 回目「履修希望届」「出願理由書」等の配布。
- 2 回：説明会：2 回目「履修希望届」「出願理由書」等の配布。
- 3 回：希望届・理由書の提出  
履修者発表
- 4 回：第 1 回事前指導
- 5 回：第 2 回事前指導
- 6 回：第 3 回事前指導
- 7 回：第 4 回事前指導
- 8 回：現地研修
- 9 回：現地研修
- 10 回：現地研修
- 11 回：現地研修
- 12 回：現地研修
- 13 回：現地研修
- 14 回：現地研修
- 15 回：現地研修
- 16 回：現地研修
- 17 回：現地研修
- 18 回：現地研修
- 19 回：現地研修
- 20 回：現地研修
- 21 回：現地研修
- 22 回：現地研修
- 23 回：現地研修
- 24 回：現地研修
- 25 回：現地研修
- 26 回：現地研修終了（終了後、英文エッセイを提出）
- 27 回：第 1 回事後指導
- 28 回：第 2 回事後指導

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

必ず4月初めのガイダンスに出席すること。初回の事前指導日から現地研修の終了日まで、英文エッセイの提出が義務づけられる。詳細はガイダンスで説明する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前指導・事後指導:30% 現地研修:40% 英文エッセイ:30%

**テキスト / Textbooks**

Mary Page and Carrie Winstanley Writing Essays for Dummies Wiley 2012 9780470742907 ○

**参考文献 / Readings**

参考文献は必要に応じて事前指導時に紹介する。

**その他 / Others**

費用は、授業料、渡航・宿泊費など総計111万円程度（為替や燃油代による変動あり）。旅行手配等は業者が行う。履修にあたっては、費用について保証人とよく話し合う必要がある。

# 海外フィールドスタディ<2. 海外ASD>

International Field Study 2

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AL522  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年他  
単位： 4  
科目ナンバリング： ART2833  
使用言語： その他  
授業形式： 実習  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

夏休みの約 4 週間、言語表現能力、異文化対応能力、現地調査能力の基本を現地で涵養する。

Students will spend about 4 weeks during summer vacation on-site, cultivating basic capabilities such as language expression, cross cultural adaption, and field investigation.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツのテュービンゲン大学での現地研修（8 月）および池袋キャンパスでの事前指導（春学期）・事後指導（秋学期）の授業から成る。芸術・音楽・歴史・文学・科学・生活文化などのトピックからそれぞれがリサーチで取り組むテーマをもって、このプログラムに参加する。

希望届・理由書の提出: 4 月 4 日(木)~4 月 8 日(月)

履修者発表: 4 月 11 日(木)

指導日程は R Guide などで告知する。

The class will consist of on-site training at the University of Tübingen in Germany (August) and pre-instruction (spring semester) and post-instruction (fall semester) at the Ikebukuro Campus. Students in the program will have themes of personal research on topics such as art, music, history, literature, science, and lifestyle culture.

The instruction schedule will be posted on the bulletin board of the College of Arts.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：説明会（4月4日（木）17:00-）「履修希望届」「出願理由書」等の配布
- 2回：事前指導
- 3回：事前指導
- 4回：事前指導
- 5回：事前指導
- 6回：現地研修
- 7回：現地研修
- 8回：現地研修
- 9回：現地研修
- 10回：現地研修
- 11回：現地研修
- 12回：現地研修
- 13回：現地研修
- 14回：現地研修
- 15回：現地研修
- 16回：現地研修
- 17回：現地研修
- 18回：現地研修
- 19回：現地研修
- 20回：現地研修
- 21回：現地研修
- 22回：現地研修
- 23回：現地研修
- 24回：現地研修
- 25回：現地研修
- 26回：現地研修
- 27回：現地研修
- 28回：事後指導

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:		

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

渡航・滞在費用（54万円程度）等についてはガイダンス時に詳細を知らせる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前指導・事後指導への出席・議論参加・口頭発表:20% 現地研修での修了証:50%

最終レポート割合：:30%

**テキスト/ Textbooks**

---

こちらで用意する。

**参考文献 / Readings**

---

適宜指示する。

**その他/ Others**

---

R Guideなどで最新の情報を確認すること。

## 海外フィールドスタディ<3. 海外SLV>

International Field Study 3

フランスでの語学研修

坂本 浩也／バレイユ, L. (SAKAMOTO HIROYA/ BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AL523

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋期間外

単位： 4

科目ナンバリング： ART2833

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

春休みの約 20 日間、言語表現能力、異文化対応能力、現地調査能力の基本を現地で涵養する。

Students will spend about 20 days during spring vacation on-site, cultivating basic capabilities such as language expression, cross cultural adaption, and field investigation.

### 授業の内容 / Course Contents

フランス、ヴィシー市の定評あるカヴィラム校での現地研修（2-3 月）と、池袋キャンパスでの事前指導・事後指導から成る。教材は、フランス語・文学・芸術など多岐にわたる。履修者各自が取り組むテーマを持ってプログラムに参加する。

The program will consist of on-site training at the renowned CAVILAM school in Vichy, France (February-March) and pre-instruction and post-instruction at the Ikebukuro Campus. Educational materials will be diverse, spanning French, literature, art, and more. Students will participate in the program with their own personal themes.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule



- 1回：【6月後半～7月に開催予定】説明会
- 2回：【日程は後日発表】履修希望届受付（学部事務1課窓口）
- 3回：【日程は後日発表】面接
- 4回：【日程は後日発表】履修者発表
- 5回：【日程は後日発表】事前指導1
- 6回：【日程は後日発表】事前指導2
- 7回：【日程は後日発表】事前指導3
- 8回：【日程は後日発表】渡航前オリエンテーション
- 9回：フランス現地研修
- 10回：フランス現地研修
- 11回：フランス現地研修
- 12回：フランス現地研修
- 13回：フランス現地研修
- 14回：フランス現地研修
- 15回：フランス現地研修
- 16回：フランス現地研修
- 17回：フランス現地研修
- 18回：フランス現地研修
- 19回：フランス現地研修
- 20回：フランス現地研修
- 21回：フランス現地研修
- 22回：フランス現地研修
- 23回：フランス現地研修
- 24回：フランス現地研修
- 25回：フランス現地研修
- 26回：フランス現地研修
- 27回：フランス現地研修
- 28回：【日程は後日発表】事後指導・課題提出

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

メールによって課題の情報などを知らせることがあるので、受講が決まったら、かならず立教メールを定期的にチェックすること。

なお、費用は64万円程度（予定、燃油サーチャージ等は含まない）。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート(Final Report):30% 事前指導・事後指導:30% 現地研修:40%

事前・事後のすべての授業への出席，現地研修での成績は必須条件です。

#### テキスト/ Textbooks

適宜配布する。

#### 参考文献 / Readings

阿南婦美代 『留学とホームステイのフランス語』 白水社 2014 4560086699

田中幸子・川合ジョルジェット 『フランス語で話す自分のこと日本のこと』 白水社 2017  
9784560087466

その他、適宜指示する。

#### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

現地研修に参加できる基本的なフランス語力（1年次の必修授業で学ぶ初級文法を理解し、会話表現を身につけていること）が必要です。

#### その他/ Others

4月のガイダンス時に紹介し、6月後半から7月にかけて説明会・募集を行う。

プログラムに変更がある場合は、研修時やメール等で適宜連絡を行う予定。

この科目は成績遅れ科目であり、2024年度秋学期卒業の要件単位とならないため、2024年度秋学期の在学期数が8学期以降の者については原則履修不可。

# 入門演習 B1a

Introductory Seminars B1a

アメリカ文学と弱者

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM011

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、他者に対する個人的かつ社会的な想像力を養うとともに、多文化世界がもたらす諸問題への理解を深める。

Through the intensive reading of literary texts, students will cultivate a personally/socially imaginative understanding of those who have different values and backgrounds from their own, thereby expanding their awareness of challenges confronted in a multicultural world.

## 授業の内容 / Course Contents

多文化主義に立脚するアメリカの文学が、社会的弱者をどのように表象しているのかを見極めるべく、下記の授業計画欄に記した6つのカテゴリーに注目し、計12人の作家／詩人を取り上げる。

あらかじめ指名された担当者チームは、授業日の4日前までに、担当作品の内容解釈に関する質問2つを用意する。受講者は全員、その質問のうちひとつを選び、授業日の前日までに Canvas LMS 経由で筆記回答をあらかじめ提出する。授業時には、担当者チームがレジュメを用意して、取り上げる作家／詩人を紹介し、作品の内容を要約（ただし詩の場合はどれか一編を和訳）したうえで、難解な英語表現には語注を付して解説す

る。その後、自分が選んだ質問に関するグループ・ディスカッションをおこなったのち、クラス全体で2つの質問に関する議論を行う。筆記回答については、次週授業時までには、担当教員が各受講者にコメントを返す。

また、毎週の授業とは別に、課題図書として、ヘミングウェイの『老人と海』を邦訳で読み、中間レポートを提出して頂く。

To examine the ways in which American literature, rooted in multiculturalism, represents social minorities, this course will focus on six categories outlined in the class schedule below, featuring a total of twelve writers and poets.

Assigned teams will prepare a couple of questions about interpretive possibilities of the assigned text 4 days prior to the class meeting, and class participants will answer one of the questions in written form on Canvas LMS by the day before the class meeting. During class hours, assigned teams will distribute handouts for the class containing a summary (or a selected Japanese translation in the case of poems) and detailed linguistic explications of the assigned text. Then, students will participate in a group discussion about one of the two questions, followed by a class debate about each question. Written answers to the questions will be returned to each student the following week with the instructor's comments.

Besides weekly assignments, students will be required to read and write an essay on Hemingway's *The Old Man and the Sea* in Japanese translation.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：人種を読む（1）
- 3回：人種を読む（2）
- 4回：エスニシティを読む（1）
- 5回：エスニシティを読む（2）
- 6回：階級を読む（1）
- 7回：階級を読む（2）
- 8回：ジェンダーを読む（1）
- 9回：ジェンダーを読む（2）
- 10回：セクシュアリティを読む（1）
- 11回：セクシュアリティを読む（2）
- 12回：動物を読む（1）
- 13回：動物を読む（2）
- 14回：課題図書読書会

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、全員、事前に作品テキストを精読し、疑問点を整理したうえで授業にのぞむこと（疑問は教室で共有して解決するので、疑問の答えは分からなくてよい）。なお、予習には、KOD（Kenkyusha Online Dictionary）の利用を推奨する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の筆記回答:30% 担当発表ならびに質疑・討論による授業参加:30% 課題図書中間レポート:40%

**テキスト / Textbooks**

ヘミングウェイ 『老人と海』 新潮文庫 2020 9784102100189 ○

**参考文献 / Readings**

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

# 入門演習 B1b

Introductory Seminars B1b

アメリカ短編小説を読む

小南 悠 (KOMINAMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカの短編作品の読解を通して、文学作品に関する自身の考察を組み立てる力を身に付ける。

Through a close reading of American short stories, students in this course will acquire the skill to interpret the literary texts in a scholarly way.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ短編小説を読んだうえで、各回の発表担当者が作成したハンドアウトを元に授業を行なう。あらすじと語学的な不明点の確認に加え、作品解釈に関する不明点や疑問点に基づき、クラス全体でディスカッションを行なう。

扱う作品は、20世紀から21世紀にかけてのアメリカ短編小説とする。

また、毎週の授業とは別に、課題図書を読み進め、それについてのレポートを作成する。

We will read American short stories. During class hours, assigned teams will distribute handouts for the class containing a summary and questions about the texts and the interpretation. We will participate in a discussion about them.

The works will be American short stories in the period from the 20th century to the 21st century.

Besides the class work, students will read an assigned text and submit an essay on it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・発表担当者の決定
- 2回：Sherwood Anderson, "Death in the Woods" を読む (1)
- 3回：Sherwood Anderson, "Death in the Woods" を読む (2)
- 4回：Sherwood Anderson, "Death in the Woods" を読む (3)
- 5回：Sherwood Anderson, "Death in the Woods" を読む (4)
- 6回：William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む (1)
- 7回：William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む (2)
- 8回：William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む (3)
- 9回：William Faulkner, "A Rose for Emily" を読む (4)
- 10回：Nana Kwame Adjei-Brenyah, "The Finkelstein 5" を読む (1)
- 11回：Nana Kwame Adjei-Brenyah, "The Finkelstein 5" を読む (2)
- 12回：Nana Kwame Adjei-Brenyah, "The Finkelstein 5" を読む (3)
- 13回：Nana Kwame Adjei-Brenyah, "The Finkelstein 5" を読む (4)
- 14回：課題図書についての読書会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、事前に辞書を使いながら作品を精読したうえで授業にのぞむこと。

また、授業内のディスカッションに備えて、予習時の疑問点や不明点を書き留めてくること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題図書レポート:40% 発表時の準備状況:30% 質疑・討論による授業貢献度:30%

### テキスト / Textbooks

フィッツジェラルド 『グレート・ギャツビー』 新潮文庫 1989 9784102063019 ○

授業内で読む作品はプリントで配布する。

### 参考文献 / Readings

翻訳・参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

### その他 / Others

毎回全員が参加する演習形式の授業であるため、特別な理由のない限り、毎回の出席を必須とする。

# 入門演習 B1c

Introductory Seminars B1c

イギリス・アイルランドの短編小説を読む

石川 太郎 (ISHIKAWA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、他者に対する個人的かつ社会的な想像力を養うとともに、多文化世界がもたらす諸問題への理解を深める。

Through the intensive reading of literary texts, students will develop a personally/socially imaginative understanding of those who have different values and backgrounds from their own, thereby broadening the knowledge of issues faced by the multicultural world.

## 授業の内容 / Course Contents

毎週、読み切りの形で、イギリス・アイルランドの短編小説を精読する。作品の選択にあたっては、文化、ジェンダーや人種・エスニシティの多様性にも配慮する。また、課題図書としてジョージ・オーウェル『動物農場』を読む。

Every week, we will read an English or Irish short story. Special attention will be given to the cultural diversity of chosen texts in terms of gender, race, and ethnicity.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクションならびに発表担当者の決定
- 2回：読解と議論
- 3回：読解と議論
- 4回：読解と議論
- 5回：読解と議論
- 6回：読解と議論
- 7回：読解と議論
- 8回：課題図書についての議論
- 9回：読解と議論
- 10回：読解と議論
- 11回：読解と議論
- 12回：読解と議論
- 13回：読解と議論
- 14回：全体のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎週、事前に作品テキストを精読して授業にのぞむこと。予習には、大学図書館のオンライン・データベースからアクセスできる KOD（Kenkyusha Online Dictionary）の利用を推奨する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 毎週の筆記回答:30% 担当発表ならびに質疑・討論による授業参加:30% 課題図書中間レポート:40%

**テキスト / Textbooks**

ジョージ・オーウェル／山形浩生 訳 『動物農場』 ハヤカワ epi 文庫 2017 4151200878 ○

**参考文献 / Readings**

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

**その他 / Others**

毎回全員が参加する形式の授業ですので、特別に理由のない限り、全回の出席が期待されます。やむをえず欠席する場合には、事前に（当日の午前中でもよいので）メールにて担当教員までご連絡をお願いします。

# 入門演習 B1d

Introductory Seminars B1d

イギリスの短編小説および詩を読む

猪熊 恵子 (INOKUMA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM014

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は以下の2つである。1) 授業で指定されるイギリスの短編作品を精読し、そのコンテキストや作家の語彙の選択について考え、分析する。2) 各学生が自らの読解や分析を他の履修者に分かりやすい言葉で説明し、みなで議論する。

最終的に、これらの議論を通じて、自らの読みや分析を相対化し、他者の読みや分析・解釈との関係性や違いについて考えられるようになってほしい。また、その過程で、読解対象の作品のみならず、読解主体としての自分に関わる新たな知見を得てほしい。

The first goal of this course is to read and analyse British short stories, considering their contexts and other aspects. The second goal is to explain one's own analysis in simple language to other students and to discuss it with them. Ultimately, through these discussions, all students are expected to relativize their own readings and analyses. In the process, they will hopefully gain new knowledge not only about the works but also about themselves.

## 授業の内容 / Course Contents

毎回の授業用に指定されたイギリス短編作品（散文または詩）を読んだうえで各授業に参加することが必須。授業ごとに数名の担当者を割り当て、各担当者は興味深いと思ったテキスト箇所や自分なりの解釈・読解について他の履修者に発表する。その発表にもとづいて授業内でディスカッションをおこない、適宜教員が情報を補足したり議論の方向性をまとめる等のガイドをおこなう。履修者は、こうした議論の中で自分の読解や考察をさらに深めることが期待される。

Students are required to read a short British work prior to attending the class. Every week, several students present what they found interesting about the text and their own interpretations. Based on these presentations, in-class discussions will be held, with the instructor providing additional information and guiding the discussions as necessary. Students are expected to deepen their own thinking in the course of these discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・各授業回担当者割り振りなど
- 2 回：William Shakespeare, "Sonnet no. 18"
- 3 回：Saki, "The Open Window"
- 4 回：文学作品を論じるということ。基本的なターム、議論の構築について（いくつかの文学作品を手掛かりに）
- 5 回：Virginia Woolf, "The Mark on the Wall" (1)
- 6 回：Virginia Woolf, "The Mark on the Wall" (2)
- 7 回：Katherine Mansfield, "Mr. and Mrs. Dove" (1)
- 8 回：Katherine Mansfield, "Mr. and Mrs. Dove" (2)
- 9 回：中間レポートの返却と講評、小テスト1
- 10 回：Roald Dahl, "Lamb to the Slaughter" (1)
- 11 回：Roald Dahl, "Lamb to the Slaughter" (2)
- 12 回：Kazuo Ishiguro, Klara and the Sun An excerpt (1)
- 13 回：Kazuo Ishiguro, Klara and the Sun An excerpt (2)
- 14 回：まとめ、小テスト2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストは毎回全履修者が読み、分からない単語等を調べたうえで授業に参加することが必須である。また、Robert Louis Stevenson の The Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde については、各履修者が授業外の時間で読んだうえでレポートを作成することが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% 小テスト:20% 授業内発表:20% 毎回の授業内ディスカッションへの貢献度、参加度:30%

### テキスト / Textbooks

ロバート・ルイス・ステイブンソン 『ジキル博士とハイド氏』 創元推理文庫 2001 10 4488590012

○

『ジキル博士とハイド氏』には多くの和訳版が存在するが、授業内での議論を円滑に進めるため、可能な限り指定の版を手に入れることが望ましい。

---

**参考文献 / Readings**

授業の進行に合わせて教員が適宜指示し、必要に応じてコピーを配布する

# 入門演習 B1e

Introductory Seminars B1e

アメリカの代表的な短編・中編小説を読む

石原 剛 (ISHIHARA TSUYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM015

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 演習形式

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語原文で文学（小説）を読むことに親しんでもらう。一語一句がもつ意味の重要性、物語構成の意義、同時代の文化社会背景との関係など、多角的な視点から小説を英語で丁寧に読むとはいかなることか理解してもらおう。

The aim of this course is to familiarize students with reading literature (novels) in the original English language. The importance of the meaning of each word and phrase, the significance of the narrative structure, and the relationship with the contemporary cultural and social background of the novels will be discussed from various perspectives to help students understand what it means to carefully read a novel in English.

## 授業の内容 / Course Contents

20世紀のアメリカ小説を読み進め、その内容について議論する。扱う作品は英語原文でも比較的読みやすい20世紀の小説を、新しい作品から時代をさかのぼる形で読んでいく予定。また19世紀を代表する長編小説である Harriet Beecher Stowe の『アンクルトムの小屋』について400字詰めで5枚から10枚程度の読書感想文を提出してもらおう。感想文は添削して返却し、課題作品について議論する。

We will be reading 20th century novels that are relatively easy to read in their original English, starting with newer works and working backward in time. Students will also be asked to submit a book report (5-10 pages of 400 letters) on "Uncle Tom's Cabin" by Harriet Beecher Stowe, one of the best-known American novels of the 19th century. The reports will be returned to the students with instructor's comments, and the assigned novel will be discussed in the classroom after the submission.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Salinger, The Catcher in the Rye (1)
- 3 回：Salinger, The Catcher in the Rye (2)
- 4 回：Salinger, The Catcher in the Rye (3)
- 5 回：Salinger, The Catcher in the Rye (4)
- 6 回：Salinger, The Catcher in the Rye (5)
- 7 回：Salinger, The Catcher in the Rye (6)
- 8 回：Steinbeck, Of Mice and Men (1)
- 9 回：Steinbeck, Of Mice and Men (2)
- 10 回：Steinbeck, Of Mice and Men (3)
- 11 回：Steinbeck, Of Mice and Men (4)
- 12 回：Steinbeck, Of Mice and Men (5)
- 13 回：Steinbeck, Of Mice and Men (6)
- 14 回：Uncle Tom's Cabin に関するディスカッション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回課題箇所を事前に読んで短いコメントを提出。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% ディスカッションへの参加度:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

J.D. Salinger The Catcher in the Rye Penguin 9780241950425 ○

John Steinbeck Of Mice and Men Penguin 0141396032 ○

読書感想文の課題図書としてハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクルトムの小屋』がある。翻訳書を読む場合、どの翻訳書で読んでも構わないが、購入する場合は光文社古典新訳文庫版 (土屋京子訳) を推薦する。

### 参考文献 / Readings

ストウ 『アンクルトムの小屋・上』 光文社古典新訳文庫 4334754759

ストウ 『アンクルトムの小屋・下』 光文社古典新訳文庫 4334754767

# 入門演習 B1f

Introductory Seminars B1f

ジョージ・オーウェル：ことばと社会

鈴木 孫和 (SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM016

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で書かれた短いテキストの精読を通して、カリキュラム・マップに示されている「今後の学習・研究の基礎となる読解力」の獲得を目指すとともに、自らの分析を議論やレポートで論理的に提示する方法を学びます。大学における文学研究の入口の一つとして、「文学を読む悦び」を知る機会としていただくことも目指します。

As outlined in the curriculum map, this seminar aims at cultivating students' reading comprehension skills in order to form a solid basis for their future studies, while at the same time providing instructions on how to make a coherent presentation of their literary analyses in both oral and written discussions. It is also hoped that students experience the pleasure of reading literature through attending this introductory course on the subject.

## 授業の内容 / Course Contents

英語の新聞記事などを読んでいると、"Orwellian"（オーウェル的な）という形容詞にしばしば出くわします。本科目では、この語源であるイギリス人作家ジョージ・オーウェルの作品をいくつか鑑賞します。全体主義と戦争の時代を生きたオーウェルの著作は、彼の名にちなむ形容詞がこんにちの新聞記者によって用いられる

ことからわかるように、20世紀前半のテキストであると同時にきわめて大きな今日的意義を有していると言えます。本授業でオーウェルの作品を鑑賞し、文学を読んで様々なことを深く考える喜びを見出してもらいたいと思います。

受講者にはレジユメを用いた発表を行うと同時に、毎回の授業で積極的に発言することが求められます。また、授業と並行して、課題図書であるオーウェルの『一九八四年』(1949)を読み、それについてのレポートを提出していただきます。

When reading newspaper articles, we sometimes encounter the term 'Orwellian'. In this seminar, students will read some of the works of the author to whom this adjective refers, George Orwell. Orwell lived through the era of totalitarianism and war, and his early twentieth-century writings remain highly relevant today, as evidenced by the fact that journalists still refer to him. In this seminar, we hope that students will enjoy the experience of deep thinking through literature.

In this seminar, students must give at least one oral presentation and regularly participate in class activities. Additionally, students are required to read Orwell's Nineteen Eighty-Four (1949) in Japanese and write a term paper.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Orwell's life in his writings (1)
- 3回：Orwell's life in his writings (2)
- 4回：'Politics and the English Language'
- 5回：Animal Farm (1)
- 6回：Animal Farm (2)
- 7回：Animal Farm (3)
- 8回：課題図書の読書会
- 9回：【ワークショップ】論文・レポートの書き方
- 10回：Animal Farm (4)
- 11回：Animal Farm (5)
- 12回：Animal Farm (6)
- 13回：Animal Farm (7)
- 14回：Animal Farm (8)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員授業前にテキストの該当部分を精読し、わからない箇所(語彙・構文などの英語に関する問題から、話の流れや特定の事物への言及などの内容にかかわる疑問に至るまで、どのようなものでも)は授業中に解決できるようにメモしてきてください。また、重要だと思った部分についても、授業中にクラス全体と共有できるように記録してきてください。

発表担当時には、事前に指示された通りに個人で準備を進めてもらいます。



**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 授業貢献:30% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

George Orwell Animal Farm Oxford University Press 2021 9780198813736 ○

ジョージ・オーウェル 『一九八四年 [新訳版]』 ハヤカワ epi 文庫 2009 9784151200533 ○

教科書に含まれない関連テキストなどは適宜プリントとして配布します。

**参考文献 / Readings**

# 入門演習 B1g

Introductory Seminars B1g

英米文学の入り口

笠原 一郎 (KASAHARA ICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM017

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では英米の文学作品を深く読み解くための鍵を学んでいきます。主題、筋、登場人物、形式、社会的/政治的背景などの観点からの議論を柱として進めます。

This course is intended to share insight into literary works by British and American writers. The emphasis lies on discussing each piece in terms of such aspects as theme, plot, character, form and historical/social context.

## 授業の内容 / Course Contents

主要な文学ジャンルになじんでもらうため、中短編の小説、詩、戯曲を教材とします。作品の創作年代はロマン派の時代から現代に及びます。参加者はそれぞれのジャンルにふさわしい読み方の定石とされているものを学びます。

授業の主な手順は、割り当てられた4, 5人のグループがその回の作品について下調べをしてハンドアウトを用意し、要約、重要な点の指摘、解釈のための質問などからなる発表をします。他の参加者はそのプレゼンテーションに即して、あるいは新たな視点を提示したりして意見を述べます。

授業とは別に、ウィリアム・ゴールディングの『蠅の王』を読み、2~3千字程度の中間レポートを日本語で書

いてもらいます。

Most of the time, an appointed group of four to five students will do some research and prepare handouts, presenting summary and background information, pointing out notable elements, and raising questions to the class. The other participants are expected to make comments based on the presentation, or add new perspective(s).

In addition to in-class readings, students are assigned William Golding's *Lord of the Flies* and required to hand in a 2000-3000 character essay in Japanese as the midterm report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション－授業紹介
- 2回：Oscar Wilde, "The Nightingale and the Rose"
- 3回：James Joyce, "Araby"
- 4回：Gary Soto, "Ode to Family Photographs"  
Robert Hayden, "Those Winter Sundays"
- 5回：Bernard Malamud, "A Summer's Reading"
- 6回：Elizabeth Bishop, "In the Waiting Room" 中間レポート提出
- 7回：Alfred Tennyson, "The Lady of Shalott"
- 8回：課題図書感想、議論
- 9回：Muriel Spark, "You Should Have Seen the Mess"
- 10回：Thornton Wilder, "The Happy Journey to Trenton and Camden" (1)
- 11回：Thornton Wilder, "The Happy Journey to Trenton and Camden" (2)
- 12回：Ronald Harwood, Taking Sides (Excerpt)
- 13回：William Faulkner, "A Rose for Emily"
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

丹念に辞書を引いて予習をし、そのうえで理解できないところ、意味の通らないところを洗い出して授業に臨んでください。担当グループは事前に相談をして作品理解のためのレジюмеを作成してきてください。それ以外の参加者も各自の意見や質問をもって授業に臨んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度（発表、発言、レスポンスペーパー）：40% 最終レポート割合：30%  
最終テスト割合：30%

### テキスト / Textbooks

ウィリアム・ゴールディング 『蠅の王』 早川書房 2017 9784151200908 ○

### 参考文献 / Readings

# 基礎演習 1 a

Preliminary Seminars 1a

Southern Literature and Foodways

田中 有美 (TANAKA YUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM021

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業を通して以下のことができるようになることが目標です。

1. テキストがもつ複雑さを考慮しながら精読ができるようになる
2. 二人組やグループでのディスカッションにおいて、相手の考えに生産的に反応することができる
3. 批評的な考え方とリサーチのスキルに基づいた議論を口頭もしくは書いて展開することができる

At the conclusion of this course, students will

1. Produce close readings of reading materials with diverse dimensions of textual complexity.
2. Contribute to paired and grouped discussions, responding to each other's ideas productively.
3. Compose spoken and written arguments that demonstrate an awareness of critical approaches and research skills.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ南部の作家たちは、食が文化的アイデンティティや人種の問題と複雑に交錯する様子を巧みに描いています。この演習では、食に関係するさまざまな表現に注目し、南部文学を食の視点から再考します。ハリエ

ット・ジェイコブスの奴隷体験記、リチャード・ライトの短編、カーソン・マッカラズの中編小説を読む予定です。

Past and contemporary Southern writers have provided the reader with multiple opportunities to observe the complicated intermingling of cultural identity and food. In this course, we will investigate a variety of representations of foodways in literary texts and reconsider the Southern literary tradition from a culinary perspective. We will read three unique texts by Harriet Jacobs, Richard Wright and Carson McCullers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

2 回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (1)

I. Childhood

II. The New Master and Mistress

III. The Slave's New Year's Day

IV. The Slave Who Dared to Feel like a Man

V. The Trials of Girlhood

3 回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (2)

VI. The Jealous Mistress

VII. The Lover

VIII. What Are Taught to Think of the North

IX. Sketches of Neighboring Slaveholders

X. A Perilous Passage in the Slave Girl's Life

4 回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (3)

XI. The New Tie to Life

XII. Fear of Insurrection

XIII. The Church and Slavery

XIV. Another Link to Life

5 回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (4)

XV. Continued Persecutions

XVI. Scenes at the Plantation

XVII. The Flight

XVIII. Months of Peril

XIX. The Children Sold

6 回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (5)

XX. New Perils

XXI. The Loophole of Retreat

XXII. Christmas Festivity

XXIII. Still in Prison

XXIV. The Candidate for Congress

XXV. Competition in Cunning

XXVI. Important Era in My Brother's Life

7 回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (6)

XXVII. New Destination for the Children

XXVIII. Aunt Nancy  
 XXIX. Preparations for Escape  
 XXX. Norward Bound  
 XXXI. Incidents in Philadelphia  
 8回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (7)  
 XXXVII. A Visit to England  
 XXXVIII. Renewed Invitation to Go South  
 XXXIX. The Confession  
 XL. The Fugitive Slave Law  
 XLI. Free at Last  
 Appendix  
 9回：Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl (8)  
 二次文献講読  
 10回：Richard Wright "Bright Morning Star"  
 11回：Carson McCuller's The Member of the Wedding (1)  
 12回：Carson McCuller's The Member of the Wedding (2)  
 13回：Carson McCuller's The Member of the Wedding (3)  
 14回：レポート構想発表

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

In order to achieve the goals of the course, students are expected to dedicate sufficient time each week to reading the texts before class, while also preparing for an oral presentation and a final report.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:20% Contribution to Discussion:20% Response paper:20% 最終  
 レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

Harriet Jacobs Incidents in the Life of a Slave Girl Norton 2019 9780393614565 ○  
 Carson McCullers The Member of the Wedding Penguin 2000 9780141182827 ○

#### 参考文献 / Readings

## 基礎演習 1 b

Preliminary Seminars 1b

E・M・フォースターの短編小説を読む

鈴木 孫和 (SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM022

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

短編小説を題材に取り、カリキュラム・マップが目標に定める「文学研究の基礎となる専門用語と分析方法」の修得を目指します。各作品を歴史的・文化的背景に位置付けつつ、特定のテーマに沿ってテキストを分析し、首尾一貫した議論にまとめるすべを学び、最終的にはレポート作成を実践します。

As outlined in the curriculum map, this seminar is intended to familiarize students with the basic terms and methods of literary analysis. Students will learn how to locate a given text in its historical and cultural context and practice in producing a coherent argument that examines a literary text from a specific thematic perspective by composing a term paper.

### 授業の内容 / Course Contents

20 世紀イギリスを代表する作家・知識人である E・M・フォースターの短編小説を読みます。フォースターの作品でよく知られるのは長編小説でしょう。特に 1990 年前後に映画化され人気を博した『眺めのいい部屋』（1908）と『ハワーズ・エンド』（1910）、およびイギリス本国とインドの人々の邂逅を描いた『インドへの道』（1924）は極めて知名度が高いと言えます。しかし、フォースターはすぐれた短編小説を残してもあります。

本演習では、このフォースターの短編小説に親しむことで、作家のヒューマニズムに触れると同時に、様々な文学の技法を学ぶことを目指します。

This seminar focuses on the short stories of E. M. Forster, a prominent British author and intellectual of the twentieth century. Forster is best known for his novels, including *A Room with a View* (1908) and *Howards End* (1910), both of which were adapted into films in the 1990s. He also wrote *A Passage to India* (1924), which depicts the encounter between England and India. In addition to his novels, though, Forster wrote several excellent short stories, too. In this seminar, students will examine some of these stories. They will learn various literary techniques while exploring the author's humanist thoughts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：'What I Believe'
- 3回：Extract from Aspects of the Novel
- 4回：'The Story of a Panic' (1)
- 5回：'The Story of a Panic' (2)
- 6回：'The Story of a Panic' (3)
- 7回：'The Other Side of the Hedge'
- 8回：'The Road from Colonus' (1)
- 9回：'The Road from Colonus' (2)
- 10回：'The Machine Stops' (1)
- 11回：'The Machine Stops' (2)
- 12回：'The Machine Stops' (3)
- 13回：'The Machine Stops' (4)
- 14回：論文・レポートの書き方、まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員授業前にテキストの該当部分を精読し、わからない箇所（語彙・構文などの英語に関する問題から、話の流れや特定の事物への言及などの内容にかかわる疑問に至るまで、どのようなものでも）は授業中に解決できるようにメモしてきてください。また、重要だと思った部分についても、授業中にクラス全体と共有できるように記録してきてください。

発表担当時には、事前に指示された通りに個人で準備を進めてもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 授業貢献:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings



## 基礎演習 1c

Preliminary Seminars 1c

19世紀イギリス小説を読む

工藤 紅 (KUDO BENI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

代表的な 19 世紀イギリス小説を深く味わいましょう。それぞれの小説を講読することで、小説の「読み方」を知り、研究方法を理解します。

This course will introduce students to 19th century British novels. By reading a series of novels, students will learn reading techniques and literary research methods.

### 授業の内容 / Course Contents

代表的なイギリス小説の中から、タイプの異なる 2 作品の抜粋部分を読みます。授業は、複数の担当者によるレポートと、クラス全員によるディスカッションの演習形式で行います。レポート担当者は、1 年次の入門演習で得た知識を利用して該当箇所を分析し、概要とディスカッションのポイントをまとめたハンドアウトを用意すること。

Readings will consist of excerpts from three representative British novels of differing types. Classes will be conducted in the seminar style which consists of reports by multiple students preceding a class discussion.

Students will utilize techniques learned in the first year seminar to produce handout reports detailing analyses,

summaries, and discussion points of assigned passages.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 授業で扱う作品の概要と、授業の進め方を説明する。
- 2回：テキストの抜粋部分を読み、比較する。
- 3回：イギリス小説の講読 1-1
- 4回：イギリス小説の講読 1-2
- 5回：イギリス小説の講読 1-3
- 6回：イギリス小説の講読 1-4
- 7回：イギリス小説の講読 1-5
- 8回：Discussion 1
- 9回：イギリス小説の講読 2-1
- 10回：イギリス小説の講読 2-2
- 11回：イギリス小説の講読 2-3
- 12回：イギリス小説の講読 2-4
- 13回：イギリス小説の講読 2-5
- 14回：Discussion 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は責任を持って準備すること。また担当者以外も、該当箇所に関する意見を必ず事前に用意した上で、積極的にディスカッションに参加すること。授業後には、その日の復習をし、まとめをリアクションペーパーとして低移出すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% ディスカッションへの貢献度とリアクションペーパー:30% 最終レポート割合:40%

### テキスト / Textbooks

授業で扱う小説の抜粋部分は授業で配布する。

### 参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介し、授業に必要な部分は配布する。

# 基礎演習 1 d

Preliminary Seminars 1d

英語圏文学を分析する－W. B. イェイツを読む

井上 和樹 (INOUE KAZUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 英語の高度な言語運用能力を身につける。
- 英語圏文学・文化の基礎知識と教養、専門的知識について説明することができる。
- 批判的に考え、リサーチをし、書くことができる。

1.Improve English proficiency

2.Explain foundational knowledge of the literature and culture of the Anglosphere

3.Demonstrate critical thinking, research, and writing skills.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では W. B. イェイツのさまざまなテクストを読み、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて鍵となる用語や概念を紹介しながら、英語圏文学・文化への様々なアプローチの仕方を学びます。この授業を通じて、受講者は自らのリサーチ・クエスションを見つけることができますようになります。この授業は基本的に（1）教員側による詩人の精読や分析（2）ディスカッション（3）ワークショップ（4）発表によって構成され、学生は（5）コメントペーパーと学期の最後には期末レポートの提出を行います（学生は課題とレポートに対し

て教員のフィードバックを受け取ります)。

This course specifically addresses W. B. Yeats, introducing key terms and concepts from the late nineteenth to the beginning of the twentieth century. It will help all students to engage with a variety of approaches to the literature and culture of the Anglosphere, and help all students to articulate and develop their own research questions. This course basically comprises (1) a close reading and an analysis of the poet by the instructor (2) discussions (3) workshops and (4) presentations. Students are required to (5) submit assignments and a final report (students will get feedback on them from the instructor).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：英詩入門
- 3 回：‘The Lake Isle of Innisfree’
- 4 回：‘He wishes for the Cloths of Heaven’
- 5 回：‘Cathleen ni Houlihan’
- 6 回：‘Easter’, 1916
- 7 回：ワークショップ1 「論文の作法とリサーチクエスションについて学ぶ」
- 8 回：‘The Wild Swans at Coole’
- 9 回：‘The Second Coming’
- 10 回：‘Meditations in Time of Civil War’
- 11 回：‘Sailing to Byzantium’
- 12 回：ワークショップ2 「論文の読み方、構成について学ぶ」
- 13 回：発表
- 14 回：発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業前に、それぞれのテキストを読み、関心を持ったトピックや質問を3つ考えてくること。ディスカッションに用います。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ディスカッションへの参加・毎回のコメントペーパー:30% 発表:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

初回授業で配布します。

### 参考文献 / Readings

授業で適宜紹介します。

# 基礎演習 1 e

Preliminary Seminars 1e

アメリカ教養小説探訪

小南 悠 (KOMINAMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM025

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、英文読解力の向上を図るとともに、アメリカにおける教養小説の意義について考える。

Through a close reading of a literary text, students in this course will improve their English reading skill and think about the significance of Bildungsroman in America.

## 授業の内容 / Course Contents

洋の東西を問わず、教養小説（あるいは成長物語）は、いまなお多くの読者を惹きつけてやまない。とりわけ、アメリカにおいて、「ぼろ着から富へ」という〈アメリカン・ドリーム〉と密接につながる教養小説は、絶大な人気を誇ってきたように思われる。しかしながら、アメリカにおける教養小説の文化的／社会的意義とは、一体いかなるものだったのか。本講では、アメリカ文学を代表するホレイショー・アルジャー（1832-99）の教養小説『ぼろ着のディック』（1867）の精読を通して、そのような問題について考えてみたい。

同時に、文学テキストの主題、構成、文体、モチーフ、修辞法等に注目し、作品を分析する力も養いたい。

Literary works, classified as Bildungsroman or coming-of-age story, have still attracted a large number of readers

all over the world, especially in America. In this course, we will consider the cultural and social significance of such works in a nation of people fascinated by the realization of the American dream "from Rags to Riches" through a close reading of Horatio Alger's *Ragged Dick* (1867).

At the same time, we will analyze the literary text with paying attention to the themes, structure, style, motifs and rhetoric.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・発表担当者の決定
- 2回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (1)
- 3回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (2)
- 4回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (3)
- 5回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (4)
- 6回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (5)
- 7回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (6)
- 8回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (7)
- 9回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (8)
- 10回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (9)
- 11回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (10)
- 12回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (11)
- 13回：Horatio Alger, *Ragged Dick* を読む (12)
- 14回：総括・批評検討

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、事前に辞書を使いながら作品を精読して授業にのぞむこと。

また、授業内のディスカッションに備えて、予習時の疑問点や不明点を書き留めてくること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表時の準備状況:30% 質疑・討論による授業貢献度:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

授業内で読む作品はプリントで配布する。

### 参考文献 / Readings

翻訳・参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

### その他 / Others

毎回全員が参加する演習形式の授業であるため、特別な理由がない限り、全回出席を必須とする。

# 基礎演習 1 f

Preliminary Seminars 1f

中島 渉 (NAKAJIMA WATARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM026  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2313  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

18 世紀のイギリス文学の精読をおこなうとともに、その政治的・宗教的・文化的背景をおさえることで、文学研究に必要とされるテキストとコンテキスト双方の理解に努めます。

18 世紀のイギリスは、風刺全盛の時代であり、お堅い本から軟派な雑誌まで、罵詈雑言（？）の嵐です。しかし、そのような言説の中には、当時の社会情勢や作者の思想傾向が豊かに織り込まれていて、意味がわかるとなかなかにおもしろいものです。作品の行間に流れている思潮や世界観といったものを読み解いていきましょう。

In this course, we will conduct a close reading of eighteenth-century English literature, with adequate investigations on its political, religious, and cultural background, in order to develop a proper understanding of text and context, which is essential for literary research.

The early eighteenth century was a golden age of satire in Britain. You can find a wide variety of abusive expressions in highbrow books as well as in lowbrow magazines. Such works richly reflect the social trends and the beliefs of their authors at the time, so you will find it rather interesting to appreciate and grasp what they really mean. We should like to explore the currents of thought and the views of the world that permeate between

the lines.

## 授業の内容 / Course Contents

近世イギリスの時代背景を掘り下げながら、希代の風刺作家ジョナサン・スウィフトの詩を読み、適宜討論等をしていきます。毎時間、受講者による発表をおこなうので、予習は必須です。発表後は、自分の担当箇所をミニレポートとしてまとめ、翌週に提出すること。

※ 各回の内容は、必要に応じて変更することがある。

We will read and discuss the poems of the renowned satirist Jonathan Swift, while delving into the historical background of early modern Britain. Proper preparation is essential, as students will be required to give a presentation in each class period. After the presentations, they must write a mini-report on their assigned sections and submit it in the following week.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：18世紀イギリス文学の概観
- 3回：‘A Description of the Morning’
- 4回：‘A Description of a City Shower’
- 5回：‘The Author upon Himself’
- 6回：‘The Progress of Beauty’ (1)
- 7回：‘The Progress of Beauty’ (2)
- 8回：‘Upon the South Sea Project’ (1)
- 9回：‘Upon the South Sea Project’ (2)
- 10回：‘Upon the South Sea Project’ (3)
- 11回：‘Upon the South Sea Project’ (4)
- 12回：論文作法を学ぶ (1)
- 13回：論文作法を学ぶ (2)
- 14回：総括

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の有無にかかわらず、わからない単語はすべて調べ、授業で扱う部分が（間違っていたとしてもよいから）訳せるようにしておくこと。

## 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献度：30% 発表・提出物：30% 最終レポート割合：40%

欠席が授業回数の3分の1を超えた場合は、自動的に落第となる（なお、遅刻および早退3回で欠席1回と見なす）。

予習をせず、発表に穴をあけた者は、たとえ授業に出ている、欠席とする。

## テキスト / Textbooks



プリント配布。

**参考文献 / Readings**

石塚久郎（責任編集） 『イギリス文学入門 [新版]』 三修社 2023

浦野郁・奥村紗矢香（編著） 『よくわかるイギリス文学史』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）  
ミネルヴァ書房 2020

Wataru Nakajima Jonathan Swift as a Conservative Trimmer: An Ideological Reading of His English Politico-  
Religious Writings, 1701-1726 (Academic Publication Series of the Institute of Humanities, Meiji University)  
Kinseido 2020

# 基礎演習 1g

Preliminary Seminars 1g

アメリカ女性詩人の詩を読む

金澤 淳子 (KANAZAWA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM027

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義ではアメリカ詩の精読を通して、文学作品を分析・考察するための基礎を学ぶことを目的とします。韻文に慣れ、言語に敏感に反応する感覚を身に着けると共に、作品をめぐる歴史的・文化的背景を作品理解および分析に用いる練習の場とします。

This course will provide students with the opportunity to become familiar with rhymes through the close reading of American poetry, develop a sensitivity to language, and learn the fundamentals of using historical and cultural context in understanding and analyzing works.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ詩を毎回一篇ずつ精読していきます。本講義では 19 世紀アメリカの女性詩人エミリー・ディキンソンの詩を取り上げます。授業は三段階構成（発表・ディスカッション・教師によるまとめ）になっており、発表者（毎回 2~3 人）はハンドアウトを準備したうえで発表担当をしてもらいます。発表とは別にコメンテーターも各自、分担してもらいます。

The course will focus on the poetry of Emily Dickinson, a 19th-century American woman poet, and will proceed

with a close reading of one poem in each class. The class will consist of three stages (presentation, discussion, and teacher's explanation), and each presenter (two or three students each time) will prepare a handout. In addition to the presentations, each student will be assigned a commentator.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の進行方法の説明、担当の分担）
- 2回：作品精読1
- 3回：作品精読2
- 4回：作品精読3
- 5回：作品精読4
- 6回：フィードバック1
- 7回：作品精読5
- 8回：作品精読6
- 9回：作品精読7
- 10回：作品精読8
- 11回：作品精読9
- 12回：フィードバック2
- 13回：批評方法の検討
- 14回：レポートの書き方・まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は、毎回予習ペーパーおよびリアクションペーパーを提出してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表とハンドアウト：30% ディカッションでの貢献、予習ペーパー、リアクションペーパー：40% 最終レポート割合：30%

出席状況の条件を満たしている場合のみ、上記の評価対象とします（原則として3回以上の欠席は不可、20分以上の遅刻は欠席とみなします）

### テキスト / Textbooks

テキストは最初の授業で配布します。

### 参考文献 / Readings

適宜、教場にて紹介します。

## 基礎演習 2 a

Preliminary Seminars 2a

『ロミオとジュリエット』を読む

木村 明日香 (KIMURA ASUKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM031  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2313  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

シェイクスピアの英語（初期近代英語）の読み方を知ること。

物語構造を把握し、詩的表現の豊かさを楽しむこと。

舞台や映画などの映像分析の基本を学ぶこと。

\* understanding how to read Shakespeare's English (Early Modern English)

\* grasping the structure of the narrative and enjoying the richness of its poetic expression

\* learning the basics of stage and film analysis

### 授業の内容 / Course Contents

ウィリアム・シェイクスピアの有名な恋愛悲劇『ロミオとジュリエット』を読みます。本作は戯曲であることから、上演映像や映画なども適宜参照しつつ、基本的には原典を読む力を身につけるところに焦点を当てます。また本作の歴史的・文化的背景についても理解を深めます。授業の進め方としては、教員による解説と学生のみなさんによる発表、ディスカッションなどを予定しています。

We will read William Shakespeare's famous tragedy, Romeo and Juliet. We will focus on developing the ability to read the original text, while also referring to stage performances and films as appropriate. In addition, we will deepen our understanding of the historical and cultural background of the play. The course will be conducted through explanations by the instructor, presentations by students, and discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（作家・作品紹介、初期近代英語の基本）
- 2回：Prologue & Act 1 Scene 1
- 3回：Act 1 Scene 2 & Scene 3
- 4回：Act 1 Scene 4 & Scene 5
- 5回：Prologue (2) & Act 2 Scene 1 & Scene 2
- 6回：Act 2 Scene 3 - Scene 6
- 7回：Act 3 Scene 1
- 8回：Act 3 Scene 2
- 9回：Act 3 Scene 3 & Scene 4
- 10回：Act 3 Scene 5
- 11回：Act 4 Scene 1 & Scene 2
- 12回：Act 4 Scene 3 - Scene 5
- 13回：Act 5 Scene 1
- 14回：Act 5 Scene 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、幕場を指定しますので、予め授業で扱われる範囲の英文と和訳を読んできてください。英語は右ページの注釈にも目を通しながら、辞書を引いて丁寧に読み解くことを心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー、発表、授業参加度:40%

### テキスト / Textbooks

ウィリアム・シェイクスピア／岩崎宗治	『ロミオとジュリエット』	大修館書店	1988	○
ウィリアム・シェイクスピア／河合祥一郎	『ロミオとジュリエット』	角川文庫	2017	○

### 参考文献 / Readings

## 基礎演習 2 b

Preliminary Seminars 2b

20 世紀・21 世紀アメリカ女性詩人を読む

金澤 淳子 (KANAZAWA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM032

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義ではアメリカ詩の精読を通して、文学作品を分析・考察するための基礎を学ぶことを目的とします。韻文に慣れ、言語に敏感に反応する感覚を身に着けると共に、作品をめぐる歴史的・文化的背景を作品理解および分析に用いる練習の場とします。

This course will provide students with the opportunity to become familiar with rhymes through the close reading of American poetry, develop a sensitivity to language, and learn the fundamentals of using historical and cultural context in understanding and analyzing works.

### 授業の内容 / Course Contents

アメリカ詩を毎回一篇ずつ精読していきます。2020 年にノーベル文学賞を受賞したアメリカの女性詩人ルイーザ・グリュックの詩を中心に取り上げます。授業は三段階構成（発表・ディスカッション・教師によるまとめ）になっており、発表者（毎回 2~3 人）はハンドアウトを準備したうえで発表担当をしてもらいます。発表とは別にコメンテーターも各自、分担してもらいます。

The course will mainly focus on the poetry of Louise Glück, the American woman poet who won the Nobel Prize

in Literature in 2020. In each class, one poem is taken up for close reading. The class will consist of three stages (presentation, discussion, and teacher's explanation), and two or three presenters (each time) will be assigned to prepare a handout and be in charge of the presentation. In addition to the presentations, each student will be assigned a commentator.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の進行方法の説明・担当の分担）
- 2回：作品精読 1
- 3回：作品精読 2
- 4回：作品精読 3
- 5回：作品精読 4
- 6回：フィードバック 1
- 7回：作品精読 5
- 8回：作品精読 6
- 9回：作品精読 7
- 10回：作品精読 8
- 11回：作品精読 9
- 12回：フィードバック 2
- 13回：批評方法の検討
- 14回：レポートの書き方、まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は、毎回予習ペーパーおよびリアクションペーパーを提出してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表とハンドアウト：30% ディカッションでの貢献、予習ペーパー、リアクションペーパー：40% 最終レポート割合：30%

出席状況の条件を満している場合のみ、上記の評価対象とします（原則として3回以上の欠席は不可、20分の遅刻は欠席とします）

### テキスト / Textbooks

テキストは最初の授業で配布します。

### 参考文献 / Readings

教場にて随時紹介します。

## 基礎演習 2c

Preliminary Seminars 2c

Kate Chopin の小説を読む

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM033

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、他者に対する個人的かつ社会的な想像力を養うとともに、多文化世界がもたらす諸問題への理解を深める。

Through the intensive reading of literary texts, students will cultivate a personally/socially imaginative understanding of those who have different values and backgrounds from their own, thereby expanding their awareness of challenges confronted in a multicultural world.

### 授業の内容 / Course Contents

今日ではアメリカにおけるフェミニズム小説の古典的傑作とみなされているケイト・ショパンの『目覚め』（The Awakening, 1899）を、主題的に関連するいくつかの短編作品とあわせて精読する。

あらかじめ指名された担当者チームは、授業日の4日前までに、担当作品の内容解釈に関する質問2つを用意する。受講者は全員、その質問のうちひとつを選び、授業日の前日までに Canvas LMS 経由で筆記回答をあらかじめ提出する。授業時には、担当者チームがレジュメを用意して、取り上げる作品の内容を要約したうえで、難解な英語表現には語注を付して解説する。その後、自分が選んだ質問に関するグループ・ディスカッション



ョンをおこなったのち、クラス全体で2つの質問に関する議論を行う。筆記回答については、次週授業時までには、担当教員が各受講者にコメントを返す。

Today, we consider Kate Chopin's *The Awakening* (1899) a classic masterpiece of feminist literature in America. In this course, we will closely examine this novel along with several thematically related short stories.

Assigned teams will prepare a couple of questions about interpretive possibilities of the assigned text 4 days prior to the class meeting, and class participants will answer one of the questions in written form on Canvas LMS by the day before the class meeting. During class hours, assigned teams will distribute handouts for the class containing a summary and detailed linguistic explications of the assigned text. Then, students will participate in a group discussion about one of the two questions, followed by a class debate about each question. Written answers to the questions will be returned to each student the following week with the instructor's comments.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Kate Chopin の短編を読む（1）
- 3回：Kate Chopin の短編を読む（2）
- 4回：Kate Chopin の短編を読む（3）
- 5回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（1）
- 6回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（2）
- 7回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（3）
- 8回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（4）
- 9回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（5）
- 10回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（6）
- 11回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（7）
- 12回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（8）
- 13回：Kate Chopin, *The Awakening* を読む（9）
- 14回：レポート中間報告会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、全員、事前に作品テキストを精読し、疑問点を整理したうえで授業にのぞむこと（疑問は教室で共有して解決するので、疑問の答えは分からなくてよい）。なお、予習には、KOD（Kenkyusha Online Dictionary）の利用を推奨する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の筆記回答:30% 担当発表ならびに質疑・討論による授業参加:30%

最終

レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

Kate Chopin *The Awakening* Penguin Classics 2003 9780142437322 ○

**参考文献 / Readings**

---

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

## 基礎演習 2 d

Preliminary Seminars 2d

ジョン・スタインベックの文学世界探訪

小南 悠 (KOMINAMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM034

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、英文読解力の向上を図るとともに、文学に描かれる人間の関係性について考える。

Through a close reading of a literary text, students in this course will improve their English reading skill and think about the human relationships in literature.

### 授業の内容 / Course Contents

未曾有の疫禍とそれに伴うステイホーム生活を経て、再び日常生活が始まったいま、私たちは、社会や文化、自分たちを取り巻く人間関係の変容などを現在進行形で目の当たりにしている。人と人が出会い、対話し、交流するとは、一体どういうことなのか。本講では、20 世紀アメリカ文学を代表する小説家ジョン・スタインベック（1902-68）の『二十日鼠と人間』（1937）の精読を通して、そのような問題について考えてみたい。

同時に、文学テキストの主題、構成、文体、モチーフ、修辞法等に注目し、作品を分析する力を養いたい。

Now that daily life has begun again after the unprecedented epidemic disaster and the resulting stay-home life, we are witnessing the transformation of the society, culture, and human relationships surrounding us. What does it mean for people to interact, dialogue, and connect with each other? In this course, we will consider such

questions through a close reading of John Steinbeck's *Of Mice and Men* (1937).

At the same time, students in this course will analyze the literary text with paying attention to the themes, structure, style, motifs and rhetoric.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・発表担当者の決定
- 2回：Of Mice and Men を読む (1)
- 3回：Of Mice and Men を読む (2)
- 4回：Of Mice and Men を読む (3)
- 5回：Of Mice and Men を読む (4)
- 6回：Of Mice and Men を読む (5)
- 7回：Of Mice and Men を読む (6)
- 8回：Of Mice and Men を読む (7)
- 9回：Of Mice and Men を読む (8)
- 10回：Of Mice and Men を読む (9)
- 11回：Of Mice and Men を読む (10)
- 12回：Of Mice and Men を読む (11)
- 13回：Of Mice and Men を読む (12)
- 14回：総括・批評検討

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、事前に辞書を使いながら作品を精読して授業にのぞむこと。

また、授業内のディスカッションに備えて、予習時の疑問点や不明点を書き留めてくること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表時の準備状況:30% 質疑・討論による授業貢献度:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

授業内で読む作品はプリントで配布する。

### 参考文献 / Readings

翻訳・参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

### その他 / Others

毎回全員が参加する演習形式の授業であるため、特別な理由のない限り、毎回の出席を必須とする。

## 基礎演習 2e

Preliminary Seminars 2e

英国・アイルランドの短編小説を読む

石川 太郎 (ISHIKAWA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM035

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

英国・アイルランドの短編小説を読む事で文学研究の基礎を学ぶ。特に19世紀末・20世紀初頭から第2次世界大戦前までを扱う予定。こうする事で特定の時代、場所（イギリス・アイルランド）の文化を視野に入れながら文学テキストを読み解く練習をする。具体的には文学と、写真技術や映画等の映像文化と文学テキストとの関係を中心に、文学史では「世紀末」「モダニズム」と形容される時代を読み解く事が目標。

This course will teach fundamental skills for literary research through reading British and Irish short stories.

Texts will deal with the late 19th century and early 20th century literary works predating the second world war.

By selecting works from a specific period and location (UK and Ireland), students will practice intensive reading with cultural and historical understandings of each work. Specifically, this course aims to offer insights into the periods, fin de siecle and Modernism through literature, photography, film, and other visual media.

### 授業の内容 / Course Contents

ディベートを通して毎週1つの作品について、多方面からアプローチする事で観察眼・批評眼を養う事が目標。クラス全体を3～4人のグループごとに分けて、毎週あらかじめ決めておいた作品を扱う。司会、肯定

側、否定側に分かれて1つの作品を議論し合う事で、なるべく多角的、多面的な読み方を出せるようにしたい。授業の前に各グループは与えられた作品のリサーチが必ず必要になる。また、個人、グループで意見をまとめておく事が大事。

Students will engage in debate regarding one literary work per week. The aim is to develop students' critical thinking skills through multifaceted discussions. Groups will be made of three to four students and each group will be assigned a literary work each week. Debate assignments will consist of the chair, affirmative, and negative. Debating differing positions allows students to experience a variety of interpretations and reading methods. Groups must conduct research on the assigned literary work before each class begins. Summarizing individual and group opinions is also important.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（グループ分け・授業で扱う作品の発表・ディベートについての説明を行う）
- 2回：短編小説の講読1：Oscar Wilde, 'The Happy Prince'ディベート
- 3回：短編小説の講読2：Oscar Wilde, 'The Nightingale and The Rose'ディベート
- 4回：短編小説の講読3：Sir Arthur Conan Doyle, 'A Case of Identity'from Adventures of Sherlock Holmes ディベート
- 5回：短編小説の講読4：Charles Dickens, 'The Signalman'ディベート
- 6回：短編小説の講読5：H. G. Wells, 'The New Accelerator' ディベート
- 7回：短編小説の講読6：Joseph Conrad, 'An Outpost of Progress'ディベート
- 8回：短編小説の講読7：Rudyard Kipling, 'Mrs Bathurst'ディベート
- 9回：短編小説の講読8：Elizabeth Bowen, 'Dead Mabelle'ディベート
- 10回：短編小説の講読9：Virginia Woolf, 'The Mark on The Wall'ディベート
- 11回：短編小説の講読10：Virginia Woolf, 'Kew Gardens'ディベート
- 12回：短編小説の講読11：James Joyce, 'The Dead'(1)内容の確認及び映画'The Dead'鑑賞予定
- 13回：短編小説の講読12：James Joyce, 'The Dead'(2)ディベート
- 14回：まとめ（これまで授業で扱った内容のまとめとレポートの書き方）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

英・アイルランド文学の基礎知識はもちろんのこと、授業で取り扱う作家の他の作品もなるべくたくさん読んでおくことが望ましい。特に、英国とアイルランドの文化の違いについての知識はどれだけあってもありすぎではない。また、学生の様子、取り組み方に応じて教員側から補助プリントの配布や、あらかじめ読んでおくべき文献の指定が出る場合がある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 平常点（授業、つまりディベート参加度最重視。また、毎回授業後にコメントカード兼出席表を提出してもらすが、この内容と高い提出率が重視される。） :40%

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

授業計画で指定されている作家と作品は教員があらかじめコピーして学生全員に配布予定。また、あくまで予定なので、作家や作品は変更になる可能性がある。もしも希望の作家や作品があったらぜひ教員まで申し出て欲しい。

**その他 / Others**

なるべく雰囲気重視で楽しく学んで議論出来る授業に行きたいと考えています。一緒に、ゆっくり楽しく頑張りましょう。

## 基礎演習 2 f

Preliminary Seminars 2f

雨宮 迪子 (AMEMIYA MICHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM036

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の基本的な知識（人種、ジェンダー、歴史など）を得ると同時に、文学作品について論じるための基礎的な能力（精読、ディスカッション、アカデミック・ライティング）を培う。

Students will acquire foundational knowledge of American literature (race, gender, history, etc.), as well as develop basic skills of literary analysis, such as close-reading, discussion, and academic writing.

### 授業の内容 / Course Contents

アメリカ文学の本質はゴシックである。なぜなら、先住民の殺戮や独立革命の暴力、奴隷制といった歴史的・国家的な罪の意識に突き動かされ、アメリカ人は恐怖譚を生み出してきたからだ——と、これまで多くの批評家たちは考えてきた。しかし、本当にそういった罪悪感こそがアメリカン・ゴシックの核なのだろうか？ この授業では、ホラーの「快楽」や「有用性」にも着目しつつ、ゴシックおよびアメリカ文学の伝統を考察する。最終レポートや担当回でのプレゼンテーションに加え、学生は毎週、レスポンスシートの提出およびディスカッションへの参加が要求される。

American literature is essentially gothic. Americans, critics have commonly considered, create horror stories, driven by their awareness of historical sins, such as the genocide of Indigenous peoples, the violence of the



Revolutionary War, and slavery. But is such a collective sense of guilt really the nucleus of American Gothic? In this course, we will pay attention to the pleasure and utility of gothic, to reconsider the American literary tradition. Students are required to submit response papers as well as to participate in discussions every week.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：Edgar Allan Poe, “The Black Cat” (1)  
 3回：Edgar Allan Poe, “The Black Cat” (2)  
 4回：Ursula K. Le Guin, “The Ones Who Walk Away from Omelas”  
 Edmund Burke, “The Effect of Sympathy in the Distress of Others”  
 5回：Washington Irving, “The Legend of Sleepy Hollow” (1)  
 6回：Washington Irving, “The Legend of Sleepy Hollow” (2)  
 7回：Washington Irving, “The Legend of Sleepy Hollow” (3)  
 8回：Charlotte Perkins Gilman, “The Yellow Wallpaper” (1)  
 9回：Charlotte Perkins Gilman, “The Yellow Wallpaper” (2)  
 10回：Shirley Jackson, “The Lottery”  
 11回：George A. Romero, The Night of the Living Dead  
 12回：George A. Romero, The Night of the Living Dead  
 13回：レポート執筆ワークショップ  
 14回：最終レポート・プレゼンテーション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、授業前に課題テキストを必ず読み、レスポンスシートを提出すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    レスポンスシート:30%    プレゼンテーション:20%    ディスカッション:10%    最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

## 基礎演習 2g

Preliminary Seminars 2g

アリ・スミスの短編小説を読む

鈴木 孫和 (SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM037

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代イギリス小説を題材に取り、カリキュラム・マップが目標に定める「文学研究の基礎となる専門用語と分析方法」の修得を目指します。各作品を歴史的・文化的背景に位置付けつつ、特定のテーマに沿ってテキストを分析し、首尾一貫した議論にまとめるすべを学び、最終的にはレポート作成を実践します。

As outlined in the curriculum map, this seminar is intended to familiarize students with the basic terms and methods of literary analysis. It takes up contemporary British short stories. Students will learn how to locate a given text in its historical and cultural context and practice in producing a coherent argument that examines a literary text from a specific thematic perspective by composing a term paper.

### 授業の内容 / Course Contents

現代の英語文学の担い手の中で特に評価の高い作家の一人として、アリ・スミスの名前を挙げるすることができます。2020年に完結した「四季四部作」は、現在日本でも多くの関心を集めており、文学研究の場では次々とその分析が発表されています。本演習では、このスミスの手になる作品への導入として、The Whole Story and Other Stories (2003)に収められた短編小説を読みます。様々な仕掛けがしてあり、興味深い文化的ディテール

にも満ちているスミスの作品を精読すれば、きっと文学を研究する楽しさに触れることができるでしょう。Ali Smith is one of the most acclaimed contemporary writers in English. Her recently completed 'Seasonal Quartet' is attracting considerable attention in Japan, and critical readings of the work are growing rapidly. As an introduction to the author's works, this seminar will look at some of the short stories collected in *The Whole Story and Other Stories* (2003). Smith's work is full of surprising literary devices and interesting cultural references, and a close reading of some of these will allow you to experience the pleasure of studying literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：'the universal story'
- 3回：'gothic'
- 4回：'being quick' (1)
- 5回：'being quick' (2)
- 6回：'may' (1)
- 7回：'may' (2)
- 8回：'paradise' (1)
- 9回：'paradise' (2)
- 10回：'paradise' (3)
- 11回：'erosive'
- 12回：'the book club'
- 13回：'believe me'
- 14回：論文・レポートの書き方、まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員授業前にテキストの該当部分を精読し、わからない箇所（語彙・構文などの英語に関する問題から、話の流れや特定の事物への言及などの内容にかかわる疑問に至るまで、どのようなものでも）は授業中に解決できるようにメモしてきてください。また、重要だと思った部分についても、授業中にクラス全体と共有できるように記録してきてください。

発表担当時には、事前に指示された通りに個人で準備を進めてもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 授業貢献:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

○

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

# 英語基礎演習 1 a

Preliminary English Seminars 1a

Samuel Beckett and Modernist Drama(1)

テイラー, D. (TAYLOR DAVID JOHN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM041

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to provide a detailed introduction to Modernist drama, and focus specifically on the most significant shorter plays of one of the twentieth century's most influential playwrights - Samuel Beckett (1906-1989). Further course objectives include improvement in discussion skills, and the acquisition of a wider analytical vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will provide a comprehensive introduction to Modernist drama, and focus particularly on Samuel Beckett's shorter minimalist works for the theatre. Beckett's intensely lyrical poetic language and exceptionally powerful stage images in his shorter dramas will be discussed in the wider context of the earlier English and European literary traditions. Textual and in-class video study of these major twentieth century plays will enable students to become familiar with the experimental characters, style, and language of a diverse range of works by one of the greatest postwar playwrights.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：Course Introduction I: Samuel Beckett and Modernist Drama  
 2 回：Course Introduction II: Samuel Beckett and Literary Minimalism  
 3 回：Krapp's Last Tape (1958)  
 4 回：Krapp's Last Tape  
 5 回：Footfalls (1975)  
 6 回：Footfalls  
 7 回：Not I (1972)  
 8 回：Not I  
 9 回：Come and Go (1965)  
 10 回：Acts Without Words I (1956) and II (1959)  
 11 回：Rockaby (1980)  
 12 回：Eh Joe (1965)  
 13 回：Play (1963)  
 14 回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

Students are required to read the specified play in advance of a class, research vocabulary and, if possible, watch examples of the play online by way of preparation.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and Class Participation:35% Reaction Papers:30% Final End of Semester Report:35%

**テキスト / Textbooks**

Samuel Beckett The Complete Dramatic Works Faber and Faber 2006 9780571229154 ○

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

Regular attendance is essential and active participation is required in class.

# 英語基礎演習 1 b

Preliminary English Seminars 1b

An Introduction to American Gothic Literature

ランダオ, S. (LANDAU SAMANTHA HOPE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM042

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

専用教室を利用しても良い。6401 教室

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This course will have two goals: 1) for students to improve their English and learn about interpreting and analyzing literature, and 2) to learn about the Gothic genre and its importance to the American literary canon.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will focus on Gothic literature in America from the 19th century to the present. After learning about the basic elements of the Gothic as a literary genre, students will have the chance to examine different sub-genres. They will also try to make connections between the Gothic and other literary genres, such as fantasy, realism, science fiction, and romanticism. Emphasis will be placed on understanding and explaining why Gothic is considered to be "scary." To that end, we will frequently discuss the use of (or lack of) supernatural and psychological elements in the stories.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction; lecture on defining the Gothic genre

- 2回：Early American Gothic 1  
 3回：Early American Gothic 2  
 4回：Southern Gothic  
 5回：Turn-of-the-century Gothic 1  
 6回：Turn-of-the-century Gothic 2  
 7回：Midterm Review  
 8回：Supernatural/Ghostly Gothic 1  
 9回：Demons, Devils and the Gothic  
 10回：Domestic & Psychological Gothic  
 11回：Technology and the Gothic 1  
 12回：Technology and the Gothic 2  
 13回：Supernatural/Ghostly Gothic 2  
 14回：Final review and discussion

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete all readings and homework outside of class. Incomplete homework and failure to prepare for class discussions will result in a lower grade. Students must complete their final reports by the deadline in order to pass the course.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm report:30% Active class participation:30% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

#### 参考文献 / Readings

# 英語基礎演習 1 c

Preliminary English Seminars 1c

Graphic Narrative (1): Will Eisner and Art Spiegelman

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM043

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The objectives of this course are: (1) to describe the methods and means of critically interpreting the cultural/literary/narrative content of the graphic novel, (2) to consider the medium of comics as a form of literary text, and (3) to guide the student through the basics of writing a coherent critical analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

In the first semester of this course, the students will be introduced to the basics of visual literacy and the narratology of graphic texts. By focusing on the structure and visual language in Will Eisner's *A Contract with God* (1978) and Art Spiegelman's *Maus* (1980), this course will allow the students an opportunity to analyze and critique the American graphic novel.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Week 1: Course schedule and general introduction

Reading: Scott McCloud, *Understanding Comics* (Part One)

2 回：Week 2: Structure and Visual Vocabulary



Reading: Scott McCloud, Understanding Comics (Part Two)

3回：Week 3: Sequence and Closure

Reading: Scott McCloud, Understanding Comics (Part Three)

4回：Week 4: Will Eisner

Reading: A Contract with God (Part One)

5回：Week 5: Will Eisner

Reading: A Contract with God (Part Two)

6回：Week 6: Will Eisner

Reading: A Contract with God (Part Three)

7回：Week 7: Will Eisner

Reading: A Contract with God (Part Four and Five)

8回：Week 8: Art Spiegelman

Reading: Maus (Part One)

9回：Week 9: Art Spiegelman

Reading: Maus (Part Two)

10回：Week 10: Art Spiegelman

Reading: Maus (Part Three)

11回：Week 11: Art Spiegelman

Reading: Maus (Part Four)

12回：Week 12: Art Spiegelman

Reading: Maus (Part Five)

13回：Week 13: Final Presentations (1)

14回：Week 13: Final Presentations (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will have reading assignments every week and will engage in research for the final report. Each session of the course will require at least 1~2 hours of reading, writing, and/or other preparation.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Final Presentation:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

Scott McCloud Understanding Comics William Morrow 1994 9780060976255 ○

Art Spiegelman The Complete MAUS Penguin 2003 9780141014081 ○

All other texts and materials will be provided.

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Some of the materials will be distributed as PDF files, so regular use of a computer and/or tablet will be necessary.

# 英語基礎演習 1 d

Preliminary English Seminars 1d

Three Stories about Long-lasting Friendship

陳 淑宜 (CHEN SHUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM044

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The purpose is to facilitate language learning -- listening, speaking, reading, writing -- through various class activities. The socio-historical background of each story will be explored to enrich the learning experience.

## 授業の内容 / Course Contents

The three texts to read and discuss are Alfred Uhry's play *Driving Miss Daisy*, Truman Capote's "A Christmas Memory" and Raymond Carver's "Cathedral". Uhry's play focuses on a barrier-breaking friendship between a domineering Jewish woman and her black chauffeur. It also refers to historical figures or events that serve as a reminder of racism during the Civil Rights Movement in USA. The other short stories have disabled main characters, and their courage and dignity enables them to form true friendship with others. Students are expected to prepare the assigned reading, participate in class activities, write short comments, and give an oral presentation (2-5 minutes).

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: racism in American Deep South

- 2回：Daisy's car clash  
 3回：Unemployed Hoke's job interview  
 4回：The salmon can  
 5回：Daisy's teaching and the improvement of the master-servant relationship  
 6回：The trip to Mobile  
 7回：The snowstorm and Hoke's help  
 8回：The Martin Luther King dinner  
 9回：The I-narrator of "A Christmas Memory"  
 10回：Preparation for Christmas and the heaping buggy  
 11回：The Christmas fruitcake and whiskey  
 12回：The unreliable I-narrator in "Cathedral"  
 13回：The narrator's jealousy because of his wife's friendship with Robert  
 14回：The narrator's change of attitudes toward Robert

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is necessary to prepare the assigned reading.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% attendance and participation:40% written short comments:40% oral presentation:20%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

# 英語基礎演習 1 e

Preliminary English Seminars 1e

Introduction to satire in British literature

ファージュ (FAGES LAURENT LARRY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM045

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

このコースの目標は、学生にイギリス文学の風刺を紹介することです。

Through this course, the students will learn how to analyse satirical works in modern literature. At the end of the courses, students will be able to distinguish between the various types of techniques used in satirical literature and understand them.

## 授業の内容 / Course Contents

Lectures on the literary techniques used in satirical works will be explained as well as the various reasons why satire is used. The students will be introduced to contemporary authors and film extracts of novels studied in class will be shown.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Presentation of the syllabus

Self-introduction and discussion about satire in literature (1)

Homework for class 2: review class 1 content and learn the new vocabulary

2回：Lecture on the various types of satire in literature (2)  
 Lecture format and group work  
 Workshop: literature circles

3回：Introduction to Georges Orwell's 1984 - part one,  
 lecture format and group work  
 Homework for class 3: review class 3 content and read the handouts for class 4.

4回：Introduction to Georges Orwell's 1984 - part two,  
 lecture format and group work  
 Homework for class 3: review class 4 content and read the handouts for class 5

5回：Introduction to Georges Orwell's 1984 - part three,  
 lecture format and group work  
 Workshop: Literature circles

6回：Introduction to David Lodge's Deaf sentence - part one  
 Lecture format and group work  
 Homework for class 7: review class 6 and read the handouts for class 7

7回：Introduction to David Lodge's Deaf sentence - part two  
 Lecture format and group work  
 Homework for class 8: review class 7 and read the handouts for class 8

8回：Introduction to David Lodge's Deaf sentence - part three  
 Lecture format and group work  
 Homework for class 8: review class 7 and read the handouts for class 8

9回：Review on class 1~8  
 Preparation for midterm test

10回：Midterm test day  
 The students have to give a presentation on what they have learned

11回：Review content of the presentation and what has been covered so far.

12回：A short introduction to Monthly Python's type of Satire (1)

13回：A short introduction to Monthly Python's type of Satire (2)

14回：Final test  
 Final written Report

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading outside the classroom is required. Students will be given copied material to read in preparation for class. This activity will be compulsory.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:20% Class Preparation:10% Homework:10% Midterm  
Presentation:15% Punctuality:5% In-Class Behaviour:15% 最終レポート割合 :10%最終テスト割  
合 :15%

**テキスト/ Textbooks**

**参考文献 / Readings**

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

Students should have low/mid intermediate English abilities to enroll.

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Students need to come to class with pens, pencils and something to write on, i.e., notebook, writing paper or others

**その他/ Others**

Although the teacher is aware that the students are busy with other academic and/or club activities, the students in this class are expected to cooperate fully. Be polite, show respect to their classmates and teacher. Participate fully in all activities.

# 英語基礎演習 1 f

Preliminary English Seminars 1f

Brautigan I: Brautigan & the Dadaists

マクラフリン (MCLAUGHLIN MATTHEW)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM046

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This English literature course aims to help students develop their English abilities in the four core skills of listening, reading, speaking, and writing through a combination of various texts, media and in-class activities. Students enrolled in this course will have the opportunity to enhance their abilities to analyze a text of literature through close reading of the original text, the provision of supplementary notes, videos or audio to aid students in their reading and interpretation of the source text from various perspectives. This will facilitate their overall understanding of the fields of Dadaist (1st Semester) and later Surrealist (2nd Semester) literature, both in terms of its origins in France, followed then by a focus upon its adoption and use by 20th Century American writers. To provide students with a better contextual background, some supplementary materials and information on contemporary Dadaist and Surrealist writers and poets will also be provided to help students better understand some of the influences on Richard Brautigan's writing. In each semester, three additional Dadaist or Surrealist writers will be introduced (for a period of three weeks each) as a means of comparison against the writings of Richard Brautigan himself, to help students deepen their understanding of this literary artform.



In terms of skills related to English ability and proficiency, students will have the opportunity to improve their English listening skills through the interpretations of the text provided by their teacher in class, and listening to recordings of Richard Brautigan reading his own texts as well as an audiobook version available online (on YouTube) which students can listen to, as a way either to review content or obtain a better understanding of the text. This will be used not only as a listening-comprehension exercise but as a way to better appreciate the feel and sounds of poetry and literature as a whole.

Group discussions will be held in regular classes on questions directly related to the text and given to students beforehand to prepare. Students will also have the opportunity to make a presentation in class (towards the end of the course) to help students improve their written proficiency (in preparing for the presentation) and their spoken English proficiency when they give the presentation in class. Students will give a presentation on one Dadaist or Surrealist poet mentioned throughout the course such as Marcel Duchamp, Claude Pélieu, or Bob Dylan (focusing only upon Dylan's Dadaist writings in *Tarantula*) in Semester 1 and for students continuing into Semester 2, they will have the opportunity to present on a Surrealist writer such as André Breton, Philip Lamantia, or Jack Spicer (one of Brautigan's close friends). Three written homework assignments will be assigned on supplementary materials provided in class. Assignment #1 will be about Brautigan's first collection of poems, *The Galilee Hitch-Hiker*; Assignment #2 will be about Brautigan's second collection of poems *Lay the Marble Tea*; and Assignment #3 will be about another early collection of poems called *The Octopus Frontier*. Assignment #4 will be held over two weeks towards the end of term, during which students will give a 3-minute presentation. Supplementary materials will be provided either in class or by email to help students complete ALL assignments. Some guidelines on how to complete these assignments will also be provided by the teacher, to help students improve their abilities in English written composition and expression.

Successful completion of this course should indicate an understanding of...

1. the historical background and contexts of the Dadaist and Surrealist movements in France and later their adoption by American writers;
2. the style, structure, aesthetics, aims and various complexities of Richard Brautigan's writings, with a particular focus on his major work of prose plus early volumes of poetry;
3. several ways of analyzing a text, through supplementary readings and slides provided in class. NOTE: Keith Abbott's analytical memoir called *Downstream from Trout Fishing in America* will be used extensively as a source and reference for generating background notes and details, as well as Joseph Mill's book *Reading Richard Brautigan's Trout Fishing in America*.
4. a better background knowledge of Brautigan's life and times (based on a very thorough biography on Brautigan by William Hjortsberg called *Jubilee Hitchhiker: The Life & Times of Richard Brautigan*).

This course also involves the development of the following skills...

1. the ability to interpret and discuss a text, based on its historical and cultural context and milieu;
2. the ability to inform an original text through the use of secondary sources;
3. the ability to interpret and understand the literary analysis of other critics and writers;
4. the ability to present an argument or summary of one's opinion on a literary work both in writing and orally.

### 授業の内容 / Course Contents

This course, predominantly conducted in English, will offer enrolled students the opportunity to read and discuss Richard Brautigan's prose Dadaist masterpiece *Trout Fishing in America* and how the text has been received by the public since its publication. This year marks the 40th anniversary of Brautigan's death and therefore an

appropriate time to take a look at his oeuvre once again. We will also talk about some of the Dadaist and Surrealist writers (both French and American) who share something in common with Richard Brautigan's style of writing.

Most supplementary notes have been drawn from three very helpful texts: Keith Abbott's Downstream from Trout Fishing in America, Joseph Mill's Reading Richard Brautigan's Trout Fishing in America and also from the incredibly detailed and exhaustive biography on Brautigan by William Hjortsberg called Jubilee Hitchhiker: The Life and Times of Richard Brautigan. Finally, where possible, the teacher will use any audio files and video by or on the writer. The aim of sharing these materials is twofold; to enrich students' knowledge of Richard Brautigan, his writing and his perceptions of the world, and to help them enjoy studying poetry and prose through audio-visual materials, not just the written page.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Lesson 1 – An Introduction to Dada, Surrealism & Richard Brautigan

In our first class for the course, we will begin by discussing the historical contexts and backgrounds of Dada and Surrealism and talk about the most well-known (and some relatively unknown)

2回：Lesson 2 – Trout Fishing in America – Red Lip

In Lesson 2, we will focus on the opening chapters of Trout Fishing in America, which was published in 1967, at the height of flower-power and the time of the Hippies and Haight-Ashbury. We will discuss Bra

3回：Lesson 3 – The Kool-Aid Wino – Tom Martin Creek

In Lesson 3, we will begin by quickly reviewing content from the previous lesson before continuing on with the next few chapters of Trout Fishing in America. We will briefly discuss Brautigan's first novel,

4回：Lesson 4 – Trout Fishing on the Bevel – Trout Death by Port Wine

In Lesson 4, we will focus on the next few chapters of Trout Fishing in America and given the topic of port wine this week, Brautigan's struggle with alcoholism will also be a topic briefly

5回：Lesson 5 – The Autopsy of Trout Fishing in America – Trout Fishing in America with the FBI

In Lesson 5, we will review briefly what we have read so far. A reminder will be given that Assignment #1 is due at the end of this week. Penalties for late submission

6回：Lesson 6 – Worsewick – The Salt Creek Coyotes

In Lesson 6, we will take a look at Richard Brautigan's second book of poems called Lay the Marble Tea (the focus for Assignment #2) and briefly discuss the influence of Emily Dickenson on this particular book

7回：Lesson 7 – The Hunchback Trout – The Pudding Master of Stanley Basin

In Lesson 7, we have reached the halfway point of the novel and the course. Here we will read an extremely important and beautifully-written chapter called "The Hunchback Trout". This is

8回：Lesson 8 – Room 208, Hotel Trout Fishing in America – A Return to the Cover of This Book

In Lesson 8, we will push on and read the next 12 pages of the novel. We will also look at the third and final example of Dadaist writing, by looking at excerpts from

9回：Lesson 9 – The Lake Josephus Days – Sandbox Minus John Dillinger Equals What?

In Lesson 9, we will continue reading Trout Fishing in America we will continue discussing excerpts from Dylan's Tarantula in this class. The third and final assignment for this

10回：Lesson 10 – The Last Time I Saw Trout Fishing in America – Footnote Chapter to "Red Lip"

In Lesson 10, we will push on and read the next few chapters of Trout Fishing in America and this will also be the

last class where we will discuss Dylan's Dadaist w

11 回：Lesson 11 – The Cleveland Wrecking Yard – The Mayonnaise Chapter

In Lesson 11, we will finish reading Trout Fishing in America. After discussing the final chapters, we will discuss Keith Abbott's excellent analysis of this book as well as Joseph Mills' d

12 回：Lesson 12 – Presentations I

In Lessons 12 and 13 students will have a chance to present on ONE of the Dadaist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Dadaist writers we discussed in detail in class (Duchamp, Pélieu

13 回：Lesson 13 – Presentations II & Comprehensive Review

In Lessons 12 and 13, students will have a chance to present on ONE of the Dadaist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Dadaist writers we discussed in detail

14 回：Lesson 14 – Final Examination

In Lesson 14, students will take their final examination. All parts of the textbook will be covered in the final exam, including some of the supplementary materials used in Assignments 1-3. There will be three sections to th

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

In addition to the weekly reading assignments from the textbook, students will also be encouraged to read and explore other supplementary sources of information. Some of the supplementary reading materials will be provided by the teacher (either photocopies handed out in class or sent by email) and extra 'recommending reading' sections will be suggested by the teachers to help them enrich their understanding of the poems, the writer and the course overall. Many of the extra articles on Richard Brautigan will be taken from Beat Scene magazine (although Beat Scene magazine focuses mostly on the Beat Generation writers, it occasionally publishes articles on Richard Brautigan as well).

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignment #1:10% Assignment #2:10% Assignment #3:10% Assignment #4 (Presentation):10% In-class participation:30% 最終テスト割合 :30%

#### テキスト / Textbooks

Brautigan, Richard Trout Fishing in America Mariner Books 1989 9780395500767 ○

#### 参考文献 / Readings

Abbott, Keith Downstream from Trout Fishing in America Capra Press 1989 9780884962939

Hjortsberg, William Jubilee Hitchhiker: The Life and Times of Richard Brautigan Counterpoint 2012 9781582437903

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students need to be prepared to speak predominantly in English in this class, especially considering that 30% of their final grade or score will be based on their in-class participation in discussions held in English.

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Students are expected to purchase the textbook and bring it to the first lesson. Students who are taking Part 2 of this course [Brautigan II] in Semester 2 have to purchase just the ONE textbook which they can use in both courses.

# 英語基礎演習 1g

Preliminary English Seminars 1g

ファージュ (FAGES LAURENT LARRY)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM047  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2411  
使用言語： 英語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

このコースを通じて、学生は現代文学における文学作品の分析方法を学びます。コースの最後には、学生は文化的アイデンティティを扱う文学で使用されているさまざまなタイプの技法を区別し、それらを理解することができるようになります。

Through this course, the students will learn how to analyse literary works in modern literature. At the end of the courses, students will be able to distinguish between the various types of techniques used in literature dealing with cultural identity and understand them.

## 授業の内容 / Course Contents

授業で学ぶ文学作品に用いられている文学技法について、講義で分析し、解説する。学生たちは現代の作家を紹介し、コールで学んだ小説の映画抽出物を上映します。

Lectures on the literary techniques used in the literary works studied in class will be analysed and explained. The students will be introduced to contemporary authors and film extracts of novels studied in call will be shown.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Presentation of the syllabus

Self-introduction and discussion about the authors and literary works to be studied in class (1)

Homework for class 2: review class 1 content and learn the new vocabulary

2回：Presentation of the syllabus

Self-introduction and discussion about the authors and literary works to be studied in class (2)

Homework for class 3: review class 1 content and learn the new vocabulary

3回：Introduction to Kazuo Ishiguro's *The Remains of the Day* - part one, lecture format and group work

Homework for class 4: review class 3 content and read the handouts for class 4.

4回：Introduction to Kazuo Ishiguro's *The Remains of the Day* - part two, lecture format and group work

Homework for class 5: review class 3 content and read the handouts for class 4.

5回：Introduction to Kazuo Ishiguro's *The Remains of the Day* - part three, lecture format and group work

Homework for class 5: review class 3 content and read the handouts for class 4.

6回：Review on class 1~5

Preparation for midterm test

7回：Midterm test day

The students have to give a presentation on what they have learned

8回：Review content of the presentation and what has been covered so far.

9回：Introduction to Linda Grant's *A Stranger City* - part one, lecture format and group work

Homework for class 10: review class 3 content and read the handouts for class 4.

10回：Introduction to Linda Grant's *A Stranger City* - part two, lecture format and group work

Homework for class 11: review class 3 content and read the handouts for class 4.

11回：Introduction to Linda Grant's *A Stranger City* - part three, lecture format and group work

Homework for class 12: review class 3 content and read the handouts for class 4.

12回：Review on class 9~12

Preparation for final test

13回：Final test

Final written Report

14回：Feedback and Review

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading outside the classroom is required. Students will be given copied material to read in preparation for class.

This activity will be compulsory.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:20% Class Preparation:10% Homework:10% Midterm Presentation:15% Punctuality:5% In-Class Behaviour:15% 最終レポート割合 :10%最終テスト割合 :15%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students should have low/mid intermediate English abilities to enrol.

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students need to come to class with pens, pencils and something to write on, i.e., notebook, writing paper or others

### その他 / Others

Although the teacher is aware that the students are busy with other academic and/or club activities, the students in this class are expected to cooperate fully. Be polite, show respect to their classmates and teacher. Participate fully in all activities.

## 英語基礎演習 2 a

Preliminary English Seminars 2a

Samuel Beckett and Modernist Drama(2)

テイラー, D (AYLOR DAVID JOHN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM051

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide a comprehensive introduction to Modernist drama, and focus specifically on the full-length English stage plays of Samuel Beckett: *Waiting for Godot* (1955), *Endgame* (1958), and *Happy Days* (1961). Further course objectives include improvement in discussion skills, and the acquisition of a wider analytical vocabulary.

### 授業の内容 / Course Contents

This course will closely examine the full-length plays of the major Irish writer Samuel Beckett (1906-1989). Discussion will include detailed accounts of three of Beckett's most famous revolutionary works for the stage, but will also consider broader definitions of literature and twentieth century artistic experimentation to help familiarise students with the central tenets of Modernism. The course will be supported by examining some of the numerous productions of Beckett's plays on DVD and online.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Introduction I: Samuel Beckett and the Features of Modernist drama



- 2回：Course Introduction II: Samuel Beckett and Modernist characterisation  
 3回：The Historical Significance of Waiting for Godot  
 4回：Waiting for Godot  
 5回：Waiting for Godot  
 6回：Waiting for Godot  
 7回：The Historical Significance of Endgame  
 8回：Endgame  
 9回：Endgame  
 10回：Endgame  
 11回：Happy Days  
 12回：Happy Days  
 13回：Happy Days  
 14回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout.

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read the play in advance of a class and, if possible, watch examples of the play online by way of preparation.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:35% Reaction Papers:30% Final End of Semester Report:35%

#### テキスト / Textbooks

Samuel Beckett The Complete Dramatic Works Faber and Faber 2006 9780571229154 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

Regular attendance is essential and active participation is required in class.

## 英語基礎演習 2 b

Preliminary English Seminars 2b

Comparing Modernism and Post-Modernism in American Literature

ランダオ, S. (LANDAU SAMANTHA HOPE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM052

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

専用教室を利用しても良い。6402 教室

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

This course will have two goals: 1) to introduce students to the study of comparative literature and 2) to read various literary works written in English and compare them.

### 授業の内容 / Course Contents

In this class, students will develop their understanding of comparing texts and of comparative literature.

Discussion topics will include, but will not be limited to, gender issues, class conflict, and racial/ethnic conflict.

Students will read texts from American literature, focusing on the genres of Modernism and Post-Modernism.

Students will be asked to draw comparisons between specific stories and poems as well as the characters and the situations in the stories. They may also make comparisons between the authors that wrote the stories and poems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction; lecture on methods of comparing literature

2 回： "Hills Like White Elephants" (Ernest Hemingway)

- 3 回："The Chrysanthemums" (John Steinbeck) Part 1  
 4 回："The Chrysanthemums" (John Steinbeck) Part 2  
 5 回："The Third Baby's the Easiest" (Shirley Jackson)  
 6 回："In the Waiting Room" (Elizabeth Bishop)  
 7 回：Midterm Review  
 8 回："John Redding Goes to Sea" (Zora Neale Hurston)  
 9 回："The School Days of an Indian Girl" (Zitkala-Sa)  
 10 回："Seventeen Syllables" (Hisaye Yamamoto)  
 11 回："Grandmother" (Paula Gunn Allen)  
 12 回："blessing the boats" (Lucille Clifton)  
 13 回："To One I Knew" (Hyejung Kook)  
 14 回：Final review and discussion

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete all readings and homework outside of class. Incomplete homework and failure to prepare for class discussions will result in a lower grade. Students must complete their final reports by the deadline in order to pass the course.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Report:30% Active class participation:30% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

Materials will be provided by the instructor.

## 英語基礎演習 2c

Preliminary English Seminars 2c

Graphic Narrative (2): Chris Ware, David Mazzucchelli, and Nick Drnaso

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM053

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

In this class, students will learn how to analyze and describe the structure and content of graphic narrative. This course will focus on the visual and rhetorical mechanisms of the graphic novel and will involve the study of narrative both as a form of communication and as a visual/poetic device.

Students are expected to attend class every week and participate actively in each of the class sessions. Students will be expected to complete all of the weekly readings and writing assignments. And all students are required to submit (and revise) a research paper on one of the texts discussed during the course.

Course Texts will include:

- Chris Ware, "Rusty Brown" (2019)
- David Mazzucchelli, "Asterios Polyp" (2009)
- Nick Drnaso, "Sabrina" (2018)

### 授業の内容 / Course Contents

Successful completion of this course should indicate an understanding of . . .

1. the cultural, aesthetic, and historical influences surrounding 20th and 21st century American graphic narrative
2. the structure and visual poetics of graphic narrative
3. some of the many means of analyzing comics and other graphic texts

This course also involves the development of the following skills . . .

1. the ability to identify the visual and verbal components of a graphic text
2. the ability to analyze the content of a narrative
3. the ability to compose (and revise) a coherent essay in English

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Chris Ware

Reading: Rusty Brown (2019)

In-class Reading: Ware, "Introduction", Rusty Brown

2 回：Chris Ware

Reading: Rusty Brown (2019)

In-class Reading: Ware, "Chapter One", Rusty Brown

3 回：Chris Ware

Reading: Rusty Brown (2019)

In-class Reading: Ware, "Chapter Two", Rusty Brown

4 回：Chris Ware

Reading: Rusty Brown (2019)

In-class Reading: Ware, "Chapter Three", Rusty Brown

5 回：Chris Ware

Reading: Rusty Brown (2019)

In-class Reading: Ware, "Chapter Four", Rusty Brown

6 回：David Mazzucchelli

Asterios Polyp (2009)

In-class Reading: Mazzucchelli, "Part One," Asterios Polyp

7 回：David Mazzucchelli

Asterios Polyp (2009)

In-class Reading: Mazzucchelli, "Part Two," Asterios Polyp

8 回：David Mazzucchelli

Asterios Polyp (2009)

In-class Reading: Mazzucchelli, "Part Three," Asterios Polyp

9 回：David Mazzucchelli

Asterios Polyp (2009)

In-class Reading: Mazzucchelli, "Part Four," Asterios Polyp

10 回：Nick Drnaso

Sabrina (2018)

In-class Reading: Drnaso, "Part One," Sabrina

11 回：Nick Drnaso

Sabrina (2018)

In-class Reading: Drnaso, "Part Two," Sabrina

12 回：Nick Drnaso

Sabrina (2018)

In-class Reading: Drnaso, "Part Three," Sabrina

13 回：Nick Drnaso

Sabrina (2018)

In-class Reading: Drnaso, "Part Four," Sabrina

14 回：Final Presentations

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each session will involve a lecture component, student presentations, and a close reading of the text(s) assigned for the week.

Students should be prepared to analyze each of the readings from a number of perspectives. Also, students will be expected to have read the assigned text(s) prior to each session.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Writing Assignments:30% Final Presentation:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

All course texts will be distributed as PDF files.

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Many of the materials for this course will be distributed as PDF files, so the regular use of a computer and/or tablet will be necessary.

### その他 / Others

NOTE: Some of the reading material discussed during the course contains sexually explicit imagery and scenes describing violence. Student self-discretion is advised. Class discussions and seminar sessions may refer directly and/or indirectly to this conte

## 英語基礎演習 2 d

Preliminary English Seminars 2d

Main Characters with Hidden Identities: The Wisdom of Eve and "The Adventure of the Clapham Cook"

陳 淑宜 (CHEN SHUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM054

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

The purpose is to facilitate language learning -- listening, speaking, reading, writing -- through various class activities. The socio-historical background of each story will be explored to enrich the learning experience.

### 授業の内容 / Course Contents

Mary Orr's play *The Wisdom of Eve* is about an ambitious young woman's strategies to climb the social ladder in the world of entertainment business. Agatha Christie's "The Adventure of the Clapham Cook" is concerned with the fictional, renowned detective Hercule Poirot's investigation into the mysterious disappearance of a cook. Students are expected to prepare the assigned reading, participate in class activities, write short comments, and give an oral presentation (2-5 minutes).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: characters with dual identities

2 回： The characters Eve and Karen

3 回： The superstar Margo's employment of Eve

- 4回：Eve's secret and cunningness  
 5回：Lloyd's quarrel with Margo  
 6回：Karen's complicity with Eve  
 7回：Margo's missed performance  
 8回：The character Thompson as a manipulative man  
 9回：Karen's regret  
 10回：Margo's retirement  
 11回：Eve's success and Margo's reconciliation with Karen  
 12回：Poirot's mission of finding Eliza in "The Adventure of the Clapham Cook"  
 13回：The clues of Eliza's case  
 14回：Mr. Simpson's disguise and crime

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is necessary to prepare the assigned reading.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% attendance and participation:40% written short comments:40% oral presentation:20%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings



## 英語基礎演習 2 e

Preliminary English Seminars 2e

Introduction to satire in British literature

ファージュ (FAGES LAURENT LARRY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM055

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

このコースの目標は、学生にイギリス文学の風刺を紹介することです。

Through this course, the students will learn how to analyse satirical works in modern literature. At the end of the courses, students will be able to distinguish between the various types of techniques used in satirical literature and understand them.

### 授業の内容 / Course Contents

Lectures on the literary techniques used in satirical works will be explained as well as the various reasons why satire is used. The students will be introduced to contemporary authors and film extracts of novels studied in class will be shown.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Presentation of the syllabus for term 2.

Discussion about satire in literature (1)

Homework for class 2: review class 1 content and learn the new vocabulary

2回：Lecture on the various types of satire in literature  
Lecture format and group work  
Workshop: literature circles

3回：Introduction to Office Space by Mike Judge (1).  
lecture format and Video excerpts. group work  
Homework for class 4: review content and read the handouts for class 4

4回：Introduction to Office Space by Mike Judge (2).  
lecture format and Video excerpts. group work  
Homework for class 4: review content and read the handouts for class 4

5回：Introduction to Office Space by Mike Judge (Final).  
lecture format and Video excerpts. group work  
Homework for class 4: review content and read the handouts for class 4

6回：Review class 1~5 and prepare for the midterm test

7回：Midterm test day  
The students have to give a presentation on what they have learned

8回：Review content of the presentation and what has been covered so far.

9回：Introduction to David Lodge's Changing Places - part one  
Lecture format and group work  
Homework for class 10: review class 9 and read the handouts for class 10

10回：Introduction to David Lodge's Changing Places - part Two  
Lecture format and group work  
Homework for class 11: review class 10 and read the handouts for class 11

11回：Introduction to David Lodge's Changing Places - part three  
Lecture format and group work  
Homework for class 12: review class 11 and read the handouts for class 12

12回：Review on class 1~11  
Preparation for final test

13回：Final Test Day  
The students have to take a paper pertaining to the content of term 2.

14回：Review and feedback  
Quizzes

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading outside the classroom is required. Students will be given copied material to read in preparation for class.  
This activity will be compulsory.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:20% Class Preparation:10% Homework:10% Midterm Presentation:15% Punctuality:5% In-Class Behaviour:15% 最終レポート割合 :10%最終テスト割合 :15%

**テキスト/ Textbooks**

**参考文献 / Readings**

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

Students should have low/mid intermediate English abilities to enroll.

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Students need to come to class with pens, pencils and something to write on, i.e., notebook, writing paper or others

**その他/ Others**

Although the teacher is aware that the students are busy with other academic and/or club activities, the students in this class are expected to cooperate fully. Be polite, show respect to their classmates and teacher. Participate fully in all activities.

## 英語基礎演習 2 f

Preliminary English Seminars 2f

Brautigan II: Brautigan & the Surrealists

マクラフリン (MCLAUGHLIN MATTHEW)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM056

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2411

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

This English literature course aims to help students develop their English abilities in the four core skills of listening, reading, speaking, and writing through a combination of various texts, media and in-class activities. Students enrolled in this course will have the opportunity to enhance their abilities to analyze a text of literature through close reading of the original text, the provision of supplementary notes, videos or audio materials to aid students in their reading and interpretation of the source text from various perspectives. This will facilitate their overall understanding of the fields of Dadaist (1st Semester) and later Surrealist (2nd Semester) literature, both in terms of its origins in France, followed then by a focus upon its adoption and use by 20th Century American writers.

To provide students with a better contextual background, some supplementary materials and information on contemporary Dadaist and Surrealist writers and poets will also be provided to help students better understand some of the influences on Richard Brautigan's writing. In each semester, three additional Dadaist or Surrealist writers will be introduced (for a period of three weeks each) as a means of comparison against the writings of

Richard Brautigan himself, to help students deepen their understanding of this literary artform.

In terms of skills related to English ability and proficiency, students will have the opportunity to improve their English listening skills through the interpretations of the text provided by their teacher in class, and listening to recordings of Richard Brautigan reading his own texts as well as an audiobook version available online (on YouTube) which students can listen to, as a way either to review content or obtain a better understanding of the text. This will be used not only as a listening-comprehension exercise but as a way to better appreciate the feel and sounds of poetry and literature as a whole.

Group discussions will be held in regular classes on questions directly related to the text and given to students beforehand to prepare. Students will also have the opportunity to make a presentation in class (towards the end of the course) to help students improve their written proficiency (in preparing for the presentation) and their spoken English proficiency when they give the presentation in class. In Semester 2, students will give a presentation on one Surrealist poet mentioned throughout the course such as André Breton, Philip Lamantia, or Jack Spicer (one of Brautigan's close friends). Three written homework assignments will be assigned on supplementary materials provided in class. Assignment #1 will be about Brautigan's collection of poems, *All Watched Over by Machines of Loving Grace*; Assignment #2 will be about Brautigan's second last collection of poems *Loading Mercury with a Pitchfork*; and Assignment #3 will be about Brautigan's final collection of poems *June 30th, June 30th*. Assignment #4 will be held over two weeks towards the end of term, during which students will give a 3-minute presentation. Supplementary materials will be provided either in class or by email to help students complete ALL assignments. Some guidelines on how to complete these assignments will also be provided by the teacher, to help students improve their abilities in English written composition and expression. Successful completion of this course should indicate an understanding of...

1. the historical background and contexts of the Dadaist and Surrealist movements in France and later their adoption by American writers;
2. the style, structure, aesthetics, aims and various complexities of Richard Brautigan's writings, with a particular focus on his major works of prose plus early volumes of poetry;
3. several ways of analyzing a text, through supplementary readings and slides provided in class. NOTE: Lew Welch's essay on *In Watermelon Sugar* taken from the volume, *How I Work as a Poet & Other Essays* will be used as well.
4. a better background knowledge of Brautigan's life and times (based on a very thorough biography on Brautigan by William Hjortsberg called *Jubilee Hitchhiker: The Life & Times of Richard Brautigan*).

This course also involves the development of the following skills...

1. the ability to interpret and discuss a text, based on its historical and cultural context and milieu;
2. the ability to inform an original text through the use of secondary sources;
3. the ability to interpret and understand the literary analysis of other critics and writers;
4. the ability to present an argument or summary of one's opinion on a literary work both in writing and orally.

### **授業の内容 / Course Contents**

This course, predominantly conducted in English, will offer enrolled students the opportunity to read and discuss Richard Brautigan's other major prose masterpiece which bears many of the hallmarks of Surrealism, *In Watermelon Sugar* and how the text has been received by the public since its publication. This year marks the 40th anniversary of Brautigan's death and therefore an appropriate time to take a look at his oeuvre once again. We will also talk about some of the Dadaist and Surrealist writers (both French and American) who share

something in common with Richard Brautigan's style of writing.

Most supplementary notes have been drawn from three very helpful texts: the incredibly detailed and exhaustive biography on Brautigan by William Hjortsberg called *Jubilee Hitchhiker: The Life and Times of Richard Brautigan*, Lew Welch's essay on *In Watermelon Sugar* and Mary Ann Caws' great scholarly work, *The Poetry of Dada and Surrealism*. Finally, where possible, the teacher will use any audio files and video by or on the writer. The aim of sharing these materials is twofold; to enrich students' knowledge of Richard Brautigan, his writing and his perceptions of the world, and to help them enjoy studying poetry and prose through audio-visual materials, not just the written page. Recently a complete audiobook version of *In Watermelon Sugar* has been made available on YouTube, which students will be encouraged to listen to, as another way to enjoy this text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Lesson 1 – An Introduction to Dada, Surrealism & Richard Brautigan

In our first class for the course, we will begin by discussing the historical contexts and backgrounds of Dada and Surrealism and talk about the most well-known (and some relatively unknown)

2回：Lesson 2 – In Watermelon Sugar – Lighting the Bridges

In Lesson 2, we will focus on the opening chapters of *In Watermelon Sugar*, which was originally written in 1964 but not published until 1968, one year after the publication of *Trout Fishing in America*

3回：Lesson 3 – iDEATH – A Love, A Wind

In Lesson 3, we will begin by quickly reviewing content from the previous lesson before continuing on with the next few chapters of *In Watermelon Sugar*. We hopefully will also have the time to listen to a recording of t

4回：Lesson 4 – The Tigers Again – The Schoolteacher

In Lesson 4, we will focus on the next few chapters of *In Watermelon Sugar* and focus on the topic of the tigers, which according to McClure are the same tigers of wrath mentioned in William Blake's work. Th

5回：Lesson 5 – Under the Plank Press – A Nap

In Lesson 5, we will review briefly what we have read so far. A reminder will be given that Assignment #1 is due at the end of this week. Penalties for late submissions after the deadline will also be repeated and

6回：Lesson 6 – Whiskey – Something is Going to Happen

In Lesson 6, we will take a look at Lamantia's most famous book of poems called *Touch of the Marvelous* as well as Brautigan's own *Loading Mercury with a Pitchfork* (the focus for Assignment #2). We will al

7回：Lesson 7 – Rumors – An Exchange

In Lesson 7, we have reached the halfway point of the novel and the course. We will also discuss audio recordings and readings of sections of the first half of the novel. This will also be the final week when Lamantia's wo

8回：Lesson 8 – The Trout Hatchery – Shack Fever

In Lesson 8, we will push on and read the next few chapters of the novel. We will also look at the third and final example of Surrealist writing, by looking at excerpts from Jack Spicer's first book, *After Lorca*

9回：Lesson 9 – Job – Necklace

In Lesson 9, we will continue reading *In Watermelon Sugar* and discussing excerpts from Spicer's *After Lorca* in this class. The third and final assignment for this class (apart from the presentation), on Brautigan's final collect

10回：Lesson 10 – Couch – Their Instruments Playing

In Lesson 10, we will push on and read the final chapters of *In Watermelon Sugar* and this will also be the last class where we will discuss Jack Spicer's work, *After Lorca* and some of his other work. As prese

## 11 回：Lesson 11 – Presentations I

In Lessons 12 and 13 students will have a chance to present on ONE of the Surrealist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Surrealist writers we discussed in detail in class (Breton, L

## 12 回：Lesson 12 – Presentations II

In Lessons 12 and 13 students will have a chance to present on ONE of the Surrealist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Surrealist writers we discussed in detail in class (Breton,

## 13 回：Lesson 13 – Comprehensive Review

In our penultimate class together, we will do a comprehensive review of the main content and themes of In Watermelon Sugar as well as discuss some of the defining features of Surrealist writing and poetry, including the S

## 14 回：Lesson 14 – Final Examination

In Lesson 14, students will take their final examination. All parts of the textbook will be covered in the final exam, including some of the supplementary materials used in Assignments 1-3. There will be three sections to th

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

In addition to the weekly reading assignments from the textbook, students will also be encouraged to read and explore other supplementary sources of information. Some of the supplementary reading materials will be provided by the teacher (either photocopies handed out in class or sent by email) and extra 'recommending reading' sections will be suggested by the teachers to help them enrich their understanding of the poems, the writer and the course overall. Many of the extra articles on Richard Brautigan will be taken from Beat Scene magazine (although Beat Scene magazine focuses mostly on the Beat Generation writers, it occasionally publishes articles on Richard Brautigan as well). Some materials taken from Mary Anne Caws' work on Dada and Surrealism, called The Poetry of Dada and Surrealism, will also be shared with students in class.

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignment #1:10% Assignment #2:10% Assignment #3:10% Assignment #4 (Presentation):10% In-class participation:30% 最終テスト割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

Brautigan, Richard Trout Fishing in America, The Pill Versus the Springhill Mine Disaster, In Watermelon Sugar Mariner Books 1989 9780395500767 ○

**参考文献 / Readings**

Hjortsberg, William The Jubilee Hitchhiker: The Life and Times of Richard Brautigan Counterpoint 2012 9781582437903

Caws, Ann Mary The Poetry of Dada & Surrealism Princeton University Press 1970 9780691061641

Welch, Lew How I Work as a Poet & Other Essays Grey Fox Press 1973

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

Students should come to the first class having already purchased the textbook. Also, students should be prepared to participate in group discussions in English every week and should keep in mind that class participation accounts for 30% of their final gra

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Students are required to purchase a copy of the textbook, as students will need to refer to the book to answer some questions on the final examination (essay questions & short-answer questions).



# 英語基礎演習 2g

Preliminary English Seminars 2g

ファージュ (FAGES LAURENT LARRY)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM057  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2411  
使用言語： 英語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

このコースを通じて、学生は現代文学における文学作品の分析方法を学びます。コースの最後には、学生は文化的アイデンティティを扱う文学で使用されているさまざまなタイプの技法を区別し、それらを理解することができるようになります。

Through this course, the students will learn how to analyse literary works in modern literature. At the end of the courses, students will be able to distinguish between the various types of techniques used in literature dealing with cultural identity and understand them.

## 授業の内容 / Course Contents

授業で学ぶ文学作品に用いられている文学技法について、講義で分析し、解説する。学生たちは現代の作家を紹介し、コールで学んだ小説の映画抽出物を上映します。

Lectures on the literary techniques used in the literary works studied in class will be analysed and explained. The students will be introduced to contemporary authors and film extracts of novels studied in call will be shown.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Presentation of the syllabus for term 2.

Lecture and discussion about authors and literary works to be studied in this class (1)

Homework for class 2: review class 1 content and learn the new vocabulary

2回：Lecture and discussion about authors and literary works to be studied in this class (2)

Homework for class 2: review class 1 content and learn the new vocabulary

Lecture format and group work

Workshop: literature circles

3回：Introduction to Kazuo Ishiguro's An Artist of the Floating World - part one

Lecture format and group work

Homework for class 4: review class 3 and read the handouts for class 4

4回：Introduction to Kazuo Ishiguro's An Artist of the Floating World - part two

Lecture format and group work

Homework for class 5: review class 4 and read the handouts for class 5

5回：Introduction to Kazuo Ishiguro's An Artist of the Floating World - part three

Lecture format and group work

Homework for class 6: review class 5 and read the handouts for class 6

6回：Review class 1~5 and prepare for the midterm test

7回：Midterm test day

The students have to give a presentation on what they have learned

8回：Review content of the presentation and what has been covered so far.

9回：Introduction to Kazuo Ishiguro's A Pale View of Hills - part one

Lecture format and group work

Homework for class 10: review class 9 and read the handouts for class 10

10回：Introduction to Kazuo Ishiguro's A Pale View of Hills - part two

Lecture format and group work

Homework for class 11: review class 10 and read the handouts for class 11

11回：Introduction to Kazuo Ishiguro's A Pale View of Hills - part three

Lecture format and group work

Homework for class 12: review class 11 and read the handouts for class 12

12回：Review on class 1~11

Preparation for final test

13回：Final Test Day

The students have to take a paper pertaining to the content of term 2.

14回：Review and feedback

Quizzes

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading outside the classroom is required. Students will be given copied material to read in preparation for class. This activity will be compulsory.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:20% Class Preparation:10% Homework:10% Midterm Presentation:15% Punctuality:5% In-Class Behaviour:15% 最終レポート割合 :10%最終テスト割合 :15%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

Students should have low/mid intermediate English abilities to enrol.

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Students need to come to class with pens, pencils and something to write on,ie, notebook, writing paper or others

**その他 / Others**

Although the teacher is aware that the students are busy with other academic and/or club activities, the students in this class are expected to cooperate fully. Be polite, show respect to their classmates and teacher. Participate fully in all activities.

# 入門演習 B2a

Introductory Seminars B2a

悪事と殺人の英米文学のユーモア

鈴木 孫和 (SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM061

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で書かれた短いテキストの精読を通して、カリキュラム・マップに示されている「今後の学習・研究の基礎となる読解力」の獲得を目指します。特に英米のフィクションとエッセイの訳読を通じたより広い語彙形成、英文構造の理解の徹底に力を入れます。

As outlined in the curriculum map, this seminar aims at cultivating students' reading comprehension skills in order to form a solid basis for their future studies. In particular, it focuses on expanding students' vocabulary and polishing their understanding of the grammatical structure of the English texts.

## 授業の内容 / Course Contents

殺人や犯罪は推理小説に限らず多くの文学作品に登場するモチーフです。本科目では、これを主題とした短編小説のうち、特にユーモアや機知に富んだ作品を精読することで、英語で文学作品を鑑賞する基礎的な力の増強を図ります。笑いや言葉遊びに特徴づけられるからといって、この演習で扱う作品がどれも軽薄なわけではありません。例えばロアルド・ダールのブラックユーモアには読者の熟慮を求める要素が内包されています。また、ドライなユーモアに特徴づけられるマグナス・ミルズの作品は、現代イギリスの生の口語に触れさせて

くれます。本科目が、英語の読解力を高めるだけでなく、英語圏の文学への関心を深める助けとなることを願っています。

Murder and crime are motifs that appear in many literary works, not just in detective fiction. In this seminar, students will strengthen their basic ability to appreciate literary works in English by closely reading short stories with this theme, especially those that are humorous and witty. Just because a work is characterised by laughter and wordplay does not mean that all the works covered in this seminar are frivolous. Roald Dahl's dark humour, for example, contains elements that demand the reader's careful reflection. Moreover, the deadpan comedy of Magnus Mills gives us a taste of the colloquial language of contemporary Britain. It is hoped that this course will not only improve your English reading skills, but also help to deepen your interest in the literature of the English-speaking world.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Roald Dahl, 'Lamb to the Slaughter' (1)
- 3回：Roald Dahl, 'Lamb to the Slaughter' (2)
- 4回：Roald Dahl, 'Lamb to the Slaughter' (3)
- 5回：Roald Dahl, 'Lamb to the Slaughter' (4)
- 6回：小テスト (1)
- 7回：James Thurber, 'Mr. Preble Gets Rid of His Wife' (1)
- 8回：James Thurber, 'Mr. Preble Gets Rid of His Wife' (2)
- 9回：James Thurber, 'Mr. Preble Gets Rid of His Wife' (3)
- 10回：小テスト (2)
- 11回：【番外編】 George Orwell, 'Decline of the English Murder'
- 12回：Magnus Mills, 'Once in the Blue Moon' (1)
- 13回：Magnus Mills, 'Once in the Blue Moon' (2)
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回事前に指定した範囲を日本語に訳しながら読み進めていきます。受講者は全員授業前にテキストの該当部分を精読し、わからない箇所（語彙・構文などの英語に関する問題から、話の流れや特定の事物への言及などの内容にかかわる疑問に至るまで、どのようなものでも）は授業中に解決できるようにメモしてきてください。また、重要だと思った部分についても、授業中にクラス全体と共有できるように記録してきてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と準備状況:40% 小テスト:40% 最終テスト割合：20%

### テキスト / Textbooks

ハンドアウトを配布します。



# 入門演習 B2b

Introductory Seminars B2b

アメリカ短編小説入門

大串 尚代 (OGUSHI HISAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM062

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、アメリカ短編小説を通じて、文学を精読し分析・考察するための基礎的な知識を身につけることを目的とする。本講義を通じて、作品（テキスト）の内容を理解することはもちろん、作品が執筆された時代背景や、作者に関する情報などのコンテキストをリサーチし、それらをふまえた上で自身の考察を組み立てるステップを学んでいく。

Throughout this class, we will explore the rich world of American short stories, encouraging active and critical engagement with the literary works. By closely reading the stories, we will not only analyze their content but also consider the social context in which they were written and explore the backgrounds of the authors. Our goal is to equip you with fundamental knowledge and skills essential for the study of literature.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ短編小説を輪読形式で訳読してゆく。全履修者は、あらかじめ作品を読み込んだ上で出席する。テキストを読んだ上で、自身がどのようなことに気がついたのか、なにを考えたのかなど、テキストに基づいた自身の「考察」を授業内で共有することが求められる。また、作品や作家についてリサーチを行う際のツールの

使い方などについても学んでいく。

In this course students engage in close reading of American short stories. The students are expected to actively join class discussions where students will have the opportunity to share and discuss their observations and insights on the stories.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・作品説明
- 2 回：Alice Walker, "The Flowers" 1
- 3 回：Alice Walker, "The Flowers" 2
- 4 回：小テスト 1
- Ray Bradbury, "There Will Come Soft Rains" 1
- 5 回：Ray Bradbury, "There Will Come Soft Rains" 2
- 6 回：Ray Bradbury, "There Will Come Soft Rains" 3
- 7 回：小テスト 2
- Shirley Jackson, "The Lottery" 1
- 8 回：Shirley Jackson, "The Lottery" 2
- 9 回：Shirley Jackson, "The Lottery" 3
- 10 回：小テスト 3
- Raymond Carver, "Cathedral" 1
- 11 回：Raymond Carver, "Cathedral" 2
- 12 回：Raymond Carver, "Cathedral" 3
- 13 回：Raymond Carver, "Cathedral" 4
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に十分な予習をした上での出席が求められる。わからない単語はもちろんのこと、慣用句や熟語なども事前に調べておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加:40% 小テスト:40% 最終テスト割合：:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

テキストは LMS 経由で PDF で配布予定です。ダウンロードができる機材の準備が必要である。



# 入門演習 B2c

Introductory Seminars B2c

英国の短編小説を読む

侘美 真理 (TAKUMI MARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM063

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

時代の異なるイギリス短編小説、特に音楽を題材とした短編小説を精読する。これまで習得してきた英語の基本的な文法・構文の知識を前提に、文章(テキスト)を深く読み込みながらさらなる英語の応用力を養う。従って、楽しく読むだけでなく、丁寧に読みながら出来事や情景・心理描写を正確に捉えられるように努める。また、小説として練り上げられた文章を解きほぐしつつ読み込むことで、言葉の遣いや表現のニュアンスがどのように表されているかなどの問題も考え、文学の読み方の基礎を学ぶこともこの授業の目的の一つである。

This course aims to develop students' ability to read literary texts in English, and we will read some British short stories which have a connection with music, sound, and performance, widely ranging from the contemporary to the Victorian. The course will ask students to read each text closely to learn the basics of reading novels as literary texts. It aims to read them with a critical mind, not just for pleasure and fun. Through practicing the techniques of close reading, we will explore different ways of the writers presenting their visions of life, paying special attention to both stylistic and social issues.

**授業の内容 / Course Contents**

4つの短編作品について、毎回指定された部分を全員にあらかじめ読んできてもらい、輪読形式で精読する。1つの作品を数回に分けて全体を読んでいく。現代、20世紀中期、20世紀初頭、19世紀末と時代の異なる4つの作品を取り上げ、各小説の雰囲気の違いを味わうと共に、徐々に難しくなる英語のレベルにも対応できるようにする。各作品を読み終えるごとに小テスト(計4回)を実施し、英語表現からその内容に至るまでの理解度・学習度を確認する。

授業ではあらかじめ担当者を決めずに全員で輪読するので、指定された部分について毎回綿密な予習が必須となる。なお、最終授業時(期末時)に最終テスト(筆記テスト)を行う。授業で取り上げていない作品からの抜粋等を読み、英語の読解力の向上を確認する。

In each class we read a part of the novel and look at the text carefully paying attention to words and descriptions, which will provide many hints and ideas for interpretation. We will read the whole text in a couple of weeks, and then quiz or test will be given to students every time after we finish reading each text to check their understanding. The class consists of students' intensive readings of assigned passages. Every one of them attending the class is required to have done the task of necessary preparation before class. In the final class, a short exam will be conducted according to the regulation of the department; students need to read a short literary work within the given time.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品(1)(現代)を精読する
- 3回：第2回授業の続き
- 4回：第3回授業の続き及び小テスト
- 5回：作品(2)(20世紀中期)を精読する
- 6回：第5回授業の続き
- 7回：第6回授業の続き及び小テスト
- 8回：作品(3)(20世紀初頭)を精読する
- 9回：第8回授業の続き
- 10回：第9回授業の続き及び小テスト
- 11回：作品(4)(19世紀末)を精読する
- 12回：第11回授業の続き
- 13回：第12回授業の続き及び小テスト
- 14回：最終テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

指定された部分を毎回必ず精読してくること。授業にも辞書を持ってくること。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業貢献度・授業準備度:40% 小テスト:40% 最終テスト:20%

---

**テキスト / Textbooks**

プリントを配布する。

---

**参考文献 / Readings**

授業中にその都度紹介する。

# 入門演習 B2d

Introductory Seminars B2d

レイモンド・カーヴァーの短編を精読する

小南 悠 (KOMINAMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM064

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ人作家レイモンド・カーヴァーの作品精読を通して、英語を正しく読む力を養う。

Through a close reading of Raymond Carver's short stories, students in this course will improve their English skill to read literary texts accurately.

## 授業の内容 / Course Contents

レイモンド・カーヴァー（1938-88）の短編小説を精読する。クラス全体で訳読を行ない、毎回数頁を語学的に丹念に読んでいく。英文読解力の向上に主眼を置くが、必要に応じて作品解釈の紹介や歴史的背景等の補足説明も行なう。

また、授業内で読んだ英文を題材にした小テストを学期中に 2 回実施する。

学期末には、授業内では扱わなかった英文を題材にして、受講生の読解力を測る授業内最終テストを実施する。

We will read Raymond Carver's short stories in this course. Students will translate a few pages in each class in order to improve their English reading skill. The main focus will be on improving the reading skill, with

additional explanations of the interpretations and historical background of each work.

Students will also take two mini tests based on the texts read in class. At the end of the semester, students will take a final test based on texts which are not used in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回："Mr. Coffee and Mr. Fixit" を読む
- 3回："Fat" を読む (1)
- 4回："Fat" を読む (2)
- 5回：小テスト (1)
- 6回："Sacks" を読む (1)
- 7回："Sacks" を読む (2)
- 8回："Sacks" を読む (3)
- 9回：小テスト (2)
- 10回："Distance" を読む (1)
- 11回："Distance" を読む (2)
- 12回："Distance" を読む (3)
- 13回："Distance" を読む (4)
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、事前に辞書を使いながら作品を精読し、日本語訳を作ったうえで授業にのぞむこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:40% 小テスト:40% 最終テスト:20%

### テキスト / Textbooks

授業内で読む作品はプリントで配布する。

### 参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

### その他 / Others

毎回全員が参加する演習形式の授業であるため、特別な理由のない限り、毎回の出席を必須とする。

# 入門演習 B2e

Introductory Seminars B2e

短篇小说を精読する

笠原 一郎 (KASAHARA ICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM065

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学・語学研究に必要となる、英語（のフィクション）を読む力を訓練します。具体的には以下の4つを重点的に強化します。

- 用いられている文法や構文を正確に把握できる。
- 文脈に応じて多義語の意味を確定できる。
- 時間経過や場面転換、登場人物の行動や心情などが把握できる。
- 歴史的、文化的背景を調べることができる。

加えて時間が許せば文体やシンボルの分析などにも手を伸ばします。

This course will provide opportunities to practice English fiction reading skills necessary for literary and linguistic research. Specifically, this course aims to improve the following four skills:

- Correctly identifying key grammatical elements and syntax
- Correctly determine meaning of polysemous words in context
- Correctly identifying changes in time, scenes, character actions, and emotional state

d) Properly researching historical and cultural context

Some time will also be dedicated to analyzing literary symbols and style if time permits.

### 授業の内容 / Course Contents

それぞれ異なったスタイルを持つ英米短編小説を読みます。多様な世界観や雰囲気、語り口に柔軟に対応できるようにするため、内容面で一貫したテーマは特に設けません。授業は訳読形式です。ランダムに当てていきますので、いつ自分の担当になってもかまわないよう予習をしていくことが前提となります。

小テストを2回行い学んだことの確認をします。最終テストでは初めて読む作品を用い、いくつかの形式の設問に答えてもらいます。

Students will read a series of British and American novellas written in a variety of styles. The respective novellas will cover differing themes and content to enable students to be adaptable to future readings of varied worldviews, atmospheres, and narratives. Classes will consist of oral translations. In-class reading will be conducted at random, so students must be prepared to read at any time during any class.

Two midterm exams will be conducted to review content covered in class. The final exam will consist of an English passage not covered in class with different types of questions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー授業紹介
- 2回：A.N.L. Munby, "The Stranger in the Mist"
- 3回：Brian Friel, "Mr. Sing My Heart's Delight"
- 4回：Penelope Lively, "Black Dog" (1)
- 5回：Penelope Lively, "Black Dog" (2) 小テスト第1回
- 6回：Muriel Spark, "You Should Have Seen the Mess" (1)
- 7回：Muriel Spark, "You Should Have Seen the Mess" (2)
- 8回：Conrad Aiken, "Impulse" (1)
- 9回：Conrad Aiken, "Impulse" (2)
- 10回：Conrad Aiken, "Impulse" (3) 小テスト第2回
- 11回：Shirley Jackson, "The Pajama Party"
- 12回：Frederik Pohl, "The Fiend"
- 13回：予備日
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の全範囲を各自が予習する必要があります。わからない語句は必ず辞書を引いてください。また文法の参考書を調べて語句・文レベルの表現形式にあたる文法用語を調べるようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:40% 小テスト:40% 最終テスト割合 :20%

**テキスト / Textbooks**

---

プリントを配布します。

**参考文献 / Readings**

---



# 入門演習 B2f

Introductory Seminars B2f

アメリカ・モダニズム文学の〈自然〉を読む

山本 洋平 (YAMAMOTO YOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM066

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ環境文学が提示する問いかけを受けとめながら、英文テキストを精読する技術を身につけます。ロマン主義からモダニズムにいたるアメリカ文学の散文・短編小説・詩は、「自然」をどのように描きだしてきたのか。この問いを念頭におきながら、英文を文法的に正確に読解するスキル、要約力、リサーチ力を磨くことを目標とします。

The class aims to fully understand the significance of nature in American literature through stories and poems from romanticism to modernism.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ文学の短篇小説と散文を輪読形式で精読しながら、文学テキストが自然や〈環境〉をいかに描いてきたのか、その変遷を探求します。ロマンティズムからモダニズムを経てポストモダニズムへ至る古典的テキストを読むことで、環境的想像力と文学表象の様式を研究します。序盤は教員が主導して解説を多めにとりますが、中盤以降は、受講者にハンドアウトを用意してもらい、英文を的確に読み、歴史的背景をふまえながら議論をリードしてもらいます。

This course explores the changing ways in which American literature has described nature and environment, focusing on the narrative strategies in stories, prose, and poems. It studies modes of environmental perception and literary representation by reading canonical texts from romanticism to postmodernism.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：アメリカ文学の〈環境〉を読む視点／Willa Cather “Wagner Matinee”
- 2回：Willa Cather, “Death in the Desert”1
- 3回：Willa Cather, “Death in the Desert”2
- 4回：Willa Cather, “Death in the Desert”3
- 5回：Willa Cather, My Ántonia (抜粋)
- 6回：Willa Cather, O Pioneers! (抜粋)
- 7回：小テスト 1／Wallace Stevens, “13 Ways of Looking at a Blackbird”
- 8回：Wallace Stevens, “Not Ideas … but the Thing Itself” “Anecdote of the Jar”
- 9回：Earnest Hemingway, “Now I Lay Me”1
- 10回：Earnest Hemingway, “Now I Lay Me”2
- 11回：小テスト 2／Earnest Hemingway, “Hills Like White Elephants”1
- 12回：Earnest Hemingway, “Hills Like White Elephants”2
- 13回：Earnest Hemingway, “Hills Like White Elephants”3
- 14回：授業内テストとまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は毎週テキストを精読してくる。複数回、授業内発表およびレジュメ作成・配布が課される。授業内で扱ったテキストの理解を問う小テストを2回実施するほか、単語や英文構造を問うクイズを数回行う。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:40% 小テスト:40% 授業内最終テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- スコット・スロヴィック・野田研一 編 『アメリカ文学の〈自然〉を読む ネイチャーライティングの世界へ』 ミネルヴァ書房 1996 9784623026487
- ハロルド・フロム他 『緑の文学批評—エコクリティシズム』 松柏社 1998 9784881989029
- ローレンス・ビュエル著、三浦笙子他訳 『環境批評の未来：環境危機と文学的想像力』 音羽書房鶴見書店 2017 9784755302343

# 入門演習 B2g

Introductory Seminars B2g

英国短編小説を楽しむ

工藤 紅 (KUDO BENI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM067

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1313

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

19 世紀～20 世紀に書かれた、3 篇の英国の短編小説を深く味わいましょう。精読することで、文学作品を分析する上で必要な知識と英語力を培います。

This course will cover three British short stories written during the 19th and 20th centuries. Through thorough reading of the assigned text, this course foster literary analytical skills in addition to developing necessary knowledge and English capabilities.

## 授業の内容 / Course Contents

毎回適当な分量をあらかじめ指定し、授業自体は輪読形式を基礎とします。常に全員参加型で、当番制ではありません。音読と日本語訳をした上で、必要に応じてディスカッションを行います。また、授業時間内で読み進んできた英文テキストのレビューとなるような小テストを 3 度実施します。最終授業時には、授業時間には取り上げなかった英文を用いて、読解力を測る筆記テストを行います。

Classes will consist of reading preassigned passages in turn with all students. All students are required to participate every class. After reading out loud and performing Japanese translations, students will engage in

active discussions as necessary. Three small tests will be conducted at appropriate points in the semester to review material read in class. The final exam will be given on the last day of class and will consist of a writing exam regarding reading material not covered in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業説明
- 2 回：Thomas Hardy の短編小説を読む（1）
- 3 回：Thomas Hardy の短編小説を読む（2）
- 4 回：Thomas Hardy の短編小説を読む（3）
- 5 回：Thomas Hardy の短編小説を読む（4）
- 6 回：小テスト（1）とまとめ
- 7 回：Graham Greene の短編小説を読む（1）
- 8 回：Graham Greene の短編小説を読む（2）
- 9 回：小テスト（2）とまとめ
- 10 回：Katherine Mansfield の短編小説を読む（1）
- 11 回：Katherine Mansfield の短編小説を読む（2）
- 12 回：Katherine Mansfield の短編小説を読む（3）
- 13 回：小テスト（3）とまとめ
- 14 回：筆記テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

その日読むことになっているパートは、全員がしっかりと読んできてください。意味を調べるだけでなく、作者の手法や登場人物の心情なども自分なりに説明できるよう、準備してくることを。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト3回:40% 授業準備と毎回のリアクションペーパー:40% 最終テスト  
割合：20%

### テキスト / Textbooks

テキストは適宜配布する。

### 参考文献 / Readings

# 入門講義 1

Introductory Lectures 1

英語学の基礎

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM091

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語学的な考察を通じ現代英語の特質を理解するとともに、英語学に関する基礎的知識やこの分野でのリサーチの仕方の基礎を身に着ける。

Reviewing basics of English philology and the backgrounds of the development of the English language.

## 授業の内容 / Course Contents

英語学の基礎を学びながら、英語とはいかなる性質の言語であるかについて学ぶ。毎回の授業は講義と課題に基づくリサーチとからなる。授業の前半はその時々テーマに応じた講義を行い、後半はそれに基づき各自リサーチをし、その結果を文章にまとめ提出する。このような作業を繰り返すことで、講義による受動的な学びだけでなく、自らリサーチを行うことで、能動的に学びを深める。

This course deals with basics of English philology and of the historical development of English, illustrating the nature of the English language.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション 英語の歴史と特質

- 2回：OED の使い方 1
- 3回：OED の使い方 2
- 4回：OED の使い方 3
- 5回：英語の綴りと発音 1
- 6回：英語の綴りと発音 2
- 7回：口語英語の特質 1
- 8回：口語英語の特質 2
- 9回：英語の語源 1
- 10回：英語の語源 2
- 11回：語の意味変化
- 12回：英語と Political Correctness
- 13回：英米の英語の違い
- 14回：英語から生まれた言語

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業の最初に OED の使い方について学びますが、この授業以外でも、日ごろから OED を使っているいろいろなことを調べるようにすると、英語に関する知識も英語力も高めることができます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の課題およびリアクションペーパー:100%

ただし、欠席が全授業回数の三分之一を超えた場合には不可とする。

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

参考文献については、授業時に適宜紹介する。

# 入門講義 2

Introductory Lectures 2

英米文学入門

小山 太一／舌津 智之 (KOYAMA TAICHI/ ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM092

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英文学と米文学それぞれの重要作家や課題を紹介しながら、英米文学専修における学びの可能性を明らかにし、2年次以降の学習への基礎を形作る。

This course will introduce students to important authors and topics from English and American literature. Students will also learn about the potential of the Course in English and American Literature and prepare fundamental skills for second year studies and beyond.

## 授業の内容 / Course Contents

学期の前半は小山が英文学、後半は舌津が米文学の重要な主題について、授業計画に挙げた順序で講義する。できるだけ実際の作品に触れるように努め、詩の朗読テープや代表作の映画化作品なども活用する。理解度を確かめるために、授業内に複数回小テストを実施する。

Koyama will discuss important themes of English literature in the first half of the semester, and Zettsu will discuss important themes of American literature in the second half of the semester. Lectures will take place in the order outlined in the class syllabus. Every effort will be made to have students interact with the works featured in

class including listening to readings of poetry and watching film adaptations. A few quizzes will be given during classes to confirm student understand of class content.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：共同でイントロダクション
- 2回：初期近代英語とルネサンス詩——フィリップ・シドニーらのソネット
- 3回：近代人の自我——ウィリアム・シェイクスピア『リチャード三世』
- 4回：小説の誕生——ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』
- 5回：市民社会と小説——ジェイン・オースティン『知性と感性』
- 6回：モダニズム——T. S. エリオット『荒地』とウルフ『ダロウェイ夫人』
- 7回：拡大する〈英〉文学——サルマン・ラシュディ『真夜中の子供たち』+小テスト（以上、小山）
- 8回：キリスト教と音楽——ウィリアム・サローヤン『ヒューマン・コメディ』
- 9回：現実と虚構の相克——テネシー・ウィリアムズ『欲望という名の電車』
- 10回：他者理解の（不）可能性——ジャック・ケルアック『オン・ザ・ロード』
- 11回：異性愛規範への抵抗——トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』
- 12回：白人文化の暴力——トニ・モリスン『青い眼がほしい』
- 13回：人種とセクシュアリティ——アリス・ウォーカー『カラー・パープル』+小テスト（以上、舌津）
- 14回：共同でテスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業プリントの中身を復習し、授業中に言及された文献等を参照すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内小テスト:40%

英米共同の学期末試験（60%）、授業内小テスト（40%）の配分で、それぞれの担当者が個別に出した評価を合算して評価を行なう。4回以上の欠席は単位取得不可。

### テキスト / Textbooks

毎回プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。

### その他 / Others

授業内小テストの際に代理回答その他の不正が発覚した場合には単位取得が不可能になる。



# 演習 B 1

Seminars B1

讃歌を読む 1

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

幼年期の素朴さ、青春の恋、結婚、出産、老いから季節、風景など、人生のさまざまな局面を称える英国民愛唱の讃歌アンソロジーを教科書として、何かを寿ぐ気持ちが英米人とわれわれで違っているかどうか比較しつつ、自分にとって最も印象的な讃歌を探り出す。

Using as the course textbook an anthology of English nation's favourite poems, celebrating various aspects in our life from innocence in childhood, love in youth, marriage, birth, to old age in addition to seasons and landscapes, students will explore whether their feelings are different from ours when celebrating something. Through this exploration, students will find out their own favourite poems of celebration among those in the anthology.

## 授業の内容 / Course Contents

【本演習は演習 B2 とセットで開講される半期完結の授業（週 2 コマ、4 単位）であり、2 単位のための履修はできないので注意すること。B1 のレポートは学期半ばに、B2 のレポートは学期末に提出することになる。】

BBC ラジオ 4 の長寿番組 Poetry Please! で放送された讃歌のアンソロジーから、演習 B2 で扱わない詩を毎回 1, 2 篇選んで精読し、人生の様々な段階と世界の諸相が詩の中でどのように描かれているかを探りながら、こ

の世界に占めるわれわれ自身の立場—過去、現在、未来—についても考える。

日本で紹介されていない詩も多く、毎回自力での格闘が必要とされる。一つの詩を必ず複数の担当者に予め当てて、配付資料を準備してそれぞれ発表してもらい、それを糸口にして参加者全員で活発な討論を行なう。学期中の発表担当回数は参加人数によって多少変わるが、一人3-5回程度の子定。最初の時間に詳しい授業計画表を配布。

In each class, students will read 1-2 pieces selected from an anthology of English Nation's favourite poems of celebration broadcast on a long-running BBC Radio 4 programme Poetry Please!, excluding those to be read in Seminar B2. Through attentive reading, they will find out how various stages of our life and phases of our world are expressed in them, and, at the same time, reflect on their own position--past, present and future--in this world.

Many poems featured in class are not widely known in Japan, so students are expected to read and interpret the words on the page on their own. Multiple students will be assigned to each poem, and each student will prepare handouts and present on their assigned poem. Students not presenting will use this information to engage in active debate regarding the work. Students can expect to present 3-5 times over the course of the semester. The exact number is subject to change depending on the number of participants in the course. Details will be provided in the course syllabus given on the first day of class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業の紹介
- 2回：英詩の読解1
- 3回：英詩の読解2
- 4回：英詩の読解3
- 5回：英詩の読解4
- 6回：英詩の読解5
- 7回：英詩の読解6
- 8回：英詩の読解7
- 9回：英詩の読解8
- 10回：英詩の読解9
- 11回：英詩の読解10
- 12回：英詩の読解11
- 13回：英詩の読解12
- 14回：まとめと中間レポート提出（学期半ば）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

これまでに授業などで読んだ英詩を再読しておく。毎回扱う詩を授業の前に予め読んで準備し、授業の後には紹介された関連文献も参照して詩の把握を深める。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート (Midterm Report):40% 担当時の発表内容:40% 発表担当時以外の授業での発言:20%

4 回以上欠席すると単位取得は不可能になる。

#### **テキスト / Textbooks**

The Nation's Favourite Poems of Celebration, foreword by Roger McGough (BBC, 2002) は絶版で入手不可能なため、授業で扱う作品をここから集めた PDF 資料を Canvas LMS と Google ドライブにアップロード。

#### **参考文献 / Readings**

折に触れて教室で紹介する。

#### **その他 / Others**

演習なので勤勉な参加が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合はメールで事前連絡すること。期末レポートでウェブサイトなどからの盗用を行なうと単位取得が不可能になる。

## 演習 B 2

Seminars B2

讃歌を読む 2

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

幼年期の素朴さ、青春の恋、結婚、出産、老いから季節、風景など、人生のさまざまな局面を称える英国民愛唱の讃歌アンソロジーを教科書として、何かを寿ぐ気持ちが英米人とわれわれで違っているかどうか比較しつつ、自分にとって最も印象的な讃歌を探り出す。

Using as the course textbook an anthology of English nation's favourite poems, celebrating various aspects in our life from innocence in childhood, love in youth, marriage, birth, to old age in addition to seasons and landscapes, students will explore whether their feelings are different from ours when celebrating something. Through this exploration, students will find out their own favourite poems of celebration among those in the anthology.

### 授業の内容 / Course Contents

【本演習は演習 B1 とセットで開講される半期完結の授業（週 2 コマ、4 単位）であり、2 単位のための履修はできないので注意すること。B1 のレポートは学期半ばに、B2 のレポートは学期末に提出することになる。】

BBC ラジオ 4 の長寿番組 Poetry Please! で放送された讃歌のアンソロジーから、演習 B1 で扱わない詩を毎回 1, 2 篇選んで精読し、人生の様々な段階と世界の諸相が詩の中でどのように描かれているかを探りながら、こ

の世界に占めるわれわれ自身の立場—過去、現在、未来—についても考える。

日本で紹介されていない詩も多く、毎回自力での格闘が必要とされる。一つの詩を必ず複数の担当者に予め当てて、配付資料を準備してそれぞれ発表してもらい、それを糸口にして参加者全員で活発な討論を行なう。学期中の発表担当回数は参加人数によって多少変わるが、一人 3-5 回程度の子定。最初の時間に詳しい授業計画表を配布。

In each class, students will read 1-2 pieces selected from an anthology of English Nation's favourite poems of celebration broadcast on a long-running BBC Radio 4 programme Poetry Please!, excluding those to be read in Seminar B1. Through attentive reading, they will find out how various stages of our life and phases of our world are expressed in them, and, at the same time, reflect on their own position--past, present and future--in this world.

Many poems featured in class are not widely known in Japan, so students are expected to read and interpret the words on the page on their own. Multiple students will be assigned to each poem, and each student will prepare handouts and present on their assigned poem. Students not presenting will use this information to engage in active debate regarding the work. Students can expect to present 3-5 times over the course of the semester. The exact number is subject to change depending on the number of participants in the course. Details will be provided in the course syllabus given on the first day of class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の紹介
- 2 回：英詩の読解 1
- 3 回：英詩の読解 2
- 4 回：英詩の読解 3
- 5 回：英詩の読解 4
- 6 回：英詩の読解 5
- 7 回：英詩の読解 6
- 8 回：英詩の読解 7
- 9 回：英詩の読解 8
- 10 回：英詩の読解 9
- 11 回：英詩の読解 10
- 12 回：英詩の読解 11
- 13 回：英詩の読解 12
- 14 回：まとめと期末レポート提出（学期末）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

これまでに授業などで読んだ英詩を再読しておく。毎回扱う詩を授業の前に予め読んで準備し、授業の後には紹介された関連文献も参照して詩の把握を深める。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期末レポート (Term-end Report):40% 担当時の発表内容:40% 発表担当時以外の授業での発言:20%

4 回以上欠席すると単位取得は不可能になる。

#### テキスト / Textbooks

The Nation's Favourite Poems of Celebration, foreword by Roger McGough (BBC, 2002) は絶版で入手不可能なため、授業で扱う作品をここから集めた PDF 資料を Canvas LMS と Google ドライブにアップロード。

#### 参考文献 / Readings

折に触れて教室で紹介する。

#### その他 / Others

演習なので勤勉な参加が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合はメールで事前連絡すること。期末レポートでウェブサイトなどからの盗用を行なうと単位取得が不可能になる。

## 演習 B3

Seminars B3

シェイクスピア『お気に召すまま』精読

松田 幸子 (MATSUDA YOSHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本科目は、シェイクスピアの喜劇である『お気に召すまま』を精読し、1. 初期近代英語を読む英語読解力と、初期近代イングランド演劇に関する基本的な知識、2. 文学作品を批評的に読解し、解釈する力を身につけることを目標とする。

The objective of this course is that students will acquire,

1. abilities to read Early Modern English and basic knowledge of theatre in Early Modern England,
2. skills of critical reading and interpreting literary texts

by close reading of Shakespeare's comedy, As You Like It (1599).

### 授業の内容 / Course Contents

シェイクスピアによる喜劇のひとつである『お気に召すまま』（1599）の原文を、演習形式で精読する。毎回、担当者によるテキスト該当箇所の内容と議論のポイントについての発表を行うとともに、受講者全員でディスカッションを行う。

『お気に召すまま』は、アーデンの森に逃れたロザリンドが、男装して意中のオーランドに恋の指南をするこ

とで、最終的に彼を勝ち取る顛末を描いた喜劇である。受講者は、本作品の読解を通して、初期近代イングランドにおける森というトポスの持つ意味と、異性装というモチーフによって生じている、この劇におけるジェンダー的な転倒について考える。

In this course, students will closely read the original text of *As You Like It* (1599), one of Shakespeare's comedies, in a seminar style. In each class, assigned students will have a presentation about the text, and all students should participate a discussion after that.

In *As You Like It*, Rosalind, who has escaped to the Forest of Arden, disguises herself as a man and wins the heart of Orlando by teaching him how to woo her in love. Through a reading of the text, students will consider the significance of the topos of the forest in early modern England and the subversion in gender in the play caused by the cross-dressing motif.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：授業の進め方・テキストについて
- 2回：シェイクスピアの英語の読解について
- 3回：発表とディスカッション：第1幕 (1)
- 4回：発表とディスカッション：第1幕 (2)
- 5回：発表とディスカッション：第1幕 (3)
- 6回：発表とディスカッション：第2幕 (1)
- 7回：発表とディスカッション：第2幕 (2)
- 8回：発表とディスカッション：第3幕 (1)
- 9回：発表とディスカッション：第3幕 (2)
- 10回：発表とディスカッション：第4幕 (1)
- 11回：発表とディスカッション：第4幕 (2)
- 12回：発表とディスカッション：第5幕 (1)
- 13回：発表とディスカッション：第5幕 (2)
- 14回：作品のまとめ・レポートについて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は、毎回テキスト該当箇所について予習してくる。また、発表者は、担当箇所の内容・批評的な観点についてまとめた資料を作成する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表:30% ディスカッションへの参加:30% 最終レポート割合：40%

履修者は、必ず一度以上の発表をすることが求められます。

### テキスト / Textbooks

William Shakespeare 著／柴田稔彦編注 『お気に召すまま』 大修館 1989 9784469142518 ○





## 演習 B4

### Seminars B4

『お気に召すまま』批評とアダプテーション

松田 幸子 (MATSUDA YOSHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM104
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、『お気に召すまま』の現在までの批評を概観し、この作品の上演や映画等の映像作品を鑑賞、議論することで、文化的・歴史的・地理的コンテキストから現代において文学テキストが持つ意味を、より具体的に理解することである。

The objectives of this lesson are to read critical essays about As You Like It, and to watch and discuss performance videos and films version of the play, in order to gain a more concrete understanding of the significance of the literary text in the present day from a cultural, historical and geographical context.

### 授業の内容 / Course Contents

『お気に召すまま』は、異性装や「この世界はすべてひとつの舞台」（2幕7場）という劇中の台詞から、従来、演劇性が強く読み込まれ、多くの上演・映画化がなされてきた。この授業では、この劇についてのこれまでの批評を概観したうえで、国内外における上演・映画を鑑賞し、そのアダプテーションの意義についてディスカッションを行う。また、それぞれの上演・映像作品の解釈をふまえ、『お気に召すまま』のアダプテーションについて、学期末に各自がプレゼンテーションを行う。

The play has traditionally been read as strongly theatrical, due to its cross-dressing motif and a line, "All the world's a stage" (2. 7), and has been performed and filmed in many productions. In this course, students will review criticism of the play, watch performances and films of the play, and discuss the significance of the adaptations. Each student will give a presentation at the end of the semester on a adaptation of the play, based on their interpretations of the performance and film they watch in the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：『お気に召すまま』批評 (1)
- 2 回：『お気に召すまま』批評 (2)
- 3 回：アダプテーション理論の解説
- 4 回：鑑賞とディスカッション：バジル・コールドマン監督『お気に召すまま』(1978) (1)
- 5 回：鑑賞とディスカッション：バジル・コールドマン監督『お気に召すまま』(1978) (2)
- 6 回：鑑賞とディスカッション：テア・シャロック演出『お気に召すまま』(2009) (1)
- 7 回：鑑賞とディスカッション：テア・シャロック演出『お気に召すまま』(2009) (2)
- 8 回：鑑賞とディスカッション：ケネス・ブラナー監督『お気に召すまま』(2006) (1)
- 9 回：鑑賞とディスカッション：ケネス・ブラナー監督『お気に召すまま』(2006) (2)
- 10 回：鑑賞とディスカッション：蜷川幸雄演出『お気に召すまま』(2004) (1)
- 11 回：鑑賞とディスカッション：蜷川幸雄演出『お気に召すまま』(2004) (2)
- 12 回：プレゼンテーション(1)
- 13 回：プレゼンテーション(2)
- 14 回：プレゼンテーションのまとめ・フィードバック

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

学期末のプレゼンテーションに向けて、各自、自分を取り扱う作品の関連資料等についての調査を進めること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加・授業での貢献:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

William Shakespeare 著／柴田稔彦編注 『お気に召すまま』 大修館書店 1989 9784469142518 -

### 参考文献 / Readings

授業内で指示、配布する。

## 演習 B 5

Seminars B5

イギリス帝国主義時代の小説演習

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本年度は、イギリスの帝国主義と植民地支配をめぐるエポック・メイキングな作品3つを精読します。19世紀後半から20世紀初頭は、欧米列強による植民地支配の絶頂期でした。なかんずくイギリス帝国は、世界全体にまたがる植民地のネットワークを築き上げ、「日の沈まぬ帝国」と呼ばれました。その繁栄の背後には、支配と被支配、「啓蒙」と「野蛮」、個々人のアイデンティティの強化と揺らぎといった深刻な問題が存在しました。同時代の小説は、それらを中心的なテーマとして取り上げました。

春学期は「支配者」側の視点で書かれた作品ふたつ、ラドヤード・キプリングの短編 'The Man Who Would be King' とジョウゼフ・コンラッドの中編 Heart of Darkness を読みます。これらの作品は、どちらも「支配者」の側の視点に立ちながら、その書かれ方、味わいは非常に異なります。その差異がどこから来るのかを考える中で、帝国主義の様々な側面が浮かび上がってくるでしょう。

This year, we will conduct close readings of three epoch-making works concerning British imperialism and colonialism. The period between the late nineteenth century and early twentieth century was when the colonial ruling of the world by Euro-American powers was at its prime. Especially, the British empire built a worldwide

network of colonies, which gained the nickname of 'an empire where the sun never sets.' Behind the empires' prosperity, there were such serious issues as ruling and being ruled, 'civilisation' and 'savagery,' and the reinforcement and crisis of the identity of the individuals. Many contemporary novels took them up as their main themes.

In the spring semester, we will read 'The Man Who could be King' by Rudyard Kipling and Heart of Darkness by Joseph Conrad. While both of them were written from the viewpoint of the 'rulers,' their writing methods and the feelings they inspire are very different. In considering how such differences arise, we will be able to examine the many faces of imperialism.

### 授業の内容 / Course Contents

ふたつの作品を、合わせて 12 セクションに分けます。

「発表者グループ」「翻訳グループ」「質問者グループ」のサイクルを割り当てます。それぞれの仕事は、以下の通り。

発表者グループ——グループ全員で協力して、(1) 担当箇所のあらすじ (2) 作品理解を促進する注解 [文化的・歴史的状況や固有名詞などについて] (3) 担当箇所の内容分析 をプリントにまとめ、コメントグループと教員には事前に手渡すかメール送信しておく。他の人々にはプリントを授業時に配布し、それをもとに発表を行なう。

質問グループ——発表者グループから受け取ったプリントをあらかじめ読んでおき、作品理解のための質問(クラス全員で検討する)を複数個考えておく。授業では、作品理解のための質問を質問グループから発表する。

翻訳グループ——作品に関連する英文をプリントで配布するので、個々人の翻訳を持ち寄って比較検討し、できるだけ質の良い訳文に統一してくる。授業で教員が添削とコメントを行なうので、訳文は授業の3日前までにメールで教員に提出のこと。

数回に一度、レスポンスペーパーを書いてもらいます。

The works will be divided into 12 sections.

A presentation group, a translation group, and a question group for each session will be appointed. All students will be assigned one presentation, one translation and one question task during the semester. The responsibilities of each group are as follows:

All members of the presenting group will work together to create a presentation containing (1) a summary of the assigned part of the text (2) notes to aid the understanding of the work [cultural and historical background, definitions of proper nouns, etc. and (3) an analysis of the assigned part. The presentation group must send their handout to both the commenting group and the teacher before the class session. The presenting group members will distribute their handout to the remainder of students on the day of the class and make a presentation.

The question group will read the handout in advance and prepare questions to improve the class' understanding of the work. After the presenting group finishes their presentation, members of the question group will provide their questions to the presenters.

The translating group will be responsible for translating English passages related to the work. The group will work together to prepare their best translation. The teacher will correct the translation and provide comments during class. The translation group is expected to email their completed translation to the teacher at least 3 days prior to the class.

All students will write several response papers over the duration of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：講読第1回  
 3回：講読第2回  
 4回：講読第3回  
 5回：講読第4回  
 6回：講読第5回  
 7回：講読第6回  
 8回：講読第7回  
 9回：講読第8回  
 10回：講読第9回  
 11回：講読第10回  
 12回：講読第11回  
 13回：講読第12回  
 14回：まとめのディスカッション

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の3グループ担当者以外の学生にも発言を求められることがあるので、単語・発音・文意などについて丹念に下調べをしておいてください。

毎回の内容を自分なりに整理し、次回のディスカッションに備えてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レスポンスペーパー：30% 授業への積極的貢献：30% 最終レポート割合：40%

#### テキスト / Textbooks

Joseph Conrad Heart of Darkness Penguin 2007 9780141441672 ○

キプリングの短編はプリントで配布します。

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示します。

#### その他 / Others

授業担当者より、受講生にお願いします。近年、私の聴力が漸減傾向にあるため、みなさんの肉声が聞き取りにくいことがあります。当授業での発言の際には『ゆっくりめ、はっきりめ、腹式呼吸の発声』を心掛けていただけると、たいへん助かります。

## 演習 B 6

### Seminars B6

#### ポスト帝国主義時代の小説演習

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM106
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本年度は、イギリスの帝国主義と植民地支配をめぐるエポック・メイキングな作品3つを精読します。19世紀後半から20世紀初頭は、欧米列強による植民地支配の絶頂期でした。なかんずくイギリス帝国は、世界全体にまたがる植民地のネットワークを築き上げ、「日の沈まぬ帝国」と呼ばれました。その繁栄の背後には、支配と被支配、「啓蒙」と「野蛮」、個々人のアイデンティティの強化と揺らぎといった深刻な問題が存在しました。同時代の小説は、それらを中心的なテーマとして取り上げました。

秋学期は、ナイジェリアの作家チヌア・アチェベによる *Things Fall Apart* を読みます。アチェベは第二次世界大戦後に盛んになっていったポスト・コロニアリズム文学の主要な書き手のひとりでした。春学期に扱うふたつの作品とは対照的に、*Things Fall Apart* は帝国によって支配される植民地の人々の視点から書かれています。アチェベはまた、我々が春学期に扱う作家のひとりジョウゼフ・コンラッドを厳しく批判したことで有名です。*Things Fall Apart* の精読によって、帝国主義と植民地についてより広いパースペクティブから精査し、政治的権力・人種・ジェンダーの諸問題についていっそう深く考察することができるでしょう。

This year, we will conduct close readings of three epoch-makings works concerning British imperialism and

colonialism. The period between the late nineteenth century and early twentieth century was when the colonial ruling of the world by Euro-American powers was at its prime. Especially, the British empire built a worldwide network of colonies, which gained the nickname of 'an empire where the sun never sets.' Behind the empires' prosperity, there were such serious issues as ruling and being ruled, 'civilisation' and 'savagery,' and the reinforcement and crisis of the identity of the individuals. Many contemporary novels took them up as their main themes.

In the spring semester, we will read *Things Fall Apart* by the Nigerian author Chinua Achebe. Achebe was one of the most important novelists in the post-colonialist literary movements, which burgeoned in the wake of the Second World War. In contrast to the two works we read in the spring semester, *Things Fall Apart* is written from the viewpoint of those who were ruled by the colonisers. Achebe is also known as a severe critic of Joseph Conrad, one of the authors we deal with in the spring semester. Examining *Things Fall Apart* will give us a chance to consider imperialism and colonialism in a wider perspective, and to think more deeply about the problematics of political power, identity and gender.

### 授業の内容 / Course Contents

作品を 12 セクションに分けます。

「発表者グループ」「翻訳グループ」「質問者グループ」のサイクルを割り当てます。それぞれの仕事は、以下の通り。

発表者グループ——グループ全員で協力して、(1) 担当箇所のあらすじ (2) 作品理解を促進する注解 [文化的・歴史的状況や固有名詞などについて] (3) 担当箇所の内容分析 をプリントにまとめ、コメントグループと教員には事前に手渡すかメール送信しておく。他の人々にはプリントを授業時に配布し、それをもとに発表を行なう。

質問グループ——発表者グループから受け取ったプリントをあらかじめ読んでおき、作品理解のための質問 (クラス全員で検討する) を複数個考えておく。授業では、作品理解のための質問を質問グループから発表する。

翻訳グループ——作品に関連する英文をプリントで配布するので、個々人の翻訳を持ち寄って比較検討し、できるだけ質の良い訳文に統一してくる。授業で教員が添削とコメントを行なうので、訳文は授業の 3 日前までにメールで教員に提出のこと。

数回に一度、レスポンスペーパーを書いてもらいます。

The work will be divided into 12 sections.

A presentation group, a translation group, and a question group for each session will be appointed. All students will be assigned one presentation, one translation and one question task during the semester. The responsibilities of each group are as follows:

All members of the presenting group will work together to create a presentation containing (1) a summary of the assigned part of the text (2) notes to aid the understanding of the work [cultural and historical background, definitions of proper nouns, etc. and (3) an analysis of the assigned part. The presentation group must send their handout to both the commenting group and the teacher before the class session. The presenting group members will distribute their handout to the remainder of students on the day of the class and make a presentation.

The question group will read the handout in advance and prepare questions to improve the class' understanding of the work. After the presenting group finishes their presentation, members of the question group will provide their questions to the presenters.

The translating group will be responsible for translating English passages related to the work. The group will



work together to prepare their best translation. The teacher will correct the translation and provide comments during class. The translation group is expected to email their completed translation to the teacher at least 3 days prior to the class.

All students will write several response papers over the duration of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講読第1回
- 3回：講読第2回
- 4回：講読第3回
- 5回：講読第4回
- 6回：講読第5回
- 7回：講読第6回
- 8回：講読第7回
- 9回：講読第8回
- 10回：講読第9回
- 11回：講読第10回
- 12回：講読第11回
- 13回：講読第12回
- 14回：まとめのディスカッション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の3グループ担当者以外の学生にも発言を求めることがあるので、単語・発音・文意などについて丹念に下調べをしておいてください。

毎回の内容を自分なりに整理し、次回のディスカッションに備えてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レスポンスペーパー:30% 授業への積極的貢献:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

Chinua Achebe Things Fall Apart Penguin 2001 9780141186887 ○

### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示します。

### その他 / Others

授業担当者より、受講生にお願いします。近年、私の聴力が漸減傾向にあるため、みなさんの肉声が聞き取りにくいことがあります。当授業での発言の際には『ゆっくりめ、はっきりめ、腹式呼吸の発声』を心掛けていただくと、たいへん助かります。

## 演習 B 7

Seminars B7

Introduction to American Postmodern Fiction and Theory

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

Learning how to read, interpret and write about postmodern American fiction and literary theory.

### 授業の内容 / Course Contents

Postmodern visions of the world, reality and imagination, fact and fiction, meta-narrative and metafiction, will be traced through a number of characteristic literary works. During this course the drama of the American postmodern experience will be analyzed, appreciated, and critiqued. Students are expected to attend class every week and participate actively in each of the class sessions. Students will be expected to complete all of the weekly readings and writing assignments. And all students are required to submit (and revise) a research paper on one of the texts discussed during the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： -Week 1: Course syllabus, class rules, and general introduction

Reading: John Barth, "The Literature of Exhaustion"

2 回： -Week 2: Donald Barthelme and Richard Brautigan

Reading: PAF 26-36; 38-41.

3回：-Week 3: William H. Gass and Kurt Vonnegut, Jr.

Reading: PAF 66-83; 85-93.

4回：-Week 4: Don DeLillo and Jean Baudrillard

Reading: PAF 527-36; 631-36.

5回：-Week 5: Lynne Tillman, Mark Leyner, and Fredric Jameson

Reading: PAF 121-24; 242-54; 654-64.

6回：-Week 6: Tim O'Brien and Curtis White

Reading: PAF 174-82; 256-62.

7回：-Week 7: Laurie Anderson and Robert Coover

Reading: PAF 216-25; 226-40.

8回：-Week 8: Leslie Marmon Silko, Sherman Alexie,  
and Trinh T. Minh-Ha

Reading: PAF 322-30; 342-44; 649-53.

9回：-Week 9: E. L. Doctorow and David Foster Wallace

Reading: PAF 332-37; 362-92.

10回：-Week 10: John Barth

Reading: PAF 416-43.

11回：-Week 11: William Gibson and Ursula K. Le Guin

Reading: PAF 512-18; 520-25.

12回：-Week 12: J. Yellowlees Douglas, Michael Joyce, and Terry Harpold

Reading: PAF 574-75; 577-80; 637-48.

13回：-Week 13: Joanna Russ, Shelley Jackson, and Donna Haraway

Reading: PAF 537-47; 603-21.

14回：Final Quiz

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will have reading assignments every week and will engage in research for the final report. Each session of the course will require at least 1~2 hours of reading, writing, and/or other preparation.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

P. Geyh, F. G. Leebron, and A. Levy Postmodern American Fiction: A Norton Anthology Norton 1998  
9780393316988 ○

必要部分のコピーを配布します。



## 演習 B 8

Seminars B8

Postmodern American Fiction: Robert Coover, Pricksongs & Descants (1969)

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

Learning how to critically interpret the American postmodern short story and write a coherent literary analysis.

### 授業の内容 / Course Contents

According to Robert Coover, an encounter with narrative not only involves a critical analysis of its fictionality, it also necessitates the recognition that: 'If storytelling is central to the human experience, stories about storytelling, or stories which talk about themselves as stories, become central, too'. In the works of Coover, this concept often plays out in novels that are painfully aware of their own fictional nature, in parody that cannibalizes its own species, and in stories – such as those collected in *Pricksongs & Descants* (1969) – which actually appear bent on causing lasting damage to the metaphors and narrative mechanisms being used by the author. This course will investigate these metaphors and mechanisms by looking carefully at a selection of stories from Coover's *Pricksongs & Descants*.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Week 1: Course syllabus, class rules, and general introduction

Reading: "The Door"

2回：Week 2: Pricksongs & Descants

Reading: "The Magic Poker"

3回：Week 3: Pricksongs & Descants

Reading: "The Gingerbread House"

4回：Week 4: Pricksongs & Descants

Reading: "Panel Game"

5回：Week 5: Pricksongs & Descants

Reading: "The Marker"

6回：Week 6: Pricksongs & Descants

Reading: "The Brother"

7回：Week 7: Pricksongs & Descants

Reading: "J's Marriage"

8回：Week 8: Pricksongs & Descants

Reading: "The Elevator"

9回：Week 9: Pricksongs & Descants

Reading: "Quenby and Ola, Swede and Carl"

10回：Week 10: Pricksongs & Descants

Reading: "The Milkmaid of Samaniego"

11回：Week 11: Pricksongs & Descants

Reading: "A Pedestrian Accident"

12回：Week 12: Pricksongs & Descants

Reading: "The Babysitter"

13回：Week 13: Pricksongs & Descants

Reading: "The Hat Act"

14回：Final Quiz

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will have reading assignments every week and will engage in research for the final report. Each session of the course will require at least 1~2 hours of reading, writing, and/or other preparation.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

Robert Coover Pricksongs & Descants Grove Press 2000 9780802136671 ○

### 参考文献 / Readings

## 演習 B9

Seminars B9

19世紀アメリカ文学における「奇妙な家族」

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の精読を通じ、語学的に正確に読解することはもちろん、作品の背後にある歴史的・文化的コンテキストに留意しながら作品解釈することを目指す。また、毎週のレスポンスペーパーの執筆を通じて、論理的な文章を書く力を涵養する。

Students in this course will improve their reading comprehension skills through conducting an intensive reading of American literary works and build their interpretations with a conscious understanding of the work's background, historical period, and literary contexts. In addition, students will cultivate their logical writing skills through weekly response papers.

### 授業の内容 / Course Contents

アメリカにおける「家族」とは何を意味するだろうか。建国時から現在にいたるまで、アメリカにおいて家族は重要な政治的メタファーとして機能し続けてきた。母国イギリスに反旗を翻し、「親から独立した若き子」として誕生したアメリカにとって、家族は自然と国家像を反映したものとなる。ジェファソン、ワシントンら建国に関わった政治家たちがアメリカ建国の理想を体現し、「建国の父」と称されることも、家族制度の政治化

の一例として見ることができる。

19世紀アメリカ文学に目を向けてみると、理想化され規範化された家族像からほど遠い「奇妙な家族」の姿が多く描写されている。本演習では姦通をテーマにした名作、Nathaniel Hawthorne, *The Scarlet Letter* (1850)を一学期かけて読み、本作品における家族表象について考察をする。規範的家族像から逸脱した家族の姿を考察することで、家族としてのアメリカ像、さらには「家族」という近代的社会制度に対する批評眼を養っていききたい。

What does "family" mean in the United States? From its founding to the present, the family has continued to function as an important political metaphor in the United States. For the United States, which rebelled against its mother country, Great Britain, and was born as a "young child independent of its parents," the family naturally reflects the image of the nation. The fact that Jefferson, Washington, and other politicians involved in the founding of the nation embodied the ideals of the American nation and are referred to as the "founding fathers" can be seen as an example of the politicization of the family system.

Turning to nineteenth-century American literature, there are many depictions of "strange families" that are far from the idealized and normative image of the family. In this seminar, we will spend a semester reading Nathaniel Hawthorne's *The Scarlet Letter* (1850), a masterpiece on the theme of adultery, and discuss the representations of family in this work. By examining the family as it deviates from the normative image of the family, we hope to develop a critical eye for the American family and the modern social institution of the "family."

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 1, 2
- 3回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 3, 4
- 4回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 5, 6
- 5回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 7, 8
- 6回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 9
- 7回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 10, 11
- 8回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 12
- 9回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 13, 14
- 10回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 15, 16
- 11回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 17, 18
- 12回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 19, 20
- 13回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 21, 22
- 14回：The Scarlet Letter 読解：Ch. 23, Conclusion

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

\* 学生主体のディスカッションが授業の中心となるので、毎回の授業準備を怠らないこと。積極的に発言する姿勢が求められる。



\*英語が難解なテキストなので、辞書を丹念に引きながら原文テキストを読むなど、英語の学習に対して忍耐強く、積極的な姿勢が求められる。

\*毎週 500 字程度のレスポンスペーパーの提出を義務付ける。

### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週のレスポンス・ペーパー:30% 発表:15% ディスカッションへの貢献度、授業への取り組み:15% 最終レポート割合 :40%

### **テキスト / Textbooks**

Nathaniel Hawthorne The Scarlet Letter Oxford University Press 2009 9780199537808 ○

テキストは必ず指定の版を入手すること。

### **参考文献 / Readings**

授業内で適宜指示する。

### **履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

個人発表・毎週のレスポンスペーパー執筆など、個人の主体性を重視する。クラス全体のディスカッションを行うが、ベースとなるのは受講生個々人が何を考えているかになるので、一人でじっくりものを考えたい学生に向いている授業となるだろう。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に集中する環境作りのため、特別な事情がないかぎり電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

# 演習 B10

Seminars B10

19 世紀アメリカ文学における「奇妙な家族」

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の精読を通じ、語学的に正確に読解することはもちろん、作品の背後にある歴史的・文化的コンテキストに留意しながら作品解釈することを目指す。また、毎週のレスポンスペーパーの執筆を通じて、論理的な文章を書く力を涵養する。

Students in this course will improve their reading comprehension skills through conducting an intensive reading of American literary works and build their interpretations with a conscious understanding of the work's background, historical period, and literary contexts. In addition, students will cultivate their logical writing skills through weekly response papers.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカにおける「家族」とは何を意味するだろうか。建国時から現在にいたるまで、アメリカにおいて家族は重要な政治的メタファーとして機能し続けてきた。母国イギリスに反旗を翻し、「親から独立した若き子」として誕生したアメリカにとって、家族は自然と国家像を反映したものとなる。ジェファソン、ワシントンら

建国に関わった政治家たちがアメリカ建国の理想を体現し、「建国の父」と称されることも、家族制度の政治化の一例として見るができる。

19世紀アメリカ文学に目を向けてみると、理想化され規範化された家族像からほど遠い「奇妙な家族」の姿が多く描写されている。本演習では19世紀アメリカ文学における代表的短編作品をいくつか読解し、規範的家族像から逸脱した家族の姿を考察することで、家族としてのアメリカ像、さらには「家族」という近代的社会制度に対する批評眼を養っていきたい。また、19世紀文学との比較対象として、20世紀における短編小説の大手、Raymond Carverによる短編も取り上げる。

What does "family" mean in the United States? From its founding to the present, the family has continued to function as an important political metaphor in the United States. For the United States, which rebelled against its mother country, Great Britain, and was born as a "young child independent of its parents," the family naturally reflects the image of the nation. The fact that Jefferson, Washington, and other politicians involved in the founding of the nation embodied the ideals of the American nation and are referred to as the "founding fathers" can be seen as an example of the politicization of the family system.

Turning to nineteenth-century American literature, there are many depictions of "strange families" that are far from the idealized and normative image of the family. In this seminar, we will spend a semester reading famous short stories by Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, Edgar Allan Poe, and others. By examining the family as it deviates from the normative image of the family, we hope to develop a critical eye for the American family and the modern social institution of the "family."

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Nathaniel Hawthorne, "Wakefield"
- 3回：Nathaniel Hawthorne, "My Kinsman, Major Molineux" (1)
- 4回：Nathaniel Hawthorne, "My Kinsman, Major Molineux" (2)
- 5回：Edgar Allan Poe, "The Fall of the House of Usher" (1)
- 6回：Edgar Allan Poe, "The Fall of the House of Usher" (2)
- 7回：Herman Melville, "Bartleby" (1)
- 8回：Herman Melville, "Bartleby" (2)
- 9回：Herman Melville, "Bartleby" (3)
- 10回：Mary E. Wilkins Freeman, "A New England Nun" & Kate Chopin, "The Story of an Hour"
- 11回：(番外編) Raymond Carver, "Where I'm Calling From" (1)
- 12回：(番外編) Raymond Carver, "Where I'm Calling From" (2)
- 13回：批評読解
- 14回：レポート質問受付

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

\* 学生主体のディスカッションが授業の中心となるので、毎回の授業準備を怠らないこと。積極的に発言する

姿勢が求められる。

\*英語が難解なテキストなので、辞書を丹念に引きながら原文テキストを読むなど、英語の学習に対して忍耐強く、積極的な姿勢

が求められる。

\*毎週 500 字程度のレスポンスペーパーの提出を義務付ける。

### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週のレスポンス・ペーパー:30% 発表:15% ディスカッションへの貢献度、授業への取り組み:15% 最終レポート割合 :40%

### **テキスト / Textbooks**

テキストはすべてコピーを配布する。

### **参考文献 / Readings**

授業内で適宜指示をする。

### **履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

個人発表・毎週のレスポンスペーパー執筆など、個人の主体性を重視する。クラス全体のディスカッションを行うが、ベースとなるのは受講生個々人が何を考えているかになるので、一人でじっくりものを考えたい学生に向いている授業といえるだろう。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に集中する環境作りのため、特別な事情がないかぎり電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

# 演習 B11

Seminars B11

J. D. Salinger を読む

小椋 道晃 (OGURA MICHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で書かれた文学作品を精読する技術と、要約する能力、論理的に自らの意見や考えをアウトプットできる能力を養う。英語力の向上を目指すと同時に、アメリカ文学・文化に関する幅広い知識を身につける。

This course will foster students' ability to create summaries, show them how to craft logical opinions, and teach them techniques for performing close readings of American literature. In addition to improving students' English ability, this course will also provide them with knowledge of American literature and culture.

## 授業の内容 / Course Contents

J. D. サリンジャーの代表作 *The Catcher in the Rye* (1951) のなかで、語り手ホールデン・コールフィールドは、アーネスト・ヘミングウェイよりも F・スコット・フィッツジェラルドを評価しています。そこで本演習では、サリンジャー、フィッツジェラルド両作家に共通する資質を探るべく、それぞれの代表作を精読します。

春学期は *The Catcher in the Rye* を扱います。モダニズムの時期から第二次対戦後のアメリカ史や文化についての基本的な知識を押さえつつ、様々な言語的工夫にも注意して多角的に作品を味わいます。また、サリンジ

ヤーについては、映画『ライ麦畑の反逆児 ひとりぼっちのサリンジャー』（2017）を学期の最初に鑑賞する予定です。

In J. D. Salinger's *The Catcher in the Rye* (1951), the narrator, Holden Caulfield, expresses a stronger admiration for F. Scott Fitzgerald over Ernest Hemingway. This seminar will closely explore the representative works of both Salinger and Fitzgerald to uncover the common traits they share.

Throughout the spring semester, we will engage in a comprehensive analysis of *The Catcher in the Rye*. While acquiring foundational knowledge about American history and culture from the Modernist period to the post-World War II era, we will also focus on various linguistic devices, appreciating the work from diverse perspectives. Additionally, we plan to commence the semester by watching the film *Rebel in the Rye* (2017), providing further insights into Salinger's creative process.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション、授業内容の説明
- 2 回：映画 *Rebel in the Rye* (2017) (『ライ麦畑の反逆児 ひとりぼっちのサリンジャー』(2019) )
- 3 回：The Catcher in the Rye 1 (ch.1-2)
- 4 回：The Catcher in the Rye 2 (ch.3-5)
- 5 回：The Catcher in the Rye 3 (ch.6-8)
- 6 回：The Catcher in the Rye 4 (ch.9-10)
- 7 回：The Catcher in the Rye 5 (ch.11-13)
- 8 回：The Catcher in the Rye 6 (ch.14-16)
- 9 回：The Catcher in the Rye 7 (ch.17-18)
- 10 回：The Catcher in the Rye 8 (ch.19-21)
- 11 回：The Catcher in the Rye 9 (ch.22-24)
- 12 回：The Catcher in the Rye 10 (ch.25-26)
- 13 回：全体のまとめ、レポート中間報告
- 14 回：\* 期末レポート提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 指定された範囲を原文で予習してくること。
- ・ 発表担当以外の受講者は毎回作品を読んだ際に生じた疑問点や感想を少なくとも3つ箇条書きにして用意し、クラスでのディスカッションに参加することが求められる。
- ・ 授業後に、受講者全員にリアクションペーパーの提出が求められる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    プレゼンテーション:30%    ディスカッションへの積極的参加・リアクション・ペーパーの内容:30%    最終レポート割合 :40%

演習形式なので、毎回の出席と十分な予習が前提となります。発表者の責任は重大ですが、その他の学生も授業内での積極的なディスカッションへの参加が要求されます。

4回以上の欠席者は言うまでもなく、出席をしていますが、予習をしてこない、あるいは著しくやる気のない学生には単位を認定しません。

### テキスト/Textbooks

J. D. Salinger The Catcher in the Rye Penguin 2010 0241950430 ○

教科書については、授業開始までに、各自必ず、丸善キャンパスショップ立教大学池袋店か amazon 等で購入しておくこと。

ページ数を合わせたいので、できる限り、指定した Penguin 版を購入してください。( Kindle 版は不可。)

また、翻訳でもよいので、あらかじめ作品を一読しておくことをおすすめします。

### 参考文献 / Readings

適宜、講義内で共有します。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

受講者の人数によって詳細を決めますが、毎回数人ずつのグループに担当を割り当て、各回のリーディングの内容を要約し、考察を書いたものをプリントで配布していただきます。担当者はしっかりとテキストを精読し、疑問点、留意点をまとめたプリントを用意すること。それを踏まえて、全員でディスカッションをし、テキストに対する理解をクラス全員で共有します。

## 演習 B12

Seminars B12

F. Scott Fitzgerald を読む

小椋 道晃 (OGURA MICHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

英語で書かれた文学作品を精読する技術と、要約する能力、論理的に自らの意見や考えをアウトプットできる能力を養う。英語力の向上を目指すと同時に、アメリカ文学・文化に関する幅広い知識を身につける。

This course will foster students' ability to create summaries, show them how to craft logical opinions, and teach them techniques for performing close readings of American literature. In addition to improving students' English ability, this course will also provide them with knowledge of American literature and culture.

### 授業の内容 / Course Contents

J. D. サリンジャーの代表作 *The Catcher in the Rye* (1951) のなかで、語り手ホールデン・コールフィールドは、アーネスト・ヘミングウェイよりも F・スコット・フィッツジェラルドを評価しています。そこで本演習では、サリンジャー、フィッツジェラルド両作家に共通する資質を探るべく、それぞれの代表作を精読します。

秋学期は *The Great Gatsby* (1925) を扱います。モダニズム期の文学についての基本的な知識を押さえつつ、様々な言語的工夫にも注意して多角的に作品を味わいます。原作を読み終えたのち、1974 年と 2013 年版の映



画『華麗なるギャツビー』を鑑賞し、比較検討する予定です。

In J. D. Salinger's *The Catcher in the Rye* (1951), the narrator, Holden Caulfield, expresses a stronger admiration for F. Scott Fitzgerald over Ernest Hemingway. This seminar will closely explore the representative works of both Salinger and Fitzgerald to uncover the common traits they share.

Throughout the fall semester, we will engage in a comprehensive analysis of *The Great Gatsby*. While acquiring foundational knowledge about American history and culture during the Modernist period, we will also focus on various linguistic devices, appreciating the work from diverse perspectives. Additionally, we plan to watch two film adaptations of *The Great Gatsby* (1974, 2013) and analyze them in comparison with the original story.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション、授業内容の説明

2回：The Great Gatsby 1

3回：The Great Gatsby 2

4回：The Great Gatsby 3

5回：The Great Gatsby 4

6回：The Great Gatsby 5

7回：The Great Gatsby 6

8回：The Great Gatsby 7

9回：The Great Gatsby 8

10回：The Great Gatsby 9

11回：The Great Gatsby 10

12回：映画分析(1) 1974年

13回：映画分析(2) 2013年

14回：まとめ、レポート中間報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・指定された範囲を原文で予習してくること。
- ・発表担当以外の受講者は毎回作品を読んだ際に生じた疑問点や感想を少なくとも3つ箇条書きにして用意し、クラスでのディスカッションに参加することが求められる。
- ・授業後に、受講者全員にリアクションペーパーの提出が求められる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの積極的参加・リアクション・ペーパーの内容:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

演習形式なので、毎回の出席と十分な予習が前提となります。発表者の責任は重大ですが、その他の学生も授業内での積極的なディスカッションへの参加が要求されます。

4回以上の欠席者は言うまでもなく、出席をしていますが、予習をしてこない、あるいは著しくやる気のない学

生には単位を認定しません。

### テキスト/ Textbooks

F. Scott Fitzgerald The Great Gatsby Penguin Modern Classics 2000 0141182636 ○

教科書については、授業開始までに、各自必ず、丸善キャンパスショップ立教大学池袋店か amazon 等で購入しておくこと。

ページ数を合わせたいので、できる限り、指定した Penguin 版を購入してください。( Kindle 版は不可。)

また、翻訳でもよいので、あらかじめ作品を一読しておくことをおすすめします。

### 参考文献 / Readings

適宜、講義内で共有します。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

受講者の人数によって詳細を決めますが、毎回数人ずつのグループに担当を割り当て、各回のリーディングの内容を要約し、考察を書いたものをプリントで配布していただきます。担当者はしっかりとテキストを精読し、疑問点、留意点をまとめたプリントを用意すること。それを踏まえて、全員でディスカッションをし、テキストに対する理解をクラス全員で共有します。

## 演習 B13

Seminars B13

アメリカの女性文学にみるポリアモリーの主題

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、他者に対する個人的かつ社会的な想像力を養うとともに、日本語と英語の双方による自己表現能力を高めます。

Through the intensive reading of literary texts, students will cultivate a personally/socially imaginative understanding of those who have different values and backgrounds from their own. In doing so, they will enhance self-expression skills in both Japanese and English.

### 授業の内容 / Course Contents

夫婦であれ恋人であれ、人間は一对一で結ばれるべきとするモノガミーの概念に対し、同時に複数の親密な関係性を構築するというモードはポリアモリーと呼ばれ、近年のアメリカで急速に市民権を得つつある。このような考え方はとりわけ、結婚制度や異性愛規範に縛られやすい女性にとって重要な意味を持つものであり、アメリカ文学においても、多くの女性作家たちが（少なくとも潜在的に）このテーマを古くから探求してきたことは注目に値する。本授業では、そうした水脈の一端を見定めるべく、『目覚め』で知られるフェミニスト作家のケイト・ショパンが書きたいくつかの短編と、時代を下って 1950 年代、アナイス・ニンが書いた『愛の家

のスパイ』を取り上げる。

あらかじめ指名された担当者チームは、隔週にて、授業日の4日前までに、担当作品の内容解釈に関する質問2つを用意する。受講者は全員、その質問のうちひとつを選び、授業日当日の正午までに Canvas LMS 経由で筆記回答をあらかじめ提出する。授業時には、担当者チームがレジユメを用意して、取り上げる作品の内容を要約したうえで、難解な英語表現には語注を付して解説する。その後、自分が選んだ質問に関するグループ・ディスカッションをおこなったのち、クラス全体で2つの質問に関する議論を行う。筆記回答については、次週授業時まで、担当教員が各受講者にコメントを返す。

Whether in marriage or as romantic partners, the concept of monogamy dictates that humans should be bound in one-on-one relationships. In contrast, the mode of building multiple intimate relationships simultaneously is referred to as polyamory, a concept rapidly gaining acceptance in contemporary America. This perspective holds particular significance for women who may feel constrained by marital institutions and heteronormative standards. In American literature, many female writers have (at least implicitly) explored this theme over the years. To gain insight into this undercurrent, we will examine a selection of short stories written by feminist author Kate Chopin, renowned for *The Awakening*, and venture into the 1950s with Anais Nin's *A Spy in the House of Love*.

Every other week, assigned teams will prepare a couple of questions about interpretive possibilities of the assigned text 4 days prior to the class meeting, and class participants will answer one of the questions in written form on Canvas LMS by the day before the class meeting. During class hours, assigned teams will distribute handouts for the class containing a summary and detailed linguistic explications of the assigned text. Then, students will participate in a group discussion about one of the two questions, followed by a class debate about each question. Written answers to the questions will be returned to each student the following week with the instructor's comments.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：Kate Chopin の短編を読む (1)
- 3 回：Kate Chopin の短編を読む (2)
- 4 回：Kate Chopin の短編を読む (3)
- 5 回：Kate Chopin の短編を読む (4)
- 6 回：Kate Chopin の短編を読む (5)
- 7 回：Kate Chopin の短編を読む (6)
- 8 回：Anais Nin, *A Spy in the House of Love* を読む (1)
- 9 回：Anais Nin, *A Spy in the House of Love* を読む (2)
- 10 回：Anais Nin, *A Spy in the House of Love* を読む (3)
- 11 回：Anais Nin, *A Spy in the House of Love* を読む (4)
- 12 回：Anais Nin, *A Spy in the House of Love* を読む (5)
- 13 回：Anais Nin, *A Spy in the House of Love* を読む (6)
- 14 回：レポート中間報告会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート: ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、全員、事前に作品テキストを精読し、疑問点を整理したうえで授業にのぞむこと（疑問は教室で共有して解決するので、疑問の答えは分からなくてよい）。なお、予習には、KOD（Kenkyusha Online Dictionary）の利用を推奨する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の筆記回答:30% 担当発表ならびに質疑・討論による授業参加:30% 最終  
レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

Anais Nin A Spy in the House of Love Penguin Classics 2001 9780141183718 ○

### 参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

# 演習 B14

Seminars B14

アメリカの女性文学にみるポリアモリーの主題

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM114

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通して、他者に対する個人的かつ社会的な想像力を養うとともに、日本語と英語の双方による自己表現能力を高めます。

Through the intensive reading of literary texts, students will cultivate a personally/socially imaginative understanding of those who have different values and backgrounds from their own. In doing so, they will enhance self-expression skills in both Japanese and English.

## 授業の内容 / Course Contents

夫婦であれ恋人であれ、人間は一对一で結ばれるべきとするモノガミーの概念に対し、同時に複数の親密な関係性を構築するというモードはポリアモリーと呼ばれ、近年のアメリカで急速に市民権を得つつある。このような考え方はとりわけ、結婚制度や異性愛規範に縛られやすい女性にとって重要な意味を持つものであり、アメリカ文学においても、多くの女性作家たちが（少なくとも潜在的に）このテーマを古くから探求してきたことは注目に値する。本授業では、そうした水脈の一端を見定めるべく、アフリカ系アメリカ人劇作家であるスーザン＝ロリ・パークスの『血の中に』（1999）と『ファッキング A』（2000）を取り上げる。これら 2 作

は、米文学の古典であるホーソンの『緋文字』（1850）を下敷きにしたポストモダン演劇作品であり、両者をあわせて「赤い文字の劇」と称されている。

あらかじめ指名された担当者チームは、隔週にて、授業日の4日前までに、担当作品の内容解釈に関する質問2つを用意する。受講者は全員、その質問のうちひとつを選び、授業日当日の正午までにCanvas LMS 経由で筆記回答をあらかじめ提出する。授業時には、担当者チームがレジユメを用意して、取り上げる作品の内容を要約したうえで、難解な英語表現には語注を付して解説する。その後、自分が選んだ質問に関するグループ・ディスカッションをおこなったのち、クラス全体で2つの質問に関する議論を行う。筆記回答については、次週授業時まで、担当教員が各受講者にコメントを返す。

Whether in marriage or as romantic partners, the concept of monogamy dictates that humans should be bound in one-on-one relationships. In contrast, the mode of building multiple intimate relationships simultaneously is referred to as polyamory, a concept rapidly gaining acceptance in contemporary America. This perspective holds particular significance for women who may feel constrained by marital institutions and heteronormative standards. In American literature, many female writers have (at least implicitly) explored this theme over the years. To gain insight into this undercurrent, we will examine Suzan-Lori Parks's *In the Blood* (1999) and *Fucking A* (2000). These two works are postmodern theatrical pieces based on Nathaniel Hawthorne's *The Scarlet Letter* (1850), and together they are referred to as "The Red Letter Plays."

Every other week, assigned teams will prepare a couple of questions about interpretive possibilities of the assigned text 4 days prior to the class meeting, and class participants will answer one of the questions in written form on Canvas LMS by the day before the class meeting. During class hours, assigned teams will distribute handouts for the class containing a summary and detailed linguistic explications of the assigned text. Then, students will participate in a group discussion about one of the two questions, followed by a class debate about each question. Written answers to the questions will be returned to each student the following week with the instructor's comments.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：Suzan-Lori Parks, *In the Blood* を読む (1)
- 3 回：Suzan-Lori Parks, *In the Blood* を読む (2)
- 4 回：Suzan-Lori Parks, *In the Blood* を読む (3)
- 5 回：Suzan-Lori Parks, *In the Blood* を読む (4)
- 6 回：Suzan-Lori Parks, *In the Blood* を読む (5)
- 7 回：Suzan-Lori Parks, *In the Blood* を読む (6)
- 8 回：Suzan-Lori Parks, *Fucking A* を読む (1)
- 9 回：Suzan-Lori Parks, *Fucking A* を読む (2)
- 10 回：Suzan-Lori Parks, *Fucking A* を読む (3)
- 11 回：Suzan-Lori Parks, *Fucking A* を読む (4)
- 12 回：Suzan-Lori Parks, *Fucking A* を読む (5)
- 13 回：Suzan-Lori Parks, *Fucking A* を読む (6)
- 14 回：レポート中間報告会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド (パワー等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○  
 実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
 上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、全員、事前に作品テキストを精読し、疑問点を整理したうえで授業にのぞむこと（疑問は教室で共有して解決するので、疑問の答えは分からなくてよい）。なお、予習には、KOD（Kenkyusha Online Dictionary）の利用を推奨する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の筆記回答:30% 担当発表ならびに質疑・討論による授業参加:30% 最終  
 レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

Suzan-Lori Parks The Red Letter Plays Theatre Communications Group 2001 9781559361958 ○

### 参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。



# 演習 B15

Seminars B15

ロバート・フロストの世界 1

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ロバート・フロストは 20 世紀アメリカを代表する国民的詩人でした。平易な日常語を滑らかに連ねたその作品は、広く愛唱され、学校教育にふさわしい教材として各地の教室で教えられてきました。同時に、専門家を呻らせる奥行きも備えていて、多くの研究者がその深部の解明を試みてきました。フロスト最大の特徴は、この両面性にあるといえます。

そこで本科目では、フロスト詩にみられる伝統的な韻律の用法を確認しながら、じつは一筋縄ではいかないその詩想を分析します。そうすることによって、カリキュラム・マップに示された「英米文学の知識と方法論を統合」し、高度な「議論・発表・レポート作成」を実現することを目指します。

Robert Frost stands as a representative national poet of 20th-century America. His works, smoothly woven out of plain everyday language, have been widely cherished and taught in classrooms across the U. S. as fitting materials for school education. Simultaneously, they possess a depth that challenges critics, promoting many scholars to attempt unraveling the intricacies of his poetry. Frost's primary characteristic lies in this dual nature.

This course aims to analyze the unconventional poetic philosophy observed in Frost's poems, all while

examining the traditional rhymes and meters employed in his poetry. Through this exploration, we strive to integrate “knowledge and methodology of English and American literature,” as indicated in the Curriculum Map, and achieve advanced skills in “discussion, presentation, and report writing.”

### 授業の内容 / Course Contents

【本演習は演習 B16 とセットで開講される半期完結の授業（週 2 コマ、4 単位）であり、2 単位のみ履修はできないので注意すること】

本演習では、第一詩集 A Boy's Will (1913) と第二詩集 North of Boston (1914) に収められた作品の一部を読んでいきます。それらの中には短いソネット形式の詩も含まれていれば、比較的ながい対話詩も含まれています。たしかにそれらが書かれたのは 30 代の時でした。けれども、どの作品にもすでにフロスト一流の個性が確立されていて驚かされます。なお、フロストを取り巻いていたアメリカの文化や社会についてもしばしば光を当ててゆきます。文化や社会が理解できなければ、文学を理解したことにはなりません。

本演習は、あらかじめ定められた担当者がハンドアウトに基づいて発表することによって進められます。担当でない参加者もみずからすすんで 翫味しなければなりません。

【This seminar is offered in conjunction with Seminar B16 (2 classes per week, 4 credits). Please note that taking only 2 credits is not permitted.】

In this seminar, we will explore selected works from Robert Frost's first poetry collection, A Boy's Will (1913), and the second collection, North of Boston (1914). These include brief sonnets as well as relatively long dialogue poems. Despite being early works from his thirties, each piece already reflects Frost's distinctive style, a fact that never fails to astonish. Additionally, we will frequently shed light on the American culture and society that surrounded Frost during his lifetime. Understanding literature is inseparable from understanding the culture and society it emerges from.

The seminar will be conducted through presentations by designated students based on the provided handouts. However, all participants, regardless of their presentation duties, are expected to actively engage and appreciate the materials on their own.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction、フロスト略伝
- 2 回：英語詩の基本
- 3 回：“The Pasture,” “The Tuft of Flowers”
- 4 回：“Waiting Afield at Dusk,” “Mowing”
- 5 回：“Mending Wall”
- 6 回：“The Death of the Hired Man” ll. 1–43
- 7 回：“The Death of the Hired Man” ll. 44–87
- 8 回：“The Death of the Hired Man” ll. 88–129
- 9 回：“The Death of the Hired Man” ll. 130–167
- 10 回：“Home Burial” ll. 1–38
- 11 回：“Home Burial” ll. 39–78
- 12 回：“Home Burial” ll. 79–116
- 13 回：“After Apple-Picking”
- 14 回：Recapitulation

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

準備学習の指示は、履修登録完了後にオンラインでおこないます。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・応答:60% 最終レポート割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

プリントを配布します。

**参考文献 / Readings**

Steven Croft, ed. Robert Frost: Selected Poems Oxford UP 2011 0198325711

Mordecai Marcus, ed. The Poems of Robert Frost: An Explication Apocryphile 2006 0977146154

Mark Richardson et al., eds. Robert Frost: Collected Poems, Prose, & Plays Library of America 1995  
9781883011062

# 演習 B16

Seminars B16

ロバート・フロストの世界 2

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ロバート・フロストは 20 世紀アメリカを代表する国民的詩人でした。平易な日常語を滑らかに連ねたその作品は、広く愛唱され、学校教育にふさわしい教材として各地の教室で教えられてきました。同時に、専門家を呻らせる奥行きも備えていて、多くの研究者がその深部の解明を試みてきました。フロスト最大の特徴は、この両面性にあるといえます。

そこで本科目では、フロスト詩にみられる伝統的な韻律の用法を確認しながら、じつは一筋縄ではいかないその詩想を分析します。そうすることによって、カリキュラム・マップに示された「英米文学の知識と方法論を統合」し、高度な「議論・発表・レポート作成」を実現することを目指します。

Robert Frost stands as a representative national poet of 20th-century America. His works, smoothly woven out of plain everyday language, have been widely cherished and taught in classrooms across the U. S. as fitting materials for school education. Simultaneously, they possess a depth that challenges critics, promoting many scholars to attempt unraveling the intricacies of his poetry. Frost's primary characteristic lies in this dual nature.

This course aims to analyze the unconventional poetic philosophy observed in Frost's poems, all while

examining the traditional rhymes and meters employed in his poetry. Through this exploration, we strive to integrate “knowledge and methodology of English and American literature,” as indicated in the Curriculum Map, and achieve advanced skills in “discussion, presentation, and report writing.”

### 授業の内容 / Course Contents

【本演習は演習 B15 とセットで開講される半期完結の授業（週 2 コマ、4 単位）であり、2 単位のみ履修はできないので注意すること】

本演習では、第三詩集 Mountain Interval (1916)以降の詩集に集められた詩作を中心に読んでいきます。フロストの詩作は、この頃から“West-Running Brook” (1928)のような例外を除いて対話詩の位置が低下し、ソネットの数が相対的に増えてゆく。本演習でも、ソネット詩人としてのフロストの新しい技法を確認しながら、絡みあって複雑な詩想に光を当てる予定。

本演習は、あらかじめ定められた担当者がハンドアウトに基づいて発表することによって進められます。担当でない参加者もみずからすすんで 翫味しなければなりません。

【This seminar is offered in conjunction with Seminar B15 (2 classes per week, 4 credits). Please note that taking only 2 credits is not permitted.】

In this seminar, we will primarily focus on reading poems gathered in Robert Frost’s poetry collections from his third collection, Mountain Interval (1916), onwards. Around this period, with few exceptions like “West-Running Brook” (1928), Frost’s use of dialogue poems declined, and there was a relative increase in the number of sonnets. In this seminar, we will explore Frost’s innovative techniques as a sonneteer, illuminating the complexities of his intricately woven poetic philosophy.

The seminar will be conducted through presentations by designated students based on the provided handouts. However, all participants, regardless of their presentation duties, are expected to actively engage and appreciate the materials on their own.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction、アメリカ詩史とフロスト、ソネット
- 2 回：MLA Style の基本、英語論文検索法
- 3 回：“The Wood-pile”
- 4 回：“The Road Not Taken,” “The Oven Bird”
- 5 回：“An Old Man's Winter Night,” “The Cow in Apple Time”
- 6 回：“Birches”
- 7 回：“Out, Out–”
- 8 回：“Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “Tree at My Window”
- 9 回：“Two Look at Two”
- 10 回：“Acquainted with the Night,” “Desert Places”
- 11 回：“A Leaf Treader,” “Neither Out Far nor in Deep”
- 12 回：“Design,” “Provide, Provide”
- 13 回：“The Most of It,” “The Silken Tent”
- 14 回：Recapitulation

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後にオンラインでおこないます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・応答:60% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

Steven Croft, ed. Robert Frost: Selected Poems Oxford UP 2011 0198325711

Mordecai Marcus, ed. The Poems of Robert Frost: An Explication Apocryphile 2006 0977146154

Mark Richardson et al., eds. Robert Frost: Collected Poems, Prose, & Plays Library of America 1995  
9781883011062

# 演習 B17

Seminars B17

英語発達史

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM117  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL3813  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語史の基礎知識を身につけながら、英語の特質や、英語の語源、比較言語学、英語圏の歴史や文化についての造詣を深める。

Objectives of this course are to learn basics of English historical linguistics and to acquire a deeper understanding of features and peculiarities of the English language as well as that of the history and culture of the English-speaking world.

## 授業の内容 / Course Contents

英語史を中心的なテーマとして扱った書籍（英文）を講読しながら、英語史と関連する諸問題について、受講者の発表やそれに基づくディスカッションを通じて造詣を深めるとともに、英語学（特に英語史）分野における研究の基礎を身につける。扱う内容は、英語の歴史そのものに加え、古英語、中英語、英語語源学、比較言語学、英国史、英国文化史など多岐にわたる。

We will read a book dealing with various aspects of the history of the English language and have presentations and discussions on the issues related to the topic of each class. Through this process, students will acquire

general knowledge on the history of English as well as basic research skills in the field. Apart from the history of English itself, issues related to the following are also addressed during the course: Old and Middle English language and literature, etymology, comparative linguistics, the history and culture of the English-speaking world.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読およびディスカッション1
- 3回：文献講読およびディスカッション2
- 4回：文献講読、ディスカッションおよび発表1
- 5回：文献講読、ディスカッションおよび発表2
- 6回：文献講読、ディスカッションおよび発表3
- 7回：文献講読、ディスカッションおよび発表4
- 8回：文献講読、ディスカッションおよび発表5
- 9回：文献講読、ディスカッションおよび発表6
- 10回：文献講読、ディスカッションおよび発表7
- 11回：文献講読、ディスカッションおよび発表8
- 12回：文献講読、ディスカッションおよび発表9
- 13回：文献講読、ディスカッションおよび発表10
- 14回：文献講読、ディスカッションおよび発表11

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回に読むテキストについては、発表等が当たっている場合はもちろんのこと、そうでない場合も、必ず一度目を通し、内容を把握するとともに、問題点や疑問点などを予め見つけておき、それについて授業中に発言できるようにしておいてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献度（発表以外）：40% 授業内発表：20% レポート：40%

### テキスト / Textbooks

David Crystal The Stories of English Penguin Books 2005 9780141015934 -

教科書については購入する必要はありません。必要な箇所をプリントとして配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献については、授業内で適宜紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語で本が読めること。また、入門講義1や文学講義1で扱われた英語学の基礎知識が身につけていること。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。



# 演習 B18

Seminars B18

英語発達史

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM118
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

英語史の基礎知識を身につけながら、英語の特質や、英語の語源、比較言語学、英語圏の歴史や文化についての造詣を深める。

Objectives of this course are to learn basics of English historical linguistics and to acquire a deeper understanding of features and peculiarities of the English language as well as that of the history and culture of the English-speaking world.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、英語史を中心的なテーマとして扱った書籍（英文）を講読しながら、英語史と関連する諸問題について、受講者の発表やそれに基づくディスカッションを通じて造詣を深めるとともに、英語学（特に英語史）分野における研究の基礎を身につける。扱う内容は、英語の歴史そのものに加え、古英語、中英語、英語語源学、比較言語学、英国史、英国文化史など多岐にわたる。

We will read a book dealing with various aspects of the history of the English language and have presentations and discussions on the issues related to the topic of each class. Through this process, students will acquire

general knowledge on the history of English as well as basic research skills in the field. Apart from the history of English itself, issues related to the following are also addressed during the course: Old and Middle English language and literature, etymology, comparative linguistics, the history and culture of the English-speaking world.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読およびディスカッション1
- 3回：文献講読およびディスカッション2
- 4回：文献講読、ディスカッションおよび発表1
- 5回：文献講読、ディスカッションおよび発表2
- 6回：文献講読、ディスカッションおよび発表3
- 7回：文献講読、ディスカッションおよび発表4
- 8回：文献講読、ディスカッションおよび発表5
- 9回：文献講読、ディスカッションおよび発表6
- 10回：文献講読、ディスカッションおよび発表7
- 11回：文献講読、ディスカッションおよび発表8
- 12回：文献講読、ディスカッションおよび発表9
- 13回：文献講読、ディスカッションおよび発表10
- 14回：文献講読、ディスカッションおよび発表11

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回に読むテキストについては、発表等が当たっている場合はもちろんのこと、そうでない場合も、必ず一度目を通し、内容を把握するとともに、問題点や疑問点などを予め見つけておき、それについて授業中に発言できるようにしておいてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献度（発表以外）：40% 授業内発表：20% レポート：40%

### テキスト / Textbooks

David Crystal The Stories of English Penguin Books 2005 9780141015934 -

教科書については購入する必要はありません。必要な箇所をプリントとして配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献については、授業内で適宜紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語で本が読めること。また、入門講義1や文学講義1で扱われた英語学の基礎知識が身につけていること。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

# 演習 B19

Seminars B19

英文法論

小池 剛史 (KOIKE TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM119
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	学生発表および講義
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、英語使用者を対象にした英語で書かれた英文法書の一部を読み解き、日本の中高で教えられている英文法の内容を、日本の中高で教わってきた英文法とは異なる枠組みで理解し、それを発表を通して口頭で、また筆記試験を通して文章の形で説明できるようになることです。この授業で特に扱う内容は、動詞の活用形、時制や助動詞を用いた様々な動詞構造の用法です。

The aim of this course is to look at part of an English grammar book aimed at English speakers, and understand at how the English grammar is described there differently from the way it is explained in so-called "school grammar" often taught in Japanese school, and for students to be able to explain it both orally (in oral presentation) AND in writing (in written exam) .

## 授業の内容 / Course Contents

英語圏の大学の学部 1, 2 年生が使用している英文法書が主要テキストです。皆さんが中高で学んできたような英文法の用語は英語で何というのか、また英文法の様々な規則が英語でどのように説明されているか、等を学ぶことで、私たちの英文法に理解を深めていきたいと思っています。この演習では特に、動詞の屈折変化と時

制の用法に焦点を当てます。最初の数回の授業は、小池による講義+ディスカッションで進めます。以降からはグループによる発表で授業を進めます。授業は日本語で行います。

成績評価とは関係ありませんが、授業の冒頭で、グループ発表者は発表当日の授業冒頭で、一分間スピーチをします。トピックは特に問いませんが、本授業履修生にとって、何かプラスになるようなことを意識して話をしてください。

We will use an English grammar that is used at university in English-speaking countries for 1st and 2nd undergraduates. We will learn how various grammatical concepts are explained and also see different approaches taken to explain the grammar. This course this year will specifically focus on verbal inflection and the uses of the tense system. The first few weeks will be taught by the instructor. For the rest of the weeks there will be students' presentation and the lecture.

In each class we ask students to give a short speech (on the day of presentation). You can choose your own topic, and please thinking of something (your experience, your thought, etc.) that will enlighten your fellow students!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション（発表者担当発表）；英語という言語について
- 2 回：標準英語；書き言葉と話し言葉；イギリス英語とアメリカ英語（変種）；文体
- 3 回：記述文法と規範文法；文法用語の定義
- 4 回：語彙素と語形；語彙範疇；句範疇；主要部と従属部；動詞と動詞句
- 5 回：動詞の屈折変化（活用）
- 6 回：語形の同じ屈折変化
- 7 回：助動詞
- 8 回：定形節と非定形節
- 9 回：法助動詞；助動詞にも語彙動詞にもなる動詞
- 10 回：完結的解釈と非完結的解釈；現在時制
- 11 回：過去時制
- 12 回：完了
- 13 回：進行相
- 14 回：法性と法助動詞

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業前に、その日に扱うテキストの個所を熟読しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループ発表:40% 平常点:20% レポート:40%

### テキスト / Textbooks

Rodney Haddleston, Geoffrey K. Pullum, & Brett Reynolds A Student's Introduction to English Grammar

(2nd edition) Cambridge University Press 2022年 9781009088015 -

必要に応じてコピーを配布します。

### 参考文献 / Readings

Rodney Huddleston & Geoffrey K. Pullum The Cambridge Grammar of the English Language Cambridge University Press 2002年 9780521431460

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語で書かれたテキストを読み解く基本的英語能力と、他の学生の前で口頭発表するためのプレゼンテーションの力、レジュメを作成するにあたり、関連する他の文献資料を調べる力が求められます。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に際しては、辞書等以外に必要な機器はありません。

### その他/ Others

授業の基本は、授業への出席です。就活、病気等による欠席も含め（教育実習による欠席は除く）、欠席が4回を超えた場合には、定期試験の成績に関わらず単位を出すことはできませんので、ご注意ください。グループ発表については、発表の一週間前に昼休み時間を使って、私と発表内容理解のための打ち合わせをします。発表前にあらかじめレジュメを作成してください。この授業の評価にあたって、発表は40%と大きな部分を成しています。発表当日、病気等で発表できなくなった場合には、別日に発表して頂くことがあります。

## 演習 B20

Seminars B20

英文法論

小池 剛史 (KOIKE TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM120
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	学生発表＋講義
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、英語使用者を対象にした英語で書かれた英文法書の一部を読み解き、日本の中高で教えられている英文法の内容を、日本の中高で教わってきた英文法とは異なる枠組みで理解し、それを発表を通して口頭で、また筆記試験を通して文章の形で説明できるようになることです。この授業で特に扱う内容は、前置詞の用法と前置詞句構造です。

The aim of this course is to look at part of an English grammar book aimed at English speakers, and understand at how the English grammar is described there differently from the way it is explained in so-called "school grammar" often taught in Japanese school, and for students to be able to explain it both orally (in oral presentation) AND in writing (in written exam) . The grammar topic that will be dealt with in this course is the usage of English prepositions and the structure of prepositional phrases.

### 授業の内容 / Course Contents

英語圏の大学の学部 1, 2 年生が使用している英文法書が主要テキストです。皆さんが中高で学んできたような英文法の用語は英語で何というのか、また英文法の様々な規則が英語でどのように説明されているか、等を学

ぶことで、私たちの英文法に理解を深めていきたいと思っています。この演習では特に、前置詞の用法と前置詞構造に焦点を当てます。最初の数回の授業は、小池による講義+ディスカッションで進めます。以降からはグループによる発表で授業を進めます。授業は日本語で行います。

成績評価とは関係ありませんが、授業の冒頭で、グループ発表者は発表当日の授業冒頭で、一分間スピーチをします。トピックは特に問いませんが、本授業履修生にとって、何かプラスになるようなことを意識して話をしてください。

We will use an English grammar that is used at university in English-speaking countries for 1st and 2nd undergraduates. We will learn how various grammatical concepts are explained and also see different approaches taken to explain the grammar. This course this year will specifically focus on the uses of English preposition and the structure of prepositional phrases. The first few weeks will be taught by the instructor. For the rest of the weeks there will be students' presentation and the lecture.

In each class we ask students to give a short speech (on the day of presentation). You can choose your own topic, and please thinking of something (your experience, your thought, etc.) that will enlighten your fellow students!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション：発表グループ分け；

前置詞とは？

2回：前置詞の特徴

3回：前置詞の範疇の拡大：前置詞と接続詞

4回：前置詞と副詞

5回：前置詞という範疇

6回：前置詞と形容詞

7回：前置詞と動詞

8回：前置詞の文法化した用法

9回：前置詞残留

10回：前置詞句の構造：前置詞の補部

11回：前置詞句の構造：前置詞の修飾部

12回：句構造の中の前置詞句の働き；化石化

13回：不変化詞；動詞と前置詞のイディオム

14回：群前置詞について

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で扱うテキストの英文をしっかりと熟読しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループ発表:40% 平常点:20% レポート:40%

#### テキスト/ Textbooks

Rodney Haddleston, Geoffrey K. Pullum, & Brett Reynolds A Student's Introduction to English Grammar (2nd edition) Cambridge University Press 2022年 9781009088015 -

#### 参考文献 / Readings

Rodney Haddleston & Geoffrey K. Pullum The Cambridge Grammar of the English Grammar Cambridge University Press 2002年 0521431468

#### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語で書かれたテキストを読み解く基本的英語能力と、他の学生の前で口頭発表するためのプレゼンテーションの力、レジュメを作成するにあたり、関連する他の文献資料を調べる力が求められます。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に際しては、辞書等以外に必要な機器はありません。

#### その他/ Others

授業の基本は、授業への出席です。就活、病気等による欠席も含め（教育実習による欠席は除く）、欠席が4回を超えた場合には、定期試験の成績に関わらず単位を出すことはできませんので、ご注意ください。グループ発表については、発表の一週間前に昼休み時間を使って、私と発表内容理解のための打ち合わせをします。発表前にあらかじめレジュメを作成してください。この授業の評価にあたって、発表は40%と大きな部分を成しています。発表当日、病気等で発表できなくなった場合には、別日に発表して頂くことがあります。



# 演習 B 2 1

Seminars B21

第一次世界大戦とレベッカ・ウェストのモダニズム

鈴木 孫和 (SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

カリキュラム・マップにあるように、該当する学問領域の「知識と方法論を総合し、議論・発表・レポート作成など」の「研究を実践できるようになる」ことを目指します。具体的には、戦間期に書かれた中編小説を一篇精読し、独自の視点に基づく議論の構築を行うことで、高度な文学作品の分析能力を養います。

As outlined in the curriculum map, this seminar aims at consolidating the knowledge and methods of the relevant academic discipline in order to enable students to practice various research activities, including discussion, presentation, and essay composition. Specifically, it focuses on an interwar novella and encourages students to construct an original argument. It is hoped that the seminar further refines students' analytical skills.

## 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパを主戦場とした第一次世界大戦は、20世紀初頭の社会を不可逆的に変貌させ、当時の文学や文化にもおびただしい影響を及ぼしました。そしてこの戦争を経験した作家は、さまざまな立場からこの‘Great War’について書きました。これらの作家の手になる作品のうち、本科目ではレベッカ・ウェストの中編 The Return of the Soldier (1918)を扱います。決して長くない作品でありながら、本作は戦争の影響で記憶障害を発症した

帰還兵の存在を媒介に、過去と現在、そして4人の男女が交錯する複雑な物語を形成しています。戦争神経症や精神分析など、当時を特徴づける要素も内包した本作を読むことで、20世紀のイギリス文学・文化をよりよく理解するとともに、英語で文学作品を分析する力を付けることができます。

The First World War irreversibly changed society at the beginning of the twentieth century and had an enormous impact on the literature and culture of the time. Writers who lived through it wrote about the 'Great War' from a variety of perspectives. Of these writers' works, this seminar will focus on Rebecca West's novella *The Return of the Soldier* (1918). Although not a full-length novel, it is a story of complex chronology and human relationships, with a war veteran who has lost his memory at the centre of the narrative. Including references to things that were characteristic of the period, such as shell shock and psychoanalysis, the text will enable you to better understand twentieth-century British literature and culture, while improving your ability to analyse literature in English.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品読解(1)
- 3回：作品読解(2)
- 4回：作品読解(3)
- 5回：作品読解(4)
- 6回：作品読解(5)
- 7回：作品読解(6)
- 8回：作品読解(7)
- 9回：作品読解(8)
- 10回：作品読解(9)
- 11回：作品読解(10)
- 12回：作品読解(11)
- 13回：作品読解(12)
- 14回：論文・レポートの書き方、まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員授業前にテキストの該当部分を精読し、わからない箇所（語彙・構文などの英語に関する問題から、話の流れや特定の事物への言及などの内容にかかわる疑問に至るまで、どのようなものでも）は授業中に解決できるようにメモしてきてください。また、重要だと思った部分についても、授業中にクラス全体と共有できるように記録してきてください。

発表担当時には、事前に指示された通りに個人で準備を進めてもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 授業貢献:30%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

---

Rebecca West The Return of the Soldier Penguin 1998 9780141180656 -

参考文献 / Readings

---

## 演習 B22

Seminars B22

第一次世界大戦とヴァージニア・ウルフのモダニズム

鈴木 孫和 (SUZUKI TADAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

カリキュラム・マップにあるように、該当する学問領域の「知識と方法論を総合し、議論・発表・レポート作成など」の「研究を実践できるようになる」ことを目指します。具体的には、戦間期を代表する長編小説の1つを精読し、独自の視点に基づく議論の構築を行うことで、高度な文学作品の分析能力を養います。

As outlined in the curriculum map, this seminar aims at consolidating the knowledge and methods of the relevant academic discipline in order to enable students to practice various research activities, including discussion, presentation, and essay composition. Specifically, it focuses on a canonical interwar novel and encourages students to construct an original argument. It is hoped that the seminar further refines students' analytical skills.

### 授業の内容 / Course Contents

20 世紀初頭に花開いたモダニズムを代表するイギリスの小説家の 1 人としてヴァージニア・ウルフという作家を挙げるすることができます。本科目では、このウルフの作品のうち、Mrs Dalloway (1925) と並んで代表作とされる To the Lighthouse (1927) を読みます。19 世紀の気配が色濃く残るエドワード朝の夏の日とその 10 年後の戦間期のある 1 日、そしてそれらを分かち歲月を描く本作では、これらの時点に展開する物語が 3 つのセクショ

ンを通して語られます。ウルフの描き出す複雑な「意識の流れ」を読み解き、第一次世界大戦を経て変貌する英国社会や人々の意識について考えることは、英語で文学作品を読み解く力を高めるとともに、多くの読書の喜びをもたらしてくれるはずです。

Virginia Woolf is one of the leading British writers of modernism, which flourished in the early twentieth century. In this seminar we will read *To the Lighthouse* (1927), which, along with *Mrs Dalloway* (1925), is considered one of Woolf's masterpieces. In its three parts, the novel depicts an Edwardian summer day, a day ten years later in the interwar period, and the years that separate them. Looking at the changes in British culture and people's thoughts through Woolf's elaborate 'stream of consciousness' will further develop your ability to analyse literature in English, while at the same time giving you a great deal of pleasure from reading.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品読解(1)
- 3回：作品読解(2)
- 4回：作品読解(3)
- 5回：作品読解(4)
- 6回：作品読解(5)
- 7回：作品読解(6)
- 8回：作品読解(7)
- 9回：作品読解(8)
- 10回：作品読解(9)
- 11回：作品読解(10)
- 12回：作品読解(11)
- 13回：作品読解(12)
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員授業前にテキストの該当部分を精読し、わからない箇所（語彙・構文などの英語に関する問題から、話の流れや特定の事物への言及などの内容にかかわる疑問に至るまで、どのようなものでも）は授業中に解決できるようにメモしてきてください。また、重要だと思った部分についても、授業中にクラス全体と共有できるように記録してきてください。

発表担当時には、事前に指示された通りに個人で準備を進め、授業前にハンドアウトを提出してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 授業貢献:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

Virginia Woolf *To the Lighthouse* Oxford University Press 2006 9780199536610 ○



## 演習 B23

Seminars B23

ハーマン・メルヴィルの文学世界探訪——その文体を味わってみる

小南 悠 (KOMINAMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通し、英語を正しく読む力を養うとともに、文学作品を批評する力を養う。

Through a close reading of literary texts, students in this course will improve their skills to read literary texts accurately as well as to analyze them.

### 授業の内容 / Course Contents

「やらないほうがいいのですが ("I would prefer not to")」とは、学生の心の叫びであり、社会人の悲痛な嘆きであり、おそらくは人間誰しもが心の中で一度は唱えたことのある言葉であろう。

19 世紀アメリカ文学を代表する作家ハーマン・メルヴィル (1819-91) と言えば、まずは長編小説『白鯨』(1851) の作者として知られているが、作家キャリアの全盛期と言える 1850 年代には数多くの短編・中編小説も書き残している。上に引いた言葉は、メルヴィルがその時期に執筆した、とある中編小説の一節である。比較的マイナーなメルヴィルの短編・中編小説は、長編小説に劣らぬ深い洞察と豊饒な文学世界を備えている。本講では、メルヴィルの代表的な短編・中編小説を精読することで、メルヴィルという作家の文学世界に分け入ってみたい。とりわけ、いまや不条理文学の金字塔として名高い中編小説「バートルビー」(1853) と、

短いながらも美しい詩的言語を介して豊富なイメージと複層的なテーマを打ち出す短編小説「ピアザ」(1856)の精読を通して、メルヴィルの重厚な文章をじっくりと味わっていききたい。

精読を通し、文学テキストの主題、構成、文体、モチーフ、修辞法等に注目し、作品を分析する力を養うことが本講の目的である。

Every human being, whether a student or worker, probably has chanted "I would prefer not to" at least once in their mind.

Though Herman Melville (1819-91) may be known as an author of the famous full-length novel, Moby-Dick (1851), yet he also wrote many compelling short stories and novellas in the 1850s. The phrase cited above is from one of Melville's novella in that period. His short stories and novellas are as insightful and fertile as his full-length novels. In this course, we will go into Melville's literary world through a close reading of his short story and novella. We will closely read two of Melville's works: "Bartleby" (1853), which has become a milestone of absurdist literature, and "The Piazza" (1856), which carries short but beautiful poetic language and is rich in imagery and themes. Through reading the works, we will examine characteristics of Melville's style.

Students will improve their ability to read the texts with paying attention to the themes, structure, style, motifs, and rhetoric.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・発表担当者の決定
- 2 回："The Piazza" を読む (1)
- 3 回："The Piazza" を読む (2)
- 4 回："The Piazza" を読む (3)
- 5 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (1)
- 6 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (2)
- 7 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (3)
- 8 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (4)
- 9 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (5)
- 10 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (6)
- 11 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (7)
- 12 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (8)
- 13 回："Bartleby, the Scrivener" を読む (9)
- 14 回：総括・批評検討

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

英語が非常に難解な作品であるため、辞書を丹念に使いながら作品を精読したうえで授業にのぞむこと。また、授業内のディスカッションに備えて、予習時の疑問点や不明点を書き留めてくること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ



平常点割合 :100% 発表時の準備状況:30% 質疑・討論による授業貢献度:30%  
合 :40%

最終レポート割

### テキスト/ Textbooks

---

授業内で読む作品はプリントで配布する。

### 参考文献 / Readings

---

翻訳・参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

### その他/ Others

---

毎回全員が参加する演習形式の授業であるため、特別な理由のない限り、毎回の出席を必須とする。

## 演習 B24

Seminars B24

ウィリアム・フォークナーの文学世界探訪——時間／空間表象を手がかりに

小南 悠 (KOMINAMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM124

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の精読を通し、英語を正しく読む力を養うとともに、文学作品を批評する力を養う。

Through a close reading of a literary text, students in this course will improve their skills to read literary texts accurately as well as to analyze them.

### 授業の内容 / Course Contents

〈フォークナー・ブーム〉到来の気配がする。書店の棚を一瞥するだけでも、『土にまみれた旗』（河出書房新社、2021）、『ポータブル・フォークナー』（河出書房新社、2022）、『フォークナー短編小説集』（英宝社、2022）、『野生の棕櫚』（中央公論新社、2023）というように、フォークナー作品の翻訳が矢継ぎ早に出版されていることが容易に見てとれる。研究書にいたっては毎月のように新刊が出版されている。20 世紀アメリカ文学を代表する作家ウィリアム・フォークナー（1897-1962）が 1924 年に初めて自らの作品（詩集『大理石の牧神』）を出版してからちょうど 100 年が経ったいま、この〈フォークナー・ブーム〉の只中で、彼の文学世界を改めて見つめてみたい。

本講では、フォークナーの小説「熊」（1942）を精読することで、フォークナーの作風を味わっていく。とりわ

け、フォークナー文学における時間と空間の問題を追いかけてみたい。

精読を通し、文学テキストの主題、構成、文体、モチーフ、修辞法等に注目し、作品を分析する力を養うことが本講の目的である。

Faulkner seems in vogue in Japan. Just a glance at the shelves of bookstores shows this fact, for Faulkner's novels in translation have been published one after another recently. Besides, monographs on Faulkner have been published almost every month. Exactly 100 years have passed since William Faulkner (1897-1962) published his first book of poems, *The Marble Faun*, in 1924. Now, in the midst of this "Faulkner boom," we will take a fresh look at Faulkner's literary world.

In this course, we will closely read Faulkner's fiction, "The Bear" (1842), and examine his literary style with in mind the representation of time and space.

Students will improve their ability to read the text with paying attention to the themes, structure, style, motifs, and rhetoric.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・発表担当者の決定
- 2回："The Bear" を読む (1)
- 3回："The Bear" を読む (2)
- 4回："The Bear" を読む (3)
- 5回："The Bear" を読む (4)
- 6回："The Bear" を読む (5)
- 7回："The Bear" を読む (6)
- 8回："The Bear" を読む (7)
- 9回："The Bear" を読む (8)
- 10回："The Bear" を読む (9)
- 11回："The Bear" を読む (10)
- 12回："The Bear" を読む (11)
- 13回："The Bear" を読む (12)
- 14回：総括・批評読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

英語が非常に難解な作品であるため、辞書を丹念に使いながら作品を精読したうえで授業にのぞむこと。また、授業内のディスカッションに備えて、予習時の疑問点や不明点を書き留めてくること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表時の準備状況:30% 質疑・討論による授業貢献度:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

授業内で読む作品はプリントで配布する。

### **参考文献 / Readings**

---

翻訳・参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

### **その他/ Others**

---

毎回全員が参加する演習形式の授業であるため。特別な理由のない限り、毎回の出席を必須とする。

## 演習 B25

Seminars B25

Thomas Hardy を読む

田尻 芳樹 (TAJIRI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM125

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 5回目と8回目をオンライン授業とする。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

Thomas Hardy の代表作 The Mayor of Casterbridge(1886)を読むことで、19 世紀イギリス小説への理解を深める。

This course aims to deepen our understanding of the nineteenth-century English novel by reading Thomas Hardy's masterpiece The Mayor of Casterbridge(1886).

### 授業の内容 / Course Contents

Thomas Hardy (1840-1928)はイギリス 19 世紀末の代表的な小説家として知られています。彼が自分の故郷の過去を調査して書いた代表作の一つ The Mayor of Casterbridge(1886)を読むことを通じて、まず 19 世紀イギリスの社会や風俗について理解を深めます。また、主要登場人物 Henchard の波乱万丈の人生の物語を味わいながら、人生とは何か、愛とは何か、などの根本的な問題を、小説家 Hardy の世界観とともに考察していきます。時代と社会が違って、現代を生きる私たちに通じる、人生への普遍的な洞察があるはずであり、それがどんなものなのかを探り当てましょう。

Thomas Hardy (1840-1928) is well known as a representative novelist in the late Victorian period. One of his

major novels, *The Mayor of Casterbridge* (1886), is an attempt to recreate his home town by researching its history. By reading this novel, we will try to have a deeper understanding of the society and customs of the English countryside in the nineteenth century. Also by following the narrative of the very eventful life of Henchard, the main character, we will consider some profound questions like the meaning of life or love, along with Hardy's particular views of them. Even though the setting and age in the novel are distant from ours, there must be universal insights into life that appeal to us today, and we will try to explore them.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：The Mayor of Casterbridge
- 3回：The Mayor of Casterbridge
- 4回：The Mayor of Casterbridge
- 5回：The Mayor of Casterbridge
- 6回：The Mayor of Casterbridge
- 7回：The Mayor of Casterbridge
- 8回：The Mayor of Casterbridge
- 9回：The Mayor of Casterbridge
- 10回：The Mayor of Casterbridge
- 11回：The Mayor of Casterbridge
- 12回：The Mayor of Casterbridge
- 13回：The Mayor of Casterbridge
- 14回：The Mayor of Casterbridge

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めて発表してもらいます。その他の参加者も全員そのときの範囲を読んできて議論に参加することが義務付けられます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 平常の参加度:40%

欠席が3回を超えると単位を取得できません。

### テキスト / Textbooks

Thomas Hardy *The Mayor of Casterbridge* Oxford World's Classics 2008 9780199537037 ○

### 参考文献 / Readings

## 演習 B26

Seminars B26

E. M. Forster を読む

田尻 芳樹 (TAJIRI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM126

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 5回目と8回目をオンライン授業とする。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

E. M. Forster, *The Longest Journey* (1907) を読む

We will read E. M. Forster's *The Longest Journey* (1907).

### 授業の内容 / Course Contents

E. M. Forster (1879-1970)は、20世紀を代表するイギリスの小説家です。この授業では彼の小説第二作 *The Longest Journey* (1907)を読みます。作家になることを夢見て Cambridge 大学に学ぶ主人公 Rickie Elliot ですが、彼の成長の過程では、恋愛、家族、人間関係に関する多くの困難があり、彼の夢は次第に破れていきます。若者の成長過程をたどる「教養小説」の伝統に連なるこの小説を読むことを通じて、理想と現実のギャップという誰も経験する人生の真実について考えましょう。また 20 世紀初頭のイギリスの社会や世界観についても学びましょう。

E. M. Forster (1879-1970) is one of the most important English novelists of the twentieth century. In this course we are reading his second novel, *The Longest Journey* (1907). The main character Rickie Elliot studies at Cambridge, dreaming of becoming a writer, but in the process of his growth, he encounters many troubles

regarding love, family and human relationship. He gradually learns to conform to the world, thus bitterly acknowledging the difficulty of realizing his ambitions. This novel belongs to the traditional genre 'Bildungsroman' that follows a young man's growth. By reading this novel, we will consider deeply about the truth of life, that is, the gap between ideal and reality, which everyone experiences. Also, we will learn about the society and worldview of the early twentieth-century England.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：The Longest Journey (1) イントロダクション
- 2 回：The Longest Journey (2)
- 3 回：The Longest Journey (3)
- 4 回：The Longest Journey (4)
- 5 回：The Longest Journey (5)
- 6 回：The Longest Journey (6)
- 7 回：The Longest Journey (7)
- 8 回：The Longest Journey (8)
- 9 回：The Longest Journey (9)
- 10 回：The Longest Journey (10)
- 11 回：The Longest Journey (11)
- 12 回：The Longest Journey (12)
- 13 回：The Longest Journey (13)
- 14 回：The Longest Journey (14)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回担当者を決めて発表していただきますが、担当者以外の人たちも当該授業で読む範囲をしっかりと予習しておき、議論に参加する準備をすることが求められます。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 平常の参加度:40%

欠席が3回を越えると単位を取得できません。毎回授業の最後に、リアクションペーパーに感想などを書いてもらいます。

### テキスト / Textbooks

E. M. Forster The Longest Journey Penguin Classics 2006 9780141441481 ○

### 参考文献 / Readings



## 演習 B27

Seminars B27

英語の辿ってきた道

福田 一貴 (FUKUDA KAZUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

古英語の入門書を読み進める。古英語の知識を獲得することに加え、現代英語の特徴を見つめなおすことを目的とする。

This course will aim to reconsider the features of the Present-day English through the knowledge of Old English.

### 授業の内容 / Course Contents

古英語の入門書を読みながら、古英語の知識を獲得していく。その知識と今我々が使っている現代英語との繋がりや違いを確認し、現代英語の特徴を改めて捉えていく予定である。

By reading an introduction to Old English as a textbook, we aim to gain the knowledge of Old English. Through comparing this obtained knowledge with the knowledge of the Present-Day English, we try to reaffirm the features of the English language we use today.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：古英語・中英語の背景：英語史的背景・文化的背景  
 3回：文法事項の確認と作品読解その1＋発表  
 4回：文法事項の確認と作品読解その2＋発表  
 5回：文法事項の確認と作品読解その3＋発表  
 6回：文法事項の確認と作品読解その4＋発表  
 7回：文法事項の確認と作品読解その5＋発表  
 8回：文法事項の確認と作品読解その6＋発表  
 9回：文法事項の確認と作品読解その7＋発表  
 10回：文法事項の確認と作品読解その8＋発表  
 11回：文法事項の確認と作品読解その9＋発表  
 12回：文法事項の確認と作品読解その10＋発表  
 13回：文法事項の確認と作品読解その11＋発表  
 14回：ここまでで得た知識と現代英語との共通点と違いの確認

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回に読み進めるテキストには目を通しておいください。また、授業内で発表を行う場合にはハンドアウトを作成し、十分に準備をしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内アクティビティ：45% 授業参加度：15% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

随時ハンドアウトを配布する。

### 参考文献 / Readings

Mark Atherton Complete Old English (Anglo-Saxon) Bookpoint 2019 9781473627925

上記以外は随時授業内で紹介します。

### その他 / Others

受講人数によっては、ペアあるいはグループに分け、発表者・司会者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを読み進めていくことを予定している。

## 演習 B28

Seminars B28

英語の辿ってきた道

福田 一貴 (FUKUDA KAZUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

古英語の入門書を読み進める。古英語の知識を獲得することに加え、現代英語の特徴を見つめなおすことを目的とする。

This course will aim to reconsider the features of the Present-day English through the knowledge of Old English.

### 授業の内容 / Course Contents

古英語の入門書を読みながら、古英語の知識を獲得していく。その知識と今我々が使っている現代英語との違いやつながりを確認し、現代英語の特徴を改めて捉えていく予定である。

By reading an introduction to Old English as a textbook, we aim to gain the knowledge of Old English. Through comparing this obtained knowledge with the knowledge of the Present-Day English, we try to reaffirm the features of the English language we use today.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：作品の背景知識背景：The Battle of Maldon + 発表  
 3回：文法事項の確認と作品読解：The Seafarer and The Wife's Lament + 発表  
 4回：作品の背景知識：古英語の Elegies (The Seafarer, The Wife's Lament, Ruin) + 発表  
 5回：作品の背景知識：Beowulf の抜粋 + 発表  
 6回：作品の背景：Beowulf の前半の概略 + 発表  
 7回：作品の背景：Beowulf の後半の概略 + 発表  
 8回：文法事項の確認と作品読解：The Dream of the Rood + 発表  
 9回：言語的背景：古英語と Chaucer の英語の違い + 発表  
 10回：文化的背景：中英語時代との差 + 発表  
 11回：文法事項の確認と作品読解：Edward the Martyr(from the Anglo-Saxon Chronicle) + 発表  
 12回：文法事項の確認と作品読解：Wulfstan's Sermo Lupi + 発表  
 13回：文法事項の確認と作品読解：Riddles 47 and 48 + 発表  
 14回：ここまでで得た知識と現代英語との共通点と違いの確認

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回に読み進めるテキストには目を通しておいください。また、授業内で発表を行う場合にはハンドアウトを作成し、十分に準備をしてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内アクティビティ：45% 授業参加度：15% 最終レポート割合：40%

#### テキスト / Textbooks

随時ハンドアウトを配布する。

#### 参考文献 / Readings

Mark Atherton Complete Old English (Anglo-Saxon) Bookpoint 2019 9781473627925

上記以外は随時授業内で紹介します。

#### その他 / Others

受講人数によっては、ペアあるいはグループに分け、発表者・司会者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを読み進めていくことを予定している。

# 英語表現演習 1

English Seminars 1

The American Short Story - From the 19th Century to the Contemporary Period

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM201

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

From Washington Irving (1783-1859) to Langston Hughes (1902-1967), and from Kate Chopin (1851-1904) to Jhumpa Lahiri (b. 1967), this course will read and analyze a broad selection of American short stories from the 19th, 20th, and 21st centuries. The emphasis of this course is to survey the range of subjects, voices, and perspectives that characterize the American short story and, thereby, develop a better understanding of the genre of the short story and the many social, historical, and cultural influences that have shaped literature in America.

## 授業の内容 / Course Contents

Students must complete the readings, explore archival material on the web, and attend all lectures and seminar sessions.

Written work will consist of:

1. Weekly writing and research activities.
2. One, 5-part research paper (3 pages minimum).
3. A revised version of the research paper (this revised version should represent a discernable

improvement and/or expansion of the first version).

4. An oral presentation of original research on one of the authors and/or stories discussed during the course.
5. A final quiz that will cover the whole semester (short answer questions and a brief essay).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Course Syllabus and General Introduction

1. Discussion of the course requirements
2. Description of the various writing assignments
3. Outline of the main concepts of the course
4. Guided reading

Reading:

Washington Irving, "Rip Van Winkle"

2 回：American Gothic - 1

Reading:

[1] Nathaniel Hawthorne, "The Wives of the Dead"

[2] Edgar Allan Poe, "The Tell-Tale Heart"

3 回：American Gothic - 2

Reading:

[1] Samuel Clemens, "Cannibalism in the Cars"

[2] Sherwood Anderson, "The Strength of God"

4 回：American Gothic - 3

Reading:

[1] Kate Chopin, "The Storm"

[2] Mary Wilkins Freeman, "Old Woman Magoun"

5 回：American Gothic - 4

Reading:

[1] Charlotte Perkins Gilman, "The Yellow Wallpaper"

6 回：American Gothic - 5

Reading:

[1] H. P. Lovecraft, "The Rats in the Walls"

7 回：Race and Identity - 1

Reading:

[1] Langston Hughes, "Red-Headed Baby"

[2] Richard Wright, "The Man Who Was Almost a Man"

8 回：Race and Identity - 2

Reading:

[1] Ralph Ellison, "Battle Royal"

[2] Bernard Malamud, "My Son the Murderer"

9 回：Race and Identity - 3

Reading:

- [1] Shirley Jackson, "The Lottery"  
 [2] Ray Bradbury, "There Will Come Soft Rains"

10回：Trauma and Remembrance - 1

Reading:

- [1] Philip Roth, "Defender of the Faith"

11回：Trauma and Remembrance - 2

Reading:

- [1] Tim O'Brien, "The Things They Carried"

12回：Contemporary Voices - 1

Reading:

- [1] Amy Hempel, "Today Will Be a Quiet Day"

- [2] Lorrie Moore, "How to Become a Writer"

13回：Contemporary Voices - 2

Reading:

- [1] Jhumpa Lahiri, "Hell-Heaven"

14回：Final Quiz

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワーポイント等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Each session will involve a lecture component, brief student presentations, and a close reading of the text(s) assigned for the week (mostly short stories and excerpts from longer texts).

Students should be prepared to analyze each of the readings from a number of perspectives. Also, students will be expected to have read the assigned text(s) prior to each session.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

Joyce Carol Oates The Oxford Book of American Short Stories Oxford 2013 9780199744398 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Some materials will be distributed online, so regular access to a computer and/or tablet will be necessary.

## 英語表現演習 2

English Seminars 2

Gothic Music, 1950s-1980s: Literary References

ミィニョオン (MIGNON EDWARD TAYLOR)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM202
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3811
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

From Howlin' Wolf ("I Put a Spell on You", 1956) to The Doors ("Riders on the Storm", "The End") and from Siouxsie and the Banshees, Bauhaus, Joy Division & early New Order to Sisters of Mercy, in this course, members will listen to, read and analyze a broad selection of Gothic or Gothic-inspired lyrics from the 1950s to the 1980s. For the sake of comparison and contrast, songs by 80s Japanese Gothic bands Pale Cocoon, G-Schmitt, Iwamoto Kiyooki and EP-4 will be analyzed and discussed. The emphasis will be on the historical contexts of when this type of music was created and its impetus for creation. Literary sources of some of the artists and their lyrical imagery / techniques will be given deep readings.

### 授業の内容 / Course Contents

Course Contents Students must complete the readings, explore archival material on the web, and attend all lectures and seminar sessions. Written work will consist of:

1. Weekly writing and research activities.
2. One, 5-part research paper (3 pages minimum).



3. A revised version of the research paper (this revised version should represent a discernable improvement and/or expansion of the first version).
4. An oral presentation of original research on one of the authors and/or stories discussed during the course.
5. A final quiz that will cover the whole semester (short answer questions and a brief essay).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Syllabus and General Introduction

1. Discussion of the course requirements
2. Description of the various writing assignments
3. Outline of the main concepts of the course
4. Guided reading

Reading American gothic music pioneers 1: Howlin' Wolf, "I P

2 回： Reading American gothic music pioneers 2: The Doors, "Riders on the Storm", "The End"

Lecture and viewing of film scene from Apocalypse Now

3 回： Reading section from Heart of Darkness by Joseph Conrad (1857-1924)

4 回： 4. English Pioneers of Gothic Music

Reading:

[1] Excerpts from William S. Burroughs' novel Interzone

[2] Joy Division's lyric "Interzone"

5 回： Joy Division 2: "Transmission"

Reading:

[1] Excerpts from House of Dolls (1953) by Yehiel De-Nur

[2] John Cooper Clarke's poem "Evidently Chickentown"

6 回： New Order

Reading:

[1] "Ceremony"

[2] "In a Lonely Place"

7 回： Bauhaus

Reading: "Bela Lugosi is Dead"

Viewing of short film

8 回： Siouxsie and the Banshees

Reading:

[1] "Hong Kong Garden"

[2] "Happy House"

9 回： Sisters of Mercy introduction

Reading:

[1] "Sister of Mercy by Leonard Cohen"

[2] "Sun Ain't Gonna Shine Anymore", Walker Brothers (Plastic Palace People, Scott Walker)

10 回： Sisters of Mercy

Reading:

[1] "Marian"

[2] “Marianne” by Percy Bysshe Shelley

11 回：Sisters of Mercy II

Reading:

[1] “Jolene” by Dolly Parton

[2] “Adrenochrome”

Lecture: revisit Huxley’s Doors of Perception

12 回：G-Schmitt, Pale Cocoon

Reading: TBD

13 回：Iwamoto Kiyooki & Joy Division

Reading: “Love Will Tear Us Apart”

14 回：Final Quiz

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each session will involve a lecture component, brief student presentations, and a close reading of the text(s) assigned

for the week (mostly short stories and excerpts from longer texts).

Students should be prepared to analyze each of the readings from a number of perspectives. Also, students will be expected to have read the assigned text(s) prior to each session.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% Final Report:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

## 英語表現演習 3

English Seminars 3

Representations of the Monstrous

ランダオ, S. (LANDAU SAMANTHA HOPE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM203

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

Does humanity have a dualistic image? This course will focus on examining the meaning and symbolism associated with monsters from a range of texts in order to answer that question. From perspectives on mythology and fairytale, psychology, history, and literature, we will investigate using discussion-based Socratic method.

### 授業の内容 / Course Contents

Discussion topics will include comparisons of the nurturing versus monstrous women, representations of conflicts between logical thought and religious belief, colonialism and the monstrous, the erotic-grotesque, and the discourse surrounding death and beauty. We will attempt to draw conclusions of what really constitutes the monstrous and how the meaning of monsters changes over time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Introduction Lecture and short introduction activity

2 回： Lecture on Monster Theory. Discussion of reading "On Monsters" by Stephen Asma.

3 回： Early Monsters: Lecture and Discussion of "Perseus" (Edith Hamilton's Mythology version).

- 4回：Early Monsters: Lecture and Discussion of "Theseus" (Edith Hamilton's Mythology version).
- 5回：19th Century Monsters: Lecture and Discussion of poems "It's coming — the postponeless Creature —" and "The Frost of Death was on the Pane —" by Emily Dickinson
- 6回：19th Century Monsters: Lecture and Discussion of "Demons of the Sea" by William Hope Hodgson
- 7回：Explanation of the Midterm report (lecture and practice activity)
- 8回：20th Century Monsters: Lecture and Discussion of "The Tale of the Captured Souls"
- 9回：20th Century Monsters: Lecture and Discussion of "Uncle Monday" by Zora Neale Hurston.
- 10回：20th Century Monsters: Lecture and Discussion of "The Smoking Room" by Shirley Jackson.
- 11回：20th Century Monsters: Lecture and Discussion of "Other People" by Neil Gaiman.
- 12回：21st Century Monsters: Lecture and Discussion of "The Haunted Blizzard" by Aviaq Johnson
- 13回：21st Century Monsters: "Bread and Salt" by Elana Gomel
- 14回：Final wrap-up discussion, explanation of the final report

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete both in-class and out-of-class assignments on time. Students should be prepared to read text in English each week and to write their reports and other assignments in English as well.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート (Midterm Report):30% In-class participation:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

Handouts will be distributed by the instructor. Students do not have to buy a textbook.

### 参考文献 / Readings

Stephen Asma On Monsters Oxford University Press 2009

Jeffrey Jerome Cohen Monster Theory: Reading Culture University of Minnesota Press 1996

Matt Kaplan Medusa's Gaze and Vampire's Bite: The Science of Monsters Scribner 2012

Students do not have to buy these books. These are just recommended books for further reading.

## 英語表現演習 4

English Seminars 4

Weird Fiction

ランダオ, S. (LANDAU SAMANTHA HOPE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM204

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

This class will focus on reading a variety of short "weird fiction" mainly published between the late 1800s and 1970s. Touching on monsters, unexplained/unexplainable events, parallel universes, and even ghosts, "Weird Fiction" is a genre that expresses both the anxieties of society and the human fascination for the unknown and inexplicable.

### 授業の内容 / Course Contents

This course is designed to engage students in interdisciplinary approaches to reading a text. This course also aims to teach students to deeply consider historical contexts when reading literature. Students will broadly consider how these stories deal with phobias and fascinations, but also consider historic issues in scientific ethics, colonialism, and racism. Students who want to understand psychological, historical, or scientific aspects of literature are encouraged to take this course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: the Weird, the Bizarre, and the Unidentified

- 2回：Historical Background: Science, Conspiracy, and Truth  
 3回：Early Weird Fiction  
 4回：Sargasso Sea Stories 1  
 5回：Sargasso Sea Stories 2  
 6回：Weird Plants and Fungi  
 7回：Mid-term Review/Reports  
 8回：20th Century Ghosts  
 9回：Haunted Objects and Mysterious Deaths 1  
 10回：Haunted Objects and Mysterious Deaths 2  
 11回：Cryptids and Monsters 1  
 12回：Cryptids and Monsters 2  
 13回：Strange Science and Scientists  
 14回：Final Review/Reports

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete both in-class and out-of-class assignments on time. Students should be prepared to read text in English each week and to write their reports and other assignments in English as well.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート (Midterm Report):30% In-class participation:30% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

Handouts will be distributed by the instructor. Students do not have to buy a textbook.

#### 参考文献 / Readings

Colin Dickey The Unidentified Penguin Books 2020

Mike Ashley From the Depths British Library Publishing 2018

Students do not have to buy these books. These are just recommended books for further reading.

## 英語表現演習 5

English Seminars 5

Four Stories about the Pursuit of Truth

陳 淑宜 (CHEN SHUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

The purpose is to facilitate language learning -- listening, speaking, reading, writing -- through various class activities. The socio-historical background of each story will be explored to enrich the learning experience.

### 授業の内容 / Course Contents

The first of the four stories is the play Doubt written by John Patrick Shanley, and it is concerned with a popular priest's alleged child abuse. Next, Doris Lessing's coming-of-age short story "Through the Tunnel" will be read and discussed. Arthur Conan Doyle's detective story "The Adventure of the Prior School" is about Sherlock Holmes's genius and passion in resolving a complicated criminal case. Lastly, Somerset Maugham's short story "The Ant and the Grasshopper" focuses on an egocentric but fortunate playboy's extraordinary life. Students are expected to prepare the assigned reading, participate in class activities, write short comments, and give an oral presentation (2-5 minutea).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

- 2回：Sister Aloysius and Sister James  
 3回：Father Flynn's special treatment of Donald Muller  
 4回：Sister James's involvement in solving Donald Muller's problem  
 5回：The alcohol smell on Donald Muller's breath  
 6回：Father Flynn's angry denial  
 7回：Father Flynn's resignation and Sister Aloysius's confession  
 8回：The main character Jerry in "Through the Tunnel"  
 9回：Jerry's efforts to impress a group of French boys  
 10回：Sherlock Holmes and Dr. Huxtable  
 11回：Investigation into the bicycle tracks  
 12回：Holmes's disguises and lies  
 13回：James Wilder's jealousy and crime  
 14回：The irony of Tom's inheritance in "The Ant and the Grasshopper"

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is necessary to prepare the assigned reading.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% attendance and participation:40% written short comments:40% oral presentation:20%

Without proper reasons, a student who fails to attend two-thirds of the classes will not be eligible for the credit.

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings



## 英語表現演習 6

English Seminars 6

Main Characters with Different Racial Backgrounds: The Help and "Interpreter of Maladies"

陳 淑宜 (CHEN SHUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM206

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

The purpose is to facilitate language learning -- listening, speaking, reading, writing -- through various class activities. The socio-historical background of each story will be explored to enrich the learning experience.

### 授業の内容 / Course Contents

Kathryn Stockett's *The Help* is concerned with the economic and social hardship of black maids in deep American South in the 1960s. It is set in the Jim Crow era, and its female main characters build friendship across racial and class barriers. Jhumpa Lahiri's "Interpreter of Maladies" takes place in contemporary India, and the conflict of values between a native guide and a visiting Indian-American family is triggered by their different racial backgrounds. Students are expected to prepare the assigned reading, participate in class activities, write short comments, and give an oral presentation (2-5 minutes).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: Jim Crow as a system of racial segregation

2 回： The black main character Aibileen and her job as a maid in a white household

- 3 回：The other black maids around Aibileen  
 4 回：Aibileen's employer Mrs. Leefolt and her white friends  
 5 回：The white main character Skeeter and her objection to the construction of a toilet for the black maid  
 6 回：Skeeter's recollection of the black maid Constantine  
 7 回：Skeeter's interaction with Aibileen  
 8 回：Skeeter's hope of publishing a book about black maids  
 9 回：Aibileen's help with Skeeter's book-writing  
 10 回：The success of Skeeter's book and the consequence  
 11 回：the Indian-American main characters Mr. and Mrs. Das in "Interpreter of Maladies"  
 12 回：Mr. Kapasi's pride and his interaction with the couple  
 13 回：Mr. Kapasi's special treatment of Mrs. Das  
 14 回：Mrs. Das's secret past and the surprising ending

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is necessary to prepare the assigned reading.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% attendance and participation:40% written short comments:40% oral presentation:20%

Without proper reasons, a student who fails to attend two-thirds of the classes will not be eligible for the credit.

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

## 英語表現演習 7

English Seminars 7

Ecospirituality I: Snyder

マクラフリン (MCLAUGHLIN MATTHEW)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM207
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL3811
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

This English literature course aims to help students develop their English abilities in the four core skills of listening, reading, speaking, and writing through a combination of various texts, media and in-class activities. Students enrolled in this course will have the opportunity to enhance their abilities to analyze a text of literature through close reading of the original text, the provision of supplementary notes, videos or audio to aid students in their reading and interpretation of the source text from various perspectives. This will facilitate their overall understanding of the fields of Beat literature as well as the growing field of Ecocriticism, and the course will also touch upon the legacy of the Transcendentalists upon the 'Environmental' poets of the Beat Generation and San Francisco Renaissance, including Gary Snyder, as well as Snyder's own influence and legacy upon the Environmental Movement as a whole.

To provide students with a better contextual background, some supplementary materials and information on contemporary Beat writers and poets, as well as Transcendentalist writers, will also be provided to help students better understand both past and contemporary influences on the work of Gary Snyder. In each semester, several

writers will be introduced as a means of comparison against the writings of Gary Snyder himself (the same form of comparison will be conducted with Lew Welch's work in the second semester), to help students deepen their understanding of certain aspects of Ecocriticism in relation to the Beat movement, as well as Snyder's interest in Asian literatures and other concerns. These writers include Joanne Kyger, Philip Whalen, Lew Welch, Henry David Thoreau, Ralph Waldo Emerson, William Carlos Williams, W. B. Yeats, Ezra Pound, John Muir, Walt Whitman and others.

In terms of skills related to English ability and proficiency, students will have the opportunity to improve their English listening skills through the interpretations of the text provided by their teacher in class, and listening to recordings of Gary Snyder reading from his own poetry or prose, and giving short talks and lectures. This will be used not only as a listening-comprehension exercise but as a way to better appreciate the feel and sounds of poetry and literature as a whole.

Group discussions will be held in regular classes on questions directly related to the texts and given to students beforehand to prepare. Students will also have the opportunity to make a presentation in class (towards the end of the course) to help students improve their written proficiency (when writing their scripts for the presentation) and their spoken English proficiency (when they give the presentation in class in front of their peers). Students will give a presentation on one Beat or Transcendentalist or Modernist poet mentioned throughout the course. In English Seminar 7 in Semester 1, students can present on writers such as Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau or a contemporary poet and friend of Snyder's such as Alan Watts, Philip Whalen or Michael McClure (and in Semester 2, in English Seminar 8, for those continuing on with Ecospirituality II (Welch), they will have the opportunity to present on writers such as Gertrude Stein, William Carlos Williams, W. B. Yeats, John Muir or the Chinese hermetic poet Tao Ch'ien, or Beat poets such as Gary Snyder, Philip Whalen, Jack Kerouac, Allen Ginsberg, Joanne Kyger and others.) Students will be expected to complete three written assignments. The first assignment will be based upon a famous prose work "Four Changes" from Snyder's Pulitzer Prize-winning collection, *Turtle Island*, and the other two assignments will be based on one of the essays either included in the textbook, *A Place in Space* or from another classic Snyder prose work, *The Practice of the Wild*. Students will have a chance in each lesson to discuss their written assignments as well (in draft form), for which they can earn points towards their participation score. Assignment #4 will be held over two weeks towards the end of term, during which students will give a 3-minute presentation (on one of the writers mentioned above). Supplementary materials will be provided either in class or by email to help students complete ALL assignments. Some guidelines on how to complete these assignments will also be provided by the teacher, to help students improve their abilities in English written composition and expression.

Successful completion of this course should indicate an understanding of...

1. the historical background and contexts of the Beat Generation writers (with a particular focus upon the West Coast Beat scene) and the Transcendentalist writers;
2. the style, structure, aesthetics, aims and reception of Gary Snyder's body of work, with a particular focus on his nature writings and essays seen through the prism of Ecocriticism (including the recent field of Blue Ecocriticism);
3. several ways of analyzing a text, through supplementary readings, slides and recordings provided in or after class.
4. a better background knowledge of Snyder's life, times and ongoing legacy upon American letters as a whole (The collection of essays called *Gary Snyder: Dimensions of a Life* will be used extensively as a source and

reference for generating background notes, details and commentary.)

This course also strives to help students develop the following skills...

1. the ability to interpret and discuss a text, based on its historical and cultural context and milieu;
2. the ability to inform an original text through the use of secondary sources;
3. the ability to interpret and understand the literary analysis of other critics and writers;
4. the ability to present an argument or summary of one's opinion on a literary work both in writing and orally.

### 授業の内容 / Course Contents

This course, predominantly conducted in English, will offer enrolled students the opportunity to read and discuss Gary Snyder's essays and talks on nature, as collected in the volume *A Place in Space: Ethics, Aesthetics and Watersheds*, an important collection of writings from Snyder which highlights many of the environmental concerns among certain writers of the Beat Generation, particularly those from the West Coast of the United States. We will also talk about some of the Beat writers (both from the East Coast such as Kerouac, Ginsberg, or Corso, as well as West Coast beats such as Welch, Whalen, Kyger, & McClure) and other scholars and friends (such as Alan Watts) who share something in common with Gary Snyder's environmental activism and/or spirituality.

Most of the content of this course will be based upon Snyder's, *A Place in Space* book, but at times the teacher will refer to essays from *The Practice of the Wild*, another excellent and important volume of prose by Gary Snyder. Finally, where possible, the teacher will use any audio files by or on the writer. The aim of sharing these materials is twofold: to enrich students' knowledge of Gary Snyder, his writing, his perceptions of the world and the fields of environmental activism, bioregionalism and Ecocriticism; and to help them enjoy studying poetry and prose through audio materials, not just the written page. As Snyder comes across as an extremely eloquent and articulate scholar and authority on environmental-related matters, many of his comments from interviews (including those published in *The Real Work* will also be referred to throughout the course, to help supplement students' understanding of key concepts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Lesson 1 – An Introduction to Beat literature, Ecocriticism & Gary Snyder

In our first class for the course, *Ecospirituality I* (Snyder), we will begin by discussing the historical contexts and backgrounds of the Beat Generation (by focusing on 3 key essays)

2 回：Lesson 2 – North Beach – Smokey the Bear Sutra pp. 3-31

In Lesson 2, and in most classes throughout the term, we will focus on about 4 different essays taken from the textbook, *A Place in Space*. Students will be divided into one of 4 groups and each group

3 回：Lesson 3 – Four Changes – Energy is Eternal Delight pp. 32-55

In Lesson 3, students will once again discuss one of 4 different essays assigned to them in their groups (same groups as last time). Three of the essays will be taken from *A Place in Space*. The

4 回：Lesson 4 – Earth Day – A Village Council of All Beings pp. 56-84

In Lesson 4, we will focus on the last three essays from the first part of our textbook on "Ethics", to discuss Snyder's various ecological concerns and their lasting relevance and importance

5 回：Lesson 5 – Goddess of Mountains & Rivers – The Old Masters pp. 85-109

In Lesson 5, we will start a new section of the textbook called "Aesthetics." If ready, Assignment #2 will also be distributed and briefly explained. In this class, we will focus on a

6回：Lesson 6 – A Single Breath – The Politics of Ethnopoetics pp. 109-147

In Lesson 6, probably the heaviest amount of weekly reading for the term, we will take a look at the next four essays from A Place in Space. In this unit, we will continue to look at S

7回：Lesson 7 – Coyote – Language Goes Two Ways pp. 148-180

In Lesson 7, we have reached the halfway point of the course. In this lesson, we will read the final three essays of the “Aesthetics” section of the textbook. The fourth essay will be based on a chap

8回：Lesson 8 – Reinhabitation – The Forest in the Library pp. 183-204

In Lesson 8, we will begin the third and final section of Snyder’s book. This section is called “Watersheds” and is a key term to understand in relation to his concern with bioregionalism

9回：Lesson 9 – Exhortations for Baby Tigers – Coming into the Watershed pp. 205-235

In Lesson 9, we will continue reading the next sequence of essays from the “Watersheds” section. As one of the essays this week is on Walt Whitman, we will discuss his poetry

10回：Lesson 10 – Turtle Island – Kitkitdizze pp. 236-263

In Lesson 10, we will read the final section of the textbook, which focuses on just two essays. Two additional essays (discussed back in Lesson 1 by Bartlett and Everson) will be provided in order for t

11回：Lesson 11 – Presentations I

In Lessons 11 and 12 students will have a chance to present on ONE of the Beat writers or Transcendentalist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Transcendentalist or Modernists writer

12回：Lesson 12 – Presentations II

In Lessons 11 and 12 students will have a chance to present on ONE of the Beat writers or Transcendentalist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Transcendentalist or Modernists write

13回：Lesson 13 – Comprehensive Review

This lesson will be devoted to covering the main points and themes throughout the course that we have covered in A Place in Space and the various Snyder-related materials that students have read while completing their ass

14回：Lesson 14 – Final Examination

In Lesson 14, students will take their final examination. All parts of the textbook will be covered in the final exam, including some of the supplementary materials used in Assignments 1-3. There will be three sections to th

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

In addition to the weekly reading assignments from the textbook, students will also be encouraged to read and explore other supplementary sources of information. Some of the supplementary reading materials will be provided by the teacher (either photocopies handed out in class or sent by email or uploaded onto a Google Classroom webpage, set up specifically for this course) and extra 'recommended reading' sections will be suggested by the teacher to help students enrich their understanding of the essays, the writer, the field of

Ecocriticism, and the course overall. Many of the extra articles on Gary Snyder will be taken from Beat Scene magazine as well as excerpts from the great festschrift on Snyder called Dimensions of a Life as well as from Sidney Dobrin's excellent and recent work called Blue Ecocriticism and the Oceanic Imperative

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignment #1:10% Assignment #2:10% Assignment #3:10% Assignment #4 (Presentation):10% In-class participation:30% 最終テスト割合 :30%

#### テキスト / Textbooks

Snyder, Gary A Place in Space Counterpoint 1995 1887178023 ○

#### 参考文献 / Readings

Snyder, Gary The Practice of the Wild Counterpoint 2010 9781582436388

Thoreau, Henry David I To Myself Yale University Press 2007 9780300111729

Emerson, Ralph Waldo Selected Essays Penguin Classics 2003 9780142437629

Dobrin, Sidney Blue Ecocriticism and the Oceanic Imperative Routledge 2021 9781138315273

Snyder, Gary The Real Work New Directions 1980 9780811207614

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students need to have sufficient proficiency in spoken English in order to participate in the lessons of this course, which focus heavily around a group discussion format. In addition, students need to be motivated to not only do the required weekly reading

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It is helpful, although not essential, if students own their own computer / PC or iPad or similar device which they can use when giving presentations (later in the course), for searching for online information and for general note-taking.

## 英語表現演習 8

English Seminars 8

Ecospirituality II: Welch

マクラフリン (MCLAUGHLIN MATTHEW)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM208

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

This English literature course aims to help students develop their English abilities in the four core skills of listening, reading, speaking, and writing through a combination of various texts, media and in-class activities. Students enrolled in this course will have the opportunity to enhance their abilities to analyze a text of literature through close reading of the original text, the provision of supplementary notes, videos or audio to aid students in their reading and interpretation of the source text from various perspectives. This will facilitate their overall understanding of the fields of Beat literature as well as the growing field of Ecocriticism, and the course will also touch upon the legacy of the Transcendentalists upon the 'Environmental' poets of the Beat Generation and San Francisco Renaissance, including Lew Welch.

To provide students with a better contextual background, some supplementary materials and information on contemporary Beat writers and poets, as well as Transcendentalist writers, will also be provided to help students better understand both past and contemporary influences on the work of Lew Welch. In each semester, three or four writers will be introduced as a means of comparison against the writings of Lew Welch himself (the same



form of comparison will be conducted with Gary Snyder's work in first semester), to help students deepen their understanding of certain aspects of Ecocriticism in relation to the Beat movement. These writers include Gary Snyder, Joanne Kyger, Philip Whalen, John Muir, and the Chinese poet Tao Ch'ien among others.

In terms of skills related to English ability and proficiency, students will have the opportunity to improve their English listening skills through the interpretations of the text provided by their teacher in class, and listening to recordings of Lew Welch reading from his own poetry and giving short talks and lectures, which were recorded during the 1960s and made available to the public through the University of Pennsylvania's audio archives website. This will be used not only as a listening-comprehension exercise but as a way to better appreciate the feel and sounds of poetry and literature as a whole.

Group discussions will be held in regular classes on questions directly related to the texts and given to students beforehand to prepare. Students will also have the opportunity to make a presentation in class (towards the end of the course) to help students improve their written proficiency (in preparing for the presentation) and their spoken English proficiency when they give the presentation in class in front of their peers. Students will give a presentation on one Beat or Transcendentalist poet mentioned throughout the course. For those taking English Seminar 7 in Semester

1, students can present on writers such as Ralph Waldo Emerson, David Henry Thoreau or a contemporary poet and friend of Snyder's such as Alan Watts, Philip Whalen or Michael McClure and in Semester 2, they will have the

opportunity to present on writers such as Gertrude Stein, William Carlos Williams, John Muir or the Chinese hermetic

poet Tao Ch'ien, or Beat poets such as Gary Snyder, Philip Whalen, Jack Kerouac, Allen Ginsberg, Joanne Kyger and others. Three written homework assignments will be assigned on supplementary materials provided in class.

Assignment #1 will be based on Lew Welch's collection of essays, *How I Work as a Poet & Other Essays* ;

Assignment #2 will be based upon an excerpt of Welch's thesis on Stein *How I Read Gertrude Stein* ; and

Assignment #3 will be about one of Welch's short stories, also taken from *How I Work as a Poet & Other Essays*

. Assignment #4 will be held over two weeks towards the end of term, during which students will give a 3-minute presentation (on one of the writers mentioned above). Supplementary materials will be provided either in class or by

email to help students complete ALL assignments. Some guidelines on how to complete these assignments will also be

provided by the teacher, to help students improve their abilities in English written composition and expression.

Successful completion of this course should indicate an understanding of ...

1. the historical background and contexts of the Beat Generation writers (with a particular focus upon the West Coast

Beat scene) and the Transcendentalist writers;

2. the style, structure, aesthetics, aims and various complexities of Lew Welch's writings, with a particular focus on

his major poems;

3. several ways of analyzing a text, through supplementary readings, slides and recordings provided in or after class.

4. a better background knowledge of Welch's life, times and ongoing legacy upon American letters as a whole

(Ewan

Clark's recently published comprehensive biography on Welch He, Leo will be used extensively as a source and reference for generating background notes, details and commentary.)

This course also involves the development of the following skills ...

1. the ability to interpret and discuss a text, based on its historical and cultural context and milieu;
2. the ability to inform an original text through the use of secondary sources;
3. the ability to interpret and understand the literary analysis of other critics and writers;
4. the ability to present an argument or summary of one's opinion on a literary work both in writing and orally.

### 授業の内容 / Course Contents

This course, predominantly conducted in English, will offer enrolled students the opportunity to read and discuss Lew

Welch's poetry, collected in the volume Ring of Bone , a body of work which has been sadly neglected since Welch's disappearance into the Sierra Nevada in 1971. We will also talk about some of the Beat Generation writers

(both from the East Coast such as Kerouac & Ginsberg, as well as West Coast beats such as Snyder, Whalen, Kyger &

McClure) who share something in common with Lew Welch's style of writing and spirituality.

Most supplementary notes have been drawn from three very helpful texts: Ewan Clark's recent critical biography on

Welch's life and times, He, Leo , a festschrift / collection of testimonies, memoirs and stories about Welch collected in Hey Lew and also from the short but early work on Lew Welch by Rod Philips and published by Boise State University called simply, Lew Welch . Finally, where possible, the teacher will use any audio files by or on the writer. The aim of sharing these materials is twofold: to enrich students' knowledge of Lew

Welch, his writing and his perceptions of the world; and to help them enjoy studying poetry and prose through audio materials, not just the written page. As Welch was known as much by the excellent performances of his own poetry and writings at the various events where he was invited to read, as much as for his publications, this is also an important aspect of the man that students should attempt to comprehend.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Lesson 1 – An Introduction to Beat literature, Ecocriticism & Lew Welch

In our first class for the course, Ecospirituality II (Welch), we will begin by discussing the historical contexts and backgrounds of the Beat Generation, with a particular focus o

2 回：Lesson 2 – This Book is for Magda – A Parable of Wasps pp. 23-54

In Lesson 2, we will focus on the first 30 pages of poems from Ring of Bone . We will discuss Welch's relationship to the Beats (especially Gary Snyder, Philip Whalen, Michael McClure,

3 回：Lesson 3 – You Can't Burlesque It Any More – I Rate My Fury With The pp. 55-78

In Lesson 3, we will begin by quickly reviewing content from the previous lesson before continuing on with the next sequence of poems from Ring of Bone . We will briefly di

4 回：Lesson 4 – Hermit Poems & The Way Back pp. 81-115

In Lesson 4, probably the heaviest week of reading for the semester, we will focus on the next two small books of poetry from Lew Welch. The first of these, Hermit Poems , is considered by some critics

5 回：Lesson 5 – Din Poem & Courses pp. 115-135

In Lesson 5, we will review briefly what we have read so far. A reminder will be given that Assignment #1 is due at the end of this week. Penalties for late submissions after the deadline will also be repeated a

6 回：Lesson 6 – The Song Mt. Tamalpais Sings pp. 135-154

In Lesson 6, we will take a look at the final collection of poems by Welch published in his lifetime, The Song Mt. Tamalpais Sings. We will also return to a discussion on John Muir's writing, especially

7 回：Lesson 7 – Uncollected Poems: Part 1 pp. 155-175

In Lesson 7, we have reached the halfway point of the course. The following 4 lessons, including this one, will focus on poems that were previously uncollected in the first edition of Ring of Bone, origina

8 回：Lesson 8 – Uncollected Poems: Part 2 & Joanne Kyger pp. 176-199

In Lesson 8, we will look at the next sequence of previously uncollected poems by Lew Welch. In this particular week, we will also focus on Welch's friendship with female beat poet, Joanne K

9 回：Lesson 9 – Uncollected Poems: Part 3 & Philip Whalen pp. 200-220

In Lesson 9, we will continue reading the next sequence of previously uncollected poems by Welch. This time we will look at the relationship and friendship between Lew Welch and Philip Whal

10 回：Lesson 10 – Uncollected Poems: Part 4 & Jack Kerouac pp. 221-249

In Lesson 10, we will read the final section of the textbook. One of these poems is about the Beat legendary novelist, Jack Kerouac, who was also a close friend of Lew Welch's. We will brie

11 回：Lesson 11 – Presentations I

In Lessons 11 and 12 students will have a chance to present on ONE of the Beat writers or Transcendentalist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Beat or Transcendentalist writers we d

12 回：Lesson 12 – Presentations II

In Lessons 11 and 12 students will have a chance to present on ONE of the Beat writers or Transcendentalist writers we have discussed over the course of the semester. It may be one of the Beat or Transcendentalist writers we

13 回：Lesson 13 – Comprehensive Review

This lesson will be devoted to covering the main points and themes throughout the course that we have covered in Ring of Bone and the various Welch-related materials that students read while completing their assignments,

14 回：Lesson 14 – Final Examination

In Lesson 14, students will take their final examination. All parts of the textbook will be covered in the final exam, including some of the supplementary materials used in Assignments 1-3. There will be three sections to th

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Study Required Outside of Class

In addition to the weekly reading assignments from the textbook, students will also be encouraged to read and

explore other supplementary sources of information. Some of the supplementary reading materials will be provided by the teacher (either photocopies handed out in class or sent by email or uploaded onto a Google Classroom webpage, set up specifically for this course) and extra 'recommending reading' sections will be suggested by the teachers to help them enrich their understanding of the poems, the writer, the field of Ecocriticism, and the course overall. Many of the extra articles on Lew Welch will be taken from Beat Scene magazine as well as excerpts from Ewan Clark's biography on him, *He, Leo* and the celebration of Welch's life and work, collected by Magda Cregg in the volume, *Hey Lew*.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignment #1:10% Assignment #2:10% Assignment #3:10% Assignment #4 (Presentation):10% In-class participation:30% 最終テスト割合 :30%

#### テキスト / Textbooks

Welch, Lew. *Ring of Bone: Collected Poems* City Lights/Grey Fox 2012 9780872865792 ○

#### 参考文献 / Readings

Welch, Lew. *How I Work As a Poet & Other Essays* Grey Fox Press 2001

Welch, Lew. Shaffer, Eric, Paul (ed.) *How I Read Gertrude Stein* Grey Fox Press 1995 9780912516233

Cregg, Magda. *Hew Lew: Homage to Lew Welch* Magda Cregg 1997

Clark, Ewan. *He, Leo: The Life and Poetry of Lew Welch* Oregon State University 2023

Phillips, Rod. *Lew Welch* Boise State University 2006

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students should come prepared to each lesson, which means they are expected to have read the required reading assignments each week, in order to participate in the group discussions around the poems and texts. Students also should come read to proactively

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should prepare a short, condensed PowerPoint slide presentation when they are asked to present in Lesson 11 or 12.

## 英語表現演習 9

English Seminars 9

Modernity, Early Modernism, and the Shock of the New

チルトン, M. (CHILTON MYLES K.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

The main goals of the course are to introduce and analyze how literary texts reflect and represent historical, social, political change in the lives of ordinary people; and to improve abilities in reading and interpreting complex texts in English, participating in discussions, and in writing essays.

### 授業の内容 / Course Contents

In this seminar, we will read and discuss some key literary texts that mark Europe's transition from the long 19th to the 20th century. This period of transition was marked in the broader European context by increasing urbanization, the spread of capitalism, and political turmoil caused by the intensification of European colonization. Writers of the period strove to represent how these changes affected regular people by focusing on daily life, particularly how even the smallest details can reflect larger historical movements.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to the class.

Homework: Homework: Read "Araby" by James Joyce.

2回：Discussing “Araby”

Homework: Prepare a short presentation in response to our discussions of “Araby”.

3回：Discussing “Araby”

Homework: Read “The Dead” by James Joyce.

4回：Discussing “The Dead”

Homework: Prepare a short presentation in response to our discussions of “The Dead”.

5回：Discussing “The Dead”

Homework: Read “The Necklace” by Guy de Maupassant.

6回：Discussing “The Necklace”

Homework: Prepare a short presentation in response to our discussions of “The Necklace”.

7回：Discussing “The Necklace”

Homework: Read Heart of Darkness by Joseph Conrad, pp. 3-13.

8回：Discussing Heart of Darkness

Homework: Prepare a short presentation in response to our discussions; read Heart of Darkness, pp. 13-31.

9回：Discussing Heart of Darkness

Homework: Prepare a short presentation in response to our discussions; read Heart of Darkness, pp. 31-42.

10回：Discussing Heart of Darkness

Homework: Read Heart of Darkness, pp. 42-54.

11回：Discussing Heart of Darkness

Homework: Prepare a short presentation in response to our discussions; read Heart of Darkness, pp. 54-64.

12回：Discussing Heart of Darkness

Homework: Read Heart of Darkness, pp. 64-77.

13回：Discussing Heart of Darkness

Homework: Prepare final presentations and final essay.

14回：Final presentations; final essay due.

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to do the readings and complete the homework assignments in order to prepare for class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:20% six short presentations:30% final presentation:20% final essay:30%

### テキスト / Textbooks

Joseph Conrad Heart of Darkness Norton 2016 9780393264869 ○

Other materials will be supplied by the instructor on Canvas.

### 参考文献 / Readings

# 英語表現演習 10

English Seminars 10

Modernity, Early Modernism, and the Shock of the New

チルトン, M. (CHILTON MYLES K.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM210

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The main goals of the course are to introduce students to important cultural and historical changes in turn of the century Britain; improving abilities in reading and interpreting complex texts in English; participating in discussions; and in writing short essays.

## 授業の内容 / Course Contents

In this seminar we will read one of the key British novels of the twentieth century, E. M. Forster's *Howards End*. Published in 1910, *Howards End* deals with issues of class, nationality, status, and how these influence personal relationships. Because of the breadth and depth of its concerns, *Howards End* also gives a detailed and moving representation of British culture and society as it began the often painful transition from the 19th to the 20th century. We will read the novel slowly and carefully. Class discussions will focus on key questions or problems, with students giving short group presentations.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction; historical background; introduction to E. M. Forster

Homework: Read Howards End, chapters I-IV.

2回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters V-VI.

3回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters VII-X.

4回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XI-XIV.

5回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XV-XVII.

6回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XVIII-XX.

7回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XXI-XXIV.

8回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XXV-XXVI.

9回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XXVII-XXXI.

10回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XXXII-XXXV.

11回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XXXVI-XLI.

12回：Discuss reading.

Homework: Read Howards End, chapters XLII-XLIV.

13回：Discuss reading, and final presentation and essay.

Homework: Prepare final presentation and essay.

14回：Final presentations and essays due.

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to actively participate in class, as the teacher will ask many questions, and there will be group discussions requiring students to facilitate and/or present their ideas. Perfect English is not required! Students who try their best, and commit themselves to active participation, will get the most out of this class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:40% presentation:30% final essay:30%

### テキスト / Textbooks

E. M. Forster Howards End Penguin 2000 9780141182131 ○





# 英語表現演習 1 1

English Seminars 11

Harold Pinter and Postwar British Theatre

テイラー, D. (TAYLOR DAVID JOHN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM211

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to provide a comprehensive introduction to twentieth century British theatre, and in particular consider the literary, historical, and cultural background to one of the twentieth century's most influential playwrights - Harold Pinter (1930-2008). We will consider Pinter's early masterpiece *The Birthday Party* (1957) and his later work *Betrayal* (1978) in detail to enable familiarity with Pinter's archetypal characters and theatrical style. Further course objectives include improvement in discussion skills, and the acquisition of a wider analytical vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will outline a general account of UK postwar drama and the London theatre scene before focusing on Harold Pinter's plays *The Birthday Party* and *Betrayal*. Close textual reading and in-class video study of these major achievements in modern drama will enable students to become familiar with the experimental style, specific characters, and language of one of the greatest postwar playwrights in English.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：Introduction to Harold Pinter and the London Theatre Scene in the 1950s and 1960s  
 2 回：Introduction to The Birthday Party and UK theatrical history  
 3 回：The Birthday Party  
 4 回：The Birthday Party  
 5 回：The Birthday Party  
 6 回：The Birthday Party  
 7 回：Introduction to Betrayal and UK theatrical history  
 8 回：Betrayal  
 9 回：Betrayal  
 10 回：Betrayal  
 11 回：Betrayal  
 12 回：Betrayal  
 13 回：Betrayal  
 14 回：Course conclusion and revision of all major areas relevant to Pinter examined throughout

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

Students are expected to prepare for analysis of weekly sections of The Birthday Party and Betrayal by reading and researching the plays privately in advance of classes, and, if possible, watch the plays online in the various available performances.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and Class Participation:35% Reaction Papers:30% Final End of Semester Report:35%

**テキスト / Textbooks**

Harold Pinter The Birthday Party Faber and Faber 1991 0571160786 ○

Harold Pinter Betrayal Faber and Faber 2018 9780571338788 ○

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

Regular attendance is essential and active participation is required in class.

# 英語表現演習 1 2

English Seminars 12

The Poetry and Drama of Dylan Thomas

テイラー, D. (TAYLOR DAVID JOHN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM212

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to introduce students to the major area of modern poetry, and to poetic surrealism in particular, and to provide the literary, historical, and cultural background to one of the twentieth century's most recognized and controversial British poets - Dylan Thomas (1914-1953). Further course objectives include improvement in discussion skills, and the acquisition of a wider analytical vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will provide an introduction to modern British poetry, and focus in particular on the work of the Welsh poet, Dylan Thomas. Textual study of this major twentieth century British figure will enable students to become familiar with Thomas's most famous poems, with their celebrated surrealist imagery, and his radio drama masterpiece - Under Milk Wood (1954).

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Introduction I: General Introduction to Twentieth Century English poetry

2 回： Course Introduction II: Dylan Thomas, Wales, and Twentieth Century Welsh Culture

- 3 回：Dylan Thomas and European Surrealism  
 4 回：“Do not go gentle into that good night”(1947)  
 5 回：“Fern Hill”(1945)  
 6 回：“And death shall have no dominion”(1933)  
 7 回：“A Refusal to Mourn the Death, by Fire, of a Child in London”(1934)  
 8 回：Under Milk Wood (Introduction to Radio Drama)  
 9 回：Characterisation Techniques in Under Milk Wood  
 10 回：Under Milk Wood (Close reading)  
 11 回：Under Milk Wood (Close reading)  
 12 回：Under Milk Wood (Close reading)  
 13 回：Under Milk Wood (Concluding discussion of the play’s historical significance)  
 14 回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are encouraged to read a specified poem or section of Under Milk Wood in advance of a class and, if possible, watch examples of the play online by way of preparation.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:35% Reaction Papers:30% Final End of Semester Report:35%

### テキスト / Textbooks

Dylan Thomas Dylan Thomas Omnibus: Under Milk Wood, Poems, Stories, and Broadcasts Weidenfeld and Nicholson 2014 9781780227283 ○

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

Regular attendance is essential and active participation is required in class.

# 英語表現演習 13

English Seminars 13

Shakespearean Tragedy: Macbeth and Romeo and Juliet

テイラー, D. (TAYLOR DAVID JOHN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM213

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to introduce students to the major area of literary tragedy, and to consider in particular two of the great tragedies by William Shakespeare (1564-1616). Further course objectives include improvement in discussion skills, and the acquisition of a wider analytical vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will provide introductory definitions of literary tragedy before focusing on Shakespeare's great plays Macbeth (1606) and Romeo and Juliet (1591-1595). Textual and in-class video study of these major tragedies by one of the leading figures in world theatre history will enable students to become familiar with early modern English culture and the specific characters, plot, and poetic style of language of two of the works by the most celebrated English playwright.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to Shakespeare and English Literary Tragedy

2 回： Introduction to the characters of Macbeth

- 3回：Macbeth (Act I)  
 4回：Macbeth (Act II)  
 5回：Macbeth (Act III)  
 6回：Macbeth (Act IV)  
 7回：Macbeth (Act V)  
 8回：Introduction to the characters of Romeo and Juliet  
 9回：Romeo and Juliet (Act I)  
 10回：Romeo and Juliet (Act II)  
 11回：Romeo and Juliet (Act III)  
 12回：Romeo and Juliet (Act IV)  
 13回：Romeo and Juliet (Act V)  
 14回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout.

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Shakespeare's poetic language is complex, and students are advised to read the specified sections of the play in advance of a class, research the play and its vocabulary and, if possible, watch some of the various productions of the play online by way of preparation.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:35% Reaction Papers:30% Final End of Semester Report:35%

#### テキスト / Textbooks

William Shakespeare Macbeth Penguin books 2024 9780241682074 ○

William Shakespeare Romeo and Juliet Penguin books 2024 9780241682067 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

Regular attendance is essential and active participation is required in class.

# 英語表現演習 14

English Seminars 14

Shakespearean Comedy: Twelfth Night and The Merchant of Venice

テイラー, D. (TAYLOR DAVID JOHN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM214

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL3811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to introduce students to the major area of literary comedy, and to consider in particular two of the major comedies by William Shakespeare (1564-1616). Further course objectives include improvement in discussion skills, and the acquisition of a wider analytical vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will provide introductory definitions of literary comedy before focusing on two of Shakespeare's great plays: Twelfth Night (1601-1602) and The Merchant of Venice (1596-1598). Textual and in-class video study of these major comedies by one of the central figures in world theatre history will enable students to become familiar with early modern English culture and the specific characters, plot, and poetic style of language of two of the great works by the most celebrated English playwright.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to Shakespearean Comedy



- 2回：Introduction to the major characters of Twelfth Night  
 3回：Twelfth Night (Act I)  
 4回：Twelfth Night (Act II)  
 5回：Twelfth Night (Act III)  
 6回：Twelfth Night (Act IV)  
 7回：Twelfth Night (Act V)  
 8回：Introduction to the major characters of The Merchant of Venice  
 9回：The Merchant of Venice (Act I)  
 10回：The Merchant of Venice (Act II)  
 11回：The Merchant of Venice (Act III)  
 12回：The Merchant of Venice (Act IV)  
 13回：The Merchant of Venice (Act V)  
 14回：Course conclusion and revision of all major areas examined throughout.

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Shakespeare's poetic language is complex, and students are advised to read the specified sections of the play in advance of a class and, if possible, watch examples of the play online by way of preparation.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:35% Reaction Papers:30% Final End of Semester Report:35%

#### テキスト / Textbooks

William Shakespeare Twelfth Night Penguin Classics 2015 9780141396446 ○

William Shakespeare The Merchant of Venice Penguin Classics 2015 9780141396545 ○

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

Regular attendance is essential and active participation is required in class.

# 文学講義 1

Lectures on Literature 1

英語学概説 1

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM301  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、英語学概説という広いテーマのもと、現代英語の多文化的、言語的特質がどのような歴史的な経緯で成立したのかについて学習する。すなわち、英語の歴史的変遷を通してその文法について理解だけでなく、国際共通語となった現代英語の実態とその背景を考察する。それと同時に、英語や英語の特質やその背後にある歴史等に関するリサーチをする練習をする。

This course will cover a range of topics in the wide field of English studies through studying modern English's cultural and linguistic characteristics and their development over the course of history. Namely, students will consider the current state of the English language as the lingua franca of the world and how it became such in addition to studying historical and grammatical changes to the English language.

## 授業の内容 / Course Contents

世界言語としての地位を築きつつある現代英語の特徴について英語の歴史を通して具体的に理解します。また、現代英語の文法・語法について、その歴史的背景を理解します。毎回の授業のおよそ半分はその時々テーマに沿った講義、残りの半分はそのテーマに関連した課題を各自こなすことで英語史・英語学分野における

リサーチの仕方を身に着けながら能動的に学びを深めます。

Students will learn specifically about modern English's status in becoming the global language and the historical developments that got it there. In addition, students will also learn about the historical background of modern English's grammar and syntax structure.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：前期イントロダクション 国際共通語である現代英語の特質 文法および語彙を中心に
- 2回：イングランドにおける英語盛衰史 黎明期(450 - 900)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 3回：イングランドにおける英語盛衰史 黎明期(900 - 1066)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 4回：イングランドにおける英語盛衰史 試練の時代(1066 - 1200)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 5回：イングランドにおける英語盛衰史 試練の時代(1200 - 1350)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 6回：イングランドにおける英語盛衰史 復権の時代(1350 - 1400)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 7回：イングランドにおける英語盛衰史 復権の時代(1400 - 1500)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 8回：イングランドにおける英語盛衰史 試行錯誤の時代(1500 - 1660)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 9回：イングランドにおける英語盛衰史 試行錯誤の時代(1600 - 1750)の歴史的背景及び文法・語彙の特徴
- 10回：イギリス諸島における英語の広がり イングランドの標準語：国際共通語としての英語の源
- 11回：イギリス諸島における英語の広がり イングランドの方言 発音・文法の違いを中心に
- 12回：イギリス諸島における英語の広がり スコットランド英語の歴史 標準英語との違いについて
- 13回：イギリス諸島における英語の広がり アイルランド・ウェールズ英語の歴史 標準英語との違いについて
- 14回：イギリス諸島における英語の広がり チャンネルアイランズの英語の歴史

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

事前に教科書を一通り読んでおくと授業の理解度が高まります。また、英語の歴史についての関連書を通して、毎週の項目について事前に学習するとさらに効果的です。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の課題およびリアクションペーパー:100%

ただし、欠席が全授業回数のおよそ三分の一を超えた場合には不可とする。

### テキスト / Textbooks

唐澤一友 『世界の英語ができるまで』 亜紀書房 2016 9784750514697 ○

### 参考文献 / Readings

Albert C. Baugh & T. Cable A History of the English Language Routledge 2013 9780205229390

唐澤一友 『英語のルーツ』 春風社 2011 9784861102837

その他の参考文献については、授業時に適宜紹介する。

## 文学講義 2

Lectures on Literature 2

英語学概説 2

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM302
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は文学講義 1（春学期）に続き、英語学概説という広いテーマのもと、現代英語の多文化的、言語的特質がどのような歴史的な経緯で成立したのかについて学習する。すなわち、英語の歴史の変遷を通してその文法について理解するだけでなく、国際共通語となった現代英語の実態とその背景を考察する。それと同時に、英語や英語の特質やその背後にある歴史等に関するリサーチをする練習をする。

In following with the spring semester material, this course will cover a range of topics in the wide field of English studies through studying modern English's cultural and linguistic characteristics and their development over the course of history. Namely, students will consider the current state of the English language as the lingua franca of the world and how it became such in addition to studying historical and grammatical changes to the English language.

### 授業の内容 / Course Contents

国際共通語としての地位を築きつつある現代英語の特徴について英語の歴史を通して具体的に理解します。本講義では特に、英語がイギリス諸島を離れ、世界に広まっていった歴史と、広まった先で英語がどのように発

達してきているかについて学びます。毎回の授業のおよそ半分はその時々テーマに沿った講義、残りの半分はそのテーマと関連した課題を各自こなすことで英語史・英語学分野におけるリサーチの仕方を身に着けながら能動的に学びを深めます。

Students will learn specifically about modern English's status in becoming the global language and the historical developments that got it there. In addition, students will also learn about the development of English's grammar and syntax structure.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：後期イントロダクション 英語の世界的広がりと世界英語の文法的、語彙的特質
- 2 回：英語の世界進出(国際共通語への道) 北米大陸への英語の伝播 アメリカ英語の歴史
- 3 回：英語の世界進出(国際共通語への道) 北米大陸への英語の伝播 アメリカ英語のアイデンティティ
- 4 回：英語の世界進出(国際共通語への道) 北米大陸への英語の伝播 アメリカ英語とイギリス英語の違い：文法・語彙的特徴を中心に
- 5 回：英語の世界進出(国際共通語への道) 北米大陸への英語の伝播 アメリカ英語の方言：発音の特徴を中心に
- 6 回：英語の世界進出(国際共通語への道) 北米大陸への英語の伝播 カナダ英語の歴史：その文法・語彙的特徴を中心に
- 7 回：南半球に伝わった英語(国際共通語への道) オーストラリア英語の歴史：その文法・語彙的特徴を中心に
- 8 回：南半球に伝わった英語(国際共通語への道) ニュージーランド英語の歴史：その文法・語彙的特徴を中心に
- 9 回：南半球に伝わった英語(国際共通語への道) 南アフリカ英語の歴史：その文法・語彙的特徴を中心に
- 10 回：英語から新たな言語へ カリブ海地域の英語の歴史：その文法・語彙的特徴を中心に
- 11 回：英語から新たな言語へ アフリカの英語：その文法・語彙的特徴を中心に
- 12 回：アメリカの黒人英語：その文法・語彙的特徴を中心に
- 13 回：アジアに伝わった英語 南アジアの英語：その文法・語彙的特徴を中心に
- 14 回：アジアに伝わった英語 東南アジアの英語：その文法・語彙的特徴を中心に

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に教科書を一通り読んでおくと授業の理解度が高まります。また、英語の歴史についての関連書を通して、毎週の項目について事前に学習するとさらに効果的です。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の課題およびリアクションペーパー:100%

ただし、欠席が全授業回数の三分之一を超えた場合には不可とする。

### テキスト/ Textbooks

唐澤一友 『世界の英語ができるまで』 亜紀書房 2016 9784750514697 ○

### 参考文献 / Readings

Albert C. Baugh & T. Cable A History of the English Language Routledge 2013 9780205229390

唐澤一友 『英語のルーツ』 春風社 2011 9784861102837

その他の参考文献については、授業時に適宜紹介する。

# 文学講義 3

Lectures on Literature 3

イギリス文学概説 1

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、イギリス文学概説という広いテーマのもと、17世紀末までのイギリス文学を概観し、その流れをつかむことを目標とします。そのさい、各時代の文化的、社会的背景に光を当てながら、各作品独特の英語表現とテーマを分析することによって、それらの作品をイギリス文学の代表的な作品と照らし合わせ、その文学史の中に位置づける作業も行ないます。

This course will cover a range of topics in British literature through reviewing British literature up to the end of the 17th century. Students will learn about the cultural, societal, and historical backgrounds of each period before reading iconic works of British literature and analyzing their unique themes and writing styles. Thus, students will be able to understand the significance and position of each work in the context of British literary history.

## 授業の内容 / Course Contents

古英詩の時代から17世紀末までのイギリス文学を概観します。基本的には、教科書に沿った講義形式で授業を進めますが、適宜、音声や映像の資料も用いながら多角的に作品に触れます。

Students will gain a general understanding of British literature from the era of old English poetry to the end of

the 17th century. Classes will generally be conducted in the lecture style, regularly referring to the textbook. When appropriate, audio or visual media will be used to supplement students' experience with the literary works.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：古英詩と中世物語詩の世界（『ベーオウルフ』と『農夫ピアズ』）
- 3回：人間性への目覚め（ジェフリー・チョーサー、トマス・マロリー）
- 4回：ルネサンス期の英語ソネット（サリー伯、フィリップ・シドニー）
- 5回：ルネサンス期の物語詩（エドモンド・スペンサー）
- 6回：テューダー朝演劇の興隆（クリストファー・マーロウ）
- 7回：ウィリアム・シェイクスピア（1）
- 8回：ウィリアム・シェイクスピア（2）
- 9回：ウィリアム・シェイクスピア（3）
- 10回：ジャコビアン演劇（ベン・ジョンソン、ジョン・フォード）
- 11回：形而上詩人（ジョン・ダン、ジョージ・ハーバート、アンドルー・マーヴェル）
- 12回：ピューリタニズムと17世紀の宗教詩（ジョン・ミルトンとジョン・バニヤン）
- 13回：古典主義と王政復古期の演劇
- 14回：試験およびこれまでの内容の総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画に従って、教科書の当該箇所を必ず事前に読んでおいてください。授業時に配布する作品テキストのコピーについては、その場で読めるように辞書を必ず持参してください。また、英文が難しかったところがあれば、授業後に読み返して内容を復習してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ミニテストなど:30%

第1週から第13週のうち、欠席が4回に達した時点で、第14週の筆記試験の受験資格を失う。

### テキスト / Textbooks

石塚久郎（編） 『イギリス文学入門』 三修社 2014 9784384060331 ○

### 参考文献 / Readings

授業中に指示します。



# 文学講義 4

Lectures on Literature 4

イギリス文学概説 2

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM304

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、イギリス文学概説という広いテーマのもと、18世紀から現代までのイギリス文学を概観し、イギリス文学に関する広い基礎知識を身につけることを目標とする。併せて、文化的、社会的文脈において各時代の代表的な作品を読み、独特の英語表現とテーマを分析することによって、それらの作品を批評的な観点から読解する基礎的な解釈力も育む。

This course will cover a range of topics in British literature through its survey from the 18th century up to the modern era. The goal of this course is to provide students with wide-ranging, fundamental knowledge of British literature. Students will also learn about basic critical approaches to literary texts by reading representative literary works of each period in the context of their cultural and social backgrounds and analysing their characteristic forms and themes.

## 授業の内容 / Course Contents

18世紀前半にジャンルとして小説が登場すると、まもなく詩から主役の座を奪い、文学が大衆化、多様化するだけでなく、やがて英語が世界の共通語となるのに合わせて英文学は特に20世紀以降ますます国際化してゆ

く。授業では、そのような歴史的経緯を念頭に置き、まず各時代の社会と文学の全般的動向に触れた後、各時代の代表的文学作品を実際に読む。基本的には、最初の授業で配布するプリントに沿って講義形式で授業を進めるが、適宜、音声や映像の資料も用いて多角的に作品を味わう。

Soon after novel as a genre was born in the first half of the 18th century, it took the leading role of literature from poetry and literature became popularized and diversified. Besides, as the English language became a common language in the world, British literature got increasingly internationalized especially after the 20th century. In each class, with such a historical process in mind, after touching on the social and literary trends of each period in general, we will read its representative literary works. Classes will be generally conducted in the lecture style according to the handouts distributed in the first class. When appropriate, audio or visual media will be used to supplement students' experience with the literary works.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：序説－産業資本主義社会とイギリス文学／Alexander Pope と新古典主義文学
- 2 回：小説時代の幕開け
- 3 回：Samuel Johnson と英語辞典
- 4 回：古典主義からロマン主義へ
- 5 回：ロマン主義の時代 1
- 6 回：ロマン主義の時代 2
- 7 回：ロマン主義からヴィクトリア朝時代へ
- 8 回：ヴィクトリア朝時代の詩と散文
- 9 回：Charles Dickens と小説の黄金時代
- 10 回：ヴィクトリア朝から 20 世紀へ
- 11 回：モダニズムの文学 1
- 12 回：モダニズムの文学 2
- 13 回：越境する「英」文学——20 世紀後半から現在まで
- 14 回：まとめと学期末試験

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前にアップロードされる予定のプリント（handouts）に目を通しておく。授業と並行して、参考文献に挙げた本などを読み、自分なりの文学史を作り上げていく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小テスト 3 回:30%

4 回以上の欠席は自動的に不可。また、授業内小テストの際に代理回答その他の不正が発覚した場合には、それだけで単位取得が不可能になる。

### テキスト / Textbooks

作品や資料を収めたプリント（handouts）の PDF 版を Canvas LMS と Google ドライブにアップロードし、最初の授業で紙媒体を配布。

### 参考文献 / Readings

石塚久郎（編） 『イギリス文学入門 [新版]』 三修社 2023 9784384060331

江藤秀一・松本三枝子（編） 『イギリス文化・文学への誘い』 開拓社 2000 9784758918039

参考文献 2 は特に第 5 章を参照。その他教室で折に触れて紹介。

# 文学講義 5

Lectures on Literature 5

アメリカ文学概説 1

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM305

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本科目は、アメリカ文学概説という広いテーマのもと、17世紀から19世紀末にかけてのアメリカ文学史を概観することで、主要作家・作品に関する基礎的な知識を得る。

そのさい、各時代の文化的・社会的背景に光を当てながら、各作品独特の英語表現とテーマを分析することによって、それらの作品をアメリカ文学の代表的な作品と照らし合わせ、その文学史の中に位置づける作業もおこなう。

This course will cover a range of topics in the wide field of American literature by providing students with an overview of American literary history from the 17th century to the end of the 19th century in addition to offering basic knowledge of significant authors and literary works.

Students will learn about each period's cultural, societal, and historical backgrounds before reading iconic works of American literature and analyzing their unique themes and writing styles. With the knowledge acquired in this class, students will be able to understand the significance and position of each work in the context of American literary history.

**授業の内容 / Course Contents**

17世紀から19世紀末にかけてのアメリカ文学史を概観し、アメリカ文学研究に必須の知識を身につける。作品の背後にある歴史的・社会的背景を理解することで、自分勝手にではなく、学問の蓄積に依拠しながら、個々の文学作品を読めるようになる。

以下の授業計画では、文学史的潮流ごとの中心的な作家名を列挙しているが、実際の授業ではより広範なアメリカ作家を網羅する予定である。

Students will conduct an overview of the history of American literature from the 17th century to the end of the 19th century and gain fundamental knowledge for research into American literature. By understanding the historical and social backgrounds of each work, students will become able to draw upon the scholarly knowledge to read the literary works rather than their own arbitrary interpretations.

The following syllabus lists the important authors of each wave of literary history, but classes will cover a wider range of authors than what is listed on the syllabus.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション：アメリカ（文学）の始まり
- 2回：アメリカ建国以前（1）：Jonathan Edwards, Benjamin Franklin を中心に
- 3回：アメリカ建国以前（2）：Charles Brockden Brown を中心に
- 4回：超絶主義：Ralph Waldo Emerson & Henry David Thoreau
- 5回：アメリカン・ルネサンス（1）：Edgar Allan Poe
- 6回：アメリカン・ルネサンス（2）：Nathaniel Hawthorne
- 7回：アメリカン・ルネサンス（3）：Herman Melville
- 8回：詩（1）：Walt Whitman
- 9回：詩（2）：Emily Dickinson
- 10回：奴隷制をめぐる文学・政治（1）：Harriet Beecher Stowe を中心に
- 11回：奴隷制をめぐる文学・政治（2）：Frederick Douglass, Harriet Jacobs らの奴隷体験記
- 12回：南北戦争後のアメリカとリアリズム（1）：Mark Twain
- 13回：南北戦争後のアメリカとリアリズム（2）：Henry James
- 14回：期末試験

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

\*教科書を使用して必ず予習・復習すること。

\*授業で紹介した作家に興味を持ったら、実際に作品を読んでみることに。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回のレスポンス・ペーパー:30%

**テキスト / Textbooks**

竹内理矢・山本洋平 『深まりゆくアメリカ文学—源流と展開』 ミネルヴァ書房 2021 9784623090778

○

**参考文献 / Readings**

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に集中する環境作りのため、特別な事情がないかぎり電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

## 文学講義 6

Lectures on Literature 6

アメリカ文学概説 2

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM306  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本科目は、アメリカ文学概説という広いテーマのもと、19世紀末から現代にかけてのアメリカ文学史を概観することで、主要作家・作品に関する基礎的な知識を得る。

各作品独特の英語表現とテーマを分析するだけでなく、各時代の文化的・社会的背景に光を当てることによって、アメリカ文学の主要作品を文学史という大きな流れの中に位置づける作業もおこなう。

This course will cover a range of topics in the wide field of American literature by providing students with an overview of American literary history from the end of the 19th century to the modern era in addition to offering basic knowledge of significant authors and literary works.

Students will learn about each period's cultural, societal, and historical backgrounds before reading iconic works of American literature and analyzing their unique themes and writing styles. With this knowledge, students will be able to understand the significance and position of each work in the context of American literary history.

### 授業の内容 / Course Contents

19世紀末から現代にかけてのアメリカ文学史を概観し、アメリカ文学研究に必須の知識を身につける。作品

の背後にある歴史的・社会的背景を理解することで、自分勝手にではなく、学問の蓄積に依拠しながら、個々の文学作品を読めるようになる。

「文学史」というと無味乾燥に響くかもしれないが、アメリカ文学には数奇で破滅的な人生を歩む主人公が多く存在しており、彼らの物語を概観することで、自分の人生の反面教師とすることが可能になるだろう。本講義では、学問としての文学史を学習するのはもちろんのこと、想像力を用いて他者の生を擬似体験し、個々の文学作品を学生各自の人生に引き寄せて考えてほしい。

以下の授業計画では、文学史的潮流ごとの中心的な作家名を列挙しているが、実際の授業ではより広範なアメリカ作家を網羅する予定である。

This class offers an overview of the history of American literature from the end of the 19th century through the modern era, and students will gain basic knowledge for research into American literature. By understanding the historical and social backgrounds of each work, students will become able to draw upon their scholarly knowledge to read the literary works rather than their own arbitrary interpretations.

Although the term “literary history” may sound dull, American literature is full of protagonists whose lives are often tragic and bizarre, offering readers examples of life, both good and bad. In this class, students will not only study American literature as an academic discipline, but also actively use their imagination to experience the lives of others.

The following syllabus lists the important authors of each wave of literary history, but classes will cover a wider range of authors than what is listed on the syllabus.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：世紀転換期のアメリカ
- 2 回：フェミニズムと文学：Kate Chopin
- 3 回：自然主義：Jack London を中心に
- 4 回：モダニズム（1）：F. Scott Fitzgerald を中心に
- 5 回：モダニズム（2）：William Faulkner を中心に
- 6 回：モダニズム（3）：Ernest Hemingway を中心に
- 7 回：アメリカ演劇：Tennessee Williams を中心に
- 8 回：アメリカン・ドリーム：John Steinbeck を中心に
- 9 回：ビート・ジェネレーション：Jack Kerouac を中心に
- 10 回：人種とアメリカ文学（1）：Richard Wright & Ralph Ellison
- 11 回：人種とアメリカ文学（2）：James Baldwin & Toni Morrison
- 12 回：ポストモダン：Raymond Carver
- 13 回：21 世紀のアメリカ文学＋学期の振り返り
- 14 回：期末試験

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

\*教科書を使用して必ず予習・復習すること。



\* 授業で紹介した作家に興味を持ったら、実際に作品を読んでみることを。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回のレスポンス・ペーパー:30%

レスポンス・ペーパーを三回未提出の場合は自動的に単位取得の対象外とする。

### テキスト / Textbooks

竹内理矢・山本洋平編著 『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』 ミネルヴァ書房 2021

9784623090778 ○

教科書は前期の文学講義5で使用されるものと同一である。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に集中する環境作りのため、特別な事情がないかぎり電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

# 文学講義 7

Lectures on Literature 7

イギリス散文1

齋藤 一 (SAITO HAJIME)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM307

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、20世紀初頭から21世紀初頭にかけてイギリスの作家たちが書いてきた核ディザスター作品の重要なものを選んで紹介し、核に関わる様々な論点から読み解くことで、英語散文テキストの分析方法を実践的に学ぶことである。

The objectives of this course are to introduce a selection of important nuclear disaster works written by British writers between the early 20th century and the early 21st centuries, and to acquaint students with methods of analysing English prose texts by reading them in terms of various nuclear-related issues.

## 授業の内容 / Course Contents

20世紀初頭から21世紀初頭にかけてイギリスの作家たちが書いた核ディザスター作品（小説やエッセイ）を年代順に取り上げて紹介する。さらに、作品中で放射性物質、核戦争、原発事故といった事象がどのように主題化しているのかについて注目しつつ、イギリス小説の読み方を学ぶ。なお、これらの作品と同時代のアメリカや日本の核ディザスター作品にも言及する。

This course introduces nuclear disaster works (novels and essays) written by British writers between the early 20th and the early 21st centuries, in chronological order. The course will also focus on how events such as radioactive materials, nuclear war and nuclear accidents are represented in the works. Some of the American and Japanese nuclear disaster novels of the same period will also be mentioned.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：序論：「核ディザスター」の定義、核ディザスターイギリス小説史（の不在）、主要な論点の紹介（放射性物質の〈力〉、固有性と普遍性、核の表象（不）可能性、表象と倫理、原爆文学研究やエコクリティシズムとの関係等）
- 2回：最初の核小説？ Herbert George Wells, *The World Set Free* (1914)
- 3回：ヒロシマ・ナガサキをイギリスから語る George Orwell, 'You and the Atom Bomb' (1945)
- 4回：もう一つの世界 Aldous Huxley, *Ape and Essence* (1948)
- 5回：核戦争のあと Nevil Shute, *On the Beach* (1957) Part 1
- 6回：核戦争のあと Nevil Shute, *On the Beach* (1957) Part 2
- 7回：MADな小説と映画 Peter George, *Red Alert* (1958), Peter George, *Dr. Strangelove or: How I Learned to Stop Worrying and Love the Bomb* (1963)
- 8回：長崎原爆の表象 Kazuo Ishiguro, *A Pale View of Hills* (1982) Part 1
- 9回：長崎原爆の表象 Kazuo Ishiguro, *A Pale View of Hills* (1982) Part 2
- 10回：「思考可能性」の小説集 Martin Amis, *Einstein's Monsters* (1987) Part 1
- 11回：MADな人たち Martin Amis, *Einstein's Monsters* (1987) Part 2
- 12回：不死の人々 Martin Amis, *Einstein's Monsters* (1987) Part 3
- 13回：原発事故と気候変動 Ian McEwan, *Solar* (2010)
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業支援システム上アップロードする教材（PDF）を事前に読み授業に参加することが必須です。授業後は、興味を持った授業内容について各自で調べることが必要です。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクション・ペーパー:20% 授業中の発言等による参加:20%

### テキスト / Textbooks

授業支援システム上に教材をPDFでアップします。それを各自プリントアウトするか、電子端末にダウンロードして持参して、授業に参加してください。購入推奨テキストについては、授業中に紹介します。

### 参考文献 / Readings

授業中に紹介します。

# 文学講義 8

Lectures on Literature 8

イギリス散文2

吉野 由起 (YOSHINO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM308

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英文学史における「妖精」や「怪物」にまつわる作品や言説の系譜を俯瞰した上で、ロマン派期から現代にいたる個別の作品の読解分析練習を行い、文学テキストとしての「妖精」や「怪物」を読み解く視座を獲得する。

This course aims to enable the students to acquire some perspectives to interpret 'fairies' and 'monsters' as literary texts. As a methodology, it will present a historical overview of the works and discourses portraying these beings, and provide opportunities to interpret and analyse selected works which range from those written in the Romantic period to contemporary British literature.

## 授業の内容 / Course Contents

「妖精」や「怪物」はさまざまな時代やジャンルで、多様な方法や問題意識とともに描かれ続け、いわばイギリス文学史の底流に潜み続けてきた。本講義では、ロマン派期以降に書かれた「妖精」や「怪物」にまつわる作品のうち指定の作品を社会的・文化的・作者の伝記的背景を参照しつつ読解分析し、各作品における「妖精」「怪物」の表象、意義と役割、「妖精」「怪物」に投影された個人や社会の諸問題を考察する。

学生は数回に一度レスポンス・ペーパーを提出することとし、有意義な内容については次週の授業で紹介し、各学生が考察を深める端緒としたい。

In the history of British literature, 'fairies' and 'monsters' have been portrayed in a wide range of works across different ages and genres. Written by a variety of methods and concerns, these beings have continued to haunt the undercurrent of British literature. This course will read and analyse selected works dealing with 'fairies' and 'monsters' written in and after the Romantic period, by referring to the historical, cultural and biographical backgrounds. In doing so, it will explore how 'fairies' and 'monsters' are represented, what kinds of roles and significance are given to them, and what kinds of personal or social issues are projected onto them.

Students are expected to write a response paper once in a few weeks. Some of them containing interesting ideas will be introduced to the class in the following week, so that they could stimulate other students to deepen their thoughts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（1） 前近代の英文学作品における「妖精」と「怪物」ーバラッド「うたびとトマス」、エドモンド・スペンサー『妖精の女王』、ウィリアム・シェイクスピア『夏の夜の夢』と『テンペスト』
- 2回：イントロダクション（2） 民話の「発見」 ロマン派期におけるフォーク・リヴァイヴァルと「フェアリー・テイル」
- 3回：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』（1）
- 4回：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』（2）
- 5回：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』（3）、先行研究の検討
- 6回：ジェイムズ・ホッグ『ボズベッグのブラウニー』（1）
- 7回：ジェイムズ・ホッグ『ボズベッグのブラウニー』（2）
- 8回：ロマン派期からヴィクトリア朝期へ ジョン・ラスキン「黄金の川の王様」、ジョージ・マクドナルド『北風のうしろの国』、ダイナ・クレイク『旅のマント』
- 9回：ウィリアム・サッカレー『薔薇と指輪』、チャールズ・ディケンズ「魔法の魚の骨」
- 10回：R.L.スティーヴンソン「塚の小鬼」、『ジキル博士とハイド氏』
- 11回：J.M.バリ『ピーター・パンとウェンディ』、A.C.ドイル『妖精の出現』
- 12回：J. R. R. トールキン「妖精物語について」と『指輪物語』
- 13回：アンジェラ・カーター『夜ごとのサーカス』
- 14回：全体の総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ハンドアウトで配布された箇所を読んでおいてください。また、授業で扱う作品には翻訳が存在するので（『ボズベッグのブラウニー』をのぞく）、一、二作品は作品全体も読んでみましょう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー、授業への積極的取り組み:60%  
合 :40%

最終レポート割

### テキスト/Textbooks

ハンドアウトを配布します。

### 参考文献 / Readings

風間賢二編訳 『ヴィクトリア朝妖精物語』 ちくま文庫 1990 9784480024848

R.L.スティーヴンソン著、高松雄一・高松禎子訳 『マーカイム・壘の小鬼 他五篇』 岩波文庫 2011  
9784003725061

東雅夫・下楠昌哉編 『幻想と怪奇の英文学』 春風社 2014 9784861104046

授業で扱う作品の多くに翻訳が存在します。

ディケンズ「魔法の魚の骨」の訳は風間『ヴィクトリア朝妖精物語』に、スティーヴンソン「壘の小鬼」の訳は高松訳『マーカイム・壘の小鬼』に収録されています。

『ボッズベッグのブラウニー』の翻訳はありません。

### その他/ Others

クラスの人数や進行具合にあわせて内容やスケジュールを調整することがあります。

# 文学講義 9

Lectures on Literature 9

アメリカ散文1

齋木 郁乃 (SAIKI IKUNO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、(1)18、19世紀のアメリカの主要な文学ジャンルについての基礎的な知識を身につけ、(2)そのジャンルを生み出した歴史的、文化的、政治的背景を理解しつつ、(3)各ジャンルの代表的な作品を解釈することを通して文学作品を読む力を養うことを目的とする。

The objectives of this course are (1) to provide students with basic knowledge of popular literary genres in 18th and 19th century America, (2) to understand cultural, historical, political backgrounds of the genres, and (3) to interpret some representative texts of each genre and thus enhance students' skills to read literary works.

## 授業の内容 / Course Contents

文学ジャンルは社会の変化や発展の産物である。例えば、他者との遭遇が捕囚物語を生み出し、奴隷体験記が奴隷制をめぐる議論に重要な証言をもたらし、偉人伝は国家のアイデンティティーを確立するために用いられた。授業では、原文と映像資料を用いて、文学ジャンルと主要な作品、それらの歴史的、文化的、政治的背景を解説する。

A literary genre is an outgrowth of changes and developments of a society. For examples, encounters with the

others produced captivity narratives, slave narratives offered an important testimony in the controversy over slavery, and biographies of great men and women were used to establish a national identity. In the class, the instructor will lecture on the literary genres and their representative texts, and their historical, cultural, and political backgrounds through original texts and visual aids.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：捕囚物語(1) Mary Rowlandson's The Sovereignty and Goodness of God, Nathaniel Hawthorne's The Scarlet Letter
- 3回：捕囚物語(2) Royall Tyler's The Algerine Captive, Herman Melville's Typee
- 4回：感傷小説・家庭小説(1) Susan Warner's The Wide, Wide, World
- 5回：感傷小説・家庭小説(2) Herman Melville's Pierre
- 6回：感傷小説・家庭小説(3) Harriet Beecher Stowe's Uncle Tom's Cabin
- 7回：中間テスト
- 8回：奴隷体験記(1) Frederick Douglass's autobiographies
- 9回：奴隷体験記(2) Harriet Jacobs's Incidents in the Life of a Slave Girl
- 10回：漂流譚 Herman Melville's Moby-Dick, 河田小龍『漂異紀畧』
- 11回：偉人伝 American National Biographies, Herman Melville's "Bartleby, the Scrivener" and Israel Potter
- 12回：南北戦争ロマンス Louisa May Alcott's Behind a Mask and "My Contraband"
- 13回：推理小説 Short Stories of Edgar Allan Poe
- 14回：最終テスト、授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

翻訳や抜粋でもいいので、授業で扱う作品をできるだけたくさん読んでください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクション・シート:30% 中間テスト:30% 最終テスト:40%

### テキスト / Textbooks

毎回プリントを配布。

### 参考文献 / Readings

毎回の授業時に紹介。

### その他 / Others

大学入試程度の英語力が必要な授業です。



# 文学講義 10

Lectures on Literature 10

アメリカ散文2

齋木 郁乃 (SAIKI IKUNO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM310

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、(1) 近年の批評的潮流であるアメリカ文学研究におけるトランスナショナリズムについて概説し、(2) グローバル／ポストコロニアル／トランスナショナルな視点からアメリカ史を見直し、(3) 18、19 世紀アメリカの代表的な文学作品や史料を解釈することを通して文学作品を読む力を養うことを目的とする。

The objectives of this course are (1) to provide students with a survey of recent critical discussions of transnational American literature, (2) to revision American history from global/postcolonial/transnational points of view, and (3) to interpret some representative literary and historical texts of 18th- and 19th-century American literature and thus enhance students' skills to read literary works.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は、18～19 世紀のアメリカ文学を、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教や美学の観点から精読し、近年の批評的潮流であるトランスナショナリズムが、アメリカン・ルネサンスの枠組みをどのように変容させ、また「アメリカ」文学と呼ばれるものの地平を広げたかを探求する。

This course will examine 18th and 19th century American literature in relation to race, ethnicity, gender,

sexuality, religion, and aesthetics, and thus explore how the recent critical trends of transnationalism twist the framework and tries to expand the horizon of what we call “American” literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：アメリカ文学研究とトランスナショナリズム
- 3回：ヴァージニア植民地の邂逅 [Pocahontas and John Smith]
- 4回：セイラムの魔女 [The Crucible, The Scarlet Letter]
- 5回：ジェファソンと奴隷 [The Declaration of Independence, Sally Hemings]
- 6回：ハイチ革命と奴隷制 [“Benito Cereno,” Tell My Horse]
- 7回：中間テスト
- 8回：捕鯨のグローバリズム [Moby-Dick, In the Heart of the Sea]
- 9回：「共和国の母」の反乱 [Margaret Fuller, Lydia Maria Child]
- 10回：黒人女性から見る南部再建 [Pauline Elizabeth Hopkins]
- 11回：消されゆく人々の証言 [William Apes, Simon Pokagon, Leslie Marmon Silko]
- 12回：父権を超えて（アメリカ編） [Stories of Sarah Orne Jewett]
- 13回：父権を超えて（カナダ編） [Anne of Green Gables and other stories]
- 14回：期末テスト、授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

翻訳や抜粋でもいいので、授業で扱う作品をできるだけたくさん読んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 中間テスト:30% 期末テスト:40%

### テキスト / Textbooks

毎回プリントを配布。

### 参考文献 / Readings

Greil Marcus and Werner Sollors A New Literary History of America Harvard UP 2009

毎回の授業時に紹介。

### その他 / Others

大学入試程度の英語力が必要な授業です。

# 文学講義 11

Lectures on Literature 11

英米詩 1

富樫 剛 (TOGASHI GO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

16 世紀以降のイギリス詩の変遷の概略を知る。一見よくわからない、またはつまらないように見える過去の芸術・娯楽作品を身近なものとして楽しめる知識と感受性を身につける。

Students will learn to enjoy and appreciate English poetry of the sixteenth to twentieth centuries.

## 授業の内容 / Course Contents

文学史上重要なイギリス詩とその主題、およびその変遷について講義する。

Lectures on historically significant poems and related literary, cultural and social issues.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：文学嫌いなあなたのための「詩とは何か」 // クリスマンでなくてもわかるキリスト教の ABC（イングランド編）

2 回：16 世紀：恋愛ソネット（Sidney, Spenser, Shakespeare）

3 回：16-17 世紀：薔薇の恋愛詩（Daniel, Herrick, Marvell）

4 回：17 世紀：ホラティウスの「幸せな人」（Jonson, Herrick, Dryden）

- 5回：17世紀：イングランド教会（Donne, Herbert, Herrick）  
 6回：17世紀：神と魂の形而上学（Donne, Milton, Marvell）  
 7回：17世紀：世界史選択でなくてもそこそこわかるイングランド内乱（清教徒革命）（Millenarianism, Marvell, Bunyan, Cambridge Platonists）  
 8回：17-19世紀：神に憑りつかれて崇高な狂乱天才詩人（Shaftesbury, Gray, Collins, Coleridge）  
 9回：17-19世紀：自然と共感・感受性（Shaftesbury, Pope, Della Cruscan）  
 10回：17-18世紀：死の詩（Shakespeare, Milton, Young, Gray）  
 11回：18-19世紀：共感・感受性と自然（Blake, Wordsworth, Byron, Shelley）  
 12回：17-19世紀：理性と感情（Milton, Locke, Collins, Byron, Shelley）  
 13回：19世紀：神のいない形而上学（Shelley, Keats）  
 14回：19世紀：芸術のための芸術（Keats, Tennyson, Rossetti）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（予習）指定されたテキストは（最低限日本語訳のみでも）事前に目を通しておく／（復習）講義の内容を日々の生活のなか折あるごとに思い出し、テキストを再読しつつ日常の関心と関連づけて思考する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 最終レポート割合 :10%

平常点の「最終レポート」は英語の詩に関する自由研究、あるいは日本語または英語による創作。

### テキスト / Textbooks

ウェブ上で配布 (<https://blog.goo.ne.jp/gtgsh>)。毎回指定のページを印刷して持参、あるいはPC等で随時参照できるように用意すること。詳細は初回に説明する。

### 参考文献 / Readings

石塚ほか（編）『イギリス文学入門（新版）』三修社 2023 4384060335

富樫（編）『名誉革命とイギリス文学』春風社 2014 4861104122

17世紀英文学会『17世紀の革命／革命の17世紀』金星堂 2017 4764711745

17世紀英文学会『17世紀英文学における生と死』金星堂 2019 4764711945

大西・小野（編）『〈帝国〉化するイギリス』彩流社 2006 4779111722

富樫「あなたのなかに神がいる：17世紀イングランドにおけるヤーコブ・ベーム」『フェリス女学院大学文学部紀要』55 2019

2-5: 富樫担当章を中心に // 6: <https://ferris.repo.nii.ac.jp/records/2483>

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

新しい知見を受け入れられる柔軟な思考と好奇心、および学生生活に必要な諸々の常識感覚。日本語訳を併用するので英語読解力に関する自信は不要。

### その他 / Others

- (1) 初回から出席すること。(2) 連絡はメールで（アドレスは初回に提示）。(3) 現実生活と同様、不道德・

エロティック・グロテスクな内容を含むことがあるので注意。(4) 今後の研究の進展しだいで上記授業計画に変更の可能性あり。

# 文学講義 12

Lectures on Literature 12

英米詩 2

来馬 哲平 (KURUMA TEPPEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、英語で書かれた詩を読み、それに親しむだけではなく、詩から受けた私的な印象を、コメントシートを書くことで、他者にも理解可能であり、また、対話の契機を呼びよせる意見に言語化する練習を行います。論理的な思考力と倫理的な応答力を複合的に発揮できるようになることが、この授業の到達目標です。

The main objective of the lecture is to enable students to develop the ability not only to read various kinds of poems but also to translate their personal impressions into stimulating responses. By writing a response paper at the end of each lecture, students will demonstrate at once the logical thinking process and the ethical responsibility to the poems discussed in the course.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、20 世紀のアメリカ詩人たちとその作品を紹介します。目標は、個々の作家や作品の独自性を理解するのみならず、それらのあいだの関係性に、共通点と差異のかさなりを見出そうとする「構え」を作ることです。個々の詩を濃密に、そして立体的に読めるようになるために、講義内容には、アメリカの歴史はもち

ろんのこと、20世紀以降に、あるいは21世紀の「今」に顕著な文化的・社会的諸問題が含まれます。

The course will present a wide range of 20th-century North American poets and their works. Students will learn to appreciate the singular “voice” of each poet introduced in each lecture. At the same time, however, students will also find a way to discover and analyze how the common forms of poetry shared by those poets work in various manners. To experience the poems deeply, we will cover a lot of socio-cultural issues as well.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス
- 2回：Edna St. Vincent Millay と 「女性的 / 感傷的」な春のうた
- 3回：Ezra Pound と 「現代的」なペイガニズム
- 4回：Claude McKa と 「黒い」ソネットの功罪
- 5回：Hart Crane と真心からのお道化詩
- 6回：William Carlos Williams と異邦的な愛国詩
- 7回：Hilda Doolittle と未来を拒むフェミニスト詩
- 8回：中期確認テスト
- 9回：Countee Cullen と 「事件」としてのバラッド詩
- 10回：Langston Hughes と混淆的な「黒人」詩
- 11回：Wallace Stevens と幻滅の生産性
- 12回：Marianne Moore と無性愛的な薔薇
- 13回：Robert Frost と意味の調べ
- 14回：期確認テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のレスポンスシートの提出:60%

最終レポート割合：20%最終テスト割

合：20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 文学講義 13

Lectures on Literature 13

シェイクスピア 1

近藤 弘幸 (KONDOU HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AM313
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

上演という側面からシェイクスピア戯曲を考察し、あわせて西洋演劇史に関する基礎的な知識を習得する。  
Students will consider Shakespeare plays from a performance aspect in addition to gaining basic knowledge of Western theatrical history.

## 授業の内容 / Course Contents

シェイクスピア戯曲の上演史を概観し、台本、演劇スタイル、劇場形態の変遷を概説する。また、日本から世界に発信されたシェイクスピア上演にも言及する。  
Students will conduct an overview of Shakespeare plays' performance histories, scripts, theatrical style, and changes in theater shape. Students will also learn about Shakespeare performances originating in Japan that were later exported abroad.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イングランド中世演劇の世界
- 2 回：シェイクスピアの劇場（1）——シェイクスピア登場前夜（1）



- 3回：シェイクスピアの劇場（2）——シェイクスピア登場前夜（2）  
 4回：シェイクスピアの劇場（3）——劇場と上演  
 5回：シェイクスピアの劇場（4）——ハムレットの演劇論  
 6回：王政復古と劇場再開  
 7回：18世紀——「スター」誕生  
 8回：19世紀——スペクタクルの時代とロマン派のシェイクスピア崇拜  
 9回：演出家の世紀（1）——リアリズムと反リアリズム  
 10回：演出家の世紀（2）——古典の現代化  
 11回：演出家の世紀（3）——「プリテキスト」としてのシェイクスピア  
 12回：日本からの発信（1）——鈴木忠志  
 13回：日本からの発信（2）——蜷川幸雄  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

欠席回数が4回を超えたものについては、評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

安西徹雄 『シェイクスピア劇四〇〇年——伝統と革新の姿』 日本放送出版協会 1985 4140014830

小林潤司ほか 『シェイクスピア——古典文学と対話する劇作家』 松籟社 2014 9784879843241

鹿児島近代初期英国演劇研究会 『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』 九州大学出版会 2018  
9784798502243

上坪正徳 『シェイクスピアとロマン派の文人たち』 中央大学出版部 2017 9784805752319

川島健 『演出家の誕生——演劇の近代とその変遷』 彩流社 2016 9784779170478

マイケル・ボグダノフ 『シェイクスピア ディレクターズ・カット——演出家が斬る劇世界』 研究社 2005  
4327472093

米谷郁子ほか 『今を生きるシェイクスピア——アダプテーションと文化理解からの入門』 研究社 2011  
9784327481599

### その他 / Others

講義資料は Canvas LMS で配布します。事前に各自でダウンロードして授業に臨んでください。

# 文学講義 14

Lectures on Literature 14

シェイクスピア 2

未廣 幹 (SUEHIRO MIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義の目標は以下の 2 つです。

- 1 シェイクスピアの戯曲を英語と日本語訳で読みながら、特定の台詞や場面の意味が解釈できる。
- 2 シェイクスピア演劇の上演や映画化を観たときに、特定の場面の演出に、演出家や映画監督のどのようなテキスト解釈や演出意図が反映されているか考えることができる。

This course aims to achieve the following 2 goals:

- 1 Teach students how to interpret the meaning of specific lines and scenes from Shakespeare plays while reading the scripts in both English and Japanese.
- 2 Enable students to consider what interpretations theater producers and film directors drew from the text based on what is being shown to the audience during specific scenes when viewing theater productions or film adaptations of Shakespeare plays.

## 授業の内容 / Course Contents

講義のテーマは、「シェイクスピアと現代文化～Shakespeare Meets Contemporary Culture」です。2016 年は、

イギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピア（1564－1616年）の没後400周年に当たりましたが、シェイクスピアの演劇の人気は、彼がロンドンの劇壇で活躍していた頃からほぼ400年以上経った現在でもまったく衰えることなく、本国イギリスのみならず、全世界で毎年上演され、さらに続々と映画化されています。この講義では、シェイクスピアの演劇の映画版や上演のビデオやDVDを観ながら、シェイクスピアの原書と翻訳を読みながら、講義していきます。この講義では、シェイクスピア演劇の中からとくに喜劇と悲劇を選んで講義します。「喜劇」の中からロマンティック・コメディの代表作と呼ばれている『十二夜』を、悲劇の中から『オセロー』を選んで講義します。

The theme of this course is “Shakespeare Meets Contemporary Culture”. 2016 marked the 400th anniversary of the death of British playwright William Shakespeare (1564-1616), and the popularity of his works and their prominence in London’s theater scene have yet to wane in the over 400 years since their debut. Shakespeare’s works still feature in theater productions every year in both the UK and other countries worldwide in addition to the steady flow of film adaptations. In this course, students will watch DVDs of film adaptations and theater productions of Shakespeare’s works as well as read both their original texts and translations. Particularly, I will choose both comedy and tragedy out of Shakespeare's four genres.. Twelfth Night is the comedy selection for this course, and it is highly appreciated as Shakespeare’s representative romantic comedy. Students will also read Othello among Shakespeare’s tragedies.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——映画に現れる映像の文法とは
- 2回：トレヴァー・ナン監督『十二夜』鑑賞（1）女優による〈男装するヒロインの演技〉
- 3回：トレヴァー・ナン監督『十二夜』鑑賞（2）喜劇のエンディングの問題性
- 4回：『十二夜』第1幕、第2幕講義
- 5回：『十二夜』第3幕、第4幕、第5幕講義
- 6回：『オセロー』第1幕、第2幕講義
- 7回：『蜷川幸雄演出『オセロー』上演DVD第1幕、第2幕鑑賞
- 8回：『オセロー』第3幕講義
- 9回：蜷川幸雄演出『オセロー』上演DVD第3幕鑑賞
- 10回：『オセロー』第4幕講義
- 11回：蜷川幸雄演出『オセロー』上演DVD第4幕鑑賞
- 12回：『オセロー』第5幕講義
- 13回：蜷川幸雄演出『オセロー』上演DVD第5幕鑑賞
- 14回：総括——近年のシェイクスピア劇の上演と映画化

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、映画鑑賞と並行して原作を読んで、その特徴を把握しておくことが求められます。復習としては、Canvas LMS にアップロードした講義資料に基づいて、映画が原作の場面や台詞をどのように異なる演出をしているのかを把握し、その意味の相違について解釈することが求められます。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内リスポンス・ペーパー兼出席票:40%

なお、単位修得のためには、全 14 回の講義中 10 回以上の出席を必要とします。就職活動やその他の理由による欠席にはいっさい考慮しません。毎回講義終了後にリスポンス・シートを提出して貰って、それによって平常点の評価を行います。すべての項目が書かれていなかったり、規定字数を満たしていなかったり、講義を聴かなくても書けることしか書かれていないシートは、平常点を減点します。

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

Margreta De Grazia et al. The New Cambridge Companion to Shakespeare Cambridge University Press  
2010 0521713935

喜志哲雄 『シェイクスピアのたくらみ』 岩波書店 2008 4004311160

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

英米の演劇や映画に対する興味関心が求められる。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料の配信には「Canvas LMS」を使用するので、授業時には PC の持参が望ましい。

# 文学講義 15

Lectures on Literature 15

文学批評・理論 1

遠藤 不比人 (ENDO FUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学研究において注目を集めている「情動 (Affect)」理論という視点から英国モダニズム文学を再考します。その議論において、言語芸術である文学と視覚芸術である絵画との差異と同一性が浮上してきます。このような観点から、新たな人文学の可能性を探究します。受講生が、文学研究に関して、これまでになく斬新な視野から議論をできるように訓練をします。

This course is designed to rethink British modernist literature from the perspective of 'affect' theory- one of the fashionable themes in recent literary studies. This perspective works to foreground the fascinating differences and similarities between literature as a verbal art and painting as a visual art. Students are trained and encouraged to discuss literature from this kind of new perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義が準拠する情動理論は米国のマルクス主義理論家である Fredric Jameson のリアリズム論であるが、この議論は文学テキストにおける「絵画的瞬間」に関して新たな解釈を可能にするものである。これを出発点にして、英国モダニズム期の美術批評家である Roger Fry のいわゆる「ポスト印象主義 (Post-Impressionism)」

理論を再解釈しながら、同時代の作家たちである Virginia Woolf、Katherine Mansfield、Joseph Conrad などのテキストを扱う。また、Sigmund Freud の精神分析にもこの文脈で言及する。情動をめぐるこれらの論点の背後には、英国の心霊学研究（psychical reserach）あるいは金本位制などの歴史的な文脈があり、それについても考察をする。それと同時に、唯物論に関するモダニズム的な意義についてもこの文脈で議論をする。このように、本講義は、モダニズム芸術に関して新たな視点を獲得することを目的とする。

The discussion in this course will be based on the American Marxist theorist Fredric Jameson's argument on realism, which allows for new and insightful reinterpretations of what can be called 'painterly moments' in literary texts. From this point of departure, the course will reinterpret the British art critic Roger Fry's idea of 'post-impressionism', while at the same time reading modernist texts by Virginia Woolf, Katherine Mansfield and Joseph Conrad. Sigmund Freud's psychoanalysis will also be discussed. It is possible to point out British psychical research and the gold standard as historical contexts for these modernist problematics of 'affect'. At the same time, the modernist significance of materialism in these historical contexts will also be considered. The aim of the course is thus to provide a new historical perspective from which to rethink modernist art and literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（PPT を使用した担当者による講義形式）
- 2 回：情動的唯物論 1：Jameson の情動理論（PPT を使用した担当者による講義形式、および受講者からの reaction paper の回収）
- 3 回：情動的唯物論 2：Freud の精神分析（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 4 回：情動的唯物論 3: Fry の絵画理論（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 5 回：情動的唯物論 4：Fry と Woolf の間テキスト性（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 6 回：情動と静物画的瞬間 1：Mansfield（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 7 回：情動と静物画的瞬間 2：Mansfield（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 8 回：情動と静物画的瞬間 3：Conrad（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 9 回：情動と静物画的瞬間 4：Conrad（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 10 回：情動と静物画的瞬間 5：Woolf（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 11 回：情動と静物画的瞬間 6：Woolf（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 12 回：精神分析と情動再論（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 13 回：物質性と情動（PPT を使用した担当者による講義形式、前回回収した reaction paper へのコメント、および受講者からの reaction paper の回収）
- 14 回：筆記テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業外の指導については、電子メールを使用した質問などが可能。また授業後の質問も歓迎する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% reaction paper:30% クラスでの議論への貢献度:30% 最終テスト割合：:40%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

遠藤不比人 『情動とモダニティ 英米文学/精神分析/批評理論』 彩流社 2017

遠藤不比人 「情動論的唯物論 モダニズムにおける霊的なものの系譜」『現代思想』（特集：感情史）2013年12月号

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

当該分野への主体的関心、知的好奇心

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特になし

# 文学講義 17

Lectures on Literature 17

英米演劇 1

未廣 幹 (SUEHIRO MIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1 英米の法廷劇の映画化のDVDを観ながら、その原作を英語と日本語訳で読み、比較検討することで、作品の理解を深められる。

2 映画を観たときに、映画監督もしくは演出家や撮影監督がどのように映像の文法や上演のパターンを踏まえて、映像を構成しているか、そしてそこにどのように監督や演出家の演出意図が反映されているか考えることができる。

1 Teach students how to interpret the meaning of specific lines and scenes from courtroom drama while reading the scripts in both English and Japanese.

2 Enable students to consider what interpretations theater producers and film directors drew from the text based on what is being shown to the audience during specific scenes when viewing theater productions or film adaptations of courtroom drama.

## 授業の内容 / Course Contents

テーマ「英米の法廷劇とその映像化を読む」



この授業の目的は、英米の演劇と映画化について考察することですが、前期の講義では、20世紀において英米で上演された法廷劇とその映画化を取り上げながら、それぞれの作品がどのように裁判をドラマ化しているかに注目します。一学期の受講を通じて、演劇にまったく馴染みのない学生諸君でも、演劇の登場人物やプロットのパターンへの注目を通じて、演劇の新たな見方や解釈の方法（ドラマ・リテラシー）が身に付くようになるはずです。

それから、毎回の講義の冒頭では、毎回異なる映画について紹介する時間を設け、学生諸君の映画の見方（フィルム・リテラシー）を深めたいと思っています。

この講義では、時代の異なる4本の法廷劇——アガサ・クリスティの『検察側の証人』（1953年）、レジナルド・ローズの『十二人の怒れる男』（1955年）、三谷幸喜が『十二人の怒れる男』にオマージュを捧げながら執筆した『12人の優しい日本人』（1990年）、アaron・ソーキンの『ア・フュー・グッドメン』（1989年）——を取り上げ、原作と映画化とを比較検討することで講義します。基本的には、まず映画化や上演のDVDを観た上で、原作と比較しながら講義します。

授業の形式は講義形式です。上演や映画化のビデオやDVDがあるものは映像を観てもらった上で、講義を行います。この講義では、毎回の講義の資料のファイルを「Canvas LMS」を通じて配信します。

The theme of this course is “Reading British and American Courtroom Drama and its Film Adaptations.” The purpose of this course is to examine the courtroom drama and film adaptation in Britain and the United States. Attention should be paid to how the trial is being dramatized. Through the first semester, students who are completely unfamiliar with drama will gain a new perspective on drama and how to interpret it (drama literacy) by focusing on drama characters and plot patterns. At the beginning of each lecture, students will watch the film adaptations of each courtroom drama to deepen their perspectives on film (film literacy). In this course I will deal with five courtroom dramas: Agatha Christie's Witness for the Prosecution (1953), Reginald Rose's Twelve Angry Men (1955), Koki Mitani's Twelve Gentle Japanese(1990), a Japanese appropriation of Twelve Angry Men, Aaron Sorkin's A Few Good Men (1989) and David Hare's Denial. I will give a lecture on each play by comparing the original and its film adaptation. After each lecture, I will upload the handouts of each lecture at Canvas LMS.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——テレビ・ドラマに見られる法廷劇の特徴
- 2回：ビリー・ワイルダー監督映画『情婦』（『検察側の証人』の映画化、1957年）鑑賞——弁護士ウィルフリッド卿の表象の特徴と物語のミステリー的要素
- 3回：アガサ・クリスティの『検察側の証人』講義1——パフォーマンスの場としての法廷
- 4回：アガサ・クリスティの『検察側の証人』講義2——悪女の証言の効果
- 5回：シドニー・ルメット監督映画『十二人の怒れる男』鑑賞——ヘンリー・フォンダというスターのイメージの利用と陪審員同士のディベートを捉えた映像上の工夫
- 6回：レジナルド・ローズの『十二人の怒れる男』講義1——陪審員の構成の意味
- 7回：レジナルド・ローズの『十二人の怒れる男』講義2——この戯曲のタイトルの意味
- 8回：三谷幸喜演出による『12人の優しい日本人』上演版鑑賞——12人の陪審員のキャラクターの差異化
- 9回：ロブ・ライナー監督映画の『ア・フュー・グッドメン』鑑賞1——グアンタナモ米海軍基地という空間の表象とジェセップ大佐に扮するジャック・ニコルソンの演技の工夫
- 10回：アaron・ソーキンの『ア・フュー・グッドメン』講義1——この作品のタイトルの意味
- 11回：アaron・ソーキンの『ア・フュー・グッドメン』講義2——ソーキン作品の『ソーシャル・ネットワ

ーク』との比較

12 回：ミック・ジャクソン監督映画の『否定と肯定』鑑賞——イギリスとアメリカの裁判制度の差異

13 回：ミック・ジャクソン監督映画の『否定と肯定』講義——歴史修正主義との戦い

14 回：ミック・ジャクソン監督映画の『否定と肯定』講義——ホロコースト否定慧遠に対する反証

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、映画鑑賞と並行して原作を読んで、その特徴を把握しておくことが求められます。

復習としては、Canvas LMS にアップロードした講義資料に基づいて、映画が原作の場面や台詞をどのように異なる演出をしているのかを把握し、その意味の相違について解釈することが求められます。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席およびリスpons・ペーパーの評価:40%

なお、単位修得のためには、全 14 回の講義中 10 回以上の出席を必要とします。就職活動やその他の理由による欠席にはいっさい考慮しません。毎回講義終了後にリスpons・シートを提出して貰って、それによって平常点の評価を行います。すべての項目が書かれていなかったり、規定字数を満たしていなかったり、講義を聴かなくても書けることしか書かれていないシートは、平常点を減点します。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英米の演劇と映画に対する興味関心が求められます。日本映画しか観ない人には履修は薦めません。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、課題の提出には「Canvas LMS」を使用するので、授業時には PC の持参が望ましいです。

# 文学講義 18

Lectures on Literature 18

英米演劇2

近藤 弘幸 (KONDOU HIROYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM318  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

演劇という表現形態に親しみ、アメリカ演劇の歴史とその特徴について基礎的な知識を身に付けること。

This course aims to introduce students to theater as a form of expression and provide basic knowledge of American theatrical history and American theater's unique characteristics.

## 授業の内容 / Course Contents

西洋演劇の展開を概観したうえで、アメリカ演劇の代表的な作家を取り上げ、その経歴、作品の概要等を講義する。西洋演劇の伝統にアメリカ演劇を位置付けたうえで、その特徴を明らかにする。できる限り視聴覚資料も活用し、「見る」講義でもあるよう工夫する。

Students will conduct an overview of the historical development of western theater before studying significant works of American theater, their histories, and summaries through lecture. Students will also discover how American theater fits into the wider tradition of western theater as well as what makes American theater unique. As much as possible, this course will utilize audio-visual materials to construct multimedia lectures for the students to experience.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：西洋演劇史（1）――ギリシア悲劇
- 2回：西洋演劇史（2）――シェイクスピア
- 3回：西洋演劇史（3）――近代劇
- 4回：R・タイラー
- 5回：E・オニール
- 6回：L・ヘルマン
- 7回：T・ワイルダー
- 8回：T・ウィリアムズ（1）
- 9回：T・ウィリアムズ（2）
- 10回：A・ミラー（1）
- 11回：A・ミラー（2）
- 12回：N・サイモン
- 13回：A・ウィルソン
- 14回：D・H・ホアン

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。また出来るだけ劇場に足を運んでほしい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

欠席回数が4回を超えたものについては成績評価の対象としない。

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings****その他 / Others**

講義資料は Canvas LMS で配布します。事前に各自でダウンロードして授業に臨んでください。

# 文学講義 19

Lectures on Literature 19

中世英文学

不破 有理 (FUWA YURI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM319

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は現代のファンタジー作品の世界観を築いたともいわれるアーサー王伝説について、英国の民族と王権の歴史を関係付けながら、その概要を学ぶことを目標とします。

Discover the fascinating world of the Arthurian legend, a captivating tale that has intrigued people for centuries and still shapes modern fantasy. This course offers an in-depth examination of the evolution of King Arthur's legends, with a special focus on its historical context within the framework of British hegemony.

## 授業の内容 / Course Contents

アーサー王伝説は西欧においてもっともよく知られた伝承です。そもそも「アーサー王」は実在したのでしょうか。本講義では中世の写本に残る「歴史」文献資料のほか、アーサー王伝説ゆかりの歴史的遺物、ラファエル前派の絵画や現代の映画作品などの視覚資料を用いながら、どのように今日伝わるアーサー王物語が形成されるに至ったのか、およそ 1500 年間にわたるアーサー王伝承の変容の様相を概観します。毎回、課題をリアクションペーパーで提出していただき、次回の講義で解説しますので、学生諸君の理解が深まるように構成しています。講義を通して、なぜアーサー王伝承は生き延びたのか、その解を探してみてください。

The legend of King Arthur is one of the most well-known traditions in Western Europe. Did King Arthur actually exist in the first place? In this lecture, we will explore the transformation of the Arthurian legend over approximately 1500 years. Utilizing not only 'historical' literary materials found in medieval manuscripts but also visual materials such as historical artifacts associated with the Arthurian legend, Pre-Raphaelite paintings, and contemporary films, we will examine how the story of King Arthur, as it is known today, has evolved. Each class session will prompt students to explore key questions related to the day's topic through reaction papers. These papers will be reviewed and discussed in the subsequent lecture, fostering an interactive learning experience and deepening students' comprehension of the subject. Throughout the course, students are encouraged to seek to understand why the legend of King Arthur has endured for so long.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：イギリス・ブリテンとは アーサー王伝説とは
- 2回：アーサー王は実在したのか：ウェールズ伝承とラテン語年代記から
- 3回：ノルマン征服とアーサー王伝承：ウェールズのアーサー王物語((Culhwch ac Olwen)と聖人伝
- 4回：アーサー王年代記（1）ジェフリ・オブ・モンマス(Geoffrey of Monmouth) 『ブリタニア列王史』(Historia Regum Britannie)
- 5回：アーサー王年代記（2）円卓の登場：ワース(Wace)とラヤモン(Layamon)
- 6回：グラストンベリー修道院とアーサーの再臨信仰
- 7回：聖杯伝説の誕生：クレチアン・ド・トロワ(Chrétien de Troyes)
- 8回：14世紀のアーサー王物語（1）：『サー・ガウェインと緑の騎士』(Sir Gawain and the Green Knight)
- 9回：14世紀のアーサー王物語（2）：頭韻詩『アーサーの死』(Morte Arthure)
- 10回：チューダー朝におけるアーサー王：  
サー・トマス・マロリー(Sir Thomas Malory)の『アーサー王の死』(Le Morte Darthur)
- 11回：マロリー『アーサー王の死』のテキスト出版史とアーサー伝説の復活：アルフレッド・テニスン(Alfred Tennyson)の“The Lady of Shalott”・ラファエル前派の絵画
- 12回：アルフレッド・ロード・テニスン(Alfred Lord Tennyson)の『国王牧歌』(Idylls of the King)
- 13回：マロリー、テニスン、そして漱石へ：日本初のアーサー王文学「薙露行」
- 14回：まとめと確認テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・本講義要綱に掲載した参考文献および授業内で提示する文献を授業前後に読んでおくことで理解が深まります。
- ・毎回ミニ課題（リアクションペーパー）を設定するので、講義の復習をしながら、次の講義につなげてほしいと思います。
- ・コースを通じて、「なぜアーサー王伝承は現代まで生き延びたのか」について考え、最後に自分の考えをまとめてほしいと考えています。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:60%  
合 :10%

最終レポート割合 :30%最終テスト割

### テキスト/ Textbooks

プリントを配布

### 参考文献 / Readings

青山吉信 『アーサー伝説』 岩波書店 1985

アンヌ・ベルトゥロ 『アーサー王物語』 創元社 1997

ジェフリ・オブ・モンマス/瀬谷幸男訳 『ブリタニア列王史』 南雲堂フェニックス 2007

天沢退二郎・新倉俊一・神沢栄三訳 『フランス中世文学集』 白水社 1990-96

ラヤモン/ 『ブルート』 大阪教育図書 1997

サー・トマス・マロリー 『アーサー王の死』 ちくま文庫 1986 4480020756

アルフレッド・テニスン 『対訳テニスン詩集』 岩波文庫 2003

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

扱う資料は時代も素材も多種多様、なるべく原語を活かすためにラテン語や中英語の引用もありますが、現代英語訳や日本語訳で補足しながら講義を進めます。多言語に幻惑されず、資料の多さにめげず、芳潤なアーサー王伝承の世界を楽しんでください。講義の知識をもとに自分で考えて答える問いを設定しています。

### その他/ Others

質問は毎回受け付けますので、講義後自由に質問してください。Reaction Paper 内での質問も歓迎します。

# 文学講義 20

Lectures on Literature 20

児童文学

石原 剛 (ISHIHARA TSUYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM320

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日米文学・文化の相違について、マーク・トウェインの日本受容を検討することで理解する。同時に今日のアメリカ文化のグローバル化について考える際のヒントや視点を提供したい。

This course aims to develop students' understandings of US-Japan cultural differences and various issues of globalization of American culture.

## 授業の内容 / Course Contents

明治以降今日まで、日本人がいかなる紆余曲折を経ながらアメリカの国民的作家マーク・トウェインを受容してきたか検討する。トウェイン文学は、アメリカに特徴的な広大な空間、アメリカが抱えてきた人種の問題、アメリカ独特の言葉や言い回しなど、背景となるアメリカ文化と密接につながっている。従って、アメリカと文化様式や伝統を異にする日本人にとっては、作品のエッセンスを十分に理解することが難しかった。その結果、日本人にとって受け入れやすい側面のみが強調されたり、日本人が理解しやすい内容を改変するといったことが頻繁に行われた。そういった、日本人によるトウェイン文学の削除や強調、改変をみていくことは、即ち日米の文学や文化の伝統や特徴の相違そのものを検討していくことに他ならない。従って、本講義で



は、特に日本の文学や文化の伝統、さらに同時代の日本の社会状況や大衆文化などに目を配りつつ、日本版のトウェイン作品が同時代の文化・社会状況をいかに反映しているのか、原作との比較を交えながら検討していく。そうすることで、同時に、日米文学・文化の相違や、日本の児童文学・文化の功罪をも考えていく。

In this course, we will discuss the ways in which Mark Twain, one of the representative American authors, has been perceived in Japan for more than a century since Meiji era. Twain's literature is in a way an embodiment of American culture, and in particular his introduction of the American issues of race, space, and vernacular languages made it difficult for many Japanese to understand the essence of his literature. As a result, Twain's literature was sometimes distorted and even rejected in accordance with the norms of contemporary Japanese society. In this course, to understand the "Japanization" of Mark Twain, we will closely examine Japanese society and popular culture, particularly the US-Japan cultural relationships and the literary traditions of Japanese juvenile literature of the time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 2 回：日本人とトウェイン（序）－マーク・トウェイン文学の概要紹介
- 3 回：明治期の日本とマークトウェイン（1）－日本初のトウェイン翻訳と山縣五十雄
- 4 回：明治期の日本とマークトウェイン（2）－明治期の日本版『王子と乞食』について
- 5 回：佐々木邦訳『ハック・フィン』における語りの軽視と感傷性の強調
- 6 回：佐々木邦訳『ハック・フィン』における批判精神の弱体化とアイロニーの消滅
- 7 回：大正期児童文学とトウェイン（1）－鈴木三重吉の「乞食の王子」を中心に
- 8 回：大正期児童文学とトウェイン（2）－千葉省三の『童話』を中心に
- 9 回：戦時下の日本におけるトウェイン－大仏次郎の日本版『王子と乞食』を中心に
- 10 回：アメリカの占領と日本児童文学－『トム・ソーヤ』と『ハック・フィン』の検閲とお上品化
- 11 回：戦災孤児とアメリカ化の問題－民主化のヒーローとしての『ハック・フィン』
- 12 回：戦後日本の教科書におけるトウェイン－日米の国語教科書における『ハック・フィン』他
- 13 回：アニメ版『ハック・フィン』と『トム・ソーヤ』、1980年代まで
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示した資料は読了した上で授業に出席すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業コメント:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

石原 剛 『マーク・トウェインと日本—変貌するアメリカの象徴』 彩流社 2008年

# 文学講義 22

Lectures on Literature 22

比較文学 2

田中 有美 (TANAKA YUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM322

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本文学の英語訳、アメリカ文学の日本語訳を詳細に分析することを通して、原典とその翻訳の複雑な関係性と、翻訳された文学作品がグローバルな文脈で流通し受容されていく様相とその問題点について理解を深めます。

This course aims to explore the complicated relationships between source texts and their translations and the spread and receptions of translated literary texts in the global context by carefully analyzing English translations of Japanese literary texts and Japanese translations of American novels.

## 授業の内容 / Course Contents

比較文学とは、言語、国境（文化圏）、ジャンル、メディア形式、学問領域といった既存のカテゴリーを積極的に横断しながら、文学作品を中心とする文化的表現を考察しようとする学問です。特に、複数の言語を横断しようとする姿勢は 19 世紀の学問成立当初から一貫していることもあり、翻訳の問題は比較文学にとって常に重要なトピックでありつづけています。この授業では、翻訳された文学作品という存在についての理解を深めます。翻訳者の介入、翻訳の解釈的及び創造的側面、誤訳の問題、アダプテーションの問題、翻訳で文学作品

を読むという行為が孕む問題、翻訳という行為自体の倫理的問題にも検討を加えます。

As a study of literature and other cultural expressions, comparative literature attempts to cross multiple boundaries such as languages, national borders, cultural spheres, genres, and media. Multilingualism, in particular, has been a core characteristic, and consequently, translation is always an important topic in this discipline. This course provides students with deep understanding of translated literature by examining issues of the translator's mediation, translation as interpretative and creative activity, mistranslation, adaptation, our reading practices of translated texts, and ethics of the act of translation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：比較文学における翻訳研究の動向、世界文学という考え方
- 3回：『源氏物語』（紫式部）／ The Tale of Genji by Murasaki Shikibu (1)
- 4回：『源氏物語』（紫式部）／ The Tale of Genji by Murasaki Shikibu (2)
- 5回：『金色夜叉』（尾崎紅葉）／ The Gold Demon by Ozaki Koyo
- 6回：『陰翳礼讃』（谷崎潤一郎）／ In Praise of Shadows by Tanizaki Junichiro
- 7回：『密やかな結晶』（小川洋子）／ The Memory Police by Ogawa Yoko
- 8回：中間テスト
- 9回：「代書人 バートルビー」（ハーマン・メルヴィル）／ "Bartleby, the Scribner" by Herman Melville
- 10回：『ハuckleベリー・フィンの冒険』（マーク・トウェイン）／ Adventures of Huckleberry Finn by Mark Twain
- 11回：『グレート・ギャツビー』（F・スコット・フィッツジェラルド）／ The Great Gatsby by F. Scott Fitzgerald
- 12回：『風と共に去りぬ』（マーガレット・ミッチェル）／ Gone with the Wind by Margaret Mitchell (1)
- 13回：『風と共に去りぬ』（マーガレット・ミッチェル）／ Gone with the Wind by Margaret Mitchell (2)
- 14回：学期末テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指示のあった資料は必ず読了した上で授業に出席すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間テスト:30% 授業内課題:30% 最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

教材は、授業中またはウェブ学習システムを通じて配布します。

### 参考文献 / Readings

## 文学講義 23

Lectures on Literature 23

英語圏文学 1

中村 和恵 (NAKAMURA KAZUE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM323  
授業形態： 対面（一部オンライン）  
授業形態（補足事項） オンライン回：4回目・8回目・10回目・13回目・14回目  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

英語圏文学は、多くの民族・言語を巻きこみ、地理的・政治的境界を容易に越え、各地のローカル文化とともに変容しながら、文化領域として拡大をつづけている。植民地支配に端を発するこの領域の豊かさと複雑さを作品精読により学び、社会的問題を個人的経験として深く知り、楽しみながら世界に視野を広げる。

Anglophone literature of "literatures in englishes" is an expanding field of study that involves diverse peoples and languages, easily crossing the geopolitical boundaries of nation-states as well as transforming with the local/contemporary cultures. Reading several short stories closely, students will learn the rich complexity of the field which grew out of the history of colonization, broadening their perspective through discovering personal voices of individual experiences in the texts.

### 授業の内容 / Course Contents

英語圏各地に背景を持つ作家たちの短篇小説を複数とりあげる。19世紀末から21世紀初頭にわたる、先住民と入植者、黒人奴隷とプランターの関係、植民地への侮蔑的な視線とそれに抗う文学的試み、肌色の違う少数者として都市に生きる感覚など、異なる者がともに生き関わり合う場所を鮮やかに描く作品に注目する（参

加人数により作品数・内容は加減する)。

In this class we read stories by writers with various regional backgrounds (Canada, South Asia, East Africa, Southern USA) from the late 19th to the early 21st century. They will depict scenes and situations in which different peoples live next to each other, interacting willingly or not, such as indigenous peoples and settlers, black slaves and planters, discriminatory persons and resisting spirits, racial minorities in a large multicultural city. (The number and length of texts will be adjusted according to the number of participants.)

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入 授業概要と英語圏ポスト／コロニアル文学の輪郭
- 2回：テキスト1 (1) 先住民族とともに暮らす 北米の短篇小説を例に・作家と作品のアウトライン
- 3回：テキスト1 (2) 精読と背景理解 先住民族とは誰のことか
- 4回：テキスト1 (3) 精読と分析 時間の許す範囲で同じ作家の他の作品や、同地域の民族文化、映像資料も紹介予定
- 5回：テキスト2 (1) 異人種として生きる イギリスで暮らすマイノリティとしての南アジア系作家の体験・アウトライン
- 6回：テキスト2 (2) 精読と背景理解 文化に優劣はあるのか
- 7回：テキスト2 (3) 精読と分析 時間の許す範囲で同じ作家の他の作品や、同地域の民族文化、映像資料も紹介予定
- 8回：テキスト3 (1) 内紛の国からダイエットの国へ——豊かさへの疑問 東アフリカ作家の小説抜粋・作家の背景
- 9回：テキスト3 (2) 精読と背景理解 政治的困難を抱えた国で生きるということ
- 10回：テキスト3 (3) 精読と背景理解 貧富の差に直面するということ
- 11回：テキスト3 (4) 精読と分析 時間の許す範囲で同じ作家の他の作品や、同地域の民族文化、映像資料も紹介予定
- 12回：テキスト4 (1) 人種主義、偏見、肌色による差別のルーツ 合衆国南部の小説を例に
- 13回：テキスト4 (2) 精読と背景理解 「血の一滴」ルール
- 14回：テキスト4 (3) 精読と分析 時間の許す範囲で同主題の他作品、映像資料も紹介予定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習： テキストの指定箇所をざっと読み、疑問点を明らかにしておくこと（人によりテキストにより、20分から2時間程度を想定）。

復習： オンライン課題・期末課題として、授業でとりあげたテキストの分析を課し、復習の機会とする（1時間程度を想定）

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% オンライン課題（複数回）:50% 授業中パフォーマンスとリスポンスペーパー:40% 期末レポート:10%

**テキスト/Textbooks**

配布プリント・オンライン配布（コピーライトに抵触しない範囲のもの）

**参考文献 / Readings**

Prem Poddar and David Johnson eds. A Historical Companion to Postcolonial Literatures in English  
Edinburgh University Press 2006 9780748636020

Margaret Busby ed. New Daughters of Africa: An International Anthology of Writing by Women of African  
Descent Myriad 2019 9781912408009

中村和恵 編 『世界中のアフリカへ行こう 「旅する文化」のガイドブック』 岩波書店 2009  
9784000236829

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

とくになし

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

電子辞書か紙の辞書を持参（スマホでのオンライン辞書使用は推奨しません）

**その他/ Others**

オンライン授業日はシラバス作成時の予定。開始後の授業連絡に注意すること。

## 文学講義 26

Lectures on Literature 26

表象芸術 2

碓井 みちこ (USUI MICHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM326  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

映画の面白さはどこにあるのか、自分の言葉で考えられるようになる。単なる受け手に留まるのではなく、送り手側の演出意図を想像しながら、映画作品を見られるようになる。

This course encourages students to think about interesting aspects of film in their own words. Rather than passively receiving the images on the screen, students learn how to consider the intentions behind the dramatics while watching the work.

### 授業の内容 / Course Contents

アルフレッド・ヒッチコックおよびクリント・イーストウッドの映画作品を取り上げる。彼らの作品が、映画の表現としての可能性を大いに広げたことを、フィルム・テキストの詳細な分析によって明らかにする。

Students watch films directed by Alfred Hitchcock and Clint Eastwood. Then, through detailed analysis of film text, students discover how these directors vastly expanded the possibilities for film as a form of expression.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス：シラバスをもとに講義の概要を説明する

- 2回：アルフレッド・ヒッチコック『裏窓』（1954）鑑賞（観たところまでの感想を提出する）  
 3回：『裏窓』鑑賞（続き。鑑賞後の感想を提出する）  
 アルフレッド・ヒッチコックとは？ 原作小説と映画の違い  
 4回：『裏窓』におけるPOVショット①  
 5回：『裏窓』におけるPOVショット②  
 6回：『裏窓』において観客は何をどのように読み取るのか？  
 7回：クリント・イーストウッド『目撃』（1997）鑑賞（観たところまでの感想を提出する）  
 8回：『目撃』鑑賞（続き。鑑賞後の感想を提出する）  
 クリント・イーストウッドとは？ 原作小説と映画の違い  
 9回：『目撃』における視線と身体①  
 10回：『目撃』における視線と身体②  
 11回：『目撃』において観客は何をどのように読み取るのか？  
 12回：ヒッチコックとイーストウッド①：サスペンスと観客  
 13回：ヒッチコックとイーストウッド②：「作家性」の違い  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行います。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:20% 授業内レポート:30%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

フランソワ・トリュフォー 『定本 映画術：ヒッチコック／トリュフォー』（改訂版） 晶文社 1990  
 4794958188

#### その他 / Others

授業で扱う映画作品（『裏窓』と『目撃』）を教室外（自宅等）でも鑑賞できるようにしてください。



# 文学講義 27

Lectures on Literature 27

英語発達史 1

趙 泰昊 (JO THAEHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM327

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 初回授業日前日までに必ず Canvas LMS をご確認ください。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語に起きた歴史的変化について理解することで、現在スタンダードとされている英語がどのように発展し、成立してきたか、説明することができるようになる。

The purpose of this course is to help students to deepen their understanding of the history of the English language.

## 授業の内容 / Course Contents

古英語と近代英語の間に位置する中英語の特徴について学び、英語の歴史的な変遷とその多様性について講義を行う。現在では世界中で使用される英語であるが、11世紀以降の中世イングランドでは、ラテン語やフランス語に比べ社会的地位の低い言語とみなされていた。この授業では「英詩の父」と称された Geoffrey Chaucer の作品を中心に、英語がその社会的地位を再び向上させた中世後期の英語を実際に確認しながら、英語に起きた様々な変化を確認する。過去の英語との比較を通して現代の英語にみられる特徴を再考する。

Mainly focusing on Middle English, this course is designed as an introduction on how the English language has changed over time. By providing knowledge on the characteristics of Middle English, this course will also enable

students to read and appreciate Middle English literary works.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：英語の変遷
- 3回：ノルマン征服以降の言語状況：英語とフランス語の関わり
- 4回：初期中英語の特徴
- 5回：発音とスペリングの変遷
- 6回：Geoffrey Chaucer の英語
- 7回：Chaucer の韻文
- 8回：ロンドン方言と標準英語について
- 9回：中英語の方言：Sir Gawain and the Green Knight
- 10回：英語の詩型の発達：ヨーロッパ大陸からの影響
- 11回：Chaucer の散文
- 12回：ラテン語からの聖書翻訳：神の言葉は翻訳可能か？
- 13回：中英語におけるディスコースとプラグマティクス
- 14回：Chaucer 以降の英語

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う内容の予習として、事前に指定された資料を読んで授業に参加すること。

授業では実際の中英語テキストを読むこともありますので、Oxford English Dictionary や Middle English Dictionary などを用いて事前に予習をする必要があります。(これらの辞書の使用方法については授業内で指示します。)

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テストおよび課題:30% 出席、授業参加度およびリアクションペーパー:30%

最終レポート割合 :40%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。小テストや課題については次回授業開始時にフィードバックを行います。

### テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

Simon Horobin Chaucer's Language Red Globe Press 2013 9780230293793

Simon Horobin The English Language: A Very Short Introduction Oxford University Press 2018  
9780198709251

唐澤一友 『世界の英語ができるまで』 亜紀書房 2016 9784750514697

堀田隆一 『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』 研究社 2016 9784327401689

Dennis Freeborn From Old English to Standard English Palgrave 2006 9781403998804

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

# 文学講義 28

Lectures on Literature 28

英語発達史 2

織田 哲司 (ODA TETSUJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM328  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

イギリス人の祖先がブリテン島に到来する前の大陸時代から古英語時代(5世紀半ば～11世紀半ば)までの言語とそれを取り巻く状況、ならびに文献から透けて見えるイギリス人の祖先の世界観の概略を理解できるようになる。

This course aims to help students understand (1) the history of the language from the era when the ancestors of the British people lived on the European continent to that of the Old English (the mid-5th to mid-11th centuries) and (2) the circumstances surrounding them, as well as the world view of the ancestors seen through their language and literature.

## 授業の内容 / Course Contents

中学生以来、あるいはもっと幼いときから英語を学んできて、英語に関してさまざまな疑問を抱いたことはありませんか—仮定法過去ではなぜ If I were… というのだろうか、あるいはまた foot の複数形はなぜ foots ではなく feet なのだろうか、などなど。

ことばというものはすべからず時間の産物と言えます。もちろんことばを産みだしているのは人間の精神で

すが、その人間はそれぞれの時代を生き、それぞれの時代の中で精神を形成しています。ですからことばについての謎はそのことばの歴史を学ぶことによって説明できることが多いのです。たとえば「例外」として教わってきた現象は歴史的に見れば例外でも何でも無い、当時の規則にしたがった言語現象であることにも気づくでしょう。

この授業は、英語の歴史のなかでもとくに英語のもつゲルマン的な性格が色濃い古英語時代のことばと文化を学びながらみなさんがこれまで抱いてきたさまざまな疑問を解明していきます。英語を歴史的に学ぶということは英語を立体的に見つめる目をもつということです。ものごとを歴史的に見つめる視点は何事においても重要です。現代という時間のいわば表面に現れた現象だけを見つめていては、その物事の本質を理解することができないでしょう。

とくに英語教師をめざす人はこのような視点が必要です。実際に中高の教室ではこの授業で学ぶ内容を教える必要はありません。それでも英語史に関する知識をたくさんもっているに越したことはありません。樹木は枝を広げた幅と同じくらいに目には見えない土の下で根を広げているといいます。立派な英語教師として活躍するためには、中学生や高校生の目には見えないかもしれないたくさんの英語史的知識を持っていた方がいいのです。

最後に『英文法汎論』を著した細江逸記博士のことばをご紹介します。「過去なくして現代はあらず、現代の英語を明らかにしようとするには、しばしば過去の英語を説かなければならない。」

Ever since we started learning English many of us have surely had many doubts about the language - why does the subjunctive past form say “If I were...”, for example, or, why does the word “foot” become “feet” in plural instead of “foots”, etc.

It is often said that a language is a product of time. Naturally, it gives form to the human spirit. However, humans have lived throughout many periods, and it is in those periods in which the spirit is made. That is why many of the mysteries concerning a language can be explained by studying its history.

In this lecture you will find some answers to your doubts regarding English through the stories of the Old English and of the culture in which the Germanic aspects of the language strongly remained. Without historical aspects, you cannot understand the true nature of the occurrence.

For those aiming to become an English teacher, this kind of perspective is necessary. It is often said that a tree extends its roots under the surface of the soil as wide as the branches grow above.

Lastly let me introduce some words from the late Professor Itsuki Hosoe, the author of *An Outline of English Syntax*: “The present cannot exist without the past. If you intend to understand modern English clearly, you must also refer to the English language of the past.”

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション：進化論と言語研究
- 2回：比較言語学の誕生
- 3回：印欧語族とは
- 4回：ゲルマン語の音韻的特徴
- 5回：ゲルマン語の形態的特徴と分類
- 6回：ゲルマン人の言語と文化
- 7回：ゲルマン人の精神文化 1
- 8回：ゲルマン人の精神文化 2
- 9回：ゲルマン人の精神文化 3
- 10回：ゲルマン人の精神文化 4

- 11回：ゲルマン人のブリテン島への到来  
 12回：キリスト教の到来と言語 1  
 13回：キリスト教の到来と言語 2  
 14回：古英語文学

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として授業資料を Canvas LMS からダウンロードし、それに目を通しておくことが必要です。復習には下に掲げる教科書を読めばいっそう理解が深まるでしょう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の課題:10% 最終レポート割合 :30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

織田哲司 『インタープレタティオ・ヤポニカーアングロ・サクソン人の改宗と詩』 明治大学出版会 2021  
 9784906811304 ○

### 参考文献 / Readings

A.C.Baugh, T.Cable A History of English Language, 6th ed. Routledge 2012 9780415655965

O. Barfield History of English Words Lindisfarne Press 1967 0940262118

風間喜代三 『印欧語の故郷を探る』 岩波書店 1993 9784004302698

織田哲司 『「人間らしさ」の言語学』 開拓社 2016 9784758925587

渡部昇一 『英語の歴史』 大修館書店 1983 9784469141832

渡部昇一 『英語の語源』 講談社 1977 9784061158801

織田哲司 『英語の語源探訪』 大修館書店 2011 9784469245691

その他必要に応じて授業中に紹介します。

### その他 / Others

この授業では授業中およびその他の時間における質問・コメントを大いに歓迎し、むしろ積極的に評価します。授業外の時間ならば電子メールを使用することも可能です(oda\_t@meiji.ac.jp)。受講者はとにかくことばと人間および両者ののっぴきならぬ関係に興味をもって日々の生活を送って下さい。そうすることにより今年度のみならず、大学生活が、そしてもしかする人生に対するものの見方が変わるかもしれません。

# 文学講義 29

Lectures on Literature 29

英語構造論 1

十重田 和由 (TOEDA KAZUYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM329  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、英語の歴史について理解し、現代英語の祖である古英語の基本的な知識を得ることを目標とします。英語の歴史を学ぶことで、現代英語における諸現象について理解を深めます。

The goal of this course is to help students understand the history of the English language and acquire basic knowledge of Old English, which precedes Modern English. By studying the history of the English language, students will deepen their understanding of various phenomena in Modern English with insights into the development of English.

## 授業の内容 / Course Contents

古英語について、発音、文法、語彙などの側面から学び、平易な古英語文章の読解練習をします。古英語と現代英語との比較を通して、英語という言語の歴史的变化について講義を行います。また、毎回のテーマに関連する参考文献も授業で適宜紹介します。

Students will learn Old English with reference to aspects of lexis, morphology, phonology, and syntax. Using the knowledge acquired about the structure of the language, students will be able to read Old English texts. The

course will also analyze the historical changes in the English language via the comparison of Old English and Modern English. References related to the topic of each class will be introduced in class appropriately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：英語訳聖書の各バージョンを比較してみよう
- 2回：人称代名詞：なぜ英語の二人称は単数も複数も同じ形なのか？
- 3回：古英語の発音とグリムの法則：cordial に heart がある！？
- 4回：語彙と意味変化：deer は鹿ではなかった？
- 5回：古英語の名詞：「石」は男性、「贈り物」は女性？
- 6回：古英語の動詞：不規則動詞は規則的だった？
- 7回：これまでのおさらい、および中間テスト
- 8回：写本の分析1：写字生、字体、綴り字など
- 9回：写本の分析2：文法の特徴や現代英語との違い
- 10回：散文を読んでみよう1：導入、短文読解
- 11回：散文を読んでみよう2：聖書
- 12回：韻文を読んでみよう1 Beowulf
- 13回：韻文を読んでみよう2 Beowulf、および既習事項の確認
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：教科書の指定された範囲についてあらかじめ読むことを期待します。

復習：授業で扱った内容について、提示された参考文献等を利用して復習・発展学習することを期待します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間テスト:40% 最終レポート割合：:20%最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

岩崎春雄 『英語史入門』 金星堂 1989 4764703645 -

### 参考文献 / Readings

随時、授業中にお知らせします。



# 文学講義 30

Lectures on Literature 30

英語構造論 2

十重田 和由 (TOEDA KAZUYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM330  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、英語の歴史について理解し、中英語、近代英語、現代英語の基本的な知識を得ることを目標とします。英語の歴史を学ぶことで、現代英語における諸現象について理解を深めます。

The goal of this course is to help students understand the history of the English language and to acquire basic knowledge of Middle English, early Modern English, and Modern English. By studying the history of the English language, students will deepen their understanding of various phenomena in Modern English with insights into the development of English.

## 授業の内容 / Course Contents

発音、文法、語彙などの側面から 1100 年以降の英語について学び、解説を加えながら平易な中英語文章の読解練習をします。様々な時代の英語の比較を通して、英語という言語の歴史的变化について講義を行います。また、毎回のテーマに関連する参考文献も授業で適宜紹介します。

Students will learn Middle English, early Modern English and Modern English with reference to aspects of lexis,

morphology, phonology, and syntax. Using the knowledge acquired about the structure of the language, students will be able to read Middle and early Modern English texts. The course will also analyze the historical changes in the English language via the comparison of Old English and Modern English. References related to the topic of each class will be introduced in class appropriately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：中英語以前
- 2回：中英語の文法1（音韻論）：開音節の長母音化、ナマがナーマに？
- 3回：中英語の文法2（形態論）：「いらぬe」の正体
- 4回：中英語の文法3（統語論）：格の崩壊と語順
- 5回：中英語の語彙：フランス人は中英語を読めるかも！？
- 6回：中英語の文学作品：Chaucer や Malory に迫る
- 7回：Chaucer 作品の理解（導入）、これまでのおさらい及び中間テスト
- 8回：Chaucer 作品の理解（読解）：『カンタベリー物語』を音読してみよう
- 9回：Sir Orfeo の理解（導入）：文法や表記上の特徴
- 10回：Sir Orfeo の理解（読解）：中英語ロマンスを学ぶ
- 11回：ルネサンス期の英語：写本から活版印刷へ
- 12回：初期近代英語：大母音推移の謎
- 13回：現代英語と英語の変種：さまざまな英語に触れる
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：教科書の指定された範囲についてあらかじめ読むことを期待します。

復習：授業で扱った内容について、提示された参考文献等を利用して復習・発展学習することを期待します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間テスト：40% 最終レポート割合：20% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

岩崎春雄 『英語史入門』 金星堂 1980 -

### 参考文献 / Readings

随時、授業中にお知らせします。

# 文学講義 31

Lectures on Literature 31

音声学 1

宇佐美 文雄 (USAMI FUMIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM331

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英語の単音（子音・母音）、および、連続音を正しく発音し、聴き取れるようになる。

さらに、英語音声を発音する際の音声器官の動きを理解できるようになる。

This course will help students correctly pronounce and perceive sounds of the English language.

In addition, it will also help them understand the movements of vocal organs when they pronounce English sounds.

## 授業の内容 / Course Contents

単音、連続音を発音する際の音声器官の動きについて講義する。

単音、連続音の聴取練習をおこなう。

This course provides an introduction to English phonetics.

Students will learn how English sounds are articulated.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：子音の分類（調音点、調音様式、声の3つの変数による分類）、閉鎖音の音素と異音

- 2回：声門の開口度（有声音・無声音、有気音・無気音との対応関係）  
 3回：摩擦音（どの音声器官のあいだに隙間があるのかを理解する）  
 4回：破擦音（破擦音を構成する破裂音と摩擦音の調音点は同じ）、鼻音（緩やかな閉鎖の開放、鼻音と有声閉鎖音の対応を理解する）  
 5回：側面音、半母音（エル音は2種類、半母音は3種類あることを理解する）  
 6回：母音の概説、単母音（短母音と長母音の分類は便宜的なものであることを理解する）  
 7回：単母音（長母音は二重母音化の傾向があることを理解する）  
 8回：二重母音（「狭い二重母音」、「広い二重母音」、「r の二重母音」の3種類を理解する）  
 9回：音節と子音結合（グラフ化することで規則性があることを理解する）  
 10回：鼻腔開放、側面開放、鼻音化されたたたき音、歯茎音（の連続）のたたき音化（規則性があることを理解する）  
 11回：子音の同化（調音点、調音様式、声の3つの変数それぞれに同化がある）、音の脱落（子音の脱落、母音の脱落、それぞれに規則性があることを理解する）  
 12回：語アクセント、複合語アクセント、句アクセント（規則性が存在することを理解する）  
 13回：等時性と強形・弱形（両者を関連付けて学習する）、アクセント移動  
 14回：最終テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に行う小テスト（5%、全13回）:65% 最終テスト:35%

#### テキスト / Textbooks

竹林滋、斎藤弘子 『新装版 英語音声学入門』 大修館書店 9784469245301 ○

#### 参考文献 / Readings

今井邦彦 『ファンダメンタル音声学』 ひつじ書房 489476279

川原繁人 『ビジュアル音声学』 三省堂 9784385365329

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジメなどの配布は「Canvas LMS」でおこないます。また、小テスト（授業時間帯に実施）の受験には「Canvas LMS」にアクセスする必要があります。

#### その他 / Others

教科書の音声は教科書付属 CD に収録されており、出版社の HP から音声をダウンロードできる形になっていません。CD を再生する手段を持たない人は各自対処してください。

## 文学講義 32

Lectures on Literature 32

音声学 2

宇佐美 文雄 (USAMI FUMIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM332  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1 から 7：カジュアルなスタイルで話される時の英語音声の特徴を理解し、英語の文を発音したり聴いたりする際に役立てる。

9 から 14：音の置き換えには、強化過程と弱化過程の 2 つがある。母音の強化過程を取り上げ、ある母音が別の母音に、なぜ変化するのかを理解する。

1-7: This course will help students understand the differences of pronunciation in dictionary form and casual speech form. This will be useful when pronouncing English sentences and listening to them.

9-14: There are two kinds of sound substitution in English: strengthening process and weakening process. This course covers the strengthening process of English vowels, and it will help students understand why this type of sound substitution occurs.

### 授業の内容 / Course Contents

1 から 7：単独で発音された単語の発音形と、自然なスピードで話された単語連鎖の発音形とを対応付ける音の置き換えを解説する。また、聴取練習をおこなう。

9 から 14：相対する 3 つの極の音声特徴を強化する方向で母音は変化します。大母音推移、現代の英語の変種(GA, RP, Aus, NZ 等) に関与している母音の強化過程を例として取り上げ講義します。

This course provides an introduction to English phonetics and phonology.

1-7: Students will learn how pronunciations in mental lexicon are mapped onto pronunciations in casual speech. Students will also practice listening to them.

9-14: Students will learn strengthening processes in vowels which enhance characteristics of the opposing poles: palatality [i], labiality [u], sonority [a]. Students will also learn the processes governing the Great Vowel Shift and regional variants of modern English (e.g. GA, RP, Aus, NZ, and others).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：等時性（語、複合語、句をリズムのスロットに落とし込む）
- 2 回：音素と異音（異音が生じる音声環境）
- 3 回：調音位置の同化、声の同化
- 4 回：狭めの同化（「融合同化」という特異な同化は存在しません）
- 5 回：歯茎音の弾音化、歯茎音の連続の弾音化、共鳴音の鼻音化
- 6 回：子音消失の条件（隣接する類似性の大きい子音への完全同化として分析）
- 7 回：母音消失の条件（隣接する類似性の大きい子音への完全同化として分析）
- 8 回：一見すると同じように見えるが、心的処理が全く異なる / n / 音の置き換え
- 9 回：母音を特徴づける 3 つの音声特徴（Palatality, Labiality, Sonority）
- 10 回：大母音推移 と Canadian Raising
- 11 回：Raising（Palatality/Labiality を増大させる音の置き換え）
- 12 回：Lowering（Sonority を増大させる音の置き換え）
- 13 回：Depalatalization, Delabialization（Palatality/Labiality を取り去る音の置き換え）
- 14 回：Palatalization, Labialization（Palatality/Labiality を付加する音の置き換え）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に行う小テストタイプ 1（7%、12 回分）:84% 授業内に行う小テストタイプ 2（8%、2 回分）:16%

### テキスト / Textbooks

各回レジメを配布（テキストは使用しない）

### 参考文献 / Readings

竹林滋、斎藤弘子 『新装版 英語音声学入門』 大修館書店 9784469245301

今井邦彦 『ファンダメンタル音声学』 ひつじ書房 489476279

渋谷和郎ほか 今さら聞けない英語学・英語教育学・英米文学 DTP 出版 9784862117694

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

文学講義 3 1 を履修済みであることが望ましい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

レジメなどの配布は「Canvas LMS」でおこないます。また、小テスト（授業時間帯に実施）の受験には「Canvas LMS」にアクセスする必要があります。

# 文学講義 33

Lectures on Literature 33

英米事情 1

石川 敬史 (ISHIKAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM333  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近年のメディアでは、「分断するアメリカ」「アメリカの文化発信力の低下」が論じられていますが、この授業では、現在世界における最古の共和政体の国家にして、世界最古の成分憲法を有するアメリカの「安定性」を歴史と制度を通史によって明らかにすることを目標としています。アメリカ文学を学ぶ上で必要な歴史的文脈を学ぶ機会にさせていただきたく希望します。

In recent years, the media has discussed "a divided America" and "America's declining ability to transmit its culture." The goal of this class is to reveal the "stability" of the United States, the oldest republican nation in the world today, with the oldest component constitution in the world, through a history and a history of its institutions. We hope that this will be an opportunity to learn the historical context necessary for the study of American literature.

## 授業の内容 / Course Contents

- ・アメリカの特徴である「州」の原型をつくった植民地時代を検討します。
- ・アメリカ革命とはアメリカの人々に何をもたらし、何を失わせたかを考察します。



- ・アメリカ史は、「特殊な西洋史」なのか「普遍的な世界史」なのかを考察する材料を提供いたします。
- ・最終的には今日のアメリカを理解するための視座を提供いたします。

We will examine the colonial period, which created the prototype for the "states" that characterize the United States.

We will examine what the American Revolution brought to the American people and what it made them lose.

We will provide material to examine whether American history is a "special Western history" or a "universal world history."

Ultimately, we offer a perspective for understanding America today.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- ・授業全体の概要、授業の進め方、単位認定の方針を解説します。
- ・導入として、近世ヨーロッパにおける大航海時代のアメリカ大陸の意味について概説します。

2 回：ヨーロッパ人のアメリカへの入植と、イギリス領 13 植民地の形成(1)

- ・植民地形成の諸相
- ・イギリス領 13 植民地の形成と発展

3 回：ヨーロッパ人のアメリカへの入植と、イギリス領 13 植民地の形成(2)

- ・アメリカ的個性の自覚
- ・先住民とアフリカ人奴隷

4 回：アメリカ革命(1)：アメリカ革命の構造と精神

- ・イギリス本国への抵抗・離脱・建国

5 回：アメリカ革命(2):その今日性

- ・アメリカ革命に対する今日的批判の諸相とその再検討

6 回：初期アメリカ共和政体

- ・1787 年の憲法制定
- ・初期共和政体：「ヨーロッパ共和国」からの離脱と「アメリカ帝国」の創設

7 回：デモクラシーの「帝国」

- ・アメリカの膨張と先住民、アフリカ人奴隷制度
- ・アンティ・ベラム期のアメリカ

8 回：共和党の創設と南北戦争

- ・アメリカにおける政党とは何か
- ・南北戦争がアメリカをいかに変容させたか
- ・再建期とその問題：黒人差別の歴史の始まり

9 回：金ぴか時代のアメリカ

- ・アメリカの産業発展とアメリカニズムの形成
- ・金ぴか時代の今日性

10 回：革新主義時代のアメリカ(1)

- ・革新主義とは何か
- ・改革の諸相

11 回：革新主義時代のアメリカ(2)

- ・アメリカの外交思想の形成

・日本とアメリカの出会い

12 回：アメリカ合衆国にとっての第一次世界大戦と第二次世界大戦

・「自由から始まった国」はいかにして「自由」を容易に手放したか  
 ・ニューディール・リベラリズム

13 回：冷戦期のアメリカ

・赤狩りの時代のアメリカ  
 ・アメリカにとっての冷戦とは：ヨーロッパとの比較において  
 ・保守主義の諸相

14 回：2009 年 9 月 11 日のアメリカ同時多発テロ

・「忘れられた巨人」の復活  
 ・現代アメリカ論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・復習に重点をおいた学修を心がけてください。復習の際に生じた疑問などは遠慮なく行ってください。  
 ・予習は、参考書の関係箇所に通しておいてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 期間内にレポート課題を 2 回求める:30%

授業のちょうど良い区切りにレポート課題を示します。2 回行います。1 回につき評価配点は 15%で、2 回行うので、30%になります。

### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しません。授業毎にレジюмеや資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

久保文明・岡山裕 『アメリカ政治史講義』 東京大学出版会 2022 9784130322331

授業の中で読んでいただきたい文献を随時紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

事前知識や履修に際して必要とする科目はありません。ご興味を持たれた方は積極的に参加してください。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

持参する必要は特にありませんが、レポート課題やレジюме・資料、緊急の予定変更などを Web 上でお知らせするので、PC は準備してください。

### その他 / Others

教員の来歴は下記より確認しておいてください。

<https://researchmap.jp/read0074086>

# 文学講義 34

Lectures on Literature 34

英米事情 2

高桑 晴子 (TAKAKUWA HARUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM334

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アイルランドの文化を概観することでイギリス(特にイングランド)、アメリカを中心とする英語文学・英語文化の理解を見直す。英語文化の多様性や相克を理解し、脱中心的なものの見方を体得することが目標となる。

The class will have an overview on Irish cultural history with an emphasis on its Anglophone literary heritage. We will look at cultural negotiations and conflicts within English-speaking world and understand the diversity of Anglophone culture.

## 授業の内容 / Course Contents

アイルランドの歴史をケルトの時代から現代まで理解するとともに、アイルランドの文化・文学・映像作品を紹介していく。特に 800 年にわたるイングランドによる支配によって生まれたアイルランドのナショナル・アイデンティティーの複雑性に注目していく。

The class will look at the history of Ireland from the Celtic age to the present day, and introduce Irish culture, literary works and films to further the understanding. One of the main themes will be the complexity of Irish national identity that is brought by the 800-year English/British rule of the island.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：Orientation
- 2 回：History of Ireland(1): From the Celts to the Anglo-Normans  
アイルランドの歴史と文化(1)ーケルト文化とアングロ=ノルマン文化
- 3 回：History of Ireland(2): Tudor Ireland and Colonisation  
アイルランドの歴史と文化(2)ー植民地問題・宗教問題の始まり
- 4 回：Irish Literature and Culture(1): Early Poetry; Edmund Spenser; Aisling Poems  
文学で見るアイルランド(1)ー初期の詩、エドモンド・スペンサーとアイルランド、アイルランド語詩
- 5 回：History of Ireland (3): From Ascendancy and Penal Laws to the Great Famine  
アイルランドの歴史と文化(3)ープロテスタント支配と刑罰法、大飢饉
- 6 回：Irish Literature and Culture(2): Anglo-Irish Texts from the 18th to the Early 19th Century  
文学で見るアイルランド(2)ー18世紀から19世紀半ばまでのアングロ・アイリッシュ文学
- 7 回：History of Ireland (4): Towards Independence  
アイルランドの歴史と文化(4)ー独立運動と南北分断
- 8 回：Irish Literature and Culture(3): The Celtic Revival and Modernist Period in Ireland  
文学で見るアイルランド(3)ーケルト復興とモダニズム期のアイルランド
- 9 回：History of Ireland (5): The Republic of Ireland  
アイルランドの歴史と文化(5)ーアイルランド共和国
- 10 回：History of Ireland (6): Northern Ireland and the Troubles  
アイルランドの歴史と文化(6)ー北アイルランド紛争
- 11 回：Irish Literature and Culture(4): Ireland in Contemporary Irish poetry  
文学で見るアイルランド(4)ーアイルランドの詩と現代アイルランド
- 12 回：Irish Literature and Culture(5): Ireland in Film: The Commitments, Once, Good Vibrations  
映像文化で見るアイルランドー映画と20世紀後半のアイルランド
- 13 回：Contemporary Ireland (1): Ireland and Brexit  
現在のアイルランド(1)：アイルランドとイギリスの欧州離脱
- 14 回：Contemporary Ireland (2): Ireland Today  
現在のアイルランド(2)：現状と展望

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストおよびプリントの指定された部分を予め読んでおくこと。  
エッセイのための下準備をすること。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% ショート・エッセイ:30% 授業へのフィードバック:30%  
合 :40%

最終レポート割

**テキスト/Textbooks**

---

ハンドアウトを随時準備する

**参考文献 / Readings**

---

Richard J. Kelly et al. A Look at Ireland 開文社 2002 4875714750

適宜授業内で紹介する。

# 文学講義 35

Lectures on Literature 35

イギリス文化1

侘美 真理 (TAKUMI MARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM335

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

英国の代表的な探偵・推理小説を読む。19 世紀後半～20 世紀前半に出版された、幾つか有名な小説や短篇ものを原文で読む。また、その時代背景（ヴィクトリア朝後期、エドワード朝、大戦間期、大戦期）についての理解を深める。シャーロック・ホームズや名探偵ポアロなど、その人物像や歴史的イメージが比較的よく知られている小説を取り上げることで、基本的にはその時代の英国社会や文化に対する理解やイメージを深めてもらう。本授業は、現代の英国文化に受け継がれる英文学の一端に触れることで、まずは英国文化の特質を理解し、ひいては世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションについての理解を深めることを目標とする。

This course introduces you to some of the well-known British detective novels and short stories written in the latter half the nineteenth century and the first half of the twentieth century by studying their original texts. It will also outline the historical background to provide students with materials that will make these stories more interesting to read. It also aims to give an overview of the literary history and the origin of these 'detective stories' by first reading the works of Agatha Christie, and then moving on to Arthur Conan Doyle and Wilkie Collins. It also aims to provide opportunities for studying British literature and culture, and furthermore, for exploring the

diversity of modern global culture and communication through the study.

### 授業の内容 / Course Contents

初回のイントロダクションの後、基本的には2週で1つの作品を紹介しながら概観する。取りあげる小説家は、アガサ・クリスティー、コナン・ドイル、ウィルキー・コリンズの3人の予定。代表的な作品の抜粋を原文で読み、まずはその抜粋を手がかりに、それぞれの作品の時代・社会背景について講義するが、原文を読む作業は受講生1人1人が精読する作業となる。よって毎回必ず課題を提出してもらおう。最初はアガサ・クリスティー、20世紀前半の時代から始め、世紀末のコナン・ドイル、ヴィクトリア朝後期のウィルキー・コリンズと時代をさかのぼりつつ、いわゆる「探偵小説」の原型、もしくはそのジャンルが確立する風土や基盤がヴィクトリア朝にあることなどを確認していく。なお、本授業を受講する学生には、立教大学の国際交流ラウンジやインターネット上のSNS・掲示板等を利用した双方向的な異文化理解を実践することが求められている。

The first class will be a short introduction to the whole course, and to the practice of interactive understanding of the modern global culture, so attendance is necessary. From the second week, we will start reading some of the well-known works of Agatha Christie, Arthur Conan Doyle, and Wilkie Collins. In each class we will first read a couple of extracts from the text, and then its social and historical context will be discussed. We will look at desires and anxieties of the time and the way the novelists explored their concern through their entertainment writing of mystery and detectives. Students need to read original texts and answer some questions for their own task in each class, and the result will be included in the course assessment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業についてのイントロダクションおよび異文化交流の体験的理解についての導入
- 2回：アガサ・クリスティーの作品(30～50年代)を読む
- 3回：第2回授業の続き
- 4回：アガサ・クリスティーの作品(10～20年代)を読む
- 5回：第4回授業の続き
- 6回：コナン・ドイルの作品(『シャーロック・ホームズの冒険』より)を読む
- 7回：第6回授業の続き
- 8回：コナン・ドイルの作品(『シャーロック・ホームズの帰還』より)を読む
- 9回：第8回授業の続き
- 10回：ウィルキー・コリンズの作品(長編)を読む
- 11回：第10回授業の続き
- 12回：ウィルキー・コリンズの作品(短編)を読む
- 13回：第12回授業の続き
- 14回：授業全体の総括および異文化交流の体験的理解についての総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の原文抜粋については辞書を用いながら自分でできる限り文章を読み、また必ず復習をして試験に備えること。授業にも辞書を持ってくること。また、国際交流ラウンジやSNS・インターネットサイトなどを通じ

て、英国の探偵・推理小説の文化について自ら調べ、英国を含めた世界各国の文化の多様性や交流の意義を体験的に理解してもらう。

---

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席・授業貢献度:20% 平常点（授業中の課題）:30%

---

**テキスト / Textbooks**

プリントを配布する。

---

**参考文献 / Readings**

授業中に紹介する。



# 文学講義 36

Lectures on Literature 36

イギリス文化2

志渡岡 理恵 (SHIDOOKA RIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM336

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） この科目は全回オンデマンドで実施し、「Canvas LMS」で授業資料の配信を行う。第1回授業資料は9月24日(火)の2限開始時刻に配信する。それ以降、各回の授業の資料はその週の火曜日2時限開始時刻に配信する。各回の課題の締切(授業資料配信日の4日後を予定している)は、授業資料に掲載する。

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、以下の3つである。

- (1) イギリスの女性作家に関する基礎的知識を身につける。
- (2) 各作品の文化的、社会的、歴史的背景を理解できるようになる。
- (3) 文学作品を読み解く力を高める。

The objectives of this course are (1) to provide students with basic knowledge of British women writers, (2) to help students understand the cultural, social, and historical background of their works, and (3) to enhance students' skills to read literary works.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、17世紀から20世紀までのイギリス(旧植民地を含む)において活躍した女性作家のキャリアと作品を様々な視点から解説し、評価する。初回の授業はイントロダクションで、第2回授業から各回1人の女

性作家を取り上げ、代表作の一部を読み、作品の文化的、社会的、歴史的背景について考察する。

This course introduces students to significant British women writers from the seventeenth century to the twentieth century, and explores the literary contributions of them. The first class will be a short introduction to the whole course, and from the second class, we will read some of the works of British women writers and discuss their cultural, social, and historical background.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：Aphra Behn—初の女性職業作家
- 3 回：Jane Austen—映像化され続ける作品
- 4 回：Ann Radcliffe—ゴシック小説の系譜
- 5 回：Elizabeth Gaskell—社会へのまなざし
- 6 回：Beatrix Potter—ピーター・ラビットと自然保護活動
- 7 回：Olive Schneider—南アフリカを描く
- 8 回：Isabella Bird—日本への旅
- 9 回：Frances Burnett—『秘密の花園』におけるインド表象
- 10 回：Angela Brazil—スクールガール小説
- 11 回：Virginia Woolf—モダニズム、フェミニズム
- 12 回：Katherine Mansfield—少女の目線
- 13 回：Margaret Powell—20 世紀メイドの回想録
- 14 回：Agatha Christie—推理小説と旅行文化、総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・事前学修：各回でとりあげる作家について図書やインターネットで調べる。
- ・事後学修：各回でとりあげた作品を読み、解釈する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 課題:40%

### テキスト / Textbooks

パワーポイントとプリントを「Canvas LMS」で配布する。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

「Canvas LMS」で授業資料を閲覧して課題を提出するための機器(PC など)

# 文学講義 37

Lectures on Literature 37

アメリカ文化1

大串 尚代 (OGUSHI HISAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM337

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、文学研究を通じて、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状や課題を理解することを目的とする。本講義では特に文化の多様性に着目し、植民地時代から 19 世紀にかけてのアメリカ文学を人種やジェンダーの視点をもって考察するための、文学史的な知識を身につけることを目標とする。

This course explores the literary contributions of American women writers from the 19th century to the early 20th century. It will provide an overview of the literary movements, themes and styles of the period, while focusing on the works of female authors, who have been historically marginalized in the canon of American literature.

## 授業の内容 / Course Contents

ホーソーン、エマソン、メルヴィルらなど、男性作家によるアメリカ文学の正典（キャンノン）とみなされる作品が出版された 19 世紀は、同時に女性作家が、売り上げ的には男性作家をしのぐほどに、華々しく活躍した時代でもあった。本講義は、植民地時代から始まり、18 世紀末のアメリカ独立期、第一派フェミニズム運動の勃興期である 19 世紀半ばを経て、20 世紀初頭の女性参政権運動の時期までを、アメリカ女性史をふまえながら

概観する。扱う作家はメアリ・ホワイト・ローランドソン、スザンナ・ローソン、キャサリン・マリア・セジウィック、リディア・マリア・チャイルド、スーザン・ウォーナー、ファニー・ファーン、ハリエット・ビーチャー・ストウ、ルイザ・メイ・オルコット、シャーロット・パーキンス・ギルマンなどを予定している。なお、当授業を受講する学生には、立教大学の国際交流ラウンジやインターネット上のSNS・掲示板等を利用した双方向的な異文化理解を实践する。

This course will focus on the female authors of the American Renaissance period, who have often been overlooked in traditional literary history. These writers, including Maria Cummins, Harriet Beecher Stowe, and Susan Warner, were "rediscovered" during the 1970s and 80s through the work of feminist literary scholars. The course will explore these authors in the context of American literary history, with an emphasis on understanding the perspectives and experiences of women during this time period, as well as the broader issues of gender and race that are present in their works.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の説明および異文化交流の体験的理解についての導入
- 2 回：ポカホンタス神話
- 3 回：捕囚体験記とネイティヴ・アメリカン表象（メアリ・ホワイト・ローランドソン）
- 4 回：煽情小説というジャンルとアメリカ国家（スザンナ・ローソン）
- 5 回：ネイティヴ・アメリカンと歴史小説（キャサリン・マリア・セジウィック、リディア・マリア・チャイルド）
- 6 回：孤児と移動の物語（スーザン・ウォーナー、マリア・カミンズ）
- 7 回：所感宣言と第一波フェミニズム運動（マーガレット・フラー、エリザベス・スタントン）
- 8 回：アメリカにおける奴隷制度と文学（ハリエット・ジェイコブズ）
- 9 回：女性作家とペンネーム（ルイザ・メイ・オルコット）
- 10 回：女性作家とスピリチュアリティ（エリザベス・フェルプス）
- 11 回：「新しい女性」に向けて（ケイト・ショパン、イーディス・ウォートン）
- 12 回：女性と西部開拓（ローラ・インガルス・ワイルダー）
- 13 回：ユートピア小説と大衆文化（シャーロット・パーキンス・ギルマン）
- 14 回：異文化交流の体験的理解についての総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示した課題図書から一冊選び、学期末までに読了する。また、国際交流ラウンジやSNS・インターネットサイトなどを通じて文化の多様性と交流の意義を体験的に理解する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指定した提出物:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

巽孝之・宇沢美子編 『よくわかるアメリカ文化史』 ミネルヴァ書房 2020 9784623088409

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業で使用する資料をダウンロードし閲覧ができる PC もしくはタブレット

# 文学講義 38

Lectures on Literature 38

アメリカ文化2

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM338  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカにおける性の多様性に関する知識を深め、その審美的かつ政治的な諸相を分析する批評的な能力を培う。あわせて、社会の規範を相対化して捉える柔軟な思考力を養う。

The aim of this course is to help students acquire a deep understanding of sexual diversity in the U.S. and a critical ability to analyze its aesthetic as well as political aspects. This course will also cultivate a flexible mindset that perceives and contextualizes societal norms in a relative manner.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、アメリカにおけるポリアモリー（複数恋愛）の歴史を概観する。LGBTQ の権利が法的にも認められつつある現代において、なおも——日本においては特に——理解が進んでいない、いわば最後の性的マイノリティともいえるのがポリアモリストである。アメリカではしかし、1990 年代以降、ポリアモリーの考えが社会に浸透し、日本では「不倫」として批判される婚外の関係も、「オープン・マリッジ」（開かれた結婚）として容認ないしは肯定されうる土壌さえ整いつつある。互いの同意のもと、同時に複数の相手と持続的な関係を構築するというポリアモリーの概念は、男女一对のモノガミー（とその後ろ盾となる資本主義）を規範

とする社会に対し、いかなる抵抗の歴史を紡いできたのか。ポリアモリーという言葉が生まれたのは20世紀末のアメリカにおいてであるが、そのルーツは19世紀にさかのぼる。複数恋愛に関わる思想、宗教、文学、音楽、映画など、アメリカ文化のさまざまな位相を射程におさめつつ、今日的な性の多様性とはどうあるべきかを考えるための補助線を提供したい。

This course provides a historical survey of polyamory and its cultural repercussions in the United States. Despite our increasingly positive understanding of LGBTQ rights, polyamory remains, as it were, the last frontier of sexual diversity. In the United States, however, the idea of “extramarital affairs” could now be understood as “open marriages.” With this situation in mind, we will explore the ways in which polyamory has historically resisted the idea of monogamy (and capitalism behind it). Although the term polyamory was coined in 1990s America, its roots can be traced back to the nineteenth century. This course, then, aims to investigate diverse aspects of polyamorous culture, including philosophy, religion, literature, music, and movies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：19世紀（1）： オナイダ共同体
- 3回：19世紀（2）： 共産主義とモルモン教
- 4回：世紀転換期： 「新しい女」の台頭
- 5回：20世紀前半（1）： フロイトと無意識の解放
- 6回：20世紀前半（2）： メイ・ウェストの衝撃
- 7回：小テスト
- 8回：冷戦期（1）： キンゼー報告／マッカーシズム
- 9回：冷戦期（2）： 核家族時代の複数愛文学
- 10回：1960年代以降： ヒッピー文化
- 11回：20世紀末以降： 「ポリアモリー」の誕生
- 12回：補遺： 日本のポリアモリー
- 13回：今学期の総括
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リアクション・ペーパーは、講義内容の発展的復習と位置づけ、授業時間外（授業日の翌日）に締め切りを設定する。リアペを提出しない週であっても、授業後には、興味を持ったトピックについて、関連書籍やウェブ上の情報を主体的に参照することが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:20% リアクションペーパー:40% 最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

毎週、授業プリントを配布する。

**参考文献 / Readings**

深海菊絵 『ポリアモリー——複数の愛を生きる』 平凡社新書 2015 4582857779

その他の参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

英語の視聴覚資料を多く用いるが、字幕がついていない資料もあるので、一定の英語リスニング能力を有していることが期待される。



# 文学講義 39

Lectures on Literature 39

英語圏文化 1

内藤 暁子 (NAITO AKIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM339  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「南海の英国」から「太平洋国家」へと変貌と遂げたニュージーランド社会の成り立ちや、先住民マオリの文化を基層とするその国民文化の深層を学び、「英語圏文化」の多様性に対する理解を深めます。

To develop an understanding of the diversity of “English Culture” by learning about the society of New Zealand, which has historically changed from “Britain of the South” to “a Pacific country,” and the deeper layers of the country’s culture based on that of the indigenous Maori people.

## 授業の内容 / Course Contents

英語研修地先として人気が高いニュージーランドですが、この国には英語以外にもう2つの公用語があります。それは先住民マオリの言語、つまりマオリ語と手話です。これは、まさに現代ニュージーランド社会の社会正義に対する意識の高さを示すともいえますが、ある種のエクスキューズにもなっています。本授業では、こうしたニュージーランド社会や文化の成り立ちや諸相を明らかにしていきます。なお、本講義の履修生は「文学講義 40 英語圏文化 2」とあわせて履修することが望ましいです。

This course introduces various aspects of the society and the culture of New Zealand with their history. While

New Zealand is a popular destination for English training programs, it has two more official languages: Maori language, spoken by the indigenous Maori people, and NZ sign language. This point shows the awareness of the society toward social justice, but it also can be a vindication. Topics such as this are considered throughout the course. It is recommended that students taking this course also plan on registering for Lectures on Literature 40 English Culture 2.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション ニュージーランドの国旗は？
- 2 回：「白く長い雲のたなびく地」とポリネシア系先住民マオリ
- 3 回：マオリの伝統的な社会・文化概説
- 4 回：キャプテン・クックの「到達」
- 5 回：ニュージーランドの誕生とワイタンギ条約
- 6 回：先住民マオリの抵抗運動その1 マオリとキリスト教、千年王国運動
- 7 回：先住民マオリの抵抗運動その2 土地戦争、マオリ王
- 8 回：ヨーロッパ系住民の社会
- 9 回：先住民族政策の変遷
- 10 回：ワイタンギ審判所
- 11 回：マオリ先住権復活運動
- 12 回：マオリ文化復興運動
- 13 回：先住民／ヨーロッパ系住民／多様な移民たちのくにつくり
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本講義では関連する時事問題等について意見を述べてもらうので、普段からアンテナを高くするとともに、予習復習を怠らないようにしましょう。

配付資料や指示した参考文献等を熟読し、興味のあるテーマについては自分の頭で考え、自分の目で見、自分の足で調べる心構えをもって授業に臨みましょう。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 課題等の内容:30%

### テキスト / Textbooks

特に指定しません。

### 参考文献 / Readings

青柳まちこ編 『ニュージーランドを知るための63章』 明石書店 2008年 9784750328263

前川啓治・棚橋訓編 『講座世界の先住民族09 オセアニア』 明石書店 2005年 4750321877

キース・シンクレア 『ニュージーランド史』 評論社 1982年 4566056015

他の参考書は随時、提示します。

# 文学講義 40

Lectures on Literature 40

英語圏文化2

内藤 暁子 (NAITO AKIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM340  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EAL2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

グローバル化が進むニュージーランド社会に関し、先住民マオリ社会(文化)を軸として、ジェンダー、環境、スポーツ、社会正義といった側面から考察し、その多様な様相に迫ります。そして、「英語圏文化」の歴史と現状に対する理解を深めます。

To gain insight into the diverse aspects of New Zealand's globalizing society, e.g. gender, environment, sport, social justice, with the indigenous Maori society and culture as a pivotal viewpoint, and become familiar with historical and contemporary situations of “English Culture.”

## 授業の内容 / Course Contents

マジョリティ社会、移民社会、先住民社会というそれぞれの視点から、グローバル化が進むニュージーランド社会を多角的にとらえます。具体的には、文化のイメージ、映画、ジェンダー、環境、スポーツ（ラグビーなど）、レイシズム、非核政策などを通してニュージーランド国民文化の成り立ちを明らかにします。本講義の履修生は「文学講義 39 英語圏文化 1」とあわせて履修することが望ましいです。

This course presents viewpoints of the society of mainstream people, immigrants, and indigenous people to see

New Zealand's globalizing society from various angles. Issues related to cultural image, movie, gender, environment, sport (e.g. rugby), racism, and nuclear free policy are mainly discussed. It is recommended that students taking this course also plan on registering for Lectures on Literature 39 English Culture 1.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ニュージーランド観光とマオリ
- 3回：ニュージーランドと映画産業
- 4回：映画からみる先住民マオリ Once Were Warriors
- 5回：映画からみる先住民マオリ Whale Rider
- 6回：映画からみるニュージーランド社会とジェンダー
- 7回：アーダーン元首相から考えるニュージーランド社会
- 8回：ニュージーランド社会とラグビー／ハカとは
- 9回：ニュージーランド社会と「社会正義」
- 10回：ニュージーランド社会とレイシズム
- 11回：ニュージーランド社会と非核政策
- 12回：ニュージーランド社会と環境問題
- 13回：ニュージーランド社会と環境問題 先住民族の立場から
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本講義では関連する時事問題等について意見を述べてもらうので、普段からアンテナを高くするとともに、予習復習を怠らないようにしましょう。

配付資料や指示した参考文献等を熟読し、興味のあるテーマについては自分の頭で考え、自分の目で見、自分の足で調べる心構えをもって授業に臨みましょう。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 課題等の内容:30%

### テキスト/ Textbooks

特に指定しません。

### 参考文献 / Readings

青柳まちこ編 『ニュージーランドを知るための63章』 明石書店 2008年 9784750328263

前川啓治・棚橋訓編 『講座世界の先住民族09 オセアニア』 明石書店 2005年 4750321877

河合利光編 『オセアニアの現在』 人文書院 2002年 4409530267

ニュージーランド学会編 『ニュージーランド TODAY』 春風社 2019年 9784861106446

他の参考書は随時、提示します。

# 文学講義 4 1

Lectures on Literature 41

比較文化 1

新井 葉子 (ARAI YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM341

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文化的事象を考察するときの観点がクラス・ジェンダー・エスニシティーに関する問題意識によって変化することを学び、文化理解の視野を広げる。

Cultivation of cultural understanding (with wider perspectives on issues of class, gender, and ethnicity), and enhancement of deeper understanding of cultural diversity.

## 授業の内容 / Course Contents

ジョン・バージャーの美術批評 *Ways of Seeing* が収録するエッセイを原文で精読し、芸術作品の持つ意味や芸術作品を所有することの意味を、時代的・文化的背景の中で考察する。

Through close reading of essays from John Berger's *Ways of Seeing*, students are encouraged to study multi-layered meanings of artworks and of art-ownership in historical and cultural contexts.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：著者について

テキストの概要と授業の進め方について（発表担当回の割り振り）

- 2回：テーマ1：見ることと知ること  
フランス・ハルス「アルムズ慈善院の理事たち」等 (pp.7—16)
- 3回：テーマ1：見ることと知ること  
レオナルド・ダ・ヴィンチ「岩窟の聖母」等 (pp.16—24)
- 4回：テーマ1：見ることと知ること  
ピーテル・ブリューゲル「ゴルゴタの丘への行進」等 (pp.24—34)
- 5回：テーマ2：絵画の中の女性たち  
クラナッハ「パリスの審判」等 (pp.45—53)
- 6回：テーマ2：絵画の中の女性たち  
レンブラント「ダナエ」等 (pp.54—64)
- 7回：前半のまとめ／中間テスト
- 8回：テーマ3：油彩画の主題と所有権  
「パストン・トレジャーズ」等 (pp.83—88)
- 9回：テーマ3：油彩画の主題と所有権  
ホルバイン「大使たち」等 (pp.88—96)
- 10回：テーマ3：油彩画の主題と所有権  
ロムニー「ボーモント一家」等 (pp.97—104)
- 11回：テーマ3：油彩画の主題と所有権  
レンブラント「自画像」等 (pp.104—112)
- 12回：テーマ4：消費者社会の広告に引き継がれた油彩画の伝統  
マネ「草上の昼食」等 (pp.129—144)
- 13回：テーマ4：消費者社会の広告に引き継がれた油彩画の伝統  
マグリット「自由の戸口で」等 (pp.144—155)
- 14回：後半のまとめ  
最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習（テキストに目を通し、不明な語句の意味を調べたうえで、気になる単語をひとつ選んでおく）を必ず行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間テスト:30% 発表:30% 最終テスト割合：:40%

※欠席回数が4回以上の場合は単位修得不可

### テキスト / Textbooks

John Berger Ways of Seeing Penguin Books 1972(2008) 9780141035796 ○

テキストは最初の数回はPDFで配付します。その後は各自でご用意ください。

**参考文献 / Readings**

Katja Lang with Emmanouil Kalkanis An Analysis of John Berger's Ways of Seeing Routledge 2017  
9781912284641

John Berger Steps Towards a Small Theory Of the Visible Penguin Books 2020 9780241472873

Linda Nochlin Why Have There Been No Great Women Artists? 50th anniversary edition Thames & Hudson  
2021 9780500023846

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

スマートフォンを利用したアイスブレイカー（icebreaker 緊張・堅苦しさなどをほぐす行為）の導入も予定しています。ご自身のスマホでQRコードが読み取れるよう設定しておいてください。

**その他/ Others**

2～6、8～13の各回は、履修者による発表を行う。担当回の発表箇所についてレジュメを用意し、次のことを発表すること：

- ・担当回の本文全体の要約
- ・本文中の引用作品の補足説明
- ・内容に関して疑問に思ったことや共感したこと

## 文学講義 4 2

Lectures on Literature 42

比較文化 2

新井 葉子 (ARAI YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM342

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

比較文化研究では、考察を深めるための問い（research questions）が重要である。この授業ではエッセイの精読を通してそうした問いの立て方について理解を深めることを目標とする。

Studies in comparative culture require appropriate research questions. Students are encouraged to find their own research questions for this course.

### 授業の内容 / Course Contents

ジョン・バージャーの The Shape of a Pocket 収録のエッセイ（英文）を精読し、著者の芸術作品の捉え方や今日の世界のあり方への批判から学ぶ。各エッセイが取り上げる芸術作品についても考察する。

Through close reading of essays in John Berger's The Shape of a Pocket, students are to learn the author's critical views on artworks, and on what is happening to the world today. The artworks reviewed in each essay are also in the scope of research in the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：前半（第 1 回～7 回）の概要と発表担当回の割り振り



サマラーティ

“Opening a Gate” (pp.1—6)

2回：時代を超えて鑑賞者の心を動かす絵画について

“Steps Towards a Small Theory of the Visible (for Yves)” (pp.9—22)

3回：〈フェイス〉と〈プレイス〉／ショーヴェ洞窟の壁画

“Studio Talk (for Miquel Barceló)” (pp.25—32)

“The Chauvet Cave” (pp.33—42)

4回：ヴィヤ・セルミンズ／ミイラ棺の肖像画

“Penelope” (pp.43—48)

“The Fayum Portraits” (pp.51—60)

5回：ドガ／ゴッホ

“Degas” (pp.61—68)

“Vincent” (pp.85—92)

6回：レンブラント

“Rembrandt and the Body” (pp.103—111)

“A Cloth Over the Mirror” (pp.113-119)

7回：ブランクーシ

“Brancusi” (pp.121—127)

8回：前半のまとめ

中間テスト

9回：後半（第9回～13回）の概要と発表担当回の割り振り

ジョルジョ・モランディ

“Giorgio Morandi (for Gianni Celati)” (pp.139—145)

10回：レイモンド・メイスン

“Pull the Other Leg, It's Got Bells On It” (pp.147—154)

11回：テオドール・ジェリコー

“A Man with Tousled Hair” (pp.171—180)

12回：ヒエロニムス・ボス

“Against the Great Defeat of the World” (pp.207—215)

13回：ゴヤ

“Will It Be a Likeness? (for Juan Munoz)” (pp.243—260)

14回：後半のまとめ

最終テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習（テキストに目を通し、不明な語句の意味を調べたうえで、気になる単語をひとつ選んでおく）を

必ず行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間テスト:30% 発表:30% 最終テスト割合 :40%

※欠席回数が4回以上の場合は単位修得不可

### テキスト / Textbooks

John Berger The Shape of a Pocket Bloomsbury Publishing Plc 2002 9780747558101 ○

テキストは最初の数回はPDFで配付します。その後は各自でご用意ください。詳しくは初回授業で説明します。

### 参考文献 / Readings

John Berger Steps Towards a Small Theory of the Visible Penguin Books 2020 9780241472873

John Berger (Ed. by Tom Overton) Portraits: John Berger on Artists Verso 2015 9781784781798

John Berger and Katya Berger Andreadakis Titian: Nymph and Shepherd Prestel 1996 3791316729

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマートフォンを利用したアイスブレイカー（icebreaker 緊張・堅苦しさなどをほぐす行為）の導入も予定しています。ご自身のスマホでQRコードが読み取れるよう設定しておいてください。

### その他 / Others

2～7、9～13の各回は、履修者による発表を行う。担当回の担当箇所についてレジュメを用意し、次のことを発表すること。

- ・担当箇所の要約
- ・印象に残った考え方や気になった表現
- ・文中で言及のある固有名詞（人名・作品・地名）の補足説明
- ・内容に関して疑問に思ったこと

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

小山 太一／藤巻 明 (KOYAMA TAICHI/ FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM781  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EAL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM783

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EAL4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM784  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EAL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

澤入 要仁／古井 義昭 (SAWAIRI YOJI/ FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM785

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EAL4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM786  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EAL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM787  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EAL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AM788  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： EAL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AM789

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： EAL4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 入門演習 C1a

Introductory Seminars in German Studies C1a

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN011  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学，文化，言語を学ぶための基礎知識を習得しながら，ドイツ文学専修で学習していくのに必要なさまざまな技術や方法の基本を学ぶ。

Students will learn about foundation of literature, culture, and language in German speaking areas. These will form the basics of techniques and methods used in course in German literature.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に並行履修する講義科目「ドイツ語圏文化概論 1」のプロトコル（記録）のまとめ方，学術的な概説書（新書）を的確に理解し，要約する技術，口頭発表の方法，学問的な質疑応答のやり方の基礎，参考書を使用した自主的な学習の方法，レポート作成法などを指導する。

授業では毎回指名された担当者がテキスト（新書）の内容についてまとめ，参加者全員で議論・批評を行う。詳細は第 1 回目の授業で説明する。また「ドイツ語圏文化概論 1」の 1 回分の講義内容のプロトコルを作成・提出してもらう。その際，1. 講義内容のノートの取り方，2. 講義内容を文章にまとめる上での注意事項，3. 論理的で正確な報告文の文法と語彙，4. 文書作成ソフトの操作，5. 聞き手の興味を喚起するための口頭発表のパフォーマンス，6. 情報を正しく引き出すための質疑の方法などを訓練する。なお，討論における

発言をもって出席と認めるので、積極的な参加が不可欠であることを銘記してほしい。また、高校の世界史の学習内容を「ドイツ語圏文化概論1」と関連づけるために、最終レポート課題を課す。さらに、秋学期の入門演習C2a～cの準備として、夏休みの課題を課す。

Students will receive instructions on techniques used to summarize Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1, taken simultaneously during spring semester, in protocols (records). Students will also receive instructions on oral presentation method, foundation of conducting scholarly Q&A, and self-driven learning methods by using reference books.

In this class, all class members will study specific parts of their textbooks before lesson. Each time, selected members will lead discussion and critique about that specific parts. Students will create and submit protocols for one lesson of Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1. Students will train their abilities in: 1. Methods to take notes during the class; 2. Cautions when summarizing lesson details in texts; 3. Theoretically correct grammars and vocabularies in report writing; 4. Methods to create documents on their personal computers; 5. Performance during oral presentation to incite interests in others; 6. Methods to ask questions to draw out information correctly. In addition, students should bear in mind that expressing their opinions during discussion and proactive participation are required for attendance records. Furthermore, reference books will be specified for students' final assignment to connect Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1 and lessons learnt in high school world history class. In addition, students will receive assignments for summer holiday as preparation for Introductory Seminars C2a-c during autumn semester.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：学生発表（1）
- 3回：学生発表（2）
- 4回：学生発表（3）
- 5回：学生発表（4）
- 6回：学生発表（5）
- 7回：学生発表（6）
- 8回：学生発表（7）
- 9回：学生発表（8）
- 10回：学生発表（9）
- 11回：学生発表（10）
- 12回：学生発表（11）
- 13回：学生発表（12）
- 14回：学生発表（13）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する文献を読み込み、「ドイツ語圏文化概論1」の講義を理解すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% プロトコル作成と口頭発表:40% 授業への出席と質疑応答への参加度:30% 最

終レポート割合 :30%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

**テキスト / Textbooks**

須澤通・井出万秀 『ドイツ語史』 郁文堂 2009 9784261072907 ○

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2023 9784621308745 ○

口頭発表用テキスト：口頭発表用テキストのリストは、4月のガイダンス時に配布する。

**参考文献 / Readings**

# 入門演習 C1b

Introductory Seminars in German Studies C1b

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN012  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学，文化，言語を学ぶための基礎知識を習得しながら，ドイツ文学専修で学習していくのに必要なさまざまな技術や方法の基本を学ぶ。

Students will learn about foundation of literature, culture, and language in German speaking areas. These will form the basics of techniques and methods used in course in German literature.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に並行履修する講義科目「ドイツ語圏文化概論1」のプロトコル（記録）のまとめ方，学術的な概説書（新書）を的確に理解し，要約する技術，口頭発表の方法，学問的な質疑応答のやり方の基礎，参考書を使用した自主的な学習の方法，レポート作成法などを指導する。

授業では毎回指名された担当者がテキスト（新書）の内容についてまとめ，参加者全員で議論・批評を行う。詳細は第1回目の授業で説明する。また「ドイツ語圏文化概論1」の1回分の講義内容のプロトコルを作成・提出してもらう。その際，1. 講義内容のノートの取り方，2. 講義内容を文章にまとめる上での注意事項，3. 論理的で正確な報告文の文法と語彙，4. 文書作成ソフトの操作，5. 聞き手の興味を喚起するための口頭発表のパフォーマンス，6. 情報を正しく引き出すための質疑の方法などを訓練する。なお，討論における

発言をもって出席と認めるので、積極的な参加が不可欠であることを銘記してほしい。また、高校の世界史の学習内容を「ドイツ語圏文化概論1」と関連づけるために、最終レポート課題を課す。さらに、秋学期の入門演習C2a～cの準備として、夏休みの課題を課す。

Students will receive instructions on techniques used to summarize Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1, taken simultaneously during spring semester, in protocols (records). Students will also receive instructions on oral presentation method, foundation of conducting scholarly Q&A, and self-driven learning methods by using reference books.

In this class, all class members will study specific parts of their textbooks before lesson. Each time, selected members will lead discussion and critique about that specific parts. Students will create and submit protocols for one lesson of Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1. Students will train their abilities in: 1. Methods to take notes during the class; 2. Cautions when summarizing lesson details in texts; 3. Theoretically correct grammars and vocabularies in report writing; 4. Methods to create documents on their personal computers; 5. Performance during oral presentation to incite interests in others; 6. Methods to ask questions to draw out information correctly. In addition, students should bear in mind that expressing their opinions during discussion and proactive participation are required for attendance records. Furthermore, reference books will be specified for students' final assignment to connect Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1 and lessons learnt in high school world history class. In addition, students will receive assignments for summer holiday as preparation for Introductory Seminars C2a-c during autumn semester.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：学生発表（1）
- 3回：学生発表（2）
- 4回：学生発表（3）
- 5回：学生発表（4）
- 6回：学生発表（5）
- 7回：学生発表（6）
- 8回：学生発表（7）
- 9回：学生発表（8）
- 10回：学生発表（9）
- 11回：学生発表（10）
- 12回：学生発表（11）
- 13回：学生発表（12）
- 14回：学生発表（13）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する文献を読み込み、「ドイツ語圏文化概論1」の講義を理解すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% プロトコル作成と口頭発表:40% 授業への出席と質疑応答への参加度:30% 最

終レポート割合 :30%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

**テキスト / Textbooks**

須澤通・井出万秀 『ドイツ語史』 郁文堂 2009 9784261072907 ○

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2023 9784621308745 ○

口頭発表用テキスト：口頭発表用テキストのリストは、4月のガイダンス時に配布する。

**参考文献 / Readings**



# 入門演習 C1c

Introductory Seminars in German Studies C1c

保科 泰 (HOSHINA YASUSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN013  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学，文化，言語を学ぶための基礎知識を習得しながら，ドイツ文学専修で学習していくのに必要なさまざまな技術や方法の基本を学ぶ。

Students will learn about foundation of literature, culture, and language in German speaking areas. These will form the basics of techniques and methods used in course in German literature.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に並行履修する講義科目「ドイツ語圏文化概論 1」のプロトコル（記録）のまとめ方，学術的な概説書（新書）を的確に理解し，要約する技術，口頭発表の方法，学問的な質疑応答のやり方の基礎，参考書を使用した自主的な学習の方法，レポート作成法などを指導する。

授業では毎回指名された担当者がテキスト（新書）の内容についてまとめ，参加者全員で議論・批評を行う。詳細は第 1 回目の授業で説明する。また「ドイツ語圏文化概論 1」の 1 回分の講義内容のプロトコルを作成・提出してもらう。その際，1. 講義内容のノートの取り方，2. 講義内容を文章にまとめる上での注意事項，3. 論理的で正確な報告文の文法と語彙，4. 文書作成ソフトの操作，5. 聞き手の興味を喚起するための口頭発表のパフォーマンス，6. 情報を正しく引き出すための質疑の方法などを訓練する。なお，討論における

発言をもって出席と認めるので、積極的な参加が不可欠であることを銘記してほしい。また、高校の世界史の学習内容を「ドイツ語圏文化概論1」と関連づけるために、最終レポート課題を課す。さらに、秋学期の入門演習C2a～cの準備として、夏休みの課題を課す。

Students will receive instructions on techniques used to summarize Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1, taken simultaneously during spring semester, in protocols (records). Students will also receive instructions on oral presentation method, foundation of conducting scholarly Q&A, and self-driven learning methods by using reference books.

In this class, all class members will study specific parts of their textbooks before lesson. Each time, selected members will lead discussion and critique about that specific parts. Students will create and submit protocols for one lesson of Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1. Students will train their abilities in: 1. Methods to take notes during the class; 2. Cautions when summarizing lesson details in texts; 3. Theoretically correct grammars and vocabularies in report writing; 4. Methods to create documents on their personal computers; 5. Performance during oral presentation to incite interests in others; 6. Methods to ask questions to draw out information correctly. In addition, students should bear in mind that expressing their opinions during discussion and proactive participation are required for attendance records. Furthermore, reference books will be specified for students' final assignment to connect Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1 and lessons learnt in high school world history class. In addition, students will receive assignments for summer holiday as preparation for Introductory Seminars C2a-c during autumn semester.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：学生発表（1）
- 3回：学生発表（2）
- 4回：学生発表（3）
- 5回：学生発表（4）
- 6回：学生発表（5）
- 7回：学生発表（6）
- 8回：学生発表（7）
- 9回：学生発表（8）
- 10回：学生発表（9）
- 11回：学生発表（10）
- 12回：学生発表（11）
- 13回：学生発表（12）
- 14回：学生発表（13）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する文献を読み込み、「ドイツ語圏文化概論1」の講義を理解すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% プロトコル作成と口頭発表:40% 授業への出席と質疑応答への参加度:30% 最

終レポート割合 :30%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

**テキスト / Textbooks**

須澤通・井出万秀 『ドイツ語史』 郁文堂 2009 9784261072907 ○

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2023 9784621308745 ○

口頭発表用テキスト：口頭発表用テキストのリストは、4月のガイダンス時に配布する。

**参考文献 / Readings**

# 入門演習 C2a

Introductory Seminars in German Studies C2a

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN021  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学，文化，言語を学ぶための基礎知識を習得しながら，情報収集，口頭発表，レポートや講義記録の作成とともに討論の訓練もする。

Students will learn about foundation of literature, culture, and language in German speaking areas. At the same time, students will receive trainings in information gathering, oral presentation, reporting, creation of lesson records, and discussion.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期と同じく，毎回指名された担当者がテキスト（新書）の内容についてまとめ，参加者全員で議論・批評を行う。また「ドイツ語圏文化概論 2」の 1 回分の講義内容のプロトコルを作成・提出してもらおう。これと並行して，自分自身が興味をもっているドイツ語圏の文学，文化，言語についてテーマを設定，それに関する情報を収集・整理し，学期末には各人がレポートを作成して提出。テーマの設定については，春学期の講義「ドイツ語圏文化概論 1」や秋学期の「ドイツ語圏文化概論 2」などで学んだこと，授業で使用するテキストなどが参考になる。なお，討論における発言をもって出席と認めるので，積極的な参加が不可欠であることを銘記してほしい。

Same as spring semester, all class members will study specific parts of their textbooks before lesson. Each time, selected members will lead discussion and critique about that specific parts. Students will create and submit protocols for one lesson of Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2. At the same time, students will find themes about German literature, culture, and language they are interested in. Students will then gather and organize information about these subjects, before submitting their individual reports at the end of semester. To find their themes, students will refer to contents and textbooks used in the following lessons : Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1, Introduction to Cultures in German Speaking Areas (the spring semester,) or Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2 (the fall semester). In addition, students should bear in mind that expressing their opinions during discussion and proactive participation are required for attendance records.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：学生発表（1）
- 3回：学生発表（2）
- 4回：学生発表（3）
- 5回：学生発表（4）
- 6回：学生発表（5）
- 7回：学生発表（6）
- 8回：学生発表（7）
- 9回：学生発表（8）
- 10回：学生発表（9）
- 11回：学生発表（10）
- 12回：学生発表（11）
- 13回：学生発表（12）
- 14回：学生発表（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する文献を読み込み、「ドイツ語圏文化概論2」の講義を理解すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表・プロトコル:40% 授業への積極的参加:30% 最終レポート割合 :30%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

須澤通・井出万秀 『ドイツ語史』 郁文堂 2009 9784261072907 ○

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2023 9784621308745 ○

口頭発表用テキスト

**参考文献 / Readings**

---

# 入門演習 C2b

Introductory Seminars in German Studies C2b

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN022  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学、文化、言語を学ぶための基礎知識を習得しながら、情報収集、口頭発表、レポートや講義記録の作成とともに討論の訓練もする。

Students will learn about foundation of literature, culture, and language in German speaking areas. At the same time, students will receive trainings in information gathering, oral presentation, reporting, creation of lesson records, and discussion.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期と同じく、毎回指名された担当者がテキスト（新書）の内容についてまとめ、参加者全員で議論・批評を行う。また「ドイツ語圏文化概論 2」の 1 回分の講義内容のプロトコルを作成・提出してもらおう。これと並行して、自分自身が興味をもっているドイツ語圏の文学、文化、言語についてテーマを設定、それに関する情報を収集・整理し、学期末には各人がレポートを作成して提出。テーマの設定については、春学期の講義「ドイツ語圏文化概論 1」や秋学期の「ドイツ語圏文化概論 2」などで学んだこと、授業で使用するテキストなどが参考になる。なお、討論における発言をもって出席と認めるので、積極的な参加が不可欠であることを銘記してほしい。

Same as spring semester, all class members will study specific parts of their textbooks before lesson. Each time, selected members will lead discussion and critique about that specific parts. Students will create and submit protocols for one lesson of Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2. At the same time, students will find themes about German literature, culture, and language they are interested in. Students will then gather and organize information about these subjects, before submitting their individual reports at the end of semester. To find their themes, students will refer to contents and textbooks used in the following lessons : Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1, Introduction to Cultures in German Speaking Areas (the spring semester,) or Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2 (the fall semester). In addition, students should bear in mind that expressing their opinions during discussion and proactive participation are required for attendance records.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：学生発表（1）
- 3回：学生発表（2）
- 4回：学生発表（3）
- 5回：学生発表（4）
- 6回：学生発表（5）
- 7回：学生発表（6）
- 8回：学生発表（7）
- 9回：学生発表（8）
- 10回：学生発表（9）
- 11回：学生発表（10）
- 12回：学生発表（11）
- 13回：学生発表（12）
- 14回：学生発表（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する文献を読み込み、「ドイツ語圏文化概論2」の講義を理解すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表・プロトコル:40% 授業への積極的参加:30% 最終レポート割合 :30%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks



須澤通・井出万秀 『ドイツ語史』 郁文堂 2009 9784261072907 ○

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2023 9784621308745 ○

口頭発表用テキスト

**参考文献 / Readings**

---

# 入門演習 C2c

Introductory Seminars in German Studies C2c

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN023  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学、文化、言語を学ぶための基礎知識を習得しながら、情報収集、口頭発表、レポートや講義記録の作成とともに討論の訓練もする。

Students will learn about foundation of literature, culture, and language in German speaking areas. At the same time, students will receive trainings in information gathering, oral presentation, reporting, creation of lesson records, and discussion.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期と同じく、毎回指名された担当者がテキスト（新書）の内容についてまとめ、参加者全員で議論・批評を行う。また「ドイツ語圏文化概論 2」の 1 回分の講義内容のプロトコルを作成・提出してもらおう。これと並行して、自分自身が興味をもっているドイツ語圏の文学、文化、言語についてテーマを設定、それに関する情報を収集・整理し、学期末には各人がレポートを作成して提出。テーマの設定については、春学期の講義「ドイツ語圏文化概論 1」や秋学期の「ドイツ語圏文化概論 2」などで学んだこと、授業で使用するテキストなどが参考になる。なお、討論における発言をもって出席と認めるので、積極的な参加が不可欠であることを銘記してほしい。

Same as spring semester, all class members will study specific parts of their textbooks before lesson. Each time, selected members will lead discussion and critique about that specific parts. Students will create and submit protocols for one lesson of Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2. At the same time, students will find themes about German literature, culture, and language they are interested in. Students will then gather and organize information about these subjects, before submitting their individual reports at the end of semester. To find their themes, students will refer to contents and textbooks used in the following lessons : Introduction to Cultures in German Speaking Areas 1, Introduction to Cultures in German Speaking Areas (the spring semester,) or Introduction to Cultures in German Speaking Areas 2 (the fall semester). In addition, students should bear in mind that expressing their opinions during discussion and proactive participation are required for attendance records.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：学生発表（1）
- 3回：学生発表（2）
- 4回：学生発表（3）
- 5回：学生発表（4）
- 6回：学生発表（5）
- 7回：学生発表（6）
- 8回：学生発表（7）
- 9回：学生発表（8）
- 10回：学生発表（9）
- 11回：学生発表（10）
- 12回：学生発表（11）
- 13回：学生発表（12）
- 14回：学生発表（13）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する文献を読み込み、「ドイツ語圏文化概論2」の講義を理解すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表・プロトコル:40% 授業への積極的参加:30% 最終レポート割合 :30%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

須澤通・井出万秀 『ドイツ語史』 郁文堂 2009 9784261072907 ○

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2023 9784621308745 ○

口頭発表用テキスト

**参考文献 / Readings**

---

# ドイツ語基礎演習 1 a

Preliminary Seminars in German 1a

ケルン, D. (KERN DANIEL S.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN031
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2812
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースを引き継ぎ、ネイティブ・スピーカー教員のもとでドイツ語のアクティブな運用能力をトレーニングする。

Following German intensive course in university-wide curriculum, students will practice their German language proactively under native German professors.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースで1年次に学んだ『DaF leicht』を継続（A2.1. 第11課～15課）することにより会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ語基礎演習3」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。1年次に学習したトピックに加えて、各課のテーマはさらに広がりを見せる。これにゲームを交えた復習も加わるだろう。各テーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、形容詞の格語尾変化、現在完了、接続法、前置詞、副文などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。異文化に対する好奇心を武器に積極的に学習しよう。なお、「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習2」は、a, b, cのクラスごとに同一教員が担当し、あわせて週2回開講の科目に相当するので、別々に履修することはでき

ない。

Continuing "DaF leicht" (A2.1, from the 11th to 15th chapter) learnt from German intensive course in university-wide curriculum in year 1, students will further practice their conversational skill. Students will learn grammars and reading skills in detail in Preliminary Seminars in German 3 and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. In addition to topics learnt in year 1, each class will cover wider range of subjects. Game-review hybrid will be added too. Students will learn about various subjects while practicing using their German. Students will rejoice in their progress in adjective declension, present perfect tense, subjunctive, preposition, Nebensatz, and many others. Students will capitalize on their curiosity about other cultures and learn enthusiastically. Furthermore, the same professor will teach class (a, b, and c) of Preliminary Seminars in German 1 and 2. In total there will be 2 classes each week so students cannot take these classes separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第11課
- 2回：DaF leicht 第11課
- 3回：DaF leicht 第12課
- 4回：DaF leicht 第12課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第13課
- 7回：DaF leicht 第13課
- 8回：DaF leicht 第14課
- 9回：DaF leicht 第14課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第15課
- 12回：DaF leicht 第15課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習と予習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 毎時間のディクテーションなどの小テスト：50%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込 1,680 円）（1 年次に購入  
済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（朝日出版 2010 2800 円＋税）

# ドイツ語基礎演習 1 b

Preliminary Seminars in German 1b

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN032  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL2812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースを引き継ぎ、ネイティブ・スピーカー教員のもとでドイツ語のアクティブな運用能力をトレーニングする。

Following German intensive course in university-wide curriculum, students will practice their German language proactively under native German professors.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースで1年次に学んだ『DaF leicht』を継続（A2.1. 第11課～15課）することにより会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ語基礎演習3」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。1年次に学習したトピックに加えて、各課のテーマはさらに広がりを見せる。これにゲームを交えた復習も加わるだろう。各テーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、形容詞の格語尾変化、現在完了、接続法、前置詞、副文などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。異文化に対する好奇心を武器に積極的に学習しよう。なお、「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習2」は、a, b, cのクラスごとに同一教員が担当し、あわせて週2回開講の科目に相当するので、別々に履修することはでき



ない。

Continuing "DaF leicht" (A2.1, from the 11th to 15th chapter) learnt from German intensive course in university-wide curriculum in year 1, students will further practice their conversational skill. Students will learn grammars and reading skills in detail in Preliminary Seminars in German 3 and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. In addition to topics learnt in year 1, each class will cover wider range of subjects. Game-review hybrid will be added too. Students will learn about various subjects while practicing using their German. Students will rejoice in their progress in adjective declension, present perfect tense, subjunctive, preposition, Nebensatz, and many others. Students will capitalize on their curiosity about other cultures and learn enthusiastically. Furthermore, the same professor will teach class (a, b, and c) of Preliminary Seminars in German 1 and 2. In total there will be 2 classes each week so students cannot take these classes separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：DaF leicht 第 11 課
- 2 回：DaF leicht 第 11 課
- 3 回：DaF leicht 第 12 課
- 4 回：DaF leicht 第 12 課
- 5 回：復習、小テスト
- 6 回：DaF leicht 第 13 課
- 7 回：DaF leicht 第 13 課
- 8 回：DaF leicht 第 14 課
- 9 回：DaF leicht 第 14 課
- 10 回：復習、小テスト
- 11 回：DaF leicht 第 15 課
- 12 回：DaF leicht 第 15 課
- 13 回：まとめ
- 14 回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習と予習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況:50% 毎時間のディクテーションなどの小テスト:50%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込 1,680 円）（1 年次に購入  
済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（朝日出版 2010 2800 円＋税）

# ドイツ語基礎演習 1 c

Preliminary Seminars in German 1c

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN033  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL2812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースを引き継ぎ、ネイティブ・スピーカー教員のもとでドイツ語のアクティブな運用能力をトレーニングする。

Following German intensive course in university-wide curriculum, students will practice their German language proactively under native German professors.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースで1年次に学んだ『DaF leicht』を継続（A2.1. 第11課～15課）することにより会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ語基礎演習3」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。1年次に学習したトピックに加えて、各課のテーマはさらに広がりを見せる。これにゲームを交えた復習も加わるだろう。各テーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、形容詞の格語尾変化、現在完了、接続法、前置詞、副文などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。異文化に対する好奇心を武器に積極的に学習しよう。なお、「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習2」は、a, b, cのクラスごとに同一教員が担当し、あわせて週2回開講の科目に相当するので、別々に履修することはでき

ない。

Continuing "DaF leicht" (A2.1, from the 11th to 15th chapter) learnt from German intensive course in university-wide curriculum in year 1, students will further practice their conversational skill. Students will learn grammars and reading skills in detail in Preliminary Seminars in German 3 and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. In addition to topics learnt in year 1, each class will cover wider range of subjects. Game-review hybrid will be added too. Students will learn about various subjects while practicing using their German. Students will rejoice in their progress in adjective declension, present perfect tense, subjunctive, preposition, Nebensatz, and many others. Students will capitalize on their curiosity about other cultures and learn enthusiastically. Furthermore, the same professor will teach class (a, b, and c) of Preliminary Seminars in German 1 and 2. In total there will be 2 classes each week so students cannot take these classes separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第11課
- 2回：DaF leicht 第11課
- 3回：DaF leicht 第12課
- 4回：DaF leicht 第12課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第13課
- 7回：DaF leicht 第13課
- 8回：DaF leicht 第14課
- 9回：DaF leicht 第14課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第15課
- 12回：DaF leicht 第15課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習と予習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 毎時間のディクテーションなどの小テスト：50%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込 1,680 円）（1 年次に購入  
済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（朝日出版 2010 2800 円＋税）

# ドイツ語基礎演習 2 a

Preliminary Seminars in German 2a

ケルン, D. (KERN DANIEL S.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN041  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL2812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースを引き継ぎ、ネイティブ・スピーカー教員のもとでドイツ語のアクティブな運用能力をトレーニングする。

Following German intensive course in university-wide curriculum, students will practice their German language proactively under native German professors.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースで1年次に学んだ『DaF leicht』を継続（A2.1. 第11課～15課）することにより会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ語基礎演習3」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。1年次に学習したトピックに加えて、各課のテーマはさらに広がりを見せる。これにゲームを交えた復習も加わるだろう。各テーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、形容詞の格語尾変化、現在完了、接続法、前置詞、副文などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。異文化に対する好奇心を武器に積極的に学習しよう。なお、「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習2」は、a, b, cのクラスごとに同一教員が担当し、あわせて週2回開講の科目に相当するので、別々に履修することはでき

ない。

Continuing DaF leicht (A2.1, from the 11th to 15th chapter) learnt from German intensive course in university-wide curriculum in year 1, students will further practice their conversational skill. Students will learn grammars and reading skills in detail in Preliminary Seminars in German 3 and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. In addition to topics learnt in year 1, each class will cover wider range of subjects. Game-review hybrid will be added too. Students will learn about various subjects while practicing using their German. Students will rejoice in their progress in adjective declension, present perfect tense, subjunctive, preposition, Nebensatz, and many others. Students will capitalize on their curiosity about other cultures and learn enthusiastically. Furthermore, the same professor will teach class (a, b, and c) of Preliminary Seminars in German 1 and 2. In total there will be 2 classes each week so students cannot take these classes separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第11課
- 2回：DaF leicht 第11課
- 3回：DaF leicht 第12課
- 4回：DaF leicht 第12課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第13課
- 7回：DaF leicht 第13課
- 8回：DaF leicht 第14課
- 9回：DaF leicht 第14課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第15課
- 12回：DaF leicht 第15課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習と予習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 毎時間のディクテーションなどの小テスト：50%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込1,680円）（1年次に購入

済)

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版 2010 2800 円+税)



# ドイツ語基礎演習 2 b

Preliminary Seminars in German 2b

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN042  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL2812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースを引き継ぎ、ネイティブ・スピーカー教員のもとでドイツ語のアクティブな運用能力をトレーニングする。

Following German intensive course in university-wide curriculum, students will practice their German language proactively under native German professors.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースで1年次に学んだ『DaF leicht』を継続（A2.1. 第11課～15課）することにより会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ語基礎演習3」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。1年次に学習したトピックに加えて、各課のテーマはさらに広がりを見せる。これにゲームを交えた復習も加わるだろう。各テーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、形容詞の格語尾変化、現在完了、接続法、前置詞、副文などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。異文化に対する好奇心を武器に積極的に学習しよう。なお、「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習2」は、a, b, cのクラスごとに同一教員が担当し、あわせて週2回開講の科目に相当するので、別々に履修することはでき

ない。

Continuing DaF leicht (A2.1, from the 11th to 15th chapter) learnt from German intensive course in university-wide curriculum in year 1, students will further practice their conversational skill. Students will learn grammars and reading skills in detail in Preliminary Seminars in German 3 and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. In addition to topics learnt in year 1, each class will cover wider range of subjects. Game-review hybrid will be added too. Students will learn about various subjects while practicing using their German. Students will rejoice in their progress in adjective declension, present perfect tense, subjunctive, preposition, Nebensatz, and many others. Students will capitalize on their curiosity about other cultures and learn enthusiastically. Furthermore, the same professor will teach class (a, b, and c) of Preliminary Seminars in German 1 and 2. In total there will be 2 classes each week so students cannot take these classes separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第11課
- 2回：DaF leicht 第11課
- 3回：DaF leicht 第12課
- 4回：DaF leicht 第12課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第13課
- 7回：DaF leicht 第13課
- 8回：DaF leicht 第14課
- 9回：DaF leicht 第14課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第15課
- 12回：DaF leicht 第15課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習と予習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 毎時間のディクテーションなどの小テスト：50%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込1,680円）（1年次に購入

済)

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版 2010 2800 円+税)

# ドイツ語基礎演習 2 c

Preliminary Seminars in German 2c

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN043  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL2812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースを引き継ぎ、ネイティブ・スピーカー教員のもとでドイツ語のアクティブな運用能力をトレーニングする。

Following German intensive course in university-wide curriculum, students will practice their German language proactively under native German professors.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通カリキュラムのドイツ語集中コースで1年次に学んだ『DaF leicht』を継続（A2.1. 第11課～15課）することにより会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ語基礎演習3」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。1年次に学習したトピックに加えて、各課のテーマはさらに広がりを見せる。これにゲームを交えた復習も加わるだろう。各テーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、形容詞の格語尾変化、現在完了、接続法、前置詞、副文などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。異文化に対する好奇心を武器に積極的に学習しよう。なお、「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習2」は、a, b, cのクラスごとに同一教員が担当し、あわせて週2回開講の科目に相当するので、別々に履修することはでき

ない。

Continuing DaF leicht (A2.1, from the 11th to 15th chapter) learnt from German intensive course in university-wide curriculum in year 1, students will further practice their conversational skill. Students will learn grammars and reading skills in detail in Preliminary Seminars in German 3 and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. In addition to topics learnt in year 1, each class will cover wider range of subjects. Game-review hybrid will be added too. Students will learn about various subjects while practicing using their German. Students will rejoice in their progress in adjective declension, present perfect tense, subjunctive, preposition, Nebensatz, and many others. Students will capitalize on their curiosity about other cultures and learn enthusiastically. Furthermore, the same professor will teach class (a, b, and c) of Preliminary Seminars in German 1 and 2. In total there will be 2 classes each week so students cannot take these classes separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第11課
- 2回：DaF leicht 第11課
- 3回：DaF leicht 第12課
- 4回：DaF leicht 第12課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第13課
- 7回：DaF leicht 第13課
- 8回：DaF leicht 第14課
- 9回：DaF leicht 第14課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第15課
- 12回：DaF leicht 第15課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習と予習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 毎時間のディクテーションなどの小テスト：50%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込1,680円）（1年次に購入

済)

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版 2010 2800 円+税)

# ドイツ語基礎演習 3 a

Preliminary Seminars in German 3a

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN051
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

1 年次で習得したドイツ語力を踏まえて、ドイツ語の初級文法をマスターし、ドイツ語を読解するために必要な語学力の基礎固めをする。

Capitalizing on German language skill learnt in year 1, students will master basic German grammars and solidify their language skill required to read in German.

## 授業の内容 / Course Contents

昨年度のドイツ語入門で学んできた初級文法をふまえ、さまざまなジャンルのテキスト読解と音読の練習をしよう。ドイツ語入門で使用した教科書は、ポイントとなる文法事項を確認するための座右の銘としよう。

授業では、これまでに学んだドイツ語の文法規則と単語力をテキスト読解の実践に応用する訓練が中心となる。毎回独文和訳の課題を提出してもらい、授業の中でポイントを解説し、音読の練習をする。学んだ文法事項がテキストを読む際に活用できるようになると、ドイツ語はおもしろくなってくる。基礎語彙とあわせて、文法規則のすべてを暗記しよう。文法規則と基礎単語の暗記こそ、ドイツ語をマスターする秘訣だ。

立教大学ドイツ文学研究室の井出教授が独自に開発したプリント教材は、文法を中心に詳しい注釈がついているので、しっかり学べば、急速な実力アップは間違いない。みんなでがんばろう。

Following beginner grammars learnt in last year Introductory German, students will read various texts silently and aloud. The key point is to check for important grammars found in textbooks of Introductory German. This class will focus on training and applying German grammar rules and vocabularies learnt so far in reading documents. Students will receive German to Japanese translation assignment each time. Students will explain important points in class and practice reading aloud. Students will enjoy German language as they are able to apply grammars they learnt in reading documents. Students will learn basic vocabulary and memorize grammar rules simultaneously. Memorizing grammar rules and basic vocabularies are the secrets to mastering German language.

Professor Ide from Rikkyo University German Language Literature Program has developed unique set of printed materials, focusing on grammars and complete with detailed explanations. Students will surely be able to master the knowledge and rapidly improve their skills. Keep it up!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：01 Die anderen habens's besser (和訳したものを自己添削して授業後提出)  
 03 Kleine Fabel (和訳したものを提出)  
 2回：03 Kleine Fabel テキスト解説・自己添削  
 05 Sieben Zwerge gruenden einen Verein 和訳の提出  
 3回：05 Sieben Zweige gruenden einen Verein テキスト解説・自己添削  
 07 Faulpelz oder Lebenskuenstler? 和訳の提出  
 4回：07 Faulpelz oder Lebenskuenstler? テキスト解説・自己添削  
 09 Zaubern will gelernt sein 和訳の提出  
 5回：09 Zaubern will gelernt sein テキスト解説・自己添削  
 10 Der Rattenfaenger von Hameln 和訳の提出  
 6回：10 Der Rattenfaenger von Hameln テキスト解説・自己添削  
 12 Wer kennt die Loesung? 和訳の提出  
 7回：12 Wer kennt die Loesung テキスト解説・自己添削  
 13 Eine Denknuss 和訳の提出  
 8回：13 Eine Denknuss テキスト解説・自己添削  
 16 Der toerichte Bock 和訳の提出  
 9回：16 Der toerichte Bock テキスト解説・自己添削  
 20 Das wirksame Mittel 和訳の提出  
 10回：20 Das wirksame Mittel テキスト解説・自己添削  
 22 Wirbelstuerme 和訳の提出  
 11回：22 Wirbelstuerme テキスト解説・自己添削  
 25 Das Missverstaendnis 和訳の提出  
 12回：25 Das Missverstaendnis テキスト解説・自己添削  
 30 Fremdenverkehr 和訳の提出  
 13回：30 Fremdenverkehr テキスト解説・自己添削  
 33 Detusch - eine Fremdsprache fuer Deutsche? 和訳の提出  
 14回：33 Deutsch - eine Fremdsprache fuer Deutsche? テキスト解説

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used



板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』『髭麻呂の文法講話』シリーズを読んでおくとよい。

あらかじめ提出されたテキストを授業時間での解説をもとに自己添削する形式ですすめます。

初回の授業では2本予習したテキストのうち、最初のもは授業内に解説・添削。もうひとつのテキストは次回の授業で解説・自己添削になります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期初めに提出する課題:20% 授業への参加状況（毎回のディクテーション、音読、語彙復習小テスト、随時出される課題）:80%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

- (1)『専門コースへのドイツ語文法』（ドイツ語入門での教科書）
- (2)テキスト集（1年次に購入済）、プリント

### 参考文献 / Readings

- (3)中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込 1,680 円）（1年次に購入済）

### その他 / Others

理解度に応じて進度を調節します。授業のたびに、次回の授業で提出するテキスト和訳がどれになるか確認してください。

# ドイツ語基礎演習 3 b

Preliminary Seminars in German 3b

野端 聡美 (NOBATA SATOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN052
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

1 年次で習得したドイツ語力を踏まえて、ドイツ語の初級文法をマスターし、ドイツ語を読解するために必要な語学力の基礎固めをする。

Capitalizing on German language skill learnt in year 1, students will master basic German grammars and solidify their language skill required to read in German.

## 授業の内容 / Course Contents

昨年度のドイツ語入門で学んできた初級文法をふまえ、さまざまなジャンルのテキスト読解と音読の練習をしよう。ドイツ語入門で使用した教科書は、ポイントとなる文法事項を確認するための座右の銘としよう。

授業では、これまでに学んだドイツ語の文法規則と単語力をテキスト読解の実践に応用する訓練が中心となる。毎回独文和訳の課題を提出してもらい、授業の中でポイントを解説し、音読の練習をする。学んだ文法事項がテキストを読む際に活用できるようになると、ドイツ語はおもしろくなってくる。基礎語彙とあわせて、文法規則のすべてを暗記しよう。文法規則と基礎単語の暗記こそ、ドイツ語をマスターする秘訣だ。

立教大学ドイツ文学研究室の井出教授が独自に開発したプリント教材は、文法を中心に詳しい注釈がついているので、しっかり学べば、急速な実力アップは間違いない。みんなでがんばろう。

Following beginner grammars learnt in last year Introductory German, students will read various texts silently and aloud. The key point is to check for important grammars found in textbooks of Introductory German. This class will focus on training and applying German grammar rules and vocabularies learnt so far in reading documents. Students will receive German to Japanese translation assignment each time. Students will explain important points in class and practice reading aloud. Students will enjoy German language as they are able to apply grammars they learnt in reading documents. Students will learn basic vocabulary and memorize grammar rules simultaneously. Memorizing grammar rules and basic vocabularies are the secrets to mastering German language.

Professor Ide from Rikkyo University German Language Literature Program has developed unique set of printed materials, focusing on grammars and complete with detailed explanations. Students will surely be able to master the knowledge and rapidly improve their skills. Keep it up!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：01 Die anderen habens's besser (和訳したものを自己添削して授業後提出)  
 03 Kleine Fabel (和訳したものを提出)  
 2 回：03 Kleine Fabel テキスト解説・自己添削  
 05 Sieben Zwerge gruenden einen Verein 和訳の提出  
 3 回：05 Sieben Zweige gruenden einen Verein テキスト解説・自己添削  
 07 Faulpelz oder Lebenskuenstler? 和訳の提出  
 4 回：07 Faulpelz oder Lebenskuenstler? テキスト解説・自己添削  
 09 Zaubern will gelernt sein 和訳の提出  
 5 回：09 Zaubern will gelernt sein テキスト解説・自己添削  
 10 Der Rattenfaenger von Hameln 和訳の提出  
 6 回：10 Der Rattenfaenger von Hameln テキスト解説・自己添削  
 12 Wer kennt die Loesung? 和訳の提出  
 7 回：12 Wer kennt die Loesung テキスト解説・自己添削  
 13 Eine Denknuss 和訳の提出  
 8 回：13 Eine Denknuss テキスト解説・自己添削  
 16 Der toerichte Bock 和訳の提出  
 9 回：16 Der toerichte Bock テキスト解説・自己添削  
 20 Das wirksame Mittel 和訳の提出  
 10 回：20 Das wirksame Mittel テキスト解説・自己添削  
 22 Wirbelstuerme 和訳の提出  
 11 回：22 Wirbelstuerme テキスト解説・自己添削  
 25 Das Missverstaendnis 和訳の提出  
 12 回：25 Das Missverstaendnis テキスト解説・自己添削  
 30 Fremdenverkehr 和訳の提出  
 13 回：30 Fremdenverkehr テキスト解説・自己添削  
 33 Detusch - eine Fremdsprache fuer Deutsche? 和訳の提出  
 14 回：33 Deutsch - eine Fremdsprache fuer Deutsche? テキスト解説

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』『髭麻呂の文法講話』シリーズを読んでおくとよい。

あらかじめ提出されたテキストを授業時間での解説をもとに自己添削する形式ですすめます。

初回の授業では2本予習したテキストのうち、最初のは授業内に解説・添削。もうひとつのテキストは次回の授業で解説・自己添削になります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期初めに提出する課題:20% 授業への参加状況（毎回のディクテーション、音読、語彙復習小テスト、随時出される課題）:80%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

- (1)『専門コースへのドイツ語文法』（ドイツ語入門での教科書）
- (2)テキスト集（1年次に購入済）、プリント

### 参考文献 / Readings

- (3)中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込 1,680 円）（1年次に購入済）

### その他 / Others

理解度に応じて進度を調節します。授業のたびに、次回の授業で提出するテキスト和訳がどれになるか確認してください。

# ドイツ語基礎演習 3c

Preliminary Seminars in German 3c

宮島 章子 (MIYAJIMA AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN053
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

1 年次で習得したドイツ語力を踏まえて、ドイツ語の初級文法をマスターし、ドイツ語を読解するために必要な語学力の基礎固めをする。

Capitalizing on German language skill learnt in year 1, students will master basic German grammars and solidify their language skill required to read in German.

## 授業の内容 / Course Contents

昨年度のドイツ語入門で学んできた初級文法をふまえ、さまざまなジャンルのテキスト読解と音読の練習をしよう。ドイツ語入門で使用した教科書は、ポイントとなる文法事項を確認するための座右の銘としよう。

授業では、これまでに学んだドイツ語の文法規則と単語力をテキスト読解の実践に応用する訓練が中心となる。毎回独文和訳の課題を提出してもらい、授業の中でポイントを解説し、音読の練習をする。学んだ文法事項がテキストを読む際に活用できるようになると、ドイツ語はおもしろくなってくる。基礎語彙とあわせて、文法規則のすべてを暗記しよう。文法規則と基礎単語の暗記こそ、ドイツ語をマスターする秘訣だ。

立教大学ドイツ文学研究室の井出教授が独自に開発したプリント教材は、文法を中心に詳しい注釈がついているので、しっかり学べば、急速な実力アップは間違いない。みんなでがんばろう。

Following beginner grammars learnt in last year Introductory German, students will read various texts silently and aloud. The key point is to check for important grammars found in textbooks of Introductory German. This class will focus on training and applying German grammar rules and vocabularies learnt so far in reading documents. Students will receive German to Japanese translation assignment each time. Students will explain important points in class and practice reading aloud. Students will enjoy German language as they are able to apply grammars they learnt in reading documents. Students will learn basic vocabulary and memorize grammar rules simultaneously. Memorizing grammar rules and basic vocabularies are the secrets to mastering German language.

Professor Ide from Rikkyo University German Language Literature Program has developed unique set of printed materials, focusing on grammars and complete with detailed explanations. Students will surely be able to master the knowledge and rapidly improve their skills. Keep it up!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：01 Die anderen habens's besser (和訳したものを自己添削して授業後提出)  
 03 Kleine Fabel (和訳したものを提出)  
 2回：03 Kleine Fabel テキスト解説・自己添削  
 05 Sieben Zwerge gruenden einen Verein 和訳の提出  
 3回：05 Sieben Zweige gruenden einen Verein テキスト解説・自己添削  
 07 Faulpelz oder Lebenskuenstler? 和訳の提出  
 4回：07 Faulpelz oder Lebenskuenstler? テキスト解説・自己添削  
 09 Zaubern will gelernt sein 和訳の提出  
 5回：09 Zaubern will gelernt sein テキスト解説・自己添削  
 10 Der Rattenfaenger von Hameln 和訳の提出  
 6回：10 Der Rattenfaenger von Hameln テキスト解説・自己添削  
 12 Wer kennt die Loesung? 和訳の提出  
 7回：12 Wer kennt die Loesung テキスト解説・自己添削  
 13 Eine Denknuss 和訳の提出  
 8回：13 Eine Denknuss テキスト解説・自己添削  
 16 Der toerichte Bock 和訳の提出  
 9回：16 Der toerichte Bock テキスト解説・自己添削  
 20 Das wirksame Mittel 和訳の提出  
 10回：20 Das wirksame Mittel テキスト解説・自己添削  
 22 Wirbelstuerme 和訳の提出  
 11回：22 Wirbelstuerme テキスト解説・自己添削  
 25 Das Missverstaendnis 和訳の提出  
 12回：25 Das Missverstaendnis テキスト解説・自己添削  
 30 Fremdenverkehr 和訳の提出  
 13回：30 Fremdenverkehr テキスト解説・自己添削  
 33 Detusch - eine Fremdsprache fuer Deutsche? 和訳の提出  
 14回：33 Deutsch - eine Fremdsprache fuer Deutsche? テキスト解説

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』『髭麻呂の文法講話』シリーズを読んでおくといよい。

あらかじめ提出されたテキストを授業時間での解説をもとに自己添削する形式ですすめます。

初回の授業では2本予習したテキストのうち、最初のは授業内に解説・添削。もうひとつのテキストは次回の授業で解説・自己添削になります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期初めに提出する課題：20% 授業への参加状況（毎回のディクテーション、音読、語彙復習小テスト、随時出される課題）：80%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

- (1)『専門コースへのドイツ語文法』（ドイツ語入門での教科書）
- (2)テキスト集（1年次に購入済）、プリント

### 参考文献 / Readings

- (3)中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003 税込 1,680 円）（1年次に購入済）

### その他 / Others

理解度に応じて進度を調節します。授業のたびに、次回の授業で提出するテキスト和訳がどれになるか確認してください。

# ドイツ語基礎演習 4 a

Preliminary Seminars in German 4a

宮島 章子 (MIYAJIMA AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN061
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

1 年次秋学期に学んだ初級文法の知識を確実なものにしなが、副文を重点的に学んで、中級レベルの構文把握力と表現力を習得しよう。ドイツ語戯曲をグループでプレイすることでコミュニケーションをしてみよう。Students will reinforce basic grammars they have learnt in autumn semester of year 1. Students will focus on Nebensatz, ability to construct phrases at intermediate level and express themselves. The play of a german drama will simulate the real communication.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツ文の複雑な内容を正確に理解するために、また自分でも高度な内容の「おとな」のドイツ語表現ができるようになるためにも、ドイツ語の構文、特に従属接続詞に導かれた副文（Nebensatz）の構造に関する知識と実践は欠かすことができない。この授業ではドイツで作成された LL 用の教材を用い、dass や weil といった従属接続詞の意味と使い方、主文と副文のコンビネーション・パターンを、豊富な例文をもとに体系的・網羅的に学びながら、CALL 教室での反復練習によってそのパターンを耳と口で覚えよう。こうした練習を通じて長めの文をひとつのまとまりとして理解し、表現できるようになれば、ドイツ語の理解力が飛躍的に伸び、速読力も表現力も大幅に強化されること請け合いだ。それぞれの授業の前半では、教員がテキストの例文を文法的



に説明するので、後半はCDを使って、各自例題の反復練習をしよう。毎回欠かさず出席して、副文構造の説明を理解して、積極的に練習して副文を体得することが、実力アップの鍵だ。

Students will have to correctly understand complex German text and express sophisticated concepts in adult German language by themselves. Knowledge and practice of German language structure, particularly Nebensatz led by subordinate conjunction, is essential to learn and acquire German language skill. In this class, students will use LL materials in German to learn how to use subordinated conjunctions, dass and weil, as well as connection pattern between main clause and Nebensatz. Students will use wide variety of examples to learn them systematically and extensively. Through repeated practices at CALL classroom, students will use their ears and mouths to memorize these patterns. Through these practices, students will organize and understand lengthy texts. As students become able to express these texts, their German comprehension skills will improve dramatically. Their speed reading and expression skills are guaranteed to improve drastically too. Professors will explain example texts during first half of class and use CD in the second half to repeatedly practice each example. The key to mastering Nebensatz is to attend class each time without missing, understand explanations about Nebensatz structure, and actively practicing them.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：練習（1）
- 2回：練習（2）
- 3回：練習（3）
- 4回：練習（4）
- 5回：練習（5）
- 6回：練習（6）
- 7回：練習（7）
- 8回：練習（8）
- 9回：練習（9）
- 10回：練習（10）
- 11回：練習（11）
- 12回：練習（12）
- 13回：練習（13）
- 14回：練習（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回予習をして授業に臨むことが前提です。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況:40% 毎時間の復習小テスト:60%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

**テキスト/ Textbooks**

Zielinski:Grundformen des deutschen Nebensatzes のプリントおよびCD (1年次に購入済)

**参考文献 / Readings**

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』(白水社 2003 税込 1,680 円) (1年次に購入済)

**その他/ Others**

授業計画については若干の変更があります。

# ドイツ語基礎演習 4 b

Preliminary Seminars in German 4b

保科 泰 (HOSHINA YASUSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN062  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL2810  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1 年次秋学期に学んだ初級文法の知識を確実なものにしなが、副文を重点的に学んで、中級レベルの構文把握力と表現力を習得しよう。ドイツ語戯曲をグループでプレイすることでコミュニケーションをしてみよう。

Students will reinforce basic grammars they have learnt in autumn semester of year 1. Students will focus on Nebensatz, ability to construct phrases at intermediate level and express themselves. The play of a german drama will simulate the real communication.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツ文の複雑な内容を正確に理解するために、また自分でも高度な内容の「おとな」のドイツ語表現ができるようになるためにも、ドイツ語の構文、特に従属接続詞に導かれた副文（Nebensatz）の構造に関する知識と実践は欠かすことができない。この授業ではドイツで作成された LL 用の教材を用い、dass や weil といった従属接続詞の意味と使い方、主文と副文のコンビネーション・パターンを、豊富な例文をもとに体系的・網羅的に学びながら、CALL 教室での反復練習によってそのパターンを耳と口で覚えよう。こうした練習を通じて長めの文をひとつのまとまりとして理解し、表現できるようになれば、ドイツ語の理解力が飛躍的に伸び、速読力も表現力も大幅に強化されること請け合いだ。それぞれの授業の前半では、教員がテキストの例文を文法的

に説明するので、後半はCDを使って、各自例題の反復練習をしよう。毎回欠かさず出席して、副文構造の説明を理解して、積極的に練習して副文を体得することが、実力アップの鍵だ。

Students will have to correctly understand complex German text and express sophisticated concepts in adult German language by themselves. Knowledge and practice of German language structure, particularly Nebensatz led by subordinate conjunction, is essential to learn and acquire German language skill. In this class, students will use LL materials in German to learn how to use subordinated conjunctions, dass and weil, as well as connection pattern between main clause and Nebensatz. Students will use wide variety of examples to learn them systematically and extensively. Through repeated practices at CALL classroom, students will use their ears and mouths to memorize these patterns. Through these practices, students will organize and understand lengthy texts. As students become able to express these texts, their German comprehension skills will improve dramatically. Their speed reading and expression skills are guaranteed to improve drastically too. Professors will explain example texts during first half of class and use CD in the second half to repeatedly practice each example. The key to mastering Nebensatz is to attend class each time without missing, understand explanations about Nebensatz structure, and actively practicing them.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：練習（1）
- 2回：練習（2）
- 3回：練習（3）
- 4回：練習（4）
- 5回：練習（5）
- 6回：練習（6）
- 7回：練習（7）
- 8回：練習（8）
- 9回：練習（9）
- 10回：練習（10）
- 11回：練習（11）
- 12回：練習（12）
- 13回：練習（13）
- 14回：練習（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回予習をして授業に臨むことが前提です。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：40% 毎時間の復習小テスト：60%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

**テキスト/ Textbooks**

Zielinski:Grundformen des deutschen Nebensatzes のプリントおよびCD (1年次に購入済)

**参考文献 / Readings**

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』(白水社 2003 税込 1,680 円) (1年次に購入済)

**その他/ Others**

授業計画については若干の変更があります。

# ドイツ語基礎演習 4 c

Preliminary Seminars in German 4c

相馬 大樹 (SOMA DAIKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN063
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

1 年次秋学期に学んだ初級文法の知識を確実なものにしなが、副文を重点的に学んで、中級レベルの構文把握力と表現力を習得しよう。ドイツ語戯曲をグループでプレイすることでコミュニケーションをしてみよう。Students will reinforce basic grammars they have learnt in autumn semester of year 1. Students will focus on Nebensatz, ability to construct phrases at intermediate level and express themselves. The play of a german drama will simulate the real communication.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツ文の複雑な内容を正確に理解するために、また自分でも高度な内容の「おとな」のドイツ語表現ができるようになるためにも、ドイツ語の構文、特に従属接続詞に導かれた副文（Nebensatz）の構造に関する知識と実践は欠かすことができない。この授業ではドイツで作成された LL 用の教材を用い、dass や weil といった従属接続詞の意味と使い方、主文と副文のコンビネーション・パターンを、豊富な例文をもとに体系的・網羅的に学びながら、CALL 教室での反復練習によってそのパターンを耳と口で覚えよう。こうした練習を通じて長めの文をひとつのまとまりとして理解し、表現できるようになれば、ドイツ語の理解力が飛躍的に伸び、速読力も表現力も大幅に強化されること請け合いだ。それぞれの授業の前半では、教員がテキストの例文を文法的

に説明するので、後半はCDを使って、各自例題の反復練習をしよう。毎回欠かさず出席して、副文構造の説明を理解して、積極的に練習して副文を体得することが、実力アップの鍵だ。

Students will have to correctly understand complex German text and express sophisticated concepts in adult German language by themselves. Knowledge and practice of German language structure, particularly Nebensatz led by subordinate conjunction, is essential to learn and acquire German language skill. In this class, students will use LL materials in German to learn how to use subordinated conjunctions, dass and weil, as well as connection pattern between main clause and Nebensatz. Students will use wide variety of examples to learn them systematically and extensively. Through repeated practices at CALL classroom, students will use their ears and mouths to memorize these patterns. Through these practices, students will organize and understand lengthy texts. As students become able to express these texts, their German comprehension skills will improve dramatically. Their speed reading and expression skills are guaranteed to improve drastically too. Professors will explain example texts during first half of class and use CD in the second half to repeatedly practice each example. The key to mastering Nebensatz is to attend class each time without missing, understand explanations about Nebensatz structure, and actively practicing them.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：練習（1）
- 2回：練習（2）
- 3回：練習（3）
- 4回：練習（4）
- 5回：練習（5）
- 6回：練習（6）
- 7回：練習（7）
- 8回：練習（8）
- 9回：練習（9）
- 10回：練習（10）
- 11回：練習（11）
- 12回：練習（12）
- 13回：練習（13）
- 14回：練習（14）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回予習をして授業に臨むことが前提です。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：40% 毎時間の復習小テスト：60%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

**テキスト/ Textbooks**

Zielinski:Grundformen des deutschen Nebensatzes のプリントおよびCD (1年次に購入済)

**参考文献 / Readings**

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』(白水社 2003 税込 1,680 円) (1年次に購入済)

**その他/ Others**

授業計画については若干の変更があります。



# ドイツ語基礎演習 5 a

Preliminary Seminars in German 5a

野端 聡美 (NOBATA SATOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN071
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次春学期までに学んだドイツ語の知識を確認し、未習の文法事項を補いながら、ドイツ語の読解力を養おう。

Students will recheck their German knowledge learnt up to spring semester of the second year. Students will supplement unlearned grammars and cultivate their German comprehension skill.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期のドイツ語基礎演習 3 に引き続き、さまざまなジャンルのまとまった内容の短い文章のアンソロジーを精読し、それによって、文学・語学・文化研究に必要なドイツ語文の理解の仕方を身につけよう。

毎回の授業は、予習を前提に、独文和訳を提出してもらい、受講者の苦手な点や間違いの多い点についての解説を中心にすすむ。テキストの訳読のみならず、ディクテーション、ネイティブの朗読を手本としての音読、語形・構文の分析、練習問題などに学生諸君が主体となって授業を展開していこう。

春学期同様、中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600 円+税）、独和辞典、ドイツ語入門教科書『専門コースへのドイツ語文法』は必携アイテム。

Following Preliminary Seminars in German 3 of spring semester, students will read carefully about anthology of

short articles of various genres. Students will acquire comprehension skills necessary to research literature, language, and culture.

Students will do preliminary study before each class. Students will receive German to Japanese translation assignment in each class. The class will advance by focusing on areas where students found difficult or made mistakes frequently. In this class, students will play the main roles. They will not only read and interpret texts, but also refer to transcription and oral recital by native speakers. Based on these, they will practice oral recital, word form, and sentence construction.

Same as spring semester, students must carry Handbuch Der Deutschen Grammatik authored by Yuji Nakajima and others (revised edition) (Hakusuisha Publishing 2003 at 1,600 yen + tax), German Japanese dictionary, and Introductory German textbook Mit Takao und Jürgen durch Würzburg.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：35 Eine Rede ueber die Rede 和訳を用意し、授業時解説をもとに自己添削して提出  
36 Der Mensch und die Sprache 和訳提出
- 2 回：36 Der Mensch und die Sprache テキスト解説・自己添削  
37 Menschen und Menschenaffen 和訳提出
- 3 回：37 Menschen und Menschenaffen テキスト解説・自己添削  
43 Alkohol 和訳提出
- 4 回：43 Alkohol テキスト解説・自己添削  
44 Das Schwaermen der Bienen 和訳提出
- 5 回：44 Das Schwaermen der Bienen テキスト解説・自己添削  
45 Lesen und Fernsehen 和訳提出
- 6 回：45 Lesen und Fernsehen テキスト解説・自己添削  
01 Gaehnen 和訳・設問解答提出
- 7 回：01 Gaehnen テキスト解説・自己添削  
02 Salat 和訳・設問解答提出
- 8 回：02 Salat テキスト解説・自己添削  
03 Heimat ist das was gesprochen wird 和訳提出
- 9 回：03 Heimat ist das was gesprochen wird テキスト解説・自己添削  
04 Brille 和訳・設問解説提出
- 10 回：05 Brille テキスト解説・自己添削  
05 Aber warum werden Hemden andersherum geknoepft als Blusen? 和訳提出
- 11 回：05 Aber warum werden Hemden andersherum geknoepft als Blusen? テキスト解説・自己添削  
06 Das Koennen, nicht das Wissen 和訳提出
- 12 回：06 Das Koennen, nicht das Wissen テキスト解説・自己添削  
07 Die Hoffnung 和訳提出
- 13 回：07 Die Hoffnung テキスト解説・自己添削  
08 Der Mensch im Verkehr 和訳提出
- 14 回：08 Der Mensch im Verkehr テキスト解説・自己添削

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくことでドイツ語の理解に役立つ。

理解度に応じて進度を調節します。学期最初のふたつのテキストがどれになるか、前の学期末に担当教員に確認し、秋学期最初の授業に臨んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期始めに提出する課題:20% 授業への積極的な参加度、毎回のディクテーション、課題提出、音読・語彙などの復習小テスト:80%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

- (1) 『専門コースへのドイツ語文法』
- (2) 1年次に購入済のテキスト集および付属のCD
- (3) プリント

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体1,600円）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

### その他 / Others

授業の進行形式は基礎演習3と同じです。どのテキストを読むか、受講者と相談の上、ピックアップすることもあり得ます。また授業計画については若干の変更があります。

# ドイツ語基礎演習 5 b

Preliminary Seminars in German 5b

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN072
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次春学期までに学んだドイツ語の知識を確認し、未習の文法事項を補いながら、ドイツ語の読解力を養おう。

Students will recheck their German knowledge learnt up to spring semester of the second year. Students will supplement unlearned grammars and cultivate their German comprehension skill.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期のドイツ語基礎演習 3 に引き続き、さまざまなジャンルのまとまった内容の短い文章のアンソロジーを精読し、それによって、文学・語学・文化研究に必要なドイツ語文の理解の仕方を身につけよう。

毎回の授業は、予習を前提に、独文和訳を提出してもらい、受講者の苦手な点や間違いの多い点についての解説を中心にすすむ。テキストの訳読のみならず、ディクテーション、ネイティブの朗読を手本としての音読、語形・構文の分析、練習問題などに学生諸君が主体となって授業を展開していこう。

春学期同様、中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600 円+税）、独和辞典、ドイツ語入門教科書『専門コースへのドイツ語文法』は必携アイテム。

Following Preliminary Seminars in German 3 of spring semester, students will read carefully about anthology of

short articles of various genres. Students will acquire comprehension skills necessary to research literature, language, and culture.

Students will do preliminary study before each class. Students will receive German to Japanese translation assignment in each class. The class will advance by focusing on areas where students found difficult or made mistakes frequently. In this class, students will play the main roles. They will not only read and interpret texts, but also refer to transcription and oral recital by native speakers. Based on these, they will practice oral recital, word form, and sentence construction.

Same as spring semester, students must carry Handbuch Der Deutschen Grammatik authored by Yuji Nakajima and others (revised edition) (Hakusuisha Publishing 2003 at 1,600 yen + tax), German Japanese dictionary, and Introductory German textbook Mit Takao und Jürgen durch Würzburg.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：35 Eine Rede ueber die Rede 和訳を用意し、授業時解説をもとに自己添削して提出  
36 Der Mensch und die Sprache 和訳提出
- 2回：36 Der Mensch und die Sprache テキスト解説・自己添削  
37 Menschen und Menschenaffen 和訳提出
- 3回：37 Menschen und Menschenaffen テキスト解説・自己添削  
43 Alkohol 和訳提出
- 4回：43 Alkohol テキスト解説・自己添削  
44 Das Schwaermen der Bienen 和訳提出
- 5回：44 Das Schwaermen der Bienen テキスト解説・自己添削  
45 Lesen und Fernsehen 和訳提出
- 6回：45 Lesen und Fernsehen テキスト解説・自己添削  
01 Gaehnen 和訳・設問解答提出
- 7回：01 Gaehnen テキスト解説・自己添削  
02 Salat 和訳・設問解答提出
- 8回：02 Salat テキスト解説・自己添削  
03 Heimat ist das was gesprochen wird 和訳提出
- 9回：03 Heimat ist das was gesprochen wird テキスト解説・自己添削  
04 Brille 和訳・設問解説提出
- 10回：05 Brille テキスト解説・自己添削  
05 Aber warum werden Hemden andersherum geknoepft als Blusen? 和訳提出
- 11回：05 Aber warum werden Hemden andersherum geknoepft als Blusen? テキスト解説・自己添削  
06 Das Koennen, nicht das Wissen 和訳提出
- 12回：06 Das Koennen, nicht das Wissen テキスト解説・自己添削  
07 Die Hoffnung 和訳提出
- 13回：07 Die Hoffnung テキスト解説・自己添削  
08 Der Mensch im Verkehr 和訳提出
- 14回：08 Der Mensch im Verkehr テキスト解説・自己添削

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくことでドイツ語の理解に役立つ。

理解度に応じて進度を調節します。学期最初のふたつのテキストがどれになるか、前の学期末に担当教員に確認し、秋学期最初の授業に臨んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期始めに提出する課題:20% 授業への積極的な参加度、毎回のディクテーション、課題提出、音読・語彙などの復習小テスト:80%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

- (1) 『専門コースへのドイツ語文法』
- (2) 1年次に購入済のテキスト集および付属のCD
- (3) プリント

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体1,600円）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

### その他 / Others

授業の進行形式は基礎演習3と同じです。どのテキストを読むか、受講者と相談の上、ピックアップすることもあり得ます。また授業計画については若干の変更があります。

# ドイツ語基礎演習 5c

Preliminary Seminars in German 5c

美留町 義雄 (BIRUMACHI YOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN073
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL2810
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次春学期までに学んだドイツ語の知識を確認し、未習の文法事項を補いながら、ドイツ語の読解力を養おう。

Students will recheck their German knowledge learnt up to spring semester of the second year. Students will supplement unlearned grammars and cultivate their German comprehension skill.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期のドイツ語基礎演習 3 に引き続き、さまざまなジャンルのまとまった内容の短い文章のアンソロジーを精読し、それによって、文学・語学・文化研究に必要なドイツ語文の理解の仕方を身につけよう。

毎回の授業は、予習を前提に、独文和訳を提出してもらい、受講者の苦手な点や間違いの多い点についての解説を中心にすすむ。テキストの訳読のみならず、ディクテーション、ネイティブの朗読を手本としての音読、語形・構文の分析、練習問題などに学生諸君が主体となって授業を展開していこう。

春学期同様、中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600 円+税）、独和辞典、ドイツ語入門教科書『専門コースへのドイツ語文法』は必携アイテム。

Following Preliminary Seminars in German 3 of spring semester, students will read carefully about anthology of

short articles of various genres. Students will acquire comprehension skills necessary to research literature, language, and culture.

Students will do preliminary study before each class. Students will receive German to Japanese translation assignment in each class. The class will advance by focusing on areas where students found difficult or made mistakes frequently. In this class, students will play the main roles. They will not only read and interpret texts, but also refer to transcription and oral recital by native speakers. Based on these, they will practice oral recital, word form, and sentence construction.

Same as spring semester, students must carry Handbuch Der Deutschen Grammatik authored by Yuji Nakajima and others (revised edition) (Hakusuisha Publishing 2003 at 1,600 yen + tax), German Japanese dictionary, and Introductory German textbook Mit Takao und Jürgen durch Würzburg.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：35 Eine Rede ueber die Rede 和訳を用意し、授業時解説をもとに自己添削して提出  
36 Der Mensch und die Sprache 和訳提出
- 2 回：36 Der Mensch und die Sprache テキスト解説・自己添削  
37 Menschen und Menschenaffen 和訳提出
- 3 回：37 Menschen und Menschenaffen テキスト解説・自己添削  
43 Alkohol 和訳提出
- 4 回：43 Alkohol テキスト解説・自己添削  
44 Das Schwaermen der Bienen 和訳提出
- 5 回：44 Das Schwaermen der Bienen テキスト解説・自己添削  
45 Lesen und Fernsehen 和訳提出
- 6 回：45 Lesen und Fernsehen テキスト解説・自己添削  
01 Gaehnen 和訳・設問解答提出
- 7 回：01 Gaehnen テキスト解説・自己添削  
02 Salat 和訳・設問解答提出
- 8 回：02 Salat テキスト解説・自己添削  
03 Heimat ist das was gesprochen wird 和訳提出
- 9 回：03 Heimat ist das was gesprochen wird テキスト解説・自己添削  
04 Brille 和訳・設問解説提出
- 10 回：05 Brille テキスト解説・自己添削  
05 Aber warum werden Hemden andersherum geknoepft als Blusen? 和訳提出
- 11 回：05 Aber warum werden Hemden andersherum geknoepft als Blusen? テキスト解説・自己添削  
06 Das Koennen, nicht das Wissen 和訳提出
- 12 回：06 Das Koennen, nicht das Wissen テキスト解説・自己添削  
07 Die Hoffnung 和訳提出
- 13 回：07 Die Hoffnung テキスト解説・自己添削  
08 Der Mensch im Verkehr 和訳提出
- 14 回：08 Der Mensch im Verkehr テキスト解説・自己添削

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :



個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくことでドイツ語の理解に役立つ。理解度に応じて進度を調節します。学期最初のふたつのテキストがどれになるか、前の学期末に担当教員に確認し、秋学期最初の授業に臨んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期始めに提出する課題:20% 授業への積極的な参加度, 毎回のディクテーション, 課題提出, 音読・語彙などの復習小テスト:80%

正当な理由のない欠席3回でもって成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

- (1) 『専門コースへのドイツ語文法』
- (2) 1年次に購入済のテキスト集および付属のCD
- (3) プリント

### 参考文献 / Readings

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体1,600円）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

### その他 / Others

授業の進行形式は基礎演習3と同じです。どのテキストを読むか、受講者と相談の上、ピックアップすることもあり得ます。また授業計画については若干の変更があります。

# ドイツ語入門 1 a

Introductory German 1a

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN081  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎をしっかりと習得しよう。  
Students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかりだ。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

教科書のダイアログを登場人物になりきって演じてみるのもおもしろい。外国語はお芝居できると上手になるものだ。

また、文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht Spass!だ。

春学期にすすむ目標は第7課をおわらせることだ。そうすれば過去のことだっちはなせるようになる。

Students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are

encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

It is interesting too to take up roles of characters from textbooks and read their dialogs. Students will improve their foreign language skill greatly if they can act in that language.

In addition, students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht Spass!

The goal of this class in spring semester is to complete the 8th chapter of the textbook. By achieving the goal, students will be able to narrate past events.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1課
- 2回：第1課
- 3回：第2課
- 4回：第2課
- 5回：第3課
- 6回：第4課
- 7回：中間小テスト
- 8回：第5課
- 9回：第6課
- 10回：第6課
- 11回：第7課
- 12回：第7課
- 13回：総括
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小テスト:30% 中間・最終小テスト:30% 課題練習問題:20% テキスト音読:20%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 9784255253374 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2,940円）『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 1b

Introductory German 1b

伊東 直美 (ITO NAOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN082
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎をしっかりと習得しよう。

Students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかりだ。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

教科書のダイアログを登場人物になりきって演じてみるのもおもしろい。外国語はお芝居できると上手になるものだ。

また、文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht Spass!だ。

春学期にすすむ目標は第7課をおわらせることだ。そうすれば過去のことだっちはなせるようになる。

Students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are

encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

It is interesting too to take up roles of characters from textbooks and read their dialogs. Students will improve their foreign language skill greatly if they can act in that language.

In addition, students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht Spass!

The goal of this class in spring semester is to complete the 8th chapter of the textbook. By achieving the goal, students will be able to narrate past events.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1課
- 2回：第1課
- 3回：第2課
- 4回：第2課
- 5回：第3課
- 6回：第4課
- 7回：中間小テスト
- 8回：第5課
- 9回：第6課
- 10回：第6課
- 11回：第7課
- 12回：第7課
- 13回：総括
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小テスト:30% 中間・最終小テスト:30% 課題練習問題:20% テキスト音読:20%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 9784255253374 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2,940円）『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 1c

Introductory German 1c

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN083  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎をしっかりと習得しよう。

Students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかりだ。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

教科書のダイアログを登場人物になりきって演じてみるのもおもしろい。外国語はお芝居できると上手になるものだ。

また、文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht Spass!だ。

春学期にすすむ目標は第7課をおわらせることだ。そうすれば過去のことだっちはなせるようになる。

Students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are



encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

It is interesting too to take up roles of characters from textbooks and read their dialogs. Students will improve their foreign language skill greatly if they can act in that language.

In addition, students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht Spass!

The goal of this class in spring semester is to complete the 8th chapter of the textbook. By achieving the goal, students will be able to narrate past events.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1課
- 2回：第1課
- 3回：第2課
- 4回：第2課
- 5回：第3課
- 6回：第4課
- 7回：中間小テスト
- 8回：第5課
- 9回：第6課
- 10回：第6課
- 11回：第7課
- 12回：第7課
- 13回：総括
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小テスト:30% 中間・最終小テスト:30% 課題練習問題:20% テキスト音読:20%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 9784255253374 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2,940円）『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 2 a

Introductory German 2a

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN084
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎をしっかりと習得しよう。

Students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかりだ。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

教科書のダイアログを登場人物になりきって演じてみるのもおもしろい。外国語はお芝居できると上手になるものだ。

また、文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht Spass!だ。

春学期にすすむ目標は第7課をおわらせることだ。そうすれば過去のことだっちはなせるようになる。

Students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are

encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

It is interesting too to take up roles of characters from textbooks and read their dialogs. Students will improve their foreign language skill greatly if they can act in that language.

In addition, students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht Spass!

The goal of this class in spring semester is to complete the 8th chapter of the textbook. By achieving the goal, students will be able to narrate past events.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1課
- 2回：第1課
- 3回：第2課
- 4回：第2課
- 5回：第3課
- 6回：第4課
- 7回：中間小テスト
- 8回：第5課
- 9回：第6課
- 10回：第6課
- 11回：第7課
- 12回：第7課
- 13回：総括
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小テスト:30% 中間・最終小テスト:30% 課題練習問題:20% テキスト音読:20%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 9784255254531 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2,940円）『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 2b

Introductory German 2b

伊東 直美 (ITO NAOMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN085  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎をしっかりと習得しよう。

Students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかりだ。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

教科書のダイアログを登場人物になりきって演じてみるのもおもしろい。外国語はお芝居できると上手になるものだ。

また、文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht Spass!だ。

春学期にすすむ目標は第7課をおわらせることだ。そうすれば過去のことだっちはなせるようになる。

Students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are

encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

It is interesting too to take up roles of characters from textbooks and read their dialogs. Students will improve their foreign language skill greatly if they can act in that language.

In addition, students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht Spass!

The goal of this class in spring semester is to complete the 8th chapter of the textbook. By achieving the goal, students will be able to narrate past events.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1課
- 2回：第1課
- 3回：第2課
- 4回：第2課
- 5回：第3課
- 6回：第4課
- 7回：中間小テスト
- 8回：第5課
- 9回：第6課
- 10回：第6課
- 11回：第7課
- 12回：第7課
- 13回：総括
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小テスト:30% 中間・最終小テスト:30% 課題練習問題:20% テキスト音読:20%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 9784255254531 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2,940円）『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示



# ドイツ語入門 2c

Introductory German 2c

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN086  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎をしっかりと習得しよう。  
Students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかりだ。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

教科書のダイアログを登場人物になりきって演じてみるのもおもしろい。外国語はお芝居できると上手になるものだ。

また、文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht Spass!だ。

春学期にすすむ目標は第7課をおわらせることだ。そうすれば過去のことだっちはなせるようになる。

Students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are

encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

It is interesting too to take up roles of characters from textbooks and read their dialogs. Students will improve their foreign language skill greatly if they can act in that language.

In addition, students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht Spass!

The goal of this class in spring semester is to complete the 8th chapter of the textbook. By achieving the goal, students will be able to narrate past events.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1課
- 2回：第1課
- 3回：第2課
- 4回：第2課
- 5回：第3課
- 6回：第4課
- 7回：中間小テスト
- 8回：第5課
- 9回：第6課
- 10回：第6課
- 11回：第7課
- 12回：第7課
- 13回：総括
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小テスト:30% 中間・最終小テスト:30% 課題練習問題:20% テキスト音読:20%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 9784255254531 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2,940円）『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 3 a

Introductory German 3a

伊東 直美 (ITO NAOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN087
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎を習得しよう。

Following spring semester, students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。秋学期は第8課から教科書のおわりまで。秋学期がおわればドイツ語で大事な文法事項はほとんどマスターだ。

習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかり。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht noch mehr Spass!だ。

Following spring semester, students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Autumn semester will focus on the 9th chapter to end of textbook. Students will have mastered most of the important grammars in German after autumn semester.

Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

Students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht noch mehr Spass!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第8課
- 2回：第8課
- 3回：第9課
- 4回：第9課
- 5回：第10課
- 6回：第10課
- 7回：第11課
- 8回：第11課
- 9回：第12課
- 10回：第12課
- 11回：第13課
- 12回：第13課
- 13回：テキスト読解
- 14回：テキスト読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期始めに提出する課題:20% 毎回の小テスト（ディクテーションなど）、練習問題、テキスト音読:80%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならない。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2940円）、『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 3b

Introductory German 3b

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN088
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎を習得しよう。

Following spring semester, students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。秋学期は第8課から教科書のおわりまで。秋学期がおわればドイツ語で大事な文法事項はほとんどマスターだ。

習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかり。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht noch mehr Spass!だ。

Following spring semester, students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Autumn semester will focus on the 9th chapter to end of textbook. Students will have mastered most of the important grammars in German after autumn semester.

Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

Students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht noch mehr Spass!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第8課
- 2回：第8課
- 3回：第9課
- 4回：第9課
- 5回：第10課
- 6回：第10課
- 7回：第11課
- 8回：第11課
- 9回：第12課
- 10回：第12課
- 11回：第13課
- 12回：第13課
- 13回：テキスト読解
- 14回：テキスト読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期始めに提出する課題:20% 毎回の小テスト（ディクテーションなど）、練習問題、テキスト音読:80%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならない。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2940円）、『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 3c

Introductory German 3c

宮島 章子 (MIYAJIMA AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN089
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎を習得しよう。

Following spring semester, students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。秋学期は第8課から教科書のおわりまで。秋学期がおわればドイツ語で大事な文法事項はほとんどマスターだ。

習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかり。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht noch mehr Spass!だ。

Following spring semester, students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Autumn semester will focus on the 9th chapter to end of textbook. Students will have mastered most of the important grammars in German after autumn semester.



Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

Students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht noch mehr Spass!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第8課
- 2回：第8課
- 3回：第9課
- 4回：第9課
- 5回：第10課
- 6回：第10課
- 7回：第11課
- 8回：第11課
- 9回：第12課
- 10回：第12課
- 11回：第13課
- 12回：第13課
- 13回：テキスト読解
- 14回：テキスト読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期始めに提出する課題:20% 毎回の小テスト（ディクテーションなど）、練習問題、テキスト音読:80%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならない。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2940円）、『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 4 a

Introductory German 4a

伊東 直美 (ITO NAOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN090
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎を習得しよう。

Following spring semester, students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。秋学期は第8課から教科書のおわりまで。秋学期がおわればドイツ語で大事な文法事項はほとんどマスターだ。

習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかり。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht noch mehr Spass!だ。

Following spring semester, students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Autumn semester will focus on the 9th chapter to end of textbook. Students will have mastered most of the important grammars in German after autumn semester.

Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

Students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht noch mehr Spass!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第8課
- 2回：第8課
- 3回：第9課
- 4回：第9課
- 5回：第10課
- 6回：第10課
- 7回：第11課
- 8回：第11課
- 9回：第12課
- 10回：第12課
- 11回：第13課
- 12回：第13課
- 13回：テキスト読解
- 14回：テキスト読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期始めに提出する課題:20% 毎回の小テスト（ディクテーションなど）、練習問題、テキスト音読:80%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2940円）、『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 4b

Introductory German 4b

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN091
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎を習得しよう。

Following spring semester, students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。秋学期は第8課から教科書のおわりまで。秋学期がおわればドイツ語で大事な文法事項はほとんどマスターだ。

習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかり。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht noch mehr Spass!だ。

Following spring semester, students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Autumn semester will focus on the 9th chapter to end of textbook. Students will have mastered most of the important grammars in German after autumn semester.

Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

Students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht noch mehr Spass!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第8課
- 2回：第8課
- 3回：第9課
- 4回：第9課
- 5回：第10課
- 6回：第10課
- 7回：第11課
- 8回：第11課
- 9回：第12課
- 10回：第12課
- 11回：第13課
- 12回：第13課
- 13回：テキスト読解
- 14回：テキスト読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期始めに提出する課題:20% 毎回の小テスト（ディクテーションなど）、練習問題、テキスト音読:80%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2940円）、『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# ドイツ語入門 4c

Introductory German 4c

宮島 章子 (MIYAJIMA AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN092
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL1810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ドイツ文学専攻で必要になるドイツ語文法・読解スキルの基礎を習得しよう。

Following spring semester, students will learn foundational German grammatical and reading skills required to major in German language.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、教科書に沿って、ドイツ語を読解する際に必要となる基礎的な文法事項を学ぼう。秋学期は第8課から教科書のおわりまで。秋学期がおわればドイツ語で大事な文法事項はほとんどマスターだ。

習う事柄は「読解」だけではなく、日常の会話でも基本となる重要なものばかり。授業では、ドイツ語をできるだけ多く自分で口にして、音からドイツ語の語感をマスターしよう。

文法口頭練習ドリルと追加の問題集を使って、自宅でも勉強して、習ったことを確実にしていこう。できるようになればドイツ語は楽しい。Deutsch macht noch mehr Spass!だ。

Following spring semester, students will follow textbooks and learn foundational grammars required to read in German. Autumn semester will focus on the 9th chapter to end of textbook. Students will have mastered most of the important grammars in German after autumn semester.

Students will not only learn to read but also basic important knowledge used in daily conversations. During the class students are encouraged to read out loud in German and experience German language with voice to master it.

Students will use oral grammar practices and additional quizzes to study at home to ensure complete mastery. Students will enjoy German language as they become better at it. Deutsch macht noch mehr Spass!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第8課
- 2回：第8課
- 3回：第9課
- 4回：第9課
- 5回：第10課
- 6回：第10課
- 7回：第11課
- 8回：第11課
- 9回：第12課
- 10回：第12課
- 11回：第13課
- 12回：第13課
- 13回：テキスト読解
- 14回：テキスト読解

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『Aspekt』の「髭麻呂文法講話」シリーズを読んでおくとよい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期始めに提出する課題:20% 毎回の小テスト（ディクテーションなど）、練習問題、テキスト音読:80%

正当な理由のない欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

### テキスト / Textbooks

井出万秀 『専門コースへのドイツ語文法』 朝日出版 2022 ○

朝倉他 『ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 ○

『専門コースへのドイツ語文法』（第2版；朝日出版 2940円）、『ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（白水社 2003 本体 1,600円）（ガイダンス時に購入済）、『文法口頭練習ドリル』（ガイダンス時に配布済）

### 参考文献 / Readings

必要に応じて別途指示

# 演習 C1

## Seminars C1

現代ドイツ語圏文化・ジェンダー文化

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN101
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2021 年度まで「演習 C1（日独比較文化）」

### 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏を対象とする文学研究・文化研究に入門し、各自の卒論へとつながるテーマを探す。参加者との討論をおこないながら、資料調査・口頭発表・執筆へと進んでいく。

Students will major German literature and cultural studies, search their own research topic to write graduation thesis. They will research materials, have presentations, discuss about their topics with the participants and write their thesis at last.

### 授業の内容 / Course Contents

個別発表あるいはグループ発表を行い、参加者全員で討論する。

ジェンダー研究の入門書を共通テキストとして読む。

担当教員の研究上の関心領域は主に下記のとおり。

- 1 ジェンダー表象（文学における女性像／男性像、家族・親族をめぐる表現など）、フェミニズム
- 2 東ドイツ（ドイツ民主共和国 1949-1990）の文学・映画、東ドイツ崩壊後の問題
- 3 歴史的できごとの記憶と想起に関する文学・文化



ゼミ生の研究テーマはこれに縛られる必要はない。

My research interest is especially related to 1.) gender representations, 2.) cultural history of the GDR, especially literature and film produced in the GDR and after its collapse, 3.) memory and remembrance of historical events in contemporary German literature and other media.

However, students are not limited to these subjects when choosing their research topics.

Students will read some common texts and have group discussions as well as have a presentation about a topic they spontaneously choose.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：2年生自己紹介、3・4年生発表2名

\*2年生春休み宿題提出締切：4月8日 Canvas LMS 課題欄

2回：3・4年生発表3名

\*3～4年生春休みの宿題（独作文）提出締切4月19日 Canvas LMS 課題欄

3回：今年度の卒論執筆者：目次・構想について検討・グループ討論

それ以外のゼミ生：図書館探検（学術雑誌、文化事典、大和独辞書、DUDEN、新聞、視聴覚コーナーなどでの調査をミッション表にしたがっておこなう。自動書庫からの出庫、新座キャンパスの図書申し込み、学外貸借の方法を学ぶ）

4回：3・4年生発表2～3名

\*図書館探検報告書 締切

\*卒論執筆者：目次の改定案提出

5回：3・4年生発表2～3名

6回：3・4年生発表2～3名

7回：3・4年生発表2～3名

8回：弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史』討論（Gruppenarbeit）

9回：3・4年生発表1名

レポートの書き方についての注意事項の確認（Gruppenarbeit）

\*ASPEKT 別冊を持参

\*これまでに返却・添削されたレポート持参

10回：2～4年生発表2～3名

\*『はじめての西洋ジェンダー史』討論の報告書提出

11回：2～4年生発表2～3名

12回：2～4年生発表2～3名

13回：2～4年生発表2～3名

14回：2～4年生発表2～3名

学期末レポートの確認

夏休み課題の確認（文学作品を読む）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:							

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

共通テキストの読書（＝グループ討論の予習）  
 グループ討論および図書館探索の報告書の執筆（提出物）  
 個人テーマについての発表準備  
 レポート執筆

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:20% 討論への参加度・予習:20% 提出物:25% 最終レポート割合 :35%  
 最終テスト割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

ダフナ・ジョエル,ルバ・ヴィハンスキ 『ジェンダーと脳 性別を超える脳の多様性』 紀伊國屋書店 2021  
 9784314011853 ○  
 弓削尚子 『はじめての西洋ジェンダー史: 家族史からグローバル・ヒストリーまで』 山川出版社 2021  
 ○

テキスト1：新入ゼミ生は、春休み課題執筆のために入手してください。

テキスト2：新入ゼミ生は購入してください。3-4年生は既に購入している人が大半のはずですが、まだの人がいたら購入してください。

**参考文献 / Readings**

姫岡とし子 『近代ドイツの母性主義フェミニズム』 勁草書房 1993  
 森山至貴 『LGBTを読み解く』 ちくま新書 2017  
 姫岡とし子 『ヨーロッパの家族史』 山川出版社 2008  
 香川檀、田丸理砂 『ベルリンのモダンガール』 三修社 2004  
 マクシム・レオ 『東ドイツ ある家族の物語』 アルファベータ・ブックス 2022  
 クリスタ・ヴォルフ 『幼年期の構図』 保坂一夫（訳） 恒文社 1981  
 ユリア・フランク 『真昼の女』 浅井晶子（訳） 河出書房新書 2011  
 加藤秀一 『はじめてのジェンダー論』 有斐閣 2017

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

討論への積極的な参加（病気などの理由で無理な場合は、理由を説明のうえ相談してください）

提出物の期限内の提出

**その他 / Others**

発表の予定表の変更等、連絡については Canvas LMS を通じて行うので、必ず Canvas アナウンス欄をチェックするようにしてください。

## 演習 C2

Seminars C2

現代ドイツ語圏文化・ジェンダー文化

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「演習 C2（日独比較文化）」

### 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏を対象とする文学研究・文化研究に入門し、各自の卒論へとつながるテーマを探す。参加者との討論をおこないながら、資料調査・口頭発表・執筆へと進んでいく。

Students will major German literature and cultural studies, search their own research topic to write graduation thesis. They will research materials, give presentations, discuss about their topics and write their thesis in the future.

### 授業の内容 / Course Contents

各参加者の個人研究と、共通文献購読の二種類の活動を並行して行う。

個人研究については、関心テーマに沿って文献調査を行い、その成果を口頭発表し、レポートにまとめる。テーマ選択は、教員との相談のうえ決定する。

担当教員の研究上の関心領域は主に下記のとおり。

- 1 ジェンダー表象（文学における女性像／男性像、家族・親族をめぐる表現など）、フェミニズム
- 2 東ドイツ（ドイツ民主共和国 1949-1990）の文学・映画、東ドイツ崩壊後の問題

3 歴史的できごとの記憶と想起に関する文学・文化

ゼミ生の研究テーマはこれに縛られる必要はない。

このほか、大学図書館にあるさまざまな種類の文献（辞書、事典、日本語とドイツ語の新聞、学術雑誌、視聴覚コーナーのDVD、研究書など）を調査する練習も行う。

In the autumn semester, students will both present their individual research projects and read some theoretical as well as literary texts.

They will also have group discussions about those texts.

For the individual research project, students will search materials, give a presentation about their own topics and write an essay at the end of semester.

They will learn to research many kinds of materials in the university library such as dictionaries, lexika, newspapers in German and in Japanese, audio-visual materials like DVD, academic magazines etc.

After exploring the university library, they should write a short report about what they found in the library.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：共通テキスト（文学）についてのグループ討論

2 回：図書館探検ミッション

3 回：学生発表

4 回：学生発表

図書館探検の報告書提出

第1回の討論についての報告書提出

5 回：学生発表

6 回：学生発表

7 回：学生発表

8 回：共通テキスト（文学理論・ジェンダー理論）についての討論

9 回：学生発表

10 回：学生発表

第8回の討論についての報告書提出

11 回：学生発表

12 回：学生発表

13 回：学生発表

14 回：学生発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

共通文献の読書

図書館探検の報告書および討論の報告書の記入と提出

個人テーマの発表準備

レポート執筆とそのための調査

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 積極的な参加:20% 提出物:30% 口頭発表:20% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

石田勇治（編集代表）、佐藤公紀、柳原伸洋（編集幹事）、木村洋平、宮崎麻子（編集委員） 『ドイツ文化事典』 丸善出版 2020

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

討論などへの積極的な参加（病気などの理由で無理な場合は事前にご相談ください）

討論におけるルールを守ること（差別的発言を行わないなど）

口頭発表やレポートを（卒論を見据えつつ）図書館での調査・読書に基づき自ら発展させていく意欲

**その他 / Others**

Canvas LMS アナウンス欄からときどき連絡事項を送るので、チェックするようにしてください。

## 演習 C3

Seminars C3

メディア文化・表象文化

保科 泰 (HOSHINA YASUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「演習 C3（都市文化・表象文化）」

### 授業の目標 / Course Objectives

Germanistik（広義の「ドイツ研究」）という枠組みの中で、自らの問題意識に基づきながら研究テーマを選択し、問いを立て、最終的には卒業論文作成に向けて、資料収集と調査方法、資料の批判的読解、論文執筆、口頭発表の仕方などを実践的に学んでゆく。

Students will use Germanistik framework (in a broad sense “German studies”) and select research topics based on their awareness of issues. Students will clarify their questions and work towards their graduation thesis. To do that, they will learn how to collect data, research, read documents critically, author thesis, and present orally, by actually doing these tasks.

### 授業の内容 / Course Contents

C3・C4（メディア文化・表象文化）ともに、個別発表あるいはグループ発表を行い、参加者全員で討論する。2年生は共通テーマ（例として「都市」「カタストロフィ」「群集」「孤独」など）、3・4年生は卒論につながるテーマで発表をしてもらう予定である。いずれも、研究テーマの選択や問いの立て方については担当教員が適宜アドバイスをする。学期によっては、共通のテキスト（文学作品や思想書などの文庫・新書）に基づ

いて議論をする可能性もある。その場合は、全員が共通テキストを購入するなどして入手する必要がある。

春休み・夏休みに発表原稿を準備することになるので、長期休暇中も課題がある。また普段からドイツ語の学習はもちろんのこと、自主的に本を読んだり、美術館・映画館に通ったりすることが望まれる。

Students will present their research topics and all attendees will discuss these topics. Professors in charge will advise students on how to select their research topics and clarify their questions. Producing intellectual outputs (write thesis and present orally) requires inputs, including reading sample thesis and listening to other good presentations. Students are scheduled to both make presentations and read literatures (Japanese and German).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンスとゼミ運営について

2回：学生発表(1)

3回：学生発表(2)

4回：学生発表(3)

5回：学生発表(4)

6回：学生発表(5)

7回：学生発表(6)

8回：学生発表(7)

9回：学生発表(8)

10回：学生発表(9)

11回：学生発表(10)

12回：学生発表(11)

13回：学生発表(12)

14回：学生発表(13)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表および論文作成の準備には相応の時間が必要となる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 口頭発表:30% 最終レポート割合 :40%

正当な理由 (病気や忌引き、交通機関の遅延など) なく 3 回以上欠席した場合は成績評価の対象とならない。

### テキスト / Textbooks

授業内で指示する。補助プリントを適宜配布する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

### その他 / Others

大学や担当教員からのメール・お知らせを定期的に確認すること。

## 演習 C4

Seminars C4

メディア文化・表象文化

保科 泰 (HOSHINA YASUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「演習 C4（都市文化・表象文化）」

### 授業の目標 / Course Objectives

Germanistik（広義の「ドイツ研究」）という枠組みの中で、自らの問題意識に基づきながら研究テーマを選択し、問いを立て、最終的には卒業論文作成に向けて、資料収集と調査方法、資料の批判的読解、論文執筆、口頭発表の仕方などを実践的に学んでゆく。

Students will use Germanistik framework (in a broad sense “German studies”) and select research topics based on their awareness of issues. Students will clarify their questions and work towards their graduation thesis. To do that, they will learn how to collect data, research, read documents critically, author thesis, and present orally, by actually doing these tasks.

### 授業の内容 / Course Contents

C3・C4（メディア文化・表象文化）ともに、個別発表あるいはグループ発表を行い、参加者全員で討論する。2年生は共通テーマ（例として「都市」「カタストロフィ」「群集」「孤独」など）、3・4年生は卒論につながるテーマで発表をしてもらう予定である。いずれも、研究テーマの選択や問いの立て方については担当教員が適宜アドバイスをする。学期によっては、共通のテキスト（文学作品や思想書などの文庫・新書）に基づ



いて議論をする可能性もある。その場合は、全員が共通テキストを購入するなどして入手する必要がある。

春休み・夏休みに発表原稿を準備することになるので、長期休暇中も課題がある。また普段からドイツ語の学習はもちろんのこと、自主的に本を読んだり、美術館・映画館に通ったりすることが望まれる。

Students will present their research topics and all attendees will discuss these topics. Professors in charge will advise students on how to select their research topics and clarify their questions. Producing intellectual outputs (write thesis and present orally) requires inputs, including reading sample thesis and listening to other good presentations. Students are scheduled to both make presentations and read literatures (Japanese and German).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：学生発表(1)
- 3回：学生発表(2)
- 4回：学生発表(3)
- 5回：学生発表(4)
- 6回：学生発表(5)
- 7回：学生発表(6)
- 8回：学生発表(7)
- 9回：学生発表(8)
- 10回：学生発表(9)
- 11回：学生発表(10)
- 12回：学生発表(11)
- 13回：学生発表(12)
- 14回：学生発表(13)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表および論文作成の準備には相応の時間が必要となる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 口頭発表:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

授業内で指示する。補助プリントを適宜配布する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

### その他 / Others

大学や担当教員からのメール・お知らせを定期的を確認すること。

## 演習 C5

Seminars C5

日独における越境の文化

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN105
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2021 年度まで「演習 C5（メディア文化・ユダヤ文化）」

### 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏を対象とする文化研究の分野で、卒業論文を執筆することを前提とし、自分でテーマを設定、調査・研究し、その成果を論文としてまとめ上げるための方法を実践的に学ぶ。

In the field of German cultural studies students will select their research topics, they will learn and practice investigating them and organizing their results in thesis.

### 授業の内容 / Course Contents

「日独における越境の文化」を大きなテーマとする C5, C6 では、ゼミ生の発表と討論を中心に授業を進めていく。ゼミ生は3年間の主体的な学びを通じて、自ら探究したいテーマを見つけ、最終的に卒業論文を執筆する。自由研究発表のみならず、全員で同じテキストを読み、特定のテーマについて共に考えるという経験も重視する。春学期には、共通テキストを分担して読んでいく。秋学期には、2年生と3年生は自由研究発表を行う。4年生は両学期ともに、卒論構想について発表を行う。

共通テキストは、教員の関心領域—①20世紀のドイツ・ユダヤ思想、芸術運動、戦時と戦後の文化、②近代ヨーロッパ（ドイツ）における非西洋文化の表象や受容、ユートピア思想、コスモポリタニズム思想の系譜、③

日本とドイツの交流史や日独比較対照研究—に関わるものを選ぶが、ゼミ生の研究テーマはそれに縛られる必要はない。

2024年度春学期は、戦後のドイツと日本における戦争の記憶をテーマとする。

In both seminars C5 & C6, with a general theme “transculture in modern Germany and Japan”, students will present their own research topics and all attendees will discuss these topics. Through three years of autonomous learning seminar students find the theme they want to explore for the graduation thesis. In the spring semester students read basic literature (from the field of German cultural studies) together. In the fall semester second year students and third year students present their research topics. Fourth year students should present their graduation thesis in both semesters.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：履修上の注意・ガイダンスと導入講義（1）
- 2回：導入講義（2）
- 3回：学生発表と討議（1）
- 4回：学生研究発表と討議（2）
- 5回：学生研究発表と討議（3）
- 6回：学生研究発表と討議（4）
- 7回：学生研究発表と討議（5）
- 8回：学生研究発表と討議（6）
- 9回：学生研究発表と討議（7）
- 10回：学生研究発表と討議（8）
- 11回：学生研究発表と討議（9）
- 12回：学生研究発表と討議（10）
- 13回：学生研究発表と討議（11）
- 14回：学生研究発表と討議（12）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

口頭発表は指定された期日までに概要を提出し指導を受けたうえで行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プロトコル・出席および授業への積極的参加:30% 口頭発表:35% 最終レポート割合：:35%

正当な理由なく3回以上欠席した場合、また口頭発表を正当な理由なく欠席した場合、成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

## 演習 C6

Seminars C6

日独における越境の文化

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「演習 C6（メディア文化・ユダヤ文化）」

### 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏を対象とする文化研究の分野で、卒業論文を執筆することを前提とし、自分でテーマを設定、調査・研究し、その成果を論文としてまとめ上げるための方法を実践的に学ぶ。

In the field of German cultural studies students will select their research topics, they will learn and practice investigating them and organizing their results in thesis.

### 授業の内容 / Course Contents

「日独における越境の文化」を大きなテーマとする C5, C6 では、ゼミ生の発表と討論を中心に授業を進めていく。ゼミ生は3年間の主体的な学びを通じて、自ら探究したいテーマを見つけ、最終的に卒業論文を執筆する。自由研究発表のみならず、全員で同じテキストを読み、特定のテーマについて共に考えるという経験も重視する。春学期には、共通テキストを分担して読んでいく。秋学期には、2年生と3年生は自由研究発表を行う。4年生は両学期ともに、卒論構想について発表を行う。

共通テキストは、教員の関心領域—①20世紀のドイツ・ユダヤ思想、芸術運動、戦時と戦後の文化、②近代ヨーロッパ（ドイツ）における非西洋文化の表象や受容、ユートピア思想、コスモポリタニズム思想の系譜、③

日本とドイツの交流史や日独比較対照研究—に関わるものを選ぶが、ゼミ生の研究テーマはそれに縛られる必要はない。

In both seminars C5 & C6, with a general theme “transculture in modern Germany and Japan”, students will present their own research topics and all attendees will discuss these topics. Through three years of autonomous learning seminar students find the theme they want to explore for the graduation thesis. In the spring semester students read basic literature (from the field of German cultural studies) together. In the fall semester second year students and third year students present their research topics. Fourth year students should present their graduation thesis in both semesters.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：履修上の注意・ガイダンスと導入講義（1）
- 2 回：導入講義（2）
- 3 回：学生発表と討議（1）
- 4 回：学生研究発表と討議（2）
- 5 回：学生研究発表と討議（3）
- 6 回：学生研究発表と討議（4）
- 7 回：学生研究発表と討議（5）
- 8 回：学生研究発表と討議（6）
- 9 回：学生研究発表と討議（7）
- 10 回：学生研究発表と討議（8）
- 11 回：学生研究発表と討議（9）
- 12 回：学生研究発表と討議（10）
- 13 回：学生研究発表と討議（11）
- 14 回：学生研究発表と討議（12）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

口頭発表は指定された期日までに概要を提出し指導を受けたうえで行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プロトコル・出席および授業への積極的参加:30% 口頭発表:35% 最終レポート割合 :35%

正当な理由なく3回以上欠席した場合、また口頭発表を正当な理由なく欠席した場合、成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

## 演習 C7

Seminars C7

言語文化

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

秋学期以降の授業および卒業論文執筆で必要になるドイツ語論文読解力の養成、テキスト音読と口頭練習を通じてドイツ語の正確な発音・イントネーションを習得する。

Students will cultivate their ability to read thesis in German required for lessons and thesis writing after fall semester begins.

### 授業の内容 / Course Contents

毎回1ないし2本、ドイツ語のテキストを和訳・提出し、授業ではその解説を行うと同時に、テキスト音読と文法事項口頭練習も訓練する。

必要に応じて随時追加の課題も課される。また休暇中も課題は継続して行う。

Each time, students will translate one or two text from German into Japanese and submit the translation. During lesson, students will receive explanations and practice reading these texts out loud.

If necessary, additional assignments will be given. Assignments will continue into holiday.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テキスト読解第1回
- 2回：テキスト読解第2回
- 3回：テキスト読解第3回
- 4回：テキスト読解第4回
- 5回：テキスト読解第5回
- 6回：テキスト読解第6回
- 7回：テキスト読解第7回
- 8回：テキスト読解第8回
- 9回：テキスト読解第9回
- 10回：テキスト読解第10回
- 11回：テキスト読解第11回
- 12回：テキスト読解第12回
- 13回：テキスト読解第13回
- 14回：テキスト読解第14回

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週授業時に課題を提出。返却された課題の復習，テキストの音読練習をして授業に臨む。

休暇中にも課題がある。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題:100%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。毎週提出の独文和訳課題とその再提出課題もふくめ、提出した「すべての課題」が「みました」マークをもらうことを単位修得の条件とする。

#### テキスト / Textbooks

プリント配布

#### 参考文献 / Readings

1年次ドイツ語入門教科書とドイツ文法総まとめを持参

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

インストラクションどおりに行動できること，毎週の課題提出の納期を守ること。

## 演習 C8

Seminars C8

言語文化

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN108  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

『ドイツ記憶の場』を通して歴史的アイテムの評価が歴史を通じてどのように変化してきたかを探求する。それと並行して、テキストの読解課題、口頭練習も毎回行う。

Through "Sites of Memory in Germany", students will look for changes in valuation of historical items with passage of time. Skill up of reading ability will be continued like spring semester.

### 授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式で行う。『ドイツ記憶の場』収録の論文の担当箇所を発表する。また同時に春学期と同様に毎週の課題を提出する。

Seminar format will be used. Students will be assigned specific parts of thesis found in "Sites of Memory in Germany". At the same time, students will submit their weekly assignments.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：『ドイツ記憶の場』テーマ 1 a



- 3回：『ドイツ記憶の場』テーマ1b  
 4回：『ドイツ記憶の場』テーマ1c  
 5回：『ドイツ記憶の場』テーマ1d  
 6回：『ドイツ記憶の場』テーマ2a  
 7回：『ドイツ記憶の場』テーマ2b  
 8回：『ドイツ記憶の場』テーマ2c  
 9回：『ドイツ記憶の場』テーマ2d  
 10回：『ドイツ記憶の場』テーマ3a  
 11回：『ドイツ記憶の場』テーマ3b  
 12回：『ドイツ記憶の場』テーマ3c  
 13回：『ドイツ記憶の場』テーマ3d  
 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

課題を毎週提出する。休暇中も課題がある。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 課題:40% 最終レポート割合 : :30%最終テスト割合 : :0%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象とならなくなる。

#### テキスト / Textbooks

演習 C7 で配布・分担

#### 参考文献 / Readings

随時指示

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

インストラクションどおりに行動できること、毎週の課題提出の納期を守ること。

# 演習 C11

Seminars C11

比較文化

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文化とは何かを考え、体験し、自らを形成するために意識化する。ヨーロッパの中のドイツ文化を歴史的に位置づける、あるいは、アジアの中の日本文化と比較し考察する。そのための文献資料の調べ方、フィールドワークの方法、論の立て方を学ぶ。

Students will reflect upon the substance of cultures, experience them, and bring to their awareness the formation of themselves. Students will determine position of European German cultures in historical context or compare them to Japanese cultures in Asia. To do that, students will learn how to research literature documents, conduct field works, and construct theories.

## 授業の内容 / Course Contents

学生は自分が自由に選ぶテーマに基づいて研究発表を行ってよいが、最終的に卒業論文を書く、という前提で勉強を進めることが求められる。そのためにゼミでは以下のようなプロセスを経る。2 年次：春期は自分の関心に基づき自由にテーマを選び、主に日本語文献に基づいた考察を発表する。3 年次：自分のテーマに即したドイツ語文献を選び、その文献から引用・和訳しながら考察を発表する。4 年次：ドイツ語文献から適宜・和

訳しつつ、卒論の一部となる章・節を発表する。文学、文化、思想研究とは、テキストと事物を証拠とする実証的精神を養うことであり、証拠を求めて精神的にも物理的にも実際に体を動かしていくこと、つまり旅にも似た作業が必要になる。参加者には、折に触れて、博物館なり劇場なりまた神社仏閣へと足を運んでもらうことになるだろう。

Even though students are free to choose their research and presentation subjects, eventually they will have to write their graduation thesis. Students will advance their studies while bearing in mind of their thesis. Because of that, the seminar will be organized in the following processes. Year 2: In spring semester, students will choose subjects they are interested in. They will present their observations and findings based on literatures written in Japanese language. Year 3: Students will select literatures in German language suitable for their chosen subjects. Students will quote and translate these literatures into Japanese before presenting their observations and findings. Year 4: Whenever necessary, students will continue translating literatures from German to Japanese. They will present parts of the chapters and paragraphs from their graduation thesis. Researching literatures, cultures, and thoughts requires students to cultivate their mentalities to verify and provide evidences based on texts and items. Searching for evidences requires movements, mentally and physically, thus making it similar to travelling. Occasionally students may travel to museums, operas, shrines, or temples.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入＋学生発表
- 2 回：学生発表
- 3 回：学生発表
- 4 回：学生発表
- 5 回：学生発表
- 6 回：学生発表
- 7 回：学生発表
- 8 回：学生発表
- 9 回：学生発表
- 10 回：学生発表
- 11 回：学生発表
- 12 回：学生発表
- 13 回：学生発表
- 14 回：学生発表

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読み、またフィールドワークを行う。

1. 発表者は、発表の前週の金曜 12 時までにメーリングリストにて発表題目を知らせる。
2. 発表者は、発表の週の木曜 17 時までに草稿をメーリングリストにアップロードする。2. の締切を過ぎた場合、また発表当日の遅刻は、発表を認めない場合がある。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

---

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への参加度:40% 発表:30% 最終課題:30%

3回の無断欠席でもってD評価とする。

**テキスト / Textbooks**

---

なし。

**参考文献 / Readings**

---

参加者各々に適宜指示する。

# 演習 C12

Seminars C12

比較文化

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文化とは何かを考え、体験し、自らを形成するために意識化する。ヨーロッパの中のドイツ文化を歴史的に位置づける、あるいは、アジアの中の日本文化と比較し考察する。そのための文献資料の調べ方、フィールドワークの方法、論の立て方を学ぶ。

Students will reflect upon the substance of cultures, experience them, and bring to their awareness the formation of themselves. Students will determine position of European German cultures in historical context or compare them to Japanese cultures in Asia. To do that, students will learn how to research literature documents, conduct field works, and construct theories.

## 授業の内容 / Course Contents

学生は自分が自由に選ぶテーマに基づいて研究発表を行ってよいが、最終的に卒業論文を書く、という前提で勉強を進めることが求められる。そのためにゼミでは以下のようなプロセスを経る。2年次：春期・秋期ともに、自分の関心に基づき自由にテーマを選び、主に日本語文献に基づいた考察を発表する。3年次：自分のテーマに即したドイツ語文献を選び、その文献から引用・和訳しながら考察を発表する。4年次：ドイツ語文献

から適宜引用・和訳しつつ、卒論の一部となる章・節を発表する。文学、文化、思想研究とはテキストと事物を証拠とする実証的精神を養うことであり、証拠を求めて精神的にも物理的にも実際に体を動かしていくこと、つまり旅にも似た作業が必要になる。参加者には、折に触れて、博物館なり劇場なり、また神社仏閣へと足を運んでもらうことになるだろう。

Even though students are free to choose their research and presentation subjects, eventually they will have to write their graduation thesis. Students will advance their studies while bearing in mind of their thesis. Because of that, the seminar will be organized in the following processes. Year 2: In spring and autumn semesters, students will choose subjects they are interested in. They will present their observations and findings based on literatures written in Japanese language. Year 3: Students will select literatures in German language suitable for their chosen subjects. Students will quote and translate these literatures into Japanese before presenting their observations and findings. Year 4: Whenever necessary, students will continue adapting, quoting, and translating literatures from German to Japanese. They will present parts of the chapters and paragraphs from their graduation thesis. Researching literatures, cultures, and thoughts requires students to cultivate their mentalities to verify and provide evidences based on texts and items. Searching for evidences requires movements, mentally and physically, thus making it similar to travelling. Occasionally students may travel to museums, operas, shrines, or temples.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：学生発表 (1)
- 2 回：学生発表 (2)
- 3 回：学生発表 (3)
- 4 回：学生発表 (4)
- 5 回：学生発表 (5)
- 6 回：学生発表 (6)
- 7 回：学生発表 (7)
- 8 回：学生発表 (8)
- 9 回：学生発表 (9)
- 10 回：学生発表 (10)
- 11 回：学生発表 (11)
- 12 回：学生発表 (12)
- 13 回：学生発表 (13)
- 14 回：学生発表 (14)

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

卒論作成に向けて自ら勉強を進めること。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への参加度:40% 発表:30% 最終課題:30%

無断で授業を欠席した場合、3回の欠席でもってD評価とする。

---

**テキスト / Textbooks**

なし。

---

**参考文献 / Readings**

参加者各々に適宜指示する。

# ドイツ語表現演習 1 A

Seminars in German 1A

討論 1

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN201  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：   
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語基礎演習 1・2」の『DaF leicht』を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティブな運用能力を訓練する。

Following "DaF leicht" Preliminary Seminars in German 1 and 2, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

『DaF leicht』により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。教科書のテーマに沿って学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

なお、この科目は必修科目ではないが、履修する場合には、それぞれ A と B を同一教員が担当し、あわせて週 2 回開講の科目に相当するので、1 A と 1 B または 2 A と 2 B をセットで履修する。春学期 6 月に提出してもらう履修希望調査にもとづいてクラスを指定するので、掲示の指示に従うこと。



Students will practice advanced conversational skills in "DaF leicht". Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

Although this subject is not compulsory, the same professor will teach A and B when students enroll in the seminars. In total there will be 2 classes each week and students will enroll in either 1A-1B or 2A-2B. Class placement will be determined based on enrollment sheet submitted in June spring semester. Students should follow instruction on the notice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第16課
- 2回：DaF leicht 第16課
- 3回：DaF leicht 第17課
- 4回：DaF leicht 第17課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第18課
- 7回：DaF leicht 第18課
- 8回：DaF leicht 第19課
- 9回：DaF leicht 第19課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第20課
- 12回：DaF leicht 第20課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 複数回の授業内小テスト：50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.2 Klett 2015 9783126762564 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 1 B

Seminars in German 1B

討論 1

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN202  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：   
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語基礎演習 1・2」の『DaF leicht』を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティブな運用能力を訓練する。

Following "DaF leicht" Preliminary Seminars in German 1 and 2, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

『DaF leicht』により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。教科書のテーマに沿って学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

なお、この科目は必修科目ではないが、履修する場合には、それぞれ A と B を同一教員が担当し、あわせて週 2 回開講の科目に相当するので、1 A と 1 B または 2 A と 2 B をセットで履修する。春学期 6 月に提出してもらった履修希望調査にもとづいてクラスを指定するので、掲示の指示に従うこと。

Students will practice advanced conversational skills in "DaF leicht". Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

Although this subject is not compulsory, the same professor will teach A and B when students enroll in the seminars. In total there will be 2 classes each week and students will enroll in either 1A-1B or 2A-2B. Class placement will be determined based on enrollment sheet submitted in June spring semester. Students should follow instruction on the notice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第16課
- 2回：DaF leicht 第16課
- 3回：DaF leicht 第17課
- 4回：DaF leicht 第17課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第18課
- 7回：DaF leicht 第18課
- 8回：DaF leicht 第19課
- 9回：DaF leicht 第19課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第20課
- 12回：DaF leicht 第20課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 複数回の授業内小テスト：50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.2 Klett 2015 9783126762564 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 2 A

Seminars in German 2A

討論 1

ケルン, D. (KERN DANIEL S.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3812

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語基礎演習 1・2」の『DaF leicht』を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティブな運用能力を訓練する。

Following "DaF leicht" Preliminary Seminars in German 1 and 2, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

『DaF leicht』により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。教科書のテーマに沿って学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

なお、この科目は必修科目ではないが、履修する場合には、それぞれ A と B を同一教員が担当し、あわせて週 2 回開講の科目に相当するので、1 A と 1 B または 2 A と 2 B をセットで履修する。春学期 6 月に提出してもらった履修希望調査にもとづいてクラスを指定するので、掲示の指示に従うこと。

Students will practice advanced conversational skills in "DaF leicht". Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

Although this subject is not compulsory, the same professor will teach A and B when students enroll in the seminars. In total there will be 2 classes each week and students will enroll in either 1A-1B or 2A-2B. Class placement will be determined based on enrollment sheet submitted in June spring semester. Students should follow instruction on the notice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第16課
- 2回：DaF leicht 第16課
- 3回：DaF leicht 第17課
- 4回：DaF leicht 第17課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第18課
- 7回：DaF leicht 第18課
- 8回：DaF leicht 第19課
- 9回：DaF leicht 第19課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第20課
- 12回：DaF leicht 第20課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 複数回の授業内小テスト：50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.2 Klett 2015 9783126762564 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 2 B

Seminars in German 2B

討論 1

ケルン, D. (KERN DANIEL S.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN204

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3812

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語基礎演習 1・2」の『DaF leicht』を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティブな運用能力を訓練する。

Following "DaF leicht" Preliminary Seminars in German 1 and 2, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

『DaF leicht』により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。教科書のテーマに沿って学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

なお、この科目は必修科目ではないが、履修する場合には、それぞれ A と B を同一教員が担当し、あわせて週 2 回開講の科目に相当するので、1 A と 1 B または 2 A と 2 B をセットで履修する。春学期 6 月に提出してもらった履修希望調査にもとづいてクラスを指定するので、掲示の指示に従うこと。

Students will practice advanced conversational skills in "DaF leicht". Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

Although this subject is not compulsory, the same professor will teach A and B when students enroll in the seminars. In total there will be 2 classes each week and students will enroll in either 1A-1B or 2A-2B. Class placement will be determined based on enrollment sheet submitted in June spring semester. Students should follow instruction on the notice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：DaF leicht 第16課
- 2回：DaF leicht 第16課
- 3回：DaF leicht 第17課
- 4回：DaF leicht 第17課
- 5回：復習、小テスト
- 6回：DaF leicht 第18課
- 7回：DaF leicht 第18課
- 8回：DaF leicht 第19課
- 9回：DaF leicht 第19課
- 10回：復習、小テスト
- 11回：DaF leicht 第20課
- 12回：DaF leicht 第20課
- 13回：まとめ
- 14回：復習、最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況：50% 複数回の授業内小テスト：50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.2 Klett 2015 9783126762564 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 3 A

Seminars in German 3A

討論 2

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3812

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： 

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語表現演習 1・2」の studio [21] を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティブな運用能力を訓練する。

Following studio [21] Seminars in German 1 and 2, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

studio [21] により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。「外出と出会い」「田舎と都市」「文化を体験」などのテーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

Students will practice advanced conversational skills in studio [21]. Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and



enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects such as “going out and meeting people”, “villages and cities”, and “cultures and experiences”, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 2 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 3 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 4 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 5 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 6 回：studio [21] A2.1 Lektion 7 教科書 studio [21] A2.2 使用開始  
 7 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 8 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 9 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 10 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 11 回：studio [21] A2.2 Lektion 8  
 12 回：studio [21] A2.2 Lektion 8  
 13 回：studio [21] A2.2 Lektion 8  
 14 回：studio [21] A2.2 Lektion 8

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況:50% 複数回の授業内小テスト:50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

- Hermann Funk studio [21] A2.1 Cornnelsen 2014 9783065205870 ○  
 Hermann Funk studio [21] A2.2 Cornnelsen 2014 9783065205900 ○

### 参考文献 / Readings

- 中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）  
 井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 3 B

Seminars in German 3B

討論 2

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN206  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語表現演習 1・2」の studio [21] を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティブな運用能力を訓練する。

Following studio [21] Seminars in German 1 and 2, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

studio [21] により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。「外出と出会い」「田舎と都市」「文化を体験」などのテーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

Students will practice advanced conversational skills in studio [21]. Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and

enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects such as “going out and meeting people”, “villages and cities”, and “cultures and experiences”, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 2 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 3 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 4 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 5 回：studio [21] A2.1 Lektion 6  
 6 回：studio [21] A2.1 Lektion 7 教科書 studio [21] A2.2 使用開始  
 7 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 8 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 9 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 10 回：studio [21] A2.2 Lektion 7  
 11 回：studio [21] A2.2 Lektion 8  
 12 回：studio [21] A2.2 Lektion 8  
 13 回：studio [21] A2.2 Lektion 8  
 14 回：studio [21] A2.2 Lektion 8

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況:50% 複数回の授業内小テスト:50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

- Hermann Funk studio [21] A2.1 Cornnelsen 2014 9783065205870 ○  
 Hermann Funk studio [21] A2.2 Cornnelsen 2014 9783065205900 ○

### 参考文献 / Readings

- 中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）  
 井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 4 A

Seminars in German 4A

討論 3

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN207  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語表現演習 3」の studio [21] を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティヴな運用能力を訓練する。

Following studio [21] Seminars in German 3, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、studio [21] により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。「職業の世界」「祝祭」「感覚」「思想と発明」などのテーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

Students will practice advanced conversational skills in studio [21]. Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and

enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects such as “occupational world”, “celebration”, “feeling”, and “thought and invention”, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 2 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 3 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 4 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 5 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 6 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 7 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 8 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 9 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 10 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 11 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12
- 12 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12
- 13 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12
- 14 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況:50% 複数回の授業内小テスト:50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Hermann Funk studio [21] A2.2 Cornnelsen 2014 9780065205900 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 4 B

Seminars in German 4B

討論 3

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN208  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3812  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「ドイツ語表現演習 3」の studio [21] を引き継いで、ネイティブスピーカー教員のもとドイツ語のアクティヴな運用能力を訓練する。

Following studio [21] Seminars in German 3, students will work under a native German professors to practice their ability to use German language actively.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、studio [21] により、高度な会話能力を訓練する。文法や講読の詳細は「ドイツ文学・文化演習」をはじめとする他の科目にゆずって、ここではドイツ語を学んで実際に使う喜びが体験できるように心がけたい。「職業の世界」「祝祭」「感覚」「思想と発明」などのテーマについて学び考えながらドイツ語の運用をトレーニングしているうちに、未来時称、過去時称、接続法や再帰動詞などをどんどん使えるようになるのだから、楽しさは格別のはずだ。

Students will practice advanced conversational skills in studio [21]. Students will learn grammars and reading skills in detail in Seminars in German Literature and Culture and in other subjects. Students will practice and

enjoy what they have learnt here. Students will learn and think about various subjects such as “occupational world”, “celebration”, “feeling”, and “thought and invention”, while practicing their German skills. At the same time, students will enjoy and master future tense, past tense, subjunctive, and reflexive verb.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 2 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 3 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 4 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 5 回：studio [21] A2.2 Lektion 9
- 6 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 7 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 8 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 9 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 10 回：studio [21] A2.2 Lektion 10
- 11 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12
- 12 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12
- 13 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12
- 14 回：studio [21] A2.2 Lektion 11, 12

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示された課題の予習と、小テストのための復習

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況:50% 複数回の授業内小テスト:50%

正当な理由なく、欠席が3回になると成績評価の対象となくなる。

### テキスト / Textbooks

Hermann Funk studio [21] A2.2 Cornnelsen 2014 9780065205900 ○

### 参考文献 / Readings

中島悠彌・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003）（1年次に購入済）

井出万秀他『専門コースへのドイツ語文法』（1年次ドイツ語入門教科書）

# ドイツ語表現演習 5

Seminars in German 5

小論文

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文法的に正しく、論理的なドイツ語の論文を書く。

To write academic essays in German correctly and logically.

## 授業の内容 / Course Contents

起承転結のある論文を、ドイツ語で執筆するための基礎を学ぶ。

Learn basic principal expressions suitable for academic essays.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Hausarbeit-Abstract-Handout Einstieg

2 回：Einen großen Wortschatz aufbauen-So finden Sie die richtigen Wörter im Aufsatz

3 回：Wenn Sie nicht „sagen“ sagen wollen-Synonyme

4 回：Mehr Abwechslung in Satzanfängen



- 5 回： passende Synonyme zum Verb „gehen“  
 6 回： Vorschläge für Einleitung, Hauptteil und Schluss  
 7 回： 125 Adjektive für eine Charakterisierung  
 8 回： Redemittel für wissenschaftliche Texte verstehen und korrekt anwenden  
 9 回： Schreibprozess vorbereiten Sprachmittel und Themenfindung  
 10 回： Sprachstil analysieren-Was wird wie bewertet?  
 11 回： Mit eigenen Texten arbeiten- Fehleranalyse  
 12 回： Mit eigenen Texten arbeiten- Fehleranalyse  
 13 回： Mit eigenen Texten arbeiten- Fehleranalyse  
 14 回： Abschlussdiskussion und Evaluation

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講の前提として、ドイツ語の基礎的文法をマスターしていることが必要となる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と課題の提出状況:60% 最終レポート割合：:40%

正当な理由なく3回を超えて欠席した場合、成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

授業の作例課題は事前に Google Drive にアップする。また必要に応じてプリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

参考文献は授業中に指示する。各自独和辞典（紙媒体）を購入して使用することを強く勧める。

### その他 / Others

作例提出や授業に関する連絡は原則として Canvas LMS を通して行うので、毎週最低1回は必ず該当のサイトを確認すること。

Viel Spaß beim Deutschlernen.

# ドイツ語表現演習 6

Seminars in German 6

小論文

ムレンス ゴリ (MUELENZ-GOLIK.)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN210  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2 年次生はプレイスメントテストの受験が必要

## 授業の目標 / Course Objectives

これまでに学んだドイツ語の知識に基づき、卒業論文のドイツ語要約（Resümee）を作成できる論述文（diskursiver Text）作成の高度な知識とスキルの獲得をめざす。

In this class, based on German language skills students have learnt, students will learn and acquire advanced skills to write discursive texts (i.e. diskursiver Text), essential when writing graduation thesis summary (i.e. Resümee) in German.

## 授業の内容 / Course Contents

授業では、「文段（パラグラフ）＝論述文の基本単位」という発想をもとに課題を設定し、その課題について受講者全員に作例を作成・提出してもらう。その上で提出された作例を具体的に検討してゆく。毎週の作例提出（授業前々日までに提出）が履修の前提となる。

The class assumes each paragraph as a basic unit of diskursiver Text. Everyone will create and submit their works on the topic. In addition, submitted works will be discussed in detail. Each week students must submit their works.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：ガイダンスと導入：論述文とは何か・文段（パラグラフ）とは何か  
 2 回：論述文の語彙：作例検討（1）  
 3 回：論述文の語彙：作例検討（2）  
 4 回：論述文の語彙：作例検討（3）  
 5 回：論述文の語彙：作例検討（4）  
 6 回：論述文の語彙：作例検討（5）  
 7 回：論述文の語彙：作例検討（6）  
 8 回：論述文の論理：作例検討（7）  
 9 回：論述文の論理：作例検討（8）  
 10 回：論述文の修辞：作例検討（9）  
 11 回：論述文の修辞：作例検討（10）  
 12 回：総合：作例検討（11）  
 13 回：総合：作例検討（12）  
 14 回：総括と展望

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

受講前に「ドイツ語入門」と「ドイツ語基礎演習」の教材を復習し、特に文法知識を確実なものとしておくこと。また、毎回全員が作例の作成と事前提出を義務づけられているので、これが予習となる。第1回の授業の前に、Canvas LMS で指示される注意事項等を必ず読み、指示に従って事前の作業をしておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と課題の提出状況：60% 最終レポート割合：40%

正当な理由なく3回を超えて欠席した場合、成績評価の対象としない。

**テキスト / Textbooks**

授業の作例課題は事前に Google Drive にアップする。また必要に応じてプリントを配布する。

**参考文献 / Readings**

参考文献は授業中に指示する。各自独和辞典（紙媒体）を購入して使用することを強く勧める。

**その他 / Others**

作例提出や授業に関する連絡は原則として Canvas LMS を通して行うので、毎週最低1回は必ず該当のサイトを確認すること。

Viel Spaß beim Deutschlernen.

# ドイツ文学・文化演習 1

Seminars in German Literature and Culture 1

韻文

日名 淳裕 (HINA ATSUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN211

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近現代ドイツ語抒情詩の代表的作品を通史的に読むことによって、詩形式・韻律・音韻的技術に関する知識を習得すると同時に、文芸ジャンルとしての抒情詩が近代から現代にかけてどのように受け継がれたのか、また変わっていったのかを考える。

By reading representative works of modern and contemporary German lyric poetry in a historical perspective, students will acquire knowledge of verse form, prosody, and phonological techniques, and at the same time consider how lyric poetry as a literary genre has been passed down and changed from the modern period to the present.

## 授業の内容 / Course Contents

演習形式の授業である。授業で扱うドイツ語の詩について、担当者が事前に用意した翻訳を使って、ドイツ語の原文を一語一語文法的に正しく理解できているのか検討する。その上で、作品がもつ外形的特徴、音楽、詩の主題について全員で議論する。個々の詩を理解する上で必要となる情報（作者、時代、詩形式、韻律、音韻的技術）は教員が説明する。

This is an exercise-style class. Using translations of German poems prepared in advance, students will examine whether they have a correct grammatical understanding of each word of the original German text. We will then discuss the external characteristics of the work, the music, and the subject matter of the poem. Information necessary for understanding individual poems (author, period, verse form, prosody, and phonological technique) will be explained by the instructor.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の進め方、訳読の担当、テキスト配布、参考文献紹介）  
ーゲーテの詩「プロメテウス (Prometheus)」と「至福のあこがれ (Selige Sehnsucht)」
- 2回：ロマン派の詩人たち ー布伦ターノ、ノヴァーリス、ヘルダーリン、アイヒェンドルフ
- 3回：ハイネとニーチェ ー「ローレライ (Ich weiß nicht, was soll es bedeuten)」と「新しいコロンブス (Der neue Columbus)」
- 4回：自然主義、印象主義、新ロマン主義の詩人たち ーホルツ、デーメル、リーリエンクロン、レーナウ、シュピッテラー
- 5回：ホーフマンスタールとゲオルゲ ー詩「少なくない者がもちろん... (Manche freilich...)」と「おいで、死んだと呼ばれた庭園に (Komm in den totesagten park und schau)」
- 6回：リルケの詩「回転木馬 (Das Karussell)」と「古代アポロのトルソー (Archaischer Torso Apollos)」
- 7回：表現主義、ダダイズムの詩人たち ーホッディス、ラスカー＝シューラー、ボルト、シュタードラー、バル、シュヴィッターズ
- 8回：トラークルの詩「滅び (Verfall)」と「嵐 (Das Gewitter)」
- 9回：ベンとブレヒト ー「失われた自我 (Verlorenes Ich)」と「後に生まれた者たちに (An die Nachgeborenen)」
- 10回：戦後詩人たち ーアイヒ、フリート、ザックス、フューマン、フーヘル、ボブロフスキー
- 11回：ツェランとバッハマン ー「音節 苦痛 (Die Silbe Schmerz)」と「遊びは終わり (Das Spiel ist aus)」
- 12回：カシュニッツとアイヒンガー ー「ヒロシマ (Hiroshima)」と「街の中心 (Stadtmitte)」
- 13回：現代詩人たち ヤンドル、マイレッカー、パステイオール、クリング、バイヤー
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表（テキストの訳読・議論）:40% リアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位習得不可。リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。

**テキスト / Textbooks**

テキストは授業時間内にプリントで配布する。

**参考文献 / Readings**

参考文献は授業時間内に指示する。

**その他 / Others**

初回到授業の進め方を説明するので必ず出席するように。

# ドイツ文学・文化演習101

Seminars in German Literature and Culture 101

日独比較文化

林 志津江 (HAYASHI SHIZUE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN231

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

授業全体でひとつづきになっているドイツ語の文章を読解します。卒論執筆に向けて必要なドイツ語運用能力のうち、読解の力をブラッシュアップするとともに、歴史や政治が、いかにして人々の生活や思考、文化や社会の形成に影響を与えるのか、それらを反省的に思考できる力の獲得を目指します。

Students will read and comprehend German original text sets. Students will improve their German reading/language skill to prepare for their graduation thesis. At the same time, they will acquire ability to reflect upon impacts of history and politics modern population's lifestyles, thoughts, cultural phenomena and societies.

## 授業の内容 / Course Contents

周知の通り、第二次世界大戦後に国土が東西に分断したドイツは「ベルリンの壁」という稀有な状況に遭遇しました。そして再統一後から 30 余年を経た今、かつて冷戦の最前線に立ったベルリンとドイツの歴史は、現在の日本に住む私たちにとっていかなる意味を持つのでしょうか。この授業では、ベルリンの壁の建立と崩壊に至るまでの経緯を、平易なドイツ語で振り返りながら、東西ドイツ戦後史の一端を学びます。

各回は輪読形式で進め、テキストの内容を参加者全員で検討します。

After the Fall of the the Berlin Wall and the reunion of East and West Germany, more than thirty years later, many of their stories have faded. But we are now faced with another conflicts and climate of division - in the age of pandemic and economic disparity nowadays - how could we now reflect "the history of the Berlin Wall" from the view of the contemporary Japanese Society?

Each lesson will advance based on presentations of selected students. Each time, selected students will create materials to be distributed, complete with translation, grammars, and notes of specified parts. They will make presentation based on these materials. After the presentations by these students, all students will discuss the text contents.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション (授業の進め方についての説明、ドイツ戦後史の概観)
- 2 回：テキスト講読と内容の検討 (1)
- 3 回：テキスト講読と内容の検討 (2)
- 4 回：テキスト講読と内容の検討 (3)
- 5 回：テキスト講読と内容の検討 (4)
- 6 回：テキスト講読と内容の検討 (5)
- 7 回：テキスト講読と内容の検討 (6)
- 8 回：テキスト講読と内容の検討 (7)
- 9 回：テキスト講読と内容の検討 (8)
- 10 回：テキスト講読と内容の検討 (9)
- 11 回：テキスト講読と内容の検討 (10)
- 12 回：テキスト講読と内容の検討 (11)
- 13 回：テキスト講読と内容の検討 (12)
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各回の授業時間外学習時間として、2時間以上 (準備時間・復習時間各1時間以上) を標準とします。
- ・前回の授業で扱った日本語訳と文法についてしっかり見直しを行うとともに、次回部分を読んてくること。見直しや予習の際には音読練習も行ってください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表 (担当箇所の分担) および授業への積極的な参加と貢献:30% 予習および授業後の振り返り (課題提出) :30% 最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

平井正・Wolfgang Brenn Die Geschichte der Berliner Mauer. 白水社 1991 -

- ・初回授業開始までにテキストのデータを配布 (Google Classroom にアップロード) します。
- ・著者はどちらも、かつて立教大学文学部ドイツ文学科 (現文学部文学科ドイツ文学専修) で教鞭をとってお



られた先生（名誉教授および元教授）です。

### 参考文献 / Readings

河合信晴 『物語 東ドイツの歴史』 中央公論新社 2020 9784121026156

石田勇治 『図説 ドイツの歴史』 河出書房新社 2007 9784309761053

森井裕一 『ドイツの歴史を知るための 50 章』 明石書店 2016 9784750344133

・ドイツ帝国の成立からナチの政権奪取、第二次世界大戦での敗戦に至るまで、ドイツと欧州の 19～20 世紀の歴史を、大まかでいいので予め復習しておきましょう。

・上記の歴史と並行して、当時の日本とアジア～ユーラシア大陸の国々（特に東南・東アジア諸国）の歴史を、やはり大まかでいいので知っておくと良いでしょう。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

・学習用独和辞典

・1 年次から使用している文法の教科書／中島悠爾平尾浩三、朝倉巧（著）『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）

以上の 2 点ないし 3 点は必携です。

### その他 / Others

・授業には Google Classroom を利用します。

・原則として、授業の無断欠席や度重なる遅刻については、即時に評価の対象外となります。

・原則として正当な理由なく授業を 3 回以上欠席した人は、その時点で評価の対象外となります。

# ドイツ文学・文化演習103

Seminars in German Literature and Culture 103

メディア文化・表象文化

相馬 大樹 (SOMA DAIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN233

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「ドイツ文学・文化演習 103（都市文化・表象文化）」

## 授業の目標 / Course Objectives

メディア文化・表象文化に関する基礎的な知識を身につける。

Students will acquire basic knowledge about media culture and Studies of Culture and Representation.

## 授業の内容 / Course Contents

メディア文化・表象文化に関するドイツ語文章（エッセイ、雑誌記事、新聞記事など）を辞書や参考書を使いながら読む。授業では文法、構文、発音、語彙などの確認、説明を交えながら、精読と要約が中心となる予定。毎回の予習および復習が必須となる。

Students will read German texts (essays, magazine articles, newspaper articles, etc.) using dictionaries and reference books. The class will focus on reading and summarization, while checking and explaining grammar, syntax, pronunciation, vocabulary, etc. Preparation and review will be required for every session.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：訳読・発表・議論(1)

- 3回：訳読・発表・議論(2)  
 4回：訳読・発表・議論(3)  
 5回：訳読・発表・議論(4)  
 6回：訳読・発表・議論(5)  
 7回：訳読・発表・議論(6)  
 8回：訳読・発表・議論(7)  
 9回：訳読・発表・議論(8)  
 10回：訳読・発表・議論(9)  
 11回：訳読・発表・議論(10)  
 12回：訳読・発表・議論(11)  
 13回：訳読・発表・議論(12)  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回必ず予習をし、担当となった課題を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 予習の状況:30% 授業内発表:30% 最終レポート割合：:40%

正当な理由なく3回欠席した場合、成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

テキストはコピーを配布する。詳細は初回授業で説明する。

### 参考文献 / Readings

中島・平尾・朝倉 『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』 白水社 2003 9784560004920

その他必要な参考文献がある場合は、授業内で指示する。

# ドイツ文学・文化演習 105

Seminars in German Literature and Culture 105

ドイツと異文化

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN235

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「ドイツ文学・文化演習 105（メディア文化・ユダヤ文化）」

## 授業の目標 / Course Objectives

旅行記、文学や美術に関わる文化評論、さらに政治的プロパガンダなど、さまざまな種類のテキストを精読し、高度なドイツ語読解能力を習得する。また、異文化表象という観点からドイツ語圏文化の理解を深めることを目標とする。

Students will acquire advanced German reading skills through close reading of various types of texts, including travelogues, cultural criticism on literature and art, and political propaganda. The class also aims to deepen students' understanding of German-speaking cultures in terms of cross-cultural representations.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツと日本は歴史的にどのような関係を結び、どのように交流してきたのか。また、ドイツにおいて日本はどのように見られ、表象されてきたのか。授業では、このテーマに関わる、17 世紀から 20 世紀までの代表的なドイツ語文献（抜粋）を読んでいく。鎖国の時代から、相互関係が深まる 20 世紀に至るまでの日本像の変遷をたどりつつ、異文化を学ぶことの意義を考える。

What is the historical relationship between Germany and Japan, and how have they interacted with each other?

How has Japan been represented in Germany? Students will read a selection of representative German documents from the 17th to the 20th century that relate to this theme, and consider the significance of studying different cultures.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：テキスト講読と内容の検討（1）
- 3回：テキスト講読と内容の検討（2）
- 4回：テキスト講読と内容の検討（3）
- 5回：テキスト講読と内容の検討（4）
- 6回：テキスト講読と内容の検討（5）
- 7回：テキスト講読と内容の検討（6）
- 8回：テキスト講読と内容の検討（7）
- 9回：テキスト講読と内容の検討（8）
- 10回：テキスト講読と内容の検討（9）
- 11回：テキスト講読と内容の検討（10）
- 12回：テキスト講読と内容の検討（11）
- 13回：テキスト講読と内容の検討（12）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員が毎回必ず予習をすること、担当者は日本語訳と文法解説、さらに内容的な補足説明を準備すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 授業への参加態度:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# ドイツ文学・文化演習109

Seminars in German Literature and Culture 109

伝承・物語

吉原 素子 (YOSHIHARA MOTOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN239  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

グリム童話の原文を詳細に読み、Märchen の特質を学ぶ。

Students will read carefully Grimm's Märchen in original language to learn about Märchen characteristics.

## 授業の内容 / Course Contents

グリム童話より数編を詳細に読む。版ごとの違いを読み取る。他の国の昔話との比較をする。研究文献を読み、理解を深める。毎回、訳文を提出してもらう。

Students will read carefully several stories of Grimm's Märchen. Students will look for differences among different versions. Students will compare Grimm's tales with those from other countries. Students will read research literatures to deepen their understanding. Each time students will submit their translations.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

『聞いて読む初版グリム童話』の「グリム童話への手引き」を読み、Märchen、グリム童話についての全体像をつかむ

- 2回：KHM1 かえるの王さま（1）  
 3回：KHM1 かえるの王さま（2）  
 4回：KHM50 いばら姫（1）  
 5回：KHM50 いばら姫（2）  
 6回：KHM50 いばら姫（3）  
 7回：KHM26 赤ずきん（1）  
 8回：KHM26 赤ずきん（2）  
 9回：KHM26 赤ずきん（3）  
 10回：Max Lüthi: Dornröschen  
 11回：KHM12 ラプンツェル（1）  
 12回：KHM12 ラプンツェル（2）  
 13回：KHM12 ラプンツェル（3）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

グリム童話 200 話を読んでおくこと（日本語訳）

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の訳文提出:30% 発表:20% 授業への出席・参加:20% 最終レポート割合 :30%

#### テキスト / Textbooks

Brüder Grimm Kinder- und Hausmärchen. 3Bde. Reclam 2010 9783150300428 -

野村法 訳 『完訳グリム童話集』全7巻 筑摩書房 2005 4480421424 -

吉原高志、吉原素子 『聞いて読む初版グリム童話』 白水社 2010 9784560085356 ○

プリントを配布する。

#### 参考文献 / Readings

マックス・リュウティ 『昔話の本質と解釈』 福音館書店 1966 4834013545

# ドイツ文学・文化演習 1 1 1

Seminars in German Literature and Culture 111

比較文化

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN241

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語の様々なテキストを、文法に則して正確に理解し、適切な日本語に訳出する。

The seminar focuses on reading German text correctly and translating into Japanese precisely.

## 授業の内容 / Course Contents

『ドイツ文化読本』（丸善出版 2024 年）で紹介される様々な文献をドイツ語の原文にて読む。

To read some quoted texts from Doitsu Bunka Tokuhon (Maruzen, 2024) in German.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：音読と訳出（1）

2 回：音読と訳出（2）

3 回：音読と訳出（3）

4 回：音読と訳出（4）

5 回：音読と訳出（5）

6 回：音読と訳出（6）



- 7回：音読と訳出（7）  
 8回：音読と訳出（8）  
 9回：音読と訳出（9）  
 10回：音読と訳出（10）  
 11回：音読と訳出（11）  
 12回：音読と訳出（12）  
 13回：音読と訳出（13）  
 14回：音読と訳出（14）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ドイツ語のテキストを音読し、正しく理解する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席態度:40% 予習:40% 最終テスト割合：:20%

3回の欠席でもってD評価とする。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

坂本貴志 『ドイツ文化読本』 丸善出版 2024 9784621308745

相良守峯編博友社刊『独和辞典』か、小学館『独和大辞典』を使って予習すること。

# ドイツ文学・文化演習 8

Seminars in German Literature and Culture 8

検定ドイツ語

櫻井 麻美 (SAKURAI MAMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN249

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2 年次生はプレイスメントテストの受験が必要

## 授業の目標 / Course Objectives

CEFR B1 以上、ドイツ語技能検定試験（独検）2 級以上で必要とされる文章読解力、文章作成力、リスニング力を身に付け、語彙の増加を目指します。

Students will work towards advanced comprehension, writing and listening skills and increasing vocabulary, equivalent to CEFR B1 and Diplom Deutsch in Japan grade 2 or higher.

## 授業の内容 / Course Contents

公開されている Zertifikat B1 と B2、独検 2 級と準 1 級の問題を使い、文構造を把握しながら読み解き、これを日本語で正確に再現する力、ならびに指定されたポイントに沿って正確なドイツ語で文章を構成する力を養います。受講者は、毎週、指定されたテキストの和訳あるいは独作文を提出します。提出された課題は、添削後、次の週に返却し、授業内でフィードバックを行います。間違いが多い場合、再提出を求めることがあります。並行して、聞き取り問題、文法・語彙問題にも取り組みます。毎週、単語テストを行います。

Students will use actual texts found in Zertifikat B1 and B2, Diplom Deutsch in Japan grade 2 and grade pre-1.

Students will read these texts carefully, understand their text structures, and practice rephrasing them in

Japanese accurately. Further, Students will train to write texts in German. Students must submit specified translation or writing assignment every week. Assignments submitted by students will be edited and returned the next week. Explanations about key points will be given. If there are too many errors in assignments, students will be asked to redo them. In addition, students will also work on listening exercise, grammar and vocabulary quizzes. Each week there will be vocabulary test.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：授業概要、検定試験の概要、使用するプリントの配布

文法・語彙問題(0)〔初見〕、聞き取り練習(1)

次週までの課題：和訳(1)、文法・語彙問題(1)

2回：和訳(0)〔初見〕、文法・語彙問題(1)、聞き取り練習(2)

提出：和訳(1)

次週までの課題：和訳(2)、文法・語彙問題(2)

3回：返却・解説：和訳(1)

文法・語彙問題(2)、聞き取り練習(3)

提出：和訳(2)

次週までの課題：和訳(3)、文法・語彙問題(3)

4回：返却・解説：和訳(2)

文法・語彙問題(3)、聞き取り練習(4)

提出：和訳(3)

次週までの課題：和訳(4)、文法・語彙問題(4)

5回：返却・解説：和訳(3)

文法・語彙問題(4)、聞き取り練習(5)

提出：和訳(4)

次週までの課題：和訳(5)、文法・語彙問題(5)

6回：返却・解説：和訳(4)

文法・語彙問題(5)、聞き取り練習(6)

提出：和訳(5)

次週までの課題：和訳(6)、文法・語彙問題(6)

7回：返却・解説：和訳(5)

文法・語彙問題(6)、聞き取り練習(7)

提出：和訳(6)

次週までの課題：和訳(7)、文法・語彙問題(7)

8回：返却・解説：和訳(6)

文法・語彙問題(7)、聞き取り練習(8)

提出：和訳(7)

次週までの課題：和訳(8)、文法・語彙問題(8)

9回：返却・解説：和訳(7)

文法・語彙問題(8)、聞き取り練習(9)

提出：和訳(8)

次週までの課題：和訳(9)、文法・語彙問題(9)

10回：返却・解説：和訳(8)

文法・語彙問題(9)、聞き取り練習(10)

提出：和訳(9)

次週までの課題：独作文(1)、文法・語彙問題(10)

11回：返却・解説：和訳(9)

文法・語彙問題(10)、聞き取り練習(11)

提出：独作文(1)

次週までの課題：独作文(2)、文法・語彙問題(11)

12回：返却・解説：独作文(1)

文法・語彙問題(11)、聞き取り練習(12)

提出：独作文(2)

次週までの課題：独作文(3)、文法・語彙問題(12)

13回：返却・解説：独作文(2)

文法・語彙問題(12)、聞き取り練習(13)

提出：独作文(3)

次週までの課題：文法・語彙問題(13)

14回：返却・解説：独作文(3)

文法・語彙問題(13)、聞き取り練習(14)

まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

語彙、イディオム等は、各自で積極的に増やしていくこと。和訳テキストや文法・語彙問題に出てきた重要語句については、次の週に小テストを行い、習熟度を確認します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 和訳課題の内容:50% 授業参加態度:20% 小テスト:30%

提出課題で機械翻訳・AI翻訳を使用したことが1度でも判明した場合、この授業の成績評価の対象とはしません。3回以上無断欠席をした場合、履修を放棄したものとみなします。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に担当教員に連絡すること。また、欠席する場合でも課題は必ず提出すること。

### テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

在間進 『リファレンス・ドイツ語』 第三書房/郁文堂 2017 9784261073553

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧 『必携ドイツ文法総まとめ〔改訂版〕』 白水社 2003 9784560004920

その他の参考書等についてもリクエストに応じて随時紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

必ずしも取得している必要はないが、CEFR A2 あるいはドイツ語技能検定3級程度のドイツ語力があることが

望ましい。

**その他/ Others**

やむを得ず欠席する場合等の連絡先については、初回の授業の際に指示します。

# ドイツ文学・文化演習 2

Seminars in German Literature and Culture 2

思想・評論

西岡 あかね (NISHIOKA AKANE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN252  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

下記テキストの講読を通じて、ドイツ語力の定着をはかりつつ、現代ドイツ社会におけるマイノリティーの問題を理解することを目標とする。

By reading the following texts carefully, students will further master their German language skills. Students will work to understand problems of minority in the current German society.

## 授業の内容 / Course Contents

下記テキストを輪読しながら、そこに出てくる重要なキーワード（出来事、人名、概念等）について、担当者による発表を随時行う。

Students will read the following texts in turn. Selected students will present important keywords found in these texts (events, people, terms etc.)

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：授業の目標と進め方の説明／担当者の決定／テーマの説明と関連動画の視聴／

## 209-210 頁の精読

2 回：210-212 頁を精読

3 回：212-214 頁を精読

4 回：214-216 頁を精読

5 回：216-218 頁を精読

6 回：218-219 頁を精読／中間のまとめ

7 回：219-221 頁を精読

8 回：221-223 頁を精読

9 回：223-224 頁を精読／関連動画の視聴とソングテキストの検討 1

10 回：関連動画の視聴とソングテキストの検討 2 / 224-225 頁を精読

11 回：225-227 頁の精読

12 回：227-229 頁の精読

13 回：229-232 頁を精読

14 回：テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回ドイツ語のテキストを事前にしっかり読んで授業に臨むこと。担当者以外の参加者も、必ず全員が予習をしておくことが求められる。授業中は、ドイツ語の訳出を担当者以外にランダムにあてることもあるので、そのつもりで準備をすること。単に辞書を引くだけでなく、文法事項や分の構造など、自分で理解できるまでテキストを読みこんでおくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（割り振られた課題をきちんとこなしているか、授業中の議論・発表に積極的に参加しているか）：60% 最終テスト割合：40%

**テキスト / Textbooks**

Hadija Haruna-Oelker Die Schönheit der Differenz: Miteinander anders denken btb 2003 3593373637 -  
そのほかにラップのソングテキストも使用します。使用テキストはすべて配布します。

**参考文献 / Readings**

参考文献は教場で指示します。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

中級以上のドイツ語の読解能力が求められる。

# ドイツ文学・文化演習3

Seminars in German Literature and Culture 3

児童文学

吉原 素子 (YOSHIHARA MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN253

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語で書かれた子どもの本を読んで、その特質、大人の本との違い、子どもの本の意義を考える。

By reading German children books, students study the characteristics of them, the difference between books for children and those for adults, and the significance of children books.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツ語で書かれた子どもの本を、歴史の流れに沿って、原文で読む。毎回、訳文を提出する。

Students read German children books along history. They must submit translations before every class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

ドイツの子どもの本の歴史の概観

2 回：ホフマン『もじゃもじゃペーター』

3 回：ブッシュ『マックスとモーリッツ』

4 回：ケストナー 1. 『わたしが子どもだったころ』



- 5回：ケストナー 2. 『エーミールと探偵たち』  
 6回：ケストナー 3. 『飛ぶ教室』①  
 7回：ケストナー 4. 『飛ぶ教室』②  
 8回：戦争児童文学 1.  
 9回：戦争児童文学 2.  
 10回：反権威主義的児童文学 1.  
 11回：反権威主義的児童文学 2.  
 12回：エンデ『モモ』  
 13回：コルシュノフ『ゼバスチアンからの電話』  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、訳文を授業前に提出する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の訳文提出:50% 発表、授業への参加:20% 最終レポート割合：30%

正当な理由なく3回欠席した場合、成績評価の対象外となります。

### テキスト / Textbooks

プリント配布

### 参考文献 / Readings

野村法 『ドイツの子どもの本—大人の本とのつながり』 [増補新版] 白水社 2009 978456008037

# ドイツ文学・文化演習 5

Seminars in German Literature and Culture 5

ドイツ文化論

東ドイツにおける性的マイノリティの歴史

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN255

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語文法の基礎をかため、長文読解力を向上させる。

東ドイツにおける性的マイノリティの文化をめぐる記事の講読をとおして、ジェンダー文化を歴史的にとらえる視点を養う。

動画を用い、ドイツ語のリスニングに慣れる。

Students will practice reading some articles written in German about sexual minorities in the GDR.

They should develop historical knowledge on gender culture as well as their reading skills in German.

They will also practice listening German through watching a film and a short video about the topic.

## 授業の内容 / Course Contents

1 東ドイツの性的マイノリティをテーマにした資料の講読。学生は担当個所のドイツ語文を訳すだけでなく、文法事項を説明する。

2 男性同性愛をテーマにした東ドイツの映画「カミング・アウト」（ハイナー・カーロウ監督 1989）を視聴

し、内容と聞き取りにかんする確認クイズを行う。

3 東ドイツにおける性的マイノリティやクィア文化について歴史的な知識を得る

1) Reading articles about sexual minorities in the GDR (Students will not only translate the sentences, but also have to explain the grammatical structure of the sentences).

2) Watching the film “Coming Out” (1989). After that, I offer some quizzes to confirm their understanding of the film as well as listening test.

3) Students will gain historical knowledge on sexual minorities and their queer culture in the former GDR

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：東ドイツの映画 Coming Out を一部視聴。

DEFA-Stiftung（東ドイツ国営映画会社の作品を管理する財団）による映画の紹介文

S.1【リード文+Kurzzinhalt】の講読。

2 回：映画 Coming Out を一部視聴。

DEFA-Stiftung による監督と俳優の紹介文

S.3-4【Regisseur: Heiner Carow+Die Darsteller】の講読。

3 回：映画 Coming Out を一部視聴。

DEFA-Stiftung による背景解説

S.1-2【Produktionsgeschichte + Homosexualität in der DDR】の講読。

小テストその1

4 回：映画 Coming Out を一部視聴。

DEFA-Stiftung による背景解説

S.5-6【Premiere am Tag des Mauerfalls + Echo】の講読。

5 回：Christian Könné による、連邦政治教育センターのウェブサイトでの記事（2018）Schwule und Lesben in der DDR（bpb.de）の講読 S.1-2;

6 回：Berlin の Schwules Museum における 2020 年の展示  
学芸員による紹介動画（2分45秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=XJis5Ui9NU0&t=36s>

小テストその2

7 回：Christian Könné の記事の講読 S.3-4

8 回：Christian Könné の記事の講読 S.5-6

9 回：Christian Könné の記事の講読 S.7-8

10 回：Christian Könné の記事の講読 S.9

小テストその3

11 回：Sabine Meyer の論文（2019）“Wege jenseits der Öffentlichkeit. Zur Geschichte transgeschlechtlichen Lebens in der SBZ und der DDR zwischen 1945 und 1976“ 冒頭部を講読 S.75-76

12 回：Sabine Meyer の論文 S.77-78

13 回：Sabine Meyer の論文 S.79-80

小テストその4

14 回：Sabine Meyer の論文 S.81 まで

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:		
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

文献講読の予習 (訳すだけでなく、文法事項について説明できるように予習すること)

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分:111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 講読における指名箇所の文法説明・訳 (=毎回の予習):30% 討論における積極的な参加・発言:10% 4回の小テスト:60%

**テキスト / Textbooks**

講読する記事や論文は、Canvas LMS 上で配布する。

**参考文献 / Readings**

河合信晴 『物語 東ドイツの歴史』 中央公論 2020

中島 悠爾 ほか 『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』 白水社 2003

森山 至貴 『LGBTを読みとく ークィア・スタディーズ入門』 ちくま新書 2017

星乃 治彦 『男たちの帝国 ヴィルヘルム2世からナチスへ』 岩波書店 2006

周司あきら・高井ゆと里 『トランスジェンダー入門』 集英社 2023

参考文献2 は、ドイツ文学専修1年生で購入した (はずの) 文法書です。

授業には独和辞典とともに、これも「必携」してきてください。予習においても用いてください。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

辞書・文法書を用いて構文や熟語の理解をすすめながら、ドイツ語の長文読解の予習をしっかりとこなうこと

**その他 / Others**

視聴覚教材 (日本語字幕付きの映画; ドイツ語字幕付きの動画) を用いる予定があり、リスニングのクイズをテストに含める可能性がある。もし難聴など聴力の問題を抱えている学生さんがいたらメールなどで相談してください。

# ドイツ文学・文化演習 6

Seminars in German Literature and Culture 6

中・近世ドイツ語研究

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN256

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

中高ドイツ語の基礎を学ぶ。

We learn the cardinal knowledges of Middle High German

## 授業の内容 / Course Contents

中高ドイツ語文法書（各自購入）、中高ドイツ語辞書（貸し出し）をもとに中高ドイツ語テキストを読む。

With the help of grammar book and dictionary of Middle High German, we read texts on Middle High German.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：テキスト読解

3 回：テキスト読解

4 回：テキスト読解

5 回：テキスト読解

6 回：テキスト読解

- 7回：テキスト読解  
 8回：テキスト読解  
 9回：テキスト読解  
 10回：テキスト読解  
 11回：テキスト読解  
 12回：テキスト読解  
 13回：テキスト読解  
 14回：テキスト読解

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回読む範囲を予習して授業に臨む。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内発表:100%

#### テキスト / Textbooks

井出万秀 『中高ドイツ語小文法』 郁文堂 2017 9784261073348 ○

Lexen Mittelhochdeutsches Wörterbuch S. Hirzel -

中高ドイツ語辞書は貸し出し。もしくはネット <http://www.mhdwb-online.de/>

#### 参考文献 / Readings

# ドイツ文学・文化演習 7

Seminars in German Literature and Culture 7

メディアのドイツ語

飯田 道子 (IIDA MICHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN257

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ヴァイマル時代からナチ時代、第二次世界大戦期のドイツについて書かれたテキストを読みながら、時代の様相についての理解を深めていきます。同時に、ヴァイマル時代に作られたサイレント映画の名作の数々、メディアを重要な戦略として用いたナチ時代のプロパガンダ映画など、実際の映像を観ながら検証していきます。

While reading the text about Germany from the Weimar Republic era to the Nazi era and the period of World War II, we will deepen our understanding of the historical context. Simultaneously, we will explore silent films and Nazi propaganda films.

## 授業の内容 / Course Contents

- 1) 受講者全員が、テキストの指定箇所を訳読していきます。
- 2) テキストの内容についての発表や、ディスカッションなどもとりにていきます。
- 3) ヴァイマル時代のサイレント映画、ナチ時代のプロパガンダ映画を観ていきます。

All students will read and translate the texts.

We will present and discuss the content of the text.

We will examine silent films and films of the Nazi era.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション  
 テクストの配布、授業の進行方法の確認、
- 2回：第一次世界大戦の終わりとヴァイマル時代 テキスト読解と発表
- 3回：ヴァイマル時代の映像をみる
- 4回：ヴァイマル時代の映像をみる
- 5回：ナチスの台頭 テキスト読解と発表
- 6回：ナチのメディア政策 映画をみる
- 7回：ナチ時代のドイツ テキスト読解と発表
- 8回：第二次大戦時のドイツ テキスト読解と発表
- 9回：第二次大戦とプロパガンダ
- 10回：第二次大戦時のプロパガンダ映画を観る
- 11回：ホロコースト テキスト読解と発表
- 12回：ホロコーストの映像
- 13回：ホロコーストについてのテキスト読解
- 14回：授業のまとめとふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 1) 毎回授業で扱うテキストを予習する
- 2) 最終レポートを提出する

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への参加度:60% 最終テスト割合 :40%

無断で授業を欠席した場合、3回の欠席でもってD評価とする。

### テキスト / Textbooks

コピーを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業時に指示します。

### その他 / Others

授業内容や順序は参加者との話し合いや授業の進度により、変更する場合があります。



# ドイツ文学・文化演習 4

Seminars in German Literature and Culture 4

日独比較文化タンデム

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN258

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋期間外

単位： 4

科目ナンバリング： GRL3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 配当年次 1～3 年次。

2018 年度まで「ドイツ文学・文化演習 4（音楽・造形芸術）」

## 授業の目標 / Course Objectives

3 月にルール大学ボーフム外国語研修所（LSI）で行われるタンデム形式日独比較文化講習の準備を行う。

This course prepare to participate Tandem-Course at LSI of Ruhr-University Bochum.

## 授業の内容 / Course Contents

渡航、学習に必要な事項を毎回のミーティング（予定は参加者に別途配布）で準備する。

3 月に 2 週間、ボーフム大学附属外国語研究所においてタンデム形式の授業に参加する。

ガイダンスの日時と詳細については Canvas LMS から案内するので履修希望者は必ず参加すること。

Items for visiting Germany and for German language skills are prepared at each meeting. (The plan for meetings will be given to the participants)

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回： Meeting 1

2 回： Meeting 2

- 3回：Meeting 3  
 4回：Meeting 4  
 5回：Meeting 5  
 6回：Meeting 6  
 7回：Meeting 7  
 8回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 9回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 10回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 11回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 12回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 13回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 14回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 15回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 16回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 17回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 18回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 19回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 20回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 21回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 22回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 23回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 24回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 25回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 26回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 27回：ボーフム大学附属外国語研究所  
 28回：ボーフム大学附属外国語研究所

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

その都度指示

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 修了証:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

4月のガイダンス時に紹介し、6月末から7月にかけてガイダンス・募集を行う。

# 文学講義 101

Lectures on Literature 101

ドイツの言語

渡辺 学 (WATANABE MANABU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN301  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本語とドイツ語の事例に基づき、適宜英語等も参照しながら、言語と認知の関係、さらにはメタファー・メトニミー等のレトリックが言語において果たす役割を考察したのち、言語表現の多様性、とりわけ文体・スタイルの諸問題を照らし出し、言語研究・言語記述の技法を会得することを目標にします。同時に、言語学・日本語学・ドイツ語学の基本概念の理解を深めます。

In this class, students will consider linguistic roles of rhetoric, including connection between language and (re)cognition, metaphor, and metonymy. Students will also study them based on Japanese and German examples, by using English texts etc. if necessary. After that, students will acquire techniques to conduct linguistic researches and descriptions, highlighting various issues concerning linguistiv variation and literary style in a part of or the wohle passage. At the same time, students will deepen their basic concepts about linguistics, expecially Japanese and German linguistics.

## 授業の内容 / Course Contents

以下の授業計画通りに日独語の現況ならびにそのレトリック・文体との関わりを、適宜歴史的視点も入れなが

ら概観し、両言語の知識を定着させます。他にもできるだけ多くの言語の事例にふれ、日独語を観察・分析する目を斬新なものにし、相対化することも試みます。授業時には、学術語に必ずしも拘泥せずにジョーク等の比較的わかりやすい素材も取り上げていきます。授業への積極的な参加（意見交換、ディスカッション等）を求め、学期末にはレポートを課します。

Students will follow the lesson plan to strengthen their knowledge in both languages. Students will integrate historical perspectives as they see fit when observing connection between rhetoric and style, as well as current situation in Japanese and German languages, with a broad view. Other than that, students will expose themselves to as many linguistic examples as possible. Thus, students will achieve a whole new perspective when observing and analyzing both languages. Students will also approach relativism. The class is not confined to academic terminologies. Materials which are relatively easy to understand such as jokes will also be integrated. Students must participate in classes very actively (exchange opinions, discuss, and so on). They will submit reports at the end of semester.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：言語研究のめあて
- 2回：日本語とドイツ語
- 3回：言語と認知：認知言語学の概観 1. 導入
- 4回：言語と認知：認知言語学の概観 2. スキーマ、プロトタイプ
- 5回：言語と認知：認知言語学の概観 3. ステレオタイプ
- 6回：言語とレトリック 1. メタファー
- 7回：言語とレトリック 2. メトニミー
- 8回：表現としてのことば
- 9回：言語表現の多様性・多文化性
- 10回：文体論 1. 言語学・文学の視点
- 11回：文体論 2. 修辞学・雄弁術の視点
- 12回：文体論 3. 社会様式論
- 13回：文体論 4. 文体からスタイルへ
- 14回：言語学の未来 未来の言語学

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時の資料を授業後にも熟読し、関連文献を読んだ上で授業内容を復習する授業時間外の学習を行ってください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% 授業時の受け答え:15% ディスカッションへの貢献度:10% リアクションペーパーの内容:30%

無断で授業を休んだ場合、3回の欠席でもってD評価とします。

**テキスト/ Textbooks**

使用しません。

**参考文献 / Readings**

野矢茂樹・西村義樹 『言語学の教室 哲学者と学ぶ認知言語学』 中央公論新社 2013

高橋英光他編 『認知言語学とは何か? あの先生に聞いてみよう』 くろしお出版 2018

秋田喜美 『オノマトペの認知科学』 新曜社 2022

安原和也 『小説風「認知言語学入門」』 大学教育出版 2022

他は、授業時等に適宜紹介します。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

普段から自身の、また周囲の言語使用を観察し、意識できる力と習慣

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業資料をスクリーンに映し出すので、PC の持参をお奨めします。

# 文学講義 103

Lectures on Literature 103

東ドイツの文化

東ドイツの歴史・文学・映画

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2021 年度まで「文学講義 103（ドイツの思想論）」

## 授業の目標 / Course Objectives

「現実の」社会主義社会のひとつであった東ドイツの文化を学ぶことで、ドイツ語圏の文化史を成している多様な過去の蓄積の一端を理解する。

To develop an understanding of the diverse layers of German cultural history by learning about the GDR culture as that of a “real existing” socialist society.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツ民主共和国（東ドイツ、1945-1990）と「その後」の文化について、歴史、文学、映画を中心に学んでいく。

This course introduces the cultural history of the GDR and its “afterlife” with an emphasis on literature and film, but not limited to.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ソ連占領地区（1945）から東ドイツ建国（1949）へ

地図、国歌（国歌の動画上映）

リアクションペーパー1

2回：亡命知識人とその帰国

アンナ・ゼーガース「死んだ少女たちの遠足」（短編小説、1943）➡ PDF 配布

リアクションペーパー2

3回：建国神話「反ファシズム」

リアクションペーパー3

4回：社会主義建設と1953年6月17日事件

ハイナー・ミュラー「ヴォロコラムスク幹線路III」（戯曲、1986）

リアクションペーパー4

5回：ベルリンの壁建設（1961）

クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』（1963、小説）

上記小説の映画化（1964、コンラート・ヴォルフ監督）

リアクションペーパー5

6回：東ドイツの日常・家族

映画『パウルとパウラの伝説』（ハイナー・カーロ監督、1973）

\*小テストその1

7回：現実の社会主義・1970年頃～ホーネッカー首相「自由化路線」

ザーラ・キルシュの詩「黒いコーヒー豆」（1968）

リアクションペーパー6

8回：東ドイツにおける希少な、ホロコーストのユダヤ人被害者をテーマにした作品

Jurek Becker の小説『ほらふきヤコブ』（1969）

\*ウーチ（リツマンシュタット）について配布資料：芝健介『ホロコースト』より一部抜粋

\*ゼーガース「死んだ少女たちの遠足」についての課題締切

9回：Jurek Becker の小説『ほらふきヤコブ』の映画化1974

\*配布資料：ハイドゥシュケによる映画の解説、原作小説の一部抜粋と訳者解説（山根宏1995）

10回：東ドイツの女性

女性の就業率、離婚率

映画『パウルとパウラの伝説』（ハイナー・カーロ監督、1973）

リアクションペーパー7

11回：東ドイツ崩壊

1989年体制転換のプロセス

統一ドイツにおける「東ドイツアイデンティティ」

\*映画「ほらふきヤコブ」についての課題提出

12回：作家クリスタ・ヴォルフ（1929-2011）

批判的文学としての歴史小説？東ドイツの「現実」と取り組むための執筆コンセプト

★『どこにも場所はない』（1979、小説）、

★『カッサンドラ』（1983、小説）

★『残るものは何か』（1990）←1979年に執筆されたとされる

リアクションペーパー8

13回：体制批判的な文化の展開

ピアマン追放事件（1976）

ロベルト・ハーヴェマン、

地下出版（主に雑誌）をはじめとした非公式文化

（デジタルアーカイブ（Deutsche Fotothek）

\*小テストその2

14回：シュタージ（国家保安省）

リアクションペーパー9

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布される関連資料を読むこと

2度の小テストにむけてテスト勉強（それまでの講義の復習）をおこなうこと

2種類の課題を書いて提出すること

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト2回:44% 短編小説の読書課題:10% 映画とその関連資料についての課題:10% リアクションペーパー9回:36%

### テキスト / Textbooks

河合信晴 『物語 東ドイツの歴史』 中央公論 2020 9784121026156 ○

### 参考文献 / Readings

ウルリヒ・メーラート 『東ドイツ史 1945-1990』（伊豆田俊輔 訳） 白水社 2019

ユーレク・ベッカー 『ほらふきヤーコプ』（山根宏 訳） 同学社 1995

セバスティアン・ハイドゥシュケ 『東ドイツ映画』（山本佳樹 訳） 鳥影社 2018

ディートリッヒ・ガルスカ 『沈黙の教室』（大川珠季 訳） アルファベータブックス 2019

ハイナー・ミュラー 『ハイナー・ミュラー テキスト集3 カルテット』（岩淵達治 越部暹 谷川道子 訳） 未来社 1994

クリスタ・ヴォルフ 『カッサンドラ』（中込啓子 訳） 恒文社 1997

マキシム・レオ 『東ドイツ ある家族の物語—激動のドイツを生きた、四代のファミリーヒストリー』（木畑和子 訳） アルファベータブックス 2022



# 文学講義 104

Lectures on Literature 104

現代の言語論

幕内 充 (MAKUUCHI MICHIRU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN304  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ヒトという生物が高度な文明を築くことが出来たのは言語・数学・描画を始めとする記号操作能力を核とする高度な認知機能によるものである。この認知能力を、それを可能にする器官である脳の機能とともに理解する。また、ヒト特有の認知が脳の器質的損傷によって損なわれた状態である高次脳機能障害についても論じる。

The human has been able to build an advanced civilization because of its advanced cognitive functions, which include language, mathematics, drawing, and other symbol manipulation abilities. This lecture will provide an understanding of these cognitive abilities as well as the functions of the brain, the organ that makes them possible. We will also discuss higher brain dysfunction, a condition in which cognition unique to humans is impaired due to organic damage to the cerebrum.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、記号とは言語・数学・描画・音楽などを包含するヒトに特有の文化であることを論じることから始める。次に、ヒトの脳の構造と機能とその計測方法について概観する。神経心理学では脳の構造とその損

傷による認知機能障害、即ち失語・失行・失認・半側空間無視などを紹介する。模倣やミラーニューロン仮説、言語とワーキングメモリの関係、数学と言語の接点、芸術、思考、遊び、社会認知に至るまで、広範なトピックを授業内容として提供する。これらのテーマについて語り、聴講者との議論を通じて思索を促したい。 This lecture will begin by discussing that symbols are a culture unique to humans that encompasses language, mathematics, drawing, and music. Next, the structure and function of the human cerebrum and its measurement methods will be reviewed. Neuropsychology introduces brain structure and the cognitive dysfunctions caused by brain damage, such as aphasia, apraxia, agnosia and hemispatial neglect. A wide range of topics will be offered as course content, from imitation and the mirror neuron hypothesis, to the relationship between language and working memory, to the interface between mathematics and language, to art, thought, play, and social cognition. I will talk about these topics and encourage contemplation through discussion with the audience.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1回：記号

記号（象徴）とは何か（ホイットヘッド、パース、カッシーラー）、パブロフの第二信号システム、記号的知性と道具的知性の比較。

#### 2回：脳神経系の構造および機能と脳画像法

脳の構造（脳溝・脳回）、各部位の機能（Broadman-Penfield）、脳地図、Von Economo ニューロン、視覚の二経路モデル、脳機能計測手法（EEG、MEG、ECoG、TMS、fMRI）脳機能の分布に関する議論（局在性と全体性、ネットワークの様々なスケール）

#### 3回：神経心理学

失語症、失行症、失認症、半球離断脳、半側空間無視、記憶障害

#### 4回：高次脳機能障害の概要

失語症、失行症、失認症、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害等による家庭・社会生活の困難とその支援

#### 5回：模倣

把持、模倣、ミラーニューロン仮説批判、観念運動失行、エイリアンハンドサイン

#### 6回：言語 1

構文処理とワーキングメモリの分離、チョムスキー階層、中央埋込文

#### 7回：言語 2

日本語の格助詞（が・の交代、は・が）、受身文、かき混ぜ文、文末助詞

#### 8回：言語 3

意味論（痛み、強制）、語用論、言語と社会的認知、自閉症の言語

#### 9回：読み書き

日本語表記の利点、ディスレクシア、読みの脳内機構

#### 10回：数学

数覚・算数の脳内メカニズム

#### 11回：描画

構成失行、描画の階層構造、描画の脳内メカニズム

#### 12回：遊び

遊び・ゲーム・報酬系

#### 13回：孤独：記号交換の欠乏として

孤立死、孤独感、孤立、感覚遮断、社会脳

14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

参考図書・文献を読む。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

特に意欲的な学生のレポートは随時受け付ける。特段に優秀と認められない場合には成績に加味しない。レポートを書きたい場合は事前に相談をするように。

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

幕内充【編】 『自閉スペクトラム症と言語』 ひつじ書房 2023 9784823411571

アルフレッド・ホワイトヘッド 『理性の機能・象徴作用 (ホワイトヘッド著作集)』 松籟社 1981  
4879840181

安部公房 『死に急ぐ鯨たち』 新潮社 1986 4103008075

E. カッシーラー 『人間: シンボルを操るもの』 岩波文庫 1944 9784003367353

C.K.オグデン&I.A.リチャーズ 1923年 『意味の意味』 新泉社 2008 4787708090

中島八十一 『高次脳機能障害の勃興と将来展望』 新興医学出版社 2023 9784880028996

ジョン・カシオポ 『孤独の科学-人はなぜさびしくなるのか』 河出書房新社 2010 9784309464657

授業中に紹介する

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

特に予備知識は必要ないが、科学・芸術・文学・哲学・社会問題等、幅広い事象に対し好奇心を持っていることが望ましい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ノート PC あるいはタブレット

**その他 / Others**

<http://www.rehab.go.jp/ri/departj/brainfunc/hibrain/>

<https://researchmap.jp/makuuchi-michiru>

<https://scholar.google.com/citations?user=aIVrUAoAAAAJ&hl=en>

# 文学講義 109

Lectures on Literature 109

日独比較文化

美留町 義雄 (BIRUMACHI YOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN309
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・「個人」や「自然」、あるいは、「愛」と「性」、そして「自由」など、近代という時代を標榜するタームが、いかに成立したのか理解できるようになる。
- ・ドイツをはじめとするヨーロッパ文化の諸影響を理解し、日本の文化を相対的に把握できるようになる。
- ・ゲーテをはじめとするドイツ文学、および、夏目漱石や森鷗外等の日本文学を、近代の精神史の中で理解できるようになる。

This course aims to (1) explain how modern terms and conceptions such as “individualism,” “nature,” “love,” “life,” and “freedom” have been established and (2) acquire knowledge about German and Japanese literature, focusing on works of Johann Wolfgang Goethe, Natsume Soseki, and Mori Ogai in the context of the modern philosophical tradition.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義のテーマは、「文化論から読み解く文学作品」です。日本とドイツの近・現代文学や思想、さらには漫画やアニメなどのサブ・カルチャーをも題材にして、それらを、自然、愛（性）、時間、身体、交通、メディ

ア、ファッション等、さまざまな文化的視点から、読み解いて行く予定です。特に、「都市と文学」に重点を置き、都市という人工的な環境の中で生き始めた人間たちの姿を、生活様式の近代化のプロセスのうちに探ってゆきます。講義では、ドイツと日本の比較の他に、こうした「前近代」と「近代以降」の価値観の転換という問題に繰り返し触れることになるでしょう。個々の授業内容については、「授業計画」を参照して下さい。

This course introduces Japanese and German modern and contemporary literature and thought, as well as with manga and anime, which are interpreted from various cultural perspectives such as nature, gender, time, media, and fashion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション ～近代とそれ以前
- 2回：生の発見 ～「メメント・モリ」からゲーテへ
- 3回：自然の発見Ⅰ ～『ハイジ』をめぐる
- 4回：自然の発見Ⅱ ～日本文学における「風景」
- 5回：女性の発見 ～『人形の家』から『青鞥』へ
- 6回：セクシュアリティについて ～「恋」から「愛」の変容
- 7回：時間の発見Ⅰ ～「タイム・イズ・マネー」と漱石の『猫』
- 8回：時間の発見Ⅱ ～ミヒャエル・エンデ『モモ』を読む
- 9回：子どもの発見Ⅰ ～「小さな大人」から児童へ
- 10回：子どもの発見Ⅱ ～『グリム童話』の問題性
- 11回：交通機関と文学Ⅰ ～鷗外のベルリン
- 12回：クリスマスの文化論 ～ゲルマン文化とキリスト教
- 13回：交通機関と文学Ⅱ ～『三四郎』の東京
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・指定された文献、映像資料は、あらかじめ講読、視聴しておくこと。
- ・各自の関心に応じて、授業中に紹介された文献、資料を読み、期末レポート作成に臨むこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業におけるミニレポート:60% 最終レポート割合 :40%

15分以上の遅刻・早退は欠席扱いとし、欠席3回以上は単位を取得できない。

### テキスト / Textbooks

テキストに関しては、教員が作成したパワーポイントを毎回視聴します。

### 参考文献 / Readings

- 柴田翔 『詩に映るゲーテの生涯』 鳥影社 2019 4862657265  
 小泉武栄 『登山の誕生』 中公新書 2005 4121015924  
 若林ひとみ 『クリスマスの文化史』 白水社 2010 4560081042

柄谷行人 『日本近代文学の起源』 講談社文芸文庫 2009 4062900416

ミヒャエル・エンデ 『モモ』 岩波書店 1976 4001106876

フィリップ・アリエス 『〈子供〉の誕生』 みすず書房 1980 4622018322

ゲルハルト・ロッセム 『時間の歴史』 大月書店 1999 4272510053

#### **その他/ Others**

講義科目ですが、受講生の意見や感想等を聞きながら、双方向の授業運営を目指します。

# 文学講義 113

Lectures on Literature 113

ドイツの生活文化

林 志津江 (HAYASHI SHIZUE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN313
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

近現代ドイツの歴史と文化を、現代と照らし合わせつつ学びます。ドイツ語圏の人々の生活ぶりや価値観から、21世紀の日本に住む私たちがどのような示唆に与ることができるのか、議論を通じて思考できるようになることが授業の目標です。

Students will deepen their understanding about arts and culture in modern German-speaking countries, especially Prussia with focusing on the establishing of metropole in the era of modernism and contemporary movements. Students would understand meaning and points of each topics and analyze handled issues through discussions, as thinking about its impact on our present-day society.

## 授業の内容 / Course Contents

【ベルリンの物語】2度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツの首都ベルリンは、世界中で、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポール（メトロポリス／大都会）です。この授業では、ベルリンを舞台とする文学作品や、ベルリンにおいて（も）展開した芸術運動やを通して、19世紀後半から現代までのベルリンとその表象の様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿から、その社会の内実に迫ります。

## 【扱う作品・内容】

・19世紀末～20世紀のドイツ語圏の文化現象・表象芸術を、時系列に沿って扱います。

作品・現象は19世紀後半から21世紀まで、ほぼ時系列的に進みます。

・19世紀のプロイセン／ドイツの歴史と、当時の市民階級／教養市民の社会通念、教育制度の確立やジェンダー規範の変遷等に注目しながら、人々の生活や働き方、生き方に反映される価値観や西洋市民社会の諸制度、都市の形成に関する考察を深めていきます。

・20世紀前半から後半（ヴァイマル共和国の時代から第三帝国、東西ドイツの時代から現代）にかけて、「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容になります。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、メトロポールとしてのベルリンの魅力が潜んでいると言えるかもしれません。

(Berlin Story) This course introduces literature and art/culture movements in the era of German modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

The class will focus on history of German speaking world from 19-21 centuries that are faced and struggled with various issues. To do that, literature and art works with various visual materials will be used, as its attentions are especially given to the rising nationalism of modern age and its establishment of gender norms.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：テーマについて・「ドイツ語圏」とは？

2回：歴史を伝える絵画、都市化するベルリン：メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1847年）／『サンクスーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）／『鉄匠延機工場』（1872-1875年）ほか

3回：身分違いの恋？：テオドーア・フォンターネ『謎誤あれば』（1888年）その1

4回：オワコン下級貴族の本音？：テオドーア・フォンターネ『謎誤あれば』（1888年）その2

5回：新たな時代の生き方－「ブリュッケ」（表現主義）：

O. ミュラー『水浴する風景』（1906年）、E-L. キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）『ポツダム広場』（1914年）など

6回：審美的な芸術から機能主義へ・機械の時代の芸術・大都市の光と影：

O. グロス『大都会』（1927/28年）、C. シャート『ソーニャ』（1929年）、W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919年）からバウハウス・デッサウ（1925年）、M-v.d. ローエの時代へ

7回：（鉄道馬車ではなく）地下鉄の走る街、映画の時代：エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その1

8回：子どもこそ聡明な存在：エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その2

9回：都会の「キラキラ」に憧れて：イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年）その1

10回：「本当の」私を見て好きになってほしい：イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年）その2

11回：忘却の彼方へ－：トーマス・ブルスイヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その1

12回：いまわしいはずの記憶・「愉快的あの頃」の記憶：トーマス・ブルスイヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その2

13回：さえない私／僕、おかしい転校生：ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走－マイクとチック』（2010年）その1



14回：「私はあなたのことを見てる、考えてるから」：ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走 – マイクとチック』（2010年）その2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・本授業の授業時間外学習として計4時間以上（準備学習・復習時間各2時間以上）を標準とします。
- ・授業で言及された参考資料（図書やインターネット記事等）にアクセスし、授業内容に対する理解と思考を深めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 作文（リアクションペーパー）：70% 最終レポート割合：30%

作文（リアクションペーパー）の未提出（一定の要件を満たさない水準の作文は未提出と数える）が3回以上になった時点で、最終レポートの提出は認めません。

### テキスト / Textbooks

- ・資料を毎授業配布します。特定の教科書は使用しません。
- ・文学作品についてはテキストの抜粋（日本語訳）を配布します。

### 参考文献 / Readings

宮田眞治、畠山寛、濱中春（編）『ドイツ文化55のキーワード』 ミネルヴァ書房 2015

その他、授業時に適宜紹介します。

### その他 / Others

- ・上記授業回で扱う内容は変更される場合があります、順番もまた前後する可能性があります。
- ・授業ごと提出する課題（作文／小レポート）に対しては、適宜全体に向けてフィードバックを行う予定です。

# 文学講義 117

Lectures on Literature 117

ドイツと異文化

馬場 大介 (BABA DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN317
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2021 年度まで「文学講義 117（ハプスブルク帝国の文化）」

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の国民文化について見識を深め、自身の見解を的確に述べることを到達目標とします。これにあたり、以下の3点がポイントになります。1) 授業で提示される基本概念について、ドイツ語と日本語との差異を踏まえて説明することができる。2) 講義内容を自身の言葉でまとめることができる。3) 以上に基づき自身の意見を述べるができる。

The goal of the course is to deepen students' knowledge of national culture of German-speaking areas and to enable them to articulate their own views accurately. The three key points are: 1) to be able to explain the basic concepts presented in class, taking into account the differences between German and Japanese; 2) to be able to describe the content of the lecture in one's own words; 3) to be able to express one's own opinions based on the above.

## 授業の内容 / Course Contents

十九世紀のドイツ語圏における国民文化の形成に焦点を当てます。ナショナリズムが台頭するドイツ語圏（特にプロイセン）で顕在化してくる文化のあり方について考えていきます。各回のトピックについてドイツ語圏

の動向を学んだうえで、これに関連する近代日本の動向にも注目し、国民文化についての考え方を相対化していきます。

The focus will be on the formation of national culture in the German-speaking areas in the nineteenth century. We will consider the nature of culture as it emerged in the German-speaking areas (especially Prussia), where nationalism was on the rise. After studying the trends in the German-speaking areas for each topic, we will also focus on related trends in modern Japan to relativize our ideas about national culture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概要説明
- 2 回：市民社会（1）
- 3 回：市民社会（2）
- 4 回：工業化（1）
- 5 回：工業化（2）
- 6 回：モニュメント（1）
- 7 回：モニュメント（2）
- 8 回：ドイツ語（1）
- 9 回：ドイツ語（2）
- 10 回：ドイツ文学（1）
- 11 回：ドイツ文学（2）
- 12 回：ゲルマン神話（1）
- 13 回：ゲルマン神話（2）
- 14 回：総括と展望

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義とディスカッションの内容を文章化してください。毎回の授業の要点を、単にメモ書きや箇条書きにするだけでなく、400～800字程度でまとめることが望ましいです。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の提出課題:40% 授業への参加:30% リアクションペーパー:30%

原則として、3回の欠席をもってD評価とします。また、毎回指定された題目に従って授業内容をまとめた文章を提出してもらう予定です。詳細はCanvas LMSでお知らせします。

### テキスト / Textbooks

資料はCanvas LMSを通じて配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献は適宜紹介します。

### その他 / Others

上記の授業計画は、一部変更する場合があります。リアクションペーパーのコメントには、適宜フィードバック

クを行います。基本的には講義形式ですが、受講生同士のディスカッションの時間を設けたり、教員と受講生との間で意見交換を図ったりする予定です。

# 文学講義 107

Lectures on Literature 107

ドイツのメディア論

前田 良三 (MAEDA RYOZO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN337
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

近・現代ドイツの文化論・美学思想についての基本的な知識を獲得するとともに、現代の社会と文化に知的に向き合うために必要な問題意識・方法意識の涵養をめざします。

This course aims to help students deepen their understanding of German intellectual history and cultural discourses from the end of the 19th century to the present, from the viewpoint of media studies.

## 授業の内容 / Course Contents

20 世紀の思想において、感性は重要なトポスのひとつと言えます。感覚体験・知覚体験を決定的な契機として展開する思想の系譜は、「精神」や「意識」を起点とする伝統的な思考機制を乗り越えようとする運動であり、さらには「言語」を出発点とする思想とも緊張関係を伴いつつ、現代のポスト・ヒューマンな思想や人間学につながってゆきます。講義では、都市、メディア、身体、技術、神話などのテーマを手がかりに、20 世紀ドイツ語圏の思想の連関を浮かび上がらせることを試みます。ゲオルク・ジンメル、ジークムント・フロイト、ヴァルター・ベンヤミン、フリードリヒ・ニーチェ、ジークフリート・クラカウアー、エルンスト・ユンガー、カール・シュミット、テオドール・W・アドルノ、ヴィレム・フルッサー、ニクラス・ルーマン、フリードリ

ヒ・キットラーといった人々のテキストを、あくまで「非体系的」かつ「非網羅的」に逍遙するというスタイルで論じていきます。

This course provides a genealogical overview of German intellectual history from the end of the 19th century to the present against its social, cultural and medial-technological background (urban culture, media culture, World War I, II and the Cold War) by focusing on representative theoretical texts of Georg Simmel, Sigmund Freud, Walter Benjamin, Friedrich Nietzsche, Ernst Juenger, Siegfried Kracauer, Carl Schmitt, Theodor W. Adorno, Vilem Flusser, Niklas Luhmann and Friedrich Kittler).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：履修上の注意事項の周知・確認

講義テーマへの導入

2回：第1部「空間の思考」

第1回 都市体験の変容とゲオルク・ジンメル都市論

3回：第1部「空間の思考」

第2回 知覚空間とゲオルク・ジンメルの社会論、ジークフリート・クラカウアーの空間論

4回：第1部「空間の思考」

第3回 ヴァルター・ベンヤミンの都市空間論、カール・シュミットの「世界史的空間」論

5回：第2部「身体思考」

第1回 ヴァルター・ベンヤミンの記憶論、模倣論

6回：第2部「身体思考」

第2回 ヴァルター・ベンヤミンの幼年論、カフカ論、ジクムント・フロイトの記憶論

7回：第2部「身体思考」

第3回 フリードリヒ・ニーチェの身体的思考、ダニエル＝パウル・シュレーバー症例と器官なき身体

8回：第3部「芸術思考」

第1回 芸術体験の変容とヴァルター・ベンヤミンの複製技術論

9回：第3部「芸術思考」

第2回 写真という思考、ヴァルター・ベンヤミンの写真論、ロラン・バルトの写真論

10回：第3部「芸術思考」

第3回 芸術と「救済」、フェルキッシュ運動における芸術、テオドール・W・アドルノの思想における神話と芸術、エルンスト・ユンガーにおける神話と芸術

11回：第4部「技術／メディア思考」

第1回 技術／メディアとは何か？ フリードリヒ・キットラーの「書き取りシステム」

12回：第4部「技術／メディア思考」

第2回 現代ドイツのテクノロジー文化論、ヴィレム・フルッサーのコミュニケーション論、ニクラス・ルーマンのコミュニケーション論

13回：第4部「技術／メディア思考」

第3回 フリードリヒ・キットラーと「テクニカル・ライティング」

14回：教場レポート作成（最終レポートを教場で作成・提出してもらう）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この講義では、印刷された資料の配布はしないので、毎回授業前に Canvas LMS にアップロードされる講義資料（パワーポイントのスライド）を各自ダウンロードし、可能であればプリントアウトして必ず内容を確認して講義を受講してください。予習としては、参考文献などを基に自分で西洋史・思想史の基礎知識を得ておくことが講義理解の上で必須事項となります。復習として講義で扱った作品を可能なかぎり自分で読むことを強く勧めます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席とリアクションペーパー（12回）:40% 中間レポート:25% 期末レポート:35%

期末レポートは最終回の授業時に教場で作成・提出してもらいます。

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しません。また講義資料はプリント配布しません。資料は毎回授業前に Canvas LMS にアップロードするので各自ダウンロードし、可能であればプリントアウトすること。

### 参考文献 / Readings

前田良三 『可視性をめぐる闘争 戦間期ドイツの美的文化批判とメディア』 三元社 2013

9784883033447

前田良三 『ナチス絵画の謎 逆襲するアカデミズムと「大ドイツ美術展」』 みすず書房 2021

9784622089865

若尾祐司・井上茂子（編集）『近代ドイツの歴史 18世紀から現代まで』 ミネルヴァ書房 2005

9784623043590

森井 裕一 『ドイツの歴史を知るための50章』 明石書店 2016 9784750344133

佐藤 卓己 『現代メディア史 新版』 岩波書店 2018 9784000289207

熊野 純彦 『西洋哲学史: 近代から現代へ』 岩波書店 2006 9784004310082

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

①静粛に集中して講義を聞き、スマートフォンなどの録画・録音機能に頼らず自分でノートを取る能力、②19世紀末から現代にいたる広汎な歴史的・文化的事象と哲学的・思想的・文学的作品を扱うので、きわめて抽象度の高い議論の内容を論理的に追うことのできる能力、③講義内容についての自分の考えを毎回提出してもらうリアクションペーパーに論理的かつ簡潔にまとめる文章力。

# 文学講義 110

Lectures on Literature 110

ドイツのメルヘン

小林 将輝 (KOBAYASHI SHOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN340

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義はメルヘンの基礎的な理解を得ることを目指します。

This course aims to gain a fundamental understanding of Märchen.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では主としてグリム童話を用いながらメルヘンについて学びます。昔話とメルヘン、その他の伝承文学の違いや昔話の研究、また、グリム兄弟についても紹介します。

This course deals with Märchen through Grimm's Fairy Tales. The Brothers Grimm, Folktale Reserch, and the differences between Folktale, Märchen and other folklore will be introduced.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：講義概要の解説、授業計画、評価方法について

2 回：グリム童話とその挿絵

3 回：「メルヘン」という文学ジャンル

4 回：昔話の分類



- 5回：グリム兄弟の生涯  
 6回：グリム童話の成立  
 7回：昔話研究とは  
 8回：マックス・リュティの昔話の文体論1：次元性、平面性、抽象の様式  
 9回：マックス・リュティの昔話の文体論2：孤立性と普遍的結合の可能性、純化・含世界性  
 10回：マックス・リュティの昔話の文体論3：まとめ  
 11回：プロップの構造論1：昔話の構造主義的解釈  
 12回：プロップの構造論2：事例「うさぎが火を盗んだ話」  
 13回：プロップの構造論3：事例「舌切り雀」  
 14回：最終授業時 筆記テストを実施します

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を読んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 筆記テスト:40% リアクションペーパー:40% 小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 小澤俊夫 『昔話の語法』 福音館書店 1999 9784834013870  
 マックス・リュティ 『ヨーロッパの昔話—その形と本質』 岩波書店 2017 9784003422915  
 ウラジミール・プロップ 『昔話の形態学』 水声社 1987 9784891762087  
 小澤俊夫（訳） 『完訳グリム童話』 ぎょうせい 1995 9784324034910  
 橋本孝 『グリム兄弟とその時代』 パロル舎 2000 9784894192225  
 その他の関連文献は授業中に随時紹介をします。

# 文学講義 111

Lectures on Literature 111

ゲーテの時代

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN341

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL3800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「文学講義 111（ゲーテの世界）」

## 授業の目標 / Course Objectives

ゴットホルト・エーフライム・レッシングの文学の可能性を探究する。

To explore the works of Gotthold Ephraim Lessing.

## 授業の内容 / Course Contents

ゲーテはかつて、文学がドイツで盛んになった自らの時代を評して、「レッシングが二つ三つ、自分が三つ四つ、シラーが五つ六つ、まともな演劇作品を書いた頃」と言った。どの作品を指しているかはさておき、演劇作品の作者として、ゲーテがレッシングを仰ぎ見たことはこの言葉から読み取れる。そのレッシング（1729-81年）こそは、初期の『若い学者』、『ユダヤ人』から『賢者ナータン』に至るまでの作品を通して、時代を先取りし、また人類の遺産となる文化的指標を残した。演劇作品と演劇論はもとより、美学論、神学論に至るまで巨大な足跡を印した偉大な文学者の世界を探究する。

To explore the works of Gotthold Ephraim Lessing.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：初期の詩の紹介

- 2回：ノイバー一座と『若い学者』  
 3回：ベルリンと『ユダヤ人』  
 4回：市民悲劇  
 5回：異端者たちの「救済」  
 6回：歴史哲学  
 7回：ドイツ語民族劇場の試み  
 8回：悲劇作品－『エミーリア・ガロッティ』  
 9回：いくつかの神学論  
 10回：いくつかの神学論II  
 11回：「ヘン・カイ・パン」  
 12回：『賢者ナータン』  
 13回：まとめ  
 14回：学生によるレポート作成

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示された文献を読む。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況と複数回出す課題:60% 最終レポート割合：40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

坂本貴志 『<世界知>の劇場』 ぶねうま舎 2021 9784910154220

必要に応じてその都度指示する。

#### その他 / Others

哲学と美学に関心があることが望ましい。

# 文学講義 112

Lectures on Literature 112

ドイツの近代社会と思想

齋藤 渉 (SAITO SHO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN342  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2019 年度まで「文学講義 112（ドイツの身体文化）」

## 授業の目標 / Course Objectives

講義のテーマ：啓蒙・ナラティブ・陰謀論——18 世紀ドイツの社会と思想

ドイツの近代社会の形成を理解するには、18 世紀のいわゆる「啓蒙（Aufklärung）」の時代を振り返ることが役に立ちます。

当時の人々がみずから用いた「啓蒙」をキーワードに、人々がどのような関心をもっていたのか、どのような問題をどのような方法で解決しようとしていたのかを理解することが、この授業の目標です。そのために、思想史的な手法を活用しながら、18 世紀の社会や文化の状況を考えていきます。

This course will concentrate on the 18th century German society and culture, dealing with such topics as Enlightenment (Aufklärung), (master) narratives and conspiracy theory.

In understanding the formation of modern German society, it is worth looking back to the 18th century.

The contemporaries used the term Enlightenment to characterize their century. From this perspective we will scrutinize what concerns they had, what kind of problems they were confronted with and how they tried to solve them.

**授業の内容 / Course Contents**

「啓蒙」と訳される Enlightenment, Lumières, Aufklärung などの語は、いずれも「光」や「明るさ」を含意する表現であり、「知性」や「理性」の言い換えでもあります。

しかし「知性の時代」という（自己）イメージは、人々の生きる現実の社会が「知性的」と呼ぶにはほど遠かったこととまったく矛盾しません。むしろ啓蒙とは、不合理や蒙昧さに対する嫌悪や警戒心からうまれた「理想的状態」のイメージという側面を強くもつものでした。

この授業では、人々のもつこうしたイメージ・願望・危惧をとらえるためにナラティブ（物語）に着目します。社会に広まるさまざまなナラティブは、その言説を産み出し、受容し、拡散する人々の状況認識や期待・恐れなどの感情を読み取る手がかりになるのです。

ナラティブの観点から「啓蒙の時代」を考察していく試みは、近年よく取り上げられる「陰謀論」と啓蒙とのつながりを示すことにもなるでしょう。陰謀論と呼ばれるナラティブの多くは、荒唐無稽で非合理的な内容をもつものとされています。一見すると、啓蒙と陰謀論は相反するもののように思えるかもしれませんが。しかし、啓蒙主義者たちはしばしば陰謀論的な見方にとらわれ、積極的に流布することすらありました。

こうした観点から、18世紀という啓蒙の時代と21世紀の現代をつなぐ問題についても考えていきます。

Enlightenment, Lumières and Aufklärung – these terms have in common semantic components related to “light” and serve as a synonym for “Reason.”

This (self-)image of the “Age of Reason” doesn't contradict the fact that the reality in which people lived was far from being a “rational” one. Rather, Enlightenment was conceived as a sort of ideal state, originating from a disdain and wariness towards irrationality and ignorance.

In this course, we will focus on various narratives to capture the images, desires, and fears that people held. Narratives circulating in society can provide clues to understanding the expectations and fears of those who created, received and disseminated them.

Examining the "Age of Enlightenment" from a narrative perspective may also shed light on the connection between recent discussions on "conspiracy theories" and the Enlightenment. Narratives labeled as conspiracy theories often have contain ridiculous and irrational content. At first glance, Enlightenment and conspiracy theories may seem contradictory. However, Enlightenment thinkers were sometimes entangled in conspiratorial views and even actively propagated them.

From this perspective, we will also consider issues bridging the Enlightenment era of the 18th century and the contemporary challenges of the 21st century.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：「あらゆる可能な世界のなかで最善の世界」—— 18世紀ドイツの社会と思想：序論

哲学者ライプニッツが『弁神論』（1710）で唱えた最善世界説を手がかりに、18世紀初頭における思想状況を説明します。あらゆる可能な世界のなかから創造主としての神が最善の世界を選んだというこの理論は、現実の世界を可能性の観点から見ることを教えるものです。

ゴットシェートの『批判的詩学試論』（1730）は、ライプニッツの可能世界論を文学テキストの制作に適用します。それは文学を、現状とは違う生き方を考える手段としてとらえる方法で

2回：「しかし、僕たちの庭を耕さなければなりません」—— 弁神論の運命：神から人間へ

ライプニッツの最善世界説（オプティミズム）は誰にでも受け入れられたわけではありません。とりわけ、数万人の死者を出したとされるリスボンの大地震（1755）は、そうした世界観の魅力を疑わしいものにしました。ヴォルテールが1759年に発表した『カンディード』は、世界を解釈する主軸がもはや宗教のように超越的なものでなく、人間社会に内在的なものに移っていたことを示すものといえます。

- 3回：「地球にこんなにたくさんの住人がいるのに、他の惑星には全く住人がいないとしたら、大へん奇妙なことだろうなと思っているのですよ」—— 宗教的世界観と科学的世界観  
 フォントネルの『世界の複数性についての対話』（1686）は、ある「哲学者」が「侯爵夫人」を相手に夜空を見上げながら、宇宙の構造について語るという架空の対話です。18世紀になっても版を重ね、ドイツ語を含むさまざまな言語に翻訳されました。新しい自然科学（天文学）の知見と古くからある対話体のスタイルを結合させたこの著作の成功は、宗教的世界観から科学的世
- 4回：「おとぎ話を聞かせるのは、子ども相手とはかぎらぬのだ」—— 寛容：異なる信仰同士の関係  
 レッシングの戯曲『賢者ナータン』（1779）の舞台は、12世紀末のエルサレム。十字軍遠征の停戦後、ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒が同じ空間に共存するという状況が生まれました。ユダヤ人商人のナータンは、エルサレムを支配するスルタンから難問を突き付けられます。この三つの宗教のうち、どれが最も優れているか、と。ユダヤ教と答えれば、スルタンを侮辱することになり、残りの二つを選べば、なぜユダヤ教に留まるのかと問
- 5回：「啓蒙とは、自ら引き起こした未成年状態から抜け出すことである」—— 未完のプロジェクトというナラティブと市民的公共性  
 カントの論文「啓蒙とは何か」（1784）は『ベルリン月報』という啓蒙主義の代表的雑誌に発表されました。「未成年状態から抜け出すこと」という啓蒙の定義は、まさしく「成長」というナラティブにほかなりません。ただ、「自分自身の知性を用いる勇気をもて」という彼の標語にもかかわらず、カントは啓蒙の成否が個々人の決意だけでなく、自由なコミュニケーションが保証されるという社会的条件に依存すると考え
- 6回：「民衆にとって欺かれることは有益か？」—— 啓蒙・ナラティブ・民衆  
 ベルリン王立アカデミーは、1780年に「民衆にとって欺かれることは有益か？」という懸賞課題をかかげます。啓蒙とは、ほとんどの論者にとって民衆の啓蒙を意味しました。その前提自体に疑いをかけるようなこの懸賞課題は、啓蒙主義者たちから驚きと怒りをもって受け止められます。さらに驚くべきことに、この課題の発案者は、プロイセン国王フリードリヒ二世その人だったのでした。
- 7回：「まさにその時、高く架けられた橋の上から汚物入れの異臭を放つ〇〇が滝のごとく川の流りに投げ捨てられ……」—— 市民的公共性の政治的機能（1）  
 プロイセンの王都ベルリンは、フリードリヒ二世の治下（1740-1786）に大きく発展しました。ドイツ語圏における啓蒙の中心地にもなります。カントの啓蒙論（1784）を掲載した『ベルリン月報』はその代表的雑誌ですが、この『月報』の編集者を中心とする秘密結社「ベルリン水曜会」は、プロイセンの社会と思想状況に関する活発な議論の場となる一方、『月報』に掲載される論考の
- 8回：「当地で最も自殺者が多いのはいかなる部類の人か？」—— 市民的公共性の政治的機能（2）  
 ベルリン水曜会では、当時の知識人が関心をもつありとあらゆることが論じられています。秘密結社だからこそできたことですが、水曜会での講演原稿が『ベルリン月報』に掲載される際には、検閲を意識せざるをえませんでした。フリードリヒ二世崩御後の1787年、メーゼンは水曜会でベルリンの自殺者について講演をおこないます。医療行政にたずさわっていた彼は、統計資料を分析し、兵士の間で自殺が突出して多いことを示しました。ただ、講演
- 9回：「プロテスタントの教会でカトリックの礼拝を認めるといった間違っただ寛容」—— 反転する寛容  
 『ベルリン月報』誌上には、さまざまなテーマの論争が見られました。編者の一人ビースターがペンネームで

掲載した反カトリックの論考（1784）は、当時有名な哲学者ガルヴェの反論（1784）をきっかけに、啓蒙と反啓蒙、自由と寛容をめぐる大きな論戦に発展します。

この論争のなかでビースターは、当時プロテスタントの啓蒙主義者たちの間で流布していた「旧イエズス会士たち」の陰謀という議論を援用します。啓蒙と陰謀論のつながりについて

10 回：「ありそうもないことだと認めるより、奇跡を信じることを望むのですか？」—— 懐疑と妄信

街中で怪しげな謳い文句で興味を集め、人々の無知につけこんでお金を巻き上げるようなペテン師は、ヨーロッパのオペラや演劇や絵画でよく目にするキャラクターです。「シャルラタン」とも呼ばれるこうした人々は、とりわけ知識人たちにとって嫌悪・危惧すべき存在だったと言えます。

ペテン師たちの目的は金銭だけでなく、王侯貴族に取り入ることで権力まで利用しようとしている——そう感じた啓蒙主義者たちは、こうしたペテン師たちと彼らに騙され

11 回：「プロテスタントイズムを掘り崩し、理性を屈服させようとする教皇庁の隠れたたくらみ」—— 啓蒙と陰謀論

陰謀論の本を読むと必ず目にするのが「イルミナーティ」の名前です。歴史的に実在したこの秘密結社には、1780 年代半ばに禁止されるまで数多くの啓蒙主義者たちが参加しています。

イルミナーティたちは当初から、イエズス会に強い反感をもっていました。イエズス会は 1773 年に解散させられたにもかかわらず、その影響力はまだ衰えていませんでした。

旧イエズス会士たちがプロテスタント諸国で秘密裡に活動し、カトリック教

12 回：「理性は、至高の存在者の現存在に達するという意図にはとうてい十分ではない」—— 思考および／または政治の革命

カントの『純粋理性批判』（1781）は、幾何学や天文学のような確固とした学問の成果を哲学（形而上学）にももたらそうとする意図から、「思考方法の革命」を唱えました。人間の認識能力そのものを分析し、その限界を見定めようとしたのです。

彼の考察は、人間の認識が経験の範囲を超えられないこと、言い換えると、死後の生や神についてはいかなる理論的認識もありえないという結論に行きつきました。18 世紀初頭にライ

13 回：「貴殿はささやかな晩餐だといって招待されたのに、盛大な祝宴、友愛の祝宴を開かれるとは」—— 仮面の政治議論：公開性と秘匿性の交錯

フランス革命の衝撃は、ヨーロッパやアメリカの各地でさまざまな反応を引き起こしました。プロイセンでは、フリードリヒ二世の没後、古い体制に逆戻りするような動きが見られ、それまでは緩かった検閲も厳しくなっていきます。

ベルリン水曜会のメンバーであったクラインの『自由と所有』（1790）は、フランス革命を経て、社会制度のあるべき姿について論じた著作です。18 世紀に広く使われた対話体

14 回：啓蒙・ナラティヴ・陰謀論——これまでの議論を振り返る

授業であつかつてきた 18 世紀のさまざまなトピックをもとに、21 世紀の現代につながる問題を、受講者のみなさんと一緒に考えます。

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業に関連するテキスト（翻訳）を共有します。授業の内容を理解するには、これらのテキストをあわせて読むことが必須となります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:40% リアクションペーパー:60%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

カント 『啓蒙とは何か 他四篇』 岩波書店 1974 9784003362525

シラー 『招霊妖術師』 国書刊行会 1980 9784336025197

ライプニッツ 『モナドロジー 他二篇』 岩波書店 2019 9784003361696

ハーバーマス 『公共性の構造転換 市民社会の一カテゴリーについての探究』 未来社 1994  
9784624011239

蔵持不三也 『シャルラタン 歴史と諧謔の仕掛人たち』 新評論 2003 9784794806055

ユージンスキ 『陰謀論入門——誰が、なぜ信じるのか？』 作品社 2022 9784861828942

大川勇 『可能性感覚——中欧におけるもうひとつの精神史』 松籟社 2003 9784879842237

詳細は授業中に案内します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ドイツ語圏の思想史をあつかうため、ドイツ語を含む外国語の表現などがいくつか登場します。ドイツ語等の知識があることが望ましいですが、授業内容を理解する上で必ずしも必要ではありません。



# 文学講義 114

Lectures on Literature 114

ドイツの音楽・舞台芸術

江口 直光 (EGUCHI NAOAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AN344
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL3800
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語のオペレッタを取り上げ、このジャンルの特質と社会的・精神的背景を学ぶ。

German operettas will be the theme of this class. Students will study characteristics of this genre, as well as social and intellectual contexts.

## 授業の内容 / Course Contents

ドイツ語で歌われ、演じられるオペレッタの代表的な作品を時代順に取り上げ、映像資料を視聴しながら作品のさまざまな側面を多角的に考察する。

This class will treat master works of operettas sung and played in German in chronological order. While watching video materials, students will conduct analysis from multiple perspectives of these works.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスと導入（オペレッタの定義、オペレッタの起源）
- 2 回：オペレッタの誕生：『地獄のオルフェ』
- 3 回：オペレッタの黄金時代：『こうもり』（1）

- 4回：オペレッタの黄金時代：『こうもり』(2)  
 5回：オペレッタの黄金時代：『こうもり』(3)  
 6回：オペレッタの白銀時代：『メリー・ウィドウ』(1)  
 7回：オペレッタの白銀時代：『メリー・ウィドウ』(2)  
 8回：オペレッタの白銀時代：『メリー・ウィドウ』(3) / オペレッタの変容：『微笑みの国』(1)  
 9回：オペレッタの変容：『微笑みの国』(2)  
 10回：オペレッタの変容：『微笑みの国』(3)  
 11回：オペレッタからミュージカルへ：『白馬亭にて』(1)  
 12回：オペレッタからミュージカルへ：『白馬亭にて』(2)  
 13回：オペレッタからミュージカルへ：『白馬亭にて』(3)  
 14回：まとめと補遺

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて履修登録完了後に指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 不定期に何回か提出するリアクションペーパー:40%

- ・ドイツ文学専修の申し合わせ事項として、欠席3回でD評価となる。
- ・リアクションペーパーは出席点とは無関係である。たとえ提出しても、授業内容を把握していると判断できないようなもの、独自の思考過程がうかがえないもの、他人のものやインターネットの記事、生成系AIの出力結果を書き写したようなもの等は採点の対象にならない。

### テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、教員が作成したプリントを用いる。

### 参考文献 / Readings

参考文献は授業時に適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ドイツ語および音楽に関する基礎的な知識を持っていたほうがより授業内容になじみやすいが、成績評価にあたってドイツ語および音楽に関する知識の有無は問わない。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、立教大学の授業支援システム

### その他 / Others

教材プリントは1回前の分まで教室に持参する。欠席などの理由で2回以上前の分を必要とする場合は、各自で授業支援システムからダウンロードして入手してほしい。

# 文学講義 118

Lectures on Literature 118

ドイツ中世の文学・文化

村瀬 天出夫 (MURASE AMADEO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AN348  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： GRL3800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ドイツ中世盛期の女性神秘家たちとその「幻視文学 (Visionsliteratur)」を考察する。

The students will learn the “Visionsliteratur (vision literature)” composed by female mystics in the German High Middle Ages.

## 授業の内容 / Course Contents

講義形式で行う。ヒルデガルト・フォン・ビンゲン(1098–1179)やメヒティルト・フォン・マグデブルク(1207頃–1282頃)など中世盛期の女性神秘家たちを中心に、文学史的ジャンルとしての「幻視」(ヴィジオ visio) の社会的・文化的機能を検討する。

そのためにドイツ中世文化における「神秘思想」(Mystik) を文学史的・ドイツ語史的・キリスト教史的・知識論的観点から解説する。

Students will learn early modern academic revolution Paracelsianism in German speaking areas organized by 16th century doctor Paracelsus and his supporters. Focusing on mystics in the High Middle Ages, e.g. Hildegard von Bingen (1098–1179) and Mechthild von Magdeburg (ca. 1207–ca.1282), students will learn the “visio

(vision)” as literary category and its socio-cultural functions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ドイツ中世文学・文化概略1
- 2回：ドイツ中世文学・文化概略2
- 3回：ドイツ中世文学・文化概略3
- 4回：中世盛期の女性神秘家たち
- 5回：ヒルデガルト・フォン・ビンゲン (Hildegard von Bingen)
- 6回：メヒティルト・フォン・マグデブルク (Mechthild von Magdeburg)
- 7回：「神秘思想」1：認識論的概念としての「神秘・ミスティック」の文化的意味
- 8回：「神秘思想」2：文学的・ドイツ語史的意味
- 9回：「幻視文学」1：「幻視・ヴィジオ」の文学史的意味
- 10回：「幻視文学」2：知識論的意味
- 11回：「幻視文学」3：キリスト教史的意味
- 12回：「幻視文学」4：女性神秘家たち
- 13回：受容と展望：中世末期の「ドイツ神秘主義」(Deutsche Mystik)へ
- 14回：まとめとふりかえり

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

配布されるテキストを事前に読んでおくこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    リアクションペーパーの内容を基準とする授業参加度:60%    最終レポート割合 :40%

無断で授業を欠席した場合、3回の欠席でもってD評価とする。

### テキスト / Textbooks

授業時に配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に随時指示する。

### その他 / Others

授業時では毎回リアクションペーパーに疑問・感想等を書いてもらいます。そして、それをもとにしたフィードバックも行っています。積極的な授業参加を期待しています。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

宮崎 麻子／ムレンス ゴリ (MIYAZAKI ASAKO/ MUELENZ-GOLI K.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN781

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： GRL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

井出 万秀／ムレンス ゴリ (IDE MANSHU/ MUELENZ-GOLI K.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN782

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： GRL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

吉田 治代／ムレンス ゴリ (YOSHIDA HARUYO/ MUELENZ-GOLI K.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN783

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： GRL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

坂本 貴志／ムレンス ゴリ (SAKAMOTO TAKASHI/ MUELENZ-GOLI K.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AN785

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： GRL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 入門演習 D1a

Introductory Seminars in French D1a

現代フランスの文化と社会

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS011

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランスの文化や社会を考えるうえで、手掛かりとなる基礎的な知識を学び、発表やレポート、資料の検索などの方法を身につける。

Students will learn basic knowledge that will serve as a clue in considering French culture and society, and learn how to make presentations, write reports, and search for materials.

## 授業の内容 / Course Contents

今後学んでゆくことになるフランス語圏の文化と社会への最初のアプローチとして、いくつかの特徴的なテーマ（「政教分離」「ストライキ」「家族制度」など）から現代のフランス社会を扱ったテキストを用いて、日本との比較も行いながら考察してゆきます。受講者はいくつかのグループに分かれ、担当する箇所については、テキストの要約と調査を行ったうえで発表します。全員が事前に該当する部分を読んでくることを前提に、発表を聞いた後、全体で意見を出しあい、最後にコメントカードに自分の考えをまとめて提出するという手順を進めるので、準備も含めた積極的な参加が必要となります。以上の作業を行うために、最初の数回は、入門的な概要を紹介し、要約や発表の方法、図書館を利用した資料の検索のしかたなどを学びます。

As a first approach to the culture and society of the French-speaking world, we will examine several characteristic themes ("separation of church and state," "strikes," "family system," etc.) in texts dealing with contemporary French society, while making comparisons with Japan. Students will be divided into several groups, and will present their assigned sections after summarizing and researching the text. After listening to the presentations, participants will discuss their opinions as a whole, and finally, they will submit their ideas on comment cards. In order to do this, the first few sessions will provide an introductory overview of the subject, and will cover such topics as how to summarize and present your work, and how to search for materials in the library.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、シラバス確認、教科書の紹介
- 2回：発表のための準備①
- 3回：図書館講習（予定）
- 4回：発表のための準備②
- 5回：発表：政教分離
- 6回：発表：ストライキ
- 7回：発表：首都パリと地方
- 8回：発表：食文化
- 9回：発表：アメリカへの感情
- 10回：発表：大学生活
- 11回：発表：植民地の遺産
- 12回：レポートの書き方について
- 13回：フランスの恋愛および家族制度について
- 14回：確認作業・まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の作業は毎回の授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への参加とコメントカード:30% 発表:40% 期末レポート:30%

### テキスト / Textbooks

小田中直樹 『フランス7つの謎』 文春新書 2005 4166604279 ○

### 参考文献 / Readings

朝比奈美知子・横山安由美 『フランス文化 55 のキーワード』 ミネルヴァ書房 2011 4623060152

### その他 / Others

全員が必ず一度は発表することになる。また毎回ディスカッションの時間を設けるので、積極的な受講態度が期待される。

# 入門演習 D1b

Introductory Seminars in French D1b

現代フランスの文化と社会について知る

森本 悠人 (MORIMOTO YUJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代フランス社会について基本的な知識を身につける。問いを立てることを意識しながら、文献検索方法、発表の手法、レポート作成方法を習得する。

The purpose of this course is to help students acquire basic knowledge about the contemporary French society, and learn how to search literature, make presentations, and write reports.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業ではフランスの歴史、宗教、政治、ジェンダー、芸術などのテーマを扱った資料を読み、日本と比較しながらその特徴をつかんでいきます。最初の数回の授業は講義形式としますが、その後は受講者の発表を中心に進みます。

いくつかのグループに分かれ指定されたテーマについて発表し、それをもとに受講者間で質疑応答やディスカッションを行います。学期末には関心のあるテーマを選択し、それにかんしてレポートを提出してもらいます。

Students will read materials on French history, religion, politics, gender, art, and other topics, and compare them with those of Japan in order to capture their characteristics. The first few classes will be lecture-style, but after that, the class will focus on student presentations.

Students will be divided into groups to give presentations on the specified topics, which will be followed by a question-and-answer session and discussion. At the end of the semester, students will be asked to choose a theme of interest and submit a report on it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義（フランスの社会と歴史）
- 3回：講義（フランス文化）
- 4回：発表の準備（発表の仕方・分担決め）
- 5回：図書館講習（文献の読み方、文献検索方法）
- 6回：グループ発表1
- 7回：グループ発表2
- 8回：グループ発表3
- 9回：レポートの書き方
- 10回：グループ発表4
- 11回：グループ発表5
- 12回：グループ発表6
- 13回：グループ発表7
- 14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱うテーマについて各自文献を調べることに、指示された資料を必ず読んでおくこと。それ以外については授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 発表:30% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

朝比奈美知子・横山安由美編 『フランス文化 55 のキーワード』 ミネルヴァ書房 2011 9784623060153

適宜授業で指示する。

# 入門演習 D1c

Introductory Seminars in French D1c

現代フランスの社会と文化

上杉 恭子 (UESUGI KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

専門教育に向けて、フランスの社会や文化についての基礎的な知識を学ぶ。また、文献検索や発表の手法、レポート等の書き方を学ぶ。

Students will acquire basic knowledge about French society and culture to prepare themselves for specialized subjects. In addition, students will learn how to write reports, search, and present literatures.

## 授業の内容 / Course Contents

フランスがどのような国なのか、歴史、政治、経済、宗教、文化などの分野からいくつかのテーマをとりあげ、配布資料等を用いて、日本との比較も行いながらその特徴を探っていきます。受講者はグループに分かれ、各グループごと担当するテーマについて調査・発表をします。発表をもとに、クラス全体で意見を交換し、さらに理解を深めていきます。学期末には各自が関心のあるテーマを選び、レポートにまとめて提出してもらいます。

以上の作業を行うために、図書館やインターネットを利用した資料検索の仕方、発表の方法なども学ぶ予定です。

Students will be exposed to several areas including, history, politics, economy, religion, and culture based on distributed materials, and compare France and Japan in these areas and search for its characteristics. Students will be divided into groups, and will research and present assigned subjects. Based on these presentations, all class members will exchange their opinions to further deepen their understandings. At the end of semester, students will select subjects they are interested in and submit their findings in reports.

In order to do this, students will also learn how to search for information in library and online, as well as doing presentation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：予備講義(1)
- 3 回：予備講義(2)
- 4 回：発表の準備
- 5 回：図書館講習
- 6 回：発表(1)
- 7 回：発表(2)
- 8 回：発表(3)
- 9 回：発表(4)
- 10 回：レポートの書き方
- 11 回：発表(5)
- 12 回：発表(6)
- 13 回：発表(7)
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の担当する発表、及び最終レポートに向けて、文献や資料の調査をはじめとした準備を進めていくこと。それ以外については授業時に随時指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業参加度:40% 発表:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

朝比奈美知子・横山安由美 『フランス文化 55 のキーワード』 ミネルヴァ書房 2011 4623060152

田村毅 他 編 『フランス文化事典』 丸善 2012 4621085220

適宜授業で紹介する。

# 入門演習 D2a

Introductory Seminars in French D2a

フランス文学への招待

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS021

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

翻訳された作品を通して、フランスの文学に触れ、小説を中心とする文学作品を読むための基礎となる技法を学ぶ。

Through translated works, students will be exposed to French literature and learn techniques that will serve as a basis for reading literary works, especially novels.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、フランス文学への第一歩として、具体的に短編や抜粋を用いて、物語がどのように構成されているのか、言葉がどのように用いられているのかを、客観的に分析するという作業を行います。受講者は、作品を読み、要約的にまとめ、それから各自の視点から分析します。事前に必ず作品の該当する部分を読み、考えてきたうえで、全体で議論を行います。授業の終わりにコメントカードに自らの考えをまとめ提出するという流れで進めるので、積極的な参加が必要です。

In this class, as a first step toward French literature, the students will be given the task of objectively analyzing how a story is structured and how language is used, using specific short stories and excerpts. The course will

cover several texts from French novels. The student in charge will give a summary of the text and then analyze it from his/her own point of view. All students are required to read and think about the text prior to the class, and then discuss them. At the end of the class, students are required to summarize their thoughts on a comment card and submit it to the instructor, so active participation is required.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、使用テキストについて
- 2回：読解1
- 3回：読解2
- 4回：読解3
- 5回：読解4
- 6回：読解5
- 7回：読解6
- 8回：読解7
- 9回：読解8
- 10回：読解9
- 11回：読解10
- 12回：読解11
- 13回：読解12
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の作業は毎回の授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への参加度とコメントカード：30% 発表：20% レポート（複数回）：50%

作品のコピーの外、テキストを必ず購入すること

### テキスト / Textbooks

ヴォルテール 『カンディード』 光文社 4334753191 ○

カミュ 『異邦人』 新潮文庫 ○

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

朝比奈美知子・横山安由美 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 4623034909

### その他 / Others

演習である以上、全員が必ず一度は発表することになる。文学作品にあまり触れたことのない学生も、疑問点などあれば積極的に質問すること。



# 入門演習 D2b

Introductory Seminars in French D2b

古今のフランス文学作品に触れる

森本 悠人 (MORIMOTO YUJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS022

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス文学の代表作を読んで、その分析方法を学ぶ。

The purpose of this course is to read masterpieces of French literature and learn how to analyze them.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業ではフランス文学史において傑作とされる作品を読み、文学作品を論じる上での基本的な方法を学びます。最初の数回は講義形式でフランス文学史の全体像を掴み、大学で文学作品を扱うことの意味を考えていきます。その後、受講者はグループに分かれ、指定された作品について発表してもらいます。

発表に対する質疑応答・ディスカッションを行うので、各自準備してきてください。学期末には関心のあるテーマを選んで、レポートを提出してもらいます。

In this class, we will read masterpieces of French literature and learn basic methods for discussing literary works. In the first few lectures, students will get an overview of French literary history. Then students will be divided into groups and asked to give a presentation on an assigned work.

There will be a question and answer session and discussion of the presentations, so please come prepared. At the

end of the semester, students will be asked to choose a theme of interest and submit a report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義（フランス文学概説）
- 3回：講義（近現代フランス文学）
- 4回：発表のための準備、分担決め
- 5回：グループ発表1（テキストの精読と討論1）
- 6回：グループ発表2（テキストの精読と討論2）
- 7回：グループ発表3（テーマ分析と討論1）
- 8回：グループ発表4（テーマ分析と討論2）
- 9回：グループ発表5（テーマ分析と討論3）
- 10回：グループ発表6（テーマ分析と討論4）
- 11回：グループ発表7（テーマ分析と討論5）
- 12回：レポートの書き方
- 13回：グループ発表8（テーマ分析と討論6）
- 14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指示されたテキストを読み込み、それに関連する文献を調べること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 発表:30% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

横山安由美・朝比奈美知子編著 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 9784623034901

永井敦子・畠山達・黒岩卓編著 『フランス文学の楽しみ方』 ミネルヴァ書房 2021 9784623090761

授業中に適宜指示する。

# 入門演習 D2c

Introductory Seminars in French D2c

フランス文学への招待

上杉 恭子 (UESUGI KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

翻訳を通してフランス文学の代表作を読み、多角的に考察する。

Students will read masterpieces of French literature in translation and reflect on them from multiple perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、フランス文学を代表するとされるいくつかの作品を読みながら、文学作品を論じるにあたっての基本的な方法を学びます。受講者はグループに分かれ、各グループごと担当する作品について分析し、発表をします。発表後には、クラス全体でそれに対する質疑応答や議論も行います。学期末には各自が関心を持った作品を選んで分析し、レポートを提出してもらいます。

In this class, students will read some masterpieces of French literature and learn basic methods for discussing and analysing literary works. Students will be divided into groups, and will analyse assigned work and give a presentation on this. The presentation will be followed by a question and answer session and discussion with a whole class. At the end of semester, students will select and analyse a work they are interested in, and will submit their findings in reports.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：導入
- 2回：予備講義(1)
- 3回：予備講義(2)
- 4回：発表の準備
- 5回：発表(1)
- 6回：発表(2)
- 7回：発表(3)
- 8回：発表(4)
- 9回：レポートの書き方
- 10回：発表(5)
- 11回：発表(6)
- 12回：発表(7)
- 13回：発表(8)
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回、指定されたテキストを必ず事前に読み、自分なりの見解を持って授業に臨むこと。それ以外については授業時に随時指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業参加度:30% 発表:30% 最終レポート割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

プリントを配布する。

**参考文献 / Readings**

横山安由美・朝比奈美知子 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 4623034909

渡辺一夫・鈴木力衛 『フランス文学案内』 岩波文庫 1961 4003500016

適宜授業で紹介する。

# フランス語基礎演習 1 a

Preliminary Seminars in French 1a

速読

明石 伸子 (AKASHI NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS031

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

比較的やさしいテキストを速読して読解力をつける。

語彙を増やししながら、文法理解を徹底する。

Students will be able to speed read and understand relatively easy texts. Students will increase their vocabularies while improving their understanding of grammars.

## 授業の内容 / Course Contents

教室で、ある一定の長さの比較的やさしいテキストを、まずは辞書を引かずに読んでもらい、大まかな筋を把握できたかどうかチェックする。つづいて、本文理解に必要な単語の優先順位を意識しながら辞書をひいて、テキストをより正確に理解し、その内容と文法事項にかかわる問題を解く。最後に、本文全体に関し、初級文法の復習や中級文法への手引き、重要表現や基本語彙などを念頭におきながら、読解のキーとなる点について解説する。原則として授業の冒頭で、前回のテキストから数行のディクテと訳の小テストを行うので、指定された範囲の表現や単語、文法事項などを必ず復習して授業に参加すること。

この授業を通して、外国語の文章に対してもまずは大雑把に意味を把握するコツを身につけてほしい。テキストとしては、仏検3級から準2級程度の文章を使用する予定。なお、翌週のテキストに登場する基本表現を用いた例文集を配るので、必ず辞書で意味や用法を確認しておくこと。

Through this class, students will acquire skills essential to grasp the meaning of short texts written in French on the whole. Texts used will be equivalent to grade 3 and grade pre-2 of Diplôme d'Aptitude Pratique au Français.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テキスト1
- 2回：テキスト2
- 3回：テキスト3
- 4回：テキスト4
- 5回：テキスト5
- 6回：テキスト6
- 7回：テキスト7
- 8回：テキスト8
- 9回：テキスト9
- 10回：テキスト10
- 11回：テキスト11
- 12回：テキスト12
- 13回：テキスト13
- 14回：テキスト14

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業の冒頭で、前回扱ったテキストに関しディクテ（書き取り）および訳の小テストを行うので、その準備を怠らないこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:40% ディクテ:30% 訳の小テスト、もしくは提出物:30%

### テキスト / Textbooks

毎回プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

1年次に使用した文法の教科書と辞書を活用すること。また辞書は必ず持参するように。携帯を辞書代わりに用いることは認めない。

# フランス語基礎演習 1 b

Preliminary Seminars in French 1b

速読

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS032
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2413
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

比較的やさしいテキストを速読して読解力をつける。

語彙を増やししながら、文法理解を徹底する。

Students will be able to speed read and understand relatively easy texts. Students will increase their vocabularies while improving their understanding of grammars.

## 授業の内容 / Course Contents

教室で、ある一定の長さの比較的やさしいテキストを、まずは辞書を引かずに読んでもらい、大まかな筋を把握できたかどうかチェックする。つづいて、本文理解に必要な単語の優先順位を意識しながら辞書をひいて、テキストをより正確に理解し、その内容と文法事項にかかわる問題を解く。最後に、本文全体に関し、初級文法の復習や中級文法への手引き、重要表現や基本語彙などを念頭におきながら、読解のキーとなる点について解説する。原則として授業の冒頭で、前回のテキストから数行のディクテと訳の小テストを行うので、指定された範囲の表現や単語、文法事項などを必ず復習して授業に参加すること。

この授業を通して、外国語の文章に対してもまずは大雑把に意味を把握するコツを身につけてほしい。テキストとしては、仏検3級から準2級程度の文章を使用する予定。なお、翌週のテキストに登場する基本表現を用いた例文集を配るので、必ず辞書で意味や用法を確認しておくこと。

Through this class, students will acquire skills essential to grasp the meaning of short texts written in French on the whole. Texts used will be equivalent to grade 3 and grade pre-2 of Diplôme d'Aptitude Pratique au Français.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テキスト1
- 2回：テキスト2
- 3回：テキスト3
- 4回：テキスト4
- 5回：テキスト5
- 6回：テキスト6
- 7回：テキスト7
- 8回：テキスト8
- 9回：テキスト9
- 10回：テキスト10
- 11回：テキスト11
- 12回：テキスト12
- 13回：テキスト13
- 14回：テキスト14

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業の冒頭で、前回扱ったテキストに関しディクテ（書き取り）および訳の小テストを行うので、その準備を怠らないこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:40% ディクテ:30% 訳の小テスト、もしくは提出物:30%

### テキスト / Textbooks

毎回プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

1年次に使用した文法の教科書と辞書を活用すること。また辞書は必ず持参するように。携帯を辞書代わりに用いることは認めない。



# フランス語基礎演習 1c

Preliminary Seminars in French 1c

速読

齋藤 かぐみ (SAITO KAGUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS033
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2413
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

比較的やさしいテキストを速読して読解力をつける。

語彙を増やししながら、文法理解を徹底する。

Students will be able to speed read and understand relatively easy texts. Students will increase their vocabularies while improving their understanding of grammars.

## 授業の内容 / Course Contents

教室で、ある一定の長さの比較的やさしいテキストを、まずは辞書を引かずに読んでもらい、大まかな筋を把握できたかどうかチェックする。つづいて、本文理解に必要な単語の優先順位を意識しながら辞書をひいて、テキストをより正確に理解し、その内容と文法事項にかかわる問題を解く。最後に、本文全体に関し、初級文法の復習や中級文法への手引き、重要表現や基本語彙などを念頭におきながら、読解のキーとなる点について解説する。原則として授業の冒頭で、前回のテキストから数行のディクテと訳の小テストを行うので、指定された範囲の表現や単語、文法事項などを必ず復習して授業に参加すること。

この授業を通して、外国語の文章に対してもまずは大雑把に意味を把握するコツを身につけてほしい。テキストとしては、仏検3級から準2級程度の文章を使用する予定。なお、翌週のテキストに登場する基本表現を用いた例文集を配るので、必ず辞書で意味や用法を確認しておくこと。

Through this class, students will acquire skills essential to grasp the meaning of short texts written in French on the whole. Texts used will be equivalent to grade 3 and grade pre-2 of Diplôme d'Aptitude Pratique au Français.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テキスト1
- 2回：テキスト2
- 3回：テキスト3
- 4回：テキスト4
- 5回：テキスト5
- 6回：テキスト6
- 7回：テキスト7
- 8回：テキスト8
- 9回：テキスト9
- 10回：テキスト10
- 11回：テキスト11
- 12回：テキスト12
- 13回：テキスト13
- 14回：テキスト14

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業の冒頭で、前回扱ったテキストに関しディクテ（書き取り）および訳の小テストを行うので、その準備を怠らないこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:40% ディクテ:30% 訳の小テスト、もしくは提出物:30%

### テキスト / Textbooks

毎回プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

1年次に使用した文法の教科書と辞書を活用すること。また辞書は必ず持参するように。携帯を辞書代わりに用いることは認めない。

## フランス語基礎演習 2 a

Preliminary Seminars in French 2a

フランス語口頭表現

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS041
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

1 年次に学習した初級文法を定着させ、基礎的な口頭表現や聴解の訓練を行うと同時に、作文力の養成をはかる。

In this course, students solidify the grammar learned during the first year and practice basic oral expressions and listening comprehension while developing their writing skills.

### 授業の内容 / Course Contents

以下のテーマについて、1 年次に学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週 1 回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。

The below themes reinforce the vocabulary, expressions and grammar items learned during the first year while students further develop their ability to use French. Held once a week. As a general rule, this class is held by native French professor. Using the below text, students develop the ability to have conversations with everyday

themes while practicing writing essays with similar themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介
- 2 回：Echangeons nos contacts
- 3 回：Tu t'appelles comment ?
- 4 回：Explique-moi ce mot
- 5 回：Tu es d'où?
- 6 回：Décris-moi le contenu de ton sac
- 7 回：Comment est ta chambre?
- 8 回：Décris-moi cette personne
- 9 回：C'est qui?
- 10 回：Fais-moi deviner cet objet
- 11 回：Pourquoi cet objet est-il important pour toi?
- 12 回：Décris-moi ce tableau
- 13 回：Quel est ton film préféré?
- 14 回：テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

Bruno Vannieuwenhuys 『Moi, je...コミュニケーション A2』 アルマ 2023 9784905343349 ○

### 参考文献 / Readings

## フランス語基礎演習 2b

Preliminary Seminars in French 2b

フランス語口頭表現

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS042  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： FRL2412  
使用言語： その他  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1 年次に学習した初級文法を定着させ、基礎的な口頭表現や聴解の訓練を行うと同時に、作文力の養成をはかる。

In this course, students solidify the grammar learned during the first year and practice basic oral expressions and listening comprehension while developing their writing skills.

### 授業の内容 / Course Contents

以下のテーマについて、1 年次に学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週 1 回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。

The below themes reinforce the vocabulary, expressions and grammar items learned during the first year while students further develop their ability to use French. Held once a week. As a general rule, this class is held by native French professor. Using the below text, students develop the ability to have conversations with everyday

themes while practicing writing essays with similar themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介
- 2 回：Echangeons nos contacts
- 3 回：Tu t'appelles comment ?
- 4 回：Explique-moi ce mot
- 5 回：Tu es d'où?
- 6 回：Décris-moi le contenu de ton sac
- 7 回：Comment est ta chambre?
- 8 回：Décris-moi cette personne
- 9 回：C'est qui?
- 10 回：Fais-moi deviner cet objet
- 11 回：Pourquoi cet objet est-il important pour toi?
- 12 回：Décris-moi ce tableau
- 13 回：Quel est ton film préféré?
- 14 回：テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

Bruno Vannieuwenhuys 『Moi, je...コミュニケーション A2』 アルマ 2023 9784905343349 ○

### 参考文献 / Readings

## フランス語基礎演習 2c

Preliminary Seminars in French 2c

フランス語口頭表現

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS043

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1 年次に学習した初級文法を定着させ、基礎的な口頭表現や聴解の訓練を行うと同時に、作文力の養成をはかる。

In this course, students solidify the grammar learned during the first year and practice basic oral expressions and listening comprehension while developing their writing skills.

### 授業の内容 / Course Contents

以下のテーマについて、1 年次に学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週 1 回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。

The below themes reinforce the vocabulary, expressions and grammar items learned during the first year while students further develop their ability to use French. Held once a week. As a general rule, this class is held by native French professor. Using the below text, students develop the ability to have conversations with everyday

themes while practicing writing essays with similar themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介
- 2 回：Echangeons nos contacts
- 3 回：Tu t'appelles comment ?
- 4 回：Explique-moi ce mot
- 5 回：Tu es d'où?
- 6 回：Décris-moi le contenu de ton sac
- 7 回：Comment est ta chambre?
- 8 回：Décris-moi cette personne
- 9 回：C'est qui?
- 10 回：Fais-moi deviner cet objet
- 11 回：Pourquoi cet objet est-il important pour toi?
- 12 回：Décris-moi ce tableau
- 13 回：Quel est ton film préféré?
- 14 回：テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

Bruno Vannieuwenhuys 『Moi, je...コミュニケーション A2』 アルマ 2023 9784905343349 ○

### 参考文献 / Readings



# フランス語基礎演習 3 a

Preliminary Seminars in French 3a

フランス語中級文法

高橋 久美 (TAKAHASHI KUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS051

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法を確認し、練習問題を行う。一年次に学んだ初級文法を復習したうえで、その先の中級文法を修得することを目的とする。知識としての文法ではなく、実践に役立つ形で、自分でテキストを読むための基礎力をつけることが本授業の目標である。

The aim of this course is to revise the elementary grammar learned in the first year and then to move on to more advanced grammar, with exercises. The aim of this course is to provide students with the basic skills to read texts and use them in practice.

## 授業の内容 / Course Contents

(1) 教員が最初に文法事項の説明を行うが、学生は事前に必ず教科書を読んで、わからない部分の質問などができるようにする。

(2) 学生は練習問題のすべてを予習しておき、授業ではその答合わせを中心に進める。

(1) The teacher explains the grammar first.

Students prepare the textbook in advance so that they can ask questions about the parts they do not understand.

(2) Students have to do all the exercises in advance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランス語文法 1
- 2回：フランス語文法 2
- 3回：フランス語文法 3
- 4回：フランス語文法 4
- 5回：フランス語文法 5
- 6回：フランス語文法 6
- 7回：中間テスト、振り返り
- 8回：フランス語文法 7
- 9回：フランス語文法 8
- 10回：フランス語文法 9
- 11回：フランス語文法 10
- 12回：フランス語文法 11
- 13回：フランス語文法 12
- 14回：フランス語文法 13 (確認テスト)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(予習) 練習問題を予習して授業に臨むこと。

練習問題については文法事項を答えるだけでなく、すべて和訳を準備すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度 (宿題, 小テストなど) :40% 中間テスト:30% 最終テスト割合 :30%

### テキスト / Textbooks

熊谷良子他 『レヴォリューションII』 (Révolution II) 朝日出版社 2015 9784255352510 ○

### 参考文献 / Readings

授業に持参すべき参考文献・辞書等は一回目の授業で指示する。毎回必ず辞書を持参すること。

# フランス語基礎演習 3b

Preliminary Seminars in French 3b

フランス語中級文法

中田 麻理 (NAKATA MARI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS052
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2413
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法を確認し、練習問題を行う。一年次に学んだ初級文法を復習したうえで、その先の中級文法を修得することを目的とする。知識としての文法ではなく、実践に役立つ形で、自分でテキストを読むための基礎力をつけることが本授業の目標である。

The aim of this course is to revise the elementary grammar learned in the first year and then to move on to more advanced grammar, with exercises. The aim of this course is to provide students with the basic skills to read texts and use them in practice.

## 授業の内容 / Course Contents

(1) 教員が最初に文法事項の説明を行うが、学生は事前に必ず教科書を読んで、わからない部分の質問などができるようにする。

(2) 学生は練習問題のすべてを予習しておき、授業ではその答合わせを中心に進める。

(1) The teacher explains the grammar first.

Students prepare the textbook in advance so that they can ask questions about the parts they do not understand.

(2) Students have to do all the exercises in advance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランス語文法 1
- 2回：フランス語文法 2
- 3回：フランス語文法 3
- 4回：フランス語文法 4
- 5回：フランス語文法 5
- 6回：フランス語文法 6
- 7回：中間テスト、振り返り
- 8回：フランス語文法 7
- 9回：フランス語文法 8
- 10回：フランス語文法 9
- 11回：フランス語文法 10
- 12回：フランス語文法 11
- 13回：フランス語文法 12
- 14回：フランス語文法 13 (確認テスト)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(予習) 練習問題を予習して授業に臨むこと。

練習問題については文法事項を答えるだけでなく、すべて和訳を準備すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度 (宿題, 小テストなど) :40% 中間テスト:30% 最終テスト割合 :30%

### テキスト / Textbooks

熊谷良子他 『レヴォリューションII』 (Révolution II) 朝日出版社 2015 9784255352510 ○

### 参考文献 / Readings

授業に持参すべき参考文献・辞書等は一回目の授業で指示する。毎回必ず辞書を持参すること。

# フランス語基礎演習 3c

Preliminary Seminars in French 3c

フランス語中級文法

中村 彩 (NAKAMURA AYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS053

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法を確認し、練習問題を行う。一年次に学んだ初級文法を復習したうえで、その先の中級文法を修得することを目的とする。知識としての文法ではなく、実践に役立つ形で、自分でテキストを読むための基礎力をつけることが本授業の目標である。

The aim of this course is to revise the elementary grammar learned in the first year and then to move on to more advanced grammar, with exercises. The aim of this course is to provide students with the basic skills to read texts and use them in practice.

## 授業の内容 / Course Contents

(1) 教員が最初に文法事項の説明を行うが、学生は事前に必ず教科書を読んで、わからない部分の質問などができるようにする。

(2) 学生は練習問題のすべてを予習しておき、授業ではその答合わせを中心に進める。

(1) The teacher explains the grammar first.

Students prepare the textbook in advance so that they can ask questions about the parts they do not understand.

(2) Students have to do all the exercises in advance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランス語文法 1
- 2回：フランス語文法 2
- 3回：フランス語文法 3
- 4回：フランス語文法 4
- 5回：フランス語文法 5
- 6回：フランス語文法 6
- 7回：中間テスト、振り返り
- 8回：フランス語文法 7
- 9回：フランス語文法 8
- 10回：フランス語文法 9
- 11回：フランス語文法 10
- 12回：フランス語文法 11
- 13回：フランス語文法 12
- 14回：フランス語文法 13 (確認テスト)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(予習) 練習問題を予習して授業に臨むこと。

練習問題については文法事項を答えるだけでなく、すべて和訳を準備すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度 (宿題, 小テストなど) :40% 中間テスト:30% 最終テスト割合 :30%

### テキスト / Textbooks

熊谷良子他 『レヴォリューションII』 (Révolution II) 朝日出版社 2015 9784255352510 ○

### 参考文献 / Readings

授業に持参すべき参考文献・辞書等は一回目の授業で指示する。毎回必ず辞書を持参すること。

# フランス語基礎演習 4 a

Preliminary Seminars in French 4a

フランス語口頭表現

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS061

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語基礎演習 2 a に引き続き、中級フランス語の表現や語彙を学習しながら、より高度なコミュニケーション能力の養成を目指す。

Following “French basic expression 2a” this class aims for students to develop more advanced communication abilities while learning intermediate level French expressions and vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

以下のテーマについて、これまで学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。また、授業や教材をとおして、フランス語圏の歴史や文化などについての理解を深める。

週 1 回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。

The below themes reinforce the vocabulary, expressions and grammar items learned up until now while students further develop their ability to use French. Students deepen their understanding of history and culture in the

French-speaking sphere through lessons and course materials.

Held once a week. As a general rule, this class is held by native French professor. Using the below text, students develop the ability to have conversations with everyday themes while practicing writing essays with similar themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介
- 2 回：Parle-moi des fêtes de ton pays
- 3 回：Qu'as-tu fait pendant les vacances?
- 4 回：Raconte-moi une histoire
- 5 回：Qu'as-tu fait le week-end dernier?
- 6 回：Invente une pub
- 7 回：Qu'est-ce que cette pub raconte?
- 8 回：Tu as raison
- 9 回：Tu peux me conseiller des lieux dans la ville
- 10 回：Ouais
- 11 回：Serait-il possible de vous voir prochainement?
- 12 回：Discutons ensemble
- 13 回：Quoi de neuf
- 14 回：テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

Bruno Vannieuwenhuys 『Moi, je...コミュニケーション A2』 アルマ 2023 9784905343349 ○

### 参考文献 / Readings



## フランス語基礎演習 4 b

Preliminary Seminars in French 4b

フランス語口頭表現

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS062

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス語基礎演習 2 a に引き続き、中級フランス語の表現や語彙を学習しながら、より高度なコミュニケーション能力の養成を目指す。

Following “French basic expression 2a” this class aims for students to develop more advanced communication abilities while learning intermediate level French expressions and vocabulary.

### 授業の内容 / Course Contents

以下のテーマについて、これまで学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。また、授業や教材をとおして、フランス語圏の歴史や文化などについての理解を深める。

週 1 回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。

The below themes reinforce the vocabulary, expressions and grammar items learned up until now while students further develop their ability to use French. Students deepen their understanding of history and culture in the

French-speaking sphere through lessons and course materials.

Held once a week. As a general rule, this class is held by native French professor. Using the below text, students develop the ability to have conversations with everyday themes while practicing writing essays with similar themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介
- 2 回：Parle-moi des fêtes de ton pays
- 3 回：Qu'as-tu fait pendant les vacances?
- 4 回：Raconte-moi une histoire
- 5 回：Qu'as-tu fait le week-end dernier?
- 6 回：Invente une pub
- 7 回：Qu'est-ce que cette pub raconte?
- 8 回：Tu as raison
- 9 回：Tu peux me conseiller des lieux dans la ville
- 10 回：Ouais
- 11 回：Serait-il possible de vous voir prochainement?
- 12 回：Discutons ensemble
- 13 回：Quoi de neuf
- 14 回：テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

Bruno Vannieuwenhuys 『Moi, je...コミュニケーション A2』 アルマ 2023 9784905343349 ○

### 参考文献 / Readings

## フランス語基礎演習 4 c

Preliminary Seminars in French 4c

フランス語口頭表現

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS063

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス語基礎演習 2 a に引き続き、中級フランス語の表現や語彙を学習しながら、より高度なコミュニケーション能力の養成を目指す。

Following “French basic expression 2a” this class aims for students to develop more advanced communication abilities while learning intermediate level French expressions and vocabulary.

### 授業の内容 / Course Contents

以下のテーマについて、これまで学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。また、授業や教材をとおして、フランス語圏の歴史や文化などについての理解を深める。

週 1 回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。

The below themes reinforce the vocabulary, expressions and grammar items learned up until now while students further develop their ability to use French. Students deepen their understanding of history and culture in the

French-speaking sphere through lessons and course materials.

Held once a week. As a general rule, this class is held by native French professor. Using the below text, students develop the ability to have conversations with everyday themes while practicing writing essays with similar themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業紹介
- 2 回：Parle-moi des fêtes de ton pays
- 3 回：Qu'as-tu fait pendant les vacances?
- 4 回：Raconte-moi une histoire
- 5 回：Qu'as-tu fait le week-end dernier?
- 6 回：Invente une pub
- 7 回：Qu'est-ce que cette pub raconte?
- 8 回：Tu as raison
- 9 回：Tu peux me conseiller des lieux dans la ville
- 10 回：Ouais
- 11 回：Serait-il possible de vous voir prochainement?
- 12 回：Discutons ensemble
- 13 回：Quoi de neuf
- 14 回：テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

Bruno Vannieuwenhuys 『Moi, je...コミュニケーション A2』 アルマ 2023 9784905343349 ○

### 参考文献 / Readings

# フランス語基礎演習 5 a

Preliminary Seminars in French 5a

フランス文学の読解

高橋 久美 (TAKAHASHI KUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS071
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2413
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

丁寧に辞書をひきながら、ひとりで文学作品を読み解く力を身につける。語彙を増やすだけでなく、1年次で学んだ文法知識を基礎として、より高度で複雑な文章表現を理解するコツをつかむ。ダウンロード可能な音声教材を使用し、発音とリスニング能力も強化する。

Students will be able to read literatures alone by checking dictionary carefully. In addition to increasing vocabulary, students will also use grammar knowledge they learnt in year 1 to understand more advanced and complex expressions. Students will use downloadable audio materials to improve their pronunciation and listening skills.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストには、17世紀から20世紀まで（さらに付録として中世・16世紀の）名文が並ぶが、授業では、学生の関心に配慮しつつ、各担当教員が選んだ文章を比較的わかりやすいものから読む。単語の意味だけにとらわれず、文の構造と展開をつかむことを意識してほしい。文学作品らしい表現上の工夫を、原文で実感する機会

にしたい。

Although classics from the 17th to 20th century (and middle age to the 16th century in appendix) will be used as texts, each professor will take students into accounts during the class and choose relatively easy to understand texts. Students should not fixate only on meaning of vocabulary but also be aware of structure and progress of sentences. This will be the opportunity for students to experience efforts that went into literatures' expressions in their original language.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入的授業
- 2回：読解 1
- 3回：読解 2
- 4回：読解 3
- 5回：読解 4
- 6回：読解 5
- 7回：読解 6
- 8回：読解 7
- 9回：読解 8
- 10回：読解 9
- 11回：読解 10
- 12回：読解 11
- 13回：読解 12
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第一回目の授業で全体の流れの説明を行うので、きちんと把握した上で授業に臨むこと。授業にあたっては作品の文章をノートに書き写し、単語の意味を調べるだけでなく、訳文を各自、作成した上で授業に臨むこと。また、各テキストの時代背景等を知るために、適宜文学史の教科書などを参照すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加:40% 小テスト:30% 最終テスト割合：:30%

### テキスト / Textbooks

柏木隆雄他 『レクチュールの冒険』 朝日出版社 2005 4255351708 ○

### 参考文献 / Readings

柏木隆雄他 『エクリチュールの冒険 新編・フランス文学史』 大阪大学出版会 2003 487259147

渡辺一夫・鈴木力衛 『フランス文学案内』 岩波文庫 1961 4003500016

横山安由美・朝比奈美知子 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 4623034909

## フランス語基礎演習 5 b

Preliminary Seminars in French 5b

フランス文学の読解

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS072
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2413
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

丁寧に辞書をひきながら、ひとりで文学作品を読み解く力を身につける。語彙を増やすだけでなく、1年次で学んだ文法知識を基礎として、より高度で複雑な文章表現を理解するコツをつかむ。ダウンロード可能な音声教材を使用し、発音とリスニング能力も強化する。

Students will be able to read literatures alone by checking dictionary carefully. In addition to increasing vocabulary, students will also use grammar knowledge they learnt in year 1 to understand more advanced and complex expressions. Students will use downloadable audio materials to improve their pronunciation and listening skills.

### 授業の内容 / Course Contents

テキストには、17世紀から20世紀まで（さらに付録として中世・16世紀の）名文が並ぶが、授業では、学生の関心に配慮しつつ、各担当教員が選んだ文章を比較的わかりやすいものから読む。単語の意味だけにとらわれず、文の構造と展開をつかむことを意識してほしい。文学作品らしい表現上の工夫を、原文で実感する機会

にしたい。

Although classics from the 17th to 20th century (and middle age to the 16th century in appendix) will be used as texts, each professor will take students into accounts during the class and choose relatively easy to understand texts. Students should not fixate only on meaning of vocabulary but also be aware of structure and progress of sentences. This will be the opportunity for students to experience efforts that went into literatures' expressions in their original language.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入的授業
- 2回：読解 1
- 3回：読解 2
- 4回：読解 3
- 5回：読解 4
- 6回：読解 5
- 7回：読解 6
- 8回：読解 7
- 9回：読解 8
- 10回：読解 9
- 11回：読解 10
- 12回：読解 11
- 13回：読解 12
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第一回目の授業で全体の流れの説明を行うので、きちんと把握した上で授業に臨むこと。授業にあたっては作品の文章をノートに書き写し、単語の意味を調べるだけでなく、訳文を各自、作成した上で授業に臨むこと。また、各テキストの時代背景等を知るために、適宜文学史の教科書などを参照すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加:40% 小テスト:30% 最終テスト割合：:30%

### テキスト / Textbooks

柏木隆雄他 『レクチュールの冒険』 朝日出版社 2005 4255351708 ○

### 参考文献 / Readings

柏木隆雄他 『エクリチュールの冒険 新編・フランス文学史』 大阪大学出版会 2003 487259147

渡辺一夫・鈴木力衛 『フランス文学案内』 岩波文庫 1961 4003500016

横山安由美・朝比奈美知子 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 4623034909



# フランス語基礎演習 5c

Preliminary Seminars in French 5c

フランス文学の読解

中村 彩 (NAKAMURA AYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS073
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2413
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

丁寧に辞書をひきながら、ひとりで文学作品を読み解く力を身につける。語彙を増やすだけでなく、1年次で学んだ文法知識を基礎として、より高度で複雑な文章表現を理解するコツをつかむ。ダウンロード可能な音声教材を使用し、発音とリスニング能力も強化する。

Students will be able to read literatures alone by checking dictionary carefully. In addition to increasing vocabulary, students will also use grammar knowledge they learnt in year 1 to understand more advanced and complex expressions. Students will use downloadable audio materials to improve their pronunciation and listening skills.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストには、17世紀から20世紀まで（さらに付録として中世・16世紀の）名文が並ぶが、授業では、学生の関心に配慮しつつ、各担当教員が選んだ文章を比較的わかりやすいものから読む。単語の意味だけにとらわれず、文の構造と展開をつかむことを意識してほしい。文学作品らしい表現上の工夫を、原文で実感する機会

にしたい。

Although classics from the 17th to 20th century (and middle age to the 16th century in appendix) will be used as texts, each professor will take students into accounts during the class and choose relatively easy to understand texts. Students should not fixate only on meaning of vocabulary but also be aware of structure and progress of sentences. This will be the opportunity for students to experience efforts that went into literatures' expressions in their original language.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入的授業
- 2回：読解 1
- 3回：読解 2
- 4回：読解 3
- 5回：読解 4
- 6回：読解 5
- 7回：読解 6
- 8回：読解 7
- 9回：読解 8
- 10回：読解 9
- 11回：読解 10
- 12回：読解 11
- 13回：読解 12
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第一回目の授業で全体の流れの説明を行うので、きちんと把握した上で授業に臨むこと。授業にあたっては作品の文章をノートに書き写し、単語の意味を調べるだけでなく、訳文を各自、作成した上で授業に臨むこと。また、各テキストの時代背景等を知るために、適宜文学史の教科書などを参照すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加:40% 小テスト:30% 最終テスト割合：:30%

### テキスト / Textbooks

柏木隆雄他 『レクチュールの冒険』 朝日出版社 2005 4255351708 ○

### 参考文献 / Readings

柏木隆雄他 『エクリチュールの冒険 新編・フランス文学史』 大阪大学出版会 2003 487259147

渡辺一夫・鈴木力衛 『フランス文学案内』 岩波文庫 1961 4003500016

横山安由美・朝比奈美知子 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 4623034909

# フランス語入門 1 a

Introductory French 1a

フランス語初級講読演習

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS081

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法問題演習，簡単な文章の講読，フランス語作文，語彙の習得をおこなう。

Students will practice French grammar, read simple texts, write French compositions, and acquire vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では，全学共通科目「フランス語 A」と仏文「フランス語入門 2」で学習する初級文法の内容を復習しながら，上記 2 つの授業と同じ教科書を用いて，フランス語の文章を読解するための訓練を行います。

毎回，受講者全員に，予習としてかなりの量の練習問題（仏文和訳と仏作）を解いてきてもらいます。予習してこなかった学生は欠席扱いとなるので，注意すること。

毎週の予習と復習はもちろんのこと，授業中も積極的な参加が求められます。分からないことがあった場合は，すすんで教員に質問してください。

また毎回，必ず辞書を持参してください。

In this class, students will review beginner grammars learnt in French class, while practice reading French texts.

Each time, all students will be given considerable amount of questions (French-Japanese translations and French

compositions) to solve as their pre-class study. Be aware that students who had not completed their pre-class study will be considered absent.

Other than weekly studies before and after class, students are required to participate actively during class. If there are unclear points, students should ask professor.

In addition to that, students must bring dictionary every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入＋フランス語初級講読・文法・語彙演習 1
- 2 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 2
- 3 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 3
- 4 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 4
- 5 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 5
- 6 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 6
- 7 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 7・中間テスト
- 8 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 8
- 9 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 9
- 10 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 10
- 11 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 11
- 12 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 12
- 13 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 13
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定された箇所の練習問題を解いてくることが求められる。ただ単語を適当に並べた訳ではなく、文法の知識を背景にしてフランス語の文の意味を把握することが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加（予習・課題を含む）：60% 中間テスト：20%

最終テスト割合：20%

中間テストと最終テスト以外にも小テストを行うことがある。

### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

### 参考文献 / Readings

一回目の授業で指示する。

# フランス語入門 1 b

Introductory French 1b

フランス語初級講読演習

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS082

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法問題演習，簡単な文章の講読，フランス語作文，語彙の習得をおこなう。

Students will practice French grammar, read simple texts, write French compositions, and acquire vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では，全学共通科目「フランス語 A」と仏文「フランス語入門 2」で学習する初級文法の内容を復習しながら，上記 2 つの授業と同じ教科書を用いて，フランス語の文章を読解するための訓練を行います。

毎回，受講者全員に，予習としてかなりの量の練習問題（仏文和訳と仏作）を解いてきてもらいます。予習してこなかった学生は欠席扱いとなるので，注意すること。

毎週の予習と復習はもちろんのこと，授業中も積極的な参加が求められます。分からないことがあった場合は，すすんで教員に質問してください。

また毎回，必ず辞書を持参してください。

In this class, students will review beginner grammars learnt in French class, while practice reading French texts.

Each time, all students will be given considerable amount of questions (French-Japanese translations and French

compositions) to solve as their pre-class study. Be aware that students who had not completed their pre-class study will be considered absent.

Other than weekly studies before and after class, students are required to participate actively during class. If there are unclear points, students should ask professor.

In addition to that, students must bring dictionary every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入＋フランス語初級講読・文法・語彙演習 1
- 2 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 2
- 3 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 3
- 4 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 4
- 5 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 5
- 6 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 6
- 7 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 7・中間テスト
- 8 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 8
- 9 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 9
- 10 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 10
- 11 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 11
- 12 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 12
- 13 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 13
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定された箇所の練習問題を解いてくることが求められる。ただ単語を適当に並べた訳ではなく、文法の知識を背景にしてフランス語の文の意味を把握することが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加（予習・課題を含む）：60% 中間テスト：20%

最終テスト割合：20%

中間テストと最終テスト以外にも小テストを行うことがある。

### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

### 参考文献 / Readings

一回目の授業で指示する。

# フランス語入門 1 c

Introductory French 1c

フランス語初級講読演習

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS083

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法問題演習，簡単な文章の講読，フランス語作文，語彙の習得をおこなう。

Students will practice French grammar, read simple texts, write French compositions, and acquire vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では，全学共通科目「フランス語 A」と仏文「フランス語入門 2」で学習する初級文法の内容を復習しながら，上記 2 つの授業と同じ教科書を用いて，フランス語の文章を読解するための訓練を行います。

毎回，受講者全員に，予習としてかなりの量の練習問題（仏文和訳と仏作）を解いてきてもらいます。予習してこなかった学生は欠席扱いとなるので，注意すること。

毎週の予習と復習はもちろんのこと，授業中も積極的な参加が求められます。分からないことがあった場合は，すすんで教員に質問してください。

また毎回，必ず辞書を持参してください。

In this class, students will review beginner grammars learnt in French class, while practice reading French texts.

Each time, all students will be given considerable amount of questions (French-Japanese translations and French

compositions) to solve as their pre-class study. Be aware that students who had not completed their pre-class study will be considered absent.

Other than weekly studies before and after class, students are required to participate actively during class. If there are unclear points, students should ask professor.

In addition to that, students must bring dictionary every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入＋フランス語初級講読・文法・語彙演習 1
- 2 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 2
- 3 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 3
- 4 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 4
- 5 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 5
- 6 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 6
- 7 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 7・中間テスト
- 8 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 8
- 9 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 9
- 10 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 10
- 11 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 11
- 12 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 12
- 13 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 13
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定された箇所の練習問題を解いてくることが求められる。ただ単語を適当に並べた訳ではなく、文法の知識を背景にしてフランス語の文の意味を把握することが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加（予習・課題を含む）：60% 中間テスト：20%

最終テスト割合：20%

中間テストと最終テスト以外にも小テストを行うことがある。

### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

### 参考文献 / Readings

一回目の授業で指示する。



## フランス語入門 2 a

Introductory French 2a

フランス語初級文法

黒木 秀房 (KUROKI HIDEFUSA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS084

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から始まる専門科目の履修のための準備として、フランス語の初級文法を学び、応用力を身につける。

As preparation for the study of specialized subjects starting in the second year, students learn basic French grammar and learn to apply the language.

### 授業の内容 / Course Contents

全学共通科目の「フランス語 A」と連携しながら、同じ教科書を用いて、初級文法を学習する。フランス文学専修で開講されているもう 1 コマの「フランス語入門 1」とも密に連携を取りながら、文法事項と口頭表現や読解の訓練が有機的に結びつくように授業が進められる。

In close coordination with other French classes, classes advance so that grammar items and oral expression and reading comprehension practice are organically connected together.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：名詞の性・数

2 回：冠詞

- 3回：形容詞の性・数
- 4回：直説法現在
- 5回：否定文
- 6回：疑問文
- 7回：à, de+定冠詞の縮約
- 8回：命令法
- 9回：近接未来・近接過去
- 10回：指示形容詞
- 11回：所有形容詞
- 12回：比較級
- 13回：最上級
- 14回：直説法複合過去

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

語学は積み重ねなので、学習したポイントをしっかり復習して授業に臨むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 最終テストを含む各種テストや提出物:50%

#### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

#### 参考文献 / Readings

初心者向けの紙媒体の辞書。『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プログレッシブ仏和辞典』（小学館）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）など。

#### その他 / Others

- ・授業時に前回授業のフィードバックを行う。
- ・適宜グループワークをおこなう。

## フランス語入門 2 b

Introductory French 2b

フランス語初級文法

稲村 真実 (INAMURA MAMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS085

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から始まる専門科目の履修のための準備として、フランス語の初級文法を学び、応用力を身につける。

As preparation for the study of specialized subjects starting in the second year, students learn basic French grammar and learn to apply the language.

### 授業の内容 / Course Contents

全学共通科目の「フランス語 A」と連携しながら、同じ教科書を用いて、初級文法を学習する。フランス文学専修で開講されているもう 1 コマの「フランス語入門 1」とも密に連携を取りながら、文法事項と口頭表現や読解の訓練が有機的に結びつくように授業が進められる。

In close coordination with other French classes, classes advance so that grammar items and oral expression and reading comprehension practice are organically connected together.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：名詞の性・数

2 回：冠詞

- 3回：形容詞の性・数
- 4回：直説法現在
- 5回：否定文
- 6回：疑問文
- 7回：à, de+定冠詞の縮約
- 8回：命令法
- 9回：近接未来・近接過去
- 10回：指示形容詞
- 11回：所有形容詞
- 12回：比較級
- 13回：最上級
- 14回：直説法複合過去

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

語学は積み重ねなので、学習したポイントをしっかり復習して授業に臨むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 最終テストを含む各種テストや提出物:50%

#### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

#### 参考文献 / Readings

初心者向けの紙媒体の辞書。『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プログレッシブ仏和辞典』（小学館）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）など。

#### その他 / Others

- ・授業時に前回授業のフィードバックを行う。
- ・適宜グループワークをおこなう。

## フランス語入門 2c

Introductory French 2c

フランス語初級文法

平賀 裕貴 (HIRAGA HIROTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS086

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から始まる専門科目の履修のための準備として、フランス語の初級文法を学び、応用力を身につける。

As preparation for the study of specialized subjects starting in the second year, students learn basic French grammar and learn to apply the language.

### 授業の内容 / Course Contents

全学共通科目の「フランス語 A」と連携しながら、同じ教科書を用いて、初級文法を学習する。フランス文学専修で開講されているもう 1 コマの「フランス語入門 1」とも密に連携を取りながら、文法事項と口頭表現や読解の訓練が有機的に結びつくように授業が進められる。

In close coordination with other French classes, classes advance so that grammar items and oral expression and reading comprehension practice are organically connected together.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：名詞の性・数

2 回：冠詞

- 3回：形容詞の性・数
- 4回：直説法現在
- 5回：否定文
- 6回：疑問文
- 7回：à, de+定冠詞の縮約
- 8回：命令法
- 9回：近接未来・近接過去
- 10回：指示形容詞
- 11回：所有形容詞
- 12回：比較級
- 13回：最上級
- 14回：直説法複合過去

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

語学は積み重ねなので、学習したポイントをしっかり復習して授業に臨むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 最終テストを含む各種テストや提出物:50%

#### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

#### 参考文献 / Readings

初心者向けの紙媒体の辞書。『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プログレッシブ仏和辞典』（小学館）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）など。

#### その他 / Others

- ・授業時に前回授業のフィードバックを行う。
- ・適宜グループワークをおこなう。

# フランス語入門 3 a

Introductory French 3a

フランス語初級講読演習

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS087

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法問題演習，簡単な文章の講読，フランス語作文，語彙の習得をおこなう。

Students will practice French grammar, read simple texts, write French compositions, and acquire vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、全学共通科目「フランス語 B」と仏文「フランス語入門4」で学習する初級文法の内容を復習しながら、上記2つの授業と同じ教科書を用いて、フランス語の文章を読解するための訓練を行います。

毎回、受講者全員に、予習としてかなりの量の練習問題（仏文和訳と仏作）を解いてきてもらいます。予習してこなかった学生は欠席扱いとなるので、注意すること。

毎週の予習と復習はもちろんのこと、授業中も積極的な参加が求められます。分からないことがあった場合は、すすんで教員に質問してください。

また毎回、必ず辞書を持参してください。

In this class, students will review beginner grammars learnt in French class, while practice reading French texts.

Each time, all students will be given considerable amount of questions (French-Japanese translations and French

compositions) to solve as their pre-class study. Be aware that students who had not completed their pre-class study will be considered absent.

Other than weekly studies before and after class, students are required to participate actively during class. If there are unclear points, students should ask professor.

In addition to that, students must bring dictionary every time

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：(再) 導入+フランス語初級講読・文法・語彙演習 1
- 2 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 2
- 3 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 3
- 4 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 4
- 5 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 5
- 6 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 6
- 7 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 7+中間テスト
- 8 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 8
- 9 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 9
- 10 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 10
- 11 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 11
- 12 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 12
- 13 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 13
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定された箇所の練習問題を解いてくることが求められる。ただ単語を適当に並べた訳ではなく、文法の知識を背景にしてフランス語の文の意味を把握することが求められる。なお、春学期に文法を十分にマスターしていない学生は、必ず春学期の復習を授業開始日までに行っておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的参加（課題・予習を含む）：60% 中間テスト：20% 最終テスト割合：20%

中間テストと最終テスト以外にも小テストを行うことがある。

### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

### 参考文献 / Readings



# フランス語入門 3b

Introductory French 3b

フランス語初級講読演習

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS088

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法問題演習，簡単な文章の講読，フランス語作文，語彙の習得をおこなう。

Students will practice French grammar, read simple texts, write French compositions, and acquire vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、全学共通科目「フランス語 B」と仏文「フランス語入門4」で学習する初級文法の内容を復習しながら、上記2つの授業と同じ教科書を用いて、フランス語の文章を読解するための訓練を行います。

毎回、受講者全員に、予習としてかなりの量の練習問題（仏文和訳と仏作）を解いてきてもらいます。予習してこなかった学生は欠席扱いとなるので、注意すること。

毎週の予習と復習はもちろんのこと、授業中も積極的な参加が求められます。分からないことがあった場合は、すすんで教員に質問してください。

また毎回、必ず辞書を持参してください。

In this class, students will review beginner grammars learnt in French class, while practice reading French texts.

Each time, all students will be given considerable amount of questions (French-Japanese translations and French

compositions) to solve as their pre-class study. Be aware that students who had not completed their pre-class study will be considered absent.

Other than weekly studies before and after class, students are required to participate actively during class. If there are unclear points, students should ask professor.

In addition to that, students must bring dictionary every time

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：(再) 導入+フランス語初級講読・文法・語彙演習 1
- 2 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 2
- 3 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 3
- 4 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 4
- 5 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 5
- 6 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 6
- 7 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 7+中間テスト
- 8 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 8
- 9 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 9
- 10 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 10
- 11 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 11
- 12 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 12
- 13 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 13
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定された箇所の練習問題を解いてくることが求められる。ただ単語を適当に並べた訳ではなく、文法の知識を背景にしてフランス語の文の意味を把握することが求められる。なお、春学期に文法を十分にマスターしていない学生は、必ず春学期の復習を授業開始日までに行っておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的参加（課題・予習を含む）：60% 中間テスト：20% 最終テスト割合：20%

中間テストと最終テスト以外にも小テストを行うことがある。

### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

### 参考文献 / Readings

# フランス語入門 3 c

Introductory French 3c

フランス語初級講読演習

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS089

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の文法問題演習，簡単な文章の講読，フランス語作文，語彙の習得をおこなう。

Students will practice French grammar, read simple texts, write French compositions, and acquire vocabulary.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では，全学共通科目「フランス語 B」と仏文「フランス語入門4」で学習する初級文法の内容を復習しながら，上記2つの授業と同じ教科書を用いて，フランス語の文章を読解するための訓練を行います。

毎回，受講者全員に，予習としてかなりの量の練習問題（仏文和訳と仏作）を解いてきてもらいます。予習してこなかった学生は欠席扱いとなるので，注意すること。

毎週の予習と復習はもちろんのこと，授業中も積極的な参加が求められます。分からないことがあった場合は，すすんで教員に質問してください。

また毎回，必ず辞書を持参してください。

In this class, students will review beginner grammars learnt in French class, while practice reading French texts.

Each time, all students will be given considerable amount of questions (French-Japanese translations and French

compositions) to solve as their pre-class study. Be aware that students who had not completed their pre-class study will be considered absent.

Other than weekly studies before and after class, students are required to participate actively during class. If there are unclear points, students should ask professor.

In addition to that, students must bring dictionary every time

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：(再) 導入+フランス語初級講読・文法・語彙演習 1
- 2 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 2
- 3 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 3
- 4 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 4
- 5 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 5
- 6 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 6
- 7 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 7+中間テスト
- 8 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 8
- 9 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 9
- 10 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 10
- 11 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 11
- 12 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 12
- 13 回：フランス語初級講読・文法・語彙演習 13
- 14 回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定された箇所の練習問題を解いてくることが求められる。ただ単語を適当に並べた訳ではなく、文法の知識を背景にしてフランス語の文の意味を把握することが求められる。なお、春学期に文法を十分にマスターしていない学生は、必ず春学期の復習を授業開始日までに行っておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的参加（課題・予習を含む）：60% 中間テスト：20% 最終テスト割合：20%

中間テストと最終テスト以外にも小テストを行うことがある。

### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

### 参考文献 / Readings

# フランス語入門 4 a

Introductory French 4a

フランス語初級文法

黒木 秀房 (KUROKI HIDEFUSA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS090

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から始まる専門科目の履修のための準備として、フランス語の初級文法を学び、応用力を身につける。

As preparation for the study of specialized subjects starting in the second year, students learn basic French grammar and learn to apply the language.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通科目の「フランス語 B」と連携しながら、同じ教科書を用いて、初級文法を学習する。フランス文学専修で開講されているもう 1 コマの「フランス語入門 3」とも密に連携を取りながら、文法事項と口頭表現や読解の訓練が有機的に結びつくように授業が進められる。

In close coordination with other French classes, classes advance so that grammar items and oral expression and reading comprehension practice are organically connected together.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：直説法単純未来・前未来

2 回：疑問代名詞

- 3回：目的語人称代名詞
- 4回：関係代名詞
- 5回：受動態
- 6回：疑問形容詞
- 7回：人称代名詞の強勢形
- 8回：中性代名詞
- 9回：代名動詞
- 10回：直説法半過去・大過去
- 11回：条件法現在・過去
- 12回：接続法現在・過去
- 13回：強勢形代名詞
- 14回：ジェロンディフ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

秋学期は内容が複雑になるので、学習したポイントをしっかり復習して授業に臨むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 最終テストを含む各種テストや提出物:50%

#### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

#### 参考文献 / Readings

「フランス語入門2」に同じ

#### その他 / Others

- ・授業時に前回授業のフィードバックを行う。
- ・グループワークの有無：適宜グループワークをおこなう。

# フランス語入門 4 b

Introductory French 4b

フランス語初級文法

稲村 真実 (INAMURA MAMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS091

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から始まる専門科目の履修のための準備として、フランス語の初級文法を学び、応用力を身につける。

As preparation for the study of specialized subjects starting in the second year, students learn basic French grammar and learn to apply the language.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通科目の「フランス語 B」と連携しながら、同じ教科書を用いて、初級文法を学習する。フランス文学専修で開講されているもう 1 コマの「フランス語入門 3」とも密に連携を取りながら、文法事項と口頭表現や読解の訓練が有機的に結びつくように授業が進められる。

In close coordination with other French classes, classes advance so that grammar items and oral expression and reading comprehension practice are organically connected together.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：直説法単純未来・前未来

2 回：疑問代名詞

- 3回：目的語人称代名詞
- 4回：関係代名詞
- 5回：受動態
- 6回：疑問形容詞
- 7回：人称代名詞の強勢形
- 8回：中性代名詞
- 9回：代名動詞
- 10回：直説法半過去・大過去
- 11回：条件法現在・過去
- 12回：接続法現在・過去
- 13回：強勢形代名詞
- 14回：ジェロンディフ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

秋学期は内容が複雑になるので、学習したポイントをしっかり復習して授業に臨むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 最終テストを含む各種テストや提出物:50%

#### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

#### 参考文献 / Readings

「フランス語入門2」に同じ

#### その他 / Others

- ・授業時に前回授業のフィードバックを行う。
- ・グループワークの有無：適宜グループワークをおこなう。



# フランス語入門 4 c

Introductory French 4c

フランス語初級文法

平賀 裕貴 (HIRAGA HIROTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS092

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL1412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

2 年次から始まる専門科目の履修のための準備として、フランス語の初級文法を学び、応用力を身につける。

As preparation for the study of specialized subjects starting in the second year, students learn basic French grammar and learn to apply the language.

## 授業の内容 / Course Contents

全学共通科目の「フランス語 B」と連携しながら、同じ教科書を用いて、初級文法を学習する。フランス文学専修で開講されているもう 1 コマの「フランス語入門 3」とも密に連携を取りながら、文法事項と口頭表現や読解の訓練が有機的に結びつくように授業が進められる。

In close coordination with other French classes, classes advance so that grammar items and oral expression and reading comprehension practice are organically connected together.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：直説法単純未来・前未来

2 回：疑問代名詞

- 3回：目的語人称代名詞
- 4回：関係代名詞
- 5回：受動態
- 6回：疑問形容詞
- 7回：人称代名詞の強勢形
- 8回：中性代名詞
- 9回：代名動詞
- 10回：直説法半過去・大過去
- 11回：条件法現在・過去
- 12回：接続法現在・過去
- 13回：強勢形代名詞
- 14回：ジェロンディフ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

秋学期は内容が複雑になるので、学習したポイントをしっかり復習して授業に臨むこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 最終テストを含む各種テストや提出物:50%

#### テキスト / Textbooks

学習院フランス語教育研究会 『グラメール・フランセーズ』 朝日出版社 2018 9784255352800 -

#### 参考文献 / Readings

「フランス語入門2」に同じ

#### その他 / Others

- ・授業時に前回授業のフィードバックを行う。
- ・グループワークの有無：適宜グループワークをおこなう。

# 演習 D1

## Seminars D1

### 19 世紀フランス社会の諸相

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS101
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

#### 授業の目標 / Course Objectives

ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』を読みながら、フランス革命後の十九世紀フランス社会および文化について考察する。同時に、ディスカッションや発表のスキルを身につける。

While reading Victor Hugo's "Les Miserables", we will consider the French society and culture of the nineteenth century after the French Revolution. At the same time, we will acquire discussion and presentation skills.

#### 授業の内容 / Course Contents

『レ・ミゼラブル』を章ごとに精読していきます。この小説はそれ自体が 19 世紀フランスの百科事典のような作品なので、毎回ひとつの歴史的・文化的テーマを掘り下げつつ読んでいくことになります。また同時に、文学作品固有のレトリックにも注意することにより、小説の読解の仕方を学びます。取り上げるテーマとしては、恋愛、革命や貧困といった社会的な問題、さらには 19 世紀における宗教まで多種多様な主題を扱う予定です。授業の進め方に関しては、最初に何回か導入の講義をした後は、章ごとに読み進めていきます。毎回、指定された章を全員が読んできて、それについての学生の発表を聞いた上で、教師をまじえて全員でディスカッ

ションすることになります。『レ・ミゼラブル』は大長編なので、春学期は第3巻の途中まで読み終えたいと考えています。

We will read "Les Miserables" chapter by chapter. Since this novel is a work like a 19th century French encyclopedia in itself, we will read while delving into one historical and cultural theme each time and at the same time paying attention to the rhetoric peculiar to literary works. We deal with a wide variety of subjects, from love, social issues such as revolution and poverty, to religion in the 19th century. Every time, everyone will read the designated chapter, listen to the student's presentation about it, and then discuss it with the teacher.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義1（ヴィクトル・ユゴーとその時代）
- 3回：講義2（フランス革命と階級社会）
- 4回：講義3（19世紀の民衆文化）
- 5回：発表1
- 6回：発表2
- 7回：発表3
- 8回：発表4
- 9回：発表5
- 10回：発表6
- 11回：発表7
- 12回：発表8
- 13回：発表9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業開始までに可能な限り『レ・ミゼラブル』を読み進めておくこと。その後は折に触れて、課題を与えることになる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業への参加度：30% 発表：30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

ユゴー	『レ・ミゼラブル』第1巻	新潮文庫	1967	9784102117019	○
ユゴー	『レ・ミゼラブル』第2巻	新潮文庫	1967	9784102117026	○
ユゴー	『レ・ミゼラブル』第3巻	新潮文庫	1967	9784102117033	○

### 参考文献 / Readings

鹿島茂 『「レ・ミゼラブル」百六景』 文春文庫 2012

授業時に適宜指示します。

**その他/ Others**

ゼミである以上、必ず全員に発表してもらおう。その上で、学期末には発表をもとにレポートをまとめてもらうことになる。なお、受講生と相談して、できれば十九世紀フランスにかかわるオペラ、バレエなどの舞台芸術を観劇する機会を設けたいと考えている。

## 演習 D2

### Seminars D2

19 世紀フランス・革命の世紀

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS102
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

春学期に引き続き、ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』を読みながら、フランス革命後の十九世紀フランス社会および文化について考察する。さらに、革命をテーマにした他の文学作品にも目を通す。同時に、ディスカッションや発表のスキルを身につける。

While reading Victor Hugo's "Les Miserables", we will consider the French society and culture of the nineteenth century after the French Revolution. At the same time, we will acquire discussion and presentation skills.

### 授業の内容 / Course Contents

19 世紀フランスはしばしば激動の時代といわれますが、1789 年のフランス革命の余波を受けて、フランス社会はほぼ一世紀の間、度重なる革命や蜂起に翻弄されることとなります。ミュージカル版『レ・ミゼラブル』のハイライトをなす 1832 年の反乱のシーンはそのもっともよく知られた例のひとつですが、まずはその場面に  
対応する小説のテキスト（第 4 巻・第 5 巻）から読み始めます。もし可能であれば、他にもいくつか革命を扱った文学作品の抜粋を取り上げるつもりです。フランス革命が切り開いた、現代に通じる自由や平等とは何

か、といった根本的な問題を考える機会になればと思います。毎回、指定された章を全員が読んできて、それについての学生の発表を聞いた上で、教師をまじえて全員でディスカッションすることになります。

Nineteenth-century France is often described as a turbulent period, and in the aftermath of the French Revolution of 1789, French society was at the mercy of repeated revolutions and uprisings for almost a century. The scene of the 1832 rebellion that forms the highlight of the musical version of Les Misérables is one of the best-known examples of this, but we will begin by reading the text of the novel (Volumes 4 and 5) that corresponds to that scene. If possible, we will feature excerpts from several other literary works dealing with the revolution. We hope that this class will provide an opportunity to consider fundamental questions such as what freedom and equality mean today, as pioneered by the French Revolution. Each time, everyone will read an assigned chapter, listen to a student's presentation on it, and then discuss it together with the teacher.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義1（フランス19世紀史の概観）
- 3回：講義2（ユゴーの政治思想）
- 4回：講義3（革命と文学・芸術）
- 5回：発表1
- 6回：発表2
- 7回：発表3
- 8回：発表4
- 9回：発表5
- 10回：発表6
- 11回：発表7
- 12回：発表8
- 13回：発表9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業開始までに可能な限り『レ・ミゼラブル』を読み進めておくこと。その後は折に触れて、課題を与えることになる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業への参加度：30% 発表：30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

- ユゴー 『レ・ミゼラブル』第4巻 新潮文庫 1967 4102117040 ○
- ユゴー 『レ・ミゼラブル』第5巻 新潮文庫 1967 4102117059 ○

### 参考文献 / Readings

鹿島茂 『「レ・ミゼラブル」百六景 文春文庫 2012

授業時に適宜指示します。

### **その他/ Others**

ゼミである以上、必ず全員に発表してもらおう。その上で、学期末には発表をもとにレポートをまとめてもらうことになる。なお、受講生と相談して、できれば十九世紀フランスにかかわるオペラ、バレエなどの舞台芸術を観劇する機会を設けたいと考えている。



## 演習 D3

### Seminars D3

フランス文学・文化における動物の表象

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS103
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス文学・文化における動物の表象について、多角的に考察する。

The aim of this seminar is to examine the representation of animals in French literature and culture from multiple perspectives.

### 授業の内容 / Course Contents

文学作品や映像の分析をとおして、動物と人間の間を文化の問題として考える。春学期は、絵本論や文化史を出発点にし、昔話（ペロー）、寓話（ラ・フォンテーヌ）、児童文学（エーメ）などをとりあげ、詩や哲学や博物誌も参照しながら、日本とフランス（西欧）における動物観の違い、歴史的な変遷、フィクションにおける動物の役割について議論する。おもに哺乳類（たとえば狼や猫など）を扱う予定だが、学生の関心にあわせて調整する。

In this seminar, we will consider the relationship between animals and humans as a cultural issue, mainly through the analysis of literary works.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：導入、授業方針の確認、「私にとって動物とは？」
- 2回：フィクションのなかの動物（ミニレポートと討論）
- 3回：基本文献の読解と討論1
- 4回：基本文献の読解と討論2
- 5回：基本文献の読解と討論3
- 6回：文学作品の読解と討論1
- 7回：文学作品の読解と討論2
- 8回：文学作品の読解と討論3
- 9回：文学作品の読解と討論4
- 10回：文学作品の読解と討論5
- 11回：文学作品の読解と討論6
- 12回：文学作品の読解と討論7
- 13回：文学作品の読解と討論8
- 14回：今学期の発見（ミニレポートと討論）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

人間と動物の関係について掘り下げて考えること。動物の登場する物語作品を探すこと（映画やマンガも可）。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100%    ミニレポート:20%    授業参加とコメントカード:30%    発表（グループ討論の報告などを含む）:20%    最終レポート割合：:30%

**テキスト / Textbooks**

『ペロー童話集』『寓話』『おにごっこ物語』などの抜粋コピー（和訳とフランス語原文）を配布予定。

**参考文献 / Readings**

- 矢野智司 『動物絵本をめぐる冒険 動物-人間学のレッスン』 勁草書房 2002 9784326298723  
 ミシェル・パストゥロー 『図説ヨーロッパから見た狼の文化史』 原書房 2019 9784562056866  
 荒俣宏 『世界大博物図鑑 第5巻 哺乳類』 平凡社 1988 4582518257
- ほかにも授業時に追加で指示する。

## 演習 D4

Seminars D4

動物をめぐる虚構と現実

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス文学・文化における動物の表象について、多角的に考察する。

The aim of this seminar is to examine the representation of animals in French literature and culture from multiple perspectives.

### 授業の内容 / Course Contents

春学期の内容をふまえたうえで、文学作品および表象文化（絵画、写真、映画、マンガ、アニメなど）における動物の役割と意味について、ひとりひとりが能動的に調べて解釈する楽しみを味わう機会にしたい。希望する学生は、哺乳類以外の動物（鳥、虫、爬虫類、両生類、架空の動物など）の表象や、動物の権利をめぐる問題（動物園、ペット飼育、肉食など）をとりあげてもよい。出発点として、人間と動物の関係をめぐる哲学的な議論の歴史を確認する予定。

In this seminar, we will consider the relationship between animals and humans as a cultural issue, mainly through the analysis of literary works.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：導入、授業方針の確認
- 2回：基本文献の読解と討論1
- 3回：基本文献の読解と討論2
- 4回：基本文献の読解と討論3
- 5回：ミニレポートと討論
- 6回：作品の読解と討論1
- 7回：作品の読解と討論2
- 8回：作品の読解と討論3
- 9回：作品の読解と討論4
- 10回：発表と討論1
- 11回：発表と討論2
- 12回：発表と討論3
- 13回：発表と討論4
- 14回：今学期の発見（ミニレポートと討論）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

人間と動物の関係について掘り下げて考えること。動物の登場する物語作品を探すこと（映画やマンガも可）。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100%    ミニレポート:20%    授業参加とコメントカード:30%    発表（グループ討論の報告などを含む）:20%    最終レポート割合：:30%

**テキスト / Textbooks**

コピー（和訳とフランス語原文）を配布予定。

**参考文献 / Readings**

金森修 『動物に魂はあるのか 生命を見つめる哲学』 中公新書 2012 9784121021762

ほかにも授業時に追加で指示する。

## 演習 D5

### Seminars D5

世界遺産を通して考えるフランス文化

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS105
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

フランスの文化遺産についての文献や情報を調べ、それらの背景にある歴史や社会について考察する。また、適宜インターネットの情報なども使用する。建造物だけでなく、地方の特質や、文化の多様性の問題についても意識しながら自分なりの関心を広げることを目指す。

In this seminar, students research literature and information on French cultural heritage and consider the history and society behind them. Information from the internet will also be used where appropriate. The aim is to broaden the students' own interests, being aware not only of the buildings, but also of regional characteristics and issues of cultural diversity.

### 授業の内容 / Course Contents

受講者は、ヴェルサイユ宮殿、シャルトル大聖堂、モン＝サン＝ミッシェルをはじめ、フランスに 50 以上ある文化遺産についての文献や情報を分担して調べる。発表を出発点に、それぞれの名所の背景にある歴史や社会について考察する。建造物だけでなく、地方の特質や、文化の多様性の問題についても意識しながら自分なり

の関心を広げることを目指す。

In this seminar, students will research literature and information on more than 50 cultural heritage sites in France, such as the castle of Versailles, Cathedral of Chartres and Mont-Saint-Michel. Based on a presentation, other student will discuss the history and society behind each of these places of interest.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：フランスの世界遺産一概観
- 3回：全体像の確認（以下学生と相談して内容を変更することもある）
- 4回：フランスの世界遺産（1）
- 5回：フランスの世界遺産（2）
- 6回：フランスの世界遺産（3）
- 7回：フランスの世界遺産（4）
- 8回：フランスの世界遺産（5）
- 9回：フランスの世界遺産（6）
- 10回：フランスの世界遺産（7）
- 11回：受講者による報告（1）
- 12回：受講者による報告（2）
- 13回：受講者による報告（3）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前の準備は必ず必要です。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 内容理解度:20% リアクションペーパー:30% 報告:20% 提出物:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは配布します。

### 参考文献 / Readings

たくさんあるので初回授業時に指示します。

### その他 / Others

初回授業時に指示します。

## 演習 D6

### Seminars D6

映像と文学を通して見るパリ

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス文化の中心であるパリの街について、歴史・文化・経済などさまざまな視点から学ぶことを目標とする。

The aim is to learn about the city of Paris, the centre of French culture, from various historical, cultural and economic perspectives.

### 授業の内容 / Course Contents

ウージェヌ・アッジェをはじめとする写真、『地下鉄のザジ』、アニメ『ディリリとパリの時間旅行』などの映画、ルノワールやユトリロなどの絵画、ユゴー、バルザック、モーパッサンなどの小説に描かれるパリの主要な場所や建造物を知る機会にしたい。その際に歴史や社会的な背景についても意識しながら、名所だけでなく、知られざる側面についても目配りし、フランスの多様性を考えてみたい。

The student will learn the main places and buildings in Paris through the pictures by Eugène Atget, movies such as "Zazie in the Metro", "Time Travel in Paris with Dilili", and paintings by Renoir and Utrillo, and in novels by

Hugo, Balzac and Maupassant. The students consider the diversity of France, being aware of its historical and social background, and paying attention not only to its landmarks but also to its unknown aspects.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入1
- 2回：導入2
- 3回：演習1
- 4回：演習2
- 5回：演習3
- 6回：演習4
- 7回：演習5
- 8回：演習6
- 9回：演習7
- 10回：演習8
- 11回：演習9
- 12回：演習10
- 13回：演習11
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は必ずすること

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度・提出物など：40% 発表：30% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings



## 演習 D7

Seminars D7

フランス文明と発表

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランスの歴史、地理、社会、映画などについて資料を使い、フランス文明を学びつつ、日仏比較する。様々なテーマについて、フランス語で発表する。

Students will learn about French culture (history, geography, society, movies) and comparative studies. They will also make presentations in French about various topics.

### 授業の内容 / Course Contents

毎回、リーディング、リスニングの練習問題を行う。ゼミは主にフランス語で行われるが、ある程度日本語を交えても構わない。拙いフランス語しか使えなくても十分に受講は可能である。

Each time, students will practice reading and listening. In general, the seminar will be held in French but occasional switching to Japanese is allowed. Students can take this class even if they are only equipped with basic French.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ゼミの紹介。発表者の発表順を決定する。資料1  
 2回：発表1・資料2  
 3回：発表2・資料3  
 4回：発表3・資料4  
 5回：発表4・資料5  
 6回：発表5・発表6・資料6  
 7回：発表7・発表8・資料7  
 8回：発表9・発表10・資料8  
 9回：発表11・発表12・資料9  
 10回：発表13・発表14・資料10  
 11回：発表15・発表16・資料11  
 12回：発表17・資料12  
 13回：発表18・資料13  
 14回：ゼミのまとめ・知識の確認

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の発表の際は、事前準備（予習）が必要とされる。

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度：30% 複数回の課題及び口頭テスト：70%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

授業にて配布するプリントを使用する。

## 演習 D8

Seminars D8

ニュースとフランス風の研究発表

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランスのニュースを聴き、読み、ニュースのコメントから授業を始める。聴解の練習問題を行う。現在フランスの情報を得ながら、フランス風の研究発表方法を身につけ、フランス語で発表する。

In this class we will listen to the news in French and read articles found on media websites. We will study with various materials which content is going to be explain and dicuss. We will also learn how to make a presentation in French using French methods.

### 授業の内容 / Course Contents

各メディアのウェブサイトに掲載された記事を読み、解説する。個人発表を行う、発表後はコメント、ディスカッションする。ゼミは主にフランス語で行われ、学生は極力フランス語のみで話すこととするため、強いモチベーションは欠かせないものである。

Students will read and comment in French about news, articles found on media websites. Every student will make a presentation and this presentation will be commentate and discuss.

In general, the seminar will be held in French. Strong motivation is essential for students to speak only in French.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ゼミの紹介。フランス風のゼミの仕方（方法）の説明。発表者の発表順を決定する。資料1  
 2回：発表1・発表2・分析・資料2  
 3回：発表3・発表4・分析・資料3  
 4回：発表5・発表6・分析・資料4  
 5回：発表7・発表8・分析・資料5  
 6回：発表9・発表10・分析・資料6  
 7回：発表11・発表12・分析・資料7  
 8回：発表13・発表14・分析・資料8  
 9回：発表15・発表16・分析・資料9  
 10回：発表17・発表18・分析・資料10  
 11回：発表19・発表20・分析・資料11  
 12回：発表21・発表22・分析・資料12  
 13回：発表23・発表24・分析・資料13  
 14回：発表25・発表26・分析・資料14・ゼミのまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の発表の際は、事前準備（予習）が必要とされる。

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

### テキスト / Textbooks

授業にて配布するプリントを使用する。

### 参考文献 / Readings

## 演習 D9

Seminars D9

中世・ルネサンスの旅

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中世・ルネサンスにおける旅の意味について、さまざまな文学作品を通して考える

Examination on the "travel" in the Middle Ages and Renaissance through various literary works

### 授業の内容 / Course Contents

巡礼、修行、戦争などさまざまな理由で中世・ルネサンスの人びとは旅をした。トリスタン物語、アーサー王物語の遍歴の騎士たち、モンテーニュの旅日記などの文学テクストを読みつつ、中世の世界観と旅のもつ哲学的な意味を考える。一部フランス語の文献も使用する。「旅」をテーマにした学生発表を予定。一部フランス語の文章を使用。

期末レポートは関連する主題で各自が執筆する。

People in the Middle Ages and Renaissance traveled for various reasons, including pilgrimage, asceticism, and war. While reading literary texts such as Tristan Tales, Arthurian romances, and Montaigne's Travel diary, we will consider the medieval worldview and the philosophical meaning of travel. Some of the texts will be in French.

Student presentations on the theme of "Journey" will be scheduled. A final report will be written by each student on a relevant topic.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：中世・ルネサンス概論
- 2回：中世における旅（『中世を旅する人びと』参照）
- 3回：トリスタン物語と旅
- 4回：アーサー王物語と旅
- 5回：モンテーニュと旅
- 6回：マリ・ド・フランスと旅
- 7回：映像で見る旅
- 8回：学生発表 1
- 9回：学生発表 2
- 10回：学生発表 3
- 11回：学生発表 4
- 12回：学生発表 5
- 13回：学生発表講評
- 14回：全体まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

阿部謹也『中世を旅する人びと』（ちくま学芸文庫）を読んでおくことが望ましい。学生発表に向けて研究・調査を行うこと。また中世・ルネサンスのフランス社会についての資料を参照したり、関連の映像などを見ることを勧める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常点（出席、授業中の姿勢など）：40% 学生発表：30% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

授業中に配布

### 参考文献 / Readings

阿部謹也 『中世を旅する人びと』 ちくま学芸文庫 2008 4480091572

授業中に適宜指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的なフランス語力

# 演習 D10

Seminars D10

異邦人（よそもの）とは何か

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

異邦人（よそもの）とは何か、さまざまな文学作品を通して考える

Examination on the notion of the stranger through various works of literature.

## 授業の内容 / Course Contents

異邦人のもつ民俗学的な機能と、中心と辺境といった社会構造を考察した後、個別の作品（中世～現代）における異邦人観を見てゆく。マリ・ド・フランス、『狐物語』、カミュ『異邦人』、デュラス『愛人』などをとり上げ、クリステヴァ『外国人－我らの内なるもの』などを材料に検討を行う。一部フランス語の文献も使用する。「異邦人」をテーマにした学生発表を予定。

After examining the ethnographic function of strangers and the social structure of « center / frontier », we will analyze the description of strangers in the literature such as Marie de France, "A Tale of the Fox," Camus' "The Stranger," Duras' "The Mistress," etc., and using Kristeva's "Strangers to Ourselves " as material for discussion.

Some French texts will also be used. A final report will be written by each student on a relevant topic.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランス文学概論
- 2回：異邦人という言葉
- 3回：アーサー王物語と異邦人
- 4回：マリ・ド・フランスと異邦人
- 5回：カミュ『異邦人』
- 6回：デュラス『愛人』
- 7回：フランス思想と異邦人
- 8回：学生発表 1
- 9回：学生発表 2
- 10回：学生発表 3
- 11回：学生発表 4
- 12回：学生発表 5
- 13回：学生発表講評
- 14回：全体まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連文献を読んでおくことが望ましい。学生発表に向けて研究・調査を行うこと。またフランス社会についての資料を参照したり、関連の映像などを見ることを勧める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常点（出席、授業中の姿勢など）：40% 学生発表：30% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

授業中に配布

### 参考文献 / Readings

クリステヴァ 『外国人 我らの内なるもの』 法政大学出版局 2014 4588099949

授業中に適宜指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的なフランス語力



# フランス語表現演習 1

French Seminars 1

資格のためのフランス語 1

千々岩 靖子 (CHIJIWA YASUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS201

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

仏検 3 級から準 2 級レベルの総合的なフランス語運用能力を習得する。

The objective of this course is to acquire French language skills equivalent to grade 3 to grade pre-2 of DAPF.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、初級で習ったフランス語の基本的な知識（動詞の活用や発音の規則）をふり返るとともに、文法事項の確認、語彙・表現の習得を行いつつ、適宜、書き取りや聞き取りの訓練を行う。

In this class, we will review the basic knowledge of French (conjugation of verbs and pronunciation rules), and students will learn grammar, vocabulary and expressions, and practicing dictation and listening comprehension as needed.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：復習（現在形の動詞の活用）

- 3回：復習（複合過去と半過去）  
 4回：中性代名詞 le／所有代名詞  
 5回：複数の代名詞  
 6回：疑問代名詞 lequel と quoi  
 7回：接続法現在の用法  
 8回：接続法現在の用法  
 9回：直説法大過去・条件法過去  
 10回：直説法前未来  
 11回：直接話法と間接話法  
 12回：使役の動詞 faire、lasser、rendre  
 13回：受動の表現  
 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

語学の授業なので、予習・復習を行うことが必須である。詳細については授業内で指示する。また、初回授業時に、仏検4級レベルの力試しを行う予定なので、一年次に学習したことをしっかりと復習しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト:30% 毎回の予習:20% 授業参加度:20% 最終テスト割合：30%

### テキスト / Textbooks

原大地ほか 『ピロット2 わくわく中級フランス語』 朝日出版社 2024 9784255353609 ○

### 参考文献 / Readings

## フランス語表現演習 2

French Seminars 2

資格のためのフランス語2

加藤 三和 (KATO MIWA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス語検定 2 級取得を目指し、そのために必要な語彙力・表現力・文法の知識を身につける。

The objective of this course is set to obtain the N2 level of APEF test. Students will acquire all the language-communicative skills to pass the exam.

### 授業の内容 / Course Contents

演習形式で行う。

仏検特有の形式に慣れるために、出題形式に沿った語彙・文法・並び替え・穴埋め・読解・聴解の練習をまんべんなく、繰り返し行う。

受講者は毎回指定された箇所を予習し、各自が設問に答えながら自主的に解説する方法で進められる。

授業の最初に小テストを行う。

We use pragmatic approach.

In order to familiarise with specific format of the APEF test, students are invited to practice in the same structure : grammar, vocabularies, expression, listening and reading.

For each session, students are expected to prepare their own answers to the assignments, and to be able to provide explanations about them.

Every lesson starts with a mini test.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：力試し：過去問を解く
- 2 回：語彙の強化 1
- 3 回：語彙の強化 2
- 4 回：並び替えに慣れる 1
- 5 回：並び替えに慣れる 2
- 6 回：類義語で表現する練習 1
- 7 回：類義語で表現する練習 2
- 8 回：読解の強化 1
- 9 回：読解の強化 2
- 10 回：聴解の準備 1
- 11 回：聴解の準備 2
- 12 回：面接のためのフランス語表現 1
- 13 回：面接のためのフランス語表現 2
- 14 回：まとめのテスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必ず予習・復習を行ってこよう。

授業内では宿題を解く時間を設けないので、あらかじめ受講者の回答が用意されていることを前提として進める。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト (複数回) :30% 課題 (複数回) :30% 最終テスト割合 :40%

小テスト (語彙や表現に関するもの) と課題 (作文と発話の録音) は 2 回目の授業以降最後のテスト前まで毎回実施する。それぞれ全 12 回を予定。

### テキスト / Textbooks

富田正二 『完全予想仏検 2 級 [改訂版] 筆記問題編』 駿河台出版社 2019 9784411005519 ○

### 参考文献 / Readings

## フランス語表現演習 3

French Seminars 3

コミュニケーション 1

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

読解力、ライティング能力（書き取り）を高め、語彙を増やし、フランスの生活習慣やフランス文化を習得すること。

Students will improve their reading and writing skills while learning about French customs and culture.

### 授業の内容 / Course Contents

毎週違う主題を取り扱う。文章を読み、その文章について質問に答え、話し合う。時おり短いビデオを視聴しコメントを加える。

Every week students will immerse themselves in different subjects. Students will read a text and answer a quiz, also make comments about this text. Occasionally students will watch short videos and comment on them.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業紹介

2 回：Attention aux clichés

- 3回：Le territoire
- 4回：Dans la rue
- 5回：Chez soi
- 6回：La famille
- 7回：A table !
- 8回：La gastronomie
- 9回：La vie culturelle
- 10回：Les vacances
- 11回：Les études
- 12回：Le travail
- 13回：La santé
- 14回：テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

プリントを配布する。

## フランス語表現演習 4

French Seminars 4

コミュニケーション 2

ミシュラン (MICHELIN FRANCK)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS204
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

フランス及び仏語圏諸国の文化・社会・歴史に関する知識を広げながらフランス語での発言力を高めます。

We will improve the ability to speak in French while expanding knowledge of the culture, society and history of France and French-speaking countries.

### 授業の内容 / Course Contents

フランス語での簡単な文章を読みながらフランス・フランス語圏諸国の文化・社会・歴史地等の特殊性を学びます。習った知識や言い回しを利用して短い口頭発表を行います。

We will learn about the particularities of the culture, society, historical places of France and French-speaking countries while reading simple texts in French. We will make short oral presentations using the knowledge and phrases we will have learnt during the class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Présentation du cours

Notre Dame de Paris

2回：Notre Dame de Paris (2)

3回：Notre Dame de Paris (3)

4回：Christian Dior (1)

5回：Christian Dior (2)

6回：Christian Dior (3)

7回：Jean-Jacques Sempé (1)

8回：Jean-Jacques Sempé (2)

9回：Jean-Jacques Sempé (3)

10回：Les JO de Paris (1)

11回：Les JO de Paris (2)

12回：Les JO de Paris (3)

13回：Exposés en groupe (1)

14回：Exposés en groupe (2)

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、予習や復習をし、与えられた宿題をします。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の口頭発表:80% 参加:20%

#### テキスト / Textbooks

石井洋二郎、野崎夏生、ジョルジュ・ヴェスイエール 『時事フランス語』 朝日出版社 2024

9784255353432 ○

#### 参考文献 / Readings



## フランス語表現演習 8

French Seminars 8

ライティング2

ブルジュワ, R (BOURGEOIS RODOLPHE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS208
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

Ce cours sera consacré à la pratique de l'écrit et de l'oral en français.

Dans ce cours, nous travaillerons simultanément le commentaire, l'exposé écrit et la présentation orale. Les étudiants apprendront à analyser un document (petits textes ; documents iconographiques), à le commenter de façon cohérente et structurée (introduction, développement s'appuyant sur des exemples, conclusion et expression d'un point de vue) Ils devront ensuite le présenter oralement devant la classe.

This course will be devoted to the practice of writing and speaking in French. In this course, we will work simultaneously on the commentary, the written presentation and the oral presentation. Students will learn to analyze a document (short texts; iconographic documents), to comment on it in a coherent and structured way (introduction, development based on examples, conclusion and expression of a point of view). They will then have to present orally in front of the class.

### 授業の内容 / Course Contents

Chaque présentation sera suivie d'une discussion en groupe. En fin de trimestre, les étudiants auront la possibilité de préparer puis présenter un document de leur choix. Les documents de travail des douze premiers cours seront choisis par l'enseignant et distribués en classe.

Each presentation will be followed by a group discussion. At the end of the term, students will have the opportunity to prepare and then present a document of their choice. The course work documents will be chosen by the teacher and distributed in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 2 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 3 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 4 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 5 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 6 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 7 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 8 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 9 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 10 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 11 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 12 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 13 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 14 回：Test

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Documents choisis par le professeur. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% l'assiduité et la participation:60% 最終テスト割合：40%

L'évaluation sera globale (l'assiduité et la participation: 60%; des tests et des devoirs: 40%)

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# フランス文学・文化演習 1

Seminars in French Literature and Culture 1

フィクション1

淵田 仁 (FUCHIDA MASASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

18 世紀のテキストを読みながらフランス語読解力の向上を目指す。初級文法の確認と中級文法の学習を同時に行いながら、文学作品を読む上で必要な語彙・表現を増やしていく。あわせて 18 世紀フランス文学史の概略を理解する。

Students will improve their French reading and comprehending skills by reading texts in original language.

Students will learn intermediate grammars while checking beginner grammars. At the same time, students will increase essential vocabularies and expressions to allow them to read literature works. Combined, students will learn a summary of 18th-century French history of literature.

## 授業の内容 / Course Contents

ルソー「サヴォワ助任司祭の信仰告白」を原文で読んでいく。演習の授業なので、受講者にあてて答えてもらう形で進めていくが、担当者をあらかじめ決めておくことはしない。全員がテキストのフランス語を事前に読み、考えてくることが、最低限の前提となる。

受講者多数の場合は、適宜進め方を変更する予定である。

Students will read Profession of Faith of a Savoyard Vicar (Rousseau) in original language. The class will be in seminar format. Students will be selected during the class to answer questions. Students will not be pre-selected for tasks. At the minimum, everyone must read and think about the French texts before class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ルソーとは誰か？『「サヴォワ助任司祭の信仰告白」の位置付けとは？』  
 2回：講読1  
 3回：講読2  
 4回：講読3  
 5回：講読4  
 6回：講読5  
 7回：講読6  
 8回：講読7  
 9回：講読8  
 10回：講読9  
 11回：講読10  
 12回：講読11  
 13回：講読12  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前のテキスト予習が不可欠となります。予習していない状態での授業参加は意味がありません。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義での参加状況:50% 和訳・語彙・文法事項についての予習等:50%

### テキスト / Textbooks

テキストはこちらで配布する。紙辞書、電子辞書、辞書アプリ（無料の辞書アプリは不可）を毎回持参すること。

### 参考文献 / Readings

# フランス文学・文化演習 2

Seminars in French Literature and Culture 2

フィクション 2

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS210

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現在のフランスの小説を取り上げ、日本語の要約を用いながら、重要箇所をフランス語で精読し、フランス現代社会について考察する。すでに習得した文法・語彙の知識を整理しながら、総合的な語学力を向上させる。

This course consider contemporary french society by carefully reading the original French text. Students will improve their overall language skills while organizing their grammar and vocabulary knowledge that they have already acquired.

## 授業の内容 / Course Contents

フランスの現代社会を描いた同時代の小説を読み、その内容について学生同士で討論を行う。日本との違いなどについても注意しながら考察する。また、文体や、文学上の意味についても吟味する。

Students consider contemporary French society through the reading of contemporary novels in French. The students discuss, taking into account the cultural differences between France and Japan. They also reflect on the style of the work and its characteristics in the context of literary history.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：授業計画・方針確認
- 2回：精読（1）
- 3回：精読（2）
- 4回：精読（3）
- 5回：精読（4）
- 6回：精読（5）
- 7回：精読（6）
- 8回：精読（7）
- 9回：精読（8）
- 10回：精読（9）
- 11回：精読（10）
- 12回：精読（11）
- 13回：精読（12）
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

指定された箇所を、辞書をひきながら丁寧に予習すること。単語の意味を調べるだけでなく、文体上の工夫も意識しながら訳文をつくってみることが望ましい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度・提出物など：60%

最終レポート割合：40%

**テキスト / Textbooks**

テキスト及び資料はPDFで配布する予定。

**参考文献 / Readings**

# フランス文学・文化演習 3

## Seminars in French Literature and Culture 3

### エッセー1

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS211
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3313
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

ジェンダー関連の現代フランス語文献を読む

Read contemporary French literature related to gender

### 授業の内容 / Course Contents

デバントの『キングコング・セオリー』、エリチエ『差異の思考 男性的なもの／女性的なもの』、ガルシア『生まれつき男社会に服従する女はいない』などのジェンダー関連文献をフランス語で読み、社会、文化人類学、哲学などさまざまな観点から男らしさ・女らしさの問題を考える。女は生まれたときから〈女〉かつ〈他者〉である一方で、〈男〉は極めて人工的かつ構築的な概念であることを見てゆきたい。

基本は仏語文献の講読だが、リアクションペーパーや小レポートで考えを提出してもらうこともある。

受講者の関心やレベルによって扱う作品内容や順序を変更することがある。

We will read gender-related literature in French like Despentés's "King Kong Théorie", Héritier's "Masculin / Féminin", Garcia's "On naît pas soumise, on le devient" and consider issues of masculinity and femininity from

various perspectives, including social, anthropological and philosophical perspectives. We will see that women are "Women" and "Others" from birth, while "Man" is an artificial and constructed concept.

Basically, the course consists of lectures in French, but students may be asked to submit their ideas in reaction papers or short reports.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論：ジェンダーとは
- 2回：フェミニズムとジェンダーの関係
- 3回：デバントの『キングコング・セオリー』
- 4回：デバントの『キングコング・セオリー』
- 5回：デバントの『キングコング・セオリー』
- 6回：エリチエ『差異の思考 男性的なもの／女性的なもの』
- 7回：エリチエ『差異の思考 男性的なもの／女性的なもの』
- 8回：エリチエ『差異の思考 男性的なもの／女性的なもの』
- 9回：ガルシア『生まれつき男社会に服従する女はいない』
- 10回：ガルシア『生まれつき男社会に服従する女はいない』
- 11回：ガルシア『生まれつき男社会に服従する女はいない』
- 12回：ジェンダー関連映像を見て考える
- 13回：その他の作品
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読のため毎回フランス語の予習をしてくること

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常点（出席、リアペ、積極的参加度など）：60% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

授業時に配布

### 参考文献 / Readings

Virginie Despentes King Kong théorie Livre de Poche 2007 2253122114

Francoise Heritier Masculin / Feminin Odile Jacob 2012 2738128343

Manon Garcia On ne naît pas soumise, on le devient Climat 2018 2081439417

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基本的なフランス語能力とジェンダー問題への関心。



# フランス文学・文化演習 4

Seminars in French Literature and Culture 4

エッセー 2

中田 麻理 (NAKATA MARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS212

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

クィアなセクシュアリティを扱ったフランス語のエッセイの読解を通し、実践的なフランス語能力を身に着けるとともに、多様な価値観への見識を深める。

We aim to acquire practical reading skills in French and to become aware of diverse ways of thinking, through reading "queer" essays.

## 授業の内容 / Course Contents

- ・いくつかのフランス語のエッセイまたは散文詩の抜粋を訳読します。
- ・作品への理解を深めるために、グループディスカッションなどを行う場合もあります。
- ・幻想的な文学作品が多めですが、性暴力の問題などを扱った現実的なテキストも読みます。
- ・前回の内容に関する小テストを毎回行います。
- ・必ず予習をして参加してください。
- ・ Read and translate excerpts from several French essays or prose poems.

- ・ Class content will include group discussions.
- ・ We will mostly focus on fantastic works of literature, but we also read texts for example about sexual violence and the like.
- ・ A quiz on the previous session's content will be given each time.
- ・ Preparation is required.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の運営方針の確認、クィアとは？）、ジャン・コクトー「詩の誕生」①
- 2回：ジャン・コクトー「詩の誕生」②
- 3回：ジャン・コクトー「詩の誕生」③
- 4回：ジャン・ジュネ「断章...」／「綱渡り芸人」①
- 5回：ジャン・ジュネ「断章...」／「綱渡り芸人」②
- 6回：ジャン・ジュネ「断章...」／「綱渡り芸人」③
- 7回：ヴィルジニー・デパント『キングコング・セオリー』①
- 8回：ヴィルジニー・デパント『キングコング・セオリー』②
- 9回：ヴィルジニー・デパント『キングコング・セオリー』③
- 10回：マルグリット・ユルスナール『火』①
- 11回：マルグリット・ユルスナール『火』②
- 12回：マルグリット・ユルスナール『火』③
- 13回：最終テスト
- 14回：まとめ、発表または小レポート提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 必ず毎回テキストの指定範囲を予習してきてください。
- ・ 前回の学習範囲に関する小テストを毎回行います。
- ・ 邦訳がすでに出版されているものに関しては一読してくることを推奨します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終課題（発表または小レポート）：40% 授業参加度：20% 最終テスト割合：40%

最終課題は履修者数によって発表または小レポートを課す

### テキスト / Textbooks

- Jean Cocteau Journal d'un inconnu Grasset 2003 9782246112730 -  
 Jean Genet Fragments... et autres textes Gallimard 1990 9782070719495 -  
 Jean Genet Oeuvres complètes 5 Gallimard 1979 9782070286713 -  
 Virginie Despentes King Kong théorie Grasset 2006 9782253122111 -  
 Marguerite Yourcenar Œuvres romanesques Gallimard 1982 9782070110186 -

原文の抜粋に関しては基本的にこちらで配布する

### 参考文献 / Readings

ジャン・コクトー 『ジャン・コクトー全集第6巻評論3』 東京創元社 1985 9784488018863

ジャン・ジュネ 『ジャン・ジュネ全集第3巻』 新潮社 1967

ヴィルジニー・デパント 『キングコング・セオリー』 柏書房 2020 9784760152483

マルグリット・ユルスナール 『火：散文詩風短篇集』 白水社 2023 9784560093504

授業では抜粋しか扱うことができないので、邦訳を一読しておくことを推奨する

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・LGBTQ+等にかかわるテーマに関心があることが望ましい。
- ・文学作品に関心があることが望ましい。授業ではテキストの抜粋を原文で読むための手引きを行います。全体の内容を把握するためには邦訳を一読することが必須です。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回必ず辞書を持ってくること。

### その他/ Others

- ・授業で扱うテキストは、授業開始時の状況や授業進度、学生の希望等によって変更する可能性があります。
- ・授業の性質上、性的な表現や暴力的な表現があるテキストを扱います。これらが極端に苦手な場合は履修を推奨しません。
- ・テキストの邦訳などに関しては、手に入りにくいものはコピーを配布する場合がありますが、すべてを配布できるわけではありません。購入が必要となる場合もあります。

# フランス文学・文化演習 5

Seminars in French Literature and Culture 5

時事フランス語 1

大坪 裕幸 (OTSUBO HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS213

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近年に書かれたメディア記事を読み、総合的な読解力の向上をはかっていく。文法知識を実際に応用しながら、この種のテキストに興味に応じて情報や考察の材料とするための足がかりとしてほしい。

Through reading media articles written in recent years, students will improve their overall reading skills. Such practical application of their grammatical knowledge may help them to read similar texts, according to their interests for further information or analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

フランス語のニュース・メディアに掲載された時事的な記事（やインタビュー、評論）を読んでいく。社会・文化・歴史・政治・経済など幅広い分野をあつかいたい。最初は短文ニュースから始め、最後は長めの記事へといたる。

Students will read articles (including interviews or essays) on current affairs published in French language news media. Various topics will be covered : society, culture, history, politics or economy. Sessions will start with press

dispatches, and finish with longer articles.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講読(1)
- 2回：講読(2)
- 3回：講読(3)
- 4回：講読(4)
- 5回：講読(5)
- 6回：講読(6)
- 7回：講読(7)
- 8回：講読(8)
- 9回：講読(9)
- 10回：講読(10)
- 11回：講読(11)
- 12回：講読(12)
- 13回：講読(13)
- 14回：授業内最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

基本的に講読形式なので、指定された範囲を訳してくること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (出席、訳読、積極的参加等) :60% 授業内最終テスト:40%

最終テストは仏文和訳の形式で、授業中に講読した範囲から出題

### テキスト / Textbooks

随時ハンドアウトを配布する。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

必ず仏和辞典を携帯すること (ポケット辞典・電子辞書は不可)。

# フランス文学・文化演習 6

Seminars in French Literature and Culture 6

時事フランス語 2

齋藤 かぐみ (SAITO KAGUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS214

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近年に書かれたメディア記事を読み、語彙の拡充にも目を配りながら、総合的な読解力の向上をはかっていく。文法知識を実際に応用することで自分のものとし、この種のテキストに興味に応じて情報や考察の材料とするための足がかりとしてほしい。

Through reading media articles written in recent years, students will enhance their vocabulary and improve their overall reading skills. Such practical application of their grammatical knowledge may help them to read similar texts, in the future, on their own initiative and according to their interests for further information or analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

フランス語のニュースメディアに掲載された時事的な記事(やインタビュー、評論)を読んでいく。社会・文化・歴史・政治・経済など幅広い分野をあつかいたい。最初は短文ニュースから始め、最後は長めの記事へと至る。「和訳を介して理解すること」よりもむしろ「そのまま原語で読むこと」を主眼としたい。授業時には、予習を前提として質問を行い、グループワークも交える。

Students will read articles (including interviews or essays) on current affairs published in French language news media. Various topics will be covered : society, culture, history, politics or economy. Sessions will start with press dispatches, and finish with longer articles. Focus will be on "reading directly in French" rather than "understanding via Japanese translation". Supposed to have prepared in advance, you will, in class, answer to questions and may also discuss in group.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講読1（短信ニュース）
- 2回：講読2（短信ニュース）
- 3回：講読3（記事）
- 4回：講読4（記事）
- 5回：講読5（記事）
- 6回：講読6（記事）
- 7回：講読7（記事）
- 8回：講読8（記事）
- 9回：講読9（記事）
- 10回：講読10（記事）
- 11回：講読11（記事）
- 12回：講読12（記事）
- 13回：講読13（記事）
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習(初回を除く。進度は毎回 1.5～2 ページ程度の見込み)：単語を調べ、読解を試みる。当初は機械翻訳に頼らざるを得ないような人も、単語単位で照応を付け、学期末には自力で読解することを目指す。

復習：読解ができなかった部分、読み違えた箇所について、問題点（語義、比喩の解釈、構文、背景知識、等々）を自己分析する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時間外の学習や授業参加の割合：65% 最終テスト割合：35%

授業時間外の学習内容の提出を複数回求める。

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS にアクセスするための電子端末。

### **その他/ Others**

予習の際には、特に語義が多岐にわたる単語に注意。文脈に適合する語義が辞書の項目の上位で見つかるとは限らない。



# フランス文学・文化演習 7

Seminars in French Literature and Culture 7

映像文化 1

江澤 健一郎 (EZAWA KENICHIROU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS215
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3213
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

映像文化をめぐるテキストをフランス語で講読して、考え、理解し、日本語に翻訳する能力を習得する。関連する文献を講読して、映像文化に関する知識を深める。

Students will read, think, and understand texts describing film culture in French and acquire ability to translate them into Japanese. Students will read relevant literatures to deepen their knowledge of image culture.

## 授業の内容 / Course Contents

ジョルジュ・ディディ＝ユベルマンのテキストを講読する。ディディ＝ユベルマンは、世界的に知られるイメージ論の思想家であり、絵画、映画、写真・・・といったイメージ全般について、縦横無尽に論じている。深みと広がりを持った彼の文章を読み、イメージについて考えながら、その文章をいかにして日本語に翻訳するのかを考える。教室では、ランダムに指名して、音読した上で訳文を発表していただく。その後で、担当教員が翻訳しながら解説を行う。

Students will read Georges Didi-Huberman's texts. Didi-Huberman is well known globally as intellect of image

theory, covering all images from painting to film, photo, etc. Students will reflect on these images by reading his deep and broad essays. Students will think about how to translate these essays into Japanese. During the class, students will be randomly selected to read aloud and translate these texts. After that, professor will provide translation and explanation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の説明とジョルジュ・ディディ＝ユベルマンの紹介。
- 2 回：講読
- 3 回：講読
- 4 回：講読
- 5 回：講読
- 6 回：講読
- 7 回：講読
- 8 回：講読
- 9 回：講読
- 10 回：講読
- 11 回：講読
- 12 回：講読
- 13 回：講読
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読するテキストを、自分で日本語に翻訳してください。また、授業中に紹介する参考文献を読んでください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表:60% 最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

プリントを配布する。

# フランス文学・文化演習 8

Seminars in French Literature and Culture 8

映像文化 2

片岡 大右 (KATAOKA DAISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS216

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3213

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ジャン＝リュック・ゴダールの映画を通して 20 世紀以降の映像文化を学び、近現代の歴史について考察する。

The course will study visual culture since the 20th century through the films of Jean-Luc Godard and discuss modern and contemporary history.

## 授業の内容 / Course Contents

ジャン＝リュック・ゴダールは 1950 年代に〈ヌーヴェル・ヴァーグ〉のみずみずしい映画作家として世界的な脚光を浴び、70 年代に商業映画の世界を離れたのちに復帰を果たすものの、映画を通して歴史を思考する独自の境地を切り開いた。授業では、50 年代以降 21 世紀に至るまでの諸作品の抜粋を見るとともに、彼の発言や様々なゴダール論にも目を向ける。学生によるフランス語テキストの訳読を主体とする授業。

Jean-Luc Godard came into the international limelight in the 1950s as a newcomer to the "New Wave," and after leaving the world of commercial cinema in the 1970s, he returned to it, but broke new ground with his unique way of thinking about history through film. The class will look at excerpts from his films from the 1950s to the

21st century, his statements and various essays that discuss him. The class will consist primarily of student translations of French texts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：訳読1
- 3回：訳読2
- 4回：訳読3
- 5回：訳読4
- 6回：訳読5
- 7回：訳読6
- 8回：訳読7
- 9回：訳読8
- 10回：訳読9
- 11回：訳読10
- 12回：訳読11
- 13回：訳読12
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献を読むこと。また、ゴダールや関連する映画作家の作品を見ること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加：30% 最終レポート割合：40% 最終テスト割合：30%

### テキスト / Textbooks

プリント配布

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する

# フランス文学・文化演習 10

Seminars in French Literature and Culture 10

フィクション4

千々岩 靖子 (CHIJIWA YASUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS218

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3213

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

辞書を用いてフランスの短編小説を原文で読めるようになる、あるいは読む「コツ」を習得する。

The purpose of this class is to read a short French novel (original text) using a dictionary, or to learn some "tips" to read a text in French.

## 授業の内容 / Course Contents

20 世紀のルーマニア出身の作家イヨネスコの短編「義務の犠牲者」"Une victime du devoir"を精読します。10 ページ未満の短い短編ですが、翻訳をすることだけが目的ではなく、フランス語の文章を十分に理解することが目的です。

We will read carefully a short story "Une victime du devoir" written by the 20th century Romanian writer Ionesco. The purpose is not only to translate the novel, but to fully understand it.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：テキスト精読（1）
- 3回：テキスト精読（2）
- 4回：テキスト精読（3）
- 5回：テキスト精読（4）
- 6回：テキスト精読（5）
- 7回：テキスト精読（6）
- 8回：テキスト精読（7）
- 9回：テキスト精読（8）
- 10回：テキスト精読（9）
- 11回：テキスト精読（10）
- 12回：テキスト精読（11）
- 13回：テキスト精読（12）
- 14回：最終テスト、まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は必須です。授業で読むフランス語の文章を日本語に訳すだけでなく、動詞の法と時制、代名詞が何を指すのか、それぞれの単語の意味、品詞などをしっかり調べてください。わからない場合は、どこがわからないかを明確にしておいてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト:20% 毎回の予習:40% 授業参加度:20% 最終テスト割合：20%

#### テキスト / Textbooks

プリントで配布する。

#### 参考文献 / Readings

初回授業で指示します。

## フランス語表現演習 5

French Seminars 5

コミュニケーション 3

アラン＝ブルネ (HARANG-BRUNET P.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS225

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL3412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業ではフランス人との交流を想定し、以下のことをめざします。

フランス語の文を正確な発音で、リズムよく読めるようになること。

授業で紹介される基本文をすべて覚えること。

授業で紹介された基本文を発展させ、自分の考え・思いをフランス語で表現できるようになること。

In this lesson, we will aim to interact with French people and aim to:

To be able to read French sentences with correct pronunciation and rhythm.

Learn all the basic sentences introduced in class.

To develop the basic sentence introduced in the class so that you can express your thoughts in French.

### 授業の内容 / Course Contents

二人で会話を強調して、日本とフランスの文化を比較して、共通点や差異について話すこととなります。

発表の準備もあります。

Students will have a conversation in pairs. We will compare Japanese and French cultures, and discuss about their common points and main differences. Students must also prepare for presentation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Présentations
- 2 回：Les Japonais
- 3 回：Les Japonais (2)
- 4 回：La cuisine japonaise : un raffinement extrême
- 5 回：La cuisine japonaise : un raffinement extrême (2)
- 6 回：Le cinéma japonais
- 7 回：Le cinéma japonais (2)
- 8 回：Le sumo
- 9 回：Le sumo (2)
- 10 回：Le japonais, une langue unique
- 11 回：Le japonais, une langue unique (2)
- 12 回：Tokyo, une ville fascinante
- 13 回：Tokyo, une ville fascinante (2)
- 14 回：Bilan et examen

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学生は授業で見た語彙を覚えなければなりません。

発表の準備もあります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:40% 筆記テスト:30% 口頭テスト:30%

### テキスト / Textbooks

ドラ・トーザン 『ドラの見た日本』 朝日出版社 2018 9784255352909 ○

### 参考文献 / Readings

Jean-Luc AZRA Société française Alma 2013 9784904147009

### その他 / Others

Merci de n'utiliser ni ordinateur ni tablette dans cette classe (dictionnaire autorisé).

この授業ではパソコンやタブレットの使用はご遠慮ください。



## フランス語表現演習 6

French Seminars 6

コミュニケーション 4

アラン＝ブルネ (HARANG-BRUNET P.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS226
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業ではフランス人との交流を想定し、以下のことをめざします。

フランス語の文を正確な発音で、リズムよく読めるようになること。

授業で紹介される基本文をすべて覚えること。

授業で紹介された基本文を発展させ、自分の考え・思いをフランス語で表現できるようになること。

In this lesson, we will aim to interact with French people and aim to:

To be able to read French sentences with correct pronunciation and rhythm.

Learn all the basic sentences introduced in class.

To develop the basic sentence introduced in the class so that you can express your thoughts in French.

### 授業の内容 / Course Contents

二人で会話を強調して、日本とフランスの文化を比較して、共通点や差異について話すこととなります。

発表の準備もあります。

Students will have a conversation in pairs. We will compare Japanese and French cultures, and discuss about their common points and main differences. Students must also prepare for presentation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Présentations
- 2 回：La politique japonaise
- 3 回：La politique japonaise (2)
- 4 回：L'art japonais
- 5 回：L'art japonais (2)
- 6 回：Religion et superstition
- 7 回：Religion et superstition (2)
- 8 回：L'art du bain
- 9 回：L'art du bain (2)
- 10 回：Les étrangers au Japon
- 11 回：Les étrangers au Japon (2)
- 12 回：Une année au rythme des saisons
- 13 回：Une année au rythme des saisons (2)
- 14 回：Bilan et examen

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学生は授業で見た語彙を覚えなければなりません。

発表の準備もあります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:40% 筆記テスト:30% 口頭テスト:30%

### テキスト / Textbooks

ドラ・トーザン 『ドラの見た日本』 朝日出版社 2018 9784255352909 ○

### 参考文献 / Readings

Jean-Luc AZRA Société française Alma 2013 9784904147009

### その他 / Others

Merci de n'utiliser ni ordinateur ni tablette dans cette classe (dictionnaire autorisé).

このクラスではパソコンやタブレットの使用はご遠慮ください。

# フランス語表現演習 7

French Seminars 7

ライティング1

ミシュラン (MICHELIN FRANCK)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS227
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

分かり易く、間違いの少ない作文を書く能力を目指します。

The aim is to develop the ability to write compositions that are clear and error-free.

## 授業の内容 / Course Contents

授業で短い文章を読んだ上で、作文の執筆に挑戦してみます。授業中の執筆や自宅での執筆によって執筆力を得ます。

We will read short texts in class and then try our hand at writing an essay. We will gain writing skills by writing in class and at home.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Présentation du cours et grandes lignes de la rédaction en langue française

講義の紹介、フランス作文の概要

2 回：Lecture d'un texte de presse

## 新聞記事の読解

3回：Écriture d'une courte rédaction

## 短い作文の準備

4回：Correction de la rédaction terminée à la maison

自宅で書き上げた作文の訂正

5回：Lecture d'un texte historique

フランス史に関する文章

6回：Ecriture d'une rédaction sur l'histoire ou la société française

フランスの歴史または社会に関する作文の執筆

7回：Correction de la rédaction terminée à la maison

自宅で書き上げた作文の訂正

8回：Lecture d'un texte littéraire

フランス文学の文の読解

9回：Préparation d'une rédaction sur un auteur francophone

フランス語圏の作家に関する作文の執筆準備

10回：Correction de la rédaction terminée à la maison

自宅で書き上げた作文の訂正

11回：Préparation d'une rédaction personnelle

個人的な作文の執筆準備（思い出・夢等）

12回：Correction de la rédaction terminée à la maison (1)

自宅で書き上げた作文の訂正 (1)

13回：Correction de la rédaction terminée à la maison (2)

自宅で書き上げた作文の訂正 (2)

14回：Bilan du cours

まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

予習として文章を読む事、作文を書く事が必要となります。復習は主として論文の書き直しとなります。

Preparation involves reading texts and writing essays. Review is mainly rewriting the short essays.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加 Participation:20% 作文 Short essays (複数回) :80%

**テキスト / Textbooks**

教員は教材を配布します。The teacher will distribute the teaching material in class.

**参考文献 / Readings**

## フランス語表現演習 9

French Seminars 9

パフォーマンス 1

ブルジュワ, R (BOURGEOIS RODOLPHE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS229
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

Ce cours sera consacré à la pratique de l'écrit et de l'oral en français.

Dans ce cours, nous travaillerons simultanément le commentaire, l'exposé écrit et la présentation orale. Les étudiants apprendront à analyser un document (petits textes ; documents iconographiques), à le commenter de façon cohérente et structurée (introduction, développement s'appuyant sur des exemples, conclusion et expression d'un point de vue) Ils devront ensuite le présenter oralement devant la classe.

This course will be devoted to the practice of writing and speaking in French.

In this course, we will work simultaneously on the commentary, the written presentation and the oral presentation. Students will learn to analyze a document (short texts; iconographic documents), to comment on it in a coherent and structured way (introduction, development based on examples, conclusion and expression of a point of view). They will then have to present orally in front of the class.

### 授業の内容 / Course Contents

Chaque présentation sera suivie d'une discussion en groupe. En fin de trimestre, les étudiants auront la possibilité de préparer puis présenter un document de leur choix. Les documents de travail des douze premiers cours seront choisis par l'enseignant et distribués en classe.

Each presentation will be followed by a group discussion. At the end of the term, students will have the opportunity to prepare and then present a document of their choice. The course work documents will be chosen by the teacher and distributed in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 2 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 3 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 4 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 5 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 6 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 7 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 8 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 9 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 10 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 11 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 12 回：Document iconographique. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion.
- 13 回：Texte écrit. Analyse et commentaire écrit. Présentation orale. Discussion
- 14 回：Test

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Révision des corrections et des conseils donnés en classe (vocabulaire; grammaire; prononciation)

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% l'assiduité et la participation:60% 最終テスト割合 :40%

L'évaluation sera globale (l'assiduité et la participation: 60%; des tests et des devoirs: 40%)

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# フランス語表現演習 10

French Seminars 10

パフォーマンス 2

バレイユ, L. (BAREILLE LAURENT)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS230
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL3412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目あり。履修要項（学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム）を参照すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

読解力、ライティング能力（書き取り）を高め、語彙を増やし、フランスの生活習慣やフランス文化を習得すること。日仏比較する。

Students will improve their reading and writing skills while learning about French customs and culture. We will also make comparative studies regarding France and Japan cultural differences.

## 授業の内容 / Course Contents

毎週違う主題を取り扱う。文章を読み、その文章について質問に答え、話し合う。時おり短いビデオを視聴しコメントを加える。

Every week students will immerse themselves in different subjects.

Students will read a text and answer a quiz, also make comments about this text Occasionally students will watch short videos and comment on them.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業紹介
- 2回：La politesse
- 3回：La conversation
- 4回：La mémoire collective
- 5回：La diversité
- 6回：Les grandes figures nationales
- 7回：Paris ou province
- 8回：Les différences régionales
- 9回：Femmes et hommes
- 10回：Religions et laïcité
- 11回：Economie et société
- 12回：Les conflits sociaux
- 13回：La politique
- 14回：テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習としては、授業で学んだ言葉を確実に覚え、語彙を充実させること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:30% 複数回の課題及び口頭テスト:70%

#### テキスト / Textbooks

授業にて配布するプリントを使用する。

#### 参考文献 / Readings



# 文学講義 201

Lectures on Literature 201

仏中世・ルネサンス文学

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ロベール・ド・ボロン『メルラン』を通して中世フランスにおける魔術や予言の諸相を考える

The Aspects of Witchcraft and Prophecy in Medieval France through "Merlin" of Robert de Boron

## 授業の内容 / Course Contents

13 世紀初頭にフランスで書かれたロベール・ド・ボロン『メルラン』は、魔術師にして預言者のメルラン（英：マーリン）の誕生や活躍を描く物語で、アーサー王物語の中でも重要な役割を占める。和訳を読みながら、当時の魔法や予言がどのようなものだったか考えてゆく。一部映像資料を使用する予定。受講者の関心やレベルに応じて順序や内容を一部変えることがある。

The « Merlin » of Robert de Boron, written in the early twelfth century, talks about the life of Merlin, magician and prophet, and occupies an important position in the Arthurian romances. Reading the Japanese translation, we will examine the witchcraft and prophecy.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：アーサー王物語概説
- 2回：『メルラン』の成立と伝播
- 3回：ロベール・ド・ボロン
- 4回：メルランの誕生の謎
- 5回：メルランとアーサー
- 6回：中世の魔術 1
- 7回：中世の魔術 2
- 8回：中世の予言
- 9回：テキスト講読
- 10回：テキスト講読
- 11回：テキスト講読
- 12回：テキスト講読
- 13回：テキスト講読
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめテキストを読んでおくこと。その他授業中に指示することがある。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内最終レポート：40% 平常点（出欠、リアペや課題、積極的参加度など）：60%  
 毎回アクションペーパーを課す予定

#### テキスト / Textbooks

ロベール・ド・ボロン 『西洋中世奇譚集成 魔術師マーリン』 講談社学術文庫 2015 4062923041 ○  
 毎回テキストを持参すること。追加で資料等を配布することがある。

#### 参考文献 / Readings

授業中に指示

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語の読解力と中世ヨーロッパへの関心

# 文学講義 203

Lectures on Literature 203

ジャン=ジャック・ルソーとともに考える現代社会の諸問題

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AS303
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部生以外は抽選科目で登録すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

だれもが名前を覚えさせられたのに、ほとんどその著作を手にとったことのない、けれども、西洋の近現代を理解するうえでもっとも重要な人物（のひとり）とされているルソーについて考えます。あるいはルソーとともに考えます。

「わたし」とは何か？ 「子ども」とは何か？ 「アート（芸術）」とは何か？ 「国家」とは何か？ 「自由」とは何か？ 「女性」とは何か？ こうした問いについてです。

18世紀フランス文学（ここではジャン=ジャック・ルソーの作品）を読みながら、文学という学問の広がり理解し、テキストを読み、それについて書く技術を身につけます。

While reading French literature in the 18th century, students will understand the breadth of the study of literature, read texts, and acquire skills to write about them.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、18世紀フランスを対象として、その時代に書かれた文学作品を読みます。アートもちょっとみてみます。そして、近代の誕生といわれる18世紀フランスでは同時代の文学が何を問題としたのかを検討

します。

中心に据えるのは、おそらく名前はきいたことのある思想家ジャン＝ジャック・ルソーです。『社会契約論』、『エミール』、『新エロイズ』、『告白』などを書いた（へんな）人です。一般に人民主権を説いて近代を準備し、また自然教育の理論をうちたてて近代教育の扉をひらいたとされています。ほんとうでしょうか？

格差社会、「法」や民主主義、教育と子ども、「性」と恋愛、芸術や文学の危険と可能性といった諸問題について、ルソーを参照しながら考えます。とりわけ、自伝的作品について検討しながら、「わたし」とは何か、というおおきな問いについて考えます。

In this course, we will read literary works written during 18th-century France. We will examine the problems that were taken up by contemporary literature in 18th-century France, which is said to be the birth of modernity.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション①：18世紀のフランスとは？
- 2回：イントロダクション②：当時の文学界、思想界について
- 3回：著作を通して考える①：ジャン＝ジャック・ルソーとは？
- 4回：著作を通して考える②
- 5回：著作を通して考える③
- 6回：著作を通して考える④
- 7回：著作を通して考える⑤
- 8回：著作を通して考える⑥
- 9回：著作を通して考える⑦
- 10回：著作を通して考える⑧
- 11回：著作を通して考える⑨
- 12回：著作を通して考える⑩
- 13回：著作を通して考える⑪
- 14回：授業内最終確認テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布した資料を事前に読むことが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%   リアクションペーパー：40%   課題（リアクションペーパーと並行）：35%   最終  
テスト割合：25%

2022年度の全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）「文学への扉」と一部内容が重なります。それを受講した学生にはおすすめてできません。

### テキスト / Textbooks

適宜、資料を配付します。

### 参考文献 / Readings

桑瀬章二郎 『ジャン=ジャック・ルソー：「いま、ここ」を問いなおす』 講談社

桑瀬章二郎 『嘘の思想家ルソー』 岩波書店

桑瀬章二郎 『ルソーを学ぶ人のために』 世界思想社

Shojiro Kuwase Les confessions de Jean-Jacques Rousseau en France (1770-1794) Honoré Champion

その他の参考文献については講義内で適宜指示します。

#### **その他/ Others**

分量が多いので講義内で適宜指示します。

#### **注意事項（検索結果画面）**

文学部生のみ対象。他学部生は別コードで登録。

# 文学講義 205

Lectures on Literature 205

仏近・現代小説1

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS305

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学作品の読解、および舞台芸術、映像を通して、フランス 19 世紀の文化と社会を考察する。

Students will analyze 19th century culture and society in France by studying literatures, stage arts, and videos.

## 授業の内容 / Course Contents

フランスの 19 世紀を理解する上で特に重要なのは、近代市民社会の誕生を画す 1789 年のフランス大革命と、ほぼ同時期にイギリスから始まり、本格的な消費社会をヨーロッパ全体にもたらした産業革命です。政治と経済にまたがるこの二つの「革命」が、フランス 19 世紀という動乱の時代を動かす原動力になっています。この授業では、文学作品の読解はもちろんのこと、この時代のブルジョワジーのサブ・カルチャーであったオペラやバレエ等の舞台芸術（今年は主にバレエを扱う予定）を参照しながら、大革命以後のフランス社会について考察していきます。資本主義勃興期の市民社会の発展の陰にあった階層格差や男女間の不平等（なぜこの時代の男の主人公はみな「くず男！」なのか？）などが問題になります。毎回授業の最後にコメント・カードを提出してもらいますが、授業の内容をまったく理解していない場合は、欠席扱いとするので注意してください。なお、以下の授業計画はあくまでひとつの目安にすぎない。

To understand 19th century France, it is critical to know 1789 French Revolution, which resulted in birth of modern civil society, and industrial revolution which brought consumer society across all Europe at about the same period, starting from England. These two revolutions riding on bandwagon of politics and economy were the powerhouse driving the turbulent 19th century in France. In this class, other than reading literatures, students will also analyze French society after the revolution by referring to bourgeoisie sub culture in this era, notably stage arts such as opera and ballet. Stratification disparities and inequality between men and women, which were behind the development of civil society during the rise of capitalism, are problems. Students will submit comment cards at the end of each class. Be aware that students will be considered absent if they fail to understand lesson contents. The following class planning is an approximate outline.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：理性結婚と姦通
- 3回：世紀病
- 4回：ロマン主義
- 5回：ロマンチック・ラブの誕生とその帰結
- 6回：女子教育と恋愛
- 7回：高級娼婦
- 8回：階級格差と恋愛
- 9回：結核のロマン化
- 10回：姦通恋愛における男女の運命
- 11回：マドンナからファム・ファタルへ
- 12回：宗教と恋愛
- 13回：エキゾチスム
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に紹介するオペラやバレエ等の舞台作品は、可能な限り DVD を使って、あるいは実際に舞台に観に行くことが望ましい。また、授業開始時まで、フランス革命から第一次大戦までのフランス史を必ずおさらいしておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% 出席とコメントカード:40%

### テキスト / Textbooks

毎回、プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

鹿島茂 『職業別パリ風俗』 白水社 1999

鈴木晶 『バレエ誕生』 新書館 2002

毎回たくさんのおもに小説を授業中に紹介するので、できるだけ多くの作品を読んでほしい。



# 文学講義 207

Lectures on Literature 207

フランス語圏文学

杉原 賢彦 (SUGIHARA KATSUHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS307  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： FRL2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1960 年＝アフリカ年とされる。そして、アフリカ大陸の西半分は、フランス語圏として知られる。では、そこにある文学をみなさんは知っているだろうか？ こうして書いている自分自身も、映画を通して親しむようになったにすぎないのではあるが。

この授業では、昨年度に引きつづき、アラン・マバンクによる『アフリカ文学講義』（みすず書房）を導きの書としながら、フランス語圏アフリカにおける文学はもとより、ネグリチュードとはなにか、アフリカとケベック（同じくフランス語圏だ）との関係について、さらには、アフリカの〈外〉にいる作家たち（auteurs）による作品とその立ち位置の問題についても含めて、フランス語圏アフリカ文学／文化にも踏み込んでゆきたいと考えている。

そしてそこから、フランス語圏文学の広がりを読んでゆければと思う。

The year 1960 = the Year of Africa. And then, the western half of the African continent is known as the francophone part of the continent. However, do you know the literature there? As I am writing this, I personally have only become familiar with it through movies.

In this course, we will use "Huit leçons sur l'Afrique" by Alain Mabanc (Misuzu Shobo) as a guide, and will go into French-speaking African literature and culture, including not only literature in French-speaking Africa, but also what Négritude is, the relationship between Africa and Quebec (also a French-speaking country), and even works by auteurs outside of Africa.

From the above, we hope to learn about the expansion of francophone literature.

### 授業の内容 / Course Contents

まず、フランス語圏＝フランコフォン (francophone) 圏という問題から始める予定だ。フランス語話者の広がりによってフランス文学の枠組みがどうなるのか？さらにそこからどのような問題点が見えてくるのか？

同時にアフリカを考えると、植民地と宗主国という関係も考えざるを得ない。ここで問題となってくる「ネグリチュード」とはなんなのか？もちろん、1960年という問題についてもそうだ。マバンクの『アフリカ文学講義』は、歴史とトピックを追いながらアフリカ文学を語っているのだが、それらの言葉に耳を澄ませながら、さらに作家たち自身の言葉を聴いてゆきたい。

そのときに役に立ってくれるのが、相関関係にあるともいえる映画の存在だ。とりわけ、小説家と映画監督という二足のわらじを履いたセンベヌ・ウスマンの存在は重要であり、今年度は彼を中心に考える道筋を開きたいと考えている。

We will start with the question of the francophone. How does the expansion of french-speaking societies affect the framework of french literature? What problems will emerge from this?

At the same time, when we consider Africa, we must also think about the issue of the colonial-sovereign relationship. What is the "Négritude" in question here? Of course, the same is true for the question of the year 1960. Mabanc's "Huit leçons sur l'Afrique" discusses African literature by following its history and topics, but while listening carefully to these words, we must also listen to the words of the authors themselves.

What helps us in such cases is the existence of films, which can be said to have a close correlation with each other. Sembène Usman, a novelist and film director, is particularly important, and this year we would like to focus on him as the focus of our discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ～ フランス語圏文学のために
- 2回：アフリカとフランス語圏文学に向けて
- 3回：1960年と世界／アフリカ／ケベック
- 4回：文学と映画、アフリカにおける接点、あるいは我は黒人
- 5回：「ネグリチュード」とはなにか？
- 6回：『プレザンス・アフリケーヌ』を知る
- 7回：センベヌ・ウスマンを知る - セネガルに生まれて
- 8回：センベヌ・ウスマンを読む I - 小説世界を知る #1
- 9回：センベヌ・ウスマンを読む II - 小説世界を知る #2
- 10回：センベヌ・ウスマンを見る I - 映画世界を知る #1
- 11回：センベヌ・ウスマンを見る II - 映画世界を知る #2
- 12回：アフリカの〈内〉と〈外〉という問題 I
- 13回：アフリカの〈内〉と〈外〉という問題 II
- 14回：まとめと補遺

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

アフリカのフランス語圏文学というとなじみがないかもしれない。が、2022年のゴンクール賞（フランスでもっとも権威があるとされる文学賞）に輝いたのは、まだ若き黒人の青年だった。モハメド・ブガール・サール……セネガル生まれの彼は、サハラ砂漠以南の出身者で最初の同文学賞受賞者であると同時に、同賞のもっとも若い受賞者でもある……こんなふうになると興味をもってもらえるだろうか？

まず、見知らぬものに興味をもってもらうことから始めてもらえれば幸いだ。

また、文学に限らず、映画、音楽、アートなど、さまざまなポイントから授業に臨んでもらえれば必ずなんらかの発見に結びつくと思っている。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:40% 最終レポート:40% コメント・ペーパーおよび授業内でのプレゼンス:20%

できるだけ双方向性を確保したいため、毎回、授業コメントをお願いする予定です。

**テキスト / Textbooks**

使用しない

**参考文献 / Readings**

アラン・マバンク 『アフリカ文学講義』 みすず書房 2022 9784622090670

A・ノルトマン=ザイラー 『新しいアフリカの文学』 白水社 1978

エメ・セゼール 『帰郷ノート』 平凡社 2022 9784582764987

フランツ・ファノン 『黒い皮膚・白い仮面』 みすず書房 2020 9784622089506

センベヌ・ウスマン 『ニーワンセネガルのこころ』 サイマル出版会 1990 9784377408485

センベヌ・ウスマン 『帝国の最後の男』 新評論 1988

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

とくにないが、詩・小説を読むこと、そして映画を見るのが楽しみだとなお好し

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Canvas LMS を利用して授業にかんする情報を流すため、必ず Canvas LMS を見ることに

**その他 / Others**

なにより、「好奇心」が重要です！

# 文学講義 209

Lectures on Literature 209

フランス思想

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランスの現代哲学におけるイメージ論を概観する。いくつかの作品を取り上げ、具体的にその内容を紹介します。

This course aims to provide a historical overview of the concept of image in modern French philosophy, taking up several specific works to introduce their content in detail.

## 授業の内容 / Course Contents

毎回、フランス哲学の重要な思想家をとりあげ、そのイメージ論を紹介、検討する。その際、思想家の生の言葉に触れるように抜粋を読み、時代背景などもからめて解説していきます。取り上げる予定の主な思想家：ベルクソン、サルトル、メルロー＝ポンティ、バタイユ、レヴィ＝ストロース、ロラン＝バルト、ドゥルーズ、フーコー、デリダ、ジャン＝リュック・ナンシーなど

Each course meeting takes up an important thinker of French philosophy and introduces and explains his image theory. The texts are explained with background. Featured thinkers: Bergson, Sartre, Merleau-Ponty, Bataille, Levi-Strauss, Barthes, Deleuze, Foucault, Derrida, Jean-Luc Nancy, etc.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：講義 1
- 2回：講義 2
- 3回：講義 3
- 4回：講義 4
- 5回：講義 5
- 6回：講義 6
- 7回：講義 7
- 8回：講義 8
- 9回：講義 9
- 10回：講義 1 0
- 11回：講義 1 1
- 12回：講義 1 2
- 13回：講義 1 3
- 14回：最終テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業で扱う思想家のテキストをできるだけ多く読む。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100%    中間レポート:30%    リアクションペーパー:30%    最終テスト割合：40%

**テキスト / Textbooks**

プリントを配布。

**参考文献 / Readings**

授業時に指示

# 文学講義 211

Lectures on Literature 211

フランス美術

小泉 順也 (KOIZUMI MASAYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

授業を通して、フランス近代美術に関する基本的な知識と理解を得ることを目標とします。

On completion of this course, students should have a basic knowledge and understanding of French modern art.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、新古典主義、ロマン主義、公的美術、リアリズム、印象派、ポスト印象派に関わる重要な作品を学びます。具体的には、フランス革命から 20 世紀初めまでの時代に、歴史、文学、風景、想像世界、田園および都市の生活を主題とした、11 点の絵画と 1 点の彫刻を中心に取り上げます。

This course is intended to provide a focused study of key works associated with Neo-Classicism, Romanticism, official art, Realism, Impressionism and Post-Impressionism. In particular, it takes a close look at eleven paintings and one sculpture from the French Revolution to the turn of the 20th Century that represent scenes from history, literature, landscape, imagination, rural life and urban life.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション、展覧会情報

- 2回：ジャック＝ルイ・ダヴィッド《マラーの死》  
 3回：ドミニク・アングル《ラファエロとラ・フォルナリーナ》  
 4回：テオドール・ジェリコー《メデューズ号の筏》  
 5回：ウジェーヌ・ドラクロワ《怒りのメデイア》  
 6回：ローザ・ボヌール《ニヴェルネ地方の耕作》  
 7回：ギュスターヴ・クールベ《画家のアトリエ》  
 8回：アレクサンドル・カバネル《ヴィーナスの誕生》  
 9回：エドゥアール・マネ《草上の昼食》  
 10回：クロード・モネ《印象、日の出》  
 11回：メアリー・カサット《栈敷席にて》  
 12回：ポール・ゴーガン《説教のあとの幻影》  
 13回：オーギュスト・ロダン《考える人》  
 14回：まとめ、美術館をめぐる話題など

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各地の美術館や展覧会に足を運んでください。授業に関連する展覧会や常設展を見てもらい、11月初めを目途に展覧会レポートを提出してもらいます（詳細は授業内に指定）。

東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館などで、特別展を割引、常設展を無料で入館できるキャンパスメンバーズの制度を活用するとともに、学生の入館料を無料に設定しているアーティゾン美術館などを訪れてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 展覧会レポート:40% コメントシート:20% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

-  
-  
-

授業内に資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

- 青柳正規ほか 『西洋美術館』 小学館 1999 4096997056  
 尾関幸ほか 『西洋美術の歴史』（第6・7巻） 中央公論新社 2017 9784124035971  
 杉本淑彦ほか 『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房 2015 9784623072712

### その他 / Others

キャンパスメンバーズに関する情報

[https://spirit.rikkyo.ac.jp/student\\_affairs/backup/SitePages/partnership.aspx](https://spirit.rikkyo.ac.jp/student_affairs/backup/SitePages/partnership.aspx)

国立西洋美術館@上野駅（学生証の提示により常設展は無料）

<https://www.nmwa.go.jp/jp/>

アーティゾン美術館@東京駅・京橋駅（学生であれば、事前予約で入館無料）

<https://www.artizon.museum/>



# 文学講義 213

Lectures on Literature 213

ヨーロッパとフランス

江澤 健一郎 (EZAWA KENICHIROU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS313  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： FRL2800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス文化がヨーロッパ諸国の文化と結んだ関係について理解する。フランスとヨーロッパの芸術についての理解を深める。

The purposes of this course are to understand the connection between French culture and European cultures and to deepen understanding of French and European art.

## 授業の内容 / Course Contents

フランスの文化は、一国のみによって成立しているわけではない。当然のように、周辺国との関係性のなかで成立している。この講義では、近現代のフランスの絵画、写真、映画、文学がヨーロッパのなかでいかに成立したのかを考察する。そして、必ずしもフランス人であるとは限らない芸術家たちが、フランスにおいてどのように活躍したのかを理解する。

French culture does not derive only from France. As a matter of course, it is established in relation to neighboring countries. This course examines how modern French painting, photography, film, and literature have been established in Europe and how artists who were not necessarily French were active in France.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：フランスとヨーロッパ  
 2回：19世紀フランス芸術とヨーロッパ1  
 3回：19世紀フランス芸術とヨーロッパ2  
 4回：19世紀フランス芸術とヨーロッパ3  
 5回：19世紀フランス芸術とヨーロッパ4  
 6回：19世紀フランス芸術とヨーロッパ5  
 7回：写真の誕生と発展1  
 8回：写真の誕生と発展2  
 9回：映画の誕生と発展  
 10回：20世紀フランス芸術とヨーロッパ1  
 11回：20世紀フランス芸術とヨーロッパ2  
 12回：20世紀フランス芸術とヨーロッパ3  
 13回：20世紀フランス芸術とヨーロッパ4  
 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

授業で紹介する文献を読み、紹介される絵画、写真、映画を自分でも鑑賞する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクション・ペーパー:40%

**テキスト/Textbooks**

プリントを配付する。

**参考文献 / Readings**

プリントを配布する。

**その他/Others**

特になし。

# 文学講義 214

Lectures on Literature 214

仏詩・戯曲

榎本 恵子 (ENOMOTO KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

演劇、オペラ、映画、ミュージカル、バレエといったジャンルを通して、演劇の読み物としての文学性だけではなく、総合舞台芸術とは何かを考える中で、ヨーロッパの歴史、文学史を理解する。

The aim of this course is to understand not only the history of Europe but also how French literature works are visualized in plays, films, operas, musicals, ballet, etc.

## 授業の内容 / Course Contents

フランス 17 世紀モリエールの喜劇『ドン・ジュアン』の喜劇作品としての価値を読み解く。そして、映画、オペラ、ミュージカル、バレエ作品を検証し「ドン・ジュアン」伝説の神髄を探っていく。

Students will first read "Dom Juan", a 17th century French comedy by Molière.

Then, they will examine films, operas, musicals and ballet works to understand the essence of the "Dom Juan" legend.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入 スペクタクルとは何か

「ドン・ジュアン神話」とは何か

2回：演劇のジャンル：喜劇？悲劇？悲喜劇？

モリエールの生涯と『ドン・ジュアン』執筆の背景

3回：舞台の魅力1：モリエールの喜劇『ドン・ジュアン』の解説と鑑賞

4回：舞台の魅力2：モリエールの喜劇『ドン・ジュアン』の解説と鑑賞

5回：映画：演劇と映画の違いとは？

6回：映画の魅力1：映画化されたモリエールの『ドン・ジュアン』の解説と鑑賞

7回：映画の魅力2：映画化されたモリエールの『ドン・ジュアン』の解説と鑑賞

8回：オペラ：オペラの誕生と種類

9回：オペラの魅力1：モーツアルト「ドン・ジョヴァンニ」の解説と鑑賞

10回：オペラの魅力2：モーツアルト「ドン・ジョヴァンニ」の解説と鑑賞

11回：ミュージカルの魅力1：フェリックス・グレイ「ドン・ジュアン」の解説と鑑賞

12回：ミュージカルの魅力2：フェリックス・グレイ「ドン・ジュアン」の解説と鑑賞

13回：バレエの魅力：グルック「ドン・ジュアン」の解説と鑑賞

神話となった男の運命：様々なドン・ジュアン作品

14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に紹介する作品、それに付随する作品について自分なりの考察を持って授業に臨むことを強く推奨します。

授業で紹介するバージョン以外のものも沢山あります。関連する作品、興味を持った作品は積極的に読み、鑑賞しましょう。多くのものを視聴し体感しましょう。

授業で扱わないドン・ファン物も授業中に紹介します。興味を持ったものから読んでいきましょう。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加：30% リアクションペーパー：35% 最終テスト割合：35%

この授業の参加姿勢に関する約束事は授業初回の時に説明します。それを守らない場合は出席点を喪失する可能性もあります。また内容によってはリアクションペーパー提出と認められない場合もあります。

#### テキスト / Textbooks

モリエール 『ドン・ジュアン』 中央公論社 1972 -

#### 参考文献 / Readings

渡辺守章 他 『フランス文学講座4 演劇』 大修館書店 1977

小場瀬卓三 『モリエールのドラマツルギー』 白水社 1957

オディール・デュスッド、伊藤洋監修 『フランス17世紀演劇事典』 中央公論新社 2011

秋山伸子 『フランス演劇の誘惑』 岩波書店 2014

水林章 『ドン・ジュアンの埋葬』 山川出版社 1966

モリエール以外の「ドン・ファン」もの

その他の文献は適宜授業中に紹介します。

### **その他/ Others**

授業は、みなさんのコメント、質問などを共有しながら進めます。また映像も多く使いますのでシラバス通りに進まないこともあります。

視聴する映像は日本語以外のものは基本字幕付きのものを使いますが、一部字幕がないものは解説を入れるなどして対応します。

席に関して、見にくい場合は、周りの方とご協力ください。

# 文学講義 215

Lectures on Literature 215

フランス文化史

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

19 世紀末の海浜リゾートについての文化史と、印象派についての美術史を参照しながら、プルーストの小説の面白さを理解する。

This course aims for students to understand the characteristics of Marcel Proust's novel, referring to the cultural and art history of the late 19th century.

## 授業の内容 / Course Contents

文化史や美術史を参考にしつつ、ノルマンディ海岸での少女たちや画家との出会いを描く『花咲く乙女たちのかげに』第二部（文庫で約 650 ページ）を読む。汽車の旅行に特有の楽しみは何か。車窓の風景の何が旅行者をひきつけるのか。文化遺産を訪ねる旅の、魅惑と失望はどこからくるのか。見知らぬホテルに泊まる晩の不安をどう解消すべきなのか。眩しい海のきらめきはどんな言葉で表現できるのか。既視感なぜ強烈な歓びと切なさをもたらすのか。堤防沿いでカモメのように群れる少女たちのなかで、自転車を押す彼女に恋をしてしまうのはなぜか。印象派を思わせる海景画の魅力の秘密はどこにあるのか。読者の心に浮かぶさまざまな問いを、ひとつずつ解明してみたい。

This course is designed to examine the second part of "A l'ombre des jeunes filles en fleurs."

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業計画・方針確認
- 2 回：プルーストとは誰か
- 3 回：鉄道旅行の魅力
- 4 回：リゾートホテルという環境
- 5 回：散策がもたらす特殊な印象
- 6 回：友情の可能性と限界
- 7 回：恋のはじまり、自転車の魔法
- 8 回：画家のアトリエ、風景画
- 9 回：肖像画、画家とモデル
- 10 回：静物画、恋の続き
- 11 回：現代生活の美、恋のゆくえ
- 12 回：恋の終わり
- 13 回：夏の終わり、まとめ
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

かならず指定箇所（毎週 50 ページ程度）を注意深く読んでから講義にのぞむこと。興味をひかれた（あるいは疑問に思った）段落をひとつ選んで、その理由を自分の言葉で説明できるようにしておくこと（毎回リアクションペーパーに書いてもらいます）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のリアクションペーパー：60% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

プルースト 『失われた時を求めて 4 花咲く乙女たちのかげに II』 岩波文庫 2012 9784003751138 ○

### 参考文献 / Readings

初回授業時に指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

密度の高い翻訳小説の文章（日本語）を毎週 50 ページほど読み続ける能力。

### その他 / Others

岩波書店ウェブマガジン「たねをまく」連載「それぞれの『失われた時を求めて』」

（立教大学公開セミナー「新訳でプルーストを読破する」レポート）

<https://tanemaki.iwanami.co.jp/categories/672>

# 文学講義 216

Lectures on Literature 216

仏現代社会

陣野 俊史 (JINNO TOSHIFUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS316  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： FRL2800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランスの現代社会が抱える諸問題を、可能な限り音楽を通じて理解していくこと

We will consider the modern problems of France through french rap music.

## 授業の内容 / Course Contents

フランスの現代社会は、郊外問題や格差に苦しんでいます。ただし、マイノリティや社会の余白に生きる人々は黙っているわけではありません。彼らは自分たちなりの表現を模索していて、その具体的な表象の一つが、ラップ・ミュージック。この授業では、主としてラップを扱いながら、彼らがどのような主張をしているのか、時系列に即して説明します。

Modern French society suffers from suburban problems and inequality. However, minorities and those living in the margins of society are not silent. They are searching for their own way of expression, and one of the concrete representations is rap music. In this class, I will mainly deal with rap and explain what they are claiming in chronological order.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：イントロダクション
- 2回：フランスの「郊外と移民」をめぐる諸問題・総論
- 3回：30年が過ぎて～オールドスクールの様々なグループとヒット曲
- 4回：第二世代の登場
- 5回：サルコジの時代と抵抗
- 6回：オレルサンとHK
- 7回：移民たち（1） メイトル・ギムスとガレル・ファイユ
- 8回：移民たち（2） ビッグフロ・エ・オリとネクフ
- 9回：フランスのラップにおける黒人表象～マイケル・ジャクソンと「ゾンビ」から
- 10回：フレンチ・タッチと90年代
- 11回：ダフト・パンクとその時代～「アラウンド・ザ・ワールド」の衝撃から
- 12回：ラッパーたちの憧れの地としての日本～「AKATSUKI SN」（セネガル）やSOOLKINGたちのリリックから
- 13回：スラムという形式～アブダル・マリクとグラン・コール・マラッド
- 14回：まとめと振り返り（言及しなかったミュージシャンたちについて）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に予習が必要というわけではありません。授業で聴いた音楽に関心がある場合は、必ず事後に聴き直して、できればプレイリストを作成して、関心を持続させてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

陣野俊史 『フランス暴動』 河出書房新社 2006

陣野俊史 『魂の声をあげる』 アプレミディ 2022

# 文学講義 217

Lectures on Literature 217

フランス語学概説 1

須藤 佳子 (SUTO YOSHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業は、言語学の主要分野における基本的な考え方を学ぶことで人間の言語の特質について理解を深め、フランス語の修得にも役立つ言語学的知識を身につけることを目的とする。

In this class, students will learn basic thinking in major areas of linguistics to deepen their understanding of characteristics of human languages and acquire linguistic knowledge to help them master French language.

## 授業の内容 / Course Contents

言語というものの本質的な特徴を理解したうえで、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論という言語学の主要分野の基礎事項を学んでいく。できるだけフランス語の例をとりあげることで、フランス語の仕組みについても理解を深める。

Students will first understand the foundational characteristic of language before learning basics in major areas of linguistics, including phonetic, phonology, morphology, syntax, semantic, and pragmatic. Whenever possible, examples in French will be used to deepen students' understanding about French language structures.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 言語とは何か（1）
- 2回：言語とは何か（2）記号としての言語
- 3回：言語とは何か（3）体系と構造
- 4回：音声学・音韻論（1）音声と言語音
- 5回：音声学・音韻論（2）音素と弁別素性
- 6回：形態論（1）形態素
- 7回：形態論（2）さまざまな語形成
- 8回：統語論（1）さまざまな文法範疇
- 9回：統語論（2）統語理論
- 10回：意味論（1）語レベル：類義語、多義語、同音異義語
- 11回：意味論（2）句・文のレベル：連語・慣用句
- 12回：語用論（1）発話の意味
- 13回：語用論（2）談話と文化
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容の復習と定着をはかる小テストを随時おこなうことで、理解を積み重ねていく。授業時間外の学習に関しては別途指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%   リアクションペーパー:20%   小テスト:40%                   最終レポート割合：:40%

#### テキスト / Textbooks

とくに指定しない。適宜プリントにて配布する。

#### 参考文献 / Readings

その都度紹介する。

# 文学講義 218

Lectures on Literature 218

フランス語学概説 2

須藤 佳子 (SUTO YOSHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS318  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： FRL2400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

フランス語の広告ディスコースを対象として、言語学およびその関連分野について理解します。フランス語の仕組みについても理解を深めます。

This course aims to understand linguistics and related fields through advertising discourse in French. It also aims to deepen students' understanding about French language structures.

## 授業の内容 / Course Contents

広告ディスコースを発話行為という観点から概観し、このタイプのディスコースにおいて特徴的な用いられ方をする言語現象をトピックごとにとりあげ、フランスで実際に流布された広告の例をとおして、語用論、ディスコース分析、記号論をふまえて明らかにしていきます。

This course takes various topics in the academic field, based on pragmatics, discourse analysis, and semiotics.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：発話行為論（1）

- 3回：発話行為論（2）  
 4回：直示表現  
 5回：人称表現  
 6回：対話理論  
 7回：話法表現  
 8回：言語的ステレオタイプ  
 9回：凝結表現とその変容  
 10回：広告と物語（1）  
 11回：広告と物語（2）  
 12回：言葉と視覚情報（1）  
 13回：言葉と視覚情報（2）  
 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業ではフランス語の広告をとりあげます。あらかじめ配布するテキストは語彙を調べ訳を用意して授業にのぞむんでください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    リアクションペーパーなどの授業参加:30%    課題:30%    最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

トピックごとに参考資料を配布します。

#### 参考文献 / Readings

Jean-Michel Adam, Marc Bonhomme L'argumentation publicitaire Armand Colin 2012 9782200278380  
 Blanche Grunig Les mots de la publicité Presses du C.N.R.S. 1990 9782876820395  
 Dominique Maingueneau Analyser les textes de communication Armand Colin 2022 9782100031320  
 ロラン・バルト 『映像の修辞学』 筑摩書房 2005 9784480089366

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業ではフランス語のテキストを多用します。フランス語初級文法を学修済みであることを前提として授業をおこないます。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS781

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： FRL4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS783  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： FRL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AS784

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： FRL4843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AS785  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： FRL4843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 入門演習 E1a

Introductory Seminars E1a

中世説話を読む

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT011

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

12～13 世紀に成立した説話集（『今昔物語集』『宇治拾遺物語』など）に収められた説話を一話ずつ精読し、各説話の魅力を読み解く。その過程で、古典文学の実態に関する理解を深めるとともに、基礎的な資料調査の方法と作法を身につける。

We will be doing deep readings of a folktale from several collections from the 12th and 13th century, such as the Uji Shui Monogatari and the Konjaku Monogatari Shu, where we will deepen understanding of classic literature as well as acquire the basic skills and techniques of textual investigation.

## 授業の内容 / Course Contents

はじめに中世の説話集について概説し、演習の進め方について説明する。その後、各話について、発表担当者を決めて演習形式で読み進める。発表者は、諸注釈書を比較検討し、語釈、表現分析、類話との比較などを行い、その成果を発表する。発表のあとには質疑応答を行い、その討論の中で一話一話を深く読み解いていく。これらの過程で、物語の読み方、資料調査の方法、発表やレポート作成の作法を身につけることをめざす。

After a general overview of Middle Age folktale collections, the direction of the class will be explained. Next,

presenters for each folktale will be decided, and class will proceed as a seminar. Presenters are to compare and contrast commentaries on their folktale but looking at glossaries of its terms, analyze expressions, and compare it to similar tales in their presentations. After each presentation there will be a Q & A, and through discussion we will deepen our understanding of each tale. By doing so, how to read a folktale, how to research materials, and how to present and write a paper will be learned.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：共通課題の確認，発表・調査方法等の指示
- 2 回：発表・調査方法の指示，「中世の説話と説話集」概説
- 3 回：担当者による発表と討論 1
- 4 回：担当者による発表と討論 2
- 5 回：担当者による発表と討論 3
- 6 回：担当者による発表と討論 4
- 7 回：担当者による発表と討論 5
- 8 回：担当者による発表と討論 6
- 9 回：担当者による発表と討論 7
- 10 回：担当者による発表と討論 8
- 11 回：担当者による発表と討論 9
- 12 回：担当者による発表と討論 10
- 13 回：担当者による発表と討論 11
- 14 回：担当者による発表と討論 12 まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う説話を事前に下読みし，疑問点などを整理してくること。  
発表・レポート作成のための準備はできるだけ早く始めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表の内容:40% 各回のコメント:30% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

### 参考文献 / Readings

小峯和明編 『今昔物語集を学ぶ人のために』 世界思想社 2003 4790709671

# 入門演習 E1b

Introductory Seminars E1b

近世文学研究の基礎

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世文学の代表的作品を読み、日本文学研究の基礎的方法を習得します。

Students will read representative works of early modern literature, and will learn basic methods of Japanese literature research.

## 授業の内容 / Course Contents

日本文学の基本的な学び方（文献の検索、レジュメやレポートの作成、発表やディスカッション）を習得します。授業では、近世文学作品のなかから各自興味のある作品を選んで翻刻、語釈、現代語訳を行い、疑問点や問題点を見つけます。そのうえで先行研究を参考に関連資料を集めて作品分析を行い、自身の見解を発表します。また、その成果を文章化してレポートとしてまとめます。

Students will acquire the basics of studying Japanese literature (literature search, outline and report writing, presentations, and discussions). In the class, students will select a work of interest from among early modern literary works, transcribe the work, explain its phrases, and translate it into contemporary language, as well as uncover questions and problems. Based on this, students will refer to prior research to collect related materials

and conduct analysis of the works, then present their own views. They will also put their findings into writing and summarize them as reports.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに（授業の進め方、成績評価の方法など）
- 2回：日本近世文学について、くずし字読解について
- 3回：発表の方法、レポートの書き方
- 4回：学生による発表（仮名草子）
- 5回：学生による発表（浮世草子1）
- 6回：学生による発表（浮世草子2）
- 7回：学生による発表（読本1）
- 8回：学生による発表（読本2）
- 9回：学生による発表（黄表紙）
- 10回：学生による発表（洒落本）
- 11回：学生による発表（滑稽本）
- 12回：学生による発表（俳諧1）
- 13回：学生による発表（俳諧2）
- 14回：まとめ

\* 授業の内容と順番は適宜変更する可能性があります

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示します。学生発表では毎回受講者による質疑応答を行うので、事前に全員必ず作品を読んできてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:40% 受講態度:20% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

笠間影印叢刊行会 『字典かな-出典明記・改訂版』 笠間書院 1994 9784305000002 ○

指定のテキストのほか、授業時にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜指示します。

# 入門演習 E1c

Introductory Seminars E1c

『堤中納言物語』の世界

園山 千里 (SONOYAMA SENRI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AT013
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	JAL1310
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

11 世紀中頃から 12 世紀にかけて書かれたといわれている『堤中納言物語』の全編を講読する。日本最初の短編物語集といわれる『堤中納言物語』は、話題の面白さやテンポのよさ、巧みな物語展開からみて近代短編小説を読んでいるような錯覚に陥ることがある。個々の物語を丁寧に分析・考察することで、総体としての『堤中納言物語』について考えていく。その過程で、古典研究の基礎的な資料の方法（変体仮名の学び）、発表の仕方、レポート作成について学ぶ。

"The Tsutsumi Chūnagon Monogatari" is said to have been written between the middle of the 11th century and the 12th century. "The Tsutsumi Chūnagon Monogatari" is regarded as the first collection of short stories in Japan, and its interesting topics, fast pace, and clever narrative development sometimes make us feel as if we are reading a modern short story. By carefully explaining and interpreting the individual tales, we will discuss the structure and meaning of "Tsutsumi Chūnagon Monogatari" as a whole. In the process, we learn how to research basic materials, and how to present and write a paper on Japanese classic literature.

## 授業の内容 / Course Contents

まず『堤中納言物語』について概説することで、『堤中納言物語』の参考文献や先行研究について知る。演習形式の授業であるため、演習の進め方について説明する。『堤中納言物語』のそれぞれの話について、発表担当者を決めて発表する。発表者は、諸注釈書を比較検討し、表現分析や自ら設定したテーマに基づき考察したことを発表する。その後、ディスカッションをおこなうことで参加者みなを読みを深めていく。

First, an overview of the “The Tsutsumi Chūnagon Monogatari” will be given, so that the students can learn about the references and previous research on the “The Tsutsumi Chūnagon Monogatari”. The class will be conducted in the form of seminar presentations and discussions, so the methodology will be explained. 10 stories will be presented by a designated person. The presenters will compare and contrast various commentaries, conduct the analysis of linguistic expressions, and share their opinions on some specific chosen themes. This will be followed by a discussion to deepen the participants' understanding of the text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、『堤中納言物語』概論、参考文献や先行研究について知る
- 2回：発表・研究方法について学ぶ
- 3回：担当者による発表とディスカッション1
- 4回：担当者による発表とディスカッション2
- 5回：担当者による発表とディスカッション3
- 6回：担当者による発表とディスカッション4
- 7回：担当者による発表とディスカッション5
- 8回：担当者による発表とディスカッション6
- 9回：担当者による発表とディスカッション7
- 10回：担当者による発表とディスカッション8
- 11回：担当者による発表とディスカッション9
- 12回：担当者による発表とディスカッション10
- 13回：担当者による発表とディスカッション11
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『堤中納言物語』全体を事前に読解しておいてください。  
発表やレポートの準備は丁寧に余裕をもっておこなうことをおすすめします。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表の内容:40% 毎回のコメント:30% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

- 三谷栄一ほか 『新編日本古典全集 17』 小学館 2000 -  
今井源衛ほか 『新日本古典文学大系 26』 岩波書店 1992 -  
テキストについては初回の授業で説明します。

**参考文献 / Readings**

- 土岐武治 『堤中納言物語の研究』 風間書房 1967
- 鈴木一雄 『堤中納言物語序説』 桜楓社 1980
- 井上新子 『堤中納言物語の言語空間』 翰林書房 2016
- 横溝博・久下裕利編 『堤中納言物語の新世界』 武蔵野書院 2017
- 後藤康文 『堤中納言物語の真相』 武蔵野書院 2017
- 横溝博・金光桂子編 『中世王朝物語の新展望 時代と作品』 花鳥社 2023
- そのほかの参考文献については授業中にも紹介します。



# 入門演習 E1d

Introductory Seminars E1d

戦後文学を読む (1)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT014

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

問題編成・注解・テキスト分析という観点から近代文学のテキストを読み、文学研究に関する方法と知識を学ぶとともに、論理的な文章を書く能力を身につける。

Students will read texts from recent modern literature from the perspectives of problem organization, annotation, and textual analysis, will learn methods and knowledge related to literary research, and will acquire the ability to write logical compositions.

## 授業の内容 / Course Contents

各自 (またはグループ) での発表と議論によるゼミ形式の授業を行う。毎回、発表者がレジユメを用意し、45分程度の発表を行ったあと、その内容をめぐる議論を行う。各発表者は自分の研究テーマに即したテキストを指定する。

The class will be held in seminar format, with discussions and presentations by individual students or groups. In each session, a presenter will prepare an outline and give a presentation for about 45 minutes, after which discussion of the content will take place. Each presenter will designate texts according to their own research

themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：資料の調べ方
- 3回：レジュメの作り方
- 4回：論文の書き方
- 5回：発表1
- 6回：発表2
- 7回：発表3
- 8回：発表4
- 9回：発表5
- 10回：発表6
- 11回：発表7
- 12回：発表8
- 13回：発表9
- 14回：予備日

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のレジュメに関しては、(1) 同時代評、周辺言説、作者自解、先行研究などの資料、(2) テキスト内の語彙に関する注釈、(3) 問題編成、(4) テキストの分析と考察、(5) 結論、などを明確にし、議論の叩き台とする。演習の参加者はテキストを精読し、自分の「読み」を示すことができるようにして演習に臨むこと。ゼミでは他者への敬意をはらいつつ容赦のない相互批評を展開してもらいたい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40% 最終テスト割合 :0%

### テキスト / Textbooks

紅野敏郎（他）編 『日本近代短編小説選 昭和篇2』 岩波文庫 2-12 ○

授業が始まったら参加者の ML を作成して双方向の連絡が取れるようにします。資料、テキスト、レジュメなどの配布、リアクション・ペーパーの投稿などはすべて Canvas LMS で行います。

### 参考文献 / Readings

# 入門演習 E1e

Introductory Seminars E1e

仲井眞 建一 (NAKAIMA KENICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT015  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL1310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近現代文学を研究するための基礎的な知識・方法を身につけ、論理的な文章の構築力、口頭発表をする力を養うことを目標とする。

The goal of this course is to acquire basic knowledge and methods for researching modern Japanese literature, and to cultivate the ability to construct logical sentences and give oral presentations.

## 授業の内容 / Course Contents

第1回から第4回まで、授業に参加するためのスキルについて講義形式で説明する。

具体的には、「資料・文献の検索・収集方法」「発表内容の構成の仕方」「発表資料の作り方」「口頭発表のやり方」である。

第5回からは、テキストの作品を受講者で分担し、演習形式で発表・討議を行う。

In the first through fourth sessions, we will use a lecture format to explain the skills for reading literary works as objects of research.

Specifically, how to analyze literary texts, how to research articles and other literature, how to prepare presentation materials, and how to make oral presentations.

In the fifth and subsequent sessions, students will make presentations and engage in general discussions. In the first through fourth sessions, we will use a lecture format to explain how to read literary works as objects of research (rather than book reports).

Specifically, how to analyze literary texts, how to research articles and other literature, how to prepare presentation materials, and how to make oral presentations.

In the fifth and subsequent sessions, students will make presentations and engage in general discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：講義・資料調査のやり方、まとめ方
- 3回：講義・発表資料の作り方
- 4回：口頭発表の模擬実演
- 5回：参加者による報告と討議1
- 6回：参加者による報告と討議2
- 7回：参加者による報告と討議3
- 8回：参加者による報告と討議4
- 9回：参加者による報告と討議5
- 10回：参加者による報告と討議6
- 11回：参加者による報告と討議7
- 12回：参加者による報告と討議8
- 13回：参加者による報告と討議9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・発表者は講義の内容を踏まえた上で、発表の準備を進めてもらう。作家について、同時代評および先行研究の調査、テキスト分析が、それにあたる。

・他の参加者は、授業で扱うテキストを分析した上でコメントペーパーを提出してもらう。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加:30% 発表と質疑応答の内容:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト/ Textbooks

松本和也(編著) 『テキスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』 ひつじ書房 2016  
4894768364 -

### 参考文献 / Readings

授業の中で紹介する。

# 入門演習 E2a

Introductory Seminars E2a

仲井眞 建一 (NAKAIMA KENICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT021  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL1310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近現代文学を研究するための基礎的な知識・方法を身につけ、論理的な文章の構築力、口頭発表をする力を養うことを目標とする。

The goal of this course is to acquire basic knowledge and methods for researching modern Japanese literature, and to cultivate the ability to construct logical sentences and give oral presentations.

## 授業の内容 / Course Contents

第1回から第4回まで、授業に参加するためのスキルについて講義形式で説明する。

具体的には、「資料・文献の検索・収集方法」「発表内容の構成の仕方」「発表資料の作り方」「口頭発表のやり方」である。

第5回からは、テキストの作品を受講者で分担し、演習形式で発表・討議を行う。

In the first through fourth sessions, we will use a lecture format to explain the skills for reading literary works as objects of research.

Specifically, how to analyze literary texts, how to research articles and other literature, how to prepare presentation materials, and how to make oral presentations.

In the fifth and subsequent sessions, students will make presentations and engage in general discussions. In the first through fourth sessions, we will use a lecture format to explain how to read literary works as objects of research (rather than book reports).

Specifically, how to analyze literary texts, how to research articles and other literature, how to prepare presentation materials, and how to make oral presentations.

In the fifth and subsequent sessions, students will make presentations and engage in general discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：講義・資料調査のやり方、まとめ方
- 3回：講義・発表資料の作り方
- 4回：口頭発表の模擬実演
- 5回：参加者による報告と討議1
- 6回：参加者による報告と討議2
- 7回：参加者による報告と討議3
- 8回：参加者による報告と討議4
- 9回：参加者による報告と討議5
- 10回：参加者による報告と討議6
- 11回：参加者による報告と討議7
- 12回：参加者による報告と討議8
- 13回：参加者による報告と討議9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・発表者は講義の内容を踏まえた上で、発表の準備を進めてもらう。作家について、同時代評および先行研究の調査、テキスト分析が、それにあたる。
- ・他の参加者は、授業で扱うテキストを分析した上でコメントペーパーを提出してもらう。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加:30% 発表と質疑応答の内容:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

松本和也 (編著) 『テキスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』 ひつじ書房 2016  
4894768364 -

### 参考文献 / Readings

授業の中で紹介する。

# 入門演習 E2b

Introductory Seminars E2b

戦後文学を読む (2)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT022

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

問題編成・注解・テキスト分析という観点から近代文学のテキストを読み、文学研究に関する方法と知識を学ぶとともに、論理的な文章を書く能力を身につける。

Students will read texts from recent modern literature from the perspectives of problem organization, annotation, and textual analysis, will learn methods and knowledge related to literary research, and will acquire the ability to write logical compositions.

## 授業の内容 / Course Contents

各自 (またはグループ) での発表と議論によるゼミ形式の授業を行う。毎回、発表者がレジユメを用意し、45分程度の発表を行ったあと、その内容をめぐる議論を行う。各発表者は自分の研究テーマに即したテキストを指定する。

The class will be held in seminar format, with discussions and presentations by individual students or groups. In each session, a presenter will prepare an outline and give a presentation for about 45 minutes, after which discussion of the content will take place. Each presenter will designate texts according to their own research

themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：資料の調べ方
- 3回：レジユメの作り方
- 4回：論文の書き方
- 5回：発表1
- 6回：発表2
- 7回：発表3
- 8回：発表4
- 9回：発表5
- 10回：発表6
- 11回：発表7
- 12回：発表8
- 13回：発表9
- 14回：予備日

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のレジユメに関しては、（1）同時代評、周辺言説、作者自解、先行研究などの資料、（2）テキスト内の語彙に関する注釈、（3）問題編成、（4）テキストの分析と考察、（5）結論、などを明確にし、議論の叩き台とする。演習の参加者はテキストを精読し、自分の「読み」を示すことができるようにして演習に臨むこと。ゼミでは他者への敬意をはらいつつ容赦のない相互批評を展開してもらいたい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合：40%最終テスト割合：0%

### テキスト / Textbooks

紅野敏郎（他）編 『日本近代短篇小説選 昭和篇3』 岩波文庫 2012 ○

### 参考文献 / Readings



# 入門演習 E2c

Introductory Seminars E2c

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本近現代文学を研究するための基礎となる考え方や方法を身につける。

研究するために必要な文献を調査する方法や、文献の読み方を身につける。

論理的な文章を書く力や、口頭発表をする力を養うことも目的とする。

The purpose of this class is to acquire the necessary ideas as a basis for researching modern and contemporary Japanese literature and for considering literary works as objects of study and consideration.

Learn how to find materials from previous studies and the time when the work was published, and how to read such literary materials.

This course also aims to develop the ability to write logically and to give oral presentations.

## 授業の内容 / Course Contents

第1回から第4回までは、文学作品を（読書感想文ではなく）研究の対象として読むための方法について、講義形式で説明する。

具体的には、文学テキストの分析方法、論文等文献の調査方法、発表資料の作成方法、口頭発表の方法である。

第5回以降は、履修者による発表と全体での討議を行う。

In the first through fourth sessions, we will use a lecture format to explain how to read literary works as objects of research (rather than book reports).

Specifically, how to analyze literary texts, how to research articles and other literature, how to prepare presentation materials, and how to make oral presentations.

In the fifth and subsequent sessions, students will make presentations and engage in general discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：論文の調べ方、読み方
- 3回：発表資料の構成方法
- 4回：口頭発表とレポート作成の方法
- 5回：発表と討議 1
- 6回：発表と討議 2
- 7回：発表と討議 3
- 8回：発表と討議 4
- 9回：発表と討議 5
- 10回：発表と討議 6
- 11回：発表と討議 7
- 12回：発表と討議 8
- 13回：発表と討議 9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表資料作成に充てる時間がこれに該当する。取り上げる作品に関する論文や同時代評、内容に関連する事項や、作家の伝記的事実の調査は、時間をかけるほどよい。調査を経たうえで、発表者自身がどういった問題提起や考察をするかについても、授業時間外での各自の取り組みが重要になる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表と質疑応答の内容:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合:40%

### テキスト / Textbooks

小平麻衣子 『小説は、わかってくればおもしろい』 慶應義塾大学出版会 2019 9784766425918 -

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

# 入門演習 E2d

Introductory Seminars E2d

近世擬古文を読む

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世擬古文の精読を通じて、古典籍の扱い及び基礎的な文献調査の方法を体得するとともに、古典文法の意義や近世擬古文の特色を理解する。

Through close readings of early modern pseudo-classical works, students will learn methods for approaching Japanese classical literal materials and conducting basic surveys of literature, and will understand the significance of classical grammar and the characteristics of early modern pseudo-classical works.

## 授業の内容 / Course Contents

本居宣長『玉勝間』を題材として、各種辞書や先行研究を用いて古典籍を丁寧に読解するための方法を身に付けていく。特に、高等学校までに学ぶ古典文法や語彙との差異に注目しつつ、伝統的な国語国文学研究の初歩をその内容から読みとっていく。授業では、基本事項を講義形式で伝えたのちに、章段ごとに分担者を決めて演習形式で発表を行い、全体での議論を通じて理解を深めることになる。

Taking Tamagatsuma by Motoori Norinaga as its subject, this class will use dictionaries and prior research to learn methods for carefully reading and interpreting Japanese classical literary materials. In particular, the class

will study the rudiments of traditional Japanese literature and language research from reading of its content, paying attention to differences from the classical grammar and vocabulary that students learned up through high school. After communicating basic matters in lecture format, the class will assign reading sections to participants, conduct presentations in the exercise format, and deepen students' understanding through discussions of the whole.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：資料紹介および課題の確認
- 2 回：発表見本
- 3 回：調査方法の検討
- 4 回：担当者による発表と討議（1）
- 5 回：担当者による発表と討議（2）
- 6 回：担当者による発表と討議（3）
- 7 回：担当者による発表と討議（4）
- 8 回：担当者による発表と討議（5）
- 9 回：担当者による発表と討議（6）
- 10 回：担当者による発表と討議（7）
- 11 回：担当者による発表と討議（8）
- 12 回：担当者による発表と討議（9）
- 13 回：担当者による発表と討議（10）
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の発表する箇所以外についても、発表者同様に調査して討議に臨むこと。各回の討議で見つかった課題についても、各自で解決のための方策を探して次回に臨むこと。また、「何をどのように調べたら、何がどこまで分かり、何についてはなぜ分からなかったのか」ということを明確にして臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:40% 討議への参加状況:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。また、適宜次の書物を参照することになる。必要に応じてダウンロードしたり印刷したりすること。ただし、初回に全て印刷してくるといったことは必要ない。

[https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/i05/i05\\_00034/index.html](https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/i05/i05_00034/index.html)

### 参考文献 / Readings

芳賀登 『本居宣長 読みなおす日本史』 吉川弘文館 2017 9784642067232

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

発表資料は膨大な量になりうるので、可能な限り電子媒体での閲覧が望ましい。また、その場でネット上の資

料やコメントを閲覧し合うこともある。そのため、画面の小さいスマートフォン等ではなく、PC やある程度の画面の大きさのタブレット端末を利用しながら受講できると良い。紙媒体での資料配布も、状況を見ながら適切に行っていく。

# 入門演習 E2e

Introductory Seminars E2e

『源氏物語』を読む

大竹 明香 (OHTAKE AKARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT025

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

変体仮名で書かれた物語を精読し、古典文学の研究方法の基礎的な方法と作法を習得する。

Learn the basics of classical literature research methods by reading stories written in hentaigana.

## 授業の内容 / Course Contents

『源氏物語』花宴巻を輪読し、翻刻、語釈、注釈、本文異同等を扱いながら発表する。さらに、各自の関心に沿ってテーマを設定して考察し、レポートを作成する。

Through a seminar on Hana no En of The Tale of Genji, we will do presentations on reprints, lexical glosses, interpretations, annotations, differences in the text. In addition, each person sets a theme in line with their interests, considers it, and creates a report.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンスと分担決め

2 回：変体仮名の読解、レジュメの作成、発表方法についての解説

3 回：『源氏物語』花宴巻の概説

- 4回：担当者による発表と討論1  
 5回：担当者による発表と討論2  
 6回：担当者による発表と討論3  
 7回：担当者による発表と討論4  
 8回：担当者による発表と討論5  
 9回：担当者による発表と討論6  
 10回：担当者による発表と討論7  
 11回：担当者による発表と討論8  
 12回：担当者による発表と討論9  
 13回：担当者による発表と討論10  
 14回：担当者による発表と討論11 まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『源氏物語』のあらすじや人物関係を予め把握しておくこと。

古典文法の知識が必須となるので、高校で学んだことをきちんと確認しておくこと。

発表を聞いて分からなかったことは、すぐに調べておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 各回のコメント:30% 最終レポート割合：:30%

各回のコメントは、発表に対する質問及びコメントペーパーの内容で評価する。

### テキスト / Textbooks

笠間影印叢刊行会編 『字典 かな 出典明記・改訂版』 笠間書院 1988年 9784305000002 ○

### 参考文献 / Readings

秋山虔ほか 『源氏物語（1）』 小学館 1994年 4096580201

柳井滋ほか 『源氏物語（2）』 岩波書店 2017年 9784003510162

柳井滋ほか 『源氏物語（1）』 岩波書店 1993年 4002400190

石田譲二、清水好子 『源氏物語（2）』 新潮社 1977年 9784106208195

玉上琢彌 『源氏物語評釈（2）』 角川書店 1965年

池田亀鑑 『源氏物語大成』 中央公論社 1953年

その他、基礎文献については、適宜授業内で紹介する。

### その他 / Others

受講者数により、授業計画の発表回数を変更する場合がある。

コメントペーパーの内容によっては、未提出同様の評価とする。

# 日本文学研究法

Preliminary Studies in Japanese Literature

日本語・日本文学の研究に関する方法を学ぶ

鈴木 彰／水谷 隆之／金子 明雄／家永 香織／石川 巧／平井 吾門／尾崎 名津子／藤井 嘉章  
(SUZUKI AKIRA/ MIZUTANI TAKAYUKI/ KANEKO AKIO/ IENAGA KAORI/ ISHIKAWA TAKUMI/  
HIRAI AMON /OZAKI NATSUKO /FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT091  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL1300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本語・日本文学を研究するための方法をわかりやすく、かつ幅広く解説し、日本文学専修の学生にこの後の四年間の学びの基礎となるスキルを身につけさせる。

The class will provide easily understood explanations of methods for researching Japanese language and literature, and give students the skills required for students of Course in Japanese Literature.

## 授業の内容 / Course Contents

日本とは何か、日本語・日本文学とは何か、それを学ぶことの意義やおもしろさはどこにあり、それをどのような方法で学ぶのかを幅広い観点から講義する。実際の授業は、毎回、日本文学専修の専任教員が交替で、それぞれの専門分野にかかわる講義を行う。授業の資料はその都度用意する。受講者には、毎回、コメントあるいは小レポートの提出を求める。

Lectures will take wide-ranging perspectives on the questions of what Japan is, what the Japanese language and



literature are, and where the significance and interest lie in learning about these. Actual classes will alternate each session among full-time faculty members in the Course in Japanese Literature. Materials will be prepared each time. Students will submit comments or short reports each session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：講義1
- 3回：講義2
- 4回：講義3
- 5回：講義4
- 6回：講義5
- 7回：講義6
- 8回：講義7
- 9回：講義8
- 10回：講義9
- 11回：講義10
- 12回：講義11
- 13回：講義12
- 14回：講義13

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各担当者の指示に従い、コメントまたは小レポートを作成し提出すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常点（コメント、小レポートを含む）：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートは、講義1～13のうち最も印象に残った講義で扱われた問題についての考察を求める。

### テキスト / Textbooks

資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

# 演習 E 1

## Seminars E1

『万葉集』巻11・12—問答歌をよむ—

兼岡 理恵 (KANEOKA RIE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AT101
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	JAL2310
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

- ・『万葉集』の歌ことばから、古代の人々の在り方を考える。さらにそこから現代に生きる私達の姿を見直す。
- ・本文校異・訓釈・語釈など、上代文学研究の基礎を習得する。
- ・ In this course, students will consider the way people lived in ancient times through Man'yoshu, and will also review our present-day lives from the words of the Manyoshu.
- ・ The course will also provide students with the basics of the study of ancient literature, such as the textual variants, the reading of kanji, and word annotations.

### 授業の内容 / Course Contents

『万葉集』巻11・12は「古今相聞往来歌類」と目録にある、作者未詳の相聞歌—いわゆる恋の歌—群である。この中で「問答」と分類される歌は、巻11に29首、巻12に36首。唱和形式で二人が詠み交わした歌として、原則2首で対をなす。「問」歌の表現をふまえ、「答」歌はどのように返すか。歌によることばのキャッチボールは、ある時は変化球、時には直球と、実に多彩である。

本演習ではこれら問答歌を繙くことで、『万葉集』における相聞歌の特徴、当時の恋愛観、習俗など、古代の

諸相を、歌のことばからよみ解いていく。

Man'yōshū, Volumes 11 and 12, are a group of poems by an unknown author, which are listed in the catalog as "Kokin Sōmon Orai Uta. Of these, 29 poems are classified as "kokin sōmon orai" in Vol. 11 and 36 in Vol. 12. In principle, two poems are paired together as two poems that were composed by two people in a chorus style. They are how the poet responds to the expression of the "question" poems. The catch-ball of words in the poem is very varied, sometimes with a change of pitch and sometimes with a direct pitch.

In this exercise, we will peruse these "question-and-answer(Somonka)" poems to decipher the ancient aspects of Man'yōshū such as the characteristics of "Somonka," the view of love, and customs of the time, from the words of the poems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス①（授業の進め方について・発表順について）
- 2回：ガイダンス②（万葉集について）
- 3回：学生による発表・討論①
- 4回：学生による発表・討論②
- 5回：学生による発表・討論③
- 6回：学生による発表・討論④
- 7回：学生による発表・討論⑤
- 8回：学生による発表・討論⑥
- 9回：学生による発表・討論⑦
- 10回：学生による発表・討論⑧
- 11回：学生による発表・討論⑨
- 12回：学生による発表・討論⑩
- 13回：学生による発表・討論⑪
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】当該週・発表歌の精読・研究史の整理

【復習】演習中の議論に関する補足調査

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容・レジュメについて:40% 授業への積極的参加・受講態度:30%

レポート割合：:30%

最終

### テキスト / Textbooks

- 中西進 万葉集 全訳注原文付(一) 講談社 1978 4061313827 ○  
 中西進 万葉集 全訳注原文付(二) 講談社 1980 4061313835 ○

- 中西進 万葉集 全訳注原文付(三) 講談社 1981 4061313843 ○  
中西進 万葉集 全訳注原文付(四) 講談社 1983 4061313851 ○  
中西進 万葉集事典 講談社 1985 9784061836518 ○

**参考文献 / Readings**

---

参考文献は、授業中に適宜指示する

## 演習 E 2

### Seminars E2

『万葉集』巻11・12—問答歌をよむ—

兼岡 理恵 (KANEOKA RIE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AT102
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	JAL2310
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

- ・『万葉集』の歌ことばから、古代の人々の在り方を考える。さらにそこから現代に生きる私達の姿を見直す。
- ・本文校異・訓釈・語釈など、上代文学研究の基礎を習得する。
- ・ In this course, students will consider the way people lived in ancient times through Man'yoshu, and will also review our present-day lives from the words of the Manyoshu.
- ・ The course will also provide students with the basics of the study of ancient literature, such as the textual variants, the reading of kanji, and word annotations.

### 授業の内容 / Course Contents

『万葉集』巻11・12は「古今相聞往来歌類」と目録にある、作者未詳の相聞歌—いわゆる恋の歌—群である。この中で「問答」と分類される歌は、巻11に29首、巻12に36首。唱和形式で二人が詠み交わした歌として、原則2首で対をなす。「問」歌の表現をふまえ、「答」歌はどのように返すか。歌によることばのキャッチボールは、ある時は変化球、時には直球と、実に多彩である。

本演習ではこれら問答歌を繙くことで、『万葉集』における相聞歌の特徴、当時の恋愛観、習俗など、古代の

諸相を、歌のことばからよみ解いていく。春学期からの継続だが、秋学期からの受講も歓迎する。

Man'yōshū, Volumes 11 and 12, are a group of poems by an unknown author, which are listed in the catalog as "Kokin Sōmon Orai Uta. Of these, 29 poems are classified as "kokin sōmon orai" in Vol. 11 and 36 in Vol. 12. In principle, two poems are paired together as two poems that were composed by two people in a chorus style. They are how the poet responds to the expression of the "question" poems. The catch-ball of words in the poem is very varied, sometimes with a change of pitch and sometimes with a direct pitch.

In this exercise, we will peruse these "question-and-answer(Somonka)" poems to decipher the ancient aspects of Man'yōshū such as the characteristics of "Somonka," the view of love, and customs of the time, from the words of the poems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス①（授業の進め方について・発表順について）
- 2回：ガイダンス②（万葉集について）
- 3回：学生による発表・討論①
- 4回：学生による発表・討論②
- 5回：学生による発表・討論③
- 6回：学生による発表・討論④
- 7回：学生による発表・討論⑤
- 8回：学生による発表・討論⑥
- 9回：学生による発表・討論⑦
- 10回：学生による発表・討論⑧
- 11回：学生による発表・討論⑨
- 12回：学生による発表・討論⑩
- 13回：学生による発表・討論⑪
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】当該週・発表歌の精読・研究史の整理

【復習】演習中の議論に関する補足調査

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容・レジュメについて:40% 授業への積極的参加・受講態度:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

- |     |                 |     |      |            |   |
|-----|-----------------|-----|------|------------|---|
| 中西進 | 『万葉集 全訳注原文付(一)』 | 講談社 | 1978 | 4061313827 | ○ |
| 中西進 | 『万葉集 全訳注原文付(二)』 | 講談社 | 1980 | 4061313835 | ○ |

- 中西進 『万葉集 全訳注原文付(三)』 講談社 1981 4061313843 ○  
中西進 『万葉集 全訳注原文付(四)』 講談社 1983 4061313851 ○  
中西進 『万葉集事典』 講談社 1985 9784061836518 ○

**参考文献 / Readings**

---

参考文献は、授業中に適宜指示する

## 演習 E 3

Seminars E3

松岡 智之 (MATSUOKA TOMOYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT103  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、受講者のみなさんが、『源氏物語』に注釈を付けられるようになることです。もう少し詳しくいうと、1) 古写本の文字を現代一般的な文字に翻字（ほんじ）すること、2) 翻字した文章をもとに古文であるものの現代人にとって読みやすい本文を作ること、3) 逐語訳を基本にしつつ文脈を把握しやすい現代語訳を作ること、4) 辞書・事典や既存の注釈書を参照して文中の難解語句に関するよりの確な説明をすること、5) 担当範囲の文章から深く追究する問題を設定して既存の研究論文を参照しながら解説文を作成すること。受講者のみなさんが、これらのことをできるようになることが、この授業の目標です。

The goal of this course is to be able to annotate The Tale of Genji. In more detail, students will 1) transcribe the letters in old manuscripts into contemporary letters in general usage, 2) based on the transcribed text, create a text that is easy to read for contemporary people despite its being an ancient classic, 3) create a modern language translation which makes the context easy to comprehend while being based on a word-for-word translation, 4) give more accurate explanations about phrases in the text that are difficult to understand while referring to dictionaries, encyclopedias, and existing annotated versions of the Tale, 5) set a problem for deeper research from the part of the text assigned to you and prepare a commentary on it while referring to existing research



papers. The aim of this course is to enable students to achieve the above tasks.

### 授業の内容 / Course Contents

『源氏物語』若紫巻に関する演習授業。初めの2回では、発表資料作成の方法および口頭発表の方法について授業者が解説します。第3回から第13回は、受講者のみなさんによる口頭発表、質疑応答、討論によって、『源氏物語』若紫巻の後半部を講読します。第14回では、授業全体をふり返り、総括します。

Seminar on The Tale of Genji. In the first two class meetings, the instructor will comment on the method for preparing presentation materials and the method for oral presentations. From the third to the 13th class meetings, we will read the latter half of the chapter "Wakamurasaki," The Tale of Genji through oral presentations, questions and answers, and discussions by students. In the 14th class meeting, we will look back on and summarize the entire course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：演習発表の準備方法と『源氏物語』若紫巻の概略（1）
- 2回：演習発表の準備方法と『源氏物語』若紫巻の概略（2）
- 3回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（1）
- 4回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（2）
- 5回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（3）
- 6回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（4）
- 7回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（5）
- 8回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（6）
- 9回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（7）
- 10回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（8）
- 11回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（9）
- 12回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（10）
- 13回：受講者による演習発表、質疑応答・討論（11）
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

変体仮名の判読・解読練習。工具書類（辞書・事典・索引）やデータベースの活用法の復習。各回の授業内容の復習。演習発表の準備、学期末レポートの作成。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表の内容:35% 質疑応答・討論の発言:35% 期末レポート:30%

### テキスト / Textbooks

各回の授業資料を「Canvas LMS」にアップロードします。履修者のみなさんは、各自でプリントアウトするか、ノートPCやタブレットなどのモバイル機器で見られるようにして、教場にご出席ください。

### 参考文献 / Readings

藤本孝一編 『定家本源氏物語 若紫』 八木書店出版部 2020 9784840697705

原岡文子 『源氏物語』に仕掛けられた謎 「若紫」からのメッセージ 角川学芸出版 2008  
9784047021419

河添房江・松本大 編 『源氏物語を読むための25章』 武蔵野書院 2023 9784838610099

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

必要に応じて、ノートPC・タブレットなど

**その他 / Others**

出欠確認は、毎回行います

## 演習 E 4

Seminars E4

『源氏物語』を読む

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

注釈書を比べたり、諸本における本文の違いを比べたりしながら、『源氏物語』への理解を深めます。

Students will deepen their understanding of Genji Monogatari by comparing the annotations and the differences in the texts of the books.

### 授業の内容 / Course Contents

注釈がどのように違うのか、本文のちょっとした違いがどのような微妙なニュアンスの違いを生むのか、言葉がどのような意味で使われているのかなど、さまざまな問題を考えます。

本演習では、分担箇所についてのレジюмеを作成して発表してもらいます。

The course will consider how the annotations differ, how minor differences in texts lead to minor differences in nuance, what the words mean, and other issues.

In this exercise, students will be asked to create and present a resume about the areas to be shared.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス（1）－発表の順番と分担、参考文献など

- 2回：ガイダンス（2）－レジユメの作り方など  
 3回：ガイダンス（3）－発表のやり方など  
 4回：学生による発表（1）  
 5回：学生による発表（2）  
 6回：学生による発表（3）  
 7回：学生による発表（4）  
 8回：学生による発表（5）  
 9回：学生による発表（6）  
 10回：学生による発表（7）  
 11回：学生による発表（8）  
 12回：学生による発表（9）  
 13回：学生による発表（10）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に『源氏物語』の全体像を把握しておくこと。

取り上げる巻についての概略や人物関係などを把握しておくこと。

自分の分担する箇所についてレジユメを作成するのはもちろんのこと、他の学生の発表箇所についても予習・復習をすること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への参加態度:28% 最終レポート割合 :32%

#### テキスト / Textbooks

プリントを使います。

#### 参考文献 / Readings

適宜紹介します。

## 演習 E 5

Seminars E5

お伽草子の世界

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中世から近世にかけて広く読み継がれたお伽草子を取りあげ、一つ一つの表現を玩味しながら物語世界をていねいに読み解き、その魅力を理解する。

The course will take up representative chapters of Otogi zoshi, a work that has been read since the Middle Ages. Students will carefully read and interpret the narrative world of the work while treasuring each expression, and will gain understanding of the characteristics of the work.

### 授業の内容 / Course Contents

はじめにお伽草子について概説し、演習の進め方について説明する。その後、担当者を決め、発表と質疑応答を重ねていく。担当者は、注釈書や先行研究を参照し、それを踏まえながら、表現の特質、物語の構造、諸本の違い、挿絵と本文の関係、物語を生み出しはぐくんだ環境、後世への影響などについて、それぞれの観点から分析と調査を進めて発表する。参加者全員でていねいに読解していくことによって、物語のさまざまな魅力を掘り起こしていくつもりである。なお、演習 E6 とは扱う作品・発表の方法・討論の内容などの点で異なるものとなる。

The course will first provide an outline of Otogi zoshi and explain how the seminar will proceed. Following this, seminar leaders will be determined, and presentations and question and answer sessions will take place. Using annotations and prior research as references, seminar leaders will analyze, investigate, and make presentations on characteristics of expression, the structure of the story, the differences among books, the relation between the body of text and book illustrations, the environment that gave birth to the tale, and influences on later generations, from the respective viewpoints of each. Through careful reading by all participants, the course aims to unearth the many attractions of the story.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：共通課題の確認，発表方法等の指示
- 2 回：お伽草子概説。関係資料の説明等。
- 3 回：担当者による発表と討論 1
- 4 回：担当者による発表と討論 2
- 5 回：担当者による発表と討論 3
- 6 回：担当者による発表と討論 4
- 7 回：担当者による発表と討論 5
- 8 回：担当者による発表と討論 6
- 9 回：担当者による発表と討論 7
- 10 回：担当者による発表と討論 8
- 11 回：担当者による発表と討論 9
- 12 回：担当者による発表と討論 1 0
- 13 回：担当者による発表と討論 1 1
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う話を事前に下読みし，疑問点などを整理してくること。

発表・レポート作成のための準備は時間がかかるので，できるだけ早く始めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表の内容:40% 質疑応答と各回のコメント:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

市古貞次校注 『御伽草子』上・下（岩波文庫） 岩波書店 1985 1986 4003012615 4003012623 ○

### 参考文献 / Readings

徳田和夫編 『お伽草子事典』 東京堂出版 2002 4490106092

その他は授業の中で随時紹介する。

### その他 / Others

発表は個人発表の形で行う。受講生は，発表を踏まえた質疑応答に積極的に加わること。

## 演習 E 6

Seminars E6

お伽草子の世界

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中世から近世にかけて広く読み継がれたお伽草子を取りあげ、一つ一つの表現を玩味しながら物語世界をていねいに読み解き、その魅力を理解する。

The course will take up representative chapters of Otogi zoshi, a work that has been read since the Middle Ages. Students will carefully read and interpret the narrative world of the work while treasuring each expression, and will gain understanding of the characteristics of the work.

### 授業の内容 / Course Contents

はじめにお伽草子について概説し、演習の進め方について説明する。その後、担当者を決め、発表と質疑応答を重ねていく。担当者は、注釈書や先行研究を参照し、それを踏まえながら、表現の特質、物語の構造、諸本の違い、挿絵と本文の関係、物語を生み出しはぐくんだ環境、後世への影響などについて、それぞれの観点から分析と調査を進めて発表する。参加者全員でていねいに読解していくことによって、物語のさまざまな魅力を掘り起こしていくつもりである。なお、演習 E5 とは扱う作品・発表の方法・討論の内容などの点で異なるものとなる。

The course will first provide an outline of Otogi zoshi and explain how the seminar will proceed. Following this, seminar leaders will be determined, and presentations and question and answer sessions will take place. Using annotations and prior research as references, seminar leaders will analyze, investigate, and make presentations on characteristics of expression, the structure of the story, the differences among books, the relation between the body of text and book illustrations, the environment that gave birth to the tale, and influences on later generations, from the respective viewpoints of each. Through careful reading by all participants, the course aims to unearth the many attractions of the story.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：共通課題の確認，発表方法等の指示
- 2回：お伽草子概説。関係資料の説明等。
- 3回：担当者による発表と討論1
- 4回：担当者による発表と討論2
- 5回：担当者による発表と討論3
- 6回：担当者による発表と討論4
- 7回：担当者による発表と討論5
- 8回：担当者による発表と討論6
- 9回：担当者による発表と討論7
- 10回：担当者による発表と討論8
- 11回：担当者による発表と討論9
- 12回：担当者による発表と討論10
- 13回：担当者による発表と討論11
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う話を事前に下読みし，疑問点などを整理してくること。

発表・レポート作成のための準備は時間がかかるので，できるだけ早く始めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表の内容:40% 質疑応答と各回のコメント:30% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

市古貞次校注 『御伽草子』上・下（岩波文庫） 岩波書店 1985 1986 4003012615 4003012623 ○

### 参考文献 / Readings

徳田和夫編 『お伽草子事典』 東京堂出版 2002 4490106092

その他は授業の中で随時紹介する。

### その他 / Others

発表は個人発表の形で行う。受講生は，発表を踏まえた質疑応答に積極的に加わること。



## 演習 E7

### Seminars E7

『和泉式部日記』を精読する

橋本 ゆかり (HASHIMOTO YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT107  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

平安時代を代表する作品『和泉式部日記』からいくつかの場面を取り上げ精読することで、平安文学・文化の特質を知る。古典文学の読解の方法を学び、調査・研究した結果を発表する力を養う。

Students learn about the characteristics of Heian literature and culture by carefully reading several scenes from "Izumi Shikibu Diary", a work representative of the Heian period. Students learn how to read classical literature and develop the ability to present the results of their research.

### 授業の内容 / Course Contents

『和泉式部日記』を、注釈書のさまざまな読みを比較検討しながら精読する。『和泉式部日記』は、和泉式部がスキャンダルとして噂された敦道親王との恋を、自らが語る日記である。初回に『和泉式部』について概説し、演習の進め方について説明する。その後、担当者を決め、発表と質疑応答を重ねた授業を行っていく。発表担当者は諸注釈や先行研究を参考にしながら、担当箇所だけでなく、その箇所が作品のなかでどのように位置づけられるのかを考えながら、各自が取り上げる場面の解釈の問題点をあげて、その場面をどう読むのかを報告する。他のテキストや歴史との関わりや、歌についてなど多角的視野から分析調査する。参加者全員ので

いねいな読解によって、『和泉式部日記』の表現世界に迫る。

The class will engage in careful reading "Izumi Shikibu Diary", comparing and considering readings of representative modern-day annotations. The first session will present an outline of "Izumi Shikibu Diary", then explain how the seminar will proceed. Following that, class leaders will be decided, and the class will proceed through presentations and questions and answers. Making reference to annotations and prior research, the presentation leaders will consider not only the parts of the text under their charge but also how those parts are positioned within the work. They will raise problem areas in the interpretation of the scenes they take up, and will report on how to read the scenes. Analysis and investigation will adopt multifaceted standpoints, including relationships with other texts and with history. Through careful reading by all of the participants, the class will approach the world of expression in "Izumi Shikibu Diary".

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 『和泉式部日記』概説 発表・調査方法等の指示
- 2回：発表・調査の方法
- 3回：担当者による発表と討論1
- 4回：担当者による発表と討論2
- 5回：担当者による発表と討論3
- 6回：担当者による発表と討論4
- 7回：担当者による発表と討論5
- 8回：担当者による発表と討論6
- 9回：担当者による発表と討論7
- 10回：担当者による発表と討論8
- 11回：担当者による発表と討論9
- 12回：担当者による発表と討論10
- 13回：ふりかえり
- 14回：春学期まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『和泉式部日記』全体を読んでおくこと。

各回で扱う場面を事前に下読みし、疑問点などを整理してこること。

発表・レポート作成のための準備は時間がかかるので、できるだけ早く準備を始めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 発表:30% 質疑などへの貢献度:20%

### テキスト / Textbooks

近藤みゆき 訳注 『和泉式部日記』 角川ソフィア文庫 2003 9784043699018 ○

適宜プリントも配布する。

なお、大学の図書館でジャパンナレッジにより新編日本古典文学全集『和泉式部日記』を見ることができます。

予習復習、発表準備などの際に、大いに活用してください。

### 参考文献 / Readings

---

授業時に指示する。

## 演習 E 8

### Seminars E8

『和泉式部日記』を精読する

橋本 ゆかり (HASHIMOTO YUKARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

平安時代を代表する作品『和泉式部日記』からいくつかの場面を取り上げ精読することで、平安文学・文化の特質を知る。古典文学の読解の方法を学び、調査・研究した結果を発表する力を養う。

Students learn about the characteristics of Heian literature and culture by carefully reading several scenes from "Izumi Shikibu Diary", a work representative of the Heian period. Students learn how to read classical literature and develop the ability to present the results of their research.

### 授業の内容 / Course Contents

『和泉式部日記』を、注釈書のさまざまな読みを比較検討しながら精読する。『和泉式部日記』は、和泉式部が噂された敦道親王との恋を、自らが語る日記である。初回に『和泉式部』について概説し、演習の進め方について説明する。その後、担当者を決め、発表と質疑応答を重ねた授業を行っていく。発表担当者は諸注釈や先行研究を参考にしながら、担当箇所だけでなく、その箇所が作品のなかでどのように位置づけられるのかを考えながら、各自が取り上げる場面の解釈の問題点をあげて、その場面をどう読むのかを報告する。他のテキストや歴史との関わりや、歌についてなど多角的視野から分析調査する。参加者全員のていねいな読解によっ

て、『和泉式部日記』の表現世界に迫る。

The class will engage in careful reading "Izumi Shikibu Diary", comparing and considering readings of representative modern-day annotations. The first session will present an outline of "Izumi Shikibu Diary", then explain how the seminar will proceed. Following that, class leaders will be decided, and the class will proceed through presentations and questions and answers. Making reference to annotations and prior research, the presentation leaders will consider not only the parts of the text under their charge but also how those parts are positioned within the work. They will raise problem areas in the interpretation of the scenes they take up, and will report on how to read the scenes. Analysis and investigation will adopt multifaceted standpoints, including relationships with other texts and with history. Through careful reading by all of the participants, the class will approach the world of expression in "Izumi Shikibu Diary".

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 『和泉式部日記』概説 発表・調査方法等の指示
- 2回：発表・調査の方法
- 3回：担当者による発表と討論1
- 4回：担当者による発表と討論2
- 5回：担当者による発表と討論3
- 6回：担当者による発表と討論4
- 7回：担当者による発表と討論5
- 8回：担当者による発表と討論6
- 9回：担当者による発表と討論7
- 10回：担当者による発表と討論8
- 11回：担当者による発表と討論9
- 12回：担当者による発表と討論10
- 13回：ふりかえり
- 14回：春学期まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 『和泉式部日記』全体を読んでおくこと。
- 各回で扱う場面を事前に下読みし、疑問点などを整理してこること。
- 発表・レポート作成のための準備は時間がかかるので、できるだけ早く準備を始めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

- レポート試験 :50%
- 平常点割合 :50% 発表:30% 質疑などへの貢献度:20%

### テキスト / Textbooks

近藤みゆき 訳注 『和泉式部日記』 角川ソフィア文庫 2003 9784043699018 ○

適宜プリントも配布する。

なお、大学の図書館でジャパンナレッジにより新編日本古典文学全集『和泉式部日記』を見ることができます。

予習復習、発表準備などの際に、大いに活用してください。

### 参考文献 / Readings

---

授業時に指示する。

## 演習 E9

### Seminars E9

『後撰和歌集』の贈答歌を読む

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

『後撰和歌集』（『後撰集』）は、『古今和歌集』に続く第二勅撰集である。同集は、四季部にも人事詠が多い、女流歌人の歌の割合が高い、歌物語のような詞書が見られるなど特異な性格を持つ。なかでも贈答歌の多さは他の勅撰集を圧倒している。本演習は、『後撰集』恋部の贈答歌を精読することにより、貴族社会における社交の道具としての和歌のあり方を理解することを目標とする。また、資料の使い方、読解の方法など、和歌研究の技術を身に付けることを目指す。

"Gosen-wakashu" ("Gosen-shu") is the second imperial anthology following "Kokin-wakashu". "Gosen-shu" is unique in that it contains many personnel poems in the seasonal section, a high proportion of poems by female poets, and captions that resemble poetry tales. In particular, the number of gift poems is overwhelmingly greater than in other imperial anthologies. The aim of this exercise is to understand the role of waka poetry as a tool for social interaction in aristocratic society through a close reading of the gift poems in the love section of "Gosen-shu". It also aims to develop skills in the study of waka poetry, such as the use of materials and methods of reading.

**授業の内容 / Course Contents**

初回と2回目に作品の概要と調査・発表の方法を説明する。3回目以降は、担当者による発表と全員での討議を行う。『後撰集』は古注釈を含め複数の注釈書があり研究も多い。発表者は、それらを参照しつつ、自分なりの問題意識を持って担当箇所を分析・解釈して発表する。全体での討議を通して、読解を深めていきたい。

The first and second sessions provide an overview of the work and the methods of research and presentation. From the third session onwards, presentations will be made by the person in charge and discussed by all. There are a number of commentaries and studies on "Gosen-shu", including ancient commentaries. The presenters will present their analyses and interpretations of their assigned passages with their own awareness of the issues while referring to these commentaries. Through discussion in the whole group, we would like to deepen the reading comprehension.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：『後撰和歌集』の概要
- 2回：調査・発表の方法
- 3回：担当者による発表と討議1
- 4回：担当者による発表と討議2
- 5回：担当者による発表と討議3
- 6回：担当者による発表と討議4
- 7回：担当者による発表と討議5
- 8回：担当者による発表と討議6
- 9回：担当者による発表と討議7
- 10回：担当者による発表と討議8
- 11回：担当者による発表と討議9
- 12回：担当者による発表と討議10
- 13回：担当者による発表と討議11
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

自分の担当回以外でも、毎回下読みを行い問題意識をもって授業に参加すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 討論への貢献度・ディスカッションへのコメント投稿:30% 最終レポート割合：30%

**テキスト / Textbooks**

テキストは用いない。



### 参考文献 / Readings

---

初回の授業で参考文献一覧を配布する。

### その他 / Others

---

授業は原則として対面による演習形式で行う。発表資料やコメントの提出、レポート課題の提示などに「Canvas LMS」を利用する。

# 演習 E10

## Seminars E10

『後撰和歌集』の贈答歌を読む

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

『後撰和歌集』は、『古今和歌集』に続く第二勅撰集である。同集は、四季部にも人事詠が多い、女流歌人の歌の割合が高い、歌物語のような詞書が見られるなど特異な性格を持つ。なかでも贈答歌の多さは他の勅撰集を圧倒している。本演習は、『後撰集』雑部の贈答歌を精読することにより、貴族社会における社交の道具としての和歌のあり方を理解することを目標とする。また、資料の使い方、読解の方法など、和歌研究の技術を身に付けることを目指す。

"Gosen-wakashu" ("Gosen-shu") is the second imperial anthology following "Kokin-wakashu". "Gosen-shu" is unique in that it contains many personnel poems in the seasonal section, a high proportion of poems by female poets, and captions that resemble poetry tales. In particular, the number of gift poems is overwhelmingly greater than in other imperial anthologies. The aim of this exercise is to understand the role of waka poetry as a tool for social interaction in aristocratic society through a close reading of the gift poems in the miscellaneous section of "Gosen-shu". It also aims to develop skills in the study of waka poetry, such as the use of materials and methods of reading.

**授業の内容 / Course Contents**

初回と2回目に作品の概要と調査・発表の方法を説明する。3回目以降は、担当者による発表と全員での討議を行う。『後撰集』は古注釈を含め複数の注釈書があり研究も多い。発表者は、それらを参照しつつ、自分なりの問題意識を持って担当箇所を分析・解釈して発表する。全体での討議を通して、読解を深めていきたい。

The first and second sessions provide an overview of the work and the methods of research and presentation. From the third session onwards, presentations will be made by the person in charge and discussed by all. There are a number of commentaries and studies on "Gosen-shu", including ancient commentaries. The presenters will present their analyses and interpretations of their assigned passages with their own awareness of the issues while referring to these commentaries. Through discussion in the whole group, we would like to deepen the reading comprehension.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：『後撰和歌集』の概要
- 2回：調査・発表の方法
- 3回：担当者による発表と討議1
- 4回：担当者による発表と討議2
- 5回：担当者による発表と討議3
- 6回：担当者による発表と討議4
- 7回：担当者による発表と討議5
- 8回：担当者による発表と討議6
- 9回：担当者による発表と討議7
- 10回：担当者による発表と討議8
- 11回：担当者による発表と討議9
- 12回：担当者による発表と討議10
- 13回：担当者による発表と討議11
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

自分の担当回以外でも、毎回下読みを行い問題意識をもって授業に参加すること。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 討論への貢献度・ディスカッションへのコメント投稿:30% 最終レポート割合 :30%

**テキスト/ Textbooks**

テキストは用いない。

**参考文献 / Readings**

初回の授業で参考文献一覧を配布する。

### **その他/ Others**

授業は原則として対面による演習形式で行う。発表資料やコメントの提出、レポート課題の提示などに「Canvas LMS」を利用する。

# 演習 E11

Seminars E11

『好色大神楽』を読む

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

浮世草子の読解を通して、近世文学の特徴を把握し、研究の方法を身につけるとともに、当時の文化や風俗についての理解を深めることが目標です。

Through the reading of Ukiyo-soshi, the goal is to grasp the characteristics of early modern literature, to acquire research methods, and to deepen understanding of the culture and customs of the time.

## 授業の内容 / Course Contents

好色物浮世草子『好色大神楽』（増田円水作か、貞享5年（1688）正月刊）を輪読形式で精読します。毎回発表担当を決めて発表と質疑を行います。発表者は、本文を翻刻して語釈を施し、典拠や当時の文化風俗等の調査を行います。西鶴浮世草子をはじめとする他作品との関係についての検討も必要となります。

We will read "Koshoku Daikagura," an Ukiyo Zoshi by Masuda Ensui, published in 1688. The presenter will give a presentation and answer questions. Presenters will translate and annotate the text, and conduct research on the sources and cultural customs of the time. The relationship between the text and other works, such as Saikaku's Ukiyo Zoshi, will also be discussed.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：はじめに（授業の進め方、成績評価の方法など）  
 2回：近世文学研究の方法について（資料の集め方、調査分析の方法など）－講義  
 3回：学生発表（1）  
 4回：学生発表（2）  
 5回：学生発表（3）  
 6回：学生発表（4）  
 7回：学生発表（5）  
 8回：学生発表（6）  
 9回：学生発表（7）  
 10回：学生発表（8）  
 11回：学生発表（9）  
 12回：学生発表（10）  
 13回：学生発表（11）  
 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に適宜指示します。学生発表では毎回受講者による質疑応答を行うので、事前に全員必ず作品を読んできてください。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:40% 受講態度:20% 最終レポート割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

笠間影印叢刊行会 『字典かな-出典明記・改訂版』 笠間書院 1994 9784305000002 ○

授業時にプリントを配布します。

**参考文献 / Readings**

授業時に適宜指示します。

## 演習 E12

Seminars E12

『好色大神楽』を読む

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

浮世草子の読解を通して、近世文学の特徴を把握し、研究の方法を身につけるとともに、当時の文化や風俗についての理解を深めることが目標です。

Through the reading of Ukiyo-soshi, the goal is to grasp the characteristics of early modern literature, to acquire research methods, and to deepen understanding of the culture and customs of the time.

### 授業の内容 / Course Contents

好色物浮世草子『好色大神楽』（増田円水作か、貞享5年（1688）正月刊）を輪読形式で精読します。毎回発表担当を決めて発表と質疑を行います。発表者は、本文を翻刻して語釈を施し、典拠や当時の文化風俗等の調査を行います。西鶴浮世草子をはじめとする他作品との関係についての検討も必要となります。

We will read "Koshoku Daikagura," an Ukiyo Zoshi by Masuda Ensui, published in 1688. The presenter will give a presentation and answer questions. Presenters will translate and annotate the text, and conduct research on the sources and cultural customs of the time. The relationship between the text and other works, such as Saikaku's Ukiyo Zoshi, will also be discussed.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：はじめに（授業の進め方、成績評価の方法など）  
 2回：近世文学研究の方法について（資料の集め方、調査分析の方法など）－講義  
 3回：学生発表（1）  
 4回：学生発表（2）  
 5回：学生発表（3）  
 6回：学生発表（4）  
 7回：学生発表（5）  
 8回：学生発表（6）  
 9回：学生発表（7）  
 10回：学生発表（8）  
 11回：学生発表（9）  
 12回：学生発表（10）  
 13回：学生発表（11）  
 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に適宜指示します。学生発表では毎回受講者による質疑応答を行うので、事前に全員必ず作品を読んできてください。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:40% 受講態度:20% 最終レポート割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

笠間影印叢刊行会 『字典かな-出典明記・改訂版』 笠間書院 1994 9784305000002 ○

授業時にプリントを配布します。

**参考文献 / Readings**

授業時に適宜指示します。



## 演習 E13

Seminars E13

荻生徂徠の漢詩精読

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT113  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

近世日本古文辞学派の領袖である荻生徂徠の作った漢詩を、近体詩のルール・古代中国語の語法・表現の典拠を踏まえて分析する能力を養う。

Develop the ability to analyze the Chinese poetry composed by Ogyu Sorai, the leader of the learning of ancient texts and words in the early modern Japan, based on the rules of modern style poetry, ancient Chinese language, and the authority of the expression.

### 授業の内容 / Course Contents

日本古文辞学派の文学的・思想的な意義を概観した上で、その領袖である荻生徂徠の作詩に関して学生が分析、発表し、全体での質疑応答、ディスカッションを行う。

After an overview of the literary and ideological significance of the learning of ancient texts and words in the early modern Japan, students will analyze and present on the poetry of its leader, Ogyu Sorai, followed by a question-and-answer session and discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 授業概要と評価の方法
- 2回：発表方法の指南
- 3回：古文辞学派と荻生徂徠
- 4回：学生発表と質疑応答①
- 5回：学生発表と質疑応答②
- 6回：学生発表と質疑応答③
- 7回：学生発表と質疑応答④
- 8回：学生発表と質疑応答⑤
- 9回：学生発表と質疑応答⑥
- 10回：学生発表と質疑応答⑦
- 11回：学生発表と質疑応答⑧
- 12回：学生発表と質疑応答⑨
- 13回：学生発表と質疑応答⑩
- 14回：全体のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回担当者を決めて発表していただきますが、担当者以外の学生も当該授業で読む範囲をしっかりと予習しておき、議論に参加する準備をすることが求められます。

発表後は、演習内での指摘を踏まえて、発表レジュメをブラッシュアップして、最終レポートに備えてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備:40% 議論への参加:40% 最終レポート割合：:20%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

小川環樹 『唐詩概説』 岩波書店 2005 9784003810910

狩野直喜 『漢文研究法: 中国学入門講義』 平凡社 2018 9784582808902

## 演習 E14

Seminars E14

荻生徂徠の漢詩精読

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT114  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

近世日本古文辞学派の領袖である荻生徂徠の作った漢詩を、近体詩のルール・古代中国語の語法・表現の典拠を踏まえて分析する能力を養う。

Develop the ability to analyze the Chinese poetry composed by Ogyu Sorai, the leader of the learning of ancient texts and words in the early modern Japan, based on the rules of modern style poetry, ancient Chinese language, and the authority of the expression.

### 授業の内容 / Course Contents

日本古文辞学派の文学的・思想的な意義を概観した上で、その領袖である荻生徂徠の作詩に関して学生が分析、発表し、全体での質疑応答、ディスカッションを行う。

After an overview of the literary and ideological significance of the learning of ancient texts and words in the early modern Japan, students will analyze and present on the poetry of its leader, Ogyu Sorai, followed by a question-and-answer session and discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 授業概要と評価の方法
- 2回：発表方法の指南
- 3回：古文辞学派と荻生徂徠
- 4回：学生発表と質疑応答①
- 5回：学生発表と質疑応答②
- 6回：学生発表と質疑応答③
- 7回：学生発表と質疑応答④
- 8回：学生発表と質疑応答⑤
- 9回：学生発表と質疑応答⑥
- 10回：学生発表と質疑応答⑦
- 11回：学生発表と質疑応答⑧
- 12回：学生発表と質疑応答⑨
- 13回：学生発表と質疑応答⑩
- 14回：全体のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回担当者を決めて発表していただきますが、担当者以外の学生も当該授業で読む範囲をしっかりと予習しておき、議論に参加する準備をすることが求められます。

発表後は、演習内での指摘を踏まえて、発表レジュメをブラッシュアップして、最終レポートに備えてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備:40% 議論への参加:40% 最終レポート割合：:20%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

小川環樹 『唐詩概説』 岩波書店 2005 9784003810910

狩野直喜 『漢文研究法: 中国学入門講義』 平凡社 2018 9784582808902

## 演習 E15

Seminars E15

日本語史の概論を組み立てる

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、日本語の歴史（日本語史・国語史）の概論を組み立てるのに必要な視点を持ち、様々な日本語史についての概説書を相対化することができるようになることである。また、大学の概論の授業がどのように組み立てられているのかを考察することで、基礎的に学ぶべきポイントへの理解を深めるにつもつながる。

The goal of this course is to provide students with the perspective necessary to construct an overview of the history of the Japanese language and to be able to relativize various overviews of the history of the Japanese language. It will also help students to deepen their understanding of the basic points to be learned by examining how university overview courses are organized.

### 授業の内容 / Course Contents

別途開講されている「日本語学概論2」で扱っているような、日本語史に関する全14回の概論の講義を組み立てることを通じて、数多くある情報の中から、初学者に対して必要な情報を整理するとともに、最先端の学術的議論に対応していない通説の類に対して、情報の更新を進めていきます。基本的に「音韻史」「文字史」「文法史」といったテーマ史に関してそれぞれ検討を進めていきますが、通史や国語学史の扱いをどうするかとい

ったことも併せて考えていきます。

具体的には、「日本語の歴史」「日本語史」といったタイトルを冠する概説書類を中心として、種々の概説的な記述を網羅的に集めるとともに整理し、情報を増訂・更新した上で、与えられた時間（1コマ100分×14回）の中で初学者向けにどのような事項をどのようにまとめれば良いのかを検討していきます。その際に、用例やイラスト、図表、資料などについても、工夫して討議していきます。

受講人数にもよりますが、「日本語学概論2」の講義計画をたたき台としつつ、最初に全14回の内訳を話し合ったうえで、扱うテーマをまず決めるところから始まります。時間に余裕があれば、実際に学生や教員が模擬授業をすることもあります。

Through the organization of a total of 14 overview lectures on the history of the Japanese language, such as those in the separately offered "Introduction to Japanese Linguistics 2," we will organize the necessary information for beginning students from among the numerous information available, and update the information for those common theories that do not correspond to the latest scholarly discussions. Basically, we will examine the thematic histories of "phonological history," "history of letters," "history of grammar," and so on, respectively, but we will also consider how to handle general history and the history of Japanese linguistics.

Specifically, we will comprehensively collect and organize a variety of general descriptions, focusing on overview documents with titles such as "History of the Japanese Language" revise and update the information, and consider what matters should be summarized and how for beginning students in the allotted time (100 minutes per session x 14 sessions). In doing so, we will consider how to summarize the information for beginners in the allotted time (14 sessions of 100 minutes each). We will also discuss and devise examples, illustrations, charts, and other materials.

Depending on the number of students, we will start by discussing the breakdown of the 14 sessions, using the lecture plan for "Introduction to Japanese Linguistics 2" as a starting point, and then decide on the topics to be covered. If there is enough time, students and faculty may actually conduct a mock class.

It is preferable that students have already taken a course on the history of the Japanese language or "Introduction to Japanese Linguistics," but it is sufficient if they have read at least one overview book on the history of the Japanese language before taking the course.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：全体での討議（1）
- 3回：全体での討議（2）
- 4回：学生による発表（1）
- 5回：学生による発表（2）
- 6回：学生による発表（3）
- 7回：学生による発表（4）
- 8回：学生による発表（5）
- 9回：学生による発表（6）
- 10回：学生による発表（7）
- 11回：学生による発表（8）
- 12回：学生による発表（9）
- 13回：学生による発表（10）

14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

予復習として、複数の概説書 (の中で担当する分野) を読み比べ、「自分であればこのような情報が所学者向けに欲しい」という観点で情報の取捨選択をしてください。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 討議への参加:30% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

山口仲美 『日本語の歴史』 岩波書店 2006 9784004310181

岡崎友子、森勇太 『ワークブック 日本語の歴史』 くろしお出版 2016 9784874247068

田中牧郎、鴻野知暁他 『日本語の歴史 (コーパスで学ぶ日本語学)』 朝倉書店 2020 9784254516548

近藤泰弘、月本雅幸、杉浦克己 『日本語の歴史〔新訂〕』 放送大学教育振興会 2005 9784595305474

沖森卓也、陳力衛、肥爪周二、山本慎吾 『日本語史概説』 朝倉書店 2010 9784254515220

日本語学会編 『日本語学大辞典』 東京堂出版 2018 9784490109009

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

受講生は、すでに日本語史を扱った授業や「日本語学概論」を受講していることが望ましくはありますが、日本語史に関する概説書の類 (参考文献覧参照) を一つでも読んでいれば十分対応可能です。基礎事項は、履修者の状況に応じて適宜解説していきます。

# 演習 E16

Seminars E16

国語辞書に関する特定のテーマの講義を構築する

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

国語辞書の魅力を体感しつつ、学術的な考察対象としての意義を理解すること。また、学術的考察を大学生向けの講義に落とし込む中で、どのような工夫があり得るのか考えることを通して、既存の学術論文や一般向けの書籍などを批判的に検討できるようになること。

The purpose of this course is to experience the appeal of Japanese dictionaries and to understand their significance as objects of academic consideration. In addition, through thinking about possible innovations in incorporating academic considerations into lectures for university students, students will be able to critically examine existing academic articles and books for the general public.

## 授業の内容 / Course Contents

国語辞書は時代時代の叡智の結晶でもあり、多くの人が趣味の範囲を超えて興味関心を抱いてきた対象でもあります。学術的には、辞書学や語彙論で多くの議論が展開される対象であり、歴史的な辞書の読解や実態解明、他の辞書への影響関係なども多くのことが明らかにされています。現代国語辞書については、教育現場における使用方法や編纂者の立場からの論考が多く行われており、販促活動とも相俟って各種イベントなども企



画・実行されています。国語辞書を対象とした一般向けの書籍も数多く出版されており、インターネット上では国語辞書に関する多様な情報発信が行われています。それらの中には学術性に欠けるものも無いではありませんが、電子辞書との関わりやAIの利用の仕方など様々な観点から、シンポジウム等での情報共有・議論にもつながっているものがあります。

国語辞書を用いた情報発信には、小説やそれをもとにした映像メディアの展開も含めて、多くの情報発信が行われていますが、改めて学術的にどのようなことが考えられるのか、ということを考えてみたいと思います。そのために、まずは現状を学術性の観点から整理するとともに、それをもとに、「国語辞書（現代のものや過去のものも含むすべて）を用いてどのような授業展開があり得るか、を考えていくのが主眼です。

受講者は、国語辞書に関する学術的テーマを決めて、それを100分×14回の大学での講義（文学講義341などを想定）の内容に昇華させる際の資料について考察することが求められます。どのような説明や資料提示が必要になるか、何があれば分かりやすくなるか、分かりやすいだけでなく学術的正確性をどう担保するか、といったことを議論していきます。

もちろん、ある程度のエンタメ性を追求することも大切になる分野であるため、状況によっては「プ」の付くキャラクターに特化した国語辞書を全14回で作り上げるといった講義も可能になるでしょう。全体での方向性を議論したのちに、個々のテーマについて話し合うことを考えています。

この演習を受講者には、翌年の関連講義を受講する義務は一切生じませんが、どんなに奇抜な内容でも学術性が担保される限り、最終的な授業案は（部分的であっても）翌年に実施したいと考えています。

Japanese-language dictionaries are the crystallization of the wisdom of the times and are a subject that has held the interest of many people beyond the scope of a hobby. Academically, it is the subject of much discussion in lexicology and lexicology, and much has been revealed about the reading of historical dictionaries, clarification of their actual conditions, and their influence on other dictionaries. As for modern Japanese dictionaries, many discussions have been conducted on their use in educational settings and from the standpoint of compilers, and various events are planned and executed in conjunction with sales promotion activities. Many books for the general public on Japanese dictionaries have also been published, and a variety of information on Japanese dictionaries is disseminated on the Internet. Although some of them are not academic in nature, some of them have led to information sharing and discussions at symposiums and other events from various perspectives, such as the relationship with electronic dictionaries and how to use AI.

Although there has been much information dissemination using Japanese-language dictionaries, including novels and the development of visual media based on them, we would like to consider again what is possible from an academic perspective. To this end, the main focus is to first organize the current situation from the perspective of academics and, based on this, to consider what kind of class developments are possible using Japanese-language dictionaries (all of them, including modern and past ones).

Students will be asked to determine an academic theme related to Japanese dictionaries and to consider the materials used to sublimate it into the content of 14 x 100-minute university lectures (assuming Literature Lecture 341, etc.). We will discuss what kind of explanations and presentation of materials will be necessary, what will make it easier to understand, and how to ensure not only clarity but also academic accuracy.

Of course, it is also important to pursue a certain degree of entertainment value in this field, so depending on the situation, it may be possible to create a Japanese dictionary specialized for words with "pre" or "cure" in a total of 14 lectures. After discussing the overall direction of the course, we will discuss individual topics.

Although there is no obligation for those who attend this seminar to attend the relevant lecture the following year, we would like to implement the final lesson plans the following year, as long as the academic nature of the

content, no matter how bizarre, can be guaranteed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：国語辞書に関する学術的議論の概観
- 3回：国語辞書の一般向けの情報発信の概観
- 4回：国語辞書を取り込んだ諸大学の授業の概観
- 5回：受講生による発表（1）
- 6回：受講生による発表（2）
- 7回：受講生による発表（3）
- 8回：受講生による発表（4）
- 9回：受講生による発表（5）
- 10回：受講生による発表（6）
- 11回：受講生による発表（7）
- 12回：受講生による発表（8）
- 13回：いくつかの案を実際に授業してみる
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

アンテナを広げて国語辞書に関する情報を色々と集めて臨むことが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 討議への参加:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 演習 E17

Seminars E17

方言研究

坂本 薫 (SAKAMOTO KAORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT117

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

方言データを適切に収集し、基本的な分析を行うことができる。

Upon completion of the course, students will be able to collect dialect data and be able to discuss using the data.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では方言研究の方法を学ぶ。コーパスや書籍やインタビュー等を通じて方言データを収集し、それらをもとに考察する方法を身に付ける。

In this class, students will learn how to conduct dialect research. Students will learn how to collect dialect data through corpora, books, interviews, and other means, and how to examine them.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：方言の概説

3 回：方言データについて

4 回：方言の調査法

- 5回：方言調査の実践  
 6回：ここまでのふりかえり  
 7回：担当者による発表と討議（1）  
 8回：担当者による発表と討議（2）  
 9回：担当者による発表と討議（3）  
 10回：担当者による発表と討議（4）  
 11回：担当者による発表と討議（5）  
 12回：担当者による発表と討議（6）  
 13回：担当者による発表と討議（7）  
 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業後にリアクションペーパーを提出する。
- ・担当者は発表時に配布資料を作成し、発表後にレポートを作成する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:40% 討議への参加状況:30% レポート:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

中俣尚己 『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』 ひつじ書房 2021 9784823410598

### その他 / Others

- ・受講生が多い場合、グループに分け、グループ内で毎週の発表者・司会者を決め、全員で討論を行いながら授業を進めていくことを予定している。
- ・授業内で、母方言に関わる情報（出生地や居住歴など）の開示を求めることがある。

# 演習 E18

Seminars E18

格助詞について考える

石 恩京 (SUK EUNKYUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文の中での格助詞の働きを考えることを通して格助詞についての理解を深める。

By thinking about the function of case particle in sentences, students can deepen their understanding of case particle.

## 授業の内容 / Course Contents

主に動詞文を取り上げて、「格助詞の役割」「格助詞の用法」「格助詞表現比較」などについて考える。

格助詞は、英語の前置詞と違って単独では意味を持たない。名詞に付加されることで、役割を表すことになる。名詞も単独では情報として文に取り込むことができない。名詞を情報化するためには助詞が必要で、どの助詞を使うかは動詞によって決まる。このように、格助詞を考える上で名詞と動詞を考えることは必須不可欠なので、名詞と動詞についても合わせて取り扱う。

Focusing mainly on verb sentences, we will consider "the role of case particles," "usage of case particles," and "comparison of case particle expressions."

Case particles, unlike English prepositions, have no meaning by themselves. By being added to nouns, it

represents a role. Nouns alone cannot be incorporated into sentences as information. Particles are necessary to informatize nouns, and which particle to use depends on the verb. In this way, it is essential to think of nouns and verbs when considering case particles, so nouns and verbs are also treated together.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：格助詞について
- 3回：発表1
- 4回：発表2
- 5回：発表3
- 6回：発表4
- 7回：発表5
- 8回：発表6
- 9回：発表7
- 10回：発表8
- 11回：発表9
- 12回：発表10
- 13回：発表11
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：毎回のテーマに関する基礎的なこと（辞書の意味記述など）は調べておくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 討論への参加度:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 演習 E19

Seminars E19

研究論文執筆を目的とした実践演習（1）

尾崎 名津子（OZAKI NATSUKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学研究のために必要な知識と技能を身につける。具体的には、文学テキストの分析方法や、考察のために必要な先行研究や資料の収集方法、また、それらの読解の方法などである。

論文として適切な文章表現を身につける。

This course aims to acquire the knowledge and skills necessary for literary research. Specifically, how to analyze literary texts, how to collect prior research and materials necessary for consideration, and how to read and understand them.

In addition, the purpose of this class is to develop the ability to use language appropriate for a thesis and to compose logical sentences.

## 授業の内容 / Course Contents

本演習は研究小論文、卒業論文予備論文、卒業論文等を執筆する学生を対象とする。授業は学生による発表と討議を中心に進める。履修者が自らの興味や関心に基づいて、発表対象とする作品を決め、自分で問題設定や分析などを行う。口頭発表を経て、それをさらに発展させた論文やレポートを執筆する。

This seminar is intended for students who will write a research essay, a preliminary thesis, or a graduation thesis. The class will consist mainly of presentations and discussions by the students. The students will decide on the works to be presented based on their own interests and concerns, and will set and analyze the problems by themselves. After the oral presentation, the students will write a paper or a report that develops the work further.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：資料の調査方法
- 3回：立論の方法
- 4回：発表資料の構成方法
- 5回：発表1
- 6回：発表2
- 7回：発表3
- 8回：発表4
- 9回：発表5
- 10回：発表6
- 11回：発表7
- 12回：発表8
- 13回：発表9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：次回の発表で扱われる文学テキストや資料を読了すること。また、自分の発表資料を作成すること。文献の調査や立論、分析は全て授業時間外の学習となる。

復習：特に口頭発表を終えた後は、最終レポートの提出に向けて内容の再検討や資料の再調査、文章の推敲などの作業が必要になる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

授業内で適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。



## 演習 E20

Seminars E20

研究論文執筆を目的とした実践演習 (2)

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT120

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学研究のために必要な知識と技能を身につける。具体的には、文学テキストの分析方法や、考察のために必要な先行研究や資料の収集方法、また、それらの読解の方法などである。

論文として適切な文章表現を身につける。

This course aims to acquire the knowledge and skills necessary for literary research. Specifically, how to analyze literary texts, how to collect prior research and materials necessary for consideration, and how to read and understand them.

In addition, the purpose of this class is to develop the ability to use language appropriate for a thesis and to compose logical sentences.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習は研究小論文、卒業論文予備論文、卒業論文等を執筆する学生を対象とする。授業は学生による発表と討議を中心に進める。履修者が自らの興味や関心に基づいて、発表対象とする作品を決め、自分で問題設定や分析などを行う。口頭発表を経て、それをさらに発展させた論文やレポートを執筆する。

This seminar is intended for students who will write a research essay, a preliminary thesis, or a graduation thesis. The class will consist mainly of presentations and discussions by the students. The students will decide on the works to be presented based on their own interests and concerns, and will set and analyze the problems by themselves. After the oral presentation, the students will write a paper or a report that develops the work further.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：資料の調査方法
- 3回：立論の方法
- 4回：発表資料の構成方法
- 5回：発表1
- 6回：発表2
- 7回：発表3
- 8回：発表4
- 9回：発表5
- 10回：発表6
- 11回：発表7
- 12回：発表8
- 13回：発表9
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：次回の発表で扱われる文学テキストや資料を読了すること。また、自分の発表資料を作成すること。文献の調査や立論、分析は全て授業時間外の学習となる。

復習：特に口頭発表を終えた後は、最終レポートの提出に向けて内容の再検討や資料の再調査、文章の推敲などの作業が必要になる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

授業内で適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

# 演習 E21

## Seminars E21

多様な種類の研究論文を精読する

棕棒 哲也 (MUKUBOU TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

近現代日本文学を専攻する研究論文を読み、十分に理解したうえで縮約したものを文章に起こし、さらにそれを批判的に検討する姿勢を養う。

Students will read research papers on modern and contemporary Japanese literature, fully understand them, and summarize the content into condensed writing. Furthermore, we aim to cultivate an attitude of critically examining the papers.

### 授業の内容 / Course Contents

文章を読み理解する際の有効な手段に「要約」がある。これを「テキストの順を追って、原著者の主張を正確に把握し、まとめる」「順要約」と、「著者の最終的な主張を理解した上で、どのような理由と根拠からその主張に至ったのか、論理的な構造を分析しながら要約する」「全体要約」（河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶應義塾大学出版会、2018年、20-21頁）に分けることが可能だ。本演習の受講者は、両者のうち「より高度な」（同上）後者ではなく、まず前者—担当教員の語彙でいうならば〈縮約〉—を試みることになる。そして縮約の対象は、斯界において（なるべく）いま現在活躍している研究者の論文のうち、担当教員が

知見の限りで選んだものとする。以上受講者は、〈書くこと〉で研究論文の理解を確かなものにして、その結果を発表する。また発表者は、ほかの参加者の意見を参照しつつ、先人の業績に対して異見を提示することも求められる。

One effective means of reading and understanding a text is "summarizing". This can be divided into "sequential summarization," which "follows the order of the text to accurately grasp and summarize the original author's claims," and "overall summarization," which "summarizes while analyzing the logical structure of the author's final claim and what reasons and grounds led to that claim" (Tetsuya Kono, Introduction to Writing Reports and Papers, 4th Edition, Keio University Press, 2018, pp.20-21). Students in this seminar will not attempt the "more advanced" (ibid.) latter of the two, but will first attempt the former - "condensed writing," in the vocabulary of the instructor. The subject of the condensed writing will be an article by a researcher who is (as much as possible) active in the field today, chosen by the instructor to the best of one's knowledge. The participants will present the results of their understanding of the research paper through "writing". In addition, the presenters are expected to present their different views on the achievements of their predecessors, while referring to the opinions of other participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに：ガイダンス
- 2回：テキスト（下記の教科書）を精読する
- 3回：読者論を精読する
- 4回：作家論を精読する
- 5回：作品論を精読する
- 6回：批評研究を精読する
- 7回：同時代研究を精読する
- 8回：ツーリズム研究を精読する
- 9回：文壇論（言説論）を精読する
- 10回：映画論を精読する
- 11回：ポストコロニアル研究を精読する
- 12回：国民国家論を精読する
- 13回：都市論などを精読する
- 14回：おわりに：またはテキスト論を精読する

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

秋学期が始まる前にテキストを読み込んでおくこと。担当論文を決定した後、研究発表の準備を怠りなく進めること。さらに第3回以降の発表に備えて、受講者全員が事前に論文を読んだうえでそれぞれの意見を固めること、またそれを毎回始業以前に「Google Forms」へ記したうえで、演習に臨むことが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当論文に関する研究発表:40% 毎回の出席と、併せて適宜書いてもらうコメントペーパーほか、討議に対する貢献など:30% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:0%

### テキスト/ Textbooks

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門 第4版』 慶應義塾大学出版会 2018 9784766425277 ○  
テキストについては追加の可能性がある。教員が「Canvas LMS」の「モジュール」のなかで資料を提供することもある。

### 参考文献 / Readings

なし。教員が授業で適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

コロナ禍により、およそ2020年から2022年にかけてオンライン授業（やミックス授業）を強いられた私たちは、しかしディスカッション（Zoomにおけるブレイクアウトセッションなど）の機会を作ることで、むしろ積極的に〈話す力〉〈聞く力〉を育ててきた（はずだ）。一方で独り本に向き合うときの〈読む力〉は、さらにそれを自分の言葉で出力するという〈書く力〉は、相応に鍛えられていただろうか。外へ繋がりを求めるあまり、自分の内へ測鉛を垂らす＝自分の考えを深めることを疎かにしてはいないだろうか。担当教員は少しく危機感を抱い

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

できればノートPC。ないしはタブレット。どちらも用意できない場合は、授業前にPDFファイルをプリントアウトする算段を整えておいた方がよい。スマートフォン一つで当演習を乗り切ろうとすると、各回の論文や、発表者の資料などを利用するうえで、全体を見渡すことができなくて、大変に苦しむことになる。なお以上は機器の購入を勧めるものではない。

### その他/ Others

第1回はガイダンスを行う回です。授業のアウトラインを説明する、とても重要な回ですので、これへ参加せずに履修の手続きを行い、あとで後悔することのないよう、必ず参加して下さい。

## 演習 E22

Seminars E22

昭和40年代の小説を読解する

米山 大樹 (YONEYAMA HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1 昭和40年代の小説についての調査と発表、討議を通して、日本の近現代文学を研究するための基礎的な知識と方法を身につける。

2 文学作品と先行研究を分析的に検討し、論理的に言語化する方法を身につける。

3 日本近現代文学史や同時代コンテクストを理解する。

1) To learn fundamental research methods and gain background knowledge of modern and contemporary Japanese literature through the study, presentation, and discussion of fiction from the Shōwa 40's era.

2) To learn techniques for analyzing literary works and criticism, and how to organize logically and express critically one's own thinking.

3) To grasp the history of modern and contemporary Japanese literature in its wider social context.

### 授業の内容 / Course Contents

・まず、演習形式の授業に参加するためのスキルについて講義形式で説明する。次に、受講者による演習形式での発表と討議を行う。

- ・この授業では、日本近現代文学の昭和40年代の短編小説を中心に取り上げ、その特質を学習する。
- ・発表対象は授業計画に示した作家・作品を予定しているが、これらは暫定的なものであり変更もあり得る。
- ・ At the start of the semester, the necessary skills for participating in a seminar-style class will be explained in detail in a lecture format. Afterwards, students will put into practice those skills by means of presentations and critical discussions in class.
- ・ In this course, we will read short stories from the Shōwa 40's era of Japanese modern and contemporary literature to ascertain their most distinctive characteristics.
- ・ Please note that while the authors and works for this course are indicated on the course syllabus, they are subject to change depending on such factors as availability, class size, and student interests.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究発表についての説明
- 3回：レポートについての説明
- 4回：三島由紀夫「英霊の声」(発表)
- 5回：大城立裕「カクテル・パーティー」(発表)
- 6回：藤枝静男「空気頭」(発表)
- 7回：大庭みな子「三匹の蟹」(発表)
- 8回：大岡昇平「ミンドロ島ふたたび」(発表)
- 9回：倉橋由美子「靈魂」(発表)
- 10回：古井由吉「杏子」(発表)
- 11回：開高健「ロマネ・コンティ・一九三五年」(発表)
- 12回：中上健次「十九歳の地図」(発表)
- 13回：中里恒子「歌枕」(発表)
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習：次回の発表で扱われる文学テキストや資料を読了すること。また、自分の発表資料を作成すること。文献の調査や立論、分析は全て授業時間外の学習となる。

復習：特に口頭発表を終えた後は、発表で解決されなかった課題のフォローアップや、最終レポートの提出に向けて内容の再検討や資料の再調査、文章の推敲などの作業が必要になる。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表:40% 積極的な授業参加:20% 最終レポート割合 :40%

### テキスト/ Textbooks

授業内で適宜配布する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料の配布、課題の提出、連絡等に「Canvas LMS」を使用する。授業に PC を持参する必要はないが、適宜「Canvas LMS」を確認しておくこと。



## 演習 E23

Seminars E23

現代文学とジェンダー／セクシュアリティ研究（1）

黒岩 裕市 (KUROIWA YUICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーやセクシュアリティの問題に注目しながら、現代の文学作品を読む。同時に、文学作品の丁寧な読みを通じて、ジェンダーやセクシュアリティの問題について考える。

Focusing on gender/sexuality issues, students will read contemporary literary works, at the same time, through closely reading literary works students will consider gender/sexuality issues.

### 授業の内容 / Course Contents

この演習では、性規範からはずれるとみなされるような身体や欲望、関係性や生き方を描いた作品に光を当て、現代の日本で、ある性のあり方が主流化され、別の性のあり方が周縁化される際にはたらく力学を検討する。松浦理英子と村田沙耶香の小説を取り上げる。

授業は数回の講義に続き、受講生の発表によって進める。

This seminar sheds light on the works which represent the body, desire, relation, way of living that are often regarded as inconsistent with gender/sexuality norms. In so doing we will examine the power dynamics that normalize one type of gender/sexuality at the same time marginalize its other type. We will read the novels of

Matsuura Rieko and Murata Sayaka.

After a few lectures, students will make presentations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文学研究とジェンダー／セクシュアリティ研究（講義＋グループワーク）
- 3回：松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』（1987年）①（講義＋グループワーク）
- 4回：松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』②（発表）
- 5回：松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』③（発表）
- 6回：松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』④（発表）
- 7回：松浦理英子のエッセイを読む（講義＋グループワーク）
- 8回：村田沙耶香『ハコブネ』（2010年）①（発表）
- 9回：村田沙耶香『ハコブネ』②（発表）
- 10回：村田沙耶香『殺人出産』（2014年）（発表）
- 11回：村田沙耶香『トリプル』（2014年）（発表）
- 12回：村田沙耶香『清潔な結婚』（2014年）（発表）
- 13回：村田沙耶香『コンビニ人間』（2016年）①（発表）
- 14回：村田沙耶香『コンビニ人間』②（発表）＋全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：授業で取り上げる作品を丁寧に読むこと。発表担当者はレジュメを作成すること。

復習：授業での論点を再確認すること。発表担当者は授業での教員や他の受講生のコメントを踏まえ、学期末のレポートの作成につなげること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表、発表者へのコメント：60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

- 松浦理英子 『ナチュラル・ウーマン』 河出書房新社 2010 4309408478 ○
- 村田沙耶香 『ハコブネ』 集英社 2016 4087455149 ○
- 村田沙耶香 『殺人出産』 講談社 2016 4062934779 ○
- 村田沙耶香 『コンビニ人間』 文藝春秋 2018 4167911302 ○

他はコピーを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

作品を丁寧に読み、自分自身の解釈を作り上げ、他者に説得的に伝えること。他者の解釈に対して、応答すること。

**その他/ Others**

この授業で取り上げる作品には性的表現を用いたものもある。もっとも、「性的」とは何かということを問いなおすようなものでもあるのだが、履修に際してはこの点に十分に注意すること。

## 演習 E24

Seminars E24

現代文学とジェンダー／セクシュアリティ研究（2）

黒岩 裕市（KUROIWA YUICHI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AT124
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	JAL2310
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーやセクシュアリティの問題に注目しながら、現代の文学作品を読む。同時に、文学作品の丁寧な読みを通じて、ジェンダーやセクシュアリティの問題について考える。

Focusing on gender/sexuality issues, students will read contemporary literary works, at the same time, through closely reading literary works students will consider gender/sexuality issues.

### 授業の内容 / Course Contents

この演習では、既存の性規範のもとで周縁化される人びとにとって、生きていくために必要なつながりや居場所が探求される作品に光を当て、性規範への抵抗や交渉の試みを、その難しさをも含めて考察する。松浦理英子、藤野千夜、李琴峰、星野智幸の小説を取り上げる。

授業は数回の講義に続き、受講生の発表によって進める。

This seminar sheds light on the works which seek the connection and space to survive for people that are marginalized by existing gender/sexuality norms. In so doing we will examine the attempts to negotiate or resist gender/sexuality norms (including their difficulties). We will read the novels of Matsuura Rieko, Fujino Chiya, Li

Kotomi and Hoshino Tomoyuki.

After a few lectures, students will make presentations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文学研究とジェンダー／セクシュアリティ研究（講義＋グループワーク）
- 3回：松浦理英子『最愛の子ども』（2017年）①（講義＋グループワーク）
- 4回：松浦理英子『最愛の子ども』②（発表）
- 5回：松浦理英子『最愛の子ども』③（発表）
- 6回：松浦理英子『最愛の子ども』④（発表）
- 7回：松浦理英子『最愛の子ども』⑤（発表）
- 8回：藤野千夜『夏の約束』（2000年）①（発表）
- 9回：藤野千夜『夏の約束』②（発表）
- 10回：李琴峰『ポラリスが降り注ぐ夜』（2020年）①（発表）
- 11回：李琴峰『ポラリスが降り注ぐ夜』②（発表）
- 12回：李琴峰『ポラリスが降り注ぐ夜』③（発表）
- 13回：星野智幸『毒身温泉』（2002年）①（発表）
- 14回：星野智幸『毒身温泉』②（発表）＋全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：授業で取り上げる作品を丁寧に読むこと。発表担当者はレジュメを作成すること。

復習：授業での論点を再確認すること。発表担当者は授業での教員や他の受講生のコメントを踏まえ、学期末のレポートの作成につなげること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表、発表者へのコメント:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

松浦理英子 『最愛の子ども』 文藝春秋 2020 4167914883 ○

藤野千夜 『夏の約束』 講談社 2003 4062737051 ○

李琴峰 『ポラリスが降り注ぐ夜』 筑摩書房 2022 4480438246 ○

他はコピーを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

作品を丁寧に読み、自分自身の解釈を作り上げ、他者に説得的に伝えること。他者の解釈に対して、応答すること。

### その他 / Others

この授業で取り上げる作品には性的表現を用いたものもある。もっとも、「性的」とは何かということを問いなおすようなものでもあるのだが、履修に際してはこの点に十分に注意すること。

春学期の演習E 2 3を受講していることが望ましいが、演習E 2 4だけの履修でも問題はない。

## 演習 E25

Seminars E25

研究論文を執筆するための実践演習 (1)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT125  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

テキストを読み解くための方法を学び文学研究に必要な知識と技能を学ぶとともに、卒業論文を執筆できる水準の文章表現能力を身につける。

Students will learn methods for reading and understanding texts, gain knowledge and skills required for literary research, and acquire the capability for textual expression at a level that will enable the writing of graduation theses.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習は研究小論文、卒業論文予備論文、卒業論文などを執筆する学生を対象とする。授業は学生による発表と議論を中心に進行し、教員と TA がそれをサポートする。テキストは学生が自らの関心に基づいて選択し、そのテキストに関するレポート、論文を執筆してもらう。

The seminar is intended for students who will write research essays, graduation theses, preliminary theses before graduation theses, etc. The class will proceed with a focus on presentations and discussions by students, with support by faculty members and TAs. Students will select texts based on their own interests, and will write

reports and research papers on these.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：資料の調べ方
- 3回：レジユメの書き方
- 4回：発表1
- 5回：発表2
- 6回：発表3
- 7回：発表4
- 8回：発表5
- 9回：発表6
- 10回：発表7
- 11回：発表8
- 12回：発表9
- 13回：発表10
- 14回：予備日

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表者は担当となる章の内容を深く理解し、要点をまとめたレジユメを用意する。演習の参加者はテキストを精読して演習に臨むこと。ゼミでは、他者への敬意をはらいつつ自分の「読み」を主体的に発言し、活発な相互批評を展開したいと考えている。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

石川巧、飯田祐子、小平麻衣子、金子明雄、日比嘉高編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2022  
授業のサブテキストとして使用します。

### その他 / Others

本演習は担当者のもとで研究小論文、予備論文、卒業論文を執筆する学生を対象としています。もちろん、それらを執筆する予定のない学生の受講も認めますが、授業内容に関しては論文執筆を前提として進めることをご了解いただきたいと思います。



## 演習 E26

Seminars E26

研究論文を執筆するための実践演習 (2)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT126  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

テキストを読み解くための方法を学び文学研究に必要な知識と技能を学ぶとともに、卒業論文を執筆できる水準の文章表現能力を身につける。

Students will learn methods for reading and understanding texts, gain knowledge and skills required for literary research, and acquire the capability for textual expression at a level that will enable the writing of graduation theses.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習は研究小論文、卒業論文予備論文、卒業論文などを執筆する学生を対象とする。授業は学生による発表と議論を中心に進行し、教員と TA がそれをサポートする。テキストは学生が自らの関心に基づいて選択し、そのテキストに関するレポート、論文を執筆してもらう。

The seminar is intended for students who will write research essays, graduation theses, preliminary theses before graduation theses, etc. The class will proceed with a focus on presentations and discussions by students, with support by faculty members and TAs. Students will select texts based on their own interests, and will write

reports and research papers on these.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：資料の調べ方
- 3回：レジユメの書き方
- 4回：発表1
- 5回：発表2
- 6回：発表3
- 7回：発表4
- 8回：発表5
- 9回：発表6
- 10回：発表7
- 11回：発表8
- 12回：発表9
- 13回：発表10
- 14回：予備日

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表者は担当となる章の内容を深く理解し、要点をまとめたレジユメを用意する。演習の参加者はテキストを精読して演習に臨むこと。ゼミでは、他者への敬意をはらいつつ自分の「読み」を主体的に発言し、活発な相互批評を展開したいと考えている。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

石川巧、飯田祐子、小平麻衣子、金子明雄、日比嘉高編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2022

○

授業のサブテキストとして使用します。

### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

本演習は担当者のもとで研究小論文、予備論文、卒業論文を執筆する学生を対象としています。もちろん、それらを執筆する予定のない学生の受講も認めますが、授業内容に関しては論文執筆を前提として進めることをご了解いただきたいと思います。

## 演習 E27

Seminars E27

江戸川乱歩精読 (1)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

テキストを読み解くための方法を学び文学研究に必要な知識と技能を学ぶとともに、卒業論文を執筆できる水準の文章表現能力を身につける。

Students will learn methods for reading and understanding texts, gain knowledge and skills required for literary research, and acquire the capability for textual expression at a level that will enable the writing of graduation theses.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では江戸川乱歩の作品を精読する。毎回の授業は各自（またはグループ）での発表と議論によるゼミ形式で行う。毎回、発表者がレジュメを用意し、45分程度の発表を行ったあと、その内容をめぐる議論を行う。各発表者は自分の研究テーマに即したテキストを指定する。

In this exercise, we will read a novel by Edogawa Rampo in detail. The class will be held in seminar format, with discussions and presentations by individual students or groups. In each session, a presenter will prepare an outline and give a presentation for about 45 minutes, after which discussion of the content will take place. Each

presenter will designate texts according to their own research themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：資料の調べ方
- 3回：レジユメの書き方
- 4回：発表1
- 5回：発表2
- 6回：発表3
- 7回：発表4
- 8回：発表5
- 9回：発表6
- 10回：発表7
- 11回：発表8
- 12回：発表9
- 13回：発表10
- 14回：予備日

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表者は担当となる章の内容を深く理解し、要点をまとめたレジユメを用意する。演習の参加者はテキストを精読して演習に臨むこと。ゼミでは、他者への敬意をはらいつつ自分の「読み」を主体的に発言し、活発な相互批評を展開したいと考えている。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

江戸川乱歩 『江戸川乱歩名作選』 新潮文庫 2016 -

江戸川乱歩 『江戸川乱歩傑作選 改版』 新潮文庫 1989 -

テキストは Amazon 等の古書で安く購入できます。また、BOOKOFF などでも比較的簡単に入手可能です。したがって販売はせず個人で入手ということにします。

### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

江戸川乱歩の作品のなかには性的な描写、グロテスクな表現、現代からみると明らかな差別や偏見を含んだ言説があります。演習ではそうしたテキストも扱いますので、受講に際してはご注意ください。

## 演習 E28

Seminars E28

江戸川乱歩精読 (2)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT128  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

テキストを読み解くための方法を学び文学研究に必要な知識と技能を学ぶとともに、卒業論文を執筆できる水準の文章表現能力を身につける。

Students will learn methods for reading and understanding texts, gain knowledge and skills required for literary research, and acquire the capability for textual expression at a level that will enable the writing of graduation theses.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では江戸川乱歩の作品を精読する。毎回の授業は各自（またはグループ）での発表と議論によるゼミ形式で行う。毎回、発表者がレジュメを用意し、45分程度の発表を行ったあと、その内容をめぐる議論を行う。各発表者は自分の研究テーマに即したテキストを指定する。

In this exercise, we will read a novel by Edogawa Rampo in detail. The class will be held in seminar format, with discussions and presentations by individual students or groups. In each session, a presenter will prepare an outline and give a presentation for about 45 minutes, after which discussion of the content will take place. Each

presenter will designate texts according to their own research themes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：論文の書き方1
- 3回：論文の書き方2
- 4回：発表1
- 5回：発表2
- 6回：発表3
- 7回：発表4
- 8回：発表5
- 9回：発表6
- 10回：発表7
- 11回：発表8
- 12回：発表9
- 13回：発表10
- 14回：予備日

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表者は担当となる章の内容を深く理解し、要点をまとめたレジメを用意する。演習の参加者はテキストを精読して演習に臨むこと。ゼミでは、他者への敬意をはらいつつ自分の「読み」を主体的に発言し、活発な相互批評を展開したいと考えている。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合:40%

### テキスト / Textbooks

江戸川乱歩 『江戸川乱歩名作選』 新潮文庫 2016 -

江戸川乱歩 『江戸川乱歩傑作選 改版』 新潮文庫 1989 -

テキストはAmazon等の古書で安く購入できます。また、BOOKOFFなどでも比較的簡単に入手可能です。したがって販売はせず個人で入手ということにします。

### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

江戸川乱歩の作品のなかには性的な描写、グロテスクな表現、現代からみると明らかな差別や偏見を含んだ言説があります。演習ではそうしたテキストも扱いますので、受講に際してはご注意ください。

## 演習 E29

Seminars E29

夏目漱石『それから』を読む

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT129  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

口頭発表資料や口頭発表の方法を身につける。

夏目漱石『それから』（1909年）について、細やかに注釈をつけることによって作品を読み解くことを目指す。この、注釈という営為の考え方や方法を身につけることも、この授業の目標となる。

作品を読み解く観点は多様だが、この授業では小説の分析の方法に加えて、作中の身体に関する表現に着目し、ジェンダーやアイデンティティに関わる批評や思想などとテキストとの脈絡の付け方などを学ぶ。

This course aims to acquire oral presentation materials and methods for oral presentation.

The goal of this course is to read Soseki Natsume's "Sorekara" (1909) through detailed annotations. The goal is for students to acquire the concept and method of annotation.

In this class, in addition to methods of analyzing the novel, we will focus on expressions related to the body in the novel and learn how to relate the text of the novel to criticism and ideas related to gender and identity.

### 授業の内容 / Course Contents

作品の成立に関わる作者の伝記的事実や同時代評、作中に描かれた事物や出来事、先行研究など様々な言説を

踏まえながら、履修者各自が注釈と作品読解に取り組む。

口頭発表後は、発表時に受けた質問やコメントをふまえ、内容をさらに発展させたレポートを執筆する。

Each student will be responsible for annotating and interpreting the work based on various discourses, such as biographical facts, contemporary reviews of the author, things and events depicted in the work, and previous studies.

After the oral presentation, the students will write a report on further development of the content based on the questions and comments received during the presentation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスー同時代評と研究動向
- 2回：身体と文学
- 3回：注釈の見本
- 4回：注釈1
- 5回：注釈2
- 6回：注釈3
- 7回：注釈4
- 8回：注釈5
- 9回：注釈6
- 10回：注釈7
- 11回：注釈8
- 12回：注釈9
- 13回：注釈10
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：次回の発表で扱われる文学テキストや資料を読了すること。また、自分の発表資料を作成すること。文献の調査や立論、分析は全て授業時間外の学習となる。

復習：特に口頭発表を終えた後は、最終レポートの提出に向けて内容の再検討や資料の再調査、文章の推敲などの作業が必要になる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

夏目漱石 『それから』 新潮社 1948 9784101010052 ○

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。



## 演習 E30

Seminars E30

大正期の『女学世界』を読む

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT130

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

口頭発表資料や口頭発表の方法を身につける。

雑誌『女学世界』を読み解くことを通して、分析の方法やジェンダー、メディアなどとテキストとの脈絡の付け方などを学ぶ。

また、大正期の女性が置かれた社会的な状況についても、積極的に理解を深めることも目標の一つである。具体的には、女学校の位相、女性と職業、結婚と出産などが挙げられる。

This course aims to acquire oral presentation materials and methods for oral presentation.

Through reading a part of the magazine "Jogaku Sekai" that was published in the Taisho period, students will learn how to analyze them and how to contextualize them with gender, media, etc.

Another goal is to actively deepen our understanding of the social conditions in which women were placed during the Taisho period. Specifically, this includes women's education, women and their occupations, and marriage and childbearing.

### 授業の内容 / Course Contents

雑誌という媒体の特質や、大正期の女子教育、女性文化をめぐる状況を理解したうえで、履修者各自が担当する号の分析に取り組む。

口頭発表後は、発表時に受けた質問やコメントをふまえ、内容をさらに発展させたレポートを執筆する。

After understanding the characteristics of the magazine and the circumstances surrounding women's education and culture during the Taisho period, each student will work to analyze the issue for which he or she is responsible.

After the oral presentation, the students will write a report on further development of the content based on the questions and comments received during the presentation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：大正期の女性雑誌と女子学生の位相
- 3回：発表資料の作成方法について—1915年6月号をもとに
- 4回：1915年7月、8月（発表）
- 5回：1915年9月、10月（発表）
- 6回：1915年11月、12月（発表）
- 7回：1916年1月、2月（発表）
- 8回：1916年3月、4月（発表）
- 9回：1916年5月、6月（発表）
- 10回：1916年7月、8月（発表）
- 11回：1916年9月、10月（発表）
- 12回：1916年11月、12月（発表）
- 13回：1917年1月、2月（発表）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：次回の授業で扱われる資料を読了すること。また、自分の発表資料を作成すること。文献の調査や立論、分析は全て授業時間外の学習となる。

復習：特に口頭発表を終えた後は、最終レポートの提出に向けて内容の再検討や資料の再調査、文章の推敲などの作業が必要になる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

授業内でプリント等を配付する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

# 演習 E31

Seminars E31

現代詩を読む／谷川俊太郎・川崎洋・新川和江

大島 丈志 (OSHIMA TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT131  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

谷川俊太郎・川崎洋・新川和江の詩を読み解く。

Students will read and interpret poems by Shuntaro Tanikawa, Hiroshi Kawasaki, and Kazue Shinkawa.

## 授業の内容 / Course Contents

詩「朝のリレー」や「スイミー」の翻訳で知られる谷川俊太郎は、第二次世界大戦後、三好達治の紹介によって『文学界』にてデビューします。1952年、『二十億光年の孤独』を刊行し、戦後の新人として注目されました。その後も多様な試みを行い、自由奔放ともいえる展開を見せていきました。そんな谷川俊太郎の詩の世界を、学んでいきたいと思えます。

また、授業の後半では、同時代の川崎洋・新川和江の詩を扱います。

Shuntaro Tanikawa, known for his translation of the works "Asa no relay" and Swimmy, made his debut in the literary world through an introduction by Tatsuji Miyoshi after World War II. In 1952, he published Two Billion Light-Years of Solitude and became noted as a postwar newcomer. Following that, too, he engaged in various projects with free abandon. The class will study the world of the poems of Shuntaro Tanikawa.

The second half of the class will cover poems by Hiroshi Kawasaki and Kazue Shinkawa, who lived at the same time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：詩の読解方法に関する講義
- 3回：詩の技法に関する講義
- 4回：近代詩史の概略 講義
- 5回：「二十億光年の孤独」その他の近代史における位相
- 6回：「定義」その他 長編詩／即興詩の試み
- 7回：「コカ・コーラ レッスン」その他における言葉の役割
- 8回：川崎洋「はくちょう」「ひどく」「言葉」に見る自然と比喻
- 9回：川崎洋「たんぽぽ」「しかられた神様」に見る声喩と子ども
- 10回：新川和江「わたしを束ねないで」における「私」
- 11回：新川和江「記憶する水」における「水」の表象
- 12回：『櫂』を中心とした詩の読解
- 13回：同時代の詩の読解
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習 個人発表となるので、対象となる作品について先行研究を徹底的に調査し、先行研究のクリティカルリーディングを行い、その上で自らの読みを作り、レジュメを作成する。

復習 必ずフォローアップを行うので、演習の質疑応答にて指摘された質問に対して、再度調査・考察を行い、フォローアップのレジュメを作成する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習発表:30% レジュメの提出:30% 演習フォロー:10% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

授業中に配布します。

### 参考文献 / Readings

石川巧他編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2023 4823411366

授業中に指示します。

## 演習 E32

Seminars E32

宮沢賢治、萩原朔太郎、高村光太郎の詩を読む

大島 丈志 (OSHIMA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT132

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

近代の詩人宮沢賢治、萩原朔太郎の詩を読み解きます。

Students will read and interpret the poems of the modern poet Kenji Miyazawa, Sakutarō Hagiwara, Kotaro Takamura.

### 授業の内容 / Course Contents

宮沢賢治の詩は、教科書に掲載され、アニメや漫画でも多用されます。ただ、広まっている詩は一部の詩にすぎず、より多様で豊かな詩の世界があります。この宮沢賢治の詩の世界を読み解いていきます。その際には、詩集『春と修羅』第一～三集だけではなく、「〔雨ニモマケズ〕」「童謡」「文語詩」等も扱っていきます。

授業の前半では萩原朔太郎、高村光太郎の同時代の詩を取り上げます。

The poetry of Kenji Miyazawa is published in textbooks and is also used frequently in animation and comics.

However, popular poems are only a part of poetry; a more diverse and rich world of poetry exists. Students will read and interpret the world of the poems of Kenji Miyazawa. The class will cover not only the first to third parts of the poetry collection An Ashura in Spring, but also works including "Ame ni mo makezu," and Doyo, Bungo

shi.

The first half of the class will focus on contemporary poems by Sakutaro Hagiwara, Kotaro Takamura.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・アンケート
- 2回：詩の読解方法についての講義、近代詩の概略についての講義
- 3回：詩人 宮沢賢治についての講義
- 4回：詩人 萩原朔太郎についての講義
- 5回：詩の「にほい」・・・・・・萩原朔太郎「月に吠える」より。「竹」等。
- 6回：自己と倦怠・・・・・・萩原朔太郎「青猫」より。
- 7回：詩人 高村光太郎についての講義
- 8回：肯定の詩・・・・・・高村光太郎「冬」より。
- 9回：離別・・・・・・高村光太郎「レモン哀歌」より。
- 10回：恋と修羅・・・・・・宮沢賢治「恋と熱病」・「春と修羅 (mental sketch modified)」・「小岩井農場」を中心に（『春と修羅』第一集）
- 11回：離別・・・・・・宮沢賢治「永訣の朝」を中心に（『春と修羅』第一集）
- 12回：農・・・・・・宮沢賢治「〔盗まれた白菜の根へ〕」「〔同心町の夜あけがた〕」「和風は河谷いっぱい吹く」「〔何をやっても間に合はない〕」を中心に（『春と修羅』第三集）
- 13回：病・・・・・・宮沢賢治「病床」「眼にて云う」を中心に（疾中詩編より） 文語詩へ
- 14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習……個人で演習発表を行ってもらうため演習のための資料作り。先行研究の調査・クリティカルリーディングと詩の読解。

復習……演習中に出された質問に対するフォローアップの作成。フォローアップの発表を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習発表:30% レジュメの提出:30% 演習フォロー:10% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

授業中に指示します。

### 参考文献 / Readings

石川巧他編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2023 4823411366

授業中に指示します。

# 日本文学講読 1

Reading in Japanese Literature 1

古代

中嶋 真也 (NAKAJIMA SHINYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT201

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本現存最古の歌集『万葉集』を読み進め、古代の人々の季節観や恋愛事情などを把握していくことを目標とします。また、古代文学に関する知見を深め、理解した内容をわかりやすく説明できる能力を身につけることも目標とします。

The goal is to read the Manyoshu, Japan's oldest existing collection of poems, and understand the ancient people's views on the seasons and love affairs. We also aim to deepen our knowledge of ancient literature and acquire the ability to explain what we understand in an easy-to-understand manner.

## 授業の内容 / Course Contents

『万葉集』巻第八を取り上げます。この巻は、春夏秋冬の季節を軸に、それぞれ「雑歌」「相聞」とに分類されています。各部立の代表的な歌を取り上げ、それらを精読していきます。主に景物に着眼して、どのように表現されているか探求していきます。毎回授業後課題を実施し、次の回の冒頭にそのフィードバックをします。

I will take up Volume 8 of the Manyoshu. This volume is divided into "zouka" and "soumon" based on the seasons of spring, summer, autumn, and winter. We will pick up representative poems from each division and read them

carefully. We will mainly focus on landscapes and explore how they are expressed. We will complete assignments after each class and provide feedback at the beginning of the next class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
『万葉集』概要
- 2回：春雑歌を読む① 山部赤人の春の歌
- 3回：春雑歌を読む② 大伴坂上郎女の春の歌
- 4回：春相聞を読む
- 5回：夏雑歌を読む
- 6回：夏相聞を読む
- 7回：秋雑歌を読む① 山上憶良の七夕歌
- 8回：秋雑歌を読む② 大伴家持の秋の歌
- 9回：秋相聞を読む① 額田王の風の歌
- 10回：秋相聞を読む② 大伴家持と大伴坂上大嬢の贈答
- 11回：冬雑歌を読む
- 12回：冬相聞を読む
- 13回：『万葉集』巻第八のまとめ
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業後課題:30% 出席および授業参加度:30% 最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜指示します。



## 日本文学講読 2

Reading in Japanese Literature 2

古代

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT202

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 対面 7回（オンライン 7回）

物語の進行とともに源氏絵を見てもらうため、オンラインを7回実施する。

オンライン（1・3・5・7・9・11・13回目の授業）

対面（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

『源氏物語』の若菜巻を中心とした第二部の物語を読み、理解を深める。

Students will read the Wakana chapter of Genji Monogatari (The Tale of Genji), and deepen their understanding of the story.

### 授業の内容 / Course Contents

女三の宮の降嫁によって二番手の妻に格下げされた紫の上は、苦しみのあまり病に臥す。光源氏が紫の上の看病をしている隙を狙って、柏木が女三の宮のもとに侵入し、密通を犯してしまう。密通の事実を知った光源氏は煩悶する。――光源氏の作り上げた六条院の世界が崩壊していく物語を読む。

Hikaru Genji and Onna Sannomiya get married, and Murasaki is downgraded to his second wife, and she becomes ill because of suffering. Kashiwagi invades the room of Onna Sannomiya, aiming for the chance that

Hikaru Genji is caring for Murasaki, and commits a secret communication. Hikaru Genji is annoyed to know the fact of adultery. Students will read the story of the collapse of the world of Rokujo-in created by Hikaru Genji.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：『源氏物語』三部構成の中の第二部の物語
- 2 回：若菜上巻（1）――女三の宮の降嫁
- 3 回：若菜上巻（2）――紫の上の苦しみ
- 4 回：若菜上巻（3）――六条院の蹴鞠の遊び
- 5 回：若菜上巻（4）――柏木の惑乱
- 6 回：若菜下巻（1）――六条院の女楽
- 7 回：若菜下巻（2）――柏木と女三の宮の密通
- 8 回：若菜下巻（3）――光源氏、密通を知って煩悶
- 9 回：若菜下巻（4）――光源氏に睨まれた柏木
- 10 回：柏木巻の物語
- 11 回：横笛巻、鈴虫巻の物語
- 12 回：夕霧巻の物語
- 13 回：御法巻、幻巻の物語
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:○

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 事前に、『源氏物語』全体のあらすじ、第二部の物語の概要を理解しておくこと。  
 講義の進度に合わせて、原文を自分で読み進めること。  
 常に感想や疑問点などをメモしておくこと。  
 レポートのテーマを決めて、研究すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

- レポート試験 :72%  
 平常点割合 :28% 授業への参加態度:28%  
 毎回、授業についての感想、意見、質問などをリアクションペーパーとして提出してもらいます。

### テキスト / Textbooks

プリントを使用します。

### 参考文献 / Readings

適宜紹介します。

# 日本文学講読 3

Reading in Japanese Literature 3

中世

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

軍記物語のなかから、女性の姿を扱う著名な場面を取りあげて精読し、日本中世に生み出された軍記物語の特質について理解する。あわせて、中世の散文文学を読み解くためのさまざまな視座や方法についての理解を深める。

From the Gunki Monogatari genre, famous scenes having to do with the appearance of women will be focused on, and through these readings the characteristics monogatari produced in Japan's Middle Ages will be investigated. Along with this, other viewpoints and methods viable in reading Middle Age prose literature will be presented and developed.

## 授業の内容 / Course Contents

軍記物語には、いくさが続く時代に生きた人間たちの姿が描き出されている。この授業では、中世の軍記物語に描かれる女性たちの姿と、その受け止められかたに着目し、いくつかの著名な場面を選んで順次精読していく。随時、歴史史料との対照、異本の比較などをおこない、他の物語・説話などとの関係も視野に入れながら、『平家物語』をはじめとする軍記物語が長く読み継がれてきたことの意味を問いなおす。

In the Gunki Monogatari genre, the lives of people living in this time of continued warfare are chronicled. In this class, the depiction of women in Middle Age narratives as well as their reception will be focused upon, and deep readings of several famous passages will be considered in turn. When necessary, comparisons with historical material, and variants texts will be undertaken, and starting with the Tale of the Heike, connections with other narratives and tales will be considered in interpreting why Gunki Monogatari continued to be read in a new fashion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマ概説、ガイダンス
- 2回：祇王と仏（前篇）――『平家物語』巻第一「祇王」
- 3回：祇王と仏（後篇）――『平家物語』巻第一「祇王」
- 4回：小督――『平家物語』巻第五「小督」
- 5回：平維盛の北の方――『平家物語』巻第七「維盛都落」
- 6回：小宰相――『平家物語』巻第九「小宰相」
- 7回：源為義の北の方――『保元物語』
- 8回：常葉（前篇）――『平治物語』
- 9回：常葉（後篇）――『平治物語』
- 10回：内裏女房――『平家物語』巻第十「内裏女房」
- 11回：建礼門院平徳子――『平家物語』灌頂巻「六道之沙汰」
- 12回：巴御前――『源平盛衰記』
- 13回：横笛――『平家物語』巻第十「横笛」
- 14回：まとめ 軍記物語の成立と伝播

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修を機に、『平家物語』『保元物語』『平治物語』のいずれかを通読することをすすめる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 各回の提出物:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

### 参考文献 / Readings

日下力・鈴木彰・出口久徳 『平家物語を知る事典』 東京堂出版 2005 9784490106640

大津雄一他編 『平家物語大事典』 東京書籍 2010 9784487799831

その他は授業の中で随時紹介する。

### その他 / Others

各回のコメントを踏まえて、共有すべき事柄については教室で全体にフィードバックする。

# 日本文学講読 4

Reading in Japanese Literature 4

中世

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT204

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

いくつかの説話を取りあげて精読し、日本中世に生み出された説話の特質について理解する。あわせて、中世の散文文学を読み解くためのさまざまな視座や方法についての理解を深める。

Students will closely read prominent scenes, and gain understanding of the characteristics of setsuwa born in Japan's Middle Ages. At the same time, they will deepen their understanding of various perspectives and methods for interpreting medieval prose literature.

## 授業の内容 / Course Contents

はじめに中世の説話と説話集について概説したのち、さまざまな説話を横断的に読み進める。各回ごとのテーマを設定し、一つの説話を入口として、関連話を読み進める。随時、他ジャンルの文芸、絵画、芸能等にも目を配り、説話世界の広がりとお行きを立体的に把握していく。

After a general overview of the various collections of folktales from the Middle Ages, we will read a variety of tales. For each class there will be a theme set, and from one specific tale as an introduction, we will continue with reading other related tales. As necessary, materials from other literary genres, painting, among other arts will be

referred to and brought up, as part of fostering an understanding of the world of folktales in both horizontal extension and its depth in a three dimensional manner.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：テーマ概説：中世説話について
- 2 回：異類のはなし
- 3 回：動物のはなし
- 4 回：神と仏の話
- 5 回：僧侶と聖の話
- 6 回：女性の話
- 7 回：中間まとめ
- 8 回：盗人の話
- 9 回：武士の話
- 10 回：日本の話
- 11 回：異国・異域の話
- 12 回：海のはなし
- 13 回：木のはなし
- 14 回：まとめ 夢の話

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

説話を読むための基礎力を身につけるために、各自で関連説話や参考文献を幅広く読み進め、レポート執筆につなげること。

履修を機に、『今昔物語集』『宇治拾遺物語』『古今著聞集』など、著名な説話集のいずれかを通読することをすすめる。

※「中間まとめ」の回には最終レポートに向けた課題設定や執筆要領などを示す。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 各回の提出物:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

小林保治ほか校注・訳 新編日本古典文学全集『宇治拾遺物語』 小学館 1996 9784096580509

その他は授業の中で随時紹介する。

### その他 / Others

初回の授業の際に注意事項を伝える。

理由にかかわらず、4回以上欠席した場合は成績評価対象から外す。

# 日本文学講読 5

Reading in Japanese Literature 5

近世

安原 眞琴 (YASUHARA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本の文化と文学を学ぶ：近世を中心に

Learning Japanese culture and literature

## 授業の内容 / Course Contents

近世文芸を中心に、鑑賞および歴史的な流れを学びます。

In this class, we will study Japanese culture and literature.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：授業の概要を説明する

2 回：日本文学史を概観する（近世を中心に）

3 回：近世文化の始まりを知る

4 回：近世文学の始まりを知る（仮名草子を中心に）

5 回：近世文学の始まりを知る（仮名草子を中心に）

6 回：近世前期の文学を知る（小説を中心に）

- 7回：近世前期の文学を知る（演劇を中心に）  
 8回：近世前期の文学を知る（韻文を中心に）  
 9回：近世中期の文学を知る（小説を中心に）  
 10回：近世中期の文学を知る（小説を中心に）  
 11回：近世中期の文学を知る（浮世絵を中心に）  
 12回：近世後期の文学を知る（小説を中心に）  
 13回：近世中期の文学を知る（演劇を中心に）  
 14回：まとめと補足

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回リアクションペーパーで授業内容を反芻し、論述形式でまとめる。
- ・参考文献やテキストなどを読んで、小レポートをまとめる。
- ・授業を振り返りつつ、最終レポートをまとめる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー:40% 出席および授業参加度:20% 小レポート:20% 最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に定めませんが、下記や授業時に指示する参考文献を読むこと。

### 参考文献 / Readings

- 中野三敏 『江戸文化再考』 笠間書院 2012  
 奥平俊六 『洛中洛外図舟木本』 小学館 1998  
 兵藤裕己 『すぐわかる日本の文学』 東京美術 2004  
 授業時に適宜参考文献をあげます。

### その他 / Others

安原眞琴のHP

<http://www.makotooffice.net/>



# 日本文学講読 6

Reading in Japanese Literature 6

近世

伴野 英一 (BANNO HIDEKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT206

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世文芸の素地となるものの内で、大きな一部を占める遊里文芸を読解する基礎的な知識と技法を身につけるとともに、種類の遊興論を精読し、当時の遊里が生み出すいわゆる美意識を考察することにより、近世の多様な作品を的確に読みこなす能力を養成する。

In addition to acquiring the basic knowledge and techniques for reading Yuuri-Bungei, which forms a large part of the foundation of early modern literature, students will also carefully read various theories of red light district and consider the so-called aesthetic sense created by red light district at the time. By doing so, students will develop the ability to accurately read a variety of early modern works.

## 授業の内容 / Course Contents

遊里における遊興論を直接的に扱う作品を採り上げ、それらの特性を吟味しつつ精読する。長きにわたって論ぜられた遊興論の遷移を検討しながら、各作品をさまざまな視点から読み解くことによって、江戸時代の文化に対する理解を深める。

This class select works that directly deal with the theory of red light district and carefully read them while

examining their characteristics. We will deepen our understanding of the culture of the Edo period by interpreting each of those works from a variety of perspectives while examining the transition of the long-discussed the theory of red light district.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに（講義の進め方、成績評価の方法など）
- 2回：遊女評判記の遊興論（1）
- 3回：遊女評判記の遊興論（2）
- 4回：『色道大鏡』の遊興論（1）
- 5回：『色道大鏡』の遊興論（2）
- 6回：『色道大鏡』の遊興論（3）
- 7回：『色道大鏡』の遊興論（4）
- 8回：『色道大鏡』の遊興論（5）
- 9回：談義本・洒落本の遊興論（1）
- 10回：談義本・洒落本の遊興論（2）
- 11回：談義本・洒落本の遊興論（3）
- 12回：談義本・洒落本の遊興論（4）
- 13回：談義本・洒落本の遊興論（5）
- 14回：まとめ

\* 授業の内容や順番は適宜変更する場合がある

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席及び授業参加度:40%

欠席が5回に達した者は単位を認定しない。

### テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

# 日本文学講読 7

Reading in Japanese Literature 7

和歌・俳諧

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT207

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 第7回～第11回の授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

俳諧のもつ滑稽さや卑俗さ、自然と人間のかかわり、先行文芸の需要のありさまなどを明らかにし、俳諧の本質や特徴について把握します。また、初期俳諧の変遷を通史的にとらえることで、近世の日本文化についての理解を深めます。

The course will clarify the humorousness and vulgarity inherent in haikai, the relationship between nature and humans, and the demand for artistic precedents, in order to grasp the essence and characteristics of haikai. In addition, students will deepen their understanding of modern Japanese culture by understanding transitions in early haikai in terms of its complete history.

## 授業の内容 / Course Contents

近世に入り爆発的に流行した俳諧は、当時の、そしてその後の日本文化に大きな影響をあたえました。俳諧は、五・七・五（上句）と七・七（下句）を交互に付けてゆく連歌の形式のなかに、〈俗〉の要素を多分に取り込んだ文芸です。授業では、近世初期の俳諧のなかから代表的な作品を選び、俳諧を解釈するうえでの重要なポイントについて説明したのち、ことばの連なりのなかに織り込まれている数々の意味を読み解きます。

Haikai saw an explosion of popularity in the early modern period, and had a great influence on Japanese culture at the time and later as well. Haikai is a literary art that liberally incorporates elements of the commonplace in the form of a poetic series that alternates between 5-7-5 (kaminoku) and 7-7 (shimonoku). This class will select representative works from early modern haikai, explain key points in the interpretation of haikai, and decode the numerous meanings embedded in the strings of words.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに（講義の進め方、成績評価の方法など）
- 2回：近世初期俳諧史
- 3回：俳諧の作法（1）
- 4回：俳諧の作法（2）
- 5回：貞門俳諧（1）
- 6回：貞門俳諧（2）
- 7回：談林俳諧（1）
- 8回：談林俳諧（2）
- 9回：談林俳諧（3）
- 10回：元禄俳諧（1）
- 11回：元禄俳諧（2）
- 12回：蕉風俳諧
- 13回：雑俳
- 14回：まとめ

\* 授業の内容や順番は適宜変更する場合があります

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の授業内容へのコメント:30% 授業内課題:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

乾裕幸ほか 『連句への招待〔新版〕』 和泉書院 2001 9784757601161

# 日本文学講読 8

Reading in Japanese Literature 8

和歌・俳諧

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT208

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世江戸時代の香川景樹の歌論と彼が詠んだ歌を鑑賞することで、近世和歌のありようとその中で生まれた学問的実践、およびその思想との連関を理解する。また和歌の鑑賞をする中で、和歌そのものの読み方も身に付ける。

Through the study of Kagawa Kageki's poetry theory and the poems he composed in the early modern Edo period, we will understand the relationship between the state of early modern waka poetry, his academic practices, and his thought. Through appreciation of waka poems, students will also learn how to read waka poems themselves.

## 授業の内容 / Course Contents

近世江戸時代に和歌の一派を築いた香川景樹の学問と思想を概観する。その後、近世詩歌史の全体像も概観する。基本的な和歌の修辞技法と古文の文法事項を確認した上で、香川景樹の詠んだ歌を鑑賞していく。

The study and thought of Kagawa Kageki, who established a school of waka poetry in the early modern Edo period, will be reviewed. Then, the overall picture of the history of early modern poetry will also be overviewed.

After reviewing basic waka rhetorical techniques and grammatical matters of ancient Japanese literature, students will appreciate poems composed by Kagawa Kageki.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要と評価の方法
- 2 回：和歌史における近世
- 3 回：香川景樹とその周辺
- 4 回：香川景樹の歌論を読む①—『歌学提要』
- 5 回：香川景樹の歌論を読む②—真淵門と景樹
- 6 回：香川景樹の歌論を読む③—『新学異見』
- 7 回：香川景樹の歌論を読む④—『古今和歌集正義』「総論」
- 8 回：和歌のルール
- 9 回：香川景樹の和歌を読む①—春歌・夏歌
- 10 回：香川景樹の和歌を読む②—秋歌・冬歌
- 11 回：香川景樹の和歌を読む③—事につき時にふれたる (1)
- 12 回：香川景樹の和歌を読む④—事につき時にふれたる (2)
- 13 回：香川景樹の和歌を読む⑤—雑歌
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義で扱う歌論や和歌を、自分自身で読解してきてください。

受講後、講義で扱った内容を踏まえて、もう一度、自分自身で順を追って理解して行ってください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:40% 講義への参加度:20% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する

### 参考文献 / Readings

岡本聡 『香川景樹』 笠間書院 2011 4305706164

兼清正徳 『香川景樹』 吉川弘文館 1988 4642051317

# 漢文学講読 1

Reading in Chinese Literature 1

漢文

宋 カン (SONG HAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

(1) 漢詩文を観賞する態度を身に付ける

(2) 漢文学史の流れを説明できるようになる

(3) 漢文学と日本文学の関係を総体的にイメージできるようになる

(1) Acquire the attitude to appreciate classical Chinese poetry and prose.

(2) Become able to explain the historical development of Chinese literary studies.

(3) Develop an overall understanding of the relationship between Chinese literary studies and Japanese literature.

## 授業の内容 / Course Contents

漢文学は単なる外国文学ではありません。例えば夏目漱石が漢詩の実作を趣味にしていたように、日本人の心を表す言葉の形としても受け継がれてきました。また、漢文学を表現の素材として受容し、活用した日本文学の作品も数多くあります。そうした漢文が持つ広がりや、皆さんと共にたどってみたいと思います。

Classical Chinese literature is not merely foreign literature. For example, as seen in the case of Natsume Soseki,

who enjoyed composing Chinese poetry as a hobby, the language has been inherited as a form of expressing the Japanese spirit. Additionally, there are numerous works in Japanese literature that have accepted and utilized classical Chinese literature as a material for expression. I would like to explore together with you the expansiveness that classical Chinese texts possess.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 漢文学と中国文学
- 2回：律令制と漢字漢文
- 3回：古代日本漢文学 『懐風藻』から菅原道真まで
- 4回：浦島太郎伝説と古代中国神仙譚
- 5回：軍記物の文体と漢文
- 6回：孔子と諸子百家
- 7回：漢文学の転換期としての建安時代
- 8回：六朝文学と風雅
- 9回：李白と杜甫
- 10回：唐宋散文の変革と「方丈記」
- 11回：宋代以降の市民社会と文学
- 12回：江戸漢詩の世界
- 13回：近世日中俗文学の関係
- 14回：近代小説と漢文学

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

中国史、日本史の基礎知識を予習しておくのが望ましい。中国の王朝名、日本の時代区分をすぐに思い出せると、授業内容を理解する上で便利。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% レスポンスシート:30% 出席および授業参加度:10%

### テキスト / Textbooks

授業時間内で適宜配布。

### 参考文献 / Readings

川合康三 『漢詩のレッスン』 岩波書店 2014 9784005007899

齋藤希史 『漢文脈と近代日本』 KADOKAWA 2014 9784044081089

その他、授業時間内で適宜指示。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし



# 漢文学講読 4

Reading in Chinese Literature 4

漢文

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT212

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 江戸中期に一世を風靡した古文辞学派の理念と実践を、服部南郭を通して理解する。
  - (2) 日本漢学の学者たちが参照していた中国の書籍に関する知識を得る。
  - (3) 漢詩のルールを身につけて、自ら鑑賞できるようになる。
  - (4) 漢文に自分で返り点（レ点や一二点）を付すことができるようになる。
  - (5) 漢詩表現の典拠を辞書やデータベースを用いて調べられるようになる。
- (1) Understand the philosophy and practice of the Ko-bunji school, which dominated in the mid-Edo period, through Hattori Nankaku.
  - (2) Acquire knowledge of Chinese books that Japanese scholars of Chinese studies referred to.
  - (3) Acquire the rules of Chinese poetry and be able to appreciate it on their own.
  - (4) To be able to add punctuation marks to Chinese texts by oneself.
  - (5) To be able to look up the sources of Chinese poetic expressions using dictionaries and databases.

## 授業の内容 / Course Contents

- (1) 江戸中期の漢詩人・服部南郭の詩論と実作を読解する。
- (2) 中国・日本の文学史における服部南郭の位置付けを考察する。
- (3) 日本近世における古文辞学派の詩論を理論的・実践的の両側面から捉える。
- (4) 漢詩のルールを学び、服部南郭の詩作に基づきその運用方法を確認する。

- (1) To read the poetic theories and actual works of Hattori Nankaku, a Japanese poet of the mid-Edo period.
- (2) To examine the position of Hattori Nankaku in the history of Chinese and Japanese literature.
- (3) The course will take a look at the poetics of the Ko-bunji school in early modern Japan from both theoretical and practical perspectives.
- (4) To study the rules of Chinese poetry and confirm their operation based on Hattori Nankaku's poetry.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 授業概要と評価の方法
- 2回：朱子学と古文辞学
- 3回：古文辞学派における服部南郭
- 4回：服部南郭『南郭先生灯下書』を読む①—雅俗について
- 5回：服部南郭『南郭先生灯下書』を読む②—あはれ・風雅について
- 6回：服部南郭『南郭先生灯下書』を読む③—詩のモデル
- 7回：服部南郭『南郭先生灯下書』を読む④—詩の稽古
- 8回：漢詩のルール概説
- 9回：服部南郭の漢詩を読む①—五言絶句
- 10回：服部南郭の漢詩を読む②—七言絶句
- 11回：服部南郭の漢詩を読む③—五言律詩
- 12回：服部南郭の漢詩を読む④—七言律詩 (1)
- 13回：服部南郭の漢詩を読む⑤—七言律詩 (2)
- 14回：まとめ (講義内容は適時変更になる場合があります)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義で扱う文章や漢詩を、自分自身で読解してきてください。

受講後、講義で扱った内容を踏まえて、もう一度、自分自身で順を追って理解してってください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:40% 講義への参加度:20% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

田尻 祐一郎・疋田 啓佑 『太宰春台・服部南郭』 明德出版社 1995 4896196171

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT231

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT232

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：指導 1
- 2 回：指導 2
- 3 回：指導 3
- 4 回：指導 4
- 5 回：指導 5
- 6 回：指導 6
- 7 回：指導 7
- 8 回：指導 8
- 9 回：指導 9
- 10 回：指導 1 0
- 11 回：指導 1 1
- 12 回：指導 1 2
- 13 回：指導 1 3
- 14 回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT233

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT234

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT235

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT236

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT237

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT238

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL1843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 研究小論文 1 b

Treatise 1b

研究小論文の執筆

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT239  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL1843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT241

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT243

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT244

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT245

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT246  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT247

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT248

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 a

Treatise 2a

研究小論文の執筆

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT249

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT251

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT252

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT253

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT254

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT255

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT256  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT257  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT258

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

## 研究小論文 2 b

Treatise 2b

研究小論文の執筆

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT259

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

### 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 文学講義 301

Lectures on Literature 301

日本文学史・古代1

平澤 卓也 (HIRASAWA TAKUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古代の神々の物語を読解しながら、あわせて後の時代に展開された多様な〈注釈〉に注目することで、神話に対する新たな見方を探る。

While reading classical stories about Japanese kami, we will focus on the many “chūshaku” (notes, commentaries, and interpretations) that developed later, searching for new ways of approaching myths.

## 授業の内容 / Course Contents

テーマ「神話と〈注釈〉」

神話は、自らを取り巻く世界を説明する原理として人間が生み出したものである。日本においては、『古事記』や『日本書紀』に収められた古代の神話がよく知られている。しかし、神話とは、決して固定化されたものではなく、時代の変化の中で読み替えられ、様々に変容していくという性質をもっている。本講義では、『古事記』『日本書紀』に描かれた神々を取り上げ、その諸相を分析するとともに、後世の〈注釈〉をたどることで、ダイナミックに変貌を遂げる神話を多面的に読み解いていく。

Myths and “Chūshaku”

Myths were born of humanity's basic need to understand the surrounding world. In Japan the classical myths compiled in Kojiki and Nihon shoki are well known. However, myths are not stable. How they are read changes with the times, and this mutability seems to be an intrinsic part of their nature. In this lecture course, we will consider various kami that are described in Kojiki and Nihon shoki. While analyzing these descriptions, we will read and explore the “chūshaku” (notes, commentaries, and interpretations) of later generations to see the many dynamic ways that they transformed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：日本神話をよむための基礎知識
- 3回：天地開闢
- 4回：イザナキ・イザナミ
- 5回：ツクヨミとヒルコ
- 6回：アマテラス 1
- 7回：アマテラス 2
- 8回：スサノヲ 1
- 9回：スサノヲ 2
- 10回：天孫降臨と三種神器 1
- 11回：天孫降臨と三種神器 2
- 12回：天孫降臨と三種神器 3
- 13回：海幸・山幸
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業後は配布した資料を熟読し、紹介した参考文献に目を通しておくこと。また、授業で扱うものだけでなく、関連する作品を積極的に探して読むこと。特に興味を持った作品については、自ら資料を集めて考察し、それをもとに最終レポート（4000字以上）を作成すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レスポンスシート:30% 受講態度:30% 最終レポート:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC（課題提出に必要）

### その他 / Others



- ・単位を修得するには、次の3つの条件を満たす必要がある。①全14回中10回以上の出席、②授業後のレスポンスシートの提出、③最終レポート（4000字以上）の提出。
- ・詳しい授業の進め方については、初回の授業時に説明する。
- ・授業に関する情報はCanvas LMSに掲載するので、受講前に確認すること。

# 文学講義 302

Lectures on Literature 302

日本文学史・古代2

平澤 卓也 (HIRASAWA TAKUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

神仏に関する縁起や説話を読み解き、前近代における日本の宗教文化に対する理解を深める。

In this lecture course we will read foundation legends and didactic tales that relate to Japanese kami as well as to Buddhist deities and divinities. This will deepen students' understanding of premodern Japanese religious culture.

## 授業の内容 / Course Contents

テーマ「神と仏の文学史」

日本の神祇信仰は、仏教と密接に関連しながら発展し、やがて、神々は仏・菩薩が衆生救済のために仮に姿を現した存在であるとする本地垂迹説が成立した。こうした複雑な神仏関係を背景に、多くの霊験譚・神異譚が作られたのである。本講義では、これらの中から熊野や春日、日吉といった著名な神社の祭神に関する文献や関連資料、絵画作品などを取り上げて、その内容を分析し、前近代の人々の神観念について考察する。

The History of Literature on kami and Buddhas

Japanese belief in kami developed in close relationship with Buddhism, and over time the idea of honji-suijaku

was established, which maintained that the various kami were actually temporary forms taken by buddhas and bodhisattvas in order to save living beings. Against the background of this complicated relationship between kami and Buddhist entities, many miracle tales were written. In this lecture course, we will consider texts, materials, and paintings that relate to the main kami worshipped at such famous shrines as Kumano, Kasuga, and Hie. We will analyze the content of these works in order to interrogate premodern people's ideas about kami.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：神仏関係の展開について
- 3回：熊野信仰 1
- 4回：熊野信仰 2
- 5回：春日信仰 1
- 6回：春日信仰 2
- 7回：日吉山王信仰 1
- 8回：日吉山王信仰 2
- 9回：祇園信仰 1
- 10回：祇園信仰 2
- 11回：伊勢信仰 1
- 12回：伊勢信仰 2
- 13回：諏訪信仰
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業後は配布した資料を熟読し、紹介した参考文献に目を通しておくこと。また、授業で扱うものだけでなく、関連する文献を積極的に探して読むこと。特に興味を持ったものについては、自ら資料を集めて考察し、それをもとに最終レポート（4000字以上）を作成すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レスポンスシート:30% 受講態度:30% 最終レポート:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC（課題提出に必要）

### その他 / Others

- ・単位を修得するには、次の3つの条件を満たす必要がある。①全14回中10回以上の出席、②授業後のレス

ポンスシートの提出、③最終レポート（4000 字以上）の提出。

- ・ 詳しい授業の進め方については、初回の授業時に説明する。
- ・ 授業に関する情報は Canvas LMS に掲載するので、受講前に確認すること。

# 文学講義 303

Lectures on Literature 303

日本文学史・古代3

泉屋 咲月 (IZUMIYA SATSUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

『源氏物語』成立までの文学史を理解する。

The student will Understand the literary history leading up to the formation of The Tale of Genji.

## 授業の内容 / Course Contents

口承文学を始発とする日本の文学は、さまざまな歴史や文化を背景として発達してきた。本講義では、平安時代中期に成立した『源氏物語』に至るまでの、文学史を概観する。時代背景と作品との関わりを確認しながら、可能な限り作品本文を読む。

Japanese literature, which began as oral literature, has developed against a background of various histories and cultures. In this lecture, we will overview the history of literature up to "The Tale of Genji," which was established in the mid-Heian period. Students will read the text of the work as much as possible while confirming the relationship between the historical background and the work.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 2回：神話・伝承・説話  
 3回：漢詩・歌謡・和歌  
 4回：漢詩文  
 5回：和歌  
 6回：日記  
 7回：随筆  
 8回：作り物語  
 9回：歌物語  
 10回：物語（1）  
 11回：物語（2）  
 12回：物語（3）  
 13回：物語（4）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介した作品の中で、興味を持ったものについては作品全体を読むとよい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :74%

平常点割合 :26% 出席および授業参加度:26%

#### テキスト / Textbooks

プリントを配付する。

#### 参考文献 / Readings

# 文学講義 304

Lectures on Literature 304

日本文学史・古代4

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT304

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面7回（オンライン7回）

物語の世界を理解するために物語絵を見てもらうので、オンラインを7回実施する。

オンライン（1・3・5・7・9・11・13回目の授業）

対面（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

『源氏物語』における先行文学の引用の有り様を探究し、文学史の流れの中に『源氏物語』があることを理解する。

The course will investigate citations of prior literature in Genji Monogatari, to understand the tale's presence within the flow of literary history.

## 授業の内容 / Course Contents

『源氏物語』は、和歌や漢詩や物語などの先行文学作品を引用して己が血肉としている。引用表現に導かれた読者は、『源氏物語』の背後に先行文学作品の世界を重ね合わせ、両者の共通点と相違点を感じ取ったり、新しく生まれてくる意味を読み取ったりしながら、『源氏物語』独自の世界を鑑賞することとなる。

本講義では、『源氏物語』における先行文学の引用の有り様を探ることによって、『源氏物語』から振り返っ

て見える文学史の風景を照らし出す。

Genji Monogatari is related to prior literary works such as waka, Chinese poetry, and tales, through its citations of these. Guided by the cited representations, readers gain appreciation of the unique world of Genji Monogatari, superimposing the world of the prior literary works that lie behind it, feeling the common points and differences among these, and reading the meanings that emerge.

The course will shed light on the landscape of literary history made visible in retrospect from Genji Monogatari, by exploring the nature of the citations of prior literature in the tale.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：『源氏物語』における「長恨歌」引用（1）
- 2回：『源氏物語』における「長恨歌」引用（2）
- 3回：『源氏物語』における「長恨歌」引用（3）
- 4回：『源氏物語』における引歌（1）
- 5回：『源氏物語』における引歌（2）
- 6回：『源氏物語』における『竹取物語』引用（1）
- 7回：『源氏物語』における『竹取物語』引用（2）
- 8回：『源氏物語』における『竹取物語』引用（3）
- 9回：『源氏物語』における『伊勢物語』引用（1）
- 10回：『源氏物語』における『伊勢物語』引用（2）
- 11回：『源氏物語』における『伊勢物語』引用（3）
- 12回：『源氏物語』における『篁物語』引用（1）
- 13回：『源氏物語』における『篁物語』引用（2）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『源氏物語』以前の文学史の流れを把握しておくこと。

『源氏物語』全体の概略を把握しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :72%

平常点割合 :28% 授業への参加態度:28%

毎回、授業についての感想、意見、質問などをリアクションペーパーとして提出してもらいます。

### テキスト / Textbooks

プリントを使用します。

### 参考文献 / Readings

適宜紹介します。



# 文学講義 305

Lectures on Literature 305

日本文学史・中世 1

岩城 賢太郎 (IWAGI KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT305

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

○日本中世から近世初期にかけての文学・芸能の各ジャンルや主要な作品の特徴・特性を知り、理解した上で、各ジャンルや作品間の関連や展開について、自分なりに把握し、考えることが出来る。

○源平合戦史の概要、展開、受容等を、文学や芸能の作品を介して、多面的・多角的に理解し、考えることが出来る。

○Lectures will be given on literature and performing arts from the Japanese medieval to early-modern. Learn and understand the characteristics of various genres and major works. The aim is for students to be able to understand and explain the relationship between each genre and work.

○Learn about the outline of the battle between the Genji and Heishi clans. Also, learn about works of literature and performing arts that covered the battle. The aim is for students to be able to think for themselves and explain the relationship between historical battles and works of literature and performing arts created in subsequent eras.

## 授業の内容 / Course Contents

日本中世の幕開けである源氏・平氏の抗争・鬭争の動静や展開を、文学・芸能・絵画の各分野作品の本文の読

解・分析や、作品の鑑賞・分析を通して辿って行きます。軍記物語、和歌、歴史評論、能、狂言、幸若舞曲、絵巻・絵本、屏風、等様々な文芸ジャンルや作品が対象ですが、部分的には、時代の画期・過渡期を扱い、文芸ジャンルの関連・展開を辿るために、浄瑠璃や歌舞伎、浮世絵、等、近世の文芸ジャンルの作品を読解・分析の対象とします。

We will read, appreciate, and consider works in various genres such as literature, performing arts, and painting that were created based on the battle between the Genji and Heishi clans, which is considered a turning point in the Japanese medieval period. We offer classes on works in a variety of genres, including military tales, Japanese poetry, historical criticism, Noh play, Kyogen play, Kowakamai play, picture books, picture scrolls, and folding screens. However, in some classes, in order to consider the relationship between changing times and the corresponding literature and performing arts, we will also cover the Japanese early-modern works such as Bunraku play, kabuki, and ukiyo-e.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス、及び概説（受講者アンケートの実施）

中世文学・中世芸能の概説・確認

2回：「慈円・平氏・源氏」

中世の画期と軍記物語：『愚管抄』と『保元物語』『増鏡』

3回：「崇徳院と西行法師」

軍記物語と中世文芸：『保元物語』と能（謡曲）「松山天狗」・『山家集』と『撰集抄』

4回：「信西・源義朝」

軍記物語と絵画：『平治物語』と『平治物語絵巻』

5回：「常葉と平清盛」

軍記物語の享受と展開：幸若舞曲「伏見常葉」と『山中常葉物語絵巻』

6回：「源義仲と今井兼平・巴」

源平合戦に纏わる地域伝承と芸能：能（謡曲）「兼平」「巴」と古浄瑠璃「木曾物語」

7回：「建礼門院右京太夫と平資盛・平重衡と千手」

『平家物語』と中世文芸：『平家物語』と『建礼門院右京太夫集』・室町時代物語『横笛草紙』

8回：「那須与一・悪七兵衛景清」

源平合戦譚と芸能：能（謡曲）「八島」（狂言「那須語」）と幸若舞曲「那須与一」・能（謡曲）「景清」と浄瑠璃「出世景清」

9回：「安徳天皇と平知盛」

源平合戦の終幕と宝剣伝承：『源平盛衰記』と能（謡曲）「船弁慶」・浄瑠璃「義経千本桜」

10回：「建礼門院徳子と後白河院」

軍記物語と芸能における「語り」或いは鎮魂：『平家物語』と能（謡曲）「大原御幸」

11回：「源頼朝と北条政子・静御前」

源平合戦の武士と女性：『吾妻鏡』・『義経記』と能（謡曲）「二人静」

12回：「源実朝と藤原定家・後鳥羽院」

鎌倉と京都：『金槐和歌集』と『近代秀歌』・『新古今和歌集』

13回：「鎌倉・関東の武者たち」

鎌倉幕府周辺の武士たちと芸能：『吾妻鏡』・『曾我物語』と狂言「朝比奈」・歌舞伎「曾我の対面」

14回：当講義科目の総括の後、授業内で学期末テスト（筆記・記述・論述）を実施の予定

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

【予習】受講者各自で授業開始時までに、文学・芸能の作品のテキスト（プリントで配布の予定）を読み、意味内容や理解が不明・あいまいな字句や表現等について、各種辞書・事典等で調べておく。

【復習】授業内で分析、考察、議論した作品について、授業後に改めて自身で振り返り、コメントシートを提出し、他の受講者のコメントシートの内容にも目を通す。 ※Google フォーム等のオンライン授業支援システム等を活用する予定

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業毎に提出するコメントシート:30% 出席と受講姿勢:30% 最終テスト割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

プリント資料を配布する予定です。

**参考文献 / Readings**

- 西野春雄・羽田昶編 『新訂増補 能・狂言事典』 平凡社 4582126227  
 服部幸雄・広末保・富田鉄之助編 『新版 歌舞伎事典』 平凡社 9784582126426  
 富澤慶秀・藤田洋監修 『最新 歌舞伎大事典』 柏書房  
 徳田和夫編 『お伽草子事典』 東京堂書店 4490106092  
 大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編 『平家物語大事典』 東京書籍 9784487799831

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

日本の各種古典文学に対する興味・関心

日本の各種古典芸能に対する興味・関心

日本の芸能・絵画ほか、文化一般に対する興味・関心

※日本の古典文学作品を読解する基本的な能力（文法・語彙力、或いは読もうという意欲）が必要です。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業時間中には必須ではありませんが、授業の予習・復習時において、パソコン操作やWEB上の画像や映像資料の閲覧や視聴が必要になります。

**その他 / Others**

【授業計画】はシラバス執筆時の科目担当者の構想からテーマや作品名を列記したものであり、初回授業時の受講者アンケートの結果、及び各授業回のディスカッションやコメントカードの内容・反応から、受講者に説明・確認の上、講義内容や対象作品、学修順序等を調整・変更して行きます。

小学校教諭を志す人、中学校・高等学校の国語科免許の履修を志している人の履修も歓迎します。（授業時には、学校教育各社教科書で扱われている作品等の紹介・活用・応用等の話題も扱う予定です）

# 文学講義 306

Lectures on Literature 306

日本文学史・中世2

加美 甲多 (KAMI KOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT306

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、自らの感性で中世文学の作品を味わいながら、その特色について説明できるようになることが大きな目標です。それには、作品を通して中世の人々や中世という時代について理解できるようになることも大切です。

The major goal of this course is to enable students to be able to explain the characteristics of medieval literature while enjoying works of medieval literature with their own sensibilities. To that end, it is also important to be able to understand the people of the Middle Ages and the era of the Middle Ages through the work.

## 授業の内容 / Course Contents

文学は読むだけでなく、見る（観る）、聴く、食べる、香る、触れるといった行為でも知り、学び、楽しめま。むしろ、中世の人々はそういった行為から文学に近づくことの方が多かったと言えます。本講義では文字資料はもちろん、絵画資料、音声資料、映像資料等の様々な媒体を用いて比較しながら中世文学の特色について分析します。また、中世文学における仏教観や近世文学とのつながり等についても一緒に考えてみましょう。

Literature can be learned and enjoyed not only by reading it, but also by watching, listening to, eating, smelling, and touching it. Rather, it can be said that people in the Middle Ages often approached literature through such acts. In this course, we will analyze the characteristics of medieval literature by comparing various media such as written materials, painting materials, audio materials, and video materials. In addition, I would like to think together about the view of Buddhism in medieval literature and its connection with early modern literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 中世文学の魅力
- 2回：中世文学を学ぶにあたって
- 3回：文字と絵画① 『鳥獣人物戯画』
- 4回：文字と絵画② 地獄絵
- 5回：文字と絵画③ 『方丈記』『徒然草』
- 6回：文字と語り① 『平家物語』, 平曲
- 7回：文字と語り② 昔話, 御伽草子
- 8回：中世和歌 『新古今和歌集』, 『小倉百人一首』
- 9回：文字と音楽 雅楽や箏箏, 声明
- 10回：文字と舞台芸能 能狂言 (能楽)
- 11回：能『鉄論』
- 12回：狂言『附子』
- 13回：説教から落語へ 中世文学と近世文学
- 14回：まとめ 中世文学の可能性

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

中世文学について興味を持ち、自らの関心のある文学や著者、事項などについて積極的に調査、情報収集してください。また、最終レポートの作成、提出に向けて準備してください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業貢献度 (出席等) :30% 各回のコメント内容:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

毎回、担当者が作成したレジュメ、資料を使用します。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介します。

# 文学講義 308

Lectures on Literature 308

日本文学史・和歌・俳諧2

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT308

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

恋歌という窓を通して古典和歌の世界を概観し、修辞技法など和歌独特のルール、題詠や本歌取りといった表現方法、歌書の成立過程など和歌文学をめぐる様々な問題について理解を深めることを目的とする。

The aim is to overview the world of classical waka poetry through the window of love poetry, and to deepen understanding of various issues surrounding waka literature, such as rhetorical techniques and other rules unique to waka poetry, expressive methods such as "daiei" and "honka-dori", and the process of establishing waka poetry books.

## 授業の内容 / Course Contents

実際に恋人同士が交わした恋歌、虚構の恋を詠んだ歌、女流日記の中の恋歌など、様々な恋歌を取り上げて解説する。また恋題の歌を読むことを通して題詠のあり方について学ぶ。

Various love poems will be discussed, including actual love poems exchanged between lovers, fictional love poems and love poems in women's diaries. Also, through reading love poems, students will learn about the nature of "daiei" (poetry composed on a theme).

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス
- 2回：和泉式部と敦道親王の恋—女流日記における和歌の役割
- 3回：藤原俊成と定家母の恋—『源氏物語』の影響
- 4回：建礼門院右京大夫と二人の恋人（1）—作者の意図
- 5回：建礼門院右京大夫と二人の恋人（2）—自撰私家集の特色
- 6回：藤原隆房と小督の恋（1）—私家集の改編
- 7回：藤原隆房と小督の恋（2）—長歌と絵巻を考える
- 8回：藤原定家と式子内親王の「恋」—男歌・女歌
- 9回：恋の贈答歌
- 10回：『堀河院艶書合』と中世艶書文例集
- 11回：題詠の恋歌（1）—恋題の展開
- 12回：題詠の恋歌（2）—題意の表し方
- 13回：題詠の恋歌（3）—寄物型の恋題
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回の講義は、前回までの講義の理解を前提として行われる。講義資料・ノートの見直しなどの復習が求められる。疑問点があればコメント提出の際に質問すること。質問に対してはフィードバックコメントで対応する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のコメント:30% 授業内課題:30% 最終レポート割合：40%

**テキスト / Textbooks**

毎時間、プリントを配布する。

**参考文献 / Readings**

授業時に適宜指示する。

**その他 / Others**

授業は講義資料・板書を使用した講義形式で行う。コメントの提出、レポート課題の提示などに「Canvas LMS」を利用する。

# 文学講義 309

Lectures on Literature 309

日本文学史・和歌・俳諧3

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

私家集・私撰集・歌合・異種百人一首など様々な和歌作品の特質を学び、多様な歌集のあり方について理解を深める。また歌集編纂を通して鑑賞眼を養う。

Learn about the characteristics of various waka works, such as private collections, private anthologies, poetry contest, and different types of hyakunin issyu, and deepen your understanding of the various types of waka anthologies. Also develop an appreciation of waka poetry through the compilation of waka anthologies.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、受講生に歌集の編纂に取り組んでもらう。まず、様々な種類の歌集について解説する。その上で、自分なりの編纂方針を立てて和歌を集成し、配列や題名も考え、和書の形態について学び、製本まで行う。豊穡な和歌の世界に自ら分け入り、古典和歌のおもしろさ、奥深さを実感してほしい。

In this lecture, students will be asked to work on the compilation of a poetry anthology. First, the various types of waka anthologies will be explained. Then, they will formulate their own compilation policy, compile waka poems, think about the arrangement and titles, learn about the form of Japanese books, and even bind the books. I hope



that students will enter the rich and fertile world of waka poetry and experience the interest and depth of classical waka poetry for themselves.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：他撰私家集—他撰私家集の編纂方法
- 3回：他撰私家集—物語的私家集・集団の私家集
- 4回：私撰集
- 5回：歌合
- 6回：百人一首（異種百人一首）
- 7回：中間テスト
- 8回：歌集を編む 1—作業計画作成・和歌の集成
- 9回：歌集を編む 2—和歌の集成
- 10回：歌集を編む 3—部類・配列
- 11回：歌集を編む 4—和書の知識・清書・製本
- 12回：歌集を編む 5—発表会
- 13回：歌集を編む 6—発表会
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義は、前回までの講義の理解を前提として行われる。講義資料・ノートの見直しなどの復習が求められる。疑問点があれば、コメント提出時に質問すること。質問に対してはフィードバックコメントにより対応する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のコメント:30% 授業内テスト:30% 作品:40%

期末テスト・レポートは課さない。

### テキスト / Textbooks

毎時間、プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

### その他 / Others

6回目までの授業は講義資料・板書等を利用した講義形式で行う。8回目以降は各自で作業に取り組み、最後に自分の編んだ歌集について発表を行う。自分で歌を創作する授業ではないので、誤解のないようにして欲しい。コメントの提出、レポート課題の提示などに「Canvas LMS」を利用する。

# 文学講義 311

Lectures on Literature 311

日本文学史・近世1

井上 和人 (INOUE KAZUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

【1】江戸時代における「やつし」「見立て」とは、それぞれどのような表現様式であるのかを、両者の違いとともに説明することができる。【2】海外にも大きな影響を与えた江戸時代の文芸美術作品について、「やつし」「見立て」の視点から適切に説明することができる。

【1】 Be able to explain the different expression styles of "yatsushi" and "mitate" in the Edo period, as well as the differences between the two. 【2】 Be able to appropriately explain the literary and artistic works of the Edo period, which had a great influence overseas, from the perspective of "yatsushi" and "mitate".

## 授業の内容 / Course Contents

【テーマ】江戸時代の表現様式を「やつし」「見立て」から読み解く。【概要】江戸時代の表現様式として、社会のすみずみに行き渡っていたのが「見立て」と「やつし」であった。「見立て」はあるものを別のものになぞらえることであり、「やつし」は古典を現代風に卑近にして表すことである。この授業では、主に江戸時代前期から中期の散文作品を読み解きながら、表現技法「やつし」「見立て」の実際を見ていく。ただし、江戸時代の文芸作品が、履修者にとって、必ずしもなじみ深いものではないという現状をふまえ、まずは作品に親しむこ

とを優先させたい。

【Theme】 Deciphering the expression styles of the Edo period from "Yatsushi" and "Mitate". 【Overview】 In the Edo period, "mitate" and "yatsushi" were forms of expression that were pervasive in every corner of society. "Mitate" is to compare one thing to another, and "Yatsushi" is to express a classic in a modern and familiar way. In this class, we will look at the expressive techniques "Yatsushi" and "Mitate" in practice while primarily reading prose works from the early to mid-Edo period. However, given the current situation that literary works from the Edo period are not necessarily familiar to students, we would like to prioritize becoming familiar with the works first.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：シラバスに基づくガイダンス：「やつし」「見立て」の日常的語義
- 2回：「百人一首」「三十六歌仙」をやつす
- 3回：『源氏物語』をやつす1：『好色一代男』巻1の1
- 4回：『源氏物語』をやつす2：『好色一代男』と『源氏物語』
- 5回：『伊勢物語』をやつす1：『好色一代男』巻4の2
- 6回：『伊勢物語』をやつす2：『好色一代男』と『伊勢物語』
- 7回：『伊勢物語』をやつす3：『仁勢物語』と『伊勢物語』
- 8回：『義経記』をやつす：『風流御前義経記』と『義経記』
- 9回：「やつし」の整理と「見立て」の定義
- 10回：戯作における「見立て」1：『絵兄弟』と『於都里伎（おつりき）』
- 11回：戯作における「見立て」2：『うどんそば化物大江山』
- 12回：ことばの「見立て」：「なぞなぞ」を作ってみよう
- 13回：浮世絵における「やつし」と「見立て」
- 14回：授業全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー（毎時提出）:40%

【1】リアクションペーパーを白紙で提出した者や「わかりません」と記載して提出した者は、その回の平常点は0点となる。【2】リアクションペーパーについては、次回授業時にフィードバックを行う。期末レポート（レポート試験）については、「CanvasLMS」上にてフィードバックを行う。

### テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

国文学研究資料館 『図説「見立」と「やつし」：日本文化の表現技法』 八木書店 2008 9784840696685

国文学研究資料館 『図説江戸の「表現」：浮世絵・文学・芸能』 八木書店 2014 9784840696890

岩田秀行 『江戸芸文攷：黄表紙・浮世絵・江戸俳諧』 若草書房 2019 9784904271209

参考書は必要に応じて図書館で閲覧すればよい。

### その他/ Others

■「やつし」「見立」とは何か？ 「パロディ」といえばわかりやすいかもしれぬが、事はもう少し繊細だ。それでいて、普段の会話にも顔を出す。「黄門さまが越後のチリメン問屋のご隠居に身を【やつして】旅をする」、「友だちを面接官に【見立てて】面接の練習をした」という具合に。決して難語ではない。だが、「やつし」「見立」が、江戸時代の表現技法として、真正面から考えられはじめたのは、ごくごく最近。したがって、この授業のテーマは現在進行形、きわめてホットなものだ。■履修上の注意：【1】教科書は使用せず、プリントを配る。【2

# 文学講義 312

Lectures on Literature 312

近世

安原 眞琴 (YASUHARA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

安原が制作したドキュメンタリー映画『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』を鑑賞しながら、芸者が支えた土文化について考える

Learning about Edo culture supported by geisha, while watching the Movie "The Last Geisha Madame Minako" directed by Makoto Yasuhara

## 授業の内容 / Course Contents

女性芸能者・芸者が支えた江戸文化について、吉原芸者の記録映像を参考にしながら学ぶ。

In this class, we will study Edo culture supported by geisha, while watching the Movie "The Last Geisha Madame Minako" directed by Makoto Yasuhara.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：授業の概要を説明する

2 回：江戸の文化政策を学ぶ

3 回：遊廓、特に吉原について学ぶ

- 4回：遊廓、特に吉原について学ぶ  
 5回：芸者、特に吉原芸者について学ぶ  
 6回：『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』の概要を学ぶ  
 7回：『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』を鑑賞しながら江戸文化を学ぶ  
 8回：『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』を鑑賞しながら江戸文化を学ぶ  
 9回：『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』を鑑賞しながら江戸文化を学ぶ  
 10回：『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』を鑑賞しながら江戸文化を学ぶ  
 11回：『最後の吉原芸者四代目みな子姐さん』を鑑賞しながら江戸文化を学ぶ  
 12回：現在の花街について考える  
 13回：現在の花街について考える  
 14回：まとめと補足

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回リアクションペーパーで授業内容を反芻し、論述形式でまとめる。
- ・参考文献やテキストなどを読んで、小レポートをまとめる。
- ・授業を振り返りつつ、最終レポートをまとめる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    リアクションペーパー:40%    出席および授業参加度:20%    小レポート:20%    最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に定めませんが、下記や授業時に指示する参考文献を読むこと。

### 参考文献 / Readings

安原眞琴 『芸者が支えた江戸の芸』 NHK 出版 2016

授業時に適宜参考文献をあげます。

### その他 / Others

安原眞琴の HP

<http://www.makotooffice.net/>

# 文学講義 313

Lectures on Literature 313

日本文学史・近現代1

米山 大樹 (YONEYAMA HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT313

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1 〈幼さ〉を描いた小説の読解を通して、日本近現代文学の表現について考察する発想と問題意識を身につける。

2 文学作品を分析的に読解し、論理的に言語化する方法を身につける。

3 日本近現代文学の基本的な文学史や同時代コンテキストを理解する。

1) To become aware of social issues and new ideas expressed in modern and contemporary Japanese literature by focusing on current conceptions and representations of “youth.”

2) To learn techniques for analyzing literary works and criticism, and how to organize logically and express critically one’s own thinking.

3) To grasp the history of modern and contemporary Japanese literature in its wider social context.

## 授業の内容 / Course Contents

・大人に何かを気づかせる無垢で純真な子ども、大人たちのシステムを転覆させる少女・少年、葛藤し成長する青年、街やメディアにあふれる多種多様な「かわいい」もの……。〈幼さ〉は、近現代社会における重要な概

念であり、日本近現代文学の主要なモチーフである。

・この授業では日本近現代文学の作品の読解を行う。〈幼さ〉をめぐる歴史的・社会的背景と文芸作品との関係性を検討し、日本近現代文学において〈幼さ〉がどのように描かれてきたのかを講義する。

・講義で扱う作品は授業計画に示したものを予定しているが、これらは暫定的なものであり変更もあり得る。

・ The concept of “youth” shapes modern and contemporary society and serves as a major motif in modern and contemporary Japanese literature. We can see it in the innocence and purity of children who are able to grasp the world in ways that adults cannot; in the girls and boys who take over – and sometimes overthrow – the society built by the previous generation; in boys who struggle to become men; and in the diverse panoply of kawaii (cute) things that flood everyday media and society.

・ In this course, students will learn how to read works of modern and contemporary Japanese literature. We will explore the ways in which "youth" is represented in modern and contemporary Japanese literature and delve into the historical and social background that also structures these literary works.

・ Please note that while the authors and works for this course are indicated on the course syllabus, they are subject to change depending on such factors as availability, class size, and student interests.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、アンケート
- 2回：よしながふみ「こどもの体温」、松田青子「若い時代と悲しみ」
- 3回：村田沙耶香「丸の内魔法少女ミラクリーナ」
- 4回：終わらない〈幼さ〉の夢
- 5回：近現代文学史のなかの子どもたち
- 6回：国木田独歩「春の鳥」概説
- 7回：国木田独歩「春の鳥」読解
- 8回：谷崎潤一郎「小さな王国」概説
- 9回：谷崎潤一郎「小さな王国」読解
- 10回：川端康成「伊豆の踊子」概説
- 11回：川端康成「伊豆の踊子」読解
- 12回：河野多恵子「塀の中」概説
- 13回：河野多恵子「塀の中」読解
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示されたテキストの読解などの課題を提出する。

授業内で紹介された参考文献を読む。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題提出:40% リアクションペーパー:20%

最終レポート割合 :40%



**テキスト/ Textbooks**

授業のなかで適宜配布する。

**参考文献 / Readings**

阿部公彦 『幼さという戦略』（朝日選書） 朝日新聞出版 2015 9784022630384

川田宇一郎 『女の子を殺さないために: 解説「濃縮還元 100%の恋愛小説」』 講談社 2012 4062175207

上記以外の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

明治から昭和の時代に日本で起きた主な歴史的出来事についての基礎的な知識を必要とする。

翻訳機等を用いずに日本語で短編小説を通読する能力を必要とする。

400 字～4000 字程度の学術的な文章を記述する能力を必要とする。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

スライド（PowerPoint）の使用を中心として講義を行う。教室のスクリーンを利用するが、必要に応じて授業に PC やタブレットを持参することを推奨する。

リアクションペーパーには「Google フォーム」を使用し、授業中の提出を求める。PC、タブレット、スマートフォンなど、「Google フォーム」を提出できる機器とネット環境を用意すること。

資料の配布・課題の提出・必要事項の連絡には、「Canvas LMS」を使用する。適宜「Canvas LMS」を確認しておくこと。

**その他/ Others**

課題やリアクションペーパーのフィードバックは授業開始時に受講生全体に対して行う。

その際に受講生に読み上げや応答を求めることもあるので、積極的な受講態度が求められる。

# 文学講義 314

Lectures on Literature 314

日本文学史・近現代2

後藤 隆基 (GOTO RYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

二次創作（アダプテーション）の検討を通して、江戸川乱歩（作家／作品）がいかにかに受容され、新たな表現に変奏されてきたかを学ぶ。

Through an examination of secondary creation (adaptation), we will learn how Edogawa Rampo (author/work) has been received and transformed into new expressions.

## 授業の内容 / Course Contents

江戸川乱歩が、今日にいたるまで、幅広い世代のファンを獲得しているのはなぜか。本科目では、乱歩作品の二次創作という視点から、その受容と翻案の変遷を学ぶ。視聴覚資料を用い、演劇、映像、文学、美術など、多様なジャンルにおける「江戸川乱歩」を探る。

Why does Edogawa Rampo have fans from a wide range of generations to this day? In this course, we will study the changes in the reception and adaptation of Rampo's works from the perspective of derivative works. Using audiovisual materials, we will explore "Edogawa Rampo" in a variety of genres such as theater, video, literature, and art.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス
- 2回：アダプテーションについて
- 3回：映画
- 4回：テレビドラマ
- 5回：落語
- 6回：講談
- 7回：音楽
- 8回：美術
- 9回：歌舞伎
- 10回：漫画
- 11回：アニメ
- 12回：アート
- 13回：演劇
- 14回：教場試験

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業テーマに関わる演劇や映画、文学作品、美術館・博物館等の展覧会等を紹介するので、実際にそれらを鑑賞すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

全14回の内、10回以上の出席がない場合、成績評価の対象外とする。

**テキスト / Textbooks**

特定のテキスト（教科書）は使用せず、毎回の授業で必要に応じてレジュメを配付する。

**参考文献 / Readings**

教室で適宜アナウンスする

**その他 / Others**

授業計画に記載のテーマは、授業実施時の状況によって順番が入れ替わることもある。

# 文学講義 315

Lectures on Literature 315

日本語史 1

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義の目標は、日本語の歴史について辞書史の観点から概観できるようになるとともに、特に代表的で重要な辞書についての知識及び理解を深めることです。

The goal of this course is to provide an overview of the history of dictionaries in Japan, as well as a particularly in-depth understanding of some important dictionaries.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、色々なテーマで日本語の歴史を眺めていきます。今年度は、日本における辞書の歴史について、時代を追って概説していきます。

日本では、これまで数多くの辞書が作られてきました。そこでまずは、辞書とはどういうものであるかを概観した後に、前半では辞書が形作られていく様子や社会背景、使用実態、具体的な中身などについて、できるだけ多くの辞書を通じて紹介していきます。後半では、近世の国語辞書・古語辞書をメインで取り上げ、それらが近代以降にどのような影響を及ぼしているのか、といったことを話していきます。辞書を編纂する人のドラマは現代でも注目を集めておりますが、歴史上も辞書をめぐっては多くの人間ドラマが展開していますので、

そのようなことも可能な限りお伝えいたします。

受講に際しては、図書館やネット上の資料を活用して、紹介した辞書やその周辺の辞書を実際に眺めてみることを求めます。辞書は実用してこそ意味を持ちますので、実際にいくつか引いてもらうこともあります。

In this class, we will look at the history of the Japanese language through a variety of themes. This year, we will outline the history of dictionaries in Japan through the ages.

In Japan, many dictionaries have been produced over the years. The first half of the course will introduce how dictionaries were created, their social background, how they were used, and their specific contents through as many dictionaries as possible. In the second half, we will focus mainly on Japanese and archaic dictionaries from the early modern period and discuss how they have influenced the modern period and beyond. The drama of people compiling dictionaries has attracted much attention even today, but there have also been many human dramas in history surrounding dictionaries, which we will also share with you as much as possible.

We will ask students to actually look at the dictionaries we have introduced and their surrounding dictionaries by using the library and online resources. Dictionaries are only useful for practical use, so we may ask you to actually pull out some of the dictionaries.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：辞書の定義と分類
- 3回：古代の辞書 概論
- 4回：古代の辞書 各論
- 5回：中世の辞書 概論
- 6回：中世の辞書 各論
- 7回：近世の辞書 概論
- 8回：近代の辞書 概論
- 9回：現代の辞書 概論
- 10回：近世の辞書 各論 『倭訓栞』の背景
- 11回：近世の辞書 各論 『倭訓栞』の特徴
- 12回：近世の辞書 各論 『雅言集覧』の背景
- 13回：近世の辞書 各論 『雅言集覧』の特徴
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・調べ方を学んだうえで、授業中に紹介した辞書を実際に眺めてみる。
- ・課題が出た場合には、実際に辞書を引いてみる。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小課題:40%

**テキスト/Textbooks**

沖森卓也編 『図説 日本の辞書 100 冊』 武蔵野書院 2023 9784838606603 ○

受講生はテキストを必ず持参してください。配布資料もありますが、テキストを随時活用します。

**参考文献 / Readings**

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

立教の図書館をしっかり活用するとともに、PC 等で画像を色々と見ていくことになります。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業中にもスライドを映して辞書の画像を見ることがありますが、手元にも PC 等があると便利です。

# 文学講義 317

Lectures on Literature 317

古代日本文学1

松岡 智之 (MATSUOKA TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、受講者のみなさんが、紫式部の著作を理解し、それらについて説明できるようになることです。併せて、受講者のみなさんが、日本古典文学の作品について、何を把握すれば、当該作品を理解したことになるかという学びの型を会得することが、この授業の目標です。

The goal of this course is to be able to understand and explain Lady Murasaki's works. At the same time, the goal of this course is also for students to acquire a way of learning that helps them to know what they need to grasp in order to understand classical works of Japanese literature.

## 授業の内容 / Course Contents

『紫式部日記』『紫式部集』『源氏物語』に関する講義。まず、『源氏物語』成立の資料となる『紫式部日記』中の記事について解説します。次に『紫式部日記』の伝本の書誌学的・文献学的解説をします。特に、黒川本『紫日記』が最善本と認定された過程・理由を説明します。次いで、各部分の均衡を欠く点で特異な、『紫式部日記』の構成を解説します。続いて、『紫式部日記』中の重要箇所の内容・表現について講釈します。次に、『紫式部集』を取り上げます。『紫式部集』が、基本的に年代順に和歌を配列しつつ、部分的に素材に応じた歌

群を作る工夫を凝らした構成であることを説明します。次いで、具体的に、数首の和歌について詳細に解説します。次いで『源氏物語』を取り上げます。まず、授業者の考える『源氏物語』の特徴を論じます。続いて、『源氏物語』と先行する諸文学作品との関係について解説します。第三に、歴史と『源氏物語』との関係を解説します。

Lecture on The Diary of Lady Murasaki, The Collection of Lady Murasaki's Poetry, and The Tale of Genji. I will firstly explain the contents of The Diary of Lady Murasaki which became the materials for the writing of The Tale of Genji. I will then give a bibliographical and philological explanation of the existing manuscript of The Diary of Lady Murasaki. In particular, I will explain the process and the reasons why the Kurokawa version of the "Murasaki Diary" has been recognized as the best version of the diary. Following that, I will explain the structure of The Diary of Lady Murasaki with its unique lack of balance among the different parts. I will then lecture on the contents and expressions of important parts of The Diary of Lady Murasaki. I will then take up The Collection of Lady Murasaki's Poetry. I will explain that this Collection, while basically arranging the waka in chronological order, is also partially compiled in a very clever way that creates groups of waka according to the subject matter. I will then give a concrete and detailed commentary of several of the waka. I will then take up The Tale of Genji. Firstly, the characteristics of The Tale of Genji as thought of by the instructor will be discussed. Following that, I will give an explanation of the relationship of The Tale of Genji with prior literary works. Thirdly, I will explain the relationship between The Tale of Genji and history.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：『源氏物語』と『紫式部日記』
- 2 回：『紫式部日記』の概略
- 3 回：『紫式部日記』の伝本と本文批評
- 4 回：『紫式部日記』の日記的部分
- 5 回：『紫式部日記』の消息的部分
- 6 回：『紫式部集』の概略
- 7 回：『紫式部集』を配列に注意して読む（1）若年期を中心に
- 8 回：『紫式部集』を配列に注意して読む（2）青年・壮年期以降を中心に
- 9 回：『源氏物語』の基本事項
- 10 回：『源氏物語』の特質
- 11 回：『源氏物語』と前代・当代の文学（1）和歌、前期物語
- 12 回：『源氏物語』と前代・当代の文学（2）漢詩文、日記文学・随筆
- 13 回：『源氏物語』と歴史
- 14 回：『源氏物語』の古注釈

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に現れた用語について、辞書・事典類を活用し、理解を着実にする。講義中に部分的に扱った研究論文等について、全体を読み、要旨をまとめる。講義中に扱った日記・和歌・物語の本文について、自身で現代語



訳を作り直す。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

各回の授業資料を「Canvas LMS」にアップロードします。履修者のみなさんは、各自でプリントアウトするか、ノートPCやタブレットなどのモバイル機器で見られるようにして、教場にご出席ください。

### 参考文献 / Readings

服藤早苗 東海林亜矢子 編 『紫式部を創った王朝人たち——家族、主・同僚、ライバル』 明石書店 2023  
9784750356952

高木和子 『源氏物語の作者を知っていますか（だいわ文庫）』 大和書房 2023 9784479320777

山本淳子 『紫式部日記と王朝貴族社会』 和泉書院 2016 9784757608054

笹川博司 『紫式部集全釈』 風間書房 2014 9784759920444

井野葉子 『源氏物語 宇治の言の葉』 森話社 2011 9784864050234

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

必要に応じて、ノートPC・タブレットなど

### その他 / Others

『源氏物語』のあらすじに沿って、名場面を読解する授業ではありませんので、その点ご注意ください。  
出欠確認は、毎回行います

# 文学講義 319

Lectures on Literature 319

古代日本文学3

富澤 萌未 (TOMIZAWA MOEMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT319  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

『うつほ物語』を読解することで、『うつほ物語』の概要を理解する。さらに、そうした読解を通じて、古典研究の基礎的な資料の研究方法、レポート作成について学ぶ。

Students can get the summary of "Utsuho Monogatari" by reading this story. In the process, we will learn how to do basic research and write a paper on classical Japanese literature.

## 授業の内容 / Course Contents

『源氏物語』はそれ以前に成立した『うつほ物語』から大きな影響を受けている。本授業では、『うつほ物語』のあらすじを確認することで、他の物語との類似や違いを理解し、この物語の特質を理解する。さらに、そうした過程で、平安時代の文化についても学ぶ。

"The Tale of Genji" is greatly influenced by "Utsuho Monogatari", which was written before "The Tale of Genji". In this class, we will understand the summary of "Utsuho Monogatari". We will try to understand its similarities and differences with other stories. We will also learn about the Heian culture.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：『うつほ物語』の概要  
 2回：前半部の物語①：清原俊蔭一族の流離と予言  
 3回：前半部の物語②：あて宮をめぐる求婚譚・三奇人・忠こそ・身分の高い求婚者たち  
 4回：前半部の物語③：あて宮をめぐる求婚譚・忠こそ・楽器の上手な求婚者たち（行正・仲頼）  
 5回：前半部の物語④：あて宮をめぐる求婚譚・楽器の上手な求婚者たち（仲忠・涼）  
 6回：前半部の物語⑤：あて宮をめぐる求婚譚・琴による奇瑞  
 7回：前半部の物語⑥：あて宮をめぐる求婚譚・求婚譚の顛末  
 8回：後半部の物語①：仲忠による清原俊蔭邸の蔵開き・いぬ宮誕生  
 9回：後半部の物語②：仲忠による進講・藤原兼雅の妻子たちの保護  
 10回：後半部の物語③：源季明の死  
 11回：後半部の物語④：立坊争い  
 12回：後半部の物語⑤：小君との遭遇・いぬ宮への秘琴伝授  
 13回：後半部の物語⑥：琴の演奏会と予言の成就  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

#### 【予習】

- ・授業で扱う作品のあらすじを参考文献などでつかんでおく（1時間）。

#### 【復習】

- ・授業で配った資料を読み直し、必要があれば調査して自分なりの考えをまとめておき、リアクションペーパーとして提出する（1時間）。
- ・授業で扱った作品は、授業では触れなかった場面も目を通しておく（1時間）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50 %

平常点割合 :50% リアクションペーパー:40% 授業への参加態度:10%

- ・2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。
- ・補足資料や質問の回答の提示、リアクションペーパー提出に「Canvas LMS」を利用する。
- ・リアクションペーパーを作成する際に AI を利用しても良いが、丸写しするのではなくあくまで参考のみにする（明らかに物語に登場しない人物や事項などが書かれており、授業を聞いていないことがわかる内容の場合は点数として加算しない）。

### テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

室城秀之訳注 『新版うつほ物語一現代語訳付き①～⑥』 角川書店（角川ソフィア文庫） 2022～2024  
9784044000240

中野幸一校注・訳 『うつほ物語①～③』 小学館（新編日本古典文学全集） 1999～2002 4096580163

その他の注釈書・研究書・研究論文については適宜紹介する。

# 文学講義 321

Lectures on Literature 321

中世日本文学 1

吉橋 さやか (YOSHIHASHI SAYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT321

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

14 世紀～17 世紀にかけて作られた短編物語群であるお伽草子について、基礎的な知識や世界観を理解する。また、絵巻や絵入り本についての理解も深める。

The purposes of this course are to (1) obtain basic knowledge and understand the worldview of "Otogi-Zōshi," a short story group created sometime from the 14th to the 17th century; (2) deepen understanding of picture scrolls and picture books.

## 授業の内容 / Course Contents

お伽草子とは、中世から近世にかけて作られた、400 を超える短編物語群の総称であり、その多くは絵巻や絵入り本である。本講義では、こうした物語群について各分類ごとに紹介する。そして各作品の内容や注目すべき点について解説する。登場人物や舞台となる場所、物語のモチーフや展開、表現上の特徴、制作の背景など、様々な視点から各作品を読み解き、お伽草子の世界観を明らかにしていく。

"Otogi-Zōshi" is a collective term for more than 400 short stories from the Middle Ages to the early modern era. Many of them are picture scrolls and picture books. This course introduces these stories for each category. Then,

the contents of each work and the points to note are explained. Each work is interpreted from various perspectives, such as characters and stage locations, motifs and developments of the story, features of expression, and background of the production, in order to clarify the world view of "Otogi-Zōshi."

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（中間レポートについてのアナウンスも行う予定）
- 2回：お伽草子について
- 3回：絵巻・絵入り本について
- 4回：公家物
- 5回：僧侶・宗教物
- 6回：武家物
- 7回：庶民物①
- 8回：庶民物②
- 9回：庶民物③
- 10回：異国・異郷物①
- 11回：異国・異郷物②
- 12回：異類物①
- 13回：異類物②
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 中間レポートや学期末レポートを作成する。
  - ・ 授業時に紹介する作品や参考文献を読む。
  - ・ 可能な範囲で、文化財や資料を観る機会を持って欲しい（インターネットで閲覧できるものも多い）。
- その他、授業時に別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :42%

平常点割合 :58% 各回のリアクションペーパーの内容:28% 中間レポート:30%

- ・ 2/3以上の出席をしない場合は、成績評価の対象としない。
- ・ リアクションペーパーについては、毎回の授業時に必要に応じたフィードバックを行う。

### テキスト / Textbooks

レジュメを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・ 古典の資料を用いた授業を行うため、古文を読む力が必要となる。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

適宜「Canvas LMS」を使用予定。

### **その他/ Others**

授業で扱う資料の中には、病や死、殺戮場面、性的描写などを含むものがある。

# 文学講義 323

Lectures on Literature 323

中世日本文学 3

説話に見る神仏・地獄・極楽

日沖 敦子 (HIOKI ATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT323

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ①説話を通して、神仏への理解を深め、日本人の死生観、他界観の変遷を知る。
- ②説話と関係する様々な絵画史料を鑑賞し、時に近接する学問領域から対象を分析する方法を学び、広い視野で考察する方法を知る。

- ① Through the stories, deepen your understanding of Shintoism and Buddhism, and learn about the changes in the Japanese view of life and death.
- ② Students will appreciate various pictorial historical materials related to folk tales, learn how to analyze subjects from sometimes adjacent academic fields, and learn how to consider them from a broader perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

日本の説話には、数多くの神仏が登場します。人々の暮らしの中において、神仏はどのような存在として理解



されてきたのでしょうか。神話や寺社縁起を含む、宗教説話から選んだ神仏のエピソードを読みながら、神仏が同居する、不思議な日本の宗教世界について考えてみましょう。本講義では、説話を通して神仏の世界、さらに私たちが無意識のうちにイメージしている地獄と極楽がどのようにイメージされてきたかについて理解を深めます。

Many gods and Buddhas appear in Japanese folk tales. How have God and Buddha been understood in our lives? Let's read episodes about gods and Buddha selected from myths and religious stories such as the auspicious origins of temples and shrines, and think about Japan's religious world. In this lecture, we will use folk tales to deepen our understanding of the world of gods and Buddha, and how our unconscious images of hell and paradise have changed over time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

神さまの世界（1）神話が語る日本の始まり

2回：神さまの世界（2）稲荷と八幡神

3回：神さまの世界（3）御霊信仰

4回：神さまの世界（4）福の神と貧乏神

小テスト

5回：仏さまの世界（1）釈迦如来と阿弥陀如来

6回：仏さまの世界（2）薬師如来

7回：仏さまの世界（3）文殊菩薩と普賢菩薩

8回：仏さまの世界（4）観音菩薩と地藏菩薩・補陀落渡海

小テスト

9回：生と死の文化学 地獄と極楽—日本人は生と死をどのように受け止めてきたのか

10回：当麻曼荼羅と中将姫説話の諸相

11回：地獄草紙の世界（1）

12回：地獄草紙の世界（2）

13回：熊野観心十界曼荼羅と矢田地蔵縁起絵巻

14回：あの世への旅—立山曼荼羅の世界

最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に関連する書籍を紹介するので、各自の理解を深めるのに役立ててほしい。また、授業で適宜、博物館・美術館での関連展示の案内を行うので、積極的に本物を見て学ぶ機会をもっていただきたい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト①:25% 小テスト②:25% リアクションペーパー:26% 最終テスト割合 :24%

テキスト / Textbooks

---

参考文献 / Readings

---

# 文学講義 324

Lectures on Literature 324

中世日本文学4

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT324

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本中世の文学・芸能にあらわれるさまざまな伝承を、〈もの〉に注目しながら精読する。特定の〈もの〉に付随する象徴性と、それを支える事実と想像力を多角的に読み解き、そこから中世文学の特質を理解する。また、各伝承の担い手に注目したり、諸伝承に共通した性質を見出したりすることで、文学が社会に及ぼしてきた力に関する理解を深める。

The purposes of this course are to: (1) read deeply, focusing on certain items, various folklore appearing in both the literary and performing arts of the Japanese Middle Ages; (2) multi-directionally unravel the symbolism embedded in each specific item, as well as the various truths and imagination that supports this; (3) by the former, comprehend the special characteristics of Middle Age literature; and (4) deepen comprehension by focusing on the bearers of each piece of folklore and by extracting common characteristics to illustrate the influence literature has on society.

## 授業の内容 / Course Contents

中世に生み出されたさまざまな文芸やその周辺資料に取められた、さまざまな伝承を取りあげながら、その伝

承の構造や表現方法、異説がせめぎ合う実態などをていねいに読み解いていく。毎回、具体的なテーマを設定して講義を進め、受講生にはその内容を踏まえたまとめを提出してもらう。

While taking up the various folklore in both various collections of literature and peripheral materials created during the Middle Ages, careful reading with regard to various competing theories, among other concerns, addresses each folktale's structure and method of expression. Each meeting proceeds along a concrete theme of the course, and students submit a summary based upon that content.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマ概説
- 2回：武具・刀剣：異類退治伝承から
- 3回：笛：義経伝承から
- 4回：鐘：龍宮伝承から
- 5回：琵琶：秘曲と名物の伝承から
- 6回：馬：名馬伝承から
- 7回：中間まとめ
- 8回：鏡：神話から民間伝承まで
- 9回：小袖：別れの風景から
- 10回：骨：信仰のかたち
- 11回：石と鉄：鉄人伝承から
- 12回：樹木：巨木伝承から
- 13回：酒：宴の風景から
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する作品・参考文献などを、各自の関心にしながら読んで読み進め、期末レポートの執筆につなげること。

レポート作成のための準備は時間がかかるので、できるだけ早く始めること。

※「中間まとめ」の回には最終レポートに向けた課題設定や執筆要領などを示す。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 各回の提出物:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

### 参考文献 / Readings

授業のなかで随時紹介する。

### その他 / Others

授業では古典の原文を用いて話を進める。資料を掲載したプリントを配布し、それに基づいて講義を進める。

その他の注意事項は初回の授業の際に伝える。

# 文学講義 326

Lectures on Literature 326

和歌・俳諧2

岡崎 真紀子 (OKAZAKI MAKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT326

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

『古今和歌集』を読み解くことを手がかりとして、和歌とはいかなるものかを考えるとともに、和歌史・文学史について理解を深める。

In this class, students will consider what waka poetry is and deepen their understanding of literary history by reading the Kokin Waka Shu.

## 授業の内容 / Course Contents

史上はじめての勅撰和歌集である『古今和歌集』は、和歌のエッセンスが凝縮されたものであるとともに、後世の和歌および諸文学を生み出す発想の源泉となった〈古典〉である。本授業では、『古今和歌集』を考察の起点として、和歌・和歌史・文学史を具体的に見渡してゆく。

The Kokin Waka Shu is the first imperial anthology of waka poetry in history. It is a condensation of the characteristics of waka poetry and a source of literature for later generations.

In this class, students will understand the history of waka poetry and literature, beginning with a discussion of the Kokin Waka Shu.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：はじめに、授業の進め方の説明と『古今和歌集』概説
- 2回：「やまと歌」のかたち
- 3回：四季の歌
- 4回：恋の歌
- 5回：『古今和歌集』のことば一掛詞
- 6回：『古今和歌集』のことば一見立て
- 7回：『古今和歌集』のことば一類型
- 8回：本歌取りと『古今和歌集』(1)
- 9回：本歌取りと『古今和歌集』(2)
- 10回：『古今和歌集』と物語
- 11回：注釈という行為(1)
- 12回：注釈という行為(2)
- 13回：〈古典〉としての『古今和歌集』
- 14回：『古今和歌集』の近代

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

- ・テキストを読む(予習)。
- ・教室で配付した資料を読み直す(復習)。
- ・授業時に紹介した参考図書や関連文献を適宜参照する(復習)。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation**

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 各回のコメント:30% 授業への参加度(出席状況を含む):20%

**テキスト/Textbooks**

高田祐彦 『新版 古今和歌集』 角川ソフィア文庫 2009 4044001057 ○

テキストは購入してください。ほかにほぼ毎回教室でプリントも配付します。

**参考文献 / Readings**

渡部泰明 『和歌とは何か』 岩波新書 2009 4004311985

# 文学講義 327

Lectures on Literature 327

和歌・俳諧3

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT327

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 和歌史の中で近世が持つ独特の位置付けを理解する。
  - (2) 詩歌に対する文学的な態度の諸様相を把握する。
  - (3) 漢学と国学との接点を文学史的・思想史的な流れの中でとらえる。
- (1) To understand the unique position of the early modern period in the history of waka poetry.
  - (2) To understand various aspects of literary attitudes toward poetry.
  - (3) To understand the connection between Chinese studies and Kokugaku in the context of the history of literature and the history of ideas.

## 授業の内容 / Course Contents

近世における和歌の位置付けをそれ単体からだけでなく、広く和歌史・思想史という視野から把握します。近世の詩歌史の前提として朱子学における文学説を取り上げ、その学説に対する批判として起こった古義学（伊藤仁斎・伊藤東涯）と古文辞学派（荻生徂徠・太宰春台・服部南郭）の詩論を、特にその思想との連関において把握します。



そのような漢学の流れを受けて、近世の和歌史の展開を把握します。特に万葉調（賀茂真淵）・古今調（香川景樹）・新古今調（本居宣長）を重視するそれぞれの立場に則して、歌論と詩作の関係を考察します。

We will examine the position of waka poetry in the early modern period, not only from the standpoint of waka poetry, but also from the broader perspective of the history of waka poetry and the history of ideas.

We will take up the literary theories of the Zhu Xi school as the premise for the history of waka poetry in the early modern period, and then look at the poetic theories of the Kogi school (Ito Jinsai and Ito Togai) and the Kobunji school (Ogyu Sorai, Dazai Shundai and Hattori Nankaku) that emerged as criticism of Zhu Xi school's theories, particularly in relation to their ideologies.

Following the flow of such Chinese studies, we will grasp the development of waka poetry history in the early modern period. In particular, we will examine the relationship between poetry theory and poetry composition in accordance with the respective positions that emphasize Manyoshu (Kamono Mabuchi), Kokinshu (Kagawa Kageki), and Shin-Kokinshu (Motoori Norinaga).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の概要と成績評価のガイダンス
- 2 回：古典和歌史と近世思想史との合流
- 3 回：朱子学—朱熹
- 4 回：朱子学派—藤原惺窩・林羅山
- 5 回：堀川学派—伊藤仁斎・伊藤東涯
- 6 回：護園学派—荻生徂徠（1）
- 7 回：護園学派—荻生徂徠（2）
- 8 回：護園学派—太宰春台・服部南郭
- 9 回：梟居派—賀茂真淵
- 10 回：鈴屋派—本居宣長（1）
- 11 回：鈴屋派—本居宣長（2）
- 12 回：江戸派—加藤千蔭・村田春海
- 13 回：桂園派—香川景樹
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義には様々な思想的な立場・詩歌に対する態度を持つ登場人物が出てきます。講義のごとにそれぞれの特徴をしっかりと整理して行ってください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% コメントシート：40% 講義への参加度：20%

最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

適時プリントを配布する。

**参考文献 / Readings**

- 丸山真男 『日本政治思想史研究』 東京大学出版会 1983 4130300059  
酒井直樹 『過去の声 18世紀日本の言説における言語の地位』 以文社 2002 4753102211  
板東 洋介 『徂徠学派から国学へ 表現する人間』 ペリカン者 2019 4831515302

# 文学講義 329

Lectures on Literature 329

近世日本文学 1

伴野 英一 (BANNO HIDEKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT329

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世文芸の素地となるものの内で、大きな一部を占める遊里文芸を読解する基礎的な知識と技法を身につけるとともに、先行研究の成果と問題点を正確に判断し多様な読解を試みることのできる応用的能力を養うことで、近世の多様な作品を的確に読みこなす能力を養成する。

Acquire the basic knowledge and techniques for reading Yuuri-Bungei, which forms a large part of the foundation of early modern literature, as well as accurately judge the results and problems of previous research and try various ways of reading it. By cultivating the applied ability to read, students will develop the ability to accurately read a variety of early modern works.

## 授業の内容 / Course Contents

日本文学史上ユニークな存在である、会話体で叙述された洒落本を採り上げ、その娯楽性を検討しつつ精読する。遊里の諸相を会話体文で描出する洒落本の技法を検討しながら、各作品をさまざまな視点から読み解くことによって、江戸時代の文化に対する理解を深める。

This class will select Sharebon written in a conversational style, which are unique in the history of Japanese

literature, and carefully read them while considering their entertainment value. Students will deepen their understanding of the culture of the Edo period by examining the techniques of Sharebon that depict various aspects of red light district in conversational style, and by interpreting each work from a variety of perspectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに（講義の進め方、成績評価の方法など）
- 2 回：遊里と遊里文芸について
- 3 回：戯作文芸について、洒落本について
- 4 回：会話体洒落本を読む（1）
- 5 回：会話体洒落本を読む（2）
- 6 回：会話体洒落本を読む（3）
- 7 回：会話体洒落本を読む（4）
- 8 回：会話体洒落本を読む（5）
- 9 回：会話体洒落本を読む（6）
- 10 回：会話体洒落本を読む（7）
- 11 回：会話体洒落本を読む（8）
- 12 回：会話体洒落本を読む（9）
- 13 回：会話体洒落本を読む（10）
- 14 回：まとめ

\* 授業の内容や順番は適宜変更する場合がある

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途行うが、特に事前に作品を読んでおくような指示が出た場合には、つかえずに音読できるほどまでに読み込むことを要求したい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席及び授業参加度:40%

欠席が5回に達した者は単位を認定しない。

### テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

# 文学講義 330

Lectures on Literature 330

近世日本文学2

岡島 由佳 (OKAJIMA YUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT330

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

江戸時代前期から中期にかけて刊行された「百物語」本を中心に、各作品を多角的な視点から分析して読解し、怪談の面白さを味わいながら、近世怪異小説の特質を理解する。

あわせて江戸時代の生活・社会・文化などの知識も身につけることを目標とする。

This class will focus on the books published in the early-mid Edo period known as "Hyakumonogatari". Students will get to enjoy reading and analysing these fascinating works from numerous perspectives, while learning both about their characteristics, and the life, society, and culture of the Edo period.

## 授業の内容 / Course Contents

近世は、百物語怪談会が流行した時代である。

仮名草子・浮世草子の怪異小説のなかでも、「百物語」本を中心に取り上げ、類話を比較し、作品にあらわれる怪異を通して、江戸時代の人々が何を恐れ、何を怪異と考えていたのか、理解を深める。

Hyakumonogatari experienced great popularity in the early modern period, and this class will focus on this subset

of kanazōshi and ukiyozōshi ghost stories. By comparing similar stories and examining the monsters they contain, students will deepen their understanding of what people in the Edo period feared and thought monstrous.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の進め方、成績評価の方法など）
- 2回：近世前期・中期怪異小説史
- 3回：近世前期・中期怪異小説の作者・読者
- 4回：「御伽」と「百物語」について
- 5回：『諸国百物語』を読む（1）
- 6回：『諸国百物語』を読む（2）
- 7回：『古今百物語評判』を読む（1）
- 8回：『古今百物語評判』を読む（2）
- 9回：『諸国新百物語』を読む（1）
- 10回：『諸国新百物語』を読む（2）
- 11回：『好色百物語』を読む
- 12回：『御伽百物語』を読む
- 13回：『太平百物語』を読む
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配付資料を読み、授業内容の予習・復習をしてください。

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のリアクションペーパー:30% 小レポート:30% 最終レポート割合：40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位取得不可です。

毎回、授業内容に関するコメントの提出を求めます。リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行います。

### テキスト / Textbooks

授業中にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

太刀川清 『百物語怪談集成』 国書刊行会 1987年 9784336020857

太刀川清 『続百物語怪談集成』 国書刊行会 1993年 9784336035271

太刀川清 『近世怪異小説研究』 笠間書院 1979年 9784305101372

その他、適宜、授業中に紹介します。

### その他 / Others

シラバスには、取り上げる予定の作品を記しましたが、その他に、先行作や影響作は多数取り上げます。  
また、受講生の希望や理解度の状況によっては、授業の計画が前後する場合があります。

# 文学講義 331

Lectures on Literature 331

近現代日本文学1

前田 潤 (MAEDA JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT331

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学作品、映像作品の自律性と内的秩序の強度をめぐって議論する。「全体」としての自立性を喪失し、「断片」として遍在的に明滅し始めた現代の「作品」が、にもかかわらず対面的・身体的存在として欲望される現実を踏まえ、「作品」概念が依然有効なのか、という点を思考する。「作品」概念を再考すると共に、「作品」の内的秩序を支える機構の臨界が、どのような場所にあるのかということについて、幾つかのテキストを素材にして学ぶ。近現代の小説、ノンフィクション作品、映像作品、およびそれらの関係性を、横断的総合的に対象化することになる。

We will discuss autonomy and strength of internal cosmos about literary works and visual works. And we consider if concept of "works" will be as effective as ever or not. Reconsidering concept of "works", we shall study the location of border that works mechanism have in order to hold internal cosmos of works. Modern novels, nonfiction works, visual works, and relationship of them, we will treat in the lecture.

## 授業の内容 / Course Contents

全講義を通じて議論したいポイントは以下の通り。



- 1 制作主体の考える制作の完了点と「作品」
- 2 受容の場に生成する「作品」と「完成」をめぐる言説
- 3 文学テキストが映像化されるまで

Points to be addressed throughout the lectures are as follows.

- 1 The completed point that working creators think and the finished creations.
- 2 The works coming into the place of acceptance and discourses regarding completion.
- 3 The process until literary texts shall be visualized.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：芥川龍之介の改稿をめぐる（「羅生門」「秋」「歯車」）
- 2 回：震災と連載小説、震災とメディア（執筆「状況」の介入に関する考察）
- 3 回：ノンフィクションの修辞学（原一男「ゆきゆきて神軍」のディレクション）
- 4 回：漱石を読む映画監督（森田芳光「それから」）
- 5 回：写真の「外部」（ロバート・キャパ）
- 6 回：原作者の憤怒（市川崑「ぼんち」）
- 7 回：「半自伝」とは何か（小池真理子「無伴奏」）
- 8 回：遷移する時空（トラン・アン・ユン「ノルウェイの森」）
- 9 回：ノンフィクションの規制（沢木耕太郎）
- 10 回：「引用」の先にあるもの（鷗外「阿部一族」）
- 11 回：「小説」と「日記」の「完成」（荷風「断腸亭日乗」）
- 12 回：職業作家「完成」に至る道（江戸川乱歩）
- 13 回：「循環」する様式（小津安二郎）
- 14 回：自己肖像の「完成」（芥川龍之介の遺影と遺書）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

単位取得のためには、70%程度の出席を必要とする。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- |      |                          |      |      |               |
|------|--------------------------|------|------|---------------|
| 前田 潤 | 『古都に、消える。一流浪の家族と空洞の古代史』  | 現代書館 | 2021 | 9784768459010 |
| 前田 潤 | 『漱石のいない写真一文豪たちの陰影』       | 現代書館 | 2019 | 9784768458549 |
| 前田 潤 | 『地震と文学—災厄と共に生きていくための文学史』 | 現代書館 | 2016 | 9784305708106 |

# 文学講義 332

Lectures on Literature 332

近現代日本文学2

大貫 俊彦 (ONUKI TOSHIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT332

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では明治 20 年代初頭から明治 40 年代の文学状況について考察する。「小説」の成り立ちとその展開を時代順に追いながら、文学者たちが何をどのような方法で描いたのかについて、めまぐるしく変化していく社会・思想状況と関連づけながら捉えていく。また当時の執筆形態・出版状況を知るために、資料の読み方などに関する知識も適宜身につける。

The goals of this lecture are as follows. The first is to understand the literary situation in the mid- to late-Meiji period, along with the society and thought of the same period. Second, to acquire the knowledge and methods necessary to understand the period.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義で取り上げる明治 20 年代から明治末期は、坪内逍遙によって近代における芸術としての「小説」が提唱された後、文学作品の執筆を仕事とする多くの文学者たちによって様々な手法が試みられ、大正・昭和期に繋がっていく「小説」の輪郭が明瞭になる時期にあたる。その背景には出版機構の充実、思想の流行や廃り、若手の台頭による世代交代が繰り返される。本講義では社会的背景を踏まえながら、おもに描かれた対象やそ

の表現方法に注目し、それぞれの特徴や個性が際立っていく文学者の作品を読み解き、明治中期から後期にかけての文学状況を広く捉えていく。(なお、本授業のテーマ欄には「近現代日本文学」と表記されていますが「現代」は扱いません。)

The outline of the lecture is as follows. As a premise, our lecture begins with the positioning of the "novel" as an art form. This is an important assumption. Novelists of the mid-Meiji period then wrote and developed their novels based on this recognition. In our lecture, we will explain who exactly wrote novels, how they wrote novels, and what kind of devices they used. Ultimately, students will be able to understand the literary situation of the late Meiji period from a broad perspective.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入
- 2回：「坪内逍遙『小説神髓』における美術としての「小説」の提唱」：写実をめぐる諸問題
- 3回：「写実にふさわしい表現の模索（前編）」：尾崎紅葉・幸田露伴の文学とその周囲
- 4回：「写実にふさわしい表現の模索（後編）」：山田美妙・二葉亭四迷・嵯峨の屋お室の文学
- 5回：「浪漫主義文学とその系譜」：北村透谷と『文学界』の周囲
- 6回：「樋口一葉と文学」：作品と表現の変遷
- 7回：中間テスト
- 8回：「移り変わる嗜好と傾向」：探偵小説・撥鬢小説の流行から深刻小説・観念小説・社会小説の主張へ
- 9回：「日露戦争と文学」：メディアとの関わり、および煩悶する青年たちの登場
- 10回：「国木田独歩の思想と文学」：思想と文学表現の変遷
- 11回：「自然主義文学とは何だったのか（前編）」：小説とその描写をめぐる
- 12回：「自然主義文学とは何だったのか（後編）」：文学評論とその問題をめぐって
- 13回：全体のまとめ、および大正文学への接続
- 14回：講義内筆記試験

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:40% 授業内に指示した提出物:10%

### テキスト / Textbooks

テキストの指定はなし。授業時に適宜プリント等を配付する。

### 参考文献 / Readings

柳田泉ほか編 『座談会明治文学史』 岩波書店 1961

亀井秀雄 『「小説」論』 岩波書店 1999

福田清人 『改訂新版 硯友社の文学運動』 博文館新社 1985

笹淵友一 『「文学界」とその時代』 明治書院 1959

吉田精一 『自然主義の研究』 東京堂 1955

木村洋 『文学熱の時代—慷慨から煩悶へ—』 名古屋大学出版会 2015

#### **その他/ Others**

授業形態：スライドと黒板を併用した講義形式で、必要に応じて映像資料や現物資料（複製・復刻の場合もある）なども活用する。

# 文学講義 334

Lectures on Literature 334

近現代日本文学4

影山 亮 (KAGEYAMA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT334

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では〈文学〉を取り巻く様々な事象に着目することで、日本近代文学における問題意識を身につけると共に、文化的・社会的・歴史的な文脈から多角的に考察する能力を養う。また卒業論文の執筆や、他の授業においても汎用可能な資料検索スキルの向上を目指す。

In this course, by focusing on various phenomena surrounding literature, students will acquire an awareness of issues in modern Japanese literature and develop the ability to consider things from multiple perspectives from cultural, social, and historical contexts. We also aim to improve resource searching skills that can be used in writing graduation theses and in other course.

## 授業の内容 / Course Contents

〈文学〉を読解するにはテキストを精読するだけでなく、その周辺情報にも目を配る必要がある。そこで本授業では、メディア・ネットワーク・コンテンツ・資料といった〈文学〉を取り巻く様々な事象を深掘りすることで、より広い視野から日本近代文学を読み解いていく。具体的には以下の授業計画を予定しているが、変更の可能性もある。

To understand literature, it is necessary not only to read the text carefully, but also to pay close attention to the surrounding information. Therefore, in this course, we will decipher modern Japanese literature from a broader perspective by delving into various phenomena surrounding literature such as media, networks, content, and materials. Specifically, the following lesson plan is planned, but it is subject to change.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：明治期の新聞（メディア）
- 3回：カストリ雑誌とポストカストリ雑誌（メディア）
- 4回：『読物と講談』と小型雑誌（メディア）
- 5回：尾崎紅葉と硯友社（ネットワーク）
- 6回：早稲田派と自然主義（ネットワーク）
- 7回：白樺派・新思潮派（ネットワーク）
- 8回：速記と三遊亭円朝（コンテンツ）
- 9回：書き講談と新講談（コンテンツ）
- 10回：明治・大正の探偵小説と猟奇耽異（コンテンツ）
- 11回：リレー小説（コンテンツ）
- 12回：原稿・書簡（資料）
- 13回：文学館・記念館（資料）
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示されたテキストや資料、参考文献を読む。授業時に指示された課題を提出する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% リアクションペーパー:30% 授業内で指示した課題:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

# 文学講義 335

Lectures on Literature 335

日本文学史・近現代1

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT335

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

内務省検閲、GHQ/SCAP 検閲、いわゆる文学裁判など、さまざまな言論統制に関する知識を身につけつつ、それらと文学との関係について考察することを目標とする。

文学を広い視野に基づき捉え返すことができるようになることを目指す。

The aim of this course is to acquire knowledge of various speech controls, such as Home Ministry censorship, GHQ/SCAP censorship, and so-called literary trials, and to examine the relationship between these controls and literature.

The goal is for students to be able to think about literature from multiple perspectives.

## 授業の内容 / Course Contents

日本近現代文学の成立や、文学をはじめとする様々なテキストの生成のための所与の条件としてある、多様な言論統制（検閲）と文学との関係を知り、理解を深める。

特に、文学テキストの言語表現や出版活動と作品執筆・発表時の社会状況との関係に注意を向け、それぞれの作家・出版社・検閲する立場の人びとの目論見を読み解き、見きわめ、意味づける。

社会や歴史と決して無関係ではない文学のありようを具体的に知る上で、文学作品が検閲をパスしなければ世に問われにくい状況があった、という事実を改めて見直す。

おおまかに4つの内容を時系列にそくして講義する。

1. 内務省検閲と文学
2. 戦時下の言論統制と文学
3. GHQ/SCAP 検閲と文学
4. 戦後の言論統制（に該当する事態）と文学

In this course, we will learn about and deepen our understanding of the relationship between literature and the various forms of speech control (censorship) that were a given condition for the establishment of modern and contemporary Japanese literature and the production of various texts, including literature.

In particular, we will pay attention to the relationship between the linguistic expression and publishing activities of literary texts and the social conditions at the time of writing and publication, and we will read, identify, and make sense of the intentions of writers, publishers, and censors.

In order to gain a concrete understanding of the nature of literature, which is not unrelated to society and history, we will revisit the fact that there was a situation in which literary works had to pass through censorship in order to be exposed to the public.

The lecture will roughly cover four topics in chronological order.

1. Censorship of the Ministry of Home Affairs and Literature
2. Wartime Speech Control and Literature
3. GHQ/SCAP censorship and literature
4. Postwar speech control (corresponding situation) and literature

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：内務省検閲概説
- 3 回：検閲官の仕事
- 4 回：小栗風葉と検閲
- 5 回：島崎藤村「旧主人」について
- 6 回：永井荷風と検閲
- 7 回：小林多喜二「蟹工船」について、中間テスト
- 8 回：石川淳「マルスの歌」について
- 9 回：改造社と中央公論社
- 10 回：谷崎潤一郎と検閲
- 11 回：GHQ/SCAP 検閲と文学
- 12 回：チャタレイ裁判と「宴のあと」裁判
- 13 回：深沢七郎「風流夢譚」事件
- 14 回：まとめと最終テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：



上記いずれも用いない予定　：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。取り上げる作品を事前に読了することを求める場合もある（その場合、テキストは授業内で配付する）。

復習については、毎回の内容を最終テストに備えて各自見直す、あるいは整理することが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合　:100%　リアクションペーパー:30%　中間テスト:30%　最終テスト割合　:40%

### テキスト / Textbooks

授業内でプリントを配付する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

# 文学講義 336

Lectures on Literature 336

近現代日本文学6

棕棒 哲也 (MUKUBOU TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT336

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近現代日本の（主に）小説を〈場所〉や〈土地〉という観点から読むことで、どのような解釈や鑑賞が可能となるか、理解を深める。

By reading (mostly) modern and contemporary Japanese novels from the perspective of "place" and "land," we will deepen our understanding of how they can be interpreted and appreciated.

## 授業の内容 / Course Contents

小説の三要素に形式・表現・内容がある（本学名誉教授藤井淑禎）。場所や土地は、このうち内容に関わるものだ（そこに設定されたことで得られる効果）。私たちは日常、小説がどのような場所で展開されているか、何となく気にしていないだろうか。あるいは土地そのものに興味を抱くこともあるはずだ。本授業は特定の場所や土地を舞台とする作品を取り上げる。かつその具体的な情報を含めることで可能になる解釈と鑑賞について考察を行い、作品理解を深めてゆく。なお授業の内容は修正することがあるから、注意して頂きたい。

The three elements of a novel are form, expression, and content (Hidetada Fujii, Professor Emeritus of this university). Place and land are related to the content (the effect of being set there). In our daily lives, do we pay

any attention to the kind of place in which a novel is developed? Or perhaps we are even interested in the land itself. This class will focus on works set in a specific place and land. We will consider the interpretation and appreciation that is possible through the inclusion of specific information and deepen the understanding of the works. Please note that the content of this class is subject to modification.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに：文学散歩について
- 2回：ゲニウス・ロキとは何か
- 3回：志賀直哉『城の崎にて』を読む 前編
- 4回：同 後編
- 5回：川端康成『伊豆の踊子』を読む 前編
- 6回：同 後編
- 7回：宮沢賢治『なめとこ山の熊』を読む 前編
- 8回：同 後編
- 9回：伊藤永之介の文業を読む
- 10回：和田傳の文業を読む
- 11回：コーヴ 文学 太地
- 12回：サブカル 文学 海街
- 13回：紀行文学について
- 14回：おわりに：そこへ行ったからって何だっていうんですか

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：		：			：		

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に指示された場合は予めテキストを読み、コメントを「Google Forms」で入力しておくこと。授業のなかで紹介した参考資料を読む・視聴すること。ほか舞台探訪を積極的に計画・実行することも奨める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の出席と、併せて適宜書いてもらうコメントペーパー：70% 最終レポート割合：30%

7割(14回のうち10回)以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。また30分を越えて入室・退出する行為はこれを出席と認めない。なお教育実習ほか各種実習や採用に直接関わる就職活動等による欠席、電車遅延等による遅刻、の場合は相談に応じる。

### テキスト / Textbooks

教員が「Canvas LMS」の「モジュール」のなかで、資料を提供することがある。

### 参考文献 / Readings

なし。教員が授業で適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業は受講者に積極的な授業参加を求める。ほとんどの回で授業前に「Google Forms」の提出が必要とな

る。また授業内で教員により、受講者自身の作品解釈を求められた場合、これに取り組まなければならない。なおこの授業で切実に求められるものは、いわゆる純文学を読んで、面白いと感じることのできる心性だ。単位取得だけを目的として履修を試みると、大変に詰まらない時間を過ごすことになるだろう。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

できればノートPC。ないしはタブレット。どちらも用意できない場合は、授業前にPDFファイルをプリントアウトする算段を整えておいた方が良い。なお以上は機器の購入を勧めるものではない。

#### **その他/ Others**

第1回はガイダンスを行う回です。授業のアウトラインを説明する、とても重要な回ですので、これへ参加せずに履修の手続きを行い、あとで後悔することのないよう、必ず参加して下さい。

# 文学講義 337

Lectures on Literature 337

日本語学 1

矢田 勉 (YADA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT337

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

主として古代・中世の日本において展開した様々な表記様式のうち、仮名を利用したものについて理解する。

Comprehending the various styles developed mainly in ancient and medieval Japan that use kana.

## 授業の内容 / Course Contents

古代・中世の日本で生まれた、仮名を使用した様々な文章表記について、実例の読解を通じて、その変遷のありようについて講ずる。

Through reading comprehension of actual examples of various writing styles using kana which were born in ancient and medieval Japan, we will analyse the principle of them transition.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：日本語文字表記史の特質（総論）

2 回：万葉仮名の発生と展開 金石文・出土文字資料

3 回：和歌の表記と万葉仮名 木簡・記紀・万葉集

4 回：万葉仮名散文の様態と用途 正倉院万葉仮名文書

- 5回：宣命体 木簡・続日本紀宣命・正倉院文書  
 6回：漢文訓読と片仮名の発生 初期訓点資料  
 7回：訓点の片仮名の展開 10世紀以降の訓点資料  
 8回：訓点系片仮名文の発生 西大寺本金光明最勝王経・東大寺諷誦文稿  
 9回：仮名文系片仮名文の発生と展開 醍醐寺五重塔天井板落書・片仮名書和歌  
 10回：宣命体系片仮名文の発生と展開 今昔物語集  
 11回：平仮名の発生 出土資料・有年申文・極初期仮名消息  
 12回：平仮名の展開 10世紀以降の仮名消息・古筆資料  
 13回：平仮名と文字教育 いろは歌資料  
 14回：平仮名の用途の広がり 中世文書

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義で取り上げる資料について、予め完全には読めないなりに目を通し（予習）、授業後に読み返す（復習）こと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内での資料読解作業など:20%

期末レポート・平常点とも、普段の授業の取り組み（予習・復習の程度）を測ることを重視する。

### テキスト / Textbooks

全て自作資料（プリント）を使用する。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語の通時的研究に関心を有すること。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC・タブレット等

# 文学講義 338

Lectures on Literature 338

日本語学 2

矢田 勉 (YADA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT338

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古代・中世・近世の日本において展開した様々な表記様式のうち、漢字・漢文を利用したものについて理解する。

Comprehending the various styles developed mainly in ancient, medieval, and early modern Japan that use Kanji and Chinese writing.

## 授業の内容 / Course Contents

古代・中世・近世の日本で生まれた、漢字・漢文を利用した様々な文章表記について、実例の読解を通じて、その変遷のありようについて講ずる。

Through reading comprehension of actual examples of various writing styles using Kanji and Chinese writing which were born in ancient, medieval, and early modern Japan, we will analyse the principle of them transition.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：日本語と漢字・漢文（総論）

2 回：変体漢文とは何か

- 3回：変体漢文の終着点「候文」  
 4回：上代の漢文・変体漢文（1） 石文  
 5回：上代の漢文・変体漢文（2） 石文と正倉院文書  
 6回：上代の漢文・変体漢文（3） 記紀  
 7回：中古の漢文・変体漢文（1） 訓点資料総説  
 8回：中古の漢文・変体漢文（2） 訓点資料読解  
 9回：中古の漢文・変体漢文（3） 古記録  
 10回：中古の漢文・変体漢文（4） 古文書  
 11回：中世の変体漢文（1） 古文書  
 12回：中世の変体漢文（2） 変体漢文と仮名文の交渉  
 13回：中世の変体漢文（3） 訓点の変化  
 14回：中世の変体漢文（4） 真名本

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義で取り上げる資料について、予め完全には読めないなりに目を通し（予習）、授業後に読み返す（復習）こと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内での資料読解作業など:20%

期末レポート・平常点とも、普段の授業の取り組み（予習・復習の程度）を測ることを重視する。

#### テキスト / Textbooks

全て自作資料（プリント）を使用する。

#### 参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語の通時的研究に関心を有すること。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC・タブレット等

#### その他 / Others

春学期開講の文学講義 337（AT337）で述べることを前提として講ずる部分がある。



# 文学講義 339

Lectures on Literature 339

日本語学 3

山下 洋子 (YAMASHITA YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT339

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

歌舞伎のことはにどのようなものがあるのかを見ていくことで、歌舞伎のおもしろさを知り、ことば(日本語)に興味を持つ。

By looking at what kind of words are used in Kabuki, students will learn about the interesting aspects of Kabuki and develop an interest in the language.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、歌舞伎俳優や歌舞伎の専門家、歌舞伎ファンなどによって使われる「歌舞伎のことば」にどのようなものがあり、それらがどのように使われているのかを学ぶ。特に、NHK の放送においてどのように扱うのかを中心に述べる。「歌舞伎」のほか、「宝塚歌劇団のことば」「放送のことば」についても触れる。

In this class, students will learn what kind of "Kabuki words" are used by Kabuki actors, Kabuki experts, and Kabuki fans, and how they are used. In particular, we will focus on how they are used in NHK broadcasts. In addition to Kabuki, we will also touch on the language of the Takarazuka Revue Company and the language of broadcasting.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス
- 2回：宝塚歌劇団のことば
- 3回：歌舞伎とは・歌舞伎のことばとは（「歌舞伎」という表記を中心に）
- 4回：歌舞伎のことばの東西差（「劇場」の言い方、「こけら落とし」について）
- 5回：辞書における歌舞伎のことばの意味（国語辞典の性質・特徴なども説明します）
- 6回：歌舞伎のことばの発音
- 7回：放送のことばとは・放送の歴史（「放送」ということばの語誌も含めて）
- 8回：放送のことば（伝わりやすいことばについて）
- 9回：歌舞伎のことばの言い換え（専門語の使用について）
- 10回：歌舞伎のことば（幕に関連したことばなど）
- 11回：歌舞伎のことばの表記（漢字の字体も含めて）
- 12回：言い換えられない歌舞伎のことば（歌舞伎を由来とする慣用句）
- 13回：歌舞伎のことばの変化（語彙の交代）
- 14回：歌舞伎のことばの新旧（意味の変化）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

歌舞伎についての知識は必要としないが、歌舞伎のほか、日本の演劇や伝統芸能、そして日本語に興味を持っていることを受講の条件とする。また、授業ではNHKの放送で使うことばを中心とした「放送のことば」についても触れる。テレビ・ラジオをよく視聴しているということも受講の条件とする。放送を見たり聞いたりして疑問に感じた表現・ことばについて意見を求めることがある。授業前に気になった発音・表記・表現などをメモにとるようにするとよい。ただし、授業は、ことばについて考えるものであり、NHKの報道・取材・番組制作にかかわるような内容ではない。受講の際には注意してほしい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業に取り組む態度・出席:30% 毎回のリアクションペーパーの内容:40% 授業で提出する小課題の内容（5回×6%）:30%

小課題は授業で課題を出し、その授業内で提出するものである。次回以降の授業で解説する。リアクションペーパーのフィードバックも次回以降の授業で行う。

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

NHK 放送文化研究所 『NHK ことばのハンドブック第2版』 NHK 出版 9784140112182

NHK 放送文化研究所 『NHK が悩む日本語 放送現場でよくある ことばの疑問』 幻冬舎

9784344041004

「放送のことば」を知るための参考書として紹介します。授業内で必要な場合は、プリントを配付します。

# 文学講義 340

Lectures on Literature 340

日本語学 4

坂本 薫 (SAKAMOTO KAORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT340

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本語方言における多様な言語現象とその分析方法を学び、言語学の基礎知識を習得する。

This course helps students acquire the basic knowledge of linguistics by studying linguistic phenomenon in Japanese dialects and their analysis methods.

## 授業の内容 / Course Contents

様々な方言のデータを観察することで、日本語の多様性を理解する。また、標準語や世界の言語に照らし、言葉の仕組みを考察する。

This course will give you an understanding of language variations in Japanese by examining interesting examples in Japanese dialects. It will also compare several Japanese dialects with other languages in the world (including standard Japanese) and explore the general mechanism of language.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：方言の基礎

- 3回：方言へのアプローチ  
 4回：音韻  
 5回：アクセント  
 6回：イントネーション  
 7回：語彙  
 8回：方言調査の方法  
 9回：文法  
 10回：待遇表現  
 11回：言語行動  
 12回：コーパスを使った調査  
 13回：振り返り  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業後にリアクションペーパーを提出する。
- ・上記以外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。出席は評価割合に含まれない。

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

- 田中ゆかり 『「方言コスプレ」の時代ーニセ関西弁から龍馬語までー』 岩波書店 2011 9784000248709  
 大西 拓一郎 編 『新日本言語地図: 分布図で見渡す方言の世界』 朝倉書店 2016 9784254510515  
 木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ編 『方言学入門』 三省堂 2013  
 9784385363936

# 文学講義 342

Lectures on Literature 342

日本語学 6

舒 志田 (SHU ZHITIAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT342

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は日本語の歴史について知りたい、学びたい方のための入門知識をマスターしてもらうものです。音韻、文字、文法、語彙という分野ごとに、それぞれの通時的な歴史を概観して、その変遷の様相を講義します。この授業を通じて日本語の歴史を最も簡潔に把握できることを目指します。

This lecture is for those who want to know and learn about the history of the Japanese language to master introductory knowledge. We will provide an overview of the diachronic history of each field: phonology, writing, grammar, and vocabulary, and lecture on the changes that have occurred. Through this class, we aim to be able to understand the history of the Japanese language in the simplest possible way.

## 授業の内容 / Course Contents

言語はいくつかの側面があります。まず、音によってことばが語られ、その音（音韻）と意味とが結びついた語（単語）を用い、文法という規則に基づいて表現されます。話し言葉に対して、書き言葉では、その音や語が文字によって書き表わされます。つまり、大きく音韻・文字・文法・語彙という分野にわけることができます。それぞれの分野でどのような流れをもっているのか、時代別に区切るのではなく、それ自体の変遷をより

わかりやすくするために、本講義では分野別で日本語の歴史を概観していきます。

Language has several aspects. First, words are spoken through sounds, and are expressed using words that combine sounds (phonology) and meanings based on the rules of grammar. In contrast to spoken language, in written language, the sounds and words are represented by letters. In other words, it can be broadly divided into phonology, characters, grammar, and vocabulary. In order to make it easier to understand the changes in each field, rather than dividing them into eras, we will provide an overview of the history of the Japanese language by field.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：第一回 総説

日本語の範囲、記述対象、日本語史の時代区分及びその資料

2回：第二回 音韻史（上）

音節構造の変遷と子音の変化

3回：第三回 音韻史（下）

- ・アクセントの変遷

- ・連濁と連声

- ・グループ発表①

4回：第四回 文字史（上）

日本語における漢字の歴史

5回：第五回 文字史（下）

- ・仮名の発達史

- ・ローマ字

- ・グループ発表②

6回：第六回 語彙史（上）

- ・和語の成長と意味発達

7回：第七回 語彙史（下）

- ・漢語の受容と応用

- ・外来語の使用と増加

- ・グループ発表③

8回：第八回 文法史（上）

- ・用言と活用の変遷

9回：第九回 文法史（下）

- ・助詞、助動詞の変遷

- ・グループ発表④

10回：第十回 待遇表現史

11回：第十一回 文体史

12回：第十二回 位相語史

13回：第十三回 日本語と外国語

14回：第十四回 グループ発表⑤

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表 : グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○  
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

歴史的事項を扱うため、高等学校までに学ぶ日本史の知識は必須である。未履修の者は、随時自学自習にて補うこと。講義には予習を以て臨み、復習を通じて理解を深めること。講義で触れられる部分は限られているため、図書館を活用した幅広い独習が求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% グループ発表:40% 授業参加度:10%

### テキスト / Textbooks

沖森卓也 編著 『日本語ライブラリー 日本語史概説』 朝倉書店 2013 9784254515220 ○

### 参考文献 / Readings

沖森卓也 編 『日本語史』 桜楓社 1992

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

グループ発表では、何人かで協力して具体的な資料を読み、当該資料に現れる日本語史にかかわる事項を整理して発表してもらう。詳細指示は授業内で説明する。

# 文学講義 344

Lectures on Literature 344

書誌学 1

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT344

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 第5回～第9回の授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

和本の実物に触れ、書誌調査の基礎を習得する。

This course aims for students to encounter actual traditional Japanese books and to learn the basics of bibliographical research.

## 授業の内容 / Course Contents

和本の特徴や近世出版メディアの概略について解説したのち、くずし字解読演習、和本のうち特に版本の現物を用いた書誌学実習をくりかえし行う。書誌学の基本を学ぶとともに、近世のさまざまなジャンルの文学作品を翻刻・調査することにより、ジャンル毎の特徴や造本形式の違いについても理解する。（2023年度「文学講義 343」とは異なる作品を扱う。）

After the instructor explains characteristics of traditional Japanese books and an overview of early modern printing media, students practice deciphering writing in running form characters and repeat bibliographical exercises using traditional Japanese books, especially actual woodblock-printed versions. In addition to studying the basics of bibliography, students learn about genre-specific characteristics and differences in bookbinding



formats through reprinting and researching literary works from various early modern genres.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに（授業の進め方、成績評価の方法等について）
- 2 回：近世版本のさまざま一講義
- 3 回：くずし字解読の方法について一講義
- 4 回：くずし字解読演習 1
- 5 回：くずし字解読演習 2
- 6 回：くずし字解読演習 3
- 7 回：くずし字解読演習 4
- 8 回：資料検索・閲覧の方法と書誌のとり方 1 一講義
- 9 回：資料検索・閲覧の方法と書誌のとり方 2 一講義
- 10 回：書誌学実習 1
- 11 回：書誌学実習 2
- 12 回：書誌学実習 3
- 13 回：書誌学実習 4
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に配付するプリントを熟読する。配付プリントにより、くずし字解読の予習・復習を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%　くずし字テスト:40%　書誌カードの作成:20%　最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

笠間影印叢刊行会 『字典かな-出典明記・改訂版』 笠間書院 1994 9784305000002 ○

授業時に適宜プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

廣庭基介・長友千代治 『日本書誌学を学ぶ人のために』 世界思想社 1998

# 文学講義 345

Lectures on Literature 345

文献解読 1

一戸 渉 (ICHINOHE WATARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT345

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近世日本の古典学の展開について理解し、適切な資料に基づいて基礎的事項について説明することができる。

近世の文学と時代思潮や社会との関係について、自らの問題意識に基づいて論じることができる。

To understand the development of classical studies in early modern Japan and be able to describe basic matters based on appropriate materials.

To be able to discuss the relationship between literature of the early modern period and the trends of the time, based on one's own awareness of the issues.

## 授業の内容 / Course Contents

江戸時代の日本では、出版文化の隆盛により、たんに古典を読むことに飽きたらず、それを本格的に研究し、またさまざまな実践に活かそうとするひとびとの層が、前代と比べて飛躍的に拡大しました。かれらの営みはこんにちでは国学、和学、古学などさまざまに呼ばれ、文学・歴史・思想・宗教・美術といった領域の近代的な研究の先駆として位置づけられています。現代のような専門分化した学問大系とは異なる、よくもわるくも多様かつ雑多な知的営為でした。彼らはいにしえの日本に関わる書物や資料を集め、それらを読み解くばか

りでなく、その知識を活かして創作などの実践を行い、また志向を同じくする同士のあいだでさまざまなコネクションを構築し、また場合によっては知的野心を抱いて当時の社会におけるプレゼンスを向上させようとするなど、じつに多様な活動を行っていました。近世期の朝廷社会や武家社会にも様々な余波をもたらしたその知的いとなみを、一応ここでは「和学」と呼ぶことにしますが、本授業ではそうした近世和学の営みが、どのような人物によって担われていたか、その背景にはどのような思潮があったか、またそれはどのような拡がりをもって展開したか、といった視点から教授してゆきます。

In early modern Japan, the flourishing of publishing culture led to a dramatic expansion of people who not only read classics but also actively studied them and applied their knowledge in various practices, compared to the medieval period. Their activities are now positioned as pioneering presences in various fields of modern humanities such as literature, history, philosophy, religion, and art. Conversely, this intellectual activity in early modern Japan was diverse and varied, different from the specialized academic system of today. Intellectuals of the early modern period collected books and materials related to ancient Japan, not only studying them but also attempting various practices using their knowledge. They had various connections among like-minded people, and some of them had intellectual ambitions and aimed to rise in status through their knowledge. We will tentatively call this intellectual activity that brought various ripples to society at that time 'Wagaku'. In this course, we will teach about how such activities of early modern Wagaku were carried out by what kind of people, what kind of thought currents were in the background, and how it developed with what kind of spread.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス 授業の進め方、評価の方法など
- 2 回：近世日本の書物・文学・学問
- 3 回：『禁中并公家諸法度』と近世前期の古典学
- 4 回：契沖と書物出版
- 5 回：荷田春満と江戸
- 6 回：賀茂真淵の古代発見
- 7 回：梶門と荷田派と
- 8 回：本居宣長と上田秋成
- 9 回：寛政の改革と詩歌
- 10 回：松平定信の古典愛好
- 11 回：近世後期朝廷における和歌と書
- 12 回：和歌復古の表現と表記
- 13 回：いにしえ好きたちの近世
- 14 回：本講義のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配付資料を読み、事前に固有名や用語について調べておくこと。また授業中に紹介された文献を積極的に読んでおくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの提出:30%

**テキスト / Textbooks**

Canvas LMS 上で PDF を配布します。

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

配布資料は Canvas LMS 上で PDF を配布します。各自でダウンロードして必要に応じてプリントアウトするか、PC ないしタブレット等で表示するようにして下さい。スマートフォンは画面が小さいため推奨しません。

**その他 / Others**

授業の進捗状況や受講生からの要望などに応じて内容の一部を変更する場合があります。

# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT511

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT513  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL3843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT514

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT515

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT516

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT517

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT518

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 1

Research and Report for Thesis Writing 1

研究小論文の執筆

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT519

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT521

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT522

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT523  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL3843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT524

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT525

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT526  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： JAL3843  
使用言語： その他  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。



# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT527

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT528

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文（制作）予備研究 2

Research and Report for Thesis Writing 2

研究小論文の執筆

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT529

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL3843

使用言語： その他

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

4 年次に卒業論文に取り組むことなどを目標として、以下のことを目指す。

- ・自分の興味関心を見きわめ、論じるテーマや作品、作家などを決める。
- ・先行研究の探し方や読み方を身につけ、その内容をふまえて自身のテーマを練り上げる。
- ・論じる対象（作品でも、言説でも）の表現や構成を吟味し、その特色を見出す。
- ・自分で立てた観点や関心に基づきつつ、作品を評価づける。

To acquire the following skills in preparation for writing a graduation thesis.

- Determine their own interests and decide on the theme, works, authors, etc. to be discussed.
- Learn how to search for and read previous research, and develop a theme based on that research.
- Examine expressions and structures in order to discover the characteristics of the subject matter (whether works or discourses) to be discussed.
- Evaluate works based on the viewpoints and interests they have established.

## 授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。卒業論文執筆に向けたテーマを決め、テーマにそった調査・研究を進めて行くために、教員の助言・指導を受けながら卒業論文執筆の準備を進めるとともに、達成すべき目標を段階を追って設定し実践する。担当教員により、グループでの中間発表・討議をする場合、個別面談指導を併用する授業形態、もっぱら個別面談指導を重ねていく授業形態などさまざまなやり方がある。Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary. In order to decide on themes for graduation theses and to proceed with relevant investigation and research, students will undertake preparations for writing theses while receiving advice and guidance from faculty members, and will set and put into practice step-by-step goals to be achieved. Various forms of class exist, such as that in which individual one-on-one guidance by the faculty member in charge is provided along with the holding of group intermediate presentations and discussions, and that consisting solely of repeated individual one-on-one guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導 1
- 2回：指導 2
- 3回：指導 3
- 4回：指導 4
- 5回：指導 5
- 6回：指導 6
- 7回：指導 7
- 8回：指導 8
- 9回：指導 9
- 10回：指導 1 0
- 11回：指導 1 1
- 12回：指導 1 2
- 13回：指導 1 3
- 14回：指導 1 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

担当教員の指示に従うこと。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT781

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： JAL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT782  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： JAL4840  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AT783  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： JAL4840  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT785

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： JAL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認



- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT786

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： JAL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT787

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： JAL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AT788

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： JAL4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 入門演習 F1a

Introductory Seminars F1a

文芸批評・思想の基礎を学ぶ

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU011

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学・批評・思想などさまざまなタイプの文章を読解する力を身につける

大学での基本的なレジュメの作成、発表や討論の仕方を身につける

アカデミックな文章の書き方を学ぶ

Acquire the ability to read various types of texts, such as novels, criticism and essays.

Learn how to create and present resumes and to discuss in an appropriate manner.

Learn how to write a academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、大学での学習の土台を作るために、文学・批評・思想などさまざまなタイプの文章を読解し、自分自身でアカデミックな文章が書けることを目指します。

毎回、課題を提示しますので、課題に応じてレジュメ等を作り、それをもとに議論をするという形式をとります。

授業の成果として、最終レポートを完成させます。

In this course, students will read various types of texts, such as novels, criticism, and essays. You are required at the end to write academic text by yourself so that you can build a foundation for studying at university.

Each time, you will have a text for reading; you are asked to make a resume, and to have a discussion based on it.

You have to complete a final report as a result of all the lessons.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：図書館講習
- 3回：発表とディスカッション：レジюмеを書く
- 4回：発表とディスカッション：プレゼンをする
- 5回：発表とディスカッション：文献の探し方
- 6回：発表とディスカッション：注をつける
- 7回：発表とディスカッション：グループレポート
- 8回：中間レポート講評
- 9回：発表とディスカッション：テーマを決める
- 10回：発表とディスカッション：論述の方法
- 11回：最終レポート構想発表
- 12回：最終レポート構想発表
- 13回：最終レポート構想発表
- 14回：最終レポート講評

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題文を読んでくる。レジюме担当者はレジюмеを準備する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:20% 発表:30% 授業への参加（討論・提出物）:20% 最終レポート割合：:30%

四分の一以上の欠席は不合格とする。

### テキスト / Textbooks

- 北村紗衣 『批評の教室——チョウのように読み、ハチのように書く』 ちくま新書 2020 9784480074256 ○
- 永井玲衣 『水中の哲学者たち』 晶文社 2021 9784794972743 ○
- 東浩紀 『動物化するポストモダン オタクから見た日本社会』 講談社現代新書 2001 9784061495753 ○
- 福嶋亮大 『思考の庭のつくりかた はじめての人文学ガイド』 星海社新書 2022 9784065284018 ○
- 瀬地山角 『炎上CMでよみとくジェンダー論』 光文社新書 2020 9784334044695 ○
- 上記は使用予定です。あらかじめ購入し、読んでおいてください。



# 入門演習 F 1 b

Introductory Seminars F1b

近現代文学を読む

福島 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

主に日本文学の代表作を評論とともに読み解く。文学および評論を読む勘所を養いつつ、レジュメ作成や図書館での文献探索の方法を学ぶことを大きな目標とする。

Mainly we will read and try to decipher outstanding works of Japanese literature in conjunction with critiques of these works. While developing the vital traits needed to read literature and critiques, our major goal is to learn how to produce a report and search for reference literature at a library.

## 授業の内容 / Course Contents

20世紀文学の様相を大づかみにするために、毎回短い文庫本を一冊ずつ読んでいく。担当者の発表の後にディスカッションを行う。

In order to broadly cover aspects of twentieth-century literature, we will read a short paperback book in each session. We will conduct a discussion after the designated student's presentation.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

- 2回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 3回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 4回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 5回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 6回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 7回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 8回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 9回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 10回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 11回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 12回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 13回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション  
 14回：講師の解説&担当者発表&ディスカッション

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、短い文庫本ないし新書を一冊読んでくる

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:30% 発表内容:30% 学期末レポート:40%

四分の一以上の欠席は履修の意図がないものとみなす

#### テキスト / Textbooks

授業中に指示する

#### 参考文献 / Readings



# 入門演習 F1c

Introductory Seminars F1c

論理的な文章を正確に読む。及びレジюме・レポートの書き方習得

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

読む・聞く・話す・書く能力の涵養。

Cultivate reading, listening, speaking and writing skills.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストについて受講者がレジюмеを作成し報告、それに基づいて討論を行う。合わせて文献資料の探し方、レジюме・レポートの書き方も指導する。

Students will produce a summary, present their findings and conduct a debate based on their work. In addition, instruction on finding reference literature and writing a summary/report will be provided.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、報告の分担決定、テキスト配布、作文の課題提示

2 回：図書館講習その 1

3 回：図書館講習その 2

4 回：文献探索の実践、文章の書き方指導

- 5回：テキスト精読（報告・質疑応答・討論） 石田雄『日本の政治と言葉』上巻の序と下巻の後編の一部  
 6回：予備日  
 7回：テキスト精読 杉田敦『境界線の政治学』より「二分法の暴力」  
 8回：レジユメの書き方指導 討論の技術実践  
 テキスト精読 若桑みどり『戦争がつくる女性像——第二時世界大戦下の日本女性動員の視覚的プロパガンダ』より「非戦闘員としての女性が戦時に担う一般的役割」  
 9回：テキスト精読 小森陽一編『編成されるナショナリズム』より「黄禍論と優生学」  
 10回：レポートの書き方指導  
 11回：テキスト精読 岡真理『彼女の「正しい」名前とは何か』より『『第三世界』と『西洋フェミニズム』  
 「カヴァリング・ウーマン、あるいは女性報道」  
 12回：テキスト精読 丸山真男『現代政治の思想と行動』より「軍国支配者の精神形態」  
 13回：テキスト精読 上野千鶴子『近代家族の成立と終焉』より「日本型近代家族の成立」  
 14回：レポート相談・提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキストを読んで、質問やコメントを考えてくる。図書館講習の後は、実際に文献検索を行ってみる。予備日には、報告のやり直しを入れることもある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容・レジユメの完成度:40% 出席と授業参加度:20% 最終レポート割合:40%

四分の一以上の欠席は不合格とする。

### テキスト / Textbooks

杉田敦 『境界線の政治学』 岩波書店 2005 -  
 若桑みどり 『戦争がつくる女性像』 筑摩書房 1995 -  
 小森陽一編 『編成されるナショナリズム』 岩波書店 2002 -  
 岡真理 『彼女の「正しい」名前とは何か』 青土社 2000 -  
 上野千鶴子 『近代家族の成立と終演』 岩波書店 1994 -  
 石田雄『日本の政治と言葉 上・下』東京大学出版会、1989年  
 丸山真男『現代政治の思想と行動』（未来社、1964年）も使用。テキストはコピーを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業内で参考文献は紹介する。授業に必要なものはコピーを配布する。

### その他 / Others

研究室はロイドホール7階。

# 入門演習 F1d

Introductory Seminars F1d

テキスト分析とアカデミックライティング

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU014

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・ テキストを分析的に読むための方法について知識を得る。
- ・ 発表・討論を通じて、アカデミックな場でのコミュニケーション能力を高める。
- ・ 図書館その他大学施設を利用して勉学する方法を習得する。
- ・ 論文形式の文章で自らの考察を表現する。

The goals of this course are to

- ・ obtain knowledge of how to read a text analytically,
- ・ improve one's academic communication skills through presentations and discussions,
- ・ learn how to use the library and other university facilities for study,
- ・ express one's own reflections in the form of written papers.

## 授業の内容 / Course Contents

テキスト分析の方法を学ぶ。最初に近代日本の小説を素材として、さまざまな分析方法とその適用例について

検討する。ついで、テキストの種類を思想・批評に広げて、そこでの議論をどう理解し、批判することができるかを検討する。

大学の勉学全体に通じる導入的な回のあとは、担当者の発表とそれを受けての教室での討論により進行する。最後に、自らの批評実践の成果として約 4000 字のレポートを提出する。

This course deals with methods of textual analysis. First, using modern Japanese novels as material, various methods of analysis and examples of their application will be discussed. Then, we will broaden the scope of texts to include thought and criticism, and examine how we can understand and critique the debates in such texts. After the introductory sessions, which are common to all university studies, the course will proceed with presentations by the reporters and classroom discussions in response to the presentations. Finally, students will submit a report of approximately 4,000 words on the results of their own textual analysis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：Canvas LMS について、授業でのレジュメ作成について
- 3 回：図書館講習
- 4 回：発表と討論（1）
- 5 回：発表と討論（2）
- 6 回：発表と討論（3）
- 7 回：発表と討論（4）
- 8 回：発表と討論（5）
- 9 回：レポートについて（1）
- 10 回：発表と討論（6）
- 11 回：発表と討論（7）
- 12 回：発表と討論（8）
- 13 回：レポートについて（2）
- 14 回：総括、最終レポート相談

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 発表のための準備学習（発表担当者）  
 各回で扱う教材についての子習（全員）  
 宿題が課された場合は、その作成。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 授業参加度（討論参加，提出物についてポイントを加算）:30%

最終レポート割合：:30%

各要素は必須とする。四分の一以上の欠席は不合格とする。

**テキスト/Textbooks**

松本和也編 『テキスト分析入門』 ひつじ書房 2016 9784894768369 ○

その他の教材については基本的にコピーを配付する。

**参考文献 / Readings**

適宜紹介する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Canvas LMS を活用する。授業内でも使い方の初歩的な解説を行う予定。

学生は、課題作成等のため PC を用意することが望ましい。

**その他/ Others**

発表はグループ発表を主とし、個人発表を適宜併用する。

グループ発表では、メンバーで事前に打ち合わせをしながら、要求された内容のレジюмеを作成して発表を行うこと。発表グループ以外の参加者は、その回の題材について各自予習してくること。予習メモの提出を加算材料とする。

宿題を課した場合にはそれに応じて提出物を作成，提出すること。

# 入門演習 F 2 a

## Introductory Seminars F2a

日本の現代文学の代表的短篇小説を読むことと、20世紀を代表する古典的思想論文に触れること

陣野 俊史 (JINNO TOSHIFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU021

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の現代文学の代表的短篇小説を読むことと、20世紀を代表する古典的思想論文に触れること

Reading representative short stories of modern Japanese literature and coming into contact with classical philosophical treatises representative of the 20th century

### 授業の内容 / Course Contents

日本の現代文学については、著名な作家の芥川賞受賞作を数篇読む。秋学期の後半は、学生諸君が、この後の研究に欠かせない（だろう）思想的論文を数篇読むことにします。

For contemporary Japanese literature, read several Akutagawa Prize-winning works by famous authors. Other than that, I will let the students read a few philosophical papers that are (perhaps) essential for further research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション、「書評担当」の小説を決めます

レジュメと書評の具体例、授業担当者の書いたものをから考える

2 回：小川洋子『妊娠カレンダー』

- 3回：多和田葉子『かかとをなくして』  
 4回：川上弘美『蛇を踏む』  
 5回：青山七恵『ひとり日和』  
 6回：今村夏子『むらさきのスカートの女』  
 7回：阿部和重『インディヴィジュアル・プロジェクトン』（1）  
 8回：阿部和重『インディヴィジュアル・プロジェクトン』（2）  
 9回：ロラン・バルト『明るい部屋』（写真論）概説  
 10回：『明るい部屋』をめぐって、学生の発表  
 11回：ワルター・ベンヤミン『翻訳者の使命』の概説  
 12回：『翻訳者の使命』をめぐって、学生の討議  
 13回：カミュ『異邦人』と、カメル・ダーウド『もう一人の異邦人』をめぐって概説  
 14回：『もう一人の異邦人』をめぐって学生の発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業以前に、指定された小説を読み、担当する回であればその小説の「書評」を書くこと。自分が書評を担当する回でなくても、きちんと読んでくること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:65% 最終レポート割合 :35%

### テキスト / Textbooks

テキストについては初回に説明します。

### 参考文献 / Readings

# 入門演習 F2b

Introductory Seminars F2b

様々なテキストの解釈と分析

本郷 朝香 (HONGO ASAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU022

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

テキストを適切に読解し、自分なりの解釈・分析ができるようになる。授業での発表、対話を通して、他者の意見を参考に、多様な解釈の可能性を受け入れる。

Read and accurately understand a text, and then become able to interpret/analyze it in the own way. Through in-class presentations and dialogue, and based on the opinions of others, accept that a wide variety of possible interpretations exist.

## 授業の内容 / Course Contents

様々な小説・哲学書を読み、参加者全員が内容を自分なりに解釈・分析し、その根拠を示しつつ、他者にも納得できるような形で発表する。また、各々が自分の好きな小説について、聞き手に読みたいと思わせるような書評を行い、どの書評が一番魅力的だったか投票を行う。

We will read various novels and all students should be able to interpret/analyze the content in their own way. While providing evidence of their interpretation/analysis, students will give a presentation in a format that can successfully convince other of their argument. Also, each student will review a book that they like and present it



in a way that convinces the listeners that it is something they would want to read. We will then vote on which book review was the most appealing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：カズオイシグロ『遠い山なみの光』
- 3回：マルグリット・デュラス『モデラート・カンタービレ』
- 4回：坂口安吾『白痴』
- 5回：ドストエフスキー「大審問官」(『カラマーゾフの兄弟』第2部第5編5章)
- 6回：安部公房『他人の顔』
- 7回：ソフォクレス『オイディプス』
- 8回：安倍公房『燃え尽きた地図』
- 9回：内田百閒『とおぼえ』
- 10回：アンリ・ベルクソン『時間と自由』
- 11回：アラン・ロブ＝グリエ『消しゴム』
- 12回：ビブリオバトル(1)
- 13回：ビブリオバトル(2)
- 14回：最終レポート提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参加者全員が毎回、指定の小説を読んで、話し合いの基となるペーパーを用意してきてください。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 発表(複数回) :50%

四分の一以上の欠席は失格とみなす。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

## 入門演習 F2c

Introductory Seminars F2c

創作演習(詩文について)

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

言葉による表現について具体的に考え、実作と批評を通して各自の言語観を深める。

Through reading various poems, writing their works and critics, students will cultivate their thoughts about linguistic expressions and deepen their understanding of language and literature.

### 授業の内容 / Course Contents

日本語によるさまざまな詩を読み、初歩的な批評を書く。詩をテーマとする論文を読む。さらに詩の実作と批評をおこない、ディスカッションを通して各自の考えを深める。詩に親しむ。

Students will read various poems, essays and write critical works in elementary level. Adding to that, students will write their poems and find the way to get pleasure to read and write poetry.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：はじめに（ガイダンスなど）。

2 回：詩を読む（資料は配布する）。詩の課題（作品）を提出する。

3 回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。

- 4回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。  
 5回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。  
 6回：詩をテーマとする論文を読む。  
 7回：詩をテーマとする論文を読む。  
 8回：詩をテーマとする論文を読む。  
 9回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。  
 10回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。  
 11回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。  
 12回：提出された課題を読み、ディスカッションを行う。  
 13回：最終レポートの構想について発表する。  
 14回：まとめ。【最終レポート提出。】

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

提出する課題（作品や批評）を授業時間外に執筆する必要がある。授業前や授業後に読んでおく必要のある資料や書籍などがある場合は、適宜指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業参加度:40% 授業の課題としての作品や提出物等:40% 最終レポート割合 :20%

四分の一以上の欠席は不合格とする。

### テキスト / Textbooks

必要に応じて配布する。

### 参考文献 / Readings

蜂飼耳(編) 『大人になるまでに読みたい15歳の詩3 なやむ』 ゆまに書房 2013

蜂飼耳(編) 『大人になるまでに読みたい15歳の詩6 わらう』 ゆまに書房 2017

大岡信・谷川俊太郎 『声でたのしむ 美しい日本の詩』 岩波書店 2020

その他、資料（論文のコピーなど）は必要に応じて配布する。

# 入門演習 F2d

Introductory Seminars F2d

文学と視覚的イメージをめぐって

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW1810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学と視覚的イメージのつながりに着目することによって、言葉の深度と速度を捉え、それを表現することを目標としています。

By concentrating on the link between literature and the visual image it creates, we will aim to grasp the depth and pacing of words and become able to express these features.

## 授業の内容 / Course Contents

多くの作家は、映画から触発を受けて優れた創作をしており、また、文学が映画監督に触発し、優れた映画に結実することがあります。この演習では、よく知られた海外、日本の短編小説を交互に取り上げ、文学が醸し出す視覚的イメージを捉えることによって文学的想像力を養うのと同時に、文学からの抽象の仕方を学びます。

☆適宜、関連する映画作品を取り入れることを予定しています。

Many authors take inspiration from films and produce outstanding works of fiction. Also, there are instances of

literature inspiring film directors, who go on to produce remarkable movies. In this seminar, by covering well-known short stories and capturing the visual image that literature creates, we will cultivate literary imagination. Meanwhile, we will learn how to use abstraction through the literature.

\*If appropriate, the intention is to incorporate related films/videos.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：ギャリコ『雪のひとひら』
- 3 回：室生犀星『小景異情』
- 4 回：モーム『月と六ペンス』
- 5 回：稲垣足穂『一千一秒物語』
- 6 回：パヴェーゼ『美しい夏』
- 7 回：松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』
- 8 回：ジンメル『愛の断章』
- 9 回：芥川龍之介『侏儒の言葉』
- 10 回：シュティフター『水晶』
- 11 回：梶井基次郎『檸檬』
- 12 回：コーチェ『死霊の恋』
- 13 回：泉鏡花『高野聖』
- 14 回：まとめと補足

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

当該テキストを精読して、心震わされた箇所を銘記しておくことが必要です。受講者全員に、いずれかの作品の発表を担当してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度・積極性:60% 最終レポート割合：40%

4分の1以上の欠席は不合格とみなされます。

### テキスト / Textbooks

- ポール・ギャリコ、矢川澄子訳『雪のひとひら』新潮文庫、2008年  
 室生犀星『室生犀星詩集』ハルキ文庫、2007年  
 サマセット・モーム、金原瑞人訳『月と六ペンス』新潮文庫、2014年  
 稲垣足穂『一千一秒物語』新潮文庫、1969年  
 パヴェーゼ、河島英昭訳『美しい夏』岩波文庫、2006年  
 松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』河出文庫、2010年  
 ジンメル、清水幾太郎訳『愛の断想／日々の断想』岩波文庫、1980年

芥川竜之介『侏儒の言葉 文芸的な、余りに文芸的な』岩波文庫、2003年  
シュティフター、手塚富雄・藤村

**参考文献 / Readings**

---

授業内で適宜指示します。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AU031
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PCW3810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文ないしそれに準ずる文章を作成するうえで必要な論理的思考と構成力を鍛練する。12000 字程度のまとまった文章を作成する。

Develop the logical thinking and writing skills needed to produce a graduate thesis or equivalent piece of writing. Produce an organized piece of writing of around 12,000 characters.

## 授業の内容 / Course Contents

卒業論文を書く場合も、また卒業制作を作成する場合も、論理的な文章を読解し、その構造を理解すること、また、みずから論理的な文章を構成し、プレゼンテーションするノウハウを身につけておくことが必要である。本演習では、文章作成上の技術的な作法を学び、自分だけにわかる文章ではなく、読み手を説得することのできる文章を構成する能力の鍛練を目的とする。また、本演習は、卒論やそれに準ずる文章を作成するためのベースを構築する演習であるので、本演習の担当教員と 4 年次の卒論(制作)指導教員は必ずしも同一でなくてもよい。途中で他の教員のクラスとの合同授業も行う。最終レポートとして卒業論文(制作)予備論文(12000 字程度)を提出する。

Whether you write a graduation thesis or create a graduation piece, it is necessary to develop the know-how to

read and comprehend logical texts, understand their structure, compose your own logical text and give a presentation on it. In this seminar we will learn technical rules to follow when writing and aim to cultivate the ability to compose a written text that is not just understandable to yourself, but able to successfully convince others of your argument. Also, this is the seminar for building a base of knowledge on how to write a graduate thesis or equivalent piece of writing. Therefore, the lead lecturer of this seminar does not necessarily need to be the same person as a student's fourth year graduate thesis (or graduate piece) supervisor. A joint class with another lecturer's class will also be carried out midway through the course. Students will submit a preliminary graduate thesis (or graduate piece) paper (of around 12,000 characters) as a final report for this seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：予備論文と卒業論文(制作)とのつながり
- 2回：発表と討論1
- 3回：発表と討論2
- 4回：発表と討論3
- 5回：発表と討論4
- 6回：合同授業期間1
- 7回：合同授業期間2
- 8回：合同授業期間3
- 9回：合同授業期間4
- 10回：合同授業期間5
- 11回：発表と討論5
- 12回：発表と討論6
- 13回：発表と討論7
- 14回：まとめと卒業論文(制作)予備論文の提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の発表のために資料を作成する（A4判3～4枚）。テーマ、目次案、参考文献表を必ず含むこと。また、教員の指示による宿題も行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(発言回数+発言内容):40% 発表報告内容:20% 卒業論文(制作)予備論文:40%

四分の一以上の欠席や遅刻は失格になるので注意！

### テキスト / Textbooks

適宜プリントや資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

必要があれば授業中に指定する。文献はコピーを配布する。



**その他/ Others**

本授業で制作する予備論文の提出が、4年次の卒業論文(制作)指導演習を履修登録するための前提となるので注意すること。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU032  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文ないしそれに準ずる文章を作成するうえで必要な論理的思考と構成力を鍛練する。12000 字程度のまとまった文章を作成する。

Develop the logical thinking and writing skills needed to produce a graduate thesis or equivalent piece of writing. Produce an organized piece of writing of around 12,000 characters.

## 授業の内容 / Course Contents

卒業論文を書く場合も、また卒業制作を作成する場合も、論理的な文章を読解し、その構造を理解すること、また、みずから論理的な文章を構成し、プレゼンテーションするノウハウを身につけておくことが必要である。本演習では、文章作成上の技術的な作法を学び、自分だけにわかる文章ではなく、読み手を説得することのできる文章を構成する能力の鍛練を目的とする。また、本演習は、卒論やそれに準ずる文章を作成するためのベースを構築する演習であるので、本演習の担当教員と 4 年次の卒論(制作)指導教員は必ずしも同一でなくてもよい。途中で他の教員のクラスとの合同授業も行う。最終レポートとして卒業論文(制作)予備論文(12000 字程度)を提出する。

Whether you write a graduation thesis or create a graduation piece, it is necessary to develop the know-how to

read and comprehend logical texts, understand their structure, compose your own logical text and give a presentation on it. In this seminar we will learn technical rules to follow when writing and aim to cultivate the ability to compose a written text that is not just understandable to yourself, but able to successfully convince others of your argument. Also, this is the seminar for building a base of knowledge on how to write a graduate thesis or equivalent piece of writing. Therefore, the lead lecturer of this seminar does not necessarily need to be the same person as a student's fourth year graduate thesis (or graduate piece) supervisor. A joint class with another lecturer's class will also be carried out midway through the course. Students will submit a preliminary graduate thesis (or graduate piece) paper (of around 12,000 characters) as a final report for this seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：予備論文と卒業論文(制作)とのつながり
- 2 回：発表と討論 1
- 3 回：発表と討論 2
- 4 回：発表と討論 3
- 5 回：発表と討論 4
- 6 回：合同授業期間 1
- 7 回：合同授業期間 2
- 8 回：合同授業期間 3
- 9 回：合同授業期間 4
- 10 回：合同授業期間 5
- 11 回：発表と討論 5
- 12 回：発表と討論 6
- 13 回：発表と討論 7
- 14 回：まとめと卒業論文(制作)予備論文の提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の発表のために資料を作成する（A4判3～4枚）。テーマ、目次案、参考文献表を必ず含むこと。また、教員の指示による宿題も行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(発言回数+発言内容):40% 発表報告内容:20% 卒業論文(制作)予備論文:40%

四分の一以上の欠席や遅刻は失格になるので注意！

### テキスト / Textbooks

適宜プリントや資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

必要があれば授業中に指定する。文献はコピーを配布する。

**その他/ Others**

本授業で制作する予備論文の提出が、4年次の卒業論文(制作)指導演習を履修登録するための前提となるので注意すること。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AU033
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PCW3810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文ないしそれに準ずる文章を作成するうえで必要な論理的思考と構成力を鍛練する。12000 字程度のまとまった文章を作成する。

Develop the logical thinking and writing skills needed to produce a graduate thesis or equivalent piece of writing. Produce an organized piece of writing of around 12,000 characters.

## 授業の内容 / Course Contents

卒業論文を書く場合も、また卒業制作を作成する場合も、論理的な文章を読解し、その構造を理解すること、また、みずから論理的な文章を構成し、プレゼンテーションするノウハウを身につけておくことが必要である。本演習では、文章作成上の技術的な作法を学び、自分だけにわかる文章ではなく、読み手を説得することのできる文章を構成する能力の鍛練を目的とする。また、本演習は、卒論やそれに準ずる文章を作成するためのベースを構築する演習であるので、本演習の担当教員と 4 年次の卒論(制作)指導教員は必ずしも同一でなくてもよい。途中で他の教員のクラスとの合同授業も行う。最終レポートとして卒業論文(制作)予備論文(12000 字程度)を提出する。

Whether you write a graduation thesis or create a graduation piece, it is necessary to develop the know-how to

read and comprehend logical texts, understand their structure, compose your own logical text and give a presentation on it. In this seminar we will learn technical rules to follow when writing and aim to cultivate the ability to compose a written text that is not just understandable to yourself, but able to successfully convince others of your argument. Also, this is the seminar for building a base of knowledge on how to write a graduate thesis or equivalent piece of writing. Therefore, the lead lecturer of this seminar does not necessarily need to be the same person as a student's fourth year graduate thesis (or graduate piece) supervisor. A joint class with another lecturer's class will also be carried out midway through the course. Students will submit a preliminary graduate thesis (or graduate piece) paper (of around 12,000 characters) as a final report for this seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：予備論文と卒業論文(制作)とのつながり
- 2回：発表と討論1
- 3回：発表と討論2
- 4回：発表と討論3
- 5回：発表と討論4
- 6回：合同授業期間1
- 7回：合同授業期間2
- 8回：合同授業期間3
- 9回：合同授業期間4
- 10回：合同授業期間5
- 11回：発表と討論5
- 12回：発表と討論6
- 13回：発表と討論7
- 14回：まとめと卒業論文(制作)予備論文の提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の発表のために資料を作成する（A4判3～4枚）。テーマ、目次案、参考文献表を必ず含むこと。また、教員の指示による宿題も行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(発言回数+発言内容):40% 発表報告内容:20% 卒業論文(制作)予備論文:40%

四分の一以上の欠席や遅刻は失格になるので注意！

### テキスト / Textbooks

適宜プリントや資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

必要があれば授業中に指定する。文献はコピーを配布する。

**その他/ Others**

本授業で制作する予備論文の提出が、4年次の卒業論文(制作)指導演習を履修登録するための前提となるので注意すること。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU034  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文ないしそれに準ずる文章を作成するうえで必要な論理的思考と構成力を鍛練する。12000 字程度のまとまった文章を作成する。

Develop the logical thinking and writing skills needed to produce a graduate thesis or equivalent piece of writing. Produce an organized piece of writing of around 12,000 characters.

## 授業の内容 / Course Contents

卒業論文を書く場合も、また卒業制作を作成する場合も、論理的な文章を読解し、その構造を理解すること、また、みずから論理的な文章を構成し、プレゼンテーションするノウハウを身につけておくことが必要である。本演習では、文章作成上の技術的な作法を学び、自分だけにわかる文章ではなく、読み手を説得することのできる文章を構成する能力の鍛練を目的とする。また、本演習は、卒論やそれに準ずる文章を作成するためのベースを構築する演習であるので、本演習の担当教員と 4 年次の卒論(制作)指導教員は必ずしも同一でなくてもよい。途中で他の教員のクラスとの合同授業も行う。最終レポートとして卒業論文(制作)予備論文(12000 字程度)を提出する。

Whether you write a graduation thesis or create a graduation piece, it is necessary to develop the know-how to



read and comprehend logical texts, understand their structure, compose your own logical text and give a presentation on it. In this seminar we will learn technical rules to follow when writing and aim to cultivate the ability to compose a written text that is not just understandable to yourself, but able to successfully convince others of your argument. Also, this is the seminar for building a base of knowledge on how to write a graduate thesis or equivalent piece of writing. Therefore, the lead lecturer of this seminar does not necessarily need to be the same person as a student's fourth year graduate thesis (or graduate piece) supervisor. A joint class with another lecturer's class will also be carried out midway through the course. Students will submit a preliminary graduate thesis (or graduate piece) paper (of around 12,000 characters) as a final report for this seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：予備論文と卒業論文(制作)とのつながり
- 2 回：発表と討論 1
- 3 回：発表と討論 2
- 4 回：発表と討論 3
- 5 回：発表と討論 4
- 6 回：合同授業期間 1
- 7 回：合同授業期間 2
- 8 回：合同授業期間 3
- 9 回：合同授業期間 4
- 10 回：合同授業期間 5
- 11 回：発表と討論 5
- 12 回：発表と討論 6
- 13 回：発表と討論 7
- 14 回：まとめと卒業論文(制作)予備論文の提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の発表のために資料を作成する（A4判3～4枚）。テーマ、目次案、参考文献表を必ず含むこと。また、教員の指示による宿題も行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(発言回数+発言内容):40% 発表報告内容:20% 卒業論文(制作)予備論文:40%

四分の一以上の欠席や遅刻は失格になるので注意！

### テキスト / Textbooks

適宜プリントや資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

必要があれば授業中に指定する。文献はコピーを配布する。

**その他/ Others**

本授業で制作する予備論文の提出が、4年次の卒業論文(制作)指導演習を履修登録するための前提となるので注意すること。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

林 みどり (HAYASHI MIDORI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AU035
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PCW3810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文ないしそれに準ずる文章を作成するうえで必要な論理的思考と構成力を鍛練する。12000 字程度のまとまった文章を作成する。

Develop the logical thinking and writing skills needed to produce a graduate thesis or equivalent piece of writing. Produce an organized piece of writing of around 12,000 characters.

## 授業の内容 / Course Contents

卒業論文を書く場合も、また卒業制作を作成する場合も、論理的な文章を読解し、その構造を理解すること、また、みずから論理的な文章を構成し、プレゼンテーションするノウハウを身につけておくことが必要である。本演習では、文章作成上の技術的な作法を学び、自分だけにわかる文章ではなく、読み手を説得することのできる文章を構成する能力の鍛練を目的とする。また、本演習は、卒論やそれに準ずる文章を作成するためのベースを構築する演習であるので、本演習の担当教員と 4 年次の卒論(制作)指導教員は必ずしも同一でなくてもよい。途中で他の教員のクラスとの合同授業も行う。最終レポートとして卒業論文(制作)予備論文(12000 字程度)を提出する。

Whether you write a graduation thesis or create a graduation piece, it is necessary to develop the know-how to

read and comprehend logical texts, understand their structure, compose your own logical text and give a presentation on it. In this seminar we will learn technical rules to follow when writing and aim to cultivate the ability to compose a written text that is not just understandable to yourself, but able to successfully convince others of your argument. Also, this is the seminar for building a base of knowledge on how to write a graduate thesis or equivalent piece of writing. Therefore, the lead lecturer of this seminar does not necessarily need to be the same person as a student's fourth year graduate thesis (or graduate piece) supervisor. A joint class with another lecturer's class will also be carried out midway through the course. Students will submit a preliminary graduate thesis (or graduate piece) paper (of around 12,000 characters) as a final report for this seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：予備論文と卒業論文(制作)とのつながり
- 2 回：発表と討論 1
- 3 回：発表と討論 2
- 4 回：発表と討論 3
- 5 回：発表と討論 4
- 6 回：合同授業期間 1
- 7 回：合同授業期間 2
- 8 回：合同授業期間 3
- 9 回：合同授業期間 4
- 10 回：合同授業期間 5
- 11 回：発表と討論 5
- 12 回：発表と討論 6
- 13 回：発表と討論 7
- 14 回：まとめと卒業論文(制作)予備論文の提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の発表のために資料を作成する（A4判3～4枚）。テーマ、目次案、参考文献表を必ず含むこと。また、教員の指示による宿題も行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(発言回数+発言内容):40% 発表報告内容:20% 卒業論文(制作)予備論文:40%

四分の一以上の欠席や遅刻は失格になるので注意！

### テキスト / Textbooks

適宜プリントや資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

必要があれば授業中に指定する。文献はコピーを配布する。

**その他/ Others**

本授業で制作する予備論文の提出が、4年次の卒業論文(制作)指導演習を履修登録するための前提となるので注意すること。

# 卒業論文（制作）予備演習

Seminars in Thesis Writing

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU036  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

卒業論文ないしそれに準ずる文章を作成するうえで必要な論理的思考と構成力を鍛練する。12000 字程度のまとまった文章を作成する。

Develop the logical thinking and writing skills needed to produce a graduate thesis or equivalent piece of writing. Produce an organized piece of writing of around 12,000 characters.

## 授業の内容 / Course Contents

卒業論文を書く場合も、また卒業制作を作成する場合も、論理的な文章を読解し、その構造を理解すること、また、みずから論理的な文章を構成し、プレゼンテーションするノウハウを身につけておくことが必要である。本演習では、文章作成上の技術的な作法を学び、自分だけにわかる文章ではなく、読み手を説得することのできる文章を構成する能力の鍛練を目的とする。また、本演習は、卒論やそれに準ずる文章を作成するためのベースを構築する演習であるので、本演習の担当教員と 4 年次の卒論(制作)指導教員は必ずしも同一でなくてもよい。途中で他の教員のクラスとの合同授業も行う。最終レポートとして卒業論文(制作)予備論文(12000 字程度)を提出する。

Whether you write a graduation thesis or create a graduation piece, it is necessary to develop the know-how to

read and comprehend logical texts, understand their structure, compose your own logical text and give a presentation on it. In this seminar we will learn technical rules to follow when writing and aim to cultivate the ability to compose a written text that is not just understandable to yourself, but able to successfully convince others of your argument. Also, this is the seminar for building a base of knowledge on how to write a graduate thesis or equivalent piece of writing. Therefore, the lead lecturer of this seminar does not necessarily need to be the same person as a student's fourth year graduate thesis (or graduate piece) supervisor. A joint class with another lecturer's class will also be carried out midway through the course. Students will submit a preliminary graduate thesis (or graduate piece) paper (of around 12,000 characters) as a final report for this seminar.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：予備論文と卒業論文(制作)とのつながり
- 2 回：発表と討論 1
- 3 回：発表と討論 2
- 4 回：発表と討論 3
- 5 回：発表と討論 4
- 6 回：合同授業期間 1
- 7 回：合同授業期間 2
- 8 回：合同授業期間 3
- 9 回：合同授業期間 4
- 10 回：合同授業期間 5
- 11 回：発表と討論 5
- 12 回：発表と討論 6
- 13 回：発表と討論 7
- 14 回：まとめと卒業論文(制作)予備論文の提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の発表のために資料を作成する（A4判3～4枚）。テーマ、目次案、参考文献表を必ず含むこと。また、教員の指示による宿題も行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(発言回数+発言内容):40% 発表報告内容:20% 卒業論文(制作)予備論文:40%

四分の一以上の欠席や遅刻は失格になるので注意！

### テキスト / Textbooks

適宜プリントや資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

必要があれば授業中に指定する。文献はコピーを配布する。

**その他/ Others**

本授業で制作する予備論文の提出が、4年次の卒業論文(制作)指導演習を履修登録するための前提となるので注意すること。



# 演習 F 1

## Seminars F1

『道徳経』を中心とする漢字語彙の分析を通して

松本 秀士 (MATSUMOTO HIDESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU101  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

漢字語彙の原義について、その伝統文化的背景から分析的に理解を深めながら、現代社会におけるその意味的変容に内在する本質的問題を考察する視点を養う。

The goal of this course is to deepen the understanding of the original meaning of Chinese characters from the perspective of its traditional cultural background, and cultivate the ability to observe the core problems of the distortion and deterioration of word meaning caused by modern society.

### 授業の内容 / Course Contents

- ・日本語を形成してきた要素としての漢字文化の源流に立ちかえる目的で、中国哲学の経典の一つとされる『道徳経』の講読を通して、漢字そのものの原義、およびその広がりや中国の古典籍、あるいは現代に継承する様々な伝統文化の面から探る。
- ・近代の漢字文化圏に劇的変化をもたらした西洋概念を念頭にしながら、現代で使用される漢字語彙についても、社会的背景に注意しながら、漢字の原義からどう逸脱しているかについて考察する。
- ・各回の授業においては、輪番として担当者を定め、漢字語彙についてのリサーチと分析を行い、レジュメを

作成し、発表する。

適宜、中国語や漢文資料をあつかうが、受講生のこれらの学習歴は問わない。

・ Laozi's Dao De Jing (道德经) is known as the classical Chinese philosophical book. Through the interpretation of this ancient book, we analyze the original meaning of Chinese characters from multiple perspectives. This analysis can detect the origin of Chinese character culture that formed Japanese.

・ During the period of the spread of Western learning to the east, the background that the original quality of the Chinese character cultural circle was gradually invaded and deteriorated by modern Western thought needs to be further investigated, so we need to carefully analyze the variability in the meaning of Chinese characters that are widely used today.

・ In each class, each student publishes the results of interpretation and analysis in turn, and also needs to prepare in advance to write the manuscript for publication.

・ We do not ask students whether they have the experience of learning classical Chinese and modern Chinese, but students must try their best to look up dictionaries and so on to supplement their ability to understand these articles.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（漢字語彙の分析について）
- 2回：漢字と漢語の特性・構造・歴史的背景に関する概説
- 3回：担当者による発表と討論
- 4回：担当者による発表と討論
- 5回：担当者による発表と討論
- 6回：担当者による発表と討論
- 7回：担当者による発表と討論
- 8回：中間総括
- 9回：担当者による発表と討論
- 10回：担当者による発表と討論
- 11回：担当者による発表と討論
- 12回：担当者による発表と討論
- 13回：担当者による発表と討論
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：各回の担当者は、一連の漢字語彙を選びながら、それぞれについて可能な限り分析し、レジュメを作成し、発表に備える。非担当者も、担当者の発表範囲の中で、重要と思われる漢字語彙を選び、可能な限り分析し、小レポートを作成して討論に備える。

復習：学習した事項は各自まとめて、適宜追加の分析を加え、理解を深めた上で中間総括、および最終報告書に備える。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における各回の発表:30% 授業における発言・討論への参加度:30% 最終  
レポート割合 :40%

2/3 以上の出席がない場合は、成績評価の対象としない（ただし出席点は評価対象に含まない）。

**テキスト / Textbooks**

オリジナル資料を配布する。

**参考文献 / Readings**

池田知久全訳注 『老子』 講談社 2017 9784062924160

蜂屋邦夫訳註 『老子』 岩波文庫 2008 9784003320518

王力 『古代漢語』 中華書局 2018 9787101132434

高明撰 『帛書老子校注』 中華書局 1969 7101013430

授業時、必要に応じて追加で示す。

## 演習 F 2

Seminars F2

「女性作家」の作品を読む

堀 千晶 (HORI CHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

文学史や文学の評価基準を批判的に書き換えるまなざしをもつこと

Critically rewrite the literary history and its criteria

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では「女性作家」たちの作品を読み、議論することにします。翻訳文学も、あまり知られていないマイナーな作品も、クィアな作品も歓迎です。時代も問いません。

冒頭の数回は教室全体で文献を読み、全員で議論していきます。細かな表現の一つひとつに注目していくことで、作品にこめられた様々なこだわりを紐解いていきたいとおもいます。

そのうえで履修者には、それぞれ自分で決めた小説について発表をしてもらい、それについて全員で討議します。加えて学期末に、短いレポートを執筆して提出してもらいます。

具体的な授業内容については、話し合いながら決定していきます（したがって、本シラバス内の「授業計画」はあくまで仮のものです）。

We will read and discuss the works of "female writers". Minor works, queer works are also welcome. By paying

attention to each detail of the expression, we would like to unravel the various singularities put into the work.

Each student will be asked to make a presentation about a work of their own choice. In addition, at the end of the semester, you will be asked to write a short paper.

(Please be aware that the "Course Schedule" in this syllabus is provisional.)

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：短篇を読む
- 3回：中篇を読む
- 4回：批評を読む
- 5回：発表＋討議
- 6回：発表＋討議
- 7回：発表＋討議
- 8回：発表＋討議
- 9回：発表＋討議
- 10回：発表＋討議
- 11回：発表＋討議
- 12回：発表＋討議
- 13回：発表＋討議
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

課題のテキストを読むこと

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表の内容:40% 討論での発言:30% 提出物:30%

### テキスト / Textbooks

テキストはコピーを配布。

### 参考文献 / Readings

## 演習 F 3

Seminars F3

『房思琪の初恋の樂園』と張愛玲 / 文学の裏切り / "Fang Si-Chi's First Love Paradise" and Eileen Chang/  
Betrayed by Literature

泉 京鹿 (IZUMI KYOKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この演習では、『房思琪の初恋の樂園』（2017 年/台湾）及びその著者・林奕含（1991～2017）が影響を受けた張愛玲（1920～95）作品を精読し、中国語圏における張愛玲の存在と影響力、性暴力被害や me too 運動など現代中国社会及び中国文学への理解を深めます。

We will read intensively "Fang SiQi's First Love Paradise (Fang Si-Chi's First Love Paradise/ English Edition)" (2017/Taiwan) and the works of Zhang Ailing (Eileen Chang 1920-95), whose author Lin Yihan(1991-2017) was influenced by her. To deepen our understanding of contemporary Chinese society and Chinese literature,

including Zhang Ailing's presence and influence in the Chinese-speaking world (Greater China), sexual violence victims, and the #MeToomovement.

### 授業の内容 / Course Contents

授業の内容 Course Contents

本演習ではまず、台湾の作家・林奕含（1991～2017）の『房思琪の初恋の樂園』（原著：2017年/邦訳：2019年・2024年）を読み、この作品、そして作品が生まれた背景について考えます。また、中華圏で長きにわたって絶大な影響力を持つ作家・張愛玲（1920～95）作品の短編・中編の中からいずれかを選んで読み、その作品及び『房思琪の初恋の樂園』に与えた影響についての考察を順番に発表してもらい、さらに全員で議論します。

張愛玲が林奕含作品に与えた影響、それぞれの時代における女性の地位、教育、家族観、性暴力について考え、ディスカッションを経て、それぞれの作品にこめられた著者の思い、作品が書かれた意義を受け止めることで、これからのみなさんの人生により豊かな想像力、生きる力を培う端緒としていきましょう。

近年、日本でも芸能界における権力を背景にした性加害、学校や学習塾の教師による児童・生徒への性加害など、マインド・コントロールやグルーミングという言葉とともに、従来はあまり顕在化されてこなかった未成年への性暴力が大きく報道されることが増えています。

『房思琪の初恋の樂園』は優れた文学作品であると同時に、被害者、加害者、第三者の視点から「未成年への性加害」という現代社会における根絶すべき深刻な問題を考えるテキストとしても得難い作品として、発売後すぐに台湾では26万部（2019年時点）、中国大陸では100万部（2020年時点）のベストセラーとなり、これまでに日本の他、韓国、タイ、ポーランド、ロシアなどで翻訳されています。

日本語版は一時絶版となっていました。現在の日本でこそ読むべき作品として各方面からの熱望により2024年2月に白水社Uブックスで復刊。原書の刊行から約7年の歳月を経ても、今こそ読むべき作品であることの意味も考えます。

We will read "Fang Siqu's First Love Paradise" (original: 2017 / Japanese: 2019) by Taiwanese writer Lin Yihan (1991-2017) and consider this work and the context in which it was created. We will also read one of the short or second volume works by Zhang Ailing (1920-95), a writer who has had a great influence in the Greater China region for a long time, and ask the participants to present their thoughts on the work and its influence on "Fang Siqu's First Love Paradise" in turn, followed by a discussion among all participants.

In recent years, sexual assaults against minors, which have not been so much exposed in the past, have been increasingly reported in Japan, along with the terms "mind control" and "grooming," such as power-based sexual assaults in the entertainment industry and sexual assaults and sexual abuse against children and students by teachers at schools and cram schools.

The book is not only an outstanding work of literature, but also a worth reading text that considers the serious problem of sexual assault of minors in modern society from the perspectives of the victim, the perpetrator, and a third party. Soon after its release, it became a bestseller in Taiwan with 260,000 copies (as of 2019) and 1 million copies (as of 2020) in mainland China. It has been translated in Japan, South Korea, Thailand, Poland, Russia, and other countries.

The Japanese edition of the book was temporarily out of print, but was reprinted in February 2024 by Hakuuisha U Books due to the strong demand from various quarters as a work that should be read in Japan today. We also consider the significance of this work, which should be read now, even though it has been almost seven years since the original publication.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、授業の進め方
- 2回：『房思琪の初恋の樂園』について概説、関連映像など視聴

- 3回：『房思琪の初恋の樂園』について 初読感想とディスカッション  
 4回：張愛玲について 中華圏におけるその影響  
 5回：担当者の発表とディスカッション  
 6回：担当者の発表とディスカッション  
 7回：担当者の発表とディスカッション  
 8回：担当者の発表とディスカッション  
 9回：担当者の発表とディスカッション  
 10回：担当者の発表とディスカッション  
 11回：担当者の発表とディスカッション  
 12回：担当者の発表とディスカッション  
 13回：担当者の発表とディスカッション  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

『房思琪の初恋の樂園』を精読が大前提です。  
 張愛玲作品についても、発表のために選んだ作品だけでなく、できるだけ多くの作品に目を通してください。  
 プリントをたくさん配布します。必ず精読して授業に臨んでください。  
 受講者全員に発表を担当してもらいます。  
 担当者はレジュメを準備してください。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表の内容:40% 出席及び議論への参加度:30% 課題提出:30%

受講生には積極的な議論参加を求めます。

#### テキスト / Textbooks

林奕含 『房思琪の初恋の樂園』 白水社 U ブックス 2024 9784560072516 ○

張愛玲 『傾城の恋/封鎖』 光文社古典新訳文庫 2018 9784334753771 ○

#### 参考文献 / Readings

授業内で指示または配布します。

#### その他 / Others

授業内容予定は状況に応じて変更することがあります。



## 演習 F 4

### Seminars F4

「遊び」をアカデミックに検討する

今井 信治 (IMAI NOBUHARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「遊び」を構成するものと、その「楽しさ」の源泉を探る。具体的な題材を取り上げ、その「楽しさ」をアカデミックな言葉で語る術を学ぶことを目標とする。

Explore what “play” is made up of and the source of this “fun”. We will cover specific themes and aim to learn techniques for discussing the “fun” in these themes using academic terminology.

### 授業の内容 / Course Contents

しばしばサブカルチャーと名指されるように、遊びの領域は文化のなかでも従属的／下位的な位置に置かれてきた。それゆえに、いわゆる高級文化に比して学問的な歴史は浅い。しかし、今日の大学生における関心の高まりから、遊びを語るためのアカデミック・スキルが強く求められている。本授業ではこうした状況に鑑み、「遊び」と「楽しさ」をキーワードとして、それらを分析するための理論的枠組みを学ぶ。その後、アナログゲームを題材とした実践を通じて、理論を分析へと繋げる手法について学ぶ。

Frequently labelled a subculture, the domain of “play” has generally been given a subordinate status/low ranked position in society. Therefore, compared to so called advanced culture, “play” only has a short academic history.

However, due to increased interest in today's university students, the academic skills required to discuss play are in high demand. In view of this situation and with "play" and "fun" as our keywords, in this class we will learn the theoretical framework for analyzing these domains. Then, through exercises on the subject of analog or non-digital games we will learn methods for linking theory to analysis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：受講者の確認および授業の進め方の説明
- 2回：「真面目」と「遊び」は両立するか
- 3回：遊戯を構成する場と役割
- 4回：遊戯の楽しさを分析する理論
- 5回：遊戯への没入を考察する理論
- 6回：遊戯における知識の使用とその発展：クイズ文化
- 7回：アナログゲームを用いたストーリーテリングの実践(1)：作者の死
- 8回：アナログゲームを用いたストーリーテリングの実践(2)：物語の類型論
- 9回：アナログゲームを用いたストーリーテリングの実践(3)：記号学と構造主義
- 10回：アナログゲームの構造分析と実践(1)
- 11回：アナログゲームの構造分析と実践(2)
- 12回：アナログゲームの構造分析と実践(3)
- 13回：アナログゲームの構造分析と実践(4)
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で対象となるテキストについて予習することが必要となる。また、報告の担当者はレジュメの作成を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 報告内容:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

基本的に、検討対象とするテキストは授業時に指示してコピーを配布する。

### 参考文献 / Readings

ヨハン・ホイジンガ 『ホモ・ルーデンス』 講談社学術文庫 2018 9784062924795

ロジェ・カイヨワ 『遊びと人間』 講談社学術文庫 1990 9784061589209

ミハイ・チクセントミハイ 『フロー体験』 世界思想社 1996 9784790706144

いずれも本授業テーマの基本文献なので、一読を勧める。

## 演習 F 5

Seminars F5

日本近現代短篇小説を読む

加藤 邦彦 (KATO KUNIHICO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

発表とディスカッションを通じて、日本近現代文学の研究方法や着眼点を学び、研究に必要な知識や能力を身につけます。特に重視するのは、丁寧に作品の言葉を把握すること、先行研究の調査方法、論理的な思考です。他者の言葉をきちんと理解する能力や、ディスカッションによって思考を深める術の修得も目指します。

Through presentations and discussions, students will learn research methods and points of view on modern Japanese literature and acquire the knowledge and abilities necessary for research. Particular emphasis is placed on carefully understanding the language of works, research methods for previous studies, and logical thinking. We also aim to help students acquire the ability to properly understand the words of others and the art of deepening their thinking through discussion.

### 授業の内容 / Course Contents

日本近現代文学研究のさまざまな方法や着眼点を学びます。教員が指定した短篇小説を題材とします。受講生全員に発表を分担して、それぞれ調べたこと、考えたことを発表していただきます。発表はグループではなく個人発表です。また、発表をもとに全員でディスカッションを行ないます。発表分担は第1回目の授業で決め

ます。なお、「授業計画」に挙げた作品は、過去の授業で取り上げた作品例です。今年度扱う作品は、第1回目の授業で示します。

Students will learn various methods and points of view in the study of modern Japanese literature. The course will be based on a short story assigned by the instructor. All students will be assigned to present what they have researched and thought about. Presentations will be given individually, not in groups. All students will discuss their presentations. Presentation assignments will be decided at the beginning of the class. The works listed in the "Course Schedule" are examples of works covered in past classes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：発表分担
- 2回：レジュメの作り方
- 3回：資料の探し方
- 4回：発表・討議1 森鷗外『高瀬舟』
- 5回：発表・討議2 佐藤春夫『西班牙犬の家』
- 6回：発表・討議3 江戸川乱歩『人間椅子』
- 7回：発表・討議4 太宰治『葉桜と魔笛』
- 8回：発表・討議5 林芙美子『水仙』
- 9回：発表・討議6 佐多稲子『キャラメル工場から』
- 10回：発表・討議7 安部公房『赤い繭』
- 11回：発表・討議8 石原慎太郎『完全な遊戯』
- 12回：発表・討議9 村上春樹『鏡』
- 13回：発表・討議10 川上弘美『神様』
- 14回：レポートの書き方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:40% 発表:40% 授業への参加状況:20%

### テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業時に随時紹介します。

## 演習 F 6

Seminars F6

日本の近現代と知識・教養について考える

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

テキスト講読を通して日本の近代及び現代の問題を考える。テキストの正確な読解力、明晰な報告と論理的な議論展開の仕方を身につける。

By thoroughly reading the text, students will be required to think about some problems of modern and present Japan. We will develop the ability to accurately read the text, produced a clear report and deliver a logical argument.

### 授業の内容 / Course Contents

担当者はレジュメを作成し報告、それに基づいて質疑応答と討論を行う。

授業時間内に、レポート・論文執筆に必要な資料収集、文章技術、書き方等の指導も行う。

Students will produce a summary, present their findings and conduct a debate based on their work. Instruction on finding reference literature and writing a summary & an academic paper .will be provided.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、分担決定とテキスト配布

- 2回：『教養主義の没落』精読  
 3回：『教養主義の没落』精読  
 4回：『教養主義の没落』精読  
 5回：『教養主義の没落』精読  
 6回：全体をふりかえっての討論・レジユメの書き方指導  
 7回：『戦時期日本の精神史』精読  
 8回：『戦時期日本の精神史』精読  
 9回：『戦時期日本の精神史』精読  
 10回：『戦時期日本の精神史』精読  
 11回：『戦時期日本の精神史』精読  
 12回：『戦時期日本の精神史』精読  
 13回：『戦時期日本の精神史』精読  
 14回：全体をふりかえっての討論

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員がテキストを精読し、質問やコメントを用意してくる。報告担当者はレジユメを人数分用意してくる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% 報告内容:40% 授業参加度:20%

#### テキスト / Textbooks

竹内洋 『教養主義の没落』 中公新書 2003 -

鶴見俊輔 『戦時期日本の精神史』 岩波書店 1982 -

テキストはコピーを配布する。

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

研究室はロイドホール7階

## 演習 F 7

Seminars F7

短篇小説講読

小澤 裕之 (OZAWA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ロシアの短篇小説をじっくり読み、他の受講者と意見を交換することで、ロシア文学に対する理解を深めること。また、ロシア文学と強い結びつきをもっている日本の短篇も読むことで、より広い視野からロシア文学を理解することを目指します。

The aim of this course is for students to develop an understanding of Russian literature by carefully reading short stories and by having discussions with other students. Also, you can expansively think about Russian literature by reading Japanese short stories with close connections to Russian literature.

### 授業の内容 / Course Contents

ロシアの短篇小説を皆で読み、意見や感想を交換します。また、ロシア文学と強い結びつきをもっている日本の短篇もいくつか読みます。原則として、毎回1つの短篇・連作短篇を取りあげ、それについて担当者が報告を行ないます。初回授業時に報告担当者を決めます。ロシア語ができなくても構いません。

We read and discuss Russian short stories as well as Japanese short stories with close connections to Russian literature. In principle, this course deals with a short story (or a short story collection) each week, and a selected

student presents it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業で扱う短篇小説のリストを配り、発表担当者を決める
- 2回：輪読：望月恒子「短篇作家への道程」
- 3回：輪読：望月恒子「短篇作家への道程」(つづき)
- 4回：鼻が消える：ゴゴリ『鼻』
- 5回：鼻が大きすぎる：芥川龍之介『鼻』
- 6回：ロシアの林：ツルゲーネフ『あひびき』
- 7回：東京の林：国木田独歩『武蔵野』
- 8回：幽閉された男：チェーホフ『賭け』
- 9回：幽閉された魚：井伏鱒二『山椒魚』
- 10回：母なるロシアは広いんだ：チェーホフ『谷間』
- 11回：これでおしまい：ハルムス『出来事』
- 12回：それでおしまい：稲垣足穂『一千一秒物語』
- 13回：愛について：アレクシエービッチ『チェルノブイリの祈り』(ノンフィクション)
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取りあげる小説は、担当者以外も事前に読んできてください。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:40% 出席および授業参加度:20% 最終レポート割合 :40%

最終レポートは、3分の2以上出席した者にのみ許可します。

### テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

井桁貞義・井上健 (編) 『チェーホフの短篇小説はいかに読まれてきたか』 世界思想社 2013  
9784790715856

ゴゴリ (浦雅春訳) 『鼻/外套/査察官』 光文社 2006 9784334751166

ツルゲーネフ (二葉亭四迷訳) 『あひびき・片恋・奇遇』 岩波書店 2004 9784003100738

小澤裕之 『理知のむこう——ダニイル・ハルムスの手法と詩学』 未知谷 2019 9784896425727

ハルムス (小澤裕之編訳) 『言語機械——ハルムス選集』 未知谷 2019 9784896425857

アーザル・ナフィーシー (市川恵里訳) 『テヘランでロリータを読む』 白水社 2017 9784560095379

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩 (編) 『ロシア文学からの旅 交錯する人と言葉』 ミネルヴァ書房 2022  
9784623094004



## 演習 F 8

### Seminars F8

「身体、社会、アイデンティティーデメットの『ボディ・スタディーズ』を読む」

バルダリ, F. (BALDARI FLAVIA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「身体とは一体何だろうか」。『ボディ・スタディーズ』をよみながら、この問いに答えることを試みる。歴史、社会、テクノロジーなどの変化によって、「身体」のイメージ、身体の意味がどのように変わったのかを考察する。

この授業の目的は

- 1) 原文ではどのような視点から身体を分析しているのか。本書で使われている理論の枠組みを理解すること。
- 2) 本書で言及されている諸概念が持つ意味、言及されている人物を理解すること。
- 3) 「身体」に関する議論を身につけること。

What is a “body?” We will try to answer this question by reading “Body Studies” by Margo Demello. We will examine how the body’s image and meaning have been modified according to changes in history, society, and technology.

The objectives of this class are:

- (1) To understand the book's framework, the perspective that the author chose to analyze the body.
- 2) To understand the meanings of the various concepts appearing in the book and the philosophers and scholars that the author mentions.
- 3) To be familiar with the scholarly discussions regarding the body.

### 授業の内容 / Course Contents

誰もが日常生活の中で「身体」について語る。それは当たり前のように思われているかもしれない。しかし、実際には「身体」を定義するのは難しい試みである。マーゴ・デメッロの『ボディ・スタディーズ』（晃洋書房、2017）は構築主義的な視座から、身体を分析する。構築主義的な視座によると身体は「歴史や社会、文化の文脈の中で意味つけられる」。

「病」、「階級」、「美しさ」、「テクノロジー」などが我々の身体認識にどのように影響あたえているのか？原文を注意深く読み、こういったトピックや著者の視点について議論する。

授業の前半はテキストの要約によって、理解を確認する。後半は学生のコメントペーパーをもとに、参加者同士のディスカッションを中心に進める。哲学的な概念を理解し、問いを立てるための基礎的なトレーニングも実践する。

（発表もありますが、参加者人数によって、初回のガイダンスの時に説明をします）

Everyone talks about “the body” in their everyday life, sometimes as it may seem an obvious topic. In reality, however, defining the body is a difficult task. Margo DeMello’s “Body Studies” (Koyo Shobo, 2017) takes a constructionist perspective to analyze the body. According to constructionism, the body takes its meaning “in the context of history, society, and culture.”

How do “disease,” “class,” “beauty,” and “technology,” among other concepts, affect our perception of the body? In this seminar, we will read the original text carefully, discuss these topics, and the author’s perspective.

The first half of the class will focus on the summary of the text and its understanding. The second half will focus on discussion based on the students’ reaction papers submitted every week.

The class will also provide basic training for understanding philosophical concepts and formulating questions.

(Everyone should also give a presentation. More details will be explained during the first guidance session.)

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス：ガイダンス（授業の進め方、発表とレジュメの作り方、ディスカッションの方法など）報告への練習① 問いを立てましょう

2 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

3 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

4 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

5 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

6 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

7 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

8 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

9 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

10 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

11 回：『ボディ・スタディーズ』、テキストの説明、みんなでディスカッションする。

12 回：発表

13 回：発表

14 回：発表

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

予習：参加者は全員、事前に次回のテキストを読んでコメントペーパーを作成する（コメントペーパーの提出は毎週の火曜日の夜）。

報告も求める。報告の進め方について、初回のガイダンスの際、説明する。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題:30% グループ・ディスカッション:30% 発表:40%

**テキスト / Textbooks**

マーゴ・デメッロ 『ボディ・スタディーズ』 晃洋書房 2017 9784771027978 -

**参考文献 / Readings**

## 演習 F9

Seminars F9

美の諸相をめぐって

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

想像力と創造力の奥行きを伸長させることを目標としています。

The goal is to extend the depth of imagination and creativity.

### 授業の内容 / Course Contents

広義における耽美主義文学作品を通して、わたしたちの生において、どのようなものが美でありうるのかを探究します。扱う作家は、ボードレール、アナイス・ニン、トーマス・マン、永井荷風、森茉莉、泉鏡花です。

Through aesthetic literary works in a broad sense, we explore what kind of things can be beautiful in our lives.

Authors included include Baudelaire, Anais Nin, Thomas Mann, Kafu Nagai, Mari Mori, and Kyoka Izumi.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：ボードレール『パリの憂愁』①

3 回：ボードレール『パリの憂愁』②

4 回：永井荷風『墨東綺譚』①

- 5回：永井荷風『濯東綺譚』②  
 6回：アナイス・ニン『アナイス・ニンの日記』①  
 7回：アナイス・ニン『アナイス・ニンの日記』②  
 8回：森茉莉『甘い蜜の部屋』①  
 9回：森茉莉『甘い蜜の部屋』②  
 10回：トーマス・マン『トニオ・クレーゲル』  
 11回：トーマス・マン『ヴェニスに死す』  
 12回：泉鏡花『春昼』  
 13回：泉鏡花『歌行灯』  
 14回：全体のまとめと補足

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの当該箇所を精読し、想像力および創造力を掻き立てる表現・展開を銘記しておくことが求められます。受講者全員に一回発表を担当してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度・積極性：60% 最終レポート割合：40%

4分の1以上の欠席は不合格とみなされます。

### テキスト / Textbooks

ボードレール、福永武彦訳『パリの憂愁』岩波文庫、1966年

アナイス・ニン、原麗衣訳『アナイス・ニンの日記 1931～34』ちくま文庫、1991年

トーマス・マン、高橋義孝訳『トニオ・クレーゲル／ヴェニスに死す』新潮文庫、1967年

永井荷風『濯東綺譚』岩波文庫、1991年

森茉莉『甘い蜜の部屋』ちくま文庫、1996年

泉鏡花『春昼・春昼後刻』岩波文庫、1987年

泉鏡花『歌行燈』岩波文庫、1988年

\*テキストは各自入手のこと。

\*絶版のものについては、コピーを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜指示します。

# 演習 F10

Seminars F10

茨木のり子を読むー韓国関連作品を中心に

金 智英 (KIM JIYOUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「現代詩の長女」と呼ばれる詩人・茨木のり子の作品を読むことで、現代詩への理解を深める。

特に茨木のり子が愛してやまなかった韓国との関係およびその関連作品を日韓の比較文学的観点から考える。

By reading the works of Ibaraki Noriko who is called 'the eldest daughter of modern poetry', We aim to appreciate deeply Japanese modern poets. In particular, I would like to think about the relationship with Korea which Ibaraki Noriko had a strong attachment and consider the related works from the comparative literary point of view.

## 授業の内容 / Course Contents

茨木のり子の作品を原則として1回2作品のペースで読んでいく。毎回、作品の要約と読みどころをまとめたプリントを配布し、それに基づいて授業を行う。今学期は、特に茨木のり子の翻訳詩集『韓国現代詩選』、エッセイ集『ハンデルへの旅』に焦点を当てて、翻訳上の特徴や韓国文化との関係について考える予定。茨木のり子の作品が中心になるが、各テーマに関する韓国現代詩や小説を積極的に紹介し、日韓比較文学研究についても理解を深める。

We appreciate Ibaraki Noriko's works at the pace of two works every week.

Distributing a summary of the work and its features, the class will be conducted based on it. This semester, in particular, will focus on Noriko Ibaraki's translated poetry book, 'Korean Modern Perspective' and her essay 'A Journey to Hangeul,' to consider her relationship with Korean literature along with her translation features. Focusing on Noriko Ibaraki's works, but actively introducing literary works such as Korean modern poetry and novels. Every class about each theme, students can also enhance their understanding in Japanese and Korean comparative literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：詩人と作品の概要、授業方針の説明
- 2回：茨木のり子の作品世界：戦後詩人として
- 3回：茨木のり子の作品世界：「隣人愛」の詩人として
- 4回：茨木のり子の作品世界：「Y」のエロス
- 5回：茨木のり子と韓国：ハングル学習への道
- 6回：茨木のり子と韓国：翻訳詩集『韓国現代詩選』（その1）
- 7回：茨木のり子と韓国：翻訳詩集『韓国現代詩選』（その2）
- 8回：茨木のり子と韓国：エッセイ集『ハングルへの旅』（その1）
- 9回：茨木のり子と韓国：エッセイ集『ハングルへの旅』（その2）
- 10回：韓国現代詩：青春の詩を味わう
- 11回：韓国現代詩：愛を詩を味わう
- 12回：韓国現代小説：いま韓国で話題の作品
- 13回：韓国現代小説：いま日本で話題の韓国作品
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめ詩人の基本的な伝記的な情報を入手しておくことが望ましい。毎週、事前に作品を精読するとともに、自分の感想や問題点を整理して授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%  
 平常点割合 :40% 出席・平常の参加度:40%

### テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

# 演習 F11

Seminars F11

創作演習(批評と実作)

野崎 有以 (NOZAKI AI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本語による表現について具体的に考え、実作と批評を通して理解を深める。

Through reading the texts, writing works, critics, students will deepen their thoughts about Japanese linguistic expressions.

## 授業の内容 / Course Contents

日本語による詩および随筆などの文章（ときどき民話なども取り上げる）を読み、作品の実作と批評をおこなう。（提出された作品等は、配布して履修者全員で読む。）また、ディスカッションを通して各自の考えを深める。

We will mainly read poetry and essays written in Japanese, and sometimes consider folk tales from various perspectives. Students write poetry and critical works and read them together. Through discussions., students deepen their own thoughts .

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：はじめに(ガイダンスなど)。資料を配布して読む。



2回：「詩人」という概念について、文学の枠にとらわれずにさまざまな観点から検討する。また、詩と散文の違いについてもここで考える。(資料は配布する)

3回：詩を読む(主に近代詩。資料は配布する)。【前回の資料に関して、短い批評を書いてきて提出。】

4回：詩を読む(主に現代詩。資料は配布する)。前回提出された批評を読む。【詩作品を書いてきて提出。】

5回：提出された作品の発表と講評1

6回：提出された作品の発表と講評2

7回：資料を読む(日本の民話や童話をジェンダーの観点などから考える。海外の童話などもここで読む)。

8回：資料を読む(随筆)。【前回の資料に関する小レポートを提出。】

9回：詩を読む(資料は配布する)。【随筆を書いてきて提出。】

10回：提出された作品の発表と講評1

11回：提出された作品の発表と講評2【詩作品を書いてきて提出。】

12回：提出された作品の発表と講評1

13回：提出された作品の発表と講評2

14回：まとめ。【最終レポート提出。】

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

提出する課題を、授業時間外に執筆する必要がある。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加度:40% 授業の課題としての作品や提出物等:40% 最終レポート割合：:20%

#### テキスト/Textbooks

資料は必要に応じて配布する。

#### 参考文献 / Readings

吉野弘 『詩の楽しみ—作詩教室』 岩波書店 1982

吉野弘 『現代詩入門 新版』 青土社 2014

茨木のり子 『詩のこころを読む』 岩波書店 1979

中村稔 『現代詩の鑑賞』 青土社 2020

和田博文 『戦後詩のポエティクス 1935～1959』 世界思想社 2009

## 演習 F12

Seminars F12

脱成長論と消費社会論を批判的に考える

福島 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学部
科目コード等：	AU112
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PCW2810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

近年、環境危機を背景として、資本主義の成長志向のシステムを批判する「脱成長」論が活気づいている。その議論が主張するのは、われわれは資本主義および消費社会のシステムを根本から修正する必要があるということだ。この演習ではジェイソン・ヒッケルの『資本主義の次に来る世界』および山崎正和の『柔らかい個人主義の誕生』を精読し、脱成長論や消費社会論について理論的な枠組みを理解する。その後、自分で批評文を書くための基本的なトレーニングをおこなう。

In recent years, the lively discussion about "degrowth" which criticizes the growth-oriented system of capitalism is rising under the serious ecological crisis. The essence of their argument is that we need to revise the system of capitalism and consumer society fundamentally. In this seminar, after we will read Jason Hickel's "Less is More" and Masakazu Yamazaki's "The Birth of Soft Individualism" in order to understand theoretical framework about degrowth and consumer society, we will carry out basic training on how to write a critique.

### 授業の内容 / Course Contents

ヒッケルおよび山崎の著書を精読した後に、批評文を書くための訓練をおこなう。

We will read Hickel and Yamazaki's books analytically and provide training on writing a discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：担当者の発表&ディスカッション
- 2回：担当者の発表&ディスカッション
- 3回：担当者の発表&ディスカッション
- 4回：担当者の発表&ディスカッション
- 5回：担当者の発表&ディスカッション
- 6回：担当者の発表&ディスカッション
- 7回：担当者の発表&ディスカッション
- 8回：担当者の発表&ディスカッション
- 9回：担当者の発表&ディスカッション
- 10回：担当者の発表&ディスカッション
- 11回：担当者の発表&ディスカッション
- 12回：担当者の発表&ディスカッション
- 13回：担当者の発表&ディスカッション
- 14回：担当者の発表&ディスカッション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当者はレジュメの準備。他の参加者も精読が求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:40% 議論への参加度:30% 評論の達成度:30%

### テキスト / Textbooks

- ジェイソン・ヒッケル 『資本主義の次に来る世界』 東洋経済新報社 2023 9784492315491 ○  
 山崎正和 『柔らかい個人主義の誕生』 中央公論新社 2023 9784122074606 ○

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

簡単にわかった気にならずに、知的好奇心をもって、粘り強く書物を読解する力。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

# 演習 F17

Seminars F17

流行や迷信など従来まともに取り上げられることの少ない事象から日本近代を読み解く

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU117

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

テキスト精読を通して、「高校では教わらない」日本近代史の知識を身につける。テキストの正確な読解力、明晰な報告と論理的な議論をする力を身につける。同時にレポート・論文執筆に必要なノウハウを習得させる。

By thoroughly reading the text we will acquire knowledge of modern Japanese history that isn't taught at high school. We will develop the ability to accurately read the text, produce a clear report and deliver a logical argument. Concurrently, we will develop the know-how needed for writing a report/academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

松山巖『うわさの遠近法』、川村邦光『幻視する近代空間——迷信・病気・座敷牢、あるいは歴史の記憶』を読む。担当者はレジュメを作成し報告、それに基づいて質疑応答・討論を行う。

レポートの書き方についても参考資料を配布し、指導を行う。

We will read Uwasa no enkinho (Literal translation: A perspective on rumors) by Iwao Matsuyama, and Genshi suru kindai kukan: Meishin, byoki, zashikiro, aruiwa rekishi no kioku (Literal translation: Visions of modern spaces: superstitions, illnesses, prison cells (floored with tatami mats), or memories of history) by Kunimitsu

Kawamura. Appointed students will produce and deliver a report, then carry out a question and answer session/debate based on the report.

Reference materials will be handed out and instruction provided on how to write a report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス、分担決定とテキスト配布

2回：『うわさの遠近法』精読

3回：『うわさの遠近法』精読

4回：『うわさの遠近法』精読

5回：『うわさの遠近法』精読

6回：『うわさの遠近法』精読

7回：『うわさの遠近法』精読

8回：『幻視する近代空間』精読

9回：『幻視する近代空間』精読

10回：『幻視する近代空間』精読

11回：『幻視する近代空間』精読

12回：『幻視する近代空間』精読

13回：『幻視する近代空間』精読

14回：全体をふりかえっての討論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回全員がテキストを精読し、質問やコメントを用意してくる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% 報告内容:40% 授業参加度:20%

### テキスト / Textbooks

松山巖 『うわさの遠近法』 青土社 1993 -

川村邦光 『幻視する近代空間』 青弓社 1990 -

テキストは初回授業でコピーを配布する。

### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

研究室はロイドホールの7階

# 演習 F18

Seminars F18

現代演劇批評／Critique of contemporary theater

堀切 克洋 (HORIKIRI KATSUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代演劇（ミュージカルを除く）について書くことを通じて、批評という行為の意味を考え、豊かな感性と筆力を身につける。

Through writing about contemporary theater (excluding musicals), students will consider the meaning of the act of criticism and acquire a rich sensitivity and writing ability.

## 授業の内容 / Course Contents

開講期間中に都内（または東京近郊）で行われている現代演劇の公演を見にいき、作品の特徴や課題について発表してもらいます。最終的には批評を執筆してもらい、討議することによって文章や視野をブラッシュアップしていきます。

During the course period, students will go to see a contemporary theater performance in Tokyo (or the suburbs) and give a presentation on the characteristics of the work and the issues involved. In the end, students will be asked to write critiques and discuss them to brush up their writings and perspectives.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 2回：概論——現代演劇史（1）  
 3回：概論——現代演劇史（2）  
 4回：履修者による発表（1）  
 5回：履修者による発表（2）  
 6回：履修者による発表（3）  
 7回：履修者による発表（4）  
 8回：履修者による発表（5）  
 9回：履修者による発表（6）  
 10回：履修者による発表（7）  
 11回：批評合評会（1）  
 12回：批評合評会（2）  
 13回：批評合評会（3）  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間で演劇公演を見に行くことに加えて、発表のためのレジュメ準備が必要となります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加度:40% 課題の発表等:40% 最終レポート割合：:20%

#### テキスト / Textbooks

鈴木理映子（編）『〈現代演劇〉のレッスン』 フィルムアート社 2016 9784845916030 ○

#### 参考文献 / Readings

扇田昭彦 『日本の現代演劇』 岩波書店 1995 4004303729

扇田昭彦 『舞台は語る——現代演劇とミュージカルの見方』 集英社 2002 4087201554

徳永京子、藤原ちから 『演劇最強論』 飛鳥新社 2013 4864102066

後藤隆基（編） 『小劇場演劇とは何か』 ひつじ書房 2022 4894769727

#### その他 / Others

授業で取り上げる公演の候補作については、初回のガイダンスで紹介・案内する。

# 演習 F19

Seminars F19

ジェンダーについて考える

佐藤 香織 (SATO KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、哲学的議論を通じて 20 世紀以降のフェミニズムおよびジェンダーについての議論の基本的な概念と基礎を学ぶ。とりわけ、フランスにおける女性解放運動、女性の執筆の問題、フェミニズムと倫理学の問題、ジェンダーの区分の問題、家族の問題について資料を読んで議論する。

This course introduces the basic concepts and foundations of feminism and gender issues since 20th century through the philosophical arguments to students taking this course. Students read texts about the women's liberation movement in France, the women's writing, the relation between feminism and ethics, the classification of gender, the family, and they discuss the matter with each other.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、フェミニズムおよびジェンダーについての問題を学ぶために、身体経験および性のアイデンティティに関する思考を検討していく。また、自ら思考し、論述する力を身につけていく。

This course deals with the thoughts on physical experience and sexual identity in order to learn feminism and gender issues. It also enhances the development of students' skill in logical thinking and academic writing.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：問題となるもの—性を区別する言葉と身体
- 2回：1968年以降の女性解放運動の問題—アントワネット・フークとMLFについて考える
- 3回：20世紀初頭における「女性と小説」—ウルフ『自分ひとりの部屋』を読む
- 4回：「ジェンダー」とは何かを再考する—ボーヴォワール『第二の性』が目指したもの
- 5回：倫理的価値づけと性差—ギリガン『もうひとつの声』が提起した問題
- 6回：フェミニスト倫理学は可能か？—アンネマリー・ピーパーを読む
- 7回：社会的慣習と性差—ブルデューによるハビトゥス概念
- 8回：社会的振る舞いと性差—ヤング「女の子みたいな投げ方」を読む
- 9回：家族と性—デルフィ『何が女性の主要な敵なのか』が提起した問題
- 10回：中間レポート講評
- 11回：身体を通じて「私」は形作られる—メルロ＝ポンティの議論から
- 12回：「男性」と「女性」の区別が揺らぐということ—メルロ＝ポンティの身体論とトランスジェンダー
- 13回：「生みの親」と「親業」の分離可能性について—奥野修司『ねじれた絆』を読む
- 14回：「名付け」について考える—ジュディス・バトラーのウィラ・キャザー読解

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

板書ノートを良く読んで、授業内に提示された課題を復習する（1時間程度）。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の課題:40%

**テキスト / Textbooks**

アンネマリー・ピーパー 『フェミニスト倫理学は可能か?』 知泉書館 2006 9784901654746 -  
 毎回資料を配布する。

**参考文献 / Readings**

稲原美苗・川崎唯史 『フェミニスト現象学入門』 ナカニシヤ出版 2020 9784326154791

稲原美苗・川崎唯史 『フェミニスト現象学：経験が響き合う場所へ』 ナカニシヤ出版 2023 4779516986

その他、授業中に適宜指示する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

資料を読み、ディスカッションを行うための日本語運用能力が求められる。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

課題をインターネット経由で提出するので、スマホやPCなどを所有していることが望ましい。

## 演習 F20

Seminars F20

本を作ろう

郡司 典夫 (GUNJI NORIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本演習参加者は、本作りを実体験する。本作りのプロセスは、技術的な諸段階に分解でき、それらに習熟すれば、誰にでも本の製作は可能である。ただし、読者に納得感や充足感を与える本を作るには、原稿内容の深い理解が欠かせない。本演習の前半では、原稿への向き合い方を磨き、後半で、編集実務を実践する。原稿を読んで、出版の最終的なイメージを思い描けるようになることが目標である。

Participants will gain practical experience in book making. The process of making a book can be broken down into different technical stages, and anyone can produce a book if they are skilled in these steps. However, a thorough understanding of the content of the manuscript is essential to create a satisfying and fulfilling book for readers. In the first half of this semester you will refine your approach to the manuscript, and in the second half you will practice the editing process. Our goal is to be able to design the final image of the publication simply by reading the manuscript.

### 授業の内容 / Course Contents

さまざまなタイプの本・雑誌を取り上げ、そこで採用されている編集方法を吟味する。執筆者の意図はどこに

あるのか、対象読者は誰か、ふさわしい刊行形態はなにか、など編集に大きな違いが生じてくるポイントに意識を向けていく。また、書籍と雑誌の製作・編集プロセスは異なっており、その両方について学び、実践する。

We will look at different types of books and magazines, and then examine the editorial methods used. We will be aware of where editing can make a big difference, such as where the author's intentions lie, who the target audience is and what the appropriate publication format is. We will also learn and practice book and magazine publishing, which have different production processes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション——講師紹介および学生自己紹介。その後、本演習のプランを提示し、授業の進め方を示します。
- 2回：本や雑誌を構成している要素や、本作りのプロセスを学びます。
- 3回：本作りにあたって、編集者が何をしているのか説明します。
- 4回：この演習でどんな本をつくるのか相談します。
- 5回：文章への取り組み方①——まとまった分量の文書を読み、タイトルや小見出しのつけ方を学びます。
- 6回：文章への取り組み方②——まとまった分量の文書を読み、タイトルや小見出しのつけ方を学びます。
- 7回：文章への取り組み方③——原稿の校正の仕方を学びます。
- 8回：文章への取り組み方④——原稿を印刷できる水準に高める練習をします。
- 9回：装丁の考え方や帯の役割について学びます。
- 10回：インタビューの仕方について学びます。
- 11回：相互に、編集、校正作業を行い、原稿を完成に近づけます。
- 12回：相互に、編集、校正作業を行い、原稿を完成に近づけます。
- 13回：原稿の最終点検をします。その後、原稿は印刷所に渡り、実際に本が作成されます。
- 14回：完成した本について講評します。参加者各自の学びや反省点をクラス全体で共有します。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各自の原稿作成は、おおむね授業時間以外の時間を使うことになります。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業で発表し、意見を述べる:70% 最終成果物:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 演習 F 2 1

Seminars F21

生命・環境倫理学入門

山本 剛史 (YAMAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・ 生命倫理学と環境倫理学に関する各自の関心の惹起
- ・ 生命倫理学と環境倫理学に関する基本的なトピックや考え方の理解
- ・ 生命倫理学と環境倫理学に関するテキストの探し方と読み方の習得
- ・ Stimulate individual interest in bioethics and environmental ethics
- ・ Understand basic topics and ideas in bioethics and environmental ethics
- ・ Learn how to find and read texts on bioethics and environmental ethics

## 授業の内容 / Course Contents

この演習では、生命倫理学と環境倫理学に関連するテキストを題材に、その内容に関する講義および受講生の予習を踏まえて討論を行う予定です。

テキストはいわゆる狭義の哲学や倫理学の書物だけではありません。生命倫理や環境倫理は医療者や患者、あるいは環境保護や公害反対に身を投じている人によって書かれたものにもあらわれています。また政府が発表している行政文書や国際規約への注目も欠かせません。

この演習を通して、思想と生活との関連を読み取って行動に生かすセンスが習得できたらしめたものです。

In this exercise, we will discuss texts related to bioethics and environmental ethics, based on the instructor's lecture and the students' preparation.

The texts are not only philosophical or ethical books in the narrow sense. Bioethics and environmental ethics can be found in the writings of medical professionals and patients as well as those who devote themselves to environmental protection and against pollution. It is also essential to pay attention to administrative documents published by the government and international covenants.

Through this exercise, I hope the students to develop a sense of reading the relationship between thought and life and applying it to action.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の具体的な進め方について＋生命倫理学成立史と障がい者の問題 その1
- 2 回：生命倫理学成立史と障がい者の問題 その2
- 3 回：尊厳死・緩和ケアとその背景 その1
- 4 回：尊厳死・緩和ケアとその背景 その2
- 5 回：脳死・臓器移植について その1
- 6 回：脳死・臓器移植について その2
- 7 回：福島第一原子力発電所事故について振り返る
- 8 回：人文社会系の環境学の基礎としての U.ベック『危険社会』 その1
- 9 回：人文社会系の環境学の基礎としての U.ベック『危険社会』 その2
- 10 回：リスク社会論から低線量被ばくの問題を考える その1
- 11 回：リスク社会論から低線量被ばくの問題を考える その2
- 12 回：環境倫理学における権力と思想の関係について
- 13 回：生命倫理学の源流思想研究
- 14 回：環境倫理学における当事者思想の研究

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の資料は PDF 化して事前に配信するので、必ず読み込んでください。

また、議論を通して考えたことについて小レポートとして、適宜授業後に提出してもらいます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点（課題）:60% 最終レポート割合：:40%

授業全体の中で特に重要なトピックについて、参考文献を複数読んだうえで最終レポートを書いて提出すること。また、平常点課題は全体の 3 分の 2 以上の提出を課す。平常点課題の提出数が足りない場合は不合格とする。

### テキスト / Textbooks

無し。こちらから様々な文章を CANVAS からその都度配信します。

**参考文献 / Readings**

小林亜津子 『看護のための生命倫理〔改訂三版〕』 ナカニシヤ出版 2019 9784779514050

吉永明弘/寺本剛 『環境倫理学』 昭和堂 2020 9784812219348

山本剛史 『被災当事者の思想と環境倫理学』 言叢社 2024

安富歩 『原発危機と「東大話法」―傍観者の論理・欺瞞の言語―』 明石書店 2012 9784750335162

1・2 は授業全体の入門として挙げておきます。哲学・思想としての生命倫理学と環境倫理学を理解するうえでも有益です。

3 は本科目の内容に関連する講義担当者の著作です。

4 は生命倫理や環境倫理の様々な問題に通底する、権力と言語の問題を考える上で不可欠の書物ですので、受講生は授業と並行して読み進めることを薦めます。

以下、授業で実際に抜粋することを構想中の書籍等を列挙します。

D.ボンヘッファー『現代キリスト教倫理』/E.キューブラー=ロス『死ぬ瞬間』/S.ソンドース『シシリー・ソンドース、ケアを語る』/小松美

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

この授業は「入門」と銘打ちながら、2分野の主要問題を網羅的に扱う授業ではありません。授業計画と参考文献に示されているように、扱うトピックには限りがあります。生命倫理学や環境倫理学の本質的な要素をいくつかの内容の濃いテキストから読み解いていく授業です。

また、特に予定通りすべて対面授業になった場合、テキストの各自の予習は不可欠です。

予習と課題に取り組む労をいとわない学生の参加を望みます。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

CANVAS を通して配信するテキストや資料を PC に表示して受講するか、事前に印刷して持参するようにしてください。

# 演習 F 2 2

Seminars F22

大工原 正樹 (DAIKUHARA MASAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU122  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW3810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

劇映画の面白さとは何かということを、作る側の立場に立って具体的に考察する。

Students will specifically consider the enjoyment of narrative films, taking the standpoint of creators.

## 授業の内容 / Course Contents

劇映画の面白さを語る時、私たちは批評家のまねをして「演出」「脚本」といった言葉をよく使う。けれども、それらの言葉は具体的に何を指しているのだろうか。

この授業では、誰もが分かったつもりになっている「演出」や「脚本」について再考するため、作る側の立場からシナリオを読み、シナリオと完成作品との違いから「演出」とは何かを探っていきたい。

授業ではシナリオ分析を行うので、受講生は次の二つの作業を事前に行っておくこと。一つ目は、ドラマの構成を把握するために段落分けをすること。二つ目は、そのシナリオの出発点の発想をシナリオライターの立場に立って推測すること。

なお、アニメーションやゲームは一切取り上げない。

"When talking about the enjoyment of narrative films, we often use the words of critics, like "direction" and "screenplay." But to what do those words specifically point?

In order to reconsider the "direction" and "screenplays" that everyone supposedly understands, this class will read scenarios from the viewpoint of creators, and will explore what "direction" means through the differences between the scenario and the finished work.

As scenario analysis will be conducted in class, course takers should perform two tasks in advance. The first is to divide the drama into paragraphs to grasp its structure. The second is to guess the ideas for the starting point of the scenario from the standpoint of the scenario writer.

Please note that we do not cover any animation or games.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：アンケート、自己紹介、来週までの宿題の提示

参考上映

2 回：授業スケジュールの説明

参考上映

3 回：作品分析 1

4 回：作品分析 1

映画の演出を考える 1

5 回：作品分析 1

6 回：作品分析 2

7 回：作品分析 2

8 回：作品分析 3

9 回：作品分析 3

映画の演出を考える 2

10 回：作品分析 4

11 回：作品分析 4

映画の演出を考える 3

12 回：作品分析 5

13 回：作品分 5

14 回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・期間内に 5 本の長編映画、3 本の短編映画を採り上げる予定。その都度、分析レポートを宿題として提出してもらいます。(2000 字～4000 字)

・テキストとなるシナリオは少なくとも 3 回以上は読み、そのテキストと関連のある監督・脚本家などについては図書館などで調べること。

・期末レポートはこちらの指定する候補作（1950 年代～70 年代の日本映画）から一本を選んでシナリオ分析を提出してもらいます。(5000 字以上)

また、その際には自分が選んだ映画を時間外にレンタル DVD や有料配信で観てもらう必要があります。



**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

---

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 授業ごとに与えられる課題の評価:30% 最終レポート割合 :20%

**テキスト / Textbooks**

---

**参考文献 / Readings**

---

## 演習 F 2 3

Seminars F23

自ら哲学する力をつける

相原 博 (AIHARA HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

西洋の哲学の基本概念を身につけ、哲学がどのような問題に取り組むのかを理解する。また啓蒙思想に注目して、哲学の歴史の流れを理解する。さらに日常生活のなかに隠された哲学的な問題を見出し、自ら考察できるようになる。

The goal of this course is to learn the basic concepts of Western philosophy and understand what kind of problems philosophy deals with. And we will focus on the Enlightenment thought and understand the flow of the history of philosophy. Through this course, students will be able to find philosophical problems hidden in everyday life and examine them on their own.

### 授業の内容 / Course Contents

ヴォルテールの著作『寛容論』を熟読し、寛容の意義や可能性について意見を交換する。本書でヴォルテールは、プロテスタントのジャン・カラスが巻き込まれた冤罪事件に闘いを挑んでいる。この冤罪事件は、カラスが実子殺しの容疑で逮捕され、無実を訴え続けたにもかかわらず、処刑されたというものである。ヴォルテールは、プロテスタントに対するカトリックの差別や偏見が絡んだこの事件に接して、理性を信頼する立場から

世論を喚起するとともに、カラスの名誉回復のために懸命に努力した。そこで本書を読み解くことで、異なる考えをもち、異なる宗教を信じる他者の立場を容認する態度、つまり「寛容」について考えてみたい。というのは、偏見や迷信にもとづいて、異なる他者を差別し排除することが、さまざまな場面で現在も続いているからである。授業の進め方について、毎回2名の報告者にテキストの概要を説明してもらおう。受講生の学びにつながる授業運営を心がけたい。

Read Voltaire's work "Treatise on Tolerance" carefully and exchange opinions on the significance and possibility of tolerance. In this work, Voltaire challenges the wrongful conviction case involving Jean Calas, a Protestant. This wrongful conviction case is about Calas being arrested on suspicion of killing his own son and being executed despite pleading his innocence. Voltaire, faced with this case involving discrimination and prejudice against Protestants by Catholics, appealed to public opinion from a position of trusting reason and worked hard to restore Calas' honor. In reading this work, we would like to consider "tolerance," the attitude of tolerating the position of others who think differently and believe in different religions. This is because discrimination and exclusion of others based on prejudice and superstition continues to this day in many different situations. As for the way of conducting the class, we would like to have two reporters explain the summary of the text every time. We would like to conduct the class in a way that leads to the students' learning.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：授業の進め方。テキストの説明。
- 2回：報告と討議1（第一章 ジャン・カラス殺害のあらまし）
- 3回：報告と討議2（第二章 ジャン・カラス処刑の結果/第三章 十六世紀における宗教改革の思想）
- 4回：報告と討議3（第四章 寛容は危険なものか、また、寛容を重んずる民族は存在するか/第五章 寛容はいかなるばあいに許されるか/第六章 不寛容ははたして自然の法であり、人間の権利であるのか）
- 5回：報告と討議4（第七章 不寛容は古代ギリシアの時代にもあったのか/第八章 ローマ人は寛容だったか）
- 6回：報告と討議5（第九章 殉教者たち）
- 7回：報告と討議6（第十章 偽の伝説や迫害の物語の危険性 第十一章 不寛容の弊害）
- 8回：報告と討議7（第十二章 ユダヤ教では不寛容が神の掟だったのか、また、それはつねに実行されていたか）
- 9回：報告と討議8（第十三章 ユダヤ人の極端なまでの寛容さ）
- 10回：報告と討議9（第十四章 不寛容がイエス・キリストの教えだったのか/第十五章 不寛容をいさめる発言集/第十六章 死にかけている男と元気な男の対話）
- 11回：報告と討議10（第十七章 聖堂参事会員からイエズス会士ル・テリエへの手紙、一七一四年五月六日付/第十八章 不寛容が人間の権利とされる希少なケース/第十九章 中国でのちょっとした言い争いの話）
- 12回：報告と討議11（第二十章 民衆には迷信を信じさせておくのが有益か/第二十一章 徳は知にまさるべし/第二十二章 神にたいしても寛容でありたい）
- 13回：報告と討議12（第二十三章 神への祈り/第二十四章 追記/第二十五章 続きと結語）
- 14回：報告と討議13（新しく加えられた章 カラス一家を無罪とした最終判決について）、まとめの議論と振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
上記いずれも用いない予定 :

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

『寛容論』の指定箇所（文庫本で20ページ程度）を読んてくること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% テキスト読解報告:30% 議論参加度:20% リアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

ヴォルテール 『寛容論』 光文社古典新訳文庫 2016 9784334753320 ○

**参考文献 / Readings**

植田祐次 『ヴォルテールを学ぶ人のために』 世界思想社 2012 9784790715788

小林善彦 『「知」の革命家ヴォルテール 卑劣なやつを叩きつぶせ』 柘植書房新社 2008  
9784806805892

福島清紀 『寛容とは何か 思想史的考察』 工作舎 2018 9784875024927

木崎喜代治 『信仰の運命 フランスプロテスタントの歴史』 岩波書店 1997 9784000233231

## 演習 F24

Seminars F24

小説の語り

滝口 悠生 (TAKIGUCHI YUSHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU124

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

小説の読み方の幅と射程を広げること。そのうえで、受講者それぞれが小説の文章に対する自分なりの着眼点や批評性を見つけ、作品の読みや、創作・研究につなげること。

To develop the way of reading fiction. To find your perspective and criticism of the text. To use them to read, write, and research.

### 授業の内容 / Course Contents

小説の文章は、どのように始まり、持続し、終わるのか。

視点や時制、人称など、いくつかの具体的なポイントをおさえながら、実際に文章を読み、書くことを通して、文章の発生源であるところの語り手、そして動力となるところの語り方について考えます。

受講者の発表と、発表を受けてのディスカッションを主としますが、具体的な小説作品などを取り上げての講義も適宜行います。

発表については、教員が指定した作品について、担当箇所を割り当てて精読のうえ、着眼点や考察を示してもらいます。上記の授業のテーマを念頭に、その作品の一文一文、一語一語についてできるかぎり丁寧に、時

間をかけて読んだ成果を示してください。

また、実際に散文（小説ではない）を書いてみることにし、そしてそれを全員で読み合う作業を行います。具体的には教室を出て全員で学校周辺を散策し、その記録を文章にしてもらうことなどを予定しています。同じ時間、同じ場所を歩いた経験が、複数の書き手によって文章という形になる時、そこには自ずとそれぞれの「語り方」が、そしてそれぞれの「語り手」の有り様が現れるはずです。

本授業の教員（滝口）は研究者ではなく実作者＝「書き手」なのですが、小説の語りについて考えることは、書くことと読むことの両方から考えることが重要だと思っています。なので、創作に興味があるひと、批評や研究を主眼におくひと、いずれも歓迎します。書くことと読むことが相互に作用し、せめぎ合うような議論、また、それをうながす受講者からの問題提起を期待します。

How does the text of a novel begin, last, and end?

In this course we will think about the narrator and who is the source of the sentence, and the way of narrative which produce text by actually reading and writing in class.

Presentations and discussions by students are the main time.

Lectures will be given as necessary.

Workshop on walk and write be also held. It's an experiment on what records different narrators share at the same time and place.

Students are required to read the given works carefully in the presentation.

Anyone who wants to create, critique, or study literature is welcome.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、アンケート
- 2回：講義
- 3回：ワークショップ
- 4回：ワークショップの講評とディスカッション
- 5回：ワークショップの講評とディスカッション
- 6回：学生による発表
- 7回：学生による発表
- 8回：学生による発表
- 9回：学生による発表
- 10回：学生による発表
- 11回：学生による発表
- 12回：学生による発表
- 13回：学生による発表
- 14回：学生による発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

※教員や発表担当者の指示があった場合は、当該の作品や資料を読んで授業に臨むことを心がけてください。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:35% 提出物:35% 授業内での発言、参加度など:30%

期末レポートは課さないが、ワークショップの課題や、発表の成果としての文章など提出課題はあるのでそのつもりでいてください。

**テキスト / Textbooks**

授業内で決定、指示する。

**参考文献 / Readings**

授業内で決定、指示する。

**その他 / Others**

※授業予定は適宜変更もありえます。

## 演習 F25

Seminars F25

戦時・戦後の文学的想像力

福島 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU125

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ウクライナ戦争以降、戦争と文化的想像力の関係の再考が求められている。本演習では日本の戦後文学をリードした大岡昇平、大江健三郎、古井由吉、村上春樹らの小説を用いて、戦時・戦後の文学的表現について討議し、あわせて批評文の執筆に習熟することをめざす。

After Russian invasion of Ukraine, we are urged to reconsider the relationship between war and cultural imagination. In this seminar, we will plan to discuss with the modern Japanese literature which dealt with wartime and postwar society by covering works by Shohei Ooka, Kenzaburo Oe, Yoshikichi Furui, and Haruki Murakami.

### 授業の内容 / Course Contents

毎回一作ずつ文庫本を読んでいく。担当者の発表の後に全員でディスカッション。担当者には毎回課題を出すので、それを踏まえたうえで、レジュメを作成すること。

Each time we will read a short paperback book. There will be a whole-class discussion after the designated student's presentation. Each time the designated student will be set an assignment and based on this task they



will write a summary report.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：発表者の報告&ディスカッション
- 3回：発表者の報告&ディスカッション
- 4回：発表者の報告&ディスカッション
- 5回：発表者の報告&ディスカッション
- 6回：発表者の報告&ディスカッション
- 7回：発表者の報告&ディスカッション
- 8回：発表者の報告&ディスカッション
- 9回：発表者の報告&ディスカッション
- 10回：発表者の報告&ディスカッション
- 11回：発表者の報告&ディスカッション
- 12回：発表者の報告&ディスカッション
- 13回：発表者の報告&ディスカッション
- 14回：発表者の報告&ディスカッション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当者はレジュメの準備。他の参加者も課題テキストを精読しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:40% 議論への参加度:30% 課題提出物:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

## 演習 F26

Seminars F26

現代日本文学

酒井 信 (SAKAI MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU126

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代日本の文芸作品が表象する社会と価値観の変化について思考し、日常生活の中で暗々裏に前提としている価値判断の条件を問う。

The purpose of this class is to think about the changes in society that contemporary Japanese novels represent.

### 授業の内容 / Course Contents

生活空間の均質化が進行する現代日本において、土地の固有性（再帰的に獲得されたものを含む）に着目し、訛りを帯びた言葉や訛りを帯びた感情を掬い取ることで、小説の現実感を構築している現代小説の講読と批評（プレゼンテーション）を行う。履修学生は指定する現代小説について、順番に発表とディスカッションを担当し、各文芸作品が表象している（と考える）社会と価値観の変化について、教員の説明を踏まえつつ、自己の関心に引き寄せて考察する。

This seminar is a critical analysis of contemporary literature. Students will be in charge of presenting and discussing contemporary novels designated by lecturer, and will draw attention to their own interests and consider the changes in society represented by each novels.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス／発表・ディスカッションの分担
- 2回：桜木紫乃『ラブレス』（2011年、北海道）
- 3回：阿部和重『シンセミア』（2003年、山形県）
- 4回：柳美里『JR上野駅公園口』（2014年、福島県）
- 5回：宮部みゆき『火車』（1992年、栃木県・東京）
- 6回：中間まとめ／前田愛『都市空間のなかの文学』
- 7回：辻村深月『鍵のない夢を見る』（2012年、山梨県）
- 8回：車谷長吉『赤目四十八瀧心中未遂』（1998年、三重県・兵庫県）
- 9回：有川浩『阪急電車』（2008年、兵庫県）
- 10回：現代メディア実習
- 11回：吉田修一『悪人』（2007年、長崎県・佐賀県・福岡県）
- 12回：平野啓一郎『ある男』（2018年、宮崎県）
- 13回：現代文学実習
- 14回：期末まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

『現代文学風土記』『メディア・リテラシーを高めるための文章演習』を読み、文章の表現力を身に着けること

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:30% 小レポート:40% 最終レポート割合：:30%

**テキスト / Textbooks**

酒井信 『メディアリテラシーを高めるための文章演習』 左右社 2019 9784865282207 ○

酒井信 『現代文学風土記』 西日本新聞社 2022 9784816710018 ○

**参考文献 / Readings**

前田愛 『都市空間のなかの文学』 ちくま学芸文庫

**その他 / Others**

担当教員のページ <https://makotsky.blogspot.com/>

## 演習 F 2 7

Seminars F27

創作演習(文章表現)

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

言葉による表現について具体的に考え、また実作を通して理解を深める。

Through reading the texts and writing their works, students will cultivate their thoughts about linguistic expressions and literature.

### 授業の内容 / Course Contents

日本語による文章(随筆、エッセイなど)を読み、作品の実作と批評をおこなう。(提出された作品は、印刷して配布し、履修者全員で読む。)また、ディスカッションを通して各自の考えを深める。

Students will read essays written in Japanese mainly and write their works and critics. Their works submitted will be read in class. Through discussions, students will deepen their understanding of linguistic expressions and literature.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：はじめに(ガイダンスなど)。

2 回：随筆を読む(資料は配布する)。【文章作品の提出】

- 3回：提出された作品の発表と講評1  
 4回：提出された作品の発表と講評2  
 5回：提出された作品の発表と講評3  
 6回：提出された作品の発表と講評4。【文章作品の提出】  
 7回：提出された作品の発表と講評1  
 8回：提出された作品の発表と講評2  
 9回：提出された作品の発表と講評3  
 10回：提出された作品の発表と講評4。【文章作品の提出】  
 11回：提出された作品の発表と講評1  
 12回：提出された作品の発表と講評2  
 13回：提出された作品の発表と講評3  
 14回：提出された作品の発表と講評4、まとめ。【最終レポートの提出】

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

課題として提出する作品を授業時間外に執筆する必要がある。その他、授業前や授業後などに読んでおくべき資料や書籍がある場合は、必要に応じて指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への参加度:40% 授業の課題としての作品や提出物:40% 最終レポート割合 :20%

#### テキスト / Textbooks

資料は必要に応じて配布する。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて指示する。

#### その他 / Others

遅刻禁止。課題についての発表の妨げとなるので、遅刻しないでください。

## 演習 F 2 8

Seminars F28

哲学と生

梅田 孝太 (UMEDA KOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW3810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

①近代哲学の文献を精読し、ショーペンハウアーやニーチェの思想について議論することを通じて、哲学的な問いについて考え抜く力を育むこと

②近代哲学史の知識を獲得するだけでなく、各テーマについて各自が人生を通じて考えていくべき哲学的な問いを見つけ、哲学の学びと各自の生とを結びつけること

③哲学的なテーマについて対話することを通じて、各自の価値観や信念を吟味しあい、自己認識を深めること

(1) To cultivate the ability to think through philosophical topics through close reading of literature of modern philosophy and through discussion of the ideas of Schopenhauer and Nietzsche.

(2) Not only to acquire knowledge of the history of modern philosophy, but also to find philosophical questions that students should think about throughout their lives with regard to each topic discussed in class, and to connect the study of philosophy with their own lives.

(3) To deepen students' self-understanding by critically examining each other's beliefs and ideas through dialogue on philosophical topics.

**授業の内容 / Course Contents**

この演習では、「生」を主題化した近代哲学の重要文献を読みます（ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』や『幸福について』、ニーチェ『ツァラトウストラはこう語った』、『道徳の系譜学』などが候補です）。毎回異なる哲学的なトピック（同情や芸術、宗教、自律、正義など）をめぐって、ショーペンハウアーやニーチェの文献を読み、議論することを通じて、哲学の学びと各自の生とをどう関係づけるかを探求していきます。

授業の進め方：受講生は文献の指定箇所をあらかじめ読み、哲学的な問いを立てて授業に参加してください。プレゼンテーション担当者はレジュメを準備し、文献の内容をまとめてくることが求められます（一人一回以上担当することとし、初回授業時にスケジュールを決定します）。授業では、文献の内容についての議論の後、受講生の問いについて対話する時間を設けます。

In this course, we will read the important literature of modern philosophy on the subject of "life" (Schopenhauer's "The World as Will and Representation" and "On Happiness," Nietzsche's "Thus Spoke Zarathustra," "Genealogy of Morals," etc.). Through reading and discussing the literature of Schopenhauer and Nietzsche on a different philosophical topic each session (e.g., compassion, art, religion, autonomy, justice, etc.), we will explore how to relate the study of philosophy to our own lives.

What to do in class: Students are expected to read the designated sections of the literature each week before attending class. All students are expected to think about what philosophical questions they would like to discuss while reading the literature, and to write one question on the classroom blackboard before each class begins. Presenters will prepare résumé and summarize the contents of the literature (at least one presentation per person, schedule to be decided at the first class). After discussing the content of the literature, there will be time for dialogue on the students' philosophical questions.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：演習①オリエンテーション：哲学的に考えるとはどういうことか

\*以下のスケジュールおよび扱うトピック・文献については受講生の希望を聴いて初回授業で調整し、変更する可能性がある。

2回：演習②人間

3回：演習③意志

4回：演習④愛

5回：演習⑤芸術

6回：演習⑥宗教

7回：演習⑦幸福

8回：演習⑧悲劇

9回：演習⑨歴史

10回：演習⑩正義

11回：演習⑪超人

12回：演習⑫道徳

13回：演習⑬約束

14回：演習⑭運命

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は各回の読解箇所をあらかじめ読んで、考えたいことを問いのかたちにしてメモしてきてください。第二回以降の授業開始までに黒板に各自の問いを書いておくこと。各回のプレゼン担当者は、担当箇所についてまとめたレジュメを予め作成すること。充実した楽しい議論をするために、レジュメは①必ず A4 版 2 枚におさめること。要約（①内容の客観的な要約、②難しい用語についてのリサーチ結果）とコメント（①各自の問題意識に沿った考察や意見、②疑問点）をまとめること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表と議論・質疑応答への参加度、リアクションペーパー:60% 最終レポート割合：40%

受講生には積極的な議論参加を求めます。また、授業回数のうち 3 分の 2 を出席しなければ単位評価の対象にしません。レポートは 3000 字程度で、各自の哲学的な問いについて授業で扱った文献以外に、関連する二次文献 2 点以上を引用しながら論じること。

### テキスト / Textbooks

購入の必要はありません。データを CanvasLMS で配布予定です。

### 参考文献 / Readings

梅田孝太 『ショーペンハウアー 欲望にまみれた世界を生き抜く』 講談社 2022 9784065296028  
 伊藤邦武; 納富信留ほか 『世界哲学史 7 近代 II 自由と歴史的発展』 ちくま新書 2020 9784480072979  
 ピーター・ケイル 『わかる！ニーチェ』 春秋社 2023 9784393323960

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

テキスト読解の際に知らないことばが出てきたときに、事典、インターネットなどを活用して自分で意味を調べることができるリサーチ能力と、難解で理解しにくい文章に出逢ったときに、どこがわからないのかを考える粘り強い態度、わからないことをわからないと素直に言うことができる知的な誠実さ。



## 文芸・思想文献講読 2

Preliminary Reading in Philosophy and Creative Writing 2

中・上級スペイン語講読

林 みどり (HAYASHI MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU222

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

語学の力を付けるためには、多様な種類のテキストに触れ、読み、書き、聞き、話すトレーニングを繰り返す地道な努力を積み重ねる以外の道はない。この演習は、初級スペイン語修了者を対象に、主にテキストの読解能力を集中的に高めることを目的とする。スペイン語独特の言い回しや表現方法などに慣れることを通じて、英語とは異なるスペイン語そのものの魅力に触れる。

There is no other way to develop language skills than through a steady effort of repeated training in reading, writing, listening, and speaking, with exposure to a wide variety of text types. This course is designed for students who have completed the beginner level of Spanish, and will focus mainly on the reading of texts. The course will also provide an opportunity for students to become familiar with the unique expressions and phrases of the Spanish language, and to experience the appeal of the Spanish language itself, which differs from English in many ways.

### 授業の内容 / Course Contents

スペイン語の昔話や短篇を読み、スペイン語の読解能力をつける。授業は受講生が事前にテキストを読んでき

ていることを前提に進める。授業では、受講生の読解力を確認しつつテキストを読み進めるとともに、適切な訳文の付け方や関連する表現等についての解説を適宜行う。

Reading Spanish folktales and short stories to develop Spanish reading skills. The lessons will be conducted on the assumption that students have read the texts in advance. In the class, we will check the students' reading skills as we read the text, and explain how to translate the text appropriately and provide explanations of related expressions as necessary.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：演習全体のガイダンス、テキスト配布
- 2回：第1課の読解と解説
- 3回：第2課の読解と解説
- 4回：第3課の読解と解説
- 5回：第4課の読解と解説
- 6回：第5課の読解と解説
- 7回：第6課の読解と解説
- 8回：第7課の読解と解説
- 9回：第8課の読解と解説
- 10回：第9課の読解と解説
- 11回：第10課の読解と解説
- 12回：第11課の読解と解説
- 13回：第12課の読解と解説
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必ず事前に自分の力でテキストを読解し、授業までに不明な点を明らかにしておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加度：80% 最終テスト割合：20%

### テキスト / Textbooks

授業中にプリントを配布するので別途テキストを購入する必要はない。

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業は初級スペイン語（直説法）を修了している学生を対象としているので、スペイン語初習者は受講しないこと。

## 文芸・思想文献講読 3

### Preliminary Reading in Philosophy and Creative Writing 3

ロシア文学の名作をロシア語で味わう

毛利 公美 (MOURI KUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU223

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

#### 授業の目標 / Course Objectives

ロシア語の基本文法を確認しながらロシア文学の名作をロシア語で読み、内容や特徴を理解する。辞書を引きながらまとまった小説の一節を読み解けるようになることを目指す。

Students will read masterpieces of Russian literature in Russian while confirming basic Russian grammar and understanding their contents and characteristics. The goal is to be able to read and understand a coherent passage of a novel while consulting a dictionary.

#### 授業の内容 / Course Contents

ロシアで広く知られているロシア文学の名作の中から、特に、メロディがついて歌われている詩、映画化・アニメ化された作品を扱い、動画視聴とテキスト購読を並行して行うことで、聞く力と読む力を養う。

The course will focus on famous works of Russian literature widely known in Russia, especially poems sung with melodies and works that have been made into movies and animated films, and will develop listening and reading skills by watching videos and subscribing to texts at the same time.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の進め方についての説明、テキストの選定、関連動画の視聴など）  
 2回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 3回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 4回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 5回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 6回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 7回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 8回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 9回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 10回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 11回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 12回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 13回：ロシア語テキストの精読・関連動画の視聴  
 14回：まとめと振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

丁寧に辞書をひいて予習を必ずしてきてください。単語の意味だけでなく、変化形やアクセントもきちんと調べることを期待します。復習としては、読んだ部分の動画を見直しながらの聞き取り練習や、テキストの音読練習をすることを期待します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業準備:40% 授業中の出来具合:40% 最終テスト割合：:20%

#### テキスト / Textbooks

講読するテキストはプリントで配布し、文法書や背景知識などの参考文献は授業中に指示します。

#### 参考文献 / Readings

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ロシア語の初級～中級レベルの文法知識

# 文学講義 401

Lectures on Literature 401

文明批評論 1

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

文学と政治・社会との関わりを学ぶことを通じて、主体的かつ批判的な思考を身につける。

Through learning about the connection between literature and politics/society, develop independent and critical thinking.

## 授業の内容 / Course Contents

文学と国家・権力との関係、文学に対する弾圧・規制、言論出版の自由や表現の自由について、近現代の日本文学を中心に考察する。テーマは文学だが、政治制度や法律等への言及が多くなる。

Centering on modern Japanese literature, we will study the relationship between literature and the state/authority; oppression/regulation of literature; and freedom of speech, press and expression. Although the class theme is literature, references to political systems and laws become highly numerous.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業ガイダンス

第 1 回レポート課題提示

- 2回：政治・国家・権力  
 3回：文学と政治  
 第1回レポート提出日  
 4回：文学に対する規制1（江戸編）  
 5回：文学に対する規制2（戦前編）  
 第1回レポートに対する講評・書き方指導  
 6回：文学に対する規制3（占領期編）  
 7回：文学に対する規制4（戦後編）  
 8回：文学と司法1  
 中間レポート提出日  
 9回：文学と司法2  
 中間レポートに対する講評・書き方指導  
 10回：文学と司法3  
 11回：表現の規制1 「禁止」される表現  
 12回：表現の規制2 自粛・自己規制  
 13回：講義全体のまとめ  
 テストに向けてのアドバイス  
 14回：最終テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

2回のレポート提出があり、未提出者には最終テスト受験を認めない。第2回のレポート提出日は日程がずれる可能性もある。第1回目目のレポートは参考文献欄にあるテキスト3点を読んで書くものなので、あらかじめ準備しておくとい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 第一回レポート:30% 中間レポート:30% 最終テスト割合：40%

第1回レポートと中間レポート未提出者には最終テスト受験を認めない。

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。授業で言及する文献については授業内で紹介する。

#### 参考文献 / Readings

森嶋外 『キタセクスアリス』 どの版でも可

永井荷風 『歓楽』 どの版でも可

江戸川乱歩 『芋虫』 どの版でも可

作品の出版社は問わない。その他の参考文献は授業時に紹介する。

#### その他 / Others

筆記テストは、持ち込み不可で長文を書かせる。日本語として読むに堪える文章が書けることを受講者に要請

する。出席は成績評価に加えないが、授業に出席しないで書けるような容易なテスト問題は作成しないので、そのつもりで。

## 文学講義 402

Lectures on Literature 402

21世紀、グローバルに私たちの住む世界を覆うカルチャーの大きな流れの一つは、1970年代のニューヨークをルーツに持つヒップホップから発展したものである。他人の音楽をプレイするDJ、歌ではなくリズムカルなお喋りのラップなど、短命な若者向けの流行だと思われていたヒップホップがいかなる政治的、経済的、文化的利害と結びついていたのか、なぜローカルな文化と経験を超えたのか。この授業では、音楽、映像、文学のみならず、ファッション、デザイン、アートとその領域を拡げていくストリートの内と外での文化表現の特性を学び理解を深

荏開津 広 (EGAITSU HIROSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU302  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

授業の概要：紋切り型で形容されがちなヒップホップという文化が、実際にはどのような政治的／社会的／技術的な条件や、送り手と受け手の関係のありようのなかで生まれていき、享受・消費されているかを探り、理解するようにつとめる。特にラップとDJが、その関連のなかでのストリート・アート／グラフィティ、（ストリート）ファッションをその題材としてとりあげる。使用するテキストは英語のものもあり、義務教育程度の英語の力を要する。

In the 21st century, one of the major cultural trends covering the global world we live in developed from hip hop that started in New York in the 1970s. What political, economic, and cultural interests were associated with hip



hop, which was thought to be a short-lived trend for young people, with its DJs who play other people's music and rappers who do not sing but rap rhythmically, and why did this culture go beyond its local culture and experience? In this course, we would like students to learn and deepen their understanding not only of music, videos, and literature, but also fashion, design, art and the characteristics of cultural expression on the inside and outside of the street that expand the area.

### 授業の内容 / Course Contents

紋切り型で形容されがちなヒップホップという文化が、実際にはどのような政治的／社会的／技術的な条件や、送り手と受け手の関係のありようのなかで生まれていき、享受・消費されているかを探り、理解するようにつとめる。特にラップとDJが、その関連のなかでのストリート・アート／グラフィティ、(ストリート)ファッションをその題材としてとりあげる。使用するテキストは英語のものもあり、義務教育程度の英語の力を要する。

We will try to explore and understand from what political, social, and technical conditions and relationships between sender and receiver the culture of hip-hop, which tends to be stereotyped, was born and is enjoyed and consumed. In particular, we will take up rappers and DJs, in particular, and related street art/graffiti and (street) fashion as our subject matter. Some of the texts used will be in English, and students will require English skills up to compulsory education level.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ヒップホップとは何か？
- 3回：原風景を探す 1
- 4回：原風景を探す 2
- 5回：原風景を探す 3
- 6回：グラフィティは美術か？ 1
- 7回：グラフィティは美術か？ 2
- 8回：グラフィティは美術か？ 3
- 9回：グラフィティは美術か？ 4
- 10回：DJ とラップ 1
- 11回：DJ とラップ 2
- 12回：DJ とラップ 3
- 13回：総合芸術としてのヒップホップ
- 14回：総合芸術としてのヒップホップ 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート:		
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義以外に配布される資料の読み込みは必須

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席点:20% 中間コメントペーパー:10%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

トリーシャ・ローズ 『ブラックノイズ』 みすず書房 2009

**その他 / Others**

ヒップホップは無菌室での出来事ではありませんゆえ、社会的、政治的、そして道徳やジェンダー／セクシャリティの観点から正しい表現だけをこの授業で扱うことは原理的に難しいといえます。そうした部分を含むコンテンツを扱う事前にも注意を促しますが、そのことを留意して履修を決定すること

# 文学講義 403

Lectures on Literature 403

文芸評論 1

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU303  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

優れた文芸批評・文学理論はそれ自体が、思考を強く刺激する優れた「作品」としての価値を有している。本講義ではその魅力の一端に触れ、文学をより多面的に考える視座を得ることを目的とする。

Outstanding literary criticism/literary theory has its own value as a brilliant 'creation' that strongly stimulates thought. In this lecture, we will aim to touch on some of this attractive value and develop a perspective that allows us to think more broadly about literature.

## 授業の内容 / Course Contents

20世紀後半の文芸理論の主要なキーワード（ポストモダニズム、ナショナリズム、複製芸術、セクシュアリティ、ポストコロニアリズム等々）を解説するとともに、最近の日本の批評のトピックについても随時紹介する。理論の解説に加えて、テキストの現物そのものに触れてもらうことを重視する（なお下記の授業計画は変更される可能性がある）。さらに、今年度はアジアの文学的テキストも紹介する予定。

Along with explaining major keywords in literary theory from the latter half of the twentieth century (postmodernism, nationalism, reproduction art, sexuality, postcolonialism, etc.) we will also introduce, as

necessary, topics which have recently come under review in Japan. In addition to explaining the theory, the emphasis will be on increasing students' exposure to the actual texts (also, the lesson plan below may change). Also, the intention is to introduce some of this year's literary texts from Asia.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：批評とは何か
- 3回：近代文学の多層性：夏目漱石 1
- 4回：近代文学の多層性：夏目漱石 2
- 5回：文学における自意識と風景：ルソー
- 6回：植民地と近代文学：デフォー
- 7回：ホモセクシュアリティと近代文学：三島由紀夫と大江健三郎
- 8回：ポストモダンとは何か
- 9回：複製技術と消費社会：ヴァルター・ベンヤミン
- 10回：平成文学をどう読むか：村上春樹以降
- 11回：中華圏の文学：非西洋で文学をやること
- 12回：ポストコロニアリズム批評の展開
- 13回：エコ批評の展開
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考図書を授業中に紹介するので、興味をもった本は各自手にとってみることを。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席+コメント:30%

### テキスト / Textbooks

授業中に配布する

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

さまざまなテーマに知的好奇心をもつこと

# 文学講義 404

Lectures on Literature 404

文芸評論2／フィクションは（どれほど）自由か？

森元 庸介 (MORIMOTO YOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU304

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパの歴史を主たる対象としながら、文学（あるいは芸術一般）の社会的な位置づけがどれほど変化しうるものであるかを理解する。

We aim to understand how the social value of literature (or of arts in general) could vary over time, with European history as main field of study.

## 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパ初期近代（16-17世紀）にフォーカスしながら、フィクション（メインは文学、ただしそれ以外の形式を含む）を断罪しようとする言説の流れと、それを解除しようとする流れの双方を検討する。

Focusing on early modern Europe (17-18th centuries), we undertake a genealogical investigation into condemning discourses on fiction (here primarily in literary form, but not exclusively), as well as those that attempt to invalidate them.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション／「この作品はフィクションです」について

- 2回：「この作品はフィクションです」の始まり？／映画『ラスプーチンと皇后』裁判（1）
- 3回：フィクションと責任の解除／映画『ラスプーチンと皇后』裁判（2）
- 4回：「これはフィクションです」は自明か？／予備的考察：「小説」というジャンルの歴史性
- 5回：「ここには作りごとのようなものは何もない」／デフォー『ロビンソン・クルーソー』／「小説」というジャンルの不安定さ
- 6回：「この作品、というよりは書翰集を…」／ラクロ『危険な関係』／書翰体小説の遊び
- 7回：「我々が書いているのが小説だとしたら…」／サド『ジュリエット、あるいは悪徳の栄え』／フィクションと事実、責任と無責任、匿名と実名
- 8回：「小説にすぎないとみなすべき有力な理由さえ…」／再び『危険な関係』／緊張の緩和
- 9回：少しさかのぼって／「鍵小説」について／ドラリヴィエール・マンリー『リヴェラの冒険』
- 10回：「あなたがたにとって、これはまちががなくフィクションなのだから…」／ルソー『新エロイズ』／退廃の徴としてのフィクション
- 11回：「ひとの心は本当の不幸よりも偽りの不幸にいつそうほろりと…」／『ダランベール氏への手紙』／スペクタクル批判
- 12回：「ひとはやがて悲劇のひそかな演じ手となり…」／ボシュエの反演劇論／スペクタクル批判の根（没入、自己愛、フィクションはフィクションにあらず）
- 13回：「芸術というのは、いってみれば新しい性質の存在物を作り出してくれたりほしくないだろうか……」／デュボス『詩画論』／不完全なイリュージョン、その社会的効用
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業テーマに関連しそうな作品や現象に注意を向けてくださったらと思います。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

こちらで用意します。

#### 参考文献 / Readings

授業中に指示します。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

予備知識などは必要としません。ただ、授業テーマの必然から、作品の本体ではなく、その周辺にこだわるものが多くなるので、ひとによってはフラストレーションが募るかもしれません（タイパ等への期待には応えられないかも…）。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにない。

#### その他 / Others

朝早いこともあり、のんびりといらしてください。

# 文学講義 405

Lectures on Literature 405

文化翻訳論 1

林 みどり (HAYASHI MIDORI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU305  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

コロンブスをはじめとするアメリカスの初期征服者らのテキスト読解を糸口に、西洋世界が構築してきた非西洋世界の「他者」表象の系譜をたどる。彼らの新大陸理解は、同時代のヨーロッパ世界に流通していた異世界像に深く浸食されていた。聖書や神話や偽書の中で言及され、その実在が堅く信じられていた「地上の楽園」や、西洋の自己像の反転として構築された「ユートピア」をめぐる諸表象は、アメリカスをはじめとする非西洋世界の諸表象とどのように関わっていたのか。また一連の他者表象が、現代のわたしたちの世界認識とどのように関連しているのかについて考察する。

Using the textual readings of Columbus and other early conquistadors of the Americas as a paradigmatic example, we trace the genealogy of the representations of the "Other" in the non-Western world that the Western world had constructed. Their understanding of the New World was deeply immersed in the image of the other world prevailing in the contemporaneous European world. We will explore how the representations of "Paradise on Earth," mentioned in the Bible, myths, and pseudographs and firmly believed to exist, and of "Utopia," constructed as an inversion of the Western self-image, were related to the representations of the non-Western



world, including the Americas. This lecture will also examine how the series of representations of the Other relate to our contemporary perception of the world.

### 授業の内容 / Course Contents

古代ギリシアから近代に至るまで、軍事遠征や交易、巡礼や布教活動、征服・植民地化の過程では、様々なテキスト（文字媒体だけでなく視覚媒体を含む）が生産・消費され、流通し、蓄積されてきた。講義ではそれらのテキストをとりあげながら、テキストを構成するフィギュールやテキストをとりまく文化装置が、歴史的イマジナリーの構築にどのような機能を果たしたかを明らかにしていく。授業では毎回出すクイズ（小問題）へのリアクションを重視する。レポートは文献や注の形式が整ったものであることを前提とする。

From ancient Greece to modern days, a variety of texts (including visual as well as written media) have been produced, consumed, circulated and accumulated in the process of military expeditions, trade, missionary activities, conquests, and colonization. In this lecture, we will examine these texts and explore how the figures that make up the texts and the cultural devices that surround them have functioned in the construction of historical imaginaries. The quiz (small questions) given in each class will be evaluated. The paper must be accompanied by bibliography and notes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コロンブス航海日誌に記された「謎」——概説史が削ぎ落としてきたもの
- 2 回：航海日誌とその周辺 1 ——「1492 年」が意味するもの
- 3 回：航海日誌とその周辺 2 ——「驚き」や「発見」はあらかじめ予定されていた？
- 4 回：なぜ「オリエント」なのか——中世の大ベストセラー「ヨハネス書簡」（プレスター・ジョン伝説）の射程
- 5 回：どのように「オリエント」なのか——ネストリウス派の「記憶」と抑圧されたものの回帰
- 6 回：コロンブスの蔵書 1 ——「法螺吹き男」（イル・ミリオーネ）マルコ・ポーロ
- 7 回：コロンブスの蔵書 2 ——「稀代の騎士」ジョン・マンデヴィル
- 8 回：グローバル化する「怪物」——無頭人、犬頭人、アマゾネスを探して
- 9 回：テキストの「快樂」を読む——なぜテキストは人びとを魅了するのか
- 10 回：言語行為と占有——法の暴力
- 11 回：フマニタスとアントロポス——バリャドリード論争とその周辺
- 12 回：ユートピア社会構想の夢（南）——地上の楽園、アトランティス、ユートピア
- 13 回：国民神話の夢（北）——ポカホンタス伝説が抑圧するもの
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に出すクイズ（小問題）への回答期限は一両日中とする。それ以降の提出は認めないので、授業終了後早い段階で回答してほしい。レポート執筆に向けて授業内容に関連した複数の文献を読んでおくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クイズ:40% レポート:30% 最終テスト割合 :30%

授業中に出すクイズ（小問題）を重視する。授業のいずれかの段階でレポートを課す。レポートは注と文献が整ったものであることを前提とする。授業の最終回には授業内テストを行う。

### テキスト/Textbooks

### 参考文献 / Readings

ピーター・ヒューム 『征服の修辞学——ヨーロッパとカリブ海先住民 1492-1797 年』 法政大学出版局  
1995 4588004581

増田義郎 『新世界のユートピア——スペイン・ルネサンスの明暗』 中公文庫 1989 4122016320

彌永信美 『幻想の東洋——オリエンタリズムの系譜』 ちくま学芸文庫 2005 4480089446

スティーヴン・グリーンブラット 『驚異と占有——新世界の驚き』 みすず書房 1994 4622046946

ツヴェタン・トドロフ 『他者の記号学——アメリカ大陸の征服』 法政大学出版局 2014 4588099825

エドワード・W・サイード 『オリエンタリズム』 平凡社 1993 4582760112

ウンベルト・エーコ 『異世界の書：幻想領国地誌集成』 東洋書林 2015 4887218214

その他の参考文献は授業中に紹介する。

# 文学講義 406

Lectures on Literature 406

文化翻訳論 2

三吉 美加 (MIYOSHI MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU306  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

米国の黒人・ラティーノ・カリブ系集団に関する歴史的社会的考察と文化表象

The Cultural Representation of African American, Latino and Caribbean Groups in the USA

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、米国のアフリカ系アメリカ人、ラティーノ、カリブ系のコミュニティの形成について学び、彼/彼女の文化表象を歴史的社会的に検討していく。また、人種、エスニシティ、ジェンダー、セクシャリティなどの視点からも各集団を考察する。文化表象には音楽、ダンス、アート、ファッションなどが含まれる。

In this lesson we will consider the communities of African American, Latino and Caribbean peoples in the U.S. and look at their cultural representations through the relationships between history, society and culture. Also, we will examine each group from several perspectives, including the viewpoints of race, ethnicity, gender, sexuality, etc. Cultural representations include music, dance, art, fashion, etc.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：米国とカリブ海社会の概要 1

- 2回：米国とカリブ海社会の概要 2  
 3回：生活経験とリズム、ことば、ポエトリー  
 4回：アフリカ系アメリカ人のコミュニティ：黒人らしさとは？  
 5回：JAZZ から Soul Music まで 1  
 6回：JAZZ から Soul Music まで 2  
 7回：メキシコ系コミュニティ 1  
 8回：メキシコ系コミュニティ 2  
 9回：プエルトリコ系コミュニティ  
 10回：ニューヨーク市のプエルトリコ系とドミニカ系  
 11回：マイアミのキューバ系コミュニティ  
 12回：ニューヨークのドミニカ系コミュニティ  
 13回：ヒップホップとレゲトン  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート:		
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :65%

平常点割合 :35% 小テスト:20% 授業内発言など積極的態度:10% リアクションペーパー:5% 最

終テスト割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

三吉美加 『米国のラティーノ』 大学教育出版 2014 ○

毎回、プリントを CANVAS 上で配布。

#### 参考文献 / Readings

国本伊代編 『カリブ海世界を知るための 70 章』 明石書店 2017

国本伊代編 『ドミニカ共和国を知るための 60 章』 明石書店 2013

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

デジタルデバイス

#### その他 / Others

RIKKYO CANVAS は授業前に必ず確認してください。

# 文学講義 407

Lectures on Literature 407

マンガ／アニメ表現論 1

石岡 良治 (ISHIOKA YOSHIHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU307  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 授業内容は受講者のニーズに応じて変更することもある  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

様々なアニメ表現の魅力を捉える

「歴史や社会」のコンテキストと、作品内在的批評の両者の重要性を学ぶ

「ファンカルチャー」が表現の受容において惹き起こす「好悪」を各自の問題として捉える

Grasp the appeal of various animated forms of expression.

Learn about the importance of both historical/social context and immanent critique for creative pieces of work.

Each student should consider personally the issue of comprehending the 'likes and dislikes' brought about by how creative expression is received by fan culture.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義は日本のポピュラーカルチャーにおいて大きな存在感をみせるアニメについて、「文化批評／評論」の観点から考察する試みである。

同時に、受講者は中間レポート執筆を通じて、アニメ表現についての批評的アプローチを学ぶことになるだろう。

メディアミックスが一般化している現在、アニメは、マンガや実写のテレビドラマや映画などと多種多様な関係を取り結ぶ。だが、ミスマッチを起こしやすいことも広く知られており、「アニメ化」が必ずしも作品ファンに歓迎されるとは限らなくなっていることもある。このことは現代文化における「視覚イメージ」の役割と、作品受容における「ファンカルチャー」の両義的な位置付けを示しているように思われる。

以上の現状認識を前提にしつつ、本講義は現在のアニメ表現が直面している諸問題について、例えば『君の名は。』が活気付けつつある青春アニメ映画「日本アニメにおける3DCGの位置付け」といった、アクチュアルかつ身近な題材を手がかりにしつつ、複数の観点を「同時に」意識しつつ考察していきたいと考えている。

後半扱ういくつかの題材については、受講者のリクエストも参考にする予定である。

よって、一部題材についてはシラバス変更の可能性があります、そのさいには事前告知する。

この種の講義では、各自の関心にとって「好きなカルチャーか否か」が焦点となりやすい状況があるが、本講義では「嫌い／苦手なカルチャー」「無関心なカルチャー」との関係についても同時に目を向けるようにしたい。

This lecture attempts to study Anime, which has a significant presence in Japanese popular culture, from a cultural criticism/critique point of view.

Concurrently, through writing an interim report, students will learn about critical approaches to viewing animated forms of expression.

At this present time of widespread mixed media use, Anime is linked in a wide variety of ways to Manga, and live-action television dramas or films. However, it is widely known that animating works often causes mismatches, thus turning existing works into Anime is no longer always welcomed by fans of the original pieces. It is thought that this reaction demonstrates the ambiguous role of visual image in modern culture and the uncertain nature of how creative works are received by fan culture.

Setting recognition of the current situation outlined above as a precondition, this lecture looks at the various issues present-day animated forms of expression are facing. The intention for example is while considering Anime critically using existing familiar material, to be simultaneously aware of multiple perspectives, such as the teen Anime movie scene recently energized by the film “Your Name.” and the placement of 3D computer graphics in Japanese Anime.

The plan is to consider student requests when deciding on several works to cover in the second half of this lecture series.

Accordingly, there may be changes to some of the materials listed in the syllabus, but advanced notice will be provided.

In this kind of lecture, it is easy for a situation to occur where individual interests, regarding whether a culture is one you like or not, become the focus. However, in this lecture we will also look at our relationship to cultures we dislike, find hard to understand, or are not interested in.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：現代日本のポピュラーカルチャーにおけるアニメ表現の位置

イントロダクション：日本におけるアニメーションと「アニメ」(1)：第二次世界大戦前のアニメーション

2回：日本におけるアニメーションと「アニメ」(2)：TVアニメの成立

3回：東映動画からスタジオジブリへ

4回：宮崎駿『On Your Mark』とアニメの系列的読解

5回：『耳をすませば』から『君の名は。』へ：「青春ラブコメ」という題材

※中間レポート：スタジオジブリ・細田守・新海誠・片渕須直・ディズニー・ピクサーなど「以外」の、

日本の「アニメ」作品についてのレポート

6回：「アニメ ANIME」の特質（1）：1960年代TVアニメから歴史を探る

7回：「アニメ ANIME」の特質（2）：オープニングとエンディング映像からアニメ史を考える

8回：アニメにおけるジャンルとジェンダー（1）：「魔法少女」と「ロボット」そして「アイドルアニメ」

9回：アニメにおけるジャンルとジェンダー（2）：いわゆる「3大アニメ」とOVA文化

10回：アニメにおけるジャンルとジェンダー（3）：『魔法少女まどか☆マギカ』にみるジャンルの再編成

11回：アニメとCG：「アニメ的なもの」についての了解の変容

12回：現代アニメの展望（1）：過去の作品を遡ることの意義

13回：現代アニメの展望（2）：グローバルカルチャーとしての「アニメ」再訪

14回：現代アニメ今後の展望について

講義のまとめ

※最終レポート「各自が好きなアニメについて、これまでの講義をふまえて分析せよ」

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

中間レポートと学期末レポート、計2回のレポート提出が課せられているので、各自の関心に応じて、積極的にアニメ作品と、それを取り巻く状況について考えるようにすること

配布プリントで紹介する文献、および講義で用いる作品については、全体を紹介することができないので、予習復習につとめること

現代日本のアニメ文化について踏み込んだ言及を行うので、必ずしも多くの前提知識は要さないが、一定の関心をもつこと。とりわけ「ディズニーとジブリアニメにのみ関心がある」者は、現代日本の深夜アニメに積極的に関心をもち、事前視聴に努めることでその状態を脱することが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:40% リアクションペーパーの内容:20% 最終レポート割合 :40%

最終レポート提出の条件として、中間レポートを提出すること

### テキスト / Textbooks

石岡良治 『現代アニメ「超」講義』 PLANETS/第二次惑星開発委員会 2019 9784905325130 ○

石岡良治 『「超」批評 視覚文化×マンガ』 青土社 2015 9784791768417 ○

### 参考文献 / Readings

マーク・スタインバーグ 『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』 角川書店 2015 9784040800196

津堅信之 『新版 アニメーション学入門』 平凡社新書 2017 9784582858365

細馬宏通 『ミッキーはなぜ口笛を吹くのか：アニメーションの表現史』 新潮選書 2013 9784106037351

宇野常寛 『母性のディストピア』 集英社 2017 9784087711196

土居伸彰 『21世紀のアニメーションがわかる本』 フィルムアート社 2017 9784845916443

高瀬康司 『アニメ制作者たちの方法』 フィルムアート社 2019 9784845918089  
その他、講義中に随時紹介する



# 文学講義 408

Lectures on Literature 408

マンガ／アニメ表現論 2

鷺谷 花 (WASHITANI HANA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU308

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて、欧米で舞台演劇ジャンルとして形成された「メロドラマ」は、善と悪の二元論的対立のドラマ、無垢なヒロイン、ヒーロー、悪漢など、それぞれの道徳的立場をオーディエンスが明瞭に認知できるように造型・演出されるキャラクター、センセーショナルリズムとセンチメンタリズムなどを特徴とした。19 世紀以降の「メロドラマ」は、国境、世代、メディア、ジャンルの境界を超えて拡張、浸透し、多彩なヴァリエーションを生み出しており、今日の英語圏における文化批評・研究で、汎用性の高い概念のひとつとなっている。

この授業では、英語圏の文献を中心とする先行研究の概要を学び、「メロドラマ」の定義と歴史を把握したうえで、近現代の日本のマンガ・アニメほか大衆的物語文化におけるメロドラマ的想像力と様式のありようについて検証する。

ジャンルまたは様式としての「メロドラマ」を学ぶことで、個別の作品が複数の他の作品とどのように関連し、地域の社会、産業、文化の歴史のうちどのように位置づけられるかを検討していく。また、大衆的・商業的な芸術文化が、「倫理・道徳」及び「感覚・感情」をどのように扱ってきたか、それが近代以降の社会に生

きる個人の主観にどのように影響してきたかについても考察を深める。

授業で得た知見を、個別の作家もしくは作品についての分析に役立て、学術的かつ批評的な文章を、参考文献を的確に活用しつつ執筆する訓練を行う。

"Melodrama" was established as a theatrical genre in Europe around the end of the 18th century. It is characterized by the dramaturgy of dualistic conflict between good and evil, characters who are built and staged in order to the audience can clearly recognize each moral position such as innocent heroin, hero, or villain, and the effects of sensationalism and sentimentalism. Since the 19th century, "Melodrama" has expanded and permeated across borders, generations, media, and genres, producing numerous variations. "Melodrama" has become one of the most versatile concepts in cultural critics and studies in the English-speaking world today. In this class, we will study the definition and history of "melodrama" through an overview of previous studies, and examine the nature of melodramatic imagination and style in manga, anime, and other popular narrative cultures in contemporary Japan.

By studying "melodrama" as a genre or style, we will examine how individual works relate to other works and how they are situated within the social, industrial, and cultural history of the region. We will also examine how popular and commercial art and culture have dealt with "ethics and morality" and "sensation and emotion" and how this has affected the subjectivity of individuals in post-modern societies.

Students will be trained to use the knowledge gained in class to analyze individual writers and their works, and to write scholarly and critical texts, making appropriate use of references.

### 授業の内容 / Course Contents

「メロドラマ」は、18世紀末に欧米で舞台演劇ジャンルとして成立し、19世紀には舞台および小説メディアを介して世界的に普及し、20世紀初頭に映画がストーリーを語りはじめた際には重要なリソース源となり、その後、テレビドラマ、アニメーション、漫画、報道、広告等々に浸透してきた。戦後日本のマンガ及びアニメにも、メロドラマの多様なヴァリエーションを見出すことができる。授業では、英語圏のメロドラマ研究について概説しつつ、メロドラマの定義、歴史、日本におけるメロドラマの受容と独自の展開について学び、昭和戦後から現代に至るまでのマンガ及びアニメ作品における「メロドラマ的想像力」についても分析・考察を試みる。

"Melodrama" was established as a theatrical genre in Europe at the end of the 18 century, and then spread worldwide through stage and novel media in the 19 century, and became one of the important resources for motion picture that began to tell stories in the early 20 century. Variations of "melodrama" also can be found in manga and anime in postwar Japan. In this course, we will learn about the definition and history of melodrama, the acceptance of melodrama in Japan, and its unique development. We will also learn about the fruits of English melodrama studies. And we will consider the "melodramatic imagination" in manga and anime from the Showa period to the present Japan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション～今後の授業の進め方についての説明
- 2 回：メロドラマとは何か～ピーター・ブルックス『メロドラマ的想像力』とトマス・エルセサー「響きと怒りの物語」
- 3 回：「メロドラマ」と「悲劇」—ジャン・ヴァルジャンとジャヴェール—
- 4 回：メロドラマとジェンダー (1)：『アンクル・トムの小屋』から『東への道』へ
- 5 回：メロドラマとジェンダー (2)：『タイタニック』のジェンダー論
- 6 回：ゴシック、メロドラマ、ホラー (1)

- 7回：ゴシック、メロドラマ、ホラー（2）  
 8回：「連続」するメロドラマ（1）  
 9回：「連続」するメロドラマ（2）  
 10回：メロドラマにおけるアクションとモラル（1）－『ルパン三世 カリオストロの城』考察  
 11回：メロドラマにおけるアクションとモラル（2）－『天空の城ラピュタ』考察  
 12回：メロドラマにおける沈黙（1）－「声・言葉を奪われた犠牲者」イメージの系譜  
 13回：メロドラマにおける沈黙（2）－『聲の形』考察  
 14回：「ボーイ・ミーツ・ガール」～「ラスト・ミニッツ・レスキュー」－新海誠のメロドラマツルギー

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・メロドラマ論の主要文献は日本語訳されていないものが多いため、英語圏の複数のメロドラマ論の抜粋訳をオンラインで参考資料として配布する。必ず目を通してから授業に参加すること。
- ・授業では複数のマンガ、アニメ、映画作品を取り上げる予定だが、授業時間内に参考映像作品を全編通して上映することは不可能であるため、授業外に対象作品を全編視聴できる時間と環境を確保することが望ましい。

現状では下記作品を取りあげてを予定している。

『レ・ミゼラブル』（トム・フーパー監督、2012年）

『タイタニック』（ジェームズ・キャメロン監督、1997年）

吾峠呼世晴『鬼滅の刃』及びテレビシリーズ第1シーズン

『映画 鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』（水木しげる原作、古賀豪監督）

『ルパン三世 カリオストロの城』『天空の城ラピュタ』（宮崎駿監督）

『言の葉の庭』『君の名は。』『天気の子』（新海誠監督）

大今良時『聲の形』、『聲の形（劇場版）』（山田尚子監督）

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小課題:40%

授業への参加及び理解状況のチェックのため、LMS上で定期的に小課題を実施する。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ピーター・ブルックス 『メロドラマ的想像力』 産業図書 2002 9784782801390

ジョン・マーサー、マーティン・シングラー 『メロドラマ映画を学ぶ：ジャンル・スタイル・感性』 フィルムアート社 2013 9784845913008

ジョージ・スタイナー 『悲劇の死』 ちくま学芸文庫 1995 9784480082251

河野真理江 『日本の〈メロドラマ〉映画—撮影所時代のジャンルと作品—』 森話社 2021  
9784864051576

岩本憲児、斉藤綾子、武田潔（編） 『「新」映画理論集成① 歴史／人種／ジェンダー』 フィルムアート社

1998 9784845998746

河野真理江 『メロドラマの想像力』 青土社 2023 9784791776122

英語の主要なメロドラマ論の抜粋訳を参考文献として配布するほか、参考文献については随時 LMS を通じて紹介する。

#### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

日本語の学術文献を読みこなせること。

授業時間以外に映画作品を視聴する時間と手段を確保できること。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業資料は主に pdf ファイルで配布するため、pdf を開いて閲覧できる環境が必要となる。

授業支援システムとしては主に Canvas LMS を使用する予定。

#### **その他/ Others**

講義資料配布、参考文献紹介、小課題提示等は LMS を通じて行う。

# 文学講義 409

Lectures on Literature 409

小説創作論 1

滝口 悠生 (TAKIGUCHI YUSHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

小説の文章の様態について学び、意識的に注意深く小説を読んでみる。各自の読みをより複雑で豊かなものにする。

Be conscious about the text of the novel. This will make your reading more complex and rich.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業の講師（滝口）は、実作者として小説を書くうえでも、ひとの小説を読むうえでも、その言葉がどのように発生したか、を重視しています。

小説の言葉は書き手（小説家）によって書かれたものに他なりません。しかし、作品のなかにおいてそれは「書かれた言葉」ではなく、作中の何者かが「語る言葉」として存在しています。

小説を語る、とはどのような行為なのか。それはどのように可能なのか。そして語られた言葉はいったいどのような有り様をしているのか。それは文字なのか、音声なのか、そもそも誰に向かって語られているのか。

これらのことについて考えることは、自ずと、小説を書く、小説を読む、とはどのような行いであるか、小説とはなにか、を考えることにもなるはずです。

授業では、小説を書く／読むうえで手がかりとなるトピック（人称、視点、時制、表記法など）について具体的な例を挙げながら考えていきます。また、実際に短い文章（小説ではありません）を書く簡単なワークショップを予定しています。また、実際に短編作品を精読することで、作品の語りの構造について考え、読解を試みます。

How did the text of the novel come about?

It was written by a writer, but in the novel, it exists not as a "written word" but as a "narrative" of someone.

What kind of act is narrate? How is it possible? And what exactly are the narrated words like?

Thinking about these things will also help you write a novel, read a novel, and think about what a novel is.

In class, we will think about some topics of text (person, point of view, tense, etc.). We are also planning a simple workshop to actually write short sentences (not novels). Also, actually read the short story and think about the structure of the narrative of the work.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：小説の文章とは
- 2回：書き手と語り手／作者と読み手
- 3回：現代の散文と小説の成り立ち
- 4回：落語について
- 5回：地の文と会話文 1
- 6回：地の文と会話文 2
- 7回：人称について 1
- 8回：人称について 2
- 9回：日記について
- 10回：手記について
- 11回：短編小説を読む 1
- 12回：短編小説を読む 2
- 13回：短編小説を読む 3
- 14回：短編小説を読む 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介した本、作品をできるだけ読むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で指示する提出物（2～3回）：60% リアクションペーパー：40%

### テキスト / Textbooks

授業内で指示します。

### 参考文献 / Readings

授業内で指示します。

**その他/ Others**

授業計画は、進捗に応じて多少変動すると思います。授業で読む作品とワークショップの内容については、受講生の興味や人数など踏まえて決定します。

# 文学講義 410

Lectures on Literature 410

小説創作論 2

陣野 俊史 (JINNO TOSHIFUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU310  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

いま、日本で小説を書くということに必要な幾つかの問題を（体験的に）話していくので、そこからさらに自分にとって必要なことを身につける。実作と批評と批評理論をできるだけ広く紹介する。

In this course, we will read various texts that represent Japanese literary criticism.

## 授業の内容 / Course Contents

講義担当者は長年、日本で「文芸批評」を書いてきたが、この数年、数本の「小説」を書いた。なぜ、いま、小説を書くことにしたのか、何が小説を書かせているのか、ということ講義の最初に話したうえで、現代日本文学の担い手の中で学生にとって大切だと思われる作家を紹介し、その技法や思想について解説します。さらに、秋学期の後半では、文学理論のなかで大切と思われるものを幾つか紹介し、理解してもらおうと思います。

The lecturer has been writing "literary criticism" in Japan for many years, and has written several "novels" in the last few years. At the beginning of the lecture, I will talk about why I decided to write a novel now, and what makes me write a novel, and then I will talk about writers who are important to students among the leaders of



contemporary Japanese literature. and explain its techniques and ideas. In addition, I would like to introduce some of the literary theories that I think are important.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション～フェイクの時代にどうして小説を書く必要があるのか（1）……ウンベルト・エーロの晩年の2作品から
- 2回：フェイクの時代にどうして小説を書く必要があるのか（2） 体験的小説論、自作について
- 3回：津村記久子論～日常を描くヒント、初期作品から『水車小屋のネネ』まで
- 4回：村田沙耶香論～振り切れた人間像、『生命式』と『コンビニ人間』
- 5回：綿矢りさ論～初期作品からの変貌、『かわいそうだね?』と『嫌いなら呼ぶなよ』まで
- 6回：新しい政治小説について～高橋和己『邪宗門』から、大江健三郎を経て、星野智幸へ
- 7回：韓国の現代文学へ～『こびとの打ち上げた小さなボール』から、現代まで
- 8回：批評理論（1）精神分析批評とスラヴォイ・ジジェク
- 9回：批評理論（2）クィア理論とジェンダー批評 松浦理恵子作品を読む
- 10回：批評理論（3）ポスト・コロニアル批評 目取真俊や青来有一の小説
- 11回：ミラン・クンデラの語る「継続性」と「複数性」について～中原昌也まで
- 12回：アフリカ文学とは何か～『やし酒飲み』をめぐる小説のあれこれ
- 13回：聞き書きという形式～アレクシエヴィッチと森崎和江
- 14回：まとめと振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は必要ないのですが、毎回、リアクションを提出してもらいます。これは小レポートのような形になるので、講義の後、自分なりに考えを深める必要があります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回提出のリアクションシート:65% 最終レポート割合 :35%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 文学講義 411

Lectures on Literature 411

詩創作論 1

野崎 有以 (NOZAKI AI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

詩や小説などの文学作品をさまざまな観点から鑑賞・批評することを通して、日本語による表現および日本の文化について柔軟に考える。

Through appreciating and criticizing literary works from various perspectives, students will flexibly think about expressions in Japanese and Japanese culture.

## 授業の内容 / Course Contents

日本語による文学作品を読み、その役割や解釈について考える。また、ディスカッションを通して各自の考えを深める。担当教員は詩の実作者でもあり、家政学の研究者でもある。そのため、「家政学」、「生活」といった観点からも文学作品を検討していく。

Reading literary works in Japanese and think about their interpretations and roles in society. Students will deepen their thoughts about Japanese linguistic expressions. through discussions. The instructor is also a poetry author and a researcher in Home Economics. Therefore, we approach literary works mainly from the viewpoints of "Home Economics" and "Life".

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション。資料を配布して読む。
- 2回：文学の形態（詩、小説、随筆、シナリオ）。
- 3回：詩と散文の関係。【自身の文学観についての小レポートを提出】
- 4回：さまざまな形態の小説（短編小説と長編小説、新聞小説。ショートショートについても取り上げる）。提出された小レポートの講評。
- 5回：文学と生活の関係。
- 6回：生活における文学（小説および詩）の表象。
- 7回：民衆文芸としての文学作品。主に民話を取り上げる。広く知られている民話を採録された地域別に検討する。民話についてもこの回で触れる。
- 8回：家庭小説（明治三十年代）。
- 9回：家庭小説（高度経済成長期）。
- 10回：絵本、児童文学について。（ジェンダーの観点からも検討する）
- 11回：日本の民話がどのように海外で紹介（翻訳）されているのかについて、絵本などを用いて検討する。
- 12回：文学の役割とは何か？【ここまでの授業で考えた文学について的小レポートを提出】
- 13回：提出された小レポートの講評。
- 14回：まとめ【最終レポート提出】。

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

提出する課題（小レポートなど）を授業時間外に執筆する必要がある。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート、リアクションペーパー等の提出物:40% 授業参加度:20% 最終レポート割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

授業で使用する資料は毎回こちらで用意したものを配布する。

**参考文献 / Readings**

- 安藤宏 『「私」をつくる—近代小説の試み』 岩波書店 2015
- 和田博文 『戦後詩のポエティクス 1935～1959』 世界思想社 2009
- 中村稔 『現代詩の鑑賞』 青土社 2020
- 今和次郎 『家政論 今和次郎集5』 ドメス出版 1971
- 今和次郎 『家政論 今和次郎集6』 ドメス出版 1971
- 上記の参考文献以外にも適宜授業内で紹介する。

# 文学講義 413

Lectures on Literature 413

ジェンダー論

虎井 まさ衛 (TORAI MASAE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU313

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

社会的・文化的「性」であるジェンダーが生活の細部に宿るという気付きを始点とし、性の多様性、人間の多様性について考えを拡げる機会を提供する。

Starting with the realization that gender, which is a social and cultural construct, dwells in the fine details of life, we will provide students with an opportunity to expand their thinking on gender diversity and human diversity.

## 授業の内容 / Course Contents

講師は実際に女から男に性別移行し、戸籍上も男になった者で、肉体だけではなくジェンダーそのものも移行する体験をした。身体が女であった時と男になった時、社会の眼はどう変わったか。女の世界と男の世界はどう違い、どう同じなのか。毎回が性別についての希有な体験授業であるような講義にしていきたい。

This course's lecturer is actually someone who changed his sex from female to male and became male on official Japanese census records (in the family register). Therefore, he has experienced not only a physical transition, but also the transition of gender itself. How did he change in the eyes of society from when he was a woman to when he became a man? What are the differences between a man's world and a woman's world and which aspects are

the same? The intention is for each lecture to be a rare experience-based lesson about gender.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：多様な性について
- 2 回：性別の習得について
- 3 回：性別違和感について
- 4 回：性の変更について
- 5 回：社会がつくる性について
- 6 回：宗教と性的少数者について
- 7 回：デートDVについて／前半の補足
- 8 回：法的性別について
- 9 回：性別変更特例法について
- 10 回：特例法要件から外れる当事者について
- 11 回：性同一性障害の現状について
- 12 回：ドキュメンタリー作品の解説と視聴（1）
- 13 回：ドキュメンタリー作品の解説と視聴（2）
- 14 回：今後の課題と展望について

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本はテキストの精読。参考文献，色々な媒体の作品や資料については毎回紹介する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントカード提出回数:30% 私語などの授業態度:10%

コメントカード上の成りすまし，私語には特に厳しい。

### テキスト / Textbooks

針間克己他 『性同一性障害って何？』増補改訂版 緑風出版 2011 9784846111014 ○

### 参考文献 / Readings

南野智恵子他 『性同一性障害の医療と法』 メディカ出版 2013

### その他 / Others

詳細は授業内・Canvas LMS 等で事前に伝える。

# 文学講義 415

Lectures on Literature 415

出版と編集について学ぼう

郡司 典夫 (GUNJI NORIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2800

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

インターネットや電子メディアの爆発的な成長・普及により、本や雑誌のプレゼンスは低下の局面に入っている。そしてこのことが、出版社に仕事のスタイルの変更を迫ってきた。ただし、本作り、雑誌作りの基底にある「編集」という考え方には、メディア環境の変化に動じない本質的な強さがある。出版のみならず、仕事や社会生活にも活かす編集感覚を身につけることを目標とする。

The explosive growth and proliferation of the Internet and electronic media has brought the presence of books and magazines into a phase of decline. This has forced publishers to change their work styles. On the other hand, at the base of book and magazine making is the idea of 'editing'. And in this, there is an intrinsic strength that will not be affected by changes in the media environment. Our goal is to acquire a sense of editing that can be applied not only to publishing, but also to their work and social lives.

## 授業の内容 / Course Contents

各回の授業を通して、出版という事業の全体像と本質を、多角的に見きわめていく。出版には、商業活動という面と、文化創出という面があり、その両立を図るべく、多くの版元は苦慮を重ねている。出版実務の中心を

占める編集作業の解説が、この講義の中心となるが、出版の歴史的、社会的意味についても理解を深めていく。

Throughout each lesson, we will examine the overall picture and the essence of the publishing business from various angles. Publishing is both a business and a cultural creation, and many publishers struggle to reconcile the two. While the focus will be on the editorial work that is at the heart of publishing practice, the course will also deepen our understanding of the historical and social meaning of publishing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション——編集・販売・広告の各観点から、出版という事業の内実とその広がりを確認します。また、授業の進め方を示します。

2回：出版の現在——出版業界の現状を多面的に検証します。さらに、本作りのプロセス、流通の仕組み、出版広告の考え方を紹介します。

3回：著作権の考え方——各種原稿を作成する上で、著作権に関する知識は欠かせません。

4回：コンテンツとは何か——出版界にも浸透してきた「コンテンツ」という新しい概念を紹介します。それが、出版業界に与えた、そしていまも与え続けている影響を見ていきます。

5回：出版と販売・広告——本の流通形態とその現状を確認します。加えて、出版広告の考え方や方法、その効果について説明します。

6回：編集者は何をしているか①：総論——編集者の仕事の全体像を示します。企画立案、原稿依頼、原稿整理、校正、タイトル・帯文の作成、装丁の検討、販売戦略などについて説明します。

7回：編集者は何をしているか②：書籍編——書籍を編集するプロセスを詳しく見ていきます。単行本、文庫、新書、全集（巻数もの）、それぞれについて解説します。

8回：編集者は何をしているか③：雑誌編——雑誌を編集するプロセスを詳しく見ていきます。月刊誌、週刊誌、ムック、それぞれについて解説します。

9回：企画の立て方・企画書の作り方①——編集的思考法を実践します。企画を作る上で重要な要素を確認し、魅力的・効果的な企画書作りへの導入を行います。

10回：企画の立て方・企画書の作り方②——編集的思考法を実践します。企画を作る上で重要な要素を確認し、魅力的・効果的な企画書作りへの導入を行います。

11回：ベスト・セラー研究——大きな社会現象となったベスト・セラーを取り上げ、その特色や影響について見ていきます。また、ロング・セラーについても言及します。

12回：出版社研究①——日本の特徴・特色のある出版社を取り上げ、創業の経緯とその後の展開を見ていきます。そうすることで、日本の出版文化についての理解を深めます。

13回：出版社研究②——日本の特徴・特色のある出版社を取り上げ、創業の経緯とその後の展開を見ていきます。

14回：メディア論と編集的思考法——メディアの中の出版という視点で、出版の過去・現在・未来を眺め渡します。さらに、編集という思考態度のさまざまな応用について考えます。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

推薦図書の参照。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート（最終授業時に提出）:40% リアクション・ペーパー:30% 授業内の提出物:30%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**



# 文学講義 416

Lectures on Literature 416

ニッポンの現代演劇 Japanese Modern Theater

佐々木 敦 (SASAKI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU316

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本の現代演劇の歴史を総覧し、その特徴と可能性を考察する。

Reviewing the history of modern Japanese theater and considering its characteristics and possibilities.

## 授業の内容 / Course Contents

映像資料などを活用し、日本の主だった演劇作家と、その作品を紹介する。

Introducing major Japanese playwright theater directors and their works using videos and other materials,

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業方針／オリエンテーション Orientation

2 回：岡田利規とチェルフィッチュ 1

Toshiki Okada and chelfitsch 1

3 回：岡田利規とチェルフィッチュ 2

Toshiki Okada and chelfitsch 2

4 回：平田オリザと青年団 1

Oriza Hirata and Seinen-Dan 1

5 回：平田オリザと青年団 2

Oriza Hirata and Seinen-Dan 2

6 回：静かな演劇とは何か？

Quiet theater

7 回：80 年代演劇

80's theater

8 回：70 年代演劇 アングラ演劇

70's theater Underground theatre

9 回：柴幸男とままごと

Yukio Shiba and Mamagoto

10 回：松田正隆のマレビトの会

Masataka Matsuda and Marebito theatre company

11 回：ゼロ年代の演劇

2000s theatre

12 回：テン年代以降の演劇 1

2010s theatre

13 回：テン年代以降の演劇 2

2020s theatre

14 回：総括と展望

Summary and Outlook

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

観劇

Theater viewing

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60%

最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

## 哲学講義 2

Lectures on Philosophy 2

東洋哲学

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU319

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は以下のとおり。

・「東洋哲学」という枠組みに括られる諸思想について、原典資料を参照しながら、具体的な内容を理解すること。

・いわゆる「東洋哲学」からどのような新たな思考の可能性が見出せるか、自力で考察する視座を得ること。

The goals of this course are to

・ understand the specifics of the various schools of thought that fall within the framework of “Eastern philosophy”, while referring to the original sources,

・ gain a perspective to consider on one's own what new possibilities for thought can be found in so-called “Eastern philosophy”.

### 授業の内容 / Course Contents

東アジア世界でかつて圧倒的な影響力をもった「朱子学」の思想内容について、わかりやすい解説書をもとに紹介する。そのさい、教員からは、著者が説明に用いた原典資料やその関連資料を提示し、その内容を検証す

る。また、解釈の分かれる問題についてはその状況についても説明する。そして、学生各自において、朱子学が自らの思考といかに関係しいかに関係しないか、何らかの新しい要素をもたらしてくれるのか否か、考察するよう促す。

This course introduces the contents of Neo-Confucianism, which once had an overwhelming influence in East Asia, based on an easy-to-understand explanatory text. The instructor will present the original sources and related materials used by the author to explain and verify the content. The status of issues that have been the subject of divergent interpretations will also be explained. The students will be encouraged to consider for themselves how Neo-Confucianism relates to their own, how it does not relate to their own, and whether or not it brings any new elements to their own thinking.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：朱子学の門に入る
- 3回：仁：人として・愛の理
- 4回：義：ただしきこと、よろしきところ
- 5回：礼：美しきあや
- 6回：智（知）：智に働けば角が立つ？
- 7回：信：まことを見せろ！
- 8回：忠：まごころ込めて
- 9回：孝：善悪の彼岸
- 10回：性：人はなぜ善（悪）をなしうるのか？
- 11回：心：心はどこにあるのか？
- 12回：経：つねなるものは存在するか？
- 13回：朱子学を後にする？
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲として指示されたテキストの該当箇所を読み、内容確認を兼ねて Canvas LMS 上の小テストを受験すること。各回の予習範囲については第1回の資料で提示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 予習課題:20% リアクションペーパー:20%

75%以上の出席をしていない場合は不合格とする。

予習課題（小テスト）は自動採点。リアクションペーパーに対しては次回授業時に全体的なフィードバックを行う。

### テキスト / Textbooks

垣内景子 『朱子学のおもてなし』 ミネルヴァ書房 2021 9784623092802 ○

そのほかはコピーを配付する。

### 参考文献 / Readings

垣内景子 『朱子学入門』 ミネルヴァ書房 2015 9784623073917

土田健次郎 『朱熹の思想体系』 汲古書院 2019 9784762966521

そのほかは適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の掲示、予習課題等に Canvas LMS を用いる予定。

学生はレポート試験作成のために PC が必要。

### その他 / Others

出席確認は第1回から行う（登録変更による未参加は考慮する）。出席確認方法などの詳細は第1回授業にて説明する。

# 哲学講義 3

Lectures on Philosophy 3

芸術論 1

五十嵐 J. (IGARASHI JANNU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU320  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： PCW2200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

旧石器時代洞窟壁画研究の現状を学び、それをてがかりにヒトとは何か、ヒトはなぜ生き延びることができたのかという哲学的・人類学的な問いに自ら考察を加えることができるようにする。

This course aims to teach the actualities of researching paleolithic cave art, so that students can consider philosophical and anthropological questions: "What is a human being? Why did human beings survive until now?"

## 授業の内容 / Course Contents

ホモ・サピエンスの一部がアフリカ大陸を離れ、ユーラシア大陸に移動し、世界中に拡散した。西へと向かったホモ・サピエンスは自然主義的な美術を開花させた。それがヨーロッパ後期旧石器時代美術である。耐久性のある支持体に残された美術は何万年も経た現在でも見ることができる。ラスコー、ショーヴェ、アルタミラなどフランスやスペインで数多く発見されている、岩壁という動かすことのできない支持体を用いた洞窟壁画はよく知られている。また、オーストリアのヴィレンドルフの「ヴィーナス」像など、石や骨や牙など動かすことができる支持体を使った動産美術がある。本授業では、洞窟壁画、動産美術、さらに装身具に関する研究

についても紹介する。技法、年代決定法、主題、解釈、社会、人類学など様々な視点から当時の美術、ヒトにとっての美術について考える。

Some groups of homo sapiens departed from Africa to Eurasia and then migrated all over the world. Homo sapiens who went to the West developed naturalistic art, that is, Upper Palaeolithic Art in Europe. The art on durable rock still remains even after tens of thousands of years. Cave art on immobile rock in France and Spain is well known: Lascaux, Chauvet, Altamira, and so on. Venus figurines, for example, the Venus of Willendorf in Austria, are transportable, so we call such objects made of small stones, bones, and ivories "mobile art." In this course, studies of cave art, mobile art, and accessories are presented. Students consider Paleolithic art from many views: technique, dating, theme, interpretation, society, anthropology, and so on.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：ラスコー洞窟（フランス、ドルドーニュ県）を中心に
- 2 回：洞窟壁画の動物主題：ウマ、バイソン、マンモス  
ショーヴェ洞窟（フランス、アルデシュ県）やルフィニャック洞窟（フランス、ドルドーニュ県）を中心に
- 3 回：動産美術（1）：彫像（女性小立像、動物彫刻など）  
ヴィレンドルフ（オーストリア）、ドルニ・ヴェストニツェ（チェコ）を中心に
- 4 回：洞窟壁画の記号：テクティフォルム、クラヴィフォルム  
フォン＝ドゥ＝ゴーム洞窟やレ・コンバレル洞窟（フランス、ドルドーニュ県）を中心に
- 5 回：動産美術（2）：線刻画、浮彫り  
ラ・ヴァッシュ洞窟（フランス、アリエージュ県）やラ・マドレーヌ岩陰（フランス、ドルドーニュ県）を中心に
- 6 回：洞窟壁画の解釈：「芸術のための芸術」、狩猟呪術、増殖のための呪術、トーテミズム、シャーマニズム、神話、象徴など  
レ・トロワ＝フレール洞窟（フランス、アリエージュ県）を中心に
- 7 回：動産美術(3):装飾された道具や装身具  
マス・ダジル洞窟（フランス、アリエージュ県）を中心に
- 8 回：洞窟壁画の年代決定法（1）：相対的年代決定法、様式論（ブルイユとルロワ＝グーラン）  
ペール＝ノン＝ペール洞窟（フランス、ジロンド県）を中心に
- 9 回：洞窟壁画の年代決定法（2）：「直接的」年代決定法（放射性炭素年代測定法）、壁画を覆う方解石の年代（ウラン系列法）  
クーニャック洞窟（フランス、ロット県）やショーヴェ洞窟（フランス、アルデシュ県）を中心に
- 10 回：美術の「誕生」  
ブロンボス洞窟（南アフリカ）を中心に
- 11 回：認知考古学、進化心理学、ホモ・サピエンスの拡散、そして中石器時代、新石器時代へ  
スペイン・レバント美術など
- 12 回：洞窟壁画の技法、絵具  
ニオー洞窟（フランス、アリエージュ県）を中心に
- 13 回：旧石器時代美術の発見史と保存について  
アルタミラ洞窟（スペイン、カンタブリア州）を中心に
- 14 回：補足説明（日本の更新世美術：旧石器時代、縄文草創期）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:40% 出席態度:30% 報告:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

五十嵐ジャンヌ 『洞窟壁画考』 青土社 2023 9784791775682

五十嵐ジャンヌ 『なんで洞窟に壁画を描いたの?: 美術のはじまりを探る旅』 新泉社 2021  
9784787720276

海部陽介、五十嵐ジャンヌ、佐野勝宏 『世界遺産ラスコー展』 毎日新聞社、TBS テレビ 2016

### その他 / Others

洞窟壁画のヴァーチャル見学（フランス語、英語、スペイン語）サイト

ラスコー洞窟（フランス、ドルドーニュ県）

<https://archeologie.culture.gouv.fr/lascaux/fr/visiter-grotte-lascaux>

<https://archeologie.culture.gouv.fr/lascaux/fr>

ショーヴェ洞窟（フランス、アルデシュ県）

<https://archeologie.culture.gouv.fr/chauvet/fr>

フォン＝ドゥ＝ゴーム洞窟（フ



## 哲学講義 4

Lectures on Philosophy 4

思想としての芸術

星野 太 (HOSHINO FUTOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU321

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、現代芸術をめぐる基本的な知識を獲得し、それをもとに、具体的な作品について批判的に考察できるようになることを目標とする。

The objective of the class is to acquire a basic knowledge of contemporary art and, based on this, to critically examine the artistic objects of our time.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、20 世紀初頭のマルセル・デュシャンをひとつの出発点として定め、それから現在までの 100 年余りのあいだに、現代の芸術がどのように展開していったのかを概説的に論じる。ただし、歴史的な内容は最小限にとどめ、あくまでも具体的な作品を通じて、現代芸術の思想的な側面にふれることに主軸を定める。

This class will take Marcel Duchamp as the starting point of contemporary art, providing an overview of modern and contemporary art over the past century. It focuses on the philosophical, rather than historical, aspect of modern and contemporary art.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入——思想としての現代芸術
- 2回：作品——デュシャンと現代美術①
- 3回：網膜と観念——デュシャンと現代美術②
- 4回：作品と資料——デュシャンと現代美術③
- 5回：展示の形態——デュシャンと現代美術④
- 6回：中間テスト
- 7回：写真（1）
- 8回：写真（2）
- 9回：映像（1）
- 10回：映像（2）
- 11回：パフォーマンス（1）
- 12回：パフォーマンス（2）
- 13回：最終テスト
- 14回：授業のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布した資料や参考文献をもとに、各回 90 分程度の予習・復習を要する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間テスト (Midterm Test):30% 最終レポート割合：40%最終テスト割合：30%

#### テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず、毎回の授業で使用する資料を PDF で配布する。

#### 参考文献 / Readings

- マルセル・デュシャン 『デュシャンは語る』 筑摩書房 1999 4480084894  
 マルセル・デュシャン 『マルセル・デュシャン全著作』 未知谷 1995 4915841219  
 平芳幸浩 『マルセル・デュシャンとは何か』 河出書房新社 2018 9784309256092  
 中尾拓哉 『マルセル・デュシャンとチェス』 平凡社 2017 9784582284485  
 ニコラ・ブリオー 『関係性の美学』 水声社 2013 9784801007826  
 クレア・ビショップ 『人工地獄』 フィルムアート社 2016 9784845915750  
 ロザリンド・クラウス 『ポストメディウム時代の芸術』 水声社 2023 9784801006980  
 これらは参考文献の一部であり、その他の文献については授業中に適宜紹介する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。ただし、近現代の芸術について一定の関心があることが望ましい。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

**その他/ Others**

- ①授業形態：この授業は講義形式で行なう。おもにスライドと配布資料を用いる予定だが、必要に応じて板書も併用する。
- ②課題へのフィードバック：授業中に実施する中間テスト・最終テストについては、授業時間内に総評を行なう。また、Canvas LMS 等を通じて寄せられた質問・コメントについては、授業中に取りあげる可能性がある。
- ③その他：担当教員のウェブサイト  
<https://nosnino.com/>  
[https://researchmap.jp/hoshino\\_futoshi](https://researchmap.jp/hoshino_futoshi)

## 哲学講義 5

Lectures on Philosophy 5

現代思想の諸問題 1

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU322

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

社会心理学者エーリヒ・フロム（1900-80）の著作を読み、その鍵概念である「自由」「服従」「愛」「生産的」「悪」「持つ／在る」などを理解し、それらを援用・批判して自分自身と現代社会について思索できるようになること。

Read written works by social psychologist Erich Fromm (1900-1980) and understand key concepts such as freedom, conformity, love, evil, being productive, and the ideas to have or to be. Become able to support or criticize Fromm's concepts and contemplate one's own self and modern society.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業は、『自由からの逃走』や『愛するということ』で知られるフロムの著作を通して、学生が単に知識を増やすのではなく、自ら考えてアウトプットしていく、社会心理学および哲学入門となる。各授業は毎回、最初に学生からのコメントメールを紹介し、それに対して講師からコメントや補足説明をするフィードバック応答を行う。その後、以下の「授業計画」にそって（学生の理解度によって変更もありうる）、講師がフロムの思想や概念を（できるだけ平易に）紹介、解説する。

This class is an introduction to social psychology and philosophy. Through written works by Fromm, who is known for books such as *Escape from Freedom* and *The Art of Loving*, students will not merely increase their knowledge, but also think for themselves and produce work based on their opinions. Every time classes will be split into a first half and a second half. In the first half, the lecturer will present comment on emails written by students and provide supplementary explanation. In the second half, the lecturer will introduce Fromm's thinking and concepts (as simply as possible) in accordance with the lesson plan below (this plan may change based on student feedback).

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・人物について
- 2回：自由からの逃走（1） 自由と個人の解放
- 3回：自由からの逃走（2） 宗教改革・近代人の不安と自由
- 4回：自由からの逃走（3） 自由からの逃避のメカニズム
- 5回：人間における自由（1） 人道主義的倫理とパーソナリティ
- 6回：人間における自由（2） 生産的・非生産的「構え」
- 7回：人間における自由（3） 道徳的能力
- 8回：愛するということ（1） 技術としての愛
- 9回：愛するということ（2） 親の愛・性的愛
- 10回：愛するということ（3） 自己愛・利己主義
- 11回：悪について（1） バイオレンス・ネクロフィリア・バイオフィリア
- 12回：悪について（2） 自由・決定論・二者択一論
- 13回：生きるということ（1） 持つことと在ること
- 14回：生きるということ（2） 新しい人間、新しい社会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習／各テキスト指定箇所を事前に読んでおく。

復習／授業を振り返り、コメント（客観＋主観）を送る。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回授業へのコメント:70% 授業内レポート:30%

### テキスト / Textbooks

CanvasLMS 上にアップする。

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。授業中に使用したパワーポイントデータ等は、CanvasLMS 上にアップします。

## 哲学講義 6

Lectures on Philosophy 6

いま哲学では何が問題になっているか

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU323

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） オムニバス授業

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- 1) いま哲学ではどういうことが問題になっているかを理解する
- 2) 現代哲学のさまざまな分野を横断的に理解する
- 3) そのなかで自分の関心に惹きつけて哲学的考察を展開できる

(1) To understand what issues are currently being discussed in philosophy

(2) To understand the various fields of contemporary philosophy from a cross-sectional perspective

(3) To be able to develop philosophical reflection based on one's own interests in the context of these issues.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業は、毎回ゲスト講師をお招きするオムニバス授業です。そのため各回内容は異なります。

哲学・倫理学・ジェンダー論・政治思想など幅広い分野で活躍する、とくに若手・中堅の研究者をお招きします。

毎回授業内容は異なりますが、各々の分野の体系的な学習とか各講師の専門分野の解説というより、「いま哲学ではこういうことが注目されている」「そもそもこういうことが面白くて哲学を研究している」ということを中

心に語っていただく予定です。

毎回、ゲスト講師のお話の後（60分程度）、履修者のコメントを受けて質疑応答の時間を設けます（30分程度）。

具体的なテーマとして以下を予定しています。

哲学：ニーチェ、キルケゴールなどの実存思想／フーコー、ドゥルーズなどの現代思想／ウィトゲンシュタインなどの分析哲学／フェミニスト現象学とジェンダー思想／精神病理の哲学

倫理学：気候変動と環境倫理学／コロナと生命倫理／AIと技術倫理

政治思想：ハンナ・アーレントとパレスチナ問題

（詳細なテーマ・スケジュールは初回のガイダンス時に説明します）。

This course is an omnibus course with a guest lecturer each time. Therefore, the content of each session will be different.

We invite especially young and mid-career researchers in a wide range of fields in philosophy, ethics, gender theory, and political thought.

The content of each class is different, but rather than a systematic lecture of each field or an explanation of each lecturer's area of expertise, we plan to focus on "what issues are currently being discussed in philosophy" or "what is interesting about studying philosophy nowadays".

After the guest lecturer's talk (about 60 minutes), we will have a question-and-answer period (about 30 minutes) with students' comments.

Specific topics will be as following (a detailed schedule will be provided at the first guidance session)

Philosophy: Existential thought - Nietzsche and Kierkegaard / Contemporary thought- Foucault and Deleuze / Analytic philosophy - Wittgenstein / Feminist phenomenology and gender thought / Philosophy of psychopathology

Ethics: Climate change and environmental ethics / COVID-19 and bioethics / Drones and the ethics of war

Political thought: Hannah Arendt and the Palestinian Question

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ゲスト講師による講義（哲学分野）
- 3回：ゲスト講師による講義（哲学分野）
- 4回：ゲスト講師による講義（哲学分野）
- 5回：ゲスト講師による講義（哲学分野）
- 6回：ゲスト講師による講義（ジェンダー思想分野）
- 7回：ゲスト講師による講義（ジェンダー思想分野）
- 8回：ゲスト講師による講義（精神病理学分野）
- 9回：ゲスト講師による講義（倫理学分野）
- 10回：ゲスト講師による講義（倫理学分野）
- 11回：ゲスト講師による講義（倫理学分野）
- 12回：ゲスト講師による講義（現代思想分野）
- 13回：ゲスト講師による講義（現代思想分野）
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

各回の授業を振り返り、内容をまとめ、考察を書く。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加:30% 授業の振り返り:30% 最終レポート割合：40%

**テキスト / Textbooks**

用いません。必要な場合にはプリントを配布します。

**参考文献 / Readings**

適宜授業で指示します。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

「哲学概論 1」、「哲学への扉」、「哲学対話 in Rikkyo」、「倫理思想」等の哲学の入門的な授業を履修していることが望ましいです。

また、そのほかの「哲学講義」、「現代倫理」の授業を並行して履修することをお勧めします。



# 哲学講義 7

Lectures on Philosophy 7

死生論

岩崎 大 (IWASAKI DAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU324

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

①生と死に関する現代の社会的課題と、それに応じる死生学の実践を理解する。

②哲学的問題を抱える現代の諸現場について、意見交換を通じて自分なりの態度を確立する。

③現代において生と死を自ら考えることの意義を理解し、自ら問いを立て、それに取り組むための能力を養う。

1. To understand contemporary social issues related to life and death and the practice of thanatology in response to these issues.

2. To establish one's own attitude through mutual exchange of opinions on various contemporary philosophical problems.

3. To understand the significance of thinking about life and death on one's own, and to develop the ability to create and address questions on one's own.

## 授業の内容 / Course Contents

現代において、哲学・倫理学が「世の中の役に立つ学問」であることを明示する代表的な例が、テクノロジー

やグローバル化の発展に伴って発生した社会的課題を解決することである。ただし課題の解決とは、伝統的な価値観や普遍的な倫理原則を現実に適用させて正しい態度選択を明らかにすることではなく、むしろそうした基準自体が機能不全に陥るような現実を前に、多様な個人がそれぞれどのようにして自らの決断を導くことができるかを考えること、また、その環境を構築することにある。

本講義では、現代の社会的課題として顕現する生と死の諸問題に学際的に応じる死生学の実践を概観しながら、現代において死を考えることの意義を検討し、受講者それぞれが自らの生と死に向き合うための能力を養っていく。

Solving social problems that have arisen with the development of technology and globalization is an example of how philosophy and ethics can be a "useful discipline for the world" in the modern era.

However, solving social problems does not mean applying traditional values and universal ethical principles to reality and revealing the right attitudes, but rather considering how diverse individuals can guide their decisions in a reality where such criteria themselves cannot function, and creating an environment in which they can do so. In this class we will review the practice of thanatology, which is an interdisciplinary approach to the various issues of life and death that have emerged as social problems of our time. In doing so, we will examine the significance of thinking about death in the modern age and cultivate each participant's ability to think about his or her own life and death.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：死生学とは何か？
- 2 回：様々な死生観（世界観に基づく価値観と行動指針）
- 3 回：自らの死生観を反省する（日常の生と死）
- 4 回：合理的な死生観（科学とパスカル）
- 5 回：なぜ人を殺してはいけないか？（エピクロスの快楽主義）
- 6 回：殺人軽犯罪説をめぐる議論
- 7 回：現代の死の実態（死生観形成とライフサイクル）
- 8 回：現代の死の語り（飼い慣らされた死とタブー視される死）
- 9 回：文明のなかの老いと死
- 10 回：生と死の意思決定（医療倫理と医療従事者－患者関係）
- 11 回：ケアと生きがい（正義の倫理とケアの倫理）
- 12 回：自殺と社会（統合、規制、スティグマ、役割期待）
- 13 回：自殺の哲学（なぜ自殺してはいけないのか？）
- 14 回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義で扱う資料を事前、事後に確認すること。毎回与えられる課題・コメント提出のために、講義の復習と必要な情報を収集して、自らの意見を構築すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のコメント提出:60% 最終レポート割合 :40%

各回のコメントは講義後に Canvas LMS から提出。2/3 以上の出席をしていない場合は 単位修得不可。

### テキスト/ Textbooks

資料は講義内で適宜紹介し、一部 PDF 等で配布する。

### 参考文献 / Readings

岩崎大 『スマホと哲学』 春風社 2021 9784861107368

岩崎大 『死生学ー死の隠蔽から自己確信へー』 春風社 2015 9784861104381

各回のテーマに関わる参考文献は講義内で紹介します。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

哲学の初学者でも問題ありません。死に関わる内容を扱い、自身の考えについても記載していただくので、学生の状況によっては心理的負担を感じる可能性もあります。

### その他/ Others

Power Point を用いた講義形式で行うが、思考する能力を養うために、講義中に提示する課題に対する回答や対話を求める。「Canvas LMS」を使用して毎回期日までに課題・コメントの提出等を行う。その内容について、次回の講義でフィードバックを行う。

# 哲学概論 1

## Introductory Lectures on Philosophy 1

「西洋哲学」で「哲学する」

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU325

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： AE326「人間と哲学1」と同一科目。重複履修不可。教育学科の学生はAE326を登録すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、哲学者の名前と概念を暗記することを目指すことはしません。「哲学」で重要なことは、覚えることではなく、自ら「考える」ことです。自ら「考える」ことができるために、そのツールとして、西洋哲学の歴史や基本的な考え方を身につけることを目指します。

ただし、必要に応じて、西洋哲学の基本的な流れや重要な考え方の説明はします。大学の授業やさまざまな本などでは、西洋の哲学者の名前や考え方が出てくることがあります。そうしたときの参考になるような基本的な事項を理解することも目標の一つです。

The purpose of this course is not "memorizing" philosophers' names and concepts. "Philosophy" is not a set of seemingly deep thoughts or witty ideas. The most important thing is to be able to "think" by yourself.

The objectives of this course consist therefor:

- to learn how to "think" by yourself.
- to understand the basic flow and important ideas of the Western philosophy.

**授業の内容 / Course Contents**

授業では、できるだけ日常的な場面にも通ずる「問い」を提示します。授業前あるいは授業内にそれについて「考えて」もらう機会を設けます。できるだけ履修者とのインタラクティブな対話を設ける予定です。それを踏まえて、各回その「問い」を掘り下げるために、関連する西洋哲学の重要な考え方を説明していきます。

なお、以下の授業計画は授業の進み方や履修者の希望に応じて適宜変更する場合があります。

For this reason, we plan to have interactive dialogue with students as much as possible. The students will be required to answer the questions presented before each session. The course will be proceeded in response to the answers, by presenting ideas elaborated in Western philosophy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：イントロダクション：「哲学する」とは？「正しい」とは？

プラトン

2回：「バナナはおやつに含まれるか」？

アリストテレスとスコラ哲学

3回：「私」は「自由」か？

デカルトとホッブズ

4回：「偶然」「必然」て何？

スピノザ、ライプニッツ、ヒューム

5回：「真」「善」「美」は主観的？客観的？

カント

6回：「善い」「悪い」はどう決まる？

カント、功利主義、ニーチェ

7回：「社会」って何？

ヘーゲル、マルクス、キルケゴール、トクヴィル

8回：「ある」と「いる」、「もの」と「こと」はどう違う？

フッサール、ハイデガー

9回：「言葉」はすべてを言い表せるか？

ウィトゲンシュタイン、ソシュール

10回：結局「人それぞれ」？

構造主義とポスト構造主義

11回：「正義」なんてもうない？

ポストモダン、デリダ、ロールズ、ハーバーマス

12回：「責任」て何？

アーレント、レヴィナス、分析哲学

13回：「自然」は守るべきか

現象学、エコロジー

14回：ジェンダーのことはどう考えたらよいか

フェミニズムとジェンダー哲学

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:		:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

次回の講義で扱う「問い」についてあらかじめ考えてくる。

各回の講義の内容を振り返り、考えを深める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度（コメントの提出等）:50%

### テキスト / Textbooks

用いません（適宜プリントを配布します）。

### 参考文献 / Readings

貫成人 『図説・標準 哲学史』 新書館 2008 9784403250934

納富信留・檜垣立哉・柏端達也 『よくわかる哲学・思想』 ミネルヴァ書房 2019 9784623084104

曾我千亜紀ほか編 『フランス・バカロレア式 書く! 哲学入門』 ナカニシヤ出版 2021 9784779514951

渡名喜庸哲 『現代フランス哲学』 ちくま新書 2023 9784480075741

そのほか適宜授業中に指示します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業は「概論」として、哲学についての基本的な考え方や知識をお伝えすることを目的としていますので、関心があれば、先行知識は必要ありません。

### 注意事項（検索結果画面）

A E 3 2 6 「人間と哲学1」と同一科目。重複履修不可。教育学科の学生はA E 3 2 6 を登録すること。

## 哲学概論 2

Introductory Lectures on Philosophy 2

中国哲学史

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU326

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： AE327「人間と哲学 2」と同一科目。重複履修不可。

教育学科の学生は AE327 を登録すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は以下のとおり。

- ・中国哲学史についての基礎的な知識について説明できること。
- ・重要な理論や概念を理解し、哲学的問題の思考に適用できること。

The goals of this course are to

- ・ obtain basic knowledge about the history of Chinese philosophy,
- ・ be able to understand important theories and concepts in Chinese philosophy, and apply them to thinking on philosophical issues.

### 授業の内容 / Course Contents

テキストにもとづいて中国哲学史の概要を説明する。重要な理論については、それを手がかりとしてどのような哲学的思考が展開できるかという可能性についてもあわせて説明する。

This course provides an overview of the history of Chinese philosophy based on the textbook. For important

theories, it will also explain the possibility of developing philosophical thinking with them as clues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：中国哲学史を書くとはどういうことか、中国哲学史の起源
- 3回：孔子、正しさとは何か
- 4回：孟子・荀子・荘子、礼とは何か、『孫子』
- 5回：『老子』『韓非子』『淮南子』、法家、董仲舒・王充、経書と緯書
- 6回：王弼・郭象、仏教との対決
- 7回：『詩経』から『文心雕龍』へ、韓愈
- 8回：朱熹と朱子学、陽明学
- 9回：キリスト教との対決、西洋は中国をどう見たのか1
- 10回：戴震、西洋近代との対決
- 11回：胡適と近代中国哲学の成立、現代新儒家の挑戦、毛沢東の時代
- 12回：西洋は中国をどう見たのか2、普遍論争
- 13回：補論：新しい「中国哲学」の可能性
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲として指示されたテキストの該当箇所を読み、内容確認を兼ねて Canvas LMS 上の予習テストを受験すること。各回の予習範囲については第1回の資料で提示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 予習課題（小テスト）:20% リアクションペーパー:20%

75%以上の出席をしていない場合は不合格とする。

予習課題（小テスト）は自動採点。リアクションペーパーに対しては次回授業時に全体的なフィードバックを行う。

### テキスト / Textbooks

中島隆博 『中国哲学史』 中央公論新社 2022 9784121026866 ○

そのほかはコピーを配付する。

### 参考文献 / Readings

アンヌ・チャン 『中国思想史』 知泉書館 2010 9784862850850

湯浅邦弘編著 『中国思想基本用語集』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087365

ユク・ホイ 『中国における技術への問い——宇宙技芸試論』 ゲンロン 2022 9784907188467

その他は適宜指示する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の掲示、予習課題等に Canvas LMS を用いる予定。



**その他/ Others**

出席確認は第1回から行う（登録変更による未参加は考慮する）。出席確認方法などの詳細は第1回授業にて説明する。

**注意事項（検索結果画面）**

A E 3 2 7 「人間と哲学2」と同一科目。重複履修不可。教育学科の学生はA E 3 2 7 を登録すること。

# 現代倫理

Ethics

尊厳とは何か？—人間、動物、AIのそれぞれについて

佐藤 香織 (SATO KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU327

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「尊厳 (dignity)」を傷つけられたと感じた経験はあるだろうか。尊厳は毀損された時にとりわけ尊重される。ではその「尊厳」とは何だろうか。動物や AI には尊厳はあるのだろうか。本講義では、倫理学史における「尊厳」概念の基礎的な知識を身につけ、それについて議論をしたりその主題について意見を文章にしたりする力をつけることを目指す。

Have you ever experienced the case in which your "dignity" is violated? We respect dignity especially when it is impaired. Then, what exactly is the dignity? Do animals or artificial intelligence have dignity? The goals of this courses are to obtain basic knowledge about the concept of the "dignity" in the history of ethics, to discuss matters further, and to write essays on the topics.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、倫理学の観点から、「尊厳」概念が果たす役割とその意味について学ぶ。授業の前半部では古代ギリシアから近代までの基礎倫理学における「尊厳」に関する議論を検討し、後半部では動物倫理、環境倫理、生命倫理、ロボット倫理などの分野では「尊厳」がどのように問題になっているのかを多様な議論を通じ

て学ぶ。

This course introduces the role that dignity plays and its meaning from the perspective of ethics. In the first half of the course, participants examine the arguments about the "dignity" in the basic ethics, from the ancient Greek philosophy to the modern ethics. In the last half of the course, participants learn the various arguments about the "dignity" in animal ethics, environmental ethics, bioethics and robot ethics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入ー「尊厳」の何が問題なのか／動物やAIの尊厳を考えるとはどういうことか
- 2回：古代ギリシアにおける尊厳（1）ー人間の「卓越性」
- 3回：古代ギリシアにおける尊厳（2）ー「自己への配慮」
- 4回：カントと尊厳の問題（1）ー人間の「内的価値」とは何か
- 5回：カントと尊厳の問題（2）ー死刑制度と尊厳の問題についての一考察
- 6回：古典的功利主義と尊厳の問題ー功利主義と「人間の尊厳」についての思考は対立するか
- 7回：ロールズの正義論からー「公正であること」と「尊厳」
- 8回：動物の尊厳について考えるー動物の利用は正当化可能か
- 9回：医療倫理と法の問題（1）ー安楽死と尊厳死の間
- 10回：中間レポート講評
- 11回：医療倫理と法の問題（2）ー中絶と出生前診断
- 12回：反出生主義を考える
- 13回：次の世代に残すーハンス・ヨナスの世代間倫理と環境問題
- 14回：AIと尊厳ー「人格」概念を再考する

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内に提示された資料や参考文献を読み込む。また、授業内に出された課題について次の授業時までにもう一度考え、他の人の意見と照らし合わせることでできるようにしておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% 中間レポート:20% 毎回の課題:20%  
 毎回の課題では400字程度、中間レポートは2000字程度。

### テキスト / Textbooks

毎回資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

マイケル・ローゼン 『尊厳』 岩波書店 2021

毎回の授業時にプリントを配布し、参考文献もその都度指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

倫理学についての知識は前もって必要としない。日本語運用能力（文章表現と授業を聞いて理解する力）はあ

る程度求められる。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

課題をオンラインで提出するため、スマホやノートパソコンなどを持ち込むと効率的に授業を受けられる（難しい人は相談に応じる）

# 文学講義 418

Lectures on Literature 418

幻想文学の諸相

阿部 賢一 (ABE KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU368

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古今東西の幻想文学を扱いながら、人間の想像力の領域について文学作品を通して考察を行う。あわせて、言語学、文学、哲学、心理学、フォークロアなどの視点からフィクションの機能、恐怖という感情についての基本的な知見を獲得することを目指す。

The course will examine the realm of the human imagination through literary works, dealing with fantasy literature from all ages and cultures. In addition, the course aims to acquire basic knowledge about the function of fiction and the emotion of fear from the perspectives of linguistics, literature, philosophy, psychology, folklore, etc.

## 授業の内容 / Course Contents

豊饒な幻想文学の文章に触れ、多種多様な世界の捉え方を学ぶ。トドロフらの定義を出発点にして、都市空間と文学の関係（プラハの事例）、絵画・遊び・石における想像力（カイヨワ）、幽霊の語り、恐怖の哲学、といった問題系を参照しながら、寓話的な文学言語の特性について考察する。主として文学作品を扱うが、映画などのアダプテーションも可能な限り参照し、メディア間の表現の差異についても随時検討する。

授業は基本的に講義形式で行うが、小説や映画を鑑賞したうえでの感想やコメントを発表してもらったり、グループディスカッションを行う予定である。

Students will be exposed to fertile fantasy literary texts and learn how to perceive a wide variety of worlds. Taking Todorov and others definition as a starting point, we will discuss the characteristics of allegorical literary language, referring to such problematic systems as the relationship between cities and literature (Prague), imagination in painting, play, and stone (Caillois), ghost narratives, and the philosophy of fear. The course will focus mainly on literary works, but will also refer to adaptations of films and other media as much as possible, and will examine the differences in expression between media as needed.

The class will basically be conducted in a lecture style, but we will have students present their impressions and comments after viewing novels and films, and we will also have group discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：幻想文学をめぐるいくつかの定義（トドロフ、ローズマリー・ジャクソンら）
- 3回：プラハの幻想文学1（『ゴーレム』）
- 4回：プラハの幻想文学2（カフカからアイヴァスへ）
- 5回：ヤン・シュヴァンクマイエルの映画『ファウスト』（映画鑑賞）
- 6回：チェコの人形劇の伝統、あるいはファウスト伝説
- 7回：ロジェ・カイヨワにおけるイメージ、幻想、夢
- 8回：ロジェ・カイヨワ『石が書く』
- 9回：幽霊の語り 上田秋成『雨月物語』
- 10回：三遊亭圓朝「怪談牡丹灯籠」 落語と映画における恐怖
- 11回：泉鏡花の文体と幻想世界
- 12回：恐怖／ホラー／幻想の境界
- 13回：山尾悠子の小説
- 14回：世界文学における幻想文学の位置

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

複数回、小説などの文章を読んでもらう予定。授業時間外の学習の詳細は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% 授業内に指示した提出物:35% リアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ツヴェタン・トドロフ 『幻想文学論序説』 東京創元社 1999 4488070272

ローズマリー・ジャクソン 『幻想と怪奇の英文学Ⅲ 転覆の文学編』 春風社 2018 4861106222

グスタフ・マイリンク 『ゴーレム』 白水社 2014

ロジェ・カイヨワ 『カイヨワ幻想物語集』 景文館書店 2013

山尾悠子 『増補 夢の遠近法 初期作品選』 筑摩書房 2014

ノエル・キャロル 『ホラーの哲学 フィクションと感情をめぐるパラドックス』 フィルムアート社 2022

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特になし。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業資料はすべて、Canvas LMS を通して配布予定。

# 文学講義 419

Lectures on Literature 419

世界文学論 2

小澤 裕之 (OZAWA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU369

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PCW2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

19 世紀から 20 世紀に活躍したロシアの代表的な詩人・作家について学ぶことで、ロシア文学史の大まかな流れを理解すること。また、個々の作品に対する様々な解釈を知った上で、その作品について自分なりの意見を持てるようになることを期待します。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mainstream of Russian literary history from the 19th century to the 20th century. I also expect that students will be able to have their own opinions about each work, knowing the various interpretations of it.

## 授業の内容 / Course Contents

19 世紀から 20 世紀までのロシア文学の概説。原則として各回に 1 人ずつ詩人・作家を取りあげて解説します。特に、ある作品の解釈の変遷や、対立する複数の解釈を紹介し、周囲を取り巻く環境や時代によって、受容の仕方が変化してゆく様子に着目します。また、日本文学との関係にも随時目を配る予定。ときどき関連する映像作品を視聴します。

A survey of Russian literary history from the 19th century to the 20th century. In principle, this course explains



one poet/writer each week. We explore how the reception of work changes depending on the surrounding environment and the times. It is done by introducing the transition of interpretations of work and multiple conflicting interpretations. This course also pays attention to the relationship between Russian and Japanese literature. We will occasionally watch videos related to this course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ロシアは頭ではわからない？：ガイダンス
- 2回：原点にして究極：プーシキン
- 3回：鼻が喋る：ゴーゴリ 1
- 4回：落語で訳す：ゴーゴリ 2
- 5回：白樺林と雑木林：ツルゲーネフと独歩
- 6回：長い、暗い、可笑的：ドストエフスキー
- 7回：翻訳者の使命：映画鑑賞『ドストエフスキーと愛に生きる』
- 8回：ぶよぶよ、ぶくぶくのモンスター：トルストイ
- 9回：黄昏の革新：チャーホフ
- 10回：ロシアの詩女神たち：アフマートワとツヴェターエワ
- 11回：どこにもない言葉を求めて1：フレブニコフとクルチョーヌイフ
- 12回：どこにもない言葉を求めて2、あるいは1ページの小説：ハルムス
- 13回：森は生きている：マルシャークとスラヴ昔話
- 14回：小さな者への眼差し：アレクシエーヴィチとロシア文学の伝統

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介した詩人／作家の作品を自主的に読めば、理解が格段に深まると思います。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%   リアクションペーパー:40%   出席および授業参加態度:20%   最終レポート割合：40%

最終レポートは、3分の2以上出席した者にのみ許可します。

### テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布します。

### 参考文献 / Readings

藤沼貴、小野理子、安岡治子 『新版 ロシア文学案内』 岩波書店 2000 9784003500026

川端香男里（編） 『ロシア文学史』 東京大学出版会 1986 9784130820400

藤沼貴、水野忠夫、井桁貞義 『はじめて学ぶロシア文学史』 ミネルヴァ書房 2003 9784623037544

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩（編） 『ロシア文学からの旅——交錯する人と言葉』 ミネルヴァ書房 2022 9784623094004

井桁貞義、井上健（編） 『チャーホフの短篇小説はいかに読まれてきたか』 世界思想社 2013

9784790715856

小澤裕之 『理知のむこう——ダニエル・ハルムスの手法と詩学』 未知谷 2019 9784896425727

サムイル・マルシャーク（小澤裕之訳） 『小学館世界J文学館 森は生きている～12の月のおとぎ語～  
Kindle版』 小学館 2022

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU781

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： PCW4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU782

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： PCW4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。



# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU784

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： PCW4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学部

科目コード等： AU785

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 10

科目ナンバリング： PCW4840

使用言語： 日本語

授業形式： 卒業論文・卒業研究

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。

**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。

# 卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習

Thesis and Seminar in Thesis Writing

卒業論文を書く

福島 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 文学部  
科目コード等： AU786  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 10  
科目ナンバリング： PCW4840  
使用言語： 日本語  
授業形式： 卒業論文・卒業研究  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

研究対象を絞って研究主題を深め、時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら、最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

Students will refine their research targets to deepen their research subjects. Students will write quality graduation thesis in the end by solving questions they encounter when writing or reading contents.

## 授業の内容 / Course Contents

指導教員と学生が必要に応じて直接話し合い、研究課題への理解を深め各自の問題を解決する。演習時間は個別に相談のうえで設定する。授業内容は、論文執筆者がその時に抱えている問題意識によって変わる。

When necessary, professor and students will have conversation directly to deepen students' understanding about their research subjects and solve their issues. Seminar time slot will be set after discussion with individual student. Contents of the class will change according to issue awareness of thesis writers at that time.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：演習の進め方、スケジュールの確認

- 2回：発表と討議1(論文概要・資料調査等)  
 3回：発表と討議2(論文概要・資料調査等)  
 4回：発表と討議3(論文概要・資料調査等)  
 5回：発表と討議4(論文概要・資料調査等)  
 6回：発表と討議5(論文概要・資料調査等)  
 7回：発表と討議6(論文概要・資料調査等)  
 8回：発表と討議7(論文概要・資料調査等)  
 9回：発表と討議8(論文概要・資料調査等)  
 10回：発表と討議9(論文概要・資料調査等)  
 11回：発表と討議10(論文構成)  
 12回：発表と討議11(論文構成)  
 13回：発表と討議12(論文構成)  
 14回：発表と討議13(論文構成)  
 15回：発表と討議14(論文構成)  
 16回：発表と討議15(論文構成)  
 17回：発表と討議16(論文構成)  
 18回：発表と討議17(論文構成)  
 19回：発表と討議18(論文原稿指導)  
 20回：発表と討議19(論文原稿指導)  
 21回：発表と討議20(論文原稿指導)  
 22回：発表と討議21(論文原稿指導)  
 23回：発表と討議22(論文原稿指導)  
 24回：発表と討議23(論文原稿指導)  
 25回：発表と討議24(論文原稿指導)  
 26回：発表と討議25(論文原稿指導)  
 27回：発表と討議26(論文原稿指導)  
 28回：まとめ：卒業論文，卒業制作の提出準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：		：	

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関する知識を増やし、思考を深めるために、授業で与えられた課題に応じて、文献読解および調査を、授業に合わせて行っていくこと。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表報告内容:20% 卒業論文・卒業制作:60% 授業参加度(発表内容+発言回数):20%

決められた期限までに卒業論文または卒業制作を提出し、なおかつ所定の面接審査を経て判定する。



**テキスト / Textbooks**

---

論文執筆者が研究対象とする作品

**参考文献 / Readings**

---

授業中折にふれて紹介する。